財団法人市原市文化財センター調査報告書第89集

上総国分寺台遺跡調査報告Ⅻ

市原市辺田古墳群・御林跡遺跡

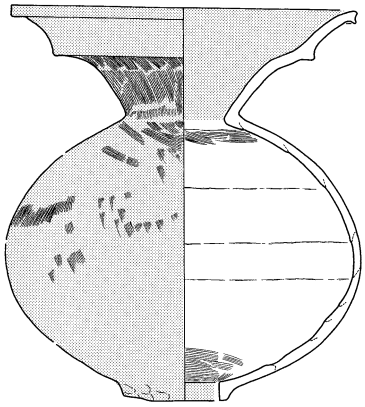
2004

市　原　市　教　育　委　員　会

財団法人　市原市文化財センター

財団法人市原市文化財センター調査報告89集
上総国分寺台遺跡調査報告Ⅻ

市原市辺田古墳群・御林跡遺跡



2004

市　原　市　教　育　委　員　会
財団法人　市原市文化財センター

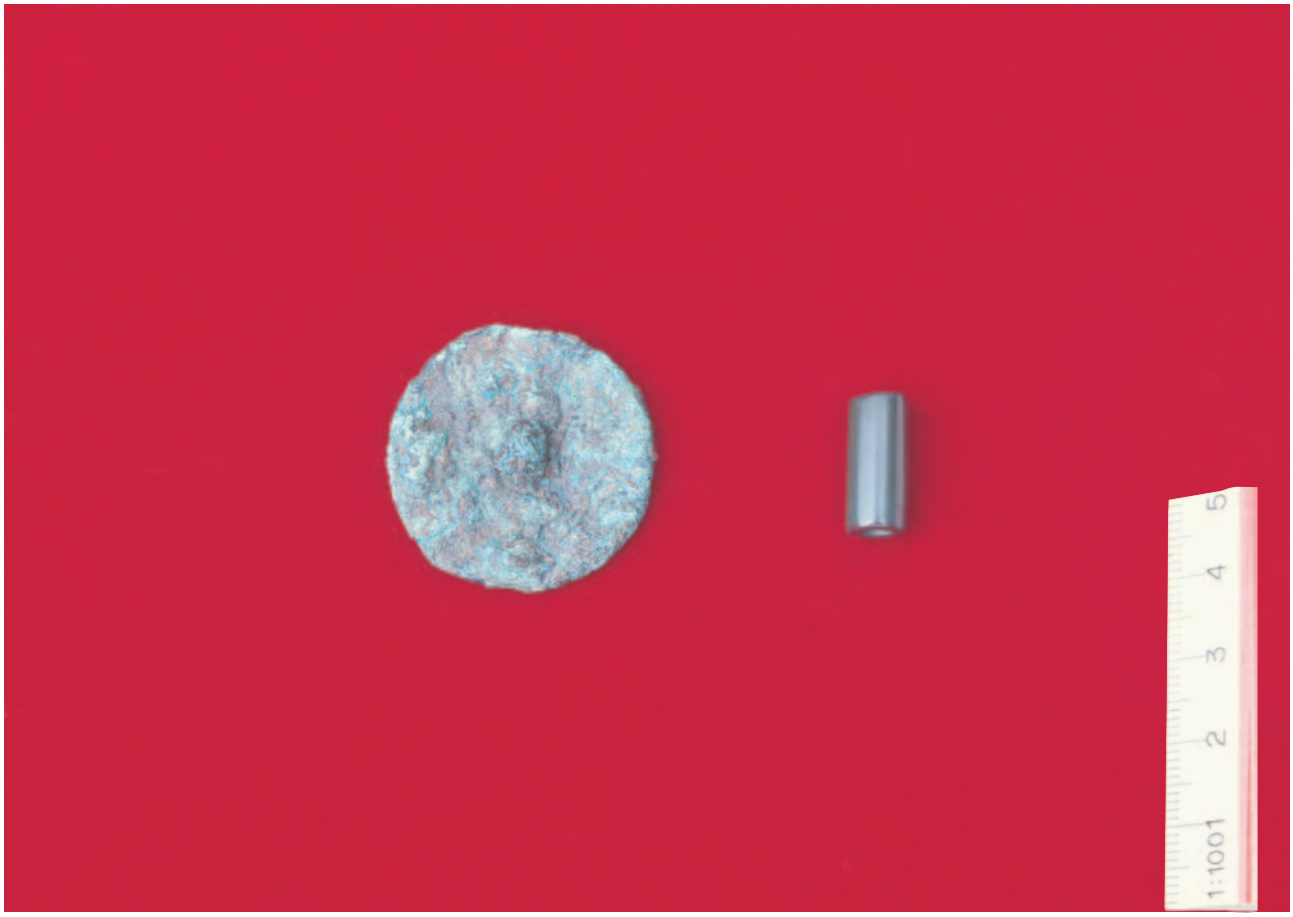
辺田 1 号墳全景

辺田 1 号墳第 2 主体部検出状況

槍・鉇・鏡出土状況

素環頭大刀・大刀出土状況

辺田１号墳出土素環頭大刀ほか



辺田１号墳出土小型素紋鏡・管玉

辺田１号墳出土土器群

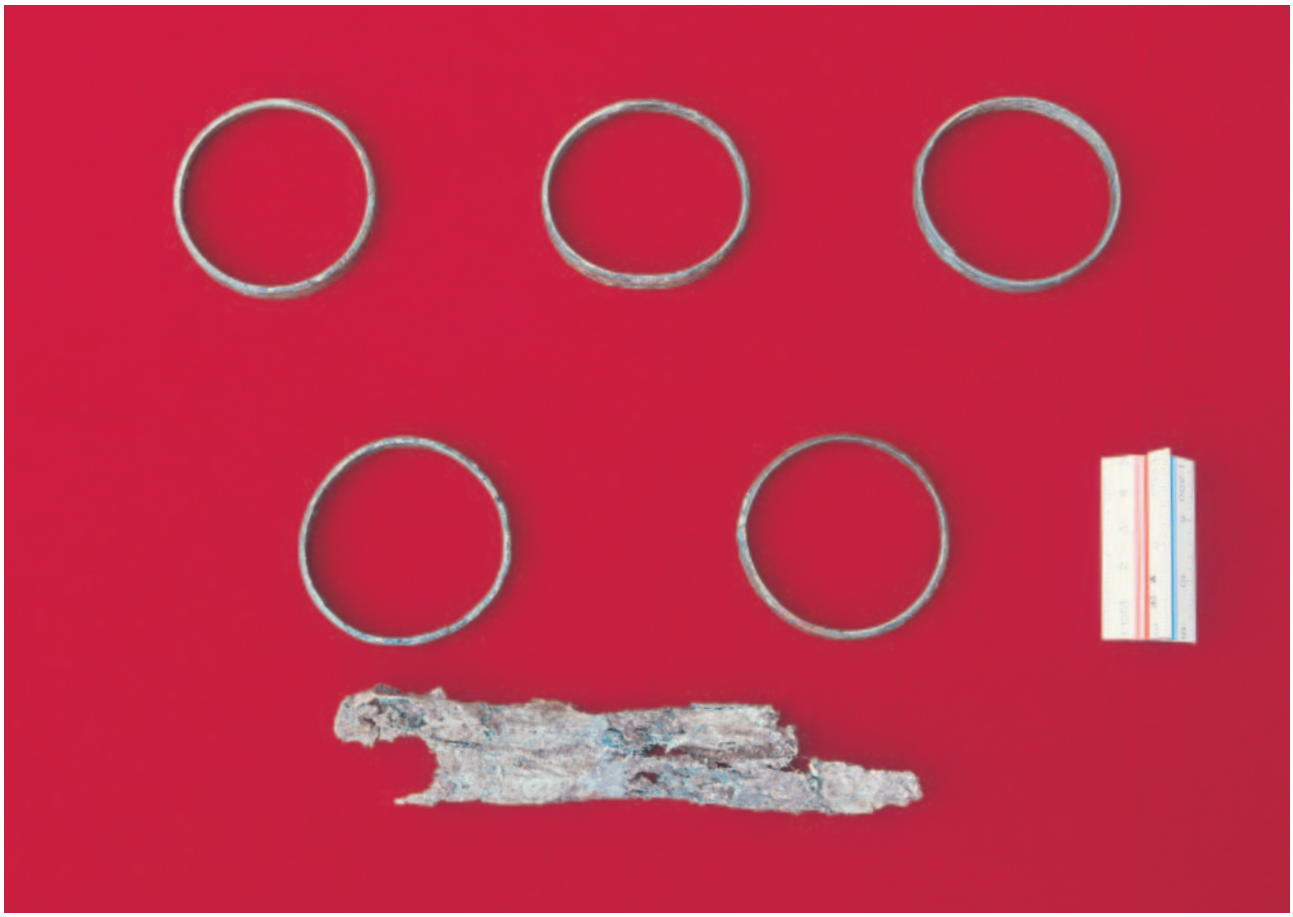
御林跡遺跡出土鉄器ほか

103号遺構出土灰釉陶器（蔵骨器転用短頸壺・蓋転用椀）

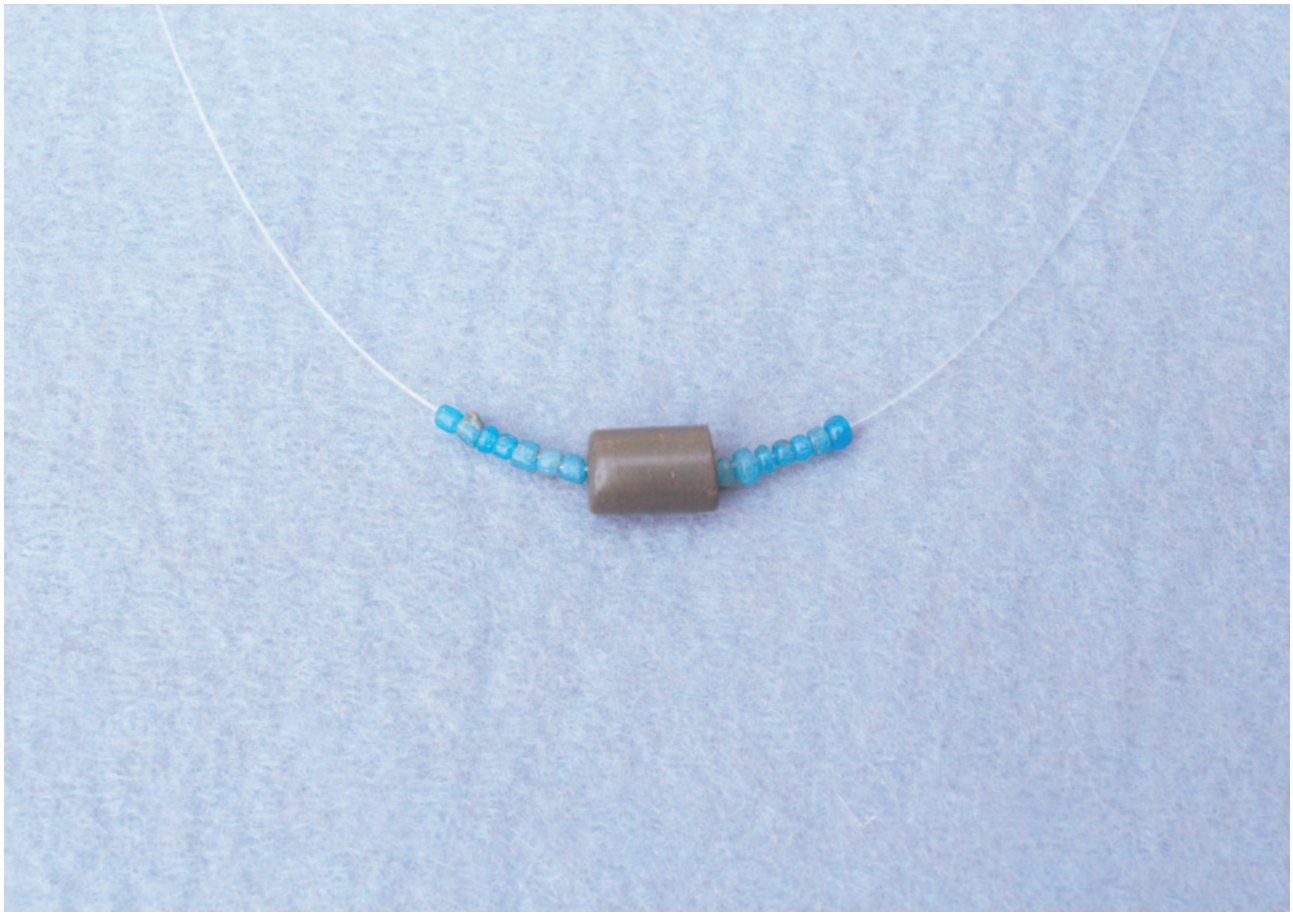
103号遺構出土灰釉陶器（蔵骨器転用短頸壺・蓋転用椀）

185号遺構出土ガラス玉（左から10・12～31・11）

189号遺構出土玉類（左から2～12・1・13～21）



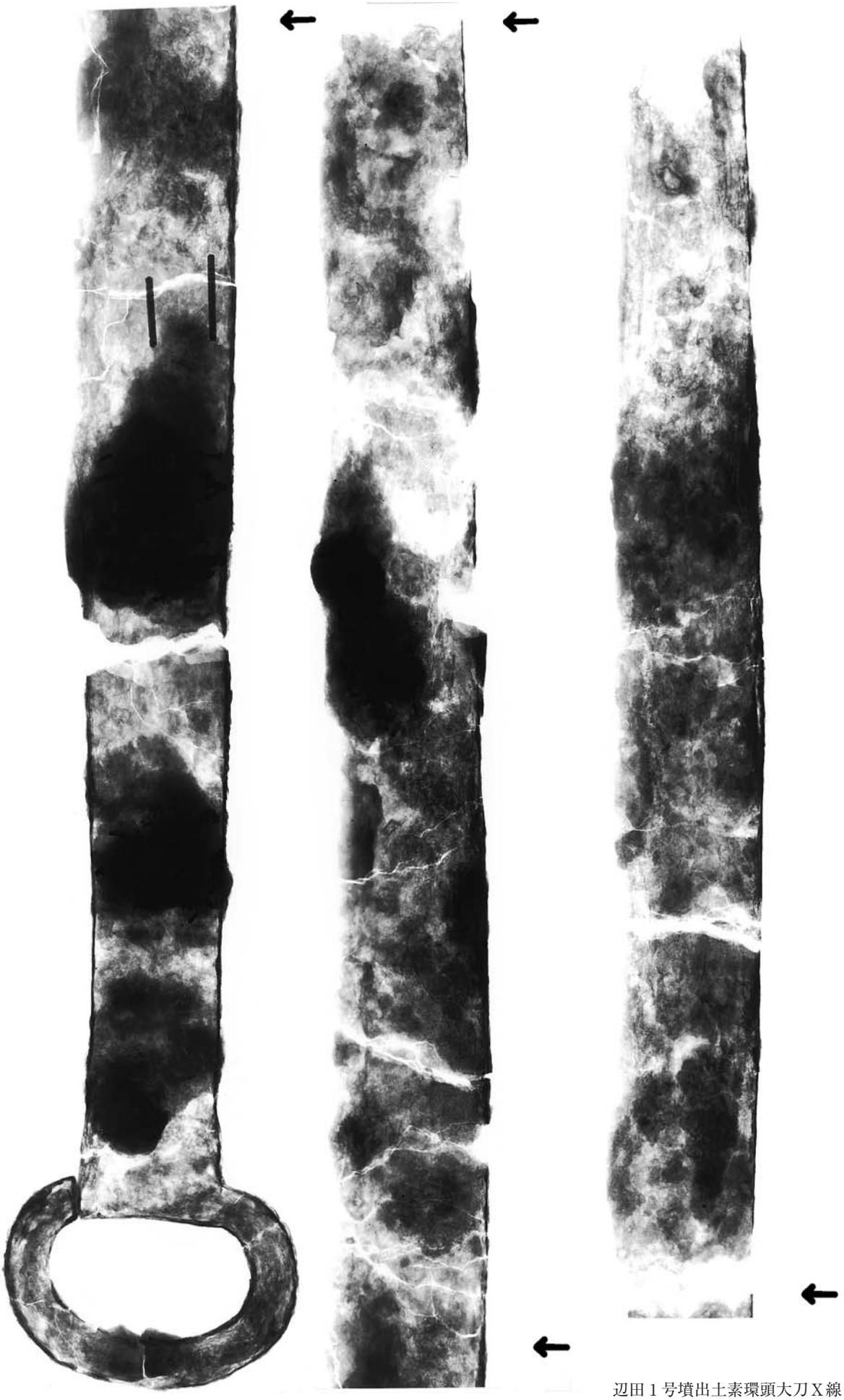
199号遺構出土銅釧（左上段から1～5）



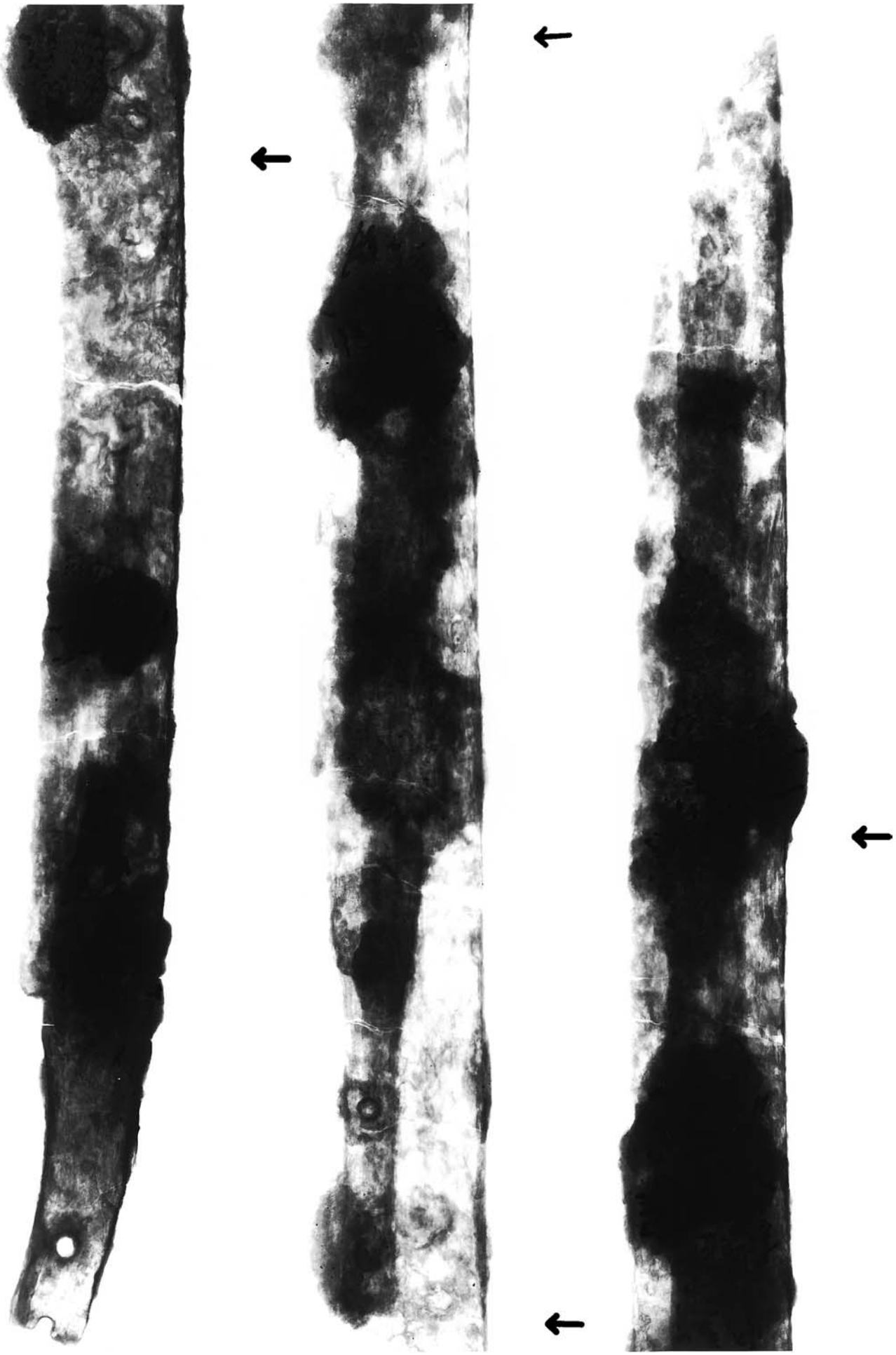
199号遺構出土玉類（左から7～13・6・14～20）

206号遺構出土銅釧（左上段から1～5）

206号遺構出土玉類（左から6～13・15～21・23・24・14・22・25～41）



辺田１号墳出土素環頭大刀Ｘ線



辺田１号墳出土大刀Ｘ線（裏側に６の剣）

辺田１号墳出土剣・槍・鉇Ｘ線（５・７・８）　　御林跡遺跡69号遺構出土鉄鏃片（６・８）

序　文

千葉県の中央部に位置し、「王賜」銘鉄剣や上総国分寺・尼寺に代表される埋蔵文化財の宝庫として知られる市原市は、温暖な気候と豊かな自然環境を背景に、縄文時代のいにしえから永く人々に愛され現代に至った地でもあります。

現在「国分寺台」の名で親しまれ、市庁舎や市民会館を中心としながらも静寂な住宅街が広がるこの一帯に、土地区画整理事業が計画されたのは昭和45年のことでした。以後昭和47年から63年までの16年間に43遺跡が調査され、多大な調査成果が得られております。先に紹介した遺跡はもとより、現存する浄瓶の中でも優品とされる「灰釉花雲文浄瓶」を出土した荒久遺跡や、緑釉・灰釉陶器を大量に出土し、通常の集落跡とは性格を異にする稲荷台遺跡など、国分寺台地区ではなお多くの著名遺跡が調査されており、埋蔵文化財の宝庫たる由縁はまさにこの国分寺台地区遺跡の調査成果がもたらしたものと言っても過言ではありません。

今回報告する「辺田古墳群・御林跡遺跡」は、底部穿孔二重口縁壺を墳頂部に配し、埋葬施設から素環頭建大刀などが検出された関東屈指の前期古墳である辺田１号墳をはじめとする辺田古墳群と、２基の方形周溝墓埋葬施設より、それぞれ５連の帯状円環型銅釧が検出された御林跡遺跡の調査成果をまとめたものです。

本書が学術的な資料としてはもとより、埋蔵文化財の保護・普及のため、広く市民の皆様に活用されれば幸いです。

最後に、発掘調査から整理報告に至るまで多大なご協力をいただきました千葉県教育庁文化財課、市原市国分寺台土地区画整理組合、ならびに関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成16年３月

市原市教育委員会

教育長　山中　齊

例　言

1．本書は、市原市国分寺台土地区画整理事業に先行して実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2．本書に所収したのは以下の遺跡である。

⑴　辺田古墳群　市原市惣社789―１地先（現市原市惣社３丁目地先　市原市埋蔵文化財分布地図遺跡番号724―①～⑧及び後日追加された⑩⑪）

⑵　御林跡遺跡　市原市惣社字辺田788地先（現市原市惣社３丁目地先　市原市埋蔵文化財分布地図遺跡番号723）

なお、本報告範囲の遺跡名は、発掘届や年報等で、今日まで御林跡遺跡・根田遺跡、辺田古墳群・根田古墳群と錯綜を繰り返してきた。これは、市原市埋蔵文化財分布地図完成以前の昭和59年に提出された発掘届けの遺跡名と、市原市埋蔵文化財分布地図上の遺跡名を便宜的に使い分けてきたことに起因する。しかし、市原市埋蔵文化財分布地図上での遺跡名と齟齬が生じているため、市原市教育委員会ふるさと文化課と協議の結果、上層としての古墳群を辺田古墳群、下層としての集落跡を御林跡遺跡とする市原市埋蔵文化財分布地図と整合させて報告する。

3．発掘調査は、市原市教育委員会の委託を受け、千葉県教育委員会・市原市教育委員会の指導のもと、昭和59年度には上総国分寺台遺跡調査会が、昭和60年度と63年度には（財）市原市文化財センターが実施した。延べ３ヵ年にわたる発掘届上の調査総面積は9,400㎡であり、調査期間と面積、及び担当者は以下のとおりである。

昭和59年４月１日～昭和60年３月31日　　5,000㎡。　　担当　滝口　宏　須田　勉
昭和60年４月１日～昭和61年３月31日　　2,400㎡。　　担当　米田耕之助
昭和62年12月１日～昭和63年11月26日　　2,000㎡。　　担当　浅利幸一

なお、上記にかかわる調査コードは、昭和59年度が御林跡059、60年度がセ-29、63年度がセ-68である。

4．整理・報告事業は平成12年４月１日～平成16年３月まで、(財)市原市文化財センターが実施した。担当は木對和紀である。

5．一部の石器実測については田中大介の、一部の鉄器実測については大村　直、北見一弘の協力を得た。

6．本書の原稿執筆は付編以外を木對和紀が行った。また付編については貝類を鶴岡英一が、縄文土器については西野雅人が執筆した。

7．図面・遺物の何点かは、保管場所の移転を繰り返してきたためか、行方不明のものがあった。散逸してしまった須恵器については、田中新史（現聖徳大学文学部教授）実測図のコピーをトレースして掲載した。また、辺田１号墳の東西方向に適正に配置された墳丘断面図については、その所在を確認することができなかったため、調査範囲南端断面図（未完成・注記なし）を参考までに図示した。

8．断面図土層説明の文書表現は、色調と成分は調査担当者の原文そのままとし、他は文書表現を統一した。

9．グリッドは、調査年度によってピッチが異なり、かつ表示における整合性がなかったため、全体図におけるグリッド表示は、北に隣接する御林跡遺跡本体を網羅するよう改めて表示した。

10．遺構番号は各調査年度によりそれぞれ割り振られており、全体を通して重複が激しかったため、新規に振りなおした。その対照については、新旧番号一覧表に示している。

11．遺構図版については、紙面の都合上、可能な限り遺構を取りこむ方法で遺構図版を作成した。重複が激しい個所では、スクリントーンや２色刷りなどによる表現方法を用いた。

12．平面図と土層断面図の「K」は撹乱を表わしている。

凡　例

1．本書で示す北は座標北である。また、水準は海抜からの高さを示す。

2．本書で使用した国土地理院発行の地図は、１：50,000千葉・姉崎である。

3．本書掲載の遺構縮尺は、大型墳１：200、古墳・方形周溝墓・住居跡・土壙墓等１：80を原則とした。ただし遺物出土状況等、更に詳細図が必要と判断された遺構については、適時縮尺を変え掲載した。遺物は、土器１：４、土器断面・瓦・土製品・石器１：３、石鏃・キセル２：３、鏡・玉類１：１、人骨・銅釧１：２とした。拓影図は原則１：３としたが、土師器・弥生土器の底部木葉痕など、一部実測図との整合関係で１：４対処としている。

4．ガラス玉類の軽量な重量測定には島津理化器械株式会社製電子分析てんびん AEL-200を使用した。

5．土器の器面色調については、小山正忠・竹原秀雄『新版標準土色帖　2001年度版』日本色研事業株式会社発行による。

6．挿図におけるスクリントーンの用例については下記によるか、または図中に示した。

遺物

赤彩　黒色処理　割れ口　スス付着

断面　石器等研磨面

遺構

焼土（炉）　焼土　道路硬化面　断面

本　文　目　次

序文
例言
Ⅰ　はじめに……1
　1　調査に至る経緯と経過……1
　2　遺跡の位置と歴史的環境……1
　3　整理の方法……14
　　⑴　グリッド……14
　　⑵　遺物……14
　　⑶　遺構番号について……14
Ⅱ　遺構と遺物……41
Ⅲ　考察……330
　はじめに……330
　1　辺田１号墳について……330
　　⑴　素環頭大刀……330
　　⑵　小型素紋鏡……331
　　⑶　辺田１号墳出土底部穿孔壺……331
　　⑷　共伴土器……337
　　⑸　布留式土器の整理……339
　　⑹　他説との併行関係……340
　　⑺　辺田１号墳の位置付け……344
　　⑻　辺田古墳群の位置付け……346
　2　帯状円環型銅釧について……348
　　⑴　御林跡遺跡出土の帯状円環型銅釧……348
　　⑵　帯状円環型銅釧の系譜と形態……349
　　⑶　貝輪から銅釧へ……350
　　⑷　帯状円環型銅釧の系譜……351
　　⑸　有鈎銅釧と帯状円環型銅釧……351
　おわりに……352
付編１　辺田古墳群・御林跡遺跡出土の貝類遺体について……360
付編２　縄文時代……364

表　目　次

第１表　周辺遺跡一覧表……5
第２表　辺田古墳群・御林跡遺跡遺構別遺物集計表……15
第３表　辺田古墳群・御林跡遺跡新旧番号一覧表……27
第４表　素紋鏡出土遺跡一覧表……332
第５表　布留式土器併行関係一覧表……341
第６表　辺田古墳群・御林跡遺跡出土土器観察表……367
第７表　辺田古墳群・御林跡遺跡出土石器等観察表……475
第８表　辺田古墳群・御林跡遺跡出土金属器等観察表……484
第９表　辺田古墳群・御林跡遺跡出土土製品等観察表……486

挿 図 目 次

第１図　遺跡の位置と市内主要遺跡群…… 2
第２図　菊間古墳群と周辺遺跡…… 4
第３図　姉崎古墳群と周辺遺跡…… 4
第４図　国分寺台地区の旧地形と調査遺跡…… 7
第５図　周辺遺跡と旧地形…… 8
第６図　現地形と保存遺跡・周辺の重要遺跡……20
第７図　御林跡遺跡全体図……21～22
第８図　辺田古墳群・御林跡遺跡全体図……23
第９図　辺田古墳群・御林跡遺跡遺構配置図１……24
第10図　辺田古墳群・御林跡遺跡遺構配置図２……25
第11図　辺田古墳群・御林跡遺跡遺構配置図３……26
第12図　１号遺構（辺田１号墳）現況地形測量図……42
第13図　１号遺構（辺田１号墳）実測図……43
第14図　１号遺構（辺田１号墳）実測図……45～46
第15図　１号遺構（辺田１号墳）墳頂部有機質土集中範囲掘り下げ状況実測図……47
第16図　１号遺構（辺田１号墳）第１主体部実測図……48
第17図　１号遺構（辺田１号墳）第２主体部実測図……49
第18図　１号遺構（辺田１号墳）墓壙区画溝及び墳頂部遺物出土状況１……51～52
第19図　１号遺構（辺田１号墳）墳頂部遺物出土状況２……53
第20図　１号遺構（辺田１号墳）墳頂部遺物出土状況３……55～56
第21図　１号遺構（辺田１号墳）第２主体部出土遺物実測図……57
第22図　１号遺構（辺田１号墳）出土遺物実測図……58
第23図　１号遺構（辺田１号墳）出土遺物実測図……59
第24図　１号遺構（辺田１号墳）出土遺物実測図……60
第25図　１号遺構（辺田１号墳）出土遺物実測図……61
第26図　１号遺構（辺田１号墳）出土遺物実測図……62
第27図　１号遺構（辺田１号墳）出土遺物実測図……63
第28図　１号遺構（辺田１号墳）出土遺物実測図……64
第29図　１号遺構（辺田１号墳）出土遺物実測図……65
第30図　１号遺構（辺田１号墳）出土遺物実測図……66
第31図　１号遺構（辺田１号墳）出土遺物実測図……67
第32図　１号遺構（辺田１号墳）出土遺物実測図……68
第33図　１号遺構（辺田１号墳）出土遺物実測図……69
第34図　１号遺構（辺田１号墳）出土遺物実測図……70
第35図　１号遺構（辺田１号墳）出土遺物実測図……71
第36図　１号遺構（辺田１号墳）出土遺物実測図……72
第37図　２号遺構（辺田２号墳）現況地形測量図……75
第38図　２号遺構（辺田２号墳）実測図……76
第39図　２号遺構（辺田２号墳）実測図……77～78
第40図　２号遺構（辺田２号墳）実測図……79
第41図　２号遺構（辺田２号墳）出土遺物実測図……80
第42図　２号遺構（辺田２号墳）出土遺物実測図……81
第43図　３・４号遺構現況地形測量図 ……83
第44図　３・４号遺構実測図 ……84
第45図　３・４・137・138・140号遺構実測図 ……85
第46図　３・４号遺構出土遺物実測図 ……86
第47図　５号遺構現況地形測量図……88
第48図　５号遺構（辺田３号墳）実測図……89～90
第49図　５号遺構（辺田３号墳）実測図……91
第50図　５号遺構（辺田３号墳）出土遺物実測図……92
第51図　５号遺構（辺田３号墳）出土遺物実測図……93
第52図　５号遺構（辺田３号墳）出土遺物実測図・６号遺構実測図……95
第53図　６号遺構出土遺物実測図……96
第54図　７・８・９・211号遺構実測図……97
第55図　７・211号遺構実測図・７号遺構出土遺物実測図……98
第56図　８号遺構実測図・８～11号遺構出土遺物実測図……99
第57図　10・11・211号遺構実測図……101
第58図　12～19・212号遺構実測図・13号遺構出土遺物実測図 ……103
第59図　12・14・17～19・212号遺構実測図 ……105
第60図　14号遺構出土遺物実測図 ……106
第61図　15～18号遺構出土遺物実測図 ……107
第62図　18・19号遺構出土遺物実測図……109
第63図　20～29号遺構実測図 ……111
第64図　20・21・28・212号遺構実測図・20号遺構出土遺物実測図 ……112
第65図　20号遺構出土遺物実測図 ……113
第66図　21号遺構出土遺物実測図 ……114
第67図　21号遺構出土遺物実測図 ……115
第68図　22号遺構出土遺物実測図 ……117
第69図　24・25・27・39号遺構実測図・23・24・27号遺構出土遺物実測図 ……119
第70図　28号遺構出土遺物実測図 ……121
第71図　28～30号遺構出土遺物実測図 ……122
第72図　30～38号遺構実測図 ……123
第73図　31～33号遺構実測図・30号遺構出土遺物実測図 ……125
第74図　31号遺構出土遺物実測図 ……126
第75図　32号遺構出土遺物実測図 ……127
第76図　33号遺構実測図・32号遺構出土遺物実測図 ……129
第77図　33号遺構出土遺物実測図 ……130
第78図　33・34号遺構出土遺物実測図……131
第79図　36号遺構実測図・35・36号遺構出土遺物実測図……133
第80図　38～41号遺構実測図・38・39号遺構出土遺物実測図……135
第81図　24・25・34・39～43号遺構実測図……136
第82図　39・40号遺構出土遺物実測図……137
第83図　42・43・211号遺構実測図・41～43号遺構出土遺物実測図……139
第84図　44～49・52～54・58・60号遺構実測図……140
第85図　44・45号遺構実測図・出土遺物実測図……142
第86図　46～49号遺構実測図・46・48号遺構出土遺物実測図……143
第87図　49号遺構出土遺物実測図 ……145
第88図　50～57・211号遺構出土遺物実測図 ……146
第89図　53号遺構実測図・50～53号遺構出土遺物実測図 ……148
第90図　54号遺構実測図・54・55号遺構出土遺物実測図 ……150
第91図　56～59・63・64号遺構実測図・56～58号遺構出土遺物実測図 ……151
第92図　58～62号遺構実測図 ……153
第93図　60・61・65・213号遺構実測図・59・60号遺構出土遺物実測図 ……155
第94図　60号遺構出土遺物実測図 ……156
第95図　60・61号遺構出土遺物実測図……157
第96図　64・66号遺構実測図・61号遺構出土遺物実測図……158
第97図　63～66号遺構実測図 ……160
第98図　65号遺構実測図・63～65号遺構出土遺物実測図 ……162
第99図　67～71・211・214・215号遺構実測図 ……164
第100図　67～69・71号遺構出土遺物実測図 ……166
第101図　72・73・75～77号遺構実測図……168
第102図　72号遺構実測図・出土遺物実測図……169
第103図　73・75・76号遺構実測図・74～76号遺構出土遺物実測図……171
第104図　75・77・78号遺構実測図・77号遺構出土遺物実測図……173
第105図　79・80号遺構実測図 ……175
第106図　79・80号遺構出土遺物実測図 ……176
第107図　80・81号遺構出土遺物実測図 ……177

第108図　76・81～85号遺構実測図 ……179
第109図　82号遺構実測図・出土遺物実測図……180
第110図　82～84号遺構出土遺物実測図……181
第111図　85・93号遺構実測図 ……184
第112図　86～88・91・215号遺構実測図・
85・86・88号遺構出土遺物実測図 ……185
第113図　86～97・215号遺構実測図……187
第114図　91・93・94・215号遺構実測図・91～95号遺構出土遺物
実測図 ……188
第115図　96号遺構実測図・96～98号遺構出土遺物実測図……191
第116図　89・98～103・211号遺構実測図……193
第117図　99～103号遺構実測図・出土遺物実測図 ……195
第118図　104～109・215号遺構実測図……197
第119図　105号遺構実測図・104・105号遺構出土遺物実測図……199
第120図　106号遺構実測図・出土遺物実測図 ……200
第121図　110号遺構実測図・106・108～110号遺構出土遺物実測図 ……201
第122図　110～117号遺構実測図……204
第123図　112～114号遺構実測図・110・112・114号遺構出土遺物
実測図 ……206
第124図　115・116・118号遺構実測図・115～118号遺構出土遺物
実測図 ……208
第125図　118～121号遺構実測図……210
第126図　119号遺構出土遺物実測図 ……211
第127図　119・120号遺構実測図・119号遺構出土遺物実測図……212
第128図　120号遺構出土遺物実測図 ……213
第129図　120号遺構出土遺物実測図 ……214
第130図　122～124号遺構実測図・121・123号遺構出土遺物実測図 ……217
第131図　125～129号遺構実測図……218
第132図　126号遺構実測図・127・128号遺構出土遺物実測図……220
第133図　130～133・140号遺構実測図……221
第134図　130・131・140号遺構実測図・128・130号遺構出土遺物
実測図 ……223
第135図　131・132号遺構実測図・131号遺構出土遺物実測図……225
第136図　134～136号遺構実測図……226
第137図　134・215号遺構実測図・133・134・137号遺構出土遺物
実測図 ……228
第138図　137～139号遺構実測図……230
第139図　3・4・137・138号遺構実測図・137・138号遺構出土遺物
実測図 ……231
第140図　140・141号遺構実測図・140号遺構出土遺物実測図……233
第141図　3・142・225号遺構実測図・140号遺構出土遺物実測図 ……234
第142図　143～145号遺構実測図……236
第143図　2・146～148号遺構実測図 ……238
第144図　146・147・149号遺構実測図・143・145～149号遺構出土遺物
実測図 ……240
第145図　149～152号遺構実測図……241
第146図　150・151号遺構実測図・149号遺構出土遺物実測図……242
第147図　148・153・154号遺構実測図 ……244
第148図　153号遺構実測図・150～153号遺構出土遺物実測図 ……245
第149図　2・155号遺構実測図……247
第150図　2・155号遺構実測図・155号遺構出土遺物実測図 ……248
第151図　156・157号遺構実測図・出土遺物実測図 ……249
第152図　158～161号遺構実測図……251
第153図　160～163・217・222・223号遺構実測図・159～162号
遺構出土遺物実測図 ……252
第154図　161～168号遺構実測図……254
第155図　162・163号遺構出土遺物実測図 ……255
第156図　163号遺構出土遺物実測図 ……256
第157図　164・166・167号遺構実測図・164・165号遺構出土遺物実測図…257
第158図　168・169号遺構実測図・166・168・169号遺構出土遺物実測図…259
第159図　169～173号遺構実測図……261
第160図　170～172号遺構実測図・170・172号遺構出土遺物実測図 ……263
第161図　173・174号遺構実測図・172・174号遺構出土遺物実測図……264
第162図　174～177・217・223・224号遺構実測図……266
第163図　179号遺構実測図・174・175・178号遺構出土遺物実測図……268
第164図　171A・171B・178～180・226号遺構実測図 ……269
第165図　179号遺構出土遺物実測図 ……271
第166図　180号遺構実測図・180・182号遺構出土遺物実測図……272
第167図　181～192・199・202・203号遺構実測図……274
第168図　184・186・187号遺構実測図・183号遺構出土遺物実測図……275
第169図　184号遺構出土遺物実測図 ……276
第170図　184号遺構出土遺物実測図 ……277
第171図　185号遺構実測図・184・185号遺構出土遺物実測図……279
第172図　185・186号遺構出土遺物実測図 ……280
第173図　187・189・190・192号遺構実測図・187・188号遺構出土遺物
実測図 ……282
第174図　189号遺構実測図・出土遺物実測図 ……284
第175図　189号遺構出土遺物実測図 ……285
第176図　185・189・190・193～197号遺構実測図……287
第177図　193号遺構実測図・出土遺物実測図 ……288
第178図　193号遺構出土遺物実測図 ……289
第179図　195・199号遺構実測図・193～195号遺構出土遺物実測図 ……290
第180図　195号遺構出土遺物実測図 ……292
第181図　195号遺構出土遺物実測図 ……293
第182図　196・197号遺構出土遺物実測図 ……294
第183図　197・199・201～208号遺構実測図……296
第184図　199号遺構実測図・出土遺物実測図 ……298
第185図　199号遺構出土遺物実測図 ……299
第186図　199・200号遺構出土遺物実測図 ……300
第187図　199・203号遺構実測図・201号遺構出土遺物実測図……302
第188図　202・203号遺構出土遺物実測図 ……303
第189図　199・204～206・208号遺構実測図・204・205号遺構出土遺物
実測図 ……306
第190図　205・206号遺構実測図・205号遺構出土遺物実測図……308
第191図　206号遺構出土遺物実測図 ……309
第192図　206・207号遺構実測図・206号遺構出土遺物実測図……310
第193図　209・210号遺構実測図・208～210号遺構出土遺物実測図 ……312
第194図　209・210・226号遺構実測図 ……313
第195図　64・87・99・122・128・129・211～216号遺構実測図・
211号遺構出土遺物実測図 ……315～316
第196図　87・99・122・128・129・140・154・161・176・211・214～226号
遺構実測図・212～214遺構出土遺物実測図 ……317～318
第197図　215号遺構出土実測図 ……319
第198図　226号遺構実測図・222～224・226号遺構出土遺物実測図 ……322
第199図　B―5～D―7・F―8・I―8・9・K―10グリッド
出土遺物実測図 ……324
第200図　B―5～C―6グリッド出土遺物実測図 ……325
第201図　C―6グリット出土遺物実測図 ……326
第202図　C―6～E―8・I―8～J―10グリッド
出土遺物実測図 ……327
第203図　B―6～C―7グリッド出土遺物実測図 ……328
第204図　B―6～D―7・F―8・I―8～J―10グリッド・
059一括出土遺物実測図……329
第205図　関東出土素環頭大刀と辺田1号墳出土遺物……335
第206図　辺田古墳群出土遺物……336
第207図　辺田古墳群出土遺物・イモ貝貝輪・円環型銅釧・
御林跡遺跡出土銅釧 ……347

図　版　目　次

巻頭図版１　辺田１号墳全景
辺田１号墳第２主体部検出状況
槍・鉇・鏡出土状況
素環頭大刀・大刀出土状況
巻頭図版２　辺田１号墳出土素環頭大刀ほか
辺田１号墳出土小型素紋鏡・管玉
巻頭図版３　辺田１号墳出土土器群　　御林跡遺跡出土鉄器ほか
巻頭図版４　103号遺構出土灰釉陶器（蔵骨器転用短頸壺・蓋転用椀）
巻頭図版５　185号遺構出土ガラス玉（左から10・12～31・11）
189号遺構出土玉類（左から２～12・１・13～21）
巻頭図版６　199号遺構出土銅釧（左上段から１～５）
199号遺構出土玉類（左から７～13・６・14～20）
巻頭図版７　206号遺構出土銅釧（左上段から１～５）
206号遺構出土玉類
（左から６～13・15～21・23・24・14・22・25～41）
巻頭図版８　辺田１号墳出土素環頭大刀Ｘ線
巻頭図版９　辺田１号墳出土大刀Ｘ線（裏側に６の剣）
巻頭図版10　辺田１号墳出土剣・槍・鉇Ｘ線（５・７・８）
御林跡遺跡69号遺構出土鉄鏃片（６・８）
図版　１　辺田１号墳調査前（南西より）
御林跡遺跡調査前（左手のマウンドは６号遺構）
図版　２　S59年度御林跡遺跡全景
（北より。調査地点はS59年度調査範囲。
中央はS63年度、左手はS60年度調査。）
S59年度御林跡遺跡東側全景（左手が辺田１号墳周溝）
図版　３　S59年度御林跡遺跡西側全景（北より）
S59年度御林跡遺跡西側全景（西より）
図版　４　S60年度辺田１号墳調査前（S59年度調査範囲は既に削平）
辺田１号墳全景（北より）
図版　５　辺田１号墳全景（東より）
辺田１号墳主体部検出状況
図版　６　S59年度辺田１号墳北側周溝（東より）
S59年度辺田１号墳北側周溝（西より）
S59年度辺田１号墳出土底部穿孔壺
辺田１号墳西側周溝内遺物出土状況（北より）
辺田１号墳西側周溝内遺物出土状況（東より）
辺田１号墳東側周溝底部穿孔壺９出土状況（S60年度）１
辺田１号墳東側周溝底部穿孔壺９出土状況（S60年度）２
辺田１号墳東側周溝底部穿孔壺９出土状況（S60年度）３
図版　７　辺田１号墳墳頂部底部穿孔二重口縁壺24出土状況１
辺田１号墳墳頂部底部穿孔二重口縁壺24出土状況２
辺田１号墳墳頂部底部穿孔二重口縁壺24出土状況３
辺田１号墳墳頂部底部穿孔壺右18、左30出土状況
辺田１号墳墳頂部底部穿孔壺18出土状況１
辺田１号墳墳頂部底部穿孔壺18出土状況２
辺田１号墳墳頂部底部穿孔壺18出土状況３
辺田１号墳墳頂部底部穿孔二重口縁壺66出土状況１
図版　８　辺田１号墳墳頂部底部穿孔二重口縁壺66出土状況２
墳頂部調査状況１（東より）第１主体部はほぼ完掘
墳頂部調査状況２（北より）
第２主体部を囲む溝断面１　手前は第１主体部
第２主体部を囲む溝断面２
第２主体部検出状況（東より）
第２主体部遺物出土状況（東より）
第２主体部遺物出土状況（西より）右手が素環頭大刀
図版　９　第２主体部遺物出土状況１
第２主体部遺物出土状況２
大刀・素環頭大刀出土状況３
鏡・槍・鉇出土状況４
鏡・槍・鉇出土状況５
管玉出土状況６
第１主体部土層断面
第１主体部完掘状況
図版　10　辺田１号墳東側周溝
辺田１号墳西側周溝
辺田１号墳東側周溝内硬化面（226号遺構）検出状況
辺田１号墳東側周溝内硬化面検出状況（北より）
辺田１号墳西側周溝土層断面
辺田１号墳南北土層断面
辺田１号墳東西土層断面１
辺田１号墳東西土層断面２
図版　11　S63年度調査地点　右が辺田２号墳、左が５号墳
S63年度調査辺田２号墳調査前
辺田２号墳西側より
S59年度調査辺田２号墳東側周溝
辺田２号墳東側周溝遺物出土状況
S59年度辺田２号墳東側周溝完掘状況
S63年度調査辺田２号墳北側周溝
辺田２号墳北側周溝断面
図版　12　辺田２号墳遺物出土状況１
辺田２号墳遺物出土状況２
辺田２号墳遺物出土状況３
辺田２号墳と周辺遺構
辺田２号墳土層断面１
辺田２号墳土層断面２
辺田２号墳土層断面３
辺田２号墳土層断面４
図版　13　辺田２号墳主体部検出状況
辺田２号墳主体部完掘状況
３号遺構完掘状況
３号遺構周辺の調査風景
３号遺構北側周溝遺物出土状況１
３号遺構北側周溝遺物出土状況２
図版　14　４号遺構完掘状況（東より）
４号遺構完掘状況（西より）
辺田５号墳調査前（北より）
辺田５号墳調査前（東より）
辺田５号墳調査状況１
辺田５号墳調査状況２
辺田５号墳西側周溝土層断面
辺田５号墳東側周溝土層断面
図版　15　辺田５号墳南側周溝部土層断面
辺田５号墳南北土層断面（西より）
辺田５号墳西側土層断面（南より）
辺田５号墳東側土層断面（南より）
６号遺構調査前
図版　16　６号遺構土層断面と遺物出土状況
７号遺構土層断面

7号遺構完掘状況
8号遺構遺物出土状況1
8号遺構遺物出土状況2
図版 17　遺構群1（左のカマドは17号・右のカマドは14号遺構）
14号遺構土層断面（北より）
14号遺構カマド検出状況
15号遺構（手前）16号遺構（右側）
16号遺構遺物出土状況
図版 18　17号遺構土層断面
17号遺構全景
17号遺構遺物出土状況
17号遺構カマド検出状況
遺構群2（18号遺構周辺）
図版 19　18号遺構土層断面（南より）
18号遺構完掘状況
20号遺構土層断面（南より）
20号遺構完掘状況
遺構群3（22号遺構周辺）
図版 20　21号遺構土層断面（南より）
21・22号遺構完掘状況
27号遺構土層断面（東より）
28号遺構土層断面（東より）
28号遺構遺物出土状況1
28号遺構遺物出土状況2
28号遺構完掘状況
28・29号遺構全景
図版 21　遺構群4（31号遺構周辺）
31号遺構周辺
31号遺構遺物出土状況
31号遺構土層断面（東より）
32号遺構土層断面（東より）
図版 22　遺構群5（33号遺構周辺　カマドが33号遺構）
32・33号遺構全景（左が33号遺構）
32号遺構炉
32号遺構遺物出土状況
32・33号遺構南北土層断面
図版 23　33号遺構遺物出土状況
33号遺構カマド検出状況
34号遺構全景
35号遺構完掘状況
36号遺構土層断面
36号遺構完掘状況
36号遺構全景（南より）
36号遺構遺物出土状況1
図版 24　36号遺構遺物出土状況2
37号遺構完掘状況
39号遺構周辺遺構
39・40号遺構全景
39号遺構土層断面（東より）
39号遺構全景
40号遺構全景
41号遺構全景
図版 25　42号遺構土層断面（東より）
42号遺構全景
44号遺構全景
44号遺構遺物出土状況
44号遺構カマド検出状況
45号遺構全景
46号遺構全景
47号遺構土層断面（北より）
図版 26　49号遺構周辺遺構群
49号遺構土層断面（南より）
49号遺構全景
49号遺構遺物出土状況1
49号遺構遺物出土状況2
図版 27　51号遺構遺物出土状況
51号遺構土層断面（西より）
51号遺構完掘状況1
51号遺構完掘状況2
52号遺構土層断面（西より）
52号遺構完掘状況
53号遺構土層断面（南より）
53号遺構全景
図版 28　53号遺構遺物出土状況
53号遺構完掘状況
54号遺構土層断面（南より）
54号遺構完掘状況
55号遺構遺物出土状況1
55号遺構遺物出土状況2
55号遺構遺物出土状況3
56号遺構土層断面（東より）
図版 29　56号遺構完掘状況
57号遺構土層断面（東より）
57号遺構完掘状況
58号遺構全景
58号遺構遺物出土状況1
58号遺構遺物出土状況2
59・63・64号遺構土層断面（南より）
60号遺構土層断面（南より）
図版 30　60号遺構遺物出土状況1
60号遺構遺物出土状況2
60号遺構遺物出土状況3
60号遺構遺物出土状況4
60号遺構遺物出土状況5
60号遺構カマド検出状況
62号遺構土層断面（南より）
62号遺構完掘状況
図版 31　63号遺構東周溝土層断面（南より）
63号遺構西周溝・64号溝土層断面（南より）
63号遺構南周溝・64号溝土層断面（東より）
63号遺構北周溝土層断面（東より）
63号遺構周辺遺構群
図版 32　65号遺構周辺遺構群
64号遺構（溝）
64号遺構土層断面（南側溝）
65号遺構東側周溝土層断面
65号遺構西側周溝土層断面
図版 33　65号遺構主体部検出状況
65号遺構主体部完掘状況
66号遺構土層断面
67号遺構土層断面（南より）
68号遺構土層断面（南より）
67・68号遺構完掘状況
69号遺構土層断面（南より）

69号遺構完掘状況
図版 34　67・68・69号遺構周辺
71号遺構土層断面（東より）
72号遺構全景（南西より）
72号遺構カマド完掘状況
73号遺構全景
図版 35　73号遺構（手前）土層断面
74号遺構全景
74号遺構東側周溝土層断面（南より）
74号遺構北側周溝土層断面（東より）
75号遺構土層断面（東より）
74・75号遺構全景（中央が74号遺構）
75号遺構全景
76号遺構東側周溝土層断面（南より）
図版 36　76号遺構西側周溝土層断面（南より）
76号遺構南側周溝土層断面（東より）
76号遺構主体部土層断面
76号遺構主体部完掘状況
77号遺構土層断面（西より）
77号遺構完掘状況
78号遺構全景
79号遺構全景
図版 37　79号遺構北側周溝土層断面（東より）
79号遺構西側周溝土層断面（南より）
79号遺構東側周溝土層断面（南より）
79号遺構遺物出土状況１
79号遺構遺物出土状況２
79号遺構遺物出土状況３
79号遺構主体部土層断面（北より）
79号遺構主体部耳環出土状況
図版 38　79号遺構主体部完掘状況（北より）
79号遺構主体部完掘状況（西より）
80号・211号遺構土層断面（西より）
80号遺構調査状況
81号遺構全景
81号遺構検出遺物（85号遺構に伴う）
82号遺構全景
82号遺構カマド検出状況
図版 39　82号遺構遺物出土状況１
82号遺構遺物出土状況２
83号遺構周辺遺構群
83号遺構全景
85号遺構遺物出土状況１
85号遺構遺物出土状況２
85号遺構西側周溝土層断面
85号遺構西側周溝
図版 40　86号遺構土層断面（南より）
86号遺構全景
87号・215号遺構土層断面（東より）
88号遺構土層断面（東より）
88号遺構完掘状況
91号遺構全景
93号遺構土層断面（南より）
93号遺構完掘状況
図版 41　94号遺構土層断面（東より）
94号遺構全景
96号遺構土層断面（西より）
96号遺構全景
96号遺構周辺遺構群
図版 42　100号遺構北側周溝土層断面（西より）
100号遺構遺物出土状況
100号遺構西側周溝土層断面（南より）
100号遺構全景
102・103号遺構全景
103号遺構遺物出土状況１
103号遺構遺物出土状況２
103号遺構遺物出土状況３
図版 43　105・106号遺構周辺
105号遺構カマド検出状況
106号遺構カマド検出状況
109号遺構全景
110号遺構全景
図版 44　111号遺構完掘状況
114号遺構作業風景
114号遺構全景
115号遺構全景
116号遺構全景
117号遺構全景
118号遺構全景
119号遺構焼土炭化物検出状況
図版 45　119号遺構遺物出土状況１
119号遺構遺物出土状況２
119号遺構遺物出土状況３
119号遺構遺物出土状況４
119号遺構全景
120号遺構全景
120号遺構遺物出土状況
122号遺構土層断面（東より）
図版 46　123号遺構土層断面（西より）
123号遺構全景
125・126号遺構周辺
127号遺構全景
130・131号遺構作業風景
図版 47　130号遺構遺物出土状況１
130号遺構遺物出土状況２
130号遺構遺物出土状況３
130号遺構全景
132号遺構土層断面（南より）
132号遺構完掘状況
133号遺構全景
136号遺構周辺
図版 48　137号遺構全景
138号遺構全景
139号遺構全景
140号遺構全景
140号遺構遺物出土状況
141号遺構土層断面（東より）
146号遺構土層断面（西より）
149号遺構土層断面（東より）
図版 49　149号遺構全景
150号遺構全景
150号遺構遺物出土状況
151号遺構土層断面（東より）
152号遺構遺物出土状況

153号遺構土層断面（南より）
153号遺構遺物出土状況
155号遺構全景
図版 50　156号遺構周辺遺構群
159号遺構遺物出土状況
162号遺構周辺遺構群
162・163号遺構土層断面（南より）
162・163号遺構全景
図版 51　163号遺構遺物出土状況
164号遺構土層断面（西より）
164号遺構完掘状況
165号遺構全景
167号遺構土層断面（南より）
167号遺構完掘状況
168号遺構全景（東より）
168号遺構全景（南より）
図版 52　169号遺構遺物出土状況
170号遺構全景（東より）
172号遺構全景（北より）
172号遺構遺物出土状況
173号遺構土層断面（東より）
173号遺構完掘状況
174号遺構土層断面１（南より）
174号遺構土層断面２（南より）
図版 53　174号遺構土層断面３（南より）
174号遺構炭化物検出状況
174号遺構遺物出土状況
179号遺構全景
179号遺構カマド検出状況
180号遺構土層断面（西より）
180号遺構調査状況
180号遺構遺物出土状況
図版 54　181号遺構全景
182号遺構全景（西より）
182号遺構全景（北より）
185号遺構遺物出土状況
185号遺構全景（西より）
185号遺構全景（南より）
186号遺構土層断面（北西より）
186号遺構土層断面（北東より）
図版 55　186号遺構遺物出土状況１
186号遺構遺物出土状況２
188号遺構完掘状況
184・186・188号遺構完掘状況（北西より）
184・186・188号遺構周辺１（南東より）
184・186・188号遺構周辺２（西より）
184・186・188号遺構周辺３（東より）
184・186・188号遺構周辺４（北より）
図版 56　187号遺構東側周溝銅釧片検出状況
187号遺構東側周溝完掘状況
187号遺構北側周溝遺物出土状況１
187号遺構北側周溝遺物出土状況２
189号遺構検出状況
189号遺構南側周溝遺物出土状況
189号遺構東側周溝遺物出土状況
189号遺構主体部土層断面
図版 57　189号遺構主体部完掘状況
189号遺構全景
192号遺構全景
193号遺構遺物出土状況１
193号遺構遺物出土状況２
193号遺構完掘状況
193号遺構炉検出状況
194号遺構全景
図版 58　195号遺構土層断面
199号遺構東側周溝検出状況
199号遺構西側周溝土層断面（北より）
199号遺構主体部遺物出土状況１
199号遺構主体部遺物出土状況２（北より）
199号遺構主体部遺物出土状況３
199号遺構主体部遺物出土状況４
199号遺構主体部完掘状況
図版 59　199・201号遺構周辺遺構群
205・206号遺構周辺遺構群
図版 60　205・206号遺構完掘状況
206号遺構主体部検出状況（西より）
206号遺構主体部遺物出土状況１
206号遺構主体部遺物出土状況２
206号遺構主体部遺物出土状況３
206号遺構主体部遺物出土状況４
206号遺構主体部木棺痕
206号遺構主体部完掘状況
図版 61　206・207号遺構土層断面（南より）
206号遺構遺物出土状況１
206号遺構遺物出土状況２
206・207号遺構完掘状況
209号遺構完掘状況
211号遺構土層断面（S59年度調査区東側　西より）
211号遺構土層断面（S59年度調査区西側　東より）
212号遺構土層断面（南より）
図版 62　214・215号遺構全景
214・215号遺構全景（西より）
214・215号遺構土層断面（西より）
調査区中央217号遺構周辺１
調査区東側217号遺構周辺２
調査区東側217号遺構周辺３
226号遺構土層断面（北より）
辺田１号墳断面と調査補助員（盛土の高さがわかる）
図版 63　１―９～15・１―17～20裏
図版 64　１―21～25・１―27・１―29裏・１―30～31
１―33表・１―26・１―28・１―29表
１―32・１―33裏
図版 65　１―34～35・１―38・１―41～42
１―44・１―46～47・１―55～59
１―61～62・１―64・１―66
１―68～70・１―72・１―79
図版 66　１―80・１―81～83内面・１―85～88・１―97～126表
図版 67　１―97～126裏・１―97内面拡大・１―98内面拡大
図版 68　１―127～142
図版 69　１―143～146・１―148～160
図版 70　１―161～164・１―166～168・１―172～178
１―181～182・１―184～185・１―188
図版 71　１―179・１―183・１―187・１―192・１―189～191
１―194～197・１―269・１―289

図版 72　2―1～4・2―6～7・2―9～16
図版 73　2―17～19底部・2―24～26・2―28
2―30～31・3―1～6
図版 74　3―7・4―1・4―1底部・5―1～2
5―4～5・5―7～12・5―14～16
図版 75　5―17～33・6―1～2
図版 76　6―3～7・6―11・6―11底部・6―14
7―1～5・8―2～6・11―5
図版 77　13―1・14―1～2・14―5・14―7・15―1
16―1～3・17―2・17―4～7
18―1～4・19―1
図版 78　20―1～3・20―5～6・20―8・20―39・21―1
21―2・21―7・21―61・22―1・22―3
22―6・23―1・28―2～3
図版 79　28―4・28―7～9・29―1・30―1・30―8
31―1～5・32―1～2・32―4・32―7
図版 80　32―9～10・32―12～13・33―1・33―4
33―6～7・33―9～12・33―14～16・33―18
図版 81　33―19～20・33―22・33―24・33―28・36―1～9
40―1・41―1
図版 82　42―3・43―7・44―1・44―1底部・44―3～5
44―9～10・45―6・46―1～2・49―1
49―3～4
図版 83　49―5・49―7～9・49―11・50―1・51―1
53―1・53―4～5・53―12・55―1～5
図版 84　55―6～9・57―4・58―1～4・59―2・60―4～7
図版 85　60―12～20・60―22・60―24～27・60―29～31
図版 86　61―1～2・61―13・65―1・69―2・71―2
72―1～2・72―4・72―6～8・76―5
図版 87　79―1～2・79―4～8・79―11
79―19・81―5・81―7・82―1～5
図版 88　82―6・82―10～16・83―1～2
83―5・84―1・84―6・85―1～4
図版 89　85―5～7・91―1・91―1底部・92―1・94―1
95―1・96―1～2・96―5・98―1
100―1・101―1・104―1～2・106―1
図版 90　106―2～3・106―5・106―11・109―2
110―1～2・110―5～6・112―1・112―4・114―4
114―6～8・118―1～2・119―1
図版 91　119―3・119―6～11・119―18～19・120―1～7
図版 92　120―8～14・121―2・130―1～2・130―4～6
134―1・137―2・137―7
図版 93　137―10・137―16・140―1～2・145―1
149―1～2・149―4～5・150―1～2
152―2～3・153―2～3・153―5・153―7
図版 94　155―1～2・156―1・159―1・160―1・162―1
163―3・163―5～9・165―2
165―4・169―1～2
図版 95　169―3～4・172―1～3・172―5・172―7～8
172―10・174―2・174―5～6・174―8・179―1～2
図版 96　179―3～5・179―7～9・180―1・183―1～2
184―1・185―1～2・186―1
図版 97　186―2～3・186―5～7・187―1～2・188―1
189―22～23・193―1・193―3・193―20～21
図版 98　193―22・193―32・195―1～8・195―11・195―39
196―1・197―1～2・199―38～39
図版 99　199―40・199―48・199―55・199―57・201―1
201―3・201―5～6・202―1～3・204―1
206―46・210―1・211―9
図版100　211―10～12・グリット4・11～12
1―198～257
図版101　1―258～268・1―270～288・1―290～317
図版102　1―318～331・2―27・2―29・2―32～45
3―8～9・4―2・4―5～11
5―3・5―6・5―13・5―34～35
5―37～45・6―8～10・6―12～14・7―6～11
図版103　7―12～27・9―1～8・10―1～4・11―1～4
13―2～4・14―3～4・14―8～34
15―3～4・17―3・17―8～16
図版104　18―6～38・19―2～9・20―4・20―9～38
20―40～41・21―4～6・21―9～19
図版105　21―20～59・22―7～28・23―2～5・24―1～5
27―4～27
図版106　28―17～24・28―26～48・30―2～3・30―9～31
31―8～11・32―3・32―5・32―8
32―14～16・32―18・32―20～23・32―27～35
図版107　32―36～39・33―32～42・33―44・34―1・35―1～8
38―1～4・38―6・38―8～10・39―2～6
39―8～27・39―29・40―2～3・40―5～9
40―11～17・43―8～11
図版108　45―1～5・46―7・46―9・46―13・46―15・46―17
48―1～2・48―5・48―7～8・48―10・49―10・49―12
50―2・52―1～5・53―14～18・54―2～4・55―5～7
55―10・56―1・57―1～2・58―5～7
59―1・59―3・59―5・59―7・60―3・60―32～36
61―3～4・61―6
図版109　61―5・61―7・61―17～27・63―4～10・64―1～4
65―2～3・68―3～5・69―1・69―3・71―1
71―3～5・72―5・72―9～10・72―12
74―2～3・75―4～9・76―2～4・77―3～4
79―9～10・79―13・79―16・80―1～2
図版110　80―5～17・81―1・81―9～25
82―17～21・83―3～4・83―8～13・84―3～5
84―7・85―7～8・85―14・86―1・88―1・91―2～4
93―1・94―2～5・96―6～9
図版111　97―1～3・98―2～6
100―1・100―3・100―5・102―2・104―3～4
104―8～12・105―1～4・106―6～10・106―12～19
108―1～3・108―5～7・109―1・109―3～4
110―3・110―10～15・112―2～3
114―2・114―5・114―11・115―3～9
116―2～3・118―4～9
図版112　119―2・119―4
119―12～15・119―23・119―25～26・119―28～49
120―16・121―1・121―3～15・123―3～4
127―1～6・127―9～17
図版113　128―1・128―3～5
128―8～9・128―11～13・128―15～18・130―3
131―5～24・133―2～6
134―2～4・137―3～4・137―6・137―8～9
137―11・137―18～28・138―1～6・140―3
143―1～2・145―2～3・146―1～4
図版114　147―12・148―2・149―3・149―6～23・150―3～5
151―1・152―1・153―1・153―9～10・155―3～9

159―3・160―3～4・162―6
162―9～11・162―13・162―15・162―17・162―21
162―24～25・163―13～14・163―18～20
163―23・163―26～34・163―38～39

図版115　163―40・164―1・165―1・165―9・165―12～17
166―1～4・168―1～4・169―5・169―7～9
169―11・170―2～7・172―4・172―6・172―9
172―11～12・172―14・174―1・174―3～4
174―11～12・174―14～15・174―17～19・174―22～24
174―27～38・174―40・175―2～4・178―1・180―11

図版116　180―12～16・180―18・180―26～29・180―32～37
182―1・183―3・183―8・183―12・183―14～16
183―19～23・184―6～9・184―14・184―16
184―18～33・184―35～71

図版117　184―72～89・185―3～9・186―8
186―11～20・187―5・188―2・189―27～62
193―23～25・193―29～31・193―34～43

図版118　193―44～47・194―2・195―16・195―21～22・195―24～38
195―40～70・196―3～5・197―3・197―5～7
197―12～17・199―24～26

図版119　199―27～37・199―58～61・199―63～65
199―67～68・199―70～77・199―79～86
201―4・201―10～13・201―16・201―18～27
202―6～14・203―5～8・203―11・203―13～14
204―2～6・205―1～4・205―6～13・206―42～45

図版120　208―1・208―4・208―6～7
210―9・210―15・211―4・211―13・211―16～33
212―2～4・213―5～6・214―1～3・214―5
215―1～6・215―9～11・215―13～34
223―1～3・224―1・224―5～10

図版121　224―11～14・226―1～2・グリット1～3・5
グリット10・13～32・34～49・51～74

図版122　グリット75～124

Ⅰ　はじめに

1　調査に至る経緯と経過

昭和30年代後半から40年代にかけて、我国は高度経済成長期の真只中にあり、市原市は京葉工業地帯を抱えた首都圏に位置したことから、そのベッドタウンとしての大規模宅地造成が立て続けに計画された。その中の一つが国分寺台地区およそ380ヘクタールに及ぶ国分寺台土地区画整理事業である。

当地は昭和４年に国指定史跡となった上総国分寺塔跡や、昭和23年の調査によって広く周知された上総国分尼寺をはじめとする著名遺跡が所在する地域でもあり、事業地内に所在する遺跡の保護と土地区画整理事業との調整が行われた。結果として、上総国分寺・尼寺は保存。それ以外の遺跡については、記録保存の方針が決定した。

昭和46年12月には発掘調査実施機関として市原市国分寺台埋蔵文化財調査会が結成され、翌昭和47年から当初３ヵ年の予定で事業地内の遺跡の調査が終了する予定であった。しかし、当時把握していた事業地内の遺跡は、蓋を開けてみれば予想を遥かに超えた規模であり、調査面積と調査期間の大幅な変更が余儀なくされた。最終的には昭和63年までの16年間の歳月をかけ、上総国分寺・尼寺をはじめとする43遺跡、面積にして537,270㎡分の発掘調査が終了した。

整理作業については、事業地内の発掘調査を最優先としたことや、報告書刊行に伴う費用負担の問題等からほとんど進捗しなかったが、平成７年度の市原市と市原市国分寺台土地区画整理組合との協議の結果、費用負担の問題も解決し再開されることになった。

今回報告する辺田古墳群・御林跡遺跡は当初計画を大幅に見直した最終段階の調査で、調査主体が調査会から財団法人市原市文化財センターに移行しはじめた、昭和59・60・63年度の延べ３ヵ年の調査成果を纏めたものである。

2　遺跡の位置と歴史的環境

御林跡遺跡は、標高20m前後の舌状台地に存在し、西は島状に独立する根田代遺跡、東側は未調査地点を残すものの南北方向に走る弱い谷によって長平台遺跡と分離された、ほぼこの舌状台地全域を御林跡遺跡として捉えることができる。辺田古墳群は、この御林跡遺跡の南側上層部分に相当し、辺田１号墳より西側に展開する古墳時代前期と終末期を主体とする古墳群である。今回報告する辺田古墳群・御林跡遺跡の範囲は、隣接する御林跡遺跡の主要、北側調査区を除いた範囲である。

今回の整理作業の結果、遺物については縄文時代早期撚糸文系土器から近世陶器に至るまでの総数65,900点余りの遺物を検出し、遺構では縄文時代早期炉穴から近世道路に至るまで、200基以上の各種遺構が検出された。この中でも辺田１号墳墳頂部より検出された底部穿孔二重口縁壺をはじめとする土器群と埋葬施設から検出された素環頭大刀等の組合せは、前橋天神山古墳と並び関東屈指の前期古墳の内容を保持していると言っても過言ではない。また辺田１号墳の下層から検出された２基の方形周溝墓内部施設より、それぞれ右手尺骨と董骨に着装状態で検出された各々５連の帯状円環型銅釧もまた関東においては極めて貴重な発見と言えるであろう。ここではこれらの問題を踏まえ、周辺の

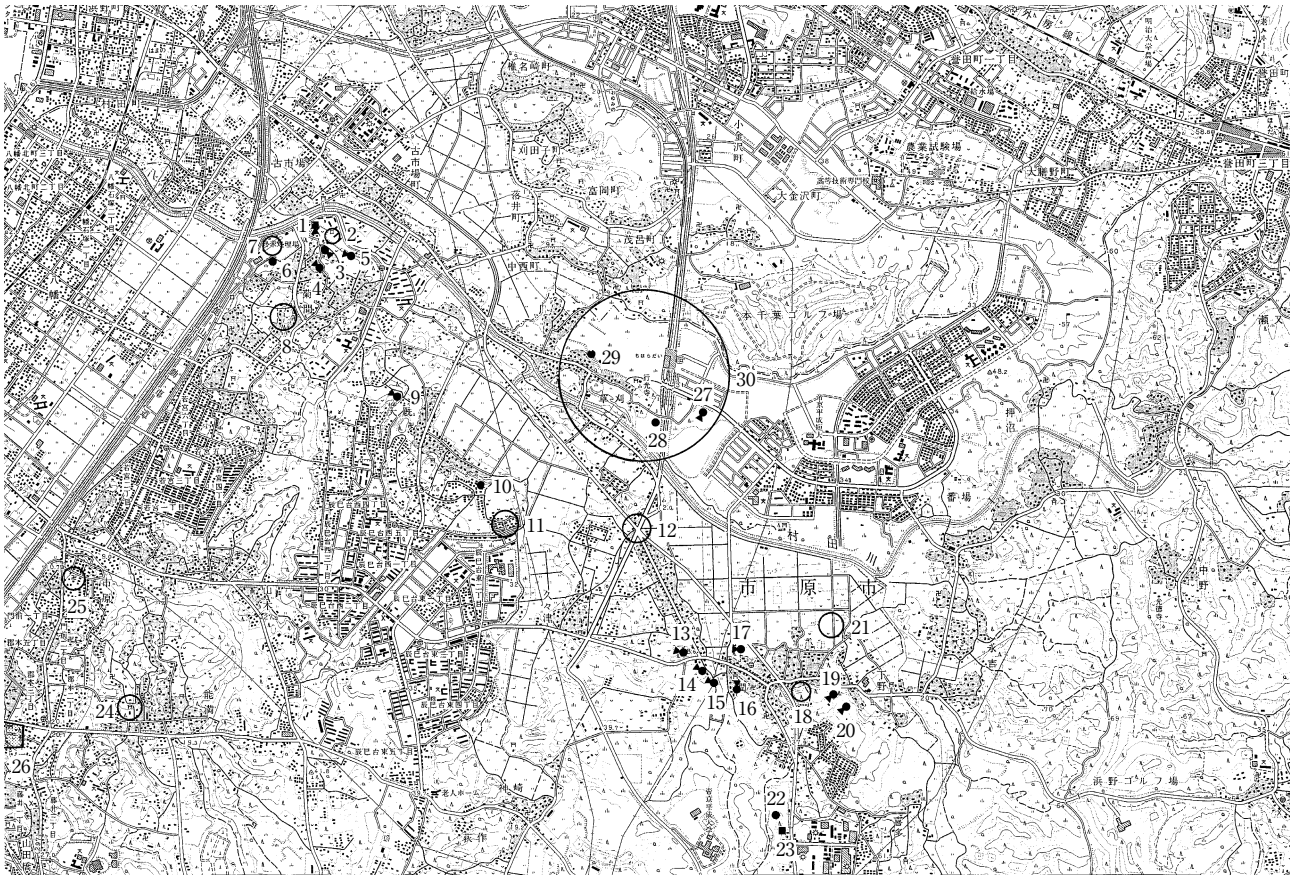
第１図　遺跡の位置と市内主要遺跡群（1/100,000）

歴史的環境について略述しておく。

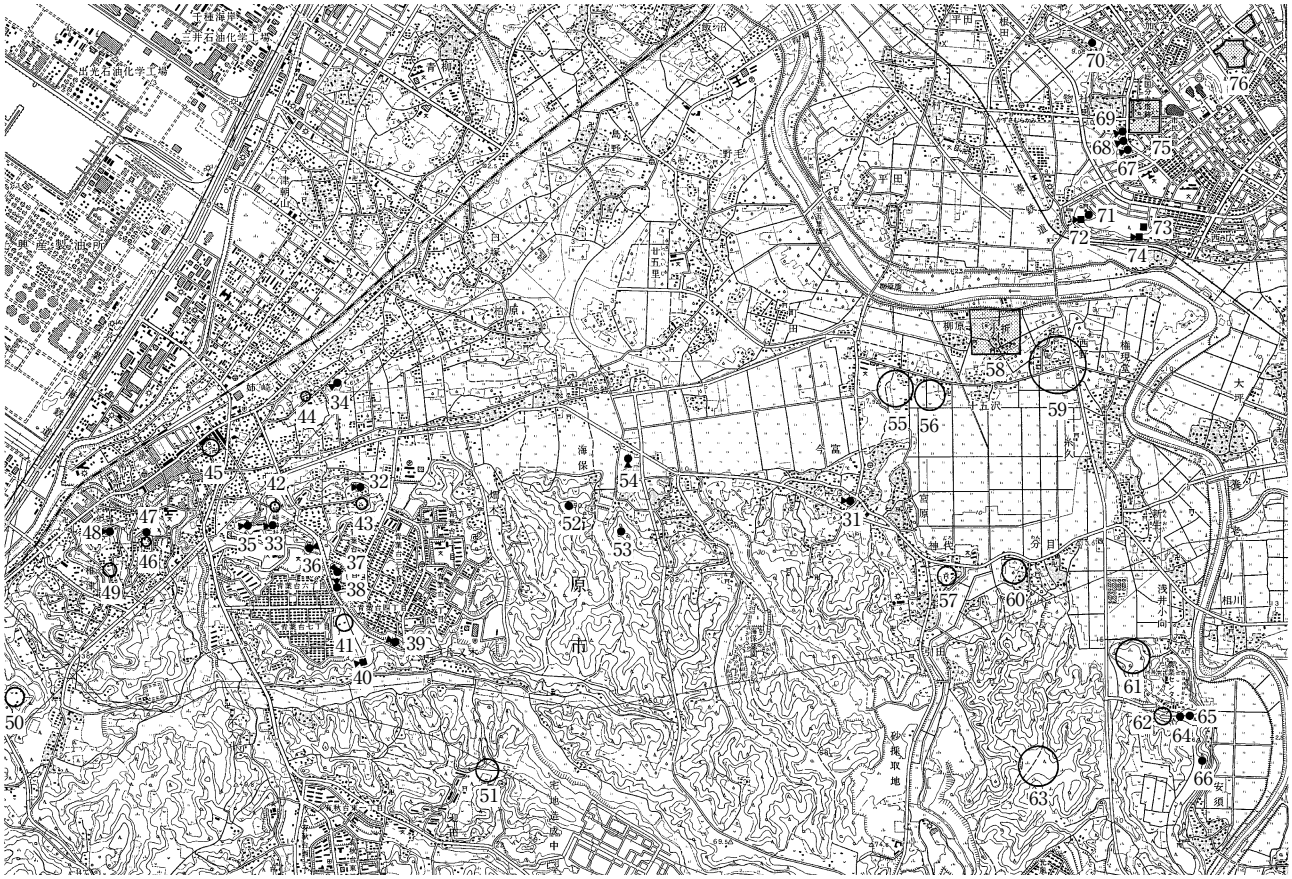
第１図は市内の主要遺跡群を示したものである。もちろんこの他にも周辺には多数の遺跡が所在しているが、とりわけこの３者は周囲を圧倒する内容を保持していると言っても過言ではない。市内北部に位置する菊間遺跡群（註１）は、『和名類聚抄』における市原郡菊麻郷をほぼ中心とする地域で、大型前方後円墳の集中度から『国造本記』における菊麻国造およびその前身豪族の奥津城として捉えられる菊間古墳群をはじめとして、隣接する菊間廃寺を含めた村田川の中～下流域一帯に濃密に分布する古墳群及び集落跡を主体とする。このうち、村田川南岸に所在する大型古墳では、粘土槨２基が接合して検出され、内行花文鏡・珠文鏡・石釧・大刀・剣・鉄斧・鉇・水晶製勾玉・管玉・ガラス玉などを検出し、全長60ｍ前後の前方後方墳と推定されている新皇塚古墳や、全長11ｍを測る割竹形木棺内より、珠文鏡・石釧・刀子・瑪瑙勾玉・琥珀棗玉・琥珀小玉・管玉・ガラス勾玉・ガラス小玉を検出した径44ｍの円墳、大厩浅間様古墳などが調査されている。また、周辺には未調査であるものの、北野天神山（権現山）古墳（90ｍ）・東関山古墳（80ｍ）姫宮古墳（52ｍ）・大厩二子塚古墳（70ｍ）などの前方後円墳や、径45ｍ前後の円墳と考えられる菊間天神山古墳などの大型墳が集中的に分布している。一方集落跡では、菊間遺跡や大厩遺跡などの極めて重複率の高い複合遺跡が調査されており、和泉式期の豪族居館跡として想定される西山・草刈尾梨遺跡の存在や、対岸における極めて重複率の高い、ちはら台遺跡群（註２）の内容が次第に明らかにされるに及び、弥生時代以降周囲一帯が、ひとつの文化の中心的存在であったことが垣間見られてくる（註３）。

次に市内南部の椎津川下流域、姉崎周辺の遺跡群について窺ってみよう。この地域は県下でも有数の大型前方後円墳が築かれ、先の村田川流域のごとく上海上国造およびその前身豪族の奥津城として捉えられる姉崎古墳群及び延喜式内社の姉埼神社が存在し、『和名類聚抄』における海上郡馬野郷に比定される地域をほぼ中心とする。しかし、やや範囲を広げ、前期大型前方後円墳に比定される今富塚山古墳（110ｍ）及び大型古墳改変の塚として捉えられる海保大塚（60ｍ）や、海上郡衙及び白鳳期の郡名寺院に比定される今富廃寺や、国史見在社の神代神社などを含めることによって、養老川下流域南岸地帯から椎津川下流域一帯にかけてが、かつての上海上国造及びその前身豪族の勢力基盤として捉える事が可能な地域である。また、限られた範囲ながら調査が実施された大型古墳も存在し、その変遷と内容の一部を知ることができる。

その変遷は、まず墳形が古式の様相を残し、内部施設に木炭槨を使用していたものと考えられ、底部穿孔壺形土器を検出し、４世紀代の築造と考えられる今富塚山古墳（110ｍ）。墳丘測量が実施され、その墳形より今富塚山古墳と同時期か若干後出する時期の所産と捉えられる姉崎天神山古墳（別名台大塚130ｍ）。前方部が未発達で後円部の内部主体は粘土槨、推定９ｍ前後の割竹形木棺と想定され、布留系高坏を検出した釈迦山古墳（93ｍ）。前方部と後円部に内部施設が存在し、前方部より直弧文付石枕１・立花２・銀製垂飾付耳飾一対・瑪瑙勾玉１・直刀２・鉄鏃140・轡・短甲片・挂甲片・頸鎧・肩鎧、後円部より蟠虺文鏡１・変形文鏡２・硬玉製勾玉７・滑石製大型勾玉１・管玉４・琥珀製棗玉５・ガラス小玉300余・滑石製刀子５・有孔円盤２・臼玉３・立花４・石枕（伝聞）・金銅製金具残欠・直刀片２・鉄鉾１・金銅製冑片１・短甲片・挂甲片等を検出し、墳丘内の円筒埴輪列（Ｂ種横ハケが表採される）より検出された高坏が和泉式として捉えられ、５世紀中葉以前に位置付けられる姉崎二子塚古墳（110ｍ）。百済武寧王陵出土単竜式環頭大刀の系譜に連なり、蕨手風の鞘文



第２図　菊間古墳群と周辺遺跡（1/50,000）



第３図　姉崎古墳群と周辺遺跡（1/50,000）

第１表　周辺遺跡一覧表

No	遺　跡　名	主　な　遺　跡　の　内　容	備　考
1	新皇塚古墳	全長60m前方後方墳と推定。粘土槨２基。内行花文鏡・珠文鏡・底部穿孔壺二重口縁等。	昭和48年度調査。文献１
2	菊間遺跡	弥生住居49軒・方形周溝墓２基・古墳住居６・古墳４基他。	昭和48年度調査。文献１
3	北野天神山古墳	全長90m前方後円墳と推定。別名権現山古墳。	平成６年度測量調査。文献２
4	東間山古墳	全長80m前方後円墳。	平成６年度測量調査。文献２
5	姫宮古墳	全長52m前方後円墳。	平成６年度測量調査。文献２
6	菊間天神山古墳	径45m円墳。５世紀末葉の円筒埴輪を伴う。	平成６年度測量調査。文献２
7	菊間手永遺跡	弥生住居47・古墳前期17・古墳後期～平安10軒。	昭和58年度調査。文献３
8	菊間廃寺跡	軒丸瓦は素弁十三葉蓮華文。８世紀前半の創建と推定される。	文献４
9	大厩二子塚古墳	全長70m前方後円墳。	平成６年度測量調査。文献２
10	大厩浅間様古墳	径44m円墳。全長11mの割竹形木棺内より珠文鏡・石釧等検出。	昭和59・平成２年度調査。文献５
11	大厩遺跡	弥生住居56・古墳前期１・中期１・後期11軒・古墳９基他。	昭和48年度調査。文献６
12	西山・草刈尾梨遺跡	和泉式期の豪族居館跡と推定される。	昭和59・平成２年度調査。文献７
13	潤井戸杉山古墳	全長56.5m前方後円墳。	平成11年度測量調査。文献８
14	山王後２号墳	全長42m前方後円墳。未調査。	文献９
15	山王後１号墳	全長33m前方後円墳。木棺直葬。直刀・鉄鏃検出。	昭和52年度調査。文献10
16	潤井戸小谷１号墳	全長40m前方後円墳。下総型埴輪検出。	昭和63年度調査。文献11
17	宿後古墳	全長35m前方後円墳。未調査。	文献９
18	潤井戸上横峰遺跡	円墳３・方墳２基等。	平成元年度確認調査。文献12
19	下野寺谷１号墳	全長44m前方後円墳。別名本泰寺古墳。未調査。	文献９
20	下野寺谷10号墳	全長32m前方後円墳。未調査。	文献９
21	潤井戸鎌之助遺跡	竪穴住居弥生12・古墳35・奈良６・平安３軒。掘立柱建物跡17棟他	平成10年度調査。文献13
22	長者塚１号墳	径38m円墳。高さ５m。未調査。	文献９
23	長者塚２号墳	径33m 方墳。高さ3.7m。未調査。	文献９
24	府中日吉神社	中世国府推定地	文献14
25	光善寺廃寺跡	凸面布目瓦・単弁四葉蓮華文軒丸瓦出土。白鳳期寺院跡	文献15
26	市原郡衙推定地	礎石・伝懸仏の存在から国衙・郡衙推定地に比定される。	昭和38年度調査。文献16
27	草刈11号墳	全長35mの前方後円墳。	保存整備
28	草刈３号墳	別名六之台古墳。径35m高さ６m円墳。碧玉製釧・管玉・直刀・土師器・須恵器他	昭和55年度調査。消滅。文献17
29	草刈１号墳	別名草刈大塚。径38m高さ７m円墳。鉄鉾・鉄剣・鉄製農耕具・玉類他	昭和59年度調査。消滅。文献18
30	ちはら台遺跡群	草刈遺跡・草刈六之台遺跡・川焼台遺跡他	昭和55年度以来調査。文献19
31	今富塚山古墳	全長110m前方後円墳。主体部は木炭槨？　底部穿孔土器検出。	平成３年度一部調査。文献20
32	姉崎天神山古墳	全長130m前方後円墳。	昭和49年度測量調査。文献21
33	釈迦山古墳	全長93m前方後円墳。粘土槨。推定９m の割竹形木棺。布留式高坏検出。	平成７年度一部調査。文献22
34	姉崎二子塚古墳	全長110m前方後円墳。前方部と後方部に主体部。後円部出土直弧文付石枕は重文。	明治以来数度調査。文献23
35	上総山王山古墳	全長69m前方後円墳。粘土槨。銀装単竜式環頭大刀・金銅製冠・鉄鏃・胡禄	昭和38年度調査。消滅。文献24
36	鶴窪古墳	全長60m前方後円墳。	昭和56年度一部調査。文献25
37	原１号墳	全長70m前方後円墳。直刀・刀子・円筒・形象埴輪	昭和48年度調査。消滅。文献26
38	原２号墳	前方後円墳、規模不明。	未調査、消滅。文献９
39	堰頭古墳	全長45m前方後円墳。未調査。	文献９
40	六孫王原古墳	全長45m前方後方墳。横穴式石室。金銅製馬具片・直刀・刀子片・鉄鏃片・須恵器	昭和45･平成２・３年度調査。文献27
41	毛尻・六孫王原遺跡	弥生～古墳中期住居跡114軒・方形周溝墓20基・木棺墓６基他	昭和59・平成年度調査。文献28
42	姉崎宮山遺跡	弥生～古墳終末期住居跡10軒以上・掘建柱建物跡３棟・土坑４基・溝１条他	平成２年度調査。文献29
43	姉崎東原遺跡	全長33m前方後方墳。底部穿孔二重口縁壺他出土。弥生～古墳住居跡25軒他。	昭和62・平成２年度調査。文献30
44	姉崎上野合遺跡	古墳中期円墳２基・竪穴住居跡３軒	平成元年度調査。文献31
45	姉崎妙経寺遺跡	中期から後期円墳10基、前方後円墳１基。	平成６～11年度調査。文献32
46	椎津茶ノ木遺跡	竪穴住居総数165軒。古墳後期主体。	平成２・10年度調査。文献33
47	椎津稲荷山古墳	径41m・高さ4.5m以上の円墳。	平成２・10年度一部調査。文献33
48	外郷古墳	全長85m後円部高さ３m　前方後円墳。未調査。	文献９
49	椎津五霊台遺跡	古墳前期竪穴住居30軒・古墳後期～平安竪穴住居12軒・中世方形竪穴１軒・古墳５基他	平成８年度調査。文献34
50	椎津中台遺跡	奈良・平安時代竪穴住居17軒、掘立柱建物跡10棟他	平成10年度調査調査。文献35
51	片又木遺跡	古墳前期竪穴住居９軒・平安竪穴住居６軒・方形周溝５基・掘立柱建物跡群他	平成13年度調査調査。文献36
52	海保大塚	円墳？径60m。現状六角形。	平成元年度確測量調査。文献37
53	海保３号墳	径30m、高さ3.8m円墳。木棺直葬・鉄剣・鉄鏃・勾玉・管玉・ガラス小玉他	昭和43年度調査。文献38
54	丸出古墳	全長44m、後円部高さ３mの前方後円墳。未調査。	文献９
55	今富廃寺跡	白鳳～奈良時代寺院跡。大和山田寺系の瓦出土。	昭和年度調査。文献39
56	十五沢坊ヶ谷津遺跡	掘立柱建物跡棟・井戸・瓦塔等検出。	平成12年度調査調査。文献40
57	神代神社	国史見在社	文献41
58	海上郡衙推定地	「小折」は「郡」の宛字。郡衙本体は未調査。	文献42
59	西野遺跡	井戸・掘立柱建物跡群・区画溝他	平成７年以来数度調査。文献43
60	分目要害遺跡	中世城郭跡	平成５年度調査調査。文献44
61	鎌神遺跡	竪穴住居総数243軒。弥生174・古墳前10・中11・後７・平安24・時期不明17軒。	平成４年度調査調査。文献45
62	安須１・２号墳	方墳２基他	平成４年度調査調査。文献46
63	荻原野遺跡	総数29基の終末期方墳～改葬系区画墓群	平成元年度調査調査。文献47
64	安須３号墳	径30m 高さ2.5m円墳。未調査	文献９
65	安須４号墳	径38m 高さ３m円墳。未調査	文献９
66	安須13号墳	別名遠目塚古墳。径35m高さ4.5m未調査。	文献48
67	神門５号墳	全長38.5m前方後円型墳丘墓。剣・鉄鏃２・ガラス玉６他	昭和年度調査。文献49
68	神門４号墳	全長49m前方後円型墳丘墓。剣１・槍１・槍鉋１・勾玉３・管玉73・ガラス玉420他	昭和年度調査。文献50
69	神門３号墳	全長47.5m前方後円型墳丘墓。剣１・槍１・槍鉋１・管玉11・ガラス玉103他	昭和62年度調査。文献51
70	辺田１号墳	径33m円墳。本報告書。	昭和60年度調査。文献52
71	諏訪台10号墳	径45m高さ５m円墳。未調査	文献９
72	諏訪台11号墳	全長39m前方後方墳。後方部高さ2.5m。前期古墳。主体部流失。	文献９
73	諏訪台21号墳	終末期方墳。径30m	文献９
74	諏訪台18号墳	全長39m終末期前方後方墳。	文献９
75	上総国分寺跡	伽藍配置は大官大寺式。南北4.5町東西最大部３町以上の寺地は全国最大規模。	大正12年以来数度調査。文献53
76	上総国分尼寺跡	建物群は七堂伽藍。南北3.5町東西2.5町と60尺の寺地は全国最大規模。	昭和23年以来数度調査。文献54

様を施す銀装単竜式環頭大刀１・木装大刀３・刀子５・毛抜き型鉄器１・胡禄２・鉄鏃45本以上・金銅製冠１・櫛・銅地銀覆耳環一対・変形四獣鏡１・埴輪等を検出し、副葬品の年代観から６世紀前半代に比定し得る山王山古墳（69m消滅）。全長およそ70m、円筒・形象埴輪を保持し、３段築成工法を採用？しながら、粘土床と推定される内部施設からは直刀１本と刀子片などの僅かな遺物しか検出されなかった原１号墳（６世紀中葉消滅）。全長60m前後を測り円筒・形象埴輪を有するものの後円部を大幅に流失する鶴窪古墳（別名蓮ヶ窪古墳・６世紀後葉）。７世紀前葉に比定されるものの未調査で詳細不明な堰頭古墳（全長45m・前方後円墳？）。乱掘著しい横穴式石室中より金銅製馬具片・直刀片・刀子片・鉄鏃片を、前方部墳頂部より須恵器大甕を検出し、７世紀中葉に比定される六孫王原古墳（全長45m、前方後方墳）として捉えられている。この他にも未調査のまま消滅してしまったとされる古墳が周辺には多々存在したと言い、また、椎津川を挟んだ対岸にも全長85m前後の外槨古墳や、径40m強の円墳と推定される伝石枕出土の椎津稲荷山古墳が存在するなど、狭義の姉崎古墳群以外にも周囲には大型古墳が存在している（註４）。また、周辺の遺跡としては、姉崎毛尻遺跡・姉崎六孫王原遺跡・姉崎原遺跡・姉崎東原遺跡・姉崎宮山遺跡・姉崎上野合遺跡・姉崎山新遺跡・姉崎妙経寺遺跡・椎津茶ノ木遺跡・椎津五霊台遺跡・椎津中台遺跡・畑木小谷遺跡・片又木遺跡などが調査され、低地から台地上に至る縄文時代から中世にかけての姉崎地区の様相が次第に明らかになりつつある（註５）。

一方、地点を大きく東に移した大字『小折』付近は海上郡衙推定地とされ（註６）、周辺には白鳳期に成立した郡名寺院と捉えられている今富廃寺跡や国史見在社の神代神社が存在し、律令時代の中心地と考えられている。今富廃寺跡に隣接する十五沢坊ヶ谷遺跡では瓦塔や柱木質が残った掘建柱建物跡などを検出し、また、海上郡衙推定地に接する西野遺跡でも掘建柱建物跡群が検出されており、それぞれ今富廃寺跡や海上郡衙の外郭の一角を捉えたかの感がある。周辺では釜神遺跡・安須古墳群・分目要害遺跡・荻原野遺跡などが調査されているが、郡衙や廃寺に関連する該当期の遺構数は、釜神遺跡で総数22軒、安須古墳群では１軒の竪穴住居が、荻原野遺跡で総数29基の古墳時代終末期から奈良・平安時代にかけての墳墓が検出されているが、該当期の遺構数としては貧弱であり、律令期の当域については未だ不明な点が多い。しかしながら前述してきた古墳の規模や副葬品、郡衙と廃寺の位置関係などから、ひとつの文化の中心的存在であったことが垣間見られるのである。

最後に辺田１号墳・御林跡遺跡が所在する現『国分寺台』と呼ばれる市原台地に存在した遺跡群の内容を窺ってみよう。この地域は『和名類聚抄』における市原郡市原郷をほぼ中心とし、全国的に見ても著名遺跡が集中する地域でもある。ここには纒向型前方後円墳（出現期古墳）とされる神門古墳群や王賜銘鉄剣を出土した稲荷台１号墳などの考古学研究に欠くことのできない第一級資料をはじめとして、弥生時代後期より奈良・平安時代まで連綿と続く墳墓群を形成する諏訪台古墳群。その下層遺跡で、小銅鐸や船の線刻土器を検出した天神台遺跡。古墳群としての纏りは小さいものの、底部穿孔二重口縁壺や素環頭大刀を検出し、神門古墳群に次ぐ次世代以降の当域の首長墓たる辺田１号墳。その下層の２基の方形周溝墓内部施設より、５連の帯状円環型銅釧を腕に着装状態で計10点検出した御林跡遺跡。円筒・人物埴輪を多数検出し、６世紀末葉に比定される山倉１号墳をはじめとする山倉古墳群や、弥生から中世に至る遺構を主体とする台遺跡。古墳時代後期の集落跡を中心とする加茂遺跡・郡本大宮遺跡・千草山遺跡などが存在する。さらに律令制施行以降の奈良時代を中心とする時期

第 4 図　国分寺台地区の旧地形と調査遺跡（1/12,000）

第５図　周辺遺跡と旧地形（1/6,000）

には、古代上総を代表とする国分僧寺・尼寺の建立や、これに付随すると考えられ、合わせて500軒を超える奈良・平安時代の集落と考えられる荒久遺跡と坊作遺跡。古代官道と推定される幅６ｍの道路跡を検出した山田橋表道遺跡と、その官道に沿って掘建柱建物跡群や多量の緑釉・灰釉陶器を検出し、通常の集落跡とは種を異にする稲荷台遺跡などが特筆されよう。しかしながら古墳時代に目を転じたとき、神門古墳群に連続する前期大型前方後円墳が存在しない地域、換言すれば上海上・菊間国造の奥津城ごとく、大型前方後円墳が群をなして存在しない地域であることに十分な留意が必要であろう（註７）。

以上市原市域における主要遺跡群について、その概略を述べてきた。これらのことから辺田古墳群・御林跡遺跡のような遺跡の歴史的環境を述べようとする場合、周辺地域との歴史的関連性の中に求めねばなるまい。特に市原台地上に存在する古墳群の場合、先の菊間・上海上国造及びその前身豪族の奥津城に比べ古墳の出現から終焉まで一貫して全長50ｍを超える墳墓は築造されないのであり、これが当域の最大の特徴と言っても良いであろう。また辺田１号墳下層の２基の方形周溝墓内部施設より検出された５連の帯状円環型銅釧計10点について言及すれば、市域北部の菊間遺跡群中の草刈遺跡Ｈ区土壙墓中より未報告であるが６～７連の帯状円環型銅釧が出土しているという（註８）。一方、南部の姉崎遺跡群中からは５連以上の連装状態での検出は未だに無いが、南接する袖ヶ浦市の荒久遺跡（註９）からは方形周溝墓の内部施設から５連の状態でガラス小玉92個と共伴して出土している。更に南下した木更津市高砂遺跡（註10）では６連の帯状円環型銅釧が検出されており、未だ検出例が少ないながら、房総に於ける市原以南の帯状円環型銅釧出土例からすれば、菊間遺跡群や国分寺台遺跡群などの一定以上の纏った地域に１～２例程度の割合で検出されていることが興味深いと言えるであろう。

註１　ここでは村田川中～下流域に分布する一定の纏りを持った大型古墳群や集落跡群の総称として使用した。

註２　ここでは草刈遺跡・草刈六之台遺跡・川焼台遺跡の他、ちはら台ニュータウン造成工事に伴う広範囲にわたる村田川北岸遺跡の総称として使用している。

註３　狭義の説明を加えれば、村田川南岸地域における古墳群でも、西側に展開する大厩浅間様古墳・新皇塚古墳など時期の古い古墳から古墳群を形成する大厩・菊間地域と、６世紀末葉～７世紀初頭に比定され、下総型円筒埴輪列をもつ小谷１号墳（前方後円墳40m強）・埴輪を持たない最終段階の前方後円墳の可能性が非常に高い潤井戸杉山古墳（前方後円墳56.5m）などを主体とする東側の潤井戸地域に比較的新しい段階の大型古墳が集中しているのが現状であり、両者は地点を大きく変えて存在している。なお、和泉式期の豪族居館に比定される西山・草刈尾梨遺跡は大厩浅間様古墳と潤井戸杉山古墳のちょうど中間点に存在している。

対岸における草刈古墳群中では、草刈１・３号墳がともに35m前後の円墳であり、他に40m級の前方後円墳として32・33号墳や椎名崎古墳群中に人形塚古墳などが認められるが、いずれも南岸の大型古墳に比べやや規模が劣っていると言えよう。これらの墳墓とはやや地点を変え、村田川北岸下流域に大覚寺山古墳（前方後円墳63m）・七廻塚古墳（円墳54m）やや規模が劣るが上赤塚１号墳（円墳31m）なども存在し、第１図における村田川中～下流域にかけての地域には大型古墳群が少なくとも４グループ存在していることが認められる。

村田川南岸の地は、最終的には菊間廃寺を擁する菊間国造が盟主的存在になりえたとしても、北岸の大覚寺山古墳・七廻塚古墳・上赤塚１号墳などの少なくとも４世紀末葉～５世紀前半代に比定し得る一群を、立地や出土遺物の共通性から後世千葉国造との関連性の中で捉え、南岸における比較的近似した時期の新皇塚古墳や大厩浅間様古墳に後出する墳墓を含めて、北岸の古墳群に勢力の及ばない

弱小国造と捉える見解もあるが、これら4グループの関係を考えるとき、この時期なお継続的首長墓を形成しえない各勢力が互いに拮抗し合う関係下にあった状況と捉えることも可能であろう。なお、千葉国造・菊間国造とその古墳群についての文献として以下の文献を参考とした。

沼沢　豊「2　千葉」『古墳時代の研究』9　雄山閣出版1990

註4　狭義の姉崎古墳群の範囲は、低地に存在する姉崎二子塚古墳から台地上の最奥部の六孫王原古墳までを中心とするものであるが、ここでは今富塚山古墳や古墳改変の塚と捉えられる海保大塚（径60m円墳？現状は六角形の塚）・海保3号墳（径30m円墳・椎津稲荷山古墳（径40m強円墳）・外郷古墳（全長85m前方後円墳。椎津城築城により大半は削平か。周囲より埴輪が表採される。）などの大型古墳が存在する養老川下流域南岸範囲で捉えている。なお、狭義の姉崎古墳群についてや、上海上・菊間国造については以下の文献を参考とした。

沼沢　豊　「姉崎古墳群主要古墳一覧」『古墳時代研究Ⅱ』古墳時代研究会1975

甘粕　健　「養老川の古墳の分布と山王山古墳の歴史的性格」『上総山王山古墳』市原市教育委員会1980

前之園亮一「関東国造の性格と諸類型」『市原地方史研究』13　1984

「房総の国造と中総首長連合」『千葉県の歴史』28　1984

「上海上と下海上」『市原地方史研究』17　1992

「菊間国造について」『歴史散歩資料　市原市菊間周辺の遺跡と文化財』市原市地方史研究連絡協議会2001

註5　姉埼神社や狭義の姉崎古墳群の主流が存在する台地上に存在し、重複率が激しく詳細不明な宮山遺跡を除いた毛尻・六孫王原・原・東原の各遺跡は、いずれも弥生後期の竪穴式住居跡を主体とする。その後の古墳時代前期以降は遺構数を激減させ、中期前半の和泉式期には非常に不安定な状態を経ながらも、概ね中期後半の鬼高式初頭（TK―208型式段階）まで集落を存続させる。しかし、その後の摸倣坏出現段階以降には、これまで調査が実施された遺跡範囲からは、ほとんどその存在を認めることができない。このことは、東に大きく地点を隔てた台地上の畑木小谷遺跡でも同様の遺構分布を示している。

椎津川を挟んだ対岸の椎津台地に所在する椎津五霊台遺跡は、概ね姉埼神社の位置する台地上の遺跡と同様の変遷を遂げる。しかし、舌状台地先端部の椎津茶ノ木遺跡では、中期前半の和泉式の終末段階から継続的な集落を営み、鬼高式の古い段階から摸倣坏が盛行し衰退するまでの間、当域の他の遺跡から人間が移動してきたのではないかと思われるほど爆発的に竪穴式住居跡数が増加し、かつ、近接時期の遺構の重複を見る。そして、7世紀末葉から8世紀初頭段階に遺構数が激減する傾向が認められる。更に谷を隔て袖ヶ浦市と接する椎津中台遺跡は、茶ノ木遺跡で遺構数が激減した奈良・平安時代の集落跡である。

一方、姉崎二子塚古墳西方100m程の地点の低地に存在する上野合遺跡では、当域の台地上では稀有だった和泉式の竪穴式住居跡を検出し、同じく低地の山新遺跡では台地上では空白だった縄文晩期の包含層や、中世の墓域を検出し、台地上の空白時期の遺構は低地に存在するという前提が成立しつつある。また、同じく低地の妙経寺遺跡でも縄文時代中期初頭の貝塚や前方後円墳1基を含む計11基の古墳群を検出し、古くは妙経寺古墳とされた大型前方後円墳は存在しなかったが、かつてマウンドを保持した古墳群は存在していたことが裏付けられた。このことは山新遺跡で1基、上野合遺跡で2基の墳丘を喪失した円墳が検出されており、内房線敷設に際し周辺の古墳が次々と消滅していったという記録と矛盾しない。

南に大きく地点を隔てた片又木遺跡は、これまで古墳前期と平安時代の竪穴式住居跡を主体とする遺跡であった。ところが近年の発掘調査によって、谷津の最奥部にわざわざ広範囲に地山を削った土を谷部に押出すことによって得られた広範囲な平場に、大伽藍を彷彿させる掘建柱建物群を建立していたことが確認され、その出土遺物より、平安末期から鎌倉時代にかけての建物群だったことが判明している。このような大規模土木工事をしてまでも建立しなければならなかった建物群の性格や、調査区域外に広がる未調査区域の平坦面から、その配置状況等については今後の課題であるが、周囲には源頼朝伝承もあり、この地における古代末期から中世に至る歴史的現象のひとつとして十分な留意が必要な遺跡である。

註６　「小折」は「郡」の宛字として、古くは小熊吉蔵氏によって上海上郡衙推定地とされ、郡衙関連とされる地名も多く存在する。近年、限られた範囲ではあるが継続的な発掘調査が実施され、区画溝や掘立建柱建物跡・井戸跡・竪穴住居等を検出した。このうち東西方向に整然と並ぶ掘建柱建物跡群は、郡衙関連遺構である可能性が極めて高い。しかし、該当期の遺構本体は微高地である現集落の直下に存在するためか、検出される遺構数は貧弱であり、郡衙本体の所在地については未だ確証に至らない。

註７　神門古墳群に後出する時期の比較的大型墳としては、本報告書記載の30m級円墳である辺田１号墳の他、東間部田２号墳や諏訪台11号墳等の前方後方墳が存在するが、いずれも全長40m級の規模である。この他Ｂ種横ハケから縦ハケへと変遷する円筒・朝顔形や、変形神獣鏡・直刀・鉄鏃・須恵器等を検出し、５世紀後葉に比定される持塚１号墳（円墳）が40m、横穴式石室を採用し、下層に６世紀末葉段階の竪穴住居を伴う郡本向原１号墳が33m（円墳？正確な所在地不明）、周溝確認調査が実施された諏訪台10号墳が径45m級の円墳である。前方後円墳では、横穴式石室と人物埴輪を検出し、６世紀後半代に位置付けられる山倉１号墳が全長45mで最大であり、これらの比較的大型墳は地点を大きく隔てて独立的に存在し、大型墳だけで群を形成しないことが市原台地に所在する古墳の特徴である。一方、終末期古墳では、諏訪台古墳群等で30m級の諏訪台21号墳を筆頭に中・小方墳が多量に検出されているが、径30mを大きく超える大型方墳は存在せず、この時期再び前方後方墳が採用されはじめる（諏訪台古墳群中に６基、東間部田古墳群中に１基が認められる）。諏訪台18号墳は全長39mの当期当域最大の前方後方墳で、上海上国造関連の六孫王原古墳との類似性が指摘できる。

註８　野澤誠一「銅釧・鉄釧からみた東日本の弥生社会」『長野県歴史館研究紀要第八号』2002

註９　『一般国道410号埋蔵文化財調査報告書―袖ヶ浦市荒久⑴遺跡・三箇遺跡―』（財）千葉県文化財センター1999

註10『高砂遺跡Ⅱ』（財）君津郡市文化財センター

第１表関連文献等

1　斉木　勝ほか「新皇塚古墳」「菊間遺跡」『市原市菊間遺跡』（財）千葉県都市公社1974

2　千葉県教育委員会「市原市菊間古墳群」『千葉県重要古墳群測量調査報告書』千葉県教育委員会1995

3　近藤　敏　　『市原市菊間手永遺跡』（財）市原市文化財センター調査報告書第23集1987

4　須田　勉　　「古代地方豪族と造寺活動」『古代探叢』早稲田大学出版部1981

「菊間廃寺」『千葉県の歴史資料編考古３奈良・平安時代』千葉県1998

5　浅利幸一　　『市原市大厩浅間様古墳調査報告書』（財）市原市文化財センター調査報告書第42集1999

6　三森俊彦ほか『市原市大厩遺跡』（財）千葉県都市公社1974

7　鈴木英啓　　『潤井戸西山遺跡』（財）市原市文化財センター調査報告書第９集1986

半田堅三　　『草刈尾梨遺跡』（財）市原市文化財センター調査報告書第集1986

8　萩原恭一　　「市原市潤井戸杉山古墳測量調査報告」『千葉県史研究第10号』千葉県2002

9　市原市教育委員会『千葉県市原市埋蔵文化財分布地図―北部編―改訂版』1998

10　祭り野遺跡・山王後古墳調査団『祭り野遺跡・山王後１号墳』祭り野遺跡・山王後古墳調査団1982

11　高橋康男　　『潤井戸小谷１号墳』（財）市原市文化財センター調査報告書第集1986

12　木對和紀　　「潤井戸上横峰遺跡」『平成元年度市原市内遺跡群発掘調査報告』市原市教育委員会1989

13　田所　真　　「潤井戸鎌之助遺跡」『平成10年度第14回市原市文化財センター遺跡発表会要旨』（財）市原市文化財センター1998

14　立野良道　　『上総志総論』1851

小沢次郎左衛門『上総町郷誌』1889

木下　良　　「上総国府の調査」『上総国府推定地歴史地理学的調査報告書』1999

大河直躬ほか『千葉県指定有形文化財　府中日吉神社本殿修理工事報告書』市原市教育委員会1987
宮本敬一　「能満・府中国府説について」『歴史散歩資料　市原市能満周辺の遺跡と文化財』市原市地方史研究連絡協議会2000
浅利幸一　「府中日吉神社」『歴史散歩資料市原市能満周辺の遺跡と文化財』市原市地方史研究連絡協議会2000
15 大川　清　「上総光善寺廃寺」『古代24』早稲田大学考古学会1957
須田　勉　「古代地方豪族と造寺活動」『古代探叢』早稲田大学出版部1981
「光善寺廃寺」『千葉県の歴史資料編考古３奈良・平安時代』1998
宮本敬一　「光善寺廃寺跡」『歴史散歩資料市原市能満周辺の遺跡と文化財』市原市地方史研究連絡協議会2000
16 田所　真　「市原郡衙関連遺跡（郡本遺跡）」『千葉県の歴史資料編考古３奈良・平安時代』1998
17 白井久美子ほか「草刈六之台遺跡」『千原台ニュータウンⅥ』（財）千葉県文化財センター調査報告書第241集1994
18 田井知二　「草刈１号墳」『千原台ニュータウン７』（財）千葉県文化財センター調査報告書第295集1997
19 白井久美子ほか「草刈六之台遺跡」『千原台ニュータウンⅥ』（財）千葉県文化財センター調査報告書第241集1994
20 永沼律朗　『市原市今富塚山古墳確認調査報告書』（財）千葉県文化財センター調査報告書第221集1991
21 千葉県教育庁文化課「姉崎天神山古墳」『千葉県記念物実態調査報告書』Ⅰ1980
千葉県教育委員会「市原市姉崎古墳群」『千葉県重要古墳群測量調査報告書』千葉県教育委員会1994
22 小久貫隆史　『市原市釈迦山古墳発掘調査報告書』千葉県教育委員会1995
千葉県教育委員会「市原市姉崎古墳群」『千葉県重要古墳群測量調査報告書』千葉県教育委員会1994
23 大場磐雄ほか　「上総国姉崎二子塚発掘調査概報」『考古学雑誌』37―３　日本考古学会1952
杉山晋作「あらたに発見された姉崎二子塚古墳の鏡」『史館』４号1974
千葉県教育委員会「二子塚古墳」『千葉県記念物実態調査報告書』Ⅱ1980
千葉県教育委員会「市原市姉崎古墳群」『千葉県重要古墳群測量調査報告書』千葉県教育委員会1994
24 上総山王山古墳発掘調査団『上総山王山古墳』市原市教育委員会1980
25 姉崎鶴窪古墳調査団『鶴窪古墳』市原市教育委員会2002
千葉県教育委員会「市原市姉崎古墳群」『千葉県重要古墳群測量調査報告書』千葉県教育委員会1994
26 石井則孝ほか　『千葉県市原市姉ヶ崎原一号墳発掘調査概報』千葉県教育委員会1971
27 中村恵次ほか　「前方後方墳の一考察」『古代』第55号早稲田大学考古学会1973
中村恵次ほか　『古墳時代の研究Ⅱ―市原市六孫王原古墳の調査―』古墳時代研究会1975
千葉県教育委員会「市原市姉崎古墳群」『千葉県重要古墳群測量調査報告書』千葉県教育委員会1994
28 毛尻遺跡調査会『千葉県市原市毛尻遺跡発掘調査報告書』毛尻遺跡調査会1983
半田堅三　『市原市姉崎六孫王原遺跡』（財）市原市文化財センター調査報告書第58集1997
29 大村　直　『市原市姉崎宮山遺跡・小田部向原遺跡・雲ノ境遺跡』（財）市原市文化財センター調査報告書第40集1991
30 高橋康男　『市原市姉崎東原遺跡』（財）市原市文化財センター調査報告書第37集1990
『市原市姉崎東原遺跡Ｂ地点』（財）市原市文化財センター調査報告書第51集1993
31 木對和紀　「姉崎上野合遺跡」『平成元年度市原市内遺跡群発掘調査報告』市原市教育委員会1989
32 田中清美　「姉崎妙経寺遺跡」『平成10年度第14回市原市文化財センター遺跡発表会要旨』（財）市原市文化財センター1998

33　木對和紀　『市原市椎津茶ノ木遺跡』（財）市原市文化財センター調査報告書第49集1992
鶴岡英一　「椎津茶ノ木遺跡」『市原市畑木小谷遺跡・椎津茶ノ木遺跡（第２次)』（財）市原市文化財センター調査報告書第73集2000
34　高橋康男　『市原市五霊台遺跡』（財）市原市文化財センター調査報告書第64集1998
35　高橋康男　「椎津中台遺跡」『平成10年度第14回市原市文化財センター遺跡発表会要旨』（財）市原市文化財センター1998
36　寺島　博　『片又木遺跡』（財）市原市文化財センター調査報告書第集1984
小橋健司　「片又木遺跡」『平成11年度第15回市原市文化財センター遺跡発表会要旨』（財）市原市文化財センター2000
桜井敦史　「片又木遺跡」『平成13年度第17回市原市文化財センター遺跡発表会要旨』（財）市原市文化財センター2002
37　杉山晋作ほか「海保大塚の測量調査」『関東地方における終末期古墳の研究』国立歴史民俗博物館1990
38　中村恵次ほか「海保古墳群」『市原市埋蔵文化財調査報告書』４市原市教育委員会1968
39　福間　元ほか『今富地区遺跡発掘調査報告書』市原市今富地区遺跡発掘調査会1982
須田　勉　「古代地方豪族と造寺活動」『古代探叢』早稲田大学出版部1981
40　高橋康男　「十五沢坊ヶ谷遺跡」『平成12年度県遺跡調査研究発表会要旨』2001
41　須田　勉　「上総国府の諸問題⑴―特にその所在地をめぐって―」『古代』61号早稲田大学考古学会1976
42　小熊吉蔵　「西上総における古街道と国府郡家所在地との関係」『史蹟名勝天然記念物』７―４　1933
43　今泉　潔　『市原市西野遺跡・白山遺跡・村上遺跡発掘調査報告書』（財）千葉県文化財センター1989
高梨俊夫　『市原市西野遺跡第１次発掘調査報告書』千葉県教育委員会1996
渡邊高弘　『市原市西野遺跡第２次発掘調査報告書』千葉県教育委員会1997
渡邊高弘　『西野遺跡』『千葉県の歴史資料編考古３奈良・平安時代』千葉県1998
牧野光隆　「西野遺跡群」『平成13年度第17回市原市文化財センター遺跡発表会要旨』（財）市原市文化財センター2002
44　桜井敦史　「分目要害遺跡」『千葉県の歴史資料編考古中世１』千葉県1998
「分目要害遺跡」『平成５年度市原市文化財センター年報』（財）市原市文化財センター1997
45　田中清美ほか『釜神遺跡』（財）市原市文化財センター調査報告書第76集2002
46　木對和紀　『市原市安須古墳群』（財）市原市文化財センター調査報告書第50集1993
47　田中清美ほか『新生荻原野遺跡』（財）市原市文化財センター調査報告書第59集1998
48　千葉県教育委員会『千葉県重要古墳群測量調査報告書―市原市安須・武士古墳群ほか―』千葉県教育委員会1996
49　田中新史　「出現期古墳の理解と展望―東国神門五号墳の調査と関連して―」『古代』第77号早稲田大学考古学会1984
50　田中新史　「市原市神門四号墳の出現とその系譜」『古代』第63号早稲田大学考古学会1977
51　浅利幸一　「神門三号墳」『昭和62年度市原市文化財センター年報』（財）市原市文化財センター1987
52　米田耕之助　「根田遺跡」『昭和60年度市原市文化財センター年報』（財）市原市文化財センター1985
53　滝口　宏　『上総国分寺』早稲田大学出版部1973
須田　勉　「上総国分僧寺跡」『千葉県の歴史資料編考古３奈良・平安時代』千葉県1998

54　宮本敬一　「最近の調査成果から見た上総国分尼寺の伽藍と付属諸院」『月間歴史教育』30～33東京法令出版1981
「上総国分寺の成立―尼寺の造営過程を中心に―」『東海道の国分寺―その成立と変遷―』栃木県教育委員会1994
「上総国分尼寺跡」千葉県の歴史資料編考古３奈良・平安時代』千葉県1998

3　整理の方法

⑴　グリッド

今回の整理対象地は、調査年度と調査担当者を変え、過去３ヵ年にわたり調査が行われてきた遺跡である。整理報告にあたり図面と遺物を紐解いてみたところ、小グリッドは１ｍと５ｍ、大グリッドはそれぞれ５・10・20ｍピッチで設定され、調査年度毎にその名称とピッチが異なる調査グリッドであることが判明した。そこで、各調査年度のグリッド一括で取り上げられた遺物の注記番号を確認し、その最小単位を調べたところ、それに該当するグリッドは１ヶ所で、そのピッチは５ｍであった。残りのグリッド一括遺物は全て20ｍピッチの大グリッド一括として取り上げられていたため、今回の報告に際し大グリッドを20ｍ、小グリッドを５ｍで統一することとした。このことはピッチ上では昭和59年度調査グリッドと一致する。しかし、同グリッド名は東から西に向かいアルファベットでＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ…、南から北に向かってアルファベットでＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ…と命名されており、一目しただけではどちらがどっちの方向なのか戸惑ってしまうことから、新たに東から西に向かいアルファベットＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ…、北から南に向かい数字１・２・３・４…という型式を採用し、将来的に報告されるであろう北側に隣接する御林跡遺跡本体のことも考慮し、遺跡全体を網羅する形で再配置した。

⑵　遺物

検出された遺物は整理作業の過程において、各遺構ごとに種別及び総数と総重量の把握に努めた。その結果、総数65,919点、重量にして814,926.2ｇの土器片と11,880点508,617.6ｇの礫・石器を検出し、詳細については第２表にまとめた。早期条痕文系土器6,461点、重量112,216.7ｇ、弥生土器40,923点、重量401,260.9ｇ、土師器16,861点、重量269,116.1ｇが最も多く出土した土器である。

⑶　遺構番号について

遺構番号については、調査年度ごとにそれぞれの調査担当者によって付されていた。幸い調査年度が異なるため、注記上での混同はなかったが、遺構番号そのものが重複するため、混乱を避けるために新番号を付し、第３表の新旧番号一覧表を作成した。作成にあたり、新番号と市原市埋蔵文化財分布地図の辺田古墳群の古墳番号とが同一となることが望ましかったのだが、他の遺構番号との兼合いや紙面の都合上不可能であった。また、整理後に結果的に古墳や墳丘墓と判明しても、古墳の調査たる墳丘測量図のある古墳と無い古墳とでは、報告順で墳丘測量図が存在した古墳を優先した。

その結果、墳丘測量図が存在した上層の古墳については、東から西に向かい遺構番号を付し、逆に墳丘が存在しなかった古墳については、他の遺構同様、西から東に向かって遺構番号が付される結果となった。なお、報告に際し、市原市埋蔵文化財分布地図上で古墳番号の付されている古墳については、その番号を報告書掲載遺構番号の後に記載し、分布地図の古墳番号と整合するよう対処した。

第２表　辺田古墳群・御林跡遺跡遺構別遺物集計表

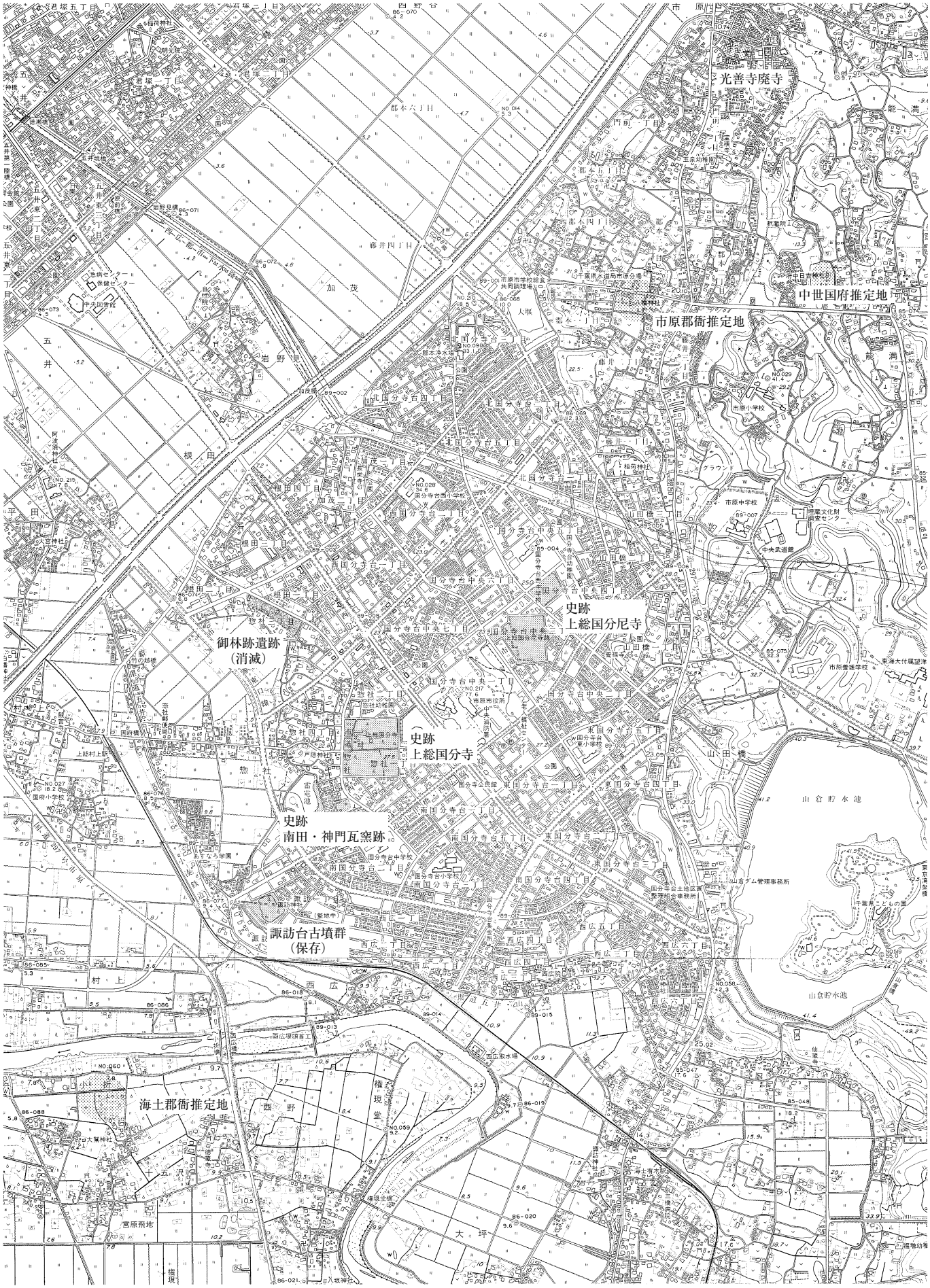
	土師器	重量	須恵器	重量	弥生土器	重量	手づくね	重量	早期撚糸紋系	重量	早期条痕文	重量	前期繊維	重量	その他縄文	重量	陶器	重量	中近世土器	重量	土器合計	重量	礫	重量	石器	重量	礫・石器合計	重量	玉類	重量	金銅器	重量	土製品	重量
1	2876	62199.8	14	258.5	7867	60734.3			186	2167.3	349	3986.3	51	746.2	78	4052.6	94	2077.3	12	517.0	11527	136739.3	3402	136187.7	162	4161.1	3564	140348.8	1	1.1	10	1110.8	42	2702.0
2	1341	17408.0	15	1020.0	1872	14795.0			5	95.0	47	600.0	2	30.0	2	45.0	2	30.0			3286	34023.0	131	6950.0	15	100.6	146	7050.6			3	8.4	16	1720.0
3	722	6800.0			561	3995.0	1	10.0	3	40.0	14	125.0							1	40.0	1302	11010.0	23	694.0	4	322.5	27	1016.5			3	40.3	5	825.0
4	44	590.0			122	800.0					5	50.0	3	50.0							174	1490.0	6	290.0			6	290.0					1	70.0
5	2416	30902.0	32	1235.0	3950	36506.0	2	120.0	17	256.0	171	2970.0	21	385.0	1	78.0	2	18.0	1	40.0	6613	72510.0	159	9000.0	10	2204.4	169	11204.4			2	40.2	6	396.0
6	588	6655.0	3	20.0	89	3325.0	6	90.0			2	30.0							1	25.0	689	10145.0	53	2480.0			53	2480.0					1	120.0
7	134	1827.5			4	178.6					134	2282.2			1	22.8					273	4311.1	64	2970.0			64	2970.0						
8	2	230.3	4	475.0																	6	705.3												
9	1	2.8									18	179.6									19	182.4	1	49.6			1	49.6						
10	9	47.8									12	160.1									21	207.9	5	220.0			5	220.0						
11	1	2.5			1	151.6					5	114.7									7	268.8	7	540.0			7	540.0						
12	1	4.0									9	113.3									10	117.3	4	80.0			4	80.0						
13					11	101.5					25	1772.2									36	1873.7	7	548.9			7	548.9						
14	78	861.2			122	1439.0	1	99.1	1	7.1	253	27492.8									455	29899.2	86	2860.9			86	2860.9					1	220.0
15					15	125.1					16	117.2									31	242.3	1	30.0	1	4.4	2	34.4						
16	23	635.0			36	130.0					5	45.0									64	810.0												
17	82	1727.8			10	112.1					37	720.7									129	2560.6	28	1244.6			28	1244.6					1	117.5
18					230	2115.6					184	2153.8	2	24.8	1	5.2					417	4299.4	76	2051.7			76	2051.7						
19					36	416.9			1	3.8	46	512.0	1	30.4							84	963.1	26	848.9			26	848.9						
20					248	3534.8			1	9.8	291	3714.3									540	7258.9	146	6204.9	3	108.5	149	6313.4						
21	11	552.9			192	1390.0			4	44.6	387	5183.2			1	21.8					595	7192.5	242	12318.6	1	62.2	243	12380.8						
22	5	76.2			155	1673.4					225	2855.8									385	4605.4	97	4068.8			97	4068.8						
23	1	170.0			72	535.0					41	556.1									114	1261.1	25	1200.0			25	1200.0						
24	4	75.0			86	599.0					16	155.0			1	30.0					107	859.0	20	680.0			20	680.0						
25																																		
26																																		
27					133	859.2					90	985.7			2	64.5					225	1909.4	60	2874.6	1	100.0	61	2974.6					1	170.0
28	124	3123.1			235	1879.9					202	2700.3									561	7703.3	174	3967.0			174	3967.0						
29					101	870.0															101	870.0												
30	6	261.7			70	1240.5					138	1838.6									214	3340.8	22	1035.6	1	80.0	23	1115.6						
31	110	7620.0			25	285.2					40	722.4									175	8627.6	30	2043.1	1	95.0	31	2138.1						
32	3	99.6			148	2846.6					59	1014.5	1	22.0							211	3982.7	68	4111.3	2	308.5	70	4419.8						
33	390	8810.6			201	2240.0	1	39.0			102	1515.0									694	12604.6	127	5215.0	3	164.7	130	5379.7					4	1407.8
34					13	78.3					6	61.7									19	140.0	8	448.5			8	448.5						
35					46	446.0			1	10.0	17	240.0									64	696.0	12	500.0	1	180.0	13	680.0						
36					96	4645.0					10	140.0									106	4785.0	10	195.0			10	195.0						
37					5	20.0															5	20.0	2	50.0			2	50.0						
38	1	5.0			11	85.0			1	20.0	9	173.0									22	283.0	4	92.0			4	92.0						
39					126	943.4					280	3365.4									406	4308.8	105	4125.0	2	40.6	107	4165.6						
40					98	771.2					76	820.3	1	9.3							175	1600.8	53	1413.0			53	1413.0						
41					107	667.5					76	750.0									183	1417.5	54	1938.0			54	1938.0						
42	68	678.4	1		19	358.1					9	119.6									97	1156.1	32	1669.8			32	1669.8						
43	156	949.2	1	5.0	350	1501.9					116	894.9									623	3351.0	76	2334.6	1	2.5	77	2337.1						
44	220	3205.8			19	229.0					15	200.0									254	3634.8	19	530.0			19	530.0					1	285.0
45					30	275.0					42	715.0									72	990.0	2	20.0			2	20.0						
46	23	213.3			244	1727.4					27	400.0									294	2340.7	31	1624.9			31	1624.9						
47																																		
48											11	197.6									11	197.6	3	110.0			3	110.0						
49					169	5566.3					15	193.0									184	5759.3	15	680.0			15	680.0						
50					2	670.0					1	9.3									3	679.3	9	350.0			9	350.0						
51					1	950.0															1	950.0												

	土師器	重量	須恵器	重量	弥生土器	重量	手づくね	重量	早期撚糸紋系	重量	早期条痕文	重量	前期繊維	重量	その他縄文	重量	陶器	重量	中近世土器	重量	土器合計	重量	礫	重量	石器	重量	礫・石器合計	重量	玉類	重量	金銅器	重量	土製品	重量
52					7	60.0					7	110.0									14	170.0	37	1470.0			37	1470.0						
53	81	1879.0			105	740.0					38	470.0									224	3089.0	22	970.0			22	970.0						
54	41	260.6			26	190.0			2	8.0	74	923.1									143	1381.7	34	1544.2	2	410.0	36	1954.2						
55	13	2809.0			37	280.0					12	210.0									62	3299.0	3	290.0	1	1.0	4	291.0						
56	10	66.9	1		6	60.0					4	54.7									21	181.6	9	240.0			9	240.0						
57	31	328.6	2		6	68.0					16	222.0									55	618.6	11	510.0			11	510.0						
58					128	3390.0					34	420.0									162	3810.0	5	340.0			5	340.0						
59					193	1390.0					20	240.0									213	1630.0	11	580.0			11	580.0						
60	611	14781.0			57	1108.0	2	117.0			101	1106.0					5	385.0			776	17497.0	56	2385.0	2	540.0	58	2925.0			1	15.3	5	310.0
61	35	340.0			334	5665.0					49	715.0	1	40.0							419	6760.0	20	805.0			20	805.0						
62																																		
63	283	2240.0	1	5.3	67	1300.0					15	200.0									366	3745.3	28	1801.2	1	20.7	29	1821.9					1	70.0
64	60	250.0			25	274.0					5	45.0					1	44.0			91	613.0	5	108.0			5	108.0					1	25.0
65	1	162.0			149	811.0					21	240.0									171	1213.0	23	1577.0			23	1577.0						
66	1	5.0			8	40.0															9	45.0											1	11.0
67	44	290.0			11	70.0					1	25.0									56	385.0	10	350.0			10	350.0						
68	175	1410.0	2	10.0	20	180.0					3	25.0	2	15.0							202	1640.0	15	520.0	1	10.0	16	530.0						
69	10	75.0			27	190.0					1	5.0									38	270.0	2	70.0			2	70.0			20	100.8		
70																																		
71	29	190.0			21	180.0					5	90.0									55	460.0	8	460.0			8	460.0						
72	705	11110.0			51	505.0					26	280.0									782	11895.0	69	2750.0	1	75.0	70	2825.0						
73																							7	470.0			7	470.0						
74	73	365.0			130	1025.0			4	40.0	8	85.0									215	1515.0	39	1190.0			39	1190.0						
75	1	20.0			209	1790.0					12	215.0									222	2025.0	7	270.0			7	270.0						
76	18	290.0	1		117	845.0			5	20.0	9	85.0									150	1240.0	41	2165.0			41	2165.0					1	150.0
77	25	280.0			3	55.0			2	30.0	2	25.0									32	390.0	15	1110.0			15	1110.0						
78																																		
79	716	7736.0	4	310.0	363	3126.0					13	30.0									1096	11202.0	28	1210.0	1	60.0	25	1090.0			1			
80	19	252.0			142	1155.0					178	1750.0									339	3157.0	15	900.0	2	245.9	17	1145.9						
81					216	2207.2					11	117.6									227	2324.8	15	427.8	1	40.0	16	467.8						
82	867	13644.0			102	1223.0			3	30.0	26	350.0									998	15247.0	155	3111.0	2	80.0	157	3191.0					3	1182.0
83	92	1385.0			249	1740.0			2	10.0	24	295.0									367	3430.0	56	2475.0			56	2475.0						
84	53	780.0			15	115.0					4	38.0									72	933.0	6	510.0			6	510.0						
85	67	700.0			53	3655.8					3	30.0									123	4385.8	2	145.0			2	145.0					1	64.3
86	9	76.0			15	89.0					4	39.0									28	204.0	2	90.0			2	90.0						
87																							4	220.0			4	220.0					1	170.0
88					5	30.0															5	30.0												
89																																		
90																																		
91					23	1340.0															23	1340.0	5	410.0			5	410.0						
92					90	1220.0			1	10.0											91	1230.0												
93	56	360.0			22	209.0					1	5.0			1	9.0					80	583.0	6	258.0			6	258.0						
94	5	55.0			135	2025.0					1	12.0	1	10.0							142	2102.0	22	1880.0			22	1880.0						
95					13	1270.0															13	1270.0												
96	10	100.0			169	1663.0	1	10.0	3	30.0	1	10.0									184	1813.0	10	810.0			10	810.0						
97					6	103.0															6	103.0												
98	2	10.0	2	72.0	53	280.0															57	362.0	26	1010.0	1	4.0	27	1014.0						
99	1	15.0																			1	15.0												
100	59	1070.0			7	50.0					2	45.0									68	1165.0												
101					2	95.0															2	95.0												
102					57	490.0					1	20.0									58	510.0	2	15.0			2	15.0						
103																	2	3460.0			2	3460.0												

	土師器	重量	須恵器	重量	弥生土器	重量	手づくね	重量	早期燃糸紋系	重量	早期条痕文	重量	前期繊維	重量	その他縄文	重量	陶器	重量	中近世土器	重量	土器合計	重量	礫	重量	石器	重量	礫・石器合計	重量	玉類	重量	金銅器	重量	土製品	重量
104	17	210.0			650	4925.0					7	80.0									674	5215.0	18	1190.0			18	1190.0					9	45.0
105	54	390.0			1	5.0					1	30.0									56	425.0			1	5.7	1	5.7						
106	598	6160.0	2	80.0	224	1630.0					10	80.0			3	30.0					837	7980.0	14	540.0			14	540.0						
107																																		
108	12	110.0			19	125.0															31	235.0												
109					99	804.1									2	18.8					101	822.9	4	185.8			4	185.8						
110			1	25.0	367	3675.0					1	10.0									369	3710.0	11	391.0			11	391.0						
111																																		
112	8	39.0			79	829.0	1	10.0	2	20.0											90	898.0	12	383.0			12	383.0						
113																																		
114	107	1008.0			70	442.0			2	25.0	4	30.0									183	1505.0	4	230.0	1	390.0	5	620.0						
115	15	172.0	1	12.0	76	461.0					12	168.0									104	813.0	9	423.0			9	423.0			1	1.3		
116					24	140.0			1	10.0	3	30.0									28	180.0	6	480.0			6	480.0						
117					33	237.0			1	5.0	1	10.0									35	252.0	1	30.0			1	30.0						
118	5	35.0			146	1586.0					3	35.0									154	1656.0	6	225.0			6	225.0						
119	361	6840.0			683	5916.0			4	30.0	47	470.0							3	80.0	1098	13336.0	58	980.0	2	115.0	60	1095.0	1	0.5				
120	10	110.0			491	10943.0	1	80.0			4	30.0									506	11163.0	4	90.9	1	14.7	5	105.6						
121	1	33.0			109	882.0					9	118.0									119	1033.0	4	250.0	2	20.0	6	270.0						
122																																		
123	2	60.0			28	230.0															30	290.0	2	60.0	1	10.0	3	70.0						
124																																		
125					12	83.5															12	83.5												
126																																		
127	19	267.0	1	8.0	13	257.0					8	65.0									41	597.0	11	275.0			11	275.0						
128	23	230.0			377	2495.0					2	20.0			2	30.0					404	2775.0	78	2240.0	1	12.4	79	2252.4						
129																																		
130	193	3770.0	1	8.0					5	40.0	15	150.0					3	30.0			217	3998.0	21	967.1			21	967.1					1	10.0
131	1	15.0			461	2520.0															462	2535.0	2	35.0	3	24.0	5	59.0						
132																																		
133	3	31.0			66	542.0															69	573.0	1	300.0			1	300.0						
134					132	1776.6															132	1776.6	41	1662.6			41	1662.6						
135																																		
136																																		
137	398	5155.0	1	15.0	804	5238.0	2	60.0	2	20.0	20	315.0					6	70.0	1	15.0	1234	10888.0	32	860.0	1	340.0	33	1200.0			1	4.8	2	55.0
138	8	85.0			157	875.0					2	20.0									167	980.0	13	185.0	1	20.1	14	205.1						
139																																		
140	13	65.0			1	11.0															14	76.0											3	600.0
141																																		
142																																		
143					12	106.2															12	106.2												
144																																		
145					17	174.6															17	174.6												
146	1	8.0			69	458.0					2	20.0									72	486.0	8	213.8			8	213.8						
147	1	20.0			17	240.0					6	170.0									24	430.0	6	380.5			6	380.5						
148	1	8.3			62	238.7															63	247.0												
149	54	1142.0			294	2527.0					1	25.0									349	3694.0	20	780.0	2	542.0	22	1322.0						
150					28	643.0					1	15.0									29	658.0	4	195.0			4	195.0						
151					9	92.0															9	92.0												
152					81	972.0															81	972.0												
153	1	90.0			35	2480.0															36	2570.0	6	370.0			6	370.0						
154																																		
155					181	1545.0															181	1545.0	6	465.0	1	35.0	7	500.0						

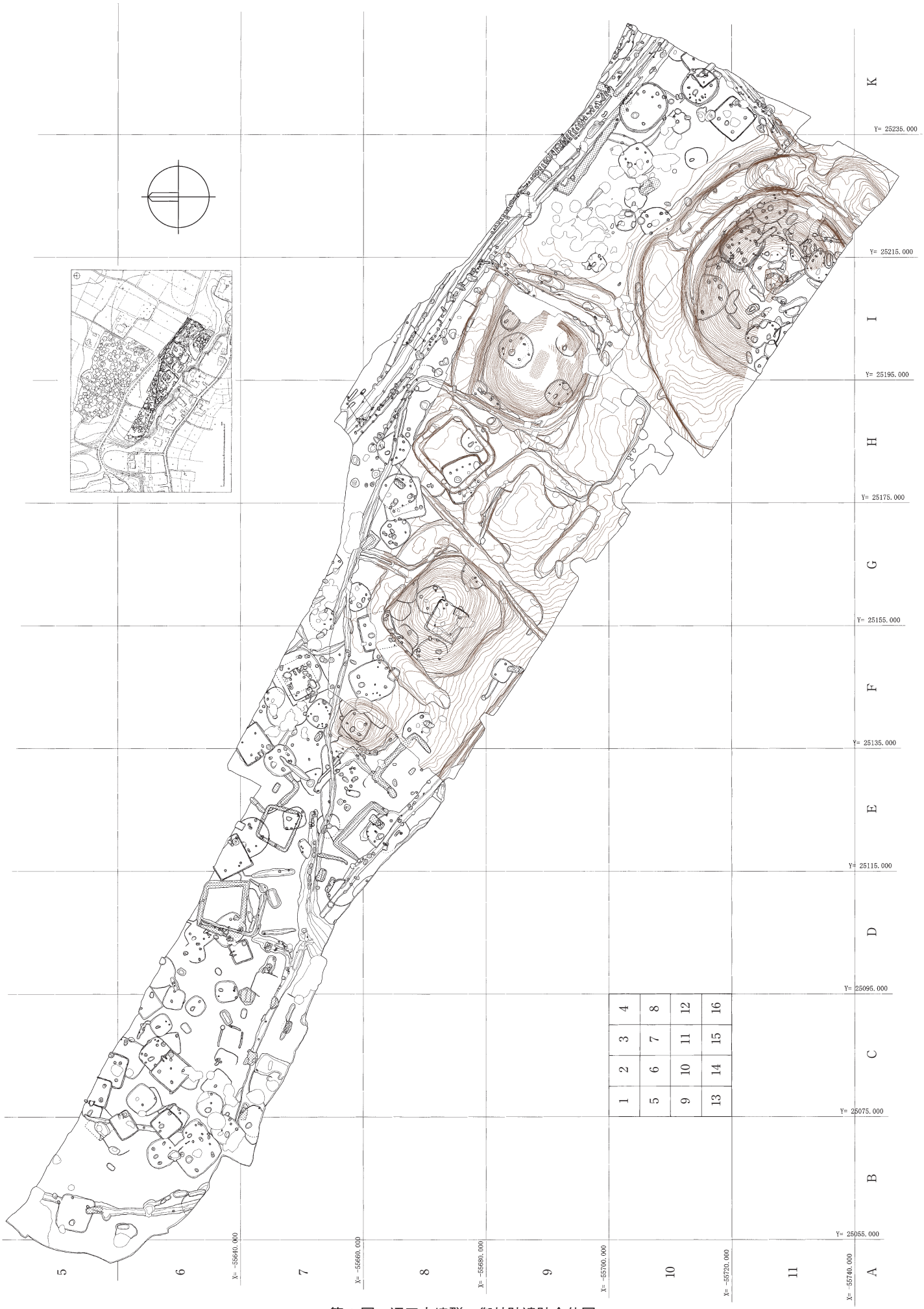
	土師器	重量	須恵器	重量	弥生土器	重量	手づくね	重量	早期撚糸紋系	重量	早期条痕文	重量	前期繊維	重量	その他縄文	重量	陶器	重量	中近世土器	重量	土器合計	重量	礫	重量	石器	重量	礫・石器合計	重量	玉類	重量	金鎌器	重量	土製品	重量
156					62	610.0					1	22.0									63	632.0												
157					6	60.0															6	60.0	2	60.0			2	60.0			1	9.1		
158																																		
159					10	854.0															10	854.0	1	70.0			1	70.0						
160	19	188.5	1	15.0	126	820.0			1	6.2							1	4.6			148	1034.3	34	1869.8			34	1869.8					2	154.0
161	3	57.0			16	70.0															19	127.0	2	30.0			2	30.0						
162	1	10.0			371	2415.7			1	19.0					1	8.0					374	2452.7	12	372.0			12	372.0						
163	1	12.2			681	6584.6															682	6596.8	4	56.5	1	240.0	5	296.5			1	2.0		
164																							2	90.0	1	150.0	3	240.0						
165					217	2231.3			3	20.0											220	2251.3	5	105.0			5	105.0						
166					47	337.9			2	2.0											49	339.9	8	391.0			8	391.0						
167	1	15.0			62	360.0			1	10.0					1	2.0					65	387.0	4	160.0			4	160.0						
168					26	585.0															26	585.0	5	470.0			5	470.0						
169					122	2280.0															122	2280.0	4	100.0	1	30.0	5	130.0						
170					57	445.0			1	10.0	2	20.0									60	475.0	14	210.0			14	210.0					1	60.0
171																																		
172	416	5512.4			93	2058.3			22	195.2	5	25.8									536	7791.7	16	450.0	1	3.8	17	453.8					2	75.8
173																																		
174	2	45.0			616	6045.0			10	100.0							2	25.0			630	6215.0	62	2560.0			62	2560.0						
175					40	425.0															40	425.0	6	220.0			6	220.0					1	190.0
176																																		
177																																		
178					5	35.0			1	20.0											6	55.0			1	1.3	1	1.3						
179	77	5729.1	1	30.0	22	107.4			6	35.4	1	4.9									107	5906.8	4	60.9			4	60.9					19	1489.0
180	19	397.2			376	3763.4			14	154.3	1	44.4	4	46.3	1	9.6					415	4415.2	45	1662.7			45	1662.7						
181					18	145.0															18	145.0	1	7.6			1	7.6						
182					9	38.0			1	10.0	6	90.0									16	138.0	23	390.0			23	390.0						
183					321	3394.5			3	30.0	13	140.0									337	3564.5	47	765.0	4	2.1	51	767.1						
184					391	3769.5			51	702.7	31	664.9	105	986.1	4	99.2					582	6222.4	423	14245.0	17	178.1	440	14423.1						
185					20	453.0					13	285.0									33	738.0	7	355.0			7	355.0	22	1.7551				
186					268	4104.5			11	145.0	5	90.0	26	290.0	2	60.0					312	4689.5	277	9640.0	8	26.7	285	9666.7						
187					65	3929.0					3	50.0	2	30.0							70	4009.0									1	2.0		
188					32	1305.0															32	1305.0	11	615.0			11	615.0						
189					306	6347.4			39	402.0	82	1076.6	12	145.0	12	248.0					451	8219.0	253	8675.7	11	364.2	264	9039.9	21	3.5189				
190					4	40.0					2	20.0									6	60.0	1	25.0			1	25.0						
191																																		
192					10	90.0															10	90.0	10	200.0			10	200.0						
193					1003	10100.7			16	150.0	40	320.0	4	50.0	12	230.0					1075	10850.7	127	4599.4	10	604.8	137	5204.2					2	15.2
194					44	210.0			1	6.0			1	22.0							46	238.0	9	404.5			9	404.5						
195					1881	17798.5			85	644.0	53	440.0	68	830.0	27	165.7					2114	19878.2	377	13055.7	7	20.4	384	13076.1						
196					19	535.0															19	535.0	3	50.0			3	50.0			1	0.7		
197					59	987.8			6	103.4	3	68.1	3	30.0	1	10.0					72	1199.3	5	193.6	1	370.0	6	563.6						
198																																		
199	1	15.0			1041	8743.0			54	740.0	51	521.0	39	487.0	31	493.0					1217	10999.0	261	9000.0	6	10.8	267	9010.8	15	2.2563	5	43.1		
200					1	140.0															1	140.0												
201					242	2850.0			26	295.0	2	50.0	14	170.0	14	280.0					298	3645.0	64	3135.8	3	42.1	67	3177.9						
202					295	4531.5			12	75.0	23	250.0	2	30.0	34	560.0					366	5446.5	144	4094.8	4	377.6	148	4472.4						
203					75	819.0			7	60.0	9	110.0	5	90.0	17	215.0					113	1294.0	25	541.0			25	541.0						
204	3	40.0			29	1312.0			2	20.0					7	130.0					41	1502.0	107	2832.3	4	60.9	111	2893.2						
205	1	40.0			88	1150.0			4	40.0	14	105.0	2	40.0	18	595.0					127	1970.0	101	3565.0	4	211.4	105	3776.4						
206					8	1170.0			2	22.0											10	1192.0	13	255.4	4	61.6	17	317.0	36	1.3277	5	49.8		
207																																		

	土師器	重量	須恵器	重量	弥生土器	重量	手づくね	重量	早期燃糸紋系	重量	早期条痕文	重量	前期繊維	重量	その他縄文	重量	陶器	重量	中近世土器	重量	土器合計	重量	礫	重量	石器	重量	礫・石器合計	重量	玉類	重量	金銅器	重量	土製品	重量
208					42	378.8			2	20.0	1	10.0									45	408.8	7	160.0			7	160.0						
209					31	270.0			2	10.0	3	30.0	3	30.0							39	340.0	10	240.0			10	240.0						
210	1	8.0			299	2561.3			14	95.0	7	95.0	4	27.0	11	122.3					336	2908.6	36	829.0			36	829.0						
211	11	559.7	1	135.0	452	3588.7					55	440.0			3	134.3					522	4857.7	166	8470.5	2	155.1	168	8625.6			1	145.9	5	330.8
212	25	95.0			36	385.0					58	738.0			1	20.0					120	1238.0	20	630.0			20	630.0						
213	6	37.0			12	80.0					4	69.0									22	186.0	7	520.0			7	520.0						
214	60	765.0	1	20.0	62	480.0					2	35.0					1	10.0			126	1310.0	49	2985.0			49	2985.0						
215	101	1328.0	1	5.0	740	4882.0			1	5.0	17	260.0									860	6480.0	102	3555.0	1	80.0	103	3635.0						
216																																		
217																																		
218																																		
219																																		
220																																		
221																																		
222	1	46.0			5	57.0															6	103.0	1	380.0			1	380.0						
223	8	100.0	2	28.0	13	80.0											15	145.0			38	353.0	49	2369.0			49	2369.0					8	1038.0
224	8	110.0	3	165.0	111	908.0					1	10.0			1	10.0	20	405.0	1	15.0	145	1623.0	89	4950.0	1	8.0	90	4958.0					18	1574.0
225																																		
226					2	20.0			2	38.0											4	58.0	8	440.0			8	440.0						
B5	30	430.0			115	2100.0					194	3851.0									339	6381.0	87	6575.0			87	6575.0						
B6	77	1130.0	1	20.0	348	2795.0					489	7295.0									915	11240.0	402	19690.0	3	245.0	405	19935.0			2	62.7		
C6	92	1360.0	3	20.0	524	5060.0			2	20.0	445	7367.0			1	12.0					1066	13827.0	431	21020.0	4	76.7	435	21096.7						
C7	47	495.0			292	2060.0			1	20.0	195	2725.0			1	30.0					536	5330.0	209	9820.0	4	3842.9	213	13662.9						
D6	2	40.0			23	190.0					24	300.0									49	530.0	3	60.0			3	60.0						
D7	97	2100.0	4	50.0	270	2455.0					32	565.0									399	5120.0	319	28830.0	2	601.5	321	29431.5					2	70.0
E7	31	445.0	4	35.0	212	1530.0			10	100.0	10	145.0									267	2255.0	86	5585.0			86	5585.0						
E8	38	360.0			293	1820.0			1	20.0	3	40.0									335	2240.0	27	1650.0			27	1650.0					2	160.0
F7	46	840.0			57	650.0			3	40.0	2	30.0									108	1560.0	31	2710.0			31	2710.0						
F8	19	170.0	2	15.0	84	635.0					21	220.0	1	25.0							105	820.0	13	330.0	1	25.0	14	355.0						
G7	2	120.0			13	170.0															15	290.0	1	100.0			1							
I8	11	175.0			46	505.0					1	10.0			2	40.0					60	730.0	16	1160.0			16	1160.0			1	2.9		
I9					6	220.0															6	220.0	3	250.0			3	250.0						
J9					20	150.0			1	20.0	1	20.0									22	190.0	23	1350.0	2	200.0	25	1550.0						
J10					28	400.0			3	65.0											31	465.0	13	556.0	1	30.0	14	586.0						
K10	3	48.0			35	220.0			4	80.0	2	35.0									44	383.0	19	670.0			19	670.0						
K11	6	100.0			6	40.0															12	140.0	4	130.0			4	130.0						
一括	42	840.0			112	1220.0			2	40.0	10	160.0									154	2060.0	19	1120.0	1	100.0	20	1220.0						
一括	4	20.0			121	1080.0									1	20.0					126	1120.0	4	160.0			4	160.0						
合計	16861	268906.0	114	4096.8	40946	401361.9	18	635.1	688	7565.8	6461	112216.7	375	4611.1	282	7887.8	154	6703.9	20	732.0	65727	809326.0	11529	489542.7	351	19074.9	11867	507939.6	96	10.5	61	1645.7	170	15882.4



第 6 図　現地形と保存遺跡・周辺の重要遺跡（1/5,000）

第７図　御林跡遺跡全体図（１）



第 8 図　辺田古墳群・御林跡遺跡全体図

第９図　辺田古墳群・御林跡遺跡遺構配置図　１

第10図　辺田古墳群・御林跡遺跡遺構配置図　2

第11図　辺田古墳群・御林跡遺跡遺構配置図　3

第３表　辺田古墳群・御林跡遺跡　新旧番号一覧表

新番号	旧番号	性　格	時　期	規　　模	主　軸	ピット（深さ）	炉・カマド	壁　　高	周溝・溝	そ　の　他	
1	セ29根田１号墳	古墳	古墳前期	東西外径51.8m　内径32.2m　盛土高3.65m	N-59°-W				南側は未調査。	埋葬施設２個所。長軸長に平行する１基より素紋鏡・管玉・素環頭太刀・太刀・短剣・槍・槍鉋を検出。墳頂部埋葬施設上に底部穿孔壷を配置する。円墳。	市原市遺跡分布地図724-1辺田１号墳（別名根田６号墳）
2	059根田２号墳 セ68　K１	古墳	古墳前期	東西外径28.6m　内径19.6m　南北外径32.3m 内径15.2　盛土高(3.0)m	N-９°-W				西側周溝中央部にブリッジを有し、南側周溝は緩くなだらかに立ち上がる。	埋葬施設は無墓壙木棺直葬。出土遺物なし。周溝内より当該期の土師器検出。墳頂部は御神木移転のため未調査。	市原市遺跡分布地図724-２
3	セ68　K２	古墳	古墳前期	東西外径17.7m　内径12.3m　南北外径18.8m 内径13.2　盛土高(未確認)							平成10年追加724-11
4	セ68　K３	古墳	古墳前期	東西外径11.0m　内径8.5m　南北外径12.3m 内径9.3m　盛土高(未確認)							平成10年追加724-10
5	セ68　K４	古墳	古墳前期	東西外径26.0m　内径18.8m　南北外径25.0m 内径19.3m　盛土高1.70m					南側に位置する122（溝Ａ）号遺構は、本墳の周溝の可能性が高い。		市原市遺跡分布地図724-３
6	059　１号塚 0591044	墳丘墓	弥生終末	盛土南北外径7.96m　東西径５m以上					断面図に周溝状の落ち込みあり。	盛土中より出土した最新土師器は９世紀代。下層には調査時遺物のみ検出された1044住居跡（平面プランなし）が存在。	
7	059　1125	住居跡	弥生	長径5.80m　短径5.60m　深さ40.4cm	N-77°-W	P120.1cm　P238.0cm	長軸N-45°-W。 長軸長1.00cm 深さ４cm	東40.4cm　西18.5cm 南29.4cm　北26.2cm	無し		
8	059　1126	土壙墓	古墳終末	長径(2.70)m　短径1.10m　深さ20.8cm	N-９°-W			東14.1cm　西20.8cm		破線は調査者の所見。	
9	059　1128	土坑	不明	長径1.46m　短径0.81m　深さ15.2cm	N-39°-E			東14.0cm　西 8.9cm 南 5.5cm　北15.2cm			
10	059　1127	土坑	不明	長径1.96m　短径0.82m　深さ22.8cm	N-１°-E			東22.8cm　西22.8cm 南19.6cm　北18.5cm			
11	059　1130	住居跡	弥生	深さ5.0cm				北5.0cm	無し		
12	059　1118	住居跡	不明			Ｐ１　74.2cm	未検出	西3.5cm　北6.1cm		Ｐ１は調査時に遺構番号を付されていないが、底面も平坦であり、土坑である可能性が高い。	
13	059　1124	土坑	縄文早期	長径2.80m　短径1.88m　深さ56.6cm	N-60°-E	Ｐ１　6.9cm		東74.1cm　西41.5cm 南39.2cm　北30.5cm			
14	059　1117	住居跡	古墳後期	長径4.36m　短径3.48m　深さ52.0cm	N-57°-E	Ｐ１　100.0cm	東カマド。火床なし	東52.0cm　西27.0cm 南39.8cm　北21.5cm	東7.6cm　西5.3cm 南4.0cm	Ｐ１は貯蔵穴と推定される。213号溝に切られる	
15	059　1120	住居跡	弥生	長径3.14m　深さ17.6cm	N-82°-W		長軸N-53°-W。 長軸長108.0ccm 深さ7.8cm	南17.6cm　北4.7cm	無し	17号住居に切られる	
16	059　1121	住居跡	古墳前期	長径(4.26)m　短径(3.74)m　深さ6.6cm	N-46°-E		未検出	南6.6cm			
17	059　1119	住居跡	古墳後期	長径4.56m　深さ27.1cm	N-13°-E	Ｐ１　63.4cm　Ｐ２　49.4cm Ｐ３　41.5cm　Ｐ４　0.5cm	西カマド	東0.3cm　南27.1cm	東1.9cm　西2.0cm 南7.0cm	Ｐ３は貯蔵穴と推定される。	
18	059　1110	住居跡	弥生	長径4.52m　短径4.20m　深さ32.2cm	N-42°-W	Ｐ１　19.0cm　Ｐ２　54.4cm	長軸N-38°-W。 長軸長56.0cm 深さ1.5cm	東32.2cm　西14.1cm 南 0.7cm　北30.1cm	無し		
19	059　1123	住居跡	弥生	短径(4.04)m　深さ5.7cm	N-30°-W			東11.9cm　西5.7cm 南11.9cm	無し		
20	059　1115	住居跡	弥生	長径4.96m　短径4.52m　深さ58.0cm	N-28°-W	Ｐ１　41.5cm　Ｐ２　160.7cm Ｐ３　34.1cm　Ｐ４　169.3cm Ｐ５　4.2cm	長軸N-30°-W。 長軸長80.0cm 深さ1.5cm	東58.0cm　西46.7cm 南36.7cm　北57.2cm	無し		
21	059　1116	住居跡	弥生	長径7.21m　短径6.30m　深さ43.9cm	N-43°-W	Ｐ１　85.3cm　Ｐ２　81.3cm Ｐ３　81.8cm　Ｐ４　79.5cm Ｐ５　12.6cm　Ｐ６　23.5cm Ｐ７　19.2cm　Ｐ８　9.5cm Ｐ９　34.5cm　Ｐ10　14.5cm	長軸N-45°-W。 長軸長112.0cm 深さ14.8cm	東44.7cm　西35.5cm 南11.3cm　北43.9cm	拡張以前の周溝が東側に残存。深さ10cm		

新番号	旧番号	性　格	時　期	規　　模	主　軸	ピット（深さ）	炉・カマド	壁　　高	周溝・溝	そ　の　他	
22	059　1114	住居跡	弥生	長径(3.89)m　深さ58.4cm	N-38°-W	P11 50.7cm　P12 67.6cm P13 49.1cm　P14 61.5cm P15　9.7cm　P16　2.3cm	長軸 N-40°-W。 長軸長79.0cm 深さ10.8cm	東58.4cm　南51.4cm 北44.7cm	無し		
23	059　1108	住居跡	弥生	長径(4.49)m　深さ22.5cm	N-42°-W	P１　7.8cm　P２　37.8cm P３　18.0cm　P４　23.1cm P５　14.3cm	長軸 N-30°-W。 長軸長94.0cm 深さ3.5cm	南21.7cm　北22.5cm	無し		
24	059　1101	住居跡	弥生	深さ19.9cm			長軸 N-45°-W。 長軸長70.0cm以上 深さ4.6cm	東19.9cm	無し		
25	059　1102	土壙墓？	不明	長径(1.97)m　短径(1.10)m　深さ36.1cm	N-104°-E (推定)			東27.9cm　北36.1cm		破線は調査者の所見。	
26	059　1107	住居跡	弥生	深さ17.7cm	N-35°-W			北33.6	無し		
27	059　1100	住居跡	弥生	長径(4.50)m　深さ24.7cm	N-36°-E	P１　7.3cm	長軸 N-40°-W。 長軸長108.0cm 深さ1.0cm	南27.9cm　東36.1cm	無し		
28	059　1122	住居跡	古墳前期	長径4.18m　短径4.08m　深さ56.6cm	N-45°-W	P１　7.7cm　P２　10.8cm P３　31.6cm	長軸 N-24°-W。 長軸長88.0cm 深さ4.9cm	東56.6cm　西29.6cm 南 8.0cm　北34.5cm	東1.7cm　西3.2cm 南3.1cm　北3.6cm		
29	059　1113	住居跡	古墳前期	長径(3.36)m　短径(2.64)m　深さ44.21cm	N-33°-E	P１　24.1cm　P２　19.0cm		西27.7cm　南44.2cm	無し		
30	059　1112	住居跡	古墳前期	長径5.46m　深さ10.3cm	N-17°-E	P１　59.7cm　P２　72.9cm P３　34.3cm	未検出	東22.8cm　西35.2cm 南38.1cm	東 6.4cm　西8.6cm 南10.3cm		
31	059　1109	住居跡	古墳前期	長径5.76m　深さ29.3cm	N-28°-W	P４　36.3cm　P５　36.0cm P６　28.4cm　P７　73.7cm P８　11.4cm　P９　14.3cm	30号により削平	東29.3cm　南7.3cm	無し		
32	059　1097	住居跡	弥生	長径4.92m　深さ59.5cm	N-43°-W	P10 71.1cm　P11 62.7cm P12 59.5cm　P13 64.7cm P14 32.0cm　P15 51.0cm P16 17.7cm　P17 16.3cm P18　5.1cm	長軸 N-25°-W。 長軸長104.0cm 深さ7.3cm	東59.5cm　西37.1cm 南38.5cm	東1.2cm　北5.1		
33	059　1098	住居跡	古墳後期	長径5.32m　短径5.15m　深さ41.2cm	N-43°-E	P19　34.7cm　P20 51.3cm P21　55.2cm　P22 54.6cm P23 119.3cm　P24　4.6cm	東カマド。火床なし	東 1.2cm　西21.1cm 南41.2cm　北33.1cm	東4.6cm　西7.7cm 南4.6cm　北5.9cm	P23は貯蔵穴と推定される。	
34	059　1111	住居跡	弥生	深さ5.2cm			未検出	西4.7cm　北5.2cm	無し		
35	059　1096	住居跡	弥生	深さ18.5cm	N-８°-W	P１　24.5cm	未検出	東18.5cm　西12.5cm 南18.5cm	無し		
36	059　1092	住居跡	弥生	長径3.40m　短径3.26m　深さ32.3cm	N-37°-W	P１　14.5cm　P２　9.6cm	長軸 N-15°-W。 長軸長80.0cm 深さ7.3cm	東32.3cm　西21.0cm 南29.5cm　北24.7cm	無し		
37	059　N－13	方形周溝墓？	弥生	北溝上端長2.84m　下端2.64m　幅68cm 深さ10.0cm 東溝上端長(0.88)m　下端(0.84)m　幅56cm 深さ4.7cm		P１　22.7cm　P２　30.2cm P３　2.8cm		東4.7cm　北10.0cm	東・北		
38	059　1091	土坑	不明	長径1.80m　短径1.12m　深さ11.5cm	N-40°-E			東6.0cm　西11.5cm 南3.0cm　北10.5cm	無し		
39	059　1106	住居跡	弥生	長径4.30m　短径4.20m　深さ36.1cm	N-63°-W	P１　記載なし　P２　14.5cm	長軸 N-21°-W。 長軸長106.0cm 深さ6.2cm	東24.8cm　西31.1cm 南25.2cm　北36.1cm	無し		
40	059　1104	住居跡	弥生	長径4.56m　短径(3.50)m　深さ7.9cm	N-47°-W	P１　9.0cm	無し	東 7.9cm　西6.6cm 南16.3cm　北1.7cm	無し		
41	059　1103	住居跡	古墳前期	長径3.78m　深さ25.3cm	N-27°-E	P１　17.7cm　P２　33.2cm P３　59.4cm　P４　19.1cm	無し	東 3.9cm　南3.3cm 北25.3cm	無し		
42	059　1093	土壙墓	古墳終末～	長径2.18m　短径1.68m　深さ58.0cm	N-80°-W		無し	南24.0cm　北58.0cm		側壁を10cm程抉り込む。側壁抉り込み土壙。	
43	059　1094	不明	不明	長径5.10m以上　短径2.16～3.30m 深さ4.8～19.5cm		P１　2.7cm	無し	東14.4cm　西4.8cm 北19.5cm	無し	不整形。底面南に向かって斜度を増し傾く。その高低差54cm。遺構の可能性は低い。	
44	059　1086	住居跡	古墳後期	長径3.92m以上　短径3.92m　深さ75.0cm	N-35°-W	P１　13.7cm	北カマド。火床無し	西12.5cm　南20.5cm 北 9.0cm	西7.5cm　南1.8cm 北5.5cm		

新番号	旧番号	性　格	時　期	規　　模	主　軸	ピット（深さ）	炉・カマド	壁　　高	周溝・溝	そ　の　他	
45	059　1078	住居跡	弥生	深さ17.9cm	N−4°−W	P1　31.9cm	未検出	東13.7cm　西14.0cm 南17.9cm	無し		
46	059　1079	住居跡	弥生	長径3.42m以上　短径3.26m　深さ22.0cm	N−71°−W	P1　22.0cm	長軸N−96°−W。 長軸長56.0cm 深さ4.0cm	東21.9cm　西 8.3cm 南13.5cm　北14.8cm	無し		
47	059　1099	土坑	不明	長径2.36m　短径1.34m　深さ28.5cm	N−68°−E	P1　13.7cm　P2　65.0cm		東17.0cm　西19.1cm 南26.0cm　北23.0cm			
48	059　1084	土坑	縄文？	長径1.40m　短径1.04m　深さ198.5cm	N−21°−E			東192.0cm　西194.5cm 南197.2cm　北198.5cm			
49	059　1087	住居跡	弥生	長径3.22m　短径3.00m　深さ35.6cm	N−43°−W		長軸N−34°−W。 長軸長88.0cm 深さ3.4cm	東31.9cm　西25.5cm 南35.6cm　北19.20cm	無し		
50	059　1105	方形周溝墓	弥生	東溝上端長さ2.30m　下端2.20m　幅32cm 深さ5.2cm 南溝上端長さ2.68m　下端2.50m　幅26cm 深さ24.1cm 北溝上端長さ2.76m　下端2.72m　幅24cm 深さ8.2cm	N−22°−E	P1　23.4cm　P2　19.0cm P3　25.4cm				埋葬施設は未検出。P3は縄文土坑と推定。	
51	059　1090	木棺墓	弥生	長径2.59m　短径1.35m　深さ73.0cm	N−61°−E			東73.0cm　西58.0cm 南59.0cm　北62.0cm		木棺規模　長径2.02m　短径0.54m 高さ54cm	
52	059　1095	土坑	不明	長径1.66m　短径0.96m　深さ48.7cm	N−80°−W			東48.7cm　西43.0cm 南37.7cm　北47.1cm			
53	059　1083	住居跡	弥生	長径3.68m　短径3.44m　深さ49.0cm	N−4°−W	P1　4.5cm　P2　34.0cm P3　34.7cm　P4　記載なし	長軸N−14°−E。 長軸長70.0cm 深さ7.7cm	東49.0cm　西32.5cm 南39.5cm　北41.0cm	無し		
54	059　1085	土壙墓	古墳終末～	長径2.80m　短径2.70m　深さ93.0cm	N−81°−W			東94.5cm　西73.3cm 南 9.2cm　北88.1cm		主軸方位は墓壙長軸　側壁抉り込み土壙。	
55	059　1082	住居跡	古墳前期	長径4.00m　深さ15.9cm	N−30°−E		未検出	東 8.1cm　西7.4cm 北15.9cm	無し	遺物は東側に集中	
56	059　1088	土壙墓	古墳終末～	長径1.96m　短径1.32m　深さ51.0cm	N−72°−W			東39.1cm　西28.2cm 南 1.3cm　北51.0cm		側壁抉り込み土壙。主軸方位は墓壙長軸　側壁を10cm程抉り込む。	
57	059　1089	土壙墓	古墳終末～	長径1.95m　短径1.52m　深さ106.0cm	N−65°−W	P1　4.0cm　P2　11.0cm		東90.0cm　西 62.0cm 南84.0cm　北115.4cm	上部に本遺構覆土を削平する溝が存在する。	側壁抉り込み土壙。主軸方位は墓壙長軸　側壁を55cm程抉り込む。	
58	059　1075	住居跡	弥生	長径3.52m　深さ18.2cm	N−28°−W	P1　31.6cm　P2　17.5cm P3　42.6cm　P4　34.0cm P5　39.0cm	未検出	東 4.0cm　西6.4cm 南18.2cm	無し		
59	059　1074	住居跡	弥生	短径4.26m　深さ18.0cm	N−41°−W	P6　42.4cm　P7　46.6cm P8　66.3cm　P9　55.8cm P10 14.5cm　P11　5.5cm P12 23.9cm　P13 24.8cm P14 26.0cm　P15 12.5cm	A長軸N−35°−W。 長軸長80.0cm 深さ7.5cm B長軸N−32°−W。 長軸長84.0cm以上 深さ6.5cm	東13.5cm　　西18.0cm 北 4.2cm	無し		
60	059　1076	住居跡	古墳後期	長径3.50m　短径3.40m　深さ56.5cm	N−22°−W	P1　49.0cm	北カマド。火床無し	東44.5cm　西47.0cm 南23.5cm　北56.5cm	東11.0cm　西4.5cm 南11.8cm　北4.9cm	P1は貯蔵穴。柱穴無し。遺物の大半は床密着～直上で検出。	
61	059　1073	住居跡	弥生	長径(5.50)m　短径4.80m　深さ24.3cm	N−43°−W	P16 59.1cm　P17 38.0cm P18 97.7cm　P19　1.00m P20 22.1cm　P21 40.5cm P22 22.0cm　P23 14.9cm P24 50.2cm　P25 28.6cm P26　9.5cm　P27 25.0cm P28 35.2cm　P29 17.2cm P30 16.1cm　P31 20.1cm P32 29.0cm	長軸N−42°−W。 長軸長76.0cm以上 深さ4.6cm	東24.5cm　西23.3cm 南 5.1cm　北17.8cm	無し	P20は貯蔵穴	

新番号	旧番号	性　格	時　期	規　　模	主　軸	ピット（深さ）	炉・カマド	壁　　高	周溝・溝	そ　の　他	
62	059　1081	土壙墓	古墳終末～	長径1.55m　短径1.35m　深さ最大90.0cm	N-45°-W			東52.0cm　西90.0cm 南58.0cm　北82.0cm		玄室長軸長1.10m　深さ最大82.0cm 主軸方位は墓壙長軸　側壁を40cm程抉り込む。	
63	059　N-12	終末期古墳	古墳終末～	東上端7.3m　下端6.8m　幅1.18～0.82m 深さ42.0cm 西上端4.54m　下端4.36m以上 幅0.62～1.14m　深さ38.0cm 南上端6.63m　下端6.36m以上 幅0.82～1.00m　深さ30.0cm 北上端7.08m　下端6.62m　幅0.8～0.9m 深さ42.0cm	N-10°-E			東42.0cm　西38.0cm 南30.0cm　北42.0cm		方台部内径東西7.36m　南北6.36m 外径東西8.72m　南北7.68m　内部主体未検出	市原市遺跡分布地図724-8
64	059　2019	溝	不明	全長27m　幅40～90cm　深さ40cm前後						59・61・63・64号を切り72号に至る。覆土に宝永火山灰。	
65	059　1072	方形周溝墓	弥生	東上端7.1m　下端6.4m　幅1.18m前後 深さ45.0cm 西上端5.64m　下端5.32m　幅0.80m前後 深さ34.0cm 北上端4.5m　下端3.10m以上　幅1.04m前後 深さ20.0cm	N-6°-W	P1　53.1cm　P2　30.6cm P3　24.8cm　P4　37.9cm		東45.0cm　西34.0cm 北20.0cm		墓壙主軸方位はN-70°-E。墓壙長径3.24m　短径1.84m　深さ72.0cm 木棺痕長径2.18m　短径0.7m 南周溝は215号溝に削平されたものと推定される。	
66	059　1077	土坑	近世以降	長径1.60m　短径1.35m　深さ最大64.3cm	N-51°-E						
67	059　N-151060	終末期古墳？	古墳終末～	東周溝上端5.12m　下端4.90m　幅0.68m前後 深さ23.0cm				東23.0cm		溝掘り方より奈良・平安時代の所謂方形周溝と判断される。	
68	059　1064	土壙墓	古墳終末～	長径2.14m　短径1.55m　深さ62.0cm	N-73°-W			東62.0cm　西44.0cm 南40.0cm　北32.0cm		主軸方位は墓壙長軸　墓壙長軸が67号周溝とほぼ直交することから、本遺構が67号方形周溝の埋葬施設の可能性がある。側壁を40cm程抉り込む。	
69	059　1067	木棺墓	古墳	長径2.60m　短径0.93m　深さ60.0cm	N-61°-W			東56.0cm　西42.0cm 南 2.0cm　北60.0cm		出土鉄族は6世紀後半～7世紀代。 墓壙の掘り方深さは55.5cm。棺底は鉄族出土レベルの深さ35cmに推定される。	
70	059　1071	土坑	縄文？	長径1.04m　短径1.00m　深さ90.4cm	N-22°-W			東53.0cm　西56.2cm 南75.9cm　北90.4cm		主軸方位は短軸。底面はほぼ平坦。	
71	059　1069	住居跡	弥生	長径(4.36)m　短径4.36m　深さ32.8cm	N-29°-W	P1　17.6cm　P2　29.9cm P3　41.5cm	炉は212号溝に削平される。	東32.8cm　西9.3cm 北29.9cm	東3.0cm　北6.3cm	床面に焼土・炭化物散在	
72	059　1052	住居跡	古墳後期	長径6.02m　短径5.82m　深さ29.4cm	N-61°-E	P1　記載なし　P2　92.3cm P3　76.4cm　P4　78.3cm P5　63.0cm　P6　記載なし P7　28.6cm	図面上P2正面にカマド右袖が存在していることになる。	東24.5cm　西29.0cm 南19.5cm　北29.4cm	東6.7cm　西 7.5cm 南2.7cm　北11.1cm	遺物は床直～直上で検出される。P6はレベル記載がないが、記録写真より貯蔵穴と推定される。	焚き口部前面に柱が存在することから、カマド位置に問題あり。
73	059　1051	住居跡	弥生	(短径6.00)m　深さ41.7cm	N-45°-W	P8　62.2cm　P9　47.2cm P10　86.5cm　P11　80.7cm P12　30.0cm　P13　28.0cm P14　47.3cm　P15　22.8cm P16　34.5cm　P17　39.7cm	長軸N-32°-W。 長軸長52.0cm以上 深さ6.7cm	東16.7cm　西41.1cm 南41.7cm	無し	72号・74号に削平される。	
74	059　1043 (N-16)	終末期古墳	古墳終末～	東溝上端5.54m　下端5.22m　幅0.76m前後 深さ10.0cm 西溝上端5.66m　下端5.44m　幅0.52m前後 深さ11.2cm 南溝上端6.64m　下端6.48m　幅0.46m前後 深さ5.0cm 北溝上端5.50m　下端5.14m　幅0.60cm前後 深さ9.5cm	N-22°-E	P1　記載なし		東10.0cm　西11.2cm 南 5.0cm　北 9.5cm	東西内径5.52m 南北内径5.10m	73号75号76号を切る。埋葬施設は未検出	市原市遺跡分布地図724-7
75	059　1050	住居跡	弥生	長径2.72m　短径2.56m　深さ35.1cm	N-15°-W	P1　11.4cm　P2　21.2cm P3　67.4cm　P4　20.4cm P5　70.0cm　P6　70.6cm P7　19.0cm	長軸N-5°-E。 長軸長88.0cm 深さ9.2cm	東24.8cm　西29.7cm 南19.6cm　北35.1cm	無し		

新番号	旧番号	性　格	時　期	規　　模	主　軸	ピット（深さ）	炉・カマド	壁　　高	周溝・溝	そ　の　他	
76	059　10551070 (N-17)	方形周溝墓	弥生	西溝上端7.00m　下端6.60m　幅1.08m前後 深さ19.2cm 南溝上端3.00m　下端2.82m以上 幅1.00m前後　深さ26.3cm 北溝上端3.80m　下端3.70m以上 幅0.78m前後　深さ22.5cm	N-45°-E			東30.0cm　西24.0cm 南25.0cm	南北内径6.30m	墓壙長軸N-61°-W。 長径1.68m 短径84.0cm 深さ25.9cm	
77	059　1061	土坑	時期不明	長径2.90m　短径1.90m　深さ45.9cm	N-61°-E	P1　38.7cm　P2　34.2cm P3　29.6cm　P4　7.1cm		東27.0cm　西34.5cm 北45.9cm			
78	059　1062	住居跡	弥生	長径4.00m　短径(3.80)m　深さ12.4cm	N-72°-E	P1　28.9cm　P2　11.6cm P3　11.0cm　P4　23.7cm	未検出（216号溝によって削平か）	東 5.8cm　南1.5cm 北12.4cm	無し	遺構内ピットは216号遺構に伴うものと推定。	
79	059 N-11 1066	方墳	古墳終末～	東溝上端3.25m　下端2.70m以上 幅1.14m前後　深さ48.0cm 西溝上端5.00m　下端4.68m以上 幅1.00m前後　深さ52.0cm 北溝上端9.60m　下端9.00m以上 幅1.24m前後　深さ84.0cm	N-37°-E	P1　35.0cm　P2　30.2cm		東48.0cm　西52.0cm 北84.0cm	東西内径8.20m	埋葬施設N-48°-E。長径2.58m短径1.10cm　深さ85.0cm。棺底より金銅製耳環を検出。（遺物は現在行方不明）残存する周溝より、方台部内径8.2m前後の方墳と推定。	市原市遺跡分布地図724-6
80	059　1068	住居跡	弥生	長径(6.50)m　短径(5.50)m　深さ53.8cm	N-36°-W	P1　58.1cm　P2　42.2cm P3　49.7cm　P4　64.5cm P5　62.3cm　P6　68.4cm P7　9.1cm　P8　11.8cm P9　17.4cm　P10　33.7cm P11 23.0cm　P12　14.4cm P13 35.3cm　P14　22.0cm P15 21.3cm	長軸N-32°-E。 長軸長144.0cm 深さ21.2cm	東53.8cm　西33.4cm 南 7.7cm　北19.2cm	無し	212号溝・79号方墳に削平される。	
81	059　1021	住居跡	弥生	長径(5.00)m　短径4.90m　深さ32.6cm	N-45°-W	P1　95.3cm　P2　86.2cm P3　78.4cm　P4　71.8cm P5　9.7cm　P6　22.8cm P7　20.1cm	長軸N-8°-W。 長軸長104.0cm 深さ11.0cm	東32.6cm　西30.8cm 南32.1cm　北23.2cm	無し	86号方墳に切られる。①②の番号を付した土器は、いづれも86号方墳に伴う。	
82	059　1022	住居跡	古墳後期	長径5.34m　短径5.20m　深さ49.1cm	N-122°-W	P1　84.2cm　P2　52.4cm P3　81.8cm　P4　81.8cm P5　69.0cm　P6　8.9cm	西カマド。火床長軸N-123°-W。 火床長軸長36cm	東19.0cm　西35.2cm 南49.1cm　北39.0cm	東8.7cm　西6.7cm 南7.0cm　北6.7cm	P5は貯蔵穴。遺物はカマド周辺に集中し床密着の状態で検出される。床面に焼土・炭化物が散在する。	
83	059　1019	住居跡	弥生	長径6.70m　深さ16.2cm	N-8°-W	P1　18.0cm	長軸N-8°-W。 長軸長68.0cm 深さ6.9cm	西 6.7cm　南10.8cm 北16.2cm	無し		
84	059　1020	住居跡	弥生	残存径3.40m　深さ4.1cm	N-71°-W	P1　23.7cm　P2　11.6cm	長軸N-67°-W。 長軸長68.0cm 深さ4.0cm	東2.5cm　北4.1cm	無し	炉脇より①の鉢が床密着の状況で検出されている。	
85	059　1023	方形周溝墓	弥生	西溝上端6.00m　下端5.68m　幅1.10m前後 深さ52.4cm 南溝上端6.42m　下端6.18m　幅0.60m前後 深さ14.2cm 北溝下端3.74m以上　幅1.12m前後 深さ22.8cm	N-51°-E	P1　22.0cm　P2　32.5cm P3　29.3cm　P4　46.3cm P5　35.0cm　P6　40.6cm P7　26.5cm　P8　13.5cm P9　43.1cm　P10　9.8cm P11 18.0cm		西52.4cm　南14.2cm 北22.8cm		①②の遺物が本遺構に伴うことから、本来周溝は全周していたものと推定される。また方台部内より検出されたピットについては、掘り込みがしっかりしているものの、何れも本遺構に直接伴うものとは考えられない。	
86	059　1054	住居跡	弥生	推定長径4.00m　深さ9.4cm	N-33°-W	P1　13.2cm	長軸N-33°-W。 長軸長136.0cm 深さ11.0cm	東9.3cm　北9.4cm	無し		
87	059　1059	溝	不明	東西長12.46m　深さ10cm前後		P1　16.2cm　P2　17.6cm				78・87号遺構を削平。	
88	059　1063	土坑	不明	長径2.30m　短径1.00m　深さ13.0cm	N-13°-E	P1　50.8cm　P2　12.2cm		東13.0cm　西11.3cm 南 7.3cm　北 8.7cm		底面はほぼ平坦。	
89	059　1065	住居跡	弥生	長径(2.90)m　深さ0.6cm	N-51°-W	未検出	未検出	東3.0cm　西0.6cm 北2.4cm	無し		
90	059　1129	土坑	不明	長径1.14m　短径0.62m　深さ18.4cm	N-43°-E			東18.4cm　西18.2cm 南15.7cm　北18.4cm		底面はほぼ平坦。	

新番号	旧番号	性　格	時　期	規　　模	主　軸	ピット（深さ）	炉・カマド	壁　　高	周溝・溝	そ　の　他	
91	059　1058	方形周溝墓？	弥生？	東西長9.70m　深さ29～7.7cm前後 南北長5.96m　深さ29～21.1cm前後 幅2.10m～0.50m		P4　69.2cm　P5　7.8cm P6　33.5cm　P7　30.7cm P8　11.3cm　P9　19.3cm P10　9.7cm　P11　41.38cm P12 50.8cm　P13 29.3cm P14 24.1cm　P15 26.1cm P16 29.7cm　P17 39.9cm P18 19.9cm　P19 49.3cm P20 91.0cm				平面形はＬ字形を呈する。方台部内より検出されたピットについては、掘り込みがしっかりしているものも存在するが、いづれも本遺構に直接伴うものとは考えられない。	
92	059　1056	住居跡？	不明	深さ11.3cm		P1　41.1cm　P2　5.5cm P3　3.2cm	長軸N-43°-W。 長軸長52.0cm 深さ0.2cm	東11.3cm	無し	遺構プラン不明。88号との境界不明。炉と考えられる焼土を伴う。	
93	059　1053	土坑	縄文	長径1.84m　短径1.00m　深さ55.0cm	N-53°-W	P1　12.8cm　P2　9.0cm		東52.7cm　西52.8cm 南45.9cm　北55.0cm		底部にP1深さ12.8cm　P2深さ9.0cmのピットが存在する。	
94	059　1045	住居跡	弥生	長径4.44m　深さ37.8cm	N-52°-W	P1　20.0cm　P2　72.5cm P3　82.9cm　P4　79.9cm P5　20.6cm　P6　23.0cm P7　5.1cm　P8　8.2cm P9　4.1cm　P10　5.2cm	長軸N-50°-W。 長軸長96.0cm 深さ10.4cm	東26.9cm　西32.4cm 北37.8cm	無し	①の遺物は床密着の状況で検出される。	
95	059　1049	住居跡	弥生	短径(3.80)m　深さ23.4cm	N-59°-W	未検出	未検出	西18.6cm　南14.6cm 北23.4cm	無し		
96	059　1046	住居跡	弥生	長径4.56m　短径4.25m　深さ31.4cm	N-57°-W	P1　86.9cm　P2　90.5cm P3　91.3cm　P4　89.2cm	長軸N-55°-W。 長軸長102.0cm 深さ10.0cm	東10.7cm　西6.0cm 南31.4cm　北6.0cm	無し	上層に平面プラン不明な97号遺構が存在する。	
	059　1044	墳丘墓	弥生終末	不明	不明	未検出	未検出	不明	不明	６号遺構（辺田１号塚）の下層遺構とされ、遺物のみ出土。平面プランなし。遺物は６号遺構にて掲載。	
97	059　1048	住居跡	弥生			未検出	未検出	東4.8cm　北5.3cm	無し	床面に焼土散在。セ―68調査区未検出。	
98	059　1080	土坑	不明	長径2.50m　深さ56.0cm				東29.1cm　西56.0cm 北33.7cm			
99	059　1057	溝	不明	長さ7.8m　幅2.14m～0.70m 深さ14.7～31.4cm		P1　55.5cm　P2　14.7cm P3　30.3cm　P4　21.6cm P5　43.3cm　P6　19.7cm		東12.5cm　西19.9cm 南14.4cm　北32.5cm		先端のP1は、掘り込みも深くしっかりしており、単独土坑の可能性が考えられる。	
100	059　N-10 セ685号墳	終末期古墳	古墳終末～	東上端4.12m　下端4.08m　幅0.70m前後 深さ12.6cm 西上端5.08m　下端4.74m　幅1.00m前後 深さ43.3cm 北上端10.10m　下端9.80m　幅0.90m前後 深さ23.9cm	N-47°-W	P1　21.2cm　P2　17.2cm P3　46.0cm　P4　30.5cm P5　44.9cm　P6　22.9cm P7　4.9cm	長軸N-37°-W。 長軸長40.0cm 深さ0cm（別遺構の炉の残骸と推定される。）			P1は周溝内土壙、P7は掘り込みが浅いものの主軸方位が北周溝と一致するため、本来の掘り込みを削平された本遺構の内部施設と考えられられる。P1主軸N-55°-E　長径1.90m　短径1.15m　P7主軸N-47°-W　長径1.22m　短径0.60m	市原市遺跡分布地図724-5
101	059　1047	住居跡？	不明	深さ2.7cm	N-38°-E	未検出	長軸N-42°-W。 長軸長20.0cm 深さ1.0cm	西2.2cm　南2.7cm	無し	非常に掘り込みの浅い住居跡。本遺構はセ68調査区では検出されていない。	
102	セ68　H-12	住居跡	弥生	深さ26.5cm	N-45°-W	P1　66.2cm　P2　82.7cm P3　21.9cm	長軸N-37°-W。 長軸長40.0cm 深さ1.9cm	東18.9cm　北26.5cm	無し	炉跡の一部は101号東コーナー部に辛うじて残存。	
103	セ68　SK-3	火葬墓	平安	長径2.00m　短径0.79m　深さ89.0cm	N-20°-E			東89.5cm　西87.1cm 南26.4cm　北95.2cm	無し	玄室幅84cm　奥行き73cm　高さ65cm。底面に厚さ５cmの炭化物を敷き詰める。	蔵骨器に灰釉短頸壺、蓋に灰釉碗を転用。
104	059　1016	住居跡	弥生	長径7.98m　短径(6.52)m　深さ42.5cm	N-30°-W	P1　72.6cm　P2　81.0cm P3　40.8cm　P4　64.2cm P5　73.3cm　P6　9.7cm P7　31.2cm　P8　33.0cm P9　38.0cm	長軸N-7°-W。 長軸長144.0cm 深さ6.5cm	東42.5cm　西39.4cm 南41.4cm　北18.8cm	無し	105号・106号に削平される。	

新番号	旧番号	性　格	時　期	規　　模	主　軸	ピット（深さ）	炉・カマド	壁　　高	周溝・溝	そ　の　他	
105	059　1017	住居跡	古墳後期	長径7.04m　短径(6.58)m　深さ21.5cm	N-116°-W	P10 25.7cm	西カマド。火床長軸N-125°-W。 火床長軸長44.0cm 深さ7.8cm	西16.4cm　南1.0cm 北21.5cm	無し	主柱穴の大半は未調査。106号に削平される。	
106	059　1018	住居跡	古墳後期	長径4.82m　短径(4.80)m　深さ30.6cm	N-61°-E	P11 42.2cm　P12　59.5cm P13 58.1cm　P14 103.8cm P15 35.5cm　P16　54.0cm P17 12.7cm	東カマド。火床なし	東10.0cm　西30.6cm 南25.5cm　北 4.7cm	無し	西側に張り出しと貯蔵穴を持つ。P14は本遺構の貯蔵穴。柱穴を結ぶラインは調査者の所見として調査平面図に記載され、本遺構内に２軒の住居跡が存在する。	
107	059　1018	住居跡	時期不明			P18 59.3cm　P19 47.3cm P20 44.3cm　P21 45.8cm P22 49.9cm	未検出		無し	柱穴を結ぶラインは調査者の所見として調査平面図に記載されており、106号以外の住居の存在を示している。	
108	番号無し 一部059　1014	方形周溝墓	弥生	東溝上端2.20m 幅0.60m以上 深さ31.1cm 西溝上端5.90m以上 幅1.14m以下 深さ38.5cm 南溝上端2.30m以上 幅0.58m前後 深さ11.7cm 北溝上端2.85m以上 幅1.15m以下 深さ23.5cm	N-26°-W	P１　27.5cm		東31.1cm　西38.5cm 南11.7cm　北23.5cm		全体図作成時に初めて発見。主軸方位は東周溝傾きより算定。	
		059　1014	攪乱							108号東周溝南側に展開する落ち込みの旧遺構番号。底面凹凸が激しく平面プランが著しく不整形のため攪乱とする。	
109	059　1015	住居跡	弥生	深さ2.8cm		P１　記載なし　P２　11.0cm P３　3.2cm　P４　19.5cm P５　15.2cm	長軸N-59°-W。 長軸長62.0cm 深さ4.1cm	東2.8cm　北0.7cm	無し		
110	セ68　H-11	住居跡	弥生	長径6.93m　短径6.22m　深さ47.5cm	N-24°-W	P１　53.7cm　P２　59.7cm P３　51.6cm　P４　20.0cm P５　7.5cm　P６　19.9cm P７　56.8cm　P８　9.8cm P９　17.0cm　P10 20.3cm P11 16.6cm　P12 34.2cm	長軸N-13°-W。 長軸長100.0cm 深さ3.4cm	東47.5cm　西34.6cm 南31.8cm　北33.8cm	無し	遺物は北東コーナー部に集中	
111	番号無し	炭窯	不明	長径2.13m　短径1.48m　深さ51.0cm	N-54°-W	P13 40.5cm		東51.0cm　西22.5cm 南28.0cm　北52.0cm	無し		
112	セ68　H-18	住居跡	弥生	深さ49.2cm	N-54°-W	P14 51.4cm　P15 89.7cm P16 88.6cm　P17 68.8cm P18 19.8cm　P19 26.2cm P20 20.6cm	長軸N-23°-W。 残存長軸長32.0cm 深さ1.4cm	東16.0cm　南49.2cm	無し	遺構の大半は５号遺構に削平される。炉は火床の一部が辛うじて残存。	
113	セ68　H-22	住居跡	弥生	深さ6.6cm		P21 43.5cm	未検出	南6.6cm	無し	床面の一部に焼土が存在。	
114	セ68　H-10	住居跡	古墳前期	長径5.80m　短径5.75m　深さ56.8cm	N-13°-W	P22 74.8cm　P23 69.6cm P24 68.8cm　P25 67.2cm P26 37.3cm　P27 41.2cm P28 32.0cm	長軸N-13°-W。 長軸長102.0cm 深さ3.9cm	東13.6cm　西15.2cm 南56.8cm　北23.0cm	東5.4cm　西3.0cm 南7.4cm　北8.9cm	主柱穴P24は偶然にも112号P17と共有する。P26は、ピット内から出土した遺物により，本遺構に伴うものと考えられる。	
115	セ68　H-９	住居跡	弥生	深さ25.9cm		P29 27.1cm　P30 19.3cm P31 14.0cm　P32 36.1cm P33 13.0cm	長軸N-82°-W。 長軸長49.0cm 深さ7.2cm	東23.0cm　西12.6cm 南 4.0cm	無し		
116	セ68　H-17	住居跡	弥生	長径3.18m　深さ29.4cm	N-42°-W	未検出	長軸N-42°-W。 長軸長60.0cm 深さ0.2cm	西29.4cm　南25.8cm 北14.4cm	無し	床面に焼土が散在。	
117	セ68　H-16	住居跡	弥生	深さ42.5cm	N-11°-E	P34 8.4cm	未検出	東32.9cm　南42.5cm 西 6.8cm	無し	西壁傾きを主軸方位とした。	
118	セ68　H-19	住居跡	弥生	長径4.35m　深さ13.7cm		P１　14.4cm　P２　11.8cm P３　2.2cm　P４　17.0cm P５　23.8cm	長軸N-13°-W。 長軸長112.0cm 深さ10.9cm	東13.7cm　南4.1cm 北 9.0cm	無し		

新番号	旧番号	性　格	時　期	規　　模	主　軸	ピット（深さ）	炉・カマド	壁　　高	周溝・溝	そ　の　他	
119	セ68　H-15	住居跡	古墳前期	長径5.60m　短径5.45m　深さ57.6cm	N-62°-W	P1　46.6cm　P2　43.3cm P3　63.3cm　P4　60.1cm P5　29.4cm　P6　64.5cm	長軸 N-48°-W。 長軸長82.0cm 深さ0.2cm	東29.4cm　西57.6cm 南24.0cm　北15.6cm	東・北5.0cm	焼土・炭化物が多量に床面に散在し、ベット状遺構と間仕切り状の溝が検出されている。遺物の大半は東側の床面上から検出され、搬入品かと思われるＳ字状台付甕も出土している。	遺物の一部は年報に掲載済み。追加接合により法量変化が生じた遺物は再実測。
120	セ68　H-21	住居跡	弥生	長径4.78m　短径4.02m　深さ32.1cm	N-26°-W	P1　68.9cm　P2　57.5cm P3　79.2cm　P4　53.0cm P5　40.4cm　P6　13.2cm P7　15.0cm　P8　25.4cm	長軸 N-10°-W。 長軸長72.0cm 深さ1.3cm	東32.1cm　西32.1cm 南30.5cm　北31.9cm	無し	焼土・炭化物が東壁際より多量に検出し、遺物の大半が床面上から検出される。	
121	セ68　H-20	住居跡	弥生	短径3.96　深さ20.8cm	N-57°-W	P1　38.2cm　P2　16.5cm P3　20.3cm	長軸 N-44°-W。 長軸長44.0cm 深さ4.1cm	東20.8cm　西14.4cm 北13.5cm	無し	５号遺構墳丘下。	
122	番号無し （溝 A）	溝	時期不明	長さ3.88m　幅1.00m以下　深さ20.2cm	N-59°-W	P1　10.4cm		西10.1cm　南5.5cm 北20.2cm		主軸方位は南壁より	
123	セ68　H-8	住居跡	弥生	長径3.52m　短径3.05m　深さ42.5cm	N-57°-W	P1　17.5cm	長軸 N-58°-W。 長軸長28.0cm 深さ4.5cm	東37.1cm　西26.6cm 南16.7cm　北42.5cm	無し		
124	セ68　SK-5	土坑	時期不明	長径2.68m　短径0.94m　深さ97.2cm	N-13°-E			東77.8cm　西76.7cm 南16.6cm　北97.2cm	無し	玄室幅52cm奥行き84cm。	103号遺構と類似した火葬墓と推定される。
125	059　1013	住居跡	弥生	深さ4.5cm	N-36°-E	P1　72.3cm　P2　27.2cm	未検出	西4.5cm　南3.5cm	無し	主軸方位は西壁直交ラインより	
126	セ68　SK-2 059　1012	木棺墓	弥生	１段目　長径(3.6)m　短径(2.8)m　深さ23.8cm ２段目　長径2.80m　短径1.32m　深さ59.8cm	N-41°-W			二段掘り １段目 西13.3cm　南23.8cm ２段目 東50.5cm　西59.8cm 南55.7cm　北37.3cm		二段目掘り方より長さ2.3m幅1.04m以内の木棺が使用されたものと推定される。	東・北レベルは059図面より、西・南レベルはセ-68図面より
127	セ68　H-7	住居跡	弥生	長径4.94m　短径4.42m　深さ14.7cm	N-45°-W	P1　77.9cm　P2　70.4cm P3　78.0cm　P4　89.8cm P5　16.5cm　P6　6.7cm P7　21.4cm　P8　69.6cm P9　18.3cm　P10　17.3cm P11　45.7cm　P12　19.8cm	①長軸 N-40°-W。 長軸長56.0cm 深さ1.0cm ②長軸 N-50°-W。 長軸長68.0cm 深さ10.3cm ③長軸 N-73°-W。 長軸長84.0cm 深さ0.2cm	東21.1cm　西6.7cm 南 9.4cm　北3.7cm	無し	炉は３個所に検出。その深さから②がよく使用されていたと考えられる。	
128	セ68ST-1	（溝 B）	時期不明	長さ9.28m　幅最大1.0m　深さ11.8～32.2cm							
129	セ68ST-1	（溝 C）	時期不明	長さ16.66m　幅最大1.30m　深さ7.6～31.4cm							
130	セ68　H-6A	住居跡	古墳前期	長径6.60m　短径6.55m　深さ41.0cm	N-8°-W	P1　53.3cm　P2　31.4cm P3　45.7cm　P4　56.4cm P5　20.2cm　P6　50.8cm	長軸 N-42°-W。 長軸長92.0cm 深さ6.4cm	東40.0cm　西22.9cm 南35.6cm　北25.3cm	無し	西及び南北に比高差２cm程のベット状遺構が存在する。	
131	セ68　H-6B 059　1011	住居跡	弥生	長径6.20m　短径(5.4)m　深さ33.0cm	N-22°-W	P7　103.0cm P8　101.0cm P9　60.4cm P10　70.0cm P11　29.0cm P12　29.5cm P13　11.7cm P14　22.0cm P15　12.8cm P16　10.3cm P17　11.8cm	長軸 N-27°-W。 長軸長78.0cm 深さ2.7cm	東33.0cm　西 2.4cm 南 6.3cm　北15.5cm	無し	覆土の大半を130号遺構に削平される。	
132	セ68　SK-1	土壙墓	古墳終末～	長径1.97m　短径1.32m　深さ62.0cm	N-33°-E			西14.9cm　南39.0cm 北42.9cm		玄室長1.80m　幅45cm　高さ30cm 主軸方位は玄室長軸	
133	セ68　H-5	住居跡	弥生	短径4.15m　深さ16.6cm	N-74°-W	P1　10.1cm　P2　3.1cm	長軸 N-23°-W。 長軸長52.0cm 深さ5.7cm	西13.2cm	無し	140号溝に削平される。	

新番号	旧番号	性　格	時　期	規　　模	主　軸	ピット（深さ）	炉・カマド	壁　　高	周溝・溝	そ　の　他	
134	059　1010	住居跡	弥生	長径5.28m　短径4.74m　深さ29.6cm	N-38°-W	P1　記載なしP2　54.1cm P3　72.0cm　P4　99.0cm P5　37.4cm　P6　記載なし P7　33.1cm　P8　17.1cm P9　20.9cm　P10　10.6cm	長軸N-33°-W。 長軸長84.0cm 深さ6.3cm	東13.1cm　西26.6cm 南14.8cm　北29.6cm	無し	216号溝に削平される。	
135	059　1133	住居跡	不明		N-34°-W	P1　56.0cm　P2　65.5cm P3　64.3cm　P4　78.0cm	長軸N-19°-W。 長軸長34.0cm 深さ0.4cm	未検出	未検出	ピットと炉のみ検出。柱穴はいづれも掘り込みが深い。	
136	059　2013	溝	不明	長さ4.80m　幅50cm前後　深さ22.7cm				西14.3cm　南22.7cm 北 7.5cm			
137	セ68　H-4	住居跡	古墳前期	長径7.30m　短径7.22m　深さ33.8cm	N-23°-W	P1　36.6cm　P2　46.6cm P3　18.0cm　P4　21.6cm P5　50.2cm　P6　24.2cm P7　42.5cm　P8　19.0cm P9　32.0cm　P10　29.3cm P11 16.9cm　P12 24.8cm P13 32.2cm　P14 26.4cm P15・P16記載なし	長軸N-8°-E。 長軸長104.0cm 深さ2.9cm	東33.8cm　西18.9cm 南23.5cm　北22.2cm	東12.4cm　西0.9cm 南12.0cm　北0.9cm	P5は貯蔵穴。4号墳に削平される。	
138	セ68　H-3	住居跡	弥生	長径4.66m　短径4.14m　深さ26.5cm	N-52°-W	P1　17.0cm　P2　記載なし P3　19.3cm　P4　14.9cm	長軸N-43°-W。 長軸長116.0cm 深さ15.3cm	東31.4cm　西27.6cm 南15.9cm　北28.2cm	無し	4号墳に削平される。	
139	セ68　H-2	住居跡	弥生	深さ記載なし			長軸N-22°-W。 長軸長74.0cm 深さ記載なし				
140	セ68　M-1	溝	不明	長さ43.1m、幅最大1.36m　深さ30cm前後						南端の底面より15～30cm前後浮いた状態で、下総型埴輪片（人物）が出土。5号遺構東側周溝断面では、溝底を周溝底と同じくし、深さ65cmとして捉えられており、本遺構がさらに北に延びる。	
141	セ68　SK-4	土坑	不明	長径2.86m　短径1.28m　深さ49.2cm	N-90°-W			東20.8cm　西31.2cm 南44.1cm　北49.1cm		3号墳を削平。	
142	セ68　H-1	住居跡	弥生	深さ記載なし			長軸N-56°-W。 長軸長100.0cm 深さ記載なし	記載なし	無し	3号墳に削平される。	
143	059　1008	住居跡	弥生	深さ13.9cm		P1　20.5cm　P2　13.2cm P3　28.3cm	未検出	東1.4cm　西13.9cm	無し	219号溝に削平される。	
144	059　1007	住居跡	不明		N-45°-W	P4　77.8cm　P5　50.8cm P6　79.0cm　P7　62.5cm	未検出		未検出	炉は218号溝に削平されたと推定される。	
145	059　1006	住居跡	弥生	深さ4.8cm		P8　98.2cm	長軸N-10°-W。 長軸長64.0cm 深さ2.5cm	東4.8cm　西3.2cm	無し	220号溝に削平される。	
146	セ68　H-28	住居跡	弥生	深さ30.9cm		P4　36.5cm　P5　26.4cm P6　17.3cm	未検出	東30.9cm　南26.1cm	無し	2号墳・219号溝に削平される。	
147	セ68　H-27	住居跡	弥生	深さ28.3cm		P1　58.8cm　P2　55.5cm P3　97.2cm	長軸N-53°-E。 長軸長68.0cm 深さ5.5cm	東26.4cm　南28.3cm	無し	2号墳・219号溝に削平される。	
148	059　1005	住居跡	弥生	深さ12.3cm	N-25°-E		長軸N-7°-W。 長軸長64.0cm 深さ0.6cm	東12.3cm	無し	2号墳・219号溝に削平される。	
149	セ68　H-23	住居跡	弥生	長径5.55m　短径5.43m　深さ40.6cm	N-24°-W	P1　69.6cm　P2　29.9cm P3　27.4cm　P4　29.6cm P5　29.0cm　P6　15.1cm P7　4.6cm	長軸N-30°-W。 長軸長122.0cm 深さ11.4cm	東30.4cm　西33.6cm 南40.6cm　北30.6cm	無し	床面は土間状に硬く締り、炉の火床状によく焼けた面が2個所に存在する。	
150	セ68　H-25	住居跡	弥生	長径4.32m　短径3.94m　深さ16.2cm	N-43°-W	P1　37.2cm　P2　36.0cm P3　35.4cm　P4　21.2cm P5　16.0cm	長軸N-45°-W。 長軸長76.0cm 深さ3.2cm	東16.2cm　西2.4cm 南 9.4cm　北1.6cm	無し	床面は土間状に硬く締り、遺物は床面にめり込んだ状態で検出されている。	
151	セ68　SK10	土坑	縄文	長径1.14m　短径1.00m　深さ70.0cm	N-40°-E			東51.8cm　西46.8cm 南70.0cm　北51.2cm		主軸方位は長軸方向	

新番号	旧番号	性　格	時　期	規　　模	主　軸	ピット（深さ）	炉・カマド	壁　　高	周溝・溝	そ　の　他	
152	セ68　H-26	住居跡	弥生	推定長径4.12m　短径3.27m　深さ6.8cm	N-51°-W		長軸 N-50°-W。 長軸長92.0cm 深さ3.2cm	西6.8cm　南1.7cm 北2.3cm	無し		
153	セ68　H-24	住居跡	弥生	短径3.05m　深さ46.3cm	N-46°-W		長軸 N-37°-W。 長軸長72.0cm 深さ5.3cm	東37.3cm　西46.3cm 南45.5cm　北31.6cm	東0.5cm　西3.5cm 南1.8cm　北5.3cm		
154	059　2016	溝	不明	長さ8.0m、幅38.0cm～1.50m前後 深さ13.2～37.7cm前後		P1　13.0cm　P2　11.5cm P3　32.1cm　P4　40.4cm P5　22.5cm　P6　32.2cm P7　21.9cm　P8　27.8cm P9　35.9cm　P10　12.5cm					
155	059　1026	住居跡	弥生	長径(2.78)m　短径(2.62)m　深さ70.0cm	N-44°-W	P1　20.8cm	長軸 N-40°-W。 長軸長88.0cm 深さ5.2cm	東13.7cm　西2.3cm 南14.3cm　北5.3cm	無し		
156	059　1002	住居跡	弥生	深さ24.8cm				西21.6cm　南24.8cm		調査者の所見で157号遺構とは別番号が付される	
157	059　1003	住居跡	弥生？		N-4°-W	P1　87.0cm　P2　76.3cm P3　55.8cm	長軸 N-46°-W。 長軸長40.0cm 深さ0.1cm		無し	調査者の所見で156号遺構とは別番号が付される	
158	059　1132	住居跡	不明		N-45°-W	P1　82.7cm　P2　54.1cm P3　38.2cm	長軸 N-42°-W。 長軸長80.0cm 深さ7.0cm				
159	059　1004	土坑	弥生	長径0.48m　短径0.40m　深さ35.8cm	N-51°-W	P1　35.8cm		東35.8cm　西30.0cm		底面から８cm浮いて甕出土。	
160	059　2004	古墳	終末期古墳	一辺18.5m前後　幅1.5m前後　深さ35.0cm		P1　28.6cm　P2　記載なし P3　13.5cm　P4　26.4cm P5　25.2cm　P6　8.2cm P7　6.2cm　P8　8.2cm P9　5.1cm		東10.1cm　西4.43cm 南35.0cm		調査者の所見により、一辺18.5m前後の終末期古墳と推定される。	市原市遺跡分布地図724-4
161	059　2008	溝	不明	長さ4.30m　幅1.30m前後　深さ13.5cm		P1　29.6cm　P2　32.1cm		東11.9cm　西13.5cm			
162	059　1027	住居跡	弥生	長径3.46m　短径3.44m　深さ33.5cm	N-3°-W	P1　35.9cm　P2　19.9cm	長軸 N-42°-W。 長軸長84.0cm 深さ3.4cm	東33.5cm　西28.1cm 南22.0cm　北28.5cm	無し	163号に削平される。	
163	059　1028	土坑	不明	長径1.28m　短径0.84m　深さ67.4cm	N-3°-W			東67.4cm　西30.5cm 南35.4cm　北 9.6cm		銅鋲片出土。	
164	059　1030	土坑	不明	長径1.28m　短径1.20m　深さ119.0cm	N-74°-E			東112.4cm　西 90.4cm 南119.0cm　北101.6cm			
165	059　1029	住居跡	弥生	長径5.14m　深さ25.5cm	N-13°-W	P1　61.7cm　P2　76.6cm P3　51.8cm　P4　76.1cm P5　17.6cm　P6　43.2cm P7　68.4cm	長軸 N-39°-W。 長軸長76.0cm 深さ6.9cm	東25.5cm　南7.0cm 北13.9cm	無し	１号墳に削平される。	
166	059　1031	住居跡	弥生	東西径3.58m　南北径3.68m　深さ10.5cm	N-75°-W		長軸 N-75°-W。 長軸長64.0cm 深さ6.6cm	東 6.2cm　西9.7cm 南10.5cm　北7.7cm	無し	167号遺構に削平される。	
167	059　1032	土壙墓	古墳終末～	長径2.40m　短径1.88m　深さ106.9cm	N-39°-W			東106.9cm　西74.6cm 南 45.4cm　北92.5cm		玄室長1.90m　幅80cm　高さ30cm 主軸方位は玄室長軸	側壁を20cm程抉り込む側壁抉り込み土壙。
168	059　1033	住居跡	弥生	長径5.44m　短径5.22m　深さ21.1cm	N-40°-W	P1　67.7cm　P2　67.0cm P3　58.1cm　P4　7.8cm P5　20.5cm	長軸 N-47°-W。 長軸長90.0cm 深さ9.1cm	東 9.2cm　西21.1cm 南19.9cm　北 9.4cm	無し		
169	059　1034	住居跡	弥生	長径3.68m　深さ11.2cm	N-18°-W		長軸 N-20°-W。 長軸長84.0cm 深さ5.4cm	東11.2cm　南4.9cm 北 8.2cm	無し		
170	059　1036	住居跡	弥生	短径3.00m　深さ20.1cm	N-18°-W	P1　43.3cm　P2　29.4cm P3　46.9cm　P4　31.2cm P5　20.9cm	未検出	東 6.9cm　西20.1cm 南16.8cm　北13.0cm	無し		
171A	059　1041	土坑	不明	長径2.30m　短径1.55m　深さ84.6cm	N-84°-W			東37.1cm　西84.6cm 南49.3cm　北82.4cm		調査時に1041の番号を付して遺構とするが、南に隣接するピットの方がはるかに遺構らしい。	

新番号	旧番号	性　格	時　期	規　　模	主　軸	ピット（深さ）	炉・カマド	壁　　高	周溝・溝	そ　の　他	
171B	番号無し	土坑	縄文	長径2.10m　短径1.60m　深さ83.4cm	N-49°-W	P１ 27.0cm		東56.4cm　西20.8cm 南51.8cm　北42.5cm			
172	059　1035	住居跡	古墳前期	長径5.84m　短径5.70m　深さ21.1cm	N-47°-W	P１ 84.5cm　P２ 90.5cm P３ 80.0cm　P４ 88.7cm P５ 39.7cm　P６ 35.8cm P７ 30.6cm	長軸 N-44°-W。 長軸長80.0cm 深さ7.4cm	東21.1cm　西13.8cm 南14.0cm　北17.3cm	東 8.8cm　西14.0cm 南11.1cm　北12.3cm	P６は貯蔵穴。周囲は４cm程床面より下がり、板状の蓋が存在していた可能性が考えられる。	
173	059　1042	土坑	縄文	長径1.82m　短径1.18m　深さ162.0cm	N-57°-E			東148.9cm　西149.7cm 南150.0cm　北162.0cm		フラスコ状ピット	
174	059　1037	住居跡	弥生	長径8.60m　短径6.72m　深さ49.5cm	N-47°-W	P１ 58.5cm　P２ 60.1cm P３ 50.3cm　P４ 50.9cm P５ 26.9cm　P６ 21.6cm P７ 5.7cm　P８ 5.1cm P９ 16.0cm　P10 16.1cm P11 13.2cm　P12 14.4cm P13 23.8cm　P14 5.3cm P15 33.2cm	長軸 N-９°-W。 長軸長126.0cm 深さ10.4cm	東40.7cm　西49.5cm 南47.1cm　北35.4cm	東5.3cm　西6.1cm 南8.5cm　北8.7cm	床面に焼土・炭化物散在する。	
175	059　1001	住居跡	弥生	推定長径(4.30)ｍ　深さ26.9cm	N-54°-W	P１ 7.7cm　P２ 9.3cm P３ 10.9cm　P４ 8.2cm P５ 3.9cm　P６ 0.5cm P７ 15.4cm　P８ 記載なし	未検出	南26.9cm　西28.3cm	無し	遺構内より検出されたピットは何れも掘り込みが浅く、主柱穴に相当するものはない。	
176	059　2002	溝	不明	長さ12.30ｍ　幅0.80ｍ前後 深さ21.0～16.5cm前後		P１ 18.5cm　P２ 4.9cm P３ 11.1cm　P４ 8.3cm					
177	059　1131	住居跡	弥生	深さ11.1cm		未検出	未検出	南11.1cm	無し		
178	059　1039	住居跡	弥生	深さ7.2cm		未検出	長軸 N-64°-W。 長軸長64.0cm 深さ3.8cm	西7.2cm	無し	床面に焼土散在する。	
179	059　1038	住居跡	古墳後期	(短径)6.40m　深さ32.1cm	N-37°-W	P１ 56.9cm　P２ 62.0cm	北カマド 長軸 N-34°-W。 火床長軸長60.0cm 深さ5.0cm	西0.7cm　北32.1cm	東13.9cm　西13.1cm 北12.6cm	遺物はカマド周辺で集中的に検出される。何れも床密着の状況である。	
180	059　1040	住居跡	弥生	長径6.06m　短径5.58m　深さ74.4cm	N-54°-W	P１ 78.5cm　P２ 64.1cm P３ 82.7cm　P４ 76.6cm P５ 60.3cm　P６ 4.7cm P７ 4.4cm　P８ 6.2cm P９ 5.2cm　P10 6.7cm P11 14.5cm　P12 5.6cm P13 5.5cm　P14 14.2cm P15 26.4cm　P16 5.8cm P17 4.5cm　P18 15.7cm P19 19.9cm	長軸 N-37°-W。 長軸長100.0cm 深さ10.2cm	東17.5cm　西73.0cm 南74.4cm　北70.7cm	東10.1cm　西10.0cm 南10.9cm　北11.3cm	掘り込みの深い住居跡である。	
181	セ29　G-40	土坑	不明	長径2.00m　短径0.88m　深さ13.3cm	N-80°-E			東13.3cm　西9.2cm 南11.1cm　北4.4cm			
182	セ29　G-39	住居跡	弥生			P１ 19.3cm　P２ 22.7cm	長軸 N-42°-W。 長軸長48.0cm 深さ5.0cm	東54.9cm　北15.0cm	無し	P２は本遺構と直接関係なし。	
183	セ29　G-29	住居跡	弥生				未検出	西44.9cm　北42.1cm	無し		
184	セ29　G５	住居跡	弥生	長径(3.50)ｍ　短径3.40ｍ　深さ55.6cm	N-48°-W	P３ 4.7cm　P４ 24.3cm	長軸 N-61°-W。 長軸長72.0cm 深さ6.8cm	東44.2cm　西33.9cm 北55.6cm	東3.4cm	遺物の接合関係から、クロス地点の遺物が186号内出土遺物と接合するため、186号に削平されることが判明。	
185	セ29　G32	土壙墓	弥生	長径1.70m　短径1.00m　深さ96.2cm	N-51°-W			東90.7cm　西39.1cm 南41.9cm　北96.2cm		底面から1.6cm浮いた状況でガラス小玉２点出土。他の遺物は底面から80cm程浮いて検出されることから、ガラス小玉は被葬者が身に付けて、土器は供献用と推定される。	ガラス小玉は総数22点出土

新番号	旧番号	性　格	時　期	規　　模	主　軸	ピット（深さ）	炉・カマド	壁　　高	周溝・溝	そ　の　他	
186	セ29　G30	住居跡	弥生	長径3.82m　深さ96.2cm	N-68°-W	P5 39.3cm　P6　6.3cm P7 17.7cm　P8 25.3cm	長軸N-70°-W。 長軸長102.0cm 深さ7.8cm	東49.9cm　西28.2cm 南 2.8cm	南6.7cm	188号の焼土を削平することから本遺構の方が新しい。	
187	セ29　G31G26	方形周溝墓	弥生		N-23°-W			東44.4cm　西34.0cm 南21.2cm　北43.9cm	東溝上端4.78m 下端4.20m 幅1.36m前後 深さ44.4cm 北溝　深さ9.5cm	北溝より甕と高坏が出土。主軸方位は東溝長軸。204号と調査時に遺構番号が26号で重複するが、銅釧片が検出されたドット図より本遺構を26A、204号を26Bと分ける。	帯状円環型銅釧片が検出。
188	セ29　G28	住居跡	弥生	深さ46.0cm		P9 36.1cm　P10 99.0cm		東46.0　北41.6cm	北4.5cm	186号に削平される。P10は本遺構と直接関係なし。	
189	セ29G4　G14 G17　G18　G11	方形周溝墓	弥生	方台部東西内径5.24m　南北4.42m	N-49°-W	P11 18.6cm		木棺痕確認面 東52.8cm　西44.6cm 南50.2cm　北57.6cm 木棺痕 東9.0cm　西 8.8cm 北11.4cm	東溝上端3.80m 下端2.86m 幅0.91m前後 深さ13.3cm 西溝上端2.88m 下端2.72m 幅0.78m前後 深さ40.4cm 南溝上端(5.26)m 深さ17.0cm 北溝上端（2.96)m 幅1.18m前後 深さ14.6cm	N-49°-W 墓壙　長径2.40m 短径1.32m　深さ57.6cm 木棺長(1.20)m 幅40～55cm　深さ11.4cm 主軸方位は墓壙長軸	木棺痕内より総数20点のガラス小玉と1点の勾玉が検出される。
190	セ29　G22	土坑	弥生	短径1.80m　深さ10.8cm	N-38°-W					主軸方位は短径より	
191	セ29　番号無し	187号主体部？	弥生	深さ46.2cm				東44.7cm　北46.2cm		調査時遺構番号なし。年報では187号方形周溝墓の埋葬施設としてトーンで示される。	
192	セ29　G27	住居跡	弥生	長径(2.84)m　深さ18.7cm	N-25°-W	P12 12.8cm　P13 14.9cm		西14.5cm　南7.4cm 北18.7cm		主軸方位は長径より。底面はほぼ平坦。P14・P15は、深さそれぞれ32.3cm・32.0cmである。	
193	セ29　G2	住居跡	弥生		N-35°-W	P1 75.1cm　P2 30.5cm P3 77.8cm　P4 73.3cm P5 44.5cm　P6 39.9cm	長軸N-70°-W。 長軸長64.0cm 深さ6.9cm	東34.0cm　西36.0cm 南36.6cm	無し		
194	セ29　G25	土壙墓	弥生	長径2.50m　短径1.20m　深さ24.8cm	N-20°-W	P1 16.6cm　P2 48.0cm		東15.4cm　西24.8cm 南18.9cm			
195	セ29　G7	住居跡	弥生	長径7.60m　短径6.34m　深さ45.0cm	N-51°-W	P1 63.0cm　P2 55.3cm P3 64.2cm　P4 65.5cm P5 43.5cm　P6 26.6cm P7 22.7cm　P8 59.7cm P9 41.0cm　P10 22.2cm P11 11.2cm　P12 19.0cm P13 25.0cm　P14 8.5cm P15 8.5cm　P16 18.8cm P17 38.8cm　P18 5.0cm P19 20.0cm　P20 17.8cm P21 32.0cm　P22 22.8cm P23 15.8cm　P24 12.6cm P25 26.6cm　P26 54.3cm P27 53.5cm	長軸N-61°-W。 長軸長84.0cm 深さ18.9cm	東45.0cm　西39.1cm 南31.7cm　北 5.8cm	東　9.8cm 西外4.2cm　内 7.0cm 南外7.2cm　内13.0cm 北外8.0cm　内11.6cm	拡張住居	
196	セ29　G16	住居跡	弥生	深さ24.4cm		P1 35.6cm	未検出	西17.0cm　南24.4cm	無し	銅製指輪（銅環）検出。	

新番号	旧番号	性　格	時　期	規　　模	主　軸	ピット（深さ）	炉・カマド	壁　　高	周溝・溝	そ　の　他	
197	セ29　G９	土壙墓？	弥生	長径2.58m　短径1.40m　深さ40.6cm	N-13°-W	P１ 25.5cm　P２ 23.3cm		東36.6cm　西15.3cm 南40.6cm　北13.6cm			
198	セ29　G10	土坑	弥生	長径3.02m　深さ29.8cm	N-41°-W	P１ 32.0cm　P２ 1.0cm	未検出	西29.8cm　南13.6cm 北 8.2cm	無し		
199	セ29G３　G８ G19　G20　G12	方形周溝墓	弥生		N-４°-W	P１ 26.5cm　P２ 41.8cm P３ 69.3cm　P４ 42.4cm P５ 46.6cm　P６ 4.5cm P７ 35.3cm　P８ 17.4cm			東溝上端(6.72)ｍ 下端4.0ｍ以上 幅0.90m前後 深さ30.9cm 西溝上端6.30ｍ 下端5.94ｍ以上 幅1.0ｍ前後 深さ41.8cm 南溝上端5.90ｍ 下端5.52m 深さ49.9cm 北溝上端(5.0)ｍ 下端4.70m 幅1.20m前後 深さ56.6cm	N-７°-W 墓壙　長径2.82m 短径1.28m 深さ55.5cm 主軸方位は墓壙長軸	主軸方位は墓壙長軸。墓壙より尺骨と撓骨を伴った５連の帯状円環型銅釧と14点のガラス小玉、及び１点の管玉が検出される。
200	セ29　G13	住居跡	弥生	深さ11.1cm		P９ 68.1cm	未検出	東11.1cm　南7.6cm 北10.7cm	無し		
201	セ29　G６	住居跡	弥生	長径4.80m　深さ16.9cm	N-37°-W	P10　6.5cm　P11 20.5cm P12 15.4cm　P13 58.8cm P14 11.4cm　P15 20.0cm P16 16.1cm　P17 10.7cm	長軸N-10°-W。 長軸長84.0cm 深さ3.7cm	東5.1cm　西 5.3cm 南6.9cm　北16.9cm	無し		
202	セ29　G15A	焼土・炭化物	古墳築造以前	長径3.88m　短径1.78m　厚さ15.8cm						先行する方形周溝墓に伴う可能性も考えたが、古墳断面図に方形周溝墓の盛土を再利用した痕跡が見当たらないことや、古墳のほぼ中央に位置することから、古墳盛土開始直前に発生した焼土・炭化物層と判断される。	
203	セ29　G15B	住居跡	弥生	長径3.10m　深さ35.6cm	N-74°-W	P18 15.1cm　P19 10.2cm P20 18.8cm　P21 10.3cm	長軸N-74°-W。 長軸長88.0cm 深さ6.4cm	東23.3cm　西28.9cm 南21.5cm　北35.6cm	無し		
204	セ29　G26	住居跡	弥生	深さ3.4cm		P22 26.6cm　P23 18.3cm	未検出	北3.4cm	無し	床面に炭化物散在。	
205	セ29　G33	住居跡	弥生	長径5.0ｍ　深さ63.8cm	N-66°-W	P１ 75.7cm　P２ 67.9cm P３ 67.4cm　P４ 51.7cm P５ 2.2cm　P６ 11.7cm P７ 25.1cm　P８ 5.3cm P９ 1.7cm　P10 18.6cm	長軸N-63°-W。 長軸長116.0cm 深さ9.3cm	東23.3cm　西18.3cm 北63.8cm	東1.0cm　西2.2cm 北4.4cm		
206	セ29　G34　G37	木棺墓	弥生	墓壙 長径2.85m　短径1.35m 木棺痕 長径2.03m　短形0.61m　深さ59.8cm	N-88°-W	P１ 29.2cm　P２ 57.8cm		墓壙 東72.6cm　西23.7cm 南21.3cm　北24.8cm	周溝 長さ5.10m、 幅60.0cm前後 深さ43.5～57.8cm前後	主軸方位は墓壙長軸。墓壙より尺骨と撓骨を伴った５連の鋳造円環型銅釧と36点のガラス小玉（２点は状況不良につき不実測）、及び１点の管玉が検出される。方形周溝墓主体部とする調査者の見解がある。	
207	セ29　G38	住居跡	弥生	短径2.98m　深さ48.3cm	N-60°-W	未検出	長軸N-46°-W。 長軸長72.0cm 深さ2.4cm	西44.0cm　南40.5cm 北48.3cm			
208	セ29　G23	住居跡	弥生	短径3.32m　深さ48.3cm	N-39°-W	P１ 12.1cm　P２ 8.1cm	長軸N-46°-E。 長軸長1.40m 深さ2.2cm	東45.7cm　西32.6cm 北42.2cm	西5.1cm　北2.4cm	炉長軸方位は大きく東に傾くため、縄文炉穴がたまたま本遺構炉の位置に重複している可能性がある。	

新番号	旧番号	性　格	時　期	規　　模	主　軸	ピット（深さ）	炉・カマド	壁　　高	周溝・溝	そ　の　他	
209		土壙墓？	弥生	長径2.16m　短径1.08m　深さ50.6cm	N-38°-W			東50.6cm　西37.6cm 南31.1cm　北42.7cm		年報によれば、弥生土壙墓とする調査者の見解がある。	
210	セ29　G１	住居跡	弥生	長径6.0m　深さ21.4cm	N-21°-W	P１ 77.9cm　P２ 50.4cm P３ 89.8cm　P４ 21.2cm P５ 66.0cm　P６ 44.8cm P７ 17.7cm	長軸N-10°-W。 長軸長68.0m 深さ5.4cm	西18.1cm　南21.4cm 北19.4cm	無し		
211	059　2018 セ68　M-３	溝	不明	全長115m　幅0.8～1.0m前後 深さ18～30.3cm(西側)　29～88.3cm(南側)							
212	059　2021	溝	不明	全長16.4m　幅0.8m前後　深さ9.2～17.7cm							
213	059　2020	溝	不明	全長6.8m　幅2.2m前後　深さ28.6～48.0cm							
214	059　2017	溝	不明	全長22.9m　幅1.2m～6.0m前後 深さ12.7～42.7cm							
215	059　2012 セ68　ST-４	溝	不明	全長93.0m　幅1.0m前後　深さ128.9cm						218号に削平される。	
216	059　2014	溝	不明	全長22.0m　幅0.5m前後　深さ10.7cm前後							
217	059　2010	溝	不明	全長83.2m　幅5.4m前後 深さ8.0～54.0cm前後							
218	059　2011 セ-68　M-６	溝	不明	全長51.0m　幅0.5～3.2m前後 深さ6.6～55.0cm前後						セ68調査区域内では２号墳の西側周溝断面図に深さ55cmで表される。２号墳を削平する。	
219	059　2009	溝	不明	全長13.0m　幅1.0m前後 深さ5.2～38.5cm前後							
220	059　2015	溝	不明	全長22.0m　幅0.36～0.88m前後 深さ5.5～6.5cm前後						１m～1.8mピッチで低面にピットを持つ。深さは西よりそれぞれ８・15.2・27.5・26.5・26.0cmを測る。	
221	059　2006	溝	不明	全長12.8m　幅0.7m前後 深さ5.9～13.7cm前後							
222	059　2005	溝	不明	全長19.6m　幅1.0m前後 深さ30.4～47.2cm前後							
223	059　2003	溝	不明	全長82.1m　幅1.3～1.6m前後 深さ4.8～19.0cm前後							
224	059　2001	溝	中世	全長7.54m　幅0.85m前後　深さ50.0cm前後							
225	セ-68　M-５	溝	不明	全長27.0m　幅0.5～0.80m前後						レベル記載なし。	
226	059　2007	溝（道路跡）	中世	全長34.0m　幅2.0m前後　深さ39.8～51.7cm						セ29調査範囲では。道路硬化面（長さ11.2m幅30cm前後）のみの検出	

Ⅱ　遺構と遺物

１号遺構（辺田１号墳）

昭和59年度の調査時には北側周溝部が根田１号墳として調査され、墳丘本体が調査された昭和60年度年報で根田６号墳（別名辺田１号墳）としてその概要が報告された古墳である。今回の整理報告に際し、正式名称として『市原市埋蔵文化財分布地図―北部編―』に記載される「辺田１号墳」を踏襲するが、便宜上１号遺構として報告する。なお、土層断面図について、遺構写真で確認される長軸方向の土層断面図は、所在不明であり図示することができなかった。

現況

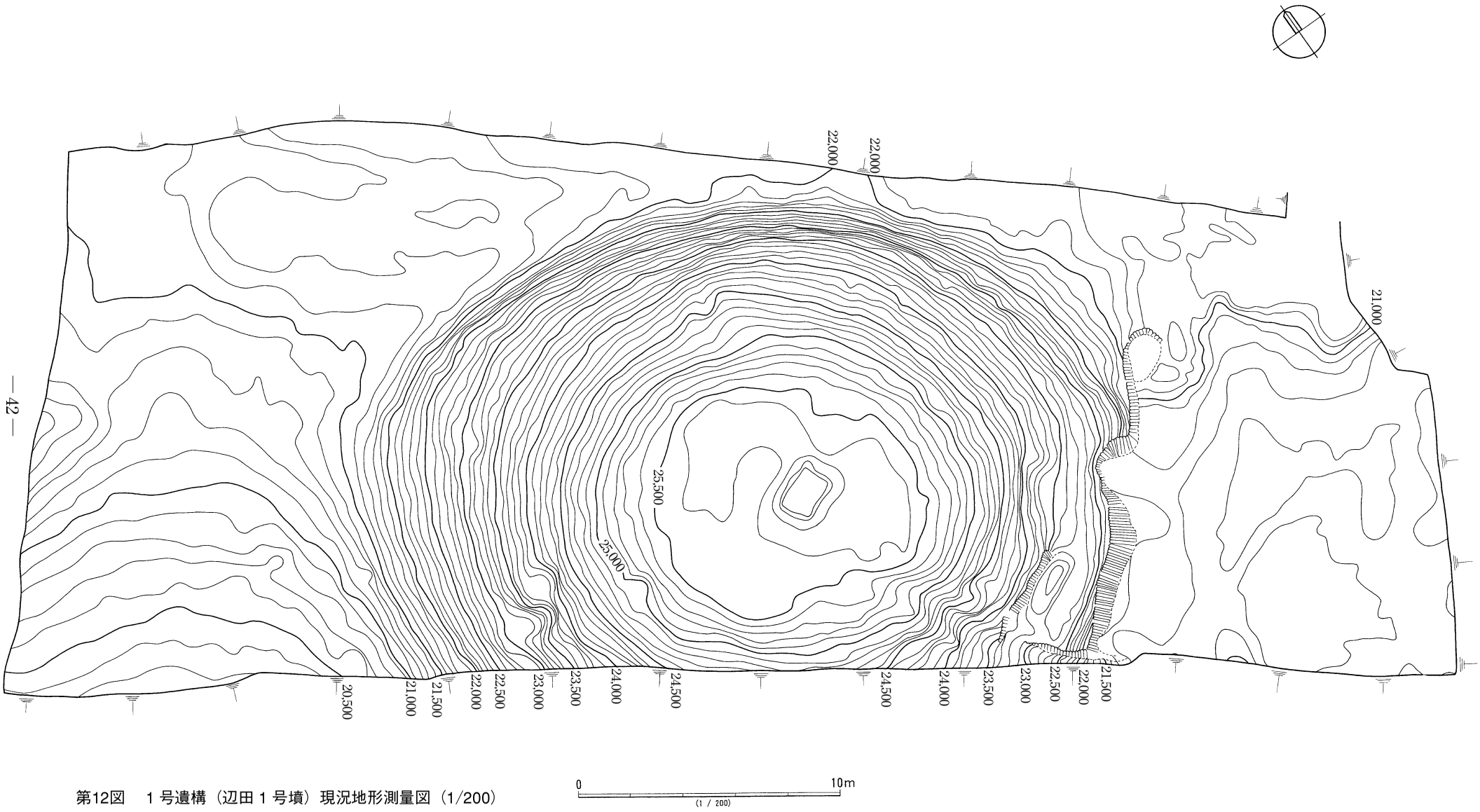
御林跡遺跡が所在する舌状台地の南端に位置する。墳丘の南側の一部と周溝のおよそ１／３程は、眼下集落保護の法面として既に削平されている。また墳丘中央部には、おそらく墳頂部周辺の土を掻き集めて造ったと想定される高さ40㎝程の土壇が構築されており、その上に旧地権者の「家神様」を祭った祠が存在していた。この祠と法面に所在した樹木数本は、「家神様」と供に御神木として移転したいという地権者の強い要望があり、これに応じた。（第13図参照）

墳丘と周溝

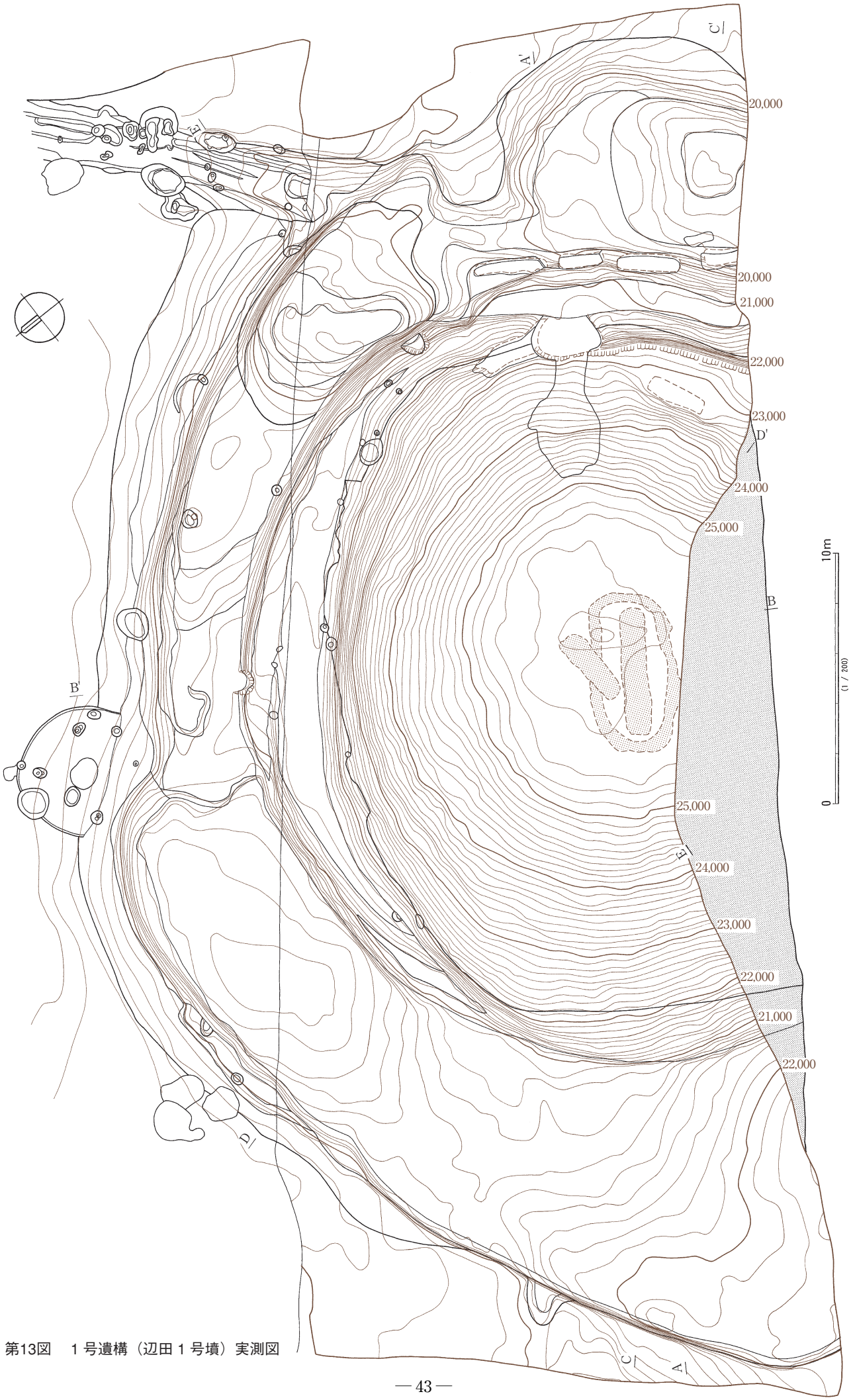
墳丘は下層遺構がほぼ埋没した段階で、墳丘構築計画面の中央部で、おそらく古墳築造に伴う野焼き等を行って生じた焼土層の上に、ローム主体層と有機質土主体層を交互に積み上げて構築されている。周溝は、幅・深さとも不規則で、相対的に北東側が狭く深く、西側が広く浅く掘り込まれている。また北側よりも東西周溝が広い形態を呈し、覆土は自然堆積の状況を示している。今回の調査範囲からは前方部や張り出し部が検出されなかったが、墳丘が所在する位置から、南側の法面で削平された範囲を旧地形に復原したとしても、出現期古墳とされる前方部を保持する神門古墳群が、埋葬施設長軸の延長が前方部に乗るのに対し、現状で本墳本来の埋葬施設長軸上の延長が推定前方部の中心線から大幅にずれていることから、更に南側に突出部の存在を想定することが困難である。したがって、本墳は東西方向がやや長い円墳であろうと推定される。その規模は長軸方向の東西外径51.8m、内径32.2m、盛土高は3.65m、墳頂部平坦面は直径約10m、周溝は幅8.8m～15.0m、深さは0.6m～1.80mを測る。なお、下層の193・195・199号遺構覆土最上面の５～15㎝程の窪みに、本墳の盛土として使用されたローム土が若干検出されているが、下層遺構が完全に埋没しきらない段階で古墳が構築されたのではなく、本墳の土圧によって比較的軟弱な地層上に盛土が食い込んだ結果と考えたい。

墳頂部底部穿孔壺の出土状況

既に昭和59年度の周溝調査の段階で既に底部穿孔壺が出土しており、本墳に直接伴う遺物と判断されていたため、調査は慎重に進められた。墳頂部の表土を５㎝程除去した段階で、数箇所から底部穿孔壺片が出土しはじめた。更に墳頂部中央を30㎝程掘り下げたところで、極めて有機質性の強い黒色土と供に土師器小物類や底部穿孔壺が検出された。また併行して調査された墳丘や周溝内のいたるところからも底部穿孔壺や土師器が検出されている。この内１－９は、大半を北側周溝底で検出しながらも、墳頂部中央遺物集中地点一括で取り上げられた底部穿孔部と接合関係を有するものであり、本来墳頂部に存在していたことが確認されている。また昭和59年度調査時に検出された１-12は、周溝



第12図　1 号遺構（辺田 1 号墳）現況地形測量図（1/200）



第13図　1 号遺構（辺田 1 号墳）実測図

底からかなり浮いた状況で検出されていることから、周溝が埋没しはじめてから、かなり時間が経過した後に墳頂部から転落してきたものと察知される。これらのことから、周溝内から検出される底部穿孔壺は全て墳頂部から転落してきた遺物であろうと考えられる。また、周溝内より検出された古墳時代前期に比定される土師器も、周囲に同時期の遺構が存在しないことから、本墳に直接伴うものと判断し得る。

埋葬施設

本墳では2基の埋葬施設を検出した。一つは主たる埋葬施設に伴う区画溝を削平して追葬された第1主体部であり、もう一つは古相豊かな棺底出土遺物群より、古墳時代前期に比定される本墳本来の埋葬施設である第2主体部である。

第1主体部

墓壙

墳頂部中央の極めて有機質性の高い埋土を更に掘り下げていくと、極めて有機質性の高い埋土範囲は第15図に示すとおり大きく2箇所に分離した。一方は前期の土師器を検出する範囲で、もう一方は遺物を全く検出しない範囲である。この遺物が存在しない範囲を更に20㎝程下げると、明らかに木棺痕と推定される段状に一段下がる面が検出された。これを完掘したところ、第16図に示すとおりの掘り方となった。墓壙規模は、一段目長軸上端長3.86m、下端長3.54m。短軸上端長1.46m、下端長1.32m。深さは確認面より20～32㎝を測る。二段目は、長軸上端長3.14m、下端長2.88m、短軸上端長92㎝、下端長76㎝、深さは一段目より78㎝前後を測り、主軸方位はN-86°-Eを示す。

木棺痕

墓壙二段目はほぼ木棺設置痕と想定されるが、覆土最上層付近は有機質性が強い黒色土が主体であり、中層以下ローム含有割合が高くなる。最下層とその直上層は分離線そのものが間層となる有機質土を挟んだロームブロック主体層であり、最下層は木棺設置用の整地土、直上層は木棺被覆土と捉えることができる。これによって木棺の規模は、長さ2.80m幅90㎝高さ60㎝程度に復元できる。

遺物

慎重に精査したが、墓壙内からは何の遺物も検出されなかった。ただしこの墓壙が本墳の主体たる埋葬施設の区画溝を削平して構築されているため、第二主体部より時期が下ることが確実である。本墳出土遺物内にこれを求めた場合、後出する時期での比較的纏った資料は、周溝内より検出された1-157～164の7世紀末葉の遺物群であるため、これらの遺物が追葬に伴う土器群である可能性が高い。

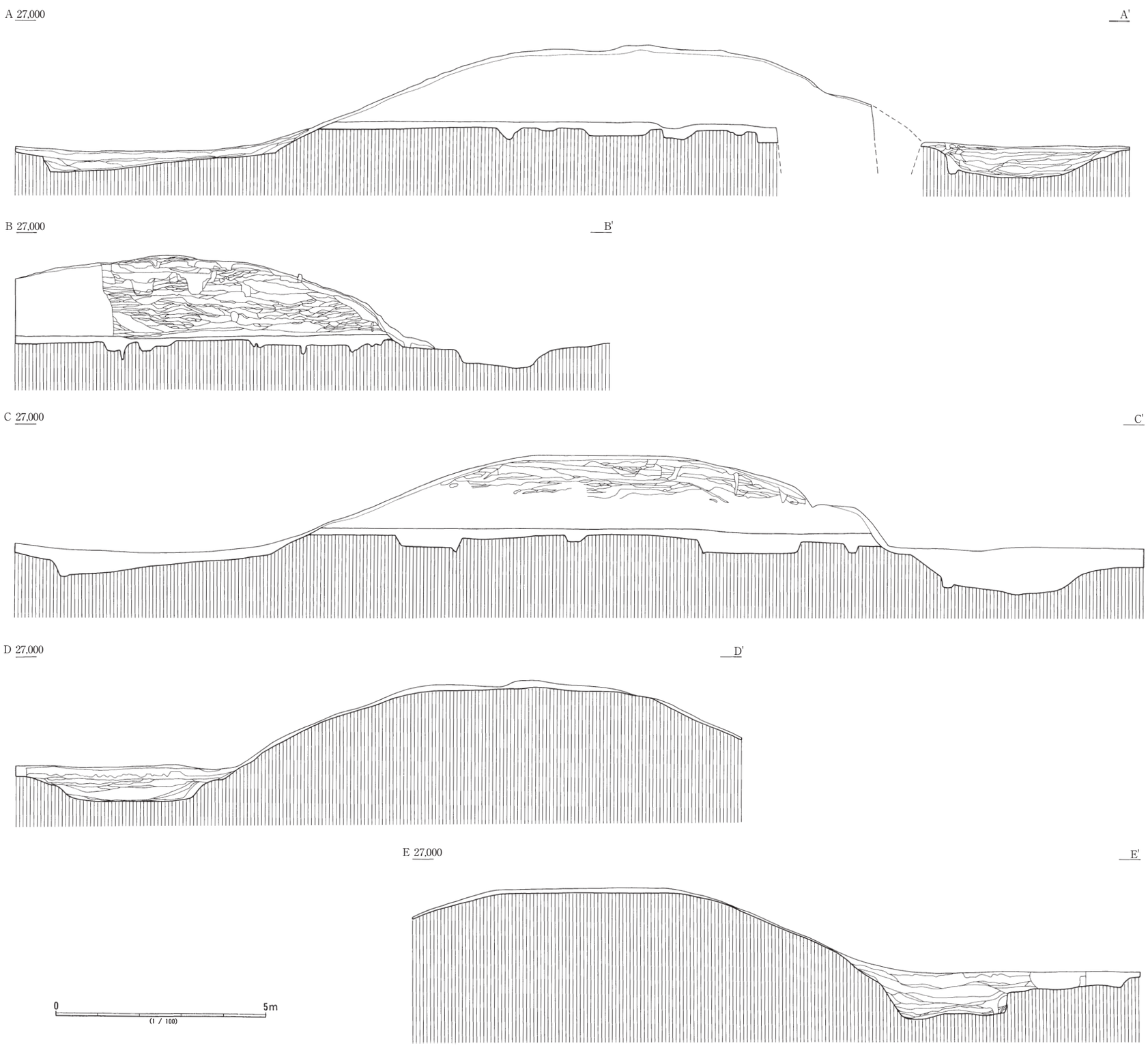
第2主体部

墓壙

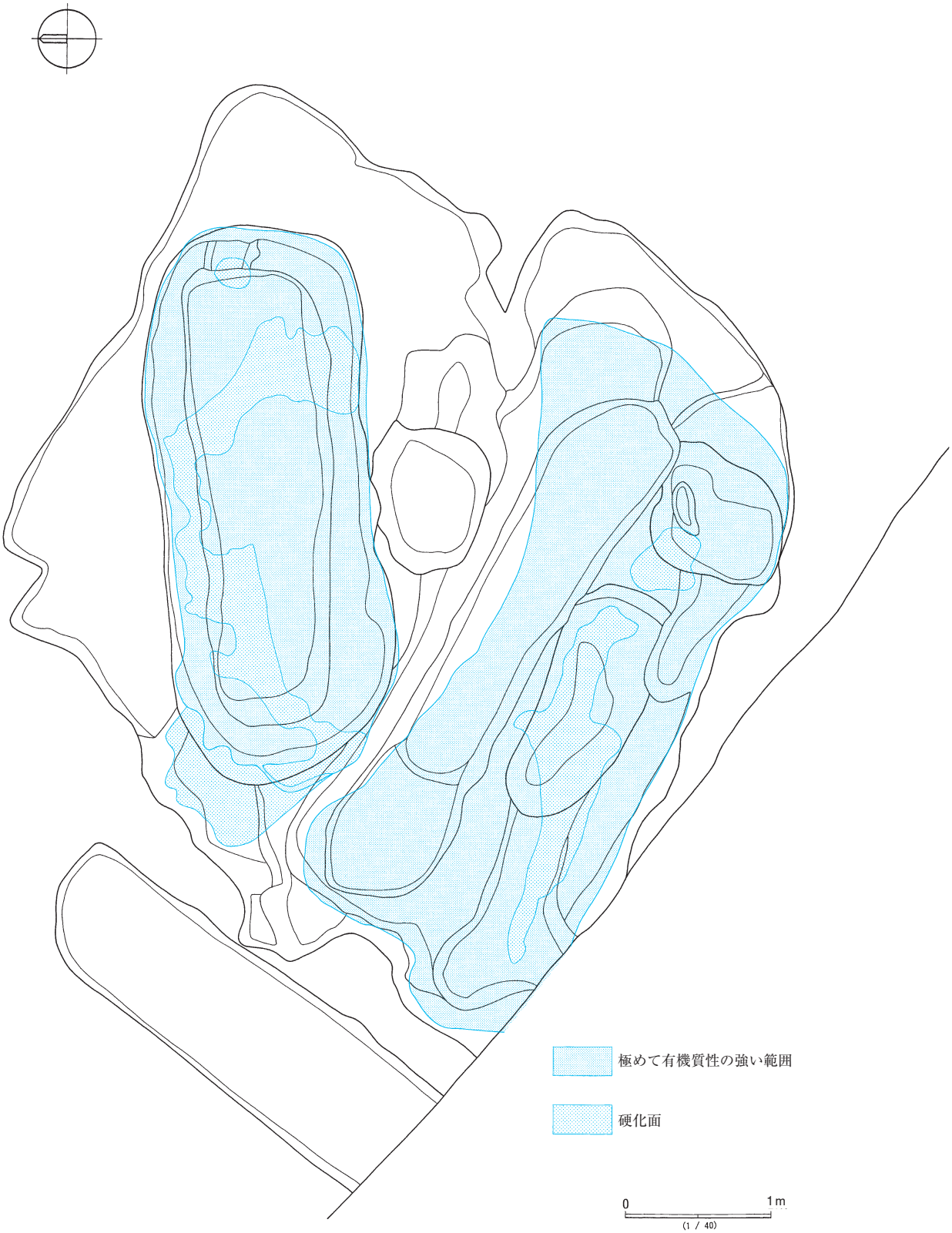
第一主体部木棺痕から南に20㎝程離れて存在する。前期の土師器を検出する範囲の有機質土を掘り下げて行ったところ、最終的には第17図のごとく素環頭大刀を含む遺物群を検出し、本墳本来の埋葬施設であることが確認されている。長軸長5.2m、短軸長1.0m、主軸方位はN-124°-Eを示し、深さは土層断面図より74㎝を測る。

木棺痕・遺物出土状況

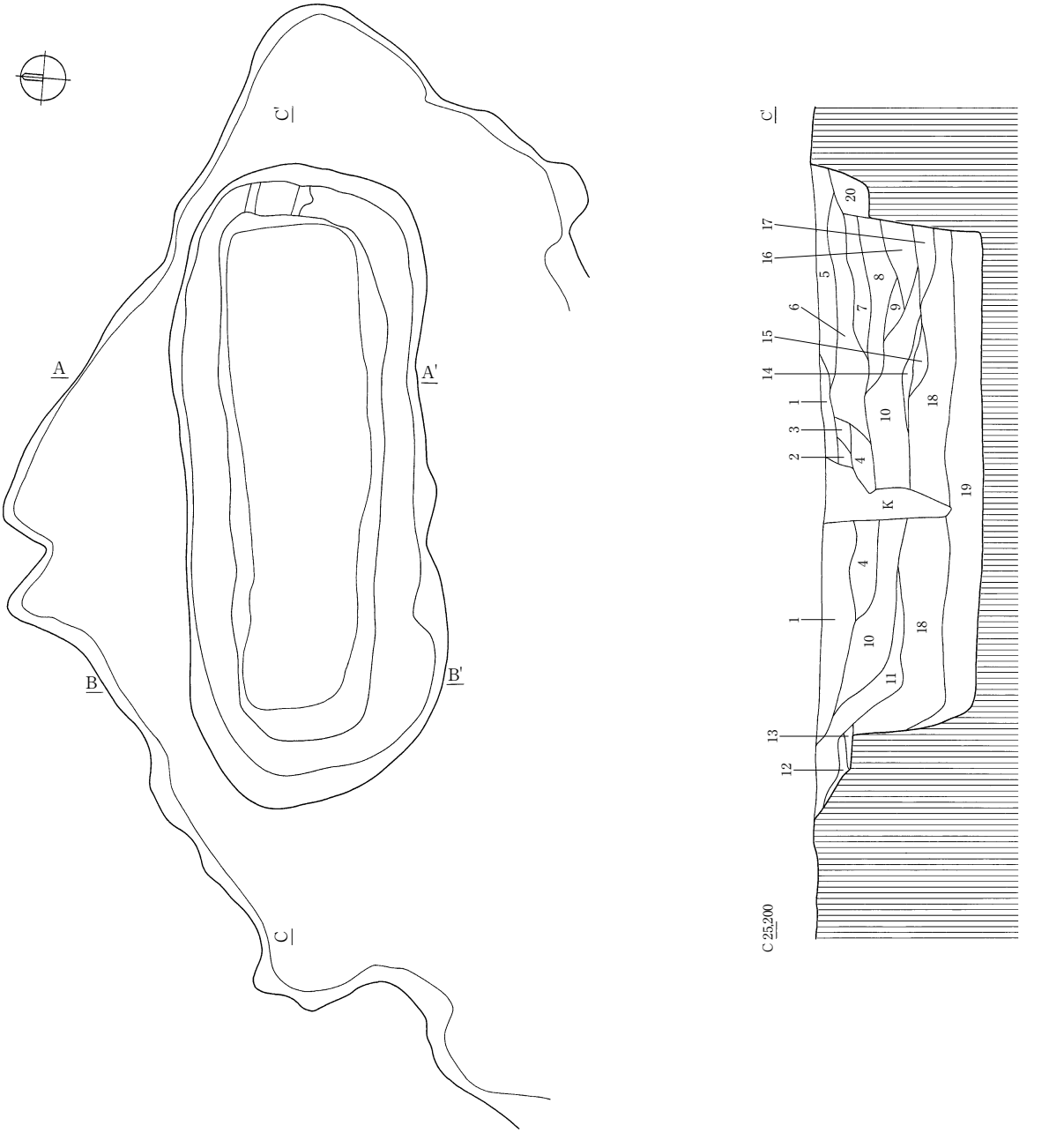
墓壙長軸より3°北側に振れ、東側墓壙掘り方下端より1.0m西側にずれて検出された。木棺痕の

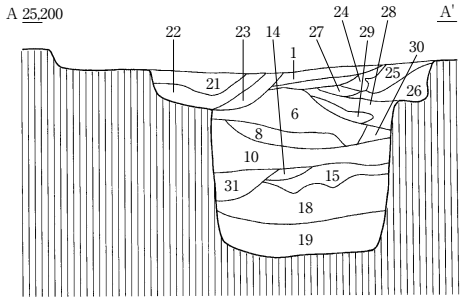


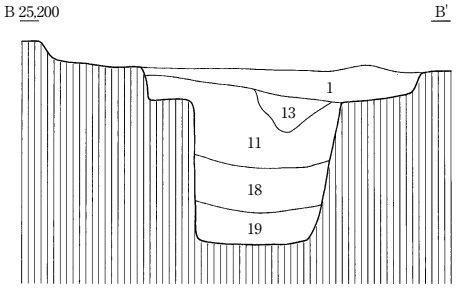
第14図　１号遺構（辺田１号墳）実測図



第15図　１号遺構（辺田１号墳）墳頂部有機質土集中範囲堀り下げ状況実測図



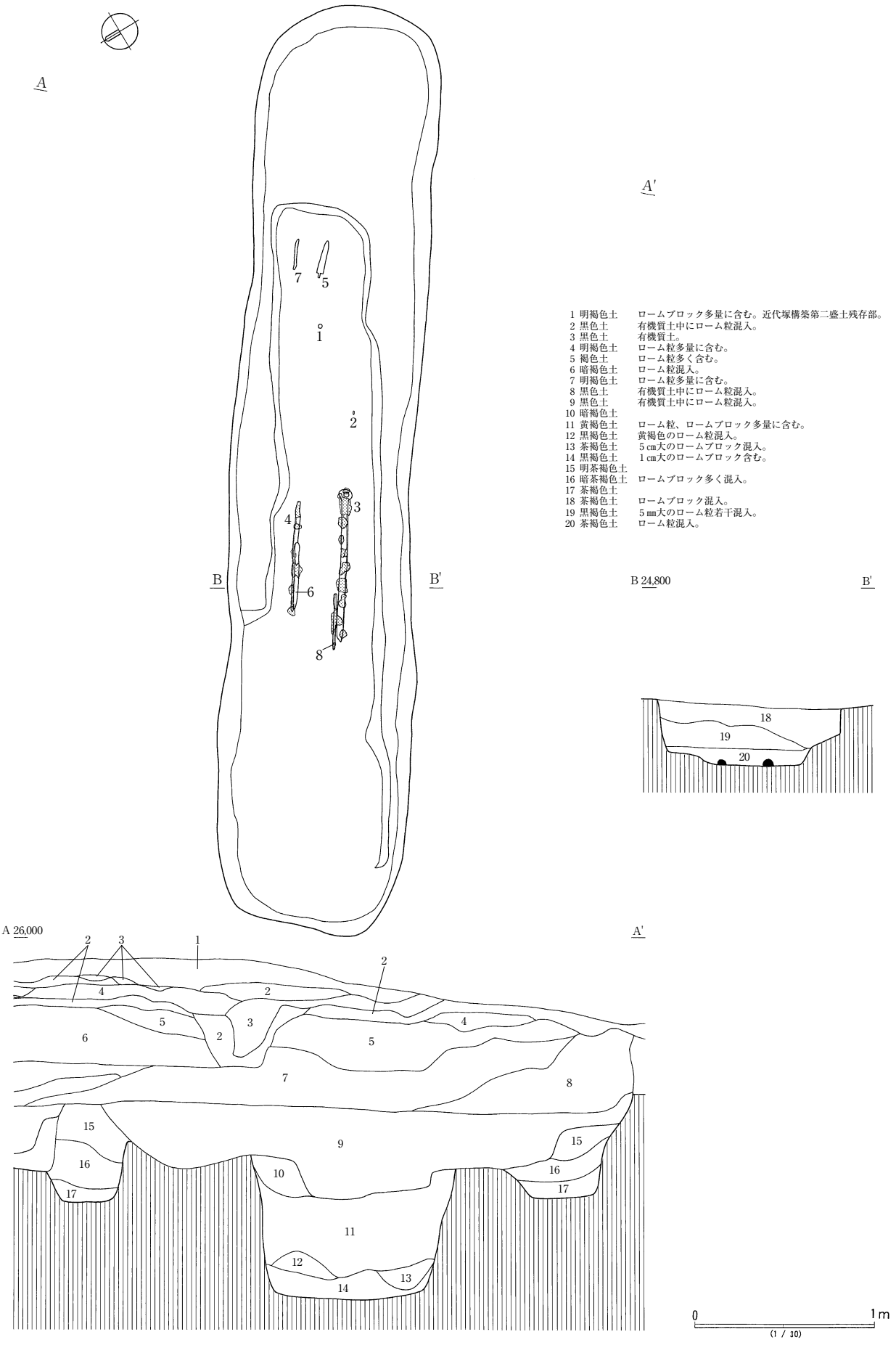




1 暗褐色土　ローム粒混入。
2 黒褐色土　有機質土中にローム粒混入。
3 黒色土　有機質土。
4 暗褐色土　ローム粒、1㎝大のロームブロック含む。
5 暗茶褐色土　ローム粒多く混入。
6 暗茶褐色土　5層よりローム粒多く含む。
7 暗褐色土　ローム粒、1㎝大のロームブロック含む。
8 茶褐色土　ロームブロック主体層。
9 黒色土　有機質土中にロームブロック粒混入。
10 暗茶褐色土　ロームブロック主体層硬く締る。
11 暗褐色土　ローム粒混入。
12 茶褐色土　黒褐色土混入。
13 黒褐色土　有機質土主体。
14 明褐色土　ローム粒、ロームブロック。
15 褐色土　ロームブロック。硬く締る。
16 暗褐色土　ローム粒混入。締りなし。
17 黒褐色土　ローム粒混入。
18 暗褐色土　ローム粒混入ロームブロック主体層。
19 明褐色土　暗茶褐色土混入ロームブロック主体層。
20 暗褐色土　ローム粒混入。締りなし。
21 暗茶褐色土
22 暗褐色土
23 暗黄褐色土
24 黄褐色土　暗黄褐色土混入。
25 黒褐色土　ローム混入。
26 暗黄褐色土
27 暗褐色土
28 暗黄褐色　1㎝大のロームブロック多量混入。
29 暗褐色土　ローム少ブロック多量混入。
30 暗褐色土　ローム少ブロック混入。
31 明褐色　ロームブロック。

0　1m
(1 / 40)

第16図　1号遺構（辺田1号墳）第1主体部実測図



第17図　1号遺構（辺田1号墳）第2主体部実測図

東側棺底からは５の槍・７の鉇が切先を東に向けて、中央部付近からは被葬者の左側面に想定される位置より３の素環頭大刀と８の剣、右側面と想定される位置からは４の大刀が６の剣を上に重ねる状態で、全て切先を被葬者の足下に向けて検出されている。大刀や槍の刃部の向きから、被葬者は頭部を東に向けて埋葬されたことが察知される。なお、頭部と想定される位置からは１の小型素文鏡が鏡面を上に向けて、左胸に想定される位置からは２の碧玉製管玉１点が検出されている。西側と北側半分の木棺痕跡が不明瞭ながら、西側墓壙壁近くに木棺端部と想定されるコーナー部を検出し、かつ、木棺を設置したと思われる墓壙棺底が平らなことから、長さ3.65m、幅60cm前後の組合式木棺が使用されていたものと考えられる。

墓壙区画溝

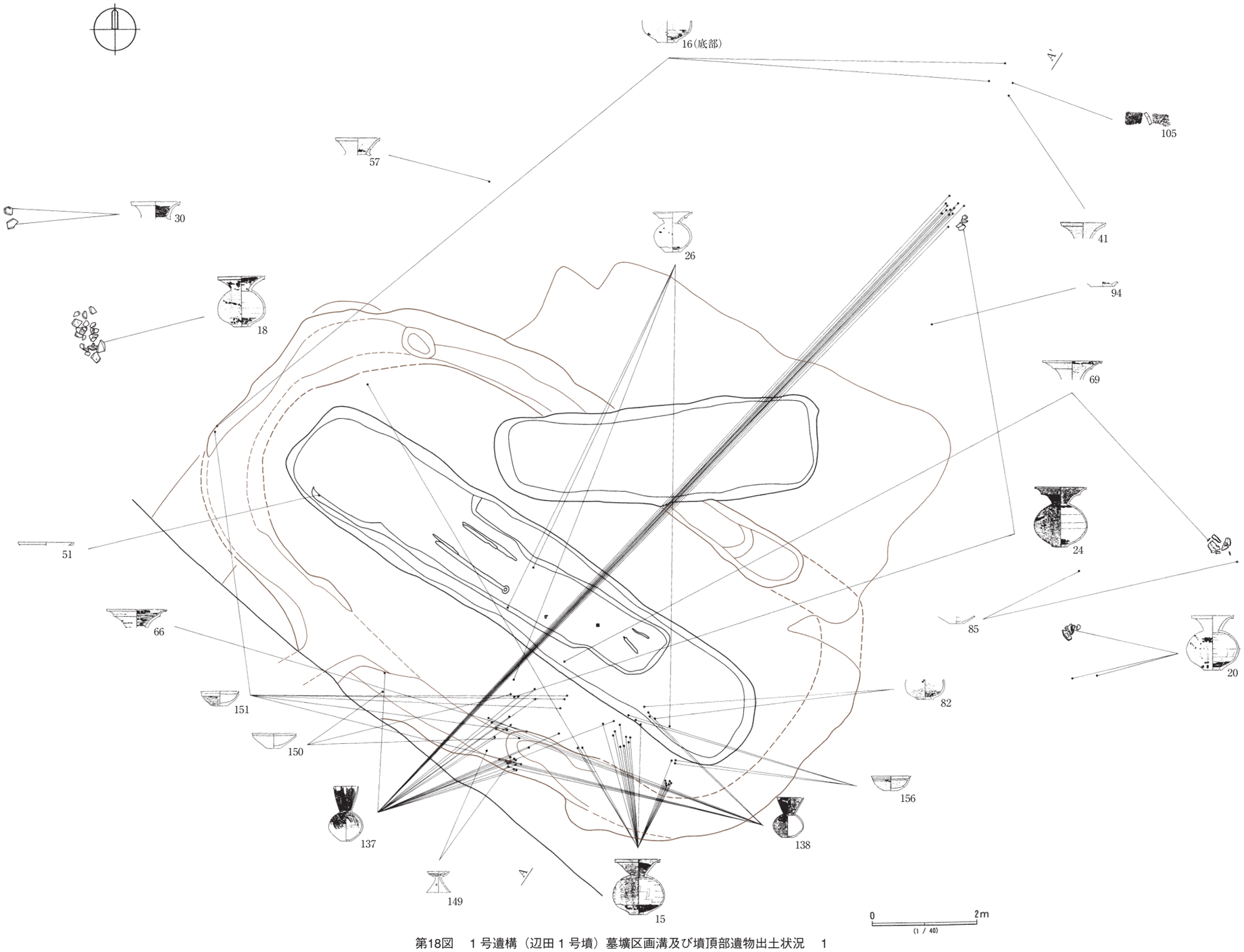
畿内では、主体部周辺を巡る排水溝と称される礫敷きの溝が埋葬施設に伴うことが通例であり、本墳の調査担当者も第２主体部周辺を巡る溝の存在に調査途中で気付き、その残存範囲を図化していた。溝の一部は、既に墳頂部中央の有機質土掘り下げによって失われてしまった箇所も存在したが、残された土層断面や第15図の有機質土掘下げ範囲等の検出レベルから再検討した結果、辛うじて残存する上端・下端が存在し、一部は第一主体部に削平されているものの、墓壙を巡る区画溝であろうと想定される（第18図)。畿内排水溝のごとく礫を伴わないものの、覆土最下層が黒色有機質土主体層で均一なことから、排水溝類似施設ないしは墓壙区画溝である可能性が極めて高い。なお溝底は、相対的に北・東側の方が西南側より若干低く構築されている。

遺物

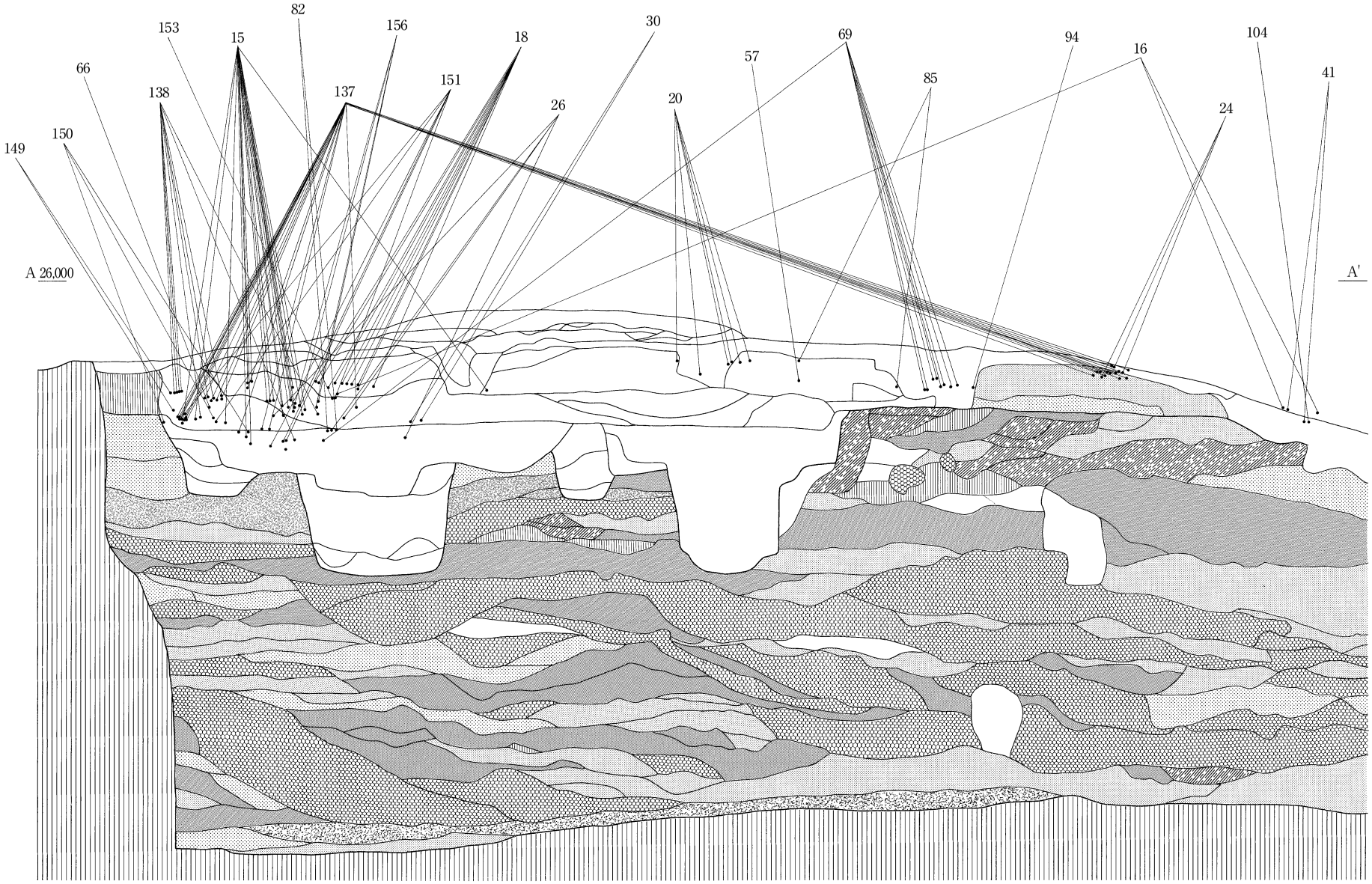
本墳からは11,527点136,739.3ｇの土器片と3,564点140,348.8ｇの礫・石器、94点2,077.3ｇの陶器片、42点2,702ｇの土製品、10点1,110.8ｇの金属器を検出した。土器片の内訳は、2,876点62,199.8ｇの土師器、14点258.5ｇの須恵器、7,867点60,734.3ｇの弥生土器、186点2,167.3ｇの早期撚糸文系土器、349点3,986.3ｇの早期条痕文系土器、１点10ｇの早期沈線文系土器、51点746.2ｇの前期繊維土器、38点3,523.8ｇの加曽利Ｂ式土器、12点517ｇの近世土器、87点1,727.3ｇの近世陶器、４点320ｇの中世陶器、３点30ｇの灰釉陶器である。これらの出土遺物の内293点を図示した。

第２主体部出土遺物

本墳第２主体部から出土した遺物を第21図１～９にまとめた。１は楕円紐を呈し、径2.85cmを測る青銅製小型素文鏡である。鏡背面は錆膨れ著しいが、鏡面は比較的遺存状況が良好である。２は碧玉製の管玉で、上下方向から径４～2.5㎜の穿孔が施されている。３は全長83.4cmを測る素環頭大刀である。刃部長64.3cm、環頭部を含めた茎長20.0cm、環頭幅6.3cmを測り、茎端を刃部側に折り曲げ環頭部を造る。環頭部の断面はほぼ円形を呈し、茎部との接する部位は唯一Ｄ字を呈している。茎部と刃部の境は浅く斜めに切られた撫関状を呈し、刃部と茎部の両面の一部に木質が付着し、環頭側の片側に糸状繊維質が残存する。４は残長63.3cmを測る平棟平造りの大刀である。茎尻部を欠くが、刃部長56.6cm、茎残長6.7cmを測り、片関からの刀身の反りは４㎜を測る。茎部の２箇所に幅３㎜程の目釘孔が貫通し、刃部と茎部の両面に木質が残存する。５は木棺痕東側中央部より検出された残長22.4cmを測る短剣もしくは鉄槍である。石突部は検出されなかったが、出土位置から鉄槍である可能性が高い。刃部長19.0cm茎残長3.4cmを測り、関は両側に切り込まれ、両刃造りであるが鎬は明瞭ではなく、刃部と茎部の両面に木質が残存する。エックス線写真撮影を行ったが、茎部の目釘孔は確認



第18図　1 号遺構（辺田 1 号墳）墓壙区画溝及び墳頂部遺物出土状況　1



第19図　1号遺構（辺田1号墳）墳頂部出土遺物状況　2

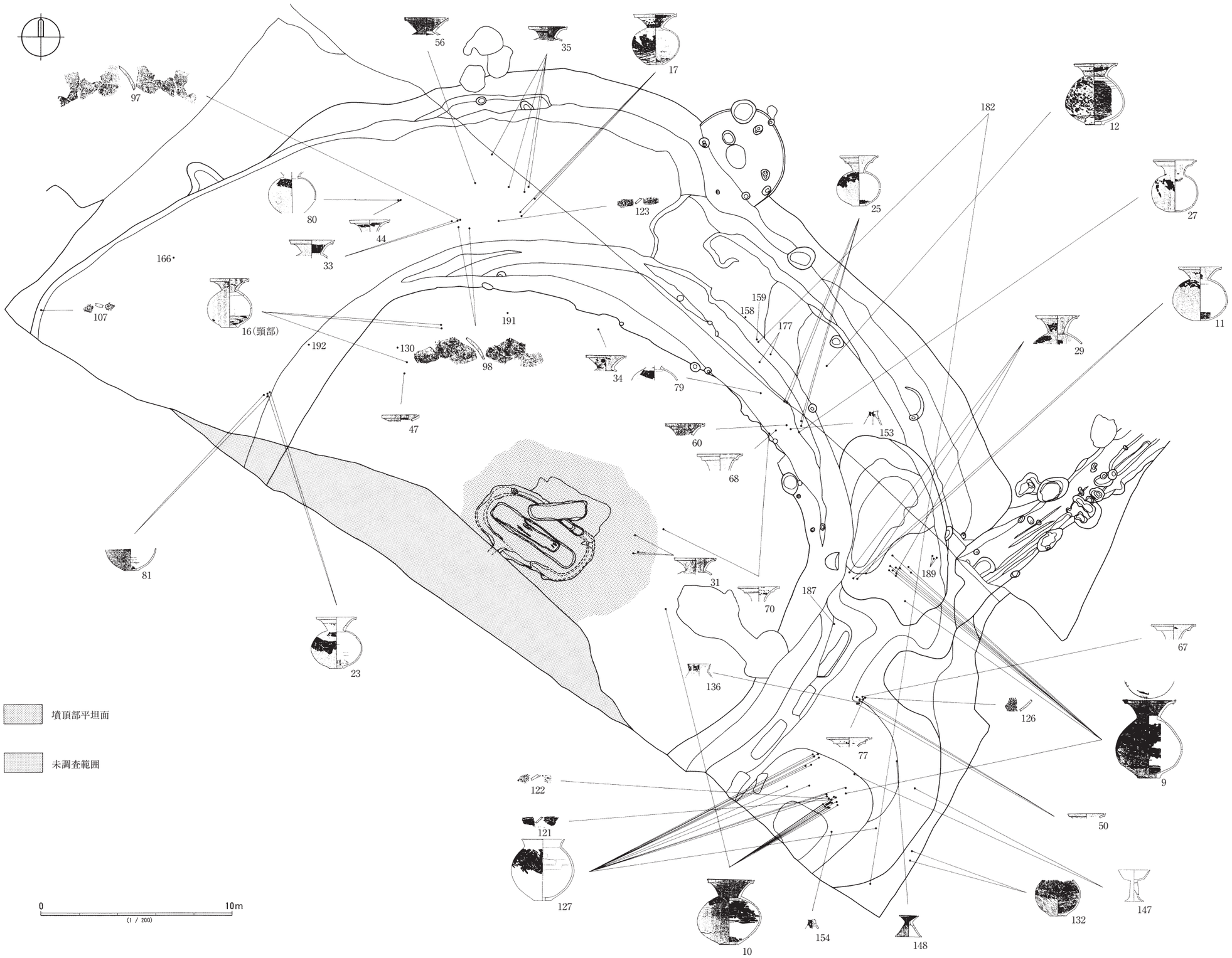
できなかった。6は全長36.8cmを測る鉄剣である。関部が欠損しているが、両関の鎬造りで、刃部長29.1cm最大幅2.6cm、茎部長7.7cm幅1.5cm程度に復原できる。茎部断面は長方形を呈し、中央部に一穴の目釘孔が貫通する。刃部と茎部に木質が付着し、柄部には木質の上からの糸巻きを漆で固めた痕跡が認められる。7は5の北側から検出された鉇である。全長17.4cm刃部長2.5cm茎部長14.9cmを測り、刃部に布の付着が認められることから、埋葬時に刃部が布で包れていたことが察知される。茎部は断面長方形を呈し、木質と糸巻き状の繊維質の付着が認められる。8は3の素環頭大刀付近より検出された鉄剣である。全長29.9cm刃部長25.4cm茎部長4.5cmを測る。両関の鎬造りで、茎部断面は長方形を呈し、中央部に一穴の目釘孔が貫通する。刃部と茎部に木質が付着し、柄部には木質の上からの糸巻きを漆で固めた痕跡が認められる。

底部穿孔壺ほか

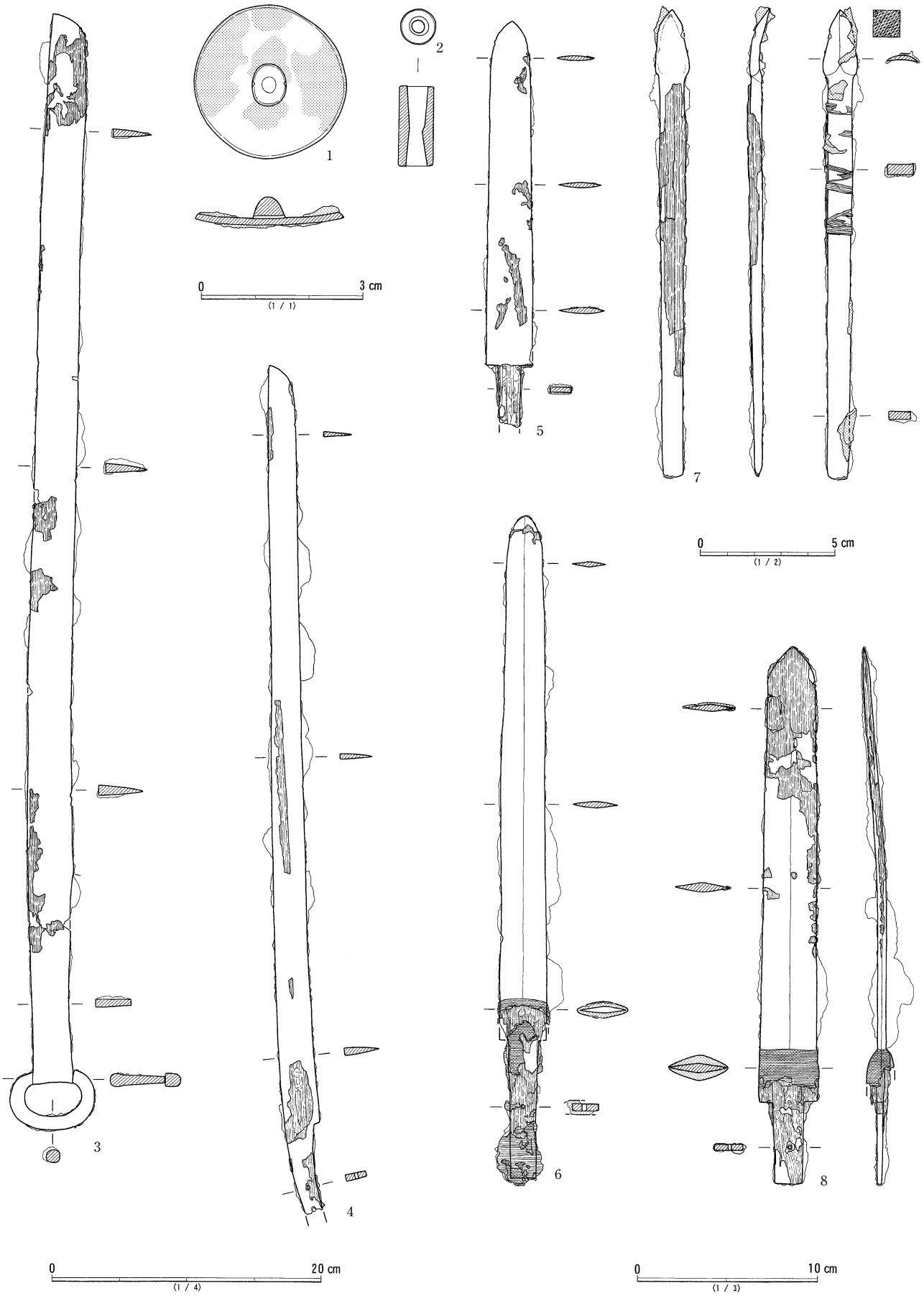
本墳出土遺物の最大の特徴は、墳頂部や周溝内より極めて大量に検出された底部穿孔壺群の存在であり、出土した底部穿孔壺を第22図1－9から第26図1-126にまとめた。9～21は単口縁焼成前底部穿孔壺、22～26は二重口縁焼成前底部穿孔壺の完形、もしくはその全容の判明する土器群である。単口縁壺は、9・10・12・16などの二重口縁壺に比べ器厚が厚く質量がやや重い製品が存在する一方で、頸部から口縁部の造りを除けば、ほぼ二重口縁壺と同じ胴部構造をもつ製品も存在し、単に頸部以下の破片では単口縁壺か二重口縁壺なのか見分けがつかない製品が存在する。また、単口縁壺は口縁部の造りや全体的なプロポーションが殆ど均一的な器形を呈していることがその特徴であり、器形の復元も容易である。21は口縁と底部を欠くが、全体的なバランスとその造りから、単口縁壺に復元できる。これらの底部穿孔壺は、二重口縁壺と単口縁壺に大別され、さらに単口縁壺は9の特大、10・11の大、13～20の中、25の小型に細別することができるが、器厚が厚く、その造りは鈍重で鈍く、大きさの割に重量が特に重い一群が存在する（18・21）。また、単口縁中型壺口縁部破片は、底部穿孔壺の中でも最も多く検出され、口縁部1/2以下の遺存度のものは、同一個体か別個体かどうか見分けがつかないほど近似している製品が多い。

一方、二重口縁壺は、全体の器形が判明したものは5点にすぎないが、明らかに単口縁壺に比べ器厚が薄く重量も軽い製品がほとんどを占め、66・69のように単口縁壺9の口径を上回る大型品も検出されていることから、単口縁壺と同様の器配置であったことが察知される。また、24・25の如く完全に二重口縁を造り出す製品と、22・23のように頸部に弱い突帯を造り出し、相対的に二重口縁を造り出すものに大別され、さらに中型としての24、中型品より一回り小型な25、小型としての26に細分することができる。ただし26は、先の単口縁壺18・21同様、器厚が厚く、その造りは鈍重で鈍く、重量も重い。また、二重口縁壺か単口縁壺かどうかは不明ながら、88も同様の造りであり、これらの製品の共通要素から、おそらく同一工人の手によって製作された一群であるものと想定される。

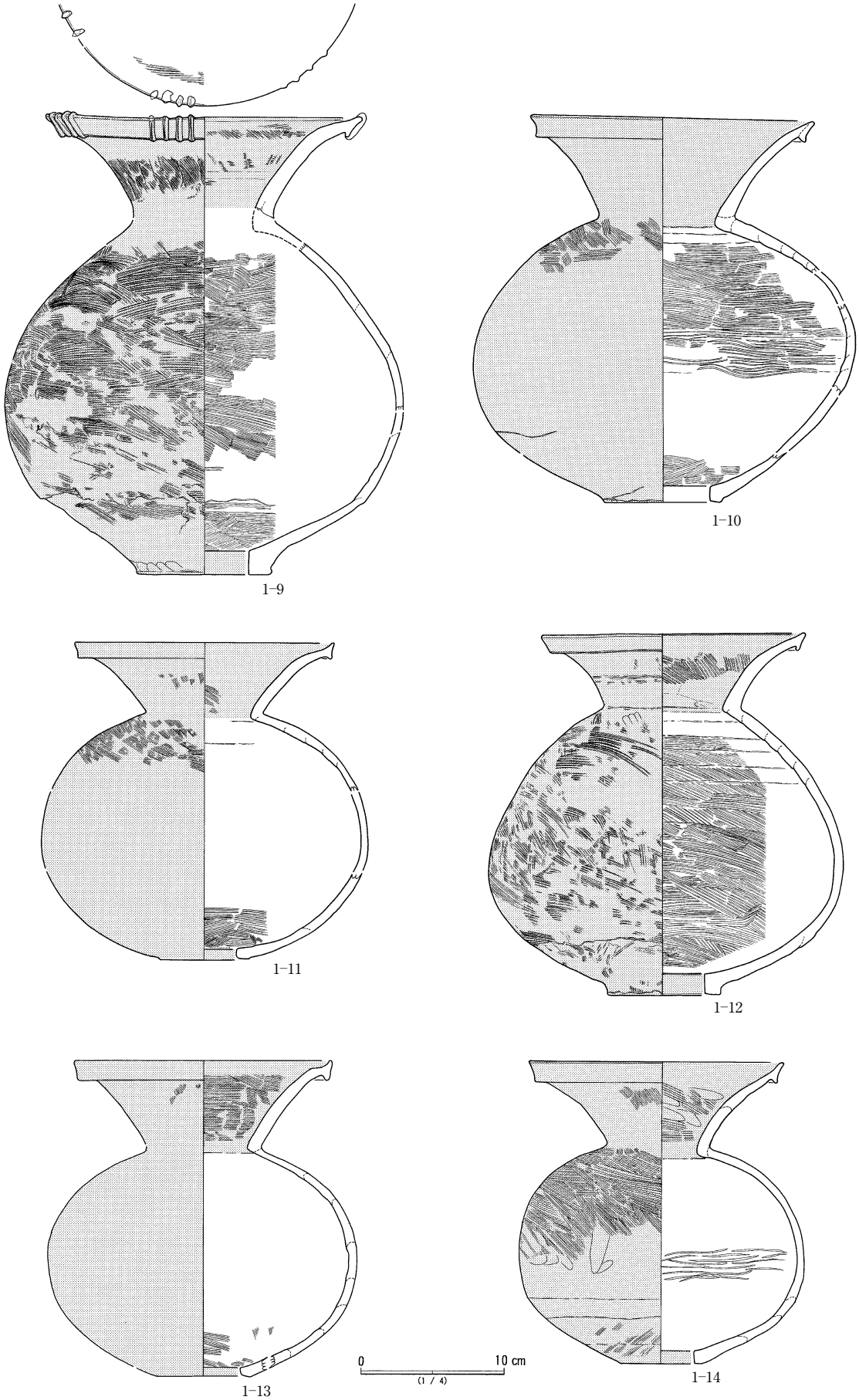
次に、これら底部穿孔壺の調整技法の特徴として、外面調整をハケ後ナデ、胴部下端から底部周辺は弱いケズリをナデ消すのを基本とし、内面は粗い櫛状工具によって調整される一群と、ハケと篦ナデによって調整される一群が存在する。また、内面ハケによって調整される一群には、円筒埴輪でのB種横ハケを彷彿させる技法で調整された製品も存在し、製作者の多様性が認められるが、全体的には非常に丁寧に製作されているものの、篦ミガキが施された製品は一点も存在しないことが最大の特徴でもある。その他にも、頸部の接合技法に桜井茶臼山古墳出土の二重口縁壺の系譜に連なる頸部外



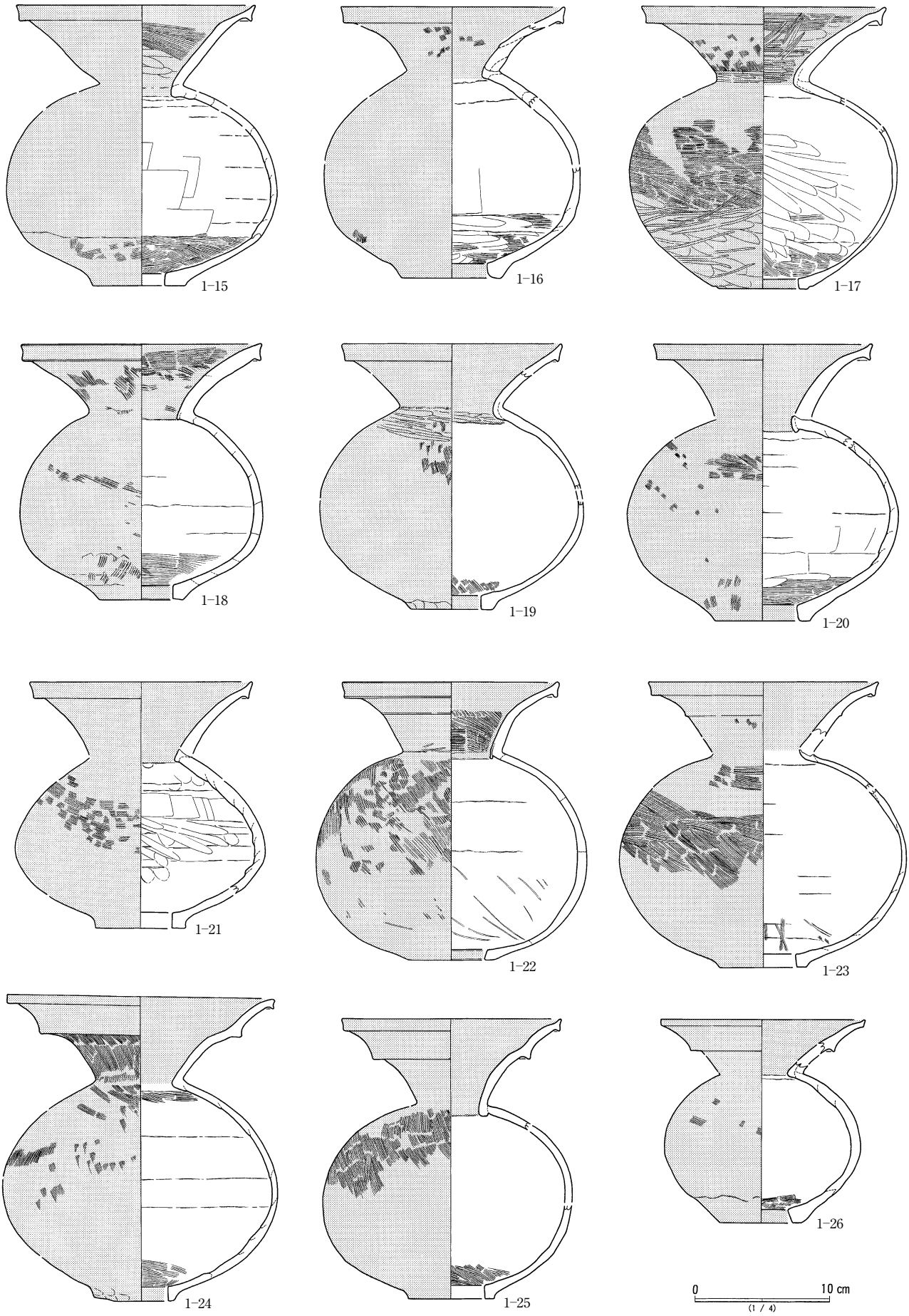
第20図　1 号遺構（辺田 1 号墳）墳頂部遺物出土状況　3



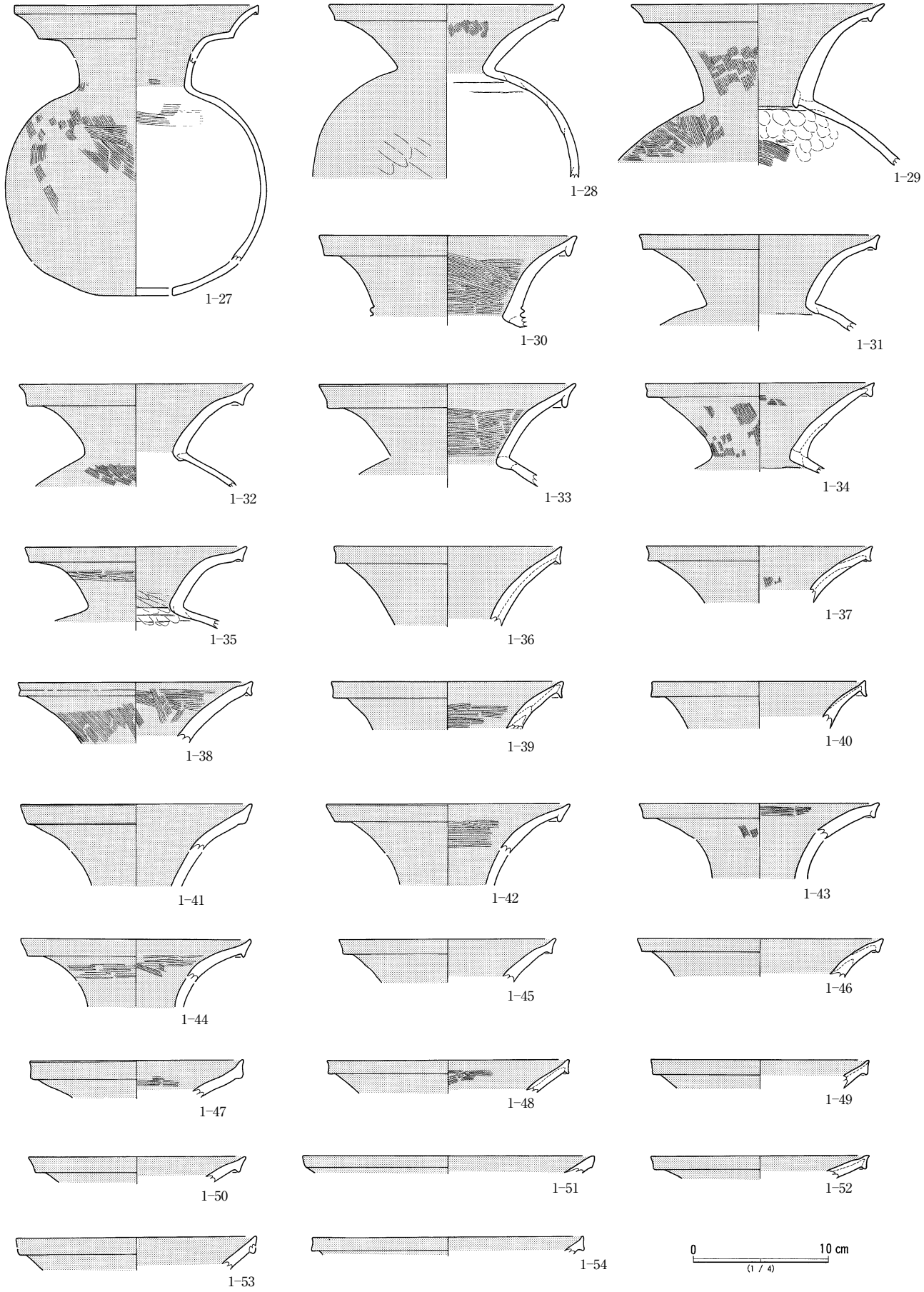
第21図　1 号遺構（辺田 1 号墳）第 2 主体部出土遺物実測図



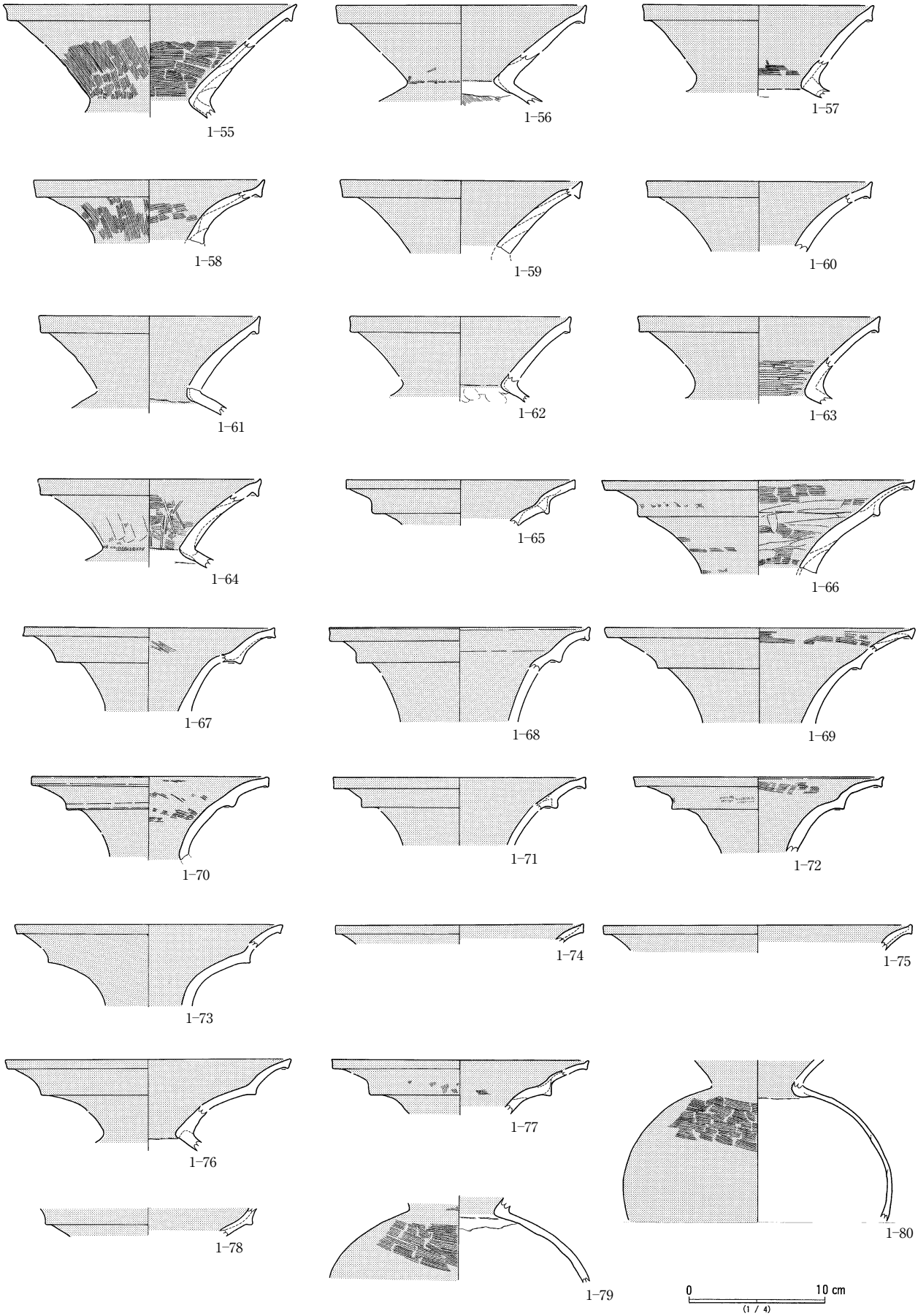
第22図　1 号遺構（辺田 1 号墳）出土遺物実測図



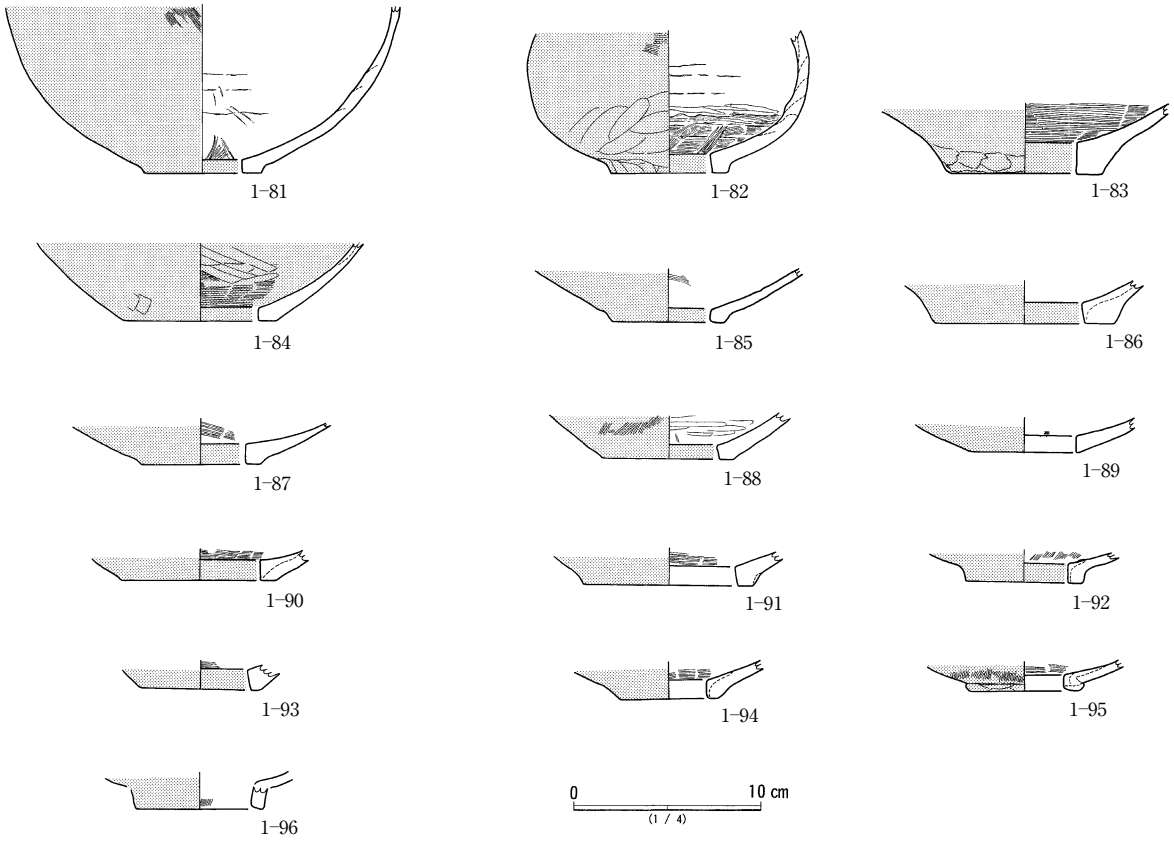
第23図　1 号遺構（辺田 1 号墳）出土遺物実測図



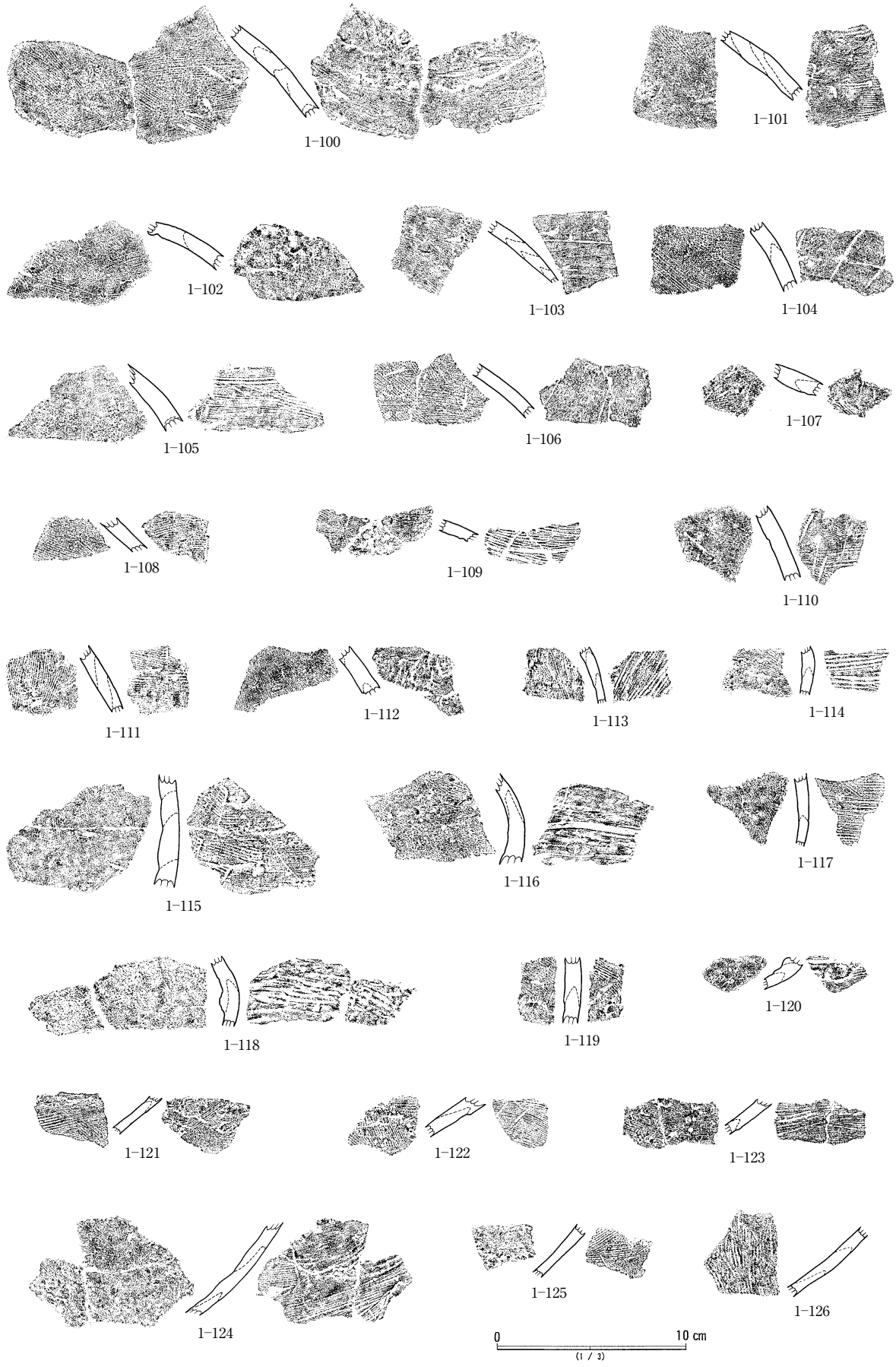
第24図　1 号遺構（辺田 1 号墳）出土遺物実測図



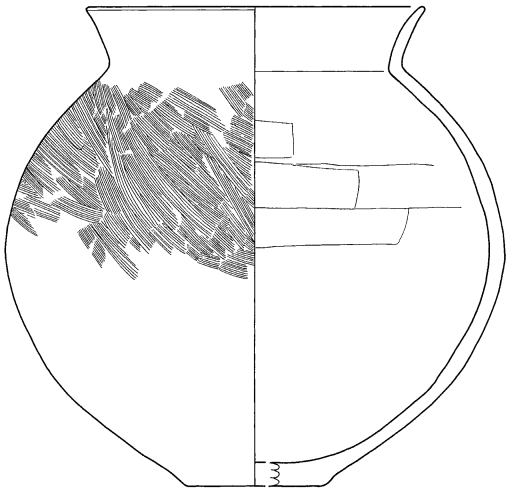
第25図　1 号遺構（辺田 1 号墳）出土遺物実測図

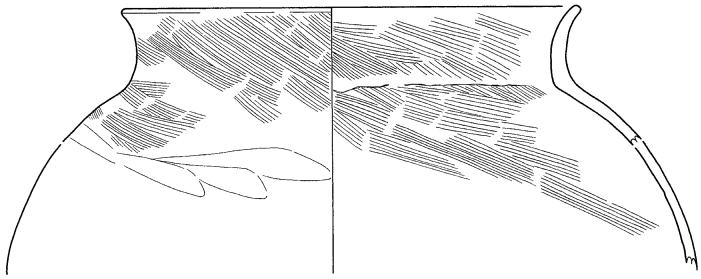


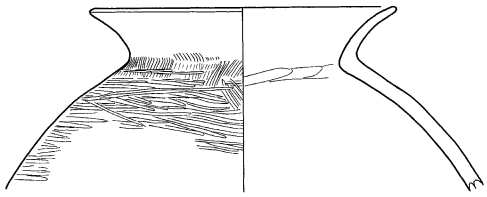
第26図　1 号遺構（辺田 1 号墳）出土遺物実測図

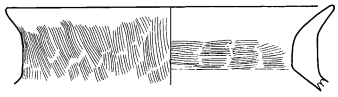


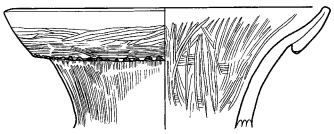
第27図　1 号遺構（辺田 1 号墳）出土遺物実測図

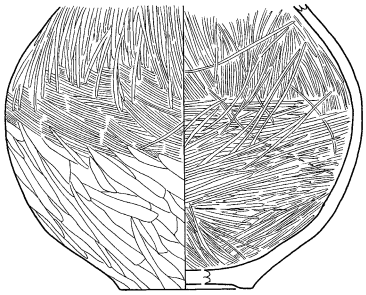

1−127

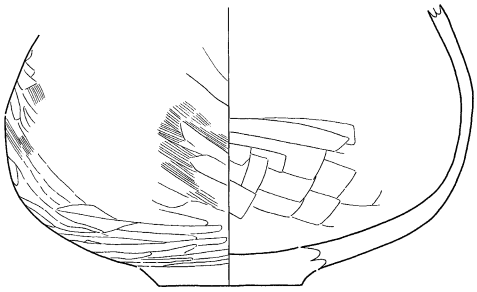

1−128

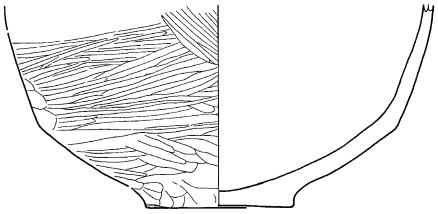

1−129

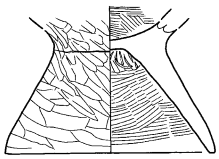

1−130

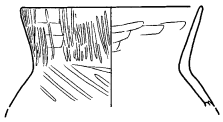

1−131

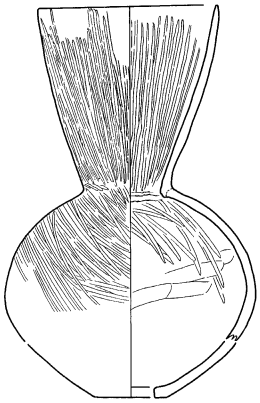

1−132

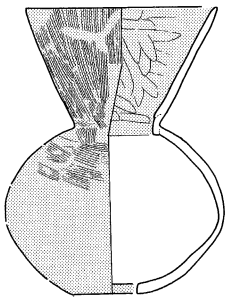

1−133

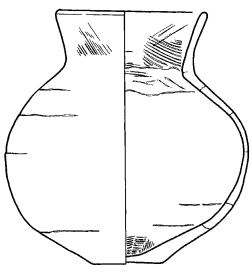

1−134

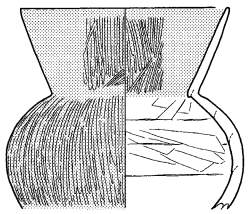

1−135

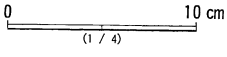

1−136


1−137

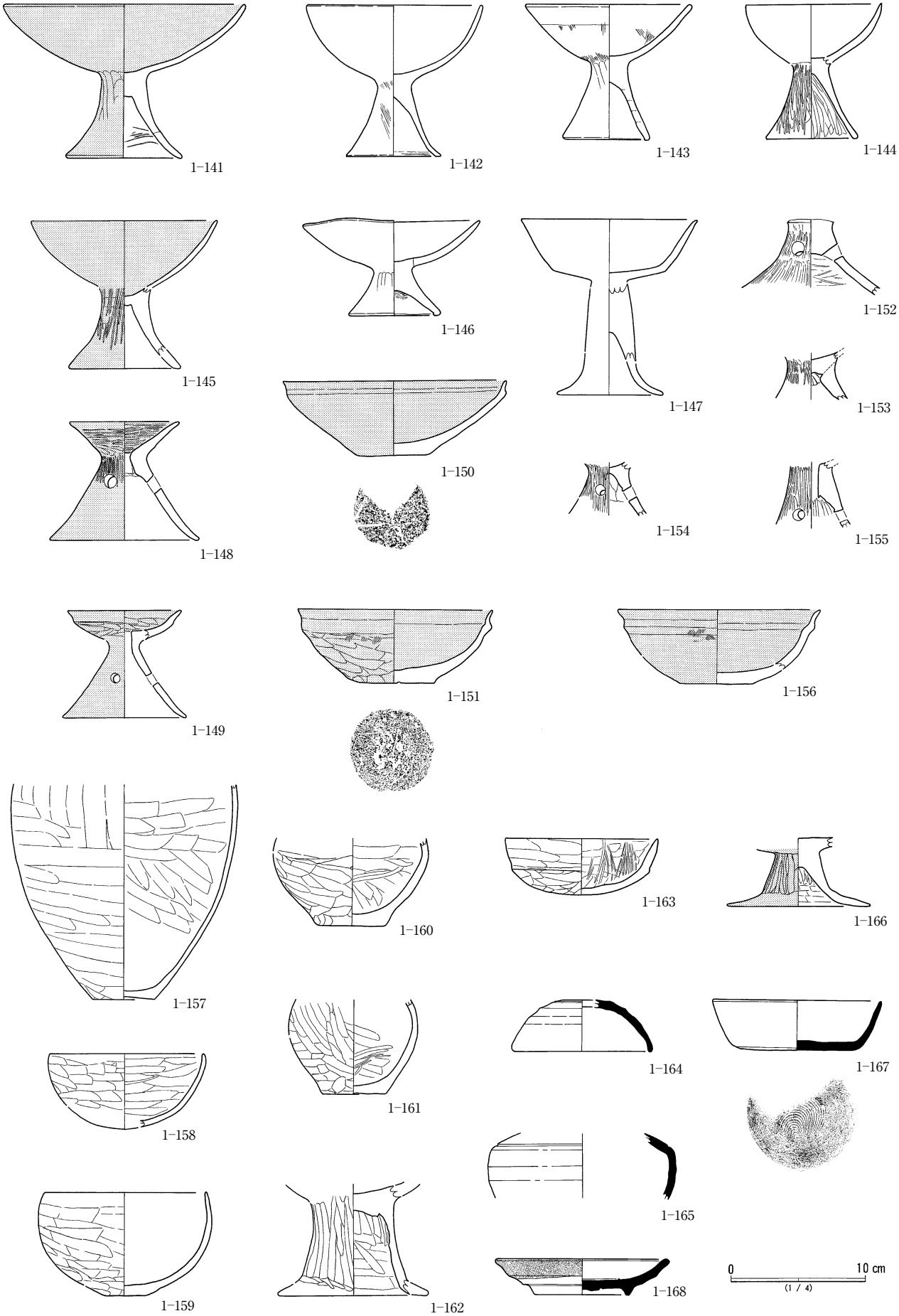

1−138


1−139

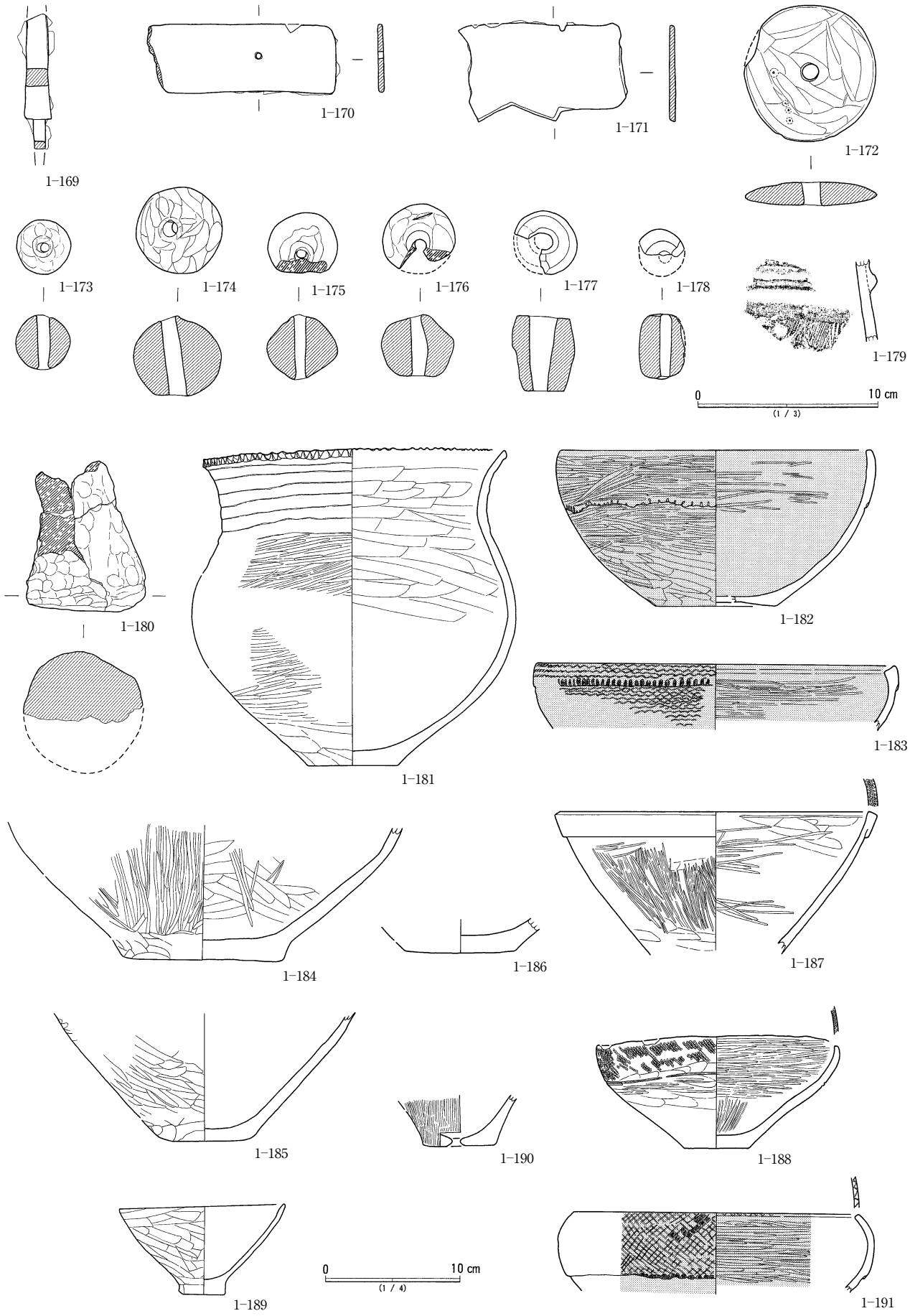

1−140



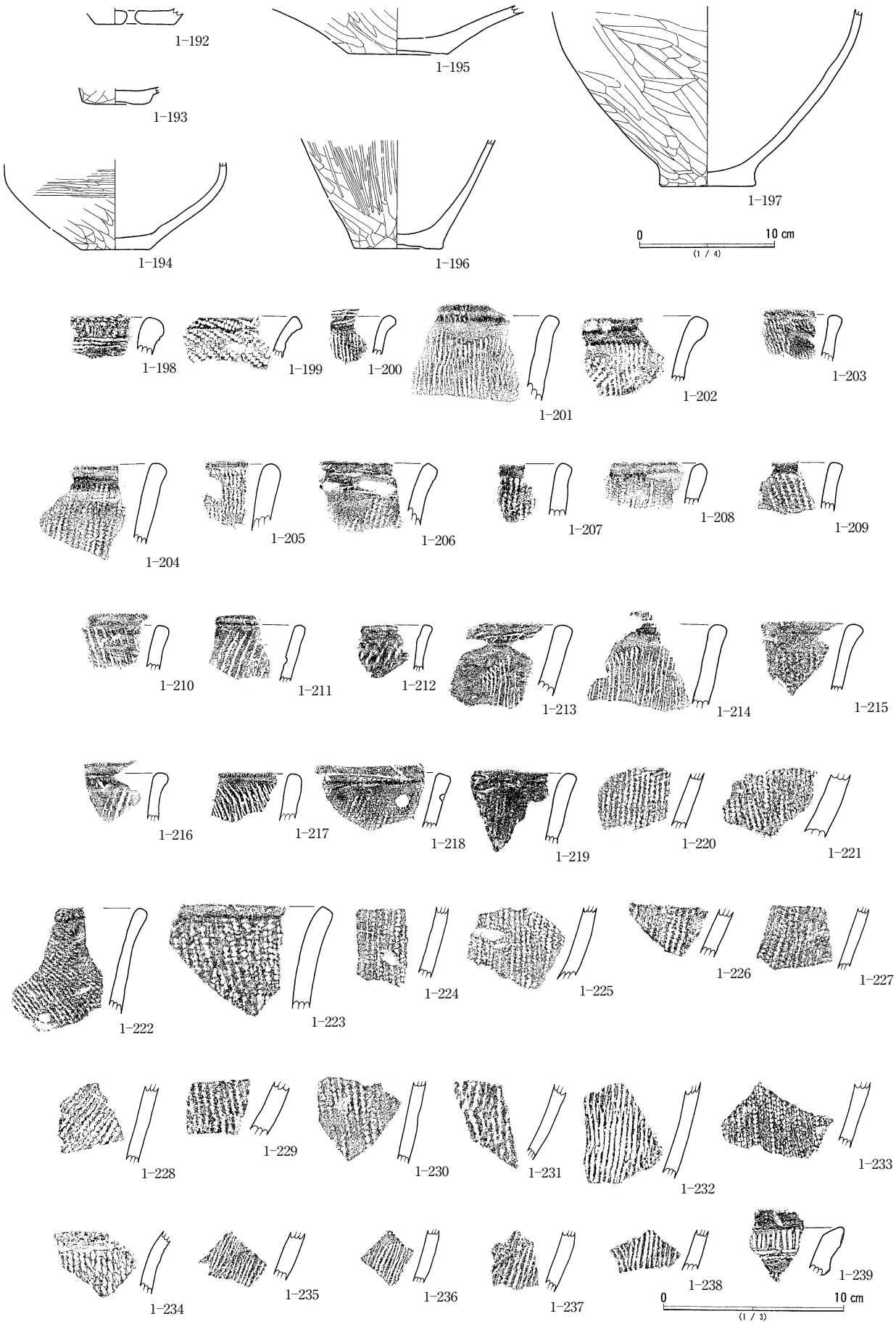
第28図　1 号遺構（辺田 1 号墳）出土遺物実測図



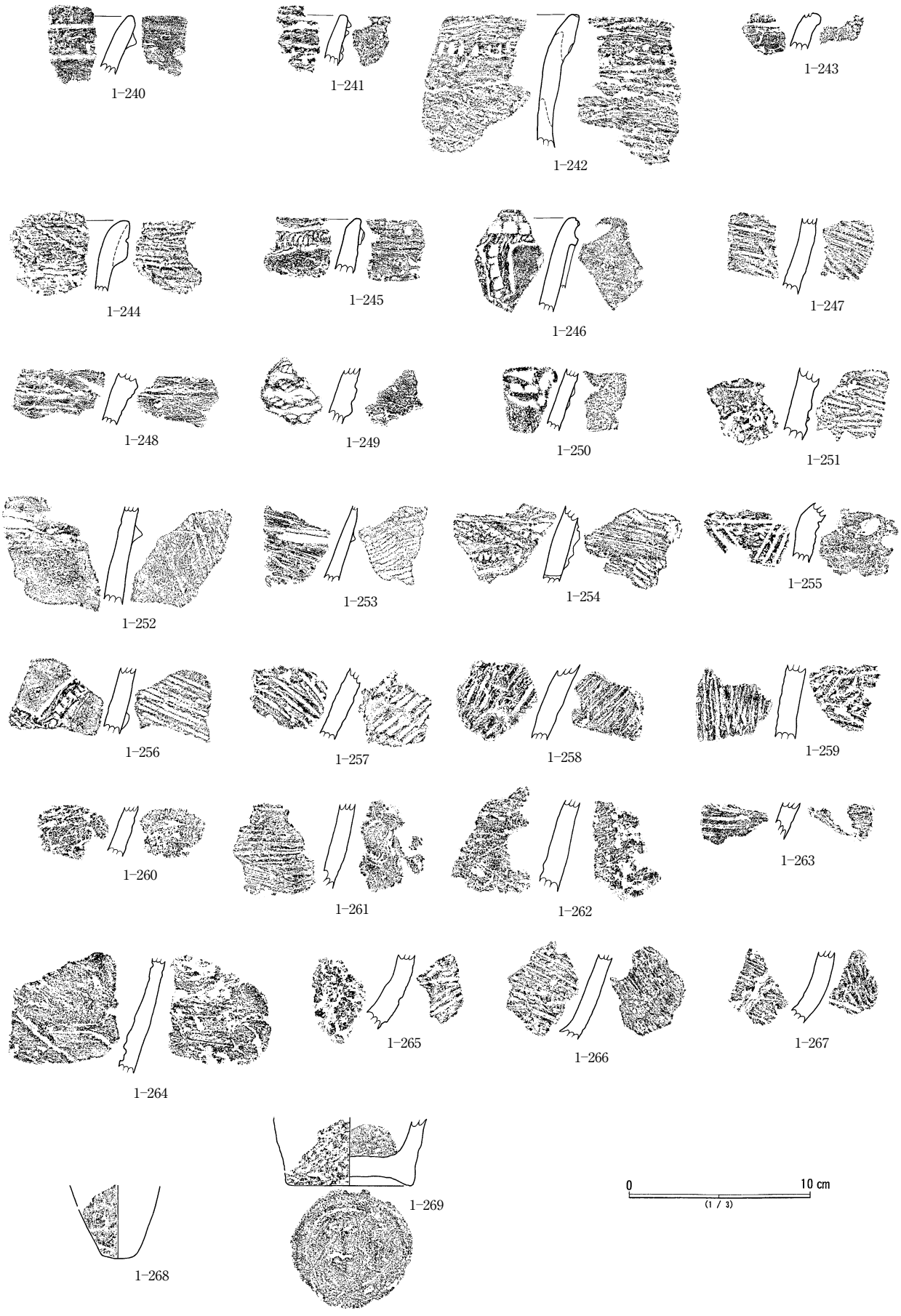
第29図　1 号遺構（辺田 1 号墳）出土遺物実測図



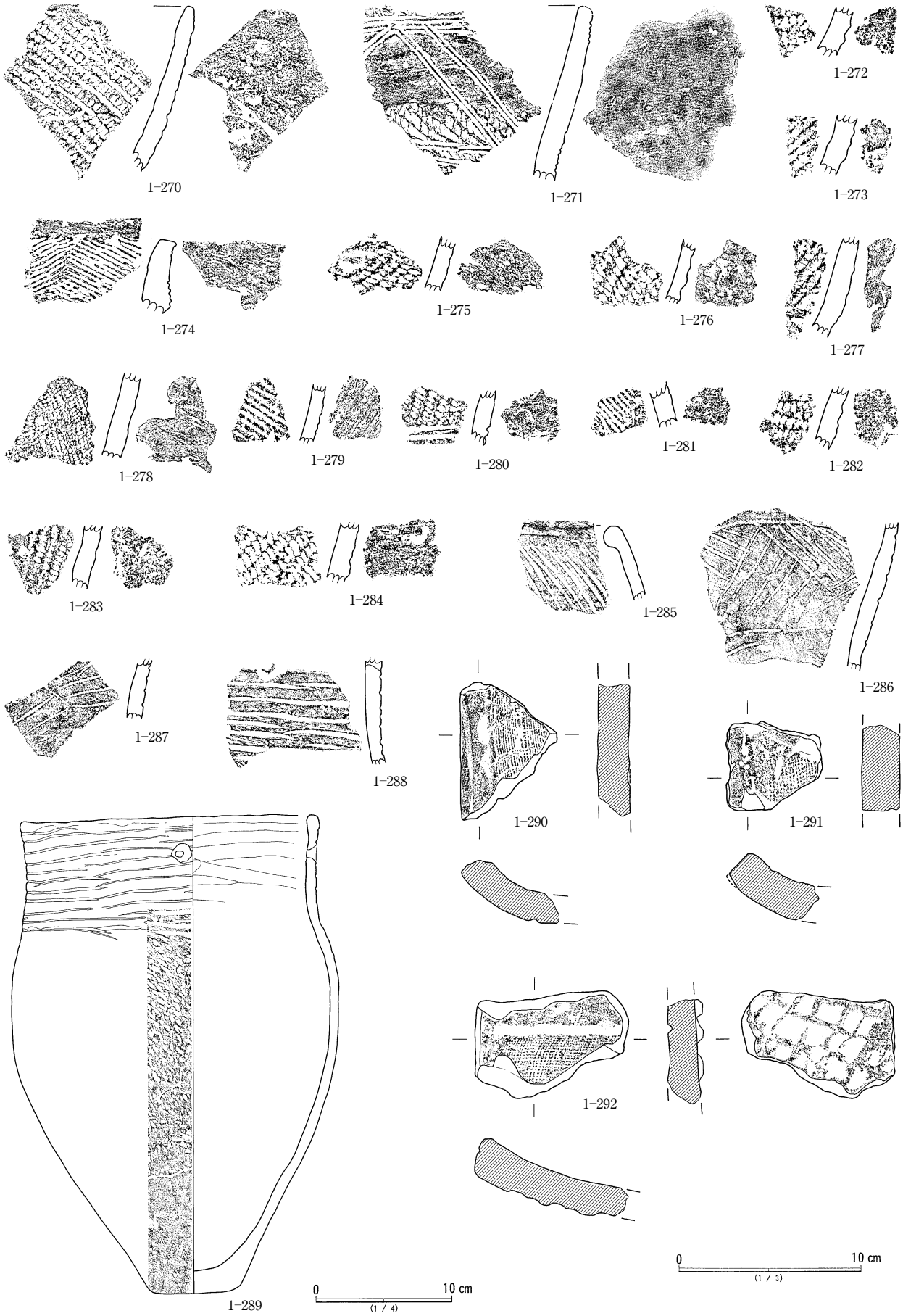
第30図　1 号遺構（辺田 1 号墳）出土遺物実測図



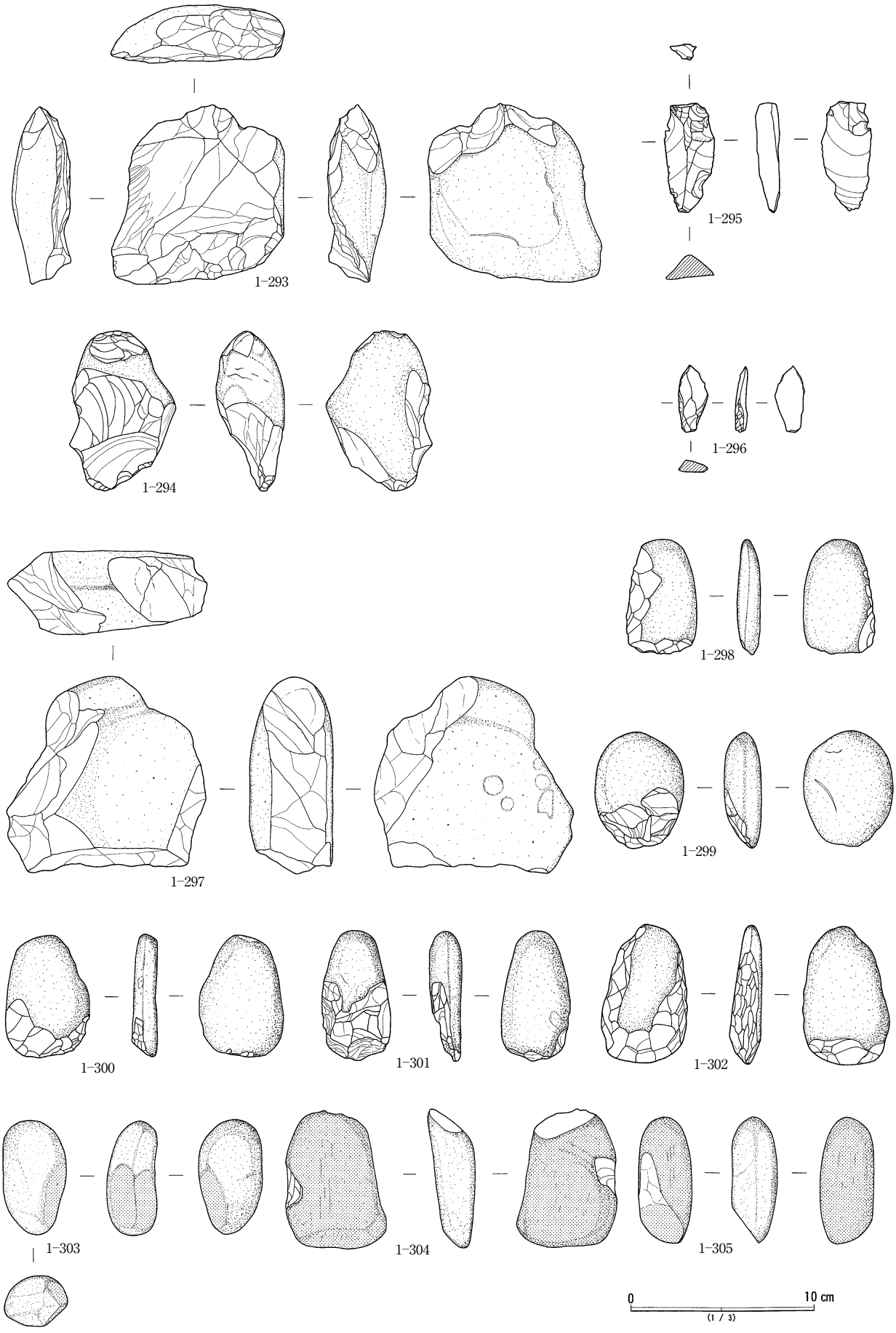
第31図　1 号遺構（辺田 1 号墳）出土遺物実測図



第32図　1 号遺構（辺田 1 号墳）出土遺物実測図

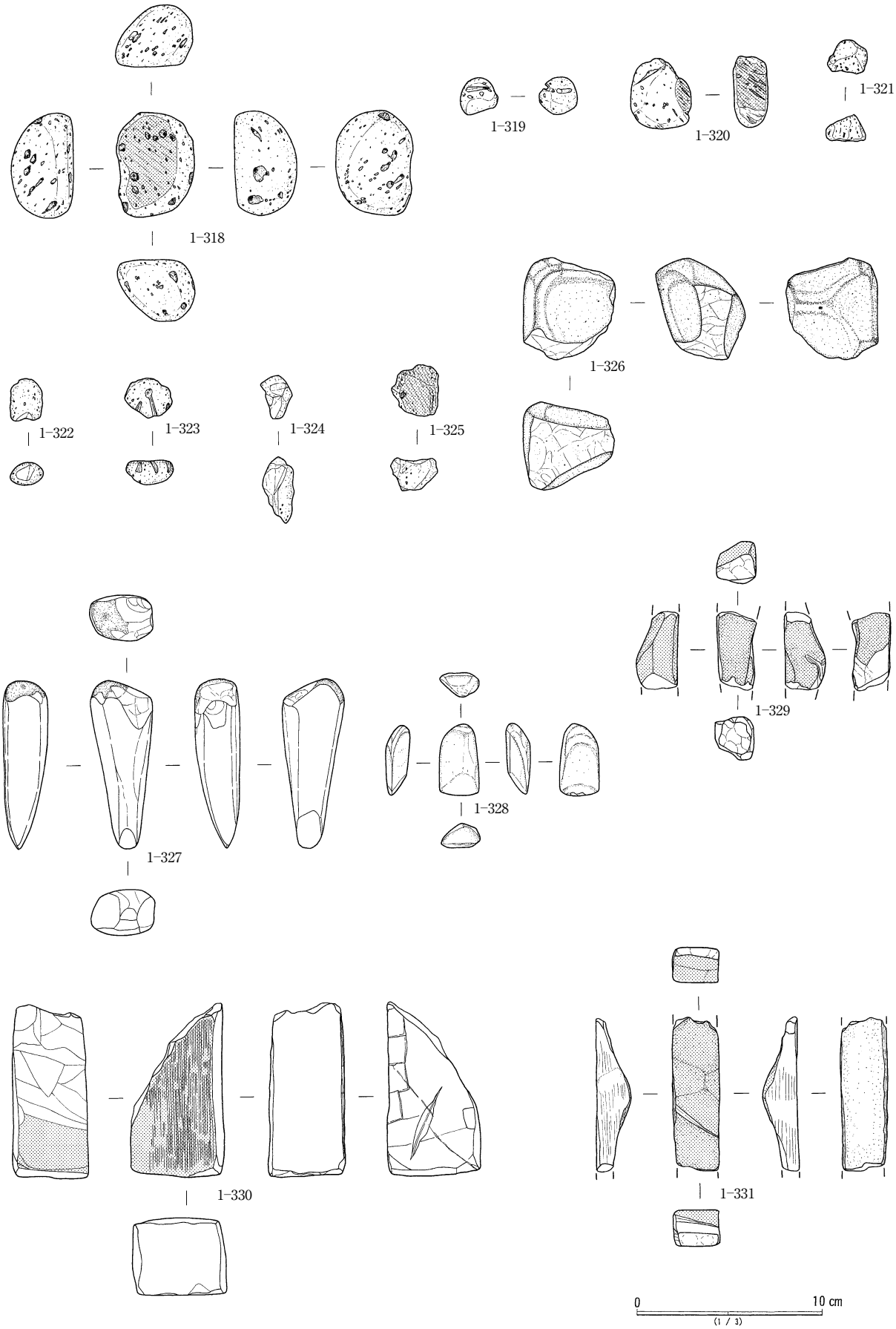


第33図　1 号遺構（辺田 1 号墳）出土遺物実測図



第34図　1 号遺構（辺田 1 号墳）出土遺物実測図

第35図　1 号遺構（辺田 1 号墳）出土遺物実測図



第36図　1 号遺構（辺田 1 号墳）出土遺物実測図

傾接合技法（9・10・16・17・20など多数）を認めることができ、時期的な位置付けに関連しそうである。なお、本墳出土の底部穿孔壺の総数把握に努めた結果、破片を含めたその点数と重量は689点32,093ｇに達した。これを13の単口縁中型壺（1,300ｇ）および24の二重口縁大型壺（1,280ｇ）で換算すると、いずれも約25個体分（25の二重口縁壺670ｇでは48個体分）に相当するが、既に削平された未調査部分およそ1/3の範囲を含めると、墳頂部に供献された本来の配置個体数はさらに増大する可能性が高い。

本墳から出土した土師器を第28図1−127から第29図1−167にまとめた。昭和59年度に調査され、甕や高坏を主体とする北側周溝出土遺物の大半は一括で取り上げられており、出土地点を明示するものはない。そのため、ここに掲載された遺物の全てが本墳に伴うものではないのかも知れないが、少なくとも137・138の坩、150・151・156の有段口縁鉢、149の器台は墳頂部埋葬施設区画溝内より15・26・51・66・83等の底部穿孔壺と供に検出されており、本墳に直接伴うものと判断される。137は胴部下端を欠損する製品であるが、欠け口が新しく通常篦の届かない内面の範囲に篦ミガキが認められることや、もう一点の139が焼成前底部穿孔坩であることから図示のように復元した。150・151は在地化した平底に木葉痕を残す有段口縁鉢である。156の底部は検出されなかったが、151の器形から平底とした。この他にも、一方を墳頂部区画溝内より、もう一方を区画溝外から検出し、接合関係を有する遺物に24・69・82・137の4点が認められ、さらに、破片の大半を北側の周溝底より検出した9の底部穿孔壺も、底部の一部は墳頂部土師器集中地点から検出することから、底部穿孔壺はまず間違いなく本来墳頂部区画溝周辺に配置されていたものと判断し得る。とすれば、周溝内に転落した底部穿孔壺と混在した状況で検出された127・136は本墳に直接伴うものと判断されよう。139は昭和59年度調査の北側周溝出土一括出土であるが、136と近似した器形を呈す。一方、127・136とは少し離れた位置から147の柱状高坏脚部と148のX型器台が検出されているが、これら両者は周辺から検出された底部穿孔壺や土師器とレベルを同一とし、あえて底部穿孔壺群と分離する根拠を持たない。また、141〜146に示した高坏は、139同様、昭和59年度調査の北側周溝出土一括出土品であるが、周辺の集落や古墳では類例の乏しい製品であり、本墳に供献された土器群と判断したい。したがって、底部穿孔壺と共伴した土師器と時期を同じくする土器群は、本来墳頂部の墓壙区画溝内周辺に存在していた可能性が極めて高いといえよう。なお157〜164の土師器・須恵器及び第30図169の台関の長頸鉄鏃は、古墳時代終末期の限定された時期に比定できるものであり、追葬された第1主体部に伴う遺物群である可能性が考えられる。また、168は近世陶器であり、二次的に構築された墳頂部中央土壇の祠に関連するものと捉えられる。なお、墳頂部埋葬施設区画溝内より検出されるにも関わらず、接合破片の大半はかなり北側に移動して検出される遺物がかなり存在し、その位置は、二次的に構築された墳頂部中央土壇下に集中する。このため、土壇構築の際には、墳頂部埋葬施設区画溝内上部に存在したかなりの遺物が本来の位置を移動したものと想定される。

その他の出土遺物

この他の出土品を第30図〜36図に纏めた。170・171は用途不明な鉄製品である。170は方形の短冊形を呈し、径2㎜程の小孔が貫通する。172は土製円盤、173〜178は土玉・管状土錘、180は支脚である。181〜197は弥生土器、198〜238は早期撚糸文系土器、239は三戸式土器、240〜279は早期条痕文系土器、270〜284は前期繊維土器、285〜289は加曽利B式土器である。290〜292は布目瓦である。

293～331は石器である。これらの遺物は、何れも周溝や墳丘盛土内、墳丘盛土以下の包含層から出土したものであり、本墳に直接伴うものではない。

２号遺構（辺田２号墳）

『市原市埋蔵文化財分布地図―北部編―』に記載される「辺田２号墳」に該当する古墳であるが、昭和59年度の調査時には東側周溝部分を根田２号墳として調査し、墳丘本体は昭和63年度にK－１として調査され、同年度の年報で１号墳として報告されている。報告に際し「辺田２号墳」を踏襲するが、便宜上２号遺構として報告する。

現況

１号遺構の御林跡遺跡が所在する舌状台地の南端に位置する。また墳丘中央部には、その上に旧地権者の「家神様」を祭った祠が存在していた。この祠と墳頂部の樹木数本は、「家神様」と供に御神木として移転したいという旧地権者の強い要望があり、これに応えた。

墳丘と周溝

東西径約19.6ｍの方墳である。周溝は全周しておらず西側中央部が開口しており、かつ南側周溝外縁の立ち上りは不明瞭である。墳丘はローム主体層と有機質土主体層を交互に積上げて構築されており、その高さは3.0ｍに達する。本墳下層にその土圧によって壁が崩落し、平面プランが歪になった149号遺構を封印して存在し、墳丘築造年代の下限が限定される。

埋葬施設

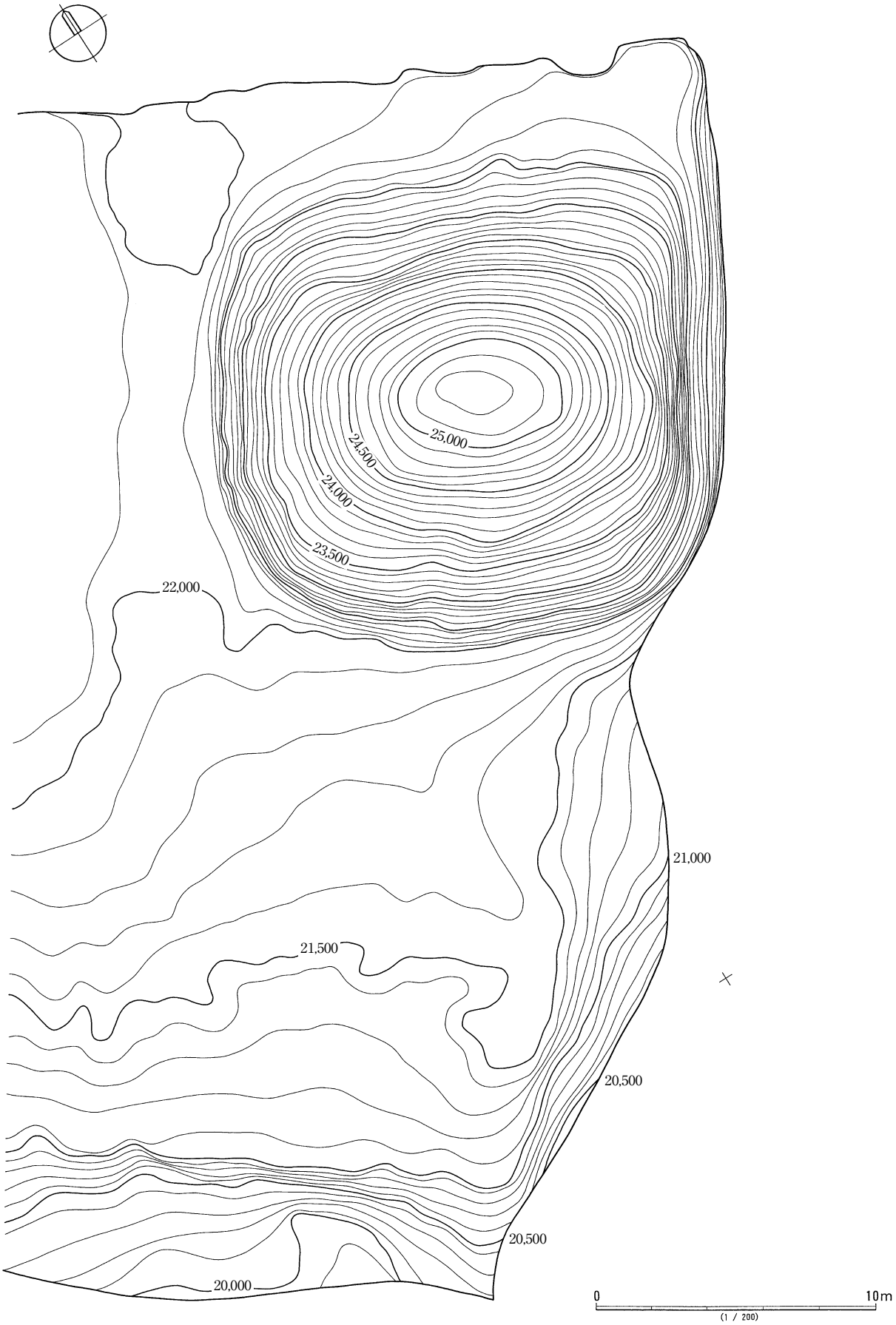
樹木移転後ではあったが、墳頂部よりおよそ80㎝程下がった墳丘中央部の位置で検出された。木棺を設置した後、廻りをローム充填土で突き固めた無墓壙の埋葬施設であり、木棺痕はこの突き固められたローム充填土中央で検出されている。

木棺痕

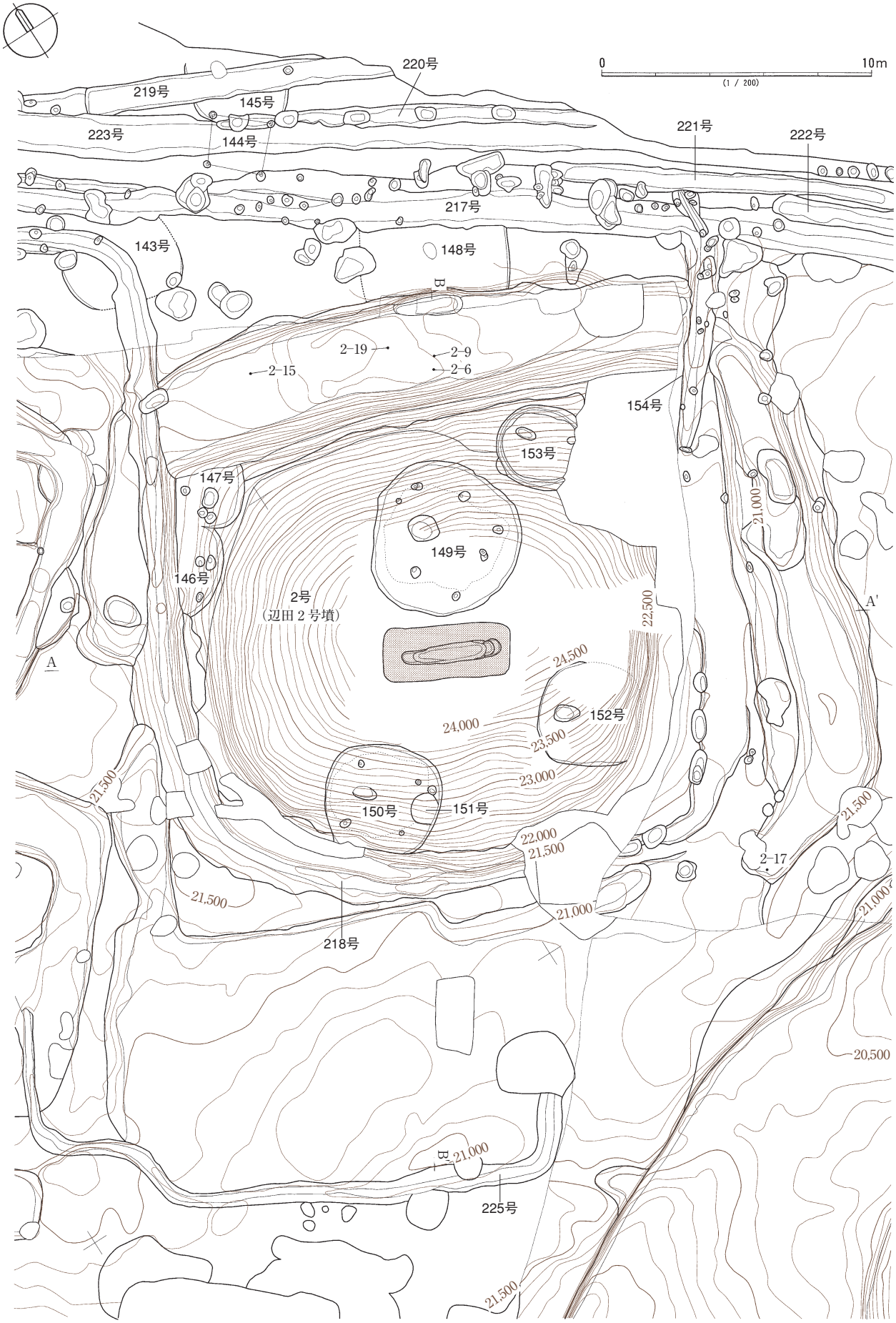
主軸方位N－116°－Eを示す上端長3.7ｍの木棺痕であるが、棺底は2.36ｍ程しか平坦ではない。棺幅は最大で70㎝であり、やや狭い感がある。割り竹型木棺を想定するよりも、東西の棺端が緩やかに立ち上っていることから、舟底形を呈した木棺であった可能性が高い。

遺物

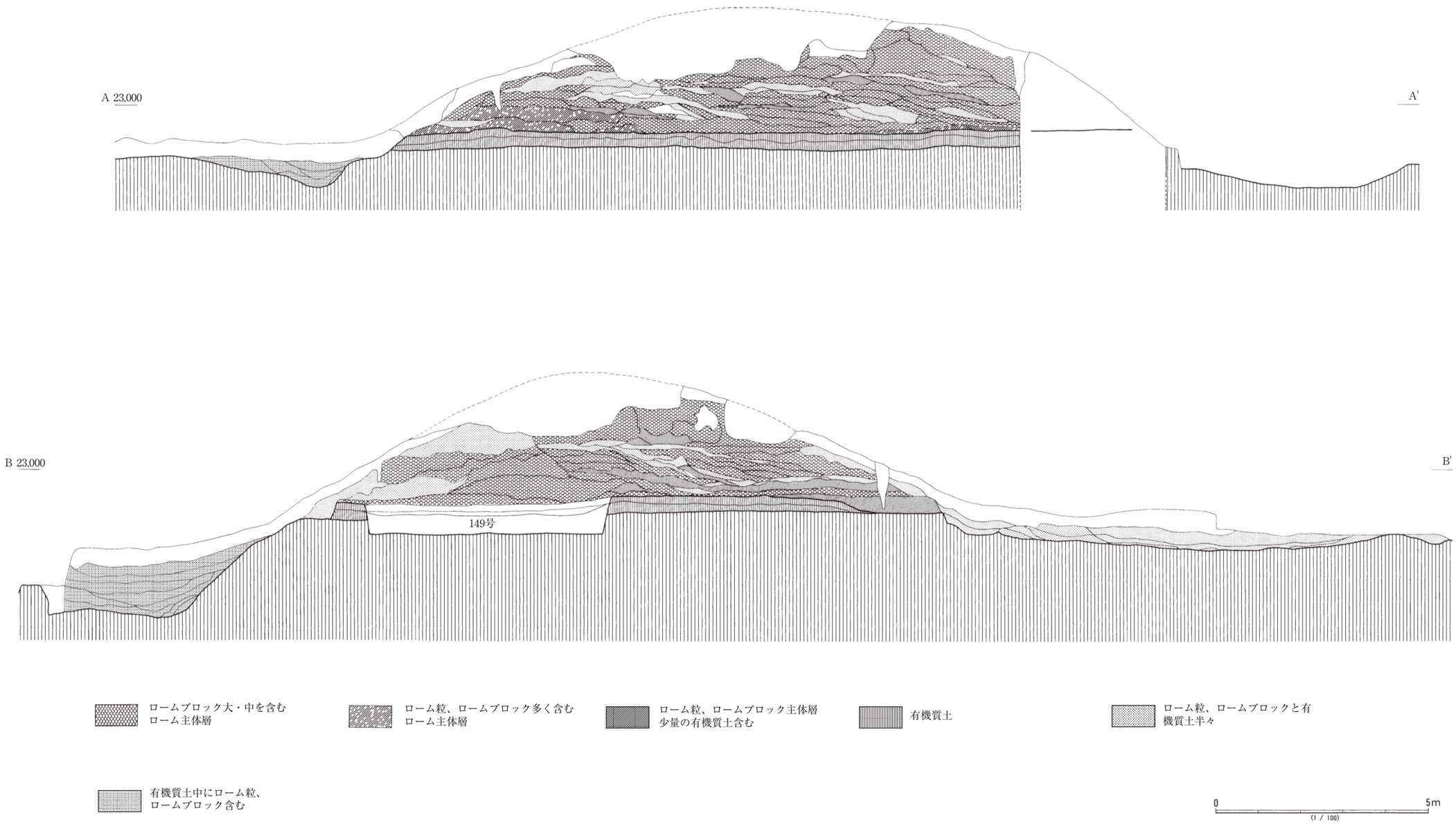
精査したにもかかわらず、木棺痕内からは３個の泥岩が検出されただけで、鉄器等の他の遺物は検出されなかった。これに対し、墳丘内及びその下層や周溝内からは、総数3,451点42,802.0ｇの極めて膨大な遺物が検出された。その内訳は1,341点17,408.0ｇの土師器、15点1,020ｇの須恵器、1,872点14,795.0ｇの弥生土器、56点770ｇの縄文土器、13点1,630ｇの瓦、146点7,050.6ｇの礫・石器を主体とする。この内45点5,831.1ｇ分の遺物を掲載した。第41図６・10は、北側周溝中央部より、周溝底より11.2㎝程浮いた状況で検出されている。15は６より6.8m、19は６より1.7ｍ程離れた北側周溝西側部より、17は東側周溝南端部よりそれぞれ周溝底密着の状況で検出されている。これ以外は全て一括で取り上げられた遺物である。１は頸部に突帯を有する壺で、口縁部を欠損するが頸部の角度や類例より復元図のような二重口縁壺であろうと想定される。２は底部と胴部の上半を欠く壺下半部であり、接合に至らないが調整技法や胎土、胴部の径から１と同一個体と想定される。１・２とも接合に至らぬ同一個体を多数保有しており、その総重量は1,800ｇに達するため、かなり大型な底部穿孔



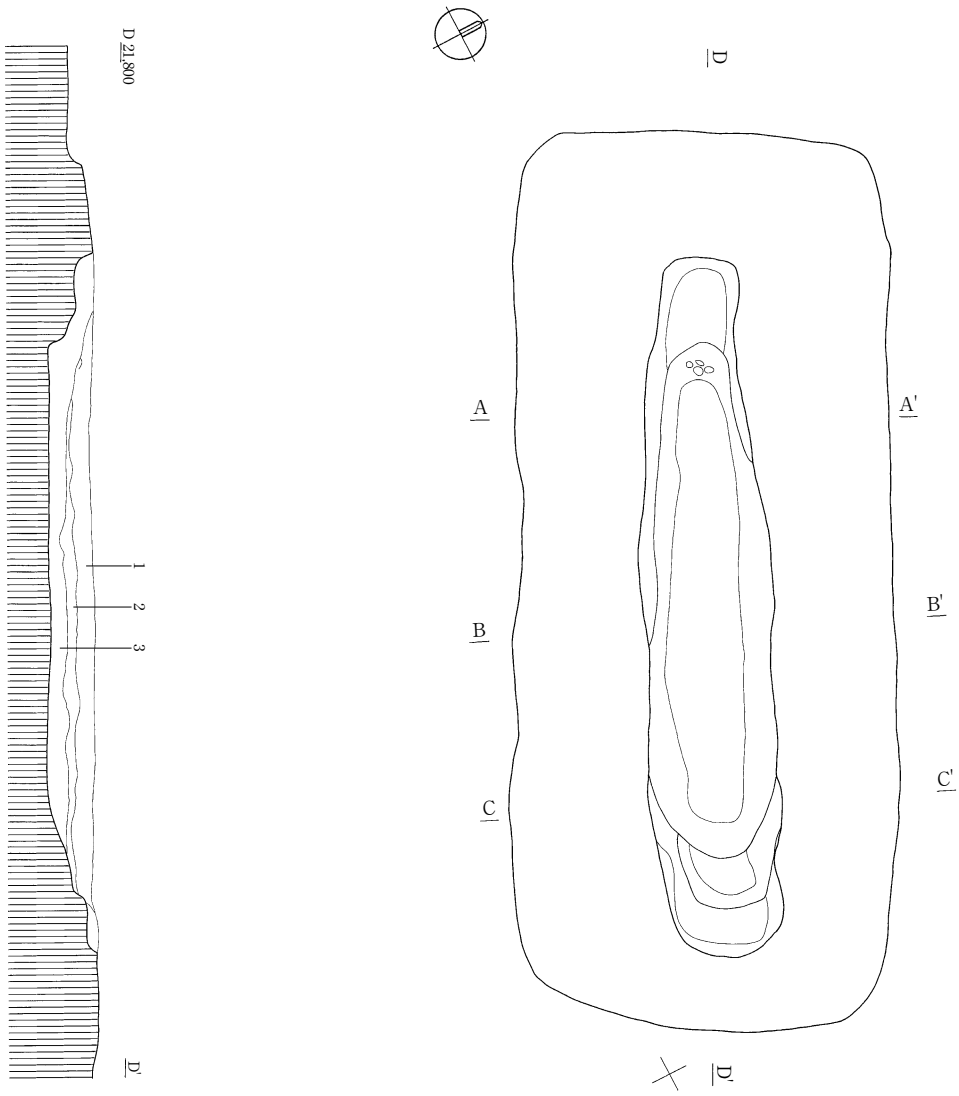
第37図　2 号遺構（辺田 2 号墳）現況地形測量図

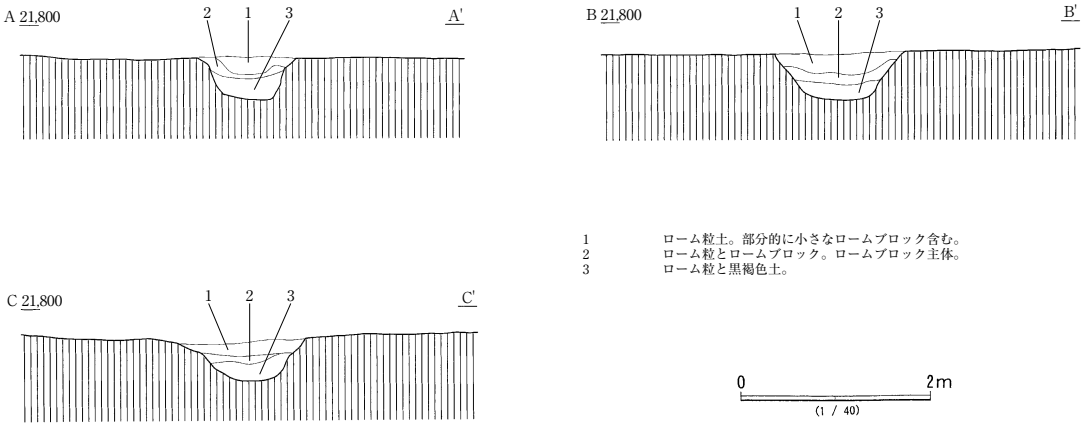


第38図　２号遺構（辺田２号墳）実測図



第39図　2号遺構（辺田2号墳）実測図

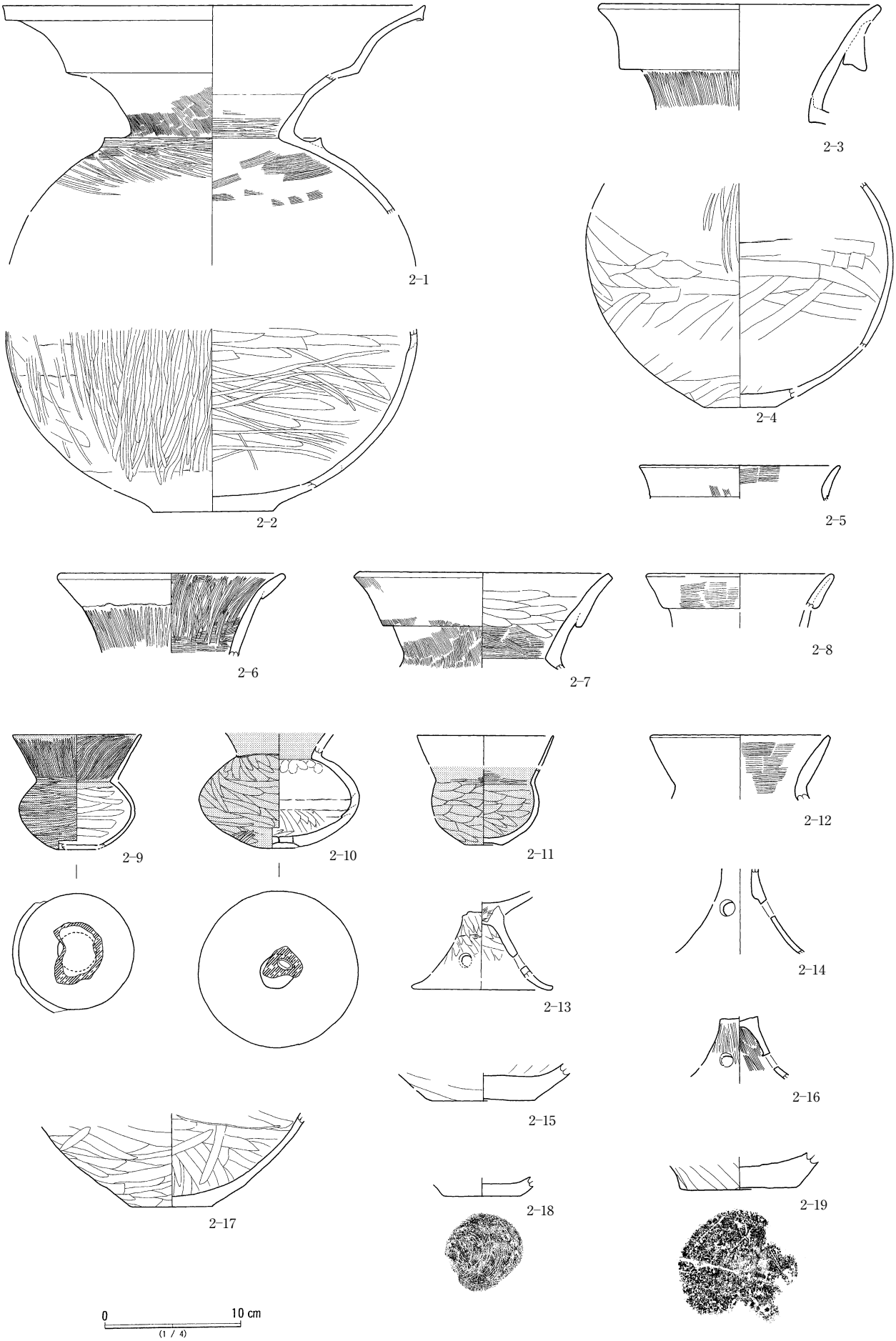




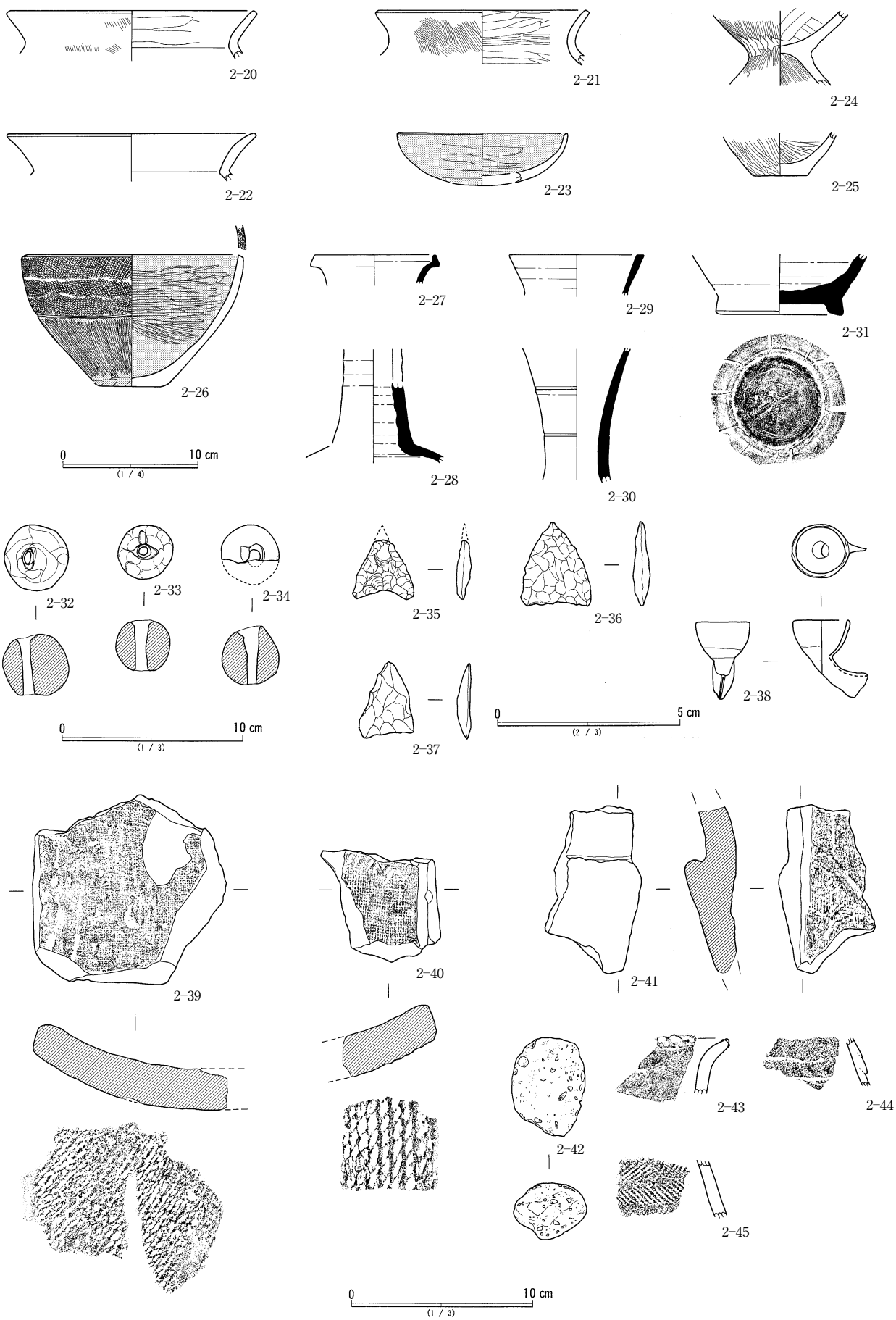
1　ローム粒土。部分的に小さなロームブロック含む。
2　ローム粒とロームブロック。ロームブロック主体。
3　ローム粒と黒褐色土。

0　2m
(1 / 40)

第40図　2 号遺構（辺田 2 号墳）実測図



第41図　2 号遺構（辺田 2 号墳）出土遺物実測図



第42図　2 号遺構（辺田 2 号墳）出土遺物実測図

二重口縁壺である可能性が高い。３・５～８は複合口縁の壺である。９～11は坩型土器であり、９・10は焼成後に底部穿孔が施されている。27～31は須恵器長頸壺の類である。諸事情により墳頂部の調査ができなかったが、周囲に同時期の遺構が存在しないことや、辺田１号墳では７世紀後半段階での追葬が行われていることから、本墳も７世紀末葉から８世紀にかけての段階で追葬が行われた可能性が高い。なお、瓦やキセル等の新しい時期の遺物も存在しており、この内、瓦については本墳の周溝埋没最終過程で混入したものと、キセルについては、本墳西南周溝を北から東へと削平しながら走る225号溝に本来伴うものと考えられる。

３号遺構

『市原市埋蔵文化財分布地図―北部編―』には記載されない新発見の古墳である。昭和63年度に調査時にK－２として調査され、年報で３号墳として報告されている。平成10年度に内部的に11号墳と命名されるが、一般的には周知されていない。本報告では、３号遺構として報告する。

現況

マウンドが存在した辺田２号墳（２号遺構）と３号墳（５号遺構）の間に挟まれて存在する。肉眼では墳丘の存在が認められなかったが、調査に先行して実施された地形測量では、一部に微弱な高まりが存在したようである。

墳丘と周溝

東西径約12.3ｍの方墳である。５号遺構（辺田３号墳）東側周溝を削平して存在し、明瞭な盛土は検出されなかったが、南側に向かう緩やかな地山傾斜を活用した効果的な周溝配置を施し、相対的に微弱な高まりを造り出している。周溝は全周せず、東西の南側が途切れる形態を呈し、南側周溝は、他の周溝より一段低い位置に掘り込まれている。埋葬施設は盛土と共に流出してしまったようで、検出することはできなかった。

遺物

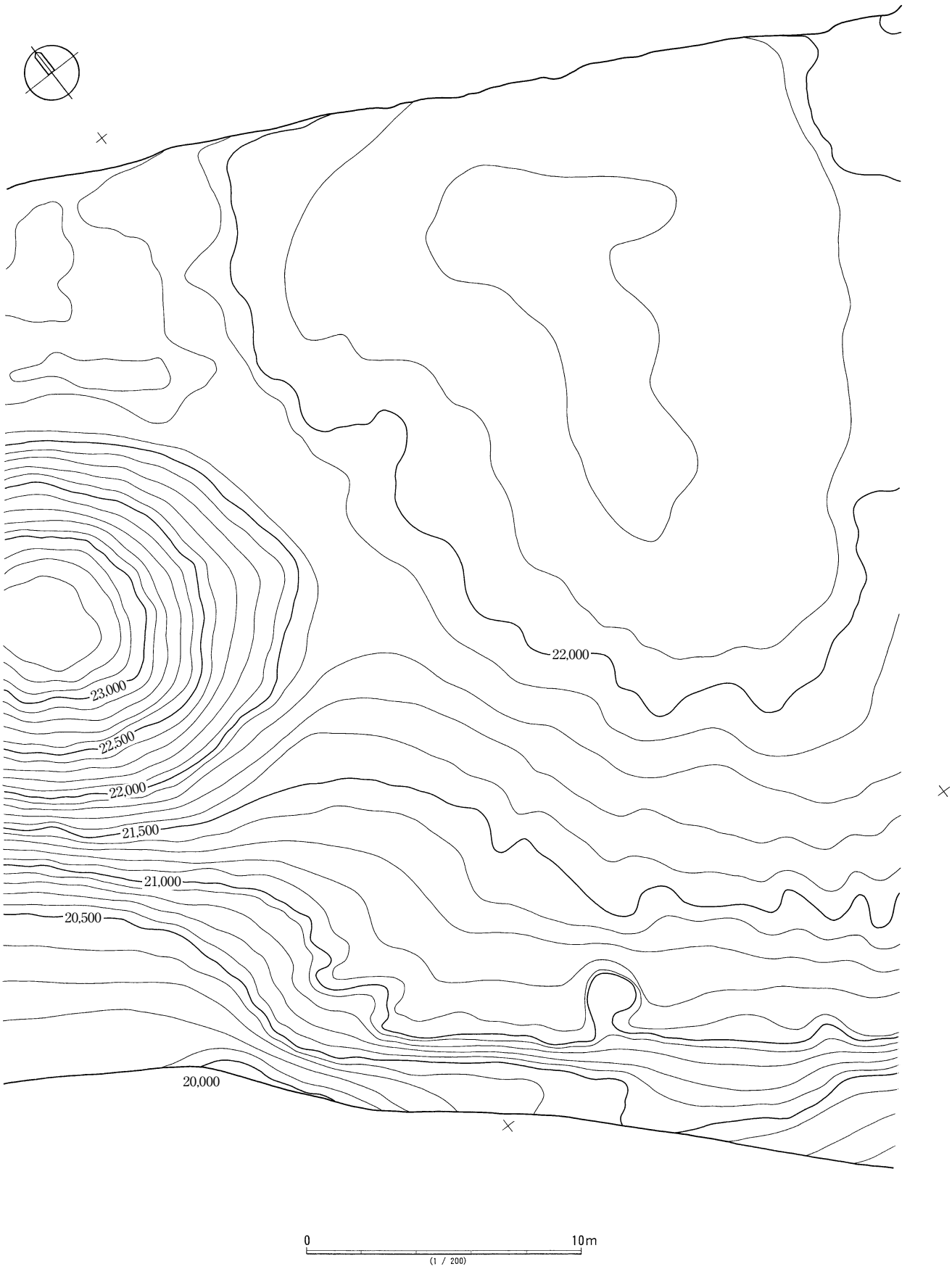
本遺構からは1,307点11,835.0ｇの土器・土製品と27点1,016.5ｇの礫・石器、３点40.3ｇの金属器片を検出した。出土土器の主体は、722点6,800ｇの土師器、561点3,995.0ｇの弥生土器、17点165ｇの縄文土器であり、礫の主体は自然石である。本墳に直接伴うと思われる遺物の内、出土地点の判明する土師器には３－１、３－２があり、何れも北側周溝より出土している。金属器片のひとつは３-10として掲載した銅釧片であるが、本墳に直接伴うものではない。他はおそらく主体部から流出した鉄器片であろうが、整理が開始されるまで放置され、調査時の袋の中で粉々になり、その形状を完全に喪失していた。

４号遺構

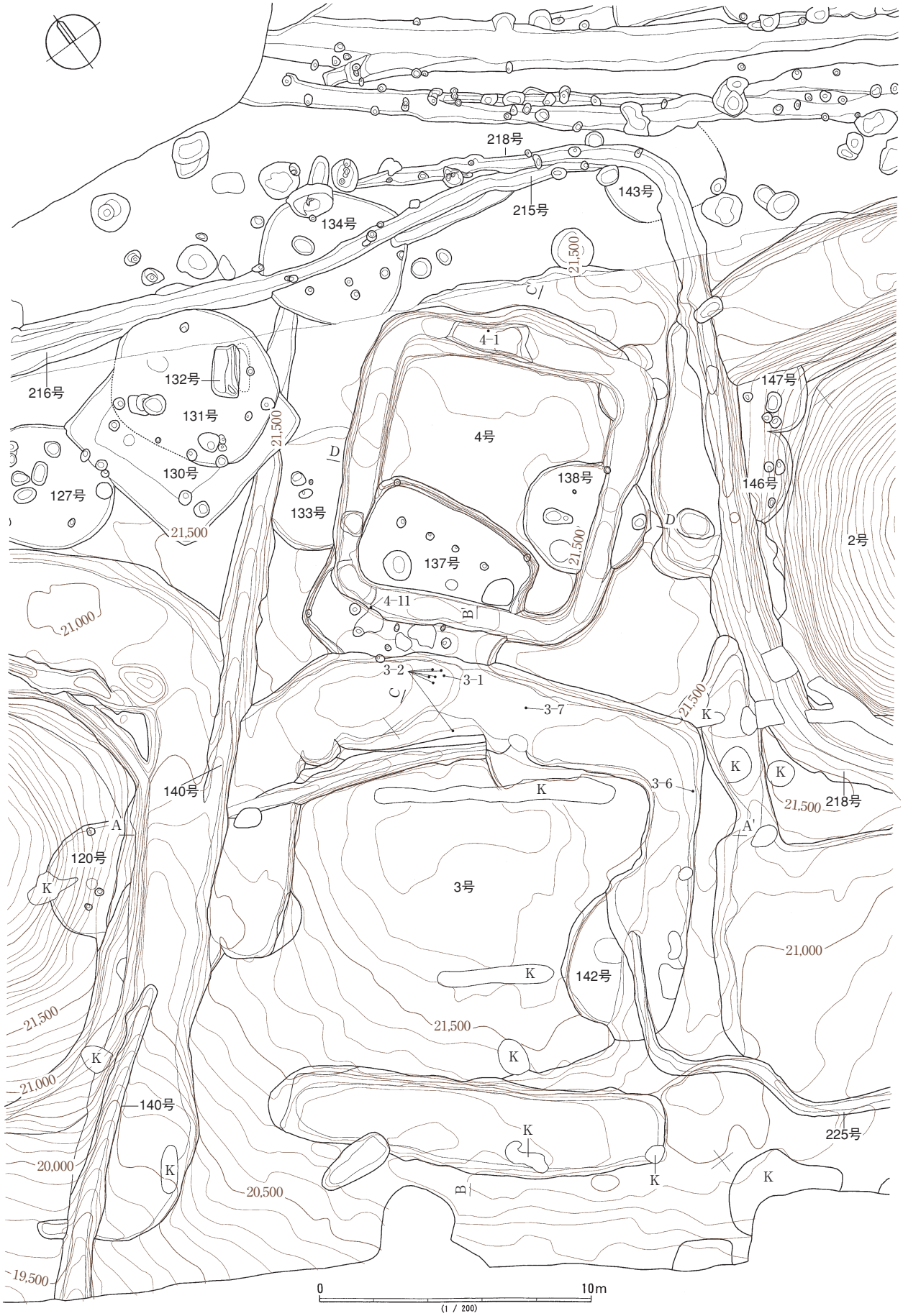
本墳も『市原市埋蔵文化財分布地図―北部編―』には記載されない新発見の古墳である。昭和63年度に調査時にK－３として調査され、年報で２号墳として報告された。平成10年度に内部的に10号墳と命名されているが、一般的には周知されていない。本報告では４号遺構として報告する。

現況

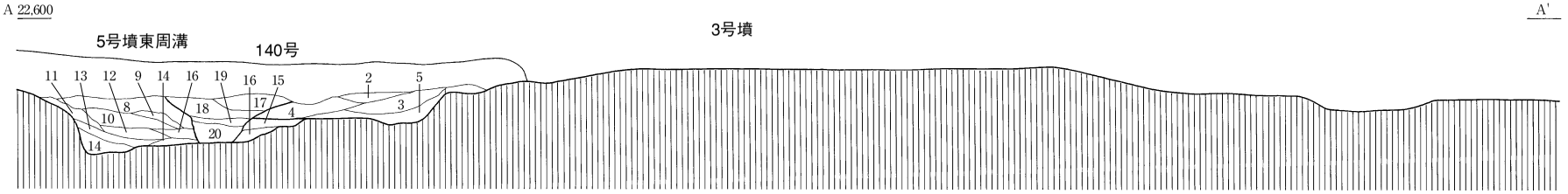
本墳もマウンドが存在した辺田２号墳（２号遺構）と３号墳（５号遺構）の間に挟まれて存在す

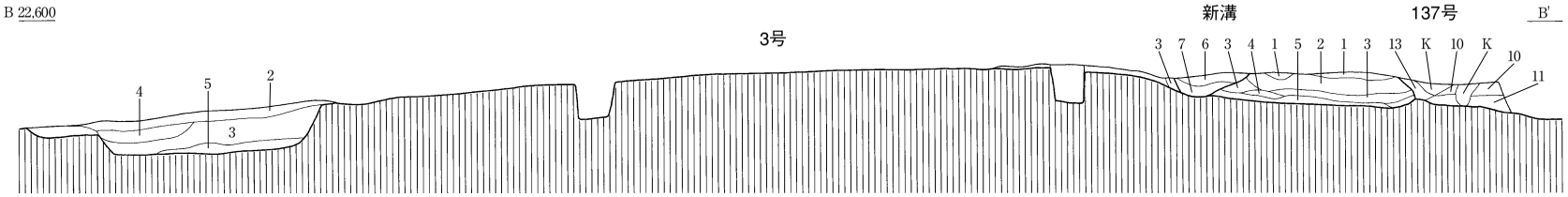


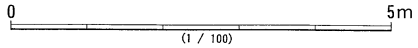
第43図　3・4号遺構　現況地形測量図



第44図　3・4号遺構実測図







3号墳

1 黒褐色土　汚れたローム粒含む。
2 黒色土　ローム粒多量に含む。
3 暗褐色土　多量のロームブロックと褐色土ブロックを含む。
4 暗茶褐色土　ローム粒多量に含む。
5 褐色土　ロームブロック主体。

新溝

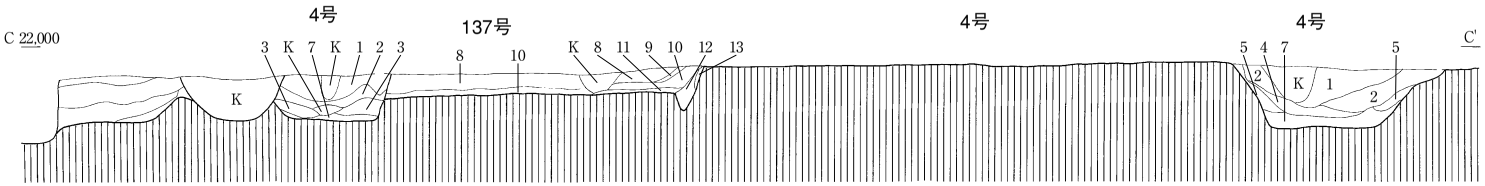
6 黒褐色土　汚れたローム粒含む。
7 暗褐色土　汚れたローム粒やや多く含む。

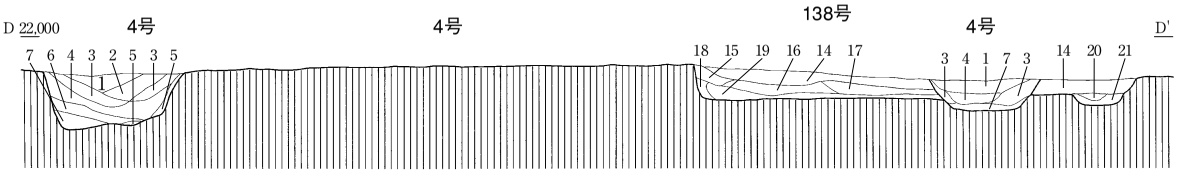
5号墳東周溝

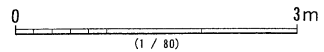
8 黒褐色土　ローム粒含む。
9 黒色土　ローム粒若干含む。
10 暗褐色土　黒色土混じりのローム粒多く含む。
11 暗褐色土　ローム粒やや多く含む。
12 暗褐色土　多量のローム粒含む。
13 暗褐色土　多量の茶褐色粒ローム粒含む。
14 暗茶褐色　ロームブロックとローム粒含む。
15 暗褐色土　ローム粒混じり。
16 暗褐色土　若干のロームブロックとローム粒含む。

140号遺構

17 暗褐色土　表土混じり。
18 暗褐色土　ローム粒含む。
19 暗褐色土　少量の粘土粒含む。
20 黒色土　ローム粒若干含む。







4号墳

1 黒褐色土　ローム粒含む。
2 暗褐色土　ローム粒やや多く含む。
3 暗褐色土　若干のロームブロックとローム粒多く含む。
4 暗褐色土　ローム粒やや多く含む。
5 褐色土　ロームブロックとローム粒多く含む。
6 褐色土　若干のロームブロックと多量のローム粒含む。
7 明褐色土　ロームブロックとローム粒多量に含む。

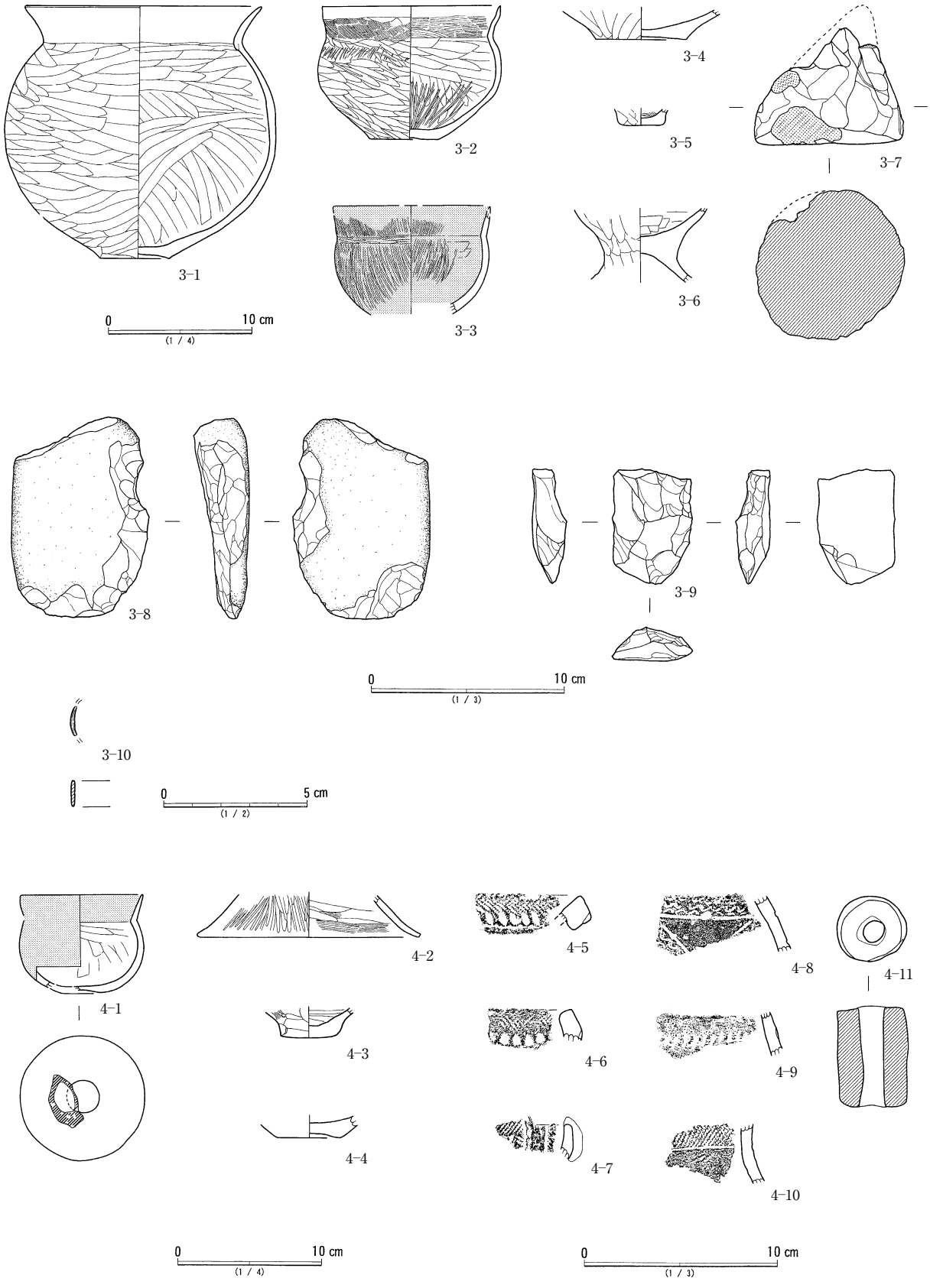
137号遺構

8 黒褐色土　ローム粒含む。
9 褐色土　ローム粒多量に含む。
10 暗褐色土　やや締る。
11 褐色土　ローム粒多量に含む。
12 暗褐色土　ローム粒やや多く含む。
13 褐色土　ローム粒多量に含む。

138号遺構

14 黒褐色土　ローム粒含む。
15 褐色土　ローム粒多量に含む。
16 暗褐色土　若干のロームブロックとローム粒多く含む。
17 暗褐色土　ローム粒やや多く含む。
18 褐色土　ロームブロック多く含む。
19 黒褐色土　若干のローム粒含む。硬く締る。
20 褐色土　ロームブロックとローム粒多量に含む。
21 褐色土　ロームブロック多量に含む。

第45図　3・4・137・138・140号遺構実測図



第46図　3・4号遺構出土遺物実測図

る。肉眼では墳丘の存在が認められなかったが、調査に先行して実施された地形測量から、微弱な高まりが存在したようである。

墳丘と周溝

明瞭な盛土は検出されなかったが、東西径約8.5mの方墳である。133・136・138号遺構を削平して存在し、周溝は全周する。北側周溝の中央やや西よりが、周囲より20cm程低く掘り込まれており、あるいは周溝内土坑が存在していた可能性がある。本墳の主体たる埋葬施設は、盛土と共に流出してしまったようで、検出することはできなかった。

遺物

本墳からは175点1,560ｇの土器・土製品と６点290ｇの自然礫を検出した。その内訳は44点590ｇの土師器と122点800ｇの弥生土器、８点100ｇの縄文土器、１点70ｇの土製品であり、内11点を図示する。４－１・４－２は本墳に直接伴うと考えられる土師器であり、１は北側周溝内底面より44.5cm浮いた状態で検出された。焼成後底部を穿孔するなど、辺田２号墳との共通性を有している。４−11は南側周溝内底面より15.2cm浮いた状態で検出された管状土錘である。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取り上げられており、出土地点は不明である。

５号遺構（辺田３号墳）

『市原市埋蔵文化財分布地図―北部編―』に記載される「辺田３号墳」に該当する古墳であり、昭和63年度にK−４として調査され、年報で４号墳として報告されている。報告に際し「辺田３号墳」を踏襲するが、便宜上５号遺構として報告する。

現況

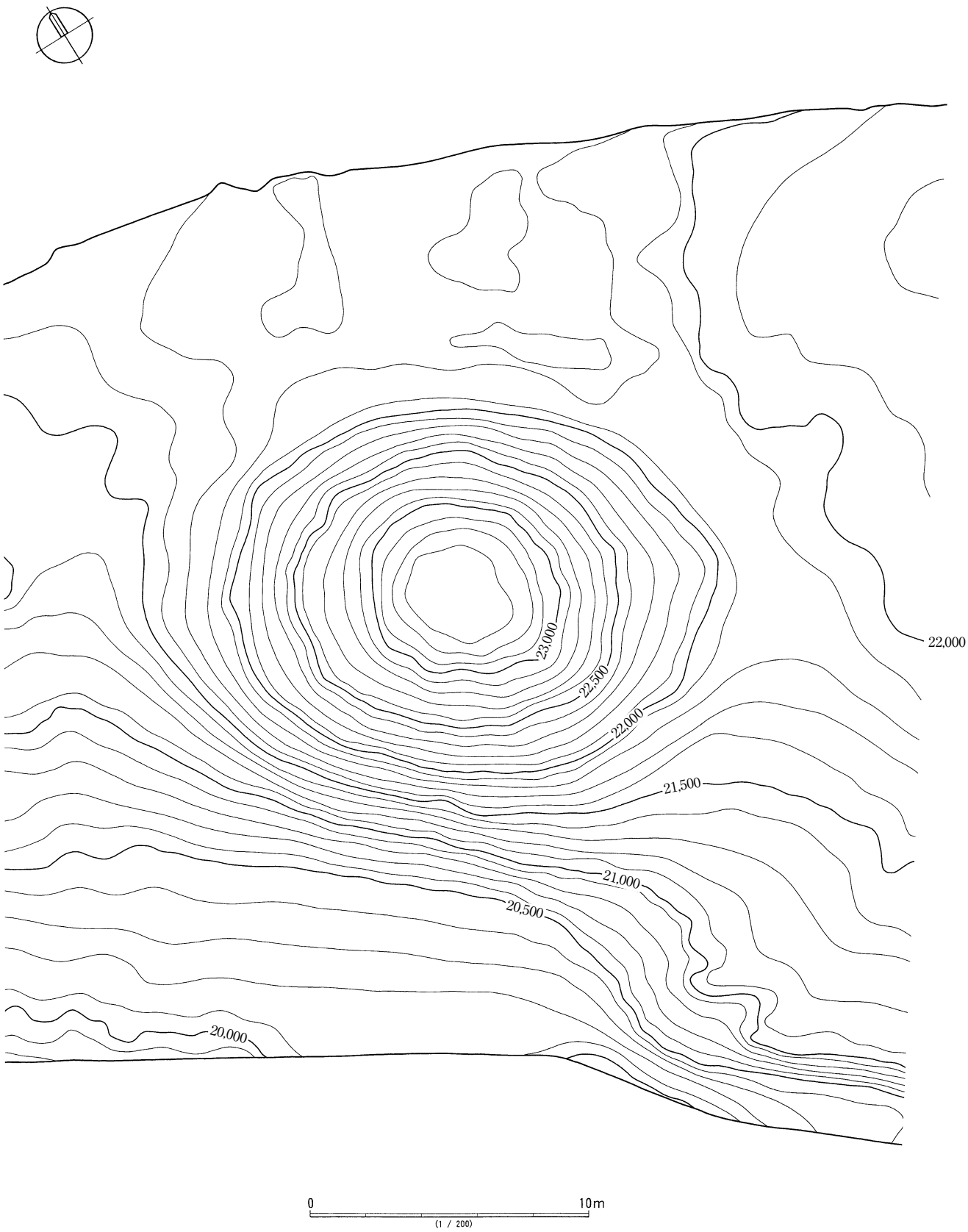
辺田２号墳の西側に位置する。明瞭なマウンドを保持するものの、旧地権者の「家神様」を祭った祠は存在せず、辺田１・２号墳の現況とは異なる存在である。

墳丘と周溝

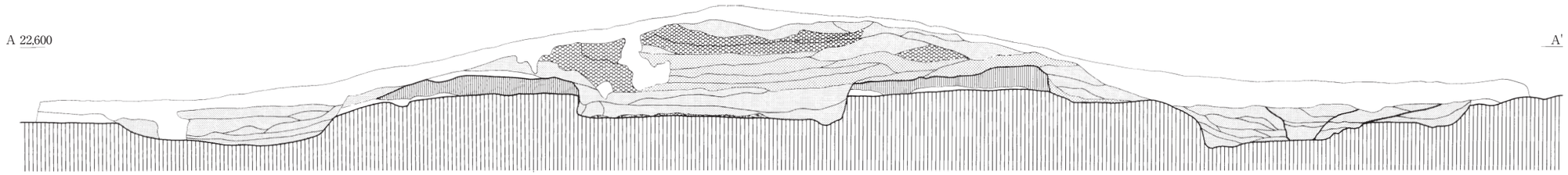
東西径約18.8m、現状盛土高1.7mを測る方墳である。下層に存在する112・113・115・116・120号遺構を削平して存在し、128・129・140号遺構に削平されて存在する。なお、122号とされた南側に存在する溝は、東周溝南端部で検出された西側に向かう溝幅から、本墳南側周溝である可能性が高い。また、本墳中央部下層に封印された状況で検出された119遺構は火災住居跡であり、床密着の状況でＳ字甕の他、多数の遺物が検出された。このことによって、本墳築造時期の下限が限定されてくる。

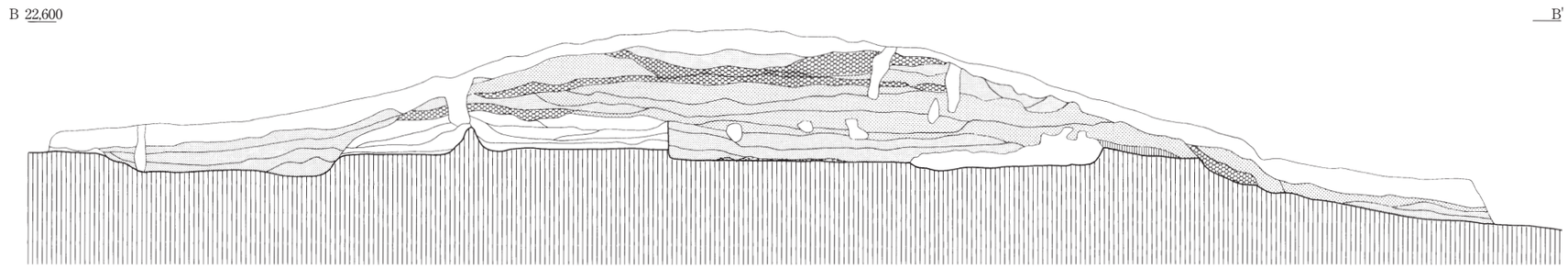
遺物

本墳からは6,619点72,906ｇの土器・土製品と169点11,204.4ｇの礫、２点40.2ｇの鉄器片を検出した。土器片の内訳は2,416点30,902ｇの土師器、32点1,235ｇの須恵器、3,950点36,506ｇの弥生土器、210点3,689ｇの縄文土器を主体とする。また、鉄器で図化できたのは42の番号を付した鉇だけであり、もう一点は恐らくは剣類と思われるが、面を保持しておらず図化することができなかった。これらの出土遺物の内42点を図示した。１は頸部から先を欠くが、北側周溝底から検出された焼成後底部穿孔壺である。２・９・17・36は表土を除去した墳丘に密着して検出された。２は二重口縁壺であり、周囲から36の鉇が検出されていることから、これら墳丘密着で検出された遺物群は、流出した主体部に関連するものと想定される。この他周溝内からは８・11・12・24・25・27・30等の遺物が第49



第47図　5 号遺構　現況地形測量図





ロームブロック大・中を含む
ローム主体層

ローム粒、ロームブロックと有
機質土半々

有機質土中に
ローム粒、ロームブロック含む

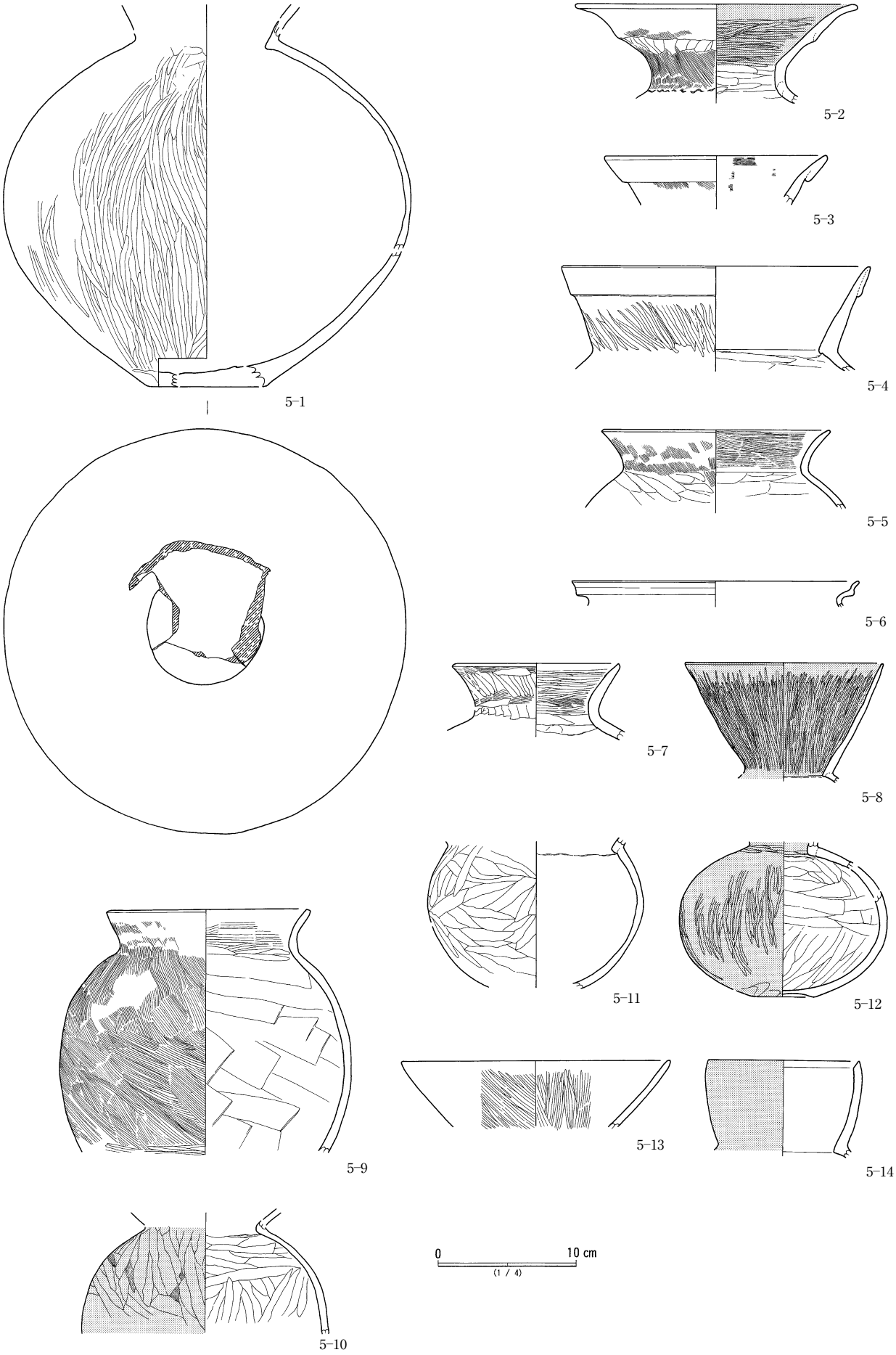
有機質土

炭灰を含む層

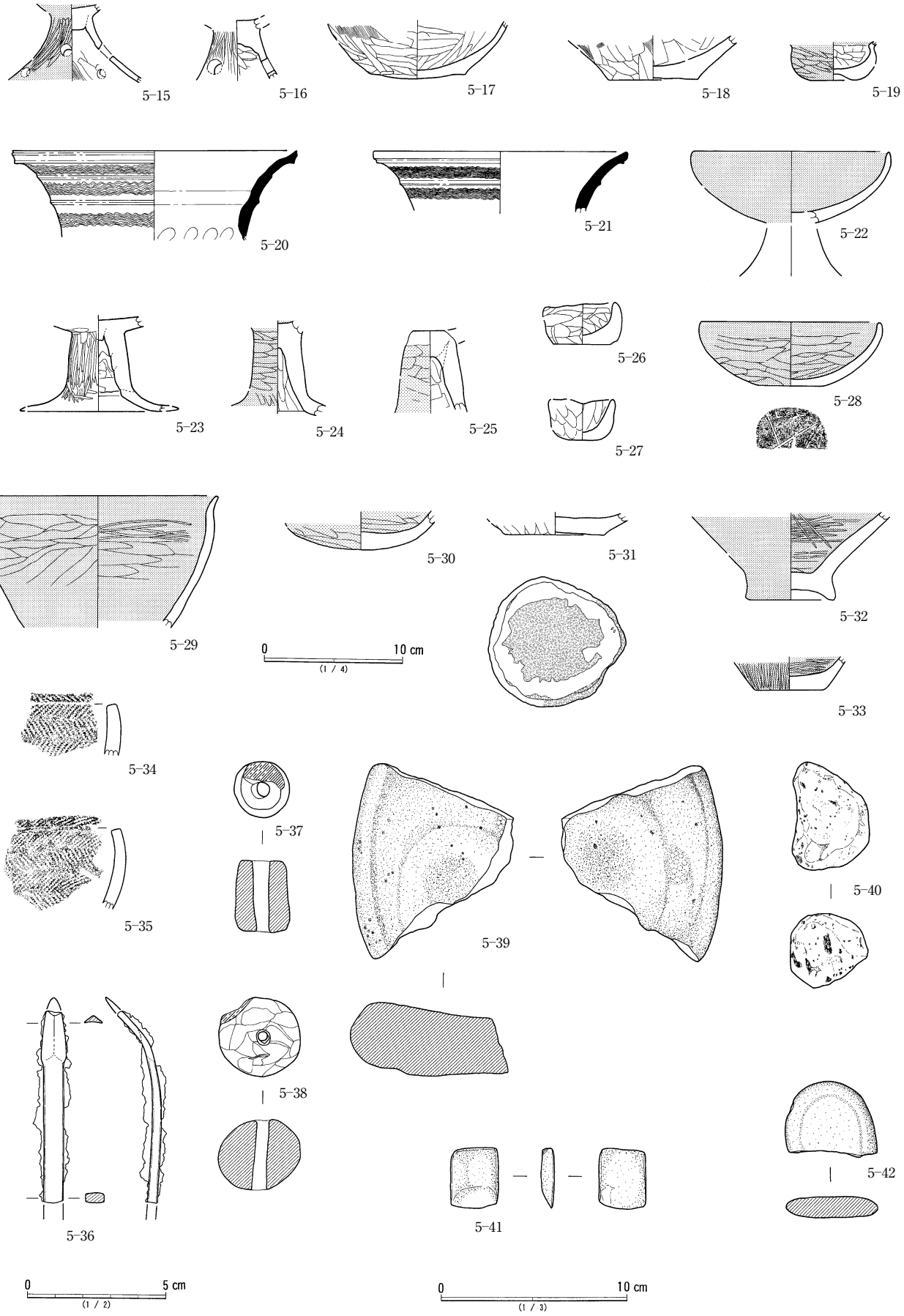
0 5m
(1 / 100)

第48図　5 号遺構（辺田 3 号墳）実測図

第49図　5 号遺構（辺田 3 号墳）実測図



第50図　5 号遺構（辺田 3 号墳）出土遺物実測図



第51図　5 号遺構（辺田 3 号墳）出土遺物実測図

図に示した位置から検出されている。これ以外は全て周溝から出土した一括遺物であるが、須恵器や高坏・坏は古墳時代中期の特定された時期に比定できるものであり、周囲に同時期の遺構が存在しないことから、古墳時代中期の段階で追葬が行われた可能性が考えられる。

6号遺構

昭和59年度の調査時に根田1号塚とされた遺構である。盛土直下には明瞭な平面プランを持たず、焼成後底部穿孔壺やガラス小玉などの遺物だけが出土した調査時遺構番号1044号が存在する。

現況

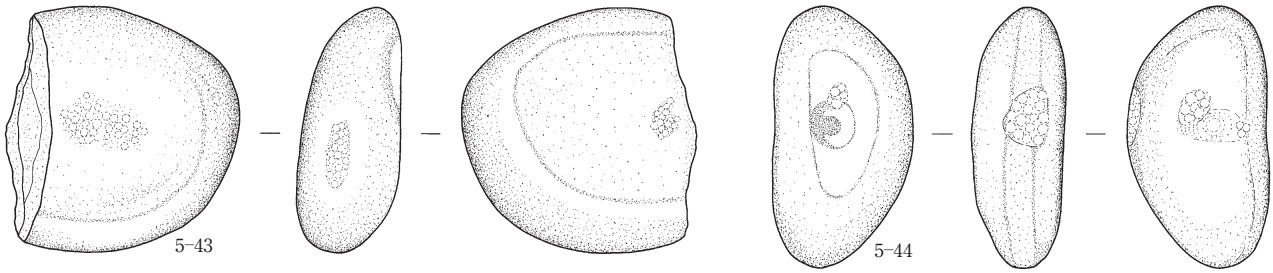
辺田5号墳の西側に位置する。明瞭なマウンドを保持するものの、旧地権者の「家神様」を祭った祠は存在せず、辺田5号墳との類似性が指摘できる。

墳丘と周溝

コンター図から見れば南側で2m、墳丘断面図の盛土開始面とされる土層からは高さ1.8m規模の盛土を保持する。第52図に示す土層断面太線直下は、調査者によって盛土開始面とされた層位であるが、ソフトロームを含んだ黒褐色土と暗褐色土の混合土であり、間層を挟んで、更にその下層には96号遺構（住居跡）が存在することから純粋な旧表土ではなく、南側に存在するソフトローム層の上層が旧表土として捉えられることから、むしろ盛土である可能性が極めて高い。なお、調査時1044号は、この盛土開始面とされた土層以下より96号遺構間の間層を示すものと捉えられる。盛土内からは第53図1～10、調査時1044号からは11～14の番号を付した遺物が検出された。11・12を除けば、全て一括で取り上げられているため、本来の出土地点は不明であるが、9世紀代の土師器甕や布目瓦片を含むことから、本遺構を単なる塚と見れば、墳丘築造は少なくとも9世紀代の遺物を含む段階以降となる。しかし、本遺構の土層断面の3方にはさほど深くはないが、周溝状の落ち込みが検出されていること（99号・211号溝であるが、211号溝は本遺構に接する範囲の溝幅が急激に広くなること）、1044号として取り上げられた焼成後穿孔の底部穿孔壺やガラス小玉などが存在すること、西側に隣接して86号方形周溝墓（出現期古墳）が存在することなどの関係から、本遺構は、その東側に周溝の検出を見ないものの、南北径約8.95mの墳丘・周溝を保持し、主体部を流出した弥生墳丘墓ないしは出現期古墳の範疇で捉えたい。

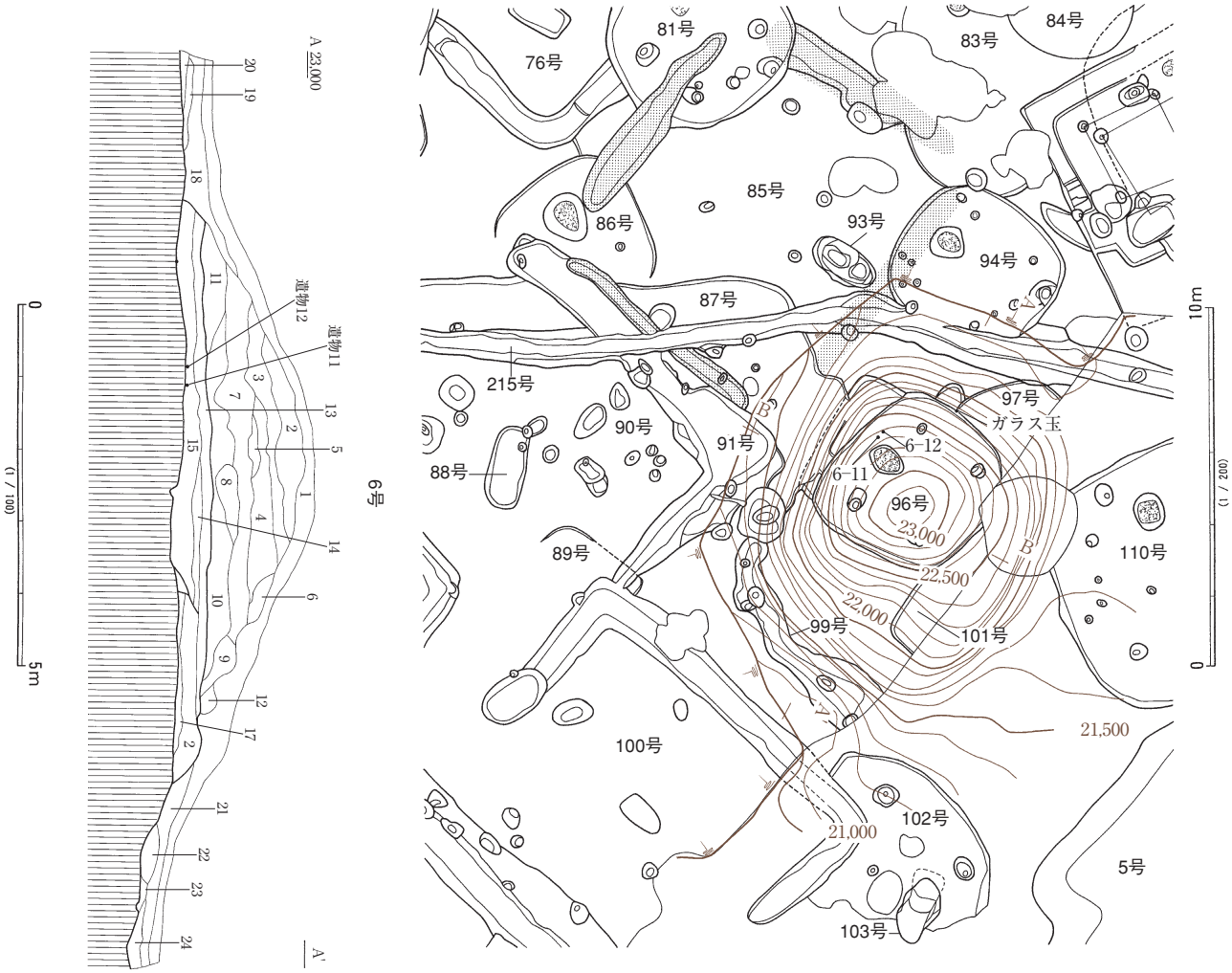
遺物

上層としての盛土内からは620点6,835ｇの土器片と52点2,430ｇの礫を検出した。土器片等の内訳は533点5,635ｇの土師器、2点10ｇの須恵器、77点950ｇの弥生土器、2点30ｇの縄文土器、6点90ｇの手捏土器1点120ｇの瓦である。また、調査時1044号からは、69点3,430ｇの土器片と1点50ｇの礫を検出した。その内訳は弥生終末期から古墳時代にかけての移行期の土器を主体とし、どちらかといえば土師器が55点1,020ｇ、どちらかといえば弥生土器が12点2,375ｇ、及び須恵器1点10ｇである。この他、現在所在不明で図化することができないが、調査図面から1点のガラス小玉が第52・113図に示した位置で出土したこととなっている。上層及び下層出土遺物を併せると、総数689点10,145ｇの土器片が出土するが、弥生終末から古墳前期にかけての過渡期の遺物が主体を占め、古墳時代後期以降の比較的新しい段階に比定できる遺物は、掲載した8・9・10・13・14を含めても土師器3点50ｇ、須恵器3点20ｇ、瓦1点120ｇの計7点190ｇの小片に過ぎず、これら比較的新しい段階



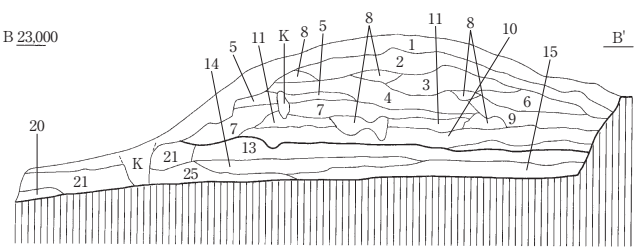
6号遺構

1 暗褐色土　表土。
2 黒褐色土　暗褐色土＋ソフトローム。
3 黒褐色土　ローム粒混じる。
4 黒褐色土　ソフトローム混じる。
5 黒褐色土　ソフトローム混じる。
6 黒褐色土　暗褐色土含む。
7 黒色土　ソフトローム含む。
8 黒褐色土　やわらかい。
9 暗褐色土　黒色強い。
10 黒褐色土　比較的硬い。
11 黒色土　ソフトローム含む。

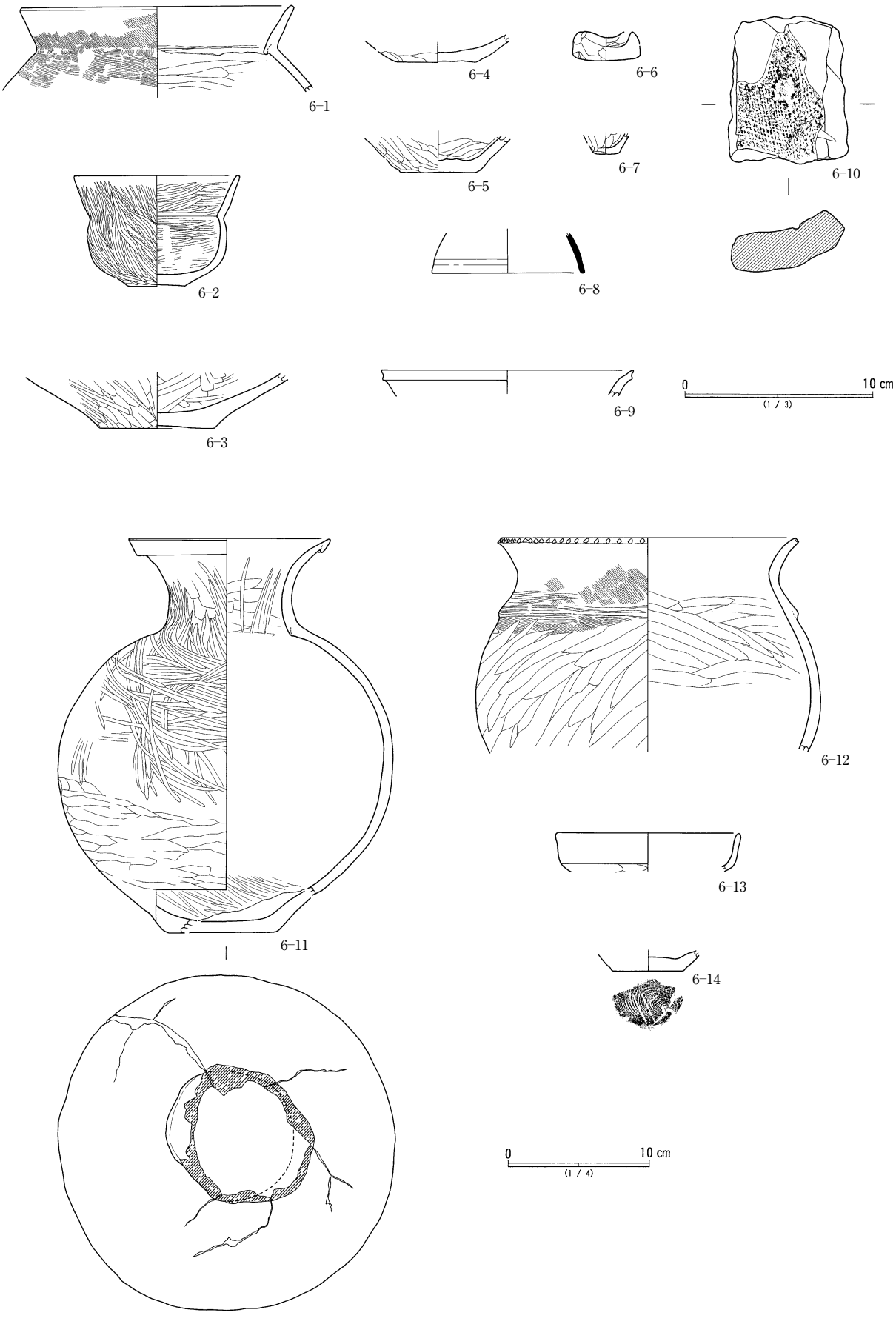


6号遺構

12 茶褐色土　ローム粒含む。
13 黒褐色土　暗褐色土＋ソフトローム含む。塚築造開始面。
14 茶褐色土　暗褐色土含む。
15 暗褐色土　ローム粒含む。
16 暗褐色土　プライマリー。
17 明褐色土　ソフトローム層。
18 暗褐色土　流土。
19 黒褐色土　宝永火山灰含む。
20 暗褐色土　黒色土含む。
21 暗褐色土　ソフトローム、ローム粒含む。
22 暗褐色土　ソフトローム含む。
23 暗褐色土　暗褐色土＋ソフトローム含む。
24 暗褐色土　ローム粒含む。
25 茶褐色土　暗褐色土含む。14層に似る。

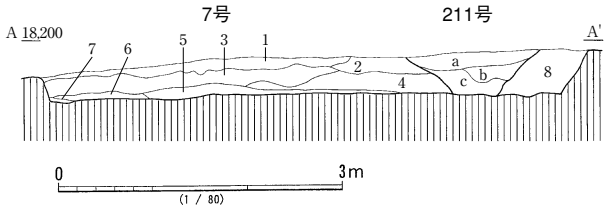


第52図　5 号遺構（辺田 3 号墳）出土遺物実測図・ 6 号遺構実測図



第53図　6 号遺構出土遺物実測図

第54図　7・8・9・211号遺構実測図

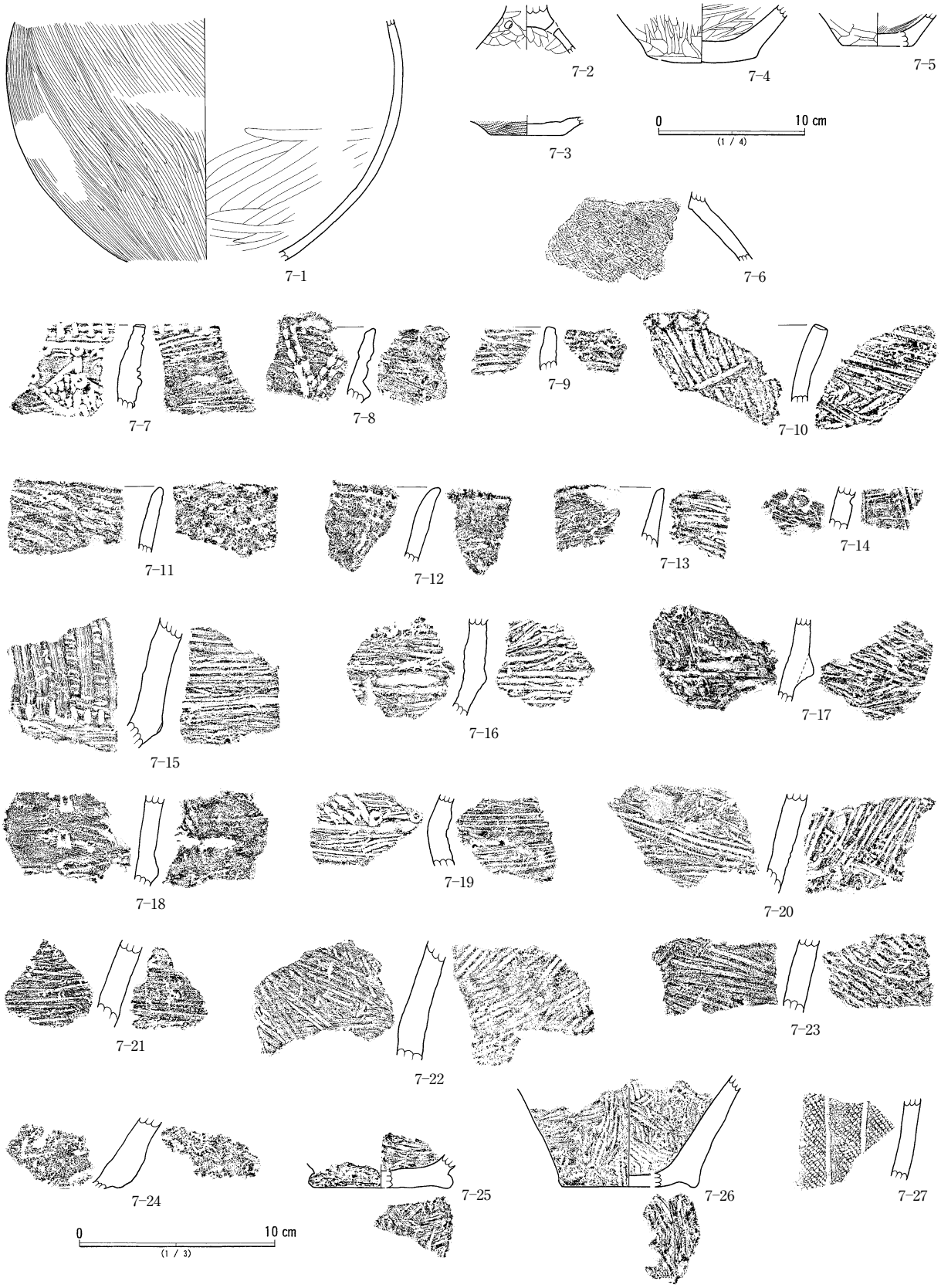


7号遺構

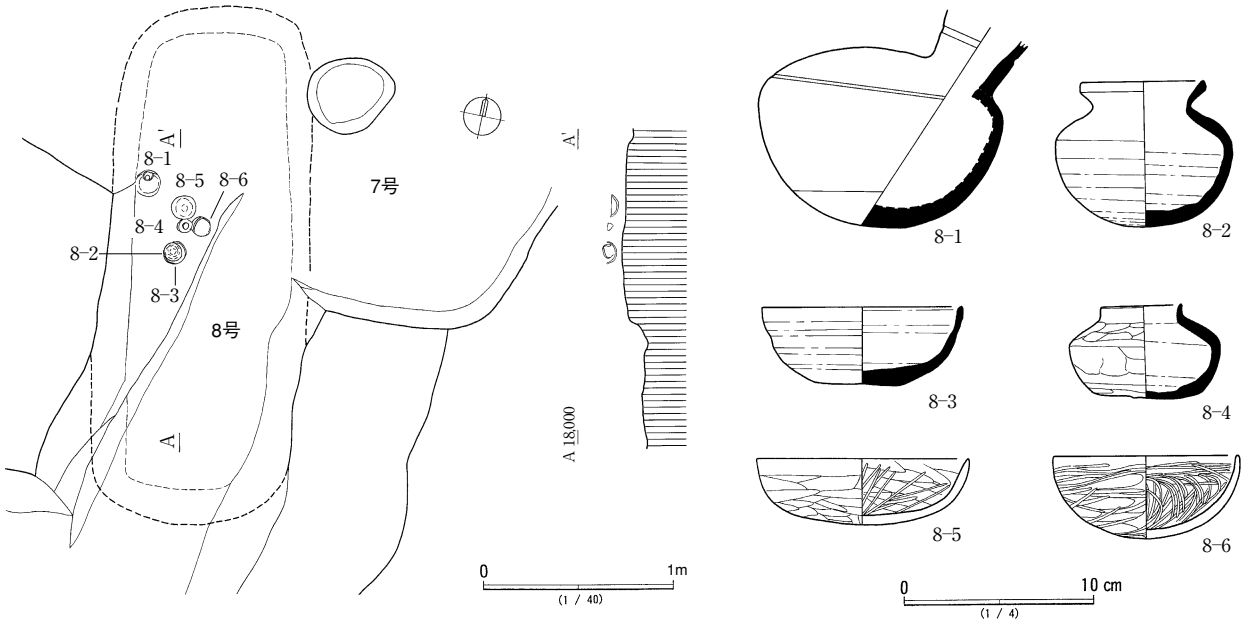
1 黒色土　黒褐色土中にローム粒含む。
2 黒褐色土　暗褐色土含む。
3 暗褐色土　黒褐色ブロックとローム粒含む。
4 暗褐色土　黒褐色ブロックとローム粒含む。
5 暗褐色土　ローム粒含む。やや締る。
6 黒褐色土　暗褐色土含む。
7 暗褐色土　若干のロームブロックとローム粒含む。
8 暗褐色土　ローム粒、ロームブロックと含む。

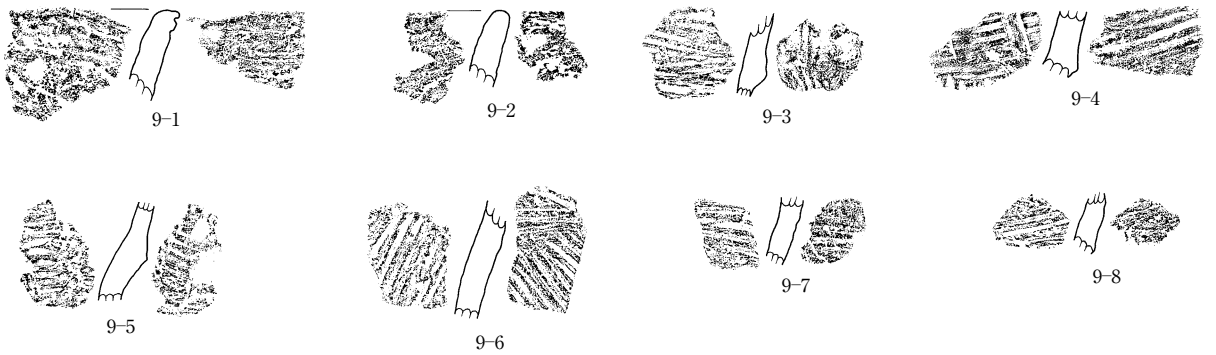
211号遺構

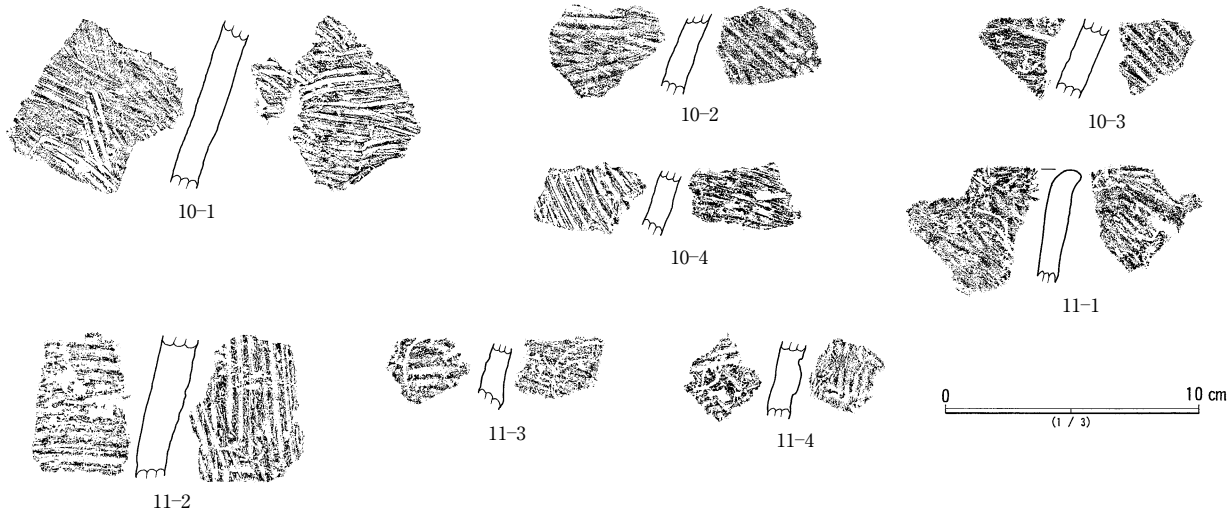
a 黒色土　黒褐色土中にローム粒含む。
b 暗褐色土　ローム粒含む。
c 暗褐色土　ローム粒やや多く含む。



第55図　7・211号遺構実測図・7号遺構出土遺物実測図







第56図　8 号遺構実測図・ 8 ～11号遺構出土遺物実測図

の遺物は後世の混入である可能性が極めて高いといえよう。なお、11・12は第52・113図に示した地点より検出されている（写真図版16）。

７号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1125号。調査区西端に位置し、平面形は隅丸方形を呈する竪穴住居跡である。長径5.8m、短径5.6mを測り、主軸方位はN-77°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東40.4cm、西18.5cm、南29.4cm、北26.2cmを測り、東壁が最も遺存状態がよい。炉は中央やや西寄りに検出された。長軸長1.0mを測り、長軸方位はN-45°-Wを示し、床面より４cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、ピットは２箇所に検出された。深さはＰ１が20.1cm、Ｐ２が38cmを測る。土層断面より遺構の東側を211号溝に削平されて存在し、覆土は自然堆積の状況を示す。

遺物

本遺構出土遺物の総数・総重量の把握に努めた結果、273点4,311.1ｇの土器片と64点2,970ｇの礫を検出した。土器片の内訳は134点1,827.5ｇの弥生終末から古墳前期にかけての過渡期の土器群と、４点178.6ｇの弥生土器、134点2,282.2ｇの早期条痕文系の土器、１点22.8ｇのその他縄文土器である。住居の平面形態や出土遺物から、本遺構は弥生終末～古墳前期にかけての時期に比定できるが、覆土中より極めて多量に検出された早期条痕文系土器の存在から、周囲に縄文時代早期の包含層ないしは遺構が存在した可能性が高い。これらの出土遺物の内27点を図示した。１はＰ２付近の床面密着で検出された壺であり、本遺構に直接伴うものと考えられる。これ以外の本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

８号遺構

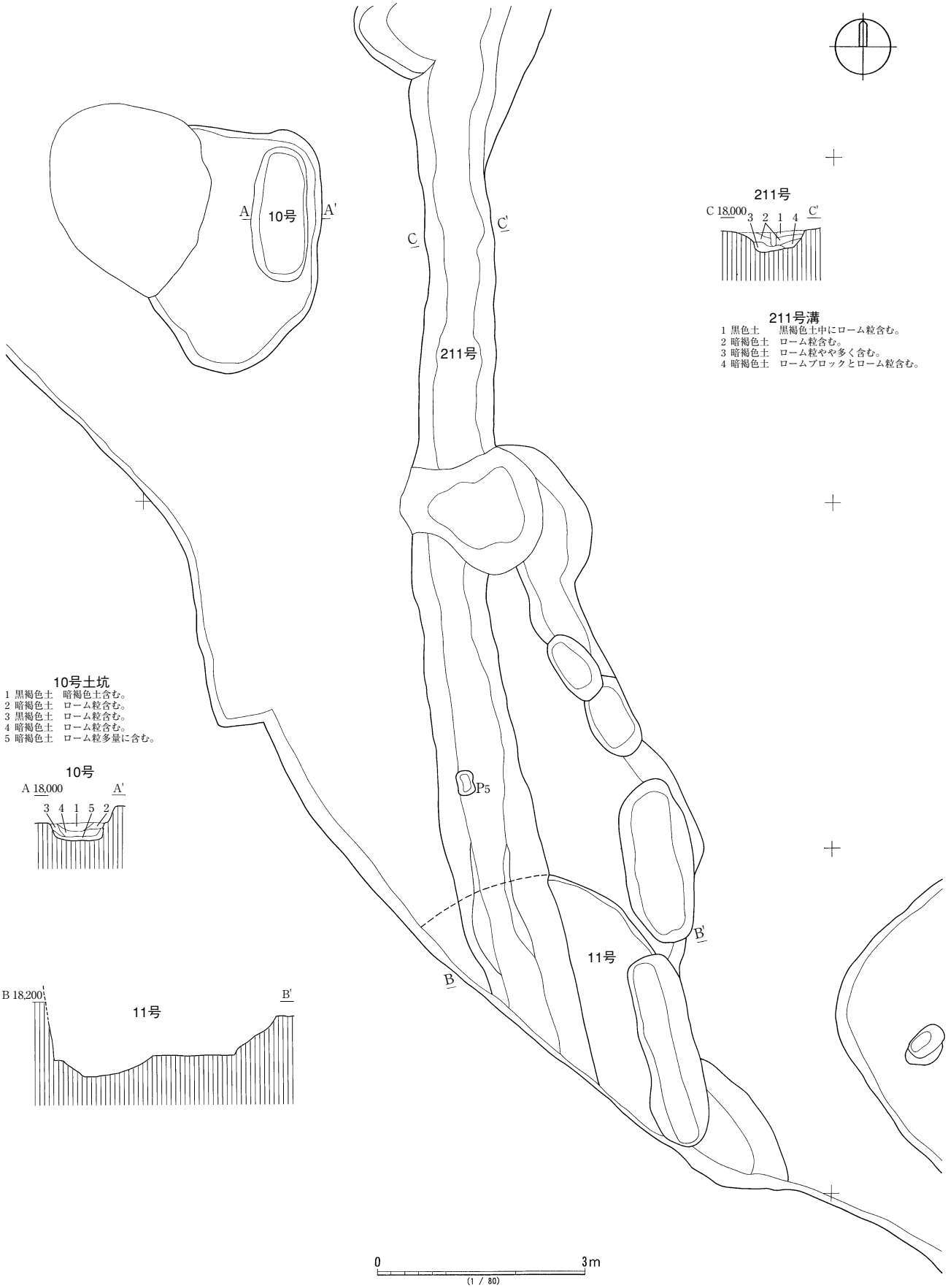
昭和59年度調査時遺構番号1126号。７号遺構を削平し、211号遺構に削平されて存在する。明瞭な平面プランの検出を見なかったが、調査者の所見で平面図に図示した破線で示されていたことから、平面形は隅丸長方形を呈する土壙墓であろうと推定される。推定長径2.78m、短径1.1mを測り、主軸方位はN-９°-Wを示す。残存する壁高は、東14.1cm、西20.8cmを測り、西壁が最も遺存状態がよい。残存する底面はほぼ平坦であり、底面より３cm程度浮いた状況で６点の土師器・須恵器が検出された。

遺物

本遺構からは６点705.3ｇ以上の土師器・須恵器が出土した。土器片の内訳は２点230.3ｇの土師器、４点475ｇ以上の須恵器である。１の須恵器平瓶は調査図面と写真に記録されているが、現在行方不明で遺物観察や重量測定ができなかった。田中新史実測図コピーをトレースし掲載するものである。何れも古墳時代終末期の極めて限定された時期に比定できる遺物であり、本遺構に直接伴うものと考えられる。

９号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1128号。８号遺構の東に位置し、平面形は隅丸長方形を呈する土坑であ



第57図　10・11・211号遺構実測図

る。長径1.46m、短径0.81cmを測り、主軸方位はN-39°-E示す。残存する壁高は、東壁14.0cm、西壁8.9cm、南壁5.5cm、北壁15.2cmを測り、北壁が最も遺存状態がよい。底面はほぼ平坦でありピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは19点182.4ｇの土器片と１点49.6ｇの礫が出土した。土器片の内訳は１点2.8ｇの土師器、18点179.6ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内８点を図示した。本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

10号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1127号。７号遺構の南に位置し、平面形は隅丸長方形を呈する土坑である。長径1.96m短径0.82cmを測り、主軸方位はN-１°-Eを示す。残存する壁高は、東壁22.8cm、西壁22.8cm、南壁19.6cm、北壁18.5cmを測り、東西壁が最も遺存状態がよい。底面はほぼ平坦でありピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは21点207.9ｇの土器片と５点220ｇの礫が出土した。土器片の内訳は、９点47.8ｇの土師器、12点160.1ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内４点を図示した。土師器は何れも古墳後期以降の甕小片であり図示に至らない。本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。ただし、古墳後期以降の土師器が検出されていることから、８号遺構と類似した土壙墓の可能性が考えられる。

11号遺構

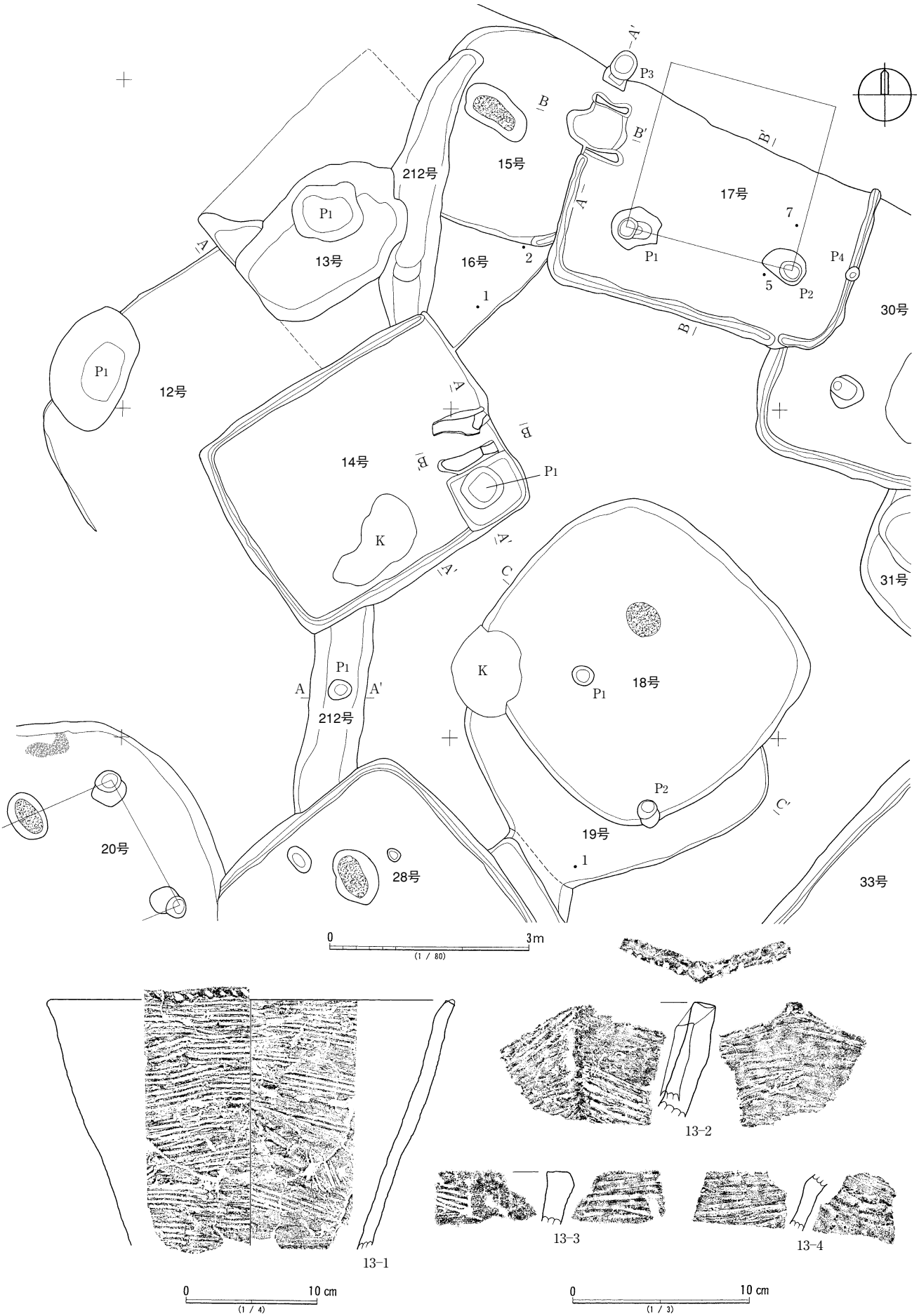
昭和59年度調査時遺構番号1130号。10号遺構の南に位置し、211号溝と近年のイモ穴に大半を削平されて存在する。炉跡や柱穴を検出しなかったが、平面形は楕円形を呈する竪穴住居跡と考えられる。主軸方位や規模は不明であるが、残存する北壁の高さは最大５cmを測る。床面はほぼ平坦であり、周溝・ピットは検出されなかった。

遺物

本遺構からは７点268.8ｇの土器片と７点540ｇの礫が出土した。土器片の内訳は１点2.5ｇの土師器、１点151.6ｇの弥生土器、５点114.7ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内５点を図示した。何れも覆土一括で取り上げられており、出土地点を明示するものは無い。この内古墳後期以降の土師器甕小片は211号遺構（溝）に伴うものと考えられ、５の番号を付した弥生土器底部が本遺構に直接伴うものと考えられる。

12号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1118号。９号遺構の東に位置し、14・16号遺構に削平されて存在する。炉跡や柱穴を検出しなかったが、平面形は隅丸方形を呈する竪穴住居跡と考えられる。残存する西壁から、主軸方位はN-30°-Wを示すものと捉えられ、残存する壁高は、北壁6.1cm西壁3.5cmを測り、北壁が最も遺存状態がよい。床面はほぼ平坦であり、周溝・柱穴等は検出されなかった。Ｐ１は調査



第58図　12～19・212号遺構実測図・13号遺構出土遺物実測図

時遺構番号を付されていないが、深さ72.4cmを測り、底面も平坦で掘り込みもしっかりしていることから、土坑である可能性が高い。

遺物

本遺構からは10点117.3ｇの土器片と４点80ｇの礫が出土した。土器片の内訳は１点４ｇの土師器、９点113.3ｇの早期条痕文系土器であるが、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。また、出土遺物の全てが器面剥離や磨耗の激しいものばかりで、図示に至るものはない。

13号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1124号。12号遺構の東に隣接して存在する平面形不整楕円形を呈する土坑である。長径2.8m短径1.88mを測り、主軸方位はN-60°-Eを示す。残存する壁高は、東壁74.1cm、西壁41.5cm、南壁39.2cm、北壁30.5cmを測り、東壁が最も遺存状態がよい。床面はほぼ平坦で、北よりに深さ6.9cmのピットが存在する。検出される土器群の主要は早期条痕文系の土器であり、当期の土坑と推定される。

遺物

本遺構からは36点1,873.7ｇの土器片と７点548.9ｇの礫が出土した。土器片の内訳は11点101.5ｇの弥生土器、25点1,772.2ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内４点を図示した。１のような大型品の早期条痕文系土器も存在するが、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

14号遺構

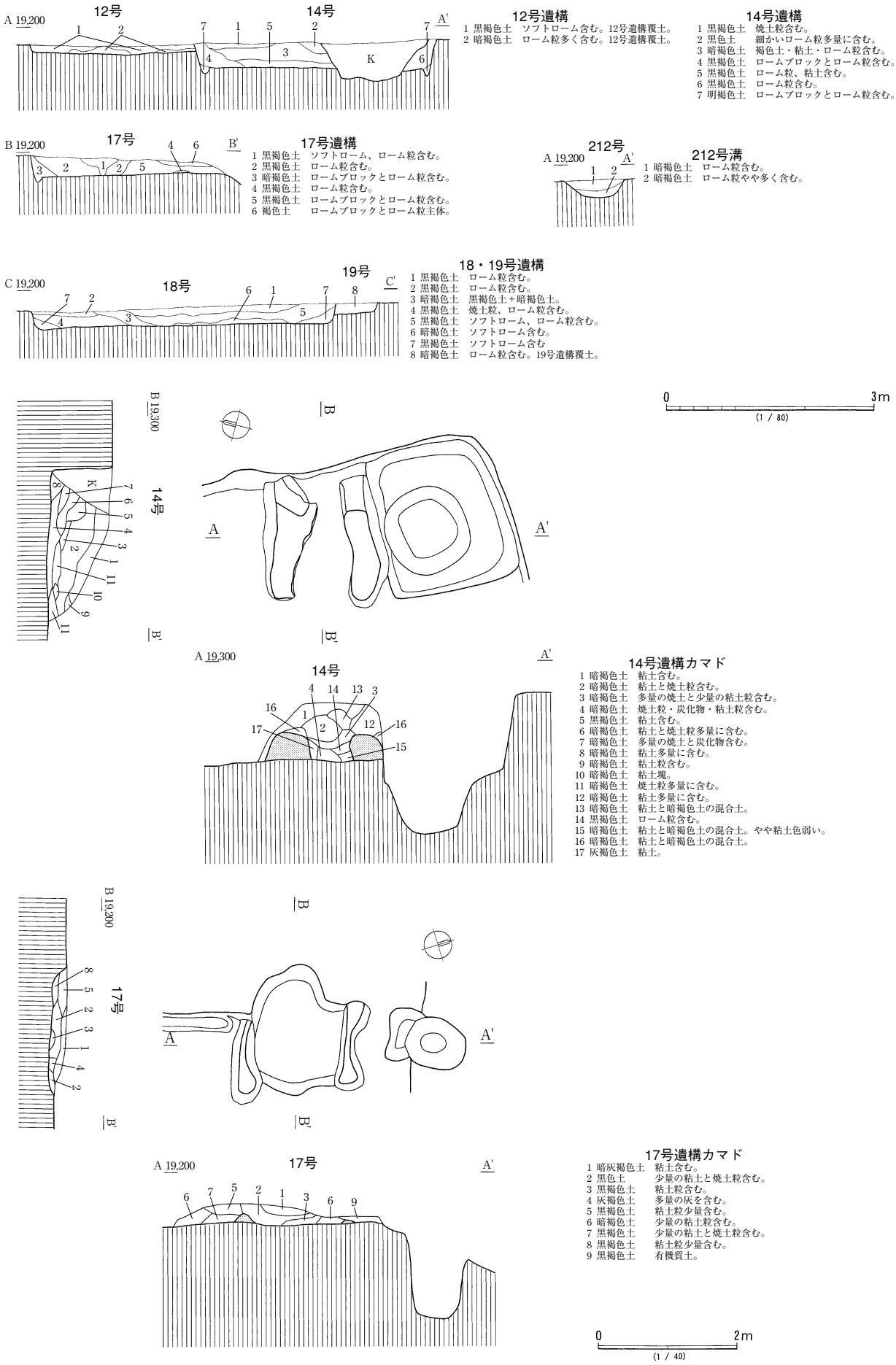
昭和59年度調査時遺構番号1117号。12号遺構を削平し、212号溝に削平されて存在する平面形が長方形を呈する竪穴住居跡である。長径4.36m、短径3.48mを測り、主軸方位はN-57°-Eを示す。残存する壁高は、それぞれ東52.0cm、西27.0cm、南39.8cm、北21.5cmを測り、東側が最も遺存状態がよい。東壁中央やや南側にカマドを装備し、カマド右脇には貯蔵穴と想定されるＰ１が存在する。Ｐ１は周囲の床面より18.0cm程掘り込んだ長方形の平坦面を有し、その中央部を更に82.0cm程隅丸方形に掘り下げる２段構造の掘り方を呈し、平坦面にはピットを覆う板等の蓋の存在が想定される。周溝はカマド設置壁面以外から検出され、深さは床面より４～7.6cmを測る。床面はほぼ平坦であり、主柱穴は検出されなかった。

遺物

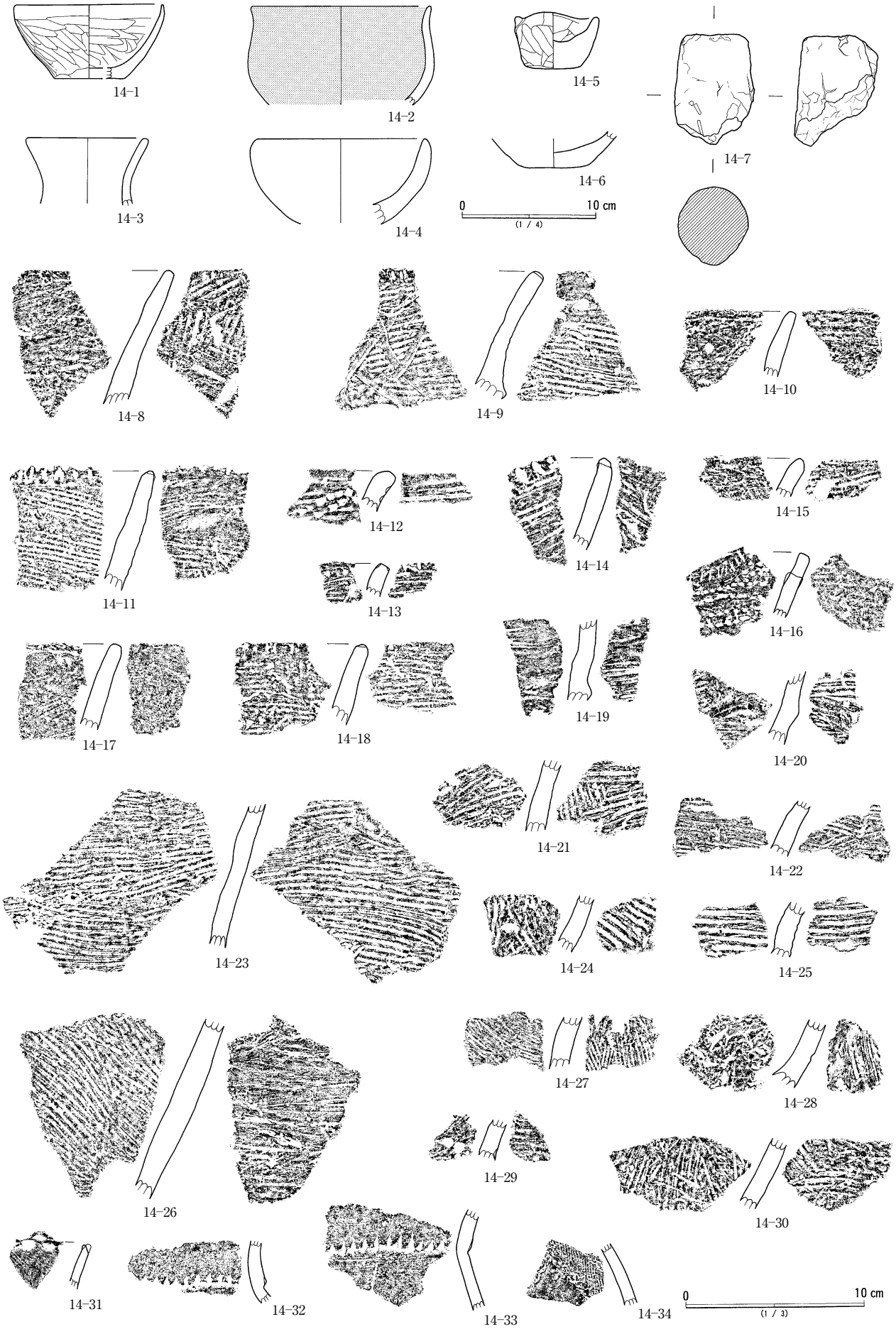
本遺構からは455点29,899.2ｇの土器片と86点2,860.9ｇの礫が出土した。土器片の内訳は78点861.2ｇの土師器、122点1,439ｇの弥生土器、253点27,492.8ｇの早期条痕文系土器などであり、早期条痕文系土器が圧倒的に多い。これらの出土遺物の内34点を図示した。本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

15号遺構

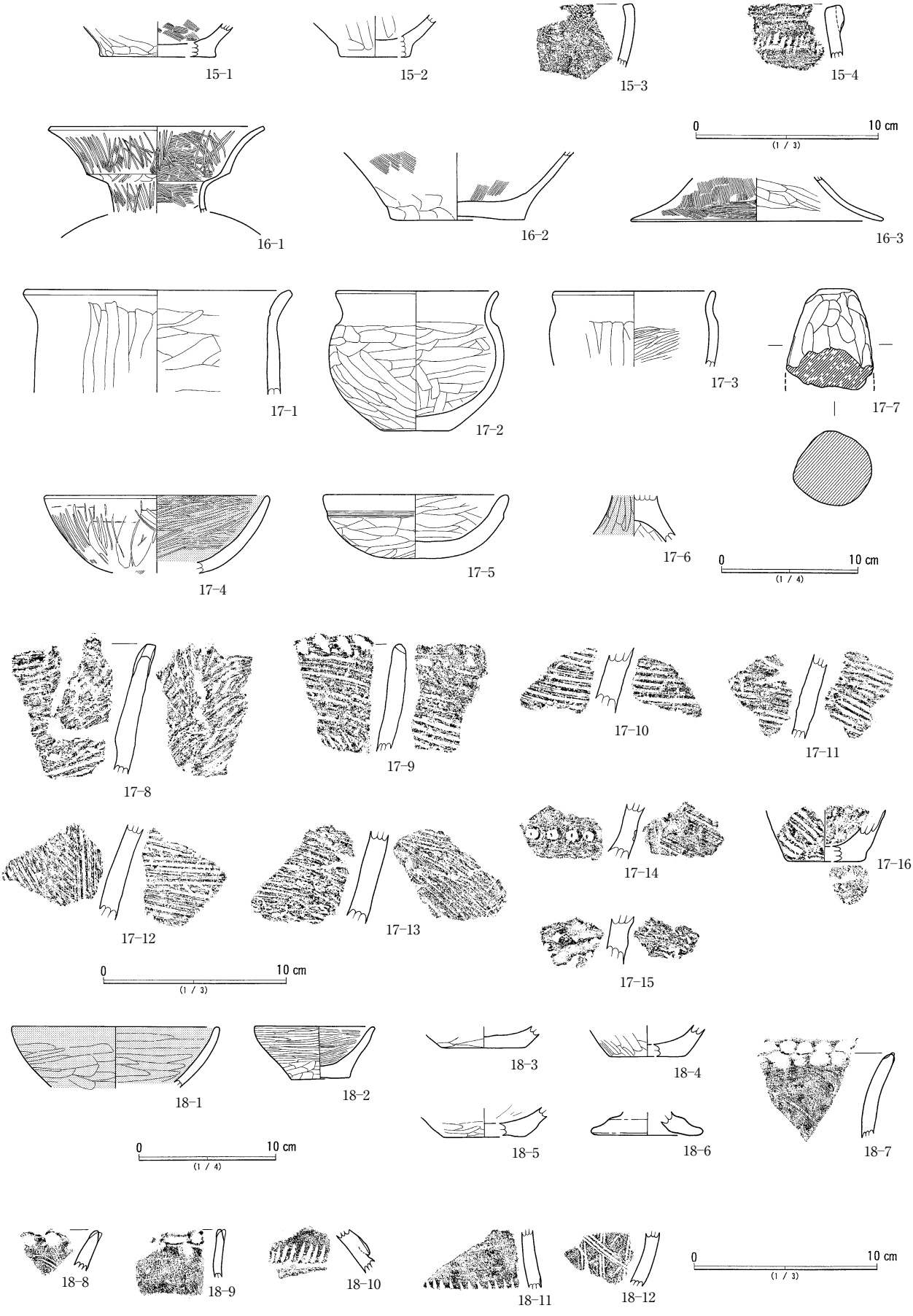
昭和59年度調査時遺構番号1120号。17・213号遺構に削平されて存在する平面形が楕円形を呈する



第59図　12・14・17～19・212号遺構実測図



第60図　14号遺構出土遺物実測図



第61図　15～18号遺構出土遺物実測図

竪穴住居跡である。長径3.14ｍを測り、主軸方位はN-82°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ南17.6㎝、北4.7㎝を測り、南側が最も遺存状態がよい。炉は中央部西寄りに検出さた。長軸長1.08ｍを測り、長軸方位はN-53°-Wを示し、床面より7.8㎝程下がった位置で火床を検出する。床面はほぼ平坦であり、主柱穴は検出されなかった。

遺物

本遺構からは31点242.3ｇの弥生土器と２点34.4ｇの礫が出土した。これらの出土遺物の内４点を図示した。本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

16号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1121号。12号遺構を削平し、14・212号遺構に削平されて存在する推定平面形が方形の竪穴住居跡である。推定長径4.26ｍ推定短径3.74ｍを測り、主軸方位はN-46°-Eを示す。残存する南壁高は6.6㎝を測る。床面はほぼ平坦であり、炉・主柱穴・周溝は検出されず、遺存状態は極めて不良である。

遺物

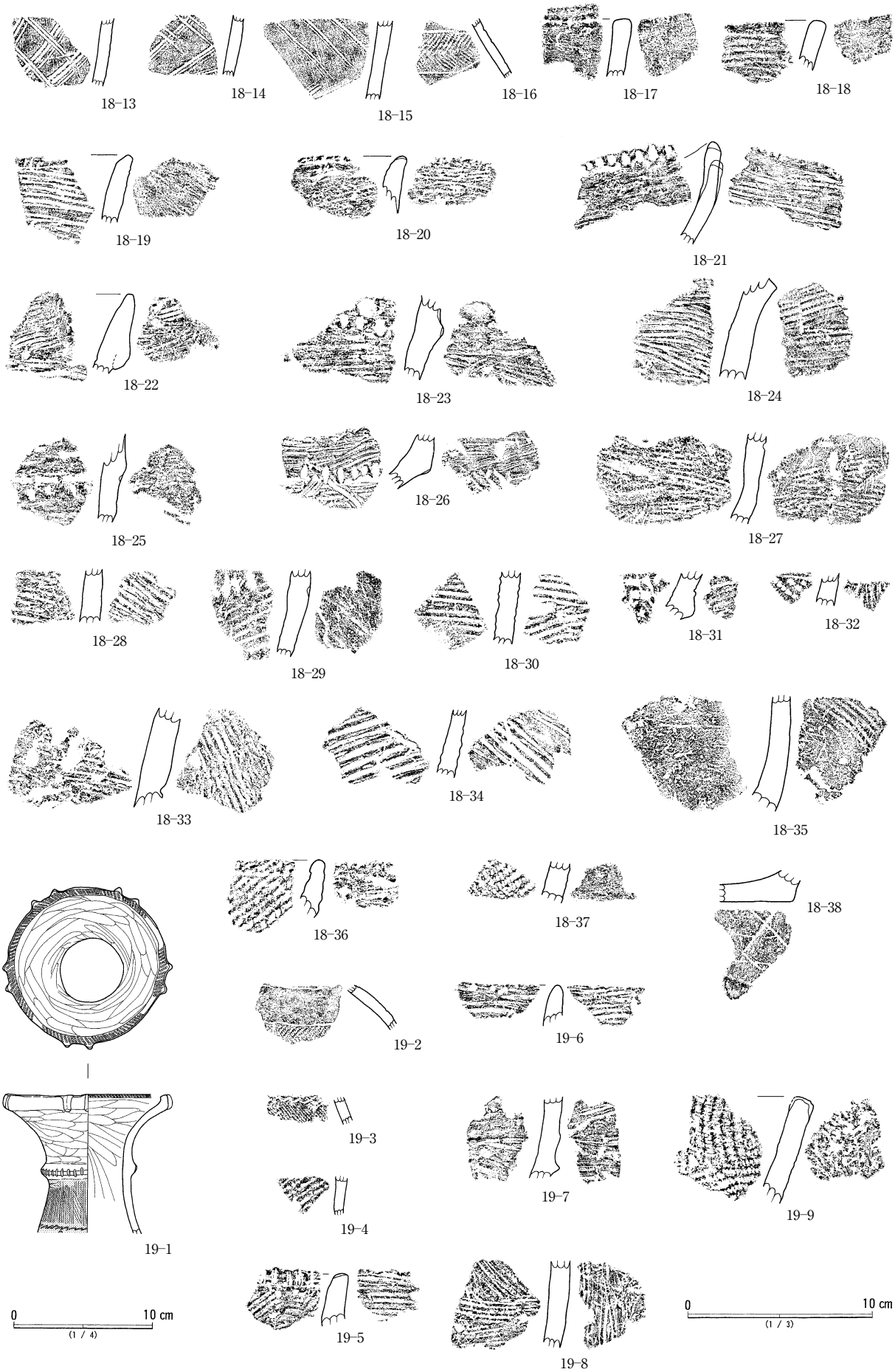
本遺構からは64点810ｇの土器片を検出した。土器片の内訳は23点635ｇの土師器、36点130ｇの弥生土器、５点45ｇの早期条痕文系土器であり、土師器が圧倒的に多い。これらの出土遺物の内３点を図示した。１・２は遺構東側の床密着状態で検出された土師器である。他の遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

17号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1119号。北側部分は調査以前に既に消滅しており、15・16号遺構を削平して存在する方形の竪穴住居跡である。長径4.56ｍを測り、主軸方位はN-13°-Eを示す。残存する壁高は、東壁0.3㎝、南壁27.1㎝を測り、南壁が最も遺存状態がよい。西壁中央にカマドを装備し、カマド右脇には貯蔵穴と想定されるＰ３が存在する。Ｐ３は周囲の床面より５㎝程掘り込んだ長方形の平坦面を有し、更に41.5㎝程楕円形に掘り下げる２段構造の掘り方を呈し、平坦面にはピットを覆う板等の蓋の存在が想定される。周溝は残存部分のほぼ全域で検出され、深さは床面より1.9～7.0㎝を測る。床面はほぼ平坦であり、削平を免れた南側より２本の主柱穴が検出された。深さはそれぞれＰ１が63.6㎝、Ｐ２が49.4㎝を測る。

遺物

本遺構からは130点2,678.1ｇの土器・土製品と28点1,244.6ｇの礫が出土した。土器・土製品の内訳は82点1,727.8ｇの土師器、１点117.5ｇの支脚、10点112.1ｇの弥生土器、37点720.7ｇの早期条痕文系土器であり、土師器が圧倒的に多い。これらの出土遺物の内34点を図示した。５はＰ２付近の床密着の状況で検出された土師器坏であり、７は同じくＰ２付近の床直上3.8㎝の状況で検出された支脚である。これ以外の本遺構出土遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。



第62図　18・19号遺構出土遺物実測図

18号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1110号。17号遺構の南側に位置し、19号遺構を削平して存在する隅丸方形の竪穴住居跡である。長径4.52m短径4.2mを測り、主軸方位はN-42°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東32.2cm、西14.1cm、南0.7cm、北30.1cmを測り、東壁が最も遺存状態がよい。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長0.56mを測り、長軸方位はN-38°-Wを示し、床面より1.5cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦である。ピットは2箇所に検出され、深さはP1が19.0cm、P2が54.4cmを測る。

遺物

本遺構からは417点4,299.4gの土器片と76点2,051.7gの礫が出土した。土器片の内訳は230点2,115.6gの弥生土器、184点2,153.8gの早期条痕文系土器、2点24.8gの前期繊維土器、1点5.2gの加曽利E式土器であり、弥生土器が圧倒的に多い。これらの出土遺物の内38点を図示した。本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

19号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1123号。18号遺構に削平されて存在する径4m程の隅丸方形の竪穴住居跡である。主軸方位はN-30°-Wを示し、残存する壁高は、それぞれ東11.9cm、西5.7cm、南11.9cmを測り、東壁が最も遺存状態がよい。周溝・ピットは存在せず、床面はほぼ平坦である。

遺物

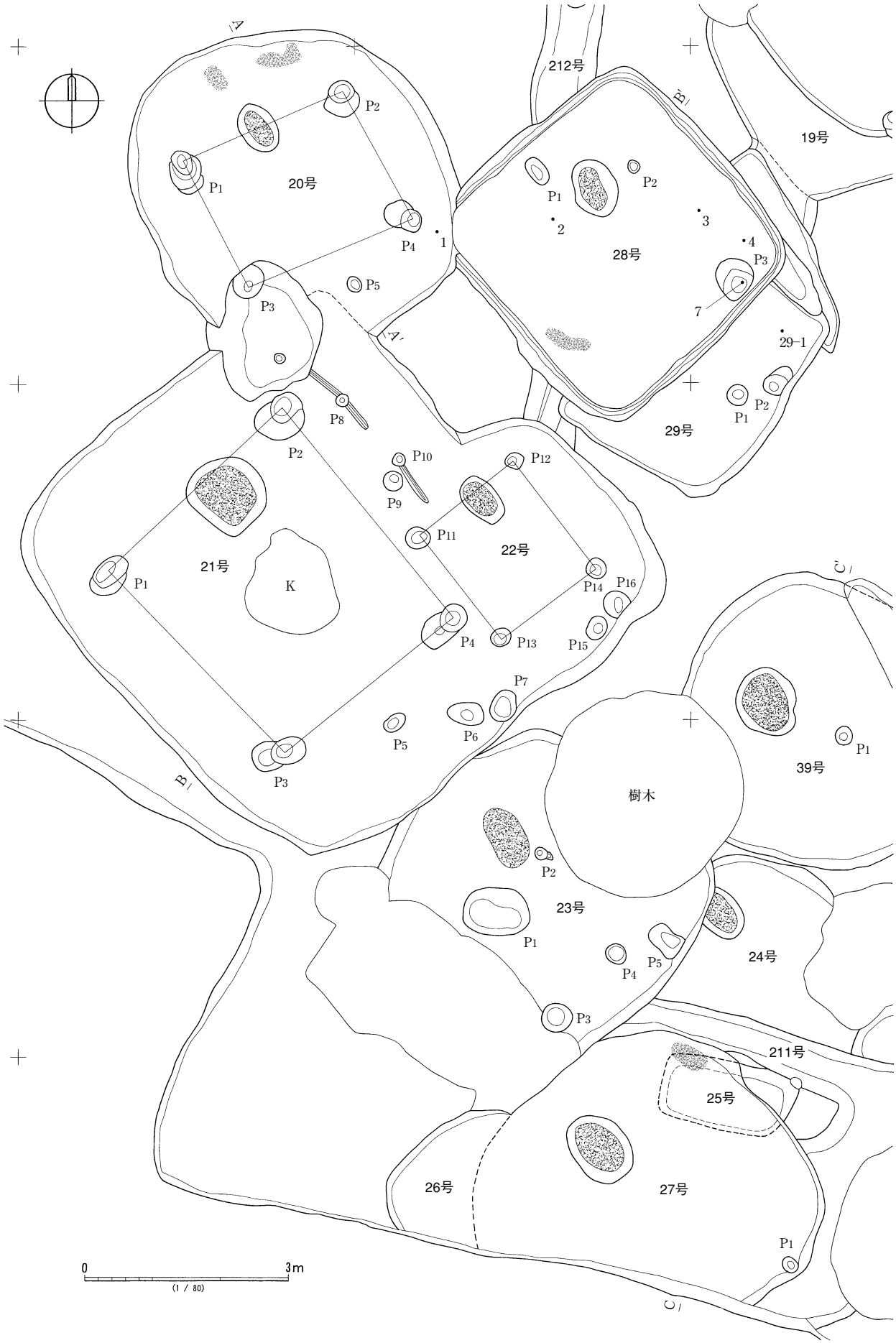
本遺構からは84点963.1gの土器片と26点848.9gの礫が出土した。土器片の内訳は36点416.9gの弥生土器、48点546.2gの早期撚糸文系～前期の繊維土器であり、中でも早期条痕文系土器が46点512gと圧倒的に多い。これらの出土遺物の内9点を図示した。本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

20号遺構

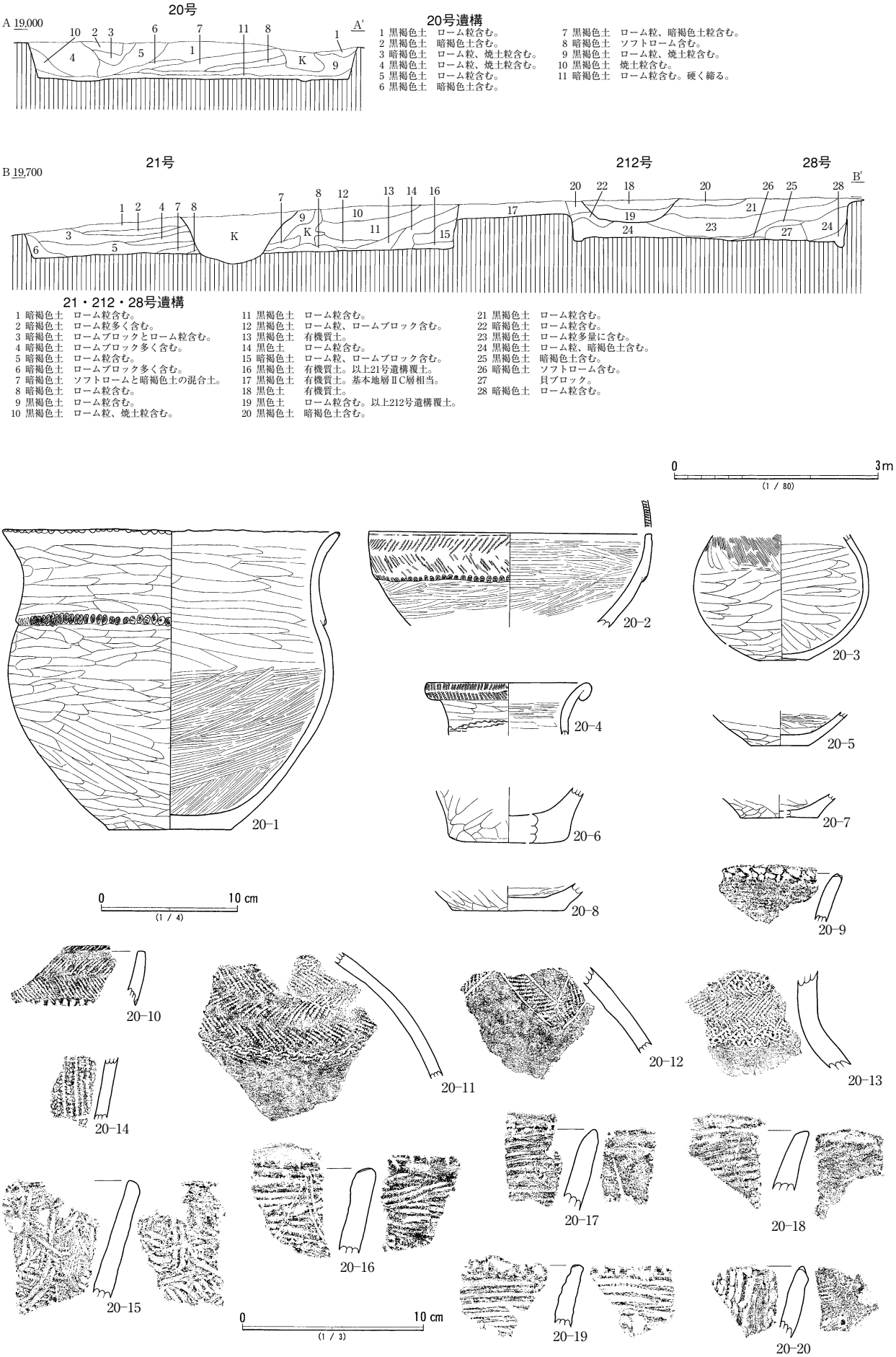
昭和59年度調査時遺構番号1115号。21・28号遺構に削平されて存在する楕円形を呈する竪穴住居跡である。長径4.96m短径4.52mを測り、主軸方位はN-28°-Wを示す。残存する壁高は、東58.0cm、西46.7cm、南36.7cm、北30.1cmを測り、東壁が最も遺存状態がよい。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長0.86mを測り、長軸方位はN-30°-Wを示し、床面より1.5cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、北側床面に焼土の堆積が認められた。ピットは5箇所に検出され、P1～P4は主柱穴と捉えられる。深さはP1が41.5cm、P2が160.7cm、P3が31.1cm、P4が169.3cmを測る。P5は入口施設に伴うものと考えられ、深さは4.2cmを測る。この他、P3と重複する大型ピットが21号遺構に跨る形で検出されている。残存長径1.96m、短径1.72m、深さは99.7cmを測り、長軸方位はN-10°-Wを示す。底面はほぼ平坦で、中央南側に径15cm深さ13.6cmのピットが存在する。20・21号遺構に削平された形で検出されていることや、その形態から、調査時遺構番号はないものの縄文時代の土坑である可能性が高い。

遺物

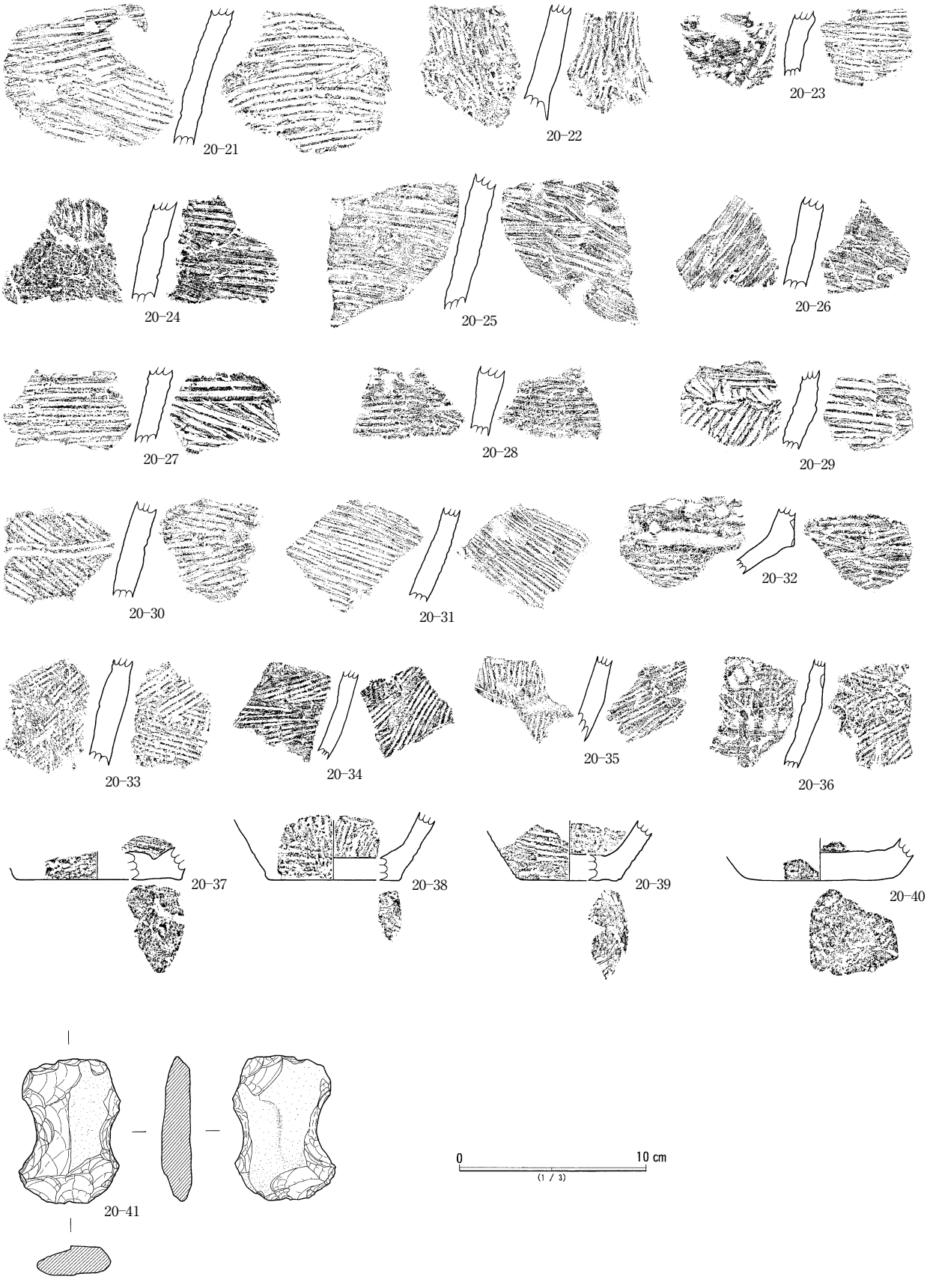
本遺構からは540点7,258.9gの土器片と149点6,313.4gの礫・石器が出土した。土器片の内訳は



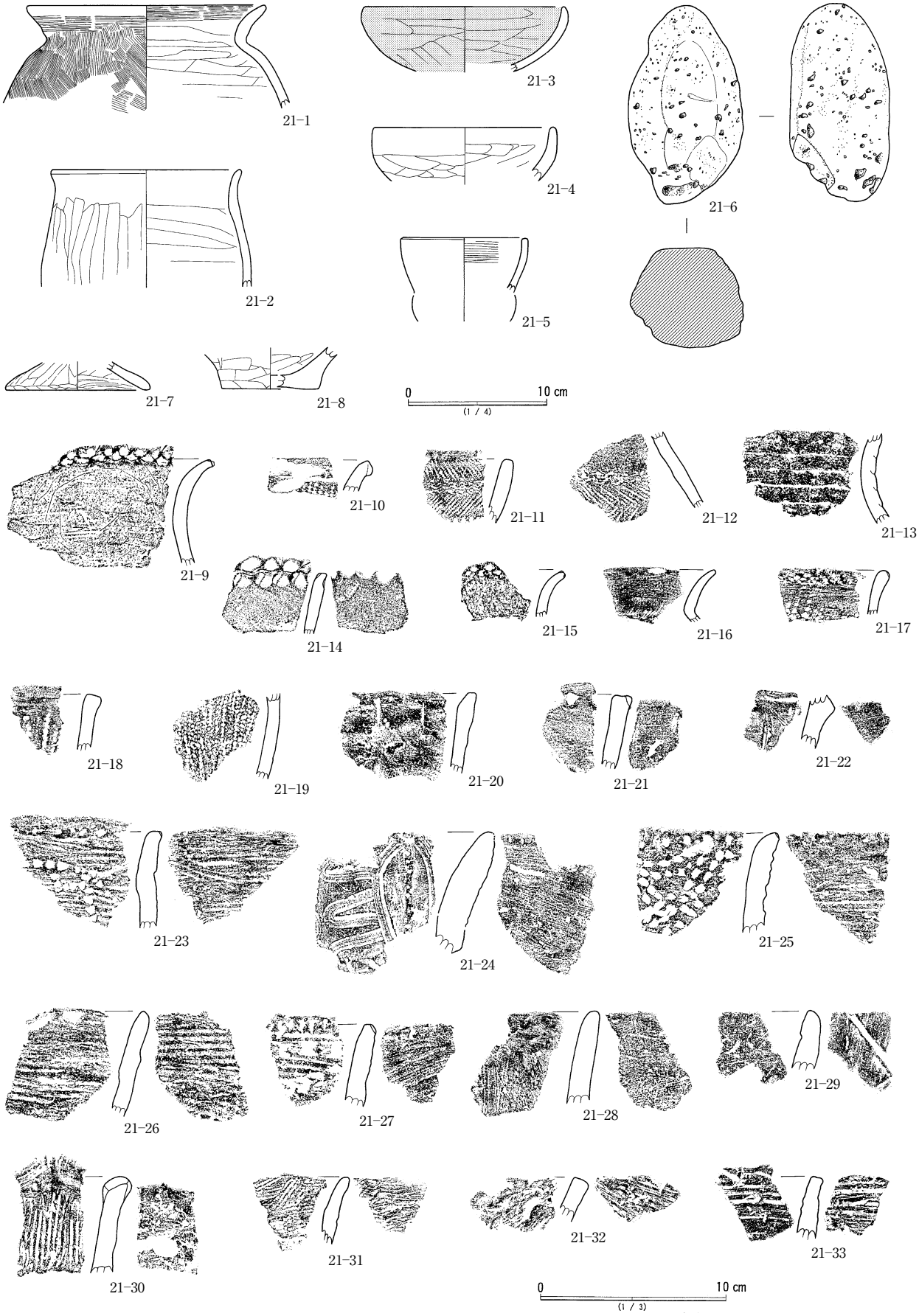
第63図　20～29号遺構実測図



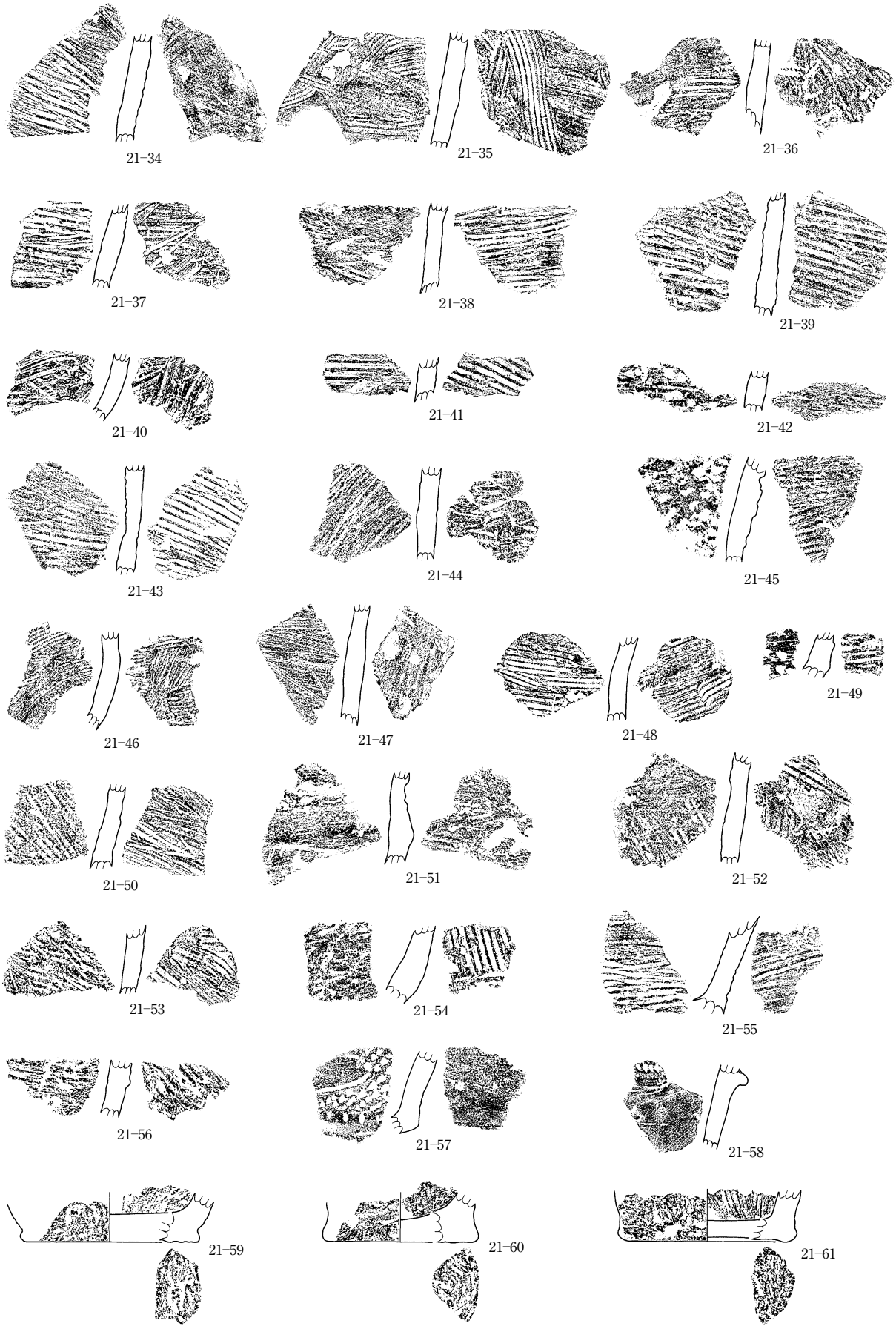
第64図　20・21・28・212号遺構実測図・20号遺構出土遺物実測図



第65図　20号遺構出土遺物実測図



第66図　21号遺構出土遺物実測図



第67図　21号遺構出土遺物実測図

248点3,534.8ｇの弥生土器、１点9.8ｇの早期撚糸文系の土器、291点3,714.3ｇの早期条痕文系土器であり、弥生土器片と早期条痕文系土器が圧倒的に多い。これらの出土遺物の内41点を図示した。１はＰ４付近の床面密着の状況で検出された甕型土器である。これ以外の本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

21号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1116号。20号遺構を削平して存在する隅丸方形の竪穴住居跡である。長径7.21m、短径6.3mを測り、主軸方位はN-43°-W を示す。残存する壁高は、それぞれ東44.7cm、西35.5cm、南11.3cm、北43.9cmを測り、東壁が最も遺存状態がよい。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長1.12mを測り、長軸方位はN-45°-W を示し、床面より14.5cm程下がった位置で火床を検出する。拡張以前の周溝と思われる溝が東側に存在し、深さは10cm前後を測る。床面はほぼ平坦であり、ピットは10箇所に検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と考えられ、それぞれ東に移動した痕跡が捉えられる。深さはＰ１が85.3cm、Ｐ２が81.3cm、Ｐ３が81.8cm、Ｐ４が79.5cmを測り、均一的である。Ｐ５は入口施設に伴うものと考えられ、深さは12.6cmを測る。この他Ｐ６が23.5cm、Ｐ７が19.2cm、Ｐ８が9.5cm、Ｐ９が34.5cm、P10が14.5cmを測る。

遺物

本遺構からは595点7,192.5ｇの土器片と243点12,380.8ｇの礫・石器が出土した。土器片の内訳は11点552.9ｇの土師器、192点1,390ｇの弥生土器、４点44.6ｇの早期撚糸文系土器、387点5,183.2ｇの早期条痕文系土器などであり、早期条痕文系土器が圧倒的に多い。これらの出土遺物の内41点を図示した。本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。そのため、どの遺物が本遺構に直接伴うとの断言はできないが、住居形態から古墳時代前期頃の遺構と判断される。１～５は土師器であり、それぞれかなりの時間差を有しているが、本遺構にカマドは敷設されていないので、１・５が本遺構に伴う遺物である可能性が高い。

22号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1114号。21号遺構に削平されて存在する平面形が楕円形を呈する竪穴住居跡である。推定長径3.89m、主軸方位はN-38°-W を示し、残存する壁高は、それぞれ東58.4cm、南51.4cm、北44.7cmを測り、東壁が最も遺存状態がよい。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長0.79mを測り、長軸方位はN-40°-W を示し、床面より10.8cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず、床面はほぼ平坦であり、ピットは６箇所に検出された。P11～P14は主柱穴と考えられ、深さはＰ１が50.7cm、Ｐ２が67.6cm、P13が49.1cm、P14が61.5cmを測る。P15・16は入口施設に伴うものと考えられ、深さはそれぞれ9.7・2.3cmを測る。

遺物

本遺構からは385点4,605.4ｇの土器片と97点4,068.8ｇの礫が出土した。土器片の内訳は５点76.2ｇの土師器、155点1,673.4ｇの弥生土器、225点2,855.8ｇの早期条痕文系土器であり、早期条痕文系土器が圧倒的に多い。これらの出土遺物の内28点を図示した。本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。そのため、どの遺物が本遺構に直接伴う

第68図　22号遺構出土遺物実測図

との断言はできないが、１・４の土師器は21号遺構に伴う可能性が極めて高い。

23号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1108号。21号遺構に削平され、24号遺構を削平して存在する。西側は撹乱によって削平され、東側は樹木によって未調査であるが、平面形が楕円形を呈する竪穴住居跡である。長径4.49ｍを測り、主軸方位はN-42°-W を示し、残存する壁高は、南壁21.7㎝、北壁22.5㎝を測る。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長0.94ｍを測り、長軸方位はN-30°-W を示し、床面より3.5㎝程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず、床面はほぼ平坦である。ピットは５箇所に検出され、深さはＰ１が7.8㎝、Ｐ２が37.4㎝、Ｐ３が18.0㎝、Ｐ４が23.1㎝、Ｐ５が14.3㎝を測る。

遺物

本遺構からは114点1,261.1ｇの土器片と25点1,200ｇの礫が出土した。土器片の内訳は１点170ｇの土師器、72点535ｇの弥生土器、41点556.1ｇの早期条痕文系土器であり、点数では弥生土器が多く出土している。これらの出土遺物の内５点を図示した。本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。１は所謂鬼高式の高坏脚部であり、本遺構に直接伴うものではない。

24号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1101号。23号遺構に削平されて存在する。東側は撹乱、南側は211号溝によって削平され遺存状況は不良であるが、平面形が楕円形と想定される竪穴住居跡である。残存する北側壁高は19.9㎝を測り、炉は中央やや北寄りに検出された。残存長軸長0.7ｍを測り、長軸方位はN-45°-W を示し、床面より4.6㎝程下がった位置で火床を検出する。周溝・ピットは検出されず、床面はほぼ平坦である。

遺物

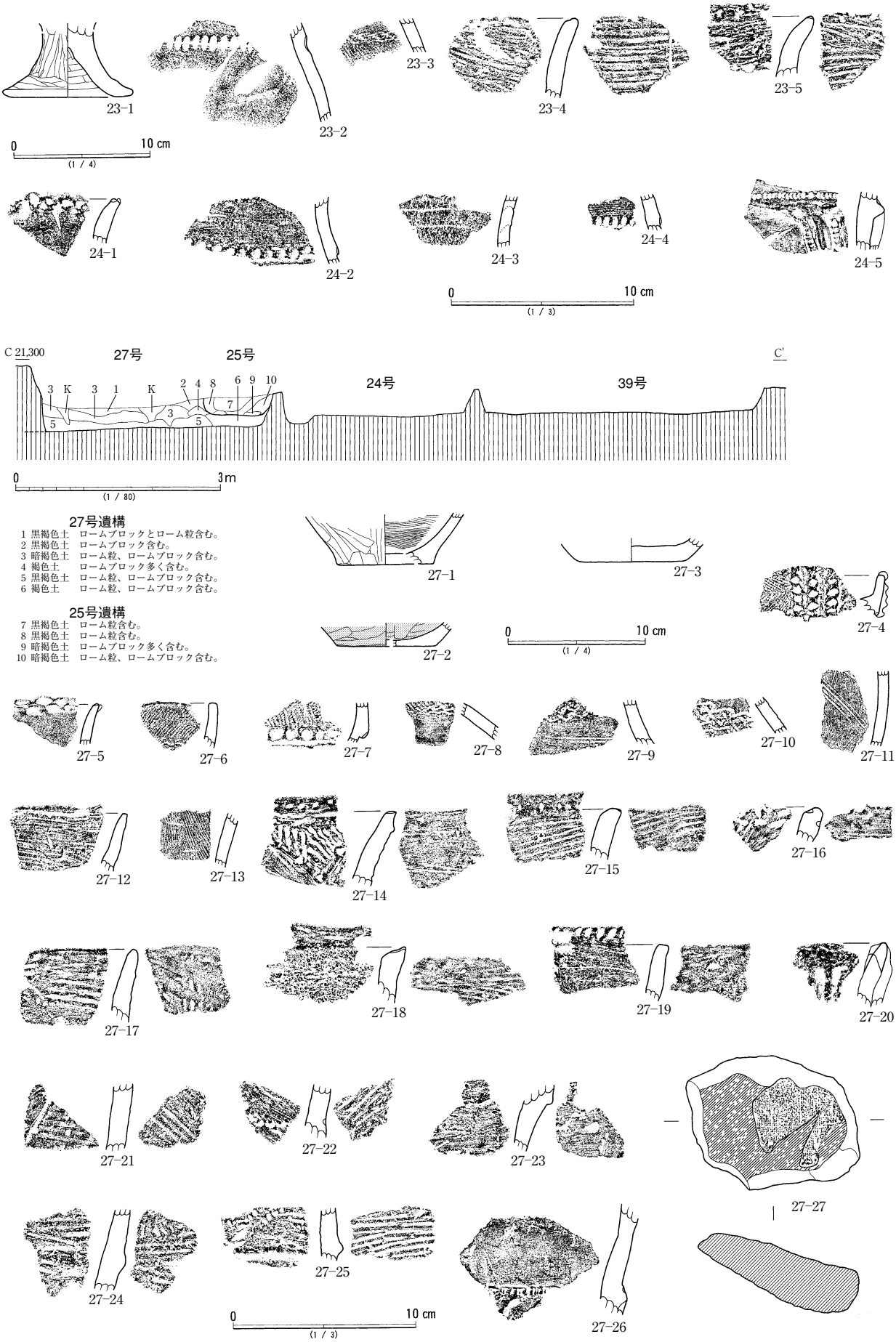
本遺構からは107点859ｇの土器片と20点680ｇの礫が出土した。土器片の内訳は４点75ｇの土師器、86点599ｇの弥生土器、16点155ｇの早期条痕文系土器、１点30ｇの縄文中期の勝坂式土器であり、弥生土器が圧倒的に多い。これらの出土遺物の内５点を図示した。本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

25号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1102号。明瞭な平面プランの検出を見なかったが、調査者の所見で平面図中に図示の破線で示されていたことから、８号遺構同様な土壙墓であろうと想定される。推定長径1.97ｍ短径1.1ｍ、深さは土層断面より36.1㎝を測り、復元図から推定される長軸方位はN-104°-Eを示す。

遺物

本遺構からは何の遺物も検出されなかった。



第69図　24・25・27・39号遺構実測図・23・24・27号遺構出土遺物実測図

26号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1107号。調査者の所見で平面図に図示の破線で示されていたことから、27号遺構に削平されて存在する平面形が楕円形と想定される竪穴住居跡である。残存する壁高は、西壁17.7cm、北壁33.6cmを測る。床面はほぼ平坦であり、炉・周溝・ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは何の遺物も検出されなかった。

27号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1100号。26号遺構を削平して存在する平面形が楕円形と想定される竪穴住居跡である。長径4.5ｍを測り、長軸方位はN-39°-Wを示す。残存する壁高は東側で46.0cm、北側で36.1cm、南側で22.6cmを測り、東側の遺存状況が良好である。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長1.08ｍを測り、長軸方位はN-40°-Wを示し、床面より1.0cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、ピットは南壁に接して検出され、深さは17.3cmを測る。

遺物

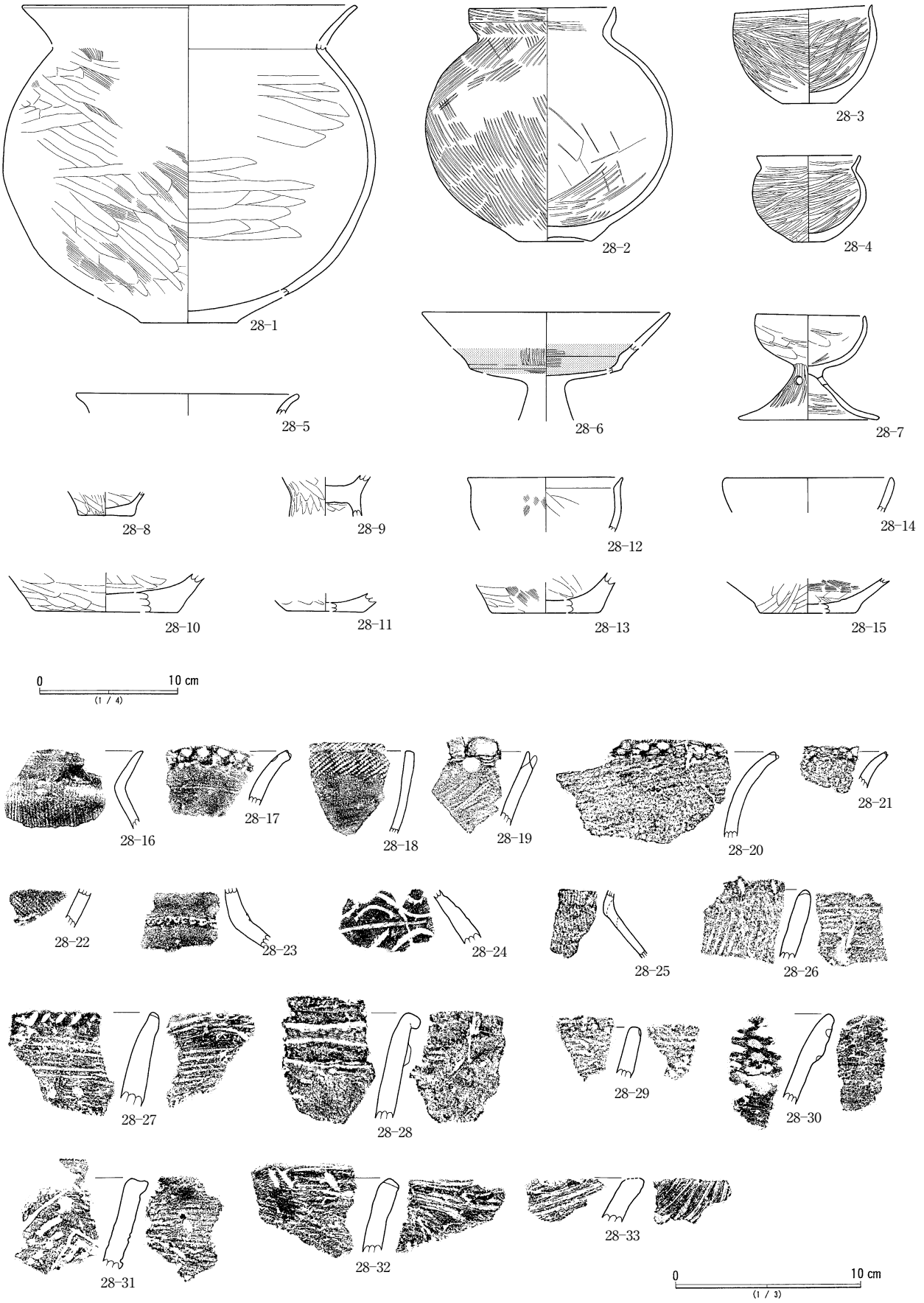
本遺構からは225点1,909.4ｇの土器片と１点170ｇの瓦片、61点2,974.6ｇの礫が出土した。土器片の内訳は、133点859.2ｇの弥生土器、90点985.7ｇの早期条痕文系土器、２点64.5ｇのその他縄文土器であり、弥生土器が圧倒的に多い。これらの出土遺物の内27点を図示した。本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

28号遺構

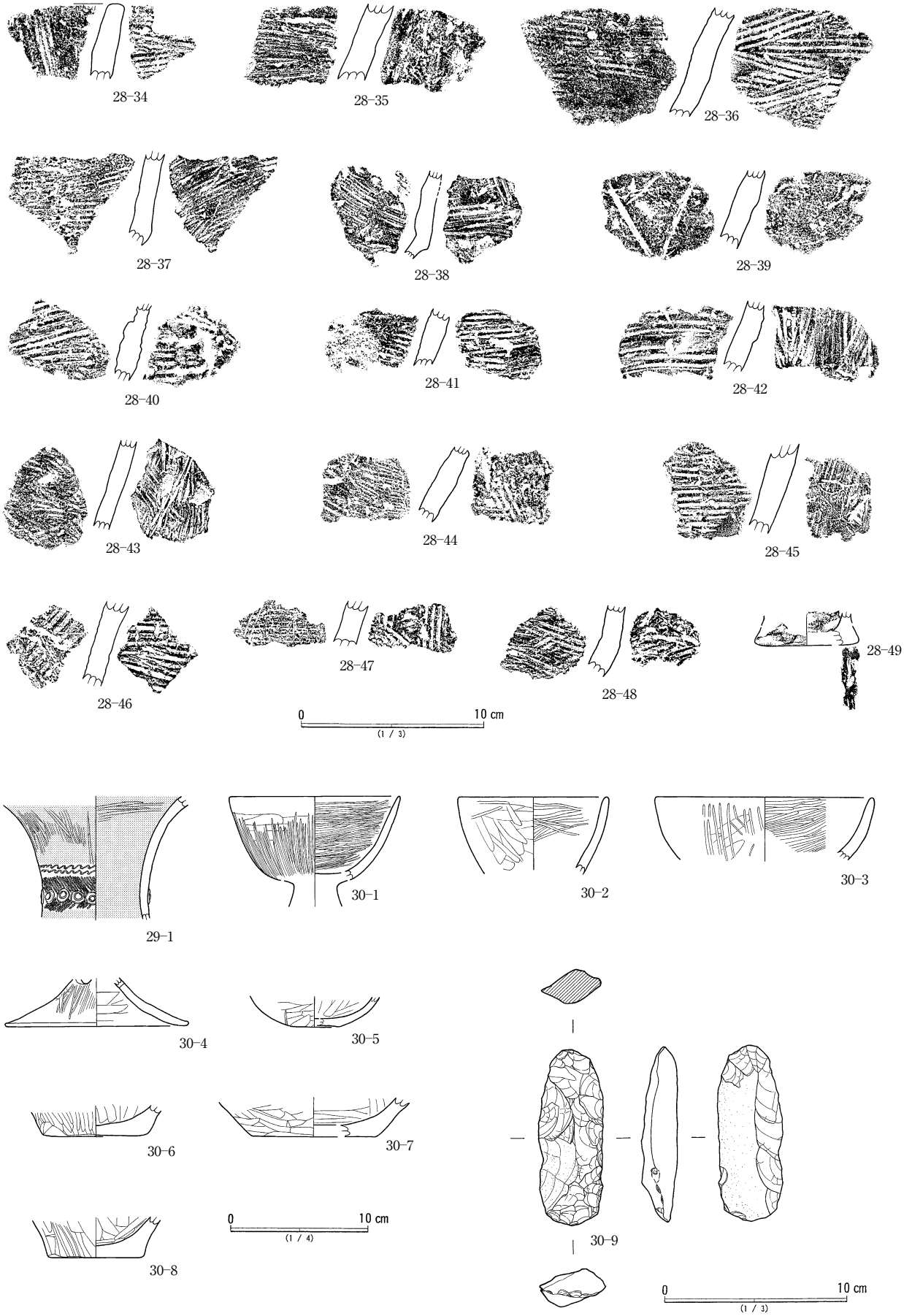
昭和59年度調査時遺構番号1122号。20・29号遺構を削平し、212号溝に削平されて存在する隅丸方形の竪穴住居跡である。長径4.18m短径4.08ｍを測り、主軸方位はN-48°-Wを示す。壁高は、それぞれ東56.6cm、西29.6cm、南8.0cm、北34.5cmを測り、東壁が最も遺存状態がよい。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長0.88ｍを測り、長軸方位はN-24°-Wを示し、床面より4.9cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は全周するものと捉えられ、深さは1.7～3.6cmを測る。床面はほぼ平坦であり、西南部に焼土が認められた。ピットは３箇所に検出され、深さはＰ１が7.7cm、Ｐ２が10.8cmを測る。Ｐ３は貯蔵穴と想定され、深さは31.6cmを測る。底部より5.4cm浮いた状態で７の高坏が検出されている。

遺物

本遺構からは561点7,703.3ｇの土器片と174点3,967.0ｇの礫が出土した。土器片の内訳は124点3,123.1ｇの土師器、235点1,879.9ｇの弥生土器、202点2,700.3ｇの早期条痕文系土器であり、弥生土器片と早期条痕文系土器が圧倒的に多い。これらの出土遺物の内49点を図示した。２は炉西側の床面密着の状況で検出された口唇部が直立する甕である。３・４はいずれもＰ３付近の床面密着の状況で検出された小型品である。これ以外の本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものである。この他に本遺構からは、総重量6,588.4ｇのシオフキ・ハマグリを主体とする貝ブロックが、土層断面図によれば床密着の状態で検出されている。その内訳はシオフキ正貝数278点4,420ｇ、ハマグ



第70図　28号遺構出土遺物実測図



第71図　28～30号遺構出土遺物実測図

第72図　30～38号遺構実測図

リ正貝数65点1,125ｇ、アサリ正貝数17点325ｇ、破砕マテガイ26.4ｇ、破砕ツメタガイ10ｇ、破砕イボキサゴ0.5ｇ、破砕サルボウ0.5ｇ、破砕山タニシ0.5ｇ、破砕ウミニナ0.5ｇ、不明破砕貝680ｇである。

29号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1113号。28号遺構に削平されて存在する隅丸方形の竪穴住居跡である。長辺3.36ｍ短辺2.64ｍを測り、主軸方位はN-33°-Eを示す。残存する壁高は、それぞれ西壁27.7cm、南壁44.2cmを測り、南壁の遺存状態がよい。炉は28号遺構に削平されてしまったものと捉えられ、周溝は存在しない。床面はほぼ平坦であり、ピットは２箇所に検出された。深さはＰ１が24.1cm、Ｐ２が19.0cmを測る。

遺物

本遺構からは101点870ｇの弥生土器が出土したが、細片が多い。これらの出土遺物の内１点を図示した。１は東コーナー付近の床面に密着して検出された壺である。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

30号遺構

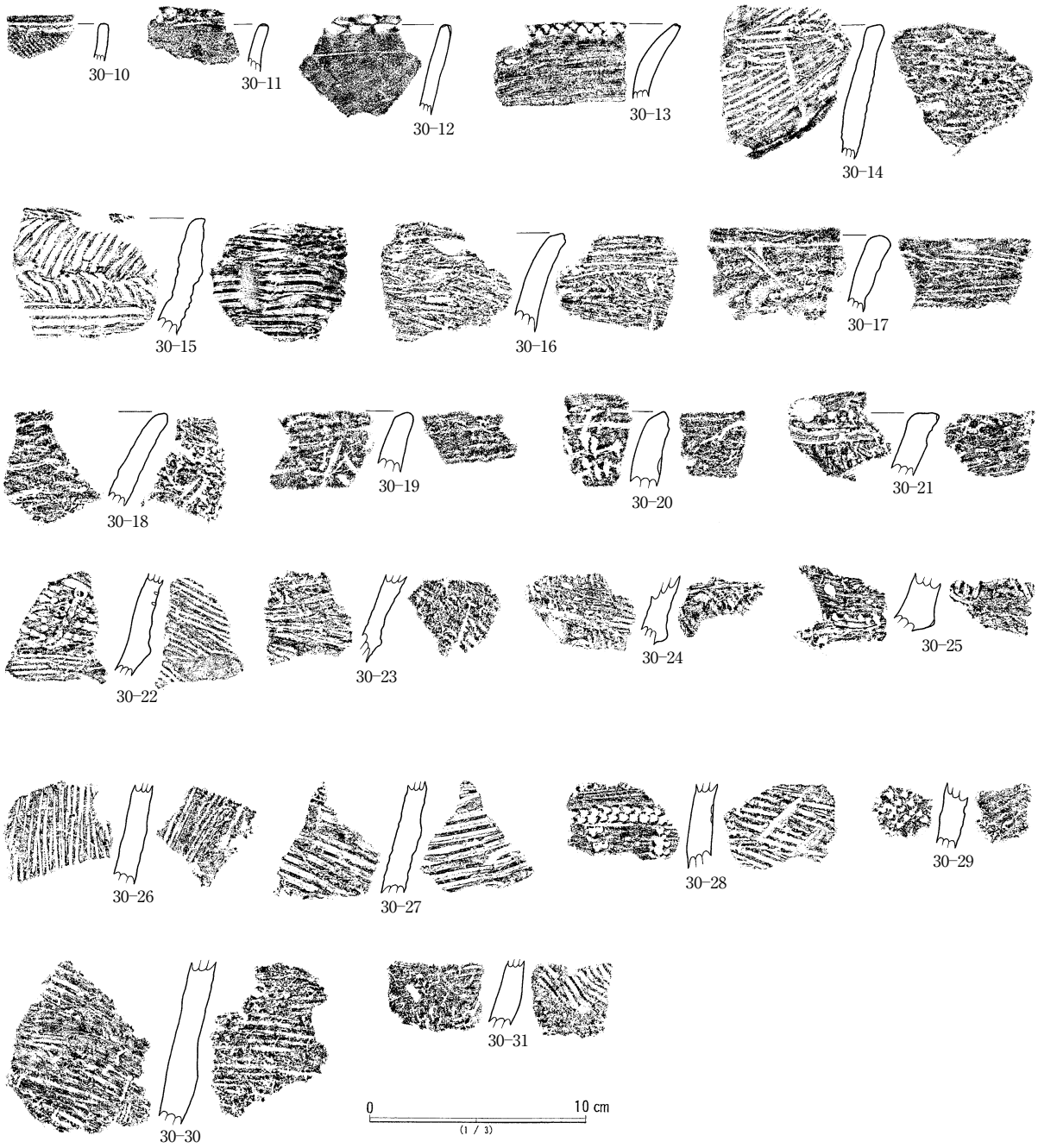
昭和59年度調査時遺構番号1112号。31号遺構を削平し、17号遺構に削平されて存在する隅丸方形の竪穴住居跡である。長径5.46ｍを測り、主軸方位はN-17°-Eを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁22.8cm、西壁35.2cm、南壁38.1cmを測り、南壁が最も遺存状態がよい。北側に想定される炉は既に削平されており、本来全周していたもの想定される周溝は、深さ1.7～3.6cmを測る。遺構中央部に大きな撹乱が存在し、床面の遺存状況は不良であるが、ほぼ平坦であり、ピットは３箇所に検出された。Ｐ１・Ｐ２は主柱穴と捉えられ、深さはＰ１が59.7cm、Ｐ２が72.9cmを測る。Ｐ３は貯蔵穴と想定され、深さは34.3cmを測る。

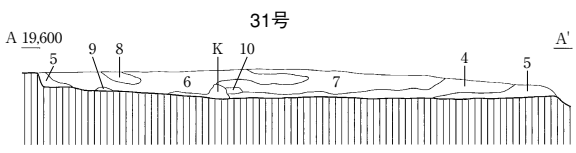
遺物

本遺構からは214点3,340.8ｇの土器片と23点1,115.6ｇの礫・石器が出土した。土器片の内訳は６点261.7ｇの土師器、70点1,240.5ｇの弥生土器、138点1,838.6ｇの早期条痕文系土器であり、早期条痕文系土器の割合が圧倒的に多い。これらの出土遺物の内31点を図示した。なお、本遺構は、平面形態より弥生終末～古墳前期にかけての過渡期遺構と想定され、31号遺構を削平して存在することから１～５・７などの遺物が本遺構に伴う可能性は少ないと考えられる。６は北側中央部やや西寄りの床面から、およそ７cm浮いた状態で検出された弥生甕底部であり、本遺構に直接伴うものではない。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取り上げられており、出土地点を明示するものは無い。

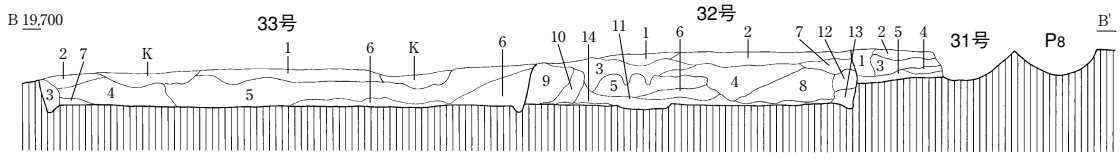
31号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1109号。出土遺物の比較では本遺構の方が新段階の様相を示すが、炉や焼土を30号遺構に削平されて存在する隅丸方形の竪穴住居跡である。長径5.76ｍを測り、主軸方位はN-28°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁29.3cm、南壁7.3cmを測り、東壁が最も遺存状態がよい。西側に想定される炉は30号遺構に削平されており、周溝は存在しない。西側コーナー部に大き





31号遺構
1 黒褐色土　暗褐色土含む。
2 黒褐色土　ローム粒含む。
3 黒褐色土　ソフトローム含む。
4 黒褐色土　焼土含む。
5 黒褐色土　暗褐色土含む。
6 暗褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。
7 暗褐色土　ソフトローム、ロームブロック含む。
8 褐色土　ソフトローム。
9 褐色土　ソフトローム。
10 暗褐色土　暗褐色土含む。

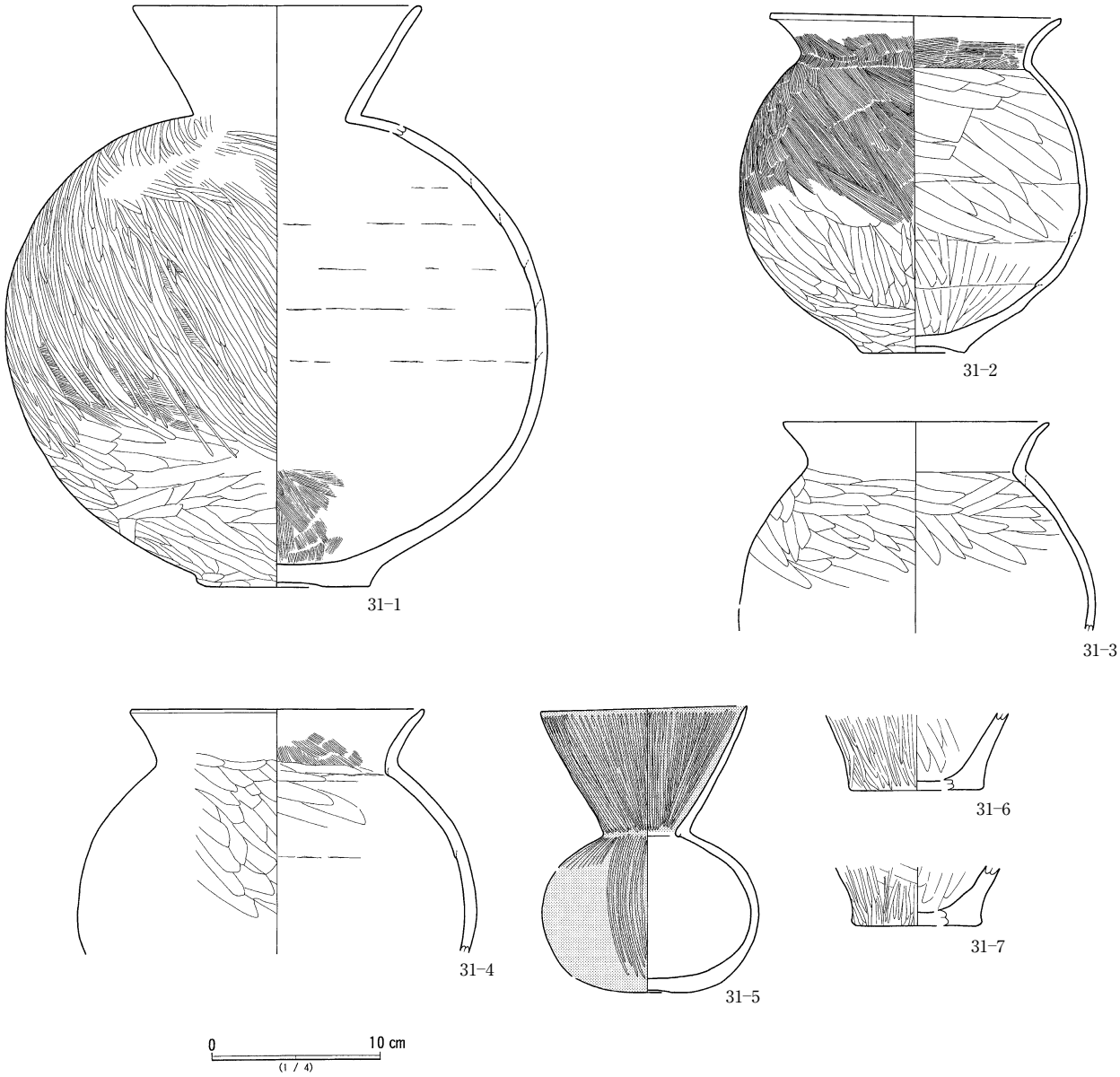


33号遺構
1 黒褐色土　暗褐色土、ローム粒含む。
2 暗褐色土　黒褐色土含む。
3 暗褐色土　ソフトローム含む。
4 黒褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。
5 黒色土　ローム粒含む。
6 暗褐色土　黒褐色土＋暗褐色土。ローム粒含む。
7 暗褐色土　ソフトローム含む。

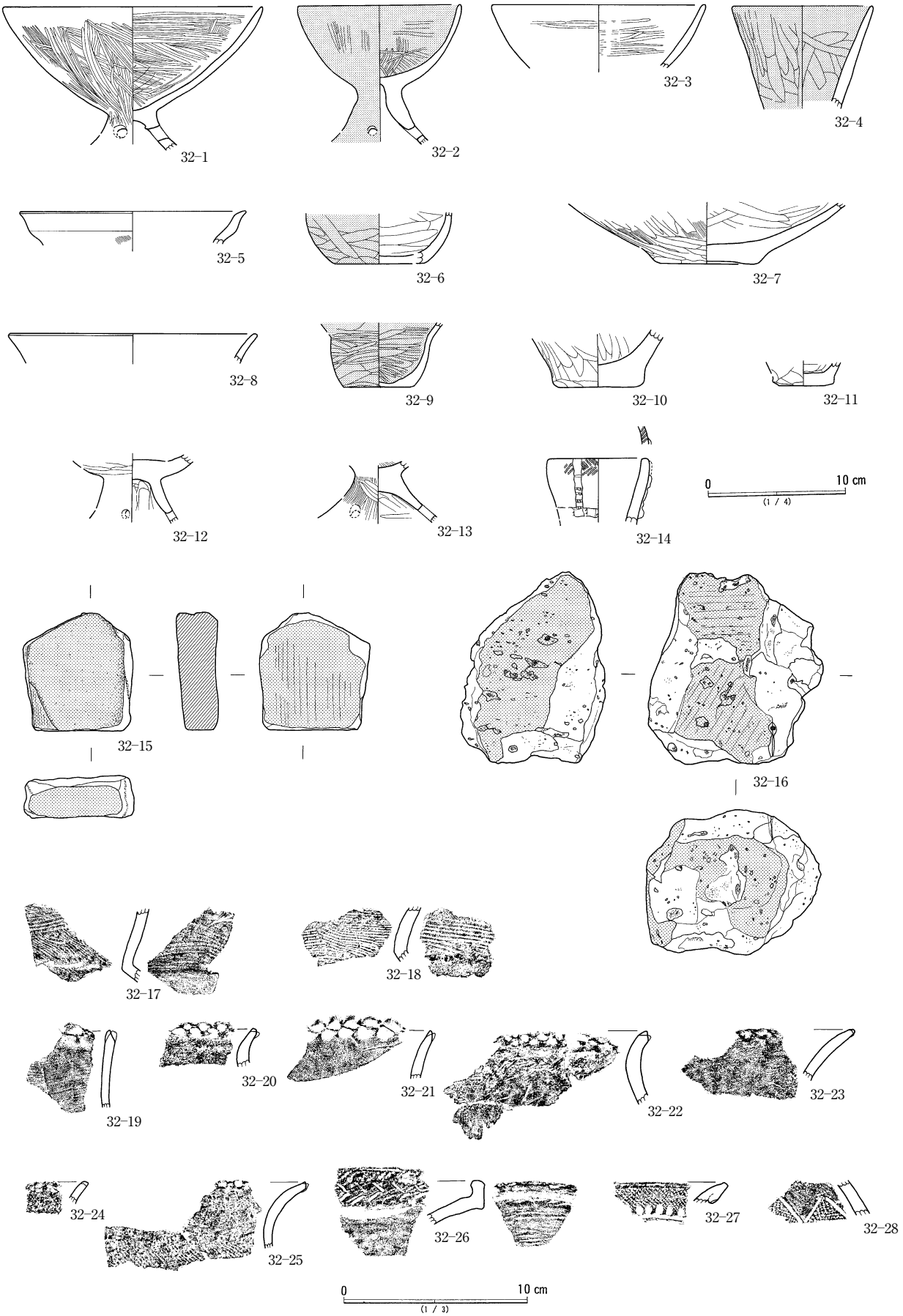
32号遺構
1 暗褐色土　ローム粒含む。
2 黒色土　ローム粒含む。
3 黒褐色土　ローム粒含む。
4 黒褐色土　暗褐色土、ローム粒含む。
5 暗褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。
6 黒褐色土　ローム粒含む。
7 黒褐色土　暗褐色土含む。
8 黒褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。
9 黒褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。
10 暗褐色土　ローム粒含む。
11 暗褐色土　ローム粒含む。
12 黒褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。
13 暗褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。
14 黒色土　締る。

0　3m
(1 / 80)

第73図　31～33号遺構実測図・30号遺構出土遺物実測図



第74図　31号遺構出土遺物実測図



第75図　32号遺構出土遺物実測図

な撹乱が存在するが、床面はほぼ平坦であり、広範囲に焼土の散布が認められた。ピットは30・32号遺構に跨って6箇所に検出された。この内Ｐ4～Ｐ7は主柱穴と捉えられ、深さはそれぞれのピットが存在する床面より、Ｐ4が36.3cm、Ｐ5が36.0cm、Ｐ6が28.4cm、Ｐ7左側が73.7cm、右側が48.9cmを測る。Ｐ8は床面より深さ11.4cmを測るが、東側に飛び出して存在し、本遺構に直接伴うピットとは考えられない。Ｐ9は深さ14.3cmを測る小ピットである。なお、平面図上では32号遺構を削平して存在するかに見えるが、遺物や平面形態の比較では本遺構の方が32号遺構より新段階の様相を示すことから、本遺構が32号遺構を削平して存在したものと想定される。

遺物

本遺構からは175点8,627.6ｇの土器片と31点2,138.1ｇの礫が出土した。土器片の内訳は110点7,620ｇの土師器、25点285.2ｇの弥生土器、40点722.4ｇの早期条痕文系土器であり、土師器の割合が圧倒的に多い。これらの出土遺物の内11点を図示した。なお、本遺構は、平面形態より弥生終末～古墳前期にかけての遺構と想定され、１～５の遺物が本遺構に直接伴うものと考えられる。１・２は北側の焼土付近で床より５cm程浮いた状態で検出された。５はＰ9付近で床密着の状況で検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取り上げられており、出土地点を明示するものは無い。

32号遺構

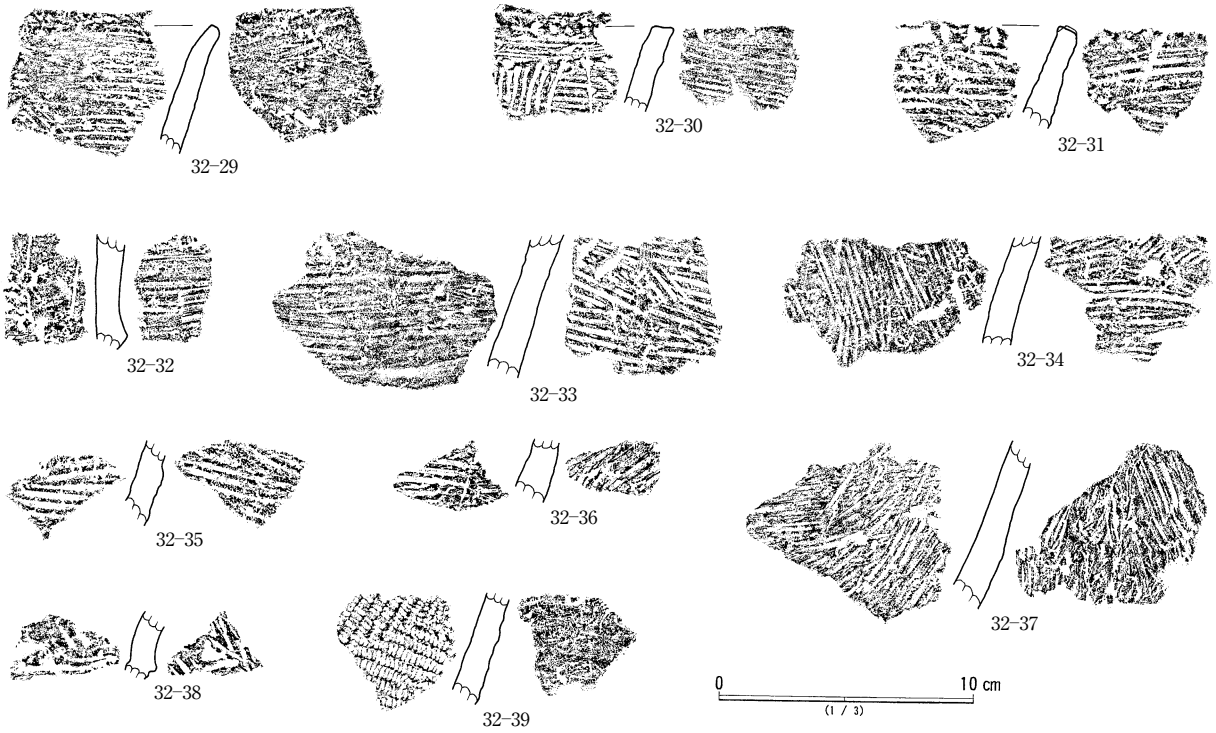
昭和59年度調査時遺構番号1097号。平面図上では31号遺構を削平し、33号遺構に削平されて存在するかに見えるが、その出土遺物の比較や住居跡の平面形態から見れば明らかに31号遺構よりは古い段階の竪穴住居跡である。長径4.92m、主軸方位はN-43°-Wを示し、残存する壁高は、それぞれ東壁59.5cm、南壁38.5cm、北壁37.1cmを測り、東壁が最も遺存状態がよい。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長1.04mを測り、長軸方位はN-25°-Wを示し、床面より7.3cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は北側と西側の一部に認められ、深さはそれぞれ1.2～5.1cmを測る。床面はほぼ平坦であり、炉の近くで木炭が認められた。ピットは8箇所に検出され、この内P10～P13は主柱穴と捉えられ、深さはそれぞれP10が71.1cm、P11が62.7cm、P12が59.5cm、P13が64.7cmを測る。P14は入口施設に伴うものと考えられ、深さは32.0cmを測る、P15～P18は何れも小ピットであり、深さはそれぞれP15が51.0cm、P16が17.7cm、P17が16.34cm、P18が5.1cmを測る。

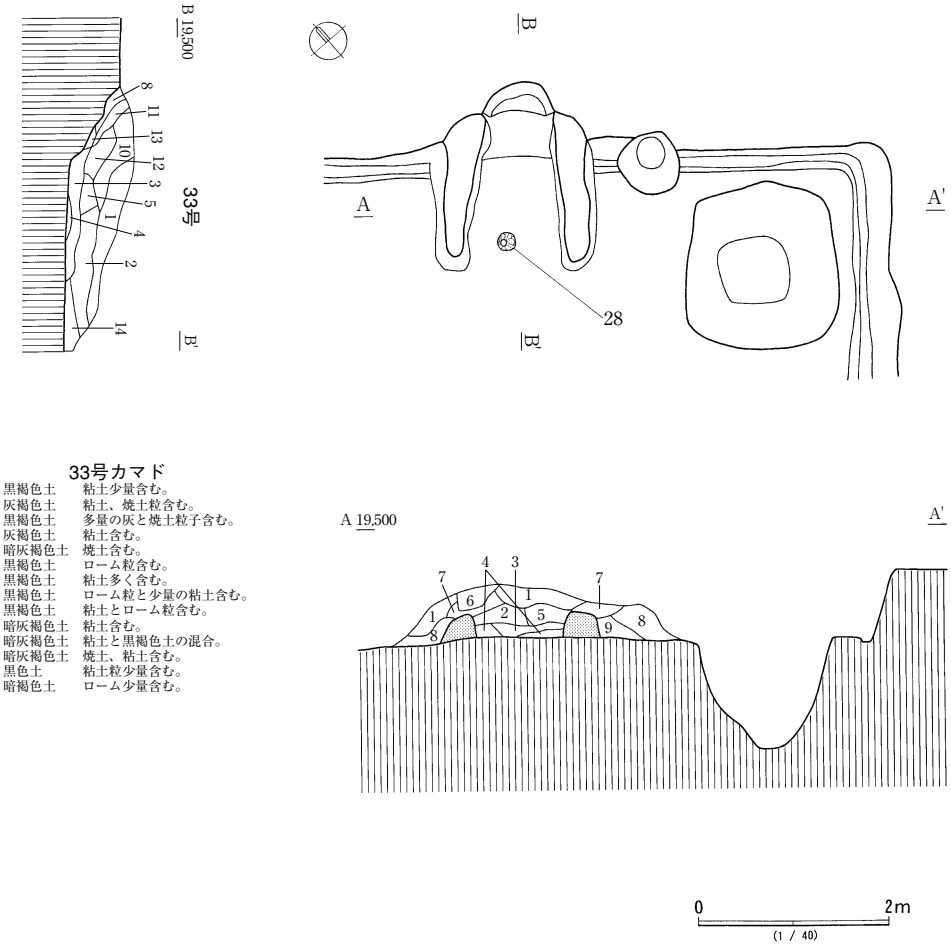
遺物

本遺構からは211点3,982.7ｇの土器片と70点4,419.8ｇの礫・石器が出土した。土器片の内訳は3点99.6ｇの土師器、148点2,846.6ｇの弥生土器、59点1,014.5ｇの早期条痕文系土器、１点22ｇの前期繊維土器であり、弥生土器の割合が圧倒的に多い。これらの出土遺物の内39点を図示した。なお、本遺構は、平面形態とその出土遺物により弥生終末期の住居跡と想定される。１の高坏はP16付近の床密着の状況で検出され、本遺構に直接伴うものと考えられる。これ以外の遺物は全て覆土一括で取り上げられており、出土地点を明示するものは無い。

33号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1098号。32・34・35号遺構を削平して存在する方形の竪穴住居跡である。長径5.32m短径5.15mを測り、主軸方位はN-43°-Eを示す。カマドは東壁中央やや南よりに存

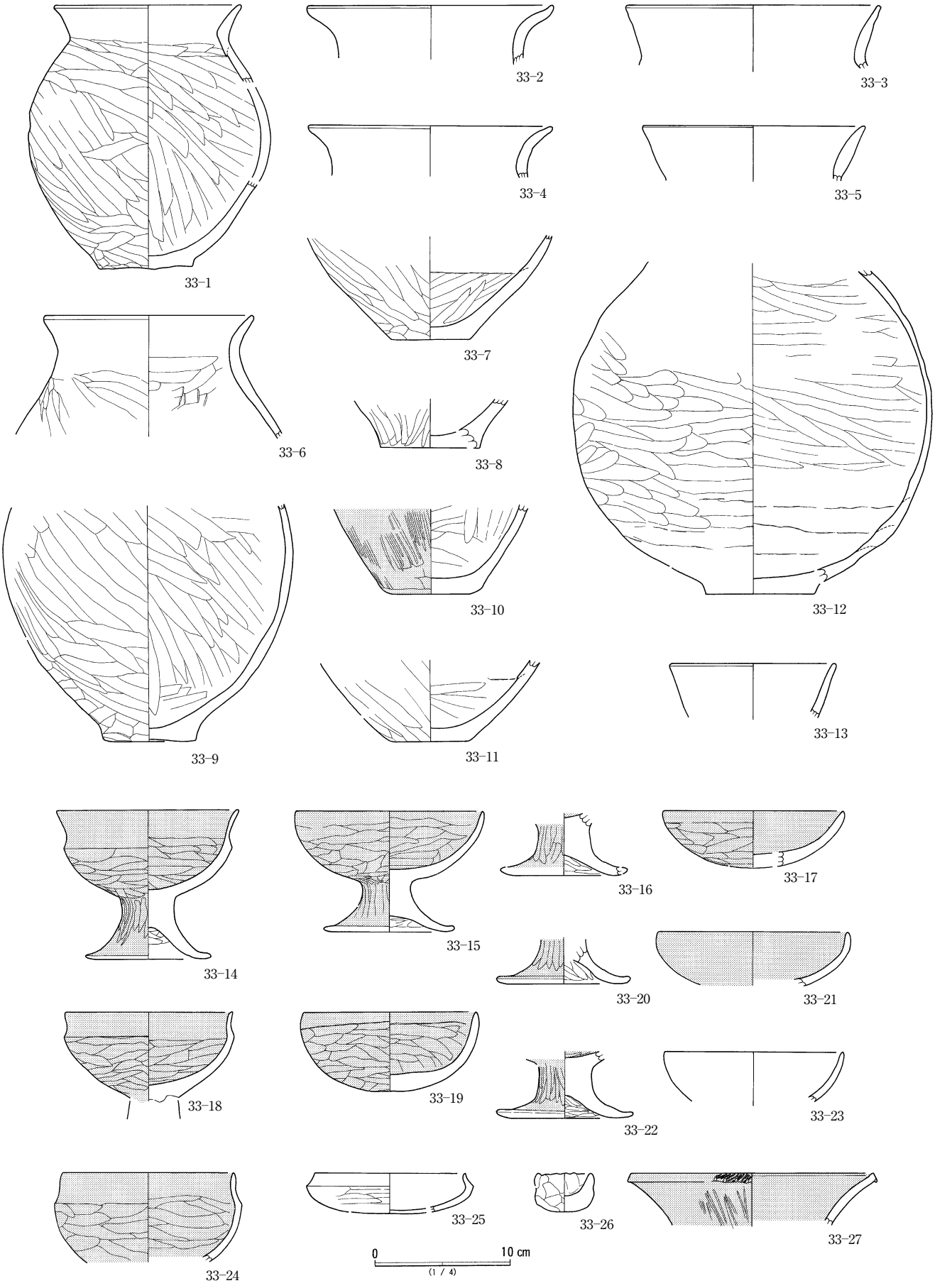




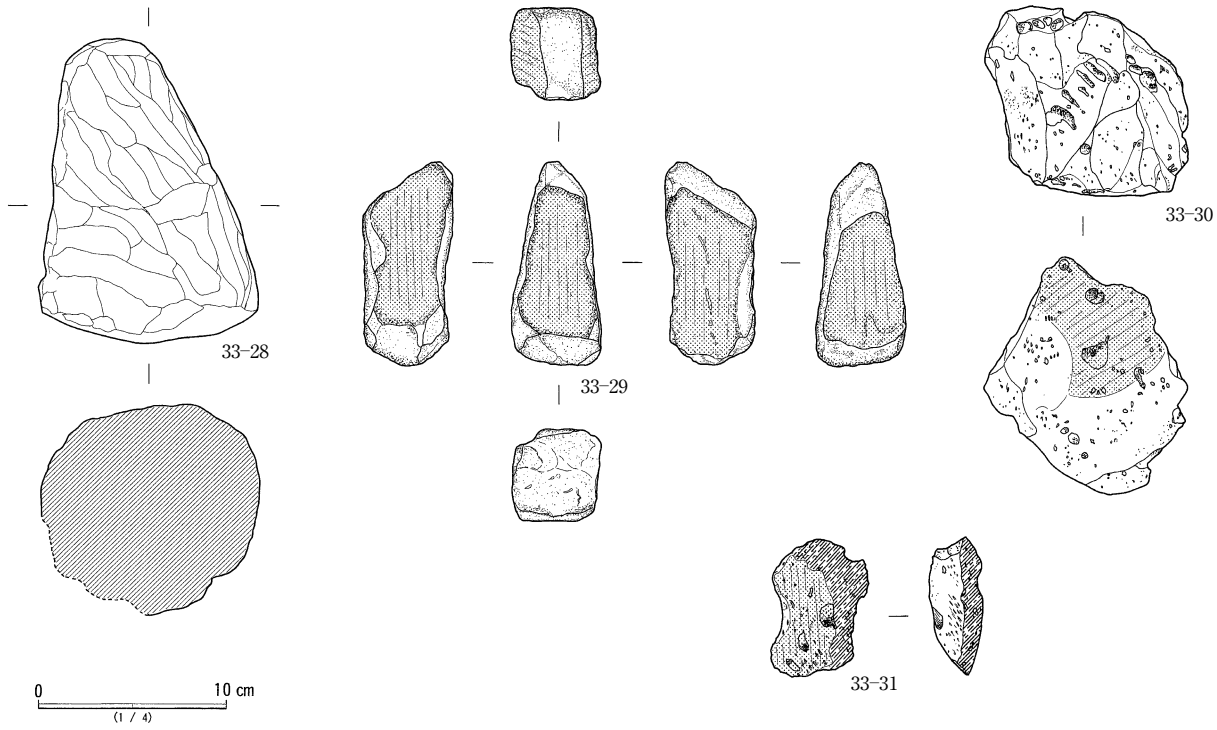
33号カマド

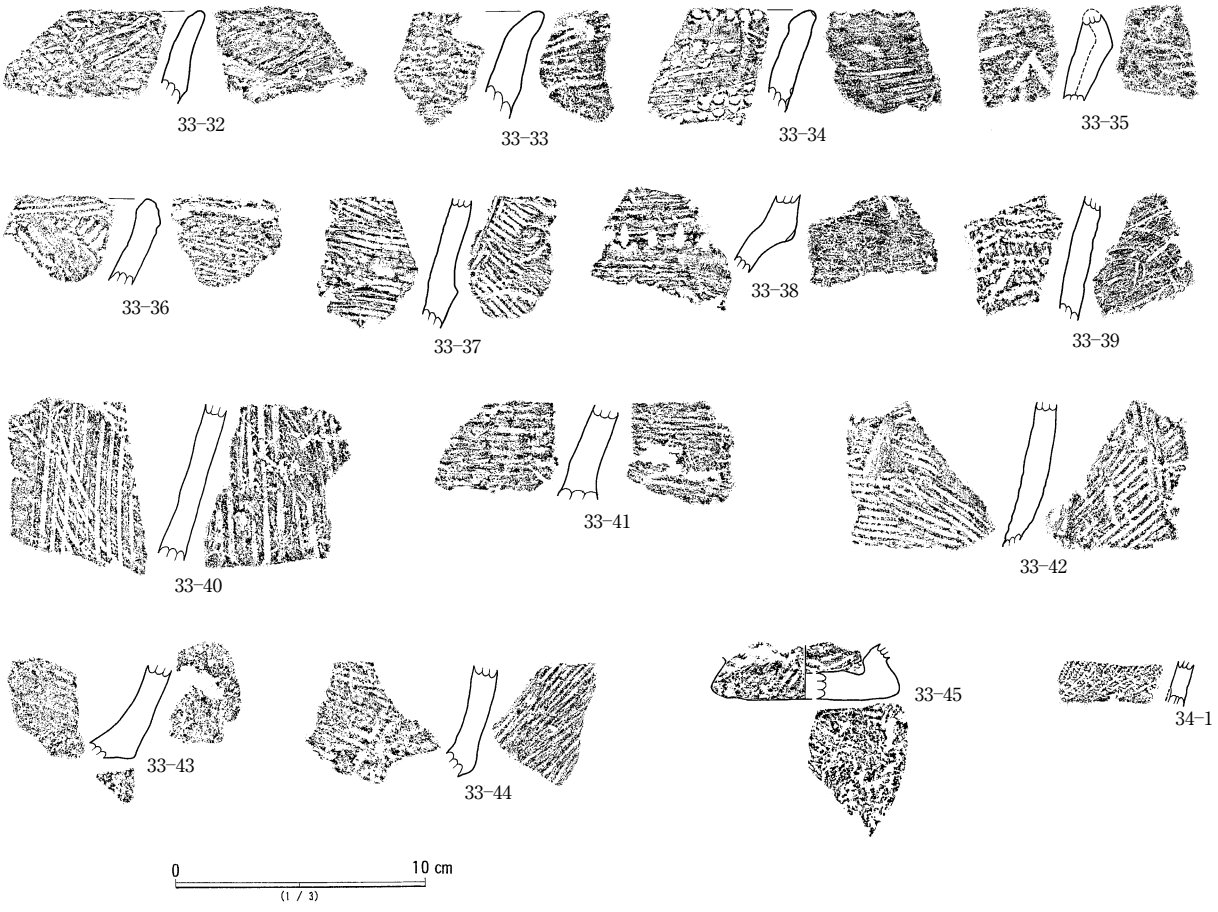
1 黒褐色土　粘土少量含む。
2 灰褐色土　粘土、焼土粒含む。
3 黒褐色土　多量の灰と焼土粒子含む。
4 灰褐色土　粘土含む。
5 暗灰褐色土　焼土含む。
6 黒褐色土　ローム粒含む。
7 黒褐色土　粘土多く含む。
8 黒褐色土　ローム粒と少量の粘土含む。
9 黒褐色土　粘土とローム粒含む。
10 暗灰褐色土　粘土含む。
11 暗灰褐色土　粘土と黒褐色土の混合。
12 暗灰褐色土　焼土、粘土含む。
13 黒色土　粘土粒少量含む。
14 暗褐色土　ローム少量含む。

第76図　33号遺構実測図・32号遺構出土遺物実測図



第77図　33号遺構出土遺物実測図





第78図　33・34号遺構出土遺物実測図

在する。残存する壁高は、それぞれ東壁1.2cm、西壁21.1cm、南壁41.3cm、北壁33.1cmを測り、南壁が最も遺存状態がよい。南西コーナー部は撹乱によって削平されているが、周溝は全周するものと捉えられ、深さは4.6～7.7cmを測る。床面はほぼ平坦であり、ピットは５箇所に検出された。この内Ｐ19～P22は主柱穴と捉えられ、深さはそれぞれP19が34.7cm、P20が51.3cm、P21が55.2cm、P22が54.6cmを測る。P23は貯蔵穴と考えられ、深さは119.3cmを測る、P24は深さ4.6cmの浅い小ピットであり、遺構の中央に存在する。

遺物

本遺構からは694点12,604.6ｇの土器片と130点5,379.7ｇの礫・石器が出土した。土器片の内訳は390点8,810.6ｇの土師器、201点2,240ｇの弥生土器、102点1,515ｇの早期条痕文系土器である。この他４点1,407.8ｇの土製品（支脚）などもあり、土師器の割合が圧倒的に多い。これらの出土遺物の内45点を図示した。１はカマド右袖脇の床面から検出された甕である。28はカマド内に据え置かれた支脚である。16・17・25は貯蔵穴と想定されるP23の底面から40～57cm程浮いた状態で検出された。７・15・20はP23の周辺より床密着の状態で検出されている。、19はP22内の底より35cmの地点で検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取り上げられており、出土地点を明示するものは無い。

34号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1111号。33号遺構と撹乱に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存する壁高は、北壁5.2cm、西壁4.7cmを測り遺存状態は不良である。床面はほぼ平坦であるが、炉・周溝・ピット等は検出されなかった。

遺物

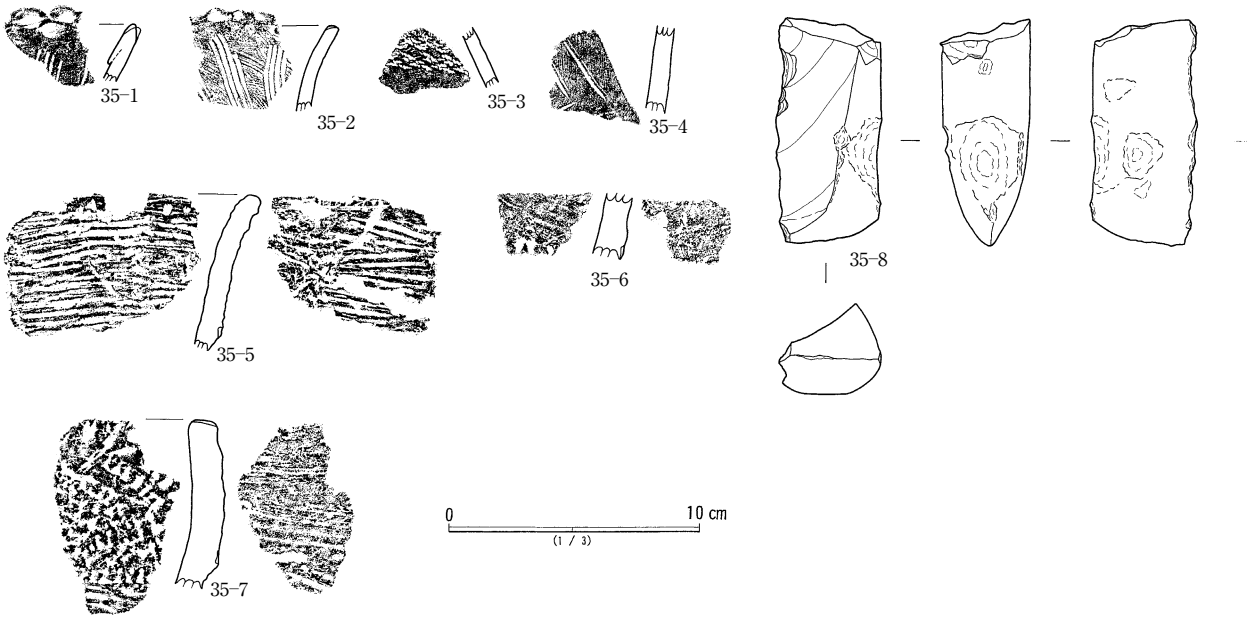
本遺構からは19点140ｇの土器片と８点448.5ｇの礫が出土した。土器片の内訳は13点78.3ｇの弥生土器、６点61.7ｇの早期条痕文系土器であり、住居の削平率が高いため出土遺物も少ない。これらの出土遺物の内１点を図示した。本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

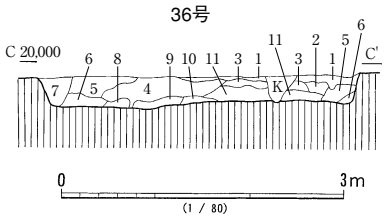
35号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1096号。32・33号遺構に削平されて存在する隅丸方形の竪穴住居跡である。短径3.44ｍを測り、主軸方位はN－８°－W を示す。残存する壁高は、それぞれ東壁18.5cm、西壁12.5cm、南壁18.5cmを測り、東南部の遺存状態がよい。床面はほぼ平坦であり、周溝・炉は検出されなかった。東南コーナー部にＰ１を検出し、深さは24.5cmを測る。

遺物

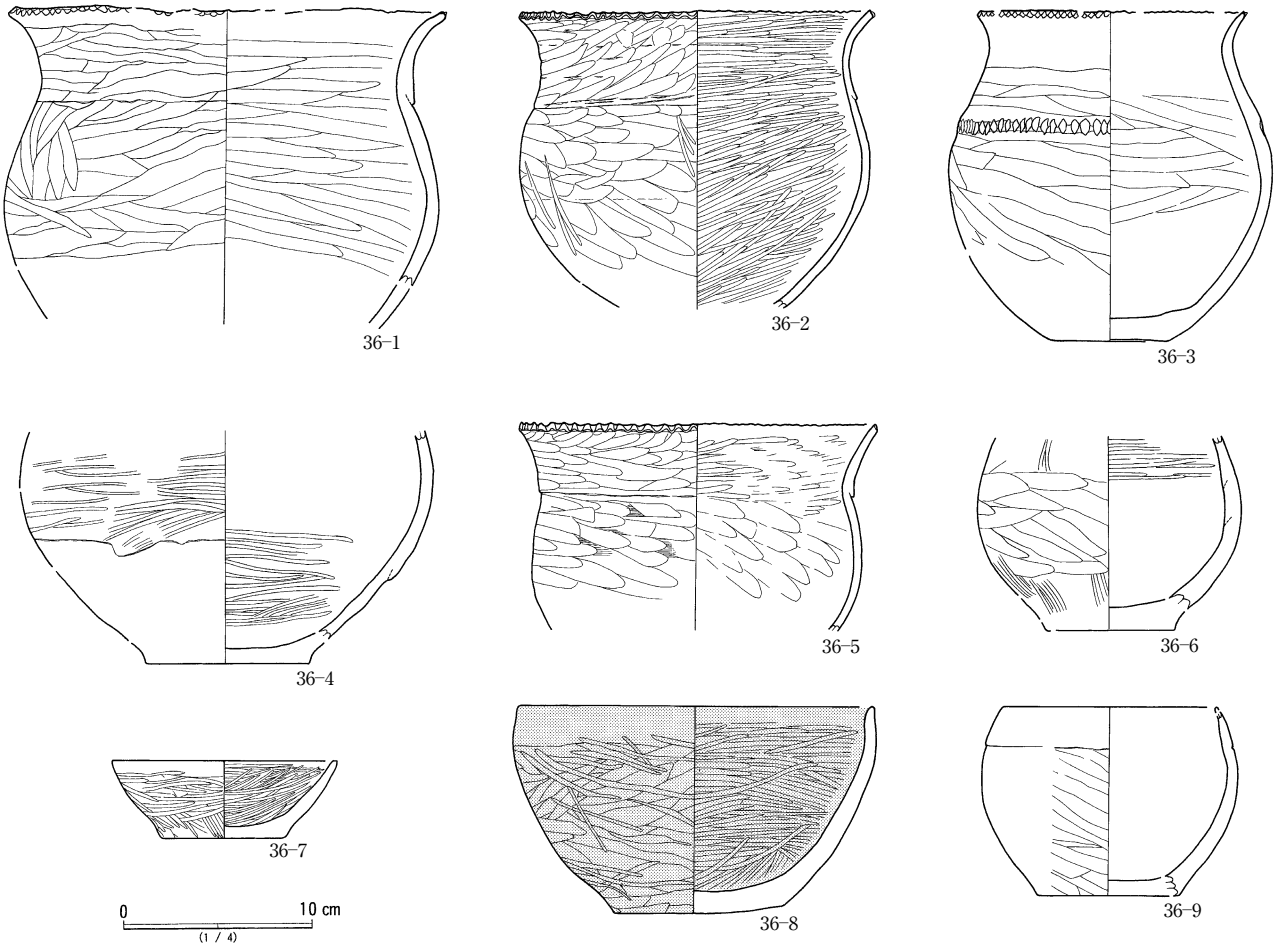
本遺構からは64点696ｇの土器片と13点680ｇの礫・石器が出土した。その内訳は46点446ｇの弥生土器、１点10ｇの早期撚糸文系土器、17点240ｇの早期条痕文系土器である。８は南壁際の床面密着の状態で出土した欠損磨製石斧である。他の遺物は全て覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。





36号遺構

1 黒褐色土　ローム粒含む。
2 黒褐色土　暗褐色土含む。
3 黒褐色土　ローム粒含む。
4 黒褐色土　焼土粒、ローム粒含む。
5 黒褐色土　ローム粒含む。
6 黒褐色土　ローム粒含む。
7 黒褐色土　ローム粒、炭化物含む。
8 暗褐色土　焼土粒やや多く含む。
9 暗褐色土　焼土粒多量に含む。
10 暗褐色土　焼土粒含む。
11 暗褐色土　ソフトローム含む。



第79図　36号遺構実測図・35・36号遺構出土遺物実測図

36号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1092号。35・37号遺構を削平して存在する隅丸方形の竪穴住居跡である。長径3.4m短径3.26mを測り、主軸方位はN-37°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁32.3cm、西壁21.0cm、南壁29.5cm、北壁24.7cmを測り、相対的に遺存状況は良好である。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長0.8mを測り、長軸方位はN-15°-Wを示し、床面より7.3cm程下がった位置で火床を検出する。床面はほぼ平坦であり、南側の一部に焼土の散布が認められた。周溝は存在せず、ピットは2箇所に検出された。P1・P2は小ピットであり、深さはそれぞれP1が14.5cm、P2が9.6cmを測る。

遺物

本遺構からは106点4,785gの土器片と10点195gの礫が出土した。土器片の内訳は96点4,645gの弥生土器、10点140gの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内9点を図示した。1～9は何れも床密着の状況で検出されており、本遺構に直接伴うものと考えられる。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取り上げられており、出土地点を明示するものは無い。

37号遺構

昭和59年度調査時遺構番号N-13号、即ち根田13号墳。当初古墳として調査されているが、31・32・35・36号遺構に削平された方形周溝墓であろうと判断される。北溝の上端長2.84m下端長2.64m幅68cm深さ10.0cm、東溝の上端長0.88m下端長0.84m幅56cm深さ4.7cmを測る。北溝内に3箇所のピットが検出された。深さはそれぞれP1が22.7cm、P2が30.2cm、P3が2.8cmを測る。

遺物

本遺構からは5点20gの土器片と2点50gの礫が出土した。土器の内訳は全て弥生土器の極小細片で、図示に至るものは無い。また、本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものも無い。

38号遺構

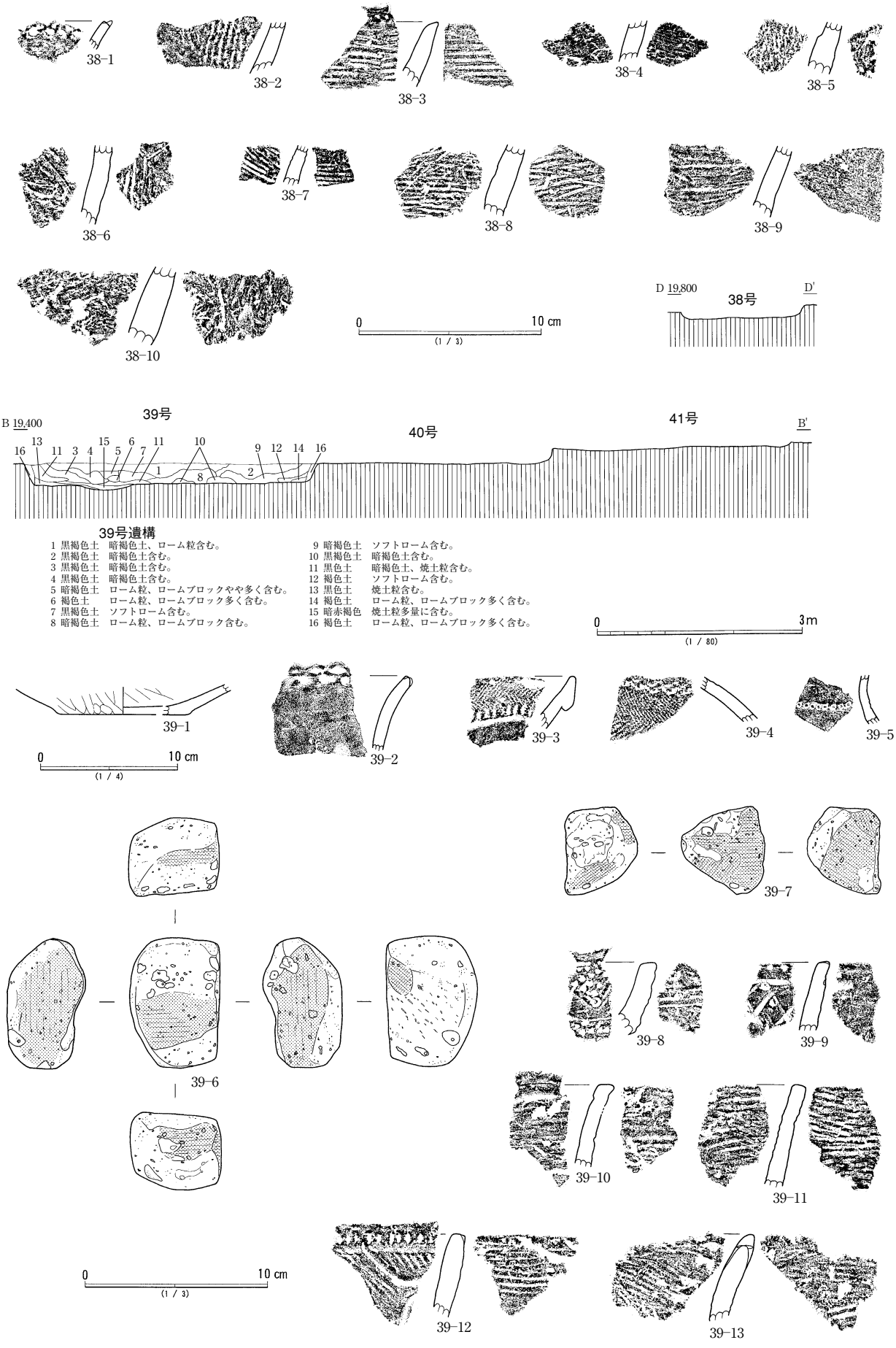
昭和59年度調査時遺構番号1091号。36号遺構の南に位置し、平面形は隅丸長方形を呈する土坑である。主軸方位はN-40°-E示し、長径1.8m、短径1.12cm、深さは最大11.5cmを測り、底面はほぼ平坦である。

遺物

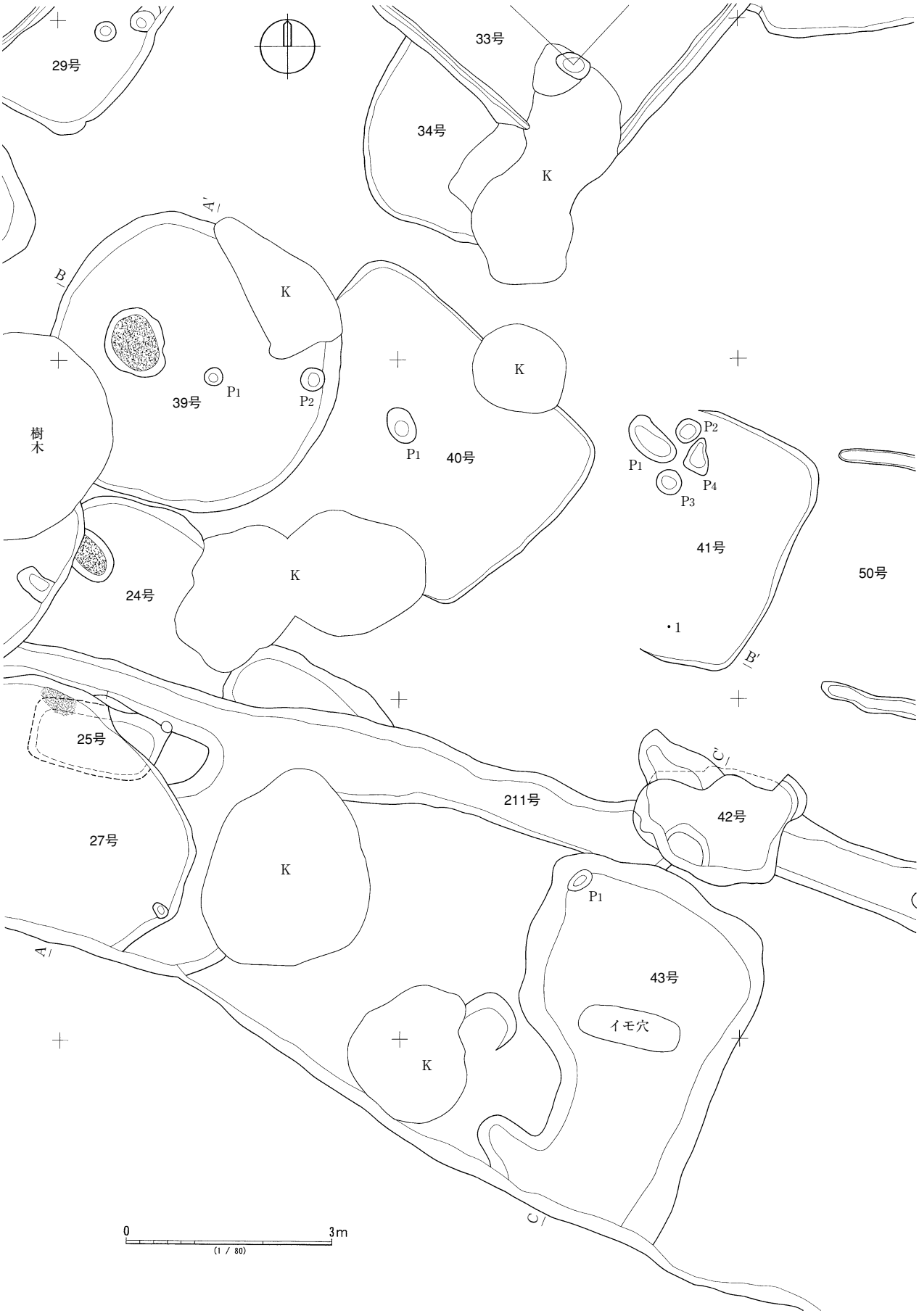
本遺構からは22点283gの土器片と4点92gの礫が出土した。土器片の内訳は1点5gの土師器、11点85gの弥生土器、1点20gの早期撚糸文系土器、9点173gの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内10点を図示したが、本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

39号遺構

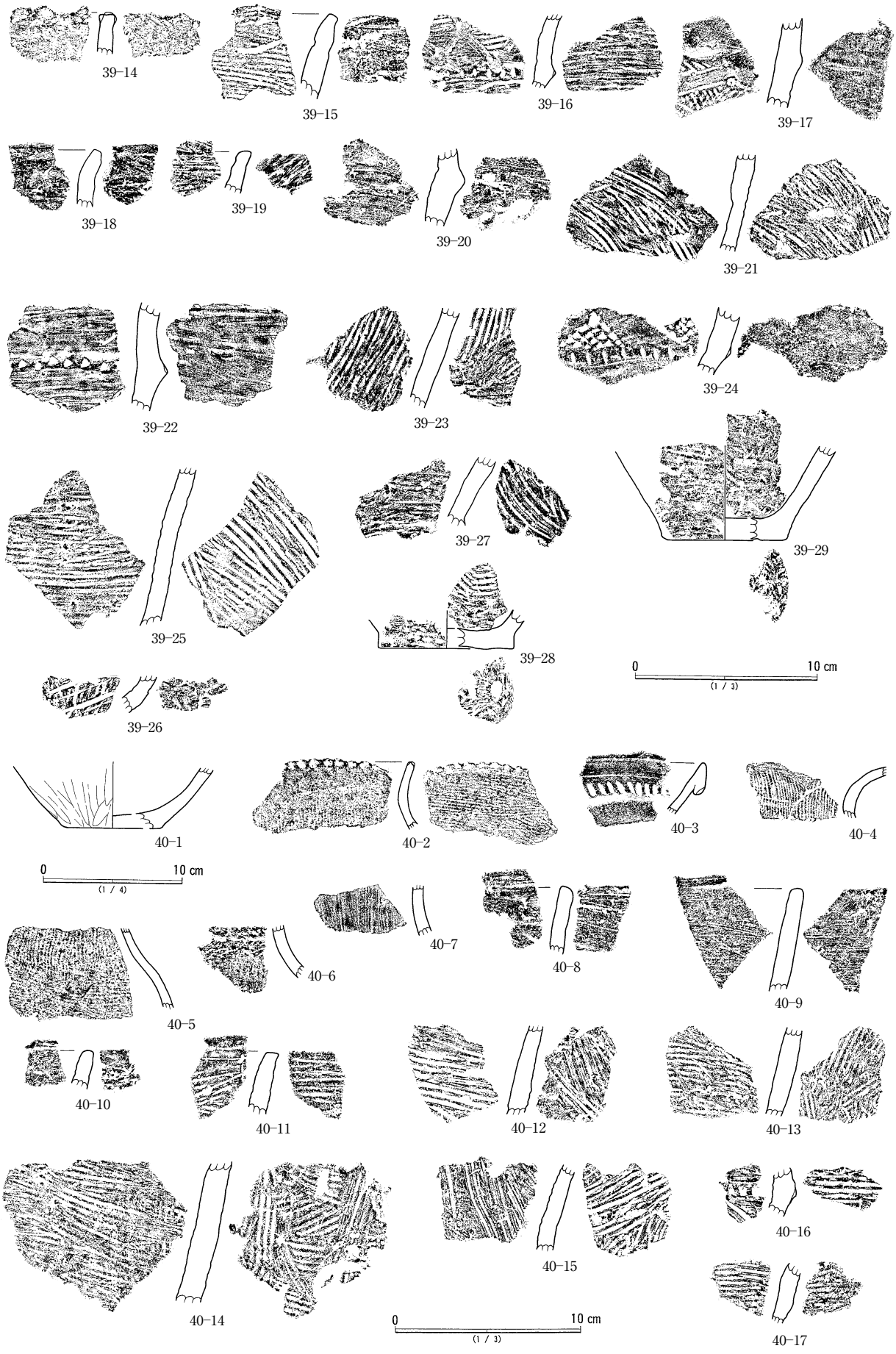
昭和59年度調査時遺構番号1106号。図上では40号遺構を削平して存在するかに見えるが、平面形態がほとんど円形を呈する竪穴住居跡であり、明らかに40号遺構より古い段階の遺構である。長径4.3m



第80図　38～41号遺構実測図・38・39号遺構出土遺物実測図



第81図　24・25・34・39～43号遺構実測図



第82図　39・40号遺構出土遺物実測図

短径4.2ｍを測り、主軸方位はN-40°-Eを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁24.8㎝、西壁31.1㎝、南壁25.2㎝、北壁36.1㎝を測り、北壁が最も遺存状態がよい。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長1.06ｍを測り、長軸方位はN-21°-Wを示し、床面より6.2㎝程下がった位置で火床を検出する。周溝は認められず床面はほぼ平坦であり、ピットは２箇所に検出された。Ｐ１の深さは記録に無く、Ｐ２は深さ14.5㎝を測る。

遺物

本遺構からは406点4,308.8ｇの土器片と107点4,165.6ｇの礫・石器が出土した。土器片の内訳は126点943.4ｇの弥生土器、280点3,365.4ｇの早期条痕文系土器であり、早期条痕文系土器の割合が圧倒的に多い。これらの出土遺物の内29点を図示した。本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

40号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1104号。図上では39号遺構に削平されて存在するかに見えるが、その住居跡の平面形態から見れば、明らかに39号遺構よりも新しい段階の隅丸長方形を呈する竪穴住居跡である。長径4.56ｍ短径推定3.5ｍを測り、主軸方位はN-47°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁7.9㎝、西壁6.6㎝、南壁16.3㎝、北壁1.7㎝を測り、南壁が最も遺存状態がよい。床面はほぼ平坦であるが、炉・周溝は認められない。ピットは１箇所に検出され、深さは9.0㎝を測る。

遺物

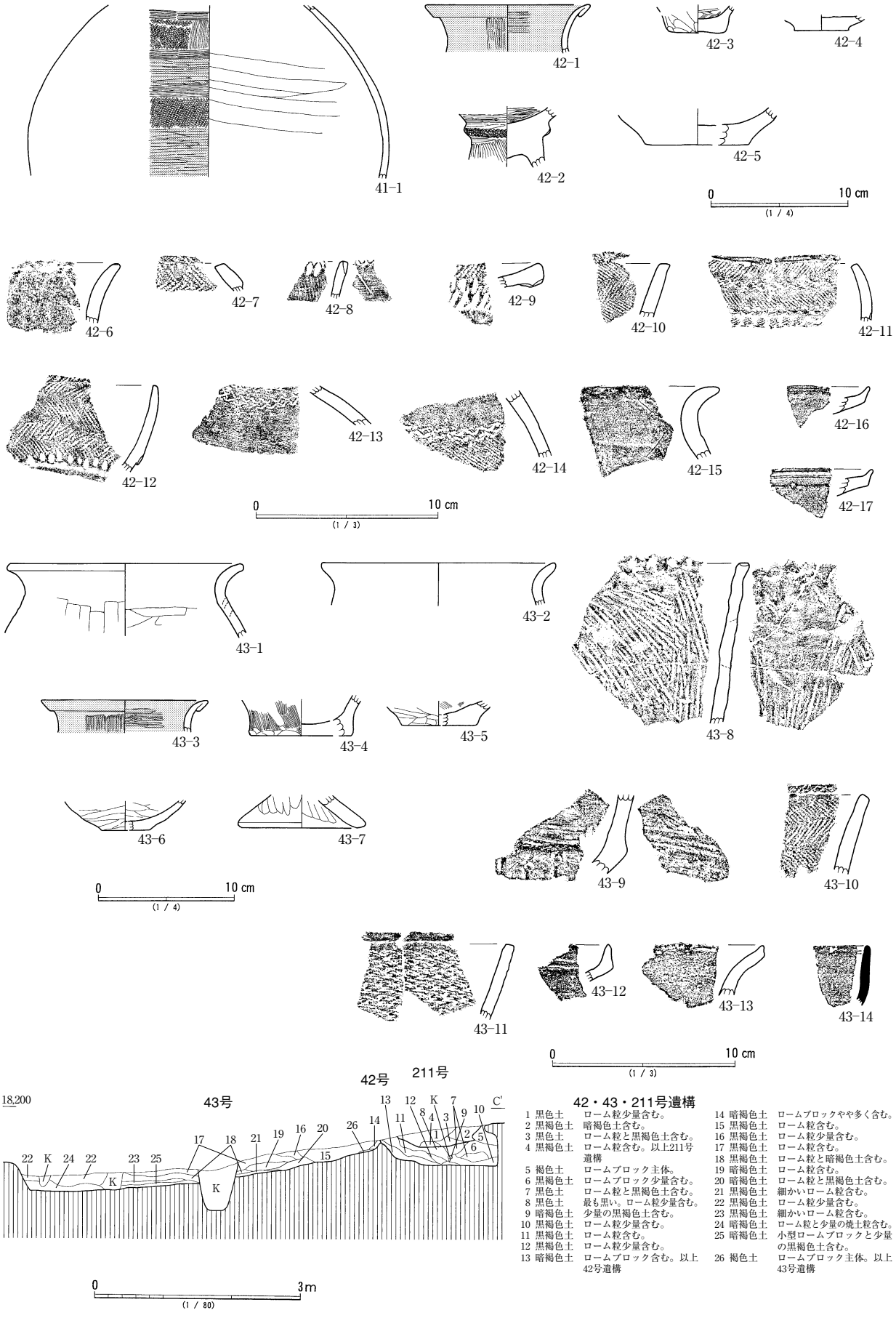
本遺構からは175点1,600.8ｇの土器片と53点1,413ｇの礫が出土した。土器片の内訳は98点771.2ｇの弥生土器、76点820.3ｇの早期条痕文系土器、１点9.3ｇの前期繊維土器であり、点数では弥生土器、重量では早期条痕文系土器が多い。これらの出土遺物の内17点を図示した。本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

41号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1103号。40号遺構の東に存在する長径3.78ｍの竪穴住居跡であり、主軸方位はN-27°-Eを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁3.9㎝、南壁3.3㎝、北壁25.3㎝を測り、北壁が最も遺存状態がよい。炉・周溝は認められず床面はほぼ平坦であり、ピットは４箇所に検出された。Ｐ１・Ｐ４は不整形なピットで深さはそれぞれＰ１が17.7㎝・Ｐ４が19.1㎝を測る。Ｐ２・Ｐ３は円形ピットで掘り込みもしっかりしており、深さはそれぞれＰ２が33.2㎝・Ｐ３が59.4㎝を測る。

遺物

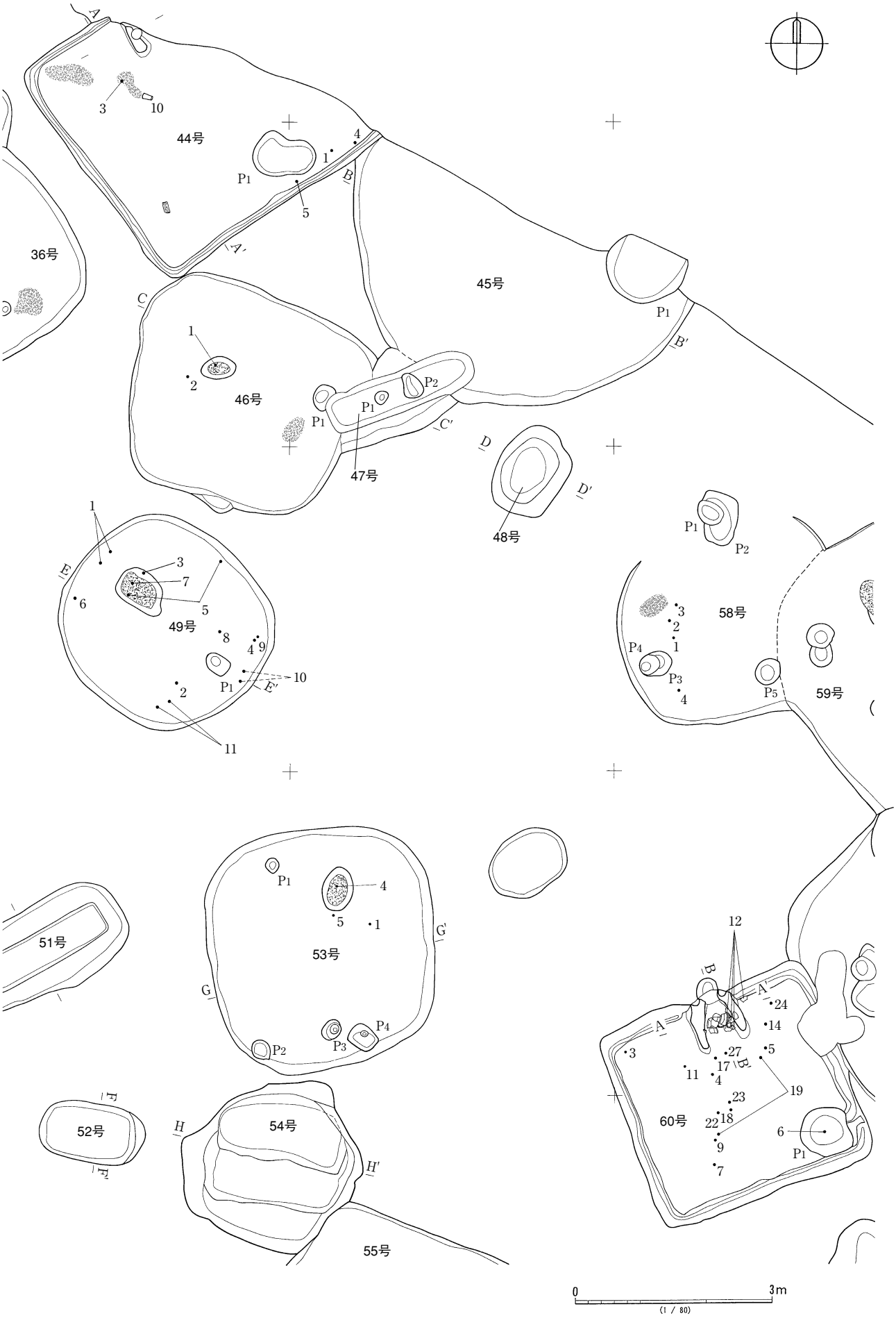
本遺構からは183点1,417.5ｇの土器片と54点1,938ｇの礫が出土した。土器片の内訳は107点667.5ｇの弥生土器、76点750ｇの早期条痕文系土器であり、点数では弥生土器、重量では早期条痕文系土器が多い。これらの出土遺物の内１点を図示した。１は南側の床面から３㎝程浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。



42・43・211号遺構

1	黒色土	ローム粒少量含む。	
2	黒褐色土	暗褐色土含む。	
3	黒色土	ローム粒と黒褐色土含む。	
4	黒褐色土	ローム粒含む。以上211号遺構	
5	褐色土	ロームブロック主体。	
6	黒褐色土	ロームブロック少量含む。	
7	黒色土	ローム粒と黒褐色土含む。	
8	黒色土	最も黒い。ローム粒少量含む。	
9	暗褐色土	少量の黒褐色土含む。	
10	黒褐色土	ローム粒少量含む。	
11	黒褐色土	ローム粒含む。	
12	黒褐色土	ローム粒少量含む。	
13	暗褐色土	ロームブロック含む。以上42号遺構	
14	暗褐色土	ロームブロックやや多く含む。	
15	黒褐色土	ローム粒含む。	
16	黒褐色土	ローム粒少量含む。	
17	黒褐色土	ローム粒含む。	
18	黒褐色土	ローム粒と暗褐色土含む。	
19	暗褐色土	ローム粒含む。	
20	暗褐色土	ローム粒と黒褐色土含む。	
21	黒褐色土	細かいローム粒含む。	
22	黒褐色土	ローム粒少量含む。	
23	黒褐色土	細かいローム粒含む。	
24	暗褐色土	ローム粒と少量の焼土粒含む。	
25	暗褐色土	小型ロームブロックと少量の黒褐色土含む。	
26	褐色土	ロームブロック主体。以上43号遺構	

第83図　42・43・211号遺構実測図・41～43号遺構出土遺物実測図



第84図　44～49・52～54・58・60号遺構実測図

42号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1093号。41号遺構の南に存在する長径2.18m短径1.68mの側壁抉り込みの形態を呈する土壙墓である。覆土上層は211号溝に削平されて存在し、主軸方位はN-80°-Wを示す。残存する壁高は土層断面より、南壁24.0cm、北壁58.0cmを測る。

遺物

本遺構からは97点1,156.1gの土器片と32点1,669.8gの礫が出土した。その内訳は68点678.4gの土師器、19点358.1gの弥生土器、9点119.6gの早期条痕文系土器であり、土師器が圧倒的に多い。これらの出土遺物の内17点を図示した。16・17は口唇部が摘み上がる8世紀後葉から9世紀代に盛行する甕型土器口縁部であり、本遺構時期の一端が垣間見られるが、本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

43号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1094号。42号遺構の南に存在する長径5.1m以上、短径2.16～3.3mの歪で不整形な平面形態の性格不明な遺構である。底面は平坦ではなく、南側に向かって傾斜を増して傾き、その高低差は54cmを測る。ピットは1箇所に検出され、深さは2.7cmを測る。残存する壁高は、東壁14.4cm、西壁4.8cm、北壁25.3cmを測る。

遺物

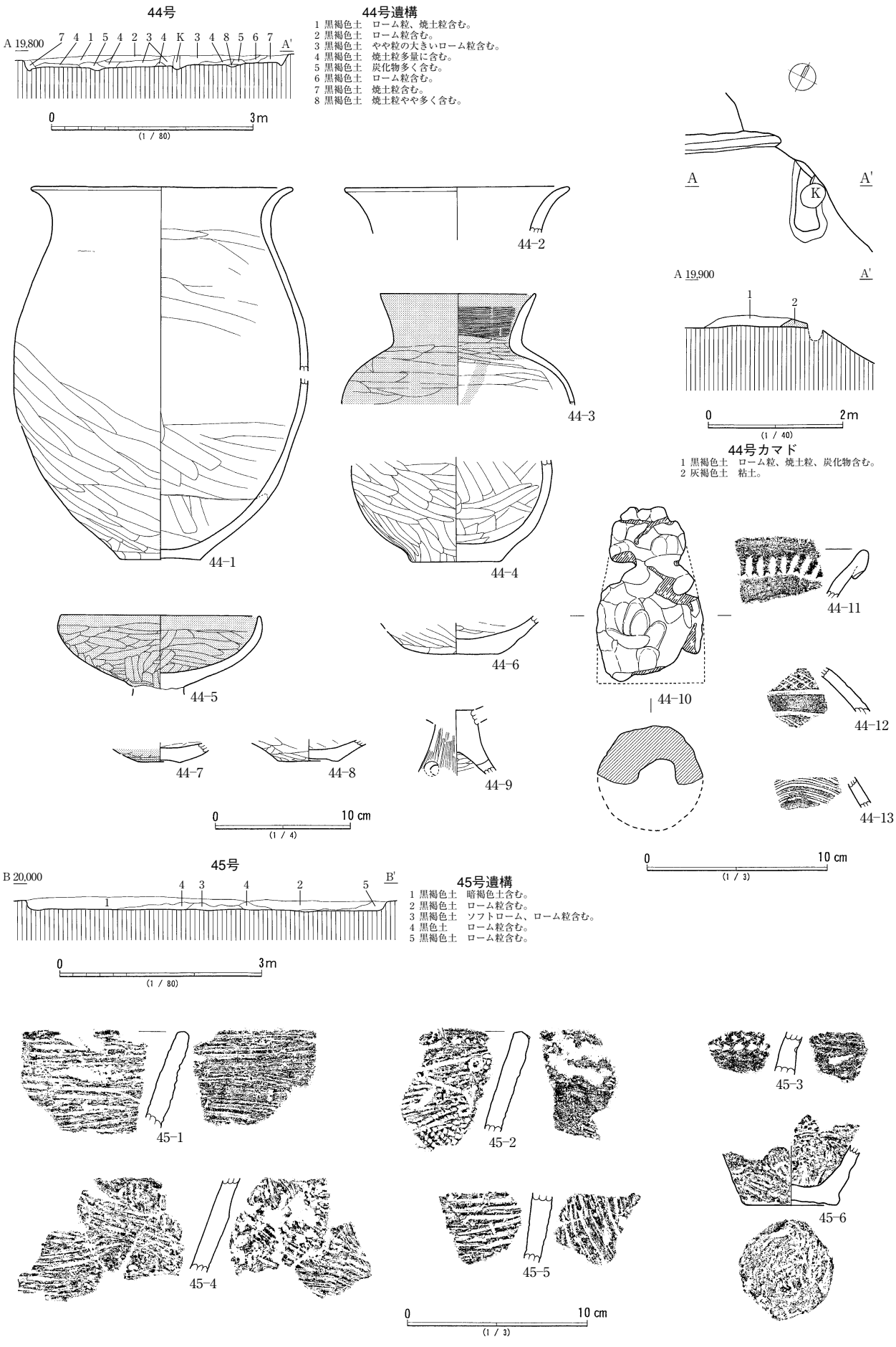
本遺構からは623点3,351gの土器片と77点2,337.1gの礫が出土した。土器片の内訳は156点949.2gの土師器、1点5gの須恵器、350点1,501,9gの弥生土器、116点894.9gの早期条痕文系土器であり、弥生土器が圧倒的に多い。これらの出土遺物の内14点を図示した。各時期の様々な遺物が混合しているが、本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

44号遺構

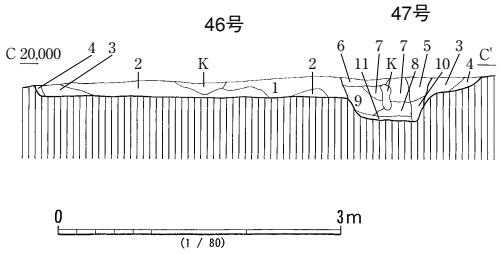
昭和59年度調査時遺構番号1086号。36号遺構の東に遺構の東側を大幅に削平されて存在する方形の竪穴住居跡である。長径3.92m以上、短径3.92mを測り、主軸方位はN-35°-Wを示す。カマドは北壁中央に位置し、残存する壁高は、それぞれ西壁12.5cm、南壁20.5cm、北壁9.01cmを測り、南壁が最も遺存状態がよい。周溝は全周するものと捉えられ、深さは1.8～7.5cmを測る。床面はほぼ平坦であり、北西コーナー部に焼土の堆積が、南西コーナー部付近に炭化物が認められた。ピットは1箇所に検出され、深さは13.7cmを測る。

遺物

本遺構からは255点3,919.8gの土器・土製品と19点530gの礫が出土した。土器・土製品の内訳は220点3,205.8gの土師器、1点285gの支脚、19点229gの弥生土器、15点200gの早期条痕文系土器であり、土師器が圧倒的に多い。これらの出土遺物の内13点を図示した。1・4は南壁際の床面から8cm程浮いた状態で検出された。5は同じく南壁際の床面密着状態で出土している。3・10は北西コーナー付近の焼土に接した床面より出土している。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

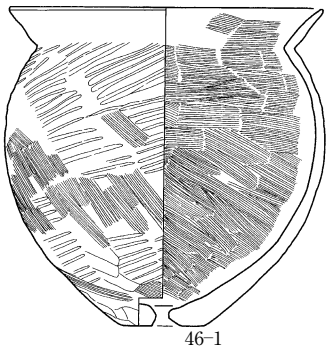


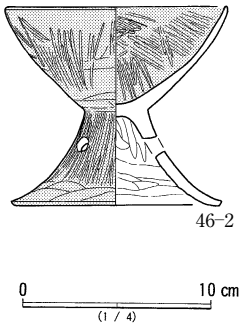
第85図　44・45号遺構実測図・出土遺物実測図

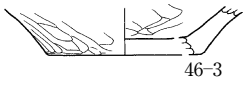


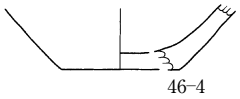
46・47号遺構

1 黒褐色土　ソフトローム含む。
2 黒褐色土　ソフトローム粒含む。
3 黒色土　ロームブロック、ローム粒含む。
4 褐色土　ソフトローム。
5 黒褐色土　ローム粒含む。
6 黒褐色土　ローム粒含む。
7 黒褐色土　ローム粒含む。
8 黒褐色土　ローム粒含む。
9 黒褐色土　ローム粒含む。
10 暗褐色土　ソフトローム含む。
11 暗褐色土　ソフトローム粒含む。

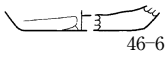

46-1


46-2


46-3

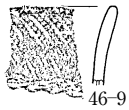

46-4

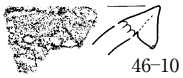
46-5

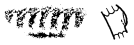

46-6

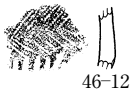
46-7

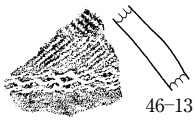
46-8


46-9


46-10


46-11


46-12

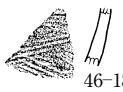

46-13

46-14

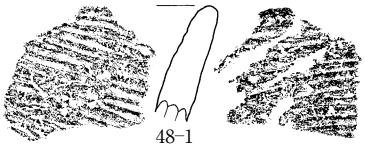
46-15

46-16

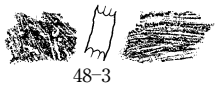
46-17

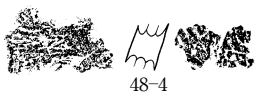

46-18

46-19

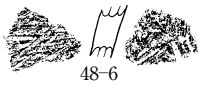

48-1

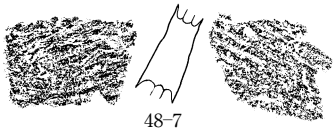
48-2

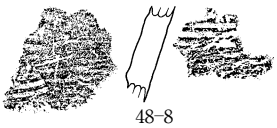

48-3

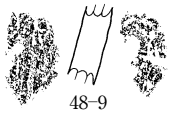

48-4

48-5

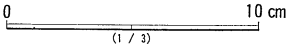

48-6

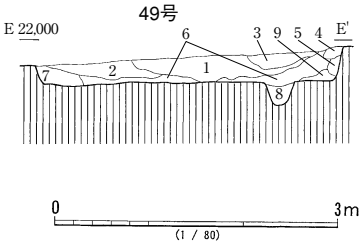

48-7


48-8


48-9

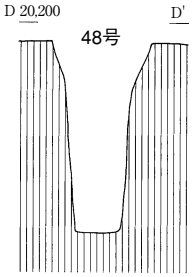
48-10





49号遺構

1 黒褐色土　暗褐色土とローム粒含む。
2 黒褐色土　ソフトローム、ローム粒含む。
3 黒褐色土　ソフトローム含む。
4 黒色土　暗褐色土含む。
5 明褐色土　ソフトローム含む。
6 黒褐色土　暗褐色土含む。
7 黒色土　暗褐色土含む。
8 黒褐色土　ソフトローム、ロームブロック含む。
9 黒褐色土　ローム粒含む。



第86図　46～49号遺構実測図・46・48号遺構出土遺物実測図

45号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1078号。44号遺構の東に、遺構の大半を削平されて存在する平面形態楕円形の竪穴住居跡である。主軸方位はN−4°−Wを示し、炉・周溝は検出されなかった。残存する壁高は、それぞれ東壁13.7cm、西壁14.0cm、南壁17.9cm、を測り、南壁が最も遺存状態がよい。床面はほぼ平坦であり、ピットは１箇所に検出され、深さは31.9cmを測る。

遺物

本遺構からは72点990ｇの土器片と２点20ｇの礫が出土した。土器片の内訳は、30点275ｇの弥生土器、42点715ｇの早期条痕文系土器であり、早期条痕文系土器が多い。これらの出土遺物の内６点を図示するが、何れも早期条痕文系の土器であり、図示に至る弥生土器ない。本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

46号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1079号。44号遺構の南に隣接し、47号遺構に削平されて存在するやや歪な隅丸方形を呈する竪穴住居跡である。長径3.42ｍ以上、短径3.26ｍを測り、主軸方位はN−71°−Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁21.9cm、西壁8.3cm、南壁13.5cm、北壁14.8cmを測り、東壁が最も遺存状態がよい。、炉は中央やや西寄りに検出された。長軸長1.06ｍを測り、長軸方位はN−96°−Wを示し、床面より4.0cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は認められず床面はほぼ平坦であり、Ｐ１付近に焼土の堆積が認められた。ピットは１箇所に検出され、深さは22.0cmを測る。

遺物

本遺構からは294点2,340.7ｇの土器片と31点1,624.9ｇの礫が出土した。土器片の内訳は、23点213.3ｇの土師器、244点1,727.4ｇの弥生土器、27点400ｇの早期条痕文系土器であり、弥生土器が圧倒的に多い。これらの出土遺物の内10点を図示した。１は炉内から検出された叩き甕であり、焼成後底部に８㎜程の穿孔を施す。２は炉付近の床面密着の状況で検出された高坏である。これ以外の遺物は、全て覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

47号遺構

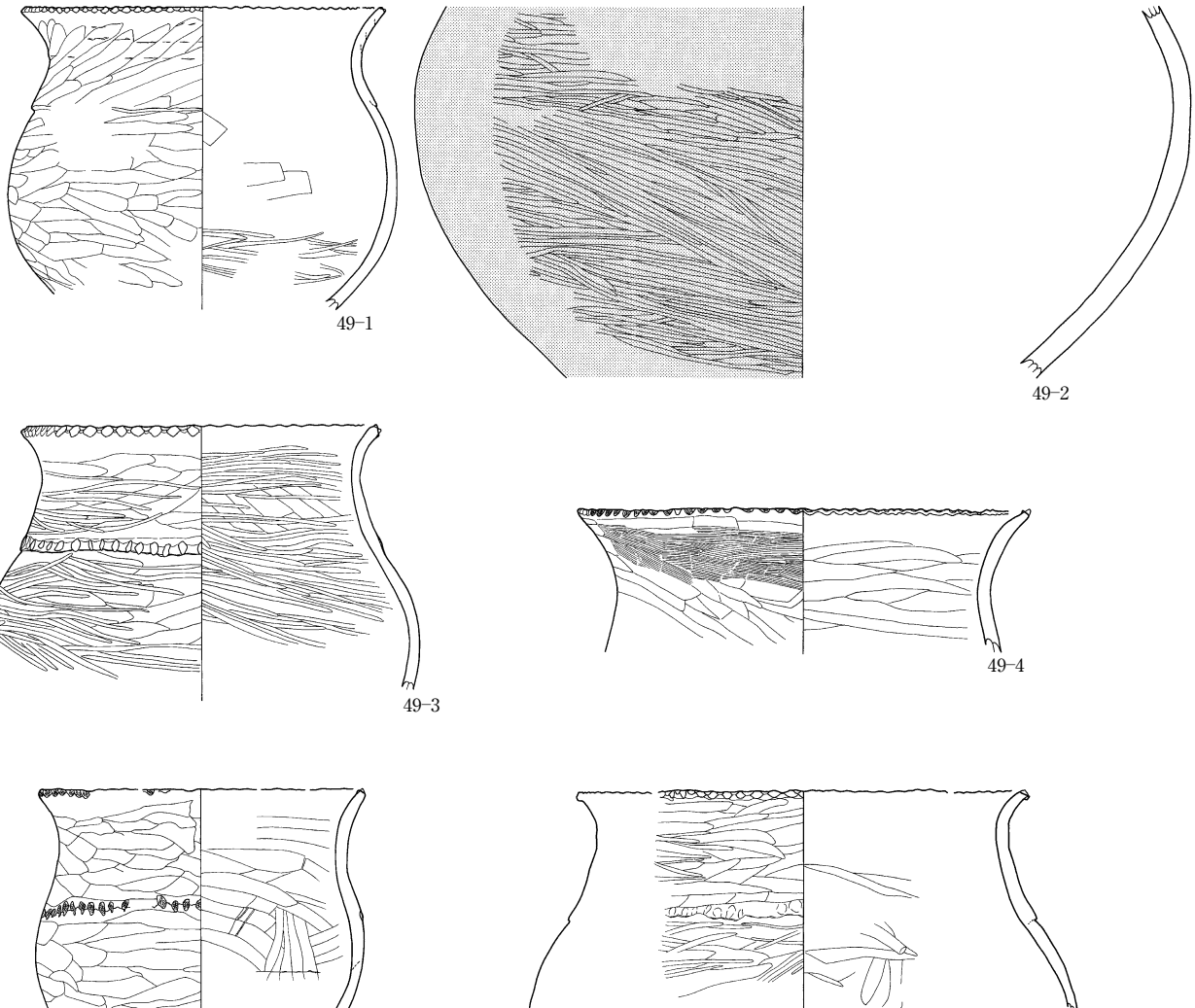
昭和59年度調査時遺構番号1099号。46号遺構を削平して存在する不整な隅丸長方形を呈する土坑である。長径2.36ｍ短径1.34ｍを測り、主軸方位はN−68°−Eを示す。残存する壁高は、東壁17.0cm、西壁19.1cm、南壁26.0cm、北壁23.0cmを測り、南壁が最も遺存状態がよい。、底面はほぼ平坦であり、２箇所にピットが検出された。深さはそれぞれＰ１が13.7cm、Ｐ２が65.0cmを測る。

遺物

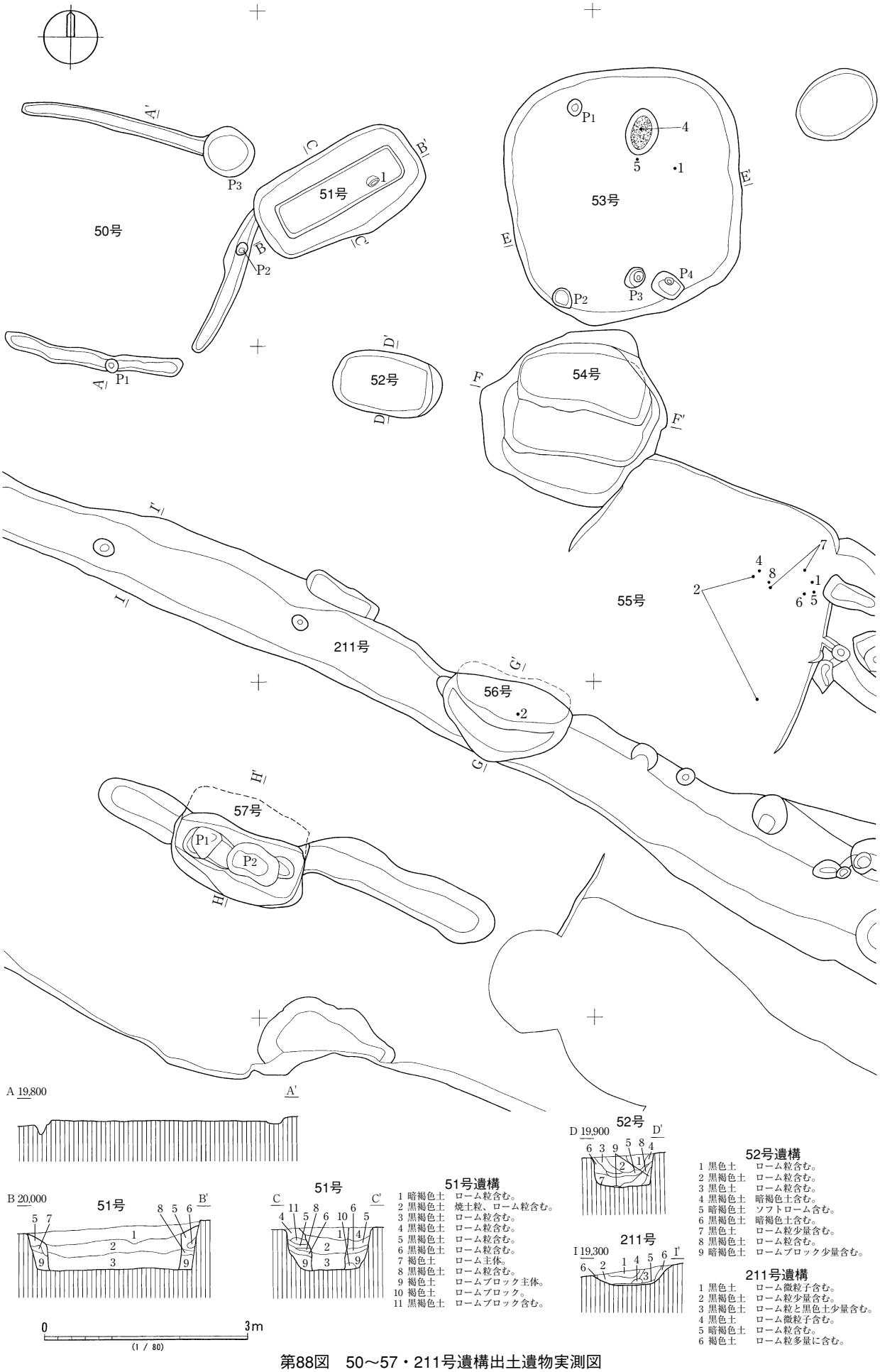
本遺構からは１点の遺物も検出されなかった。

48号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1084号。45号遺構の南に存在する不整な楕円形を呈する土坑である。長径1.4ｍ短径1.041ｍ、深さは最大201.8cmを測り、主軸方位はN−21°−Eを示す。



第87図　49号遺構出土遺物実測図



51号遺構

1 暗褐色土　ローム粒含む。
2 黒褐色土　焼土粒、ローム粒含む。
3 黒褐色土　ローム粒含む。
4 黒褐色土　ローム粒含む。
5 黒褐色土　ローム粒含む。
6 黒褐色土　ローム粒含む。
7 褐色土　ローム主体。
8 黒褐色土　ローム粒含む。
9 褐色土　ロームブロック主体。
10 褐色土　ロームブロック。
11 黒褐色土　ロームブロック含む。

52号遺構

1 黒色土　ローム粒含む。
2 黒褐色土　ローム粒含む。
3 黒色土　ローム粒含む。
4 黒褐色土　暗褐色土含む。
5 暗褐色土　ソフトローム含む。
6 黒褐色土　暗褐色土含む。
7 黒色土　ローム粒少量含む。
8 黒褐色土　ローム粒含む。
9 暗褐色土　ロームブロック少量含む。

211号遺構

1 黒色土　ローム微粒子含む。
2 黒褐色土　ローム粒少量含む。
3 黒褐色土　ローム粒と黒色土少量含む。
4 黒色土　ローム微粒子含む。
5 暗褐色土　ローム粒含む。
6 褐色土　ローム粒多量に含む。

第88図　50～57・211号遺構出土遺物実測図

遺物

本遺構からは11点197.6ｇの早期条痕文系土器と３点110ｇの礫が出土した。これらの出土遺物の内10点を図示したが、本遺構出土遺物は全て覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

49号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1087号。46号遺構の南に隣接して存在する楕円形を呈する竪穴住居跡である。長径3.22m短径3.0mを測り、主軸方位はN-43°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁31.9cm、西壁25.5cm、南壁35.6cm、北壁19.2cmを測り、南壁が最も遺存状態がよい。炉は中央北寄りに検出された。長軸長0.88mを測り、長軸方位はN-34°-Wを示し、床面より3.4cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、ピットは１箇所に検出され、深さは41.8cmを測る。

遺物

本遺構からは184点5,759.3ｇの土器片と15点680ｇの礫が出土した。土器片の内訳は、169点5,566.3ｇの弥生土器、15点193ｇの早期条痕文系土器であり、弥生土器が圧倒的に多い。これらの出土遺物の内12点を図示した。１・６は北側壁際付近の床面密着で、３・７は炉内密着で検出されている。５は炉内と東壁際の床面から検出され接合関係を有する甕である。この他２・４・８・９・10・11の遺物も、全て床面密着の状況で検出されており、本遺構に直接伴うものと考えられる。

50号遺構

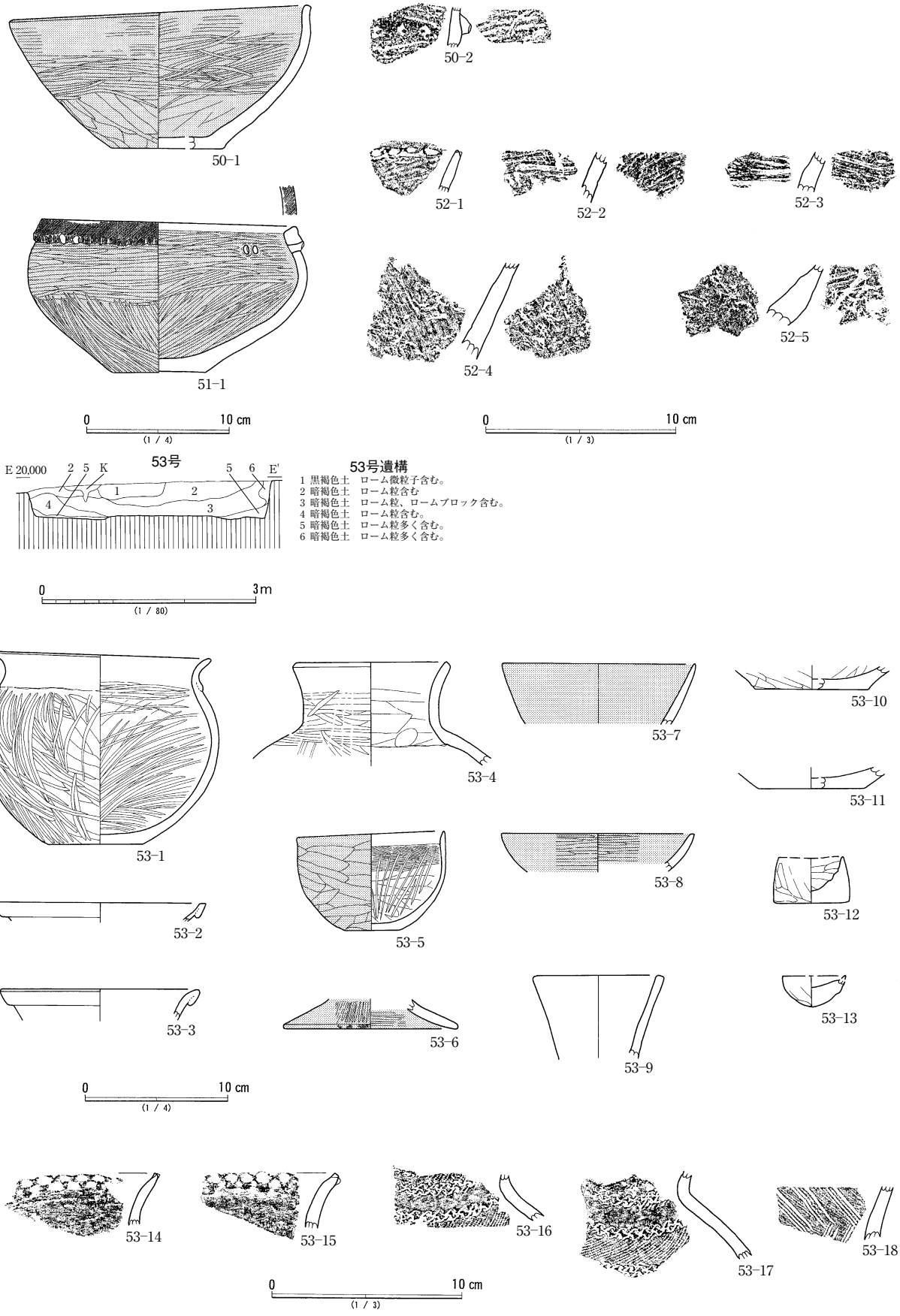
昭和59年度調査時遺構番号1105号。41号遺構の東に隣接して存在する内法3.2m規模の方形周溝墓である。西側周溝を欠くが、41号遺構に削平された可能性が高い。残存する各溝の規模は、東側溝が上端長2.3m、下端長2.2m、上端幅32cm、深さは5.2cmを、南側溝は上端長2.62m、下端長2.5m、上端幅26cm、深さは24.1cmを北側溝は上端長2.76m、下端長2.72m、上端幅24cm、深さは8.2cmを測る。残存する東側周溝より、主軸方位はN-22°-Eを示している。ピットは周溝内やこれに接して３箇所に検出された。深さはそれぞれＰ１が23.4cm、Ｐ２が19.0cm、Ｐ３が25.4cmを測る。なおＰ１、Ｐ２は小ピットの類であるが、Ｐ３は規模も大きく掘り込みもしっかりしており、土坑の類である可能性が高い。方台部内からは埋葬施設は検出されなかった。

遺物

本遺構からは３点679.3ｇの土器片と９点350ｇの礫が出土した。土器片の内訳は、２点670ｇの弥生土器、１点9.3ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内２点を図示した。本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示ものは無い。

51号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1090号。50号遺構を削平して存在する単独の木棺墓である。墓壙平面形は隅丸長方形を呈し、長径2.59m短径1.35mを測り主軸方位はN-61°-Eを示す。残存する墓壙壁高は、それぞれ東壁73.0cm、西壁58.0cm、南壁59.0cm、北壁62.0cmを測り、南壁が最も遺存状態がよ



第89図　53号遺構実測図・50～53号遺構出土遺物実測図

い。墓壙を15cm程掘り下げた段階で中央部に木棺痕が検出され、その東側より１の鉢が出土した。木棺痕の規模は長径2.02m、短径0.54m高さは54cmを測る。

遺物

本遺構からは１点950ｇの弥生土器出土した。１は底面から54cm浮いた状態で検出された鉢である。木棺埋設後に供献されたものと考えられる。

52号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1095号。51号遺構の南側に存在する隅丸長方形の土坑である。長径1.66m短径0.96mを測り、主軸方位はN-80°-W を示す。残存する壁高は、それぞれ東壁48.7cm、西壁43.0cm、南壁37.7cm、北壁47.1cmを測り、東壁が最も遺存状態が良好である。底面は平坦でピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは14点170ｇの土器片と、37点1,470ｇの礫が出土した。土器片の内訳は、７点60ｇの弥生土器、７点110ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内５点を図示したが、本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

53号遺構

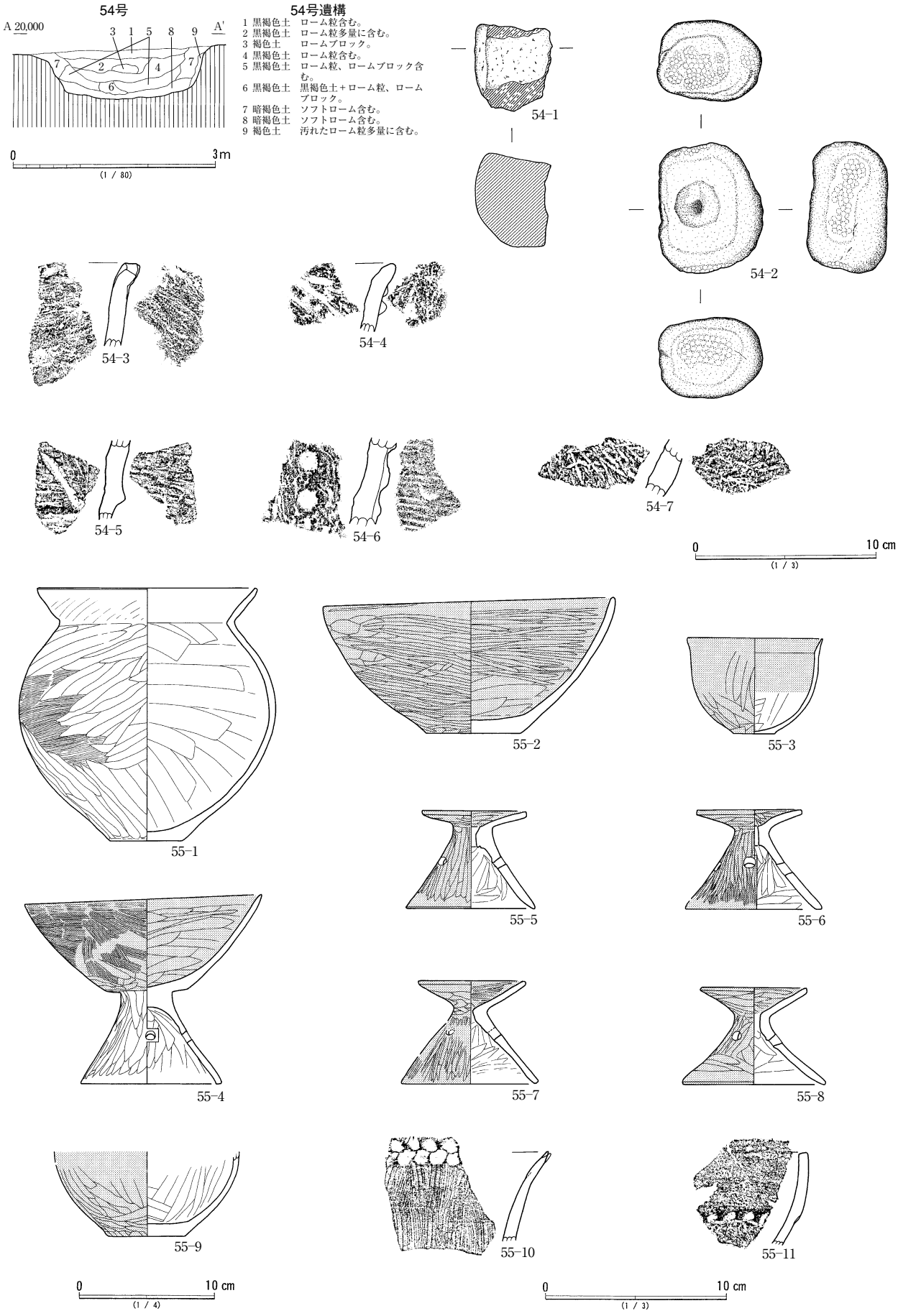
昭和59年度調査時遺構番号1083号。51号遺構の東に存在する隅丸方形を呈する竪穴住居跡である。長径3.68m短径3.44mを測り、主軸方位はN-４°-W を示す。残存する壁高は、それぞれ東壁49.0cm、西壁32.5cm、南壁39.5cm、北壁41.0cmを測り、全体的に遺存状況は良好である。炉は中央北寄りに検出された。長軸長0.7mを測り、長軸方位はN-14°-E を示し、床面より7.7cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、ピットは４箇所に検出された。深さはＰ１が4.5cm、Ｐ２が34.0cm、Ｐ３が34.7cmを測る。Ｐ４は記録が存在しなかった。

遺物

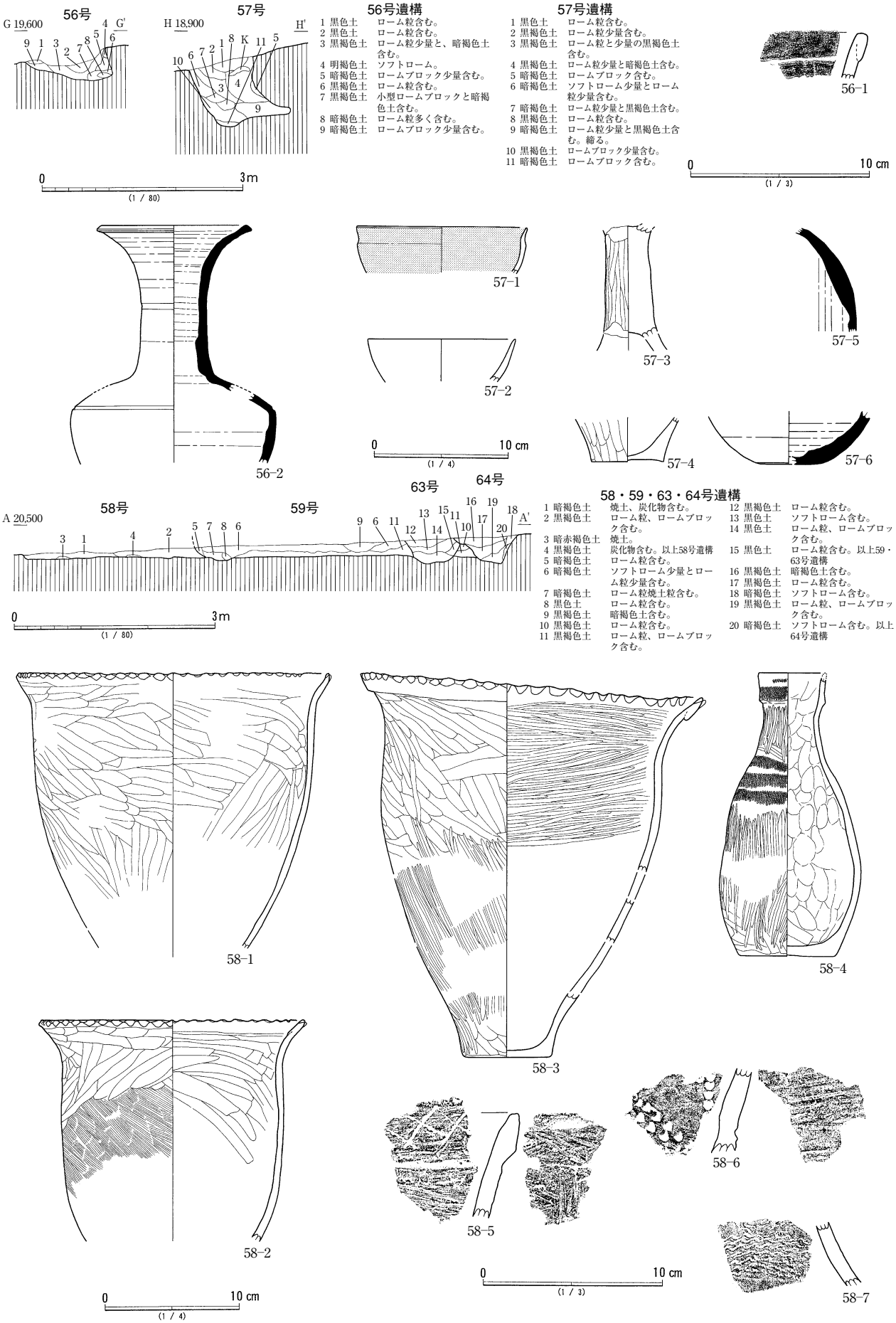
本遺構からは224点3,089ｇの土器片と22点970ｇの礫が出土した。土器片の内訳は、81点1,879ｇの土師器、105点740ｇの弥生土器、38点470ｇの早期条痕文系土器であり、土師器が圧倒的に多い。これらの出土遺物の内18点を図示した。１は炉付近の床面から８cm浮いた状態で検出された小型甕である。４は炉内火床に密着して検出された壺口縁部であり、五徳として二次転用された可能性がある。５は炉に接する床面から９cm浮いた状態で検出された小型鉢である。これ以外の遺物は全て覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

54号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1085号。53号遺構の南側に存在する側壁抉り込みの形態を呈する土壙墓であり、北側に存在した天井部が崩落したために現状では不整形な形を呈している。長径2.8m短径2.7mを測り、主軸方位はN-81°-W を示す。残存する壁高は、それぞれ東壁94.5cm、西壁73.3cm、南壁9.2cm、北壁88.1cmを測る。遺体を安置したと考えられる北側最奥部の下端は、長径1.88m短径0.7mを測り、底面は平坦でピット等は検出されなかった。



第90図　54号遺構実測図・54・55号遺構出土遺物実測図



第91図　56～59・63・64号遺構実測図・56～58号遺構出土遺物実測図

遺物

本遺構からは143点1,381.7ｇの土器片と、36点1,954.2ｇの礫・石器が出土した。その内訳は、41点260.6ｇの土師器、26点190ｇの弥生土器、２点８ｇの早期撚糸文系土器、74点923.1ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内７点を図示したが、これらは全て本遺構に直接伴うものではない。また、本遺構出土遺物は全て覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示したものは無い。

55号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1082号。54号遺構に削平されて存在し、南側の壁立ちあがりを流出するが、本来の平面形は隅丸方形を呈したと想定される竪穴住居跡である。残存する壁面から長径4.0ｍを測り、主軸方位はN-30°-Eを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁8.10㎝、西壁7.4㎝、北壁15.9㎝を測り、全体的に遺存状況は不良である。炉・周溝・ピットは存在せず、残存する床面はほぼ平坦である。北東コーナー部を中心とした範囲より、弥生終末から古墳前期にかけての過渡期の土器群が床密着の状況で比較的纏まって出土している。

遺物

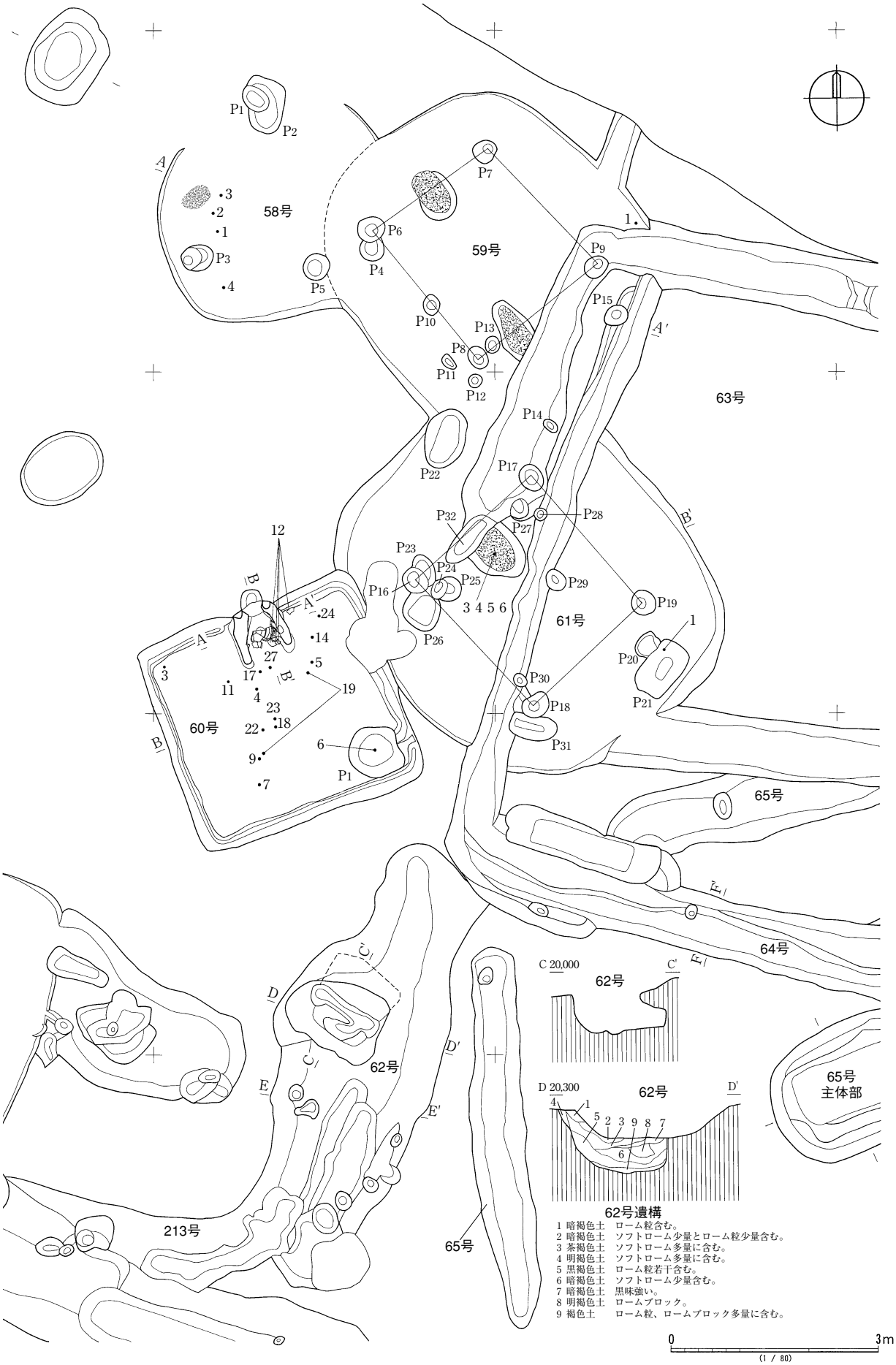
本遺構からは62点3,299.0ｇの土器片と４点291ｇの礫が出土した。土器片の内訳は、13点2,809ｇの弥生終末から古墳前期にかけての過渡期の土器、37点280ｇの弥生土器、12点210ｇの早期条痕文系土器であり、弥生終末から古墳前期にかけての過渡期の土器が圧倒的に多い。これらの出土遺物の内６点を図示した。１は北東コーナー部の床面密着の状態で検出された甕である。２は遺物集中地点からやや離れた位置から出土し、接合関係を有する鉢である。４高坏、５・６・７・８は器台であり、何れも床密着の状態で検出されている。これらの遺物は、何れも本遺構に直接伴うものと考えられる。

56号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1088号。55号遺構の南側に存在する側壁抉り込みの形態を呈する土壙墓であり、覆土上層は211号溝に削平されて存在する。長径1.96ｍ短径1.32ｍを測り、主軸方位はN-72°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁39.1㎝、西壁28.2㎝、南壁1.3㎝、北壁51.0㎝を測る。遺体を安置したと考えられる北側最奥部の下端は、長径1.76ｍ短径0.66ｍを測り、底面は平坦である。底面から20.6㎝浮いた状態で、２の須恵器長頸壺が検出されている。

遺物

本遺構からは21点181.6ｇの土器片と、９点240ｇの礫が出土した。土器片の内訳は、10点66.9ｇの土師器、１点の須恵器、６点60ｇの弥生土器、４点54.7ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内２点を図示した。２の須恵器長頸壺は調査図面と写真に記録されているが、現在行方不明で遺物観察や重量測定ができなかった。田中新史氏実測図写しをトレースし掲載するものである。これ以外の本遺構出土遺物は、全て覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。



第92図　58～62号遺構実測図

57号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1089号。56号遺構の南側に存在する側壁抉り込みの形態を呈する土壙墓であり、覆土上層は溝に削平されて存在する。長径1.95m短径1.52mを測り、主軸方位はN-65°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁90.0cm、西壁62.0cm、南壁84.0cm、北壁115.4cmを測る。遺体を安置したと考えられる北側の側壁抉り込み部の下端は、長径1.9m短径0.68mを測り、底面は平坦である。抉り込みのない範囲の底部は凹凸が激しく、底部の2箇所にピットが認められた。深さはそれぞれP1が10cm、P2が8cmを測る。

遺物

本遺構からは55点618.6gの土器片と、11点510gの礫が出土した。土器片の内訳は、31点328.6gの土師器、2点の須恵器、6点68gの弥生土器、16点222gの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内6点を図示した。本遺構出土遺物は全て覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。5・6の須恵器は、現在行方不明で遺物観察や重量測定ができなかった。田中新史氏実測図写しをトレースし掲載するものである。

58号遺構

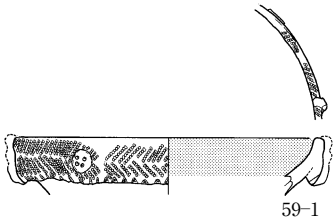
昭和59年度調査時遺構番号1075号。48号遺構の東に存在し、59号遺構に削平されて存在する不整円形を呈する竪穴住居跡である。残存する東西壁より長径3.52mを測り、主軸方位はN-28°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁4.0cm、西壁6.4cm、南壁18.2cmを測り、遺存状況は不良である。炉・周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、西壁よりに焼土の堆積が認められた。ピットは5箇所に検出され、深さはP1が31.6cm、P2が17.5cm、P3が42.6cm、P4が34.0cm、P5が39.0cmを測る。

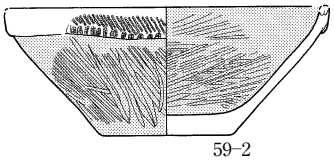
遺物

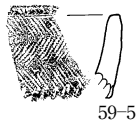
本遺構からは162点3,810gの土器片と5点340gの礫が出土した。土器片の内訳は、128点3,390gの弥生土器、34点420gの早期条痕文系土器であり、弥生土器が圧倒的に多い。これらの出土遺物の内7点を図示した。1・3は、焼土付近の床密着で、2は6cm程浮いた状態で検出された。4はP4の南側で床面より3cm程浮いた状態で出土している。これ以外の遺物は全て覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示したものは無い。

59号遺構

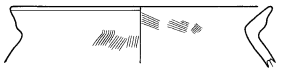
昭和59年度調査時遺構番号1074号。58号遺構を削平し、63号遺構（辺田8号墳）と64号溝に削平されて存在する楕円形を呈する竪穴住居跡である。短径4.26mを測り、主軸方位はN-41°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁13.5cm、西壁18.0cm、北壁4.2cmを測り、遺存状況は不良である。炉は北側と南側の2箇所に検出された。北側の炉は長軸長0.8mを測り、長軸方位はN-35°-Wを示し、床面より7.5cm程下がった位置で火床を検出する。南側の炉は長軸長0.84m以上を測り、長軸方位はN-32°-Wを示し、床面より6.5cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、ピットは10箇所に検出された。深さはP6が42.4cm、P7が46.6cm、P8が66.3cm、P9が55.8cmを測り、主柱穴と捉えられる。この他P10が14.5cm、P11が5.5cm、P12が23.9cm、P13が24.8cm、P14が26.0cm、P15が12.5cmを測る。

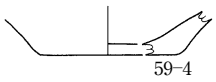

59–1


59–2

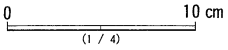

59–5

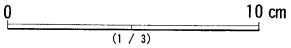
59–6

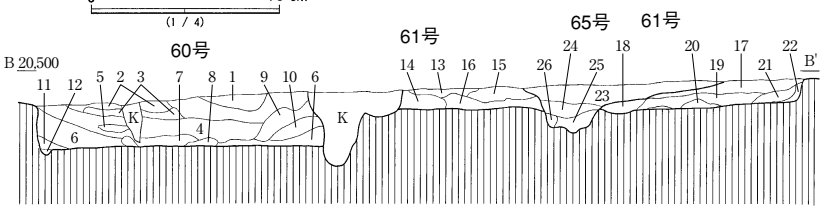

59–3

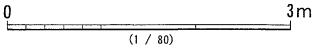

59–4

59–7









60号遺構

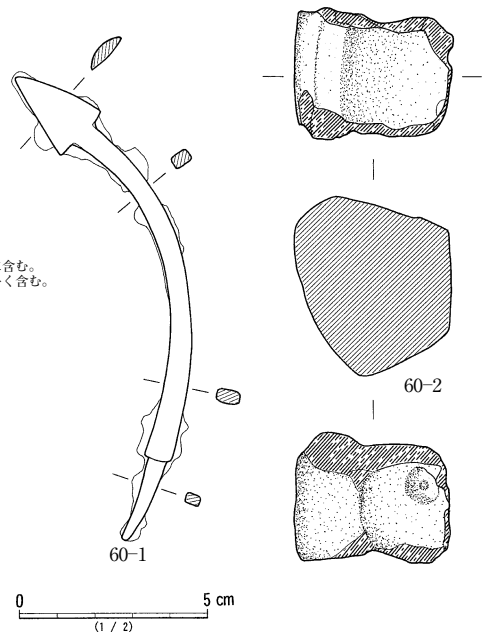
1 黒色土　ローム粒含む。
2 黒褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。
3 暗褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。
4 黒色土　ローム粒、ロームブロック含む。
5 黒褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。
6 暗褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。
7 暗褐色土　粘土、ロームブロック含む。
8 暗褐色土　粘土含む。
9 黒褐色土　ローム粒含む。
10 暗褐色土　暗褐色土とローム粒半々。
11 黒褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。
12 褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。
以上60号遺構

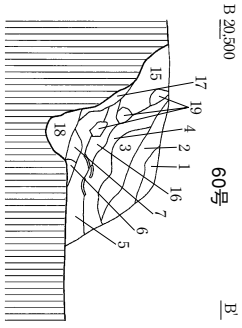
65・61号遺構

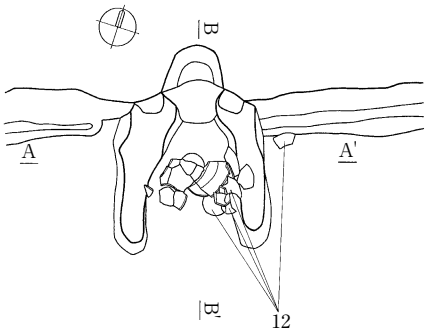
13 黒褐色土　ローム粒含む。
14 黒褐色土　暗褐色土含む。
15 黒褐色土　細かいローム粒含む。
16 黒褐色土　ローム粒、焼土粒含む。
17 黒褐色土　ローム粒含む。
18 黒褐色土　ロームブロック、焼土粒含む。
19 黒褐色土　ローム粒含む。
20 黒褐色土　ローム粒含む。
21 暗褐色土　ソフトローム含む。
22 黒褐色土　ソフトローム、ローム粒、焼土粒含む。
以上61号遺構
23 暗褐色土　ローム粒含む。
24 黒褐色土　ローム粒含む。
25 黒褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。
26 暗褐色土　ソフトローム含む。
以上65号遺構

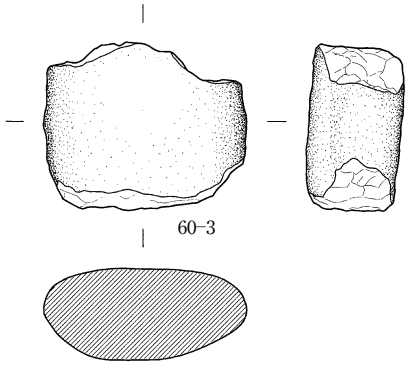
213号遺構

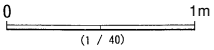
1 暗褐色土　ローム粒含む。
2 暗褐色土　ローム粒やや多く含む。
3 黒褐色土　硬く締まる。
4 暗褐色土　ローム粒含む。
5 暗褐色土　ローム粒やや多く含む。
6 暗褐色土　ロームブロック含む。
7 黒褐色土　ロームブロック多量に含む。
8 暗褐色土　ロームブロックやや多く含む。
9 黒褐色土　ローム粒混入。
10 暗褐色土　ロームブロック含む。

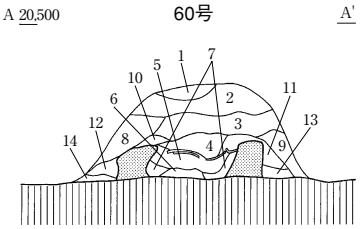


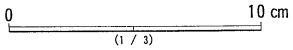








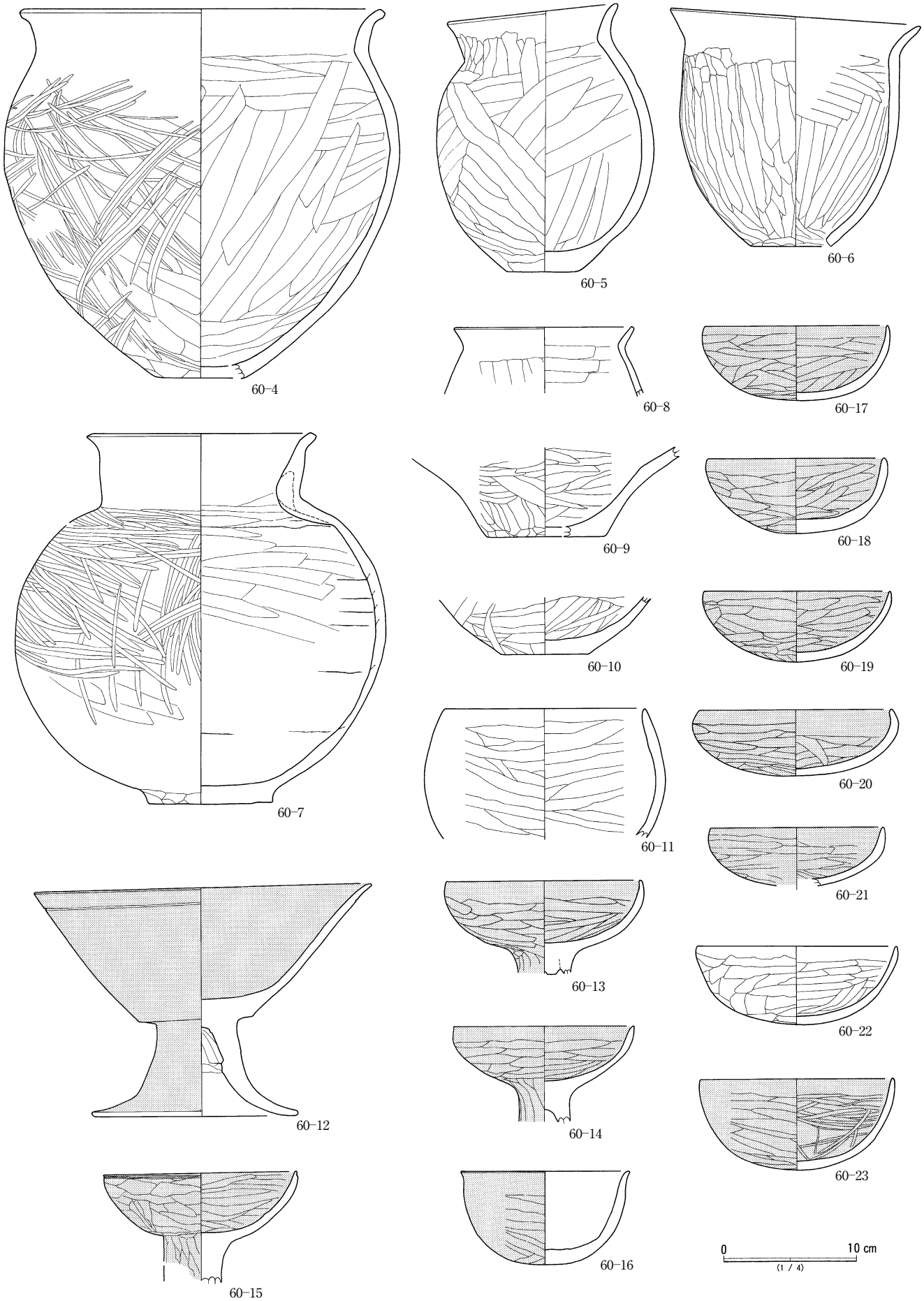




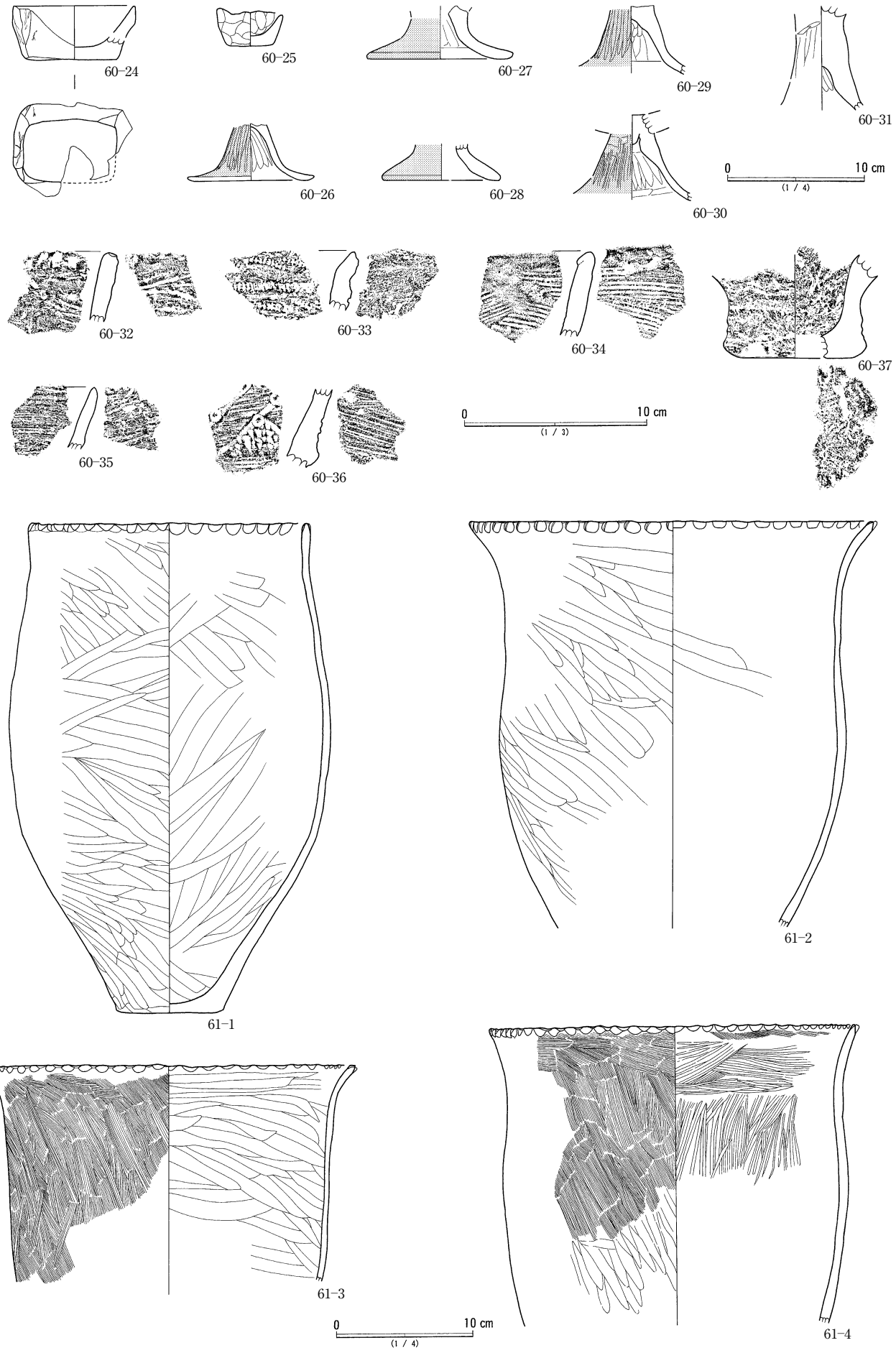
60号カマド

1 黒褐色土　ローム粒含む。
2 黒色土　細かいローム粒含む。
3 黒褐色土　ローム粒と粘土少量含む。
4 暗褐色土　粘土少量とロームブロック含む。
5 灰褐色土　焼土粒、焼けたロームブロック含む。
6 灰褐色土　粘土多く含む。
7 暗灰褐色土　粘土少量と灰と焼土粒、焼土ブロック含む。
8 黒褐色土　ローム粒と粘土含む。
9 黒褐色土　粘土とロームブロック、焼土ブロック含む。
10 黒褐色土　粘土含む。
11 暗灰褐色　粘土と少量の黒褐色土含む。
12 黒褐色土　粘土含む。
13 暗灰褐色　ロームと粘土含む。
14 黒褐色土　ローム粒と粘土粒含む。
15 暗灰褐色　粘土粒と少量の黒褐色土含む。
16 暗灰褐色　ローム粒と粘土粒と黒褐色土含む。
17 灰褐色土　粘土主体。ローム少量含む。
18 暗褐色土　ロームブロック含む。
19 灰褐色土　粘土ブロック。

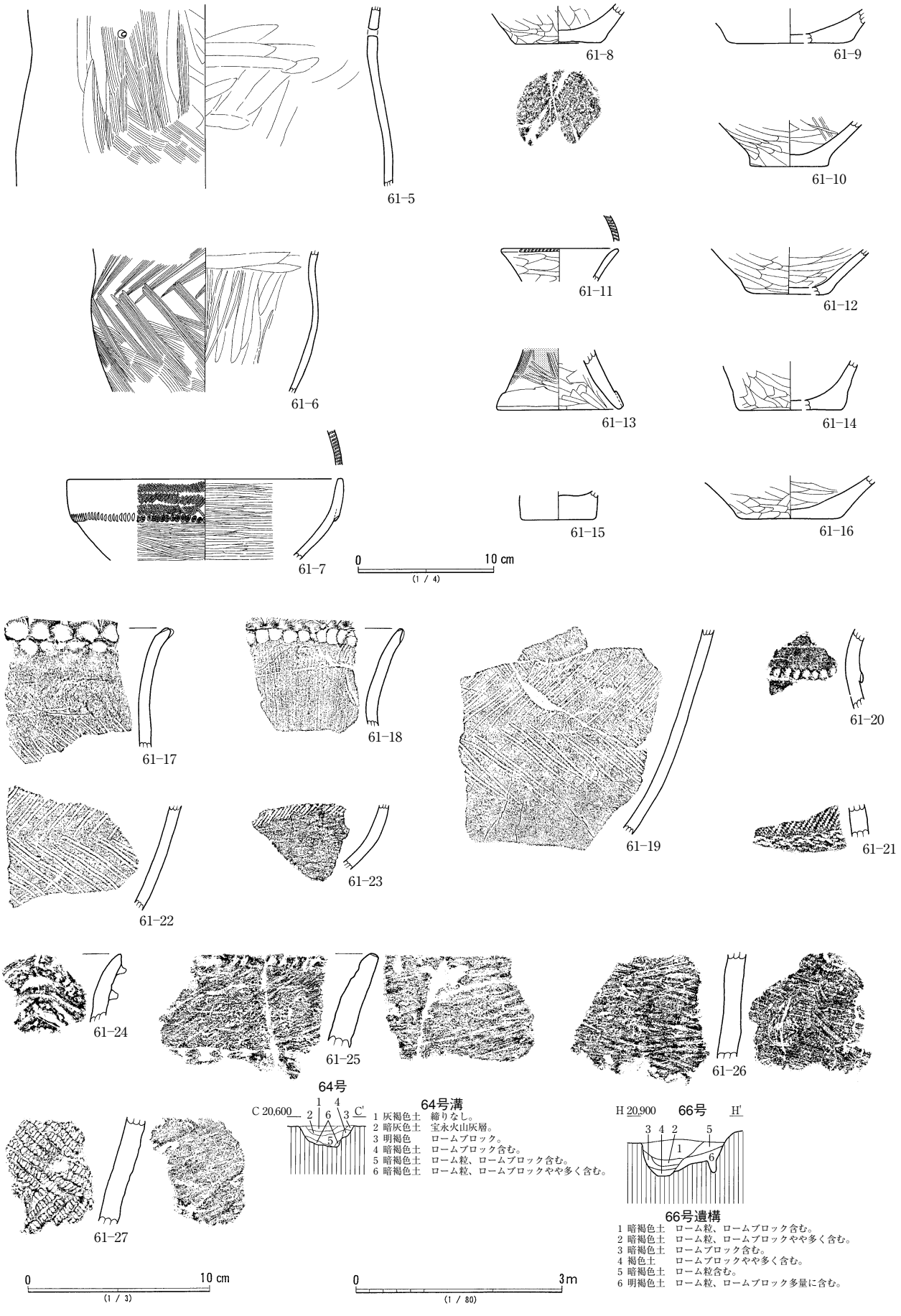
第93図　60・61・65・213号遺構実測図・59・60号遺構出土遺物実測図



第94図　60号遺構出土遺物実測図



第95図　60・61号遺構出土遺物実測図



第96図　64・66号遺構実測図・61号遺構出土遺物実測図

遺物

本遺構からは213点1,630ｇの土器片と11点580ｇの礫が出土した。土器片の内訳は、193点1,390ｇの弥生土器、20点240ｇの早期条痕文系土器であり、弥生土器が圧倒的に多い。これらの出土遺物の内７点を図示した。２は、東壁際の床面密着の状態で検出された鉢である。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

60号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1076号。61号遺構を削平して存在する方形の竪穴住居跡である。長径3.5m、短径3.4mを測り、主軸方位はN-22°-Wを示す。カマドは北壁中央に存在し、残存する壁高は、それぞれ東壁44.5cm、西壁47.0cm、南壁23.5cm、北壁56.5cmを測り、東壁の一部を撹乱によって削平されるが、遺存状況は良好である。周溝は全周するものと捉えられ、深さは4.5～11.8cmを測り、東南側の方が深い。床面はほぼ平坦であり、東南コーナー部に貯蔵穴と想定されるピットは検出され、深さは41.9cmを測る。

遺物

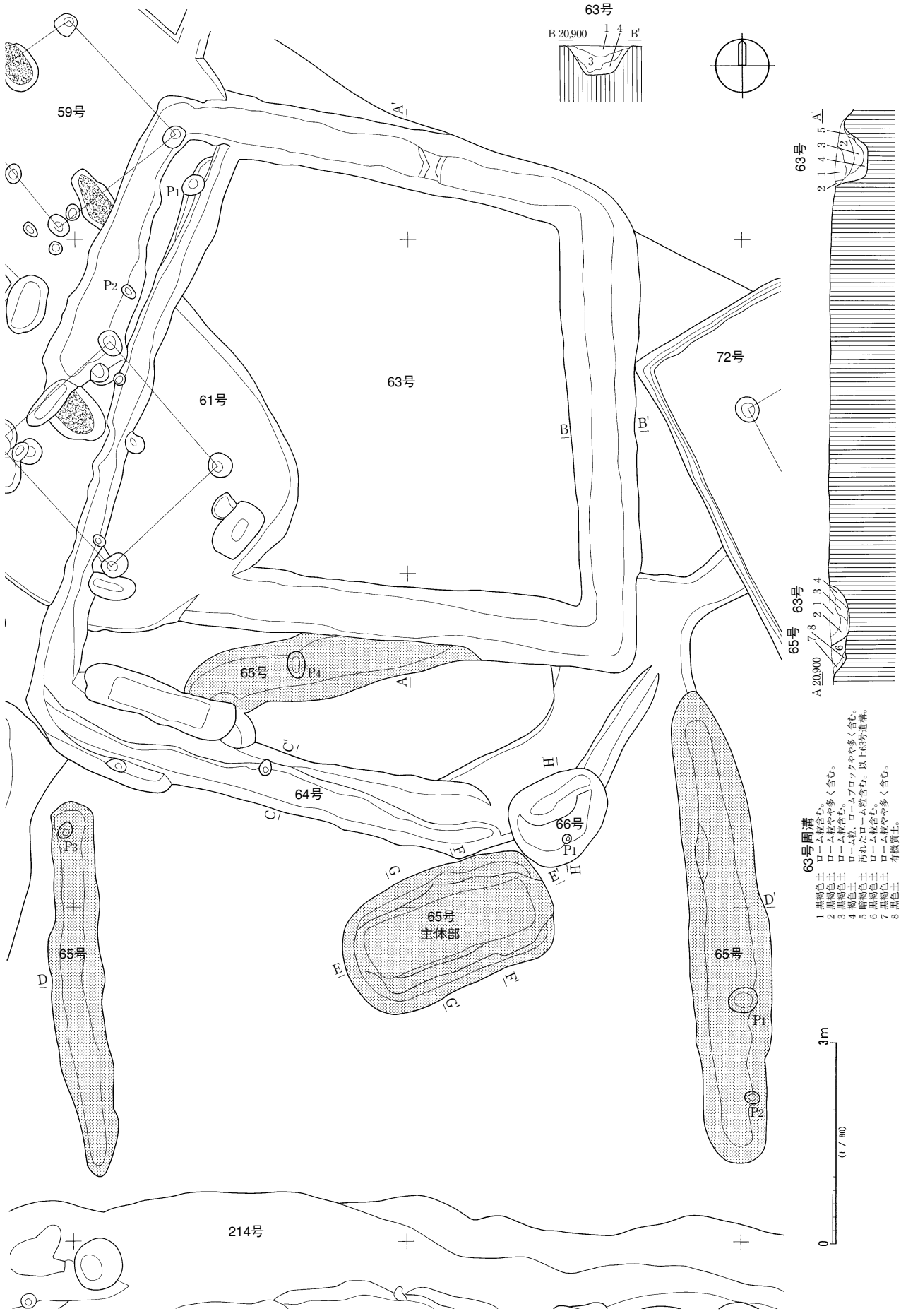
本遺構からは776点17,497ｇの土器片と５点385ｇ現代陶器、５点310ｇの土製品、１点15.3ｇの鉄器、58点2,925ｇの礫・石器が出土した。土器片等の内訳は611点14,781ｇの土師器、57点1,108ｇの弥生土器、２点117ｇの手捏土器、５点310ｇの支脚、１点15.3ｇの鉄鏃、101点1,106ｇの早期条痕文系土器であり、土師器が圧倒的に多い。これらの出土遺物の内37点を図示した。14の高坏が床面から37cm離れて出土した以外は、全てカマド内やその前面の床面より３～10cm離れて出土している。６は貯蔵穴内の底面から出土した甑である。24の手捏土器は底部が長方形を呈したもので、床面から５cmほど離れて出土している。平面図中にドットの存在しない遺物は、全て覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。この内60-１は台形関を呈する三角形式の長頸鏃であり、５世紀中葉にその出現を求めることができ、土師器の時期と矛盾しない。

61号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1073号。60号遺構、63号遺構（辺田８号墳）と64号溝に削平されて存在する楕円形を呈する竪穴住居跡である。長径推定5.5m短径4.8mを測り、主軸方位はN-43°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁24.5cm、西壁23.3cm、南壁5.1cm、北壁17.8cmを測り、遺存状況は不良である。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長0.76mを測り、長軸方位はN-42°-Wを示し、床面より4.6cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、ピットは17箇所に検出された。深さはP16が59.1cm、P17が38.0cm、P18が97.7cm、P19が100.0cmを測り、主柱穴と捉えられる。この他P20が22.1cm、貯蔵穴と想定されるP21が40.5cm、P22が22.0cm、P23が14.9cm、P24が50.2cm、P25が28.6cm、P26が9.5cm、P27が25.0cm、P28が35.2cm、P29が17.2cm、P30が16.1cm、P31が20.1cm、P32の深さが29.0cmを測る。

遺物

本遺構からは419点6,760ｇの土器片と20点805ｇの礫・石器が出土した。土器片の内訳は、35点340ｇの土師器、334点5,665ｇの弥生土器、49点715ｇの早期条痕文系土器、１点40ｇの前期繊維土器で



第97図　63～66号遺構実測図

あり、弥生土器が圧倒的に多い。これらの出土遺物の内25点を図示した。１・２は、貯蔵穴と想定されるP20の底面から23.5㎝離れて出土した甕である。３・４・５・６・14は何れも炉内密着で検出された鉢である。これらは以外の遺物は全て覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

62号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1081号。60号遺構の南側に存在し、213号溝に覆土上層を削平されて存在する側壁抉り込みの形態を呈する土壙墓である。長径1.55ｍ短径1.35ｍを測り、主軸方位はN−45°−Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁52.0㎝、西壁90.0㎝、南壁58.0㎝、北壁82.0㎝を測る。遺体を安置したと考えられる北側の側壁抉り込み部の下端は、長径1.1ｍ短径0.64ｍを測り、底面は平坦であり、北壁を40㎝ほど抉り込む。

遺物

本遺構からは何の遺物も検出されなかった。

63号遺構（辺田８号墳）

『市原市埋蔵文化財分布地図―北部編―』に記載される「辺田８号墳」に該当する古墳であるが、昭和59年度の調査時には根田12号墳として調査されている。報告に際し「辺田８号墳」を踏襲するが、便宜上63号遺構として報告する。

墳丘と周溝

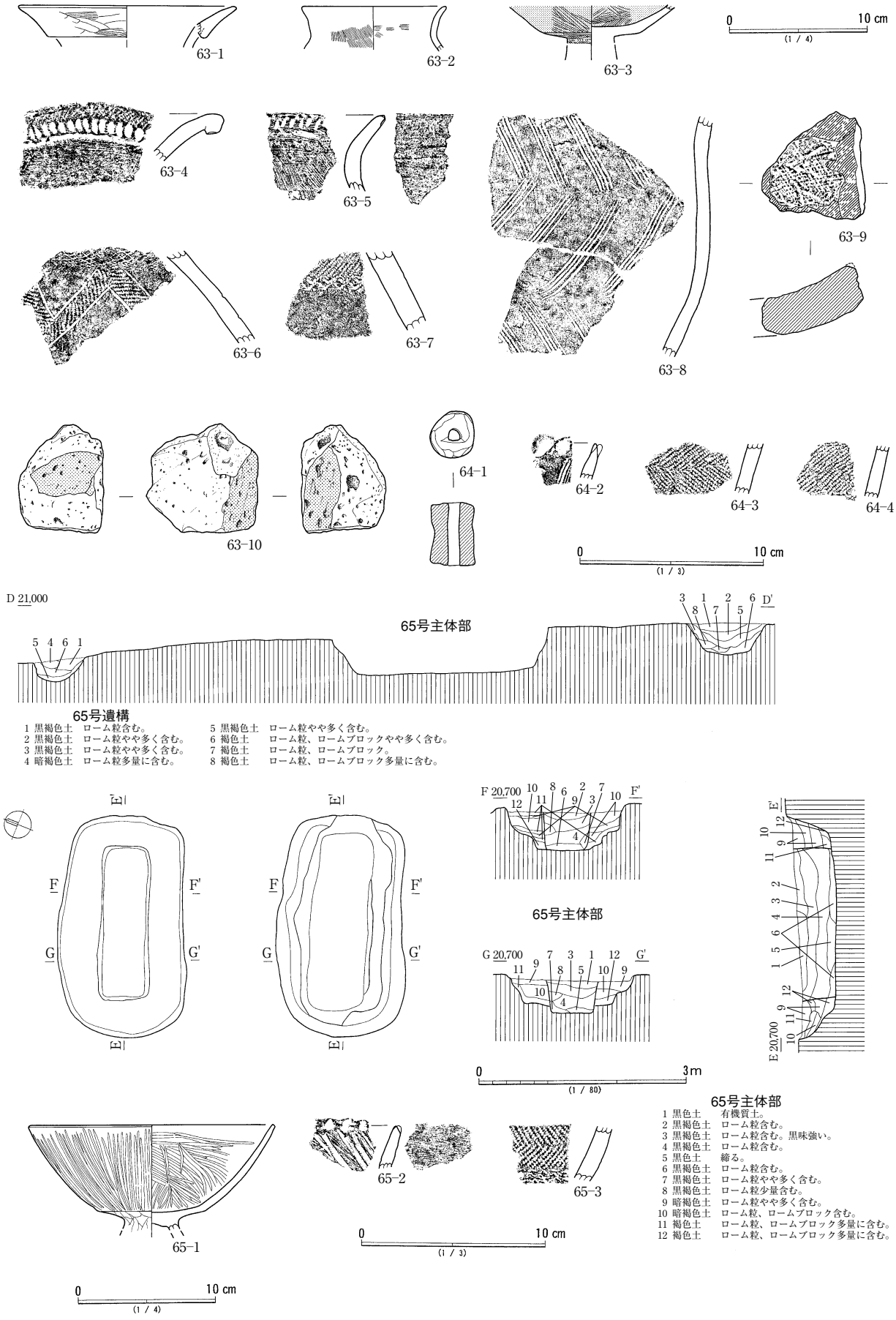
墳丘を流出した方台部東西内径約7.36ｍ、南北内径約6.36ｍを測る台形状を呈する終末期の方墳である。弥生住居の59・61号及び方形周溝墓の65号北溝を削平し、西側を64号溝に削平されて存在する。61号との重複地点が不明瞭となっており、平面図上では周溝は全周せず、北側周溝の中央部がブリッジ状に堀り残されている。残存する東側周溝より主軸方位はN−10°−Eを示し、各周溝の深さは、東42.0㎝、西38.0㎝、南30.0㎝、北42.0㎝を測る。方台部内から埋葬施設は検出されなかった。なお、覆土に宝永火山灰を含む比較的新しい時期の溝として捉えられる64号溝が、本墳を迂回する形で折れ曲がることから、本来は墳丘が存在した可能性が高い。

遺物

本墳からは総数366点3,745.3ｇの土器片と１点70ｇの土製品、29点1,821.9ｇの礫・石器が検出された。土器片の内訳は283点2,240ｇの土師器、１点5.3ｇの須恵器、67点1,300ｇの弥生土器、15点200ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内10点を図示した。本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられており、出土地点を明示するものはない。なお極小細片のため図示できなかったが、須恵器長頸壺頸部片は、本墳に伴う可能性が高い。

64号遺構

昭和59年度調査時遺構番号2019号。調査区北側より63号遺構を削平し、全長27ｍ、幅40～90㎝、深さは40㎝前後を測りＬ字型に折れて72号遺構に至る溝である。覆土に宝永火山灰を含み近世陶器片を出土することから、江戸時代の遺構であろうと推定される。



第98図　65号遺構実測図・63～65号遺構出土遺物実測図

遺物

本遺構からは91点613ｇの土器片と１点25ｇの土製品、１点44ｇの近世陶器片と５点108ｇの礫が出土した。土器片のの内訳は、60点250ｇの土師器、25点274ｇの弥生土器、５点45ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内４点を図示したが、本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

65号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1072号。63号遺構に北周溝を、214号溝に南周溝を削平されて存在する四隅が切れる方台部内径約8.8ｍの方形周溝墓である。残存する各溝の規模は、東側溝が上端長7.1ｍ、下端長6.8ｍ、上端幅1.18ｍ、深さは45.0㎝を、西側溝は上端長5.64ｍ、下端長5.32ｍ、上端幅80㎝、深さは34.0㎝を、北側溝は上端長4.5ｍ、下端長3.1ｍ以上、上端幅1.04ｍ、深さは20.0㎝を測る。残存する東西周溝より、主軸方位はN−６°−Wを示している。ピットは周溝内に４箇所検出された。深さはそれぞれＰ１が53.1㎝、Ｐ２が30.6㎝、Ｐ３が24.8㎝、Ｐ４が37.9㎝を測る。方台部内中央やや東よりに木棺直葬の埋葬施設が検出されている。

埋葬施設

墓壙

長径3.24ｍ、短径1.84ｍ、主軸方位はN−70°−Eを示し、深さは依存度良好な東側で72㎝を測る。

木棺痕

墓壙を10㎝程掘り下げたところで、中央部から極めて有機質製の高い黒色土が検出された。明らかに木棺痕と想定され、これを完掘したところ第97・98図に示す掘り方となった。その規模は長径2.26ｍ短径0.7ｍ、深さは検出面より56㎝を測る。

遺物

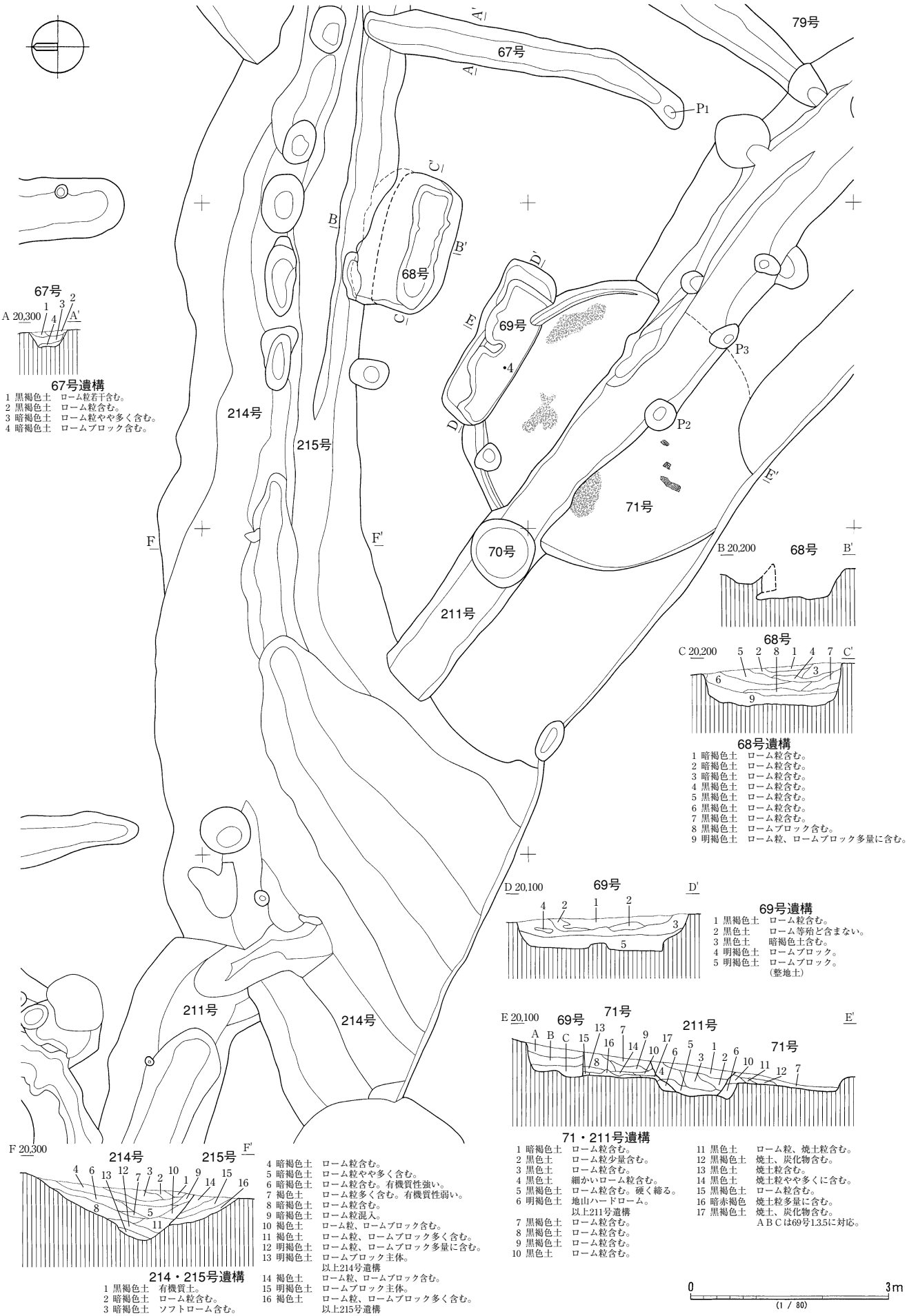
本遺構からは171点1,213ｇの土器片と23点1,577ｇの礫が出土した。土器片の内訳は、１点162ｇの土師器、149点811ｇの弥生土器、21点240ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内３点を図示したが、本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

66号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1077号。65号溝に削平される位置に存在するが、土層断面では削平された痕跡が所在しないことから比較的新しい段階の土坑である。長径1.6ｍ短径1.35ｍ種軸方位はN−51°−Eを示し、深さは64.3㎝を測る。

遺物

本遺構からは９点45ｇの土器片と１点11ｇの現代瓦片が出土した。その内訳は、１点５ｇの土師器、８点40ｇの弥生土器であるが、磨耗のため図示に至る遺物は無い。本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられており、出土地点を明示するものは無い。



第99図　67～71・211・214・215号遺構実測図

67号遺構

周溝部分は昭和59年度の調査時で当初1060号。その後根田14号墳と命名され、更に調査時1067号、即ち69号遺構を主体部とする根田15号墳と命名されている。ただし、『市原市埋蔵文化財分布地図―北部編―』では古墳の判断を下していない。唯一残存する東側周溝の規模は、上端長5.12m下端長4.9m幅0.68m深さは最大で23cmを測るが、エレベーションの数値を見れば平均18cm程度で極めて浅い。周溝の掘り方規模や傾きから考えれば、極めて小規模な方墳と捉えられ、位置的にやや離れ、周溝の傾きにそぐわないが69号木棺墓を主体部とする調査者の見解は、南はともかく、北・西周溝が存在しなかった理由を215号溝による削平と考えれば理解できないこともないが、この場合本墳の規模はかなり大型となる。また、西側の周溝は当初より極めて浅く掘り込まれ、確認段階で消滅してしまったものとして捉え、周溝と直交する位置に存在する側壁抉り込み土坑の68号土壙墓を主体部とする終末期方墳と捉える見方も可能であるが、この場合68号の図化遺物を二次的混入物として捉え、人によっては方形周溝状遺構と呼ぶ段階まで下げて考える必要がある。ここでは68号土壙墓・69号木棺墓のどちらもが内部主体となる可能性がある方墳の周溝として捉えておきたい。

遺物

唯一残存した東側周溝部からは総数56点385ｇの土器片と10点350ｇの礫が検出された。土器片の内訳は44点290ｇの土師器、11点70ｇの弥生土器、１点25ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内３点を図示した。何れも古墳時代後期以降の土師器である。本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられており、出土地点を明示したものは無い。

68号遺構

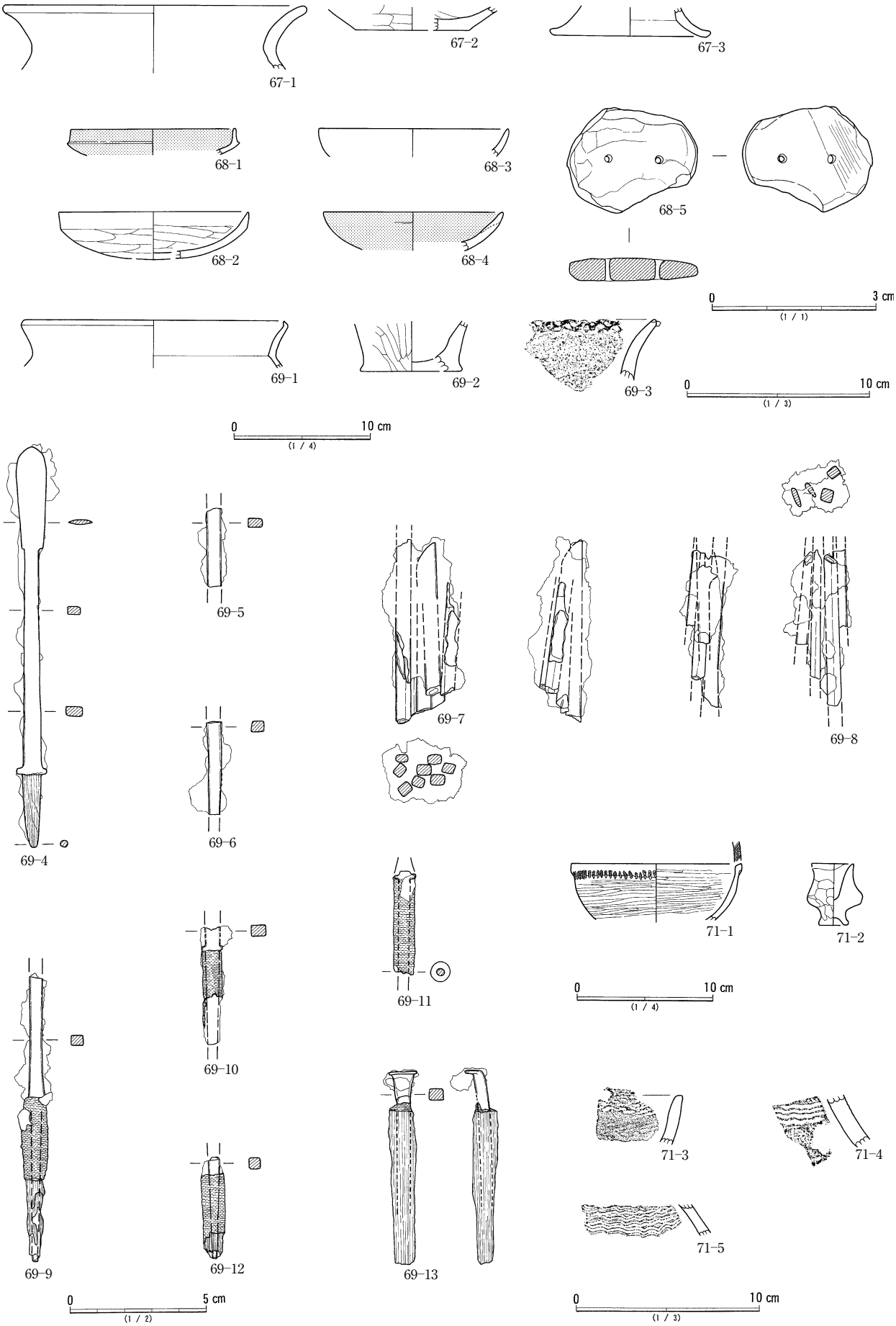
昭和59年度調査時遺構番号1064号。67号遺構の西側に存在する隅丸長方形長を呈する側壁抉り込み土壙である。長径2.14m短径1.55mを測り、主軸方位はN-73°-W を示す。残存する壁高は、それぞれ東壁62.0cm、西壁44.0cm、南壁40.0cm、北壁32.0cmを測る。遺体を安置したと考えられる北側の側壁抉り込み部の下端は、長径1.9m短径0.7mを測り、底面は平坦であり、北壁を40cmほど抉り込む。墓壙長軸が67号周溝とほぼ直交することから、側壁抉り込み土坑を採用した終末期方墳と捉えることも可能である。

遺物

本遺構からは総数202点1,640ｇの土器片と16点530ｇの礫・石器が検出された。土器片等の内訳は175点1,410ｇの土師器、２点10ｇの須恵器、20点180ｇの弥生土器、３点25ｇの早期条痕文系土器、２点15ｇの前期繊維土器、１点10ｇの滑石製有孔円盤である。これらの出土遺物の内５点を図示した。土師器坏は何れも細片であり、本遺構に直接伴うかどうか不明であるが、６世紀末葉～７世紀前葉に比定できる土器群である。本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられており、出土地点を明示するものは無い。

69号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1067号。68号遺構の南側に位置し、71号遺構を削平して存在する隅丸長方形の木棺墓である。長径2.6m短径0.93mを測り、主軸方位はN-61°-W を示す。残存する壁高



第100図　67～69・71号遺構出土遺物実測図

は、それぞれ東壁56.0cm、西壁42.0cm、南壁2.0cm、北壁60.0cmを測り、北壁の遺存状態が良好である。調査図面では北壁から35cm下がった中央やや西南の位置より刀子を検出されるが、整理の結果、纏まった鉄鏃であることが判明した。また、鉄釘も検出することから本遺構は木棺墓であろうと推定される。調査者の所見では67号溝との組合せによる方墳の主体部とされる。

遺物

本遺構からは総数38点270ｇの土器片と２点70ｇの礫、20点100.8ｇの鉄器が検出された。土器片の内訳は10点75ｇの土師器、27点190ｇの弥生土器、１点５ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内13点を図示した。出土地点の判明しているのは、刀子として取り上げられた69−４の棘関を呈する長三角形式の長頸鏃だけである。全体の形状が理解できる製品はこれ一点しかないが、69−７は錆びて付着したままの状態で８本の鉄鏃が検出されており、全部で９本以上の長頸鏃が存在したものと想定される。この中には錆膨のため詳細不明ではあるが、方刃の長頸鏃と想定される製品も３点以上存在し、また、関形状が棘関と判明する製品が全体で３点ある。69−13は木質の付着した鉄釘であり、本遺構が木棺墓であろうと想定される根拠となる。また、鉄鏃の形態から、本遺構の築造時期を６世紀後半以降に求めることができる。

70号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1071号。71号遺構の西側に隣接し、211号溝に上部を削平されて存在する円形の土坑である。長径1.04ｍ短径1.0ｍを測り、主軸方位はN−22°−W を示す。残存する壁高は、それぞれ東壁53.0cm、西壁62.2cm、南壁76.5cm、北壁90.4cmを測り、北壁の遺存状態が良好である。底面は平坦であり、遺物は全く検出されなかった。

遺物

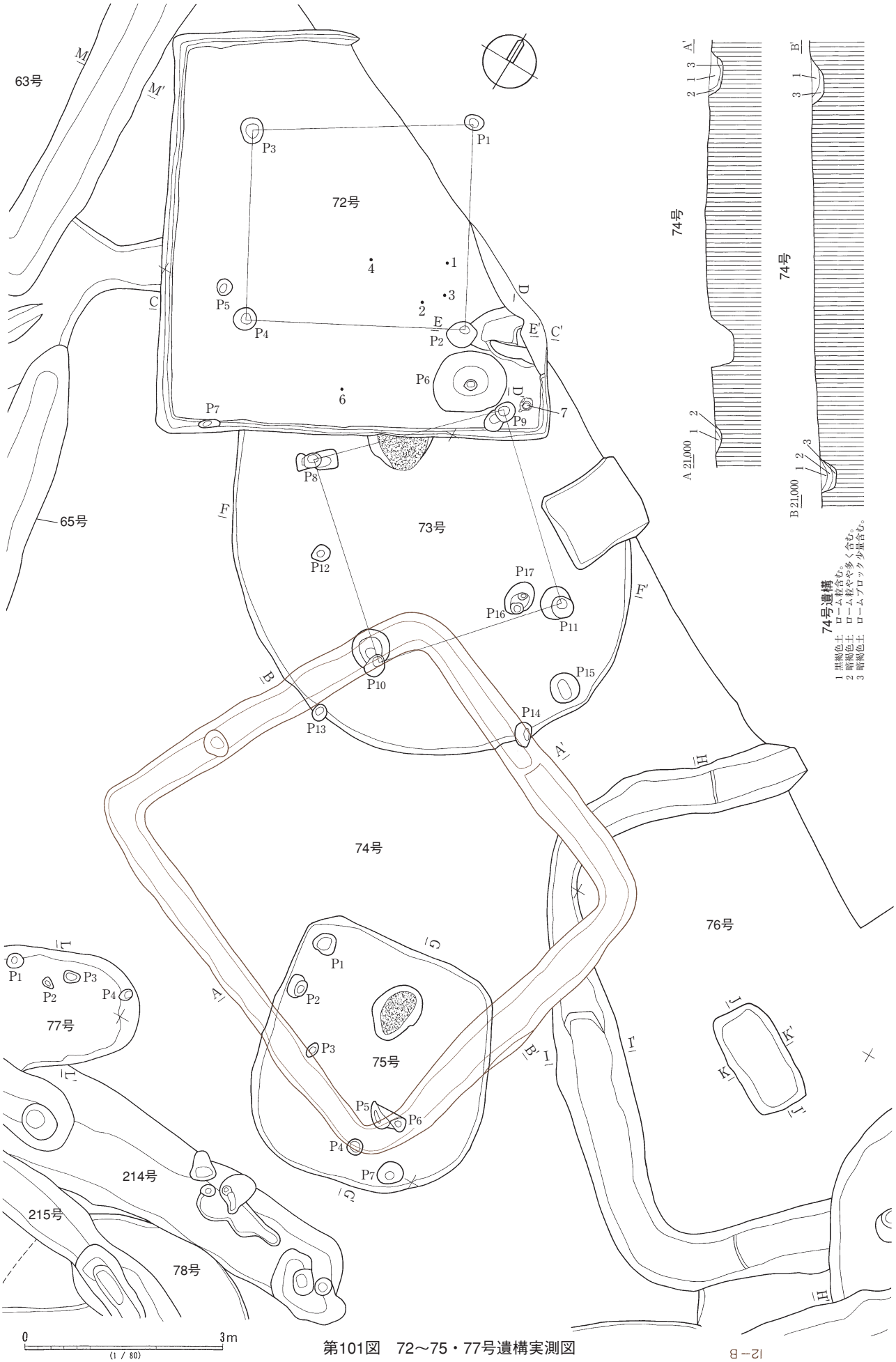
本遺構からは１点の遺物も検出されなかった。

71号遺構

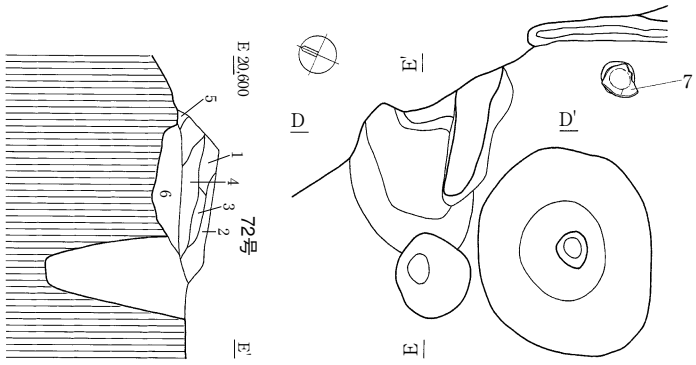
昭和59年度調査時遺構番号1069号。69号遺構と211号溝に削平されて存在するほぼ円形を呈する竪穴住居跡である。長径（4.36）ｍ短径4.36ｍを測り、主軸方位はN−29°−W を示す。残存する壁高は、それぞれ東壁32.8cm、西壁9.3cm、北壁29.9cmを測り、東壁の遺存状態が良好である。炉は211号溝に削平されてしまったものと捉えられ、周溝は北～東にかけて存在し、深さは３～6.3cmを測る。床面はほぼ平坦であり、焼土と炭化物の堆積が認められた。ピットは３箇所に検出され、深さはＰ１が17.6cm、Ｐ２が29.9cm、Ｐ３が41.5cmを測る。

遺物

本遺構からは総数55点460ｇの土器片と８点460ｇの礫が検出された。土器片の内訳は29点190ｇの土師器、21点180ｇの弥生土器、５点90ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内５点を図示した。本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

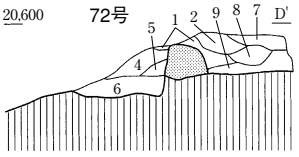


第101図　72～75・77号遺構実測図

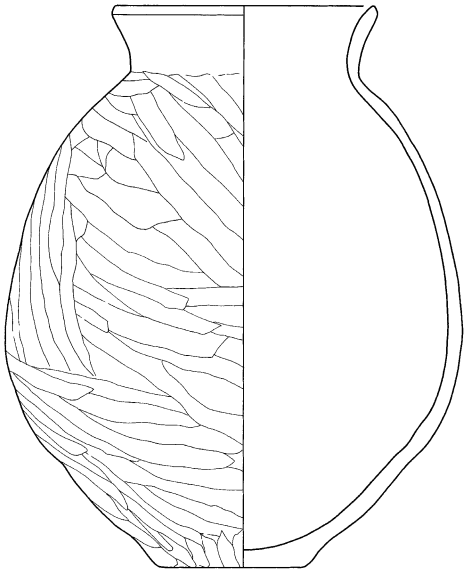


72号カマド

1 暗褐色土　粘土含む。
2 黒褐色土　粘土含む。
3 灰色土　粘土ブロック。
4 暗灰褐色　灰、焼土粒多く含む。
5 暗灰褐色　灰、焼土粒やや多く含む。
6 黒褐色土　ロームブロックと灰、焼土粒少量含む。
7 黒褐色土　粘土少量含む。
8 灰色土　粘土。
9 灰褐色土　粘土含む。

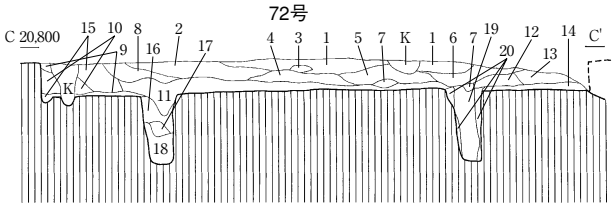


0　1m
(1 / 40)



72-1

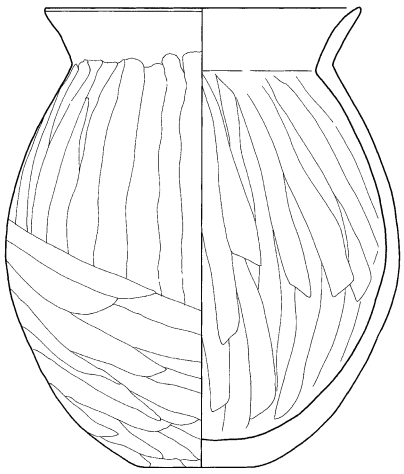
72号



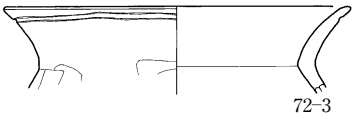
72号遺構

1 暗褐色土　ローム粒、ロームブロック、粘土含む。
2 暗褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。
3 灰褐色土　粘土。
4 黒褐色土　ローム粒含む。
5 暗褐色土　ローム粒含む。
6 暗褐色土　粘土、ローム粒焼土粒含む。
7 黒色土　焼土粒含む。
8 暗褐色土　ロームブロック含む。
9 暗褐色土　ロームブロックやや多く含む。
10 黒褐色土　ローム粒含む。
11 黒褐色土　ローム粒含む。
12 暗褐色土　粘土、焼土粒含む。
13 暗褐色土　粘土、焼土粒多く含む。
14 灰褐色土　粘土。
15 暗褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。
16 明褐色土　若干の粘土とロームブロック多量に含む。
17 黒褐色土　ロームブロック含む。
18 明褐色土　ローム粒、ロームブロック多量に含む。
19 黒色土　柱痕跡。
20 明褐色土　ロームブロック多量に含む。

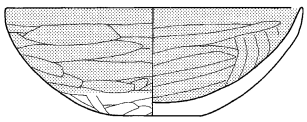
0　3m
(1 / 80)



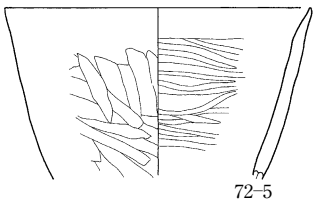
72-2



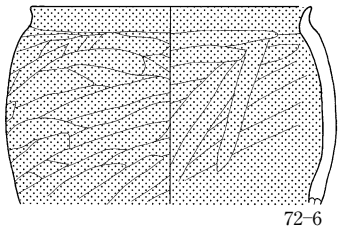
72-3



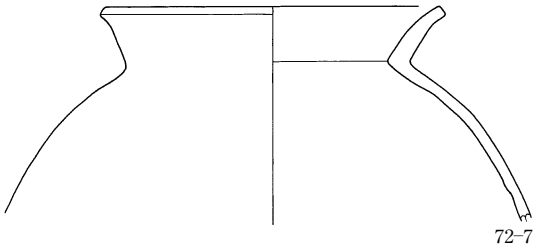
72-4



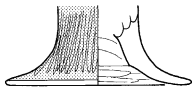
72-5



72-6



72-7



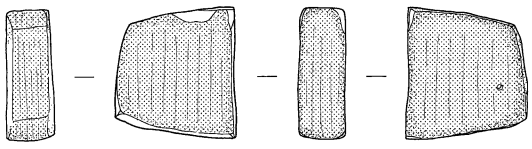
72-8

0　10 cm
(1 / 4)

72-9

72-10

72-11



72-12

0　10 cm
(1 / 3)

第102図　72号遺構実測図・出土遺物実測図

72号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1052号。73号遺構を削平して存在する方形の竪穴住居跡である。長径6.02m短径5.82mを測り、主軸方位はN-61°-Eを示す。カマドは東壁の南側に位置するが、炊口部に主柱穴が存在することから本当に機能したかどうか疑わしい。残存する壁高は、それぞれ東壁24.1cm、西壁29.0cm、南壁19.5cm、北壁29.4cmを測り、北壁が最も遺存状態がよい。東・北側の大半は既に削平されているが、周溝は全周するものと捉えられ、深さは2.7～11.1cmを測り、北側が深い。床面はほぼ平坦であり、ピットは削平された東側を含めて7箇所に検出された。この内P1～P4は主柱穴と捉えられ、深さはそれぞれP2が92.3cm、P3が76.4cm、P4が78.3cm、P5が63.0cmを測る。P6は貯蔵穴と考えられるが、P1同様レベル記載がない。P7は南側周溝内に存在する小ピットであり、深さは28.6cmを測る。

遺物

本遺構からは782点11,895ｇの土器片と70点2,825ｇの礫・石器が出土した。土器片等の内訳は705点11,110ｇの土師器、51点505ｇの弥生土器、26点280ｇの早期条痕文系土器、1点75ｇの砥石であり、土師器の割合が圧倒的に多い。これらの出土遺物の内12点を図示した。1は中央やや東寄りの床面から検出された甕である。2・3はP2付近から検出された甕である。2は床面密着、3は床面より3.5cm程浮いた状態で出土している。4は遺構中央部の床面から3.4cm浮いた状態で検出された坏である。6は南壁近くの中央部で、床面から6.3cm浮いて検出された甕である。7は貯蔵穴付近の床面密着で検出された甕である。これ以外の遺物は全て覆土一括で取り上げられており、出土地点を明示するものは無い。

73号遺構

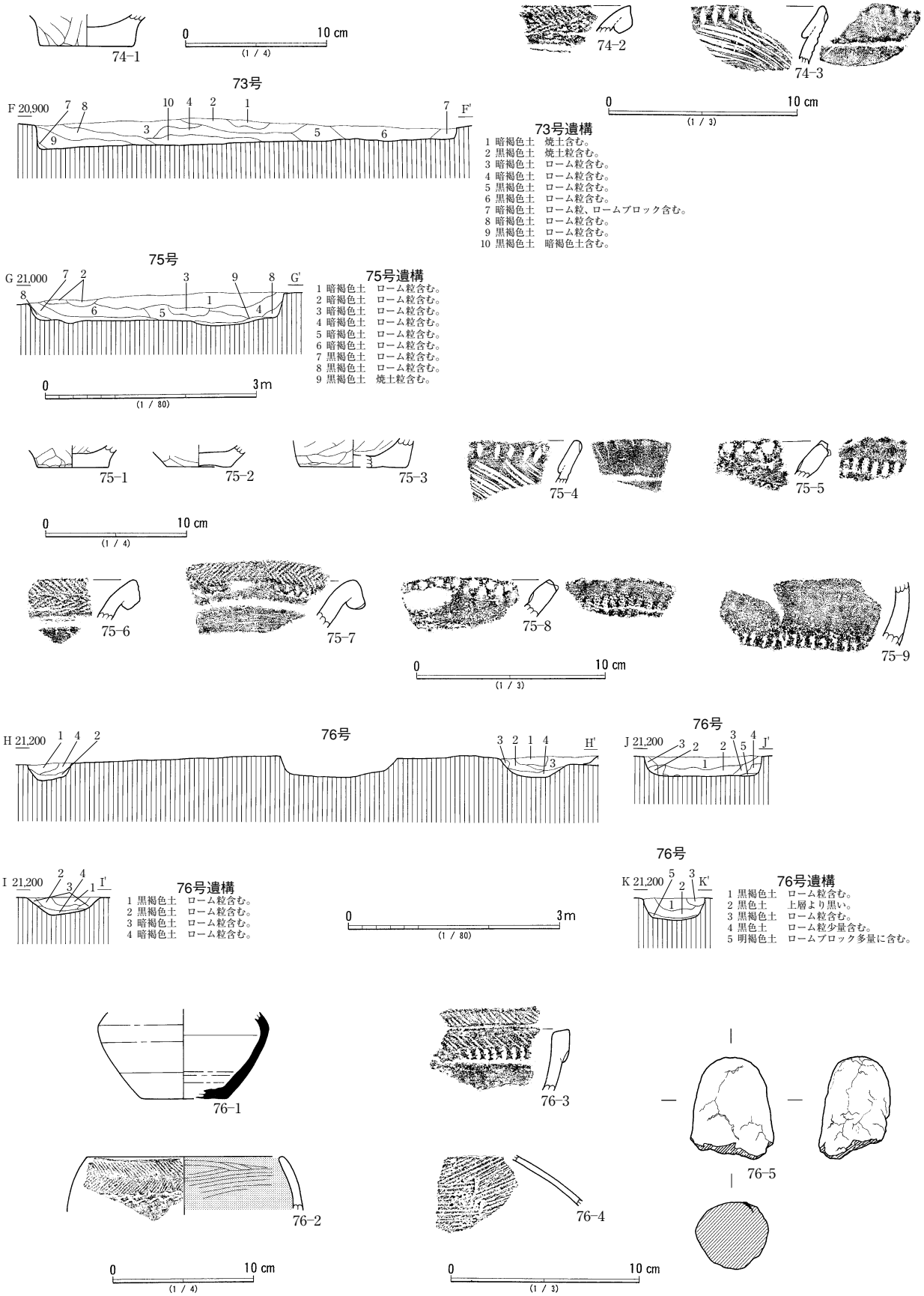
昭和59年度調査時遺構番号1051号。72号遺構に削平されて存在する楕円形と想定される竪穴住居跡である。短径（6.0）mを測り、主軸方位はN-45°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁16.7cm、西壁41.1cm、南壁41.7cmを測り、西・南壁の遺存状態が良好である。炉は72号遺構に削平されて存在し、残存長52.0cm以上を測り主軸方位はN-32°-Wを示す。床面より6.7cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦である。ピットは10箇所に検出され、深さはP8が62.2cm、P9が47.2cm、P10が86.5cm、P11が80.7cm、P12が30cm、P13が28.0cm、P14が47.3cm、P15が22.8cm、P16が34.5cm、P17が39.7cmを測る。この内P8～P11は主柱穴と想定され、深くしっかりと掘り込まれており、建替えの痕跡も認められる。

遺物

本遺構からは土器片は全く検出されなかった。7点470ｇの自然礫が検出されただけで図示に至るものは無い。

74号遺構（辺田7号墳）

『市原市埋蔵文化財分布地図―北部編―』に記載される「辺田7号墳」に該当する古墳であり、昭和59年度に根田16号墳として調査されている。報告に際し「辺田7号墳」を踏襲するが、便宜上74号遺構として報告する。



第103図　73・75・76号遺構実測図・74～76号遺構出土遺物実測図

墳丘と周溝

墳丘を流出した方台部東西内径約5.52m、南北内径約5.1mを測る台形状を呈する終末期の方墳である。弥生住居の73・75号遺構及び方形周溝墓か前期方墳の66号を削平して存在し、北側周溝の中央部がブリッジ状に掘り残されている。主軸方位はN-22°-Eを示し、各周溝の深さは、東10.0cm、西11.2cm、南5.0cm、北9.9cmを測り、極めて浅く掘り込まれている。方台部内から埋葬施設は検出されなかった。

遺物

本墳からは総数215点1,515ｇの土器片と39点1,190ｇの礫が検出された。土器片の内訳は73点365ｇの土師器、130点1,025ｇの弥生土器、４点40ｇの早期撚糸文系土器、８点85ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内３点を図示したが、何れも弥生土器で本墳に直接伴うものではない。なお、76号遺構覆土一括出土とされる須恵器は、同遺構が弥生方形周溝墓であるため、重複した本墳に伴う可能性が高い。

75号遺構

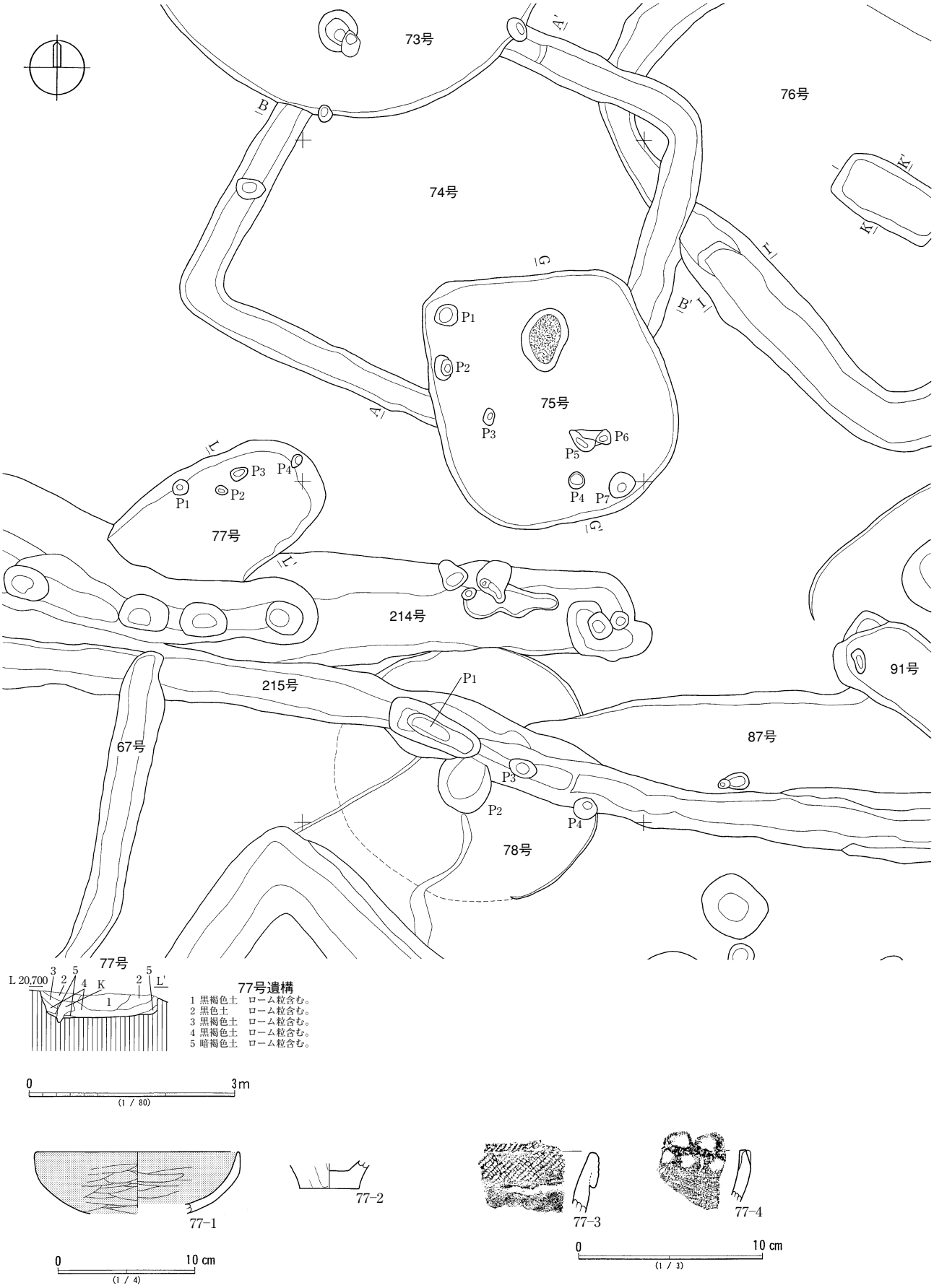
昭和59年度調査時遺構番号1050号。74号遺構に削平されて存在する不整形な竪穴住居跡である。長径2.72m短径2.56mを測り、主軸方位はN-15°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁24.8cm、西壁29.7cm、南壁19.6cm、北壁35.1cmを測り、遺存状態は良好である。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長0.88m測り、主軸方位はN-32°-Wを示し、床面より9.2cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦である。ピットは７箇所に検出され、深さはＰ１が11.4cm、Ｐ２が21.2cm、Ｐ３が67.4cm、Ｐ４が20.4cm、Ｐ５が70.0cm、Ｐ６が70.6cm、Ｐ７が19.0cmを測る。

遺物

本遺構からは総数222点2,025ｇの土器片と７点270ｇの礫が検出された。土器片の内訳は１点20ｇの土師器、209点1,790ｇの弥生土器、12点215ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内９点を図示したが、本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

76号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1055・1070号。周溝部は1055号、主体部と捉えられる土壙は1070号として調査され、その後根田17号墳と命名されている。ただし、『市原市埋蔵文化財分布地図―北部編―』では古墳の判断を下しておらず、整理の結果、方台部南北内径約6.3mを測る隅丸方形を呈する弥生方形周溝墓と判断される。北東コーナー部は既に削平されており、東周溝は未検出である。終末期方墳の74号遺構に削平されて存在し、かつ、重複部を捉えた弥生住居の82号遺構土層断面に、その存在を認めることができないことから、同遺構に削平されたことが明白である。このことから、古墳の範疇で捉えることが不可能な遺構であり、『市原市埋蔵文化財分布地図―北部編―』での判断は正しい。主軸方位はN-45°-Eを示し、各周溝の深さは、西19.2cm、南26.3cm、北22.5cmを測る。方台部内中央やや西寄りに、埋葬施設と想定される隅丸長方形を呈した土壙を検出した。長径1.68m短径0.84mを測り、主軸方位はN-61°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁25.9cm、西壁24.5cm、



第104図　75・77・78号遺構実測図・77号遺構出土遺物実測図

南壁20.0cm、北壁24.0cmを測り、底面はほぼ平坦である。木棺痕跡は検出されなかった。墓壙内からは6点100ｇの土師器、18点65ｇの弥生土器、２点15ｇの早期条痕文系土器と９点330ｇの礫が出土したが、細片のため図示に至るものが無い。

遺物

周溝からは総数150点1,240ｇの土器片と１点150ｇの土製品、41点2,165ｇの礫が検出された。土器・土製品の内訳は18点290ｇの土師器、117点845ｇの弥生土器、１点、所在不明のため重量測定不可能な須恵器、５点20ｇの早期撚糸文系土器、９点85ｇの早期条痕文系土器、１点150ｇの支脚、である。これらの出土遺物の内５点を図示した。１は田中新史氏提供の実測図写しによれば、注記番号より本遺構覆土一括で出土したとされる須恵器である。しかし本遺構は弥生方形周溝墓と判断されるため、その本来の出土位置は、74号遺構と重複した微妙な位置であったと想定することができる。この場合、その帰属は、74号遺構（辺田７号墳）に伴う可能性が極めて高い。４はハケ整形を施す土師器片である。本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたもので、出土地点を明示するものは無い。

77号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1061号。214号溝に削平されて存在する楕円形を呈した土坑である。残存長径2.9ｍ短径1.9ｍを測り、主軸方位はN-61°-Eを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁27.0cm、西壁34.5cm、北壁45.9cmを測り、南側を大幅に削平され、遺存状態は不良である。底面はほぼ平坦であり、ピットは４箇所に検出された。深さはＰ１が38.7cm、Ｐ２が34.2cm、Ｐ３が29.6cm、Ｐ４が7.1cmを測る。

遺物

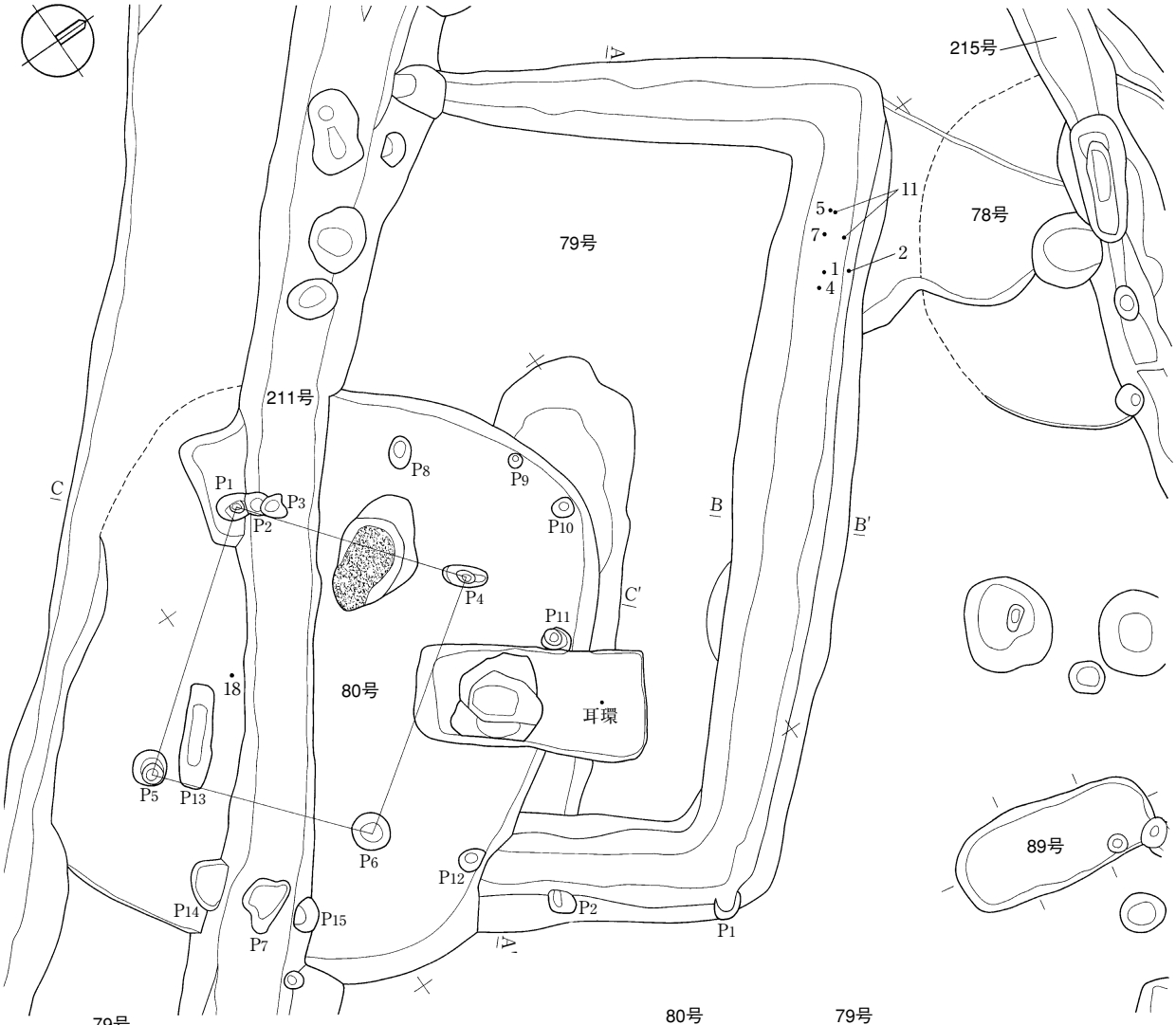
本遺構からは総数32点390ｇの土器片と15点1,110ｇの礫が検出された。土器片の内訳は25点280ｇの土師器、３点55ｇの弥生土器、２点30ｇの早期撚糸文系土器２点25ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内９点を図示したが、本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を示すものは無い。

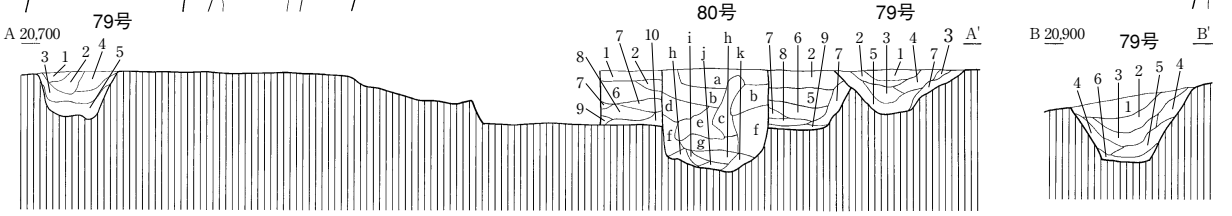
78号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1062号。西側を大幅に削平され、かつ中央部を215号溝に削平されて存在する推定円形の竪穴住居跡である。長径4.0ｍ短径（3.8）ｍを測り、主軸方位はN-61°-Eを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁5.8cm、南壁1.5cm、北壁12.4cmを測り、遺存状態は極めて不良である。炉は216号溝に削平されたものと捉えられ、周溝は存在せず床面はほぼ平坦である。ピットは216号溝に伴う可能性の方が高いが、計４箇所に検出された。深さはＰ１が28.9cm、Ｐ２が16.6cm、Ｐ３が11.0cm、Ｐ４が23.7cmを測る。

遺物

本遺構からは何の遺物も検出されなかった。



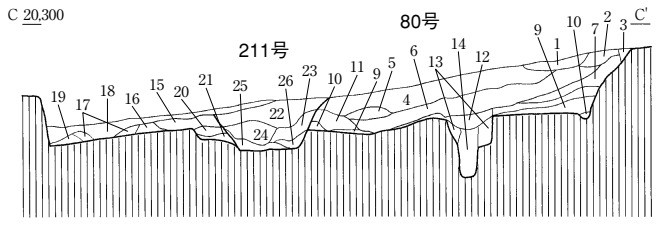


79号遺構

1 黒色土　ローム粒含む。
2 黒色土　ローム粒少量含む。
3 黒色土　ローム粒やや多く含む。
4 暗褐色土　ローム粒含む。
5 黒褐色土　ロームブロック含む。
6 暗褐色土　ロームブロックやや多く含む。
7 明褐色土　ロームブロック多量に含む。

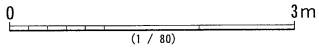
79号主体部

a 黒色土　ローム粒、ロームブロック含む。
b 黒褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。
c 黒色土　ロームブロック含む。
d 黒色土　ローム粒、ロームブロック含む。
e 黒色土　ロームブロック少量含む。
f 暗褐色土　ロームブロック多量に含む。
g 黒色土　ロームブロック多量に含む。
h 暗褐色土　ローム粒含む。硬く締る。
i 黒褐色土　ローム粒含む。
j 黒褐色土　ロームブロック含む。
k 黒褐色土　ロームブロックと黒褐色土が混じる。

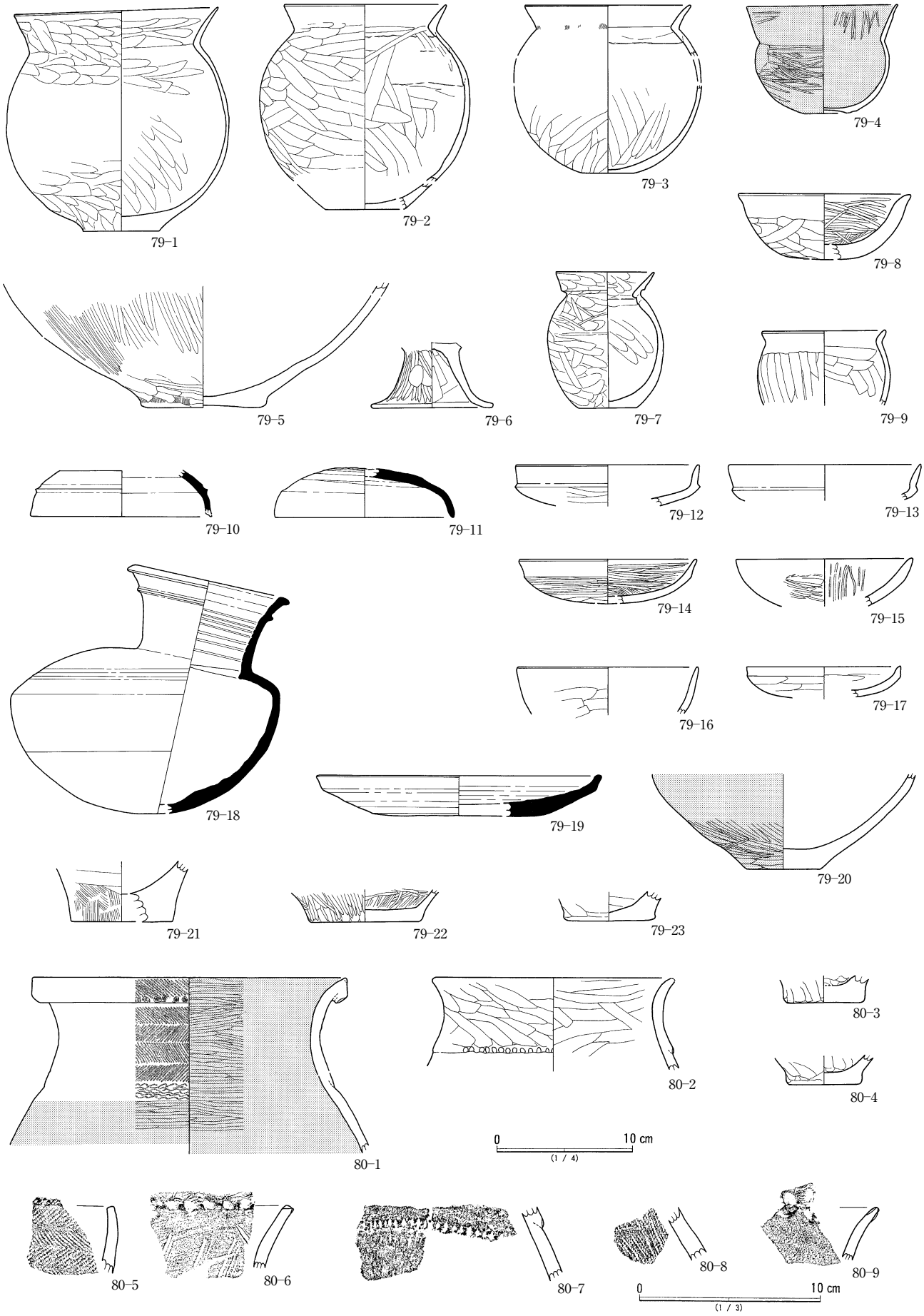


80・211号遺構

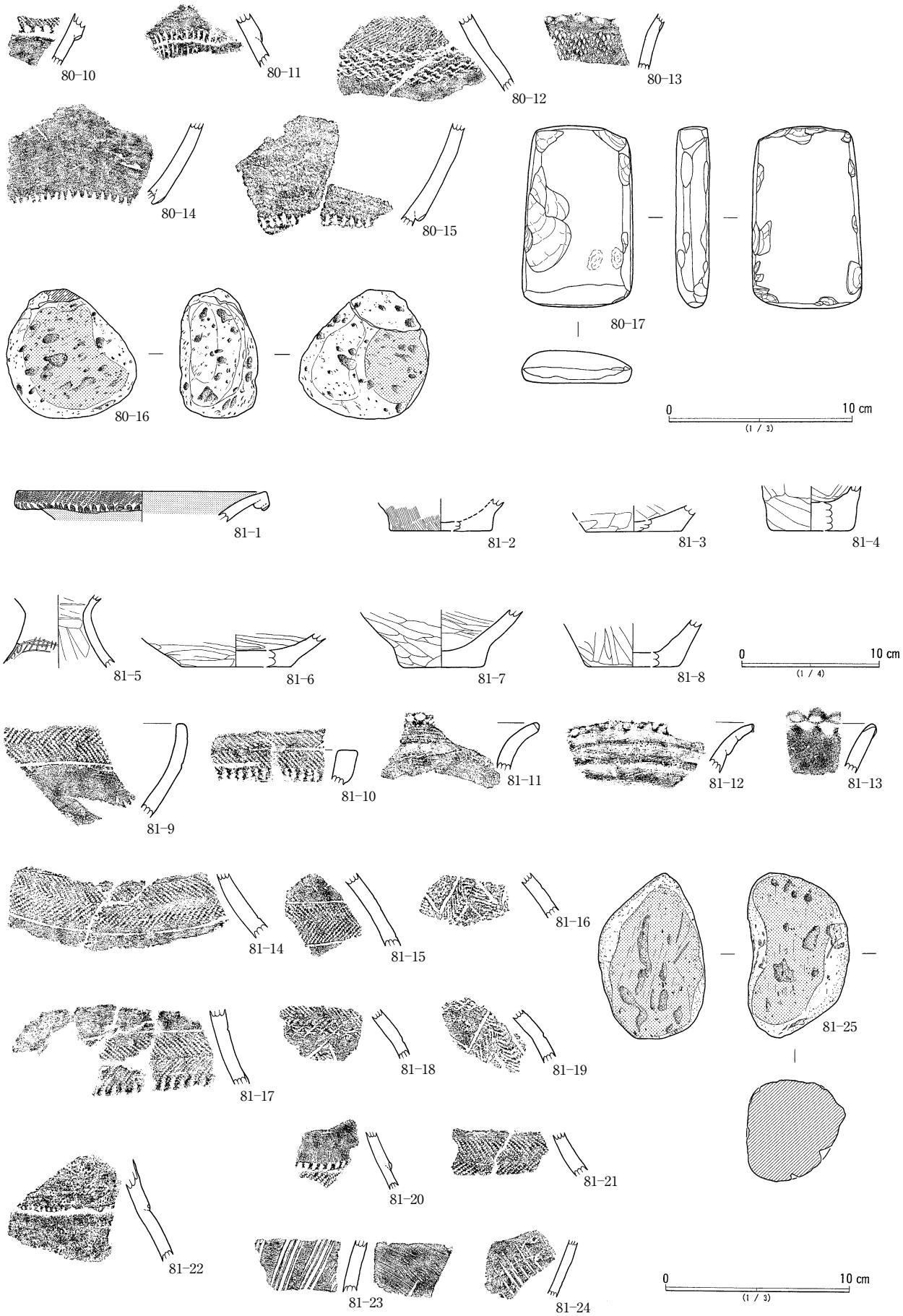
1 暗褐色土　ローム粒含む。
2 暗褐色土　ローム粒含む。
3 暗褐色土　ロームブロック含む。
4 黒褐色土　ローム粒含む。
5 黒褐色土　ローム粒、炭化物含む。
6 黒褐色土　ローム粒含む。
7 黒褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。
8 黒色土　ローム粒、ロームブロック含む。
9 黒色土　ローム粒含む。
10 暗褐色土　ローム粒含む。
11 黒褐色土　ローム粒含む。
12 黒色土　ローム粒含む。
13 黒褐色土　ロームブロック含む。
14 暗褐色土　ロームブロック含む。締りなし。
15 暗褐色土　ローム粒含む。
16 黒褐色土　ローム粒含む。
17 暗褐色土　ローム粒含む。
18 黒褐色土　ローム粒含む。
19 黒褐色土　ローム粒含む。
20 黒褐色土　ローム粒含む。
21 暗褐色土　ローム粒含む。
22 黒褐色土　ローム粒若干含む。
23 黒褐色土　ローム粒含む。
24 黒褐色土　ローム粒含む。
25 暗褐色土　ロームブロック少量含む。
26 褐色土　ロームブロック多量に含む。



第105図　79・80号遺構実測図



第106図　79・80号遺構出土遺物実測図



第107図　80・81号遺構出土遺物実測図

79号遺構（辺田６号墳）

『市原市埋蔵文化財分布地図―北部編―』に記載される「辺田６号墳」に該当する古墳であり、昭和59年度に周溝部分を根田16号墳、埋葬施設を1066号として調査している。報告に際し「辺田６号墳」を踏襲するが、便宜上79号遺構として報告する。

墳丘と周溝

墳丘を流出した方台部東西内径約8.2m測る終末期の方墳である。弥生住居の80号遺構を削平して存在し、南側周溝は流出してしまったものと考えられる。主軸方位はN-37°-Eを示し、残存する各周溝の深さは、東48.0cm、西52.0cm、北84.0cmを測り、北側の遺存状況が良好である。方台部内のかなり東側に偏った位置から埋葬施設が検出された。

埋葬施設

墓壙は、長径2.58m短径1.1m深さ最大85cmを測り、主軸方位はN-48°-Eを示す。木棺痕は検出されず、墓壙底に密着して金銅製耳環１点が検出された。

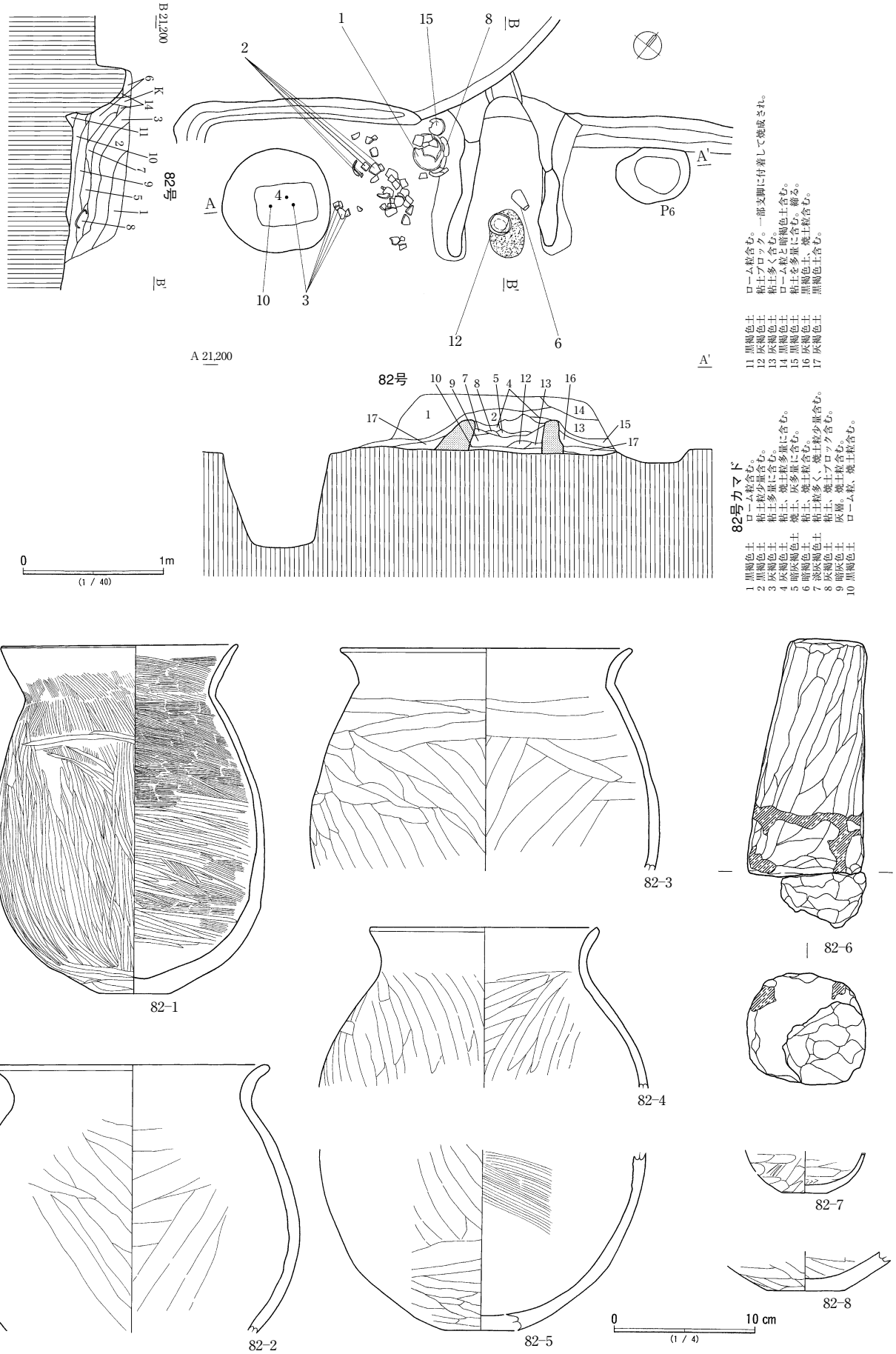
遺物

本墳からは総数1,096点11,202ｇの土器片と29点1,270ｇの礫が検出された。土器片の内訳は716点7,736ｇの土師器、４点310ｇの須恵器、363点3,126ｇの弥生土器、13点30ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内23点を図示した。１・２・４・５・７・11は、何れも北西コーナー部で、底面より19～50.2cm浮いてかなり高い位置から出土した。また、平面図中ドットで示した金銅製耳環は現在行方不明で、図化することができなかった。これ以外の遺物は全て覆土一括で取り上げられており、出土位置を明示することができない。この内１・２・４・５・７は古墳時代前期に属する遺物で本墳に直接伴うものではない。11・12・14は６世紀末～７世紀初頭に、８・15・17は７世紀中～後葉にかけて比定できる土器群であり、18・19は７世紀末葉～８世紀前葉に比定できる須恵器平瓶と盤類である。19は口唇部の造りから盤として実測したが、脚付の高盤や坏の可能性も否定できない。なお本墳は、かなりの時間差を有する遺物が混在して検出されているが、埋葬施設に金銅製耳環を伴うことや、房総での終末期方墳の開始時期は７世紀初頭以降と想定されていることから、７世紀中～後葉にかけての遺物群が本遺構に伴う可能性が高い。

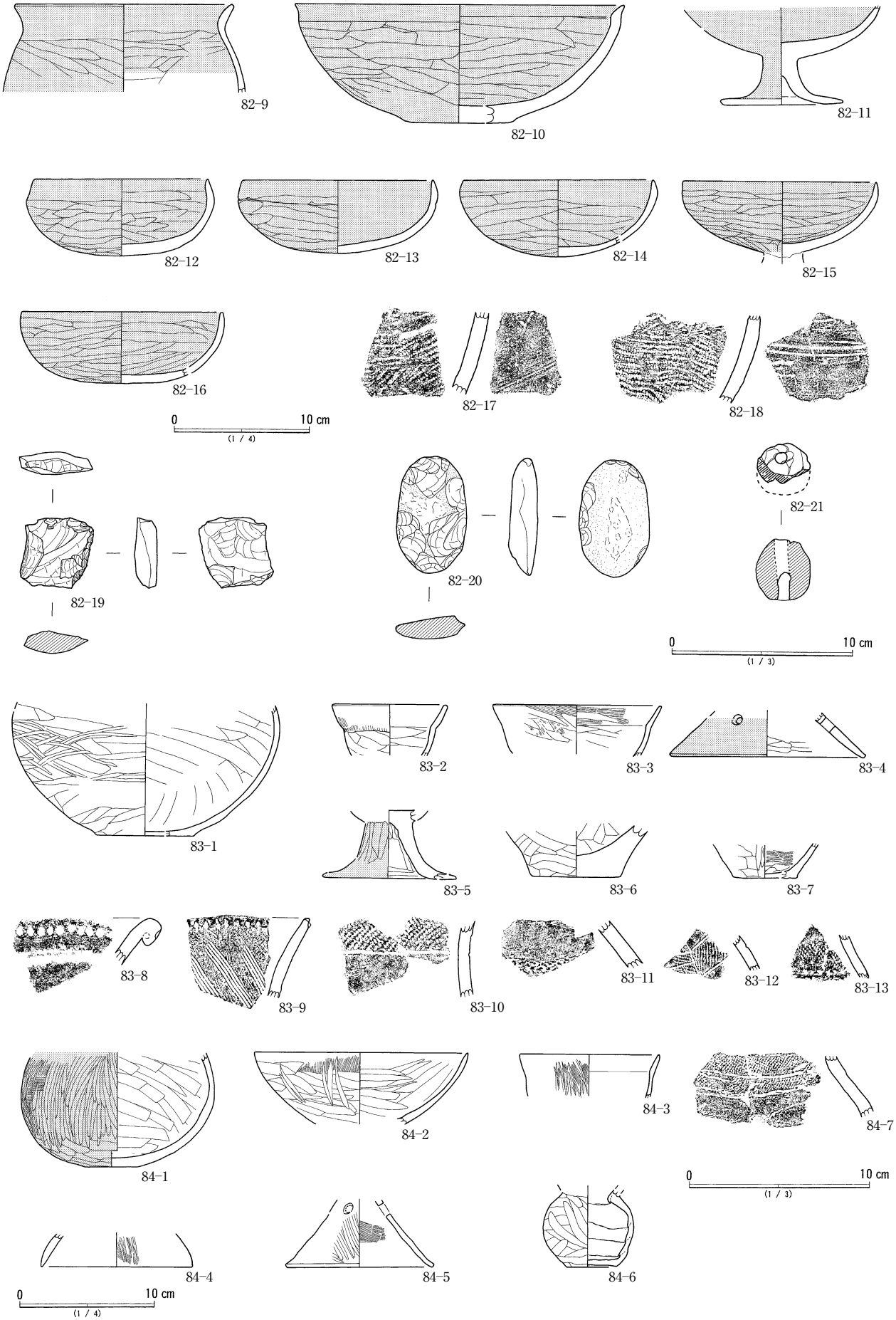
80号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1068号。79号遺構と211号溝に削平されて存在する楕円形の竪穴住居跡である。長径（6.5）m短径（5.5）mを測り、主軸方位はN-36°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁53.8cm、西壁33.4cm、南壁7.7cm、北壁19.2cmを測り、南側の遺存状態は不良である。炉は中央やや西寄りに検出された。長軸長1.44mを測り、主軸方位はN-32°-Wを示し、床面より21.2cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、ピットは15箇所に検出された。深さはそれぞれ、Ｐ１が58.1cm、Ｐ２が42.2cm、Ｐ３が49.7cm、Ｐ４が64.5cm、Ｐ５が62.3cm、Ｐ６が68.2cmを測る。Ｐ１・４・５・６は掘り方もしっかりしており、主柱穴と想定される。この他Ｐ７が9.1cm、Ｐ８が11.8cm、Ｐ９が17.4cm、P10が33.7cm、P11が23.0cm、P12が14.4cm、P13が35.3cm、P14が22.0cm、P15が21.3cmを測る。

第108図　76・81～85号遺構実測図



第109図　82号遺構実測図・出土遺物実測図



第110図　82～84号遺構出土遺物実測図

遺物

本遺構からは総数339点3,157ｇの土器片と17点1,145.9ｇの礫・石器が検出された。土器片の内訳は19点252ｇの土師器、142点1,155ｇ弥生土器、178点1,750ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内18点を図示した。18は、P13周辺の床面から3.8cm浮いた状況で検出された磨製石斧である。これ以外は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

81号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1021号。76号遺構を削平し82・85号遺構に削平されて存在する不整円形の竪穴住居跡である。長径（5.0）ｍ短径（4.9）ｍを測り、主軸方位はN-45°-W を示す。残存する壁高は、それぞれ東壁32.6cm、西壁30.8cm、南壁32.1cm、北壁23.2cmを測り、中央部を85号遺構に削平されるものの、全体的な遺存状態は不良である。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長1.04ｍを測り、主軸方位はN-８°-W を示し、床面より11.0cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、ピットは７箇所に検出された。深さはそれぞれ、Ｐ１が95.3cm、Ｐ２が86.2cm、Ｐ３が78.4cm、Ｐ４が71.8cmを測り、掘り込みもしっかりした主柱穴である。この他、Ｐ５が9.7cm、Ｐ６が22.8cm、Ｐ７が20.1cmを測る。

遺物

本遺構からは総数227点2,324.8ｇの土器片と16点467.8ｇの礫・石器が検出された。その内訳は、216点2,207.2ｇ弥生土器、11点117.6ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内25点を図示した。本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。図中に見える遺物は、本遺構を削平して存在する85号遺構に伴うものである。

82号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1022号。北東コーナー部を喪失し、81号遺構を削平して存在する方形の竪穴住居跡である。長径5.34ｍ、短径5.2ｍを測り、主軸方位はN-122°-W を示す。カマドは西壁中央やや南側に存在し、残存する壁高は、それぞれ東壁19.0cm、西壁35.2cm、南壁49.1cm、北壁39.0cmを測り、北東コーナー部を喪失するが、全体的な遺存状況は良好である。周溝は全周するものと捉えられ、深さは6.7～8.7cmを測り、全体的に均一である。床面はほぼ平坦であり、カマド脇等に焼土の堆積が認められた。ピットは６箇所に検出され、深さはそれぞれＰ１が84.2cm、Ｐ２が52.4cm、Ｐ３が81.8cm、Ｐ４が81.8cm、Ｐ５が69.0cm、Ｐ６が8.9cmを測る。Ｐ１～Ｐ４は掘り込みもしっかりした主柱穴であり、南西コーナー部に検出されたＰ５は貯蔵穴と想定される。

遺物

本遺構からは総数1,001点16,429ｇの土器・土製品と157点3,191ｇの礫・石器が検出された。その内訳は867点13,644ｇの土師器、102点1,223ｇの弥生土器、３点30ｇの早期撚糸文系土器、26点350ｇの早期条痕文系土器、３点1,182ｇの土製品である。これらの出土遺物の内21点を図示した。１～４・６・10・12・15は、カマド内及びカマド左袖から貯蔵穴にかけての範囲より集中的に検出された。３の甕を除けば何れも床直ないしは貯蔵穴底面密着の状態で検出されている。３は一方を床密着、他方を貯蔵穴内から出土した。13・16は、北側の床面からそれぞれ25cmと9.8cm離れて出土して

いる。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

83号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1019号。84・94・105号遺構や撹乱に削平されて存在する楕円形の竪穴住居跡である。長径6.7ｍを測り、主軸方位はN−８°−W を示す。残存する壁高は、それぞれ西壁6.7㎝、南壁10.8㎝、北壁16.2㎝を測り、全体的な遺存状態は不良である。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長0.68ｍを測り、主軸方位はN−８°−W を示し、床面より6.9㎝程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、ピットは１箇所に検出された。深さはＰ１が18.0㎝を測る。

遺物

本遺構からは総数367点3,430ｇの土器片と56点2,475ｇの礫が検出された。その内訳は92点1,385ｇの土師器、249点1,740ｇの弥生土器、２点10ｇの早期撚糸文系土器、24点295ｇの早期条痕文系土器である。土師器の内45点810ｇは前期の土器であり、32点470ｇは中期後半の所謂鬼高式である。これらの出土遺物の内13点を図示した。本遺構出土遺物は全て覆土一括で取り上げられたものであり、84号遺構や105号遺構と重複するため、検出された土師器の大部分はこの両者に帰属するものと想定される。１～４は本来84遺構に、５は105ないしは106号に帰属するものであろう。

84号遺構

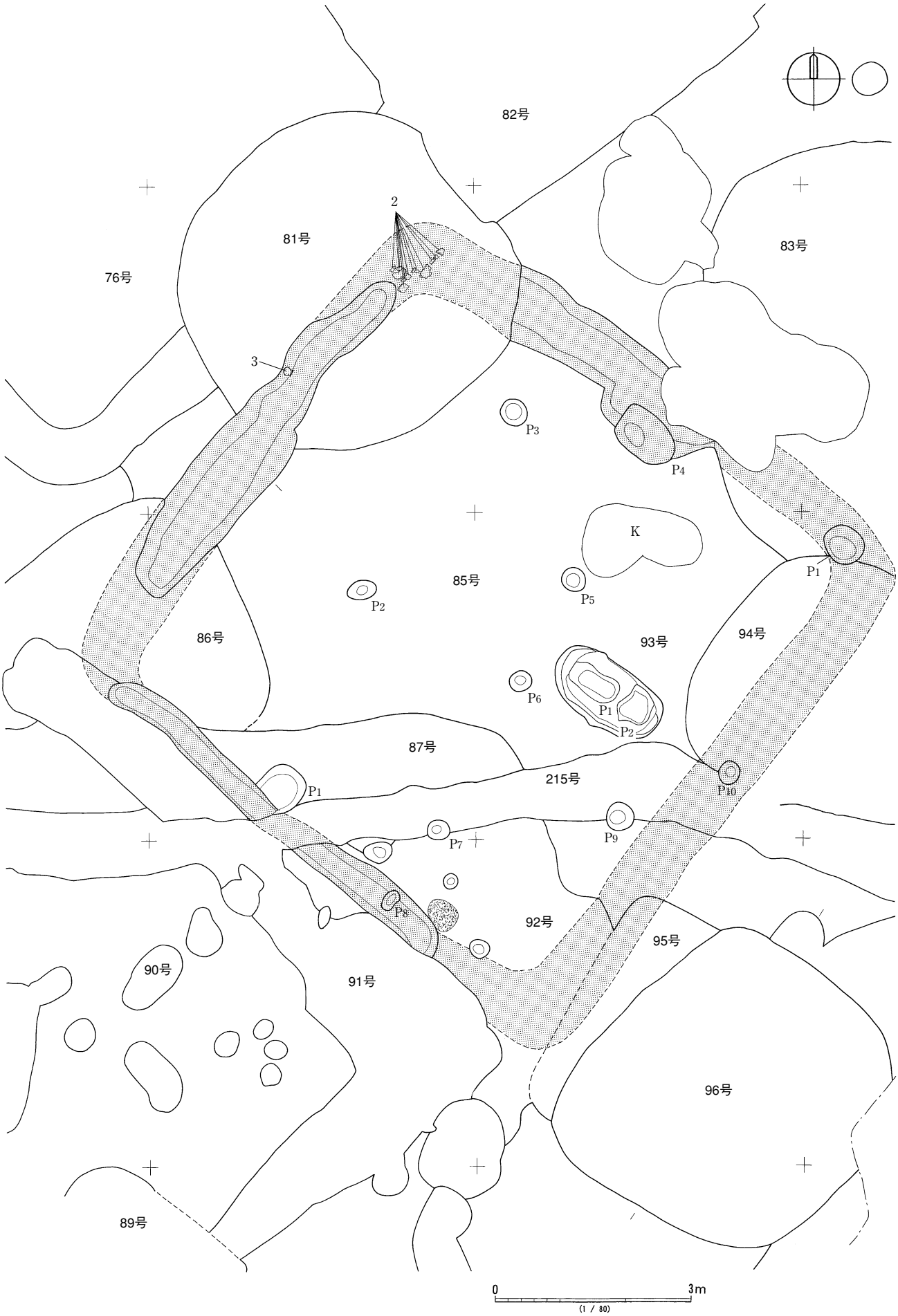
昭和59年度調査時遺構番号1020号。83・104号遺構を削平して存在する。掘りあがりは図示の如く円形を呈しているが、本来ならば隅丸方形の平面プランを呈する竪穴住居跡である。残存径3.4ｍを測り、主軸方位はN−71°−W を示す。残存する壁高は、東壁2.57㎝、北壁4.1㎝、を測り遺存状態は極めて不良である。炉は中央やや西寄りに検出された。長軸長0.68ｍを測り、主軸方位はN−67°−Wを示し、床面より4.0㎝程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、ピットは２箇所に検出された。深さはＰ１が23.7㎝、Ｐ２が23.7㎝を測る。

遺物

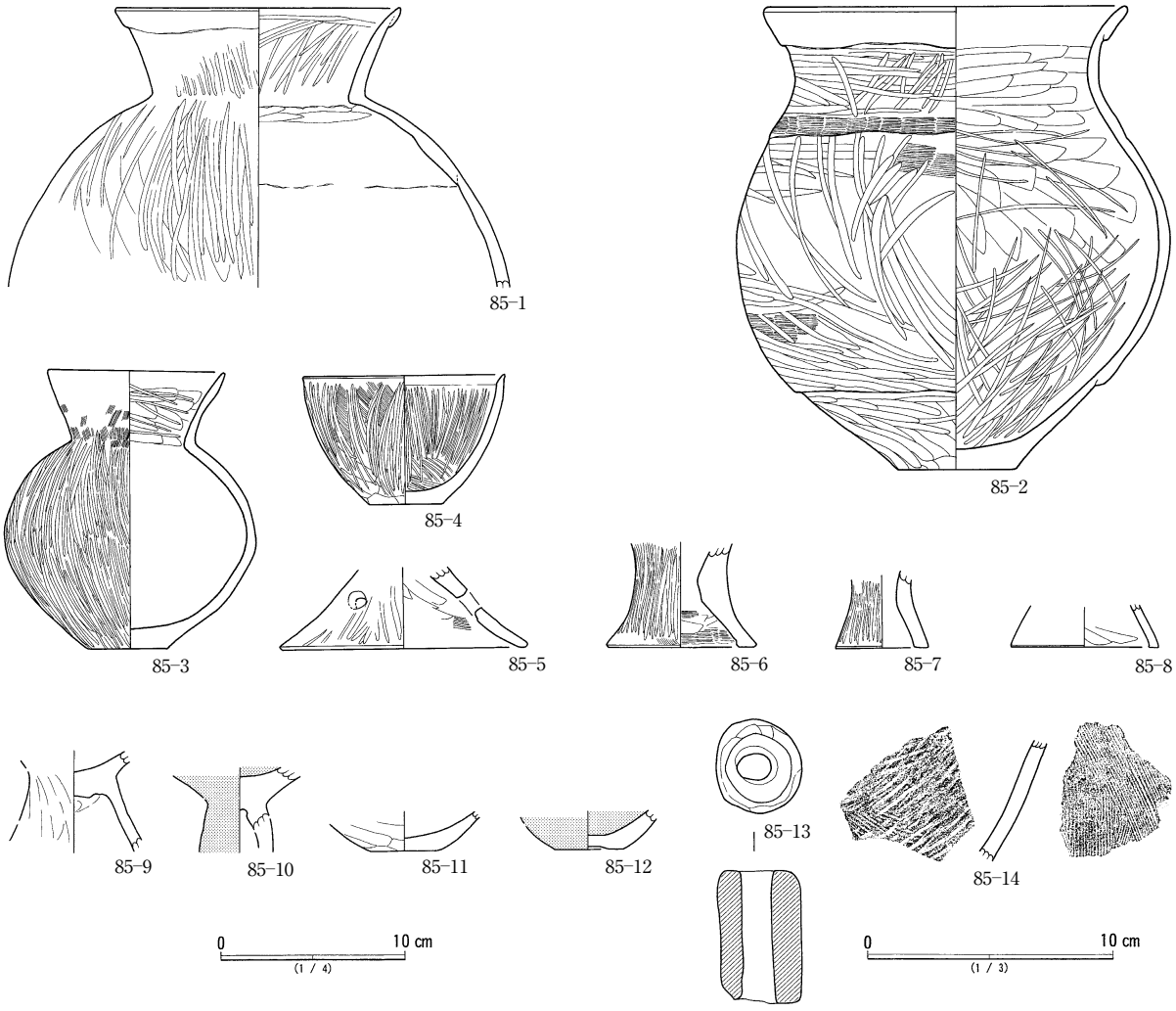
本遺構からは総数72点933ｇの土器片と６点510ｇの礫が検出された。その内訳は53点780ｇの土師器、15点115ｇの弥生土器、４点38ｇの早期条痕文系土器である。この内７点を図示した。１・６以外は全て覆土一括で取り上げられたものであり、14点90ｇの弥生土器は83号遺構に帰属するものと想定される。１・６は炉付近や図示した位置で、床にめり込んだ状態で検出された坩型土器である。これらの遺物と83号遺構１～４で示す土器が本来本遺構に伴う遺物と想定される。

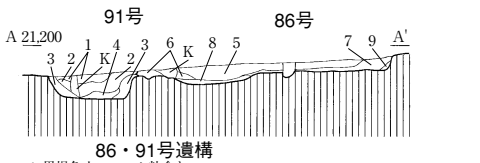
85号遺構

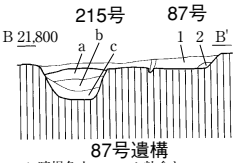
昭和59年度調査時遺構番号1023号。その遺物出土状況から81・83・92・94・95号遺構を削平して存在する方形周溝墓である。残存する各溝の規模は、西側溝が上端長6.0ｍ、下端長5.68ｍ、上端幅1.1ｍ前後、深さは52.4㎝を、南側溝は上端長6.42ｍ、下端長6.18ｍ、上端幅0.6ｍ前後、深さは14.2㎝を、北側溝は下端長3.74ｍ以上、上端幅1.12ｍ、深さは22.8㎝を測る。北西コーナー部の遺物出土状

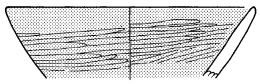


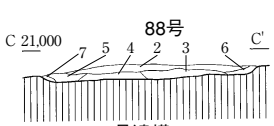
第111図　85・93号遺構実測図

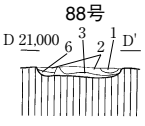


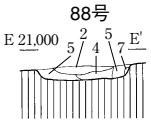


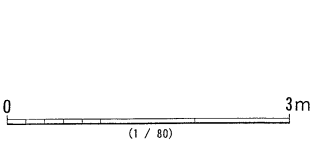












第112図　86～88・91・215号遺構実測図・85・86・88号遺構出土遺物実測図

況から、図示した破線範囲内に収まる方形周溝墓であろうと考えられる。残存する南北溝より方台部内径8.16ｍを測り、西周溝より、主軸方位はN-51°-Eを示している。ピットは遺構内に計10箇所検出された。深さはそれぞれＰ１が22.0cm、Ｐ２が32.5cm、Ｐ３が29.3cm、Ｐ４が46.3cm、Ｐ５が35.0cm、Ｐ６が40.6cm、Ｐ７が26.5cm、Ｐ８が13.5cm、Ｐ９が9.8cm、P10が18.0cmを測る。方台部内から埋葬施設は検出されなかった。

遺物

本遺構からは124点4,450.1ｇの土器・土製品と２点145ｇの礫が出土した。その内訳は、67点700ｇの土師器、16点3,315.8ｇの弥生土器から土師器への過渡期の土器、37点340ｇの弥生土器、３点30ｇの早期条痕文系土器、１点64.3ｇの管状土錘である。これらの出土遺物の内14点を図示した。２は81号遺構床面より7.5cm浮いた状態で検出された甕である。一見81号遺構に伴うかのように見えるが、写真図版より、遺物を残した土柱の部分が81号床面より若干窪んでおり、溝の方が新しい遺構であることがわかる。３は西側溝内の溝底より17cm浮いた状態で検出された坩型土器である。これ以外は全て覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

86号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1054号。85・87号遺構に削平されて存在する隅丸方形の竪穴住居跡である。推定長径4.0ｍを測り、主軸方位はN-33°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁9.3cm、北壁9.4cmを測り、遺存状態は不良である。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長1.36ｍを測り、主軸方位はN-33°-Wを示し、床面より11.0cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、ピットは１箇所に検出された。深さはＰ１が13.2cmを測る。

遺物

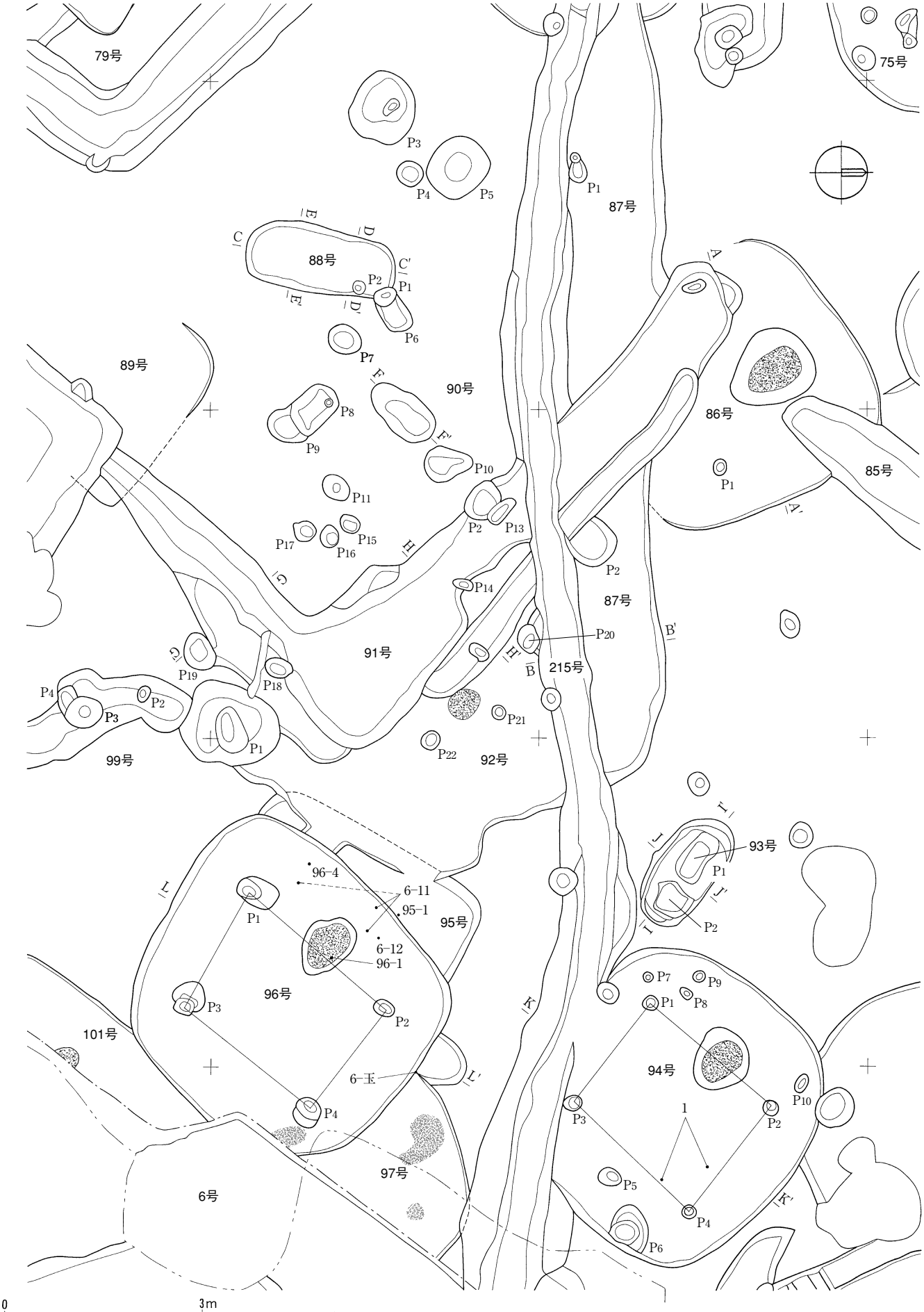
本遺構からは総数28点204ｇの土器片と２点90ｇの礫が検出された。その内訳は９点76ｇの土師器、15点89ｇの弥生土器、４点39ｇの早期条痕文系土器である。土師器の内１点28ｇは弥生土器から土師器への過渡期の土器、８点48ｇは中期後半の所謂鬼高式である。これらの出土遺物の内１点を図示した。本遺構出土遺物は全て覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

87号遺構

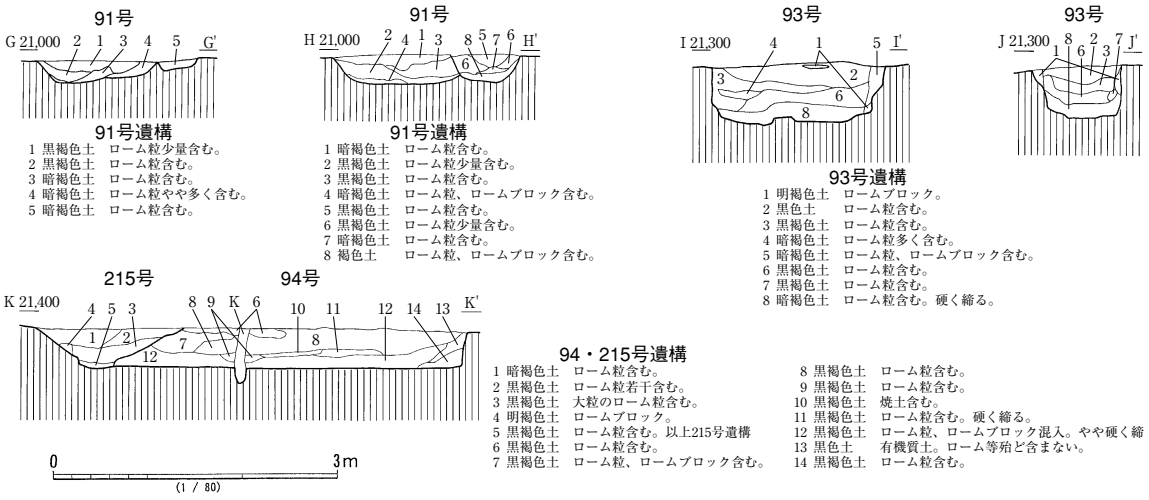
昭和59年度調査時遺構番号1059号。土層断面から215号溝より新しい段階の溝であり、78・87号遺構を削平して存在する。東西長12.46ｍ、深さは10cm前後を測り、底面はほぼ平坦である。ピットは２箇所に検出された。深さはＰ１が16.2cm、Ｐ２が17.7cmを測る。

遺物

本遺構からは総数１点170ｇの土製品と４点220ｇの礫が検出された。土製品は支脚であるが、磨耗のため接合に至らず図化できない。また、本遺構出土遺物は全て覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。



第113図　86～97・215号遺構実測図

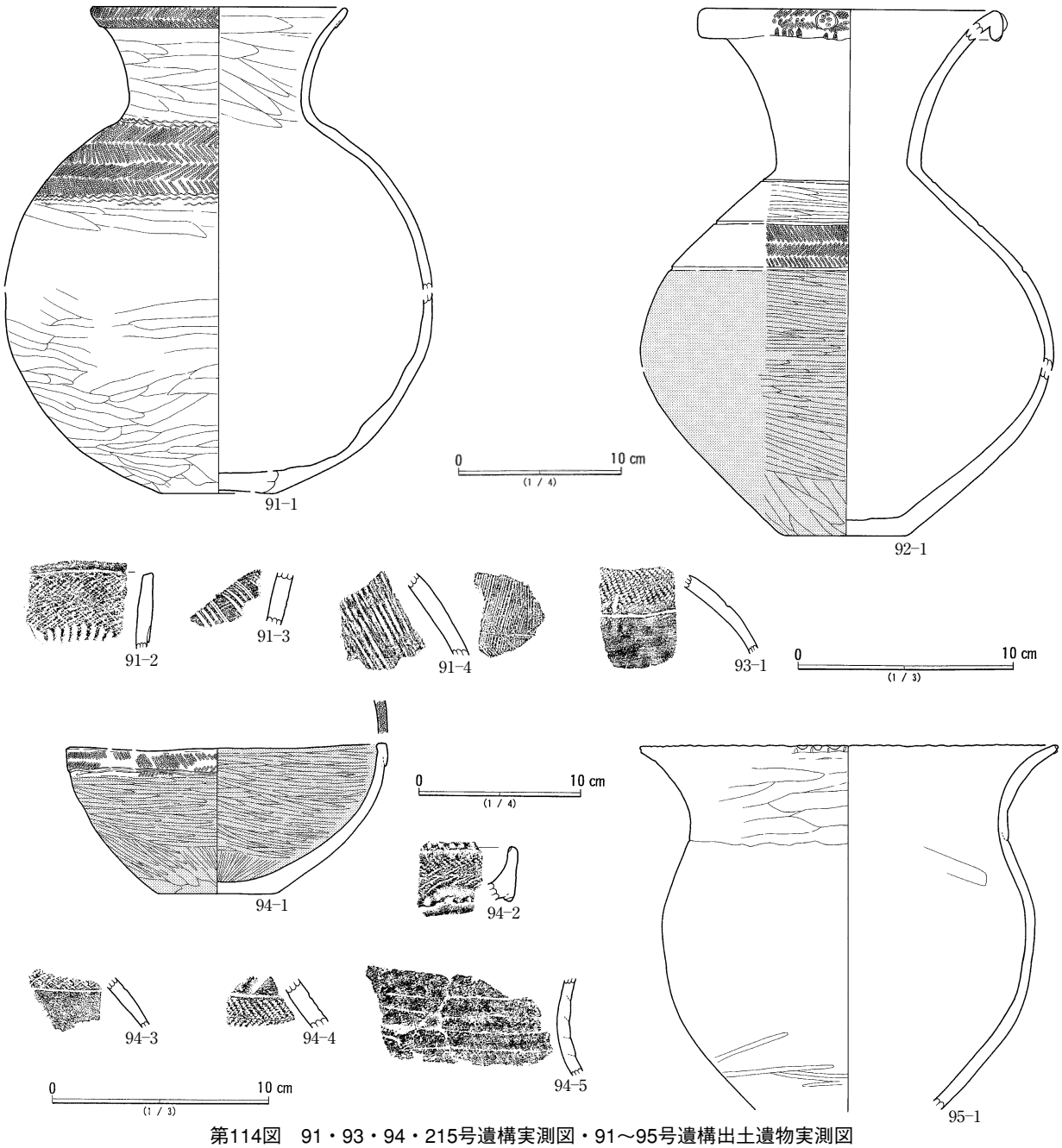


91号遺構
1 黒褐色土　ローム粒少量含む。
2 黒褐色土　ローム粒含む。
3 暗褐色土　ローム粒含む。
4 暗褐色土　ローム粒やや多く含む。
5 暗褐色土　ローム粒含む。

91号遺構
1 暗褐色土　ローム粒含む。
2 黒褐色土　ローム粒少量含む。
3 黒褐色土　ローム粒含む。
4 暗褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。
5 黒褐色土　ローム粒含む。
6 黒褐色土　ローム粒少量含む。
7 暗褐色土　ローム粒含む。
8 褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。

93号遺構
1 明褐色土　ロームブロック。
2 黒色土　ローム粒含む。
3 黒褐色土　ローム粒含む。
4 暗褐色土　ローム粒多く含む。
5 暗褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。
6 黒褐色土　ローム粒含む。
7 黒褐色土　ローム粒含む。
8 暗褐色土　ローム粒含む。硬く締る。

94・215号遺構
1 暗褐色土　ローム粒含む。
2 黒褐色土　ローム粒若干含む。
3 黒褐色土　大粒のローム粒含む。
4 明褐色土　ロームブロック。
5 黒褐色土　ローム粒含む。以上215号遺構
6 黒褐色土　ローム粒含む。
7 黒褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。
8 黒褐色土　ローム粒含む。
9 黒褐色土　ローム粒含む。
10 黒褐色土　焼土含む。
11 黒褐色土　ローム粒含む。硬く締る。
12 黒褐色土　ローム粒、ロームブロック混入。やや硬く締
13 黒色土　有機質土。ローム等殆ど含まない。
14 黒褐色土　ローム粒含む。



第114図　91・93・94・215号遺構実測図・91～95号遺構出土遺物実測図

88号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1063号。87号遺構の南に存在する隅丸長方形の土坑である。長径2.3m短径1.0mを測り、主軸方位はN-13°-Eを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁13.0cm、西壁11.3cm、南壁7.3cm、北壁8.7cmを測り、極めて浅く掘り込まれている。床面はほぼ平坦であり、遺構に接して2箇所にピットが検出された。深さはP1が50.8cm、P2が12.2cmを測る。

遺物

本遺構からは5点30gの弥生土器が検出された。この内1点を図示した。本遺構出土遺物は全て覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

89号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1065号。南西部を流出し、91・100号遺構に削平されて存在する隅丸方形と推定される竪穴住居跡である。残存長径2.9mを測り、主軸方位はN-51°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁3.0cm、西壁0.6cm、北壁2.4cmを測り、遺存状態は不良である。床面の大半は既に流出しており、炉やピットは検出されなかった。

遺物

本遺構から遺物は全く検出されなかった。

90号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1129号。88号遺構の東に存在する不整形の土坑である。長径1.14m短径0.62mを測り、主軸方位はN-43°-Eを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁18.4cm、西壁18.2cm、南壁15.7cm、北壁18.4cmを測り、床面はほぼ平坦である。

遺物

本遺構から遺物は全く検出されなかった。

91号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1058号。89号遺構を削平し、100号遺構に削平されて存在するL字形を呈する溝である。東西長9.7m南北長5.96m、幅2.1m～0.5m、深さは東西方向が29～7.7cm、南北方向が29～21.1cmを測る。周溝内や方台部内の17箇所からピットが検出された。深さはそれぞれP4が69.2cm、P5が7.8cm、P6が33.5cm、P7が30.7cm、P8が11.3cm、P9が19.3cm、P10が9.7cm、P11が41.3cm、P12が50.8cm、P13が29.3cm、P14が24.1cm、P15が26.1cm、P16が29.7cm、P17が39.9cm、P18が19.9cm、P19が49.3cm、P20が91.0cmを測る。深くしっかりした掘り込みのピットも確認されるが、これらピット群は本遺構に直接伴うものではないと判断される。むしろ、本遺構は88号遺構を内部主体とする北・南溝を流出した方形周溝墓の可能性も否定できない。

遺物

本遺構からは総数23点1,340gの弥生土器と5点410gの礫が検出された。この内4点を図示するが、本遺構出土遺物は全て覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

92号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1056号。87・91号遺構に削平されて存在する平面プラン不明の竪穴住居跡である。残存する壁高は東壁11.3cmを測り、遺存状態は不良である。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、85号溝に接して炉が検出されている。長軸長0.52mを測り、主軸方位はN-43°-Wを示し、床面より0.2cm程下がった位置で火床を検出する。ピットは3箇所に検出され、深さはそれぞれP1が41.1cm、P2が5.5cm、P3が3.2cmを測る。

遺物

本遺構からは総数91点1,230gの弥生土器と1点10gの早期撚糸文系土器が検出され、内1点を図示した。本遺構出土遺物は全て覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

93号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1053号。85号方台部内に存在する隅丸長方形の土坑である。長径1.84m短径1.00mを測り、主軸方位はN-53°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁52.7cm、西壁52.8cm、南壁45.9cm、北壁55.0cmを測り、遺存状況は良好である。底面に2箇所のピットが認められ、深さはそれぞれP1が12.8cm、P2が9.0cmを測る。

遺物

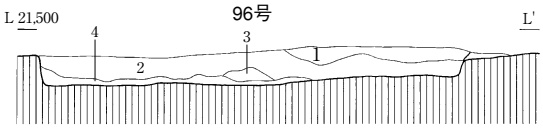
本遺構からは80点583gの土器片と6点258gの礫が出土した。その内訳は、22点209gの弥生土器、1点5gの早期条痕文系土器、57点369gの前期繊維土器であるが、表面剥離や磨耗したものが多く、1点の図示に留まった。本遺構出土遺物は全て覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

94号遺構

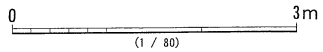
昭和59年度調査時遺構番号1045号。83号遺構を削平し、南側を215号溝に削平されて存在する楕円形の竪穴住居跡である。長径4.44mを測り、主軸方位はN-52°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁87.8cm、西壁32.4cm、北壁19.1cmを測り、遺存状態はやや不良である。炉は中央やや西寄りに検出された。長軸長0.96mを測り、主軸方位はN-50°-Wを示し、床面より10.4cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、ピットは10箇所に検出された。深さはそれぞれ、P1が64.0cm、P2が72.5cm、P3が82.9cm、P4が79.9cm、P5が20.6cm、P6が23.0cm、P7が5.1cm、P8が8.2cm、P9が4.1cm、P10が5.2cmを測る。P1～P4は掘り込みもしっかりした主柱穴である。

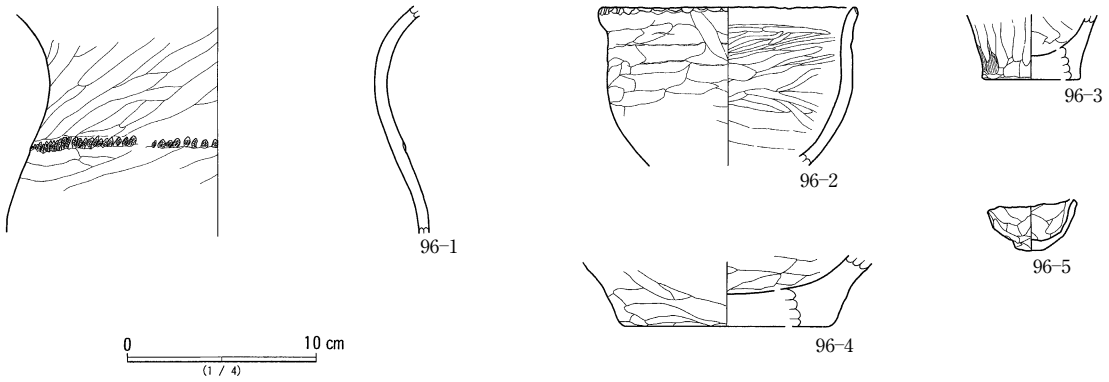
遺物

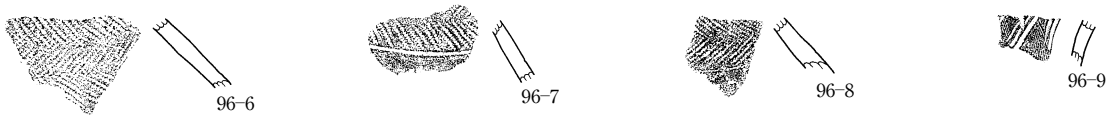
本遺構からは総数142点2,102gの土器片と22点1,880gの礫が検出された。土器片の内訳は5点55gの土師器、135点2,025gの弥生土器、1点12gの早期条痕文系土器、1点10gの前期繊維土器である。これらの出土遺物の内5点を図示した。1は、P4付近の床面密着の状況で検出された鉢である。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

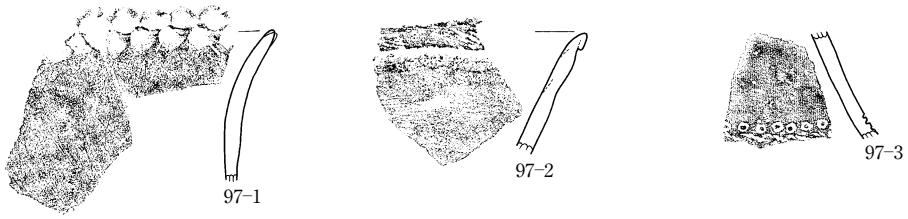


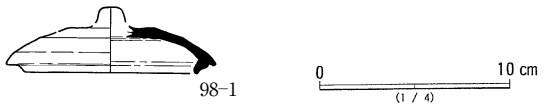
96号遺構
1 暗褐色土　ローム粒含む。
2 黒褐色土　ローム粒多量に含む。
3 暗褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。
4 黒褐色土　ローム粒、焼土粒、炭化物含む。

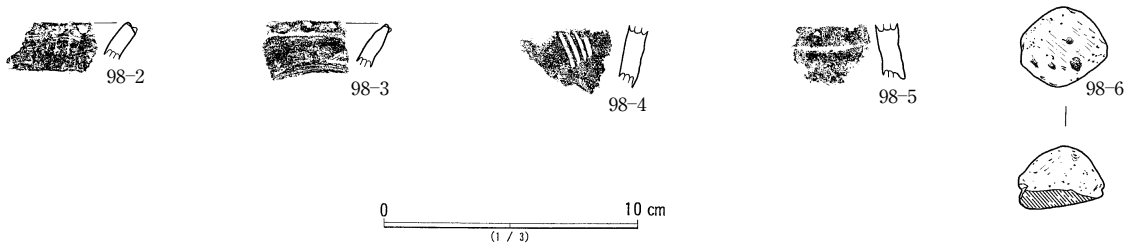












第115図　96号遺構実測図・96～98号遺構出土遺物実測図

95号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1049号。96号溝に削平されて存在する隅丸方形の竪穴住居跡である。残存径3.8ｍを測り、主軸方位はN−59°−W を示す。残存する壁高は、それぞれ西壁18.6㎝、南壁14.6㎝、北壁23.41㎝を測るが、遺存状態は極めて不良である。周溝は存在せず炉・ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは13点1,270ｇの弥生土器が検出された。１は96号遺構と接する床面から６㎝浮いた状況で検出された甕である。

96号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1046号。６号遺構の下層遺構であり、98号遺構を削平して存在する隅丸方形の竪穴住居跡である。長径4.56ｍ短径4.25ｍを測り、主軸方位はN−57°−W を示す。残存する壁高は、それぞれ東壁10.7㎝、西壁6.0㎝、南壁31.4㎝、北壁6.0㎝を測り、遺存状態は不良である。炉は中央やや西寄りに検出された。長軸長1.02ｍを測り、主軸方位はN−55°−W を示し、床面より10.0㎝程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、ピットは４箇所に検出された。深さはそれぞれ、Ｐ１が86.9㎝、Ｐ２が90.5㎝、Ｐ３が91.3㎝、Ｐ４が89.2㎝を測り、掘り込みもしっかりした主柱穴である。

遺物

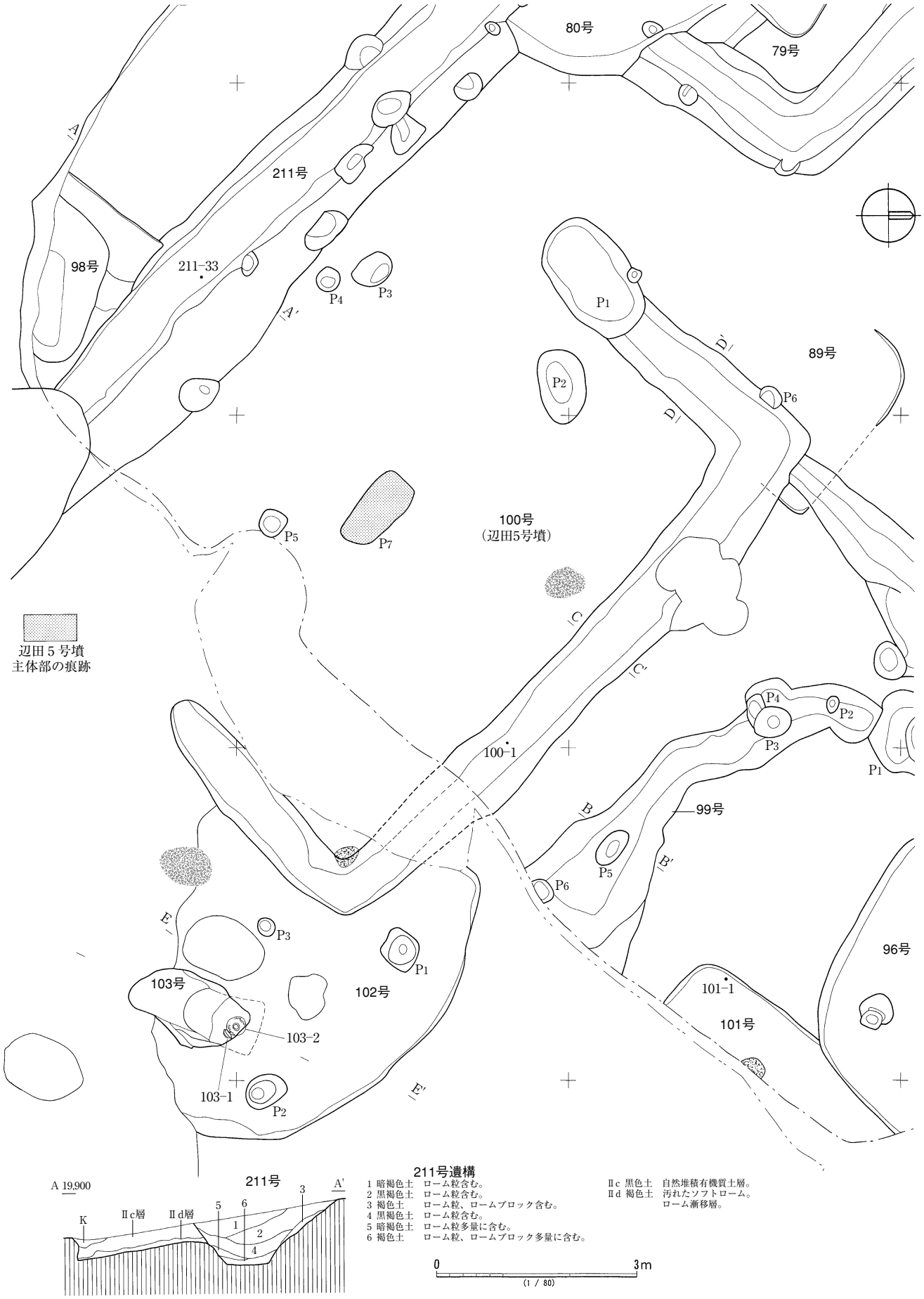
本遺構からは184点1,813ｇの土器片と10点810ｇの礫が検出された。土器片の内訳は10点100ｇの土師器、169点1,663ｇの弥生土器、１点10ｇの手捏土器、３点30ｇの早期撚糸文系土器、１点10ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内９点を図示した。１は、炉内の火床から4.4㎝浮いた状態で検出された甕である。２は95号遺構に近い西側の床面密着の状態で検出されている。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。なお，参考までに上層に存在したとされる調査時遺構番号1044号の遺物出土地点も図示した。６−11は96号遺構の床面から36.8㎝高い位置で出土している。同じく６−12は36.5㎝高い位置で出土している。また所在不明のガラス小玉は97号遺構と境目の壁際より96号床面から32㎝高い位置から出土している。

97号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1048号。96号遺構と215号溝に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存する壁高は、それぞれ東壁4.8㎝、北壁5.3㎝を測り、遺存状態は不良である。炉は96号遺構に削平されたと想定され、周溝は存在しない。床面はほぼ平坦であり、２箇所に焼土の堆積が認められた。

遺物

本遺構からは６点103ｇの弥生土器片が検出された。この内３点を図示したが、全て覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。



第116図　89・98～103・211号遺構実測図

98号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1080号。遺構のおよそ半分は調査区域外に存在し、211号溝に一部を削平されて存在する不整形な土坑である。残存長径2.50ｍを測り、壁高は、それぞれ東壁29.1㎝、西壁56.0㎝、北壁33.7㎝を測る。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。遺物に須恵器長頸壺蓋を含むことから、北側天井部が崩落した側壁抉り込み土坑の可能性が高い。

遺物

本遺構からは57点362ｇの土器片と27点1,014ｇの礫が検出された。土器片の内訳は２点10ｇの土師器、２点72ｇの須恵器、53点280ｇの弥生土器である。これらの出土遺物の内６点を図示したが、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

99号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1057号。確認面の高さが昭和59年度とほぼ同じレベルでありながら、昭和63年度調査範囲からは検出されなかった遺構であり、位置的には６号遺構の周溝となる可能性がある溝である。残存長7.8ｍ幅2.14～0.7ｍを測り、溝の深さの最大値は、それぞれ東12.5㎝、西19.9㎝、南14.4㎝、北32.5㎝を測る。底面はやや凹凸が存在し、ピットは６箇所に検出された。深さはそれぞれ、Ｐ１が55.5㎝、Ｐ２が14.7㎝、Ｐ３が30.3㎝、Ｐ４が21.6㎝、Ｐ５が43.3㎝、Ｐ６が19.7㎝を測る。Ｐ１は掘り込みも深くしっかりしており、単独土坑の可能性が考えられる。

遺物

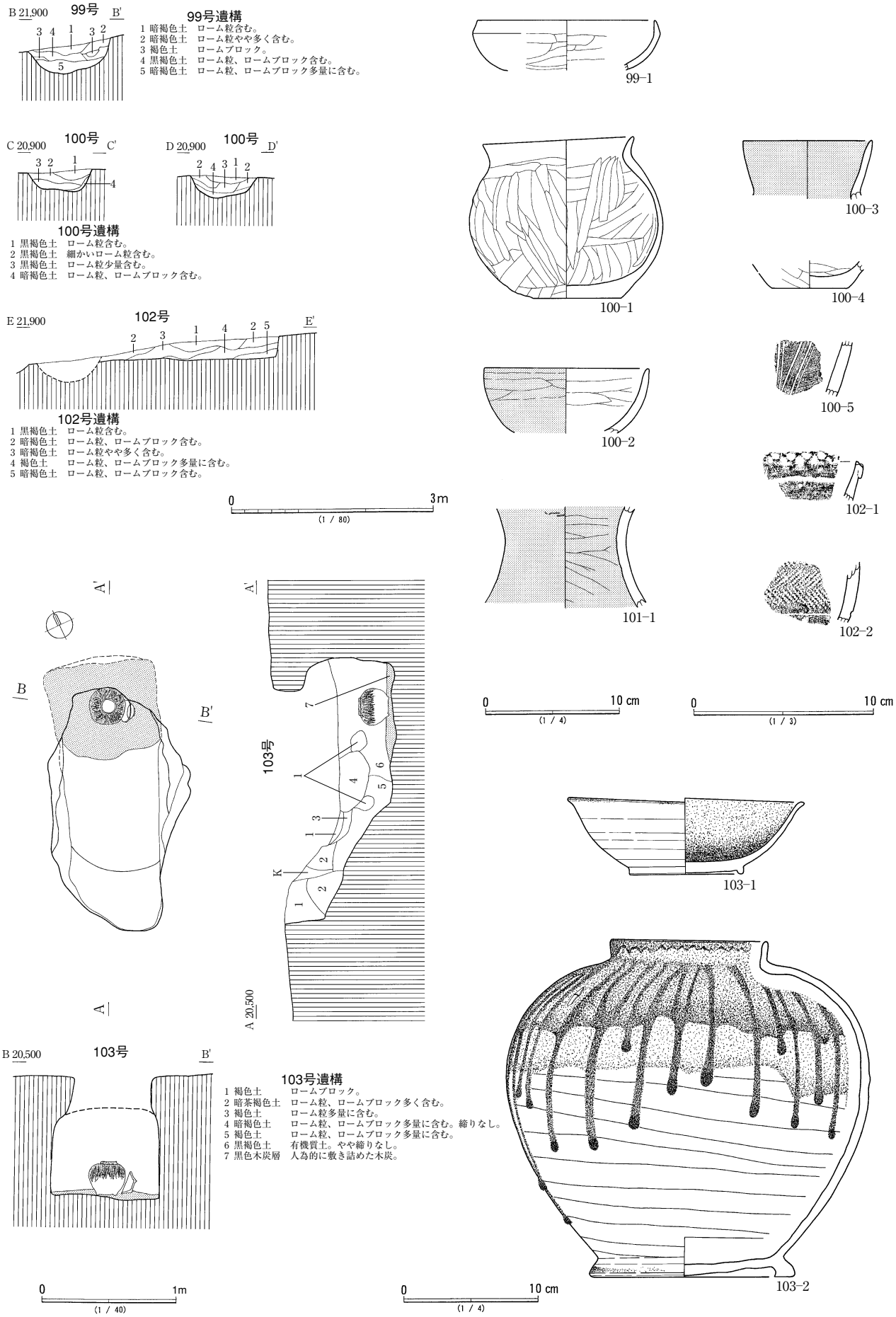
本遺構からは図示した１点15ｇの土師器が検出されただけである。時期的には古墳時代後期の土器であるが、覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

100号遺構（辺田５号墳）

昭和59年度調査時遺構番号Ｎ-10、即ち根田10号墳。昭和63年度調査時遺構番号Ｋ-５、即ち５号墳。『市原市埋蔵文化財分布地図―北部編―』に記載される「辺田５号墳」に該当する古墳である。報告に際し「辺田５号墳」を踏襲するが、便宜上63号遺構として報告する。

墳丘と周溝

墳丘と南側周溝を流出した方台部東西内径約8.8ｍを測る終末期の方墳である。昭和59年度と63年度に跨って調査され、樹木の存在により一部未調査部分が存在するが、弥生住居の102号遺構を削平して存在する。主軸方位はＮ-47°-Ｗを示し、各周溝の深さは、東12.6㎝、西43.3㎝、北23.9㎝を測る。東側周溝の深さが浅いのは、102号遺構と重複するためであり、昭和63年度の確認面が低かったわけではない。方台部内中央から、棺底痕と考えられる長径1.22ｍ短径0.62ｍ深さ4.9㎝、主軸方位はＮ-57°-Ｗを示す変色範囲が検出されたが、内部から遺物は検出されなかった。周溝が及ばないものの、方台部内と想定される範囲からは６箇所にピットが検出された。Ｐ１は周溝内土坑の可能性が考えられ、西側周溝端部より検出された。長径1.9ｍ短径1.15ｍ深さ21.2㎝を測り、主軸方位はＮ-50°-Ｅを示す。他のピットの深さは、それぞれＰ２が17.2㎝、Ｐ３が46.0㎝、Ｐ４が30.5㎝、Ｐ５が44.9㎝、Ｐ６が22.9㎝を測るが、本遺構に直接伴うものではない。この他、方台部の北側中央付近に焼土が検出されている。



第117図　99～103号遺構実測図・出土遺物実測図

遺物

本墳からは総数68点1,165ｇの土器片が検出された。その内訳は59点1,070ｇの土師器、７点50ｇの弥生土器、２点45ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内５点を図示した。１は北側周溝中央やや東寄りの溝底より３㎝程浮いた状況で口縁部を逆さにして検出された土師器甕である。これ以外は何れも覆土一括で取り上げられており、出土地点を明示するものは無い。

101号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1047号。６号遺構の下層遺構であり、96号遺構に削平されて存在する非常に掘り込みの浅い隅丸方形の竪穴住居跡であるが、確認面の高さが昭和59年度とほぼ同じレベルでありながら、昭和63年度調査範囲からは検出されなかった遺構である。残存壁長西壁2.00ｍ南壁0.9ｍを測り、西壁方位はN-38°-Eを示す。残存する壁高は、それぞれ、西壁2.2㎝、南壁2.7㎝を測り、遺存状態は極めて不良である。昭和59年度調査区壁際に、炉と想定される焼土を検出した。長軸残長0.20ｍを測り、主軸方位はN-42°-Wを示す。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは２点95ｇの弥生土器を検出し、１点を図示した。１は西南コーナー部の床面密着の状態で検出された壺であり、他は覆土一括で取り上げられ土地点を明示するものは無い。

102号遺構

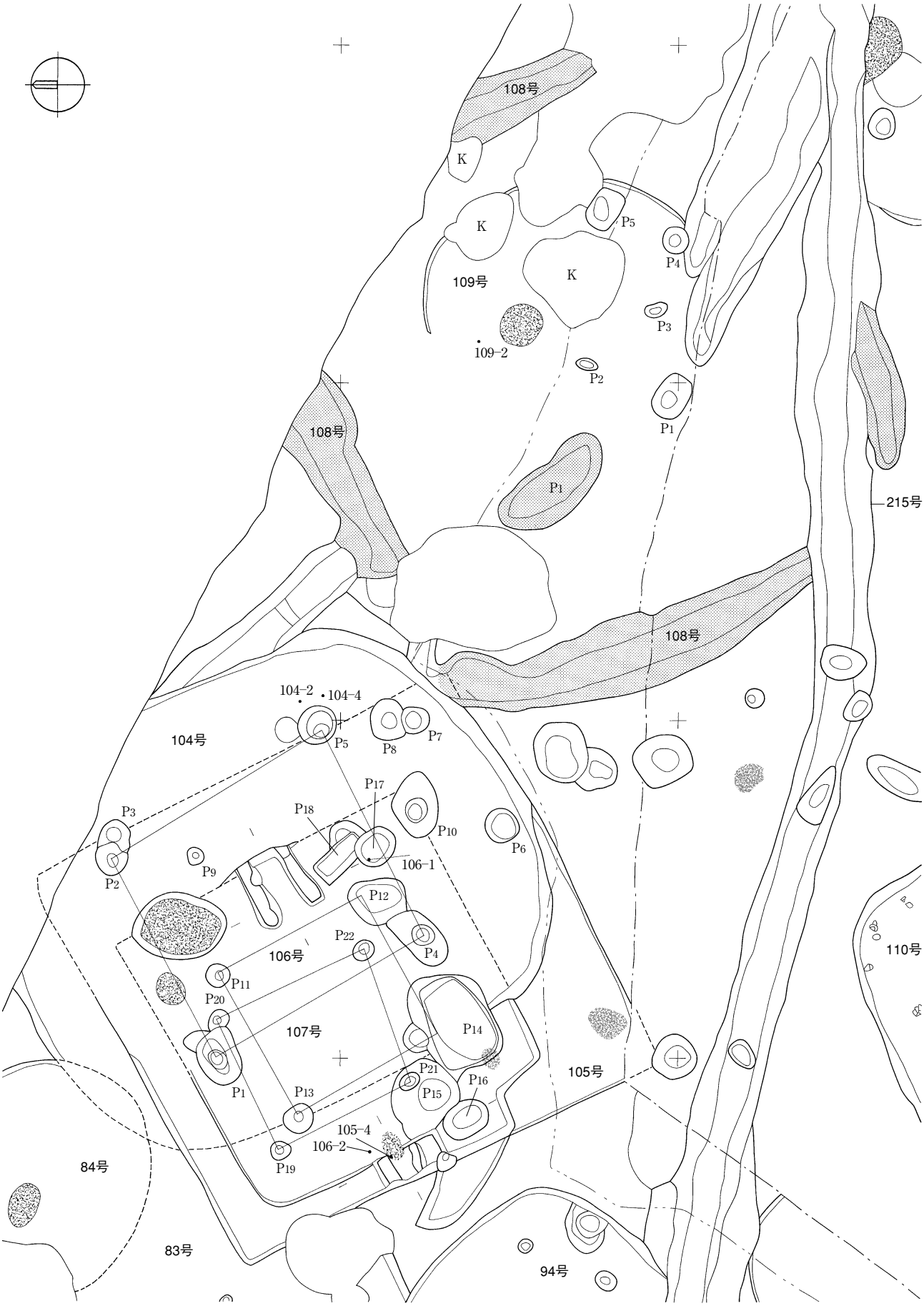
昭和63年度調査時遺構番号H-12号。南側を流出し、100・103号遺構に削平されて存在する不整形な竪穴住居跡である。残存する壁高は、それぞれ、東壁18.9㎝、北壁26.5㎝を測るが、遺構内に撹乱も存在し、遺存状態は極めて不良である。炉は100号遺構に一部削平されて検出された。長軸残長0.4ｍを測り、主軸方位はN-37°-Wを示し、1.9㎝下がって火床が検出された。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、南側に焼土の堆積が認められた。ピットは３箇所に検出され、深さはそれぞれ、Ｐ１が66.2㎝、Ｐ２が82.7㎝、Ｐ３が21.9㎝を測る。Ｐ１・Ｐ２は主柱穴と考えられるが、対応するピットは検出されなかった。

遺物

本遺構からは58点510ｇの弥生土器と１点20ｇの早期条痕文系土器、２点の自然礫を検出したが、全て覆土一括で取り上げられている。土器片は何れも細片で、図示に耐える遺物は図示した２点に過ぎない。

103号遺構

昭和63年度調査時遺構番号SK-３号。昭和63年度年報や平成10年度刊行の『千葉県史』等で度々紹介されてきたが、その位置には誤りがあり、本報告をもって改正したい。本遺構は102号遺構を削平して存在し、灰釉短頸壺を蔵骨器として地下式小型玄室内に納める火葬墓である。墓壙長径2.0ｍ短径0.79ｍを測り、主軸方位はN-20°-Eを示す。玄室天井部の大半は崩落し、奥壁との接続部分が僅かに残るだけであるが、木炭の充填によって幅84㎝奥行き73㎝高さは65㎝に玄室の規模を復元する



第118図　104～109・215号遺構実測図

ことができる。その底面には細かく打ち砕かれた木炭が、厚さ５㎝に亘って充填されていた。その中央部に灰釉短頸壺が配置されており、蓋に転用された灰釉椀がずれ落ちた状況で検出されている。

遺物

本遺構からは２点3,460ｇの灰釉陶器を検出した。１は完形の椀であり、内面に三叉トチンの跡を残す。猿投窯の黒笹14号様式に比定される。２は短頸壺であり、口唇部から胴部中位にかけて釉こぼれが認められ、口唇部の極一部を欠損する。黒笹14号様式の短頸壺より若干長胴化した傾向が認められるため、椀よりやや後出する時期に比定される。短頸壺内の土は上層・中層・下層に分けて取り上げられており、上層からは900ｇの土と30ｇの炭化物、中層からは1,500ｇの土と21ｇの骨片、下層からは829ｇの骨片と420ｇの骨紛混じりの土、及び１点10ｇの土師器片が検出された。骨片は総じて木炭紛が付着しており、荼毘に付された後、灰釉短頸壺に納められたことが察知されるが、短頸壺内に詰まった物質総重量4,409ｇの内、骨片は20%に満たない。

104号遺構

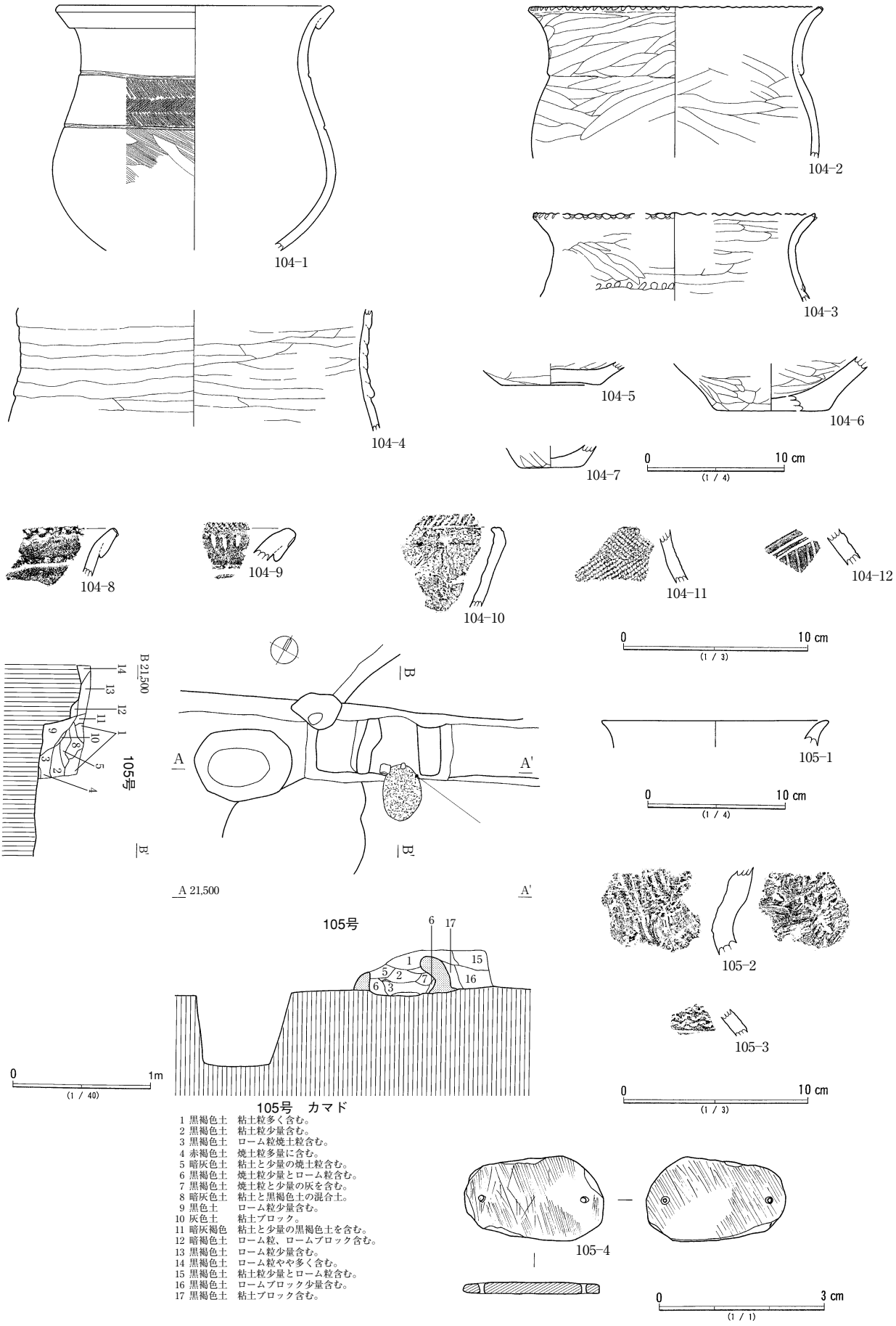
昭和59年度調査時遺構番号1016号。105・106号遺構に削平されて存在する楕円形の竪穴住居跡である。長径7.98m推定短径6.58mを測り、主軸方位はN-30°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁42.5㎝、西壁39.4㎝、南壁41.4㎝、北壁18.8㎝を測るが、遺存状態は不良である。炉は中央やや西寄りに検出された。長軸長1.44mを測り、主軸方位はN-７°-Wを示し、床面より6.5㎝程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、全てが伴うと限らないが、ピットは９箇所に検出された。深さはそれぞれ、Ｐ１が72.6㎝、Ｐ２が81.0㎝、Ｐ３が40.8㎝、Ｐ４が64.2㎝、Ｐ５が73.3㎝、Ｐ６が9.7㎝、Ｐ７が31.2㎝、Ｐ８が33.0㎝、Ｐ９が38.0㎝を測る。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４・Ｐ５が掘り込みもしっかりした主柱穴である。

遺物

本遺構からは683点5,260ｇの土器・土製品片と18点1,190ｇの礫が検出された。土器・土製品の内訳は17点210ｇの土師器、650点4,925ｇの弥生土器、７点80ｇの早期条痕文系土器、９点45ｇの支脚片である。これらの出土遺物の内12点を図示した。２・４は、105号遺構の削平を免れたＰ５付近の床面密着の状態で検出された甕である。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。なお、本遺構から出土したが図示に至らなかった支脚片や土師器片は、本来重複する遺構に伴うものと考えられる。

105号遺構

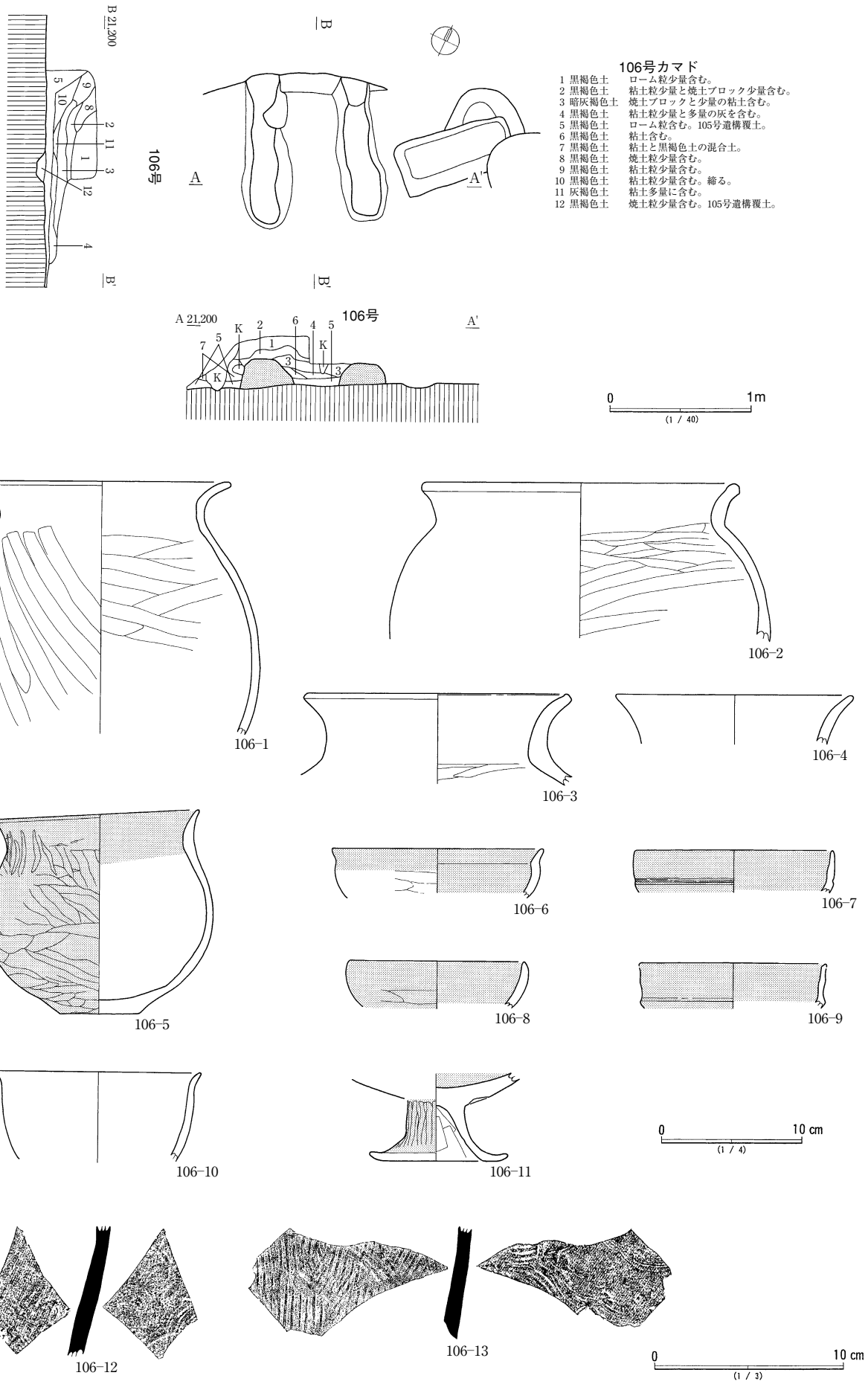
昭和59年度調査時遺構番号1017号。104号遺構を削平し、106号遺構に削平されて存在する方形の竪穴住居跡である。長径7.04m、推定短径6.58mを測り、主軸方位はN-116°-Wを示す。カマドは西壁中央やや北側に位置し、袖部前面を106号遺構に削平されているが火床は辛うじて残存していた。残存する壁高は、それぞれ西壁16.4㎝、南壁1.0㎝、北壁21.5㎝を測り、全体的な遺存状況は不良である。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、西南コーナー部に焼土の堆積が認められた。P10はその位置から本遺構の主柱穴と考えられるが、対応するピットは未検出であり、深さは25.7㎝を測る。



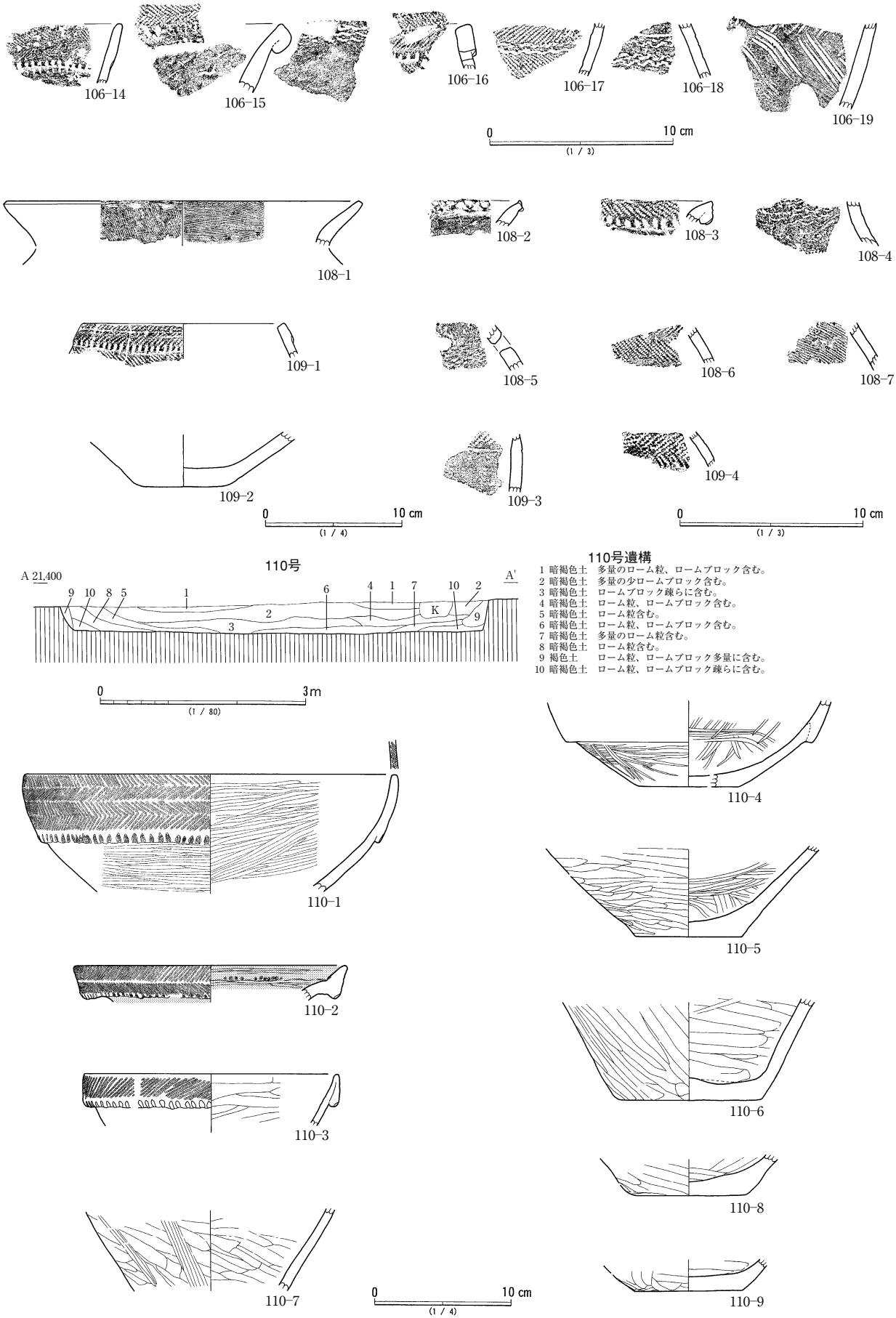
105号　カマド

1 黒褐色土　粘土粒多く含む。
2 黒褐色土　粘土粒少量含む。
3 黒褐色土　ローム粒焼土粒含む。
4 赤褐色土　焼土粒多量に含む。
5 暗灰色土　粘土と少量の焼土粒含む。
6 黒褐色土　焼土粒少量とローム粒含む。
7 黒褐色土　焼土粒と少量の灰を含む。
8 暗灰色土　粘土と黒褐色土の混合土。
9 黒色土　ローム粒少量含む。
10 灰色土　粘土ブロック。
11 暗灰褐色　粘土と少量の黒褐色土を含む。
12 暗褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。
13 黒褐色土　ローム粒少量含む。
14 黒褐色土　ローム粒やや多く含む。
15 黒褐色土　粘土粒少量とローム粒含む。
16 黒褐色土　ロームブロック少量含む。
17 黒褐色土　粘土ブロック含む。

第119図　105号遺構実測図・104・105号遺構出土遺物実測図



第120図　106号遺構実測図・出土遺物実測図



第121図　110号遺構実測図・106・108～110号遺構出土遺物実測図

遺物

本遺構からは56点425ｇの土器片と１点5.7ｇの有孔円盤が検出された。土器片の内訳は54点390ｇの土師器、１点５ｇの弥生土器、１点30ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内４点を図示したが、遺構本来の時期を示す遺物に恵まれなかった。４は、カマド内火床脇から6.6cm浮いた状態で検出された有孔円盤である。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

106号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1018号。整理作業の結果、同遺構内に更にもう一軒の住居跡の存在に気付き便宜的に1018A 号とした。104・105号遺構を削平して存在する西側に張り出しをもつ方形の竪穴住居跡である。長径4.82m、短径4.8mを測り、主軸方位はN-61°-E を示す。カマドは東壁中央に位置し、残存する壁高は、それぞれ東壁10.0cm、西壁30.6cm、南壁25.5cm、北壁4.7cmを測り、全体的な遺存状況は不良である。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、東北と西南コーナー部に焼土の堆積が認められた。ピットは８箇所に検出された。深さはそれぞれ、P11が42.4cm、P12が59.5cm、P13が58.1cm、P14が103.8cm、P15が35.5cm、P16が54.0cm、P17が12.7cmを測る。P11～13は掘り込みもしっかりしており、本遺構の主柱穴と捉えられる。P16はその位置から本遺構の貯蔵穴と考えられる。P14は、本遺構本来の主柱穴の位置に存在し、掘り込みも深いことから単独の土坑である可能性が考えられるが、本遺構床面から検出された焼土がP14に跨って検出されることから、本遺構より古い段階の遺構である。

遺物

本遺構からは837点7,980ｇの土器片と14点540ｇの礫が検出された。その内訳は598点6,160ｇの土師器、２点80ｇの須恵器、224点1,630ｇの弥生土器、10点80ｇの早期条痕文系土器、３点30ｇの時期不明縄文土器である。これらの出土遺物の内19点を図示した。１は、P17を掘り下げる段階以前に床密着の状態で検出された甕である。２は105号遺構のカマド前で本遺構の床面から9.9cm浮いた状態で検出されている。１・２以外の遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。12・13は須恵器甕であり、内面の同心円文を丁寧に磨り消していることから、TK-208型式段階の所産と想定される。また、本遺構出土の弥生土器は、下層に存在するP18～P22で構成される107号遺構に伴う可能性が高い。

107号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1018号であるが、便宜的に1018B 号とした。106号遺構内の下層に存在するもう一軒の住居跡であり、P18～P22で構成される。平面プランや主軸方向不明ながら、106号遺構出土の１の甕が検出された下層のピットを伴うと考えられることから、106号遺構に削平されて存在すると考えられる。床面は106号遺構と同じレベルで、ピットは５箇所に検出された。深さはそれぞれ、P18が59.3cm、P19が47.3cm、P20が44.3cm、P21が45.8cm、P22が49.9cmを測る。P18～21は掘り込みもしっかりしており、本遺構の主柱穴と捉えられる。P22はその位置から本遺構の貯蔵穴的存在と考えられる。

遺物

遺物は全て106号遺構で取り上げられたため、本遺構出土遺物は１点も存在しない。ただし、106号遺構出土弥生土器は、本遺構に帰属する可能性が高い。

108号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1014号。昭和63年度調査時遺構番号無し。ただし昭和59年度調査時は、東側周溝とその南側に存在する撹乱を含めた範囲の遺構番号であり、遺跡全体図作成で初めてその存在に気付いた方形周溝墓である。遺構北側は既に消滅しており、215号溝と撹乱（昭和59年度調査時遺構番号1014号）によって東・南側周溝の大半と削平されて存在する。残存する各溝の規模は、東側溝が上端長2.2m、上端幅0.6m前後、深さは31.1cmを、西側溝が上端長5.9m、上端幅1.14m前後、深さは38.5cmを、南側溝は上端長2.3m、上端幅0.58m前後、深さは11.7cmを、北側溝は上端長2.85m、上端幅1.15m前後、深さは23.5cmを測る。残存する東西溝より方台部内径7.96mを測り、東周溝より、主軸方位はN-26°-W を示している。方台部内の１箇所にピットが検出され、深さはＰ１が27.5cmを測る。埋葬施設は検出されなかった。

遺物

調査時に東側周溝とその南に存在する撹乱の遺構番号で取り上げられており、撹乱出土の遺物も含んでいるが、全て一括で取り上げられており分離することができない。調査時遺構番号1014号からは31点235ｇの土器片が出土しており、内訳は12点110ｇの土師器と19点125ｇの弥生土器である。

109号遺構

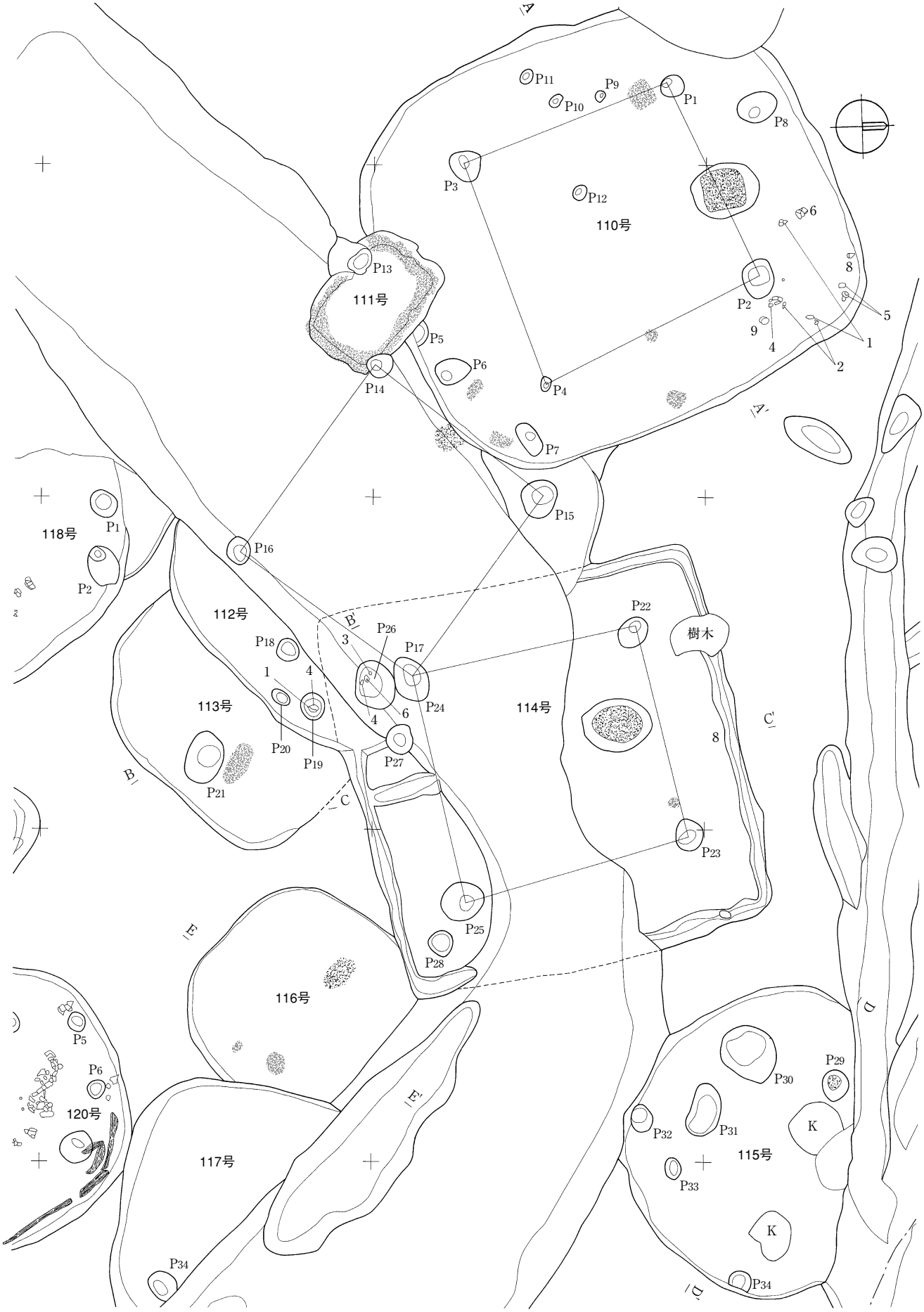
昭和59年度調査時遺構番号1015号。108号遺構方台部内に位置し、西側壁を流出して存在する竪穴住居跡である。残存する壁高は、それぞれ東壁2.8cm、北壁0.7cmを測り、遺存状態は不良である。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長0.62mを測り、主軸方位はN-59°-W を示し、床面より4.1cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、ピットは５箇所に検出された。深さはそれぞれ、Ｐ２が11.0cm、Ｐ３が3.2cm、Ｐ４が19.5cmを測る。Ｐ１はレベル記載がなく、深さは不明である。

遺物

本遺構からは101点822.9ｇの土器片と４点185.8ｇの礫が検出された。その内訳は99点804.1ｇの弥生土器、２点18.8ｇの縄文土器である。これらの出土遺物の内４点を図示した。２は、炉北側の床密着の状態で検出された甕底部である。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

110号遺構

昭和63年度調査時遺構番号H-11号。112号遺構を削平し、111号遺構に削平されて存在する隅丸方形の竪穴住居跡である。６号遺構墳丘裾部の樹木によって、北西コーナー部の調査はできなかったが、長径6.93m短径6.22mを測り、主軸方位はN-24°-W を示す。残存する壁高は、それぞれ東壁47.5cm、西壁34.6cm、南壁31.8cm、北壁33.4cmを測り、遺存状態は不良である。炉は中央やや北寄り



第122図　110～117号遺構実測図

に検出された。長軸長1.0ｍを測り、主軸方位はN-13°-Wを示し、床面より3.4cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、所々に焼土の堆積が認められた。ピットは12箇所に検出された。深さはそれぞれ、Ｐ１が53.7cm、Ｐ２が59.7cm、Ｐ３が51.6cm、Ｐ４が20.0cm、Ｐ５が7.5cm、Ｐ６が19.9cm、P756.8cm、Ｐ８が9.8cm、Ｐ９が17.0cm、P10が20.3cm、P11が16.6cm、P12が34.2cmを測る。

遺物

本遺構からは369点3,710ｇの土器片と11点391ｇの礫が検出された。その内訳は１点25ｇの須恵器、367点3,675ｇの弥生土器、１点10ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内15点を図示した。１・２・４・５・６・８・９は、何れもＰ２付近から検出されているが、４は床面よりおよそ40cm、８は6.4cm、９は19cm離れて出土した。１・２・５・６は何れも床密着の状況で検出されている。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

111号遺構

昭和63年度調査時遺構番号無し。５号遺構（辺田３号墳）・112号遺構を削平して存在する隅丸長方形の炭窯である。長径2.13ｍ短径1.48ｍを測り、主軸方位はN-54°-Wを示す。壁高は、それぞれ東壁51.0cm、西壁22.5cm、南壁28.0cm、北壁52.0cmを測り、壁際がよく焼けている。底面はほぼ平坦であり、ピットは２箇所に検出されたが。P13は壁際の焼土を削平して存在することから、本遺構より新しい段階のものであり、P14は112号遺構の主柱穴であり、直接伴うものではない。深さはそれぞれ、P13が40.5cm、P14が51.4cmを測る。

遺物

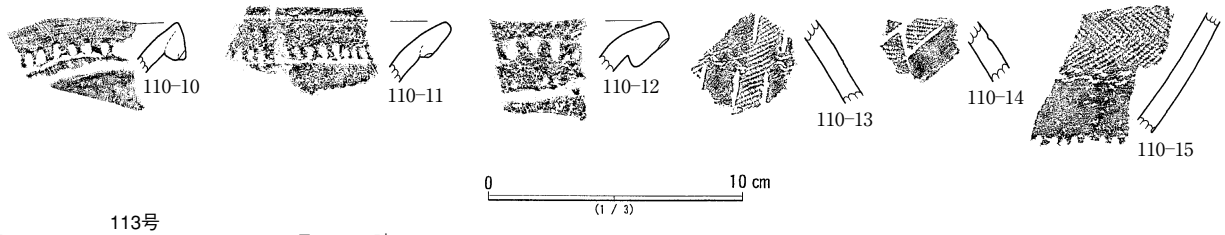
本遺構からは何の遺物も検出されなかった。

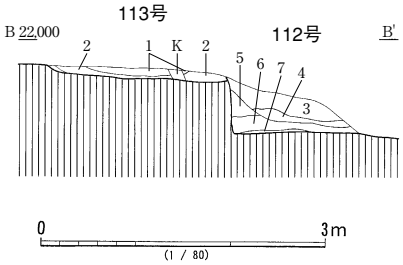
112号遺構

昭和63年度調査時遺構番号H-18号。113号遺構を削平し、５号遺構（辺田３号墳）・110号遺構・114号遺構に削平されて存在する長楕円形の竪穴住居跡である。残存する壁高は、それぞれ東壁16.0cm、南壁49.2cmを測り、遺存状態は不良である。炉は５号遺構（辺田３号墳）周溝に削平されながらも、中央やや北寄りに検出された。残存長軸長32.0cmを測り、主軸方位はN-23°-Wを示し、深さ1.4cmを測る。周溝は存在せず残存する床面はほぼ平坦であり、ピットは７箇所に検出された。深さはそれぞれ、P14が51.4cm、P15が89.7cm、P16が88.6cm、P17が68.8cm、P18が19.8cm、P19が26.2cm、P20が20.6cmを測る。P14～P17は掘り込みも深くしっかりしており、主柱穴と考えられる。

遺物

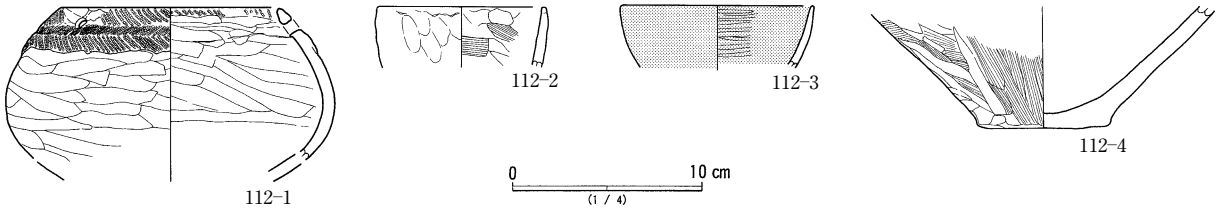
本遺構からは90点898ｇの土器片と12点383ｇの礫が検出された。その内訳は８点39ｇの土師器、79点829ｇの弥生土器、１点10ｇの手捏土器、２点20ｇの早期撚糸文系土器である。これらの出土遺物の内４点を図示した。１・４は、何れもP19内底面から1.5cm浮いた１の上に４が重なった状態で検出されている。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

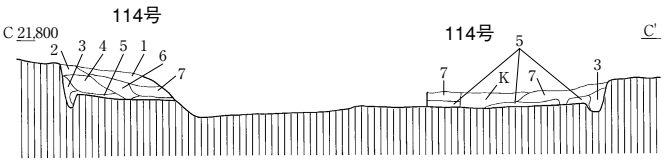




112・113号遺構

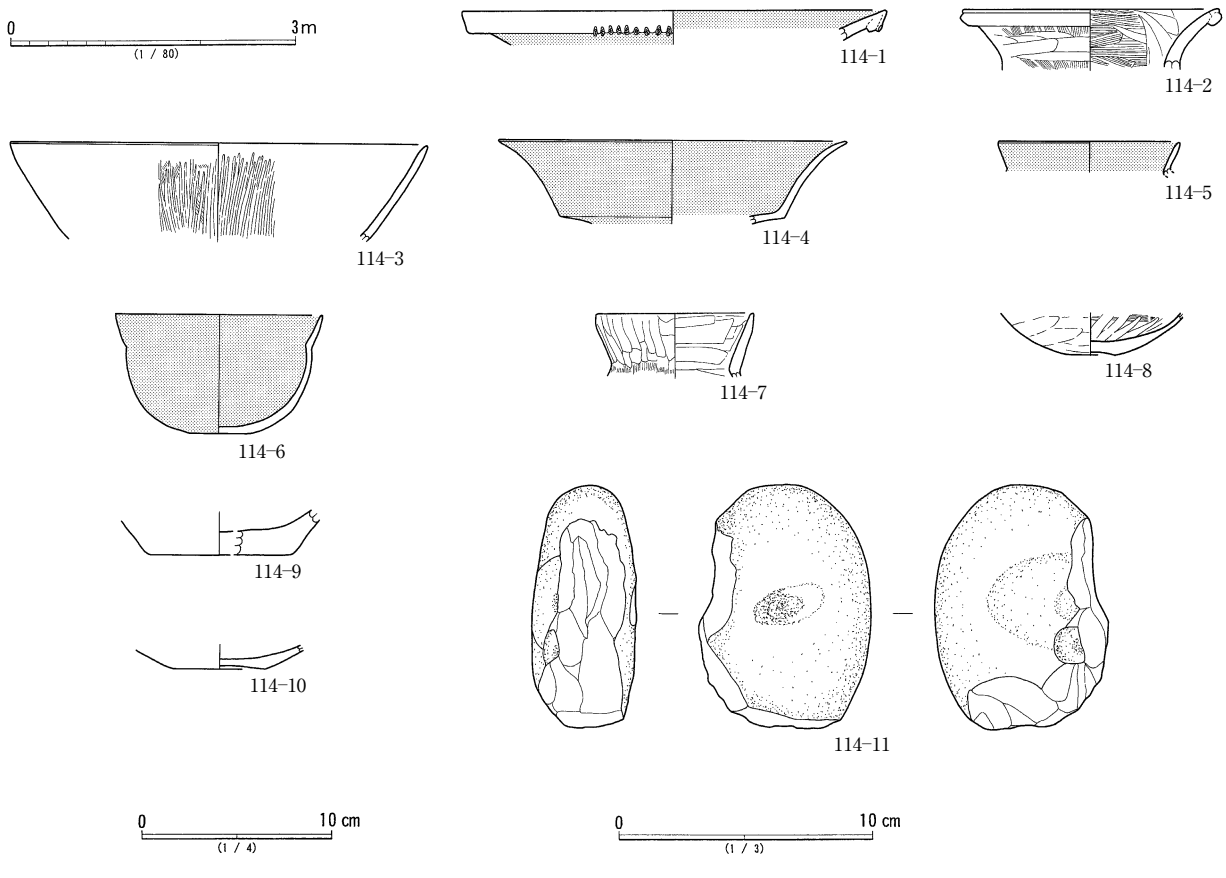
1 黒色土　有機質土。
2 黒色土　硬く締る。以上113号遺構覆土。
3 暗褐色土　ローム粒若干含む。
4 暗褐色土　多量のローム粒、ロームブロックを含む。
5 暗褐色土　ローム粒含む。
6 暗褐色土　ローム粒疎らに含む。
7 褐色土　ローム粒、ロームブロック多量に含む。





114号遺構

1 黒褐色土　汚れた黒色土。
2 暗褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。
3 暗褐色土　汚れたローム粒、ロームブロック含む。
4 暗褐色土　ローム粒含む。
5 暗褐色土　ローム粒含む。硬く締る。
6 黒褐色土　ローム粒若干含む。
7 暗褐色土　ローム粒、ロームブロック疎らに含む。



第123図　112～114号遺構実測図・110・112・114号遺構出土遺物実測図

113号遺構

昭和63年度調査時遺構番号 H-22号。５号遺構（辺田３号墳）の方台部内に存在し、112号・113号遺構に削平されて竪穴住居跡である。残存する壁高は南壁で6.6cmを測り、遺存状態は不良である。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、P21付近に焼土の堆積が認められた。ピットは１箇所に検出され、P21の深さは41.3cmを測る。

遺物

本遺構からの遺物は全く検出されなかった。

114号遺構

昭和63年度調査時遺構番号 H-10号。112・113・116号遺構を削平し、５号遺構（辺田３号墳）に削平されて存在する方形の竪穴住居跡である。長径5.8m短径5.75mを測り、主軸方位は N-13°-W を示す。残存する壁高は、それぞれ東壁13.6cm、西壁15.2cm、南壁56.8cm、北壁23.0cmを測り、遺存状態はやや不良である。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長1.02mを測り、主軸方位は N-13°-W を示し、床面より3.9cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は全周するものと捉えられ、深さはそれそれ東側で5.4cm、西側で3.0cm、南側で7.4cm、北側で8.9cmを測り、南側では間仕切り溝を検出した。深さは15.7cmを測る。５号遺構（辺田３号墳）の削平を免れた床面はほぼ平坦であり、ピットは７箇所に検出された。深さはそれぞれ、P22が74.8cm、P23が69.6cm、P24が68.8cm、P25が67.2cm、P26が37.3cm、P27が41.2cm、P28が32.0cmを測る。P22～P25は主柱穴と考えられ、掘り込みも深くしっかりしている。P26は内部より遺物が出土することから、貯蔵穴と想定される。

遺物

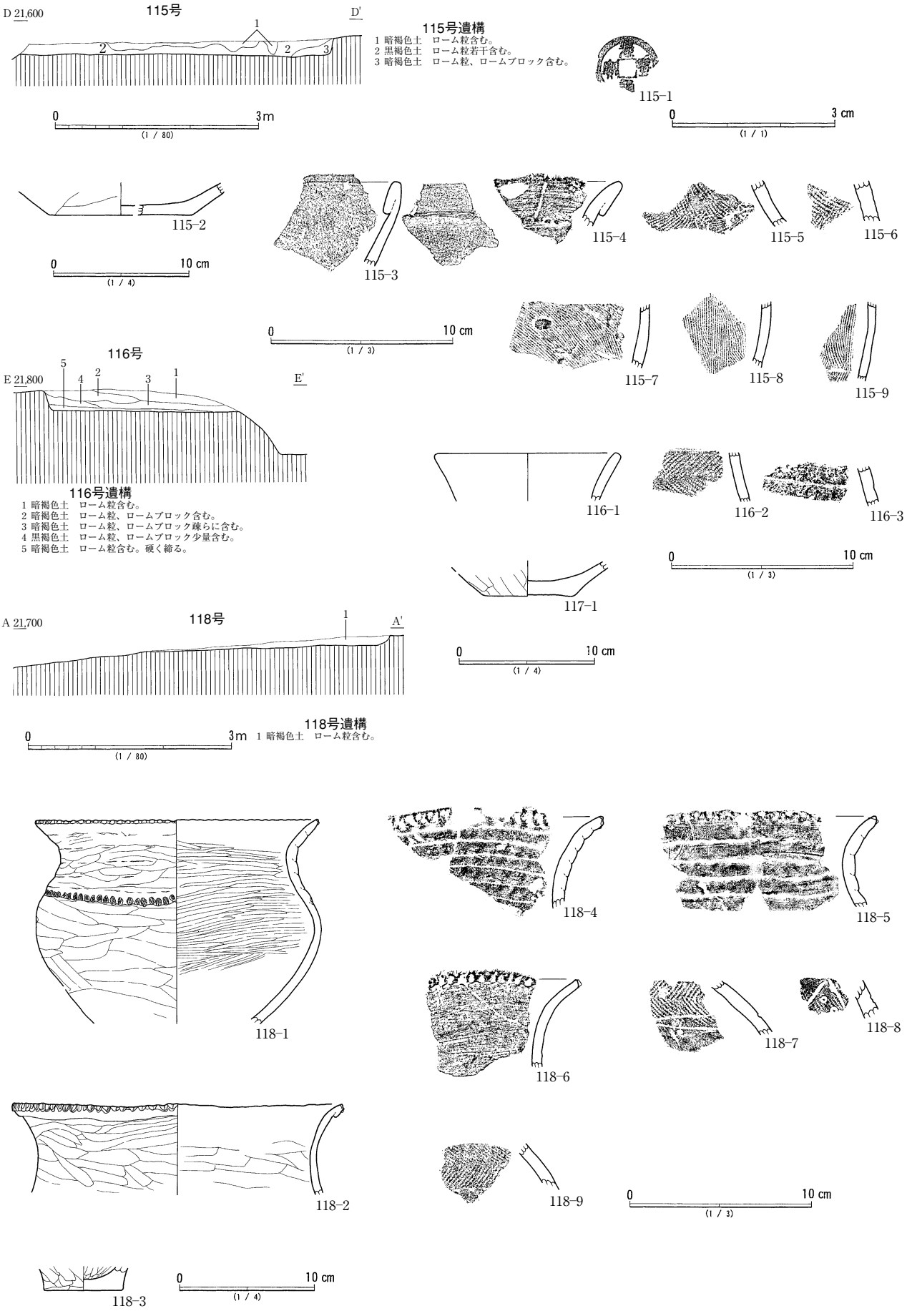
本遺構からは183点1,505ｇの土器片と５点620ｇの礫・石器が検出された。その内訳は107点1,008ｇの土師器、70点442ｇの弥生土器、２点25ｇの早期撚糸文系土器、４点30ｇの早期条痕文系土器、１点390ｇの凹石である。これらの出土遺物の内11点を図示した。３・４・６は、何れも P26内で、それぞれ３が11.6cm、４が25.7cm、６が23.5cm程底から浮いた状態で検出されている。８は北側周溝付近の床面密着の状態で出土した。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

115号遺構

昭和63年度調査時遺構番号 H-９号。５号遺構（辺田３号墳）・215号溝に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存する壁高は、それぞれ東壁23.0cm、西壁12.6cm、南壁4.0cmを測り、遺存状態は不良である。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長0.49mを測り、主軸方位は N-82°-W を示し、床面より7.2cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、ピットは５箇所に検出された。深さはそれぞれ、P29が27.1cm、P30が19.3cm、P31が14.0cm、P32が36.1cm、P33が13.0cmを測る。

遺物

本遺構からは104点813ｇの土器片と９点423ｇの礫、１点1.3ｇの古銭が検出された。その内訳は15点172ｇの土師器、１点12ｇの須恵器、76点461ｇの弥生土器、12点168ｇ早期条痕文系土器である。



第124図　115・116・118号遺構実測図・115～118号遺構出土遺物実測図

これらの出土遺物の内９点を図示した。本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

116号遺構

昭和63年度調査時遺構番号 H-17号。５号遺構（辺田３号墳）・114号遺構・117号遺構に削平されて存在する隅丸方形の竪穴住居跡である。長径3.18ｍを測り、主軸方位は N-42°-W を示す。残存する壁高は、それぞれ西壁29.4cm、南壁25.8cm、北壁14.4cmを測り、遺存状態はやや不良である。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長0.6ｍを測り、主軸方位は N-42°-W を示し、床面同レベルで火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、南側に焼土の堆積が認められた。

遺物

本遺構からは28点180ｇの土器片と６点480ｇの礫が検出された。その内訳は24点140ｇの弥生土器、１点10ｇの早期撚糸文系土器、３点30ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内３点を図示した。本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

117号遺構

昭和63年度調査時遺構番号 H-16号。116号遺構を削平し、５号遺構（辺田３号墳）に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存する壁高は、それぞれ東壁32.9cm、西壁6.8cm、南壁42.5cmを測り、遺存状態は不良である。炉は５号遺構に削平されたものと想定され、周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、ピットは１箇所に検出された。深さは P34が8.4cmを測る。

遺物

本遺構からは35点252ｇの土器片と１点30ｇの礫が検出された。その内訳は33点237ｇの弥生土器、１点５ｇの早期撚糸文系土器、１点10ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内１点を図示したが、本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

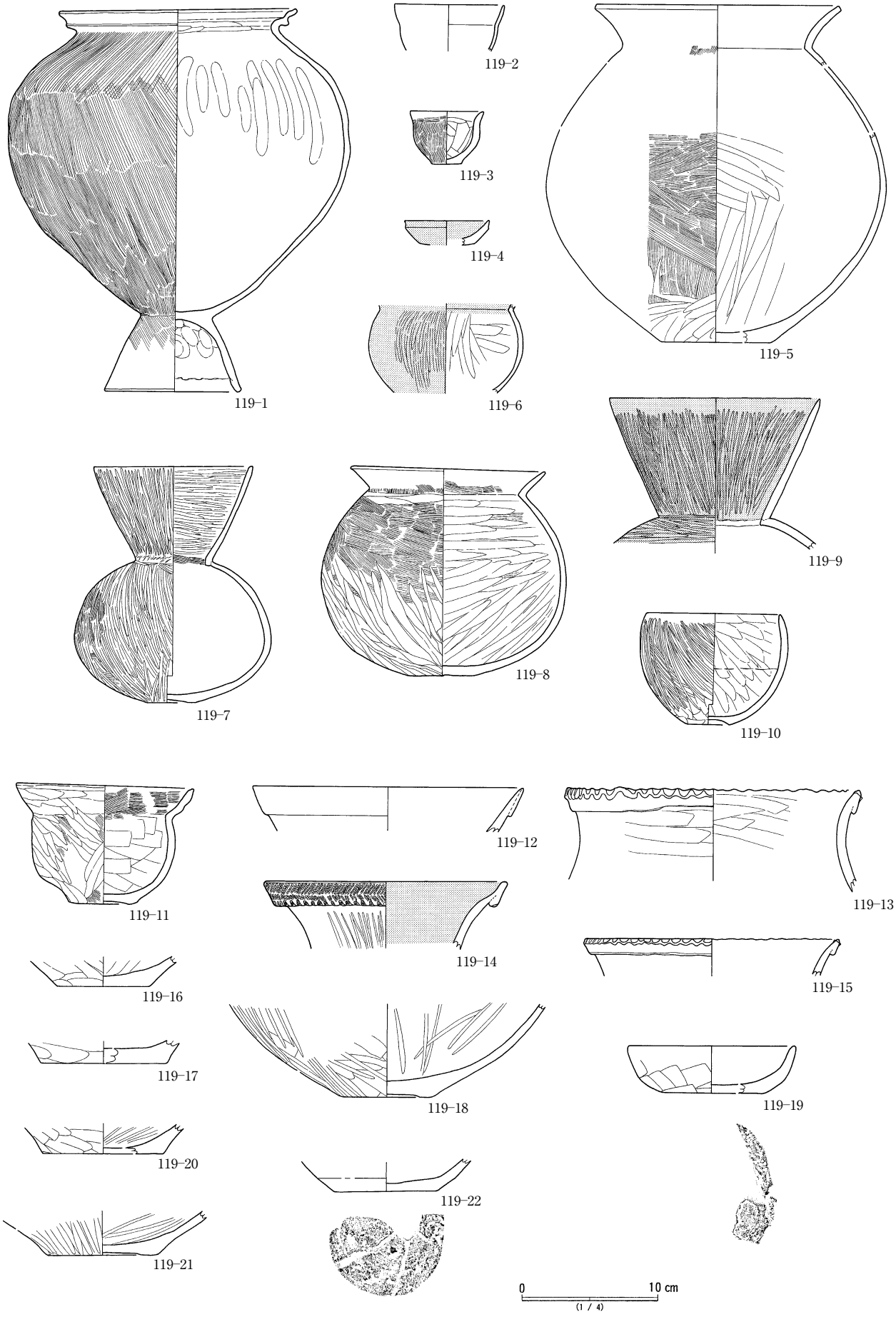
118号遺構

昭和63年度調査時遺構番号 H-19号。遺構の西側を流出し、５号遺構（辺田３号墳）墳丘下に存在する残存径約4.35ｍの竪穴住居跡である。残存する壁高は、それぞれ東壁13.7cm、西壁4.1cm、南壁9.0cmを測り、遺存状態は不良である。炉は中央やや南寄りに検出された。長軸長1.12ｍを測り、主軸方位は N-13°-W を示し、床面より10.9cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、ピットは５箇所に検出された。深さはそれぞれ、Ｐ１が14.4cm、Ｐ２が11.8cm、Ｐ３が2.2cm、Ｐ４が17.0cm、Ｐ５が23.8cmを測る。

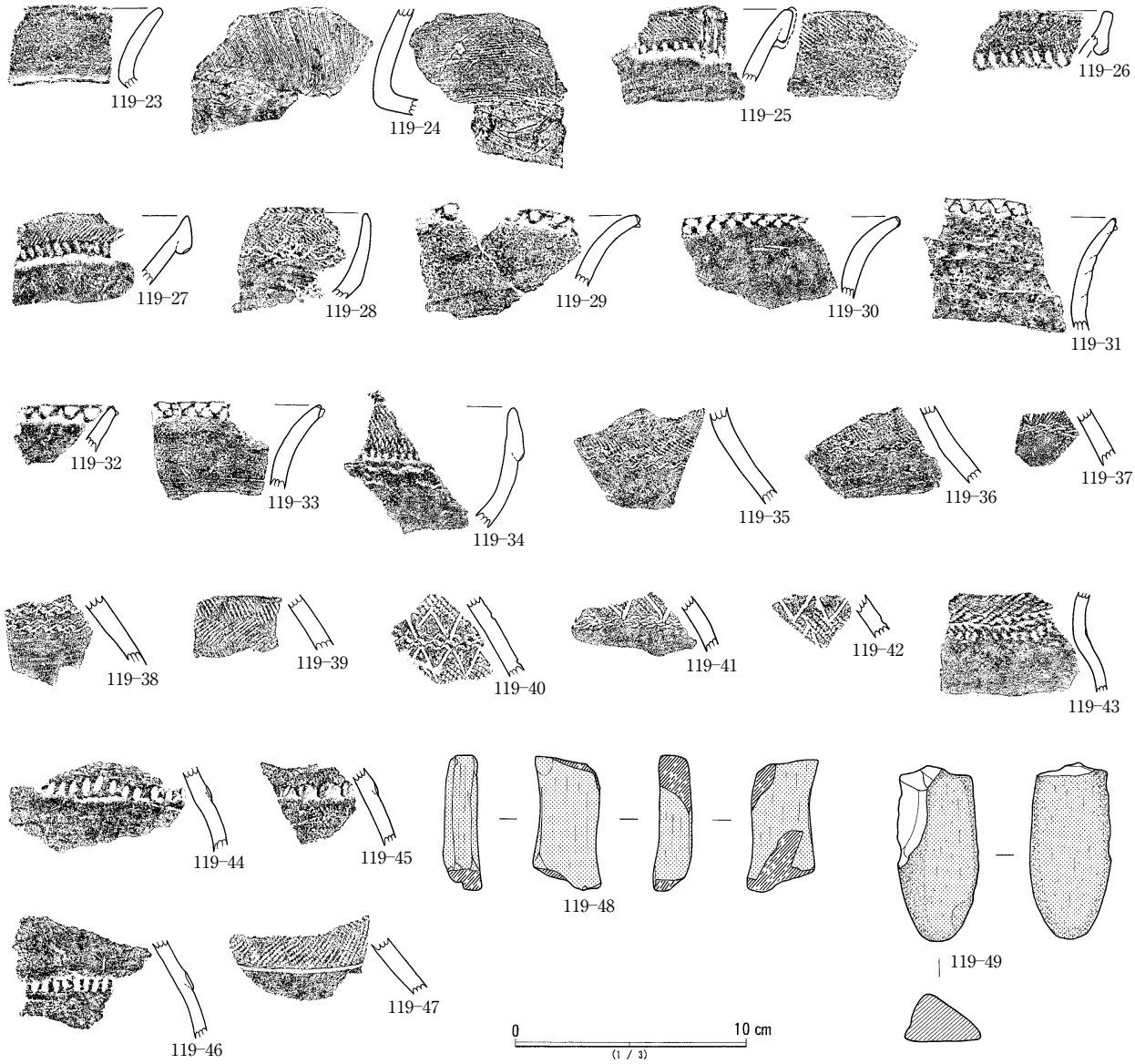
遺物

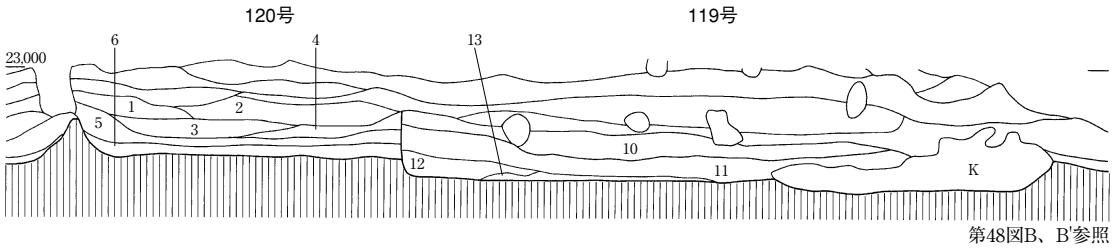
本遺構からは154点1,656ｇの土器片と６点225ｇの礫が検出された。土器片の内訳は５点35ｇの土師器、146点1,586ｇの弥生土器、３点35ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内９点を図示した。１・２は、それぞれの位置で何れも床面密着の状態で検出された。これ以外の遺物は何れ

第125図　118～121号遺構実測図

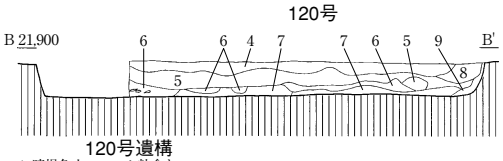


第126図　119号遺構出土遺物実測図



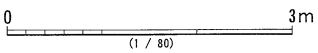


第48図B、B'参照

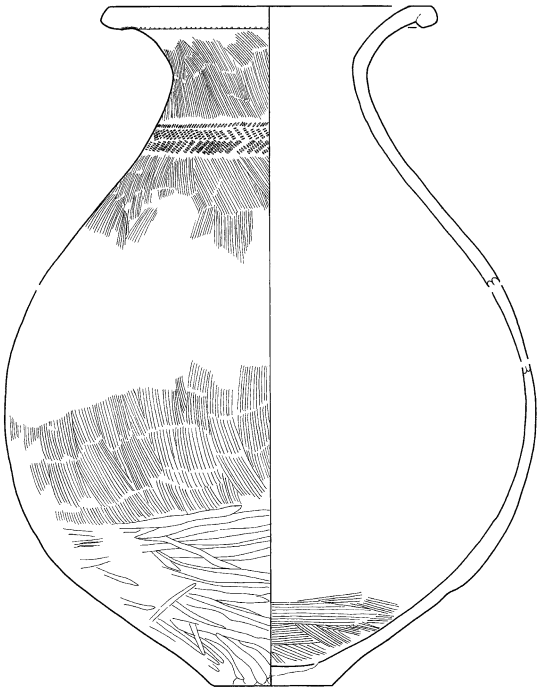


120号遺構
1 暗褐色土　ローム粒含む。
2 明褐色土　多量のローム粒含む。
3 暗茶褐色　ローム粒、ロームブロック多く含む。
4 茶褐色土　ローム粒含む。
5 暗褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。
6 褐色土　焼土粒、炭化物ロームブロック含む。
7 暗褐色土　焼土、炭化物多量に含む。
8 暗褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。
9 暗褐色土　焼土、炭化物含む。

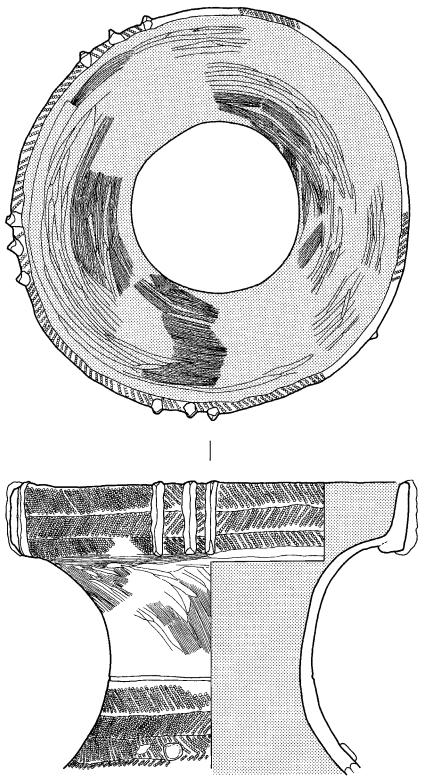
119号遺構
10 暗褐色土　ローム粒、ロームブロック疎らに含む。
11 暗褐色土　茶褐色土をブロック状に含む。
12 暗褐色土　茶褐色土をブロック状に多く含む。
13 暗褐色土　焼土、炭化物多量に含む。



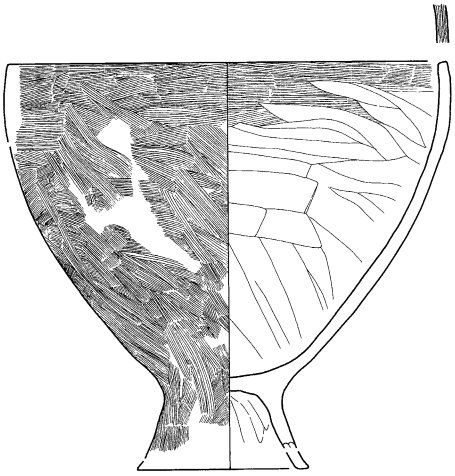
第127図　119・120号遺構実測図・119号遺構出土遺物実測図



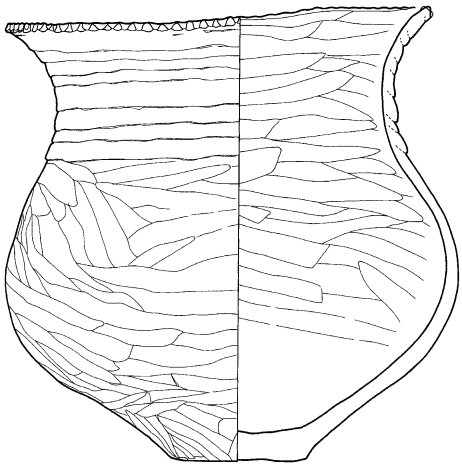
120−1



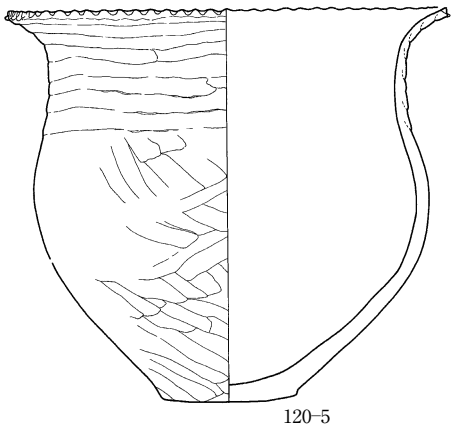
120−2



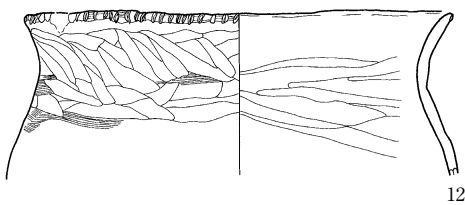
120−3



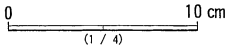
120−4



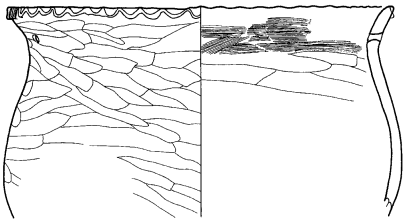
120−5

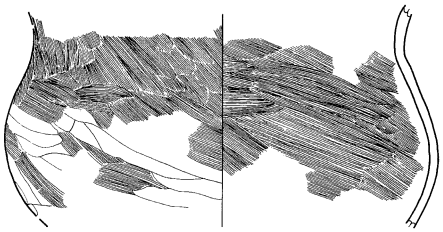


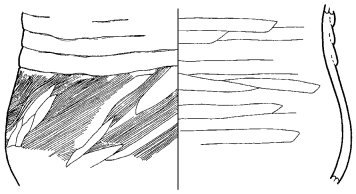
120−6

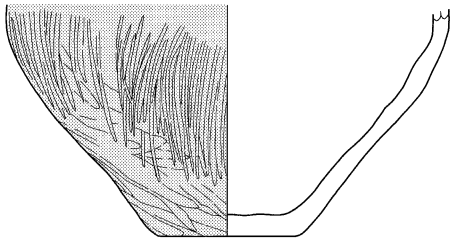


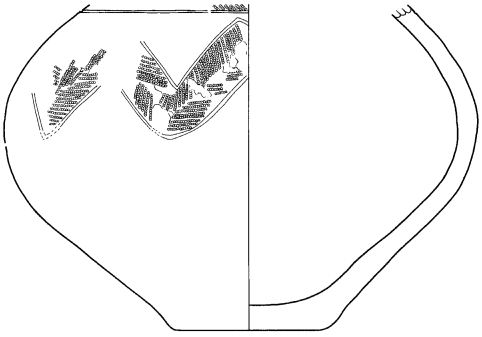
第128図　120号遺構出土遺物実測図

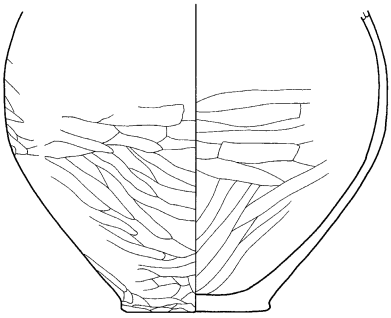

120-7

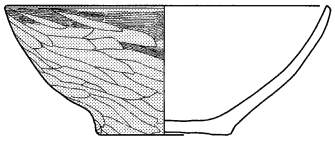

120-8

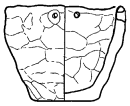

120-9

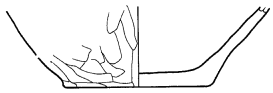

120-10

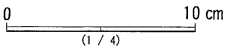

120-11

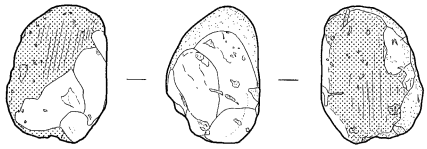

120-12

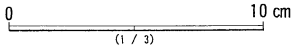

120-13


120-14


120-15




120-16



第129図　120号遺構出土遺物実測図

も覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

119号遺構

昭和63年度調査時遺構番号 H-15号。５号遺構（辺田３号墳）墳丘下ほぼ中央に位置し、120号遺構を削平して存在する方形の竪穴住居跡である。長径5.6m短径5.45mを測り、主軸方位はN-62°-Wを示す。南側と床面の一部に撹乱が存在し、残存する壁高は、それぞれ東壁29.8cm、西壁57.6cm、南壁24.0cm、北壁15.6cmを測り、特に西側の遺存状態が良好である。炉は中央やや西寄りに検出された。長軸長0.82mを測り、主軸方位はN-48°-W を示し、床面より0.2cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は東側と北側に検出された。深さはそれぞれ５cm前後を測る。東側中央に間仕切り状の溝が存在し、これを中心とした南北及び西側の床面が、炉の存在する床面より２～３cm程高くなるベッド状遺構の床面構造を持つ。床面の至る所から焼土・木炭が検出され、本遺構は火災住居である事が明白である。ピットは６箇所に検出され、深さはそれぞれＰ１が46.6cm、Ｐ２が43.3cm、Ｐ３が63.3cm、Ｐ４が60.1cm、Ｐ５が29.4cm、Ｐ６が54.5cmを測る。Ｐ１～Ｐ４は、掘り込みも深くしっかりしており主柱穴と想定されるが、Ｐ１～Ｐ３は柱掘り方が小さく特異な例であるといえる。

遺物

本遺構からは1,098点13,336ｇの土器片と60点1,095ｇの礫・石器が検出された。その内訳は361点6,840ｇの土師器、683点5,916ｇの弥生土器、４点30ｇの早期撚糸文系土器、47点470ｇの早期条痕文系土器、１点40ｇの砥石、１点75ｇの磨石である。これらの出土遺物の内49点を図示した。１・２・７・10・11・18は、ベッド状遺構の存在しない北東コーナー部の床面密着の状態で検出されている。５・18は北側のベッド状遺構コーナーから中央部で、６は南側ベッド状遺構の脇、９は西側のベッド状遺構の切れ間、48は間仕切り溝付近のベッド状遺構から、それぞれ床面密着の状態で検出された。13はＰ５付近の床面から16.3cm浮いた状態で検出された。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。なお、本遺構出土遺物の内、１・７・８・９・10・11は昭和63年度年報で既に紹介されている遺物であるが、整理に際し再接合を行った結果、かなりの遺物に新たなパーツが接合し、土器の歪みがかなり矯正された。このため、再実測を行いこれを図化したものである。１はかなり薄手に製作されたＳ字台付甕であり、製作技法・焼成・胎土が在地のものではないため、搬入品と想定される。また、５号遺構（辺田３号墳）に封印されて存在するにも関わらず、覆土中より19のカワラケ等が出土することから、南側の撹乱はこの段階以降のものと判断することができる。

120号遺構

昭和63年度調査時遺構番号 H-21号。５号遺構（辺田３号墳）墳丘下に位置し、119号遺構に削平されて存在する長楕円形の竪穴住居跡である。長径4.78m短径4.02mを測り、主軸方位はN-26°-W を示す。残存する壁高は、それぞれ東壁32.1cm、西壁32.1cm、南壁30.5cm、北壁31.9cmを測り、119号遺構に削平されるものの遺存状態は良好である。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長0.72mを測り、主軸方位はN-10°-W を示し、床面より1.3cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、床面の東壁寄りや炉の南側に焼土・木炭が検出された。ピットは８箇所

に検出され、深さはそれぞれＰ１が68.9cm、Ｐ２が57.3cm、Ｐ３が79.2cm、Ｐ４が53.0cm、Ｐ５が40.4cm、Ｐ６が16.3cm、Ｐ７が15.0cm、Ｐ８が25.4cmを測る。Ｐ１～Ｐ４は掘り込みも深くしっかりしており、主柱穴と想定される。

遺物

本遺構からは506点11,163ｇの土器片と５点105.6ｇの礫・石器が検出された。その内訳は10点110ｇの土師器、491点10,493ｇの弥生土器、１点80ｇの手捏土器、４点30ｇの早期条痕文系土器、１点14.7ｇの軽石である。これらの出土遺物の内16点を図示した。１～14は、全て床面密着の状態で検出されている。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

121号遺構

昭和63年度調査時遺構番号 H-20号。５号遺構（辺田３号墳）に東側の大半を削平されて存在する竪穴住居跡である。短径3.96ｍを測り、主軸方位は N-57°-W を示す。残存する壁高は、それぞれ東壁20.8cm、西壁14.4cm、北壁13.5cmを測り、遺存状態は不良である。炉は中央やや西寄りに検出された。長軸長0.44ｍを測り、主軸方位は N-44°-W を示し、床面より4.1cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、ピットは３箇所で検出された。深さはそれぞれＰ１が38.2cm、Ｐ２が16.5cm、Ｐ３が20.3cmを測る。

遺物

本遺構からは119点1,033ｇの土器片と６点270ｇの礫・石器が検出された。その内訳は１点33ｇの土師器、109点882ｇの弥生土器、９点118ｇの早期条痕文系土器、１点15ｇの礫斧、１点５ｇのスクレイパーである。これらの出土遺物の内15点を図示した。本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

122号遺構

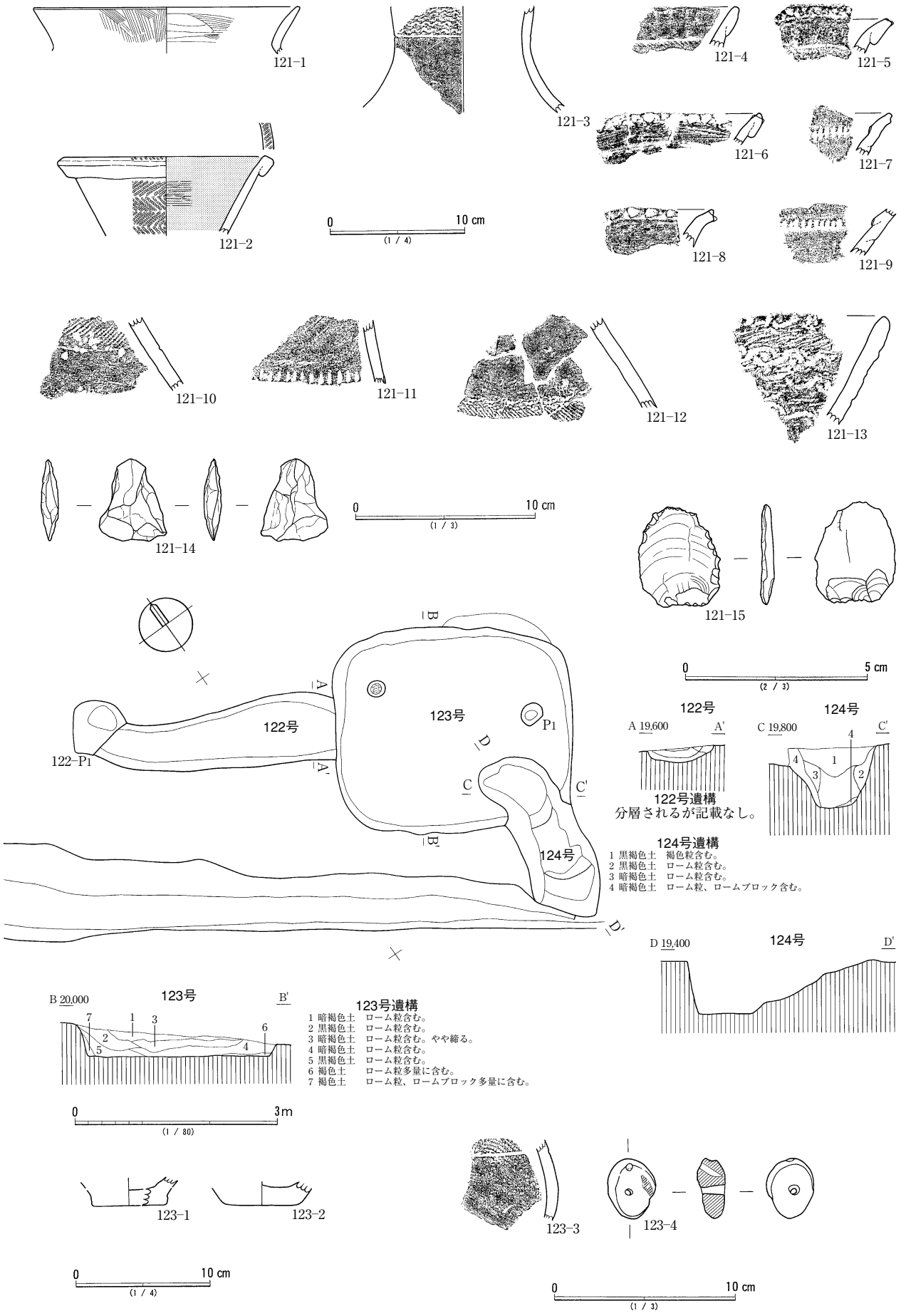
昭和63年度調査時遺構番号溝Ａ号。５号遺構（辺田３号墳）の南側に位置し、123号遺構南北土層断面に見当たらないことから、123号遺構に削平されて存在する溝である。長さ3.88m、最大幅1.0m、深さ最大20.2cmを測り、主軸方位は N-59°-W を示す。５号遺構東側周溝南端が、本遺構に向かって西に折れ曲がることから、単独の溝ではなく、５号遺構南側周溝の一部の可能性もあるが、時期を示す遺物に恵まれず確証に至らない。

遺物

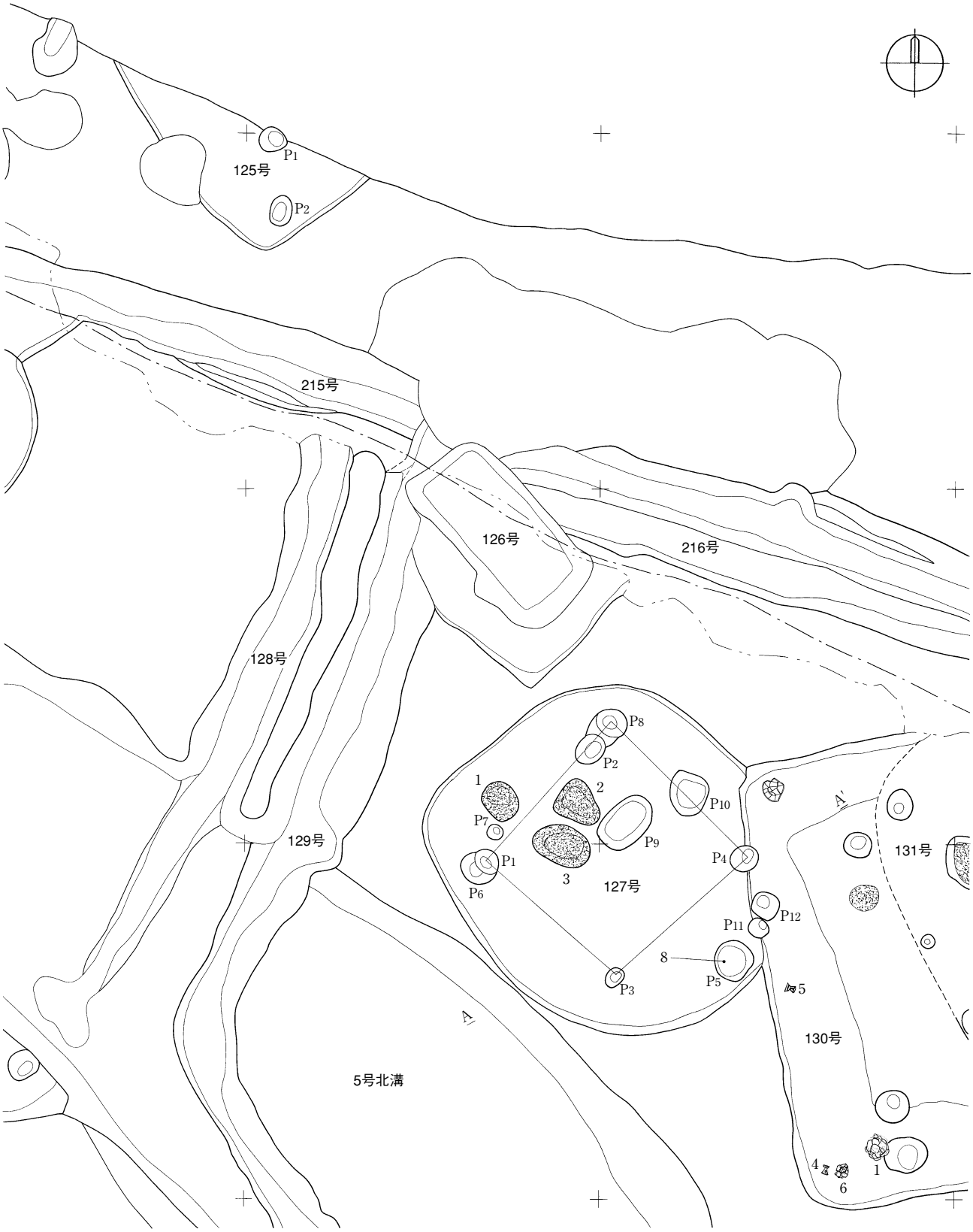
本遺構からは何の遺物も検出されなかった。

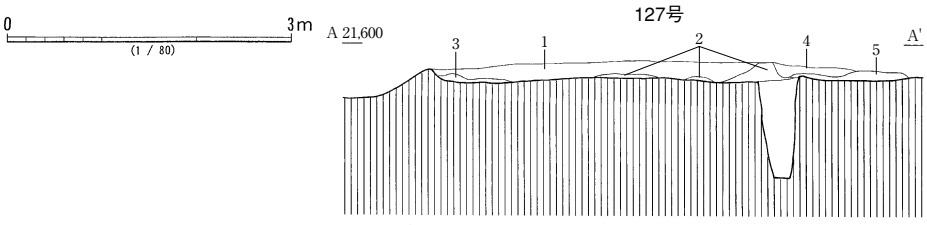
123号遺構

昭和63年度調査時遺構番号 H-20号。５号遺構（辺田３号墳）の南側に位置し、122号遺構を削平して存在する隅丸長方形の竪穴住居跡である。長径3.52m短径3.05ｍを測り、主軸方位は N-57°-W を示す。残存する壁高は、それぞれ東壁37.1cm、西壁26.6cm、南壁16.7cm、北壁42.5cmを測り、遺存状態は良好である。炉は北西コーナー部に近い偏った位置に検出された。長軸長0.28ｍを測り、主軸方



第130図　122～124号遺構実測図・121・123号遺構出土遺物実測図





127号遺構

1 暗褐色土　ローム粒含む。
2 褐色土　ローム粒多量に含む。
3 暗褐色土　ローム粒やや多く含む。
4 黒褐色土　多量のローム粒含む。
5 暗褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。
硬く締る。

第131図　125～129号遺構実測図

位はN−58°−Wを示し、床面より4.5cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、ピットは1箇所で検出された。深さはP1が17.5cmを測る。

遺物

本遺構からは30点290gの土器片と3点70gの礫・石器が検出された。その内訳は2点60gの土師器、28点230gの弥生土器、1点10gの凝灰岩製の有孔円盤である。これらの出土遺物の内4点を図示した。本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

124号遺構

昭和63年度調査時遺構番号SK−5号。灰釉蔵骨器を検出した103号遺構と類似構造の遺構であり、123号遺構を削平して存在する。蔵骨器としての器が検出されなかったことから、木櫃等を地下式小型玄室内に納める火葬墓であろうと推定される。墓壙長径2.68m短径0.94mを測り、主軸方位はN−13°−Eを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁77.8cm、西壁76.2cm、南壁16.6cm、北壁92.7cmを測る。玄室天井部は既に崩落しており、木炭の充填も認められないが、その構造から幅52cm奥行き84cmに玄室の規模を復元することができる。

遺物

蔵骨器や火葬骨の検出を期待したが、本遺構からは何の遺物も検出されなかった。

125号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1013号。115号遺構の北側に位置し、遺構の大半は既に削平されて存在する竪穴住居跡である。南壁下端に直交するラインから、主軸方位はN−36°−Wを示す。残存する壁高は、それぞれ西壁4.5cm、南壁3.5cmを測り、遺存状態は不良である。炉・周溝は検出されず床面はほぼ平坦であり、ピットは2箇所に検出された。深さはP1が72.3cm、P2が27.2cmを測る。

遺物

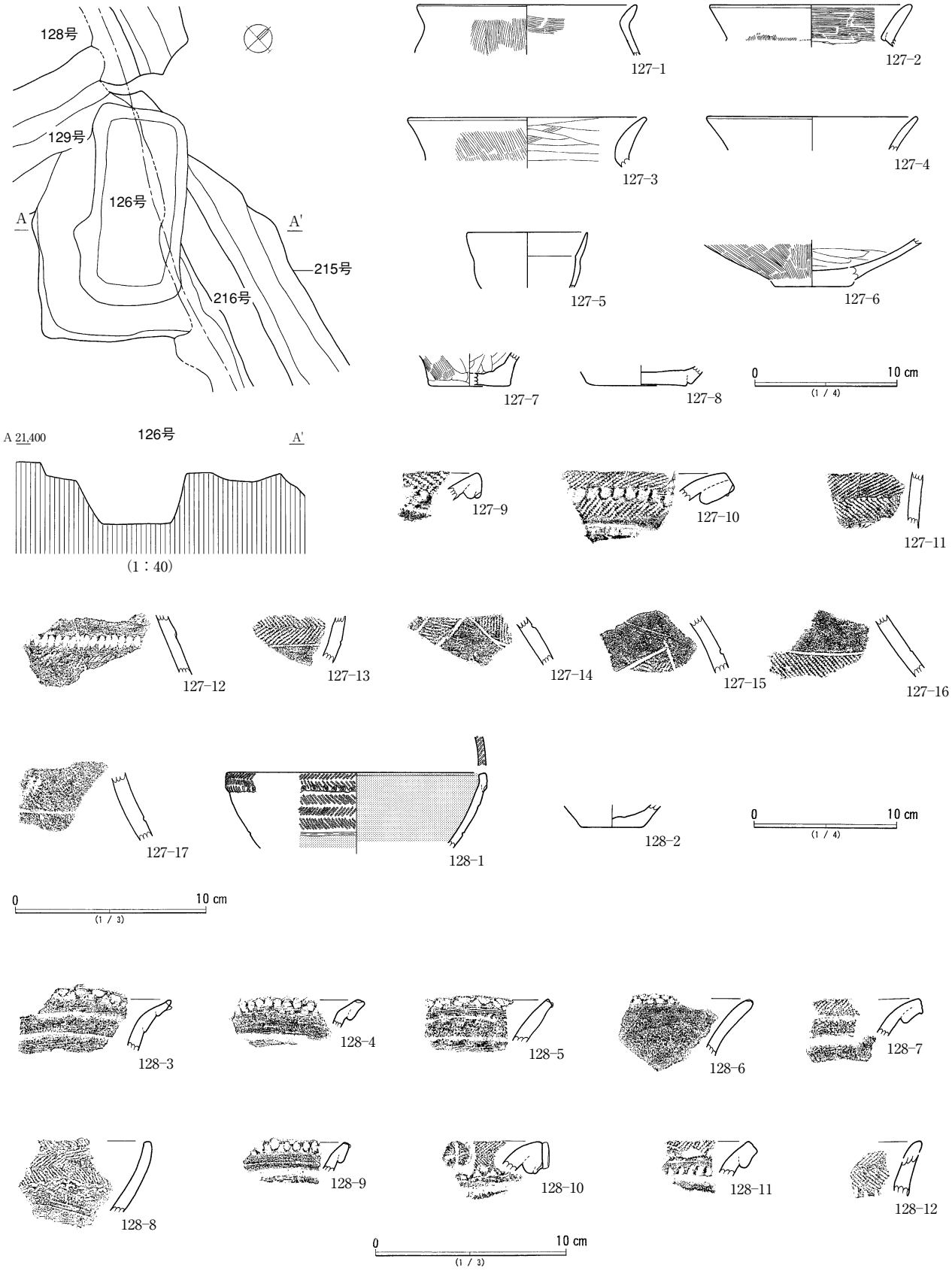
本遺構からは12点の磨耗した弥生土器片83.5gが検出されたが、図示に至るものはない。

126号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1012号。昭和63年度調査時遺構番号SK−2号。調査年度が2ヵ年に跨って調査され、129号溝と216号溝に墓壙の一部を削平されて存在する掘り方二段構造の木棺墓である。墓壙1段目は、残存する壁高より西壁13.3cm、南壁23.8cmで地山ロームに達し、中央部に木棺痕と想定される有機質土を検出する。残存する西南部の墓壙掘り方より、推定墓壙長径（3.6）m短径（2.8）mを測る。木棺痕は上端で長径2.8m短径1.32mを測り、主軸方位はN−41°−Eを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁50.5cm、西壁59.8cm、南壁55.7cm、北壁37.3cmを測り、深さ最大59.8cmを測る。木棺痕下端より長さ2.3m幅1.04m以内、高さ50cm程度の木棺が安置されていたものと想定される。

遺物

本遺構からは何の遺物も検出されなかった。



第132図　126号遺構実測図・127・128号遺構出土遺物実測図

第133図　130～133・140号遺構実測図

127号遺構

昭和63年度調査時遺構番号 H−７号。130号遺構に削平されて存在する長楕円形の竪穴住居跡である。長径4.94m短径4.42mを測り、主軸方位は N−45°−W を示す。残存する壁高は、それぞれ東壁21.1cm、西壁6.7cm、南壁9.4cm、北壁3.7cmを測り、遺存状態は不良である。炉は中央やや北寄りの３箇所から検出された。①は長軸長0.56mを測り、主軸方位は N−40°−W を示し、床面より1.0cm程下がった位置で火床を検出する。②は長軸長0.68mを測り、主軸方位は N−50°−W を示し、床面より10.3cm程下がった位置で火床を検出する。③は長軸長0.84mを測り、主軸方位は N−73°−W を示し、床面より0.2cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、ピットは12箇所に検出され、深さはそれぞれＰ１が77.9cm、Ｐ２が70.4cm、Ｐ３が78.0cm、Ｐ４が89.8cm、Ｐ５が16.5cm、Ｐ６が6.7cm、Ｐ７が21.4cm、Ｐ８が69.6cm、Ｐ９が18.3cm、P10が17.3cm、P11が45.7cm、P12が19.8cmを測る。Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４・Ｐ８が位置的にも、掘り込みも深くしっかりしており、主柱穴と想定される。

遺物

本遺構からは41点597ｇの土器片と11点275ｇの礫が検出された。土器片の内訳は19点267ｇの土師器、１点８ｇの須恵器、13点257ｇの弥生土器、８点65ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内17点を図示した。１～６は土師器であり隣接する130号遺構に伴う可能性が高い。８はＰ５の底面から17.6cm浮いた状態で検出されている。Ｐ５は深さ16.5cmのピットであるため、Ｐ５が埋没した状態での床面からは1.1cm離れた状態で出土したことになる。８以外の遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

128号遺構

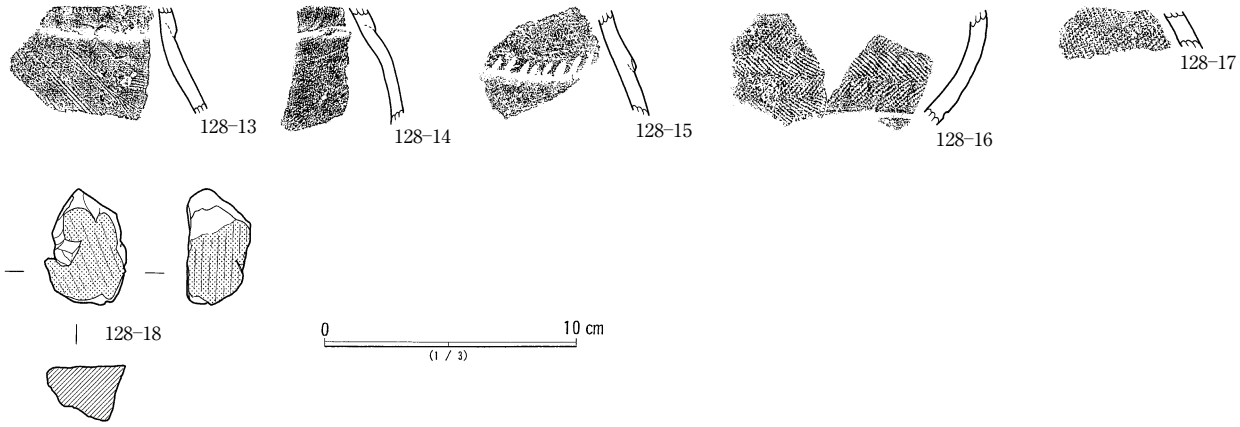
昭和63年度調査時遺構番号 ST−１号（溝 B)。当初遺構番号では129号遺構と同一遺構であるが、Ａ・Ｂの補助番号が付されていたので分離した。129号遺構の西隣に位置し、５号遺構（辺田３号墳）を削平するが、５号北側周溝内で消息を絶つ溝である。長さ9.28m最大幅1.0m、深さ11.8～32.2cmを測る。

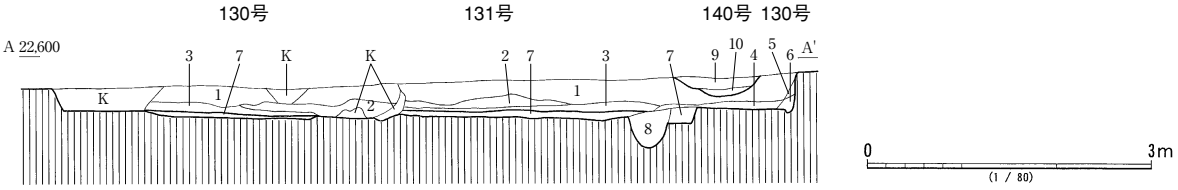
129号遺構

昭和63年度調査時遺構番号 ST−１号（溝 A)。128号遺構の東に隣接し、５号遺構（辺田３号墳）北側周溝内を削平しながら走るが、東側周溝に差し掛かる付近で消息を絶つ溝である。長さ16.66m最大幅1.3m、深さ7.6～31.4cmを測る。

遺物

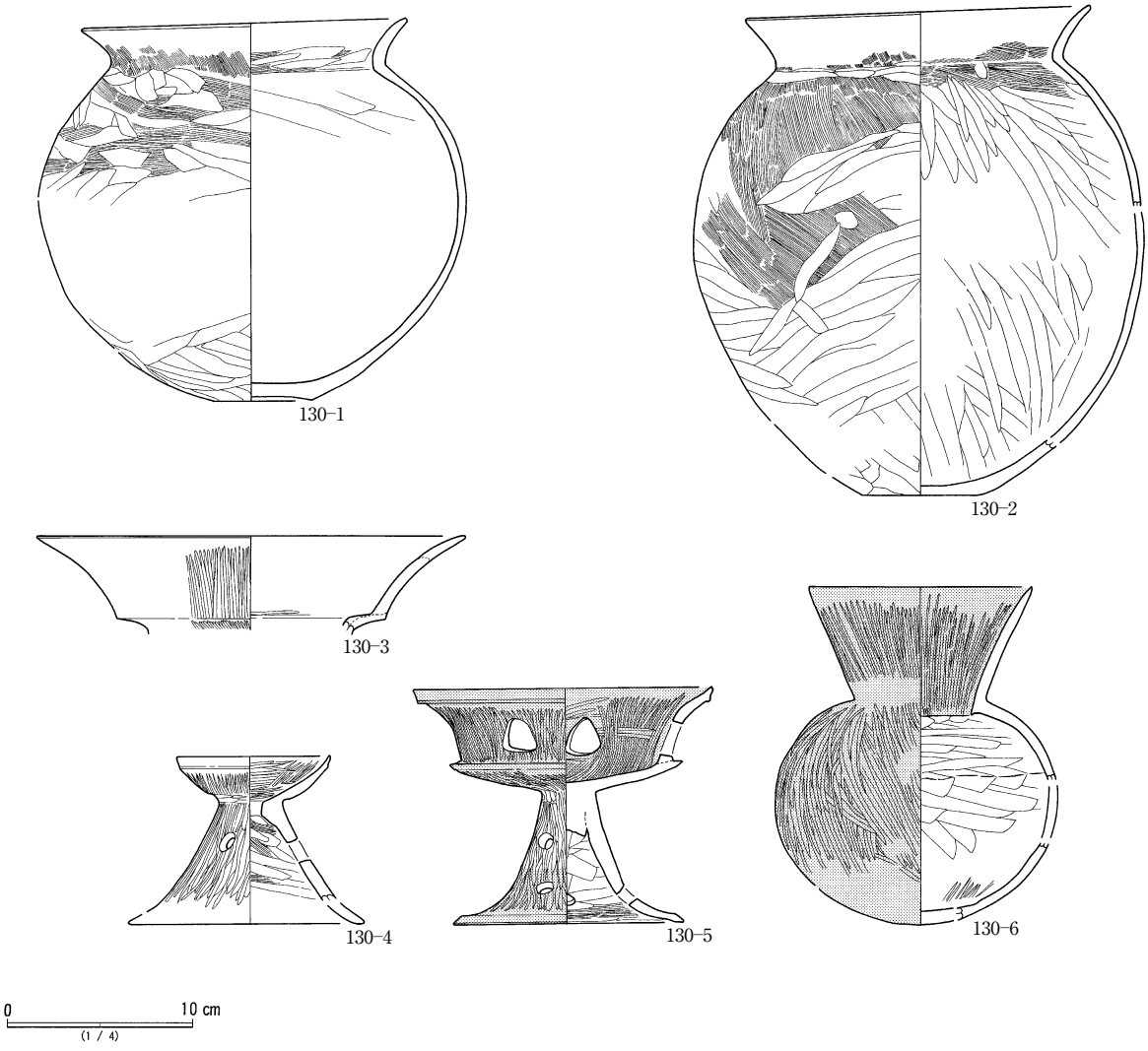
当初遺構番号が同じなため、遺物は128号・129号遺構一括で取り上げられている。両遺構からは404点2,755ｇの土器片と79点2,252.4ｇの礫・石器が検出された。その内訳は23点230ｇの土師器、377点2,495ｇの弥生土器、２点20ｇの早期条痕文系土器、２点30ｇの加曽利Ｂ式土器、１点12.4ｇの軽石である。これらの出土遺物の内18点を図示した。本遺構出土遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。





130・131・140号遺構

1 黒褐色土　ローム粒多量に含む。
2 暗褐色土　ローム粒含む。
3 黒色土　ローム粒若干含む。
4 黒褐色土　硬く締る。
5 暗茶褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。やや締り欠く。
6 暗茶褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。
7 暗褐色土　ローム粒、ロームブロック主体。硬く締る。131号覆土。
8 暗褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。
9 黒褐色土　ローム粒含む。
10 暗褐色土　硬く締る。以上140号遺構



第134図　130・131・140号遺構実測図・128・130号遺構出土遺物実測図

130号遺構

昭和63年度調査時遺構番号H−６Ａ号。127号遺構・131号遺構を削平して存在し、140号溝に削平されて存在する方形の竪穴住居跡である。長径6.6m短径6.55mを測り、主軸方位はN−８°−Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁40.0cm、西壁22.9cm、南壁35.6cm、北壁25.3cmを測り、遺存状態は良好である。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長0.92mを測り、主軸方位はN−42°−Wを示し、床面より6.4cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず、南及び西側の床面が、炉の存在する床面より２～３cm程高くなるベッド状遺構の床面構造を持つ。ピットは６箇所に検出され、深さはそれぞれＰ１が53.3cm、Ｐ２が31.4cm、Ｐ３が45.7cm、Ｐ４が56.4cm、Ｐ５が20.2cm、Ｐ６が50.8cmを測る。Ｐ１～Ｐ４は掘り込みも深くしっかりしており、主柱穴と想定される。

遺物

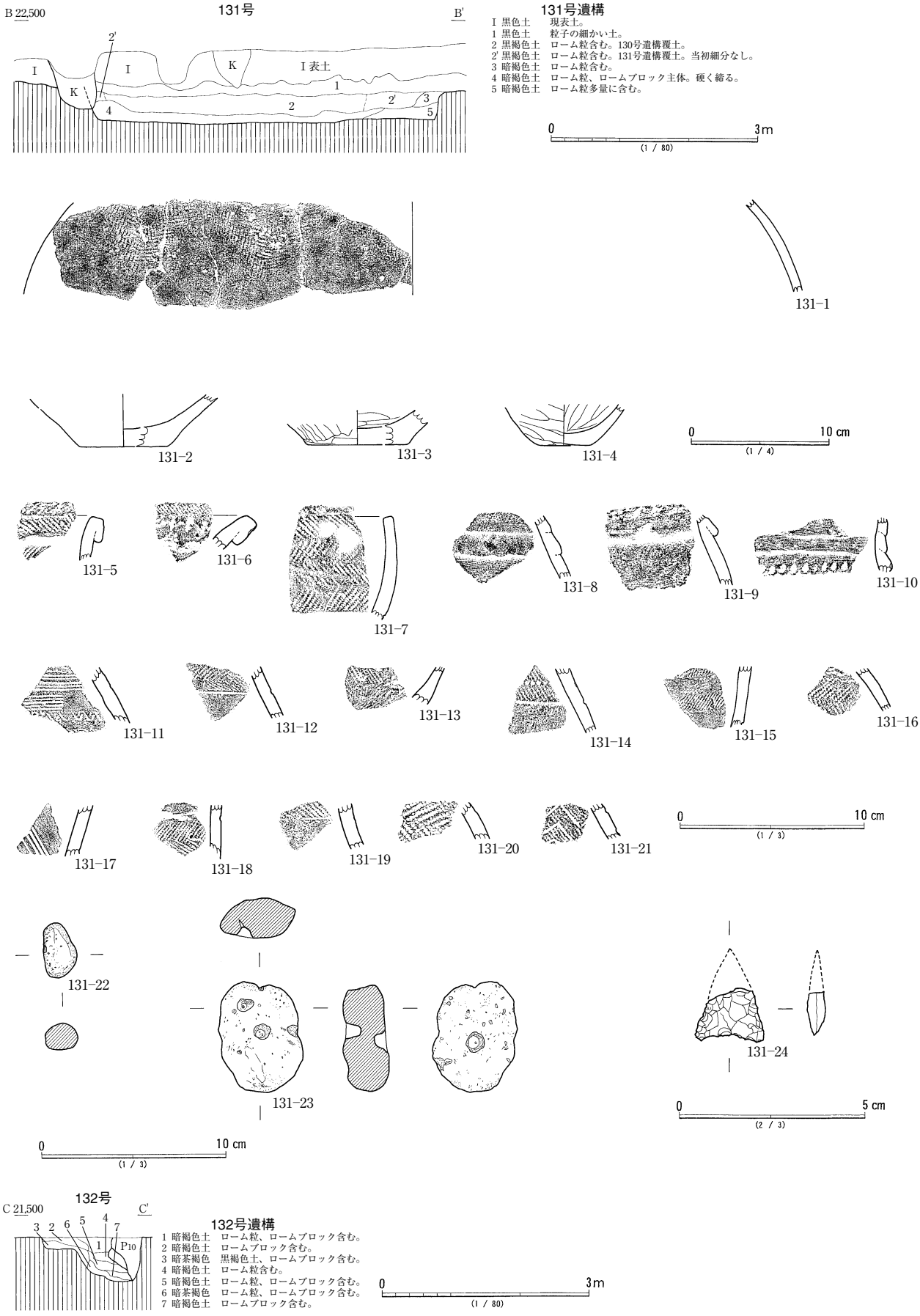
本遺構からは217点3,998ｇの土器片と１点10ｇの土製品、21点967.1ｇの礫・石器が検出された。土器片等の内訳は193点3,770ｇの土師器、１点８ｇの須恵器、３点30ｇの陶器、１点10ｇの土玉、５点40ｇの早期撚糸文系土器、15点150ｇの早期条痕文系土器、１点2.6ｇの軽石である。この内６点を図示した。１は、Ｐ６付近床密着の状態で検出された甕である。２は、北西コーナー部の床面から9.6cm浮いた状態で検出された。４・６は、西南コーナー部の床面からそれぞれ7.6cmと5.6cm浮いた状態で検出されている。５は西壁際の中央部の床面から２cm浮いた状態で検出された結合器台である。出土地点の判明する遺物の出土位置は、何れも遺構の辺境にあり、廃棄に際し何らかの意図が存在した可能性が考えられる。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

131号遺構

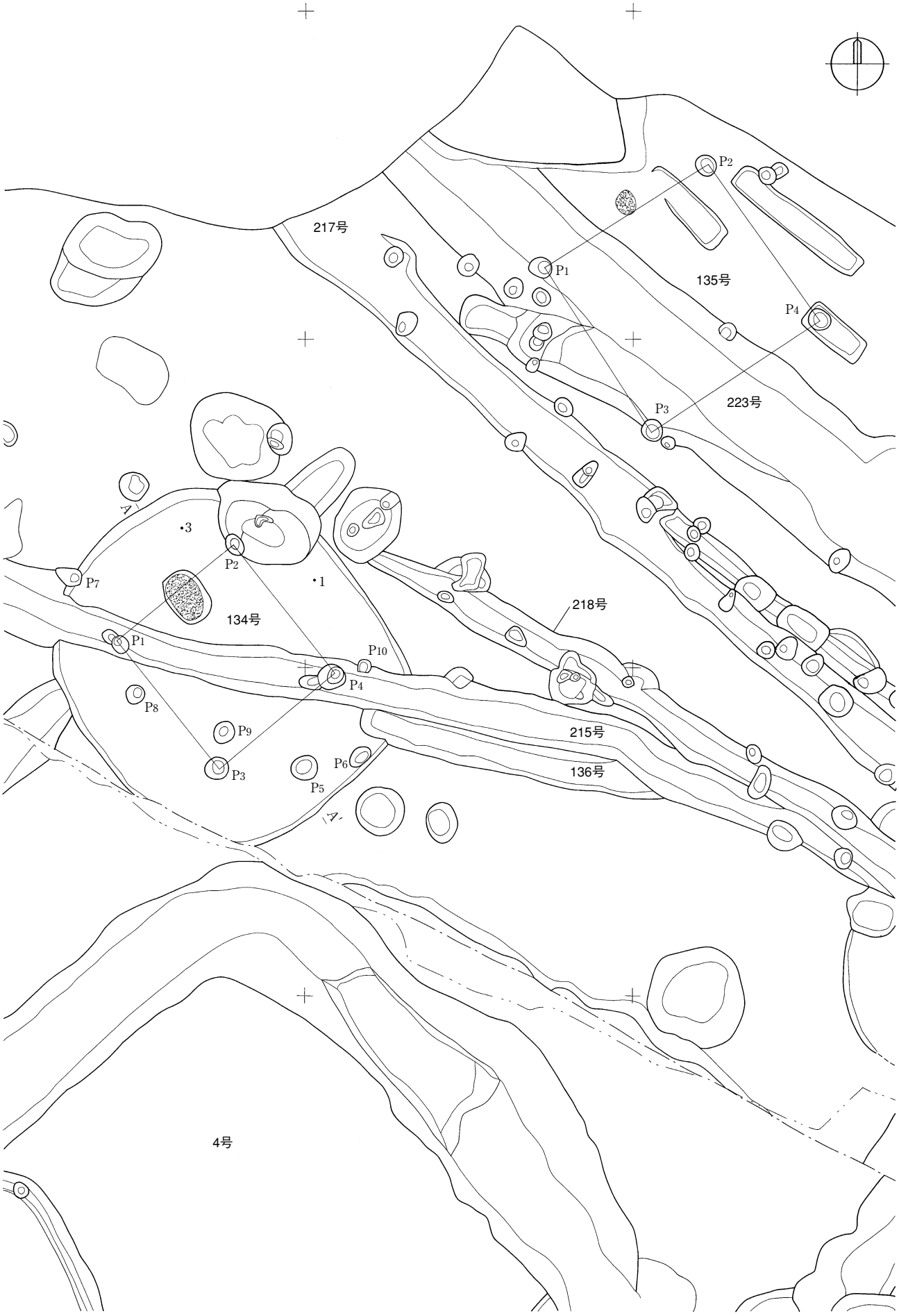
昭和59年度調査時遺構番号1012号。昭和63年度調査時遺構番号H−６Ｂ号。調査年度が２ヵ年に跨って調査され、130号遺構・140号溝に削平されて存在する長楕円形の竪穴住居跡である。長径6.2m推定短径（5.4）mを測り、主軸方位はN−22°−Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁33.0cm、西壁2.4cm、南壁6.3cm、北壁15.5cmを測り、遺存状態は不良である。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長0.78mを測り、主軸方位はN−27°−Wを示し、床面より2.7cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず、床面はほぼ平坦であり、ピットは11箇所に検出された。深さはそれぞれＰ７が103.0cm、Ｐ８が101.0cm、Ｐ９が60.4cm、P10が70.0cm、P11が29.0cm、P12が29.5cm、P13が11.7cm、P14が22.0cm、P15が12.8cm、P16が10.3cm、P17が11.8cmを測る。Ｐ７～P10は掘り込みも深くしっかりしており、主柱穴と想定される。

遺物

本遺構からは462点2,535ｇの土器片と５点59ｇの礫・石器が検出された。土器片等の内訳は１点15ｇの土師器、461点2,520ｇの弥生土器、２点22.6ｇの軽石、１点1.4ｇの石鏃である。これらの出土遺物の内24点を図示した。１は、炉内火床に突き刺さって検出された壺の破片である。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。



第135図　131・132号遺構実測図・131号遺構出土遺物実測図



第136図　134～136号遺構実測図

132号遺構

昭和63年度調査時遺構番号SK−１号。130・131号遺構を削平して存在する側壁抉り込みの形態を呈する土壙墓である。長径1.97ｍ短径1.32ｍを測り、主軸方位はN−33°−Eを示す。残存する壁高は、それぞれ西壁14.9㎝、南壁39.0㎝、北壁42.9㎝を測り、遺存状態は比較的良好である。玄室の規模は、長径1.8ｍ短径45㎝、高さは30㎝を測る。

遺物

本遺構からは何の遺物も検出されなかった。

133号遺構

昭和63年度調査時遺構番号H−５号。４号遺構・140号遺構に削平されて存在する竪穴住居跡である。短径4.15ｍを測り、主軸方位はN−74°−Wを示す。残存する壁高は、西壁13.2㎝を測り、遺存状態は不良である。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長0.52ｍを測り、主軸方位はN−23°−Wを示し、床面より5.7㎝程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、ピットは２箇所に検出された。深さはそれぞれＰ１が10.1㎝、Ｐ２が3.1㎝を測る。

遺物

本遺構からは69点573ｇの土器片と１点300ｇの礫が検出された。土器片の内訳は３点31ｇの土師器、66点542ｇの弥生土器である。これらの出土遺物の内６点を図示した。本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

134号遺構

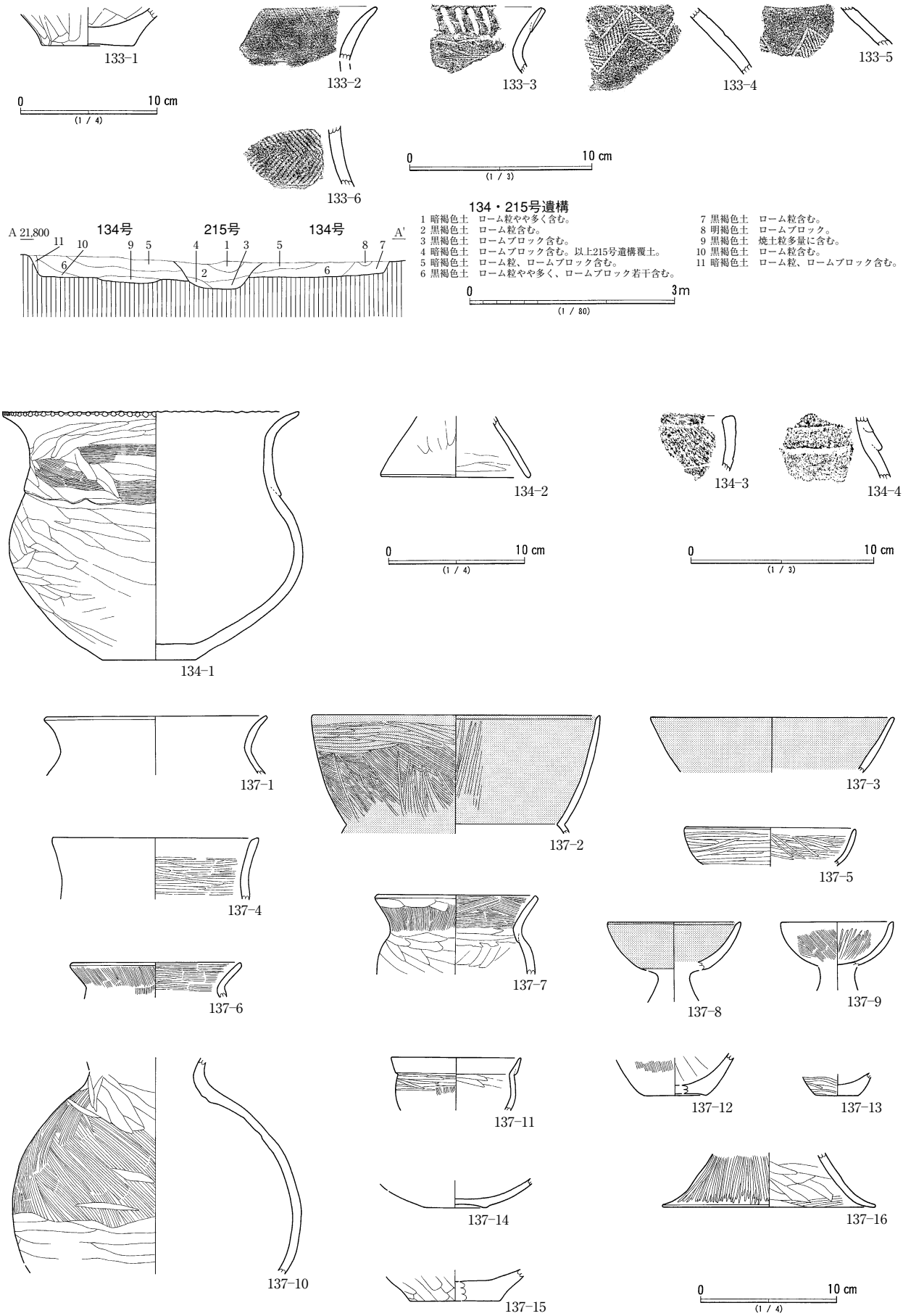
昭和59年度調査時遺構番号1010号。４号遺構の北に位置し、136号遺構・215号遺構に削平されて存在する長楕円形の竪穴住居跡である。長径5.28ｍ短径4.74ｍを測り、主軸方位はN−38°−Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁13.1㎝、西壁26.6㎝、南壁14.8㎝、北壁29.6㎝を測り、遺存状態はやや不良である。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長0.84ｍを測り、主軸方位はN−33°−Wを示し、床面より6.3㎝程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、ピットは10箇所に検出された。深さはそれぞれＰ２が54.1㎝、Ｐ３が72.0㎝、Ｐ４が99.0㎝、Ｐ５が37.4㎝、Ｐ７が33.1㎝、Ｐ８が17.1㎝、Ｐ９が20.9㎝、P10が10.6㎝を測る。Ｐ１・Ｐ６はレベル記載がないが、位置的にＰ１は主柱穴と考えられる。Ｐ２～Ｐ４は掘り込みも深くしっかりしており、主柱穴と想定される。

遺物

本遺構からは132点1,776.6ｇの弥生土器と41点1,662.6ｇの礫が検出された。これらの出土遺物の内４点を図示した。１は中央東側の床面、３は炉の北側の床面にそれぞれ密着の状態で出土している。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

135号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1133号。134号遺構の東北に位置し、223号遺構等に平面プランの全てを



第137図　134・215号遺構実測図・133・134・137号遺構出土遺物実測図

削平されて存在し、主柱穴と炉の残骸によって、辛うじて竪穴住居跡と判明する遺構である。柱穴間より主軸方位はN-38°-Wを示し、炉はＰ１・Ｐ２を結ぶラインの中央やや北寄りに検出された。長軸長0.34ｍを測り、主軸方位はN-19°-Wを示し、周囲より0.4cm程下がった位置で火床を検出する。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴で、掘り込みも深くしっかりしており、深さはそれぞれＰ１が56.0cm、Ｐ２が65.5cm、Ｐ３が64.3cm、Ｐ４が78.0cmを測る。

遺物

本遺構からは何の遺物も検出されなかった。

136号遺構

昭和59年度調査時遺構番号2013号。134号遺構を削平して存在する溝である。長さ4.8ｍ幅50cm前後深さは最大22.7cmを測る。残存する壁高は、それぞれ西壁14.3cm、南壁22.7cm、北壁7.5cmを測る。

遺物

本遺構からは何の遺物も検出されなかった。

137号遺構

昭和63年度調査時遺構番号Ｈ-４号。133号遺構を削平し、３号・４号遺構に削平されて存在する隅丸方形の竪穴住居跡である。長径7.3ｍ短径7.22ｍを測り、主軸方位はN-23°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁33.8cm、西壁18.9cm、南壁23.5cm、北壁22.2cmを測り、遺存状態は不良である。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長1.04ｍを測り、主軸方位はN-８°-Eを示し、床面より2.9cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は全周するものと捉えられ、深さはそれぞれ東12.4cm、西0.9cm、南12.0cm、北壁0.9cmを測り、東南が深い。床面はほぼ平坦であり、ピットは16箇所に検出された。深さはそれぞれＰ１が36.6cm、Ｐ２が46.6cm、Ｐ３が18.0cm、Ｐ４が21.6cm、Ｐ５が50.2cm、Ｐ６が24.2cm、Ｐ７が42.5cm、Ｐ８が19.0cm、Ｐ９が32.0cm、P10が29.3cm、P11が16.9cm、P12が24.8cm、P13が32.2cm、P14が26.4cmを測る。P15・P16はレベル記載がなく、深さは不明である。

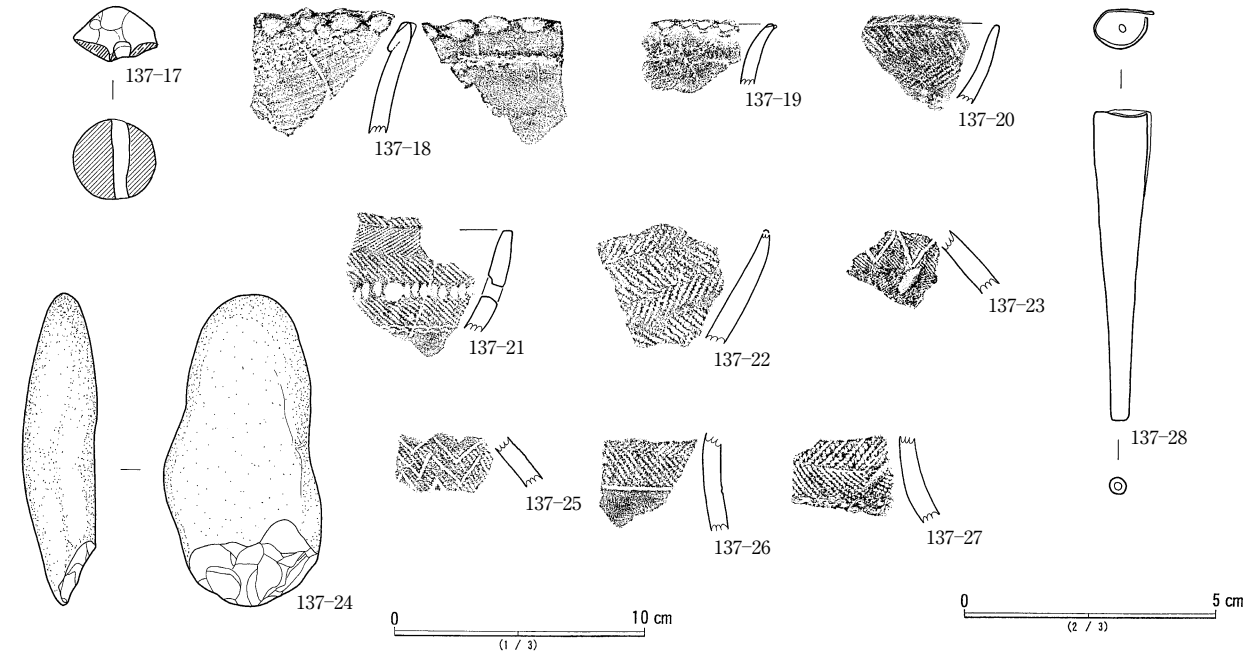
遺物

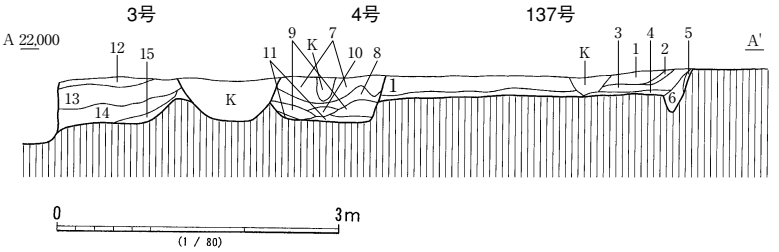
本遺構からは1,234点10,888ｇの土器片と33点1,200ｇの礫・石器、２点55ｇの土製品、１点4.8ｇの青銅器が検出された。土器片等の内訳は398点5,155ｇの土師器、１点15ｇの須恵器、804点5,238ｇの弥生土器、２点60ｇの手捏土器、２点20ｇの早期撚糸文系土器、20点315ｇの早期条痕文系土器、６点70ｇの近代陶器、１点15ｇの近代土器、２点55ｇの土製品、１点340ｇの石器、１点4.8ｇのキセル吸い口である。これらの出土遺物の内28点を図示した。２は南壁際の周溝底から13.6cm離れて、４は炉内火床より８cm程浮いた状態で検出された。10は南壁際の周溝底から3.3cm離れて、他の一片は炉東側の床面密着の状態で、14は同じく炉東側の床面密着の状態で検出されている。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

138号遺構

昭和63年度調査時遺構番号Ｈ-３号。４号遺構に削平されて存在する円形の竪穴住居跡である。長径4.66ｍ短径4.14ｍを測り、主軸方位はN-52°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁31.4cm、

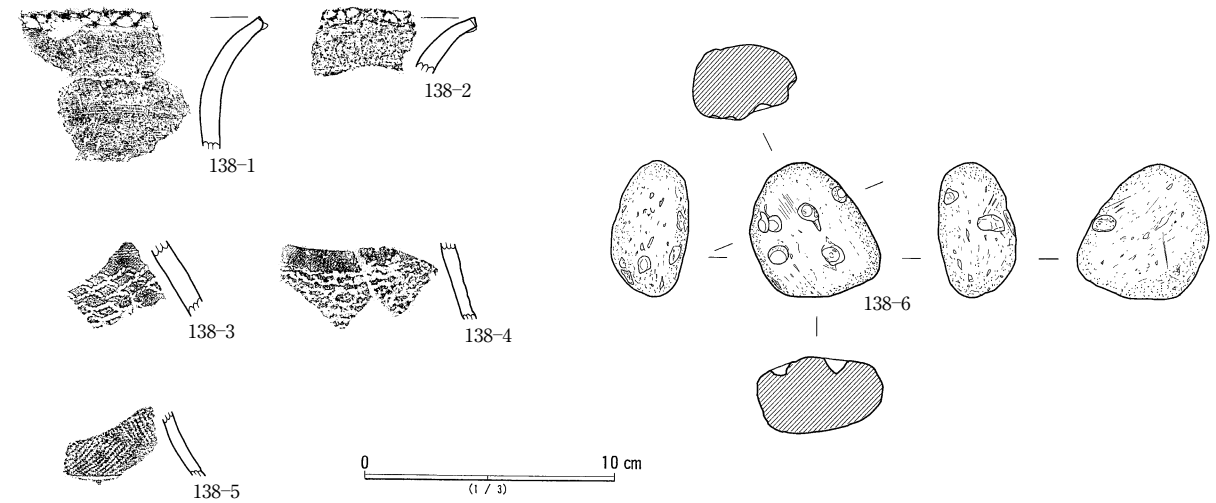
第138図　137～139号遺構実測図

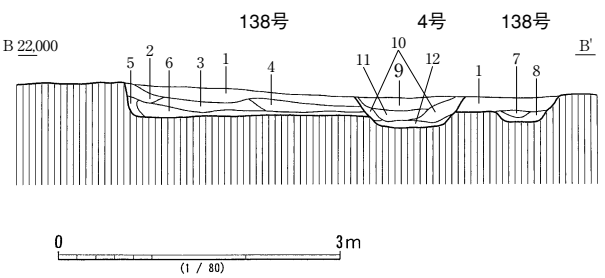




3・4・137号遺構

1 黒褐色土　多量のローム粒含む。
2 褐色土　ロームブロック。
3 黒褐色土　ローム粒含み、やや硬く締る。
4 暗褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。
5 褐色土　ローム粒含む。
6 褐色土　ローム粒、ロームブロック多量に含む。
以上137号遺構
7 暗褐色土　ローム粒含む。
8 黒褐色土　ローム粒含む。
9 暗褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。
10 褐色土　ロームブロック。
11 褐色土　ローム粒、ロームブロック多量に含む。
以上4号遺構
12 黒色土　ローム粒若干含む。
13 黒色土　ローム粒含む。
14 暗褐色土　ローム粒含む。
15 暗褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。





4号・138号遺構

1 暗褐色土　ローム粒含む。
2 暗褐色土　ローム粒多く含む。
3 暗褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。
4 暗褐色土　ローム粒まばらに含む。
5 褐色土　ロームブロック含む。
6 黒褐色土　若干のロームブロック含む。硬く締る。
7 暗褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。
8 暗褐色土　ロームブロック含む。以上138号遺構
9 黒褐色土　ローム粒やや多く含む。
10 暗褐色土　ローム粒まばらに含む。
11 黒褐色土　多量のローム粒含む。
12 暗褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。

第139図　3・4・137・138号遺構実測図・137・138号遺構出土遺物実測図

西壁27.6cm、南壁15.9cm、北壁28.2cmを測り、遺存状態はやや不良である。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長1.16ｍを測り、主軸方位はN-43°-W を示し、床面より15.3cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、ピットは４箇所に検出された。深さはそれぞれＰ１が17.0cm、Ｐ３が19.3cm、Ｐ４が14.9cmを測る。Ｐ２はレベル記載がなく、深さは不明である。

遺物

本遺構からは167点980ｇの土器片と14点205.1ｇの礫・石器が検出された。土器片の内訳は８点85ｇの土師器、157点875ｇの弥生土器、２点20ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内６点を図示した。本遺構出土遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

139号遺構

昭和63年度調査時遺構番号H-２号。３号遺構と撹乱に削平されて存在する竪穴住居跡である。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長0.74ｍを測り、主軸方位はN-43°-W を示す。周溝は存在せず、また平面図にレベル記載がないため、火床や各壁の掘り込みの深さは不明である。

遺物

本遺構からは何の遺物も検出されなかった。

140号遺構

昭和63年度調査時遺構番号M-１号。土層断面から、５号遺構（辺田３号墳）東側周溝を削平して存在する溝であり、130号遺構・133号遺構を削平して存在する。長さ43.1ｍ最大幅1.36ｍ、深さは30cm前後を測る。

遺物

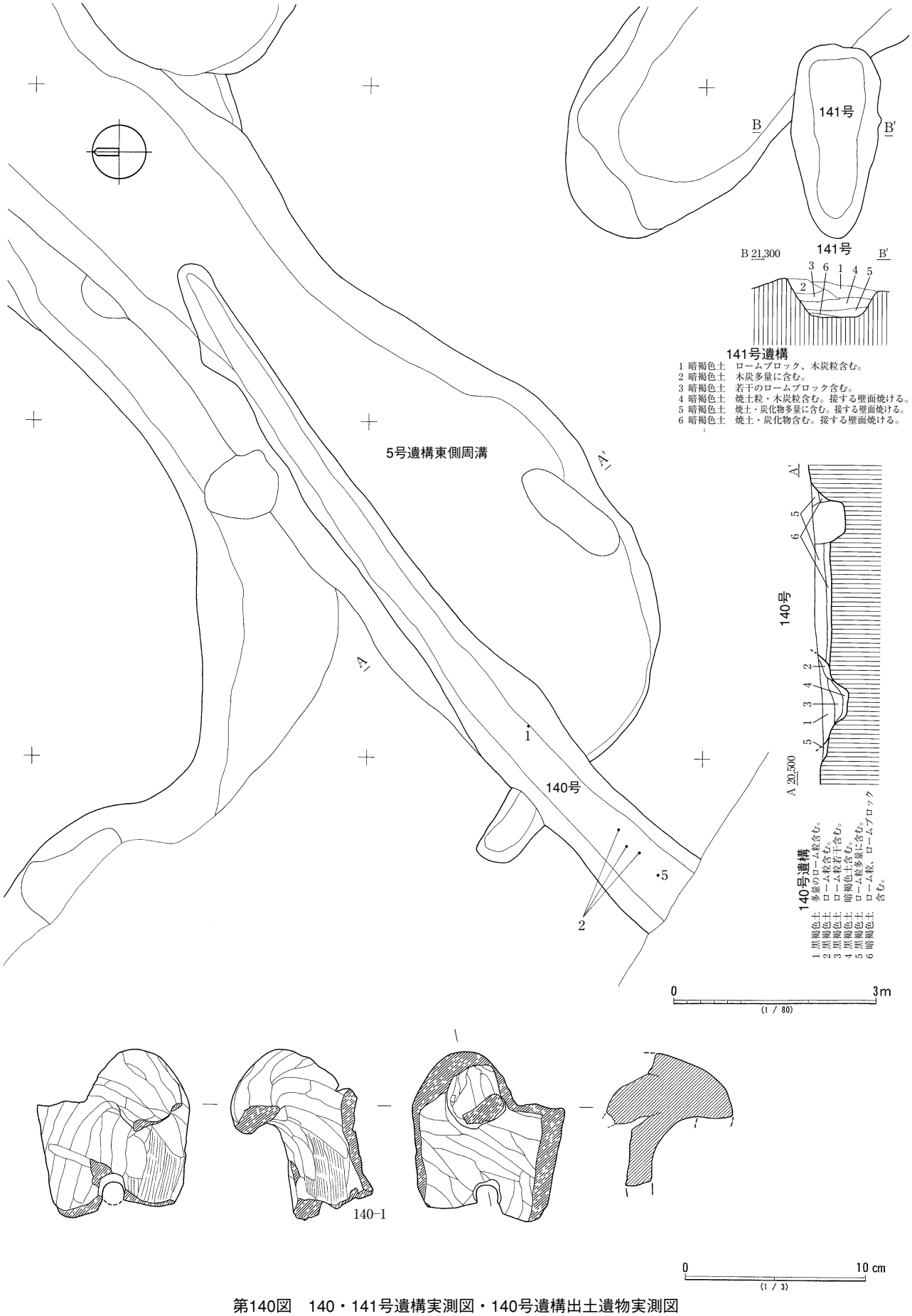
本遺構からは13点65ｇの土師器と１点11ｇの弥生土器、３点600ｇの埴輪が検出され、内３点を図示した。南端の底面より15～30cm浮いた状態で、下総型の人物埴輪片を検出した。１は人物埴輪の右肩部である。２は帽子を被った人物の顔面部である。これらの埴輪片は本遺構に直接伴うものではなく、他の古墳などから表採されたものが投棄された可能性が高い。

141号遺構

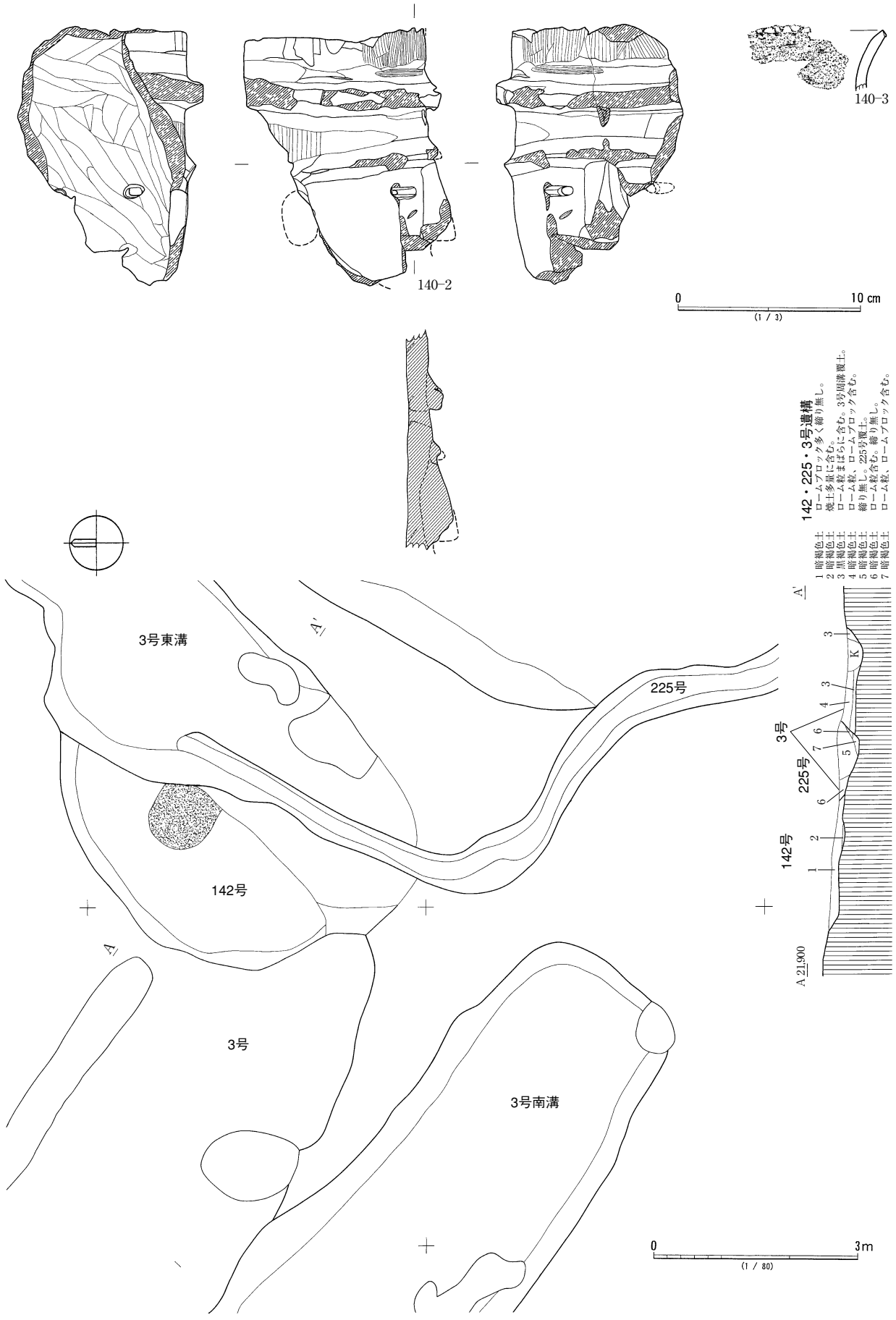
昭和63年度調査時遺構番号SK-４号。３号遺構の南側周溝を削平して存在する土坑である。長径2.86ｍ短径1.28ｍを測り、主軸方位はN-90°-W を示す。残存する壁高は、それぞれ東壁20.8cm、西壁31.2cm、南壁44.1cm、北壁49.1cmを測る。土層断面によれば焼土・炭化物を多量に含んでおり、且つ接する壁面が被熱化しており、火が使用された遺構であることがわかるが、火床は存在しておらず性格不明な遺構である。

遺物

本遺構からは何の遺物も検出されなかった。



第140図　140・141号遺構実測図・140号遺構出土遺物実測図



第141図　3・142・225号遺構実測図・140号遺構出土遺物実測図

142号遺構

昭和63年度調査時遺構番号H−１号。３号遺構・225号遺構に削平されて存在する竪穴住居跡である。炉は中央やや西寄りに検出された。長軸長1.0ｍを測り、主軸方位はN−56°−Wを示す。周溝は存在せず、また平面図にレベル記載がないため、火床や各壁の掘り込みの深さは不明である。

遺物

本遺構からは何の遺物も検出されなかった。

143号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1008号。217・218号遺構に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存する壁高は、それぞれ東壁1.4cm、西壁13.9cmを測り、炉は218号遺構に削平されたものと想定され遺存状態は不良である。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、全てが伴うとは限らないが、ピットは３箇所に検出された。深さはそれぞれ、Ｐ１が20.5cm、Ｐ２が13.2cm、Ｐ３が28.3cmを測る。

遺物

本遺構からは12点106.2ｇの弥生土器が検出され、内２点を図示した。本遺構出土遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

144号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1007号。223号遺構等に平面プランの全てを削平されて存在し、主柱穴によって辛うじて竪穴住居跡と判明する遺構である。柱穴間より主軸方位はN−45°−Wを示し、炉は224号遺構に削平されたものと想定され、遺存状況は極めて不良である。Ｐ４～Ｐ７は主柱穴で、掘り込みも深くしっかりしており、深さはそれぞれＰ４が77.4cm、Ｐ５が50.8cm、Ｐ６が79.0cm、Ｐ７が62.5cmを測る。

遺物

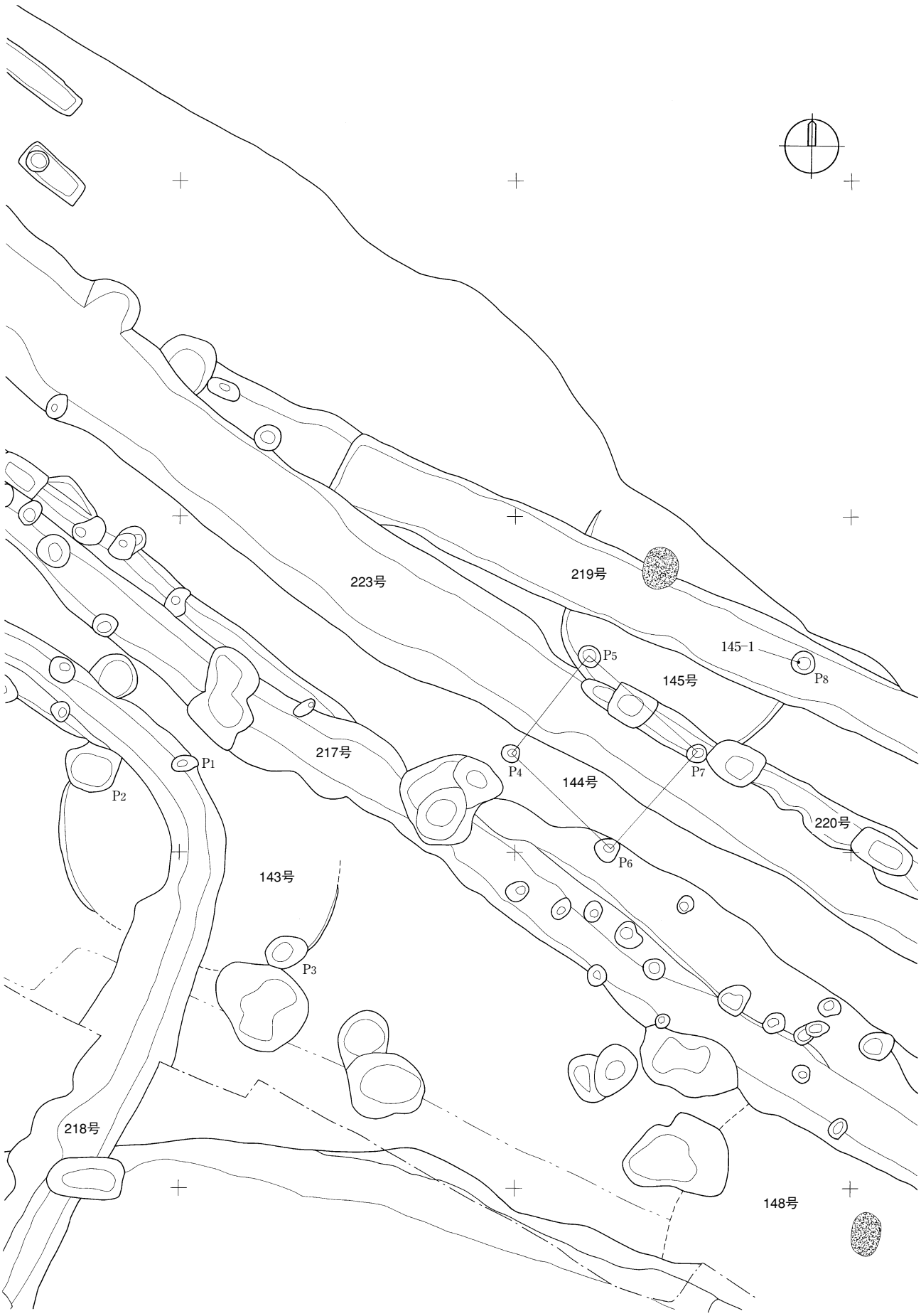
本遺構からは何の遺物も検出されなかった。

145号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1006号。219・220号遺構に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存する壁高は、それぞれ東壁4.8cm、西壁3.2cmを測り、遺存状態は不良である。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長0.64ｍを測り、主軸方位はN−10°−Wを示し、床面より2.5cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず残存する床面はほぼ平坦であり、ピットは１箇所に検出され、深さはＰ８が98.2cmを測る。

遺物

本遺構からは17点174.6ｇの弥生土器が検出され、内３点を図示した。１は、Ｐ８の底面に密着して検出された台付甕の脚部である。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。



第142図　143～145号遺構実測図

146号遺構

昭和63年度調査時遺構番号 H-28号。２号遺構（辺田２号墳）周溝と218号遺構に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存する壁高は、それぞれ東壁30.9cm、南壁26.1cmを測り、遺存状態は不良である。周溝は存在せず残存する床面はほぼ平坦であり、ピットは３箇所に検出され、深さはそれぞれＰ４が36.5cm、Ｐ５が26.4cm、Ｐ６が17.3cmを測る。

遺物

本遺構からは72点486ｇの土器片と８点213.8ｇの礫が検出された。土器片の内訳は１点８ｇの土師器、69点458ｇの弥生土器、２点20ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内４点を図示した。本遺構出土遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

147号遺構

昭和63年度調査時遺構番号 H-27号。２号遺構（辺田２号墳）周溝と218号遺構に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存する壁高は、それぞれ東壁26.4cm、南壁28.3cmを測り、遺存状態は不良である。炉は中央やや南寄りに検出された。長軸長0.68ｍを測り、主軸方位はN-53°-Eを示し、床面より5.5cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず残存する床面はほぼ平坦であり、ピットは３箇所に検出され、深さはそれぞれＰ１が58.8cm、Ｐ２が55.5cm、Ｐ３が97.2cmを測る。

遺物

本遺構からは24点430ｇの土器片と６点380.5ｇの礫が検出された。土器片の内訳は１点20ｇの土師器、17点240ｇの弥生土器、６点170ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内２点を図示した。本遺構出土遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

148号遺構

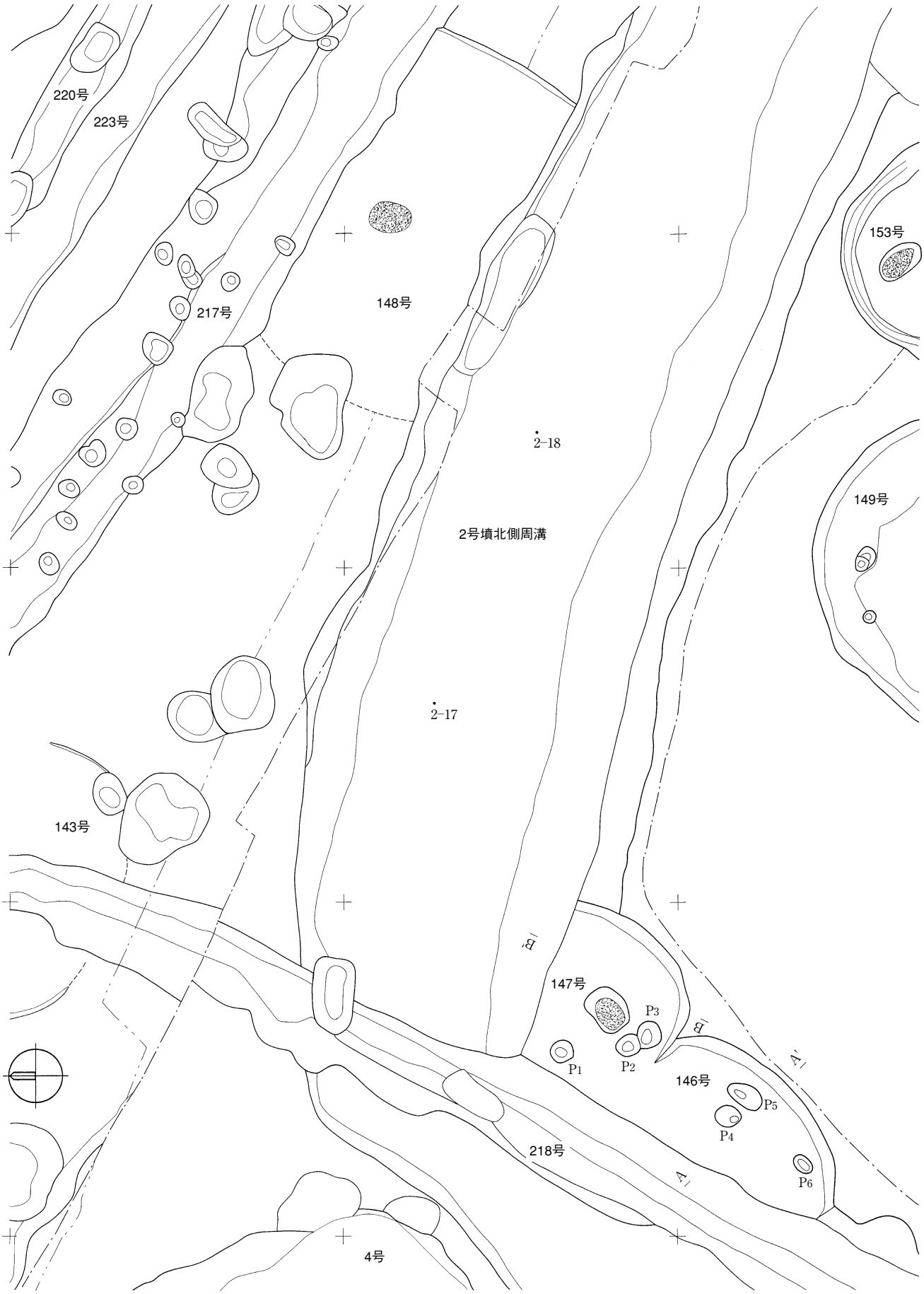
昭和59年度調査時遺構番号1005号。２号遺構（辺田２号墳）周溝と217号遺構に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存する壁高は、東壁12.3cmを測り遺存状態は不良である。炉は遺構中央で検出された。長軸長0.64ｍを測り、主軸方位はN-７°-Wを示し、床面より0.6cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、西側の遺構推定ライン上に撹乱と思われる不整形なピットが存在し、深さは29.6cmを測る。

遺物

本遺構からは１点8.3ｇの土師器と62点238.7ｇの弥生土器を検出し、これらの出土遺物の内２点を図示した。本遺構出土遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

149号遺構

昭和63年度調査時遺構番号 H-23号。２号遺構（辺田２号墳）の墳丘下に存在する不整円形を呈する竪穴住居跡である。長径5.55ｍ短径5.43ｍを測り、主軸方位はN-24°-Wを示す。残存する壁高



第143図　2・146～148号遺構実測図

は、それぞれ東壁30.4cm、西壁33.6cm、南壁40.6cm、北壁30.6cmを測り、遺存状態は良好である。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長1.22ｍを測り、主軸方位はN-30°-W を示し、床面より11.4cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、所々に焼土の堆積が認められた。ピットは７箇所に検出された。深さはそれぞれ、Ｐ１が69.6cm、Ｐ２が29.9cm、Ｐ３が27.4cm、Ｐ４が29.6cm、Ｐ５が29.0cm、Ｐ６が15.1cm、Ｐ７が4.7cmを測る。各ピットを結んだ範囲の床面が、硬く引き締まっている。

遺物

本遺構からは349点3,694ｇの土器片と22点1,322ｇの礫・石器が検出された。土器片の内訳は54点1,142ｇの土師器、294点2,527ｇの弥生土器、１点25ｇの早期条痕文系土器、１点540ｇの敲石、１点２ｇの石鏃である。この内23点を図示した。１は一括で取り上げられてしまったが、写真図版で見る限り、床面から15cmほど浮いた状態で土層断面観察用ベルト内より出土している。２・23は、同じ土柱内で炉の火床から、それぞれ36cmと28cm浮いた状況で検出されている。６・22は南側の床直で焼土内から、12はＰ６の床面密着の状態で検出されている。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

150号遺構

昭和63年度調査時遺構番号H-25号。２号遺構（辺田２号墳）の墳丘下に位置し、218号遺構に削平されて存在する長楕円形を呈する竪穴住居跡である。長径4.32m短径3.94ｍを測り、主軸方位はN-43°-W を示す。残存する壁高は、それぞれ東壁16.2cm、西壁2.4cm、南壁9.4cm、北壁1.6cmを測り、遺存状態は不良である。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長0.76ｍを測り、主軸方位はN-45°-W を示し、床面より3.2cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、ピットは５箇所に検出された。深さはそれぞれ、Ｐ１が37.2cm、Ｐ２が30.6cm、Ｐ３が35.4cm、Ｐ４が21.2cm、Ｐ５が16.0cmを測る。各ピットを結んだ範囲の床面が、硬く引き締まっており、炉脇には炭化物の堆積が認められた。

遺物

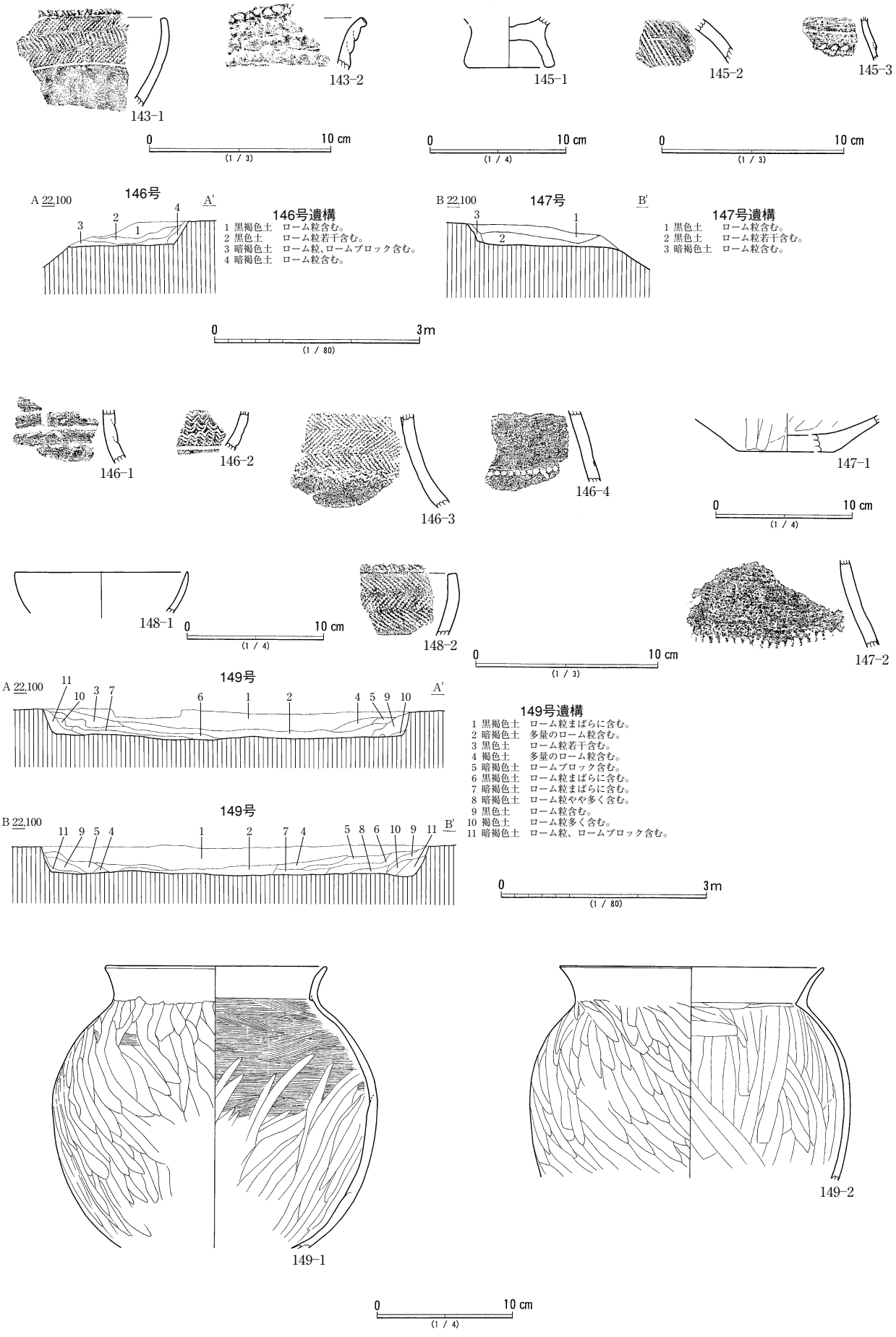
本遺構からは29点658ｇの土器片と４点195ｇの礫が検出された。土器片の内訳は28点643ｇの弥生土器、１点15ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内５点を図示した。１・２はＰ４付近の床密着の状態で検出で検出されている。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

151号遺構

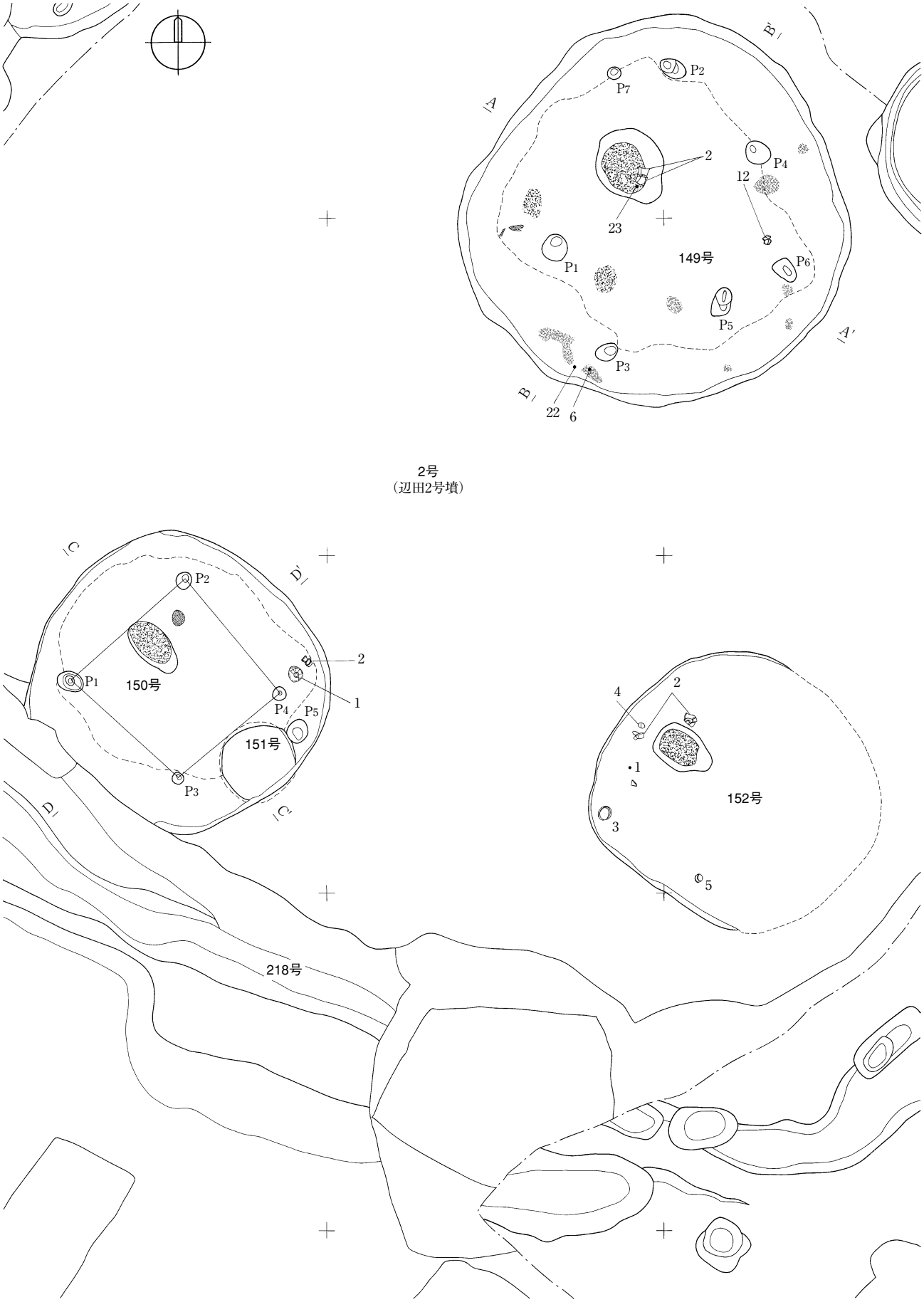
昭和63年度調査時遺構番号SK-10号。150遺構削平されて存在する平面プラン円形の、フラスコ型の土坑である。長径1.14ｍ短径1.0ｍを測り、主軸方位はN-40°-E を示す。残存する壁高は、それぞれ東壁51.8cm、西壁46.8cm、南壁70.0cm、北壁51.2cmを測り、遺存状態は比較的良好である。

遺物

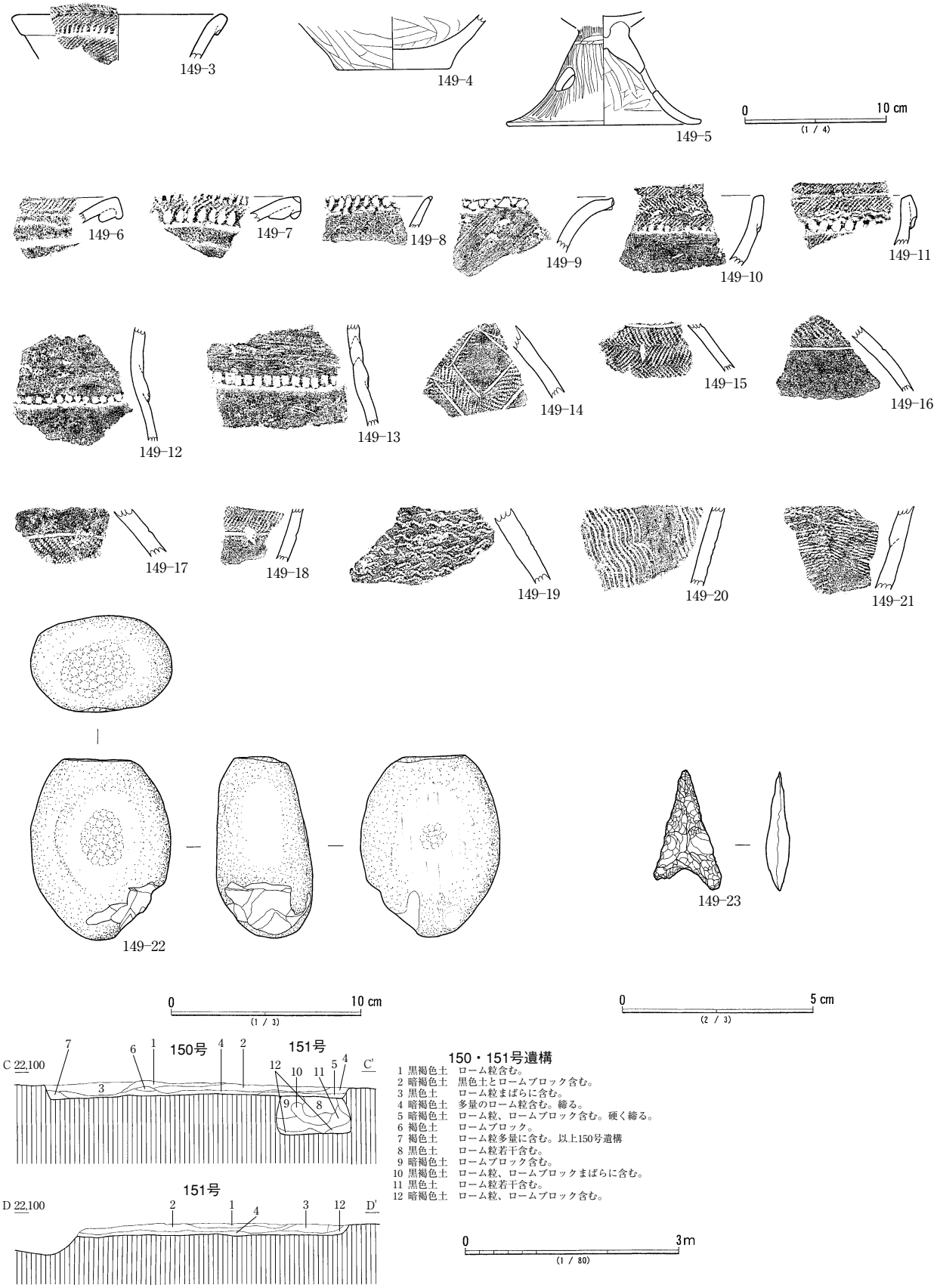
本遺構からは９点92ｇの弥生土器が検出され、これらの出土遺物の内１点を図示した。本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。



第144図　146・147・149号遺構実測図・143・145～149号遺構出土遺物実測図



第145図　149～152号遺構実測図



第146図　150・151号遺構実測図・149号遺構出土遺物実測図

152号遺構

昭和63年度調査時遺構番号 H-26号。２号遺構（辺田２号墳）の墳丘下に存在する竪穴住居跡である。推定長径4.12ｍ短径3.27ｍを測り、主軸方位は N-51°-W を示す。残存する壁高は、それぞれ西壁6.8cm、南壁1.7cm、北壁2.3cmを測り、遺存状態は不良である。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長0.92ｍを測り、主軸方位は N-50°-W を示し、床面より3.2cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず残存する床面はほぼ平坦である。

遺物

本遺構からは81点972ｇの弥生土器が検出され、これらの出土遺物の内５点を図示した。１・２・４は、炉付近の床面密着の状態で検出された。３・５は遺構の西側より何れも床密着の状態で検出で検出されている。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

153号遺構

昭和63年度調査時遺構番号 H-24号。２号遺構（辺田２号墳）の墳丘下に位置し、御神木移転の際に一部削平されて存在する長楕円形を呈する竪穴住居跡である。短径3.05ｍを測り、主軸方位は N-46°-W を示す。残存する壁高は、それぞれ東壁37.3cm、西壁43.3cm、南壁45.5cm、北壁31.6cmを測り、遺存状態はやや不良である。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長0.72ｍを測り、主軸方位は N-37°-W を示し、床面より5.3cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は全周していたものと想定され、深さはそれぞれ東0.5cm、西3.5cm、南1.8cm、北5.3cmを測り、北西側が深い。床面はほぼ平坦であり、東南の１箇所に焼土の堆積が認められた。

遺物

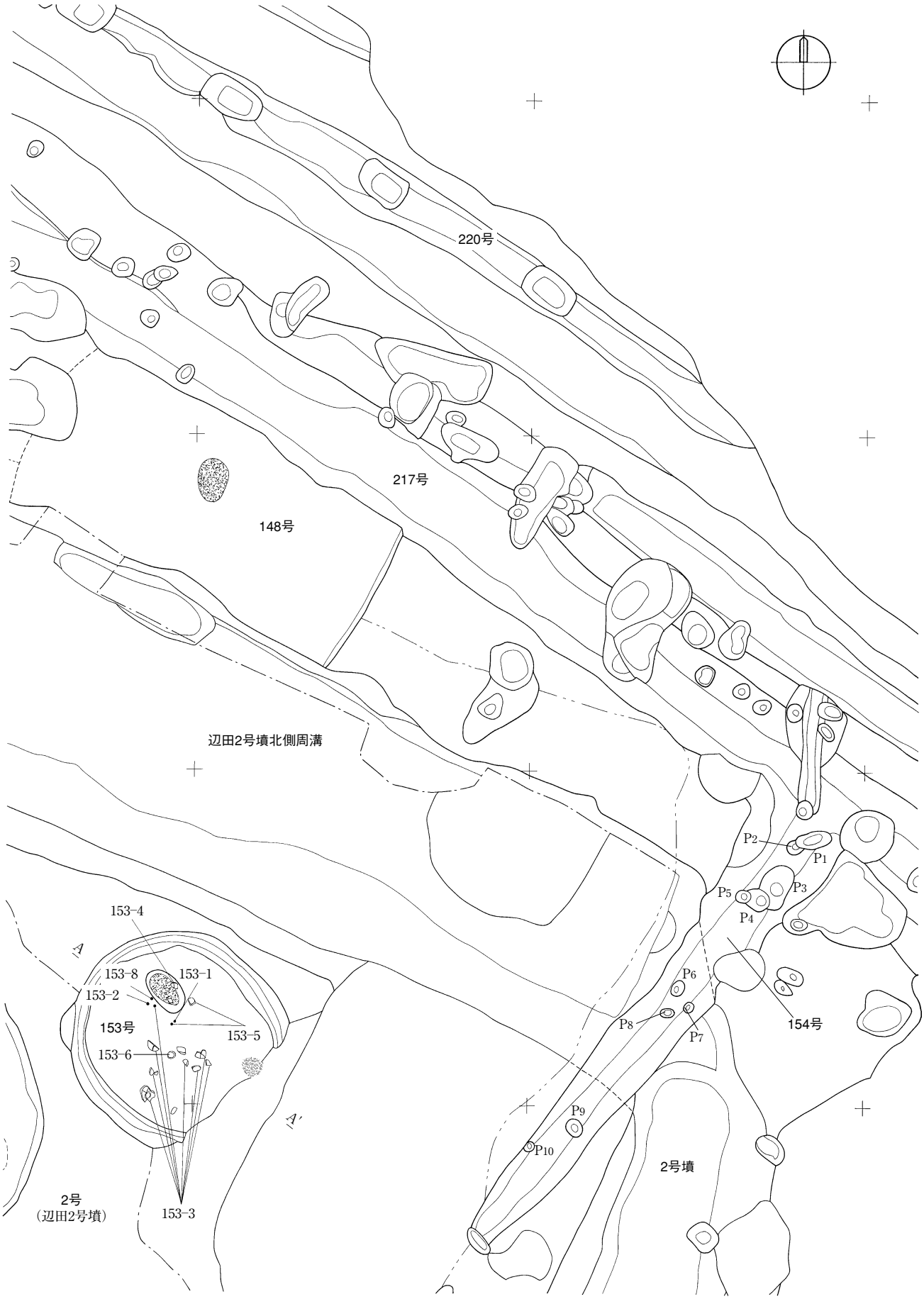
本遺構からは１点90ｇの土師器と35点2,480ｇの弥生土器、６点370ｇの礫が検出された。これらの出土遺物の内10点を図示した。ドットで取り上げられた遺物の内１・２はそれぞれ32.5cm、39cm床から浮いた状態で検出されている。３は遺構中央部の床面に散在し、何れも床直の状況で検出され、４は炉の火床から４cm浮いて出土した。５・８は炉付近からの検出であるが、それぞれ29.0cm、43.0cm床から浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

154号遺構

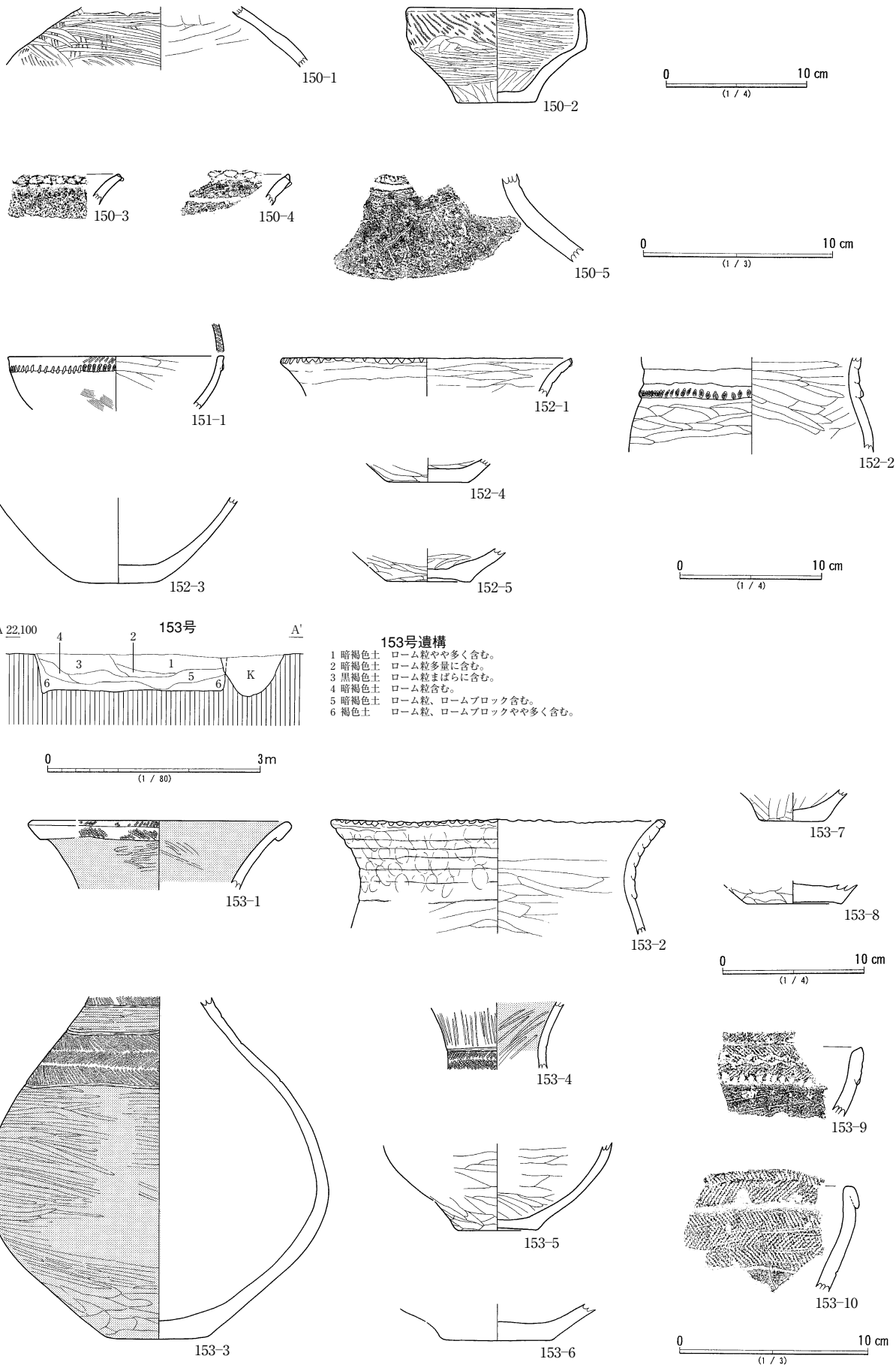
昭和59年度調査時遺構番号2016号。217号溝から分岐し、２号遺構（辺田２号墳）東側周溝を削平しながら南下する溝である。長さ8.0ｍ幅38cm～1.5ｍ前後、深さ13.2cm～37.7cmを測る。ピットは10箇所に検出され、深さはそれぞれ、Ｐ１が13.0cm、Ｐ２が11・５cm、Ｐ３が32.1cm、Ｐ４が40.4cm、Ｐ５が22.5cm、Ｐ６が32.2cm、Ｐ７が21.9cm、Ｐ８が27.8cm、Ｐ９が35.9cm、P10が12.5cmを測る。

遺物

本遺構からは何の遺物も検出されなかった。



第147図　148・153・154号遺構実測図



第148図　153号遺構実測図・150～153号遺構出土遺物実測図

155号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1026号。２号遺構（辺田２号墳）の東側に位置する竪穴住居跡である。周囲を撹乱によって削平されているが、推定長径2.78m短径2.62mを測り、主軸方位はN-44°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁13,7cm、西壁2.3cm、南壁14.3cm、北壁5.3cmを測り、遺存状態は不良である。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長0.88mを測り、主軸方位はN-40°-Wを示し、床面より5.2cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、ピットは１箇所に検出された。深さはＰ１が20.8cmを測る。

遺物

本遺構からは181点1,545ｇの弥生土器と７点500ｇの礫・石器が検出され、これらの出土遺物の内９点を図示した。２は炉北側の床面から3.7cm状態で検出されている。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

156号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1002号。２号遺構（辺田２号墳）の東側に位置し、217号遺構・222号遺構に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存する壁高は、それぞれ西壁21.6cm、南壁24.8cmを測り、かつ遺構中央部を撹乱により大きく削平されて存在し、遺存状態は極めて不良である。調査者の所見では、ピットのみで構成される157号遺構とは別遺構と認識されている。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは62点610ｇの弥生土器と１点22ｇの早期条痕文系土器が検出され、これらの出土遺物の内１点を図示した。１は、西壁付近の床面から７cm程浮いた状態で検出された。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

157号遺構

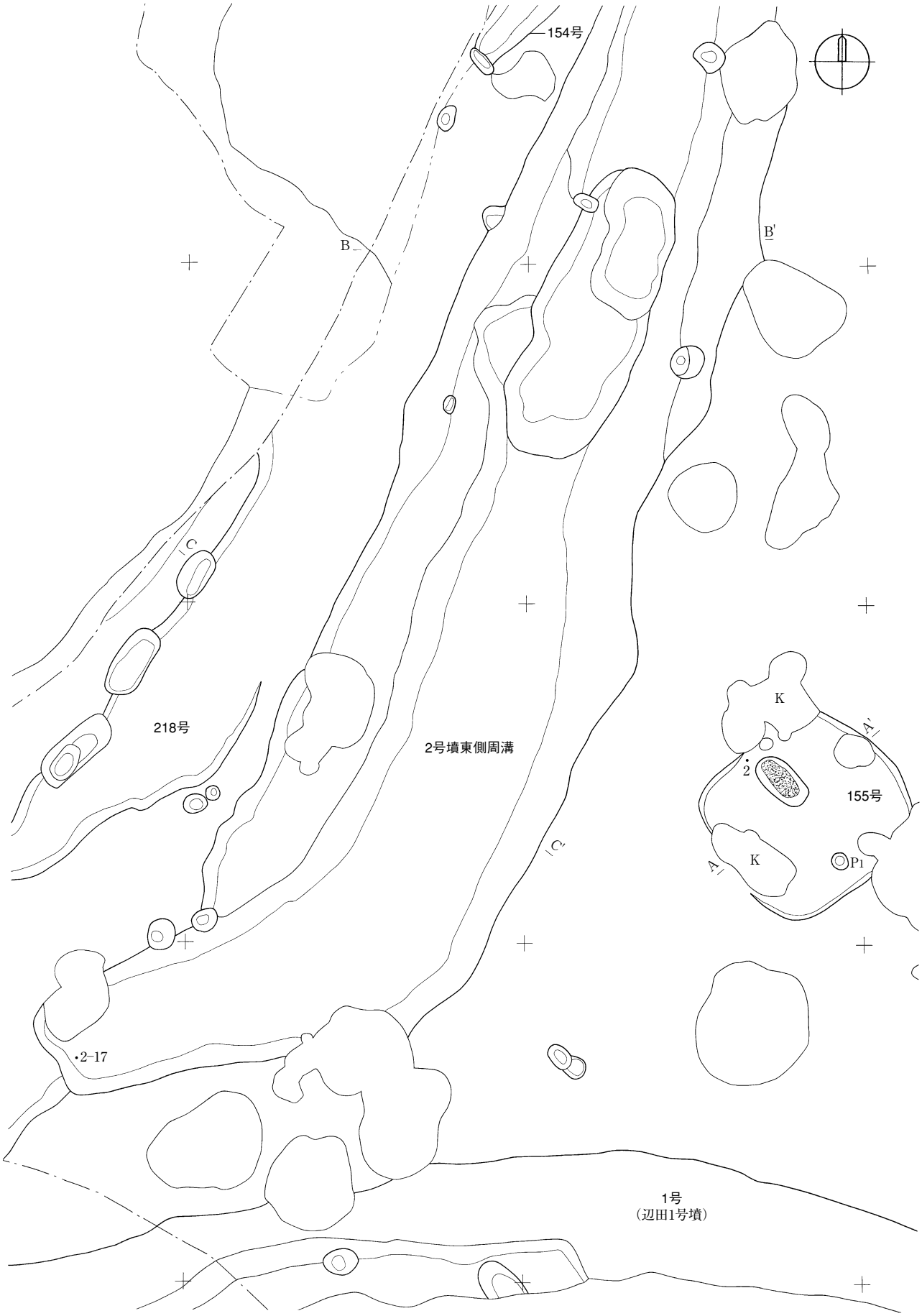
昭和59年度調査時遺構番号1003号。217号遺構・222号遺構・223号遺構と撹乱によって大幅に削平されて存在し、156号遺構を削平して存在する柱穴と炉で構成される竪穴住居跡である。残存する３本の主柱穴と炉から、主軸方位はN-４°-Wを示す。炉は中央やや北寄りに検出された。残存長軸長0.4mを測り、主軸方位はN-46°-Wを示し、周囲より0.1cm程下がった位置で火床を検出する。周溝床面は存在せず、ピットは３箇所に検出された。深さはそれぞれ、Ｐ１が87.0cm、Ｐ２が76.3cm、Ｐ３が55.8cmを測る。

遺物

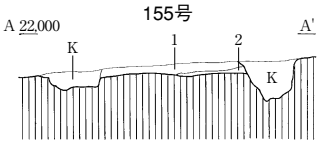
本遺構からは１点9.1ｇの鉄器、６点60ｇの弥生土器と２点60ｇの礫が検出され、これらの出土遺物の内１点を図示した。１は用途不明の鉄器である。本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

158号遺構

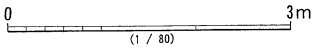
昭和59年度調査時遺構番号1032号。160号遺構（辺田４号墳）の下層に位置し、217号遺構・222号

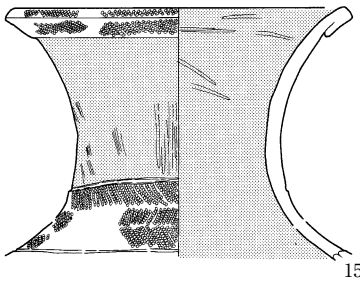


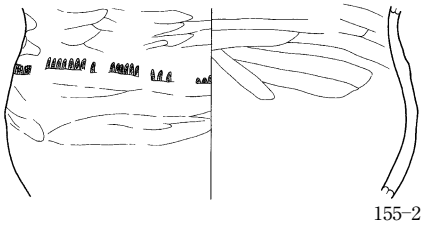
第149図　2・155号遺構実測図

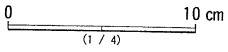


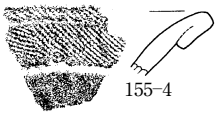
155号遺構
1 黒褐色土　ローム粒まばらに含む。
2 黒褐色土　ローム粒上層より多く含むが、色調暗い。

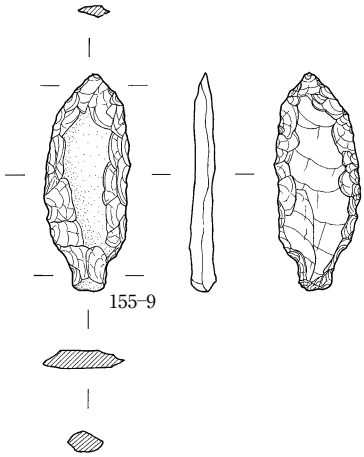


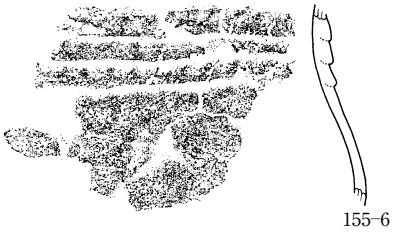


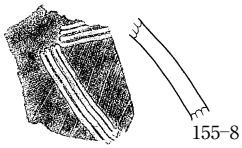


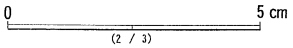


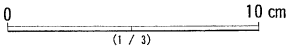


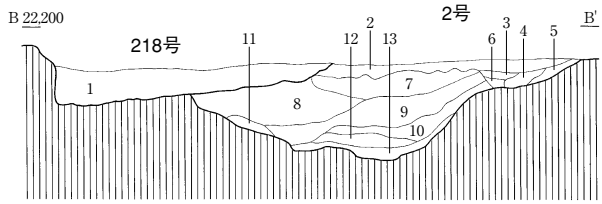




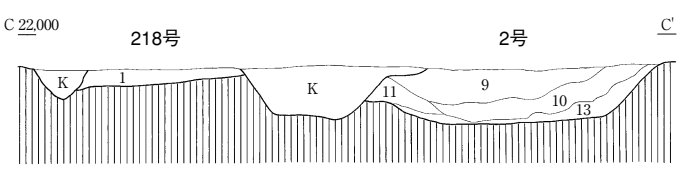


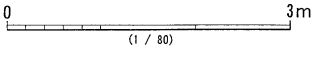




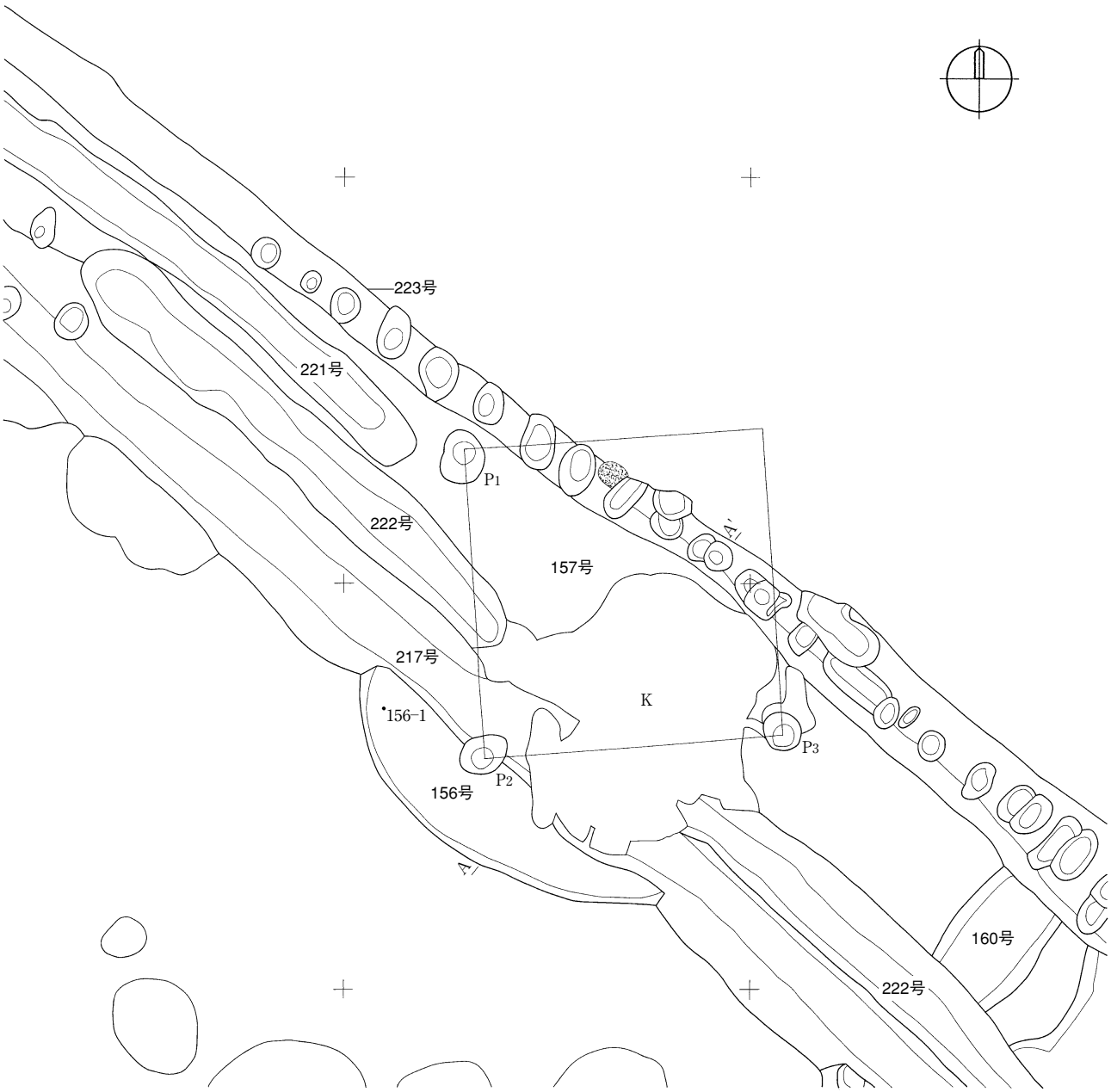


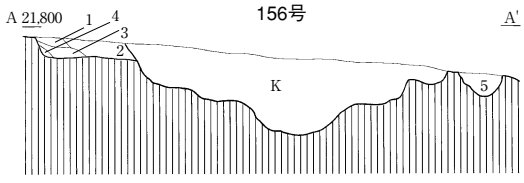
2号遺構東周溝
1 暗褐色土　ローム粒含む。218号覆土。
2 暗褐色土　ローム粒やや多く含む。
3 暗褐色土　ローム粒含む。
4 暗褐色土　ローム粒やや多く含む。
5 黒褐色土　ローム粒まばらに含む。
6 暗褐色土　ローム粒多量に含む。
7 黒褐色土　ローム粒含む。
8 暗褐色土　ローム粒多量に含む。
9 黒褐色土　ローム粒まばらに含む。
10 黒褐色土　ローム粒含む。
11 褐色土　ローム粒、ロームブロックやや多く含む。
12 暗褐色土　ローム粒、ロームブロックを含む。
13 褐色土　ローム粒、ロームブロック多量に含む。





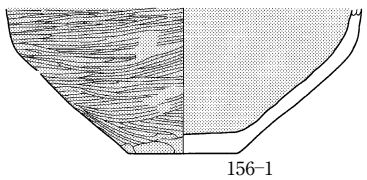
第150図　2・155号遺構実測図・155号遺構出土遺物実測図



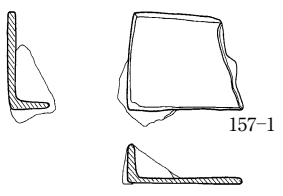


156号遺構
1 黒褐色土　ローム粒まばらに含む。
2 黒色土　ローム粒少量含む。
3 黒色土　ローム粒含む。
4 暗褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。
5 黒褐色土　ローム粒含む。ピット覆土。

0　3m
(1 / 80)



0　10 cm
(1 / 4)



0　3 cm
(1 / 1)

第151図　156・157号遺構実測図・出土遺物実測図

遺構・223号遺構によって大幅に削平されて存在する、柱穴と炉で構成される竪穴住居跡である。残存する３本の主柱穴と炉から、主軸方位はN-45°-Wを示す。炉は中央やや西寄りに検出された。残存長軸長0.8ｍを測り、主軸方位はN-42°-Wを示し、周囲より7.0㎝程下がった位置で火床を検出する。周溝床面は存在せず、ピットは３箇所に検出された。深さはそれぞれ、Ｐ１が82.7㎝、Ｐ２が54.1㎝、Ｐ３が38.2㎝を測る。

遺物

本遺構からは何の遺物も検出されなかった。

159号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1004号。160号遺構（辺田４号墳）の下層に位置し、223号遺構によって削平されて存在する土坑である。長径0.48ｍ短径0.4ｍ、深さ35.8㎝を測り、主軸方位はN-51°-Wを示す。

遺物

本遺構からは10点854ｇの弥生土器と１点70ｇの礫が検出され、これらの出土遺物の内１点を図示した。１は底面から８㎝浮いた状況で検出された甕である。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

160号遺構（辺田４号墳）

昭和59年度調査時遺構番号2004号。『市原市埋蔵文化財分布地図―北部編―』に記載される「辺田４号墳」に該当する古墳である。報告に際し「辺田４号墳」を踏襲するが、便宜上160号遺構として報告する。

墳丘と周溝

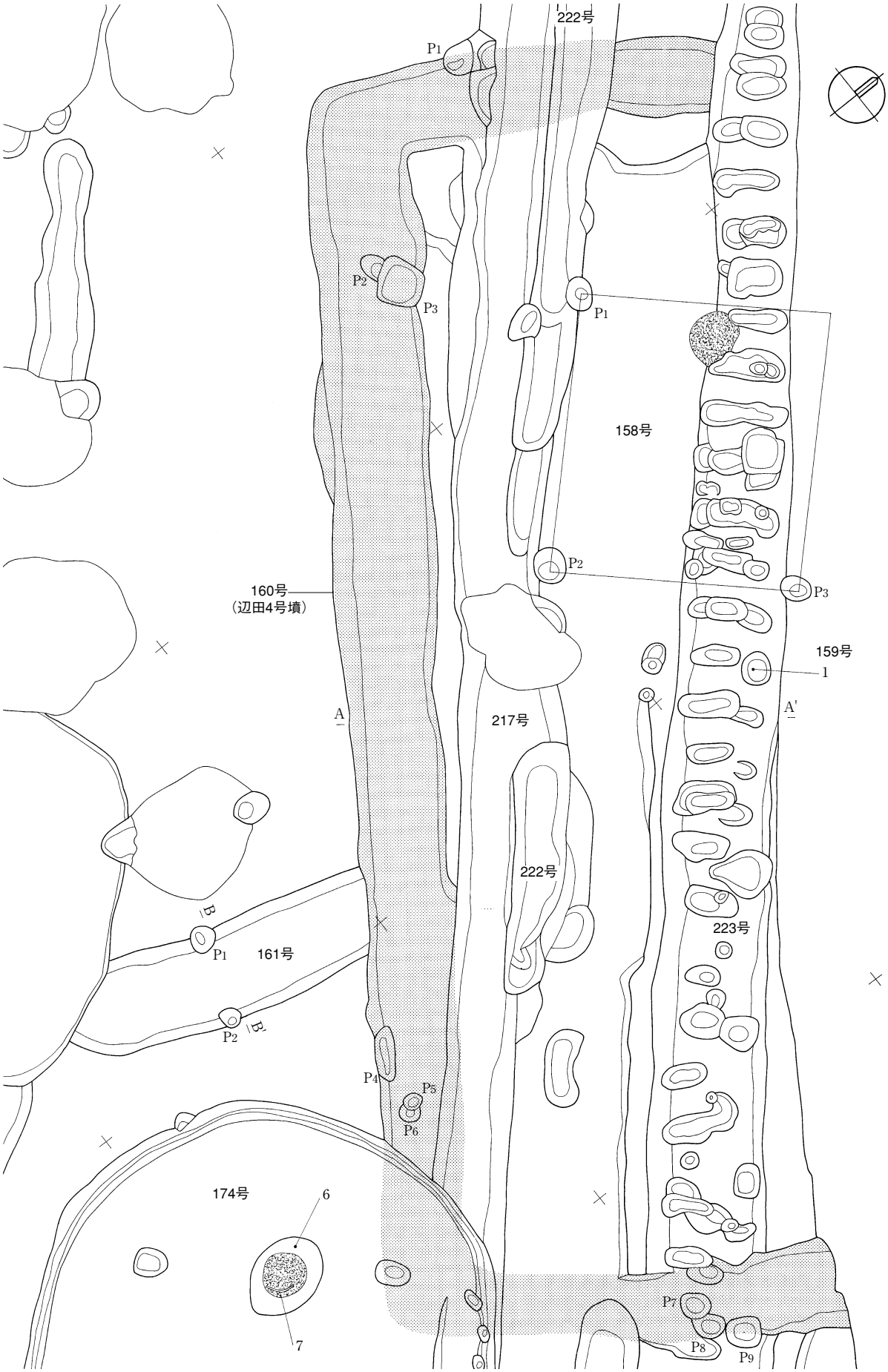
217号遺構・222号遺構・223号遺構に削平されて存在し、墳丘を流出した方台部東西内径約16.5ｍを測る終末期の方墳である。残存する周溝上端幅は1.5ｍ前後、深さは南側周溝が最大35.0㎝を測るが、東側10.1㎝、西側4.3㎝を測り遺存状況は極めて不良である。本遺構に伴う埋葬施設は検出されなかった。

遺物

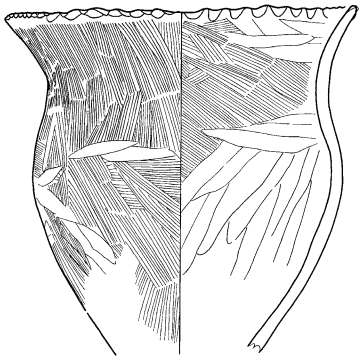
本墳からは総数148点1,034.3ｇの土器片と２点154ｇの土製品、34点1,869.8ｇの礫が検出された。土器片の内訳は19点188.5ｇの土師器、１点15ｇの須恵器、126点820ｇの弥生土器、１点6.2ｇの早期条痕文系土器、１点4.6ｇの近世陶器、１点23.6ｇの埴輪、１点130.4ｇの瓦である。これらの出土遺物の内４点を図示した。本遺構出土遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

161号遺構

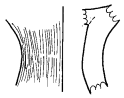
昭和59年度調査時遺構番号2008号。160号遺構（辺田４号墳）・168号遺構に削平されて存在する溝である。長さ4.3ｍ幅1.3ｍ前後、壁高は東11.9㎝、西13.5㎝を測り、遺存状況は不良である。



第152図　158～161号遺構実測図

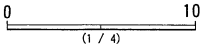


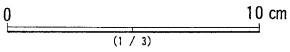
159–1

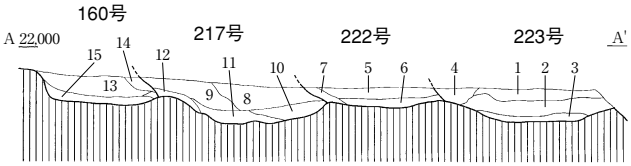


159–2

159–3

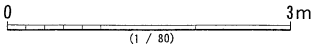




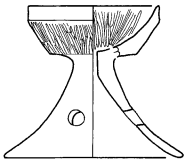


160号遺構他

1 黒褐色土　ローム粒含む。
2 黒褐色土　やや粒の細かいロームブロック含む。
3 黒褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。
4 黒褐色土　ローム粒含む。
5 暗褐色土　ローム粒含む。
6 黒褐色土　ローム粒含む。
7 黒褐色土　ローム粒含む。
8 黒褐色土　ローム粒少量と火山灰含む。
9 黒褐色土　ローム粒含む。
10 暗褐色土　ローム粒含む。
11 黒褐色土　やや粒の細かいロームブロック含む。
12 黒褐色土　ローム粒ロームブロック含む。
13 黒褐色土　ローム粒少量含む。
14 黒褐色土　ローム粒含む。
15 黒褐色土　ローム粒含む。

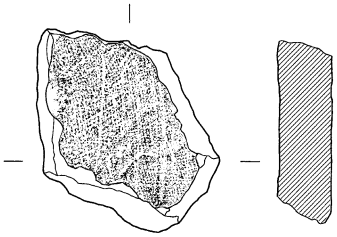


160–1

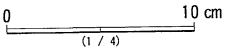


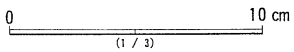
160–2

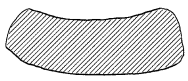
160–3

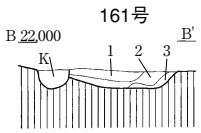


160–4





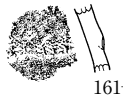




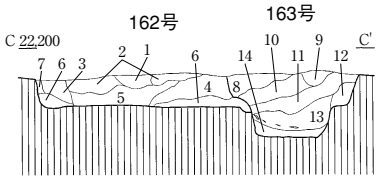
161号遺構

1 黒褐色土　ローム粒まばらに含む。
2 暗褐色土　ローム粒含む。
3 暗褐色土　ローム粒含む。

161–1



161–2

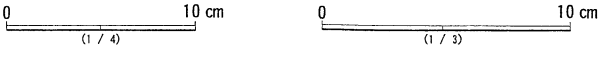


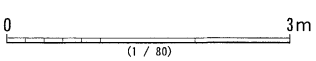
162号遺構

1 黒褐色土　ローム粒含む。
2 黒褐色土　ローム粒と暗褐色土含む。
3 黒色土　ローム粒含む。
4 黒色土　ロームブロック少量含む。
5 黒褐色土　ローム粒少量含む。
6 黒褐色土　ロームブロック少量含む。
7 暗褐色土　ローム粒含む。

163号遺構

8 黒褐色土　ローム粒含む。
9 黒褐色土　ローム粒含む。
10 黒褐色土　ローム粒少量含む。
11 黒褐色土　ローム粒含む。
12 黒色土　ローム粒含む。
13 黒色土　遺物、ロームブロック含む。
14 暗褐色土　ロームブロック含む。

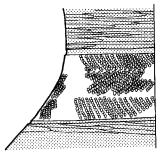




162–2

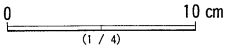
162–4

162–5



162–1

162–3



第153図　160～163・217・222・223号遺構実測図・159～162号遺構出土遺物実測図

遺物

本遺構からは19点127ｇの土器片と２点30ｇの礫が検出された。土器片の内訳は３点57ｇの土師器、16点70ｇの弥生土器である。これらの出土遺物の内２点を図示した。本遺構出土遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

162号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1027号。１号遺構（辺田１号墳）の北側に位置し、163号遺構と撹乱に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径3.46ｍ短径3.44ｍを測り、主軸方位はN－３°－Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁33.5cm、西壁28.1cm、南壁22.0cm、北壁28.5cmを測り、遺存状態はやや不良である。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長0.84ｍを測り、主軸方位はN-42°-Wを示し、床面より3.4cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず、床面はほぼ平坦であり、ピットは２箇所に検出された。深さはそれぞれＰ１が35.9cm、Ｐ２が19.9cmを測る。

遺物

本遺構からは374点2,452,7ｇの土器片と12点372ｇの礫が検出された。土器片の内訳は、１点10ｇの土師器、371点2,415.7ｇの弥生土器、２点19ｇの早期撚糸文系土器、１点８ｇの縄文土器である。これらの出土遺物の内25点を図示した。３は、遺構中央の床面から４cm浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

163号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1028号。162号遺構を削平して存在する隅丸長方形の土坑である。長径1.28ｍ短径0.84ｍを測り、主軸方位はN－３°－Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁67.4cm、西壁30.5cm、南壁35.4cm、北壁9.6cmを測り、北側は撹乱によって削平されており遺存状態は不良である。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

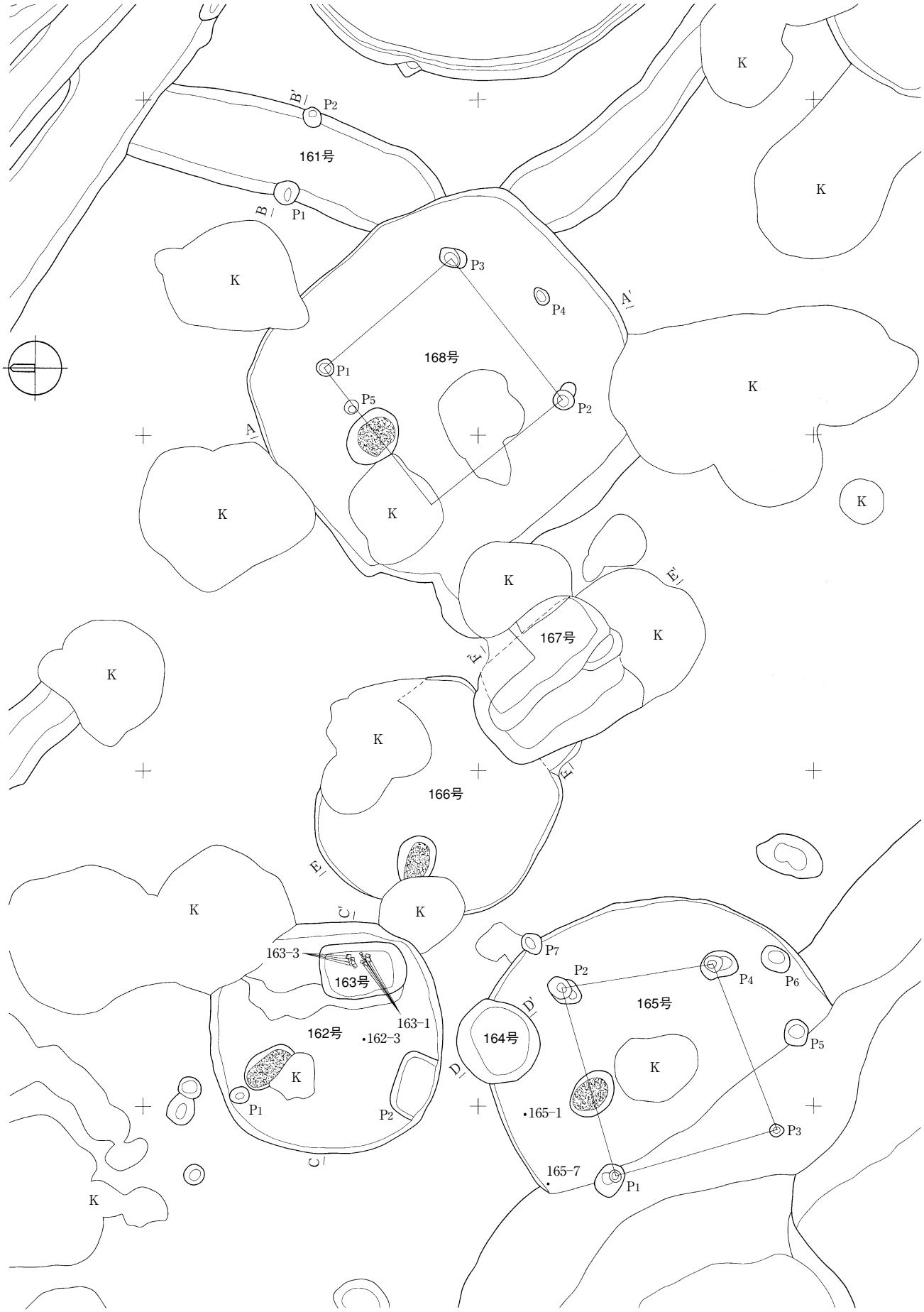
本遺構からは682点6,596.8ｇの土器片と５点296.5ｇの礫・石器、１点２ｇの青銅器片が検出された。その内訳は、１点12.2ｇの土師器、681点6,584.6ｇの弥生土器、１点240ｇの凹石、１点２ｇの帯状円環型銅釧片である。これらの出土遺物の内40点を図示した。１・３は底面より４cm程浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

164号遺構

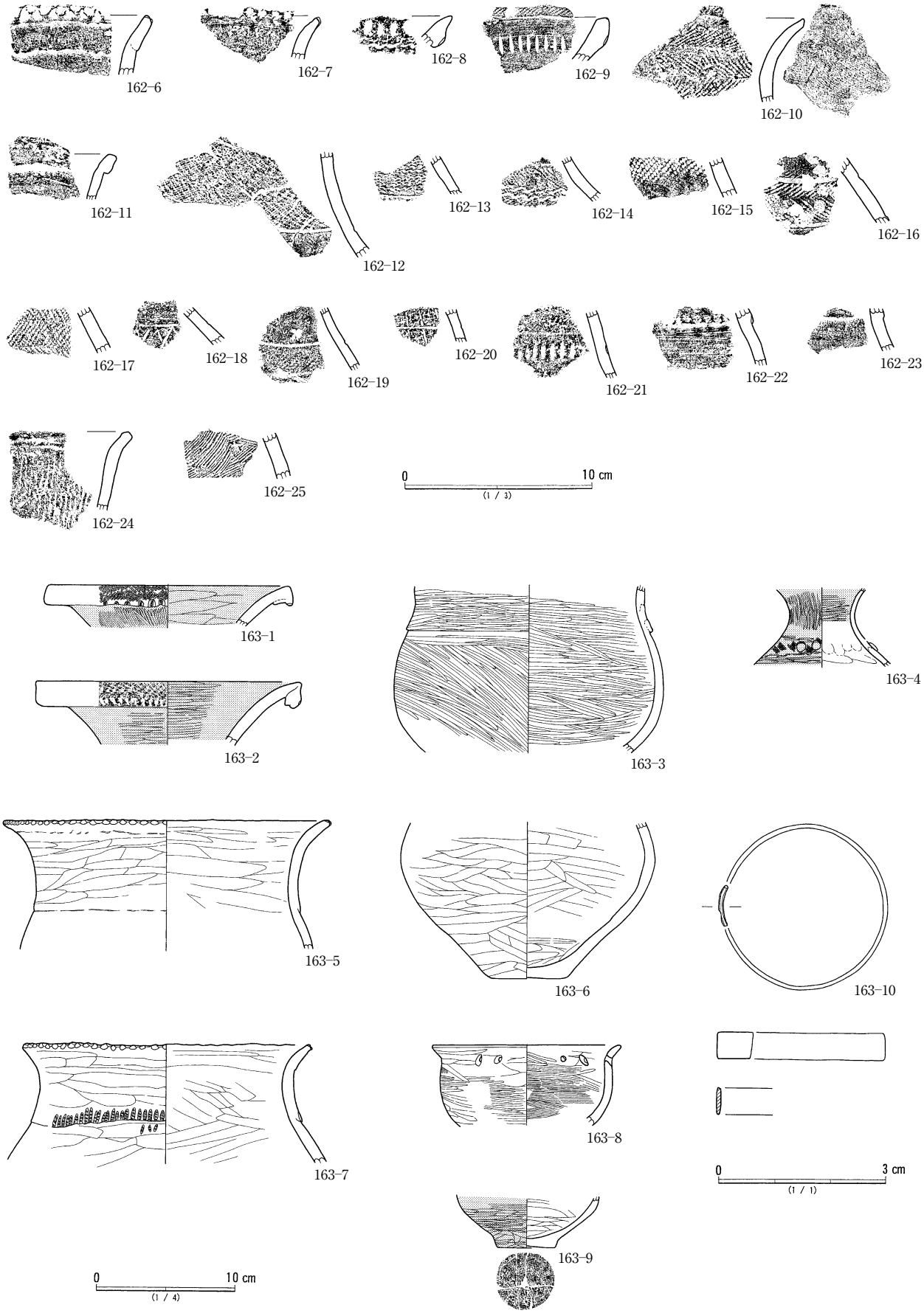
昭和59年度調査時遺構番号1030号。165号遺構に削平されて存在する円形の、フラスコ型の土坑である。長径1.28ｍ短径1.2ｍを測り、主軸方位はN-74°-Eを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁112.4cm、西壁90.4cm、南壁119.0cm、北壁101.6cmを測り、遺存状態は良好である。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

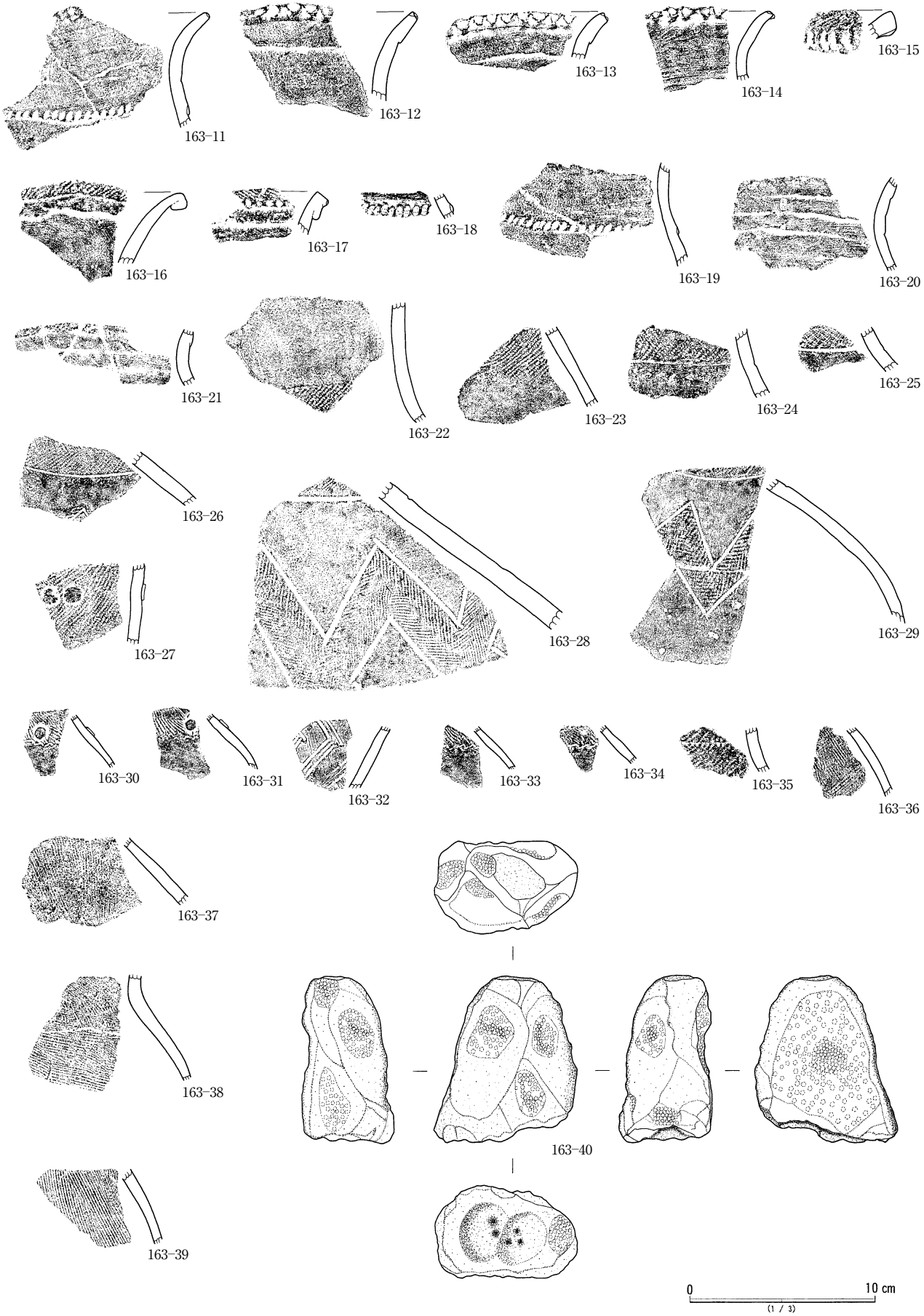
本遺構からは３点240ｇの礫・石器が検出され、これらの出土遺物の内１点を図示した。１は石皿



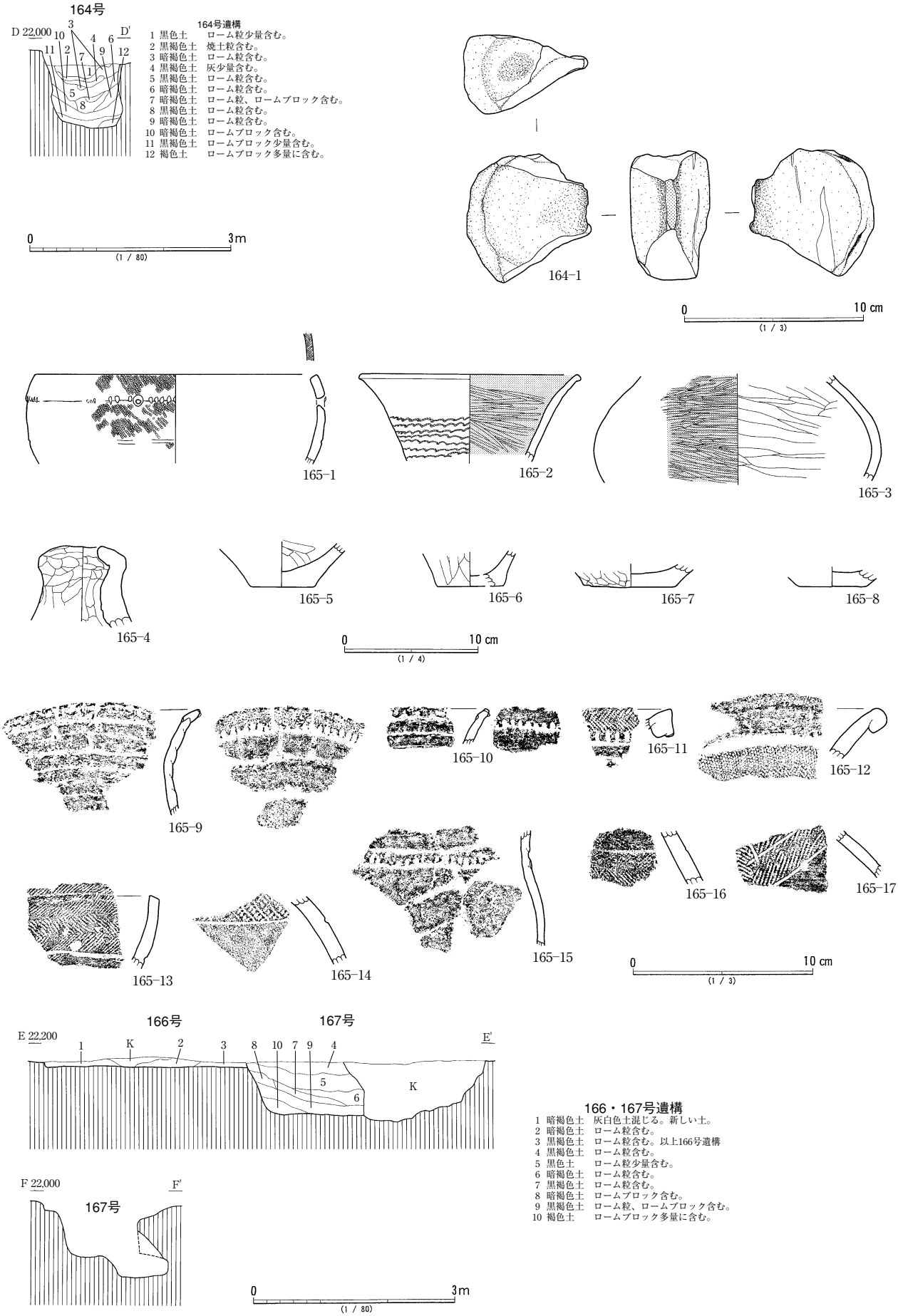
第154図　161～168号遺構実測図



第155図　162・163号遺構出土遺物実測図



第156図　163号遺構出土遺物実測図



第157図　164・166・167号遺構実測図・164・165号遺構出土遺物実測図

片である。本遺構出土遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

165号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1029号。１号遺構（辺田１号墳）に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.14ｍを測り、主軸方位はN-13°-W を示す。残存する壁高は、それぞれ東壁25.5cm、南壁7.0cm、北壁13.9cmを測り、遺存状態は不良である。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長0.76ｍを測り、主軸方位はN-39°-W を示し、床面より6.9cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず、床面はほぼ平坦であり、ピットは７箇所に検出された。深さはそれぞれＰ１が61.7cm、Ｐ２が76.6cm、Ｐ３が51.8cm、Ｐ４が76.1cm、Ｐ５が17.6cm、Ｐ６が43.2cm、Ｐ７が68.4cmを測る。Ｐ１からＰ４は掘り込みも深くしっかりしており、主柱穴であるものと考えられる。

遺物

本遺構からは220点2,251.3ｇの土器片と５点105ｇの礫が検出された。その内訳は、217点2,231.3ｇの弥生土器、３点20ｇ早期撚糸文系土器である。これらの出土遺物の内17点を図示した。１は、炉北側の床面密着で、７は壁際の床面から4.6cm離れて検出されている。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

166号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1031号。撹乱と167遺構に削平されて存在する竪穴住居跡である。東西径3.58m南北径3.68ｍを測り、主軸方位はN-75°-W を示す。残存する壁高は、それぞれ東壁6.2cm、西壁9.7cm、南壁10.5cm、北壁7.7cmを測り、遺存状態は不良である。炉は中央やや西寄りに検出された。長軸残長0.64ｍを測り、主軸方位はN-75°-W を示し、床面より6.6cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず、床面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

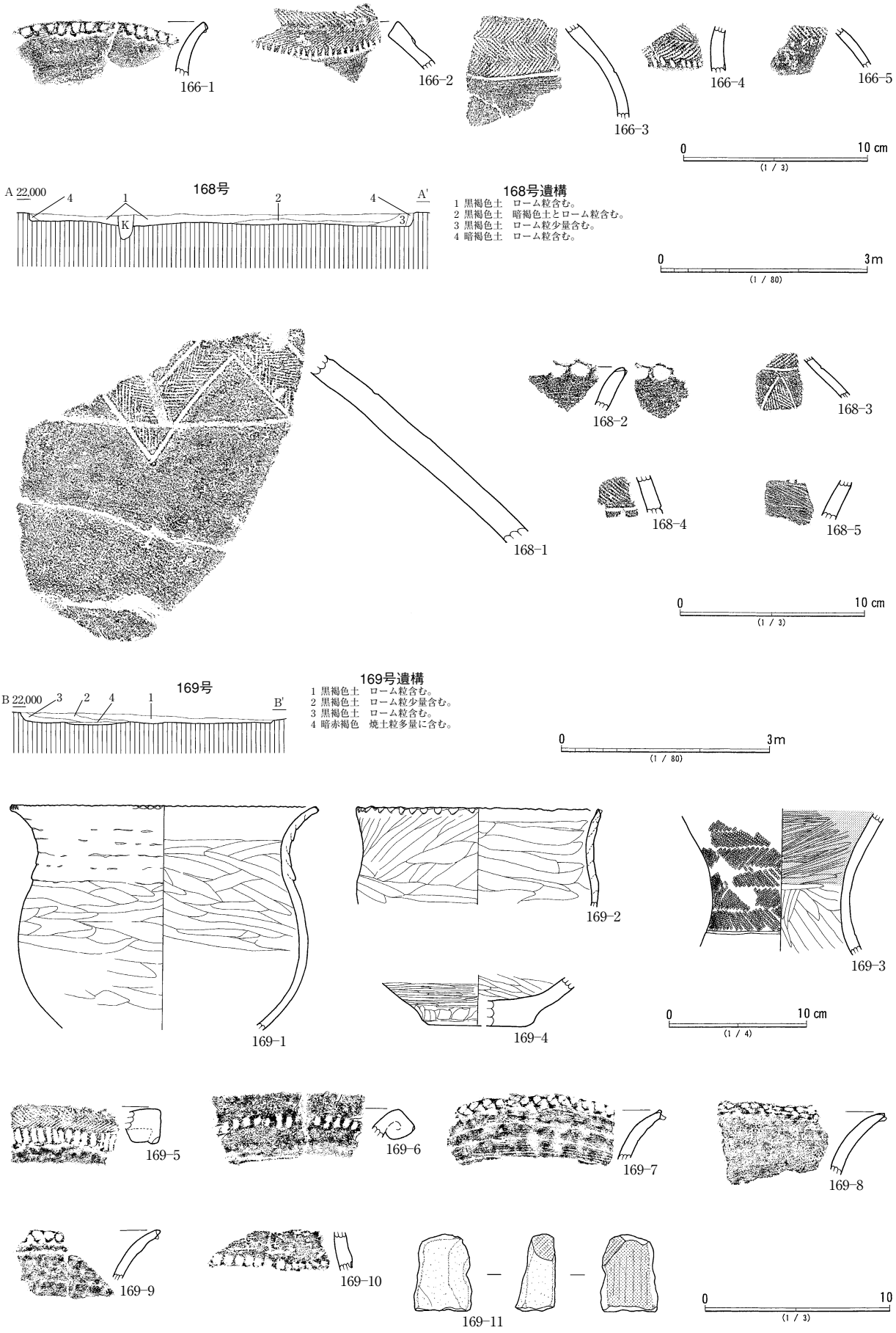
本遺構からは47点337.9ｇの弥生土器と２点２ｇの早期撚糸文系土器、８点391ｇの礫が検出され、これらの出土遺物の内５点を図示した。本遺構出土遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

167号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1032号。166号遺構を削平し、撹乱に削平されて存在する側壁抉り込みの形態を呈する土壙墓である。長径2.4m短径1.88ｍを測り、主軸方位はN-39°-W を示す。残存する壁高は、それぞれ東壁106.9cm、西壁74.6cm、南壁45.4cm、北壁92.5cmを測り、削平の割に遺存状態は良好である。玄室の規模は、長径1.9m短径0.8m、高さは30cmを測る。

遺物

本遺構からは65点387ｇの土器片と４点160ｇの礫が検出された。土器片の内訳は１点15ｇの土師器、62点360ｇの弥生土器、１点10ｇの早期条痕文系土器、１点２ｇの縄文土器であるが、磨耗・剥離の激しいものが多く図示に至る遺物ない。また、本遺構出土遺物は、何れも覆土一括で取り上げら



第158図　168・169号遺構実測図・166・168・169号遺構出土遺物実測図

れたものであり、出土地点を明示するものは無い。

168号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1033号。161号遺構を削平し、周囲を撹乱に削平されて存在する長楕円形の竪穴住居跡である。長径5.44ｍ短径5.22ｍを測り、主軸方位はN-40°-W を示す。残存する壁高は、それぞれ東壁9.2cm、西壁21.1cm、南壁19.9cm、北壁9.4cmを測り、遺存状態はやや不良である。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長0.9ｍを測り、主軸方位はN-47°-W を示し、床面より9.1cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず、床面はほぼ平坦であり、ピットは５箇所に検出された。深さはそれぞれＰ１が67.7cm、Ｐ２が67.0cm、Ｐ３が58.1cm、Ｐ４が7.8cm、Ｐ５が20.5cmを測る。主柱穴の一角は遺構内に存在する撹乱に削平されたと捉えられ、Ｐ１～Ｐ３は掘り込みも深くしっかりしており、主柱穴であるものと考えられる。

遺物

本遺構からは26点585ｇの弥生土器と５点470ｇの礫が検出され、これらの出土遺物の内５点を図示した。本遺構出土遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

169号遺構

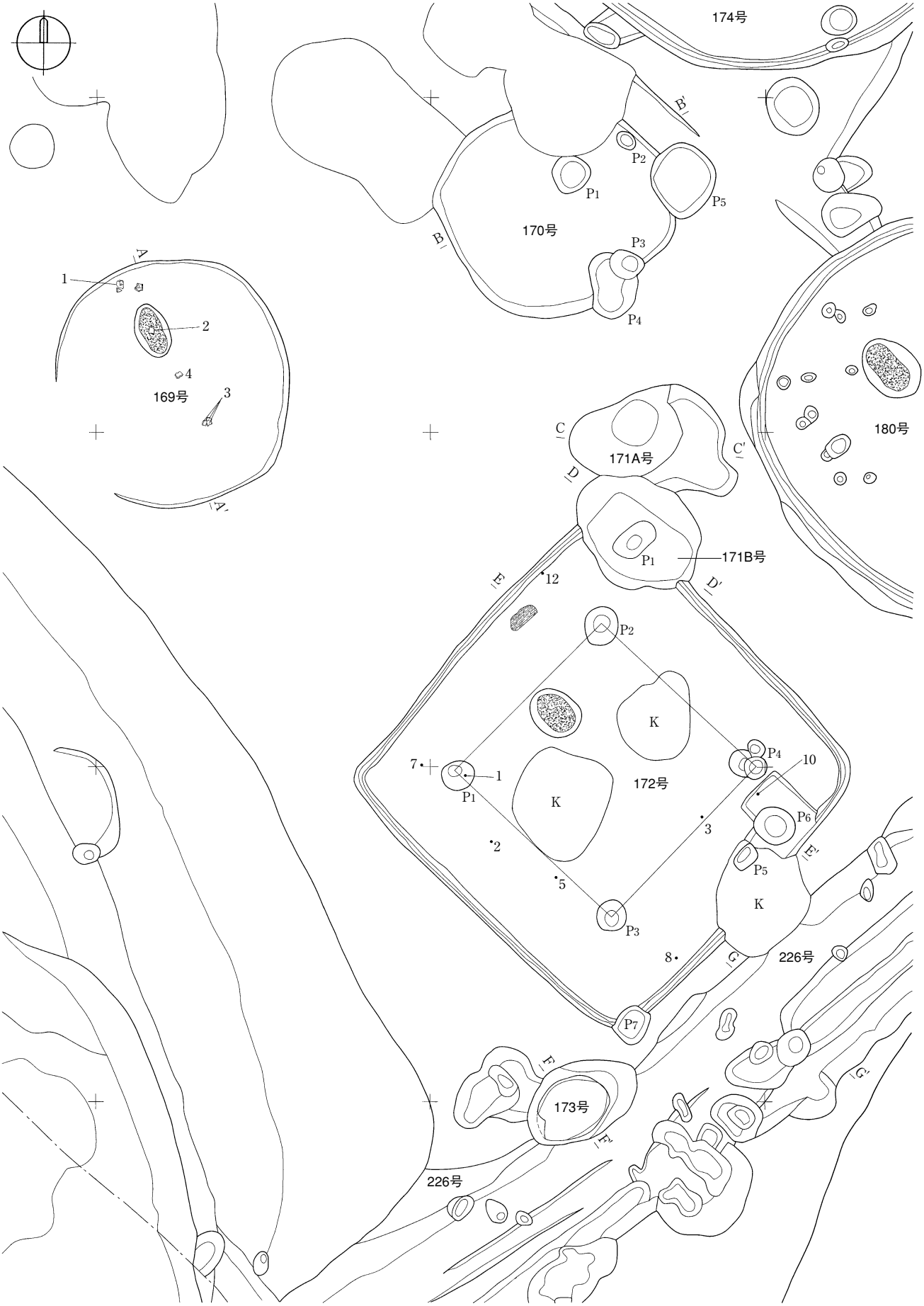
昭和59年度調査時遺構番号1033号。１号遺構（辺田１号墳）の北側に存在し、遺構西側を流出するが、平面プラン長楕円形の竪穴住居跡である。長径3.68ｍを測り、主軸方位はN-18°-W を示す。残存する壁高は、それぞれ東壁11.2cm、南壁4.9cm、北壁8.2cmを測り、遺存状態はやや不良である。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長0.84ｍを測り、主軸方位はN-20°-W を示し、床面より5.4cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず、床面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは122点2,280ｇの弥生土器と５点130ｇの礫・石器が検出され、これらの出土遺物の内11点を図示した。１は北側の壁際の床面より8.6cm程浮いて検出された甕である。２は炉内火床に密着して検出された。３・４は遺構中央部床面に密着して検出されている。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであるが、本遺構覆土は非常に浅いため、何れも極めて床面に近い位置からの検出と捉えられる。

170号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1036号。169号遺構の東側に位置し、周囲を撹乱に削平されて存在する竪穴住居跡である。短径3.0ｍを測り、主軸方位はN-18°-W を示す。残存する壁高は、それぞれ東壁6.9cm、西壁20.1cm、南壁16.8cm、北壁13.0cmを測り、遺存状態はやや不良である。周溝は存在せず、床面はほぼ平坦であり、炉は検出されなかった。ピットは５箇所に検出されたが、土層断面が示すとおり、Ｐ１は遺構覆土が埋まりきってから構築されており、本遺構に直接伴うものではない。また、Ｐ２以外のピットは遺構から突出して構築されており、遺構に直接伴う可能性は少ないと捉えら



第159図　169・170・171A・171B・172・173号遺構実測図

れる。深さはそれぞれＰ１が43.3cm、Ｐ２が29.4cm、Ｐ３が46.9cm、Ｐ４が31.2cm、Ｐ５が20.9cmを測る。

遺物

本遺構からは61点535ｇの土器・土製品と14点210ｇの礫が検出された。土器・土製品の内訳は、57点445ｇの弥生土器、１点10ｇの早期撚糸文系土器、２点20ｇの早期条痕文系土器、１点60ｇの布目瓦である。これらの出土遺物の内７点を図示した。これらの遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

171A 号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1041号。170号遺構の南側に位置する不整形な土坑である。長径2.3m短径1.55mを測り、主軸方位はN-84°-W を示す。残存する壁高は、それぞれ東壁37.1cm、西壁84.6cm、南壁49.3cm、北壁82.4cmを測り、底面は歪である。

遺物

本遺構から遺物は全く検出されなかった。

171B 号遺構

昭和59年度調査時遺構番号無し。171A 号遺構に隣接し172号遺構に削平されて存在する隅丸長方形を呈する土坑である。長径2.1m短径1.6mを測り、主軸方位はN-49°-W を示す。残存する壁高は、それぞれ東壁56.4cm、西壁20.8cm、南壁51.3cm、北壁42.5cmを測り、171A 号遺構と172号遺構に削平された箇所の遺存状況は不良である。底面は緩やかに傾斜し、中央の一箇所にピットが検出された。深さは底面より21cmを測る。

遺物

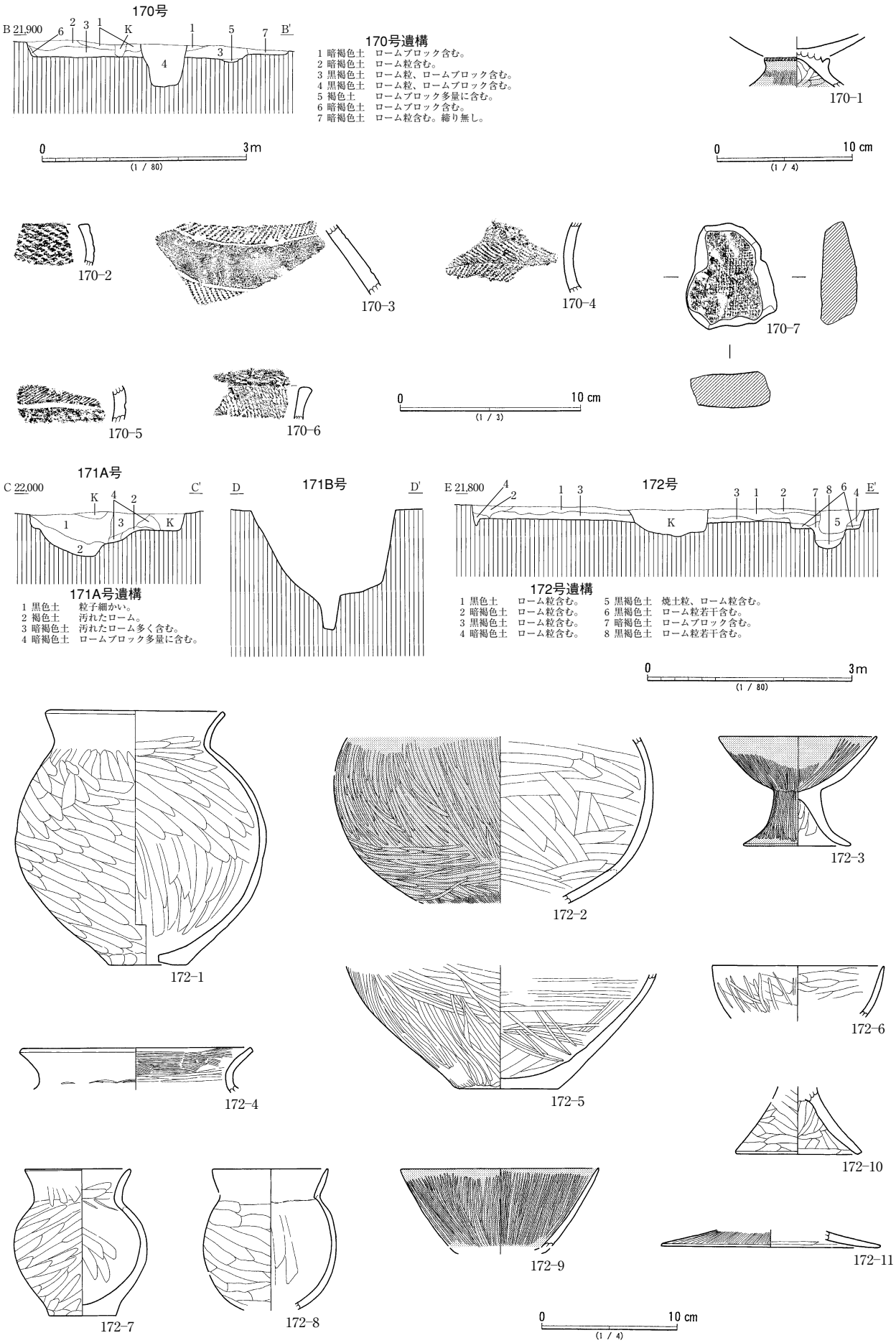
本遺構から遺物は全く検出されなかった。

172号遺構

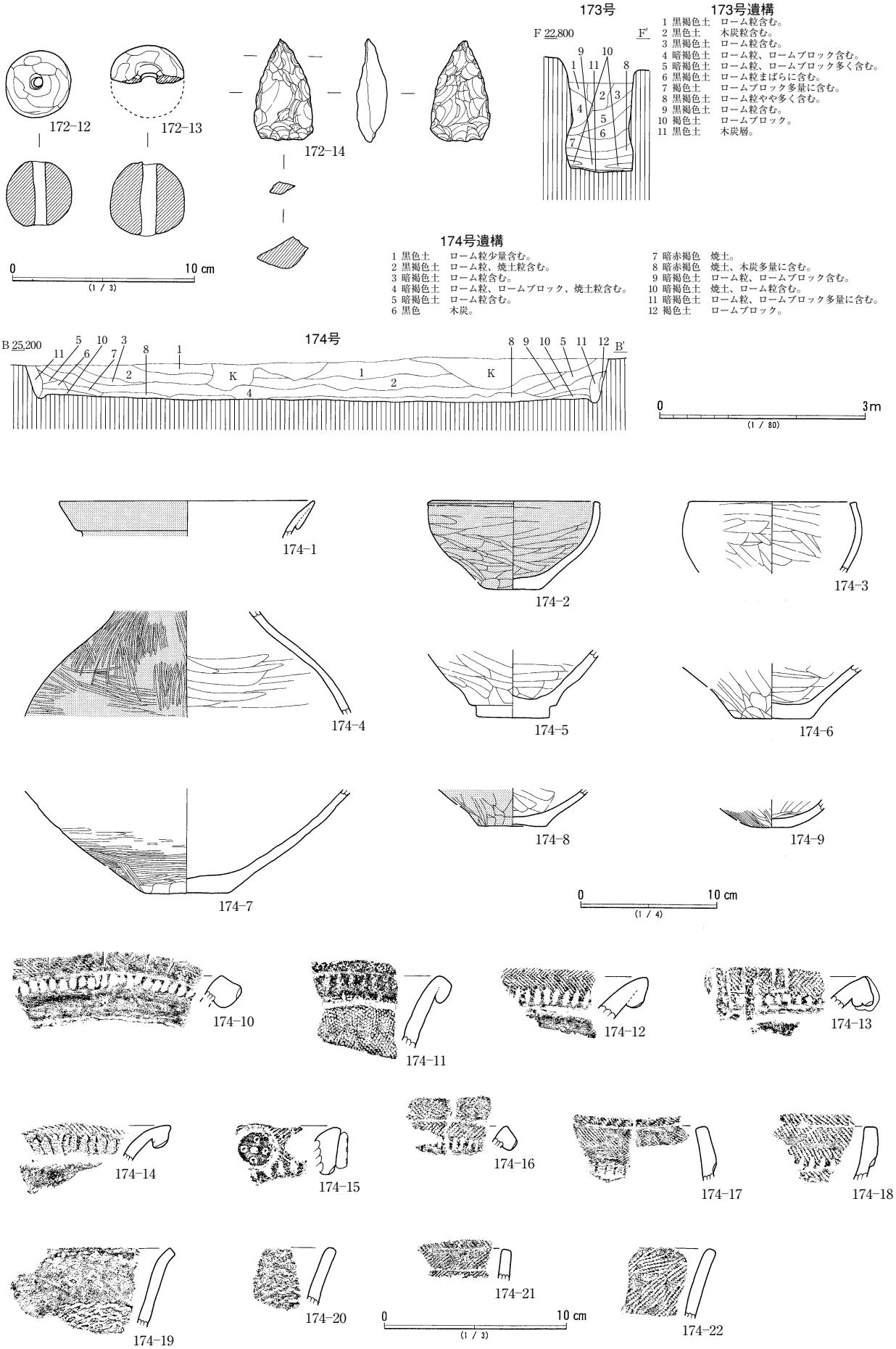
昭和59年度調査時遺構番号1035号。１号遺構（辺田１号墳）の北側に位置し、171B 号遺構を削平して存在する方形の竪穴住居跡である。長径5.84m短径5.7mを測り、主軸方位はN-47°-W を示す。残存する壁高は、それぞれ東壁21.1cm、西壁13.8cm、南壁14.0cm、北壁17.3cmを測り、遺存状態はやや不良である。炉は中央やや北寄りに検出された。長軸長0.8mを測り、主軸方位はN-44°-Wを示し、床面より7.4cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は全周するものと捉えられ、深さはそれぞれ東8.8cm、西14.0cm、南11.1cm、北12.3cm前後を測る。床面はほぼ平坦であり、ピットは７箇所に検出された。深さはそれぞれＰ１が84.5cm、Ｐ２が90.5cm、Ｐ３が80.0cm、Ｐ４が88.7cm、Ｐ５が39.7cm、Ｐ６が35.8cm、Ｐ７が30.6cmを測る。Ｐ１～Ｐ４は掘り込みも深くしっかりしており、主柱穴であるものと捉えられる。Ｐ６は蓋付の貯蔵穴と考えられ、周囲が４cm程掘り下がっている。

遺物

本遺構からは536点7,791.7ｇの土器片と17点453.8ｇの礫・石器が検出された。土器片の内訳は、416点5,512.4ｇの土師器、93点2,058.3ｇの弥生土器、22点195.2ｇの早期撚糸文系土器、５点25.8ｇ



第160図　170・171A・171B・172号遺構実測図・170・172号遺構出土遺物実測図



第161図　173・174号遺構実測図・172・174号遺構出土遺物実測図

の早期条痕文系土器、２点75.8ｇの土玉である。これらの出土遺物の内14点を図示した。１は、Ｐ１内に６㎝程埋没して検出された。２・３・５・７・８・10・12は、２が床から凡そ10㎝離れて検出されるのに対し、他は床直の状態で出土している。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

173号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1042号。226号遺構に削平されて存在する長楕円形を呈するフラスコ型の土坑である。長径1.82ｍ短径1.18ｍを測り、主軸方位はN-57°-Eを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁148.9㎝、西壁149.7㎝、南壁150.0㎝、北壁162.0㎝を測り、遺存状況は良好である。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構から遺物は全く検出されなかった。

174号遺構

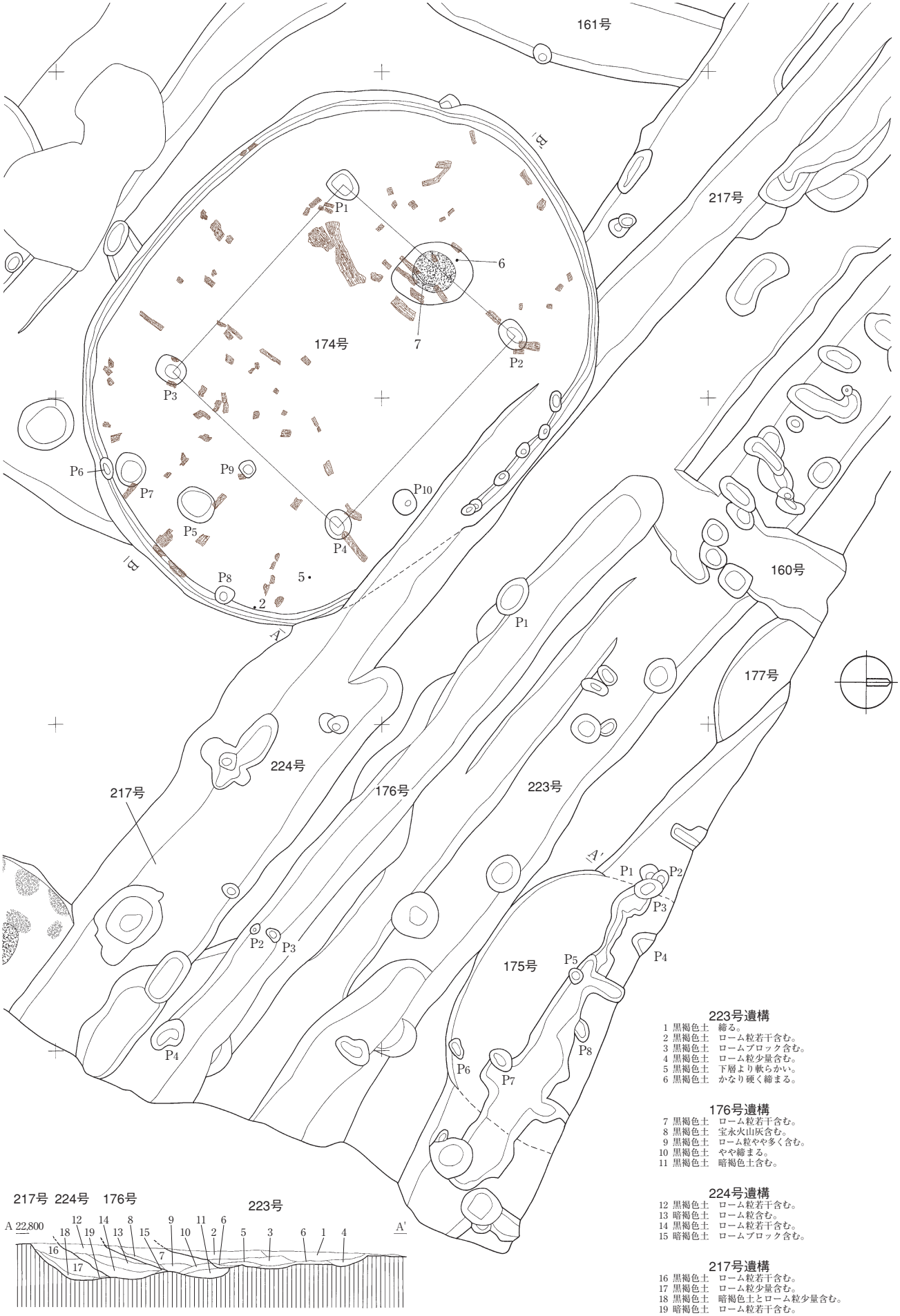
昭和59年度調査時遺構番号1037号。161号遺構の東側に位置し、217号遺構に削平されて存在する長楕円形の竪穴住居跡である。長径8.6ｍ短径6.72ｍを測り、主軸方位はN-47°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁40.7㎝、西壁49.5㎝、南壁47.1㎝、北壁35.4㎝を測り、遺存状態はやや良好である。炉は中央やや西寄りに検出された。長軸長1.26ｍを測り、主軸方位はN-９°-Wを示し、床面より10.4㎝程下がった位置で火床を検出する。周溝は全周するものと捉えられ、深さはそれぞれ東5.3㎝、西6.1㎝、南5.8㎝、北8.7㎝前後を測る。床面はほぼ平坦であり、床面の至る所から焼土と炭化物が検出された。ピットは15箇所に検出された。深さはそれぞれＰ１が58.5㎝、Ｐ２が60.1㎝、Ｐ３が50.3㎝、Ｐ４が50.9㎝、Ｐ５が26.9㎝、Ｐ６が21.6㎝、Ｐ７が5.7㎝、Ｐ８が5.1㎝、Ｐ９が16.0㎝、P10が16.1㎝、P11が13.2㎝、P12が14.4㎝、P13が23.8㎝、P14が5.3㎝、P15が33.2㎝を測る。Ｐ１～Ｐ４は掘り込みも深くしっかりしており、主柱穴であるものと捉えられる。

遺物

本遺構からは630点6,215ｇの土器片と62点2,560ｇの礫が検出された。土器片の内訳は、２点45ｇの土師器、616点6,045ｇの弥生土器、10点100ｇの早期撚糸文系土器、２点25ｇの近世陶器である。これらの出土遺物の内41点を図示した。２・５は、Ｐ８周辺の床面密着の状態で検出された。６・７は何れも炉内からの出土で、６が火床より14㎝浮いた状態で、７は密着状態で検出されている。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

175号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1001号。調査区の北東端に位置し、223号遺構に接して存在する竪穴住居跡であり、北側の大半は既に削平されている。推定長径（4.3）ｍを測り、主軸方位はN-54°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ西壁28.3㎝、南壁26.9㎝を測り、中央に深さ４㎝程の溝状遺構が存在し、遺存状態は極めて不良である。炉・周溝は検出されず、残存する床面はほぼ平坦である。遺構付近よりピットは８箇所に検出されたが、何れも掘り込みが浅く直接関連するとは思われない。深



第162図　174～177・217・223・224号遺構実測図

さはそれぞれＰ１が7.7cm、Ｐ２が9.3cm、Ｐ３が10.9cm、Ｐ４が8.2cm、Ｐ５が3.9cm、Ｐ６が0.5cm、Ｐ７が15.4cmを測る。Ｐ８はレベル記載が無く、深さは不明である。

遺物

本遺構からは40点425ｇの弥生土器と１点190ｇの布目瓦、６点220ｇの礫が検出された。この内４点を図示した。これらの遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

176号遺構

昭和59年度調査時遺構番号2002号。土層断面図によれば、224号遺構を削平し、223号遺構に削平されて存在する溝である。長さ12.3m幅80cm前後、深さは16.5～21.0cmを測る。遺構内の４箇所にピットが検出され、深さはそれぞれＰ１が18.5cm、Ｐ２が4.9cm、Ｐ３が11.1cm、Ｐ４が8.3cmを測る。

遺物

本遺構から遺物は全く検出されなかった。

177号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1131号。調査区の北東端に位置し、160号遺構（辺田４号墳）に削平されて存在する竪穴住居跡であり、北側の大半は既に削平されており、遺存状況は極めて不良である。残存する壁高は、南壁11.1cmを測り、炉・周溝は検出されない。残存する床面はほぼ平坦であるが、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構から遺物は全く検出されなかった。

178号遺構

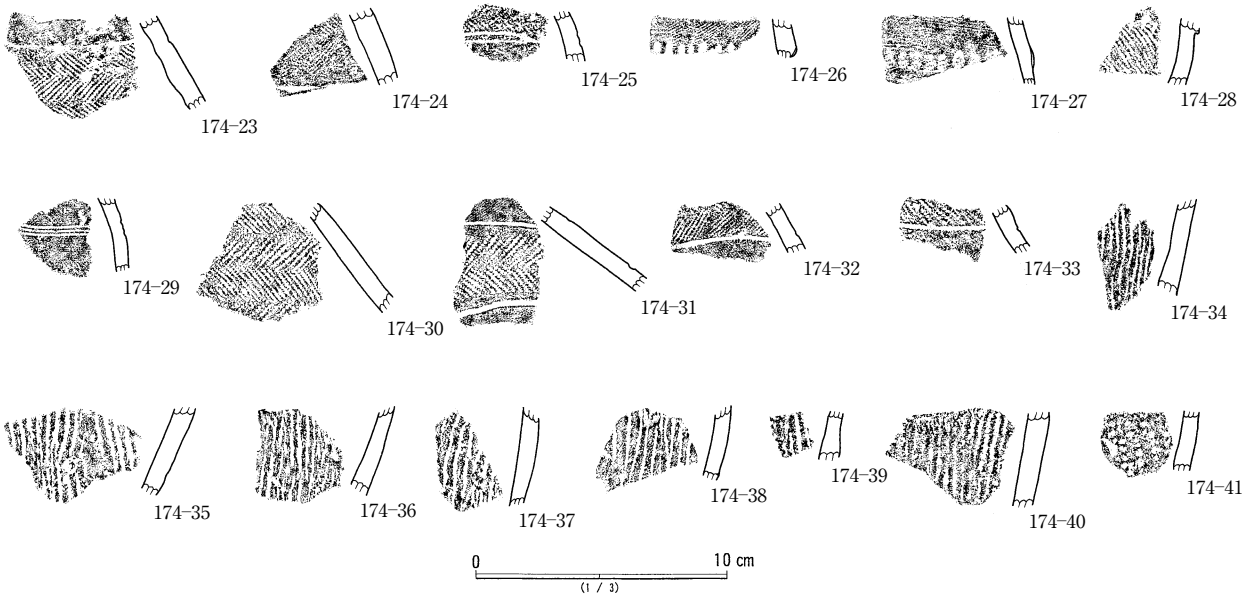
昭和59年度調査時遺構番号1039号。調査区東端に位置し、217号遺構と179号遺構に削平されて存在する竪穴住居跡である。遺構東側は既に削平されており、残存する壁高は、西壁で7.2cmを測り、遺存状態は不良である。炉は中央やや西寄りに検出された。長軸長0.64mを測り、主軸方位はN-64°-Wを示し、床面より3.8cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、床面の至る所に焼土の堆積が認められたが、ピット等は検出されなかった。

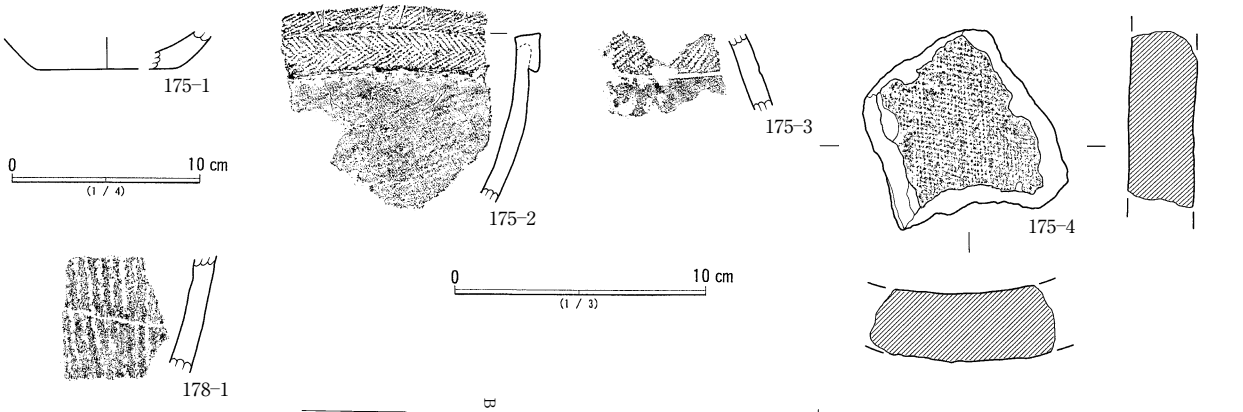
遺物

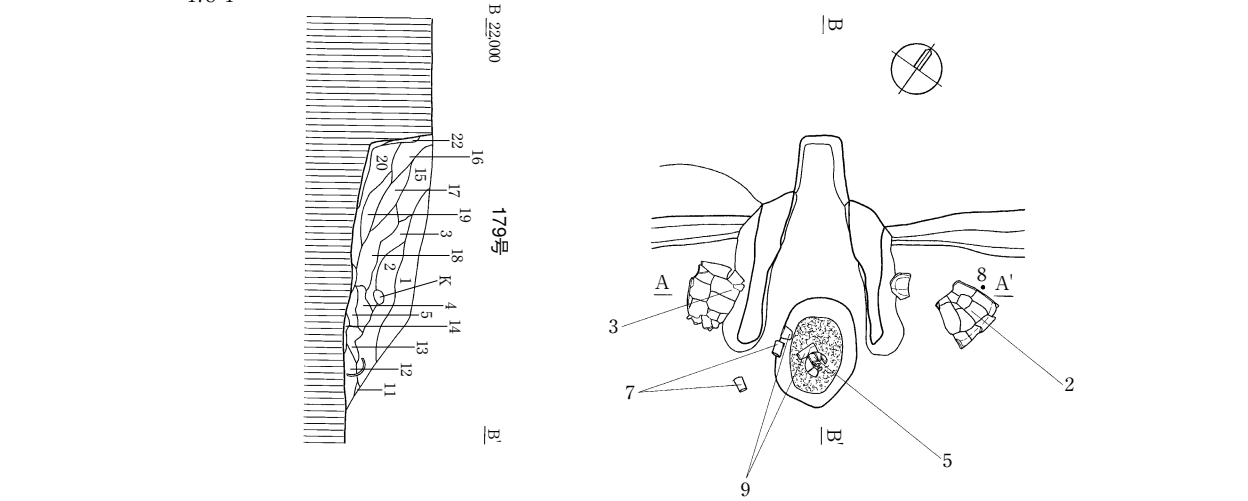
本遺構からは６点55ｇの土器片と１点1.3ｇの黒曜石剥片が出土した。土器片の内訳は、５点35ｇの弥生土器、１点20ｇの早期撚糸文系土器である。これらの出土遺物の内１点を図示した。これらの出土遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

179号遺構

昭和59年度調査時遺構番号1038号。178号遺構・180号遺構を削平して存在する竪穴住居跡である。遺構東側は大きく削平されており、残存する北壁の規模は6.4mを測り、主軸方位はN-37°-Wを示す。カマドは北壁中央に存在し、火床長軸長0.6mを測り、主軸方位はN-34°-Wを示し、床面から



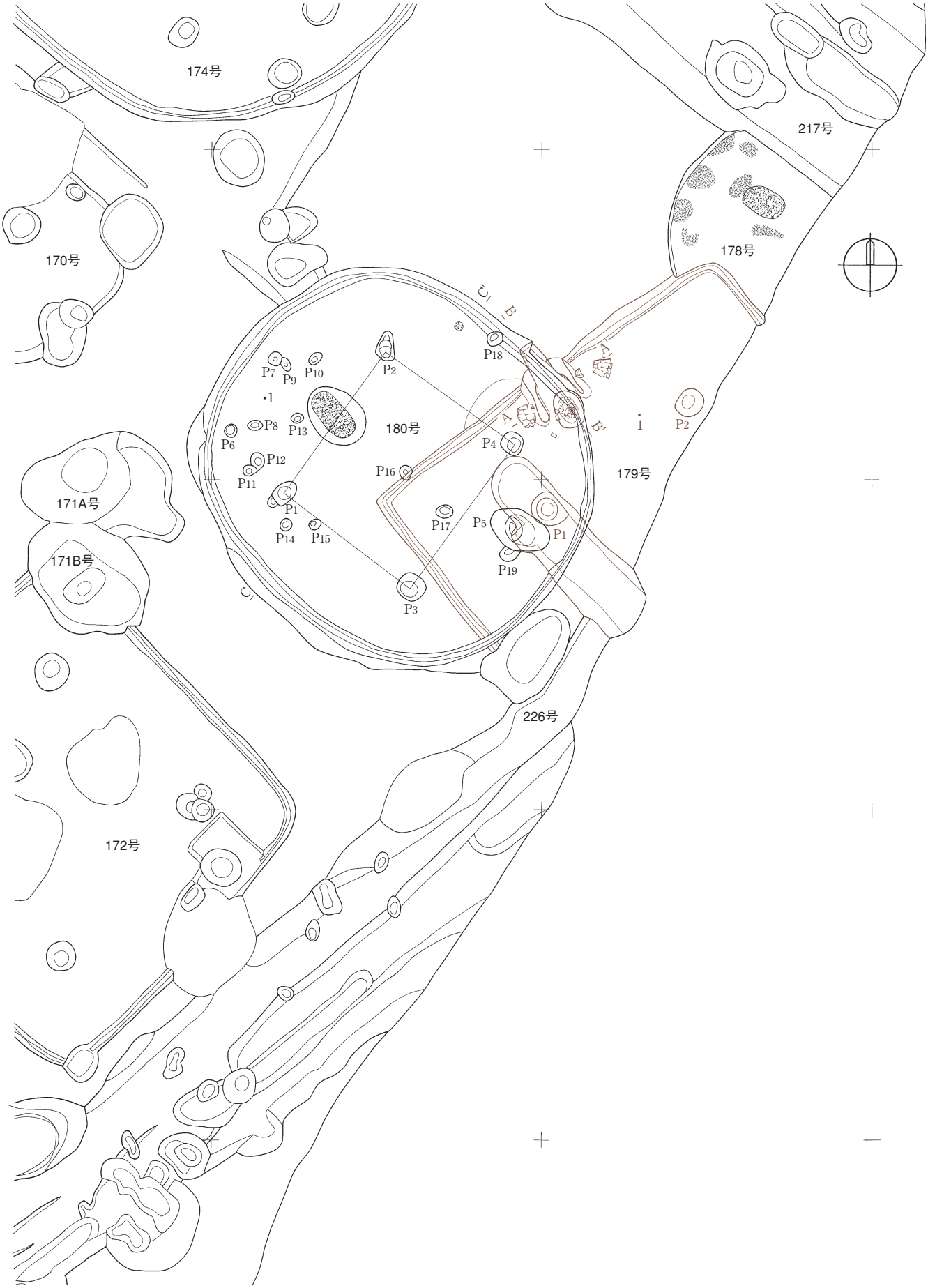




179号カマド

1	黒褐色土	粘土粒少量含む。	
2	黒褐色土	粘土粒含む。	
3	暗褐色土	粘土と褐色土の混合土。	
4	暗赤褐色土	焼土多量に含む。	
5	暗灰色土	灰を多量に含む。	
6	灰褐色土	焼土、粘土、灰を含む。	
7	暗灰色土	粘土、灰を含む。	
8	黒褐色土	粘土粒少量含む。	
9	黒灰褐色土	粘土粒含む。	
10	暗褐色土	ローム粒含む。	
11	暗赤褐色土	焼土。	
12	暗灰褐色	灰と粘土を含む。	
13	灰褐色土	粘土を含む。	
14	暗褐色土	焼土、灰を含む。	
15	黒褐色土	焼土粒含む。	
16	暗褐色土	焼土粒少量含む。	
17	暗赤褐色	焼土層。	
18	暗灰色土	焼土、粘土を含む。	
19	暗灰褐色	粘土、焼土ブロック、少量の灰含む。	
20	暗灰褐色	多量の灰と焼土含む。	
21	灰褐色土	粘土。	
22	暗赤褐色	焼粘土。	

第163図　179号遺構実測図・174・175・178号遺構出土遺物実測図



第164図　171A・171B・178～180・226号遺構実測図

5.0cm程下がった位置で火床を検出する。残存する壁高は、それぞれ西壁0.7cm、北壁32.1cmを測り、遺存状況は不良である。周溝は全周したものと捉えられ、深さはそれぞれ東13.9cm、西13.1cm、北12.6cm前後を測り均一的である。床面はイモ穴の範囲が周囲より20cm程下がる以外ほぼ平坦であり、主柱穴と想定されるピットが２箇所に検出された。深さはそれぞれＰ１がイモ穴底より28.8cm、Ｐ２が64.0cmを測る。

遺物

本遺構からは107点5,906.8ｇの土器片と４点60.9ｇの礫、19点1,489ｇの支脚片が出土した。土器片の内訳は77点5,729.1ｇの土師器、１点30ｇの須恵器、22点107.4ｇの弥生土器、６点35.4ｇの早期撚糸文系土器、１点4.9ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内９点を図示した。これらの遺物の内、４と６以外は何れもカマド周辺から出土し、８の支脚以外は何れも床密着の状態で検出されている。８は床面から22cm浮いた状態で検出された。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

180号遺構

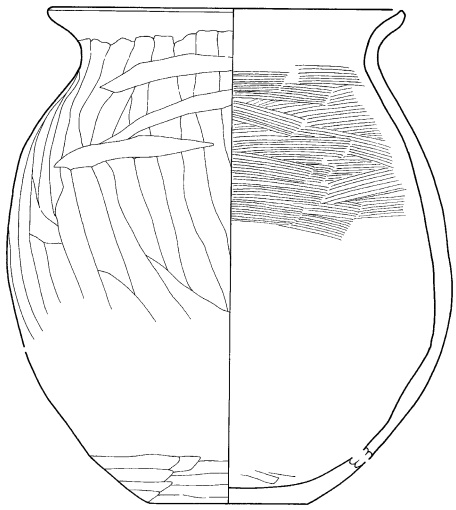
昭和59年度調査時遺構番号1040号。179号遺構に削平されて存在する長楕円形の竪穴住居跡である。長径6.06ｍ短径5.58ｍを測り、主軸方位はN-54°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁17.5cm、西壁73.0cm、南壁74.4cm、北壁70.7cmを測り、遺存状態は良好である。炉は中央やや西寄りに検出された。長軸長1.0ｍを測り、主軸方位はN-37°-Wを示し、床面より10.2cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は全周し、深さはそれぞれ東10.1cm、西10.0cm、南10.9cm、北11.3cm前後を測り均一的である。床面はほぼ平坦であり、ピットは19箇所に検出された。深さはそれぞれＰ１が78.5cm、Ｐ２が64.1cm、Ｐ３が82.7cm、Ｐ４が76.6cm、Ｐ５が60.3cm、Ｐ６が4.7cm、Ｐ７が4.4cm、Ｐ８が6.2cm、Ｐ９が5.2cm、P10が6.7cm、P11が14.5cm、P12が5.6cm、P13が5.5cm、P14が14.2cm、P15が26.4cm、P16が5.8cm、P17が4.5cm、P18が15.7cm、P19が19.9cmを測る。Ｐ１～Ｐ４は掘り込みも深くしっかりしており、主柱穴に、Ｐ５は入口施設の伴うものと捉えられる。

遺物

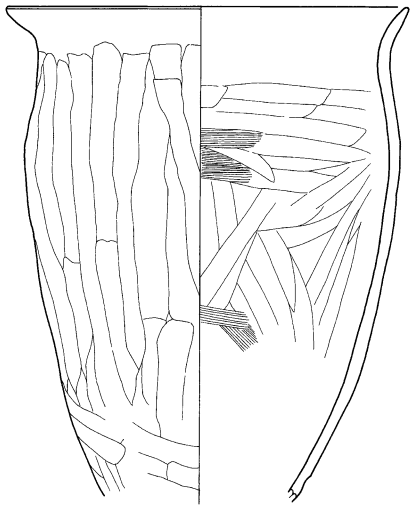
本遺構からは415点4,415.2ｇの土器片と45点1,662,7ｇの礫が検出された。土器片の内訳は、19点397.2ｇの土師器、376点3,763.4ｇの弥生土器、14点154.3ｇの早期撚糸文系土器、１点44.4ｇの早期条痕文系土器、４点46.3ｇの前期繊維土器、１点9.6ｇのその他の縄文土器である。これらの出土遺物の内37点を図示した。１は、炉西側の床面密着の状態で検出された壺口縁部である。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

181号遺構

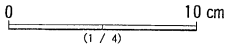
昭和60年度調査時遺構番号G-40号。１号遺構（辺田１号墳）の下層西側に存在し、長楕円形を呈する土坑である。長径2.0ｍ短径0.88ｍを測り、主軸方位はN-80°-Eを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁13.3cm、西壁9.2cm、南壁11.1cm、北壁4.4cmを測り、遺存状況は不良である。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

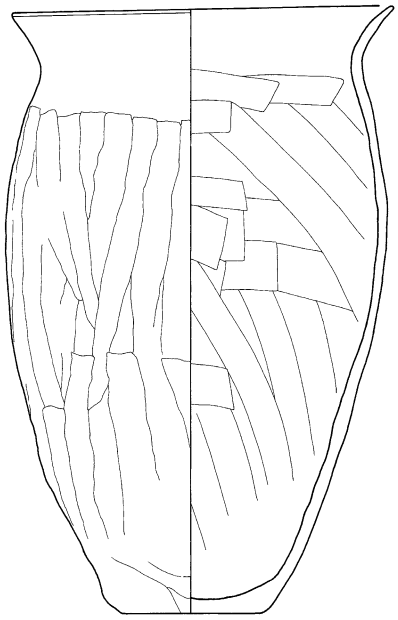


179–1

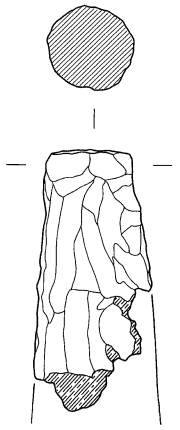


179–2

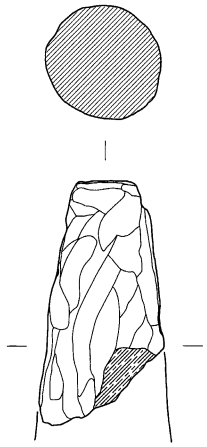




179–3

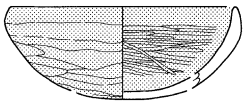


179–7

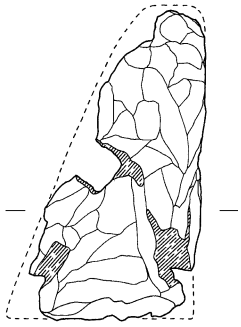


179–8

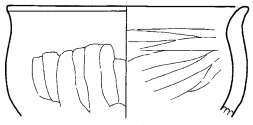
179–4



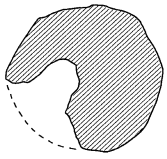
179–5

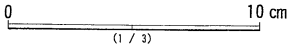


179–9

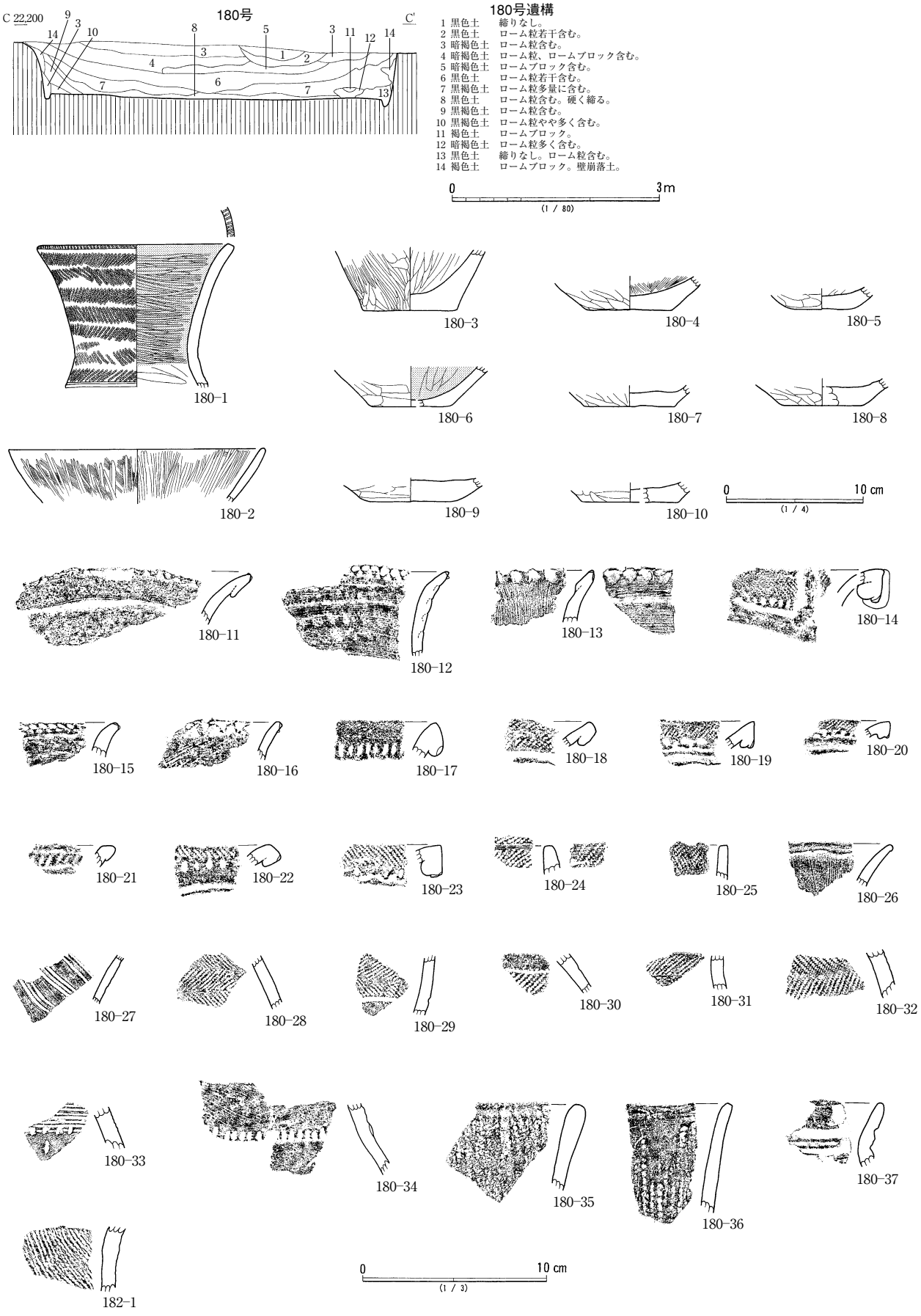


179–6





第165図　179号遺構出土遺物実測図



第166図　180号遺構実測図・180・182号遺構出土遺物実測図

遺物

本遺構からは18点145ｇの弥生土器と１点7.6ｇの礫が検出された。弥生土器は何れも細片、且つ磨耗が激しく図示に至るものが無い。これらの遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

182号遺構

昭和60年度調査時遺構番号G-39号。１号遺構（辺田１号墳）の下層西側に位置し、周溝に一部削平されて存在する竪穴住居跡である。南側は、眼下に存在する民家保護の法面となっており、これ以上の調査をすることができなかった。残存する壁高は、それぞれ東壁54.9㎝、北壁15.0㎝を測り、北側の遺存状態は良好である。炉は中央やや西寄りに検出された。長軸長0.48ｍを測り、主軸方位はＮ-42°-Ｗを示し、床面より5.0㎝程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、ピットは１箇所に検出された。深さはＰ１が19.3㎝を測る。なお、本遺構と直接関係ないが、東側に単独のピットが検出されており、便宜的にＰ２とした。深さは22.7㎝を測る。

遺物

本遺構からは16点138ｇの土器片と23点390ｇの礫が出土した。土器片の内訳は、９点38ｇの弥生土器、１点10ｇの早期撚糸文系土器、６点90ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内１点を図示した。これらの遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

183号遺構

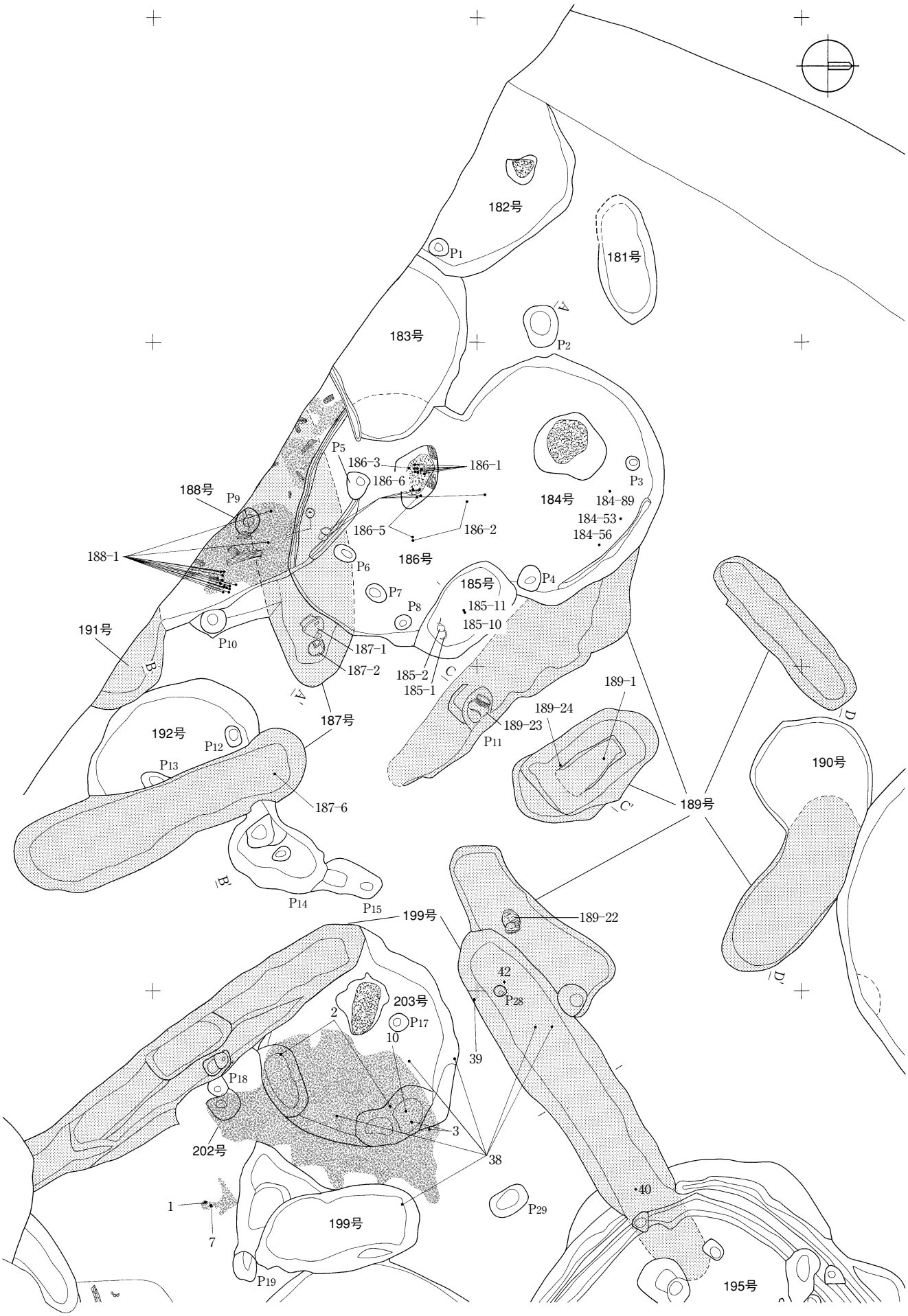
昭和60年度調査時遺構番号G-29号。１号遺構（辺田１号墳）の下層西側に位置し、188号遺構に削平されて存在する竪穴住居跡である。南側は、眼下に存在する民家保護の法面となっており、これ以上の調査をすることができなかった。残存する壁高は、北壁52.1㎝を測り、北側の遺存状態は良好である。炉・周溝・ピット等は調査範囲内からは未検出で、床面はほぼ平坦である。

遺物

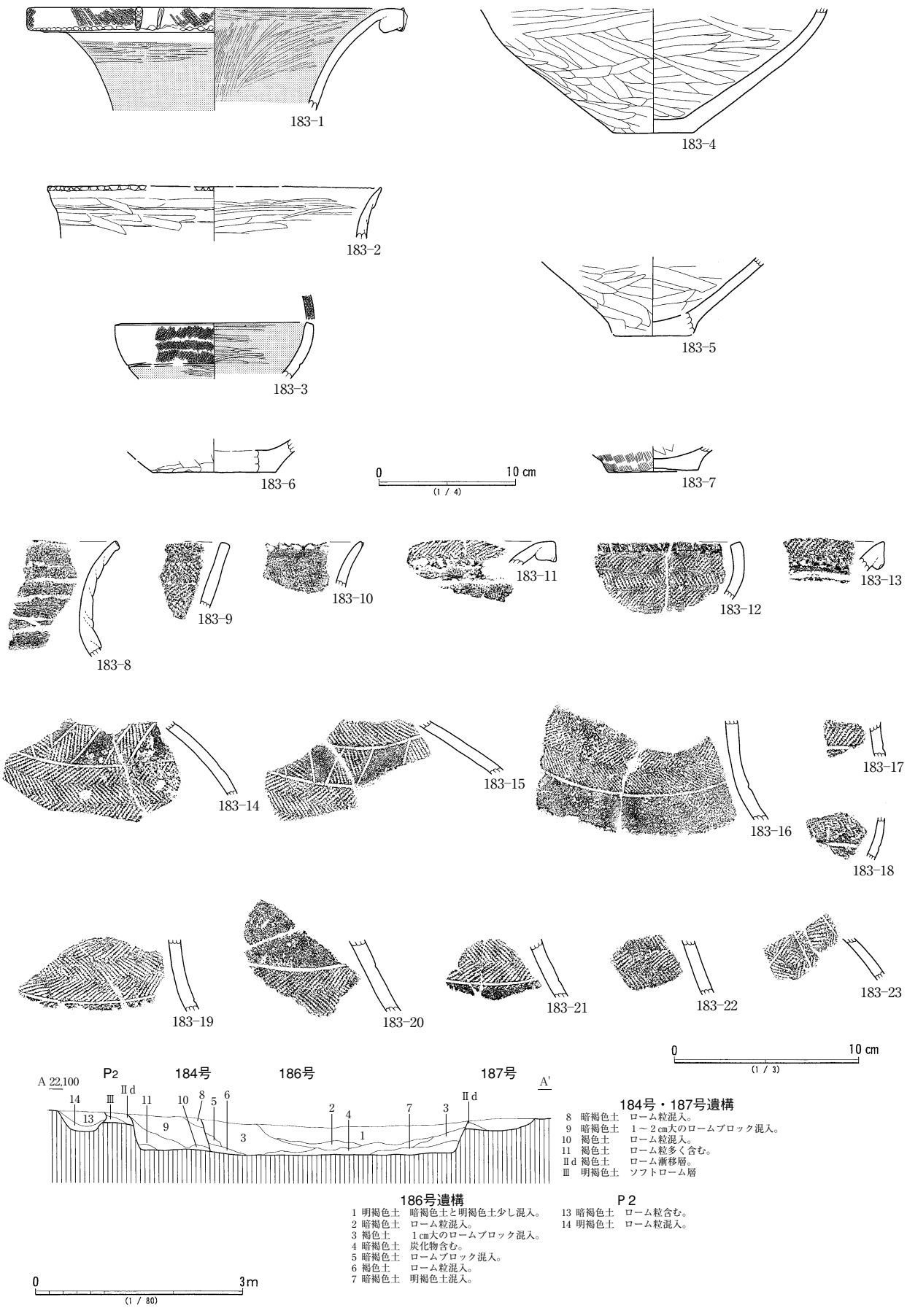
本遺構からは337点3,564.5ｇの土器片と51点767.1ｇの礫・石器が出土した。土器片の内訳は、321点3,394.5ｇの弥生土器、３点30ｇの早期撚糸文系土器、13点140ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内23点を図示した。これらの遺物は何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

184号遺構

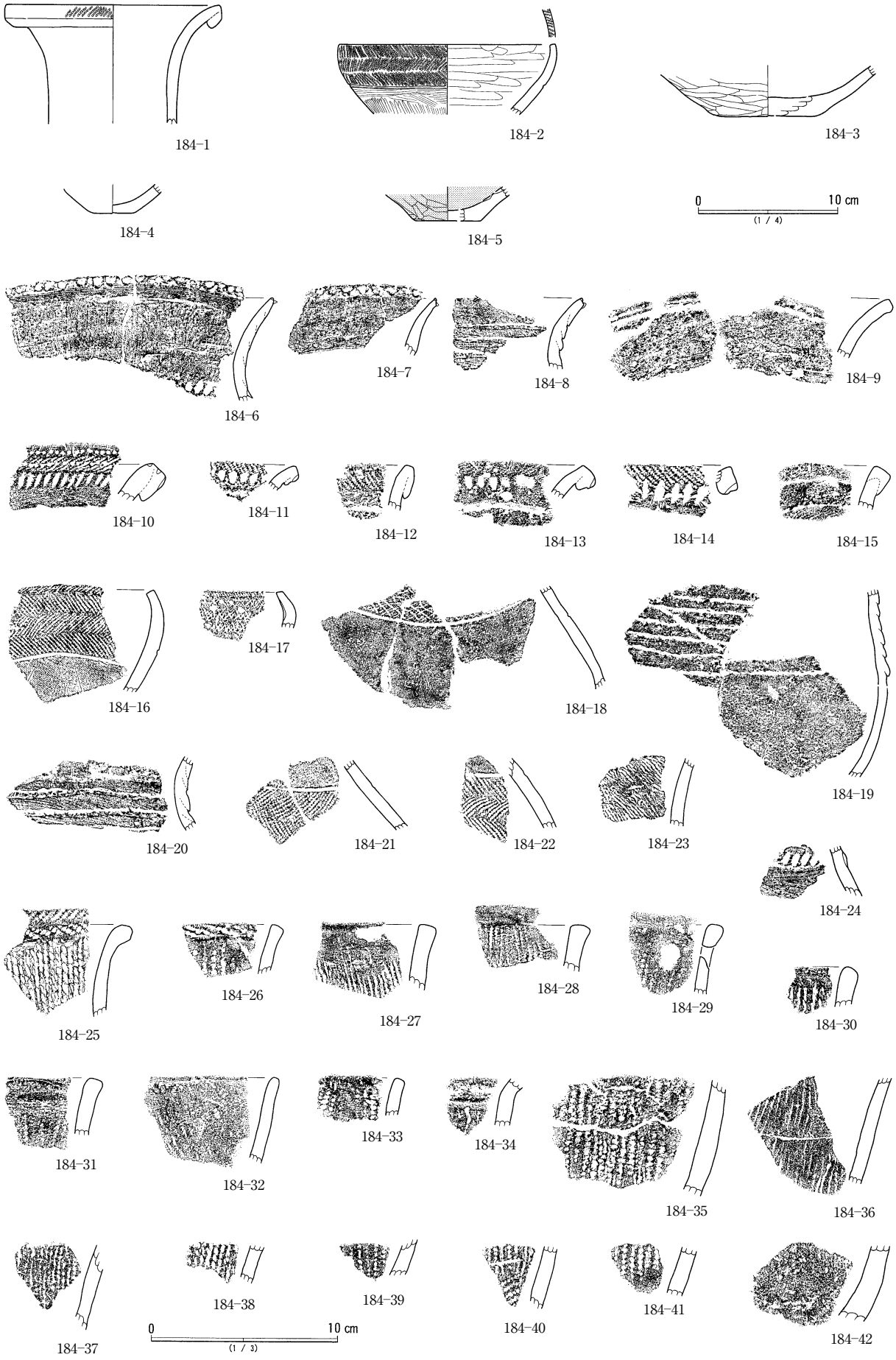
昭和60年度調査時遺構番号G-５号。１号遺構（辺田１号墳）の下層西側に位置し、186号遺構に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径3.5ｍ短径3.4ｍを測り、主軸方位はN-48°-Ｗを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁44.2㎝、西壁33.9㎝、北壁55.6㎝を測り、比較的遺存状態は良好である。炉は中央やや西寄りに検出された。長軸長0.72ｍを測り、主軸方位はN-61°-Ｗを示し、床面より6.8㎝程下がった位置で火床を検出する。周溝は東北側の１箇所に検出され、深さは3.4㎝前後を測る。床面はほぼ平坦であり、ピットは２箇所に検出された。深さはそれぞれＰ３が4.7㎝、Ｐ４が24.3



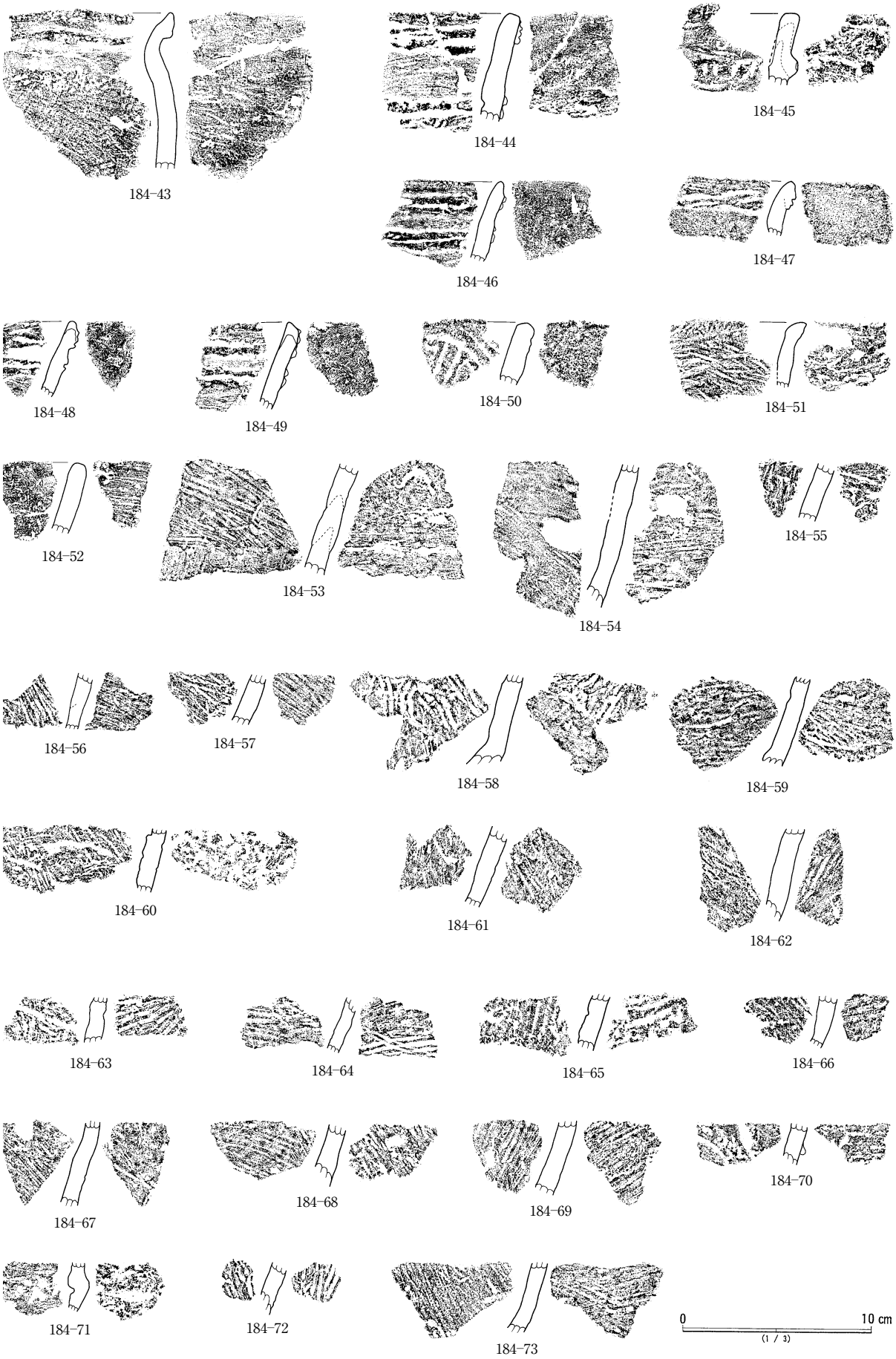
第167図　181～192・199・202・203号遺構実測図



第168図　184・186・187号遺構実測図・183号遺構出土遺物実測図



第169図　184号遺構出土遺物実測図



第170図　184号遺構出土遺物実測図

cmを測る。

遺物

本遺構からは582点6,222.4ｇの土器片と440点14,423.1ｇの礫・石器が出土した。土器片の内訳は、391点3,769.5ｇの弥生土器、51点702.7ｇの早期撚糸文系土器、31点664.9ｇの早期条痕文系土器、105点986.1ｇの前期繊維土器、４点99.2ｇのその他縄文土器である。これらの出土遺物の内89点を図示した。53・56・98の番号を付した遺物は、それぞれ床面より36.2cm・36.2cm・71.6cm浮いた状況で検出されており、本遺構に直接伴うものではない。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

185号遺構

昭和60年度調査時遺構番号G-32号。１号遺構（辺田１号墳）の下層西側に存在し、184号遺構と186号遺構を削平して存在する単独の土壙墓である。長径1.7ｍ短径1.0ｍを測り、主軸方位はN-51°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁90.7cm、西壁39.1cm、南壁40.1cm、北壁94.2cmを測り、遺存状況は比較的良好である。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。

遺物

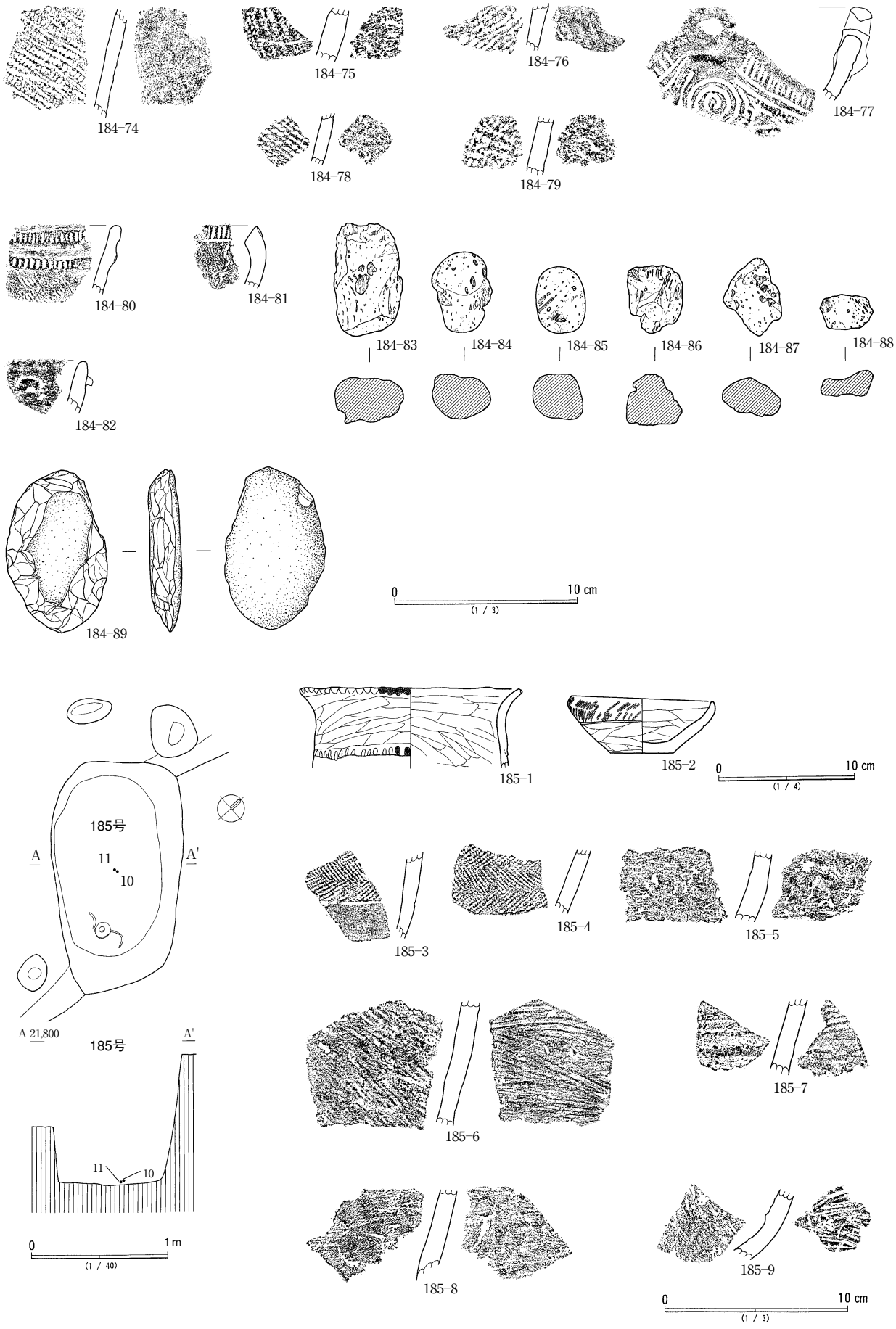
本遺構からは33点738ｇの土器片と７点355ｇの礫、22点1.7551ｇのガラス小玉が出土した。土器片の内訳は、20点453ｇの弥生土器、13点285ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内31点を図示した。１・２の番号を付した遺物は、底面よりそれぞれ87.8cmと88.3cm浮いた状況で検出された。10・11番号を付したガラス小玉は、底面よりそれぞれ1.6cmと1.7cm浮いた状況で検出されている。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無いが、本遺構からは合計22点のガラス小玉が出土しており、一括して取り上げられた他のガラス小玉も10・11周辺より出土したものと捉えられる。なお、１・２の番号を付した遺物はその出土状態から、埋納に際し供献された遺物と考えられる。

186号遺構

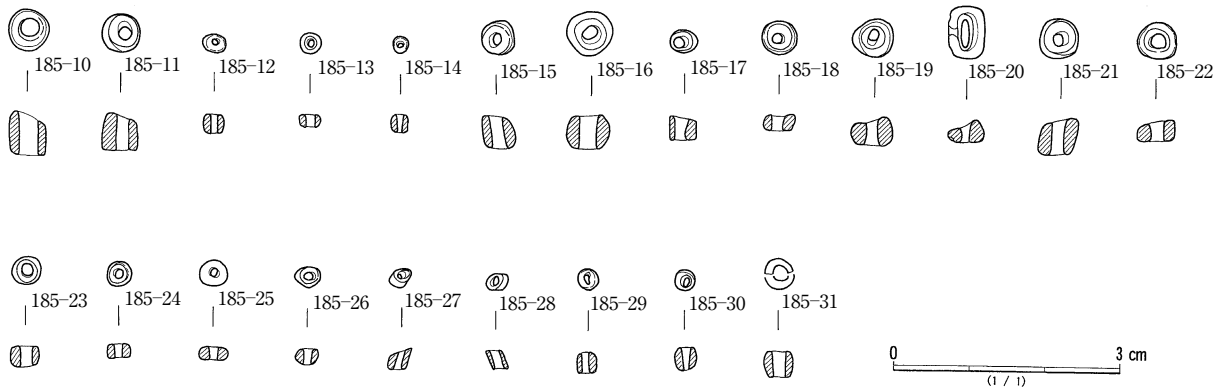
昭和60年度調査時遺構番号G-30号。１号遺構（辺田１号墳）の下層西側に位置し、184号遺構・188号遺構を削平し、185号遺構に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径3.82ｍを測り、主軸方位はN-68°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁44.9cm、西壁28.2cm、南壁2.8cmを測り、比較的遺存状態は不良である。炉は中央やや西寄りに検出された。長軸長1.02ｍを測り、主軸方位はN-70°-Wを示し、床面より7.8cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は南側の１箇所に検出され、深さは6.7cm前後を測る。床面はほぼ平坦であり、ピットは４箇所に検出された。深さはそれぞれＰ５が39.3cm、Ｐ６が6.3cm、Ｐ７が17.7cm、Ｐ８が25.3cmを測る。

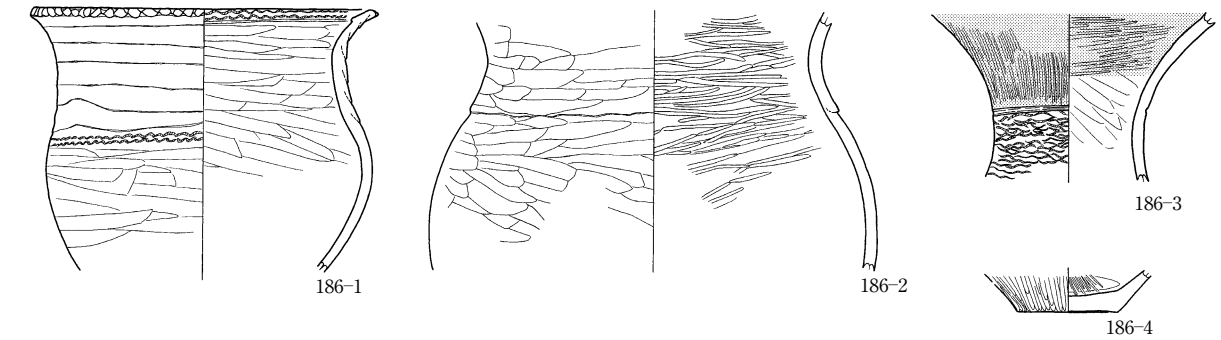
遺物

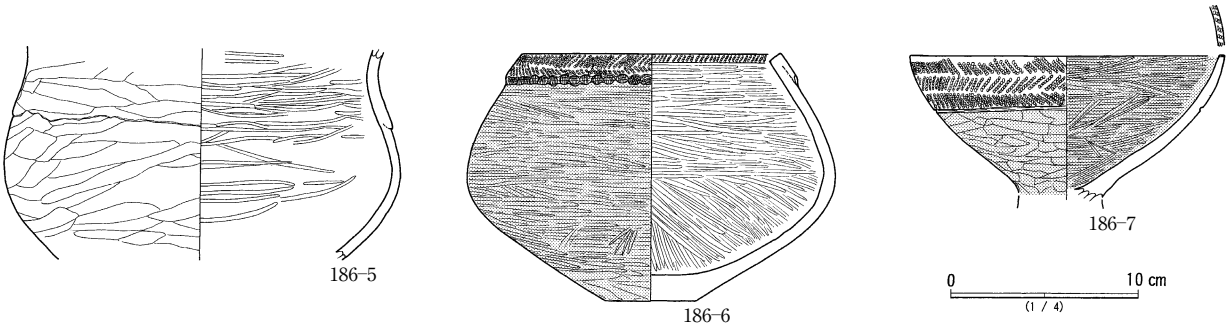
本遺構からは312点4,689.5ｇの土器片と285点9,666.7ｇの礫・石器が出土した。その内訳は、268点4,104.5ｇの弥生土器、11点145ｇの早期撚糸文系土器、５点90ｇの早期条痕文系土器、26点290ｇの前期繊維土器、２点60ｇのその他の縄文土器である。これらの出土遺物の内20点を図示した。１・２・３・５・６・７の番号を付した遺物は、何れも炉内や床面密着の状態で検出されており、本遺構

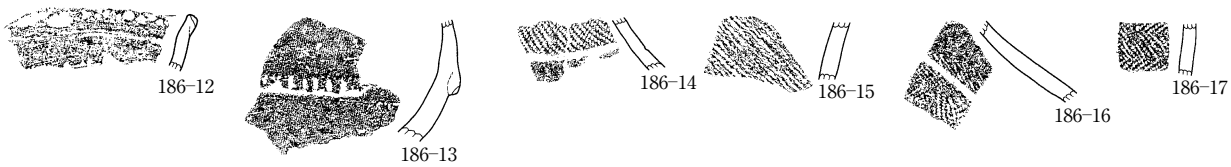


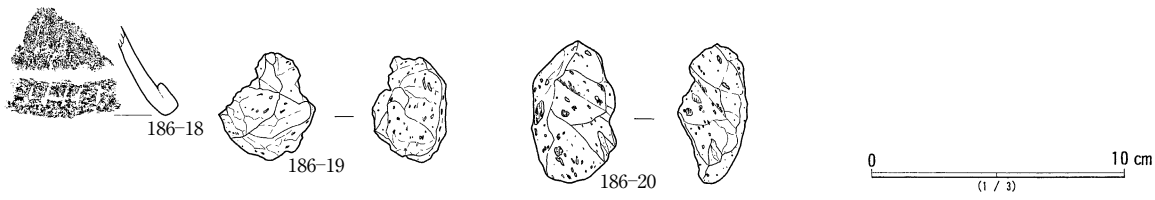
第171図　185号遺構実測図・184・185号遺構出土遺物実測図











第172図　185・186号遺構出土遺物実測図

に直接伴うものと考えられる。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

187号遺構

昭和60年度調査時遺構番号G-26・G-31号。1号遺構（辺田1号墳）の下層中央南側に位置し、192号遺構を削平し、186号遺構に削平されて存在する方形周溝墓である。昭和60年度の年報では、192号遺構に接して存在する191号遺構を本遺構の主体部と捉えているが確証が無い。南側は、眼下に存在する民家保護の法面となっており、遺構の大半はこの法面よって既に削平されたものと想定される。残存する東側周溝は長径4.78m短径1.36mを測り、主軸方位はN-23°-Wを示す。壁高は、それぞれ東壁44.4cm、西壁34.0cm、南壁21.2cm、北壁43.9cmを測る。

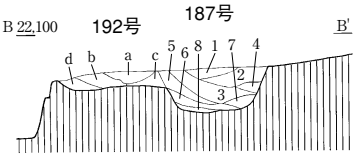
遺物

本遺構からは70点4,009gの土器片と1点2gの帯状円環型銅釧片が出土した。土器片の内訳は、65点3,929gの弥生土器、3点50gの早期条痕文系土器、2点30gの前期繊維土器である。これらの出土遺物の内6点を図示した。1・2の番号を付した遺物は、北側の溝底から7cm浮いた状況で検出されており、北溝ではこれ以外の出土遺物はない。6の番号を付した帯状円環型銅釧片は、東側の溝底から23cm浮いた状況で検出された。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

ところで、東側溝は調査時遺構番号G-26号として調査されており、204号遺構もまたG-26号として調査されていた。つまり遺構番号が完全に重複していた。便宜的に本遺構をG-26A、204号遺構をG-26Bとして整理を進めたが、平面図にドットで取り上げられた遺物の帰属先は判明しても、一括で取り上げられた2袋分の遺物の帰属先は当初どっちがどちらに帰属するのかわからなかった。しかし、204号遺構は平面図上で炭化物が確認されることや、同じG-26と記載された袋内でも一方には265g分の炭化物が確認されることから、炭化物が認められない遺物を本遺構一括分とし、炭化物が認められた一括遺物は204号遺構として分離を行っている。

188号遺構

昭和60年度調査時遺構番号G-28号。1号遺構（辺田1号墳）の下層西側に位置し、183号遺構を削平し、186号遺構に削平されて存在する竪穴住居跡である。南側は、眼下に存在する民家保護の法面となっており、これ以上の調査をすることができなかったが、遺構の大半はこの法面によって既に削平されたものと想定される。残存する壁高は、それぞれ東壁46.0cm、北壁41.4cmを測るが、遺存状態は不良である。炉は検出されなかった。周溝は北側で検出され、深さは4.57cm前後を測る。床面は183・186・191号遺構と同レベルであり、ほぼ平坦である。焼土・炭化物が散在しており、186号遺構はこの焼土・炭化物を削平し、183号遺構はこの焼土・炭化物を削平しない。つまり、183号遺構を削平し、186号遺構に削平されたことを物語っている。ピットは1箇所に検出された。P9で深さは36.1cmを測り、位置的に本遺構の主柱穴のひとつであろうと推定される。本遺構に接してP10が検出された。深さは99.0cmを測る。

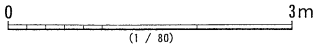


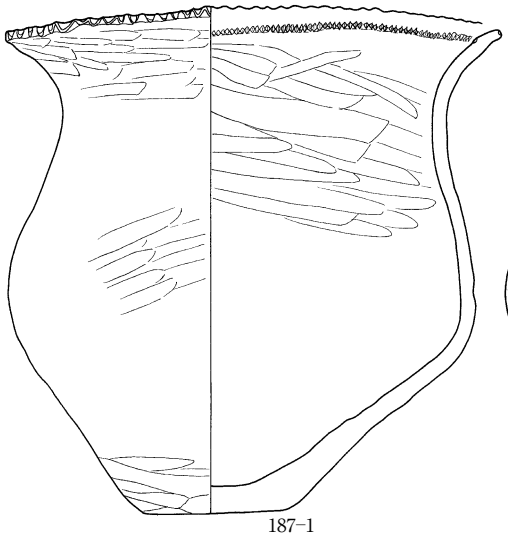
187号遺構

1 暗褐色土　ローム粒混入。
2 暗褐色土　暗褐色土と明褐色土少し混入。
3 明褐色土　暗褐色土とロームブロック含む。
4 明褐色土　ローム粒と若干の暗褐色土。
5 黒褐色土　明褐色土混入。
6 黒褐色土　ローム粒混入。
7 暗褐色土　若干のローム粒と暗褐色土。
8 黒褐色土　ローム粒多く含む。

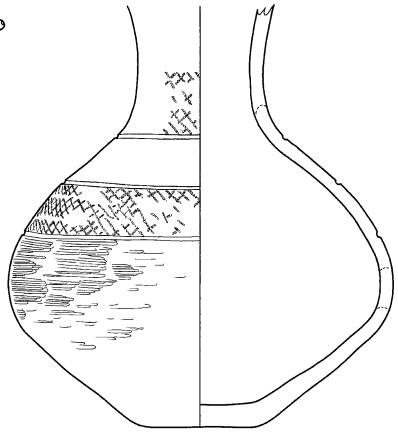
192号遺構

a 黒色土　　暗褐色土少し混入。
b 明褐色土　暗褐色土混入。
c 暗褐色土　明褐色土混入。
d 褐色土　　ローム粒主体層。

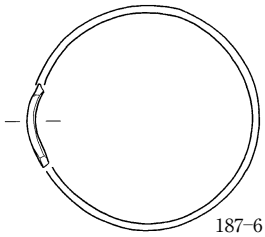




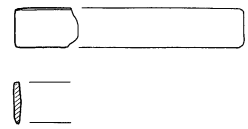
187-1

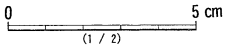


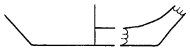
187-2



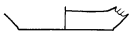
187-6



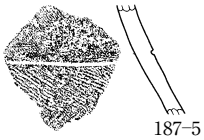




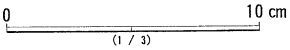
187-3

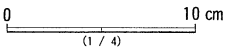


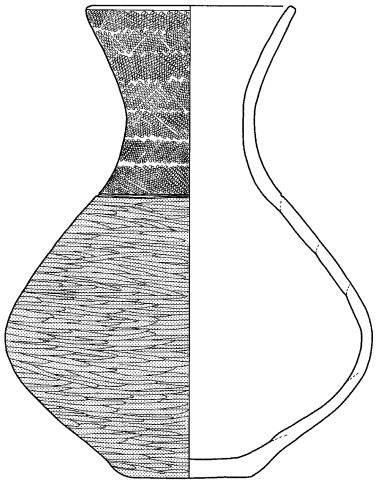
187-4



187-5

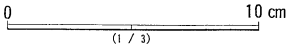


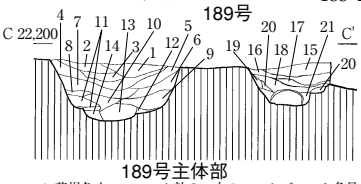




188-1

188-2



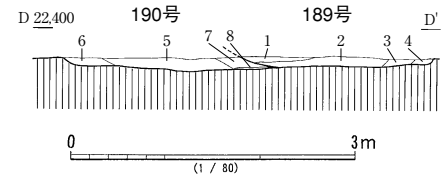


189号主体部

1 茶褐色土　ローム粒２㎝大のロームブロック多量に含む。
2 暗褐色土　ローム粒混入。
3 茶褐色土　明褐色土混入。
4 茶褐色土　明褐色土、ローム粒混入。
5 暗茶褐色土　２～３㎝大のロームブロック混入。
6 褐色土　ローム粒多量に含む。
7 暗褐色土　ローム粒混入。
8 黒色土　有機質土。
9 黒褐色土　ローム粒混入。
10 暗褐色土　ローム粒混入。
11 明褐色土　１㎝大のロームブロック多量に含む。
12 暗褐色土　ローム粒混入。
13 暗褐色土　締まり無くサラサラ。
14 褐色土　ロームブロック多量に含む。

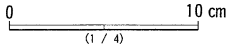
189号遺構

15 明褐色土　褐色土含む。
16 褐色土　明褐色土混入。
17 明褐色土　ローム粒混入。
18 黒褐色土　ローム粒混入。
19 褐色土　ローム粒多量に含む。
20 黒色土　ローム粒混入。
21 明褐色土　ローム粒混入。



189・190号遺構

1 黒褐色土　ローム粒混入。
2 暗褐色土　ローム粒若干混入。
3 明褐色土　ローム粒やや多く含む。
4 明褐色土　ローム粒多量に含む。以上189号遺構
5 暗褐色土　ローム粒と明褐色土混入。
6 褐色土　ローム粒と明褐色土多く混入。
7 暗褐色土　若干のローム粒と暗褐色土。
8 褐色土　ローム粒多量に含む。



第173図　187・189・190・192号遺構実測図・187・188号遺構出土遺物実測図

遺物

本遺構からは32点1,305ｇの弥生土器と11点615ｇの礫が出土した。これらの出土遺物の内２点を図示した。１は、床面より26㎝離れて出土した壺である。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

189号遺構

昭和60年度調査時遺構番号G-４・G-14・G-17・G-18・G-11号。１号遺構（辺田１号墳）の下層中央やや西側に位置し、190号遺構を削平して存在する方形周溝墓である。重複する184号遺構との新旧関係不明ながら、199号遺構や206号遺構等、辺田１号墳墳丘下の他の方形周溝墓が住居跡を切って構築されていることから、本遺構の方が184号遺構より新しい段階の遺構と捉えられる。残存する周溝より方台部内径は、東西5.24ｍ南北4.42ｍを測り、主軸方位はN-49°-Wを示す。各周溝の規模は、東側で上端3.8ｍ下端2.86ｍ幅0.91ｍ前後、深さは13.3㎝、西側で上端2.88ｍ下端2.72ｍ幅0.78ｍ前後、深さは40.4㎝、南側で上端5.26ｍ、深さは17.0㎝、北側で上端2.96ｍ幅1.18ｍ前後、深さは14.6㎝を測る。

埋葬施設は方台部中央やや南側に検出された。長径2.4ｍ短径1.32ｍを測り、主軸方位はN-35°-Wを示す。墓壙を50㎝程掘り下げた段階で、中央に木棺痕が検出された。南側不明ながら推定長径1.2ｍ幅40～55㎝を測る。墓壙の壁高は、それぞれ東壁44.4㎝、西壁34.0㎝、南壁21.2㎝、北壁43.9㎝を測る。

遺物

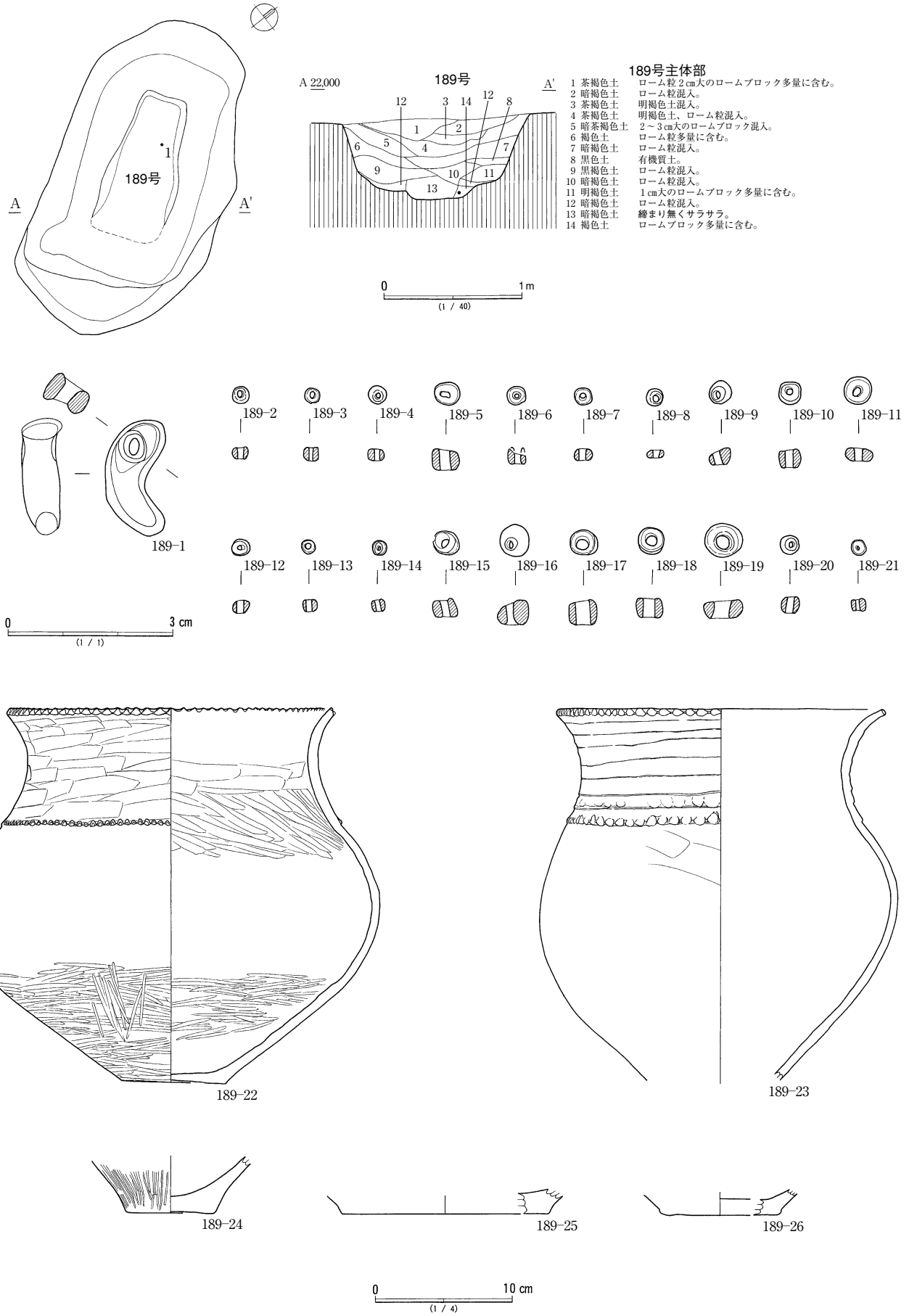
本遺構からは451点8,219ｇの土器片と264点9,039.9ｇの礫・石器、21点1.3189ｇのガラス小玉、１点2.2ｇの勾玉が出土した。土器片の内訳は、306点6,347.4ｇの弥生土器、39点402ｇの早期撚糸文系土器、82点1,076.6ｇの早期条痕文系土器、12点145ｇの前期繊維土器、12点248ｇのその他の縄文土器である。これらの出土遺物の内63点を図示した。１は、墓壙底面より1.7㎝浮いた状態で検出された勾玉である。レベル記載がなく、一括で取り上げられたガラス小玉も周囲から検出されたものと推定される。22・23の番号が付された遺物は、それぞれ東と南側の溝底から検出された。22は底面から７㎝浮いた状況で検出されており、23は南側周溝内に存在するP11に埋没して検出された。24は墓壙底面より55㎝浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

190号遺構

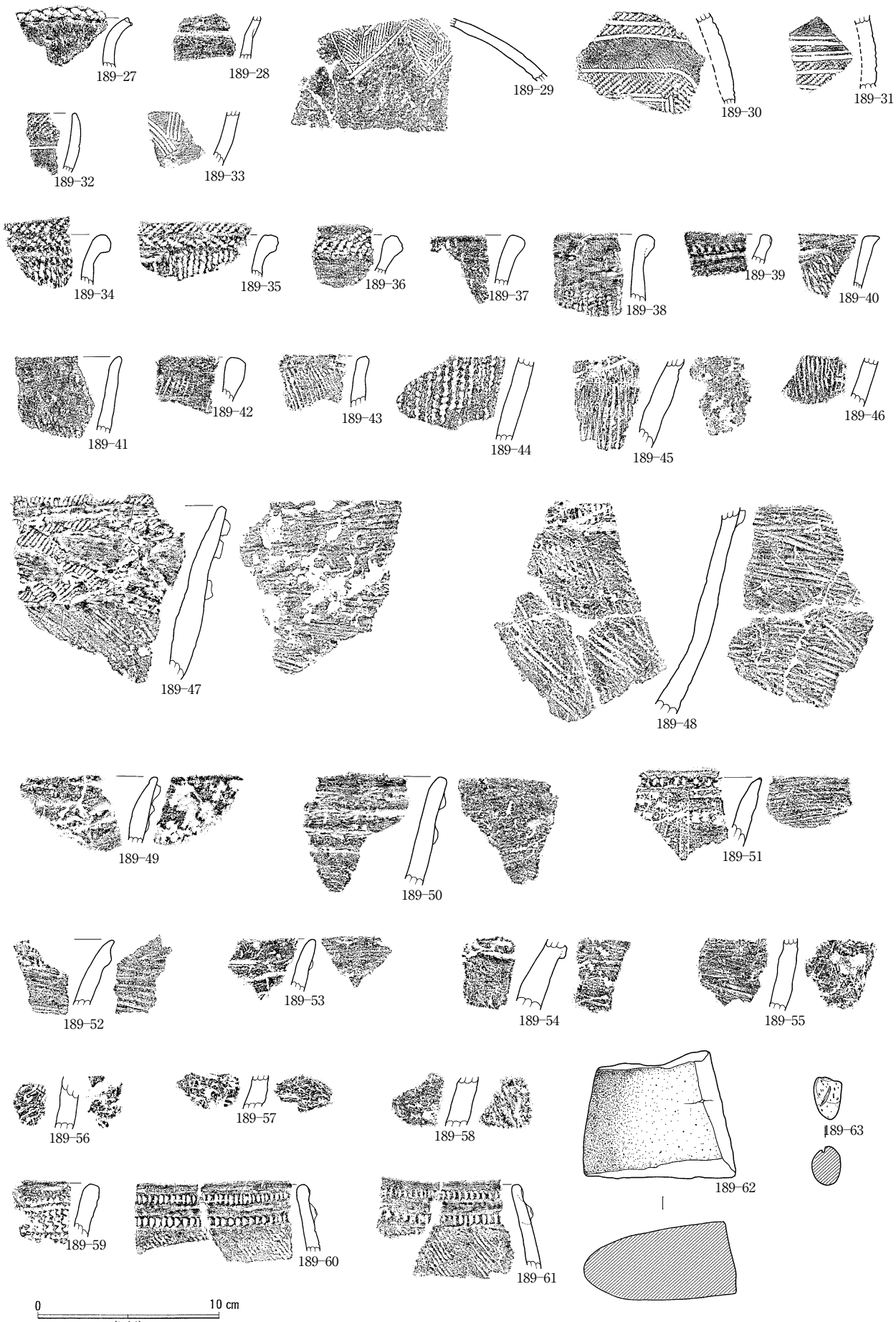
昭和60年度調査時遺構番号G-22号。１号遺構（辺田１号墳）の下層やや西側に位置し、189号遺構北側周溝に削平されて存在する土坑である。短径1.8m、深さ最大10.8㎝を測り、主軸方位はN-38°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁7.1㎝、西壁6.4㎝、南壁6.8㎝を測り、遺存状況は不良である。

遺物

本遺構からは６点60ｇの土器片と１点25ｇの礫が出土した。土器片の内訳は、４点40ｇの弥生土器、２点20ｇの早期条痕文系土器であるが、磨耗・剥離が激しく図示に至るものが無い。これらの遺



第174図　189号遺構実測図・出土遺物実測図



第175図　189号遺構出土遺物実測図

物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

191号遺構

昭和60年度調査時遺構番号無し。１号遺構（辺田１号墳）の下層中央やや西側に位置し、昭和60年度年報では187号遺構（方形周溝墓）の内部施設と判断された遺構である。残存する壁高は、それぞれ東壁44.7cm、北壁46.2cmを測り、188遺構床面とレベルがほぼ同一である。188号遺構床面に散在した焼土・炭化物が本遺構内では検出されないことから、本遺構の方が188号遺構より新しい遺構であると判断されるが、他の方形周溝墓主体部から検出される玉類が検出されないことなど、本遺構を即187号遺構（方形周溝墓）の内部施設と判断するには材料が不足している。

遺物

調査時に遺構番号が付されていないため、詳細不明である。本遺構出土遺物は隣接する188号遺構で取り上げられたか、あるいは本当に１点の遺物も検出されなかったため遺構番号が付されなかったのか、どちらの可能性も考えられるが、遺物が全く検出しなかったため遺構番号が付されなかったと考えたい。

192号遺構

昭和60年度調査時遺構番号 G-27号。１号遺構（辺田１号墳）の下層西側に位置し、187号遺構に削平されて存在する竪穴住居跡である。推定長径2.84ｍを測り、主軸方位はN-25°-W を示す。残存する壁高は、それぞれ西壁14.5cm、南壁7.4cm、北壁18.7cmを測り、遺存状態は不良である。炉・周溝は検出されず、床面はほぼ平坦であり、ピットは２箇所に検出された。深さはそれぞれP12が12.8cm、P13が14.9cmを測る。

遺物

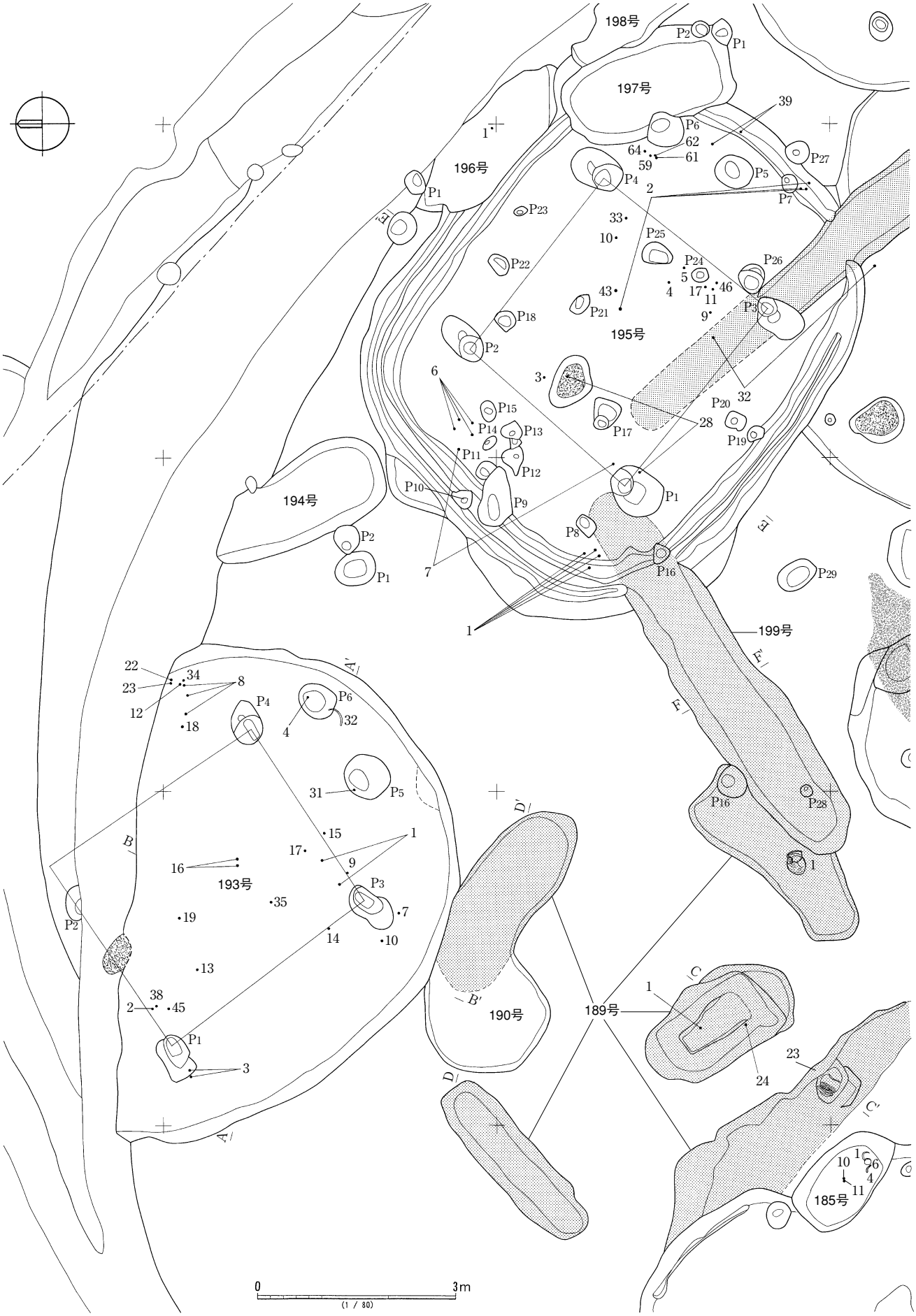
本遺構からは10点90ｇの弥生土器と10点200ｇの礫が出土したが、磨耗・剥離が激しく図示に至るものが無い。これらの遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

193号遺構

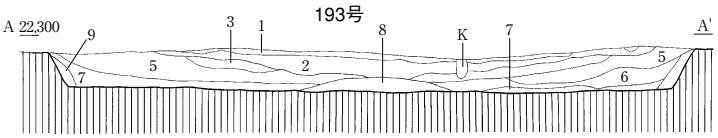
昭和60年度調査時遺構番号 G-２号。１号遺構（辺田１号墳）の下層北側に位置し、北側を周溝に削平されて存在する竪穴住居跡である。主柱穴より推定主軸方位はN-35°-W を示し、残存する壁高は、それぞれ東壁34.0cm、西壁36.0cm、南壁36.6cmを測り、遺存状態は不良である。炉は中央やや北寄りに検出された。残存長軸長0.64ｍを測り、主軸方位はN-70°-W を示し、床面より6.9cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は検出されず、床面はほぼ平坦であり、ピットは６箇所に検出された。深さはそれぞれＰ１が75.1cm、Ｐ２が30.5cm、Ｐ３が77.8cm、Ｐ４が73.3cm、Ｐ５が44.5cm、Ｐ６が39.9cmを測る。

遺物

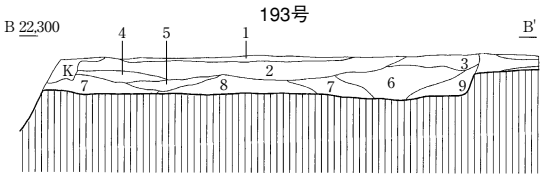
本遺構からは1,075点10,850.7ｇの土器片と137点5,204.2ｇの礫・石器が出土した。土器片の内訳は1,003点10,100.7ｇの弥生土器、16点150ｇの早期撚糸文系土器、７点150ｇの早期沈線文系土器、

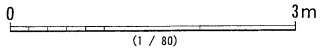


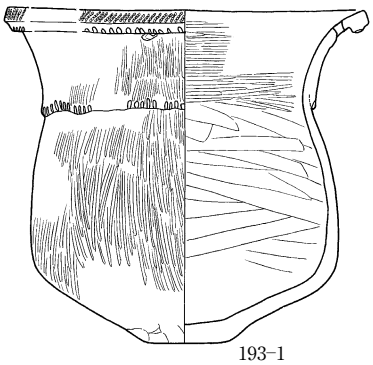
第176図　185・189・190・193～197号遺構実測図

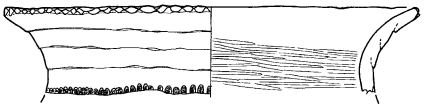


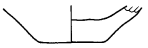
193号遺構
1 黒褐色土　ローム粒若干混入。
2 黒色土　ローム粒、炭化物若干混入。硬く締まる。
3 暗褐色土　明褐色土を霜降り状に含む。
4 暗褐色土　5㎜大のロームブロック混入。
5 黒褐色土　明褐色土を斑点状に混入。
6 暗褐色土　ローム粒、明褐色土混入。
7 褐色土　5㎜大のロームブロック多量に混入。
8 褐色土　ローム粒と5㎜大のロームブロック混入。
9 明褐色土　多量のローム粒含む。

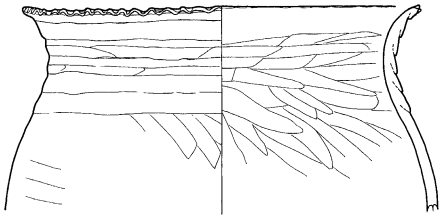


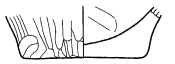


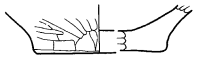

193-1

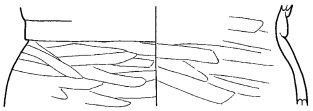

193-2

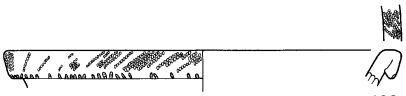

193-4


193-3


193-5

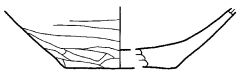

193-6

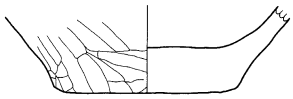

193-7

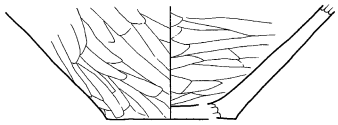

193-8

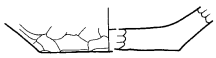
193-9

193-10

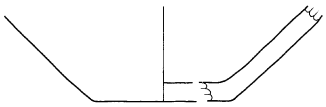

193-11


193-12


193-13


193-14

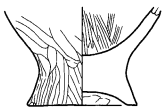
193-15


193-16

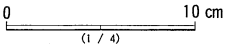
193-17

193-18

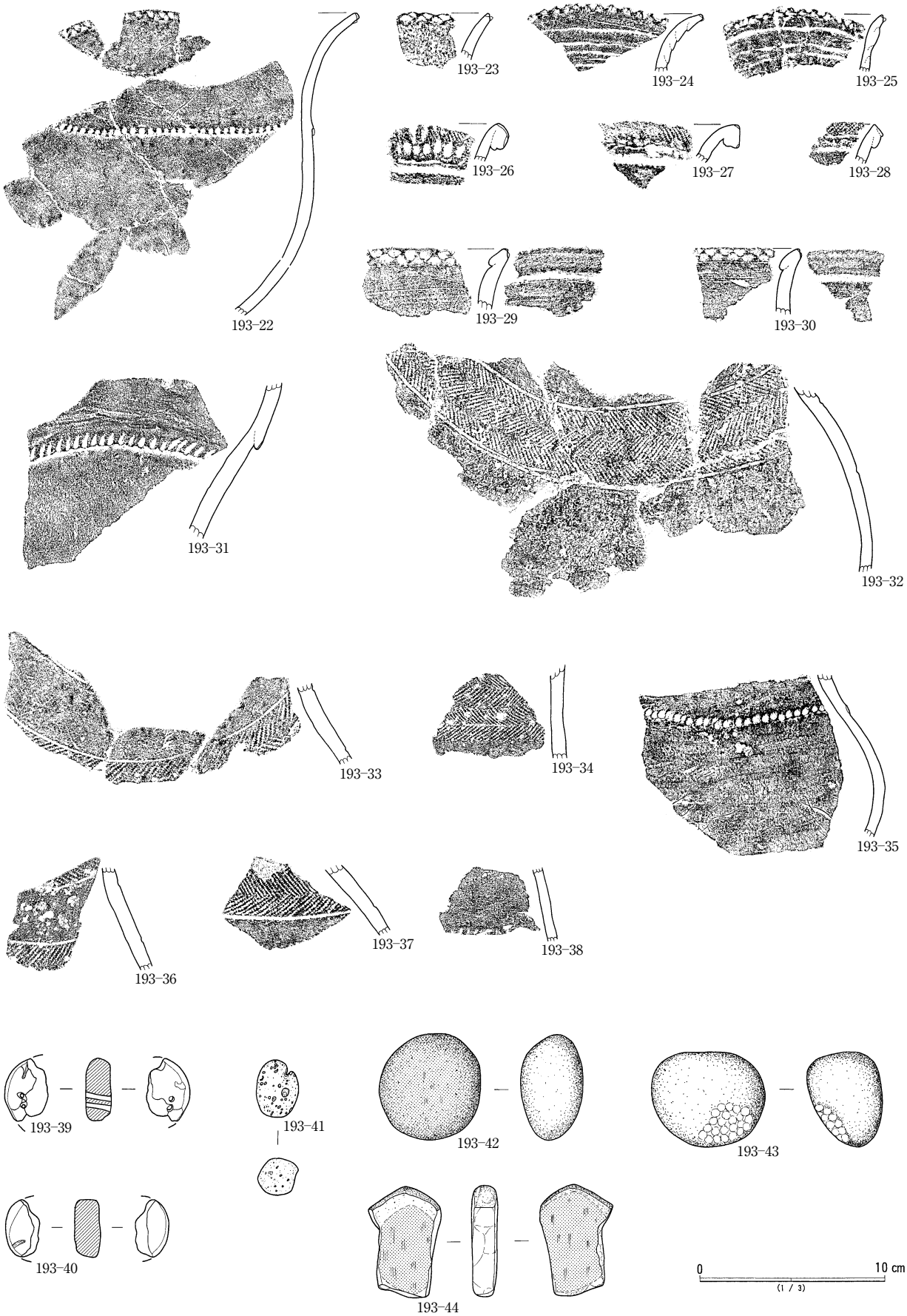
193-19


193-20

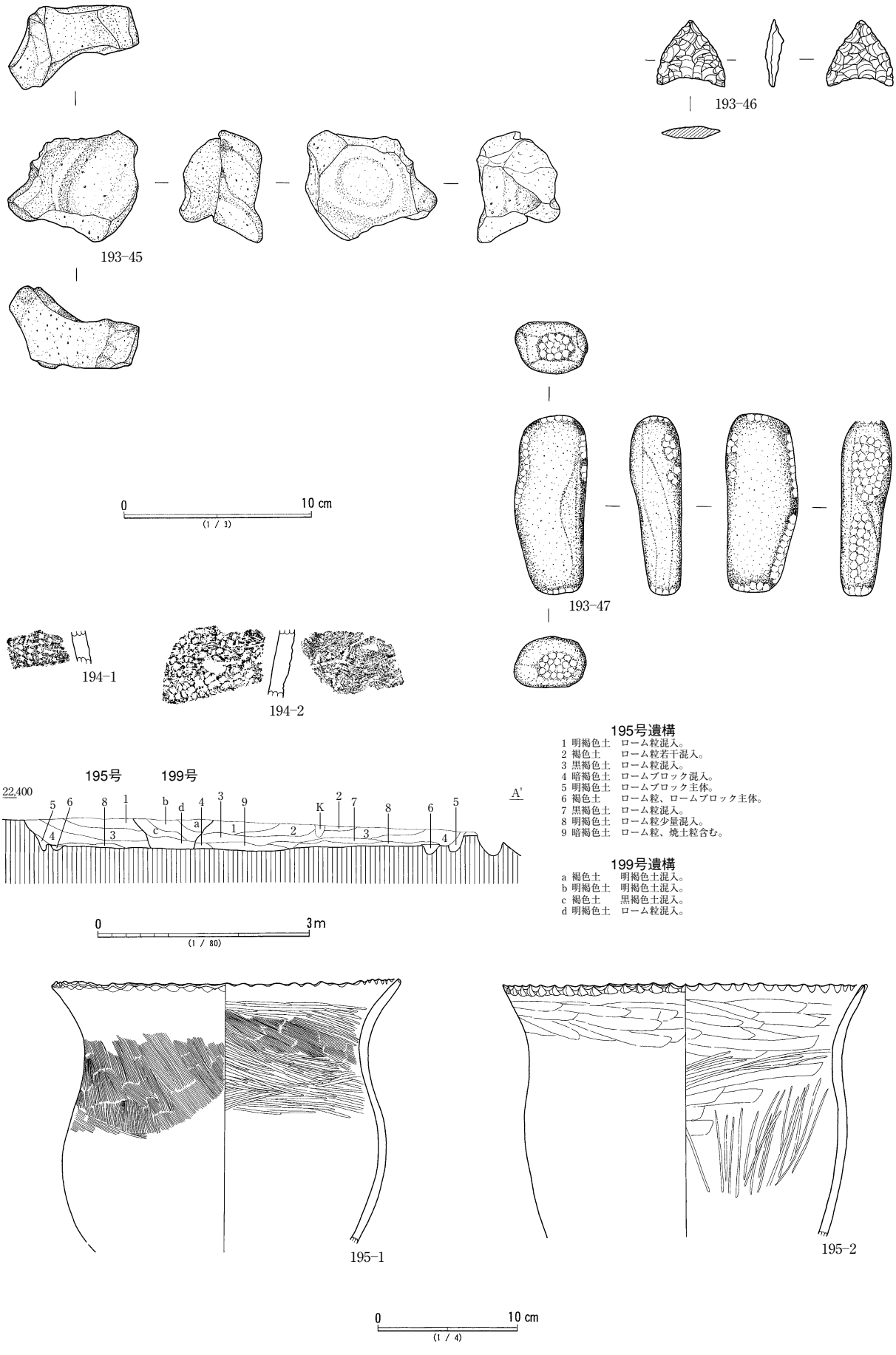
193-21



第177図　193号遺構実測図・出土遺物実測図



第178図　193号遺構出土遺物実測図



第179図　195・199号遺構実測図・193～195号遺構出土遺物実測図

40点320ｇの早期条痕文系土器、４点50ｇの前期繊維土器、５点80ｇの後期縄文土器である。これらの出土遺物の内、47点を図示した。３・８・34の番号を付した遺物が床面密着の状況で、13・16・35・45の番号を付した遺物が床面から10cm以内離れた位置から出土している。１・19・31・32は床面より30cm以上離れて出土し、本遺構に伴う可能性は少ない。他のドットで取り上げられた遺物は、床面より10cm以上30cm以内で検出された遺物である。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

194号遺構

昭和60年度調査時遺構番号G-25号。１号遺構（辺田１号墳）の下層北側に位置し、北側を周溝に削平されて存在する土坑である。残存長径2.5ｍ短径1.2ｍを測り、主軸方位はN-20°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁15.4cm、西壁24.8cm、南壁18.9cmを測り、遺存状態は不良である。底面はほぼ平坦であり、隣接して２箇所にピットが検出された。深さはそれぞれＰ１が16.6cm、Ｐ２が48.0cmを測るが、本遺構に直接伴うものではない。昭和60年度年報では方形周溝墓関連遺構として紹介され、土壙墓的性格を持つものと考えられる。

遺物

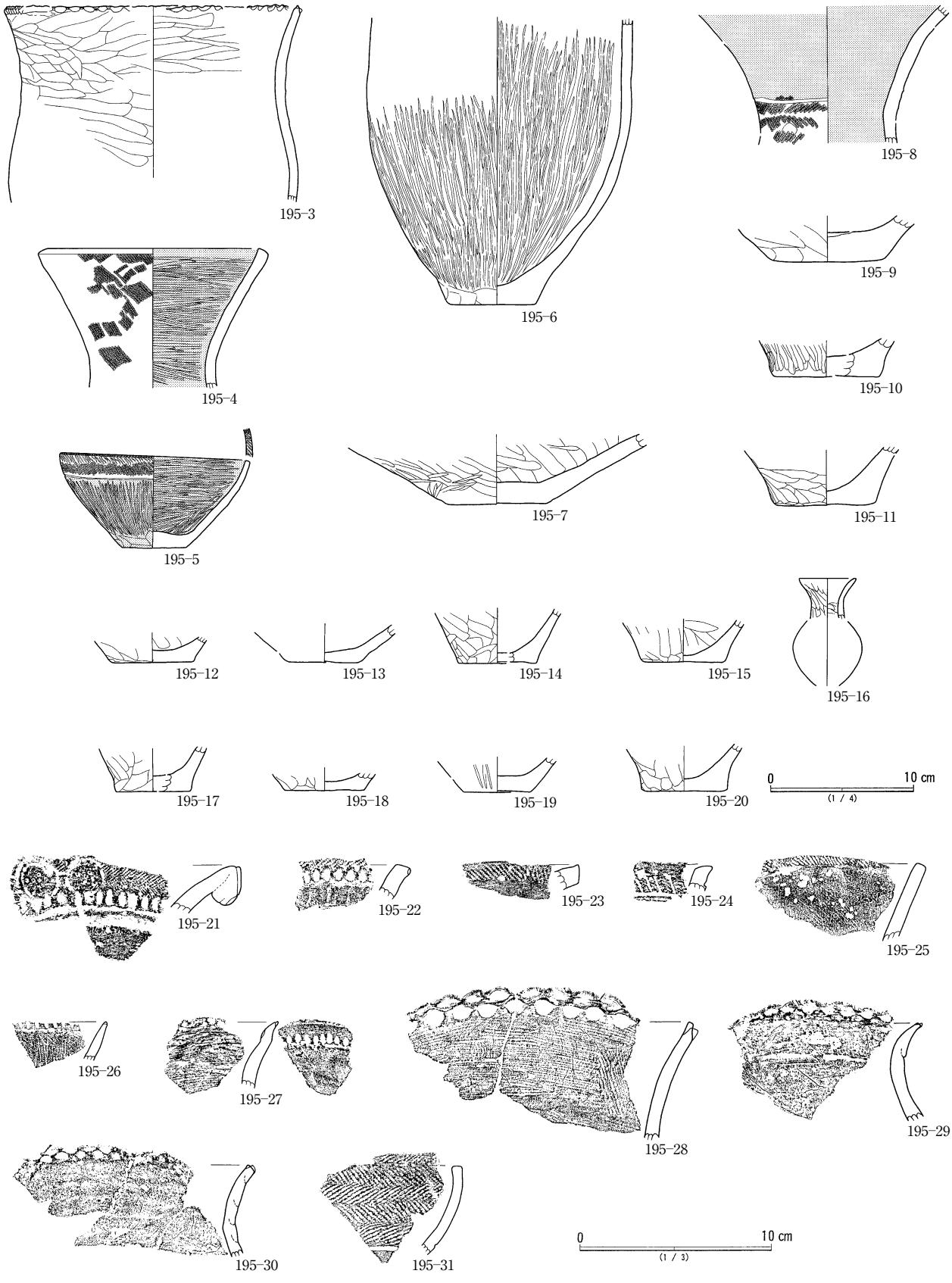
本遺構からは46点238ｇの土器片と９点404.5ｇの礫が出土した。土器片の内訳は44点210ｇの弥生土器、１点６ｇの早期撚糸文系土器、１点22ｇの前期繊維土器である。これらの出土遺物の内２点を図示したが、弥生土器は磨耗・剥離が激しく図示に至るものが無い。これらの遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

195号遺構

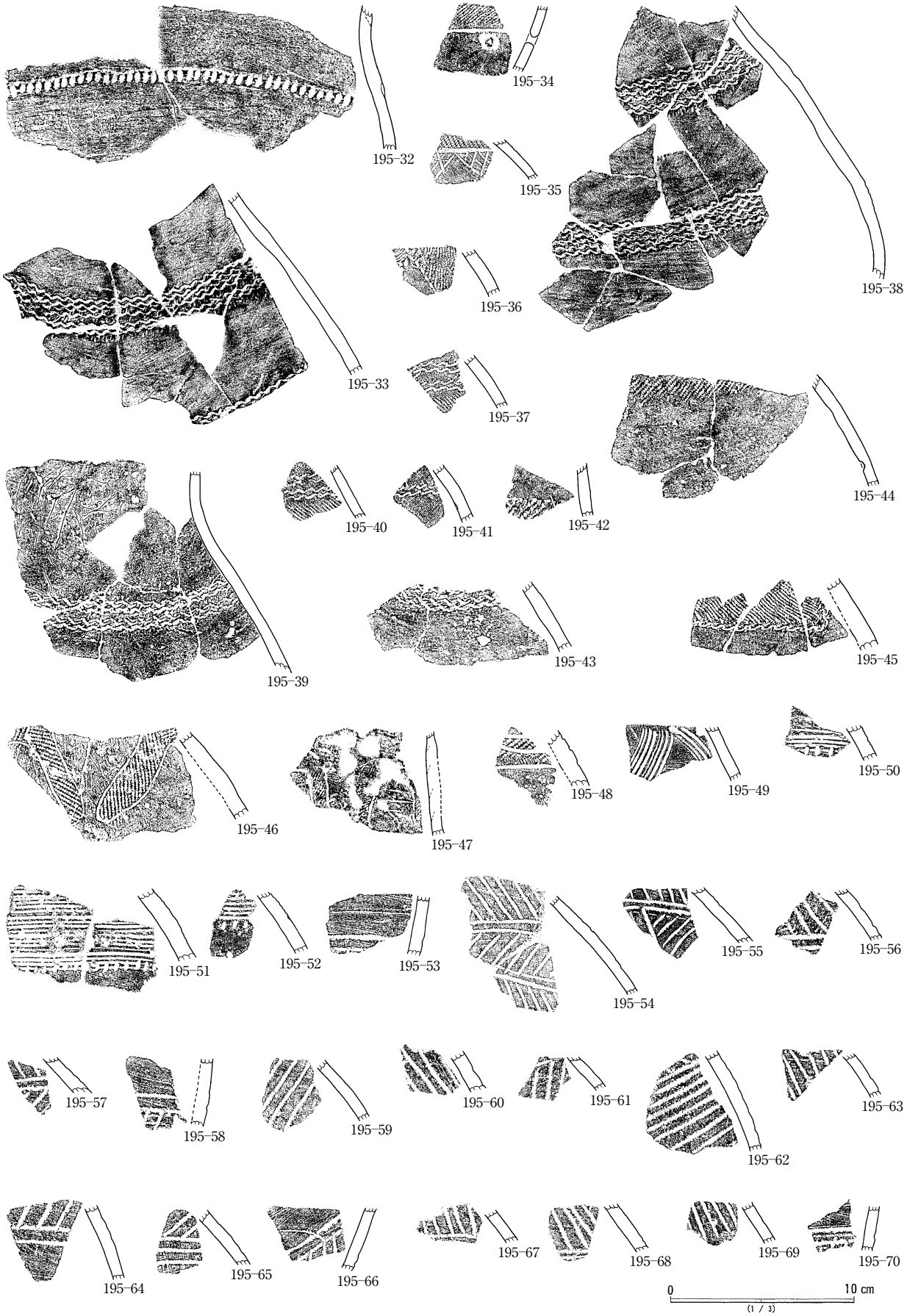
昭和60年度調査時遺構番号G-７号。１号遺構（辺田１号墳）の下層中央北側に位置し、201号遺構を削平し、196・197・199号遺構に削平されて存在する長楕円形の竪穴住居跡である。長径7.6ｍ短径6.34ｍを測り、軸方位はN-51°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁45.0cm、西壁39.1cm、南壁31.7cm、北壁5.8cmを測り、遺存状態はやや不良である。炉は中央やや西寄りに検出された。長軸長0.84ｍを測り、主軸方位はN-61°-Wを示し、床面より18.9cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は東側を除いて二重に検出された。深さはそれぞれ東9.8cm前後、西外側4.2cm、内側7.0cm前後、南側外側7.2cm、内側13.0cm前後、北外側8.0cm、内側11.6cm前後を測る。床面はほぼ平坦であり、ピットは27箇所に検出された。深さはそれぞれＰ１が63.0cm、Ｐ２が55.3cm、Ｐ３が64.2cm、Ｐ４が65.5cm、Ｐ５が43.5cm、Ｐ６が26.6cm、Ｐ７が22.7cm、Ｐ８が59.7cm、Ｐ９が41.0cm、P10が22.2cm、P11が11.2cm、P12が19.0cm、P13が25.0cm、P14が8.5cm、P15が8.5cm、P16が18.8cm、P17が38.8cm、P18が5.0cm、P19が20.0cm、P20が17.8cm、P21が32.0cm、P22が22.8cm、P23が15.8cm、P24が12.6cm、P25が26.6cm、P26が54.3cm、P27が53.5cmを測る。Ｐ１～Ｐ４は掘り込みも深くしっかりしており、主柱穴と考えられる。

遺物

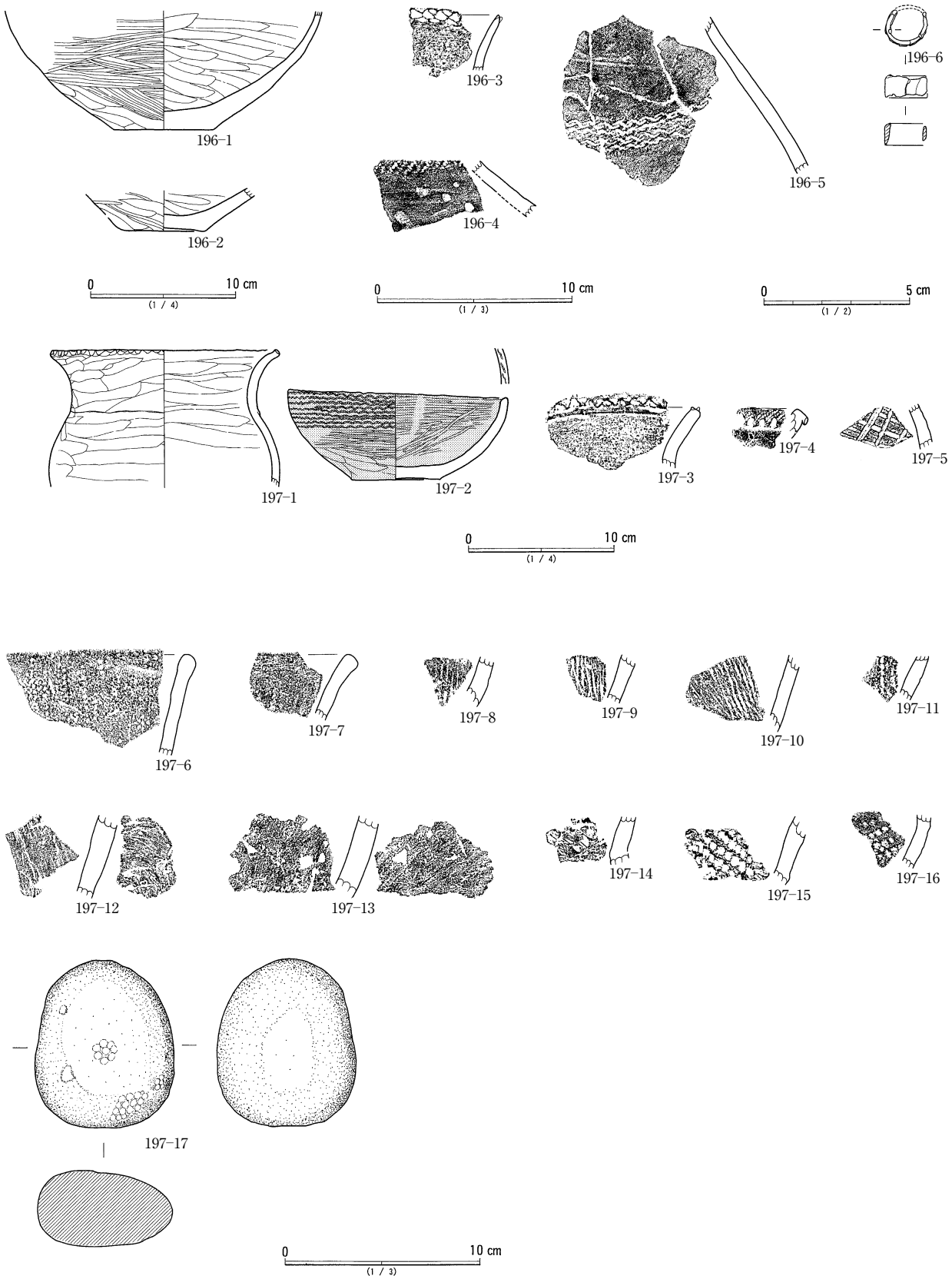
本遺構からは2,114点19,878.2ｇの土器片と384点13,076.1ｇの礫・石器が出土した。土器片の内訳は1,881点17,798.5ｇの弥生土器、85点644ｇの早期撚糸文系土器、53点440ｇの早期条痕文系土器、



第180図　195号遺構出土遺物実測図



第181図　195号遺構出土遺物実測図



第182図　196・197号遺構出土遺物実測図

68点830ｇの前期繊維土器、１点15.7ｇの浮島式土器、１点10ｇの加曽利Ｂ式土器、23点100ｇの晩期の土器、２点40ｇの時期不明縄文土器である。これらの出土遺物の内70点を図示した。１・３・６・７・10・11・17・28・33・39・46・55・57・58・60の番号を付した遺物が床面密着の状況で検出されている。２・４・５・９・32・43の番号を付した遺物が床面から16cm～57cm浮いた状況で検出されており、本遺構に伴う可能性は少ない。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

196号遺構

昭和60年度調査時遺構番号G-16号。１号遺構（辺田１号墳）の下層北側に位置し、北側を周溝に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存する壁高は、それぞれ西壁17.0cm、南壁24.4cmを測り、遺存状態は不良である。炉・周溝は検出されず、床面はほぼ平坦であり、ピットは１箇所に検出された。深さはＰ１が35.6cmを測る。

遺物

本遺構からは19点535ｇの弥生土器と３点50ｇの礫、１点0.7ｇの銅環が出土した。これらの出土遺物の内６点を図示した。１の番号を付した遺物は、床面密着の状況で出土している。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

197号遺構

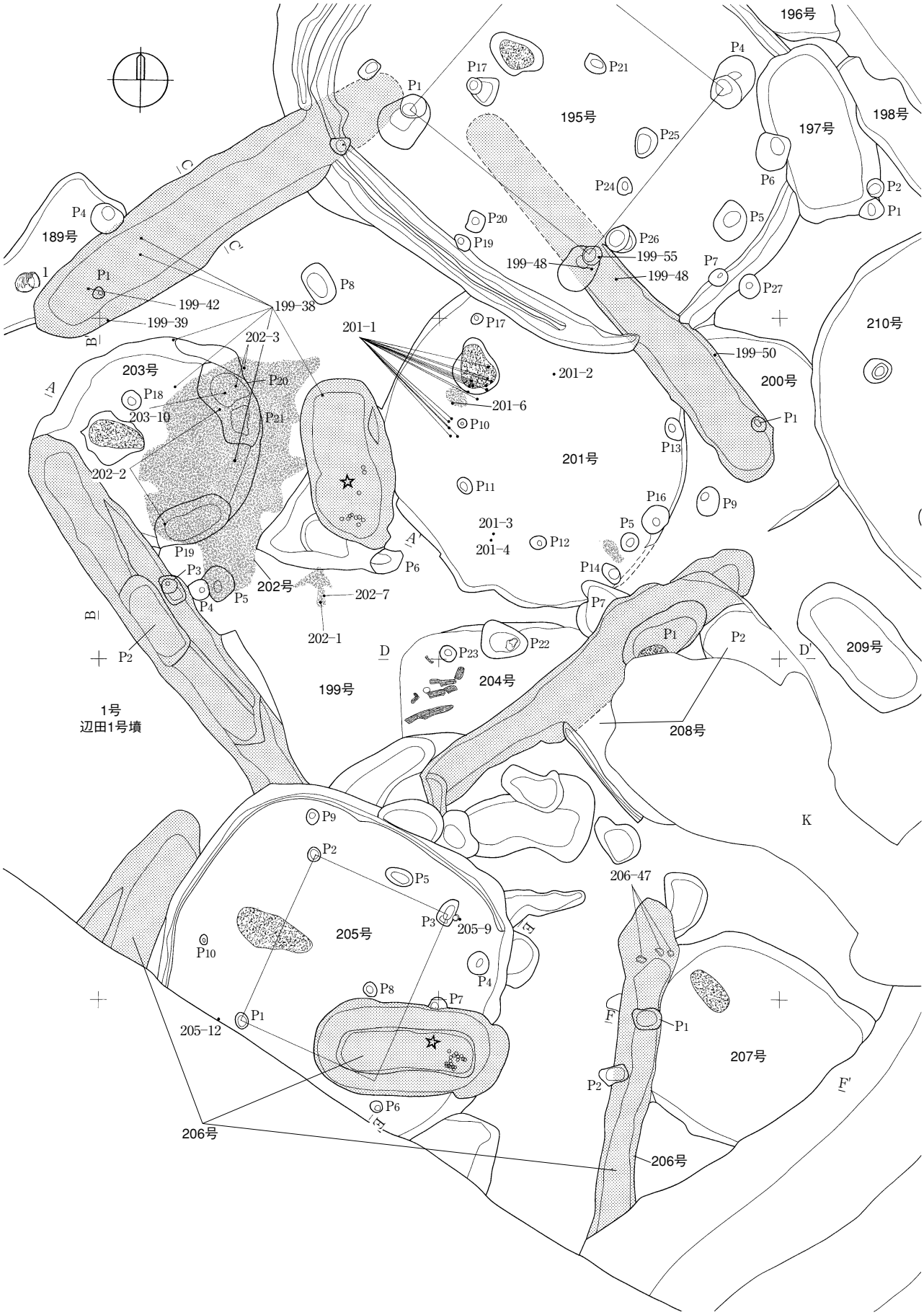
昭和60年度調査時遺構番号G-９号。１号遺構（辺田１号墳）の下層北側に位置し、195号遺構を削平して存在する土坑である。長径2.58m短径1.4mを測り、主軸方位はN-13°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁36.6cm、西壁15.3cm、南壁40.6cm、北壁13.6cmを測り、遺存状態はやや良好である。底面はほぼ平坦であり、東南コーナー部に接して２箇所にピットが検出された。深さはそれぞれＰ１が25.5cm、Ｐ２が23.3cmを測るが、本遺構に直接伴うものとは考えにくい。昭和60年度年報では方形周溝墓関連遺構として紹介され、土壙墓的性格を持つものと考えられる。

遺物

本遺構からは72点1,199.3ｇの土器片と６点563.6ｇの礫・石器が出土した。土器片の内訳は59点987.8ｇの弥生土器、６点103.4ｇの早期撚糸文系土器、３点68.1ｇの早期条痕文系土器、３点30ｇの前期繊維土器、１点10ｇの加曽利Ｂ式土器である。これらの出土遺物の内17点を図示した。これらの遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

198号遺構

昭和60年度調査時遺構番号G-10号。１号遺構（辺田１号墳）の下層北側に位置し、197号遺構と接して存在する土坑である。長径3.02mを測り、主軸方位はN-41°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ西壁29.8cm、南壁13.6cm、北壁8.2cmを測り、遺存状態は不良である。底面はほぼ平坦であり、２箇所にピットが検出された。深さはそれぞれＰ１が32.0cm、Ｐ２が1.0cmを測る。昭和60年度年報では方形周溝墓関連遺構として紹介されておらず、土壙墓的性格を持つものとはとらえられていない。



第183図　197・199～208号遺構実測図

遺物

本遺構からは何の遺物も検出されなかった。

199号遺構

昭和60年度調査時遺構番号G-３・G-８・G-19・G-20・G-12号。１号遺構（辺田１号墳）の下層中央に位置し、195号・201号・203号・204号・208号遺構を削平して存在する方形周溝墓である。重複する205号遺構との新旧関係不明ながら、199号遺構や206号遺構等、辺田１号墳墳丘下の他の方形周溝墓が住居跡を切って構築されていることから、本遺構の方が205号遺構より新しい段階の遺構と捉えられる。残存する周溝より方台部内径は、東西7.7ｍ南北8.23ｍを測り、主軸方位はN-36°-Wを示す。各周溝の規模は、東側で上端（6.72）ｍ下端4.0ｍ以上、幅0.9ｍ前後、深さは30.9cm、西側で上端6.3ｍ下端5.94ｍ以上、幅1.0ｍ前後、深さは41.8cm、南側で上端5.9ｍ下端5.52ｍ、幅0.88ｍ前後、深さは49.9cm、北側で上端（5.0）ｍ下端4.7ｍ以上、幅1.2ｍ前後、深さは56.6cmを測る。

埋葬施設は方台部中央やや南側に検出された。長径2.42ｍ短径1.28ｍを測り、主軸方位はN-７°-Wを示す。慎重に精査したにも関わらず木棺痕を検出することができなかった。墓壙の壁高は、それぞれ東壁32.8cm、西壁55・５cm、南壁44.6cm、北壁45.4cmを測る。

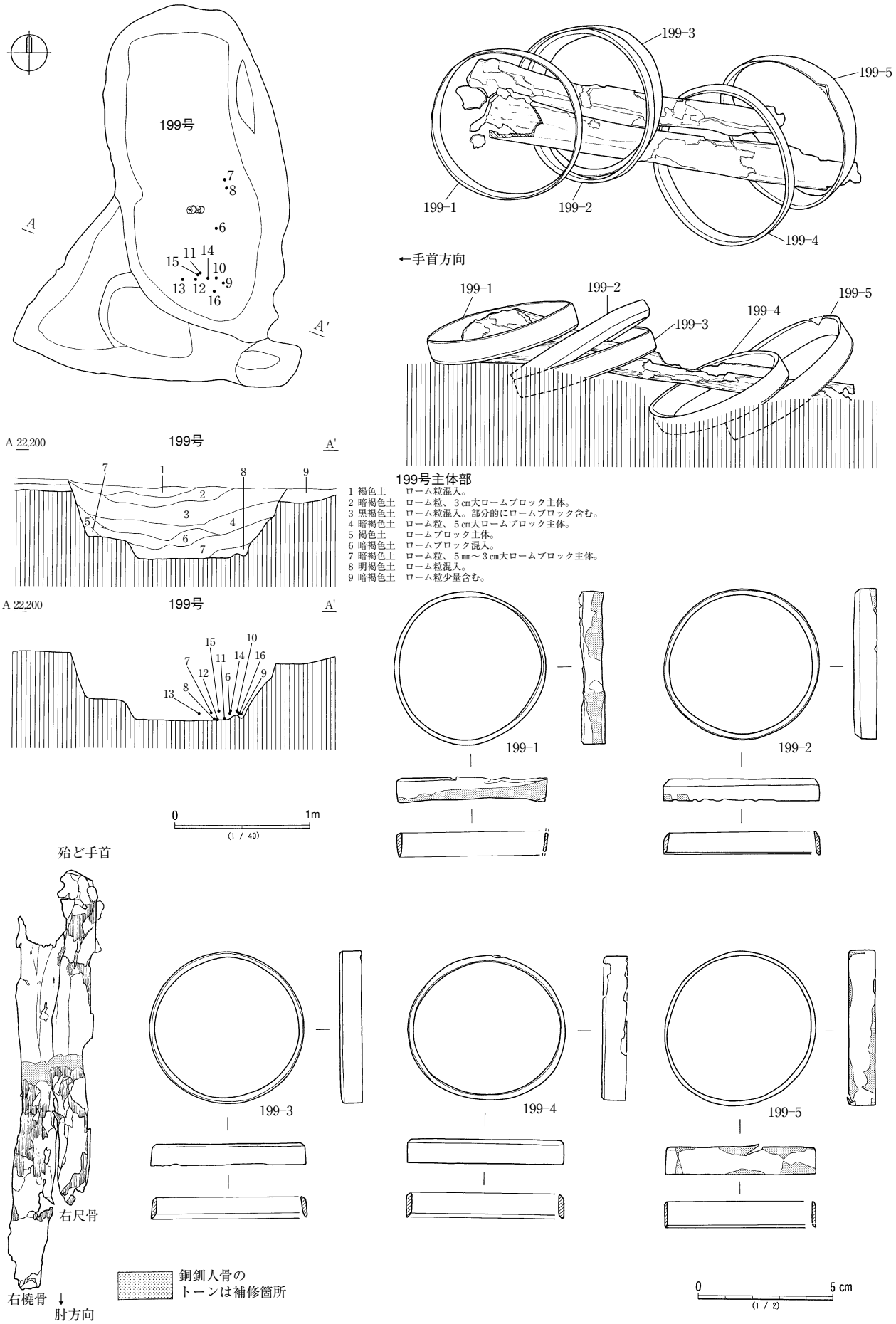
周溝・方台部内の８箇所からピットが検出された。深さはそれぞれＰ１が26.5cm、Ｐ２が41.8cm、Ｐ３が69.3cm、Ｐ４が42.4cm、Ｐ５が46.6cm、Ｐ６が4.5cm、Ｐ７が35.3cm、Ｐ８が17.4cmを測るが、本遺構に直接伴うとは考えられない。

遺物

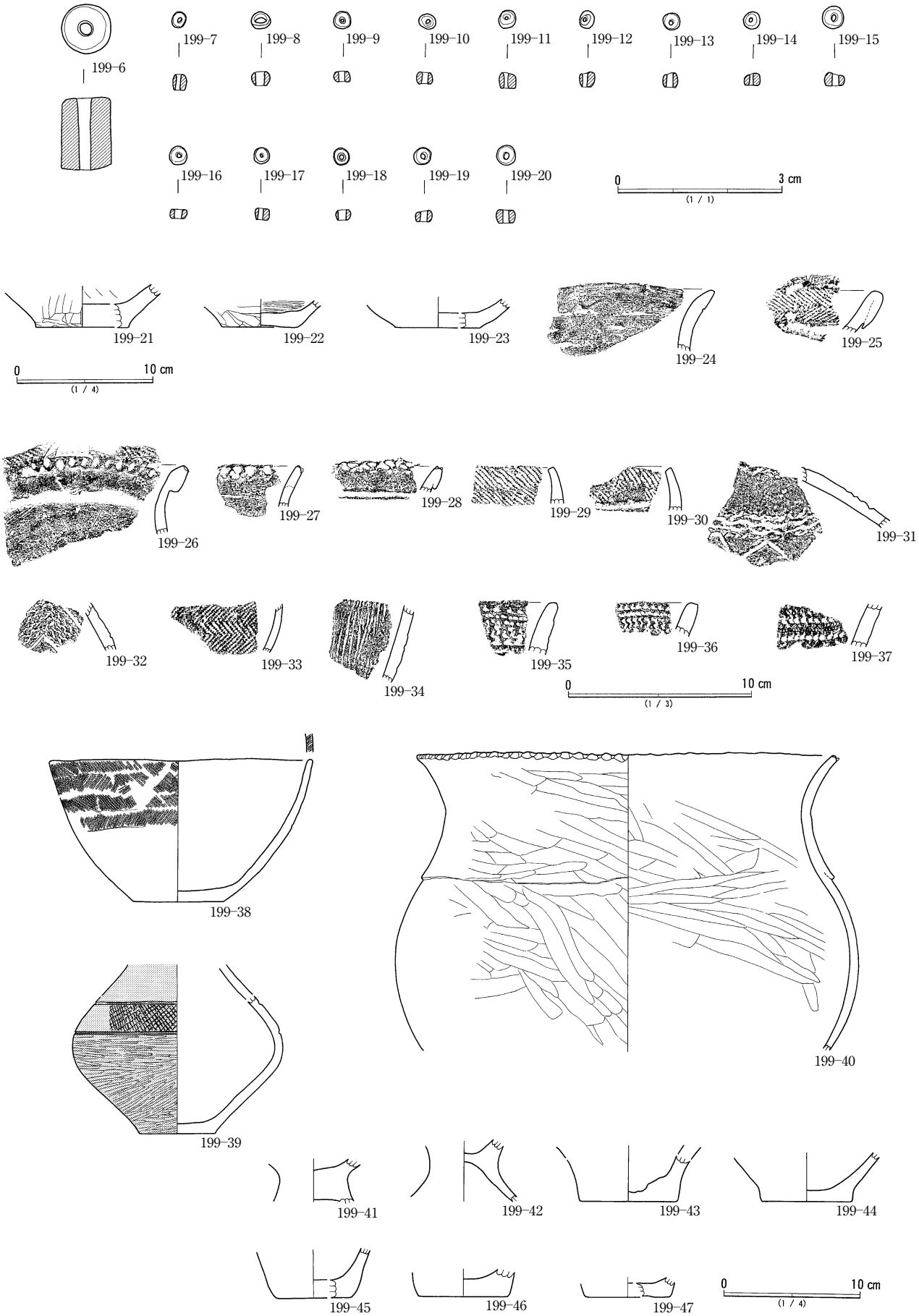
本遺構からは1,217点10,999ｇの土器片と267点9,010.8ｇの礫・石器、14点0.3563ｇのガラス小玉、１点1.9ｇの管玉、５点43.1ｇの帯状円環型銅釧が出土した。土器片の内訳は、1,041点8,743ｇの弥生土器、１点15ｇの土師器、54点740ｇの早期撚糸文系土器、51点521ｇの早期条痕文系土器、39点487ｇの前期繊維土器、26点430ｇの加曽利Ｂ式土器、５点63ｇの時期不明縄文土器である。これらの出土遺物の内86点を図示した。

埋葬施設からは５点の帯状円環型銅釧と１点の管玉、及び14点のガラス小玉を検出した。１～５は、鋳造の帯状円環型銅釧である。右手尺骨と橈骨と供に腕に着装された状態で検出された。６の管玉の出土位置を被葬者の右胸部とすれば、５連の銅釧は、腹部の位置で腕を曲げ、右手甲を上に向けた状態で１～５の順に手首から肘方向にかけて着装して埋葬された事がわかる。頭部と推定される位置からは８点のガラス小玉が集中的に検出された。また、被葬者の右腰部と想定される位置からは、２点のガラス小玉が検出されている。これらの遺物は、一部の玉類を除いて何れも掘り方底面から３cm～５cm程浮いた状態で検出されており、この他にも、覆土一括ではあるが４点のガラス小玉が検出されている。なお、国立科学博物館の松村博文氏に肉眼観察していただき、出土人骨は華奢であることからおそらく女性のもので、右橈骨先端部は殆ど手首に近い位置であるとのご教授を得た。

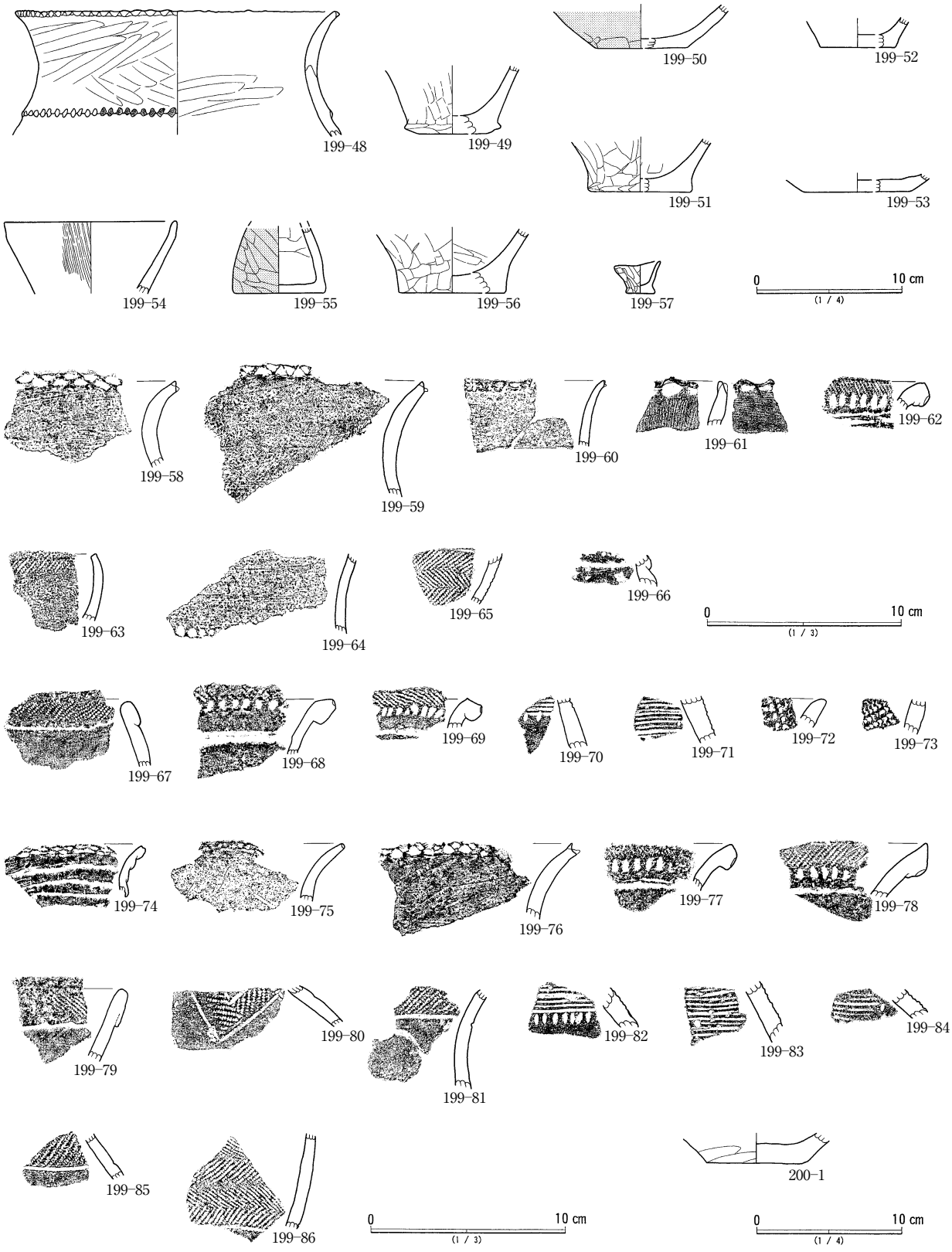
周溝及び方台部内からは38・39・42の遺物が検出された。38は、北側周溝の溝底から17～19cm程浮いた状態で検出された破片と、埋葬施設確認面で検出される破片及び隣接する焼土・炭化物遺構の202号遺構の直下層から検出される破片と接合関係を有する鉢である。39・42は同じく北側周溝の溝底から22cm程浮いた状態で検出された。また、東側周溝からは48・55・58が検出されており、周溝底



第184図　199号遺構実測図・出土遺物実測図



第185図　199号遺構出土遺物実測図



第186図　199・200号遺構出土遺物実測図

よりそれぞれ48と58が36cm、55は16cm浮いた状態で検出されており、本遺構に直接伴うものと考えられる。これ以外の遺物は、何れも各周溝や埋葬施設内から検出されたものであるが、覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

200号遺構

昭和60年度調査時遺構番号 G-13号。１号遺構（辺田１号墳）の下層中央やや北東側に位置し、199号遺構東溝と201・211号遺構に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存する壁高は、それぞれ東壁11.1cm、南壁7.6cm、北壁10.7cmを測り、遺存状態は不良である。炉・周溝は検出されず、床面はほぼ平坦であり、ピットは１箇所に検出された。深さはＰ９が68.1cmを測る。

遺物

本遺構からは図示した１点140ｇの弥生土器底部だけが出土した。覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

201号遺構

昭和60年度調査時遺構番号 G-６号。１号遺構（辺田１号墳）の下層中央やや東側に位置し、199号遺構東溝に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径4.8ｍを測り、主軸方位はN-37°-W を示す。残存する壁高は、それぞれ東壁5.1cm、西壁5.3cm、南壁6.9cm、北壁16.9cmを測り、遺存状態は不良である。炉は中央北寄りに検出された。長軸長0.84ｍを測り、主軸方位はN-10°-W を示し、床面より3.7cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず、床面はほぼ平坦であり、ピットは８箇所に検出された。深さはそれぞれP10が6.5cm、P11が20.5cm、P12が15.3cm、P13が58.8cm、P14が11.4cm、P15が20.0cm、P16が16.1cm、P17が10.7cmを測る。

遺物

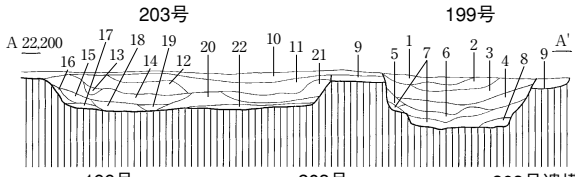
本遺構からは298点3,645ｇの土器片と67点3,177.9ｇの礫・石器が出土した。土器片の内訳は242点2,850ｇの弥生土器、26点295ｇの早期撚糸文系土器、２点50ｇの早期条痕文系土器、14点170ｇの前期繊維土器、14点280ｇの加曽利Ｂ式土器である。これらの出土遺物の内27点を図示した。１・４は炉の周囲より16cm程浮いた状態で検出された。２は炉東側の床面より23cm離れて、３・６は遺構西側の床面よりそれぞれ７cmと16cm離れて検出されている。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

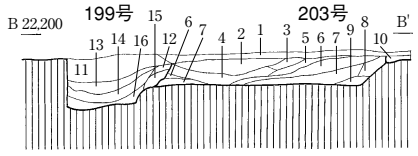
202号遺構

昭和60年度調査時遺構番号 G-15A 号。１号遺構（辺田１号墳）の下層中央に位置し、辺田１号墳の墳丘盛土開始面に相当する焼土・炭化物層である。長径3.88ｍ短径1.78ｍ、焼土の厚さは15.8cmを測る。弥生方形周溝墓に伴う可能性も考えたが、古墳断面図に199号方形周溝墓の盛土痕跡が見当たらないことや、１号墳盛土開始面のほぼ中央に存在することから、墳丘盛土開始時期に人為的に周辺の樹木を伐採し、集積して野焼きした跡と考えたい。

遺物

本遺構からは366点5,446.5ｇの土器片と148点4,472.4ｇの礫・石器が出土した。土器片の内訳は





203号遺構

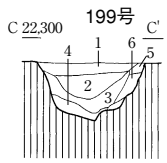
10 黒褐色土　炭化物混入。
11 褐色土　ローム粒若干混入。
12 暗灰褐色　ローム粒混入。
13 明褐色土　ロームブロック。
14 明褐色土　ローム粒多量に含む。
15 黒褐色土　ローム粒混入。
16 褐色土　ローム粒多量に混入。
17 黒褐色土　ローム粒若干混入。
18 暗灰褐色　ローム粒混入。
19 黒褐色土　ロームブロック多く混入。
20 暗灰褐色　ローム粒混入。
21 暗褐色土　ローム粒若干含む。
22 黒褐色土　ロームブロック多く混入。

203号遺構

1 黒褐色土　炭化物多量含む。
2 褐色土　ローム粒多量に含む。
3 暗赤褐色　焼土。
4 暗褐色土　斑点状に黒色土混入。
5 暗灰褐色　ローム粒混入。
6 暗褐色土　ローム粒混入。
7 暗褐色土　ローム粒、5㎜～3㎝大ロームブロック混入。
8 明褐色土　5㎜～3㎝大ロームブロック主体。
9 暗褐色土　ローム粒混入。
10 黒褐色土　炭化物混入。

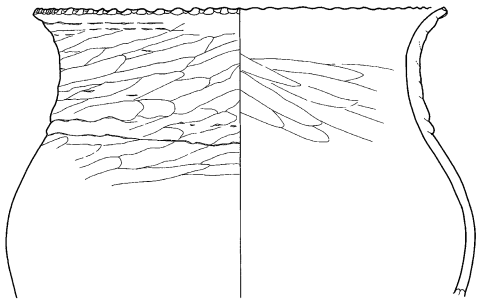
199号遺構

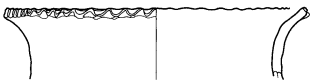
11 褐色土　暗褐色土を斑点状に含み、炭化物若干混入。
12 褐色土　炭化物若干混入。
13 褐色土　ローム粒、ロームブロック混入。
14 明灰褐色　ローム粒混入。
15 褐色土　ローム粒混入。
16 褐色土　ローム粒混入。

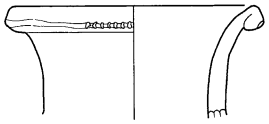


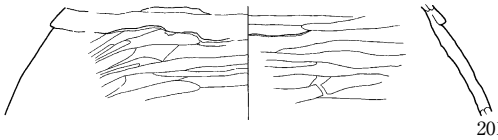
199号遺構

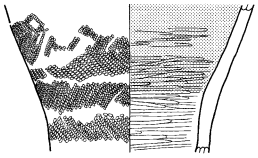
1 明褐色土　暗褐色土とローム粒混入。
2 暗褐色土　明褐色土を斑点状に含む。
3 暗褐色土　明褐色土を斑点状に含み、炭化物混入。
4 褐色土　ローム粒、5㎜ロームブロック主体。
5 明褐色土　ローム粒主体。
6 暗褐色土　ローム粒主体。
7 褐色土　ローム粒、3㎝大ロームブロック主体。

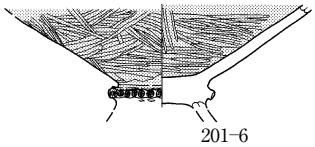

201-1

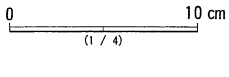

201-2

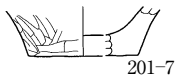

201-3

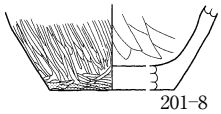

201-4


201-5

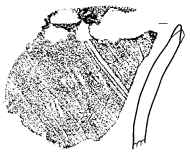

201-6

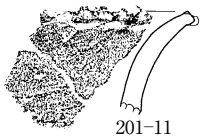



201-7


201-8

201-9


201-10


201-11

201-12

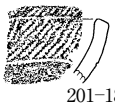
201-13

201-14

201-15

201-16

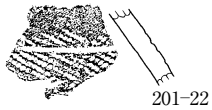
201-17

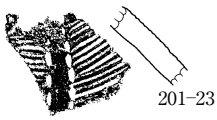

201-18

201-19

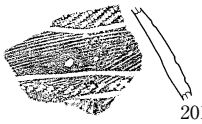
201-20

201-21

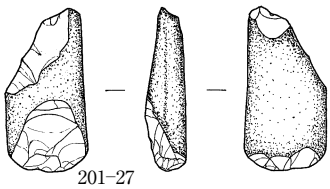

201-22

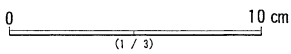

201-23

201-24

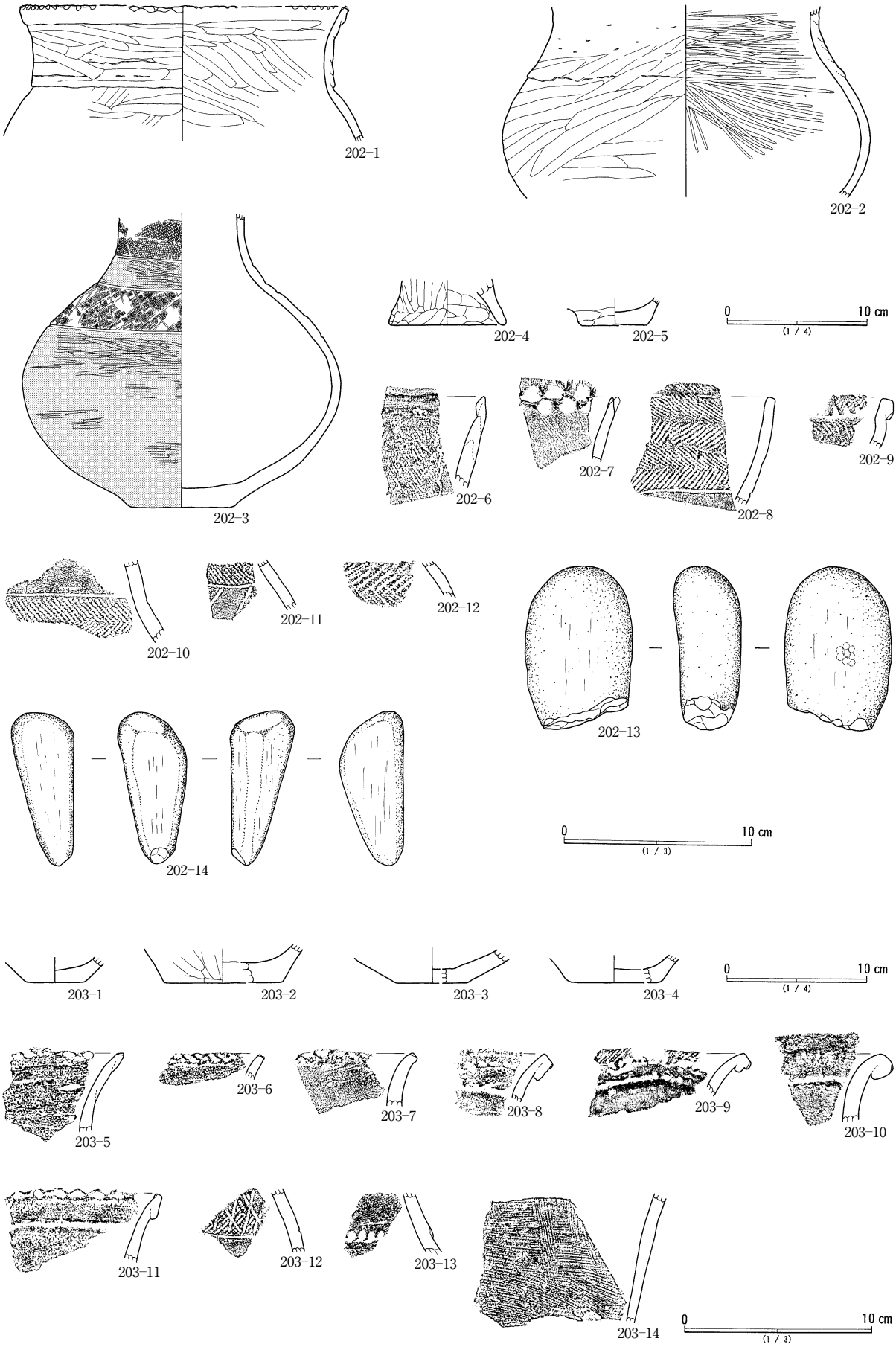

201-25

201-26


201-27



第187図　199・203号遺構実測図・201号遺構出土遺物実測図



第188図　202・203号遺構出土遺物実測図

295点4,531.5ｇの弥生土器、12点75ｇの早期撚糸文系土器、23点250ｇの早期条痕文系土器、２点30ｇの前期繊維土器、２点20ｇの浮島式土器、29点510ｇの加曽利Ｂ式土器、３点30ｇの時期不明縄文土器である。これらの出土遺物の内14点を図示した。２・３は、何れも焼土層中より検出されており、前述のとおり周辺の樹木を伐採し、集積して野焼きした跡であれば、集積の際に混入した遺物と捉える事ができる。これ以外の遺物は、何れも遺構一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無いが、集積の際の混入遺物と捉えられる。

203号遺構

昭和60年度調査時遺構番号G-15B号。１号遺構（辺田１号墳）の下層中央に位置し、199号遺構西溝に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径3.1m短径3.02mを測り、主軸方位はN-74°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁23.3cm、西壁28.9cm、南壁21.5cm、北壁35.6cmを測り、遺存状態はやや不良である。炉は中央西寄りに検出された。長軸長0.88mを測り、主軸方位はN-74°-Wを示し、床面より6.4cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず、床面はほぼ平坦であり、ピットは４箇所に検出された。深さはそれぞれP18が15.1cm、P19が10.2cm、P20が18.8cm、P21が10.3cmを測る。

遺物

本遺構からは113点1,294ｇの土器片と25点541ｇの礫が出土した。土器片の内訳は75点819ｇの弥生土器、７点60ｇの早期撚糸文系土器、９点110ｇの早期条痕文系土器、５点90ｇの前期繊維土器、１点15ｇの浮島式土器、12点150ｇの加曽利Ｂ式土器、４点50ｇの時期不明縄文土器である。これらの出土遺物の内14点を図示した。10はP20の底面から2.3cm程浮いた状態で検出された。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

204号遺構

昭和60年度調査時遺構番号G-26号。１号遺構（辺田１号墳）の下層中央東側に位置し、199号遺構南溝に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存する壁高は、北壁3.4cmを測り、遺存状態は不良である。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、西側に炭化物が集中して検出された。ピットは２箇所に検出され、深さはP22が26.6cm、P23が18.3cmを測る。

なお、前述のとおり、本遺構は187号東周溝と調査時の遺構番号が重複しており、遺物中に炭化物の存在した分を本遺構一括遺物とした。また整理作業に際し、便宜的に187号東周溝を26A号、本遺構を26B号遺構として作業を進めている。

遺物

本遺構からは41点1,502ｇの土器片と111点2,893.2ｇの礫・石器が出土した。土器片の内訳は29点1,312ｇの弥生土器、３点40ｇの土師器、２点20ｇの早期撚糸文系土器、７点130ｇの加曽利Ｂ式土器である。これらの出土遺物の内６点を図示した。１はP22の底面密着の状態で検出され、本遺構に直接伴うものと考えられる。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

205号遺構

昭和60年度調査時遺構番号G-33号。１号遺構（辺田１号墳）の下層中央やや南東側に位置し、206号方形周溝墓主体部に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.0ｍを測り、主軸方位はN-66°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁23.3cm、西壁18.3cm、北壁63.8cmを測り、遺存状態は比較的良好である。炉は中央西寄りに検出された。長軸長1.16ｍを測り、主軸方位はN-63°-Wを示し、床面より9.3cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は北から西側にかけて検出された。深さは北側で4.4cm西側で2.2cm前後を測る。床面はほぼ平坦であり、ピットは10所に検出された。深さはそれぞれＰ１が75.7cm、Ｐ２が67.9cm、Ｐ３が67.4cm、Ｐ４が51.7cm、Ｐ５が2.2cm、Ｐ６が11.7cm、Ｐ７が25.1cm、Ｐ８が5.3cm、Ｐ９が1.7cm、P10が18.6cmを測る。Ｐ１～Ｐ３は掘り込みも深くしっかりしており、主柱穴であるものと考えられる。

遺物

本遺構からは127点1,970ｇの土器片と105点3,776.4ｇの礫・石器が出土した。土器片の内訳は１点40ｇの土師器、88点1,150ｇの弥生土器、４点40ｇの早期撚糸文系土器、14点105ｇの早期条痕文系土器、２点40ｇの前期繊維土器、18点595ｇの加曽利Ｂ式土器である。これらの出土遺物の内13点を図示した。１は墳頂部等で検出されている底部穿孔壺の口縁部である。南側の未調査区から何らかの拍子で落下してきたものを本遺構一括で取り上げられたものと想定される。９はＰ３付近の、12はＰ１付近の床面に密着して検出された。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

206号遺構

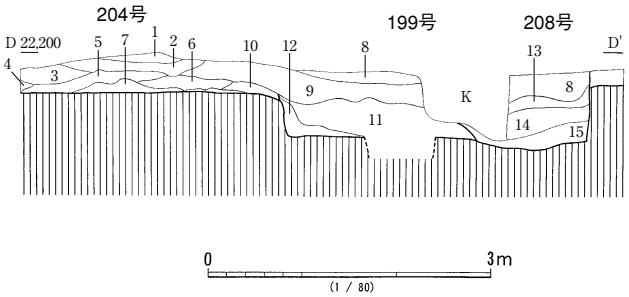
昭和60年度調査時遺構番号G-34・G-37号。１号遺構（辺田１号墳）の下層南東に位置し、205号・207号遺構を削平して存在する方形周溝墓である。北側の周溝は、連続して重複する不整形なピットによってよくわからないが、あるいはこの不整形な連続ピットが北側の周溝になるのかも知れない。残存する周溝より方台部内径は、東西方向でおよそ7.1ｍを測り、主軸方位はN-８°-Wを示す。各周溝の規模は、東側で上端5.1ｍ以上、幅0.6ｍ前後、深さは43.5～57.8cm前後、西側で上端2.3ｍ以上、深さは最大41.3cmを測る。東周溝内の２箇所からピットが検出された。深さはそれぞれＰ１が29.2cm、Ｐ２が57.8cmを測るが、本遺構に直接伴うとは考えられない。

埋葬施設は東側周溝より西側に1.5ｍの地点で検出された。墓壙規模は、長径2.85ｍ短径1.35ｍを測り、主軸方位はN-88°-Wを示す。205号遺構床面より20cm程掘り下げた段階で、墓壙中央に木棺痕を検出した。長径2.03ｍ短径0.61ｍ、土層断面より深さは59.8cmを測り、主軸方位はN-89°-Wを示す。残存する墓壙の壁高は、それぞれ東壁72.6cm、西壁23.7cm、南壁21.3cm、北壁24.8cmを測る。

遺物

本遺構からは10点1,192ｇの土器片と17点317ｇの礫・石器、37点1.2901ｇのガラス小玉、１点0.0513ｇの碧玉製管玉、５点49.8ｇの帯状円環型銅釧が出土した。土器片の内訳は、８点1,170ｇの弥生土器、２点22ｇの早期撚糸文系土器である。これらの出土遺物の内47点を図示した。

埋葬施設からは５点の帯状円環型銅釧と１点の管玉、及び37点のガラス小玉を検出した。１～５は、鋳造の帯状円環型銅釧である。右手尺骨と橈骨と供に腕に着装された状態で検出された。５連の



204号遺構

1 黄褐色土　ローム粒と炭化物混入。
2 褐色土　ローム粒と多量の５㎝大のロームブロック含む。
3 褐色土　ローム粒混入。
4 褐色土　ローム粒多量混入。
5 褐色土　少しのローム粒と炭化物混入。
6 暗褐色土　明褐色土を斑点状に含み、炭化物少し混入。
7 明褐色土　ローム粒、炭化物混入。
8 明褐色土　明褐色土混入。

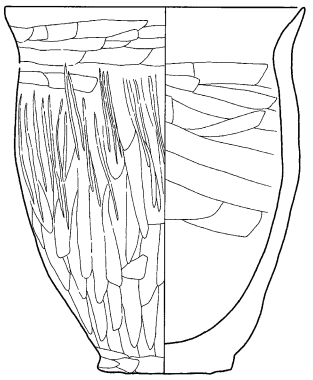
199号遺構

9 暗褐色土　ローム粒若干混入。
10 褐色土　ローム粒、暗褐色土混入。
11 褐色土　ローム粒、ロームブロック多量混入。
12 明褐色土　ローム粒、ロームブロック混入。

208号遺構

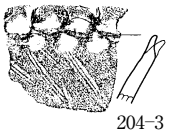
13 暗褐色土　ローム粒混入。
14 褐色土　ローム粒混入。
15 黒褐色土　ローム粒混入。

0　3m
(1 / 80)

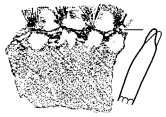


204-1

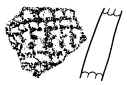
204-2



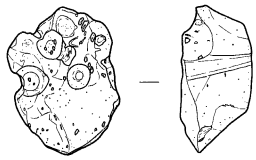
204-3



204-4



204-5



204-6

0　10 cm
(1 / 3)

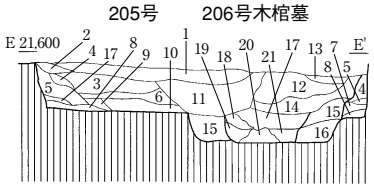
0　10 cm
(1 / 4)

205号遺構

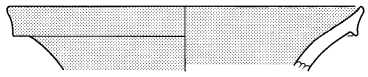
1 暗褐色土　重機による撹乱。
2 黒褐色土　ローム粒混入。
3 明褐色土　ローム粒混入。
4 黒褐色土　ローム粒混入。
5 褐色土　ローム粒混入。
6 明褐色土　ローム粒、３㎝大のロームブロック混入。
7 黒褐色土　ローム粒混入。
8 暗褐色土　ローム粒混入。
9 暗褐色土　ロームブロック混入。
10 暗褐色土　２㎝大のロームブロック混入。

206号遺構

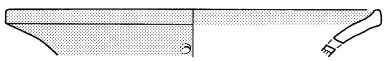
11 暗褐色土　斑点状の暗褐色土に、２㎝大のロームブロック
12 暗褐色土　５㎜～３㎝大のロームブロック混入。
13 明褐色土　ローム粒混入。
14 褐色土　ロームブロック多量に混入。
15 暗褐色土　３㎝大のロームブロック混入。
16 暗褐色土　１㎝大のロームブロックを少量混入。
17 暗褐色土　大ロームブロック混入。
18 明褐色土　ローム粒混入。
19 褐色土　ローム粒やや多く含む。
20 明褐色土　ローム粒混入。
21 褐色土　ローム粒混入。玉類含む。



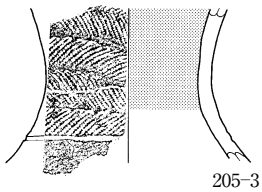
0　3m
(1 / 80)



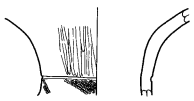
205-1



205-2



205-3



205-4

205-5

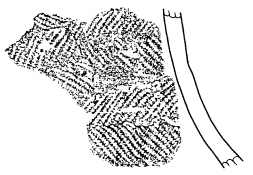
0　10 cm
(1 / 4)

205-6

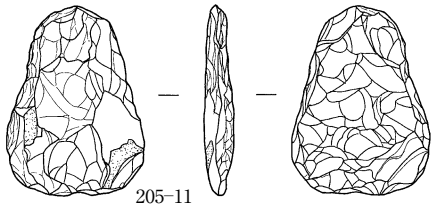
205-7

205-8

205-9



205-10



205-11

0　10 cm
(1 / 3)

第189図　199・204～206・208号遺構実測図・204・205号遺構出土遺物実測図

銅釧は、木棺痕の中央東北寄りに検出されており、玉類が出土する位置から考えて、胸部の位置で腕を曲げ、右手甲を上に向けた状態で１～５の順に手首から肘方向にかけて着装して埋葬された事がわかる。22点のドットで取り上げられた玉類は、何れも被葬者の頭部を取り巻く様に検出されており、一括で取り上げられた13点も周囲から検出されたものと推定される。この中で１点だけ種別が異なる14の管玉も、他のガラス小玉と同様に取り扱われており、199号遺構と比べ、特別な意味を持つ地点からは検出されていない。これらの遺物は、一部を除いて掘り方底面から３㎝～５㎝程浮いた状態で検出されたものが多く、また42の番号を付して取り上げられたガラス小玉は、破損著しく実測に耐えなかった。なお、人骨については国立科学博物館の松村博文氏に肉眼観察していただき、199号遺構同様華奢であり、おそらく女性のものであるとのご教授を得た。

この他、埋葬施設内からは42～45の番号を付した遺物が検出された。何れも覆土一括で検出されたものである。この内２点は早期撚糸文系土器であり、本遺構に直接伴うのではない。東周溝内からは、46の番号が付された遺物が検出された。周溝底から９～20㎝程浮いた状態で検出され、接合関係を有する高坏であり、本遺構に直接伴うものと考えられる。これ以外の遺物は、何れも各周溝や埋葬施設内から検出されたものであるが、覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

207号遺構

昭和60年度調査時遺構番号 G-38号。１号遺構（辺田１号墳）の下層東側に位置し、206号方形周溝墓東溝及び１号遺構周溝に削平されて存在する竪穴住居跡である。短径2.98ｍを測り、主軸方位はＮ-60°-W を示す。残存する壁高は、それぞれ西壁44.0㎝、南壁40.5㎝、北壁48.3㎝を測り、削平の割には壁の遺存状態は良好である。炉は中央西寄りに検出された。長軸長0.72ｍを測り、主軸方位はＮ-46°-W を示し、床面より2.4㎝程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、ピットは全く検出されなかった。

遺物

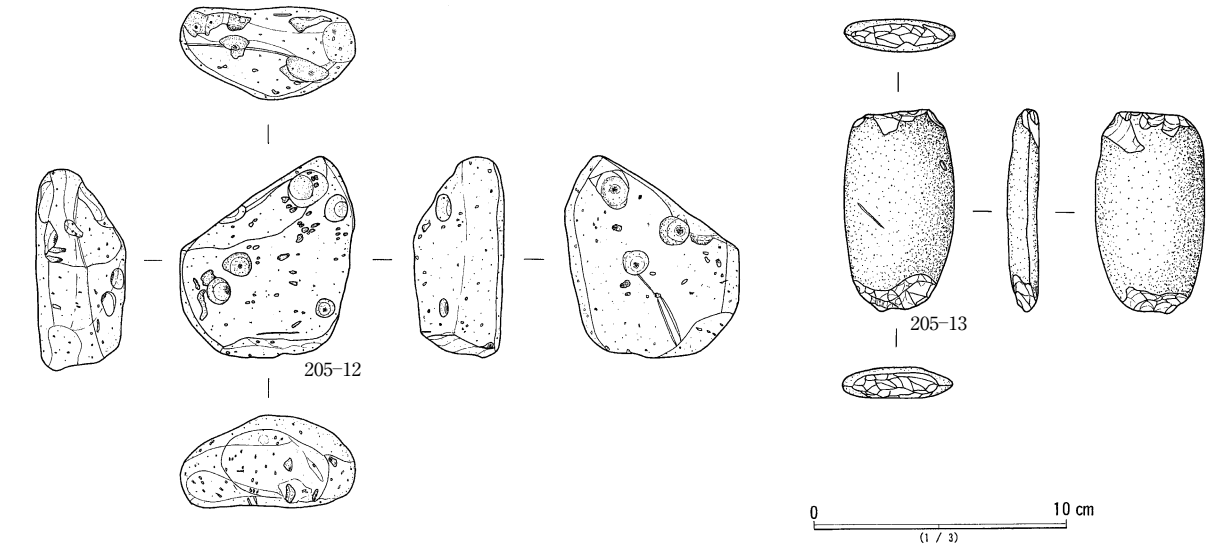
本遺構からは何の遺物も検出されなかった。

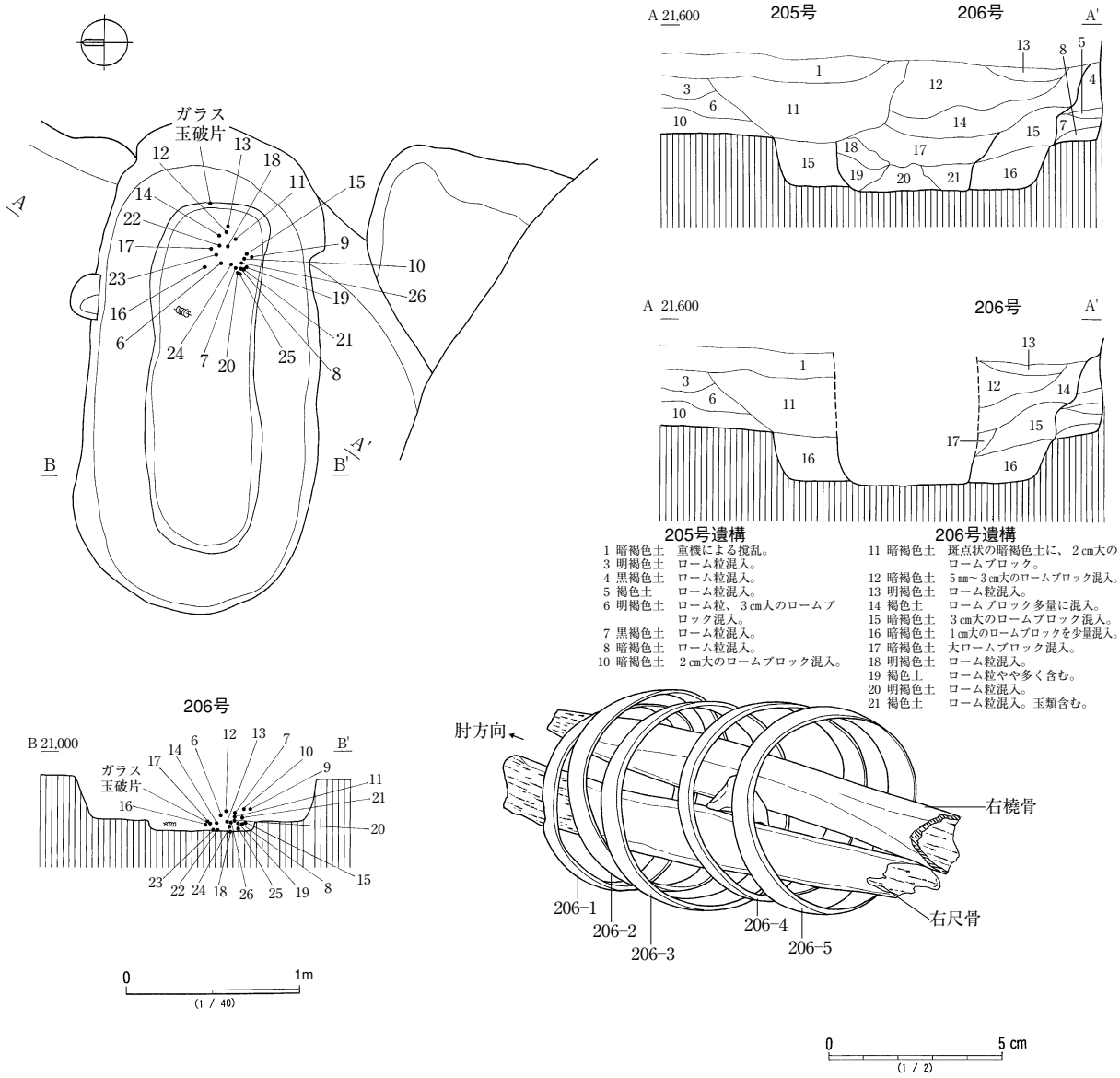
208号遺構

昭和60年度調査時遺構番号 G-23号。１号遺構（辺田１号墳）の下層東側に位置し、199号方形周溝墓南溝及び撹乱に削平されて存在する竪穴住居跡である。短径3.32ｍを測り、主軸方位はＮ-39°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁45.7㎝、西壁32.6㎝、南壁42.2㎝を測るが、遺存状態は極めて不良である。炉の一部は削平されながらも中央西寄りに検出された。残長0.44ｍを測り、床面より2.2㎝程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、ピットは２箇所に検出された。深さはそれぞれＰ１が12.1㎝、Ｐ２が8.1㎝を測る。

遺物

本遺構からは45点408.8ｇの土器片と７点160ｇの礫が出土した。土器片の内訳は42点378.8ｇの弥生土器、２点20ｇの早期撚糸文系土器、１点10ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内10点を図示した。これらの遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示す





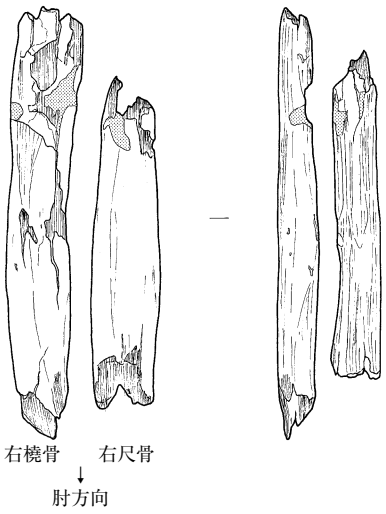
205号遺構

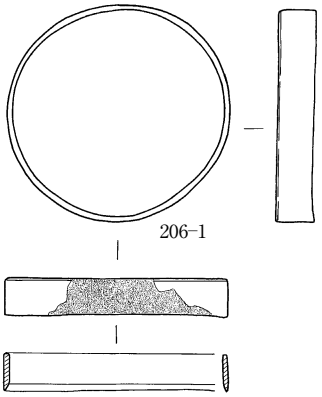
1 暗褐色土　重機による撹乱。
3 明褐色土　ローム粒混入。
4 黒褐色土　ローム粒混入。
5 褐色土　ローム粒混入。
6 明褐色土　ローム粒、3㎝大のロームブロック混入。
7 黒褐色土　ローム粒混入。
8 暗褐色土　ローム粒混入。
10 暗褐色土　2㎝大のロームブロック混入。

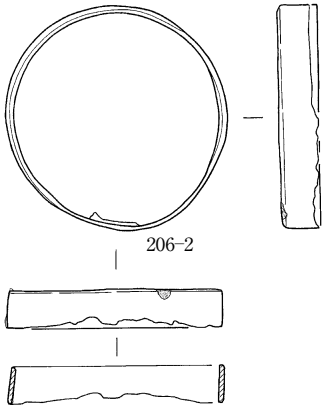
206号遺構

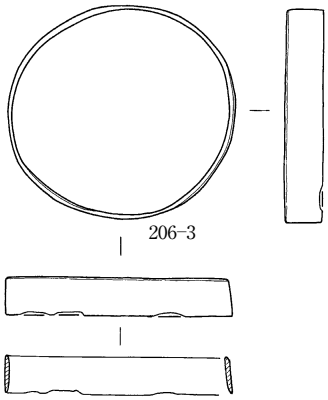
11 暗褐色土　斑点状の暗褐色土に、2㎝大のロームブロック。
12 暗褐色土　5㎜～3㎝大のロームブロック混入。
13 明褐色土　ローム粒混入。
14 褐色土　ロームブロック多量に混入。
15 暗褐色土　3㎝大のロームブロック混入。
16 暗褐色土　1㎝大のロームブロックを少量混入。
17 暗褐色土　大ロームブロック混入。
18 明褐色土　ローム粒混入。
19 褐色土　ローム粒やや多く含む。
20 明褐色土　ローム粒混入。
21 褐色土　ローム粒混入。玉類含む。

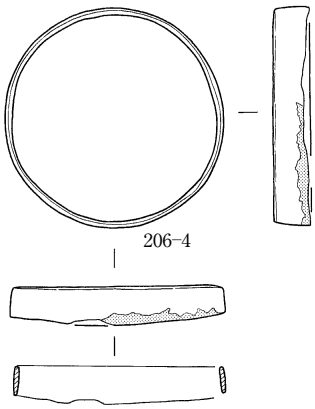
第190図　205・206号遺構実測図・205号遺構出土遺物実測図

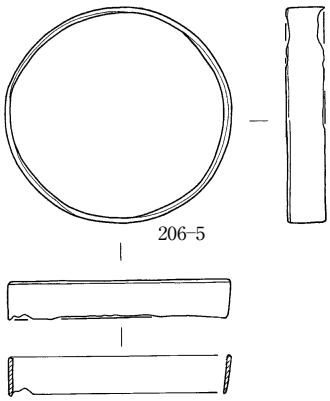




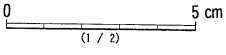




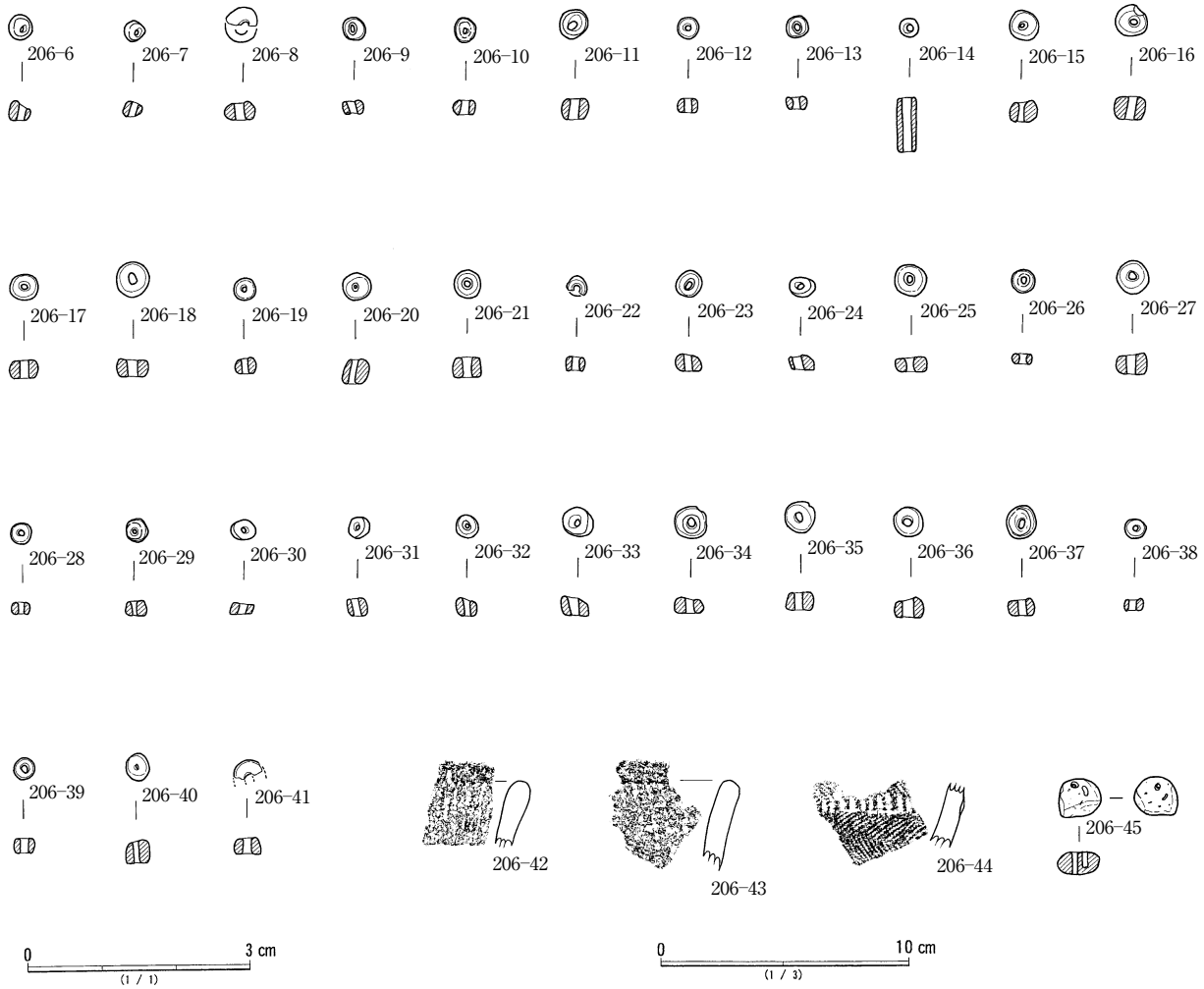


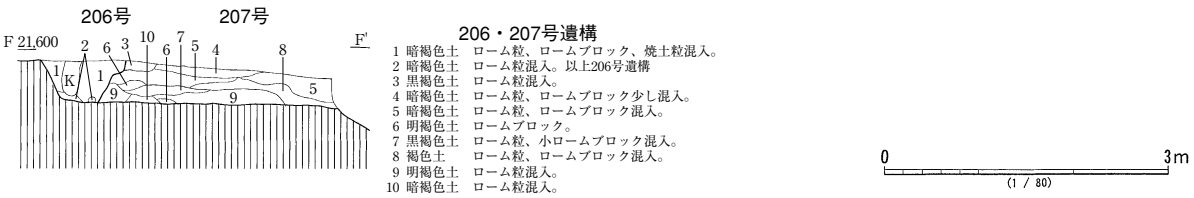


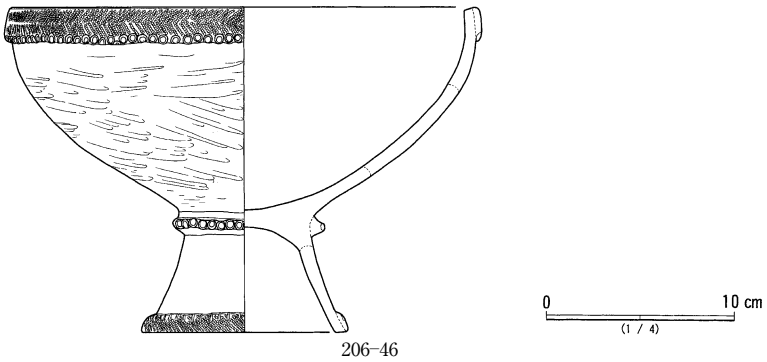
トーンは補修箇所



第191図　206号遺構出土遺物実測図







第192図　206・207号遺構実測図・206号遺構出土遺物実測図

るものは無い。

209号遺構

昭和60年度調査時遺構番号G-21号。１号遺構（辺田１号墳）の下層東側に位置し、208号遺構と210号遺構の間に存在する土坑である。長径2.16m短径1.08mを測り、主軸方位はN-38°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ東壁50.6cm、西壁37.6cm、南壁31.1cm、北壁42.7cmを測り、遺存状態は良好である。底面はほぼ平坦であり、ピット等は検出されなかった。昭和60年度年報では方形周溝墓関連遺構として紹介され、土壙墓的性格を持つものと考えられる。

遺物

本遺構からは39点340ｇの土器片と10点240ｇの礫が出土した。土器片の内訳は31点270ｇの弥生土器、２点10ｇの早期撚糸文系土器、３点30ｇの早期条痕文系土器、３点30ｇの前期繊維土器である。これらの出土遺物の内、弥生土器底部４点を図示した。これらの遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

210号遺構

昭和60年度調査時遺構番号G-１号。１号遺構（辺田１号墳）の下層東側に位置し、200号遺構を削平し、１号遺構周溝に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径6.0mを測り、主軸方位はN-21°-Wを示す。残存する壁高は、それぞれ西壁18.1cm、南壁21.4cm、北壁19.4cmを測り、遺存状態は不良である。炉は中央北寄りに検出された。長軸長0.68mを測り、主軸方位はN-10°-Wを示し、床面より5.4cm程下がった位置で火床を検出する。周溝は存在せず床面はほぼ平坦であり、ピットは７箇所に検出された。深さはそれぞれＰ１が77.9cm、Ｐ２が50.4cm、Ｐ３が89.8cm、Ｐ４が21.2cm、Ｐ５が66.0cm、Ｐ６が44.8cm、Ｐ７が17.7cmを測る。Ｐ２・Ｐ４は、１号遺構周溝に削平されて存在し、本来の深さを喪失しているが、Ｐ１・Ｐ３と併せ、位置的に主柱穴であるものと考えられる。

遺物

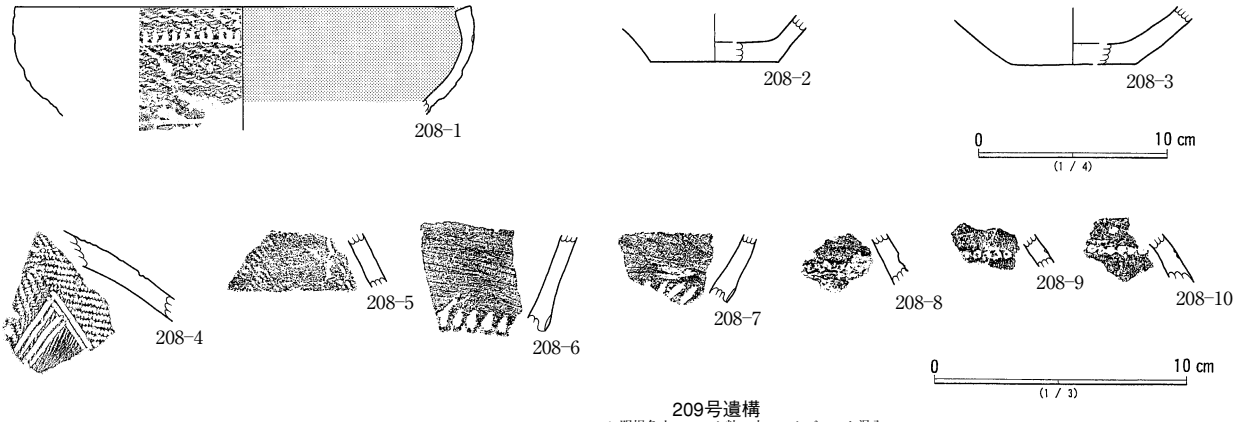
本遺構からは336点2,908.6ｇの土器片と36点829ｇの礫が出土した。土器片の内訳は１点８ｇの土師器、299点2,561.3ｇの弥生土器、14点95ｇの早期撚糸文系土器、３点22.3ｇの早期沈線文系土器、７点95ｇの早期条痕文系土器、４点27ｇの前期繊維土器、８点100ｇの浮島式土器である。これらの出土遺物の内、17点を図示した。１はＰ３とＰ４の中間地点付近の床面より３cm程浮いた状態で検出された鉢である。４は同じく４cm程浮いた状態で検出された。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

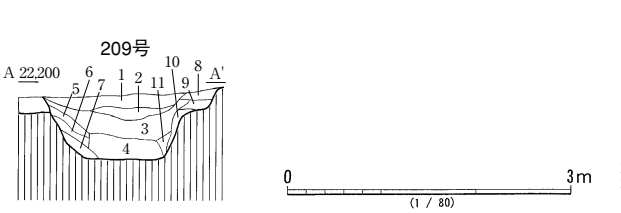
211号遺構

昭和59年度調査時遺構番号2018号、昭和63年度調査時遺構番号M-３号。調査区域の西端から南端を走る溝であり、重複する全ての遺構を削平して存在する。全長115m幅0.8～1.0m前後、深さは西側で18～33cm、南側で29～88.3cmを測り、南側の98号遺構付近が最も深い。

遺物

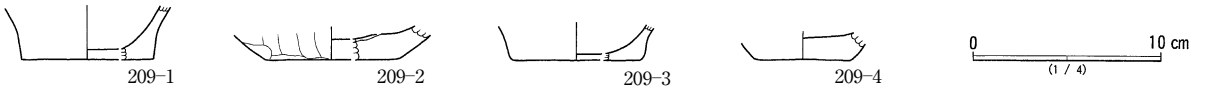
本遺構からは522点4,857.7ｇの土器片と168点8,625.6ｇの礫・石器、５点330.8ｇの瓦、１点145.9

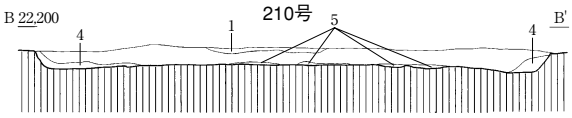


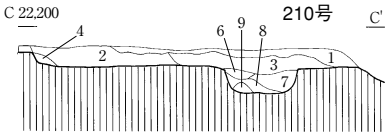


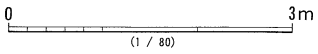
209号遺構

1 明褐色土　ローム粒、小ロームブロック混入。
2 明褐色土　ローム粒混入。
3 暗褐色土　明褐色土を斑点状に含む。
4 褐色土　明褐色土を斑点状に含む。
5 暗褐色土　ローム粒混入。
6 明茶褐色　ローム粒混入。
7 明茶褐色　ローム粒、2㎝大ロームブロック混入。
8 褐色土　ローム粒、ロームブロック混入。
9 茶褐色土　ローム粒混入。
10 明褐色土　ロームブロック。
11 明褐色土　ローム粒、ロームブロック。



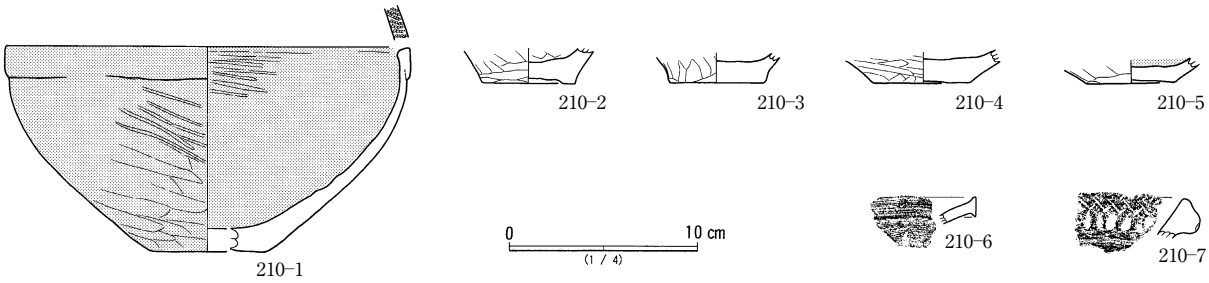


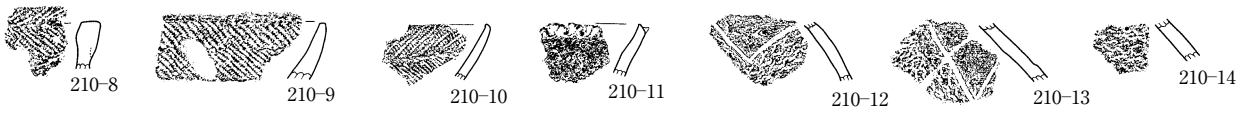




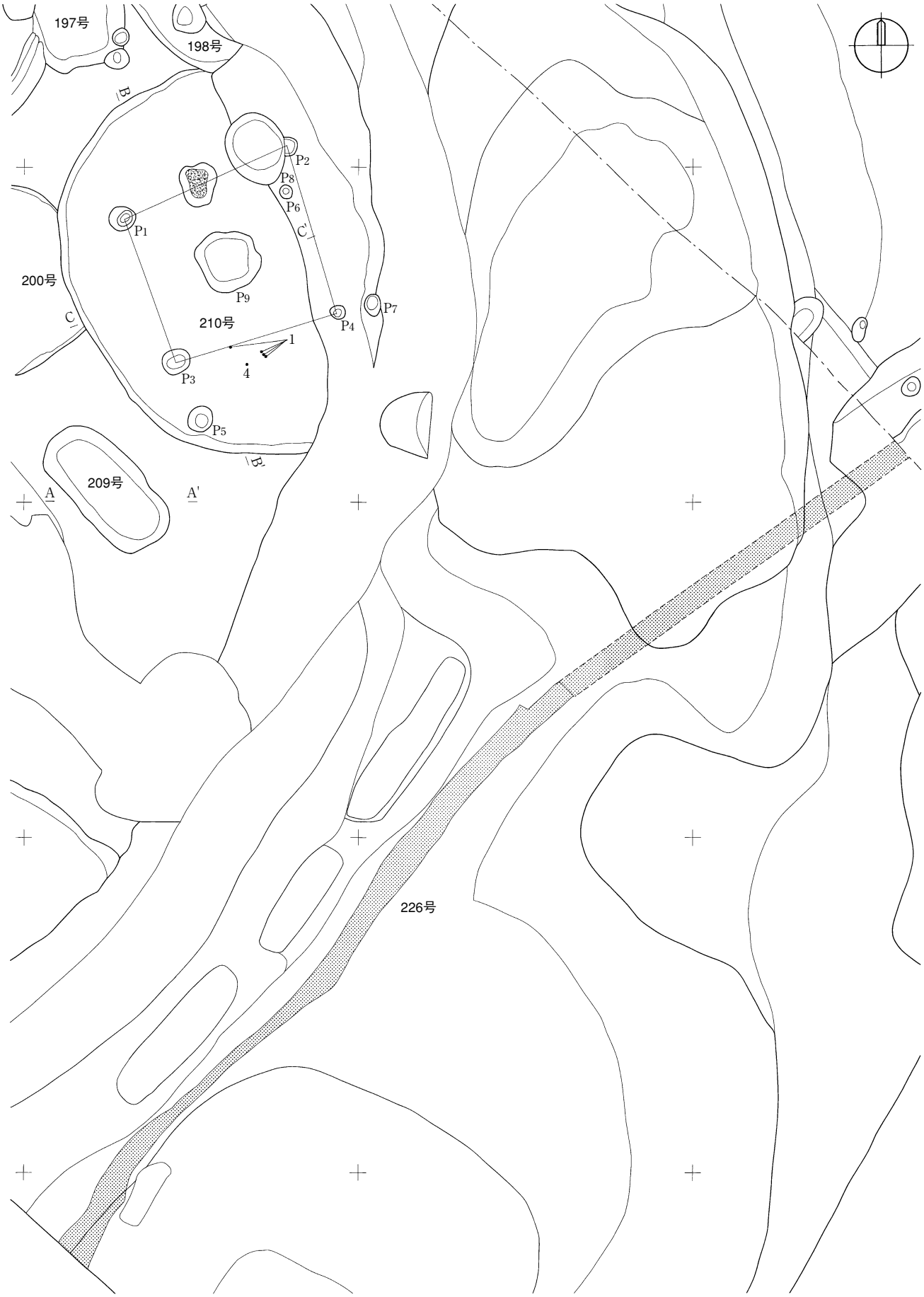
210号遺構

1 黒褐色土　有機質土。
2 褐色土　ローム粒と明褐色土を斑点状に含む。
3 褐色土　明褐色土を斑点状に含む。
4 褐色土　ローム粒と明褐色土混入。
5 褐色土　ローム粒混入。
6 黄褐色土　ローム粒混入。
7 褐色土　ローム粒多量に含む。
8 明褐色土　ローム粒を多量に含む。
9 褐色土　ローム粒、ロームブロック多量に含む。





第193図　209・210号遺構実測図・208～210号遺構出土遺物実測図



第194図　209・210・226号遺構実測図

ｇの鉄塊が出土した。土器片の内訳は11点559.7ｇの土師器、１点135ｇの須恵器、452点3,588.7ｇの弥生土器、55点440ｇの早期条痕文系土器、１点32.2ｇの加曽利Ｅ式土器、２点102.1ｇの加曽利Ｂ式土器である。これらの出土遺物の内、33点を図示した。これらの遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

212号遺構

昭和59年度調査時遺構番号2021号。調査区域西側に存在する211号溝の東側に走る溝であり、重複する全ての遺構を削平して存在する。平面図上で確認できる長さは、全長16.4ｍ幅0.8ｍ前後、深さは9.2～17.7㎝を測る。

遺物

本遺構からは120点1,238ｇの土器片と20点630ｇの礫が出土した。土器片の内訳は25点95ｇの土師器、36点385ｇの弥生土器、58点738ｇの早期条痕文系土器、１点20ｇの阿玉台式土器である。これらの出土遺物の内、４点を図示した。これらの遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

213号遺構

昭和59年度調査時遺構番号2020号。調査区南側を走る211号溝から北に枝分かれする溝であり、重複する62号遺構を削平して存在する。全長6.8ｍ幅2.2ｍ前後、深さは28.6～48.0㎝を測る。

遺物

本遺構からは22点186ｇの土器片と７点520ｇの礫が出土した。土器片の内訳は６点37ｇの土師器、12点80ｇの弥生土器、４点69ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内、６点を図示した。これらの遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

214号遺構

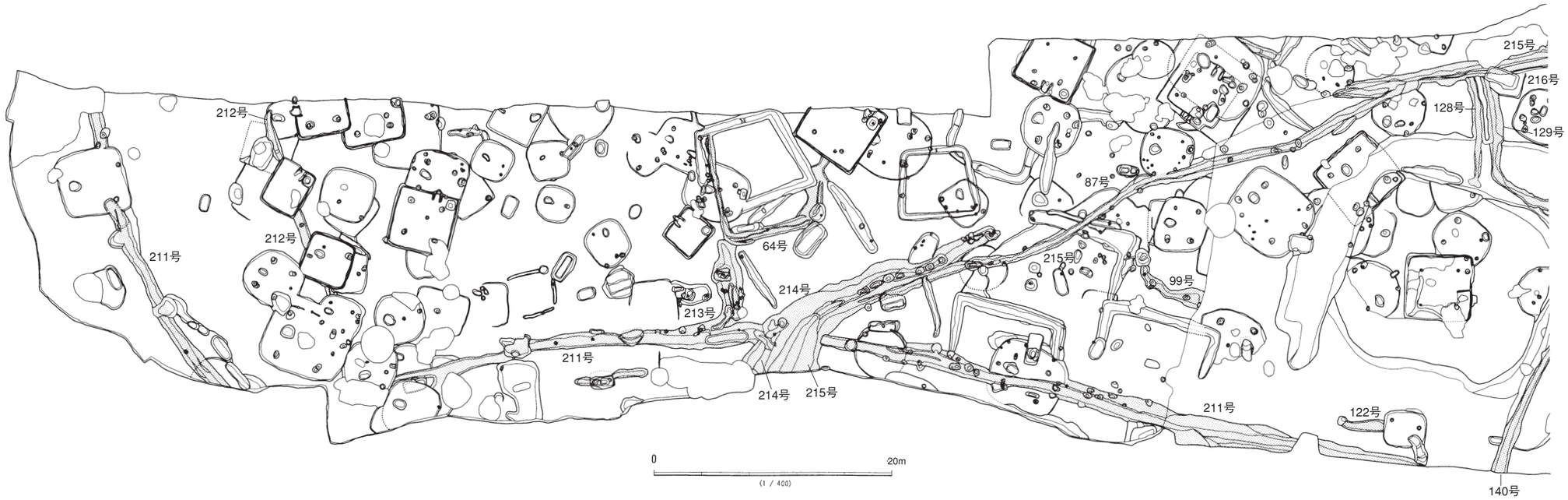
昭和59年度調査時遺構番号2017号。71号遺構周辺の調査区域西側から東北に走る溝であり、211号溝と重複するが新旧関係は不明である。全長22.9ｍ幅1.2～6.0ｍ前後、深さは12.7～42.7㎝を測り、西側が深い。

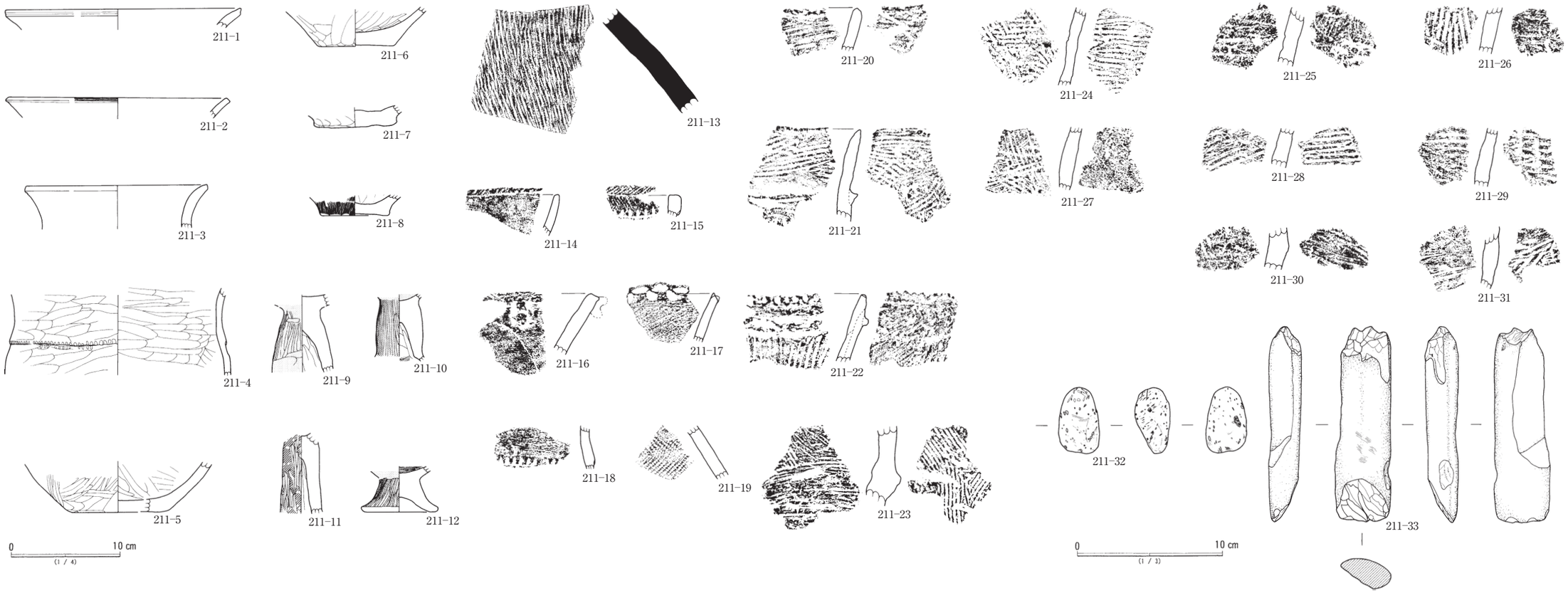
遺物

本遺構からは126点1,310ｇの土器片と49点2,985ｇの礫が出土した。土器片の内訳は60点765ｇの土師器、１点20ｇの須恵器、62点480ｇの弥生土器、２点35ｇの早期条痕文系土器、１点10ｇの青磁片である。これらの出土遺物の内５点を図示した。これらの遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

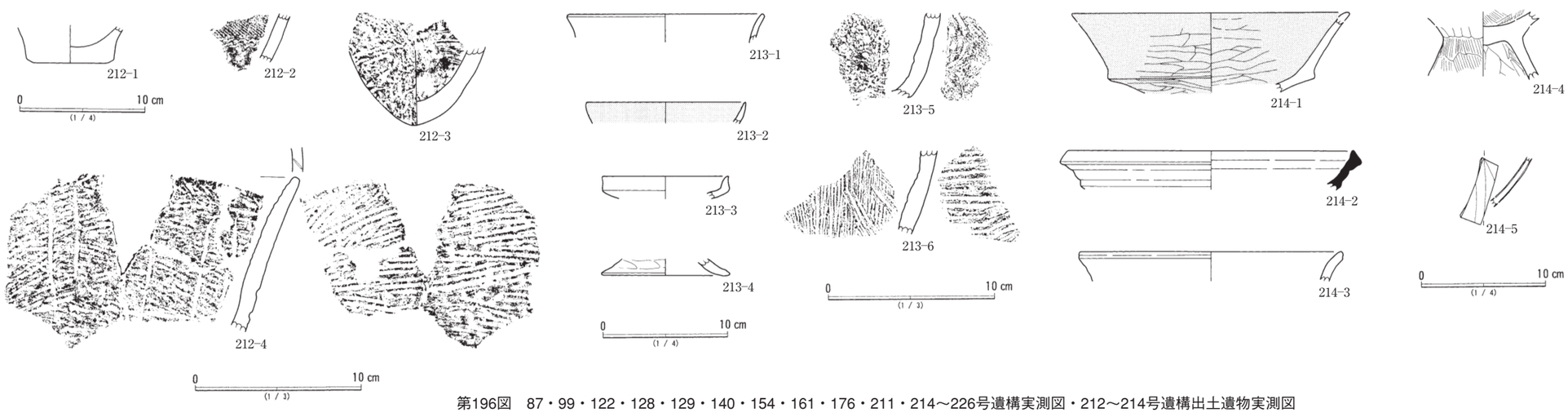
215号遺構

昭和59年度調査時遺構番号2012号、昭和63年度調査時遺構番号ST－４号。214号遺構に隣接し、調査区の西側から北東に走る溝であり、211号・214号溝と重複するが新旧関係は不明である。全長93.0

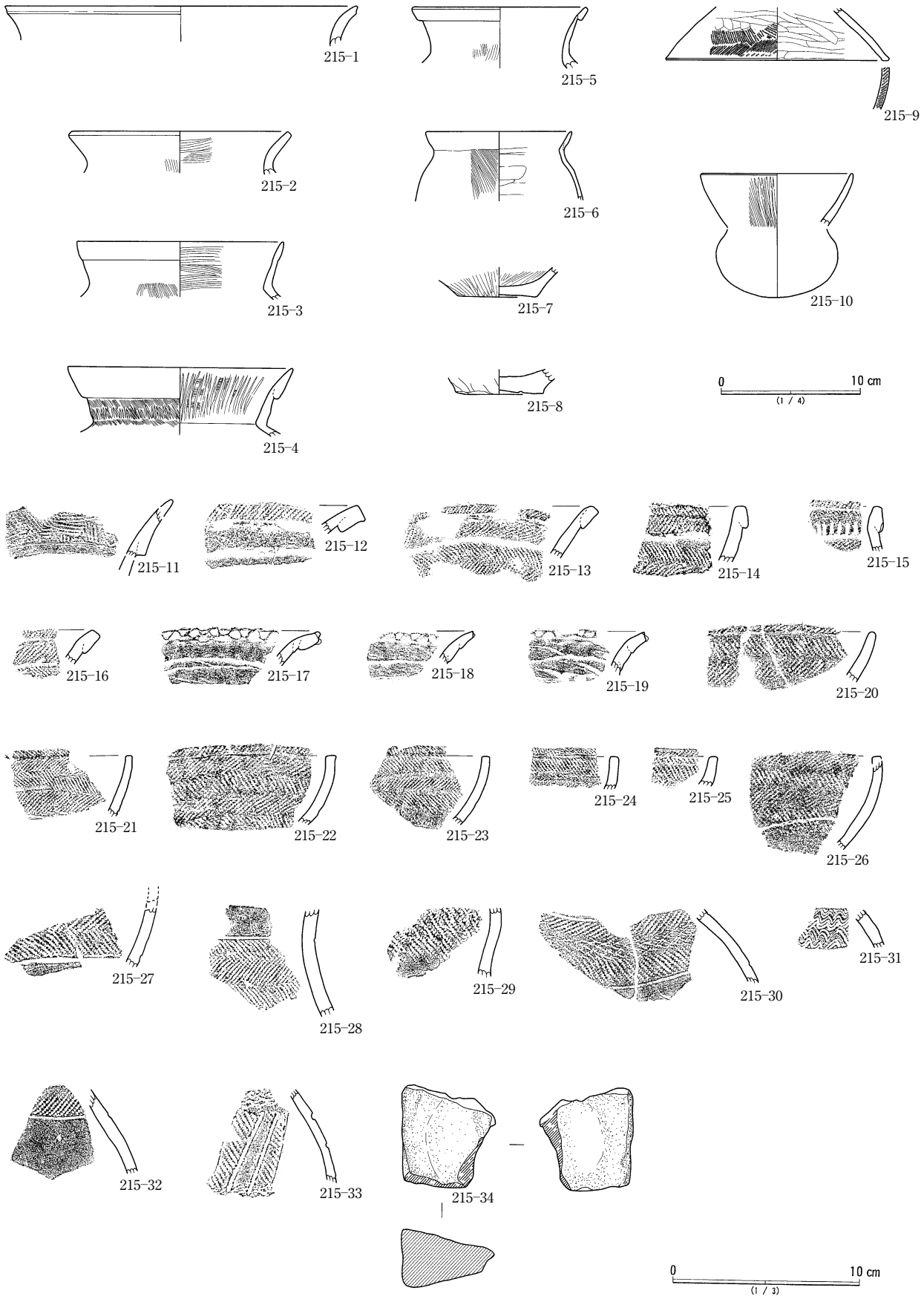




第195図　64・87・99・122・128・129・211～216号遺構実測図・211号遺構出土遺物実測図



第196図　87・99・122・128・129・140・154・161・176・211・214～226号遺構実測図・212～214号遺構出土遺物実測図



第197図　215号遺構出土遺物実測図

m幅1.0m前後、深さは9.5～128.9cmを測り、調査区西側部分が最も深い。

遺物

本遺構からは860点6,480ｇの土器片と103点3,635ｇの礫・石器が出土した。土器片の内訳は101点1,328ｇの土師器、１点５ｇの須恵器、740点4,882ｇの弥生土器、１点５ｇの早期撚糸文系土器、17点260ｇの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内36点を図示した。これらの遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

216号遺構

昭和59年度調査時遺構番号2014号。調査区中央北側の115号遺構付近で215号溝から一時的に枝分かれする溝である。全長22.0m幅0.5m前後、深さは10.7～11.0cm前後を測る。

遺物

本遺構からは何の遺物も検出されなかった。

217号遺構

昭和59年度調査時遺構番号2010号。調査区東側の北側を沿って東西方向に走る溝であり、終末期方墳の160号遺構を削平して存在する。全長83.2m幅0.8～1,42m前後、深さは54.0cm前後を測る。

遺物

本遺構からは何の遺物も検出されなかった

218号遺構

昭和59年度調査時遺構番号2011号、昭和63年度調査時遺構番号M-６号。215号溝を削平し、辺田２号墳を削平しながら迂回する溝である。全長51.0m幅0.5～3.2m前後、深さは6.6～55.0cm前後を測る。

遺物

本遺構からは何の遺物も検出されなかった

219号遺構

昭和59年度調査時遺構番号2009号。調査区東側の北側を東西方向に走る溝であり、223号遺構に削平されて存在する。全長22.0m幅1.0m前後、深さは5.2～38.5cmを測る。

遺物

本遺構からは何の遺物も検出されなかった

220号遺構

昭和59年度調査時遺構番号2015号。219号遺構の南に隣接し、223号遺構から途中で枝分かれする溝である。全長14.5m幅0.36～0.88m前後、深さは5.5～6.5cm前後を測る。溝底の５箇所にほぼ等間隔にピットが存在し、深さはそれぞれ西から、Ｐ１が16.5cm、Ｐ２が21.0cm、Ｐ３が38.5cm、Ｐ４が32.4cm、Ｐ５が27.2cmを測る。

遺物

本遺構からは何の遺物も検出されなかった

221号遺構

昭和59年度調査時遺構番号2006号。辺田２号墳の北側に存在し217号遺構と223号遺構に挟まれて存在する溝である。全長12.8m幅0.7m前後、深さは5.9～13.7cmを測る。

遺物

本遺構からは何の遺物も検出されなかった

222号遺構

昭和59年度調査時遺構番号2005号。221号遺構の南に隣接し217号遺構と223号遺構に挟まれて存在する溝である。全長19.6m幅1.0m前後、深さは30.4～47.2cmを測る。

遺物

本遺構からは６点103ｇの土器片と１点380ｇの礫が出土した。土器片の内訳は１点46ｇの土師器と５点57ｇの弥生土器である。これらの出土遺物の内１点を図示した。これらの遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

223号遺構

昭和59年度調査時遺構番号2003号。217号遺構と平行し、更に調査区の北側を走る溝である。全長82.1m幅1.3～1.6m前後、深さは4.8～19.0cmを測る。

遺物

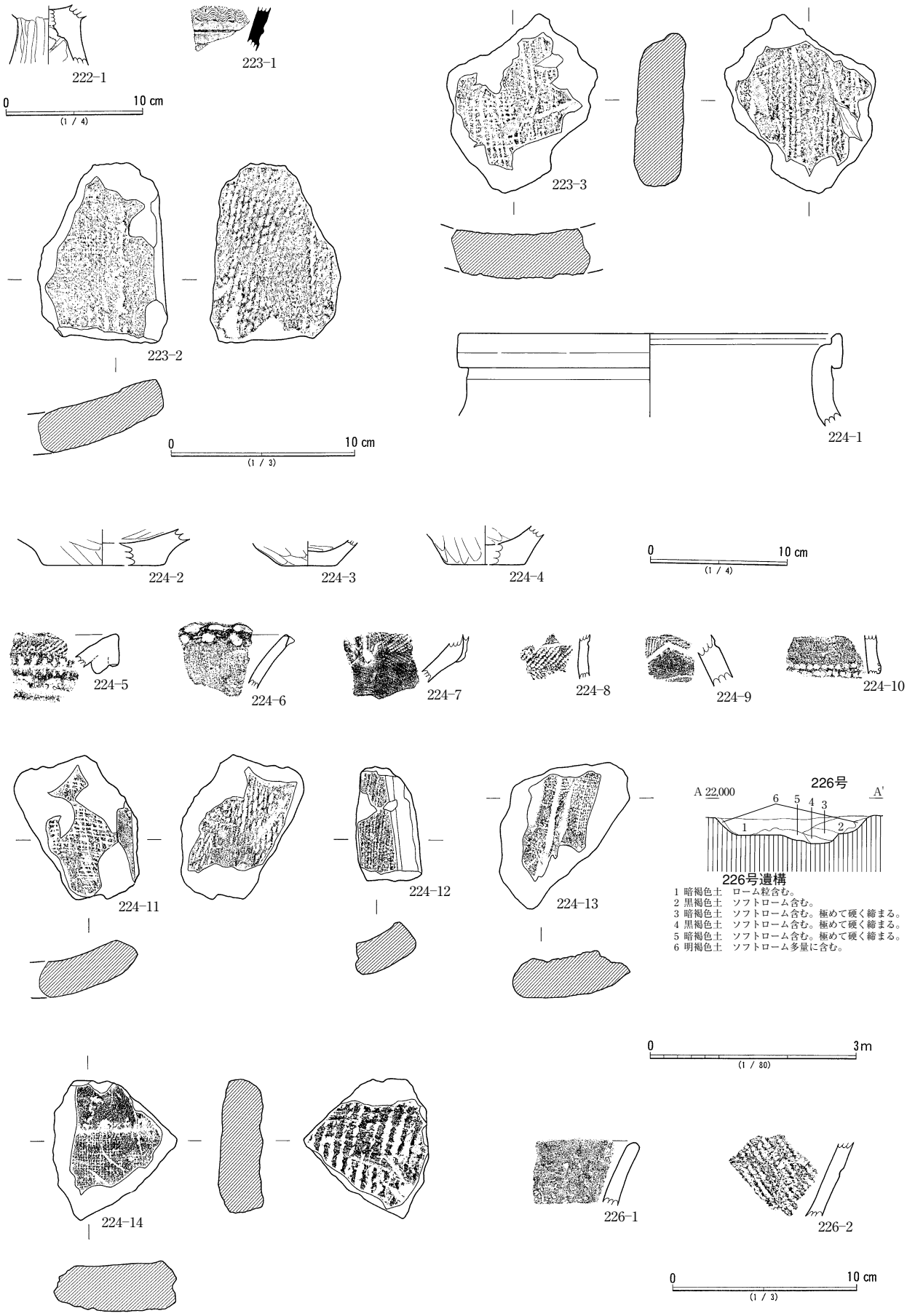
本遺構からは38点353ｇの土器片と49点2,369ｇの礫、８点1,038ｇの瓦、15点145ｇの近～現代陶器が出土した。土器片の内訳は８点100ｇの土師器、２点28ｇの須恵器、13点80ｇの弥生土器である。これらの出土遺物の内１点を図示した。これらの遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

224号遺構

昭和59年度調査時遺構番号2001号。調査区東北端部に位置する溝である。全長7.54m幅0.85m前後、深さは50cm前後を測る。

遺物

本遺構からは145点1,623ｇの土器片と90点4,958ｇの礫・石器、18点1,574ｇの瓦、20点405ｇの陶器が出土した。土器片の内訳は８点110ｇの土師器、３点165ｇの須恵器、111点908ｇの弥生土器、１点10ｇの早期条痕文系土器、１点10ｇの浮島式土器、１点15ｇの近世土器である。これらの出土遺物の内14点を図示した。これらの遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。



第198図　226号遺構実測図・222～224・226号遺構出土遺物実測図

225号遺構

昭和63年度調査時遺構番号M−5号。3号遺構東西周溝を削平し、調査区東西方向にZ字状に走る溝である。全長27.0m幅0.5〜0.8m前後を測るが、深さはレベル記載がなく不明である。

遺物

本遺構からは何の遺物も検出されなかった。

226号遺構

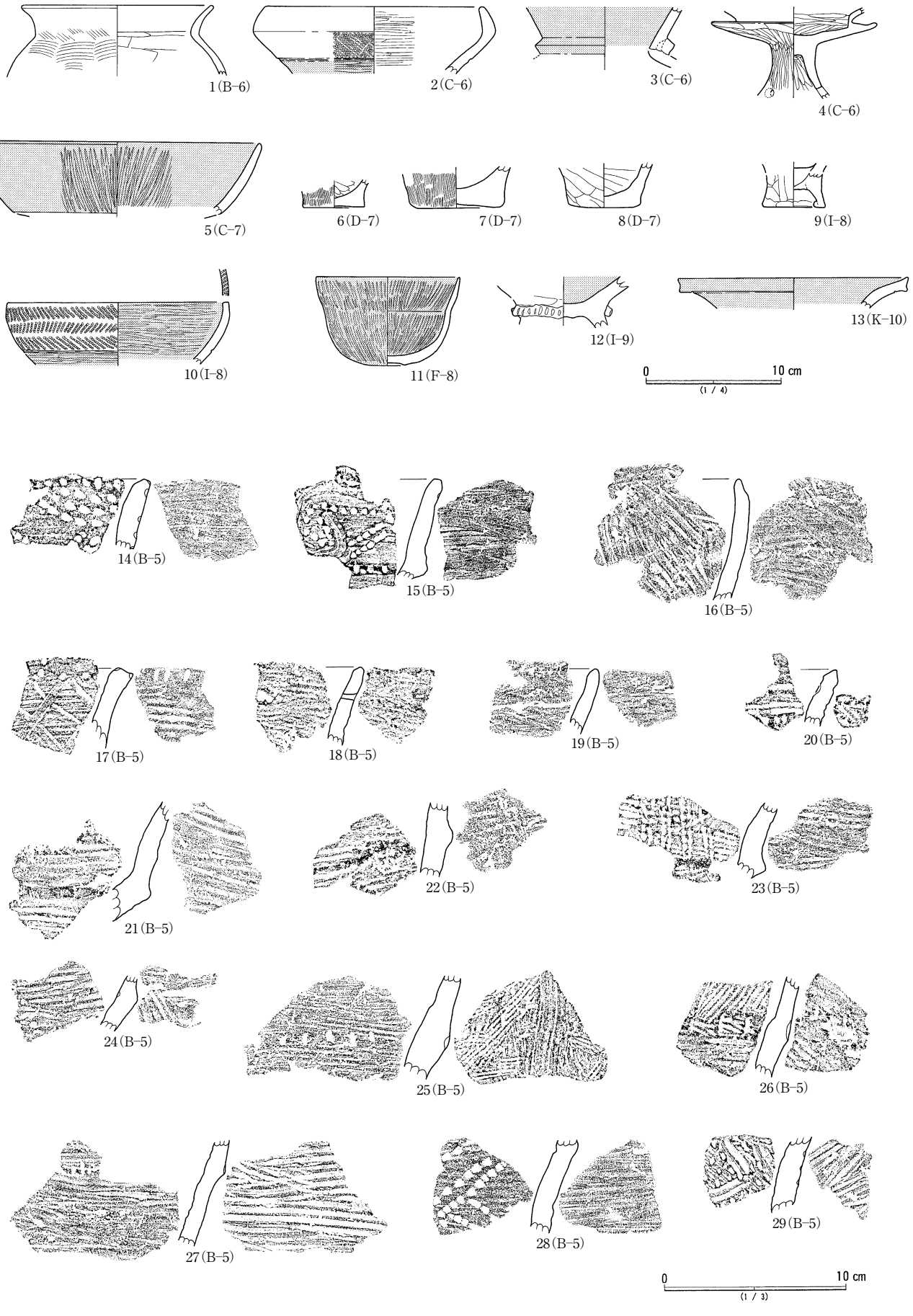
昭和59年度調査時遺構番号2007号。昭和60年度にも継続する道路状遺構として、その硬化面だけが図化されている。全長34.0m幅2.0m前後、深さは39.8〜51.7cmを測る。

遺物

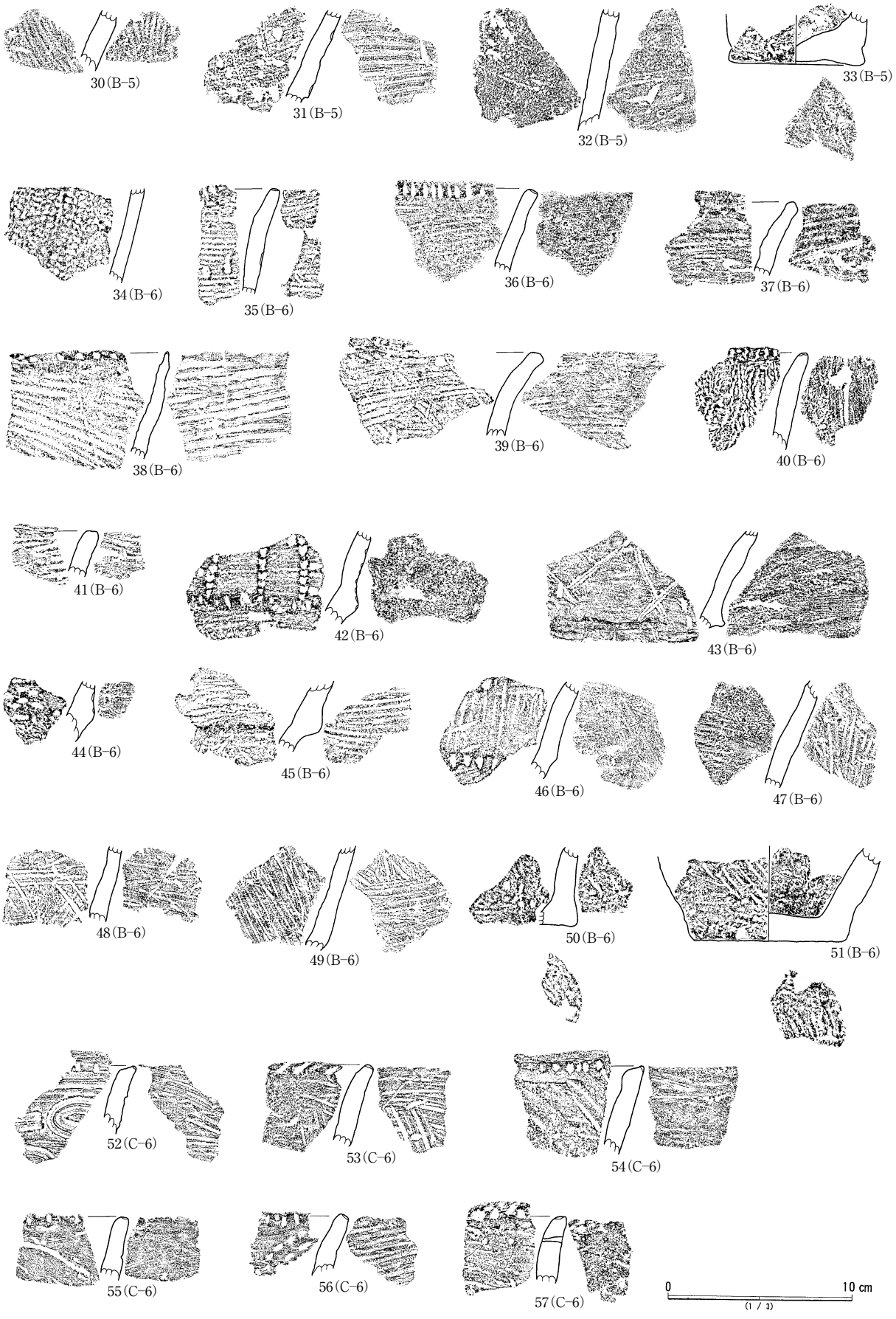
本遺構からは4点58gの土器片と8点440gの礫が出土した。土器片の内訳は2点20gの弥生土器、2点38gの早期撚糸文系土器である。これらの出土遺物の内2点を図示した。これらの遺物は、何れも覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

グリッド出土遺物

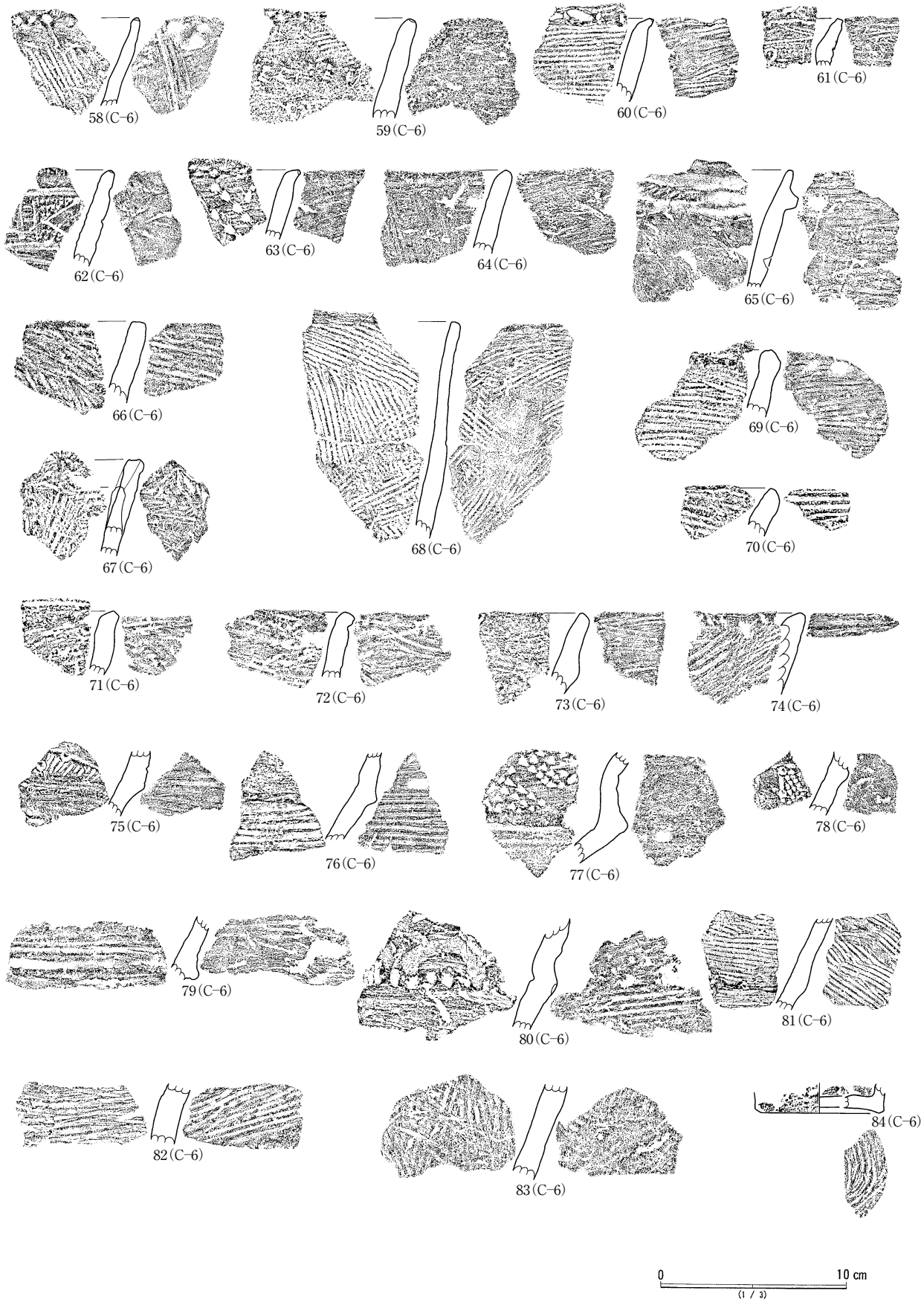
本遺跡のグリッド一括ならびに一括で取り上げられた遺物は、4,628点55,408gの土器片と1,728点106,887.1gの礫・石器、3点65.5gの金属器、4点230gの土製品である。土器片の内訳は547点8,673gの土師器、14点140gの須恵器、2,605点23,300gの弥生土器、27点405gの早期撚糸文系土器、1,429点22,763gの早期条痕文系土器、6点127gのその他の縄文土器などである。これらの出土遺物の内126点を第199図以下に図示した。これらの出土遺物では、早期条痕文系土器の点数及び重量が圧倒的に多く、B−5・B−6・C−6・C−7・D−7・E−8グリッド等、調査区の西側に多く検出されており、この地点には縄文早期条痕文系土器の包含層が存在していたものと推定される。



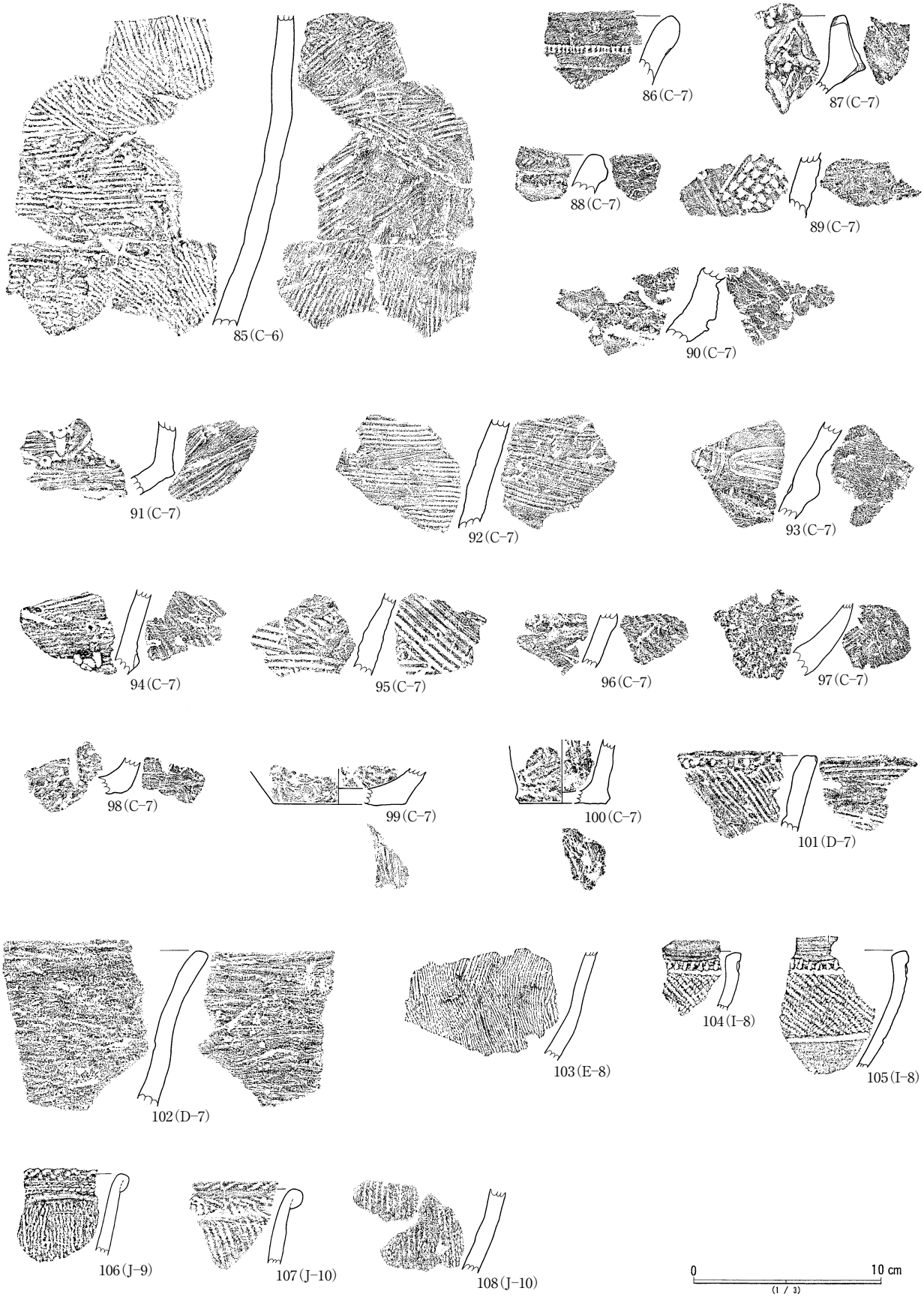
第199図　B-5～D-7・F-8・I-8・9・K-10グリッド出土遺物実測図



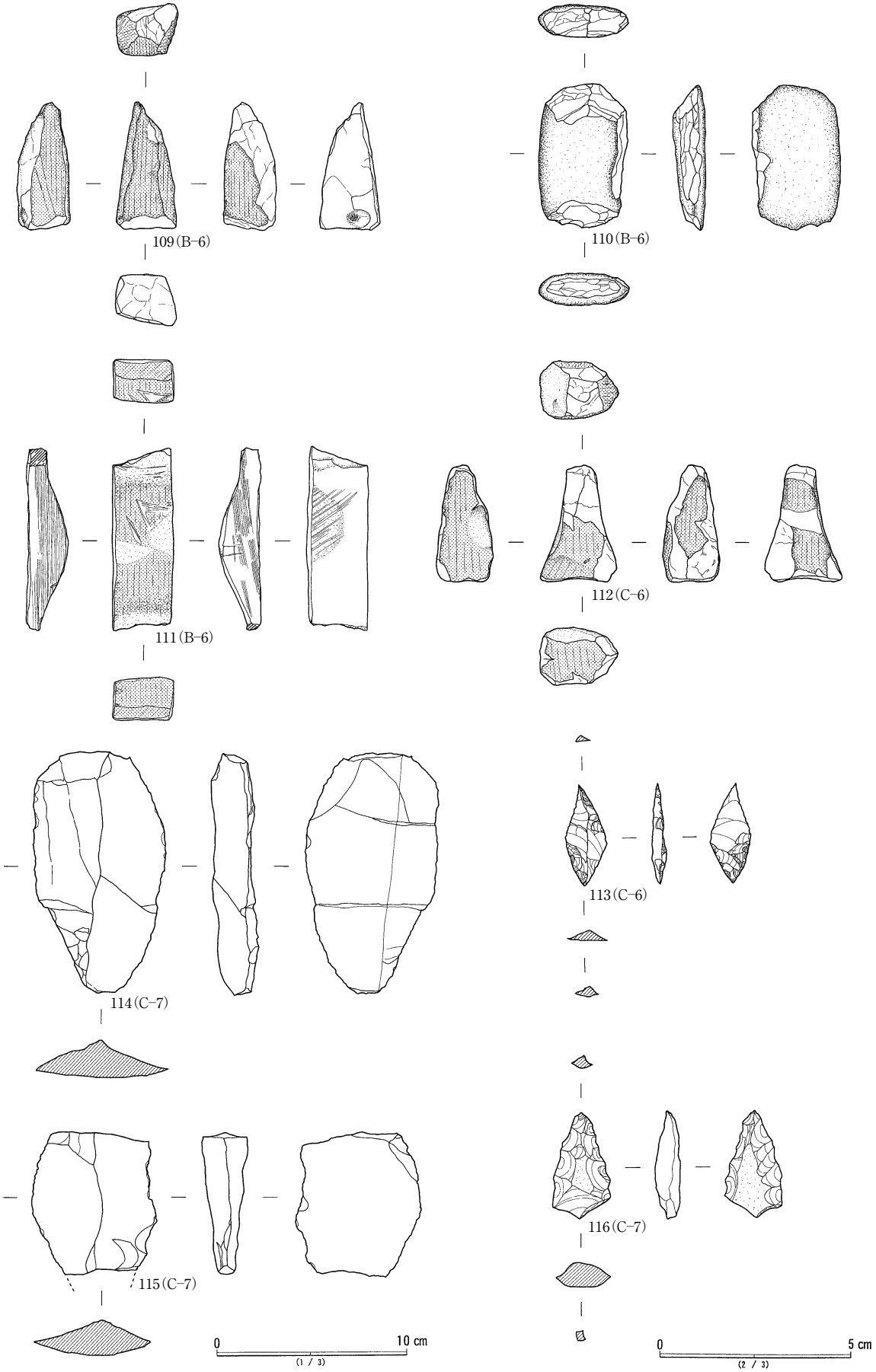
第200図　B-5～C-6グリッド出土遺物実測図



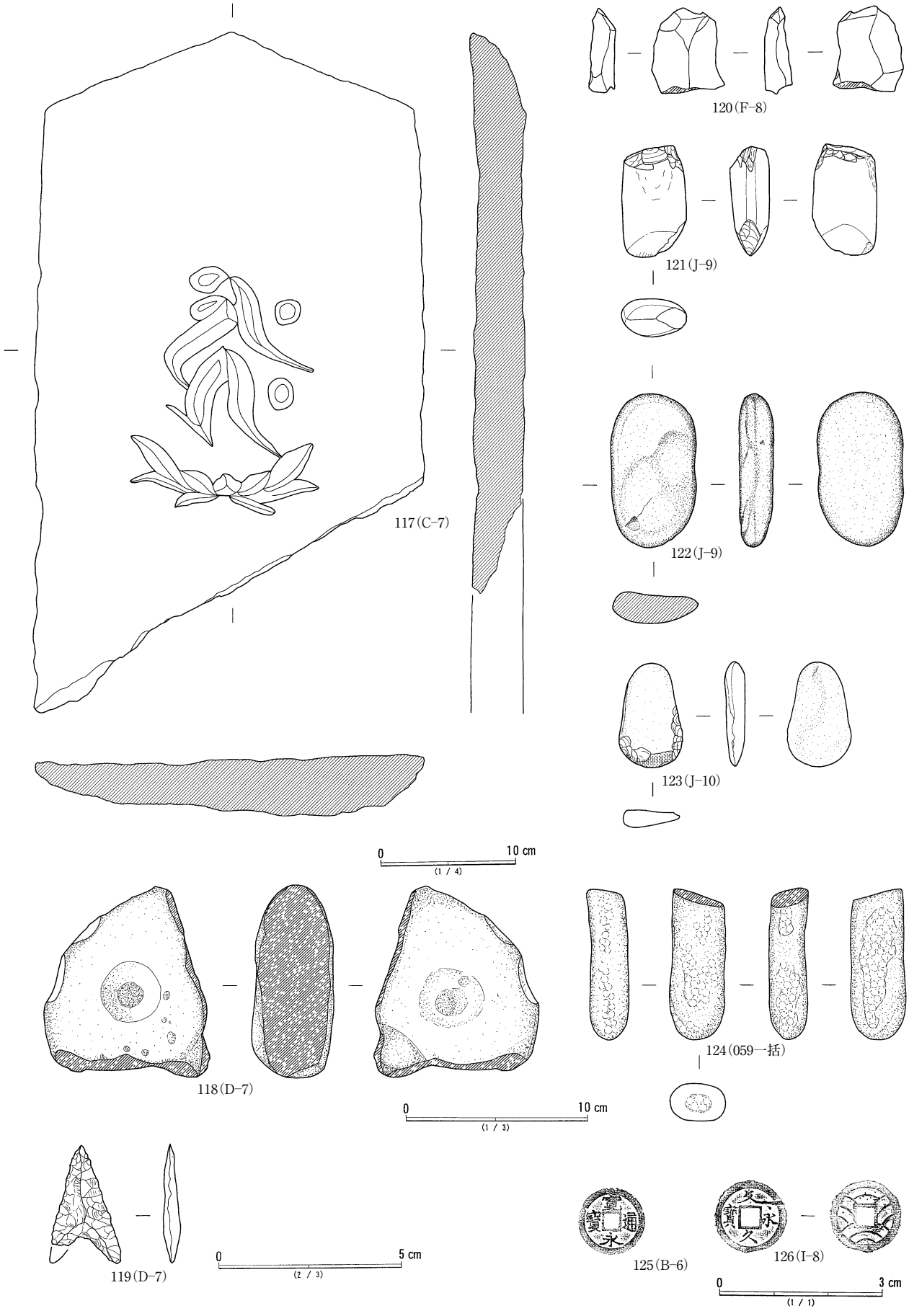
第201図　C-6グリッド出土遺物実測図



第202図　C-6～E-8・I-8～J-10グリッド出土遺物実測図



第203図　B-6～C-7グリッド出土遺物実測図



第204図　B-6～D-7・F-8・I-8～J-10グリッド・059一括出土遺物実測図

考　察

はじめに

『千葉県市原市埋蔵文化財分布地図―北部編―』（文献１、以下分布地図とする）で把握されている辺田古墳群の古墳数は総数９基であるが、その後の発掘調査や整理作業の結果、その総数は14基となり、少なくとも今回の整理対象範囲内の古墳については前期古墳と終末期古墳に限られることが判明した。しかし、1978（昭和53年度）に調査された北側に隣接する御林跡遺跡本体に存在し、地下式横穴墓を内部主体とする方墳と実態不明な円墳の２基については、いずれも未整理のため詳細不明であり、御林跡遺跡全体の整理を遂行する時点で、改めて辺田古墳群としての古墳番号も含めた再整理が必要であることを痛感している。

今回報告の検討課題については、紙面の都合上、以下の２点とする。その第１は、辺田１号墳における棺内出土遺物の素環頭大刀・小型素紋鏡と墳頂部検出焼成前底部穿孔壺群（註１）、辺田３号墳出土遺物とその下層に封印された115号遺構のＳ字甕の関係を含めた辺田古墳群における前期古墳群の構築順である。

その第２は、辺田１号墳下層の２基の方形周溝墓主体部より、それぞれ検出された５連の帯状円環型銅釧とする。

以下、このことについて若干の検討を加えていきたい。

１　辺田１号墳について

⑴　素環頭大刀

筆者の知る限り、辺田１号墳出土の素環頭大刀を含めて、関東以北に所在する素環頭大刀は３例しかない（註２）。ひとつは関東屈指の前期前方後円墳である全長120ｍの群馬前橋天神山古墳、もうひとつは、中期初期に比定される全長82ｍの帆立貝式古墳である東京野毛大塚古墳第１主体部出土の素環頭大刀である。

前橋天神山古墳は、後円部墳頂部に底部穿孔二重口縁壺を配し、埋葬施設の粘土槨内より三角縁四神四獣鏡２面・二禽二獣鏡・半円方格帯画像鏡・仿製変形獣形鏡の他に、碧玉製紡錘車形石製品４・銅鏃30・鉄剣12・素環頭大刀１・大刀４・鉄鏃78・短冊形鉄斧１・鉄斧３・鉇８・鑿３・鞭３・刀子１・削小刀１・針７・棒状金具４・釣り針５などの豊富な副葬品が出土し、墳丘下の浅間山噴出の浅間Ｃ軽石層の直後に盛土が開始されており、４世紀中葉頃の築造と考えられている（註３）。

一方、野毛大塚古墳粘土槨第１主体部からは、直刀12・素環頭大刀１・鉄剣４・鉄鏃40・三角板革綴衝角付冑・長方板革綴短甲・肩甲・頸甲・綴・靱・盾・内行花文鏡（原鏡の踏み返し鏡）・銅釧・手鎌・刀子２・勾玉５・管玉29・丸玉２・ガラス小玉54・臼玉2,461以上・石製模造品刀子11・直刃鎌２・斧３・手斧・竪櫛40以上・合子などが出土し（註４）、時期の違いを除けば両者の副葬品の豊富さはほぼ同等と言っても過言ではない。これに対し径約32ｍの円墳で、墳丘規模の劣る辺田１号墳第２主体部出土遺物の素環頭大刀１・大刀１・鉄剣２・槍１・鉇１・小型素紋鏡１・管玉１の副葬品は（註５）、墳形や墳丘規模に比例する階層差を示すものと捉えられ、物量的な貧弱さは隠し切れない

が、地域首長墓たる一定以上の副葬品は取り揃えている。

ここで前橋天神山古墳・野毛大塚古墳・辺田１号墳の共通出土遺物である素環頭大刀を対比して見たい（図205）。Ａは全長92.2㎝を測る前橋天神山出土の素環頭大刀である。素環部は茎端部を棟側から刃側に向けて折り曲げて造る共造りで、環頭部は長さ4.4㎝幅6.4㎝を測り、横長の楕円形を呈している。関は明確ではないが、茎本体は15.5㎝、刀身長は72.3㎝前後と推定される。関を含めて辺田１号墳素環頭大刀と構造的によく似た同じ造りと想定されるが、全長で5.9㎝長い（註６）。Ｂは全長88.6㎝を測る野毛大塚出土の素環頭大刀である。環頭部別造りで、茎尻を環頭部に巻き付けて鍛接する。関は湾曲しながら大きく落ちる撫で関で、茎幅は1.2㎝、厚さ５㎜と非常に細く、関と茎の形態に変化が現れた古墳時代中期の特徴をもつ（註７）。このことから、関東以北出土の素環頭大刀でも、前橋天神山古墳と辺田１号墳素環頭大刀は長さこそ違え、非常によく似た造りの大刀であることが指摘できよう。

⑵　小型素紋鏡

小型素紋鏡については、歴博の「日本出土鏡データ集成２」を基に表１を作成してみた（註８）。この段階で全国では86点の出土が確認できるが、現物が散在してしまったものや、厳密には素紋鏡の範囲から逸脱するものも含んでいる可能性があり、現存する純粋な素紋鏡の出土数はさらに減少することが想定される。時期を限定しなければ古墳出土の最多は、中期とされる和歌山県大谷古墳で、直径2.6㎝のものが４面、同3.1㎝が２面、同3.4㎝が３面の計９面の出土が知られ、遺跡としての最多は、鳥取県長瀬高浜遺跡の計10面で、直径最大3.2㎝から最小1.9㎝までの各種サイズが出土している。ここで出土遺構を前期古墳に限定すれば、小型素紋鏡は辺田１号墳をふくめて栃木県茂原大日塚古墳、福井県立洞２号墳、静岡県新豊院山Ｄ−２号墳（註９）の４例しか確認できず、さらに概ねの直径が一致する３㎝以下の製品に限定すれば、茂原大日塚古墳と辺田１号墳の２点２例しか確認されない希少品である（註10）。その系譜は弥生時代の小型仿製鏡に求められ、布留式に向けて退化・素文化・衰退するものとして捉えられており、古墳時代に至っては大型前方後円墳などの被葬者は複数以上の三角縁神獣鏡や舶載鏡を副葬するのに対し、それらの製品を入手できない立場の人たちの代用品として副葬されたものと推定されている（註11）。先の新豊院山Ｄ−２号墳の棺内からは、前橋天神山古墳出土の三角縁四神四獣と同時期とされる吾作銘舶載三角縁四神四獣も出土しており、柳葉式銅鏃や十字鏑柳葉式銅鏃などの銅鏃類の共伴も前橋天神山古墳との時期的な類似性を示している。また、この古墳からは茂原大日塚古墳や辺田１号墳の素縁素紋鏡とはタイプの異なる広縁の小型素文鏡も出土しており、辺田１号墳の位置付けを探る上で重要な存在となろう。

⑶　辺田１号墳出土底部穿孔壺

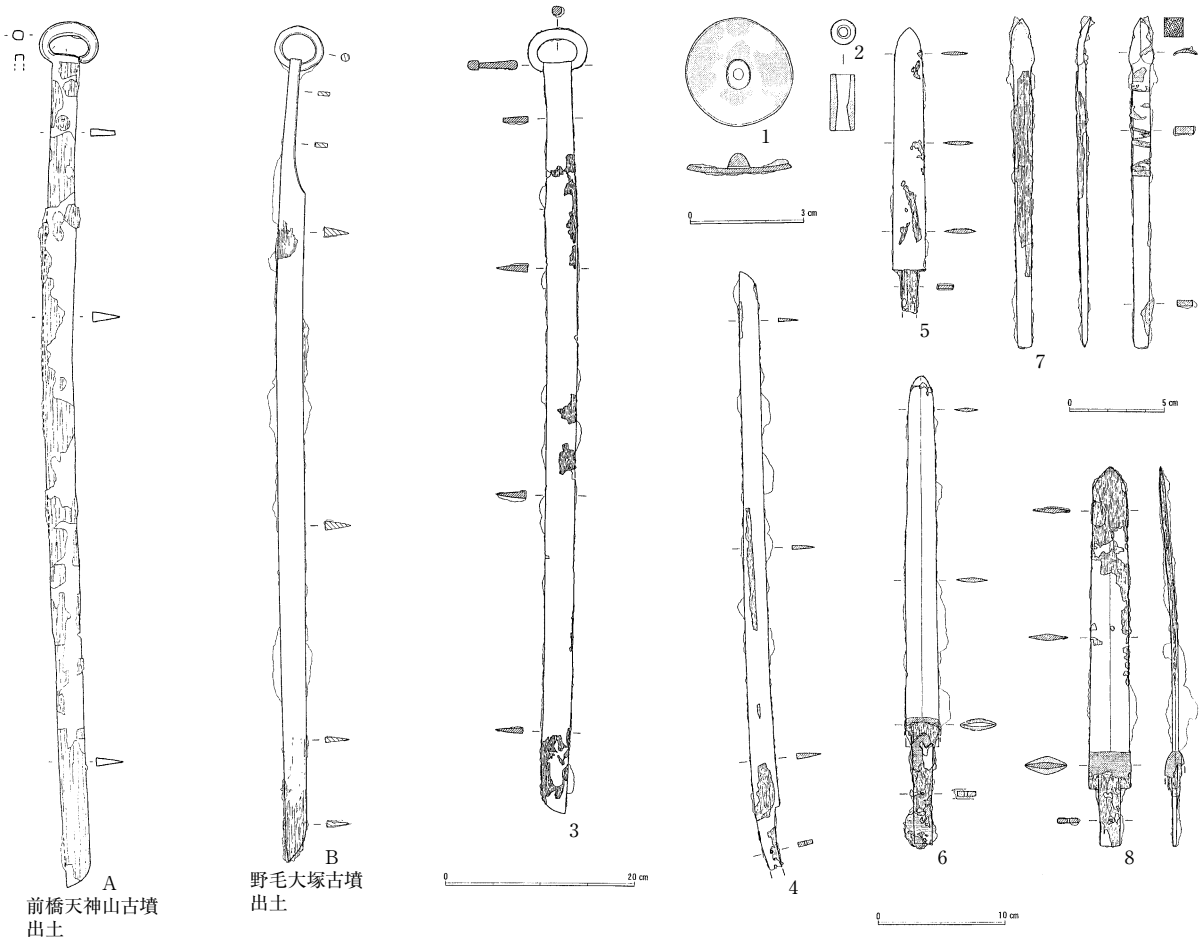
底部穿孔壺の特徴等については、既に本文中で述べているため改めての説明は行わないが、辺田１号墳出土の底部穿孔壺は二重口縁壺と口唇部を意識的に面取りした単口縁壺に大別され、口縁部破片では単口縁壺の破片が圧倒的に多く検出されている。墳墓に供献される一般的な底部穿孔壺の多くは二重口縁壺であり、単口縁底部穿孔壺が二重口縁底部穿孔壺の出土数を上回る例を筆者はよく知らない。単口縁底部穿孔壺の口縁部形態が、辺田１号墳の単口縁壺に比較的類似する例に群馬県藤岡市堀

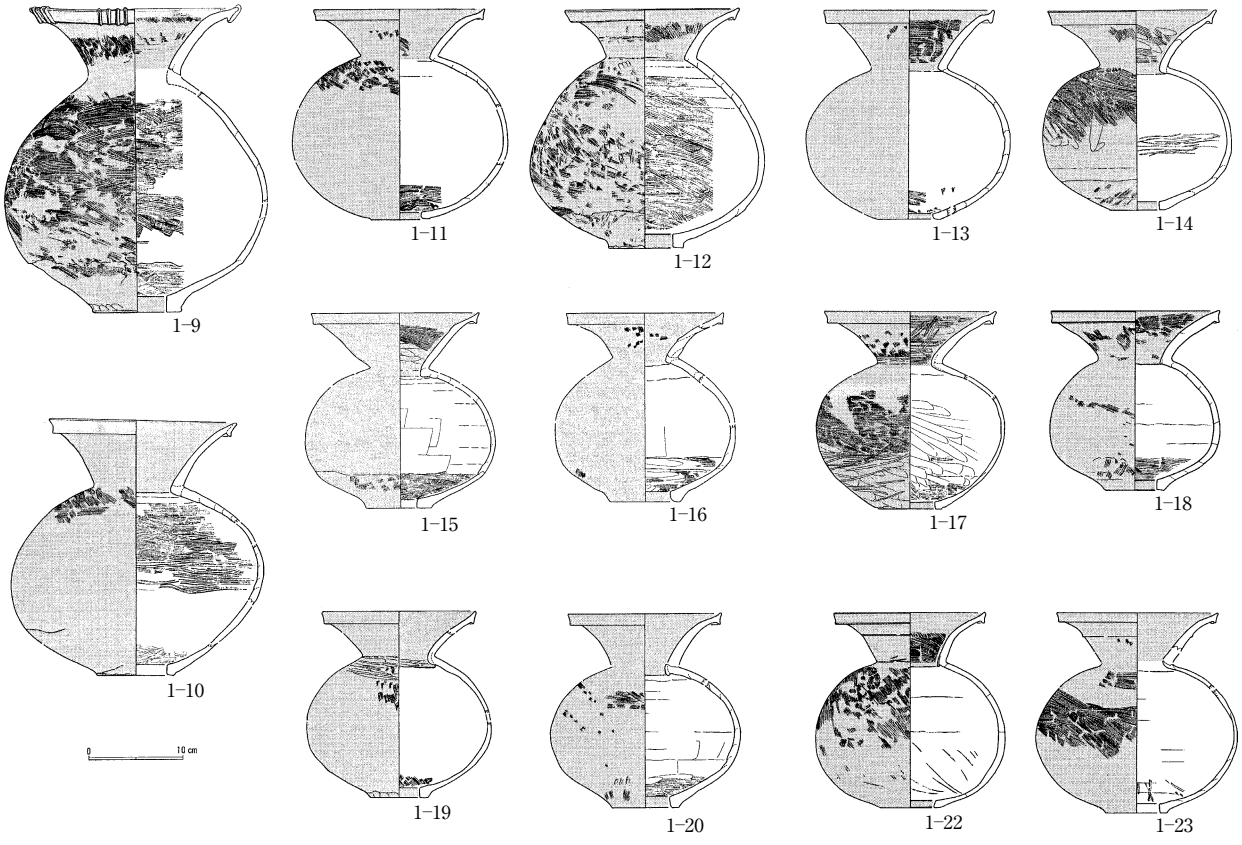
素紋鏡出土遺跡一覧

番号	所在地	遺跡名	遺構・規模	出土位置	年代	共伴遺物	依存度・径	出土年	保管者	文献	備考
1	茨城県那珂郡東海村釜付	釜付遺跡墳丘東側	祭祀	祭祀場	古墳中期	直刀・石製模造品剣形197　有孔円盤126 勾玉４　臼玉２　手捏土器　鉄器残片	完形　3.2cm	1986	東海村教育委員会		
2	栃木県宇都宮市茂原町御馬前	大日塚古墳	前方後方墳35.8m	木棺直葬	古墳前期		完形　2.6cm	1985	宇都宮市教育委員会		
3	栃木県宇都宮市江曽島町	雷電山古墳	古墳	不明	古墳中期	石製模造品（盾・短甲）	(4.4)cm	大正10年頃	不明		現物無し
4	群馬県高崎市若田町	若田大塚古墳	円墳　径29.5m	横穴式石室	古墳後期	鉄矛・鉄槍　横矧板鋲留短甲	不明	1882			現物無し
5	千葉県市原市惣社	辺田１号墳	円墳　径31.0m	中央主体部 木棺直葬	古墳前期	素環頭大刀・大刀・剣・槍・鉇・管玉	完形　2.85cm	1985	市原市文化財センター		
6	千葉県市原市加茂	西谷18号墳	方墳　径10.0m	木棺直葬	古墳終末期	石製玉11	完形　2.12cm	1982	市原市文化財センター		
7	千葉県市原市草刈	草刈六之台遺跡	823号住居跡	覆土内	古墳後期		完形　2.95cm	1980	千葉県文化財センター		
8	東京都足立区伊興町	伊興遺跡	祭祀	土坑 SK―072	古墳前期	臼玉・壺・椀	完形　0.5cm	1989	伊興遺跡調査会		
9	東京都八王子市宇津木向原	宇津木向原遺跡	竪穴住居跡	４区５号住居	庄内併行期	高坏	完形　5.9cm	1964	八王子市郷土資料館		縁に２孔の穿孔
10	神奈川県平塚市万田下万田	万田熊ノ台遺跡	方形周溝墓	溝	古墳前期	管玉２・鉄鏃１・土器	完形　3.3cm	1979	平塚市博物館		
11	神奈川県相模原市磯部	勝坂祭祀遺跡	祭祀	不明	古墳時代	管玉１・臼玉３・小玉48・子持勾玉・石製模造品（鏡６・剣12・刀子１・勾玉６）・壺２	完形	昭和以降	個人蔵		（鉄鏡）
12	福井県敦賀市大字川字立洞	立洞２号墳	帆立貝式古墳 円墳径25.0m	木棺直葬 割竹形木棺	古墳前期	竹櫛２・管玉６・ガラス小玉25・鉄斧１・鉄剣１・石釧３	完形　4.2cm	1976	福井県埋蔵文化財調査センター		
13	長野県長野市篠ノ井上石川	飯綱社古墳	円墳　径16.5m	竪穴式石室	古墳中期	小玉・直刀・土師器・須恵器	完形　8.75cm	1875	布製神社		
14	長野県長野市篠ノ井上石川	飯綱社古墳	円墳　径16.5m	竪穴式石室	古墳中期	小玉・直刀・土師器・須恵器	完形　4.48cm	1875	布製神社		
15	長野県塩尻市爾ノ神	爾ノ神古墳	円墳　径14.3m	横穴式石室	古墳後期	金環・管玉・丸玉・小玉・刀子・直刀・鉄鏃・轡・鞍・鉸具・飾金具・土師器・須恵器	欠損　9.25cm	1985	平出考古博物館		
16	長野県諏訪市大字大熊	片山古墳	方墳	粘土槨	古墳中期	勾玉・管玉・小玉・土製紡錘車・剣・直刀・鉄鏃・土師器	完形　6.3cm		諏訪市立博物館		
17	長野県飯田市大字上川路字殿村	殿村１号古墳	円墳		古墳時代	須恵器	完形　4.2cm		個人蔵		
18	岐阜県不破郡垂井町大字宮代	伝　垂井町宮代	古墳	不明	古墳時代	管玉２・勾玉１・剣１・琴柱形石製品１	完形　6.6cm	1895	東京国立博物館		
19	岐阜県高山市冬頭町	冬頭王塚古墳２号石室	円墳	竪穴式石室	古墳中期	管玉２・ガラス丸玉３・ガラス小玉１・瑪瑙丸玉１・鉄剣１・鉄鉾１・鉄鏃27	完形　6.9cm	1970	高山市教育委員会		
20	静岡県磐田市向笠大字竹之内字新豊院山	新豊院山古墳群 D―２号墳後円部	前方後方墳34.0m	竪穴式石室 (組合式木棺)	古墳前期	刀子・剣２・槍先２・直刀・短刀・鉄鏃・銅鏃	欠損　4.0cm	1979	磐田市埋蔵文化財センター		
21	静岡県磐田市寺谷	磐田67号墳東側主体部	円墳　径17.6m	木棺直葬	古墳中期	ガラス小玉・臼玉・鈴・管玉・鉄斧・刀子・鉾	欠損　4.6cm	1976	磐田市埋蔵文化財センター		
22	静岡県静岡市谷田	下中林２号墳	円墳　径10.0m	横穴式石室	古墳時代	金環・玉類・鏃・剣・轡・須恵器	完形	不明	静岡大学		
23	静岡県静岡市大谷大字上の山	上の山遺跡	円墳　径17.0m	木棺直葬	古墳前期	ガラス小玉65・刀子１	破片	1984	上ノ山遺跡調査団		
24	静岡県静岡市高松、宮川、水上	元宮川明神原遺跡	祭祀	不明	古墳後期		完形	1985	静岡県埋蔵文化財調査研究所		
25	静岡県熱海市上多賀	宮脇遺跡(多賀神社)	祭祀	磐座・神木	古墳中期	鉄製鋤先・有孔円盤・手捏土器・土丸玉	完形　5.2cm	1958	加藤学園考古学研究所		
26	静岡県熱海市上多賀	宮脇遺跡(多賀神社)	祭祀	磐座・神木	古墳中期	鉄製鋤先・有孔円盤・手捏土器・土丸玉	完形　3.5cm	1958	加藤学園考古学研究所		
27	静岡県熱海市上多賀	宮脇遺跡(多賀神社)	祭祀	磐座・神木	古墳中期	鉄製鋤先・有孔円盤・手捏土器・土丸玉	完形	1958	加藤学園考古学研究所		
28	静岡県熱海市上多賀	宮脇遺跡(多賀神社)	祭祀	磐座・神木	古墳中期	鉄製鋤先・有孔円盤・手捏土器・土丸玉	完形	1958	加藤学園考古学研究所		
29	静岡県熱海市上多賀	宮脇遺跡(多賀神社)	祭祀	磐座・神木	古墳中期	鉄製鋤先・有孔円盤・手捏土器・土丸玉	完形	1958	加藤学園考古学研究所		
30	静岡県伊東市和田	井戸川遺跡	不明	不明	古墳時代		不明	1983	伊東市教育委員会・加藤学園考古学研究所		
31	静岡県下田市吉佐美大字洗田	洗田遺跡	祭祀	遺物包含層	古墳時代	石製模造品（勾玉・臼玉・管玉・有孔円盤・剣）・手捏土器・土師器・須恵器	欠損　4.3cm		國學院大學または下田市教育委員会		
32	滋賀県草津市御倉町	北萱遺跡	集落	遺物包含層	不明		破片	1988	滋賀県教育委員会		
33	滋賀県守山市古高町	下長遺跡	集落・祭祀	溝 SD―５	古墳中期	土師器・須恵器・木器	完形　2.6cm	1983	守山市教育委員会		
34	滋賀県守山市古高町	下長遺跡	集落・祭祀	土坑 SK―１	古墳中期		完形　3.7cm	1983	守山市教育委員会		
35	滋賀県栗太郡栗東町大字安養寺	大塚古墳	前方後円墳75.0m	粘土槨	古墳中期	巴形銅器・玉類・鉄刀・短甲・琴柱形石製品	完形　9.3cm	1933	京都大学文学部考古学教室		
36	滋賀県坂田郡近江町大字高溝	高溝遺跡	集落・祭祀	大溝	古墳前期		完形　3.3cm	1987	青海町教育委員会		

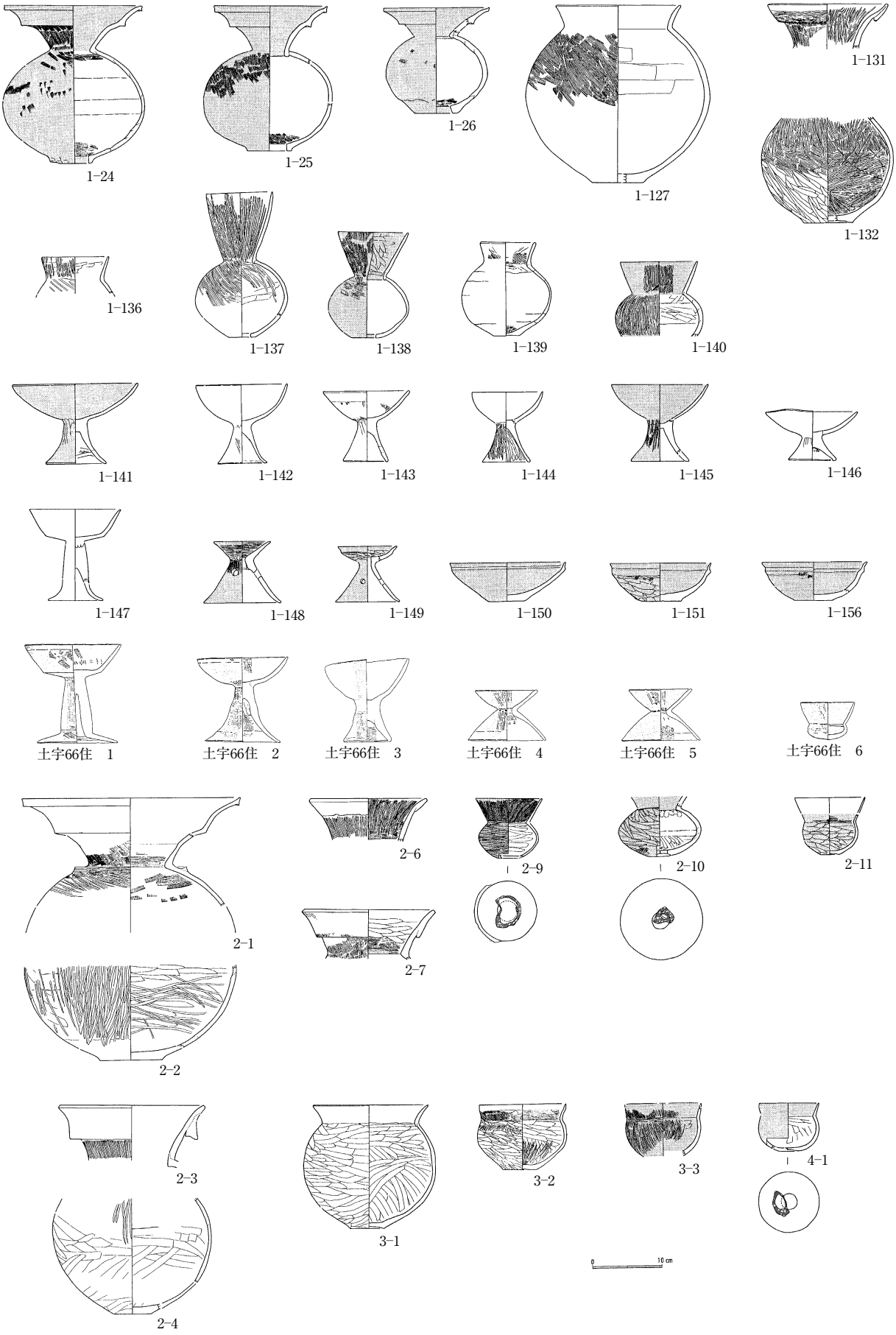
番号	所在地	遺跡名	遺構・規模	出土位置	年代	共伴遺物	依存度・径	出土年	保管者	文献	備考
37	滋賀県長浜市大戌亥町	鴨田遺跡	墳墓・集落	旧河道最下層	古墳前期	土器・木器	完形　6.7cm	1992	滋賀県教育委員会		穿孔２孔　斜行楕目文鏡？
38	大阪府八尾市北亀井町３丁目	久宝寺遺跡	集落	竪穴住居	古墳前期		完形　2.4cm	1991	八尾市文化財調査研究会		径　2.4～2.5cm
39	兵庫県神戸市西区玉津町大字枝吉	吉田南遺跡	集落				完形　2.85cm	1977	神戸市教育委員会		庄内期の溝
40	兵庫県神崎郡香寺町大字相坂字柏尾	相坂古墳	円墳	不明	古墳時代	刀身・鉄鏃	欠損　3.3cm	1901	東京国立博物館		
41	兵庫県揖保郡揖保町	壇特山２号墳	前方後円墳	箱式石棺			欠損　8.8cm		神戸女子商業高校		
42	兵庫県姫路市	長越遺跡	集落				3.5cm	1971	瀬戸内考古学研究所	無し	
43	兵庫県城崎郡日高町鶴岡	大田谷遺跡	古墳		古墳時代		完形　3.2cm		京都大学文学部博物館		
44	奈良県桜井市馬場山神	山ノ神遺跡	祭祀	磐座	古墳中期	勾玉・臼玉・石製模造品（有孔円盤・勾玉）・手捏壺・手捏高坏	完形　3.0cm	1918	東京国立博物館		
45	奈良県橿原市川西町	新沢126号墳	長方形墳 24.0×15.0m	木棺直葬 割竹形木棺	古墳中期	冠方形板・垂飾付耳飾２・螺旋状髪飾２・翡翠勾玉２・ガラス玉978・金層空玉42・金製腕輪１・銀製腕輪２・金指輪５・銀指輪３・帯金具１・金製歩揺382・刀３・ガラス碗・ガラス皿１・熨斗１・漆盤３	完形　6.5cm	1963	東京国立博物館		
46	和歌山県和歌山市大谷	大谷古墳	前方後円墳70.0m	家形石棺	古墳中期	ガラス勾玉・ガラス棗玉・ガラス丸玉・ガラス小玉・碧玉管玉・滑石玉・垂飾耳飾・鍬・鎌・斧・刀子・鉇・鑿・直刀・鉾・挂甲・衝角付冑・短甲・馬具・滑石製有孔方盤	完形　2.6cm	1957	文化庁		墳丘内より初期須恵器出土
47	和歌山県和歌山市大谷	大谷古墳	前方後円墳70.0m	家形石棺	古墳中期	ガラス勾玉・ガラス棗玉・ガラス丸玉・ガラス小玉・碧玉管玉・滑石玉・垂飾耳飾・鍬・鎌・斧・刀子・鉇・鑿・直刀・鉾・挂甲・衝角付冑・短甲・馬具・滑石製有孔方盤	完形　2.6cm	1957	文化庁		墳丘内より初期須恵器出土
48	和歌山県和歌山市大谷	大谷古墳	前方後円墳70.0m	家形石棺	古墳中期	ガラス勾玉・ガラス棗玉・ガラス丸玉・ガラス小玉・碧玉管玉・滑石玉・垂飾耳飾・鍬・鎌・斧・刀子・鉇・鑿・直刀・鉾・挂甲・衝角付冑・短甲・馬具・滑石製有孔方盤	欠損　2.6cm	1957	文化庁		墳丘内より初期須恵器出土
49	和歌山県和歌山市大谷	大谷古墳	前方後円墳70.0m	家形石棺	古墳中期	ガラス勾玉・ガラス棗玉・ガラス丸玉・ガラス小玉・碧玉管玉・滑石玉・垂飾耳飾・鍬・鎌・斧・刀子・鉇・鑿・直刀・鉾・挂甲・衝角付冑・短甲・馬具・滑石製有孔方盤	欠損　2.6cm	1957	文化庁		墳丘内より初期須恵器出土
50	和歌山県和歌山市大谷	大谷古墳	前方後円墳70.0m	家形石棺	古墳中期	ガラス勾玉・ガラス棗玉・ガラス丸玉・ガラス小玉・碧玉管玉・滑石玉・垂飾耳飾・鍬・鎌・斧・刀子・鉇・鑿・直刀・鉾・挂甲・衝角付冑・短甲・馬具・滑石製有孔方盤	完形　3.1cm	1957	文化庁		墳丘内より初期須恵器出土
51	和歌山県和歌山市大谷	大谷古墳	前方後円墳70.0m	家形石棺	古墳中期	ガラス勾玉・ガラス棗玉・ガラス丸玉・ガラス小玉・碧玉管玉・滑石玉・垂飾耳飾・鍬・鎌・斧・刀子・鉇・鑿・直刀・鉾・挂甲・衝角付冑・短甲・馬具・滑石製有孔方盤	欠損　3.1cm	1957	文化庁		墳丘内より初期須恵器出土
52	和歌山県和歌山市大谷	大谷古墳	前方後円墳70.0m	家形石棺	古墳中期	ガラス勾玉・ガラス棗玉・ガラス丸玉・ガラス小玉・碧玉管玉・滑石玉・垂飾耳飾・鍬・鎌・斧・刀子・鉇・鑿・直刀・鉾・挂甲・衝角付冑・短甲・馬具・滑石製有孔方盤	欠損　3.4cm	1957	文化庁		墳丘内より初期須恵器出土
53	和歌山県和歌山市大谷	大谷古墳	前方後円墳70.0m	家形石棺	古墳中期	ガラス勾玉・ガラス棗玉・ガラス丸玉・ガラス小玉・碧玉管玉・滑石玉・垂飾耳飾・鍬・鎌・斧・刀子・鉇・鑿・直刀・鉾・挂甲・衝角付冑・短甲・馬具・滑石製有孔方盤	欠損　3.4cm	1957	文化庁		墳丘内より初期須恵器出土
54	和歌山県和歌山市大谷	大谷古墳	前方後円墳70.0m	家形石棺	古墳中期	ガラス勾玉・ガラス棗玉・ガラス丸玉・ガラス小玉・碧玉管玉・滑石玉・垂飾耳飾・鍬・鎌・斧・刀子・鉇・鑿・直刀・鉾・挂甲・衝角付冑・短甲・馬具・滑石製有孔方盤	欠損　3.4cm	1957	文化庁		墳丘内より初期須恵器出土
55	鳥取県東伯郡羽合町大字長瀬字高浜	長瀬高浜遺跡	祭祀遺構	15　I―SP01	古墳前期	ガラス小玉２・剣先形鉄製品・短形鉄製品	完形　2.7cm	1979	羽合町教育委員会		
56	鳥取県東伯郡羽合町大字長瀬字高浜	長瀬高浜遺跡	祭祀遺構	15　I―SP01	古墳前期	ガラス小玉２・剣先形鉄製品・短形鉄製品	完形　2.6cm	1979	羽合町教育委員会		
57	鳥取県東伯郡羽合町大字長瀬字高浜	長瀬高浜遺跡	祭祀遺構	15　I―SP01	古墳前期	ガラス小玉２・剣先形鉄製品・短形鉄製品	完形　2.4cm	1979	羽合町教育委員会		
58	鳥取県東伯郡羽合町大字長瀬字高浜	長瀬高浜遺跡	土坑	16　I―SK01	古墳中期	鉄剣・土師器	完形　3.0cm	1980	羽合町教育委員会		

番号	所在地	遺跡名	遺構・規模	出土位置	年代	共伴遺物	依存度・径	出土年	保管者	文献	備考
59	鳥取県東伯郡羽合町大字長瀬字高浜	長瀬高浜遺跡	竪穴住居跡	SI―138	古墳中期	鉇・刀子・鉄鏃・土師器・土玉・板状鉄製品・針状鉄製品	完形　3.2cm	1980	羽合町教育委員会		
60	鳥取県東伯郡羽合町大字長瀬字高浜	長瀬高浜遺跡	竪穴住居跡	SI―100	古墳中期	勾玉・管玉・ガラス小玉・釣針・鉄鏃・砥石・磨石・敲石・土師器・板状鉄製品・棒状鉄製品・舌状鉄製品・線刻石	完形　2.6cm	1980	羽合町教育委員会		
61	鳥取県東伯郡羽合町大字長瀬字高浜	長瀬高浜遺跡	不明	SI―60付近	古墳時代		完形　1.9cm	1979	羽合町教育委員会		
62	鳥取県東伯郡羽合町大字長瀬字高浜	長瀬高浜遺跡	不明	10―I	古墳時代		完形　2.2cm	1981	羽合町教育委員会		
63	鳥取県東伯郡羽合町大字長瀬字高浜	長瀬高浜遺跡	不明	不明	古墳時代		破片		羽合町教育委員会		1979～1983調査
64	鳥取県東伯郡羽合町大字長瀬字高浜	長瀬高浜遺跡	不明	不明	古墳時代		不明		羽合町教育委員会		現物なし 1979～1983調査
65	島根県邑智郡石見町大字井原字西の原	大峠山古墳	古墳？	箱式石棺？	古墳時代		完形	昭和以降	岩見町教育委員会		櫛歯文鏡
66	岡山県岡山市沢田字高縄手	百間川沢田遺跡	竪穴住居	21号住居	古墳前期	石製模造品（臼玉）・土師器	完形　2.97cm	1980	岡山県古代吉備文化財センター		
67	岡山県岡山市沢田字高縄手	百間川沢田遺跡	土坑		古墳前期	土師器	完形　3.0cm	1986	岡山県古代吉備文化財センター		
68	岡山県上房郡北房町大字赤茂	谷尻遺跡	竪穴住居	17号住居	古墳前期	土師器	完形　3.0cm	1983	北房町教育委員会		
69	広島県広島市安佐北区高陽町大字小田字中小田	中小田第２号古墳	円墳　径15.0m	竪穴式石室 割竹形木棺	古墳中期	刀子・鎌２・手鎌・斧・鑿２・剣・刀・蛇行剣・有鞘錐形鉄製品２・鉄鏃83・三角板鋲留短甲・横矧板鋲留衝角付冑・土師器	完形	1962	広島大学考古学研究室		
70	広島県福山市駅家町大字大橋	石鋪権現第７号墳	方墳　径7.0m	木棺直葬	古墳前～中期	不明	完形　2.6cm	1980	広島県教育委員会		
71	山口県長門市大字東深川字田屋	糠塚横穴群	横穴		古墳終末期	イモガイ製腕輪１・鉄斧２・銅針１・砥石１・金銅装頭椎大刀２・金銅装圭頭大刀２・鐔・銅製壺鐙４・銅製鈴１・須恵器	完形 一寸三分	1925	大津中学校		現物なし
72	香川県高松市前田東町大字東畑	東畑古墳	古墳	不明	古墳時代		完形　2.9cm	不明	個人蔵		現物なし
73	香川県高松市伏石町	居石遺跡	祭祀	河川跡	古墳前期	弥生土器・土師器	完形　2.8cm	1991	高松市教育委員会		
74	愛媛県松山市若草町	不明遺物包含層	集落	遺物包含層	弥生Ⅴ期		欠損　3.9cm	1989	松山市埋蔵文化財センター		
75	福岡県宗像郡大島村大字沖ノ島	沖ノ島16号遺跡	祭祀	巨石間隙	古墳中～後期	銅釧・鉄釧・石釧・ガラス小玉・勾玉・管玉・棗玉・小玉・臼玉・刀子・斧・蕨手刀子・剣・刀・鉾・槍・鉄鏃・馬具・鉄鋌	完形　3.0cm	1954	宗像大社		
76	福岡県宗像郡大島村大字沖ノ島	伝　沖ノ島18号遺跡	祭祀	岩上	古墳前期	棗玉・管玉・ガラス小玉103・臼玉20・石釧１・伝出土（勾玉61・管玉201・臼玉１・車輪石１・石釧・蕨手刀子４）	3.5～3.9cm	1960	個人蔵		
77	福岡県宗像郡大島村大字沖ノ島	沖ノ島21号遺跡	祭祀	岩上	古墳中期	硬玉勾玉４・琥珀勾玉３・碧玉勾玉５・滑石勾玉22・硬玉管玉８・碧玉管玉７・滑石管玉26・ガラス小玉303・滑石臼玉・滑石棗玉・滑石子持勾玉・銅釧・鉄釧・蕨手刀子７・刀子９・鉄鏃２・鉇・鍛造鉄斧７・鋳造鉄斧２・剣・刀・石突・鉄鏃・衝角付冑・石製模造品・土師器ほか	破片	1970	宗像大社		
78	佐賀県唐津市大字柏崎字川頭	小長崎山１号墳	円墳　径5.0m	横穴式石室	古墳中期	勾玉２・管玉６・刀子１	完形　5.8cm	1956	京都大学人文科学研究所旧蔵		現物なし
79	佐賀県武雄市橘町大字片白字潮見	潮見１号墳	円墳　径25m	横穴式石室	古墳後期	金銅製冠１・耳環２・管玉２・鉇・斧・鋏２・刀子４・刀８・鉾５・剣２・鉄鏃・挂甲１・馬具・土師器・須恵器	欠損　6.3cm	1956	武雄市教育委員会		
80	長崎県壱岐郡芦辺町大字鶴亀触字原の辻	原の辻遺跡	集落	不明	弥生Ⅳ～Ⅴ期		完形　7.7cm	1939	長崎県立美術館		
81	長崎県壱岐郡芦辺町大字諸吉東触字山形	伝　東我郎古墳	古墳	不明	古墳時代		完形　8.8cm	不明	壱岐郷土館		
82	熊本県鹿本郡植木町	伝　吉松村横穴	横穴		古墳時代		完形　4.5cm	不明	稲郷中学校旧蔵		現物なし
83	熊本県宇土市立岡町字西潤野	西潤野２号墳	円墳　径25.0m	箱式石棺	古墳中期	臼玉・竪櫛・鉄斧	完形　7.8cm	1990	宇土市教育委員会		
84	宮崎県児湯郡新富町大字日置	新富町５号横穴墓	横穴	不明	古墳時代		欠損　9.0cm	昭和以降	宮崎県総合博物館		
85	宮崎県宮崎市大字芳士字岩永迫	蓮ヶ池52号横穴墓	横穴	玄室	古墳後期	水晶製切子玉２・丸玉１・刀子９・弓鋲金具・馬具・鉄鏃・土師器・須恵器	破片 7.0cm前後	1969	宮崎県総合博物館		素紋鏡か？
86	鹿児島県日置郡松元町大字直木字宮田	東昌寺遺跡	集落	不明	不明		完形　7.4cm	昭和以降	個人蔵		近世か？





第205図　関東出土素環頭大刀と辺田１号墳出土遺物



第206図　辺田古墳出土遺物

ノ内遺跡 CK−2 号墓、口縁部に棒状浮文が貼りつく例に栃木県宇都宮市茂原愛宕塚古墳・三重県雲出島貫遺跡例などがあるが (註12)、調整技法や底部穿孔の有無を含めた器形の細部に至ると完全に一致する例は皆無である。

一方、二重口縁壺は、田口一郎によって「伊勢型二重口縁壺」と提唱された群馬県元島名将軍塚古墳出土の形態に属するものと、(註13)、「茶臼山形式」と称される奈良県桜井茶臼山古墳出土形態の頸部が直立気味に立ち上がるいわゆる「畿内系二重口縁壺」形態の 2 種が存在する (註14)。しかし近年、「伊勢型二重口縁壺」は奈良県東殿塚古墳から布留式古段階の高坏や器台を伴って出土したことにより、その出自を三重県に求めるのではなく、むしろ東殿塚古墳出土の二重口縁壺が「伊勢型二重口縁壺」の祖形となった可能性が考えられている (註15)。たしかに東殿塚古墳出土の二重口縁壺は、基本的に外面調整を丁寧なナデ調整で仕上げられており、頸部が「く」の字形に大きく外傾し、かつ、長胴化指向が高い。しかし、共伴遺物から見れば時期的にも三重県出土の無紋系の二重口縁壺に先行するものであり、形態の異なる二重口縁壺の発祥地の可能性を含めて大和の地に求められた意義は大きい (註16)。ところで、辺田 1 号墳出土の二重口縁壺は、東殿塚古墳出土の二重口縁壺に頸部の接合方法や外面の調整技法などの共通点が認められることから、この系譜上に連なる 1 例と言うことができるが、底部穿孔壺は個々の古墳単位での製作技法や形態の共通性が認められても、辺田 1 号墳の二重口縁壺とほぼ一致する類例は、他の古墳出土の二重口縁壺を検索しても見当たらない (註17)。このことは辺田 1 号墳だけに限らない。むしろ古墳築造集団の地域性などによる畿内・北陸・東海などのある程度のグルーピングは可能であっても、細部に至るまで完全に一致する例は皆無なのである。しかし、研究者の誰もが指摘するよう、頸部の発達や長胴化の傾向により概ねの流れを摑むことはできるのではあるが、研究者間での認識にも微妙なズレが存在しているようで、諸氏の主張する編年案の一致を見ない (註18)。しかしながら、辺田 1 号墳の底部穿孔壺を直接、あるいは間接的に取り上げた論考では、概ね廻間Ⅲ式の中に位置付けることには異論がないようであり、ここでは辺田 1 号墳の墳頂部埋葬施設区画溝内に供献された底部穿孔壺群の位置付けを、廻間Ⅲ式内に求められることを提示するに留まっておく (註19)。

⑷ 共伴土器

墳頂部埋葬施設区画溝内からは、底部穿孔壺群に伴って供献された有段口縁鉢・器台・底部穿孔坩が出土し、東側周溝底からは、底部穿孔壺群破片と混在して検出された土器群が存在する。また昭和59年度の北側周溝部の調査では、周辺での類例に乏しい高坏群が検出されており、これらの土器群が辺田 1 号墳の位置付けを決定する上で重要な要素を持っている。墳頂部出土の有段口縁鉢は、底部に木葉痕を認めるなど在地化して平底になったものであるが、その祖系は坂田寺下層や平城京朝集殿下層 SD−6030下層などの畿内布留式古段階に認められるものであり、同時供献された墳頂部埋葬施設区画溝内の底部穿孔壺群に伴う器台や坩も、概ねこの段階の前後に位置付けられるものであろう。

昭和59年度調査時の北側周溝内からは、椀型の坏部に「ハ」の字状に開脚する柱状脚形状の高坏が検出されている。この高坏に類似するものは、市内では土宇66号住居跡 (註20)、県内では公津原遺跡 Loc40−19B 住居跡 (註21)・愛宕 4 号墳 (註22)・根方上ノ芝条里跡 E 地点 SX−1 号 (註23)・阿玉台北004号 (註24) などに類例がある。また、脚部に穿孔を施すものまで含めれば、房総の古墳の中でも比較的

古段階に位置付けられる滝ノ口向台９号墳（註25）・北ノ作１号墳（註26）などからも出土しており、その祖形は房総での弥生時代に遡ることが想定される。阿玉台北004号では十王台式土器やひさご類似の坩、壺・甕などと共に２点の類似高坏が検出されているが、十王台式土器を共伴することから、土宇や公津原の段階よりもかなり古い段階に位置付けることが可能である。根方上ノ芝条里跡Ｅ地点SX−１号出土例は、出土遺物そのものにかなりの年代差があるが、くびれ部外面に櫛描平行線文を施す東海系の器台や、高坏・Ｓ字甕Ａ類・Ｂ類・結合器台・受け口状に近い甕などと共に２点の類似高坏が検出され、報告者はそれらの遺物を選別した上で廻間Ⅱ式併行としている。愛宕４号墳例は坏部が椀状ではないので、厳密には別系かも知れないが、在地系のその土器組成から、研究者によっては弥生墳丘墓の範疇で捉える段階に属するもので、口唇部棒状浮文、胴部に山形文を配し、焼成後穿孔の底部穿孔壺や、折返し口縁の端部に棒状工具による刻み目を配した鉢型土器などと共に検出されている。報告者は弥生時代終末期としても問題ないと断り書きをしながらも、出現期古墳の範疇で捉えている。以上のことから、上記の脚部無孔の高坏は辺田１号墳に確実に先行する房総での古相例として捉えることができる。

一方、新相には、土宇66号住居跡・公津原遺跡Loc40−19Ｂ住居跡出土例がある。これらの遺構からは、辺田１号墳北側周溝内類似高坏と共に布留系Ｘ型器台と細身の柱状脚高坏などが検出されており、その下限が畿内布留２式前半代併行期、東海編年では廻間Ⅲ式後半代から松河戸式でもかなり前半にかけての時期に納まることが想定される（註27）。また、先の愛宕４号墳・根方上ノ芝条里跡Ｅ地点SX−１号・阿玉台北004号などの例からみれば、その出自の古段階は、畿内での庄内式後半併行期に求めることが可能であり、その存続期間を東海での廻間Ⅱ式後半から同Ⅲ式期併行期と読み変えることも可能であろう。したがって、北側周溝内検出高坏の類似例から、その存続時期にはかなりの年代幅があることが認められるのではあるが、辺田１号墳に限れば、その上限と下限間での限定された位置付けが必然的に求められてくるのである。なお、北側周溝内検出高坏の脚端部には、端部を小さく内側に折り曲げる例が存在し、土宇例に近似する造りであることを特記しておきたい（図206土宇66住３）（註28）。

次に東側周溝底から検出された共伴土器を概観し、辺田１号墳の底部穿孔壺の位置付けを求めておきたい。東側周溝底からは、甕・坩・器台・高坏脚部などが検出された。この内１−132の甕を除けば、いずれも底部穿孔壺と混在した状況、ないしはその周辺から検出されており、出土状況から見ればその共伴性は非常に高いと言わざるを得ない。１−136の口縁部があまり発達しない段階の坩は、北側周溝一括で取り上げられた１−139の坩型土器と酷似した器形であり、同時期の遺物としての共伴性の高さを間接的に裏付けているものと捉えられる。１−147は高坏脚部、１−148は器台である。底部穿孔壺からやや離れた位置からの出土であるが、いずれも周溝底付近からの出土で、レベル的にも底部穿孔壺群との差異はない。１−147はその形状から、先の北側周溝出土品とは器形が異なる柱状脚部であることが察知され、復元すればその器形は土宇例に近似した製品となる。小片のため確実に辺田１号墳に伴うとの断言は難しいが、仮に伴うものであれば本墳の下限を決定する上で重要な存在である。また、墳頂部の有段口縁鉢や底部穿孔壺を含めて考えれば、辺田１号墳出土遺物の全体像は、どちらかといえば畿内系色が強い組合せであるといえよう。

以上、墳頂部や周溝内から検出された共伴土器が、全て辺田１号墳に伴うものと想定すれば、土

宇・公津原例に近い時期にその下限が求められそうである。また、前述したとおり東側周溝出土の柱状高坏は小片のため確実に辺田１号墳に伴うとの断言は難しいため、これを抜きにして捉えても、本墳の下限は畿内布留１式から布留２式前半代、即ち廻間Ⅲ式後半段階から松河戸式でもかなり前半にかけての時期に位置付けられそうである。ところで、布留式の年代感と廻間式の対応関係については、研究者の間で、細部については微妙に意見が異なっているようである(註29)。また、布留式土器そのものも研究者によって意見が分かれているので、これを整理した上で辺田１号墳の年代を求めておきたい。

⑸ 布留式土器の整理

布留式土器の研究には枚挙に暇もないほどの論考が存在するが、安達・木下、柳本、寺沢、米田、赤塚、坂野の各氏が取り上げた布留式標識土器、すなわち纒向辻土坑４下層、坂田寺下層、平城京朝集殿下層SD−6030下層、小若江北式、上ノ井手SD−031、藤原京SD−914、SD−912、船橋O−１、上ノ井手SE−030下層、上ノ井手SE−030上層、船橋O−２などを基準資料とし、学史に順じそれぞれ古段階から新段階へと順番に並べてみることからはじめた(註30)。その結果、小異はあっても、初期の安達・木下説から大きく逸脱する説はなく、布留１式から布留２式前半代までに位置付けられる坂田寺下層から上ノ井手SD−031までの変遷については、坂田寺下層と平城京朝集殿下層SD−6030下層がほぼ同時期、小若江北式段階と上ノ井手SD−031段階については、ほぼ同時期と想定されるが、上ノ井手SD−031段階の方が小型精製土器の粗雑化はじまる初期の段階とされることから、微弱ながらもその終焉段階には時期差が存在するものと考えた。つまりここで、坂田寺下層・平城京朝集殿下層SD−6030下層段階から小若江北式段階を経て、上ノ井手SD−031段階へと変遷する３段階に分離することが可能かと思われる。

次に、平城京朝集殿下層SD−6030下層段階と小若江北式段階については、近年同時期とする見解と、別期に細分する見解とに大きく２分されているが(註31)、差異は微弱ながらも、平城京朝集殿下層SD−6030から小若江北式へと変遷し、布留１式から布留２式初頭への変遷は急激なものではなく、非常に緩やかなものだったと考える。これは、前後の標識布留式土器の順番さえ動かさなければ、その存続時間幅の長短で説明できる問題、つまり、布留１式から布留２式前半段階への変遷時間幅が長期に及ぶ安定期の中で緩やかに変遷していった結果の反映と考えるからである。そこで布留０式から布留２式前半代を纏めてみると、布留０式段階には箸墓古墳・纒向辻土坑４下層などが標識となり、和田廃寺下層も同段階と捉える事ができる。続く布留１式段階には、坂田寺下層と平城京朝集殿下層SD−6030下層が標識となる。布留２式前半段階は、小若江北式から上ノ井手SD−031へと変遷するものと捉えられる。

布留２式後半段階は、藤原京SD−914・SD−912を標識とした。この段階は、高坏などに横篦ミガキから縦篦ミガキ、あるいはナデ、篦ケズリの多用化によってミガキ技法の減少が認められ、小型精製土器３種の製作技法に粗雑化が進む段階として認識されている。ただし、研究者によってはSD−912からSD−914へと変遷するものとして捉えており、必ずしも一致した見解のない段階でもある。しかしこの段階は、小若江北式と称された一群の布留式土器の製作技法に、明らかな変化が現れた段階であり、SD−914の高坏には横篦ミガキを施す製品がやや多く残存しており、布留古相高坏の系譜を引

いていることに対し、SD-912には横篦ミガキが1点も存在せず、縦篦ミガキ、あるいはナデ調整へと変化しているのであるが、両者とも大半が篦ナデ、あるいは篦ケズリの製品が主体を占める。安達・木下も指摘するよう、その製作技法からからみればSD-912段階の方が新しい段階と捉えられるのではあるが、ミガキ方向の差異を除けばその差異は微弱で、2遺構の出土遺物が2段階に亘って変遷するのではなく、小若江北式と称された一群の布留式土器に変化が現れた一過的な過渡期として捉えた方が無難であると考える。

布留3式期は、上ノ井手SE-030下層を標識とした。この段階は、既にその存在が予測されてはいたが、一須加2号窯やTK-73型式以前に先行する我国最古段階の須恵器窯が存在するであろうと考えられていた段階である。そして大庭寺遺跡において、TK-73型式を確実に遡る我国最古段階の須恵器窯TG-232・TG-231を検出し、現状での最古段階の国産須恵器の創業期であることが確定した。また、TG-232の灰原下層からは報告者によって船橋O-1より古く小若江北式より新段階とされる土器群も検出されている(註32)。須恵器と土師器の併行関係からみても布留3式段階に最古段階の須恵器が共伴するようであり、この段階が概ね5世紀初頭前後に開始されたものと想定することができる。

布留4式前半段階は、上ノ井手SE-030上層・船橋O-1を標識とした。木下・安達は船橋O-1段階を上ノ井手SE-030上層の次段階と認識し、須恵器を共伴する要素が強いとするが、寺沢や米田は船橋O-1段階を上ノ井手SE-030下層段階とほぼ同時期とする。私見では、椀型の高坏が登場するなど、新様相が多分に認められる段階でもあることから、両者の中間に船橋O-1段階を位置付け、上ノ井手SE-030下層の次段階に、船橋O-1・上ノ井手SE-030上層段階が相当するものと捉えている。この段階の須恵器にはON-231・TK-73・TK-85などが想定され、5世紀第2四半世紀を中心とした年代感を与えることができる。

布留4式後半は、船橋O-2、あるいは平城京朝集殿下層SD-6030上層・平城宮SD-881などを標識とした。船橋O-2ではTK-216型式の須恵器が検出されており、5世紀第3四半世紀初頭を中心とした年代感を与えることができる。

これらの布留式土器の変遷や、須恵器との共伴関係などの年代観を基にまとめたものが第2表である。なお、近年東殿塚古墳から出土した供献土器群は、坂田寺下層及び平城京朝集殿下層SD-6030下層などの布留1式に明らかに先行する一群と考えられるため、布留0式から布留1式にかけての段階と判断し、表中に加えている(註33)。

⑹ 他説との併行関係

前述してきた案を基に、東海の廻間・松河戸式や他説との併行関係について考えていきたい。近年、ホケノ山古墳の調査や年輪年代法などの調査成果から、西暦200年頃に最古の前方後円墳の成立を引き上げる案も浮上してきているが、とりあえず第2表での概ねの年代観については、前提として卑弥呼＝箸墓と仮定し、箸墓の年代を西暦250年頃、臺与＝箸墓とすれば、箸墓の年代は西暦270年頃となり、箸墓を中心として布留0式を捉えている。したがって、布留0式については限りなく流動的な状態であり、更なる細分も可能な段階とも考えるが、ここではあえて踏み込まない。以下各段階の併行関係について述べていく。

布留式土器併行関係一覧表

安達・木下説	柳本説	寺沢説	米田説	赤塚説	坂野説	大村説	小沢説	自説	年代	古墳	主要古墳
藤原京内裏東外郭 SD-517庄内式主体 纒向辻土坑４下層	布留Ⅰａ 和田廃寺下層 纒向辻土坑４下層 箸墓古墳	纒向辻土坑４下層 和田廃寺下層	庄内Ⅳ期 和田廃寺下層 纒向辻土坑４下層	廻間Ⅲ式１段階 廻間Ⅲ式２段階	Ⅰ期古相　纒向辻土坑４下層	TE１ａ式＝布　留０式＝廻　間Ⅲ式１・２段階 マミヤク１住 蛇谷26住		布留０式 箸墓古墳　纒向辻土坑４下層	250 ～ 270	神門３号墳 辺田３号遺構 辺田５号遺構	箸墓古墳 桜井茶臼山古墳 東殿塚古墳 椿井大塚山古墳 雪野山古墳
坂田寺下層 平城京 SD-6030下層 小型精製土器三種ａ・高坏 Aａの精製のみ	布留Ⅰｂ 坂田寺下層 桜井茶臼山古墳	纒向辻土坑４上層 坂田寺下層 平　城　京 SD-6030下層	庄内Ⅴ期＝布留Ⅰ期 坂田寺下層	廻間Ⅲ式３段階＝平城京 SD-6030下　層（S 字 C 類 新、D 類共伴）	Ⅰ期新相　坂田寺下層	TE１ｂ式＝布　留１式＝廻　間Ⅲ式３・４段階 番後台029E 住 下鈴野03住		布留１式＝廻間Ⅲ式２・３段階 坂田寺下層　平城京 SD-6030下層 畿内布留式古段階併行有段口縁鉢、細身柱状高坏などの布留系土器が東国の古墳に供献される。	300	辺田１号墳 釈迦山古墳	メスリ山古墳 前橋天神山古墳
上ノ井手 SD-031 小型精製土器三種ａ＋調整技法省略のｂが加わる。高坏Ａはａの精製のみ。 SD-914　SD-912　小若江北　小型丸底・器台Ｂ主体。 編遷は SD-031　SD-914　SD-912の 順。小若江北の中では SD-912が最新ではあるがその差は微差。	布留Ⅱａ 上ノ井手 SD-031 小若江北＝Ⅰｂ～Ⅱａ 平尾城山古墳	布留２前半 小若江北 辻土壙11・14	布留Ⅱ期 上ノ井手031 小若江北主要	廻間Ⅲ式４段階＝上ノ井手 SD-031（布留Ⅱａ）	Ⅱ期古相　上ノ井手 SD-031 小若江北	TE２ａ式＝布　留２式＝松河戸式古段階 公津原019B 住 土宇66住	０期 念仏塚027住 美生第６地点19住 古山14・25住	布留２式古段階＝廻間Ⅲ式４段階 小若江北・上ノ井手 SD-031 細身柱状高坏、柱実高坏、平底の鉢、X 形器台、有段口縁鉢が集落に出現。公津原019B 住　阿玉台北016住。江原台126号住　我孫子中学７住　土宇66住　草 刈 A70住　念 仏塚027住	325	姉崎東原 B-29号墳 辺田２号墳 新皇塚古墳	 東大寺山古墳
	布留Ⅱｂ＝上ノ井手 SD-912 弁天山 C－１号墳 布留Ⅱｃ＝上ノ井手 SD-914 東大寺山古墳	布留２後半 上ノ井手 SD-031 SD-912 SD-914		松河戸Ⅰ式１段階＝屈脚高坏の出現 布留式土器との対応は現在未決定　上ノ井手　SD-031と藤原京　SD-912の間に新たに１型式を設定。 松河戸Ⅰ式２段階＝SD-912＝布留Ⅱｂ 松河戸Ⅰ式３段階＝SD-914＝布留Ⅱｃ	Ⅱ期新相　SD-912(坂野) 和泉式モデル縦篦磨き Ⅲ期古相に継承されるモデルは上ノ井手 SE-030下層		１期 草刈 A70・84住 土宇66住 南二重堀22・37住 小中台５号住 大厩７号墳 釈迦山古墳 関戸18住	布留２式新段階 SD-914高坏は横篦磨き。SD-912は縦磨きの高坏稀殆どナデ仕上げ。横磨きの欠落が松河戸Ⅰ式前半期併行。器台の欠落。 布留系高坏は細身柱状脚部と、やや太身の柱状脚部の２種が存在するが、まだ極端に中膨らみしない段階。この段階は、長期に及ぶと想定される。 小中台５号住　関戸18住　南二重堀37住	350	大厩浅間様古墳 北旭台74号遺構	
上ノ井手 SE-030下層 上ノ井手 SD-031との相違大	布留Ⅲａ 上ノ井手 SE-030下層 津堂城山古墳 布留Ⅲｂ 上ノ井手 SE-030上層 この段階は須恵器を伴わない。（柳本）	布留３ 船橋　O－１ 上ノ井手 SE-030下層 発志院 SD-50下層 佐堂	布留Ⅲ期 SD-912 船橋 O－１	松河戸Ⅰ式４段階＝柳本布留Ⅲａ 松河戸Ⅱ式１段階＝柳本布留Ⅲｂ=TG-232・山田道SD-2570を下記に変更 松河戸Ⅱ式２段階＝TG-232 山田道 SD-2570	Ⅲ期古相　SE-030下層　関東和泉式成立期（Ⅰ期古相）　TG-232以前の国産須恵器生産開始 Ⅲ期新相　船橋 O－１併行期　和泉Ⅰ期新相併行期　TG-232創業期　山田道下層 SD-2750はⅢ期古～新併行期	TE２ｂ式＝布　留３式 古山14・25住 マミヤク185住	２ａ期 塚原２住 根崎015住 星久喜19住 ２ｂ期 山伏作038住 大畑台220住 天神前31住 草刈六之台1014住	布留３式　５世紀第１　船橋 O－１ 上ノ井手030下層 高坏脚形状細太２種。高坏脚の中膨らみの開始　TG-232灰原下層土器 TG-232　TG-231　山田道下層 SD-2750 関東和泉式の成立　外原８・９号住 草刈六ノ台1014住	400	下鈴野１号墳	
上ノ井手井戸 SE-030上層 小型精製土器三種の喪失。初期須恵器共伴段階盛行機種の出現。現状では須恵器を伴わない。		布留４古 上ノ井手 SE-030上層 八尾南 SE-21・26	布留Ⅳ期 平城京SD-6030上層 陶質土器　韓式系土器共伴　布留系大型高坏の出現。	松河戸Ⅱ式２段階＝TK-73を下記に変更 宇田Ⅰ式１段階＝TK-73	Ⅳ期古相後半　TK-73須恵器併行		３期 鹿島塚60 大山台247住 城の腰114住	上ノ井手030上層　高坏盛興。高坏大型化　ON-231　TK-73　TK-85 外原１号・４号住　上ノ合２号住 後半中村１－２段階　上ノ合５号住 高坏粗雑化し、坏部稜線の喪失化。	425	上赤塚Ⅰ号墳	
船橋　O－１ 須恵器共伴する要素強。（O－１併行） 船橋　O－２ 船橋 O－２最古式須恵器（TK-73）共伴		布留４新 平城宮 SD-881 TK-73～TK-216迄の須恵器集中して検出 船橋　O－２ 発志院 SD-50上層 船　橋 O－２は TK-216	布留Ⅳ期 TK-216　TK-208	松河戸Ⅱ式２段階＝TK-216を下記に変更 宇田Ⅰ式２段階＝TK-216	Ⅳ期新相　船橋 O－２ TK-216　下限		４期 山伏作061住 大山台121住 大山台272住 草刈六之台733住	船橋 O－２ TK-216　高坏の縮小化開始　布留系大型高杯の出現　茶ノ木145号住 草刈 J-100号住　東台３号住	450	安須２号墳	

TG-232灰原下層土器は、船橋 O－１よりも古く、小若江北より新（陶邑・大庭寺報告Ⅳ1955）
遠江では、初期須恵器成立（TK-73）以前に二段階の和泉式土器併行期がある。（山ノ花Ⅰ・Ⅱ式）
松河戸Ⅱ式２段階は TK-73　216（赤塚）
山田道下層 SD2750は宇田甕１類が共伴。松河戸Ⅱ式併行。（赤塚）
SD-912縦磨きの高坏が伴う。横磨きの欠落が松河戸Ⅰ式前半期併行（赤塚）
SD-6030は小若江北併行。布留Ⅰでも最終末かⅡの初頭（久住）
SD-912　SD-914は逆転。SD-912＝布留Ⅱｂ SD-914＝布留Ⅱｃ（柳本）
平城京下層　SD-6030　S 字 C 類新段階共伴（赤塚）
布留遺跡　小墾田宮推定地下層　庄内甕に S 字台付甕共伴（木下）
屈脚高坏の出現　松河戸Ⅰ式１段階＝布留式土器との対応は現在未決定。上ノ井手 SD-031と藤原京 SD-912の間に新たに１型式を設定。（赤塚）

第１段階

布留０式の標識資料を箸墓古墳・纒向辻土坑４下層とする。他説も共通する段階である。赤塚は布留０式に廻間Ⅱ式４段階と廻間Ⅲ式１段階を、布留１式に廻間Ⅲ式２・３段階提示しこれを併行期とする。東殿塚古墳供献土器群は布留０式後半から布留１式前半にかけての段階と捉えられ、廻間Ⅲ式１段階から廻間Ⅲ式２段階に対応するものと考えられる。

第２段階

布留１式段階とする。坂田寺下層・平城京朝集殿下層SD−6030下層が位置付けられる。また、下田Ⅲ式は、微差ながら平城京朝集殿下層SD−6030下層の直前に位置付けられる。ただし、平城京朝集殿下層SD−6030下層は限りなく布留２式に近いとする見解もあるが(註34)、小若江北式よりはまだ古い段階に位置付けられるようである。また、東殿塚古墳供献土器群は、この平城京朝集殿下層SD−6030下層よりは、確実に古い段階に位置付けられるため、布留０式から２式前半までの標識資料を順に並べる場合、纒向辻土坑４下層・東殿塚古墳供献土器群・坂田寺下層・平城京朝集殿下層SD−6030下層・小若江北式・上ノ井手SD−031となり、坂田寺下層・平城京朝集殿下層SD−6030を布留Ⅰ式段階に納めるのが各氏の共通認識である。よって自動的に坂田寺下層・平城京朝集殿下層SD−6030下層は布留１式の中に納まり、平城京朝集殿下層SD−6030下層を廻間Ⅲ式３段階とする赤塚説と矛盾はしない。

第３段階

布留２式前半段階とする。この辺りから微妙な各氏の見解の相違があるが、布留式土器の流れから小若江北式・上ノ井手SD−031段階を標識とする。柳本の布留２ａ段階には上ノ井手SD−031が相当し、赤塚は廻間Ⅲ式４段階に上ノ井手SD−031を位置付けており、これを併行とする。なお柳本は，小若江北式については布留１ｂから布留２ａ段階への移行段階併行とし、上ノ井手SD−031に先行するものとし、上ノ井手SD−031は布留２式前半段階とする。寺沢は小若江北式を布留２式前半段階とし、上ノ井手SD−031・藤原京SD−914・藤原京SD−912を布留２式後半段階とする。上ノ井手SD−031を布留２式前半と見るか、後半と見るかに両者の見解の相違が見られる。

第４段階

布留２式後半段階とする。布留式土器の小型精製土器に横篦ミガキが欠落し始め、粗雑さが認められる段階であり、藤原京SD−914・藤原京SD−912を標識とする。安達・木下はSD−914からSD−912の変遷を示すが、柳本はこの段階を布留２ｂ・２ｃ段階に相当させ、それぞれ布留２ｂ段階にSD−912、２ｃ段階にSD−914を想定し、安達・木下案と逆転する。赤塚は、柳本の布留２ｂ・２ｃ段階にそれぞれ松河戸Ⅰ式２・３段階が対応するものとする。そして、高坏に横篦ミガキの省略が加わったこの段階が松河戸式前半代とし、SD−912を松河戸Ⅰ式２段階とする。しかし、赤塚が前段階の廻間Ⅲ式４段階に上ノ井手SD−031を位置付たため、赤塚自身の松河戸Ⅰ式１段階に対応する布留式土器が空白の状態となった。また赤塚説では松河戸Ⅰ式３段階も当期に納まりそうなので、この辺りから布留式土器との併行関係に齟齬が生じ始めているようである。

第５段階

布留３式段階には、上ノ井手井戸SE−30下層が相当する。この段階には、安達・木下が指摘したように、整形・調整技法の省略がかなり進み、布留２式前半に比定される上ノ井手SD−031段階との格

差・相違が大きい。その要因として、この段階にはTG−232・TG−231などに代表されるよう、我国最古段階須恵器の国産化が開始しされた段階であり、かつて指摘したとおり、この段階における小型精製土器3種の崩壊傾向と土師器における整形・調整技法の粗雑化の傾向は、祭祀的要素が強いとされる古墳供献用の小型精製土器3種の土師器が、暫時的に須恵器に取って代わられた現象、換言すれば、この段階初めて量産体勢可能となった須恵器が、墳墓・集落に散見しはじめる一定期間の状況が土師器の様式に変貌を与えた段階と想定している(註35)。つまりこの段階から、全国的に土器様相が前期的なものから中期的なものへと移行し始める段階であり、この段階を以って前期と中期を大別したい。よって関東での和泉式土器の成立期と考える。

ところで、赤塚は、当初この段階に松河戸Ⅰ式4段階と松河戸Ⅱ式1段階を想定し、それぞれ柳本の布留Ⅲa・Ⅲb段階すなわち、上ノ井手井戸SE−30下層・上ノ井手井戸SE−30上層に対応させ、松河戸Ⅱ式1段階＝布留Ⅲb段階に山田道SD−2570やTG−232期を当てていた。ところがその後、松河戸Ⅱ式2段階に山田道SD−2570やTG−232を繰り下げ、以後の段階に大幅な修正を行った。しかし、TK−73期やTK−216期をそれぞれの併行期とする次段階の宇田1式1段階や宇田1式2段階が、山田道SD−2570やTG−232を併行期とする松河戸Ⅱ式2段階の直後に存在することから、必然的に松河戸Ⅱ式2段階は布留3式段階に対比されるものである。また、大幅な修正に伴い、旧松河戸Ⅱ式1・2段階の標識土器にも修正が加えられ、この中には旧松河戸Ⅱ式2段階から新松河戸Ⅱ式1段階に繰り上がった製品が複数認められ、全体的に1段階繰り上がっているようである。特に高坏は、旧松河戸Ⅱ式2段階と新松河戸Ⅱ式2段階の変化が激しく、旧松河戸Ⅱ式2段階のイメージは新松河戸Ⅱ式2段階では殆ど払拭されており、このことは松河戸Ⅱ式1段階にも連動し、これまで松河戸Ⅱ式1段階として使用されていた高坏の標識実測図は1点も使用されず、代わりに廻間Ⅲ式4段階に近い形態の高坏が掲載されている。つまり従来の松河戸Ⅱ式1段階がまるごと消滅し、代わりに松河戸Ⅱ式2段階から繰り上がった製品と松河戸Ⅰ式4段階に近い器形の高坏などで構成しなおされていることに十分な留意が必要である。なお、このことはこの段階に留まらない。直後の従来では松河戸Ⅱ式2段階併行とされたTK−73・TK−216併行期や、直前の松河戸Ⅰ式段階とも連動している問題なのである。つまり、松河戸式後半から宇田期に関して再構築が行われたのであるが、このことは松河戸式前半段階とも深く関わっている問題なのでもある。

第6段階

布留4式前半段階には、船橋O−1・上ノ井手井戸SE−30上層が標識となる。赤塚の旧松河戸Ⅱ式2段階であったが、修正に伴い新しく宇田Ⅰ式1段階と変更された段階が併行する。この段階には、しばしばTK−73型式古段階と目されたON−231窯の須恵器や、従来最古段階の須恵器として考えられてきたTK−73型式の須恵器、またTK−85窯の須恵器が操業した段階であり、5世紀第2四半世紀を中心とした年代感を与えることができる(註36)。

第7段階

布留4式後半は、船橋O−2、あるいは平城京朝集殿下層SD−6030上層・平城宮SD−881などが標識となる。赤塚の旧松河戸Ⅱ式2段階であったが、修正に伴い新宇田Ⅰ式2段階と変更された段階が併行する。船橋O−2ではTK−216型式古相の須恵器が検出されており、5世紀第3四半世紀初頭を中心とした年代観を与えることができる。

以上、畿内布留式土器と東海廻間廻間Ⅱ式4段階以降の併行関係について述べてきた。これら標識土器を基にした併行関係からみれば、辺田1号墳出土土器群は、明らかに東殿塚古墳供献土器群に後出するものであり、墳頂部出土の有段口縁鉢からは、坂田寺下層、平城京朝集殿下層SD-6030下層段階との併行関係が想定される（註37）。

⑺ 辺田1号墳の位置付け

辺田1号墳の埋葬施設からは素環頭大刀・小型素紋鏡・大刀・剣・槍・槍鉋などの遺物が出土しており、これらは生前に被葬者が入手した遺物と判断されることから、入手時期と埋葬時期を示す土器との間には、被葬者の使用期間が存在するというタイムラグがあることも考慮しなければならない。その期間は、埼玉稲荷山古墳出土辛亥年銘鉄剣から471年製作、古墳築造期はTK-47期の490年代に捉え、25年前後とする説が土器の変遷年代幅を考慮した場合一般的な解釈と想定される（註38）。ここで小型素紋鏡についてもう一度検討してみたい。

布留式古段階の小型素紋鏡は、三角縁神獣鏡や舶載鏡を入手できない立場の人たちが、その代用品として副葬したものと推定されていることは前述したとおりであり、また、先の新豊院山D-2号墳からは、前橋天神山古墳出土の三角縁四神四獣鏡と同時期とされる吾作銘舶載三角縁四神四獣とともに広縁の小型素文鏡も出土しており、柳葉式銅鏃や十字鏑柳葉式銅鏃などの銅鏃類の共伴も前橋天神山古墳との時期的な類似性を示している。このことは、小型素紋鏡の入手時期、あるいは素環頭大刀の入手時期などから、この3古墳の被葬者の活動時期が、かなり近似していた可能性があることを物語っている。

一方、鏡の研究、特に三角縁神獣鏡を中心とした研究からは、舶載三角縁神獣鏡の製作年代と配布時期、および三角縁神獣鏡を含んだ大型仿製鏡との関係が明確になりつつある。これら一連の研究の中でまず注目しておきたいことは、数段階の変遷が認められる舶載三角縁神獣鏡の入手段階が、『魏志倭人伝』や『晋書』記載される魏・晋王朝に倭政権が朝貢する度に継続的に入手した鏡こそが舶載三角縁神獣鏡であり、290年代の晋朝内部の混乱や313年から314年にかけての朝貢先の楽浪・帯方群の滅亡、さらに316年の晋朝の滅亡によって舶載三角縁神獣鏡の入手が困難となり、やむを得ず仿製三角縁神獣鏡の製作を開始したのは4世紀第1四半期内とする福永の説である（註39）。これによれば、倭が魏に朝貢し、舶載三角縁神獣鏡を入手したのは、景初3年（239）年・正始4年（243）年・正始9年（248）年と、魏が滅亡し晋が興った泰始2年（266）年の朝貢の4段階と、276年から291年にかけて晋への諸国から入貢が相次ぎ、この中に東夷も数国から数十国が度々来献したことが晋書に記載されていることから、この中に倭が含まれていた可能性も高く、舶載三角縁神獣鏡の入手時期は、半世紀以上にわたる中国王朝との交渉の中で繰り返し倭にもたらされたものとしている。そして、時期差の存在する複数の三角縁神獣鏡を副葬する大阪府紫金山古墳と福岡県一貴山銚子塚古墳を事例に引き出し、紫金山古墳は舶載C段階から仿製Ⅰ・Ⅱ段階の三角縁神獣鏡を副葬しているので、これを入手した時期を紫金山古墳の被葬者の活動期とし、Ⅲ段階の仿製三角縁神獣鏡が副葬品の中に認められないことから、Ⅲ段階の仿製三角縁神獣鏡配布以前に埋葬されたものとする。また、一貴山銚子塚古墳は同じく仿製Ⅱ・Ⅲ段階の三角縁神獣鏡を副葬するが、Ⅳ段階の仿製三角縁神獣鏡の副葬が認められないことから、Ⅳ段階の仿製三角縁神獣鏡配布以前に埋葬されたものとした。その結

果、仿製三角縁神獣鏡配布のⅠ段階は4世紀第1四半世紀の後半から4世紀第2四半世紀の初め、Ⅱ段階が4世紀第2四半世紀、Ⅲ段階が4世紀第3四半世紀、Ⅳ・Ⅴ段階が4世紀第4四半世紀とする。

ここで重要なのは、少なくとも290年代の晋朝内部の混乱や313年から314年にかけての朝貢先の楽浪・帯方群の滅亡、さらに316年の晋朝の滅亡によって舶載三角縁神獣鏡の入手が困難となり、やむを得ず仿製三角縁神獣鏡の製作を開始したのは4世紀第1四半期内とするところである。つまり、西暦290年以降は、三角縁神獣鏡に限らず舶載鏡の入手が極めて困難な段階と想定されるところに大きな意義を持つ。

また、岸本も舶載三角縁神獣鏡から仿製三角縁神獣への変遷を捉えるが、仿製三角縁神獣に先行する大型の倭製鏡の存在を指摘し、かつ舶載三角縁神獣鏡と共伴する大型倭製鏡例のⅢ段階に前橋天神山古墳、Ⅳ段階に雪野山古墳・桜井茶臼山古墳を挙げている(註40)。仿製三角縁神獣に先行する大型の倭製鏡の具体的な年代については触れていないが、仿製三角縁神獣の製作が4世紀第1四半期内に開始されているのであるならば、少なくとも4世紀第1四半期の前半代や、3世紀第4四半期後半頃には存在していたものと想定される。ところで、岸本は前橋天神山古墳と新豊院山D−2号墳出土の三角縁四神四獣鏡は、舶載三角縁神獣鏡をⅤ段階に分類した中でのⅢ段階に、福永は将来的には5段階程度に細分される予測のもとB段階に比定しているが、両者の捉える舶載三角縁神獣鏡の各段階にも微妙なズレが存在しているようである(註41)。すなわち新豊院山D−2号墳出土の三角縁四神四獣鏡が、福永のB2段階に比定できるのであれば、正始9年（248）年頃に製作されたB2鏡群の配布は,250年頃から開始され、泰始2年（266）年の朝貢時に得られた舶載三角縁神獣鏡配C段階配布の前半代にはほぼ終了するものと捉えることができる。また、岸本説のⅢ段階であれば、舶載三角縁神獣鏡は239年の朝貢から下賜され、福永の言う290年頃以降は入手が困難な状況であれば、概ね240年代をⅠ期に、290年代の直前、即ち280年代をⅤ期に想定することが可能であろう。そこで、240年代から280年代にわたる50年間を舶載三角縁神獣の分類によって得られたⅤ期で単純に割ると、Ⅰ期10年という結果が導き出されてくる。即ちⅠ期240年代、Ⅱ期250年代、Ⅲ期260年代、Ⅳ期270年代、Ⅴ期280年代という結果となり、多少のズレは存在するものの、福永の配布年代説ともほぼ整合してくる。

ここでは、岸本のⅢ段階に260年代頃という年代観を与えることが可能であることを重要とする。つまり、このことは、舶載三角縁神獣の配布時期であると同時に、それを入手した被葬者の活動期でもあるところにある。したがってこれが古墳の副葬に至るまでには、通常更に一世代程度の年月を要すのであり、被葬者が通常をこえた長寿などによっては、通常の一世代を超える年月を想定せねばならない場合もありうるのである。舶載三角縁神獣鏡と共伴する大型倭製鏡出土例の古相に前橋天神山古墳が存在することは、このことを如実に物語る。即ち前橋天神山古墳の被葬者は、少なくとも260年代の後半頃には舶載三角縁神獣を、以来数次の長期にわたって素環頭大刀と大型倭製鏡や銅鏃類を入手した可能性が高い。その最後の配布受容段階は、大型倭製鏡や十字鏑銅鏃類から3世紀末葉から4世紀初頭前後であり、おそらくそれは、被葬者最後の入手であっただろうと考えられる。

一方、新豊院山D−2号墳は舶載三角縁神獣の他に小型素紋鏡も副葬されている。棺外の小型素紋鏡は、棺内の舶載三角縁神獣の獲得に先行する独自入手の可能性が高く、共伴する舶載三角縁神獣や

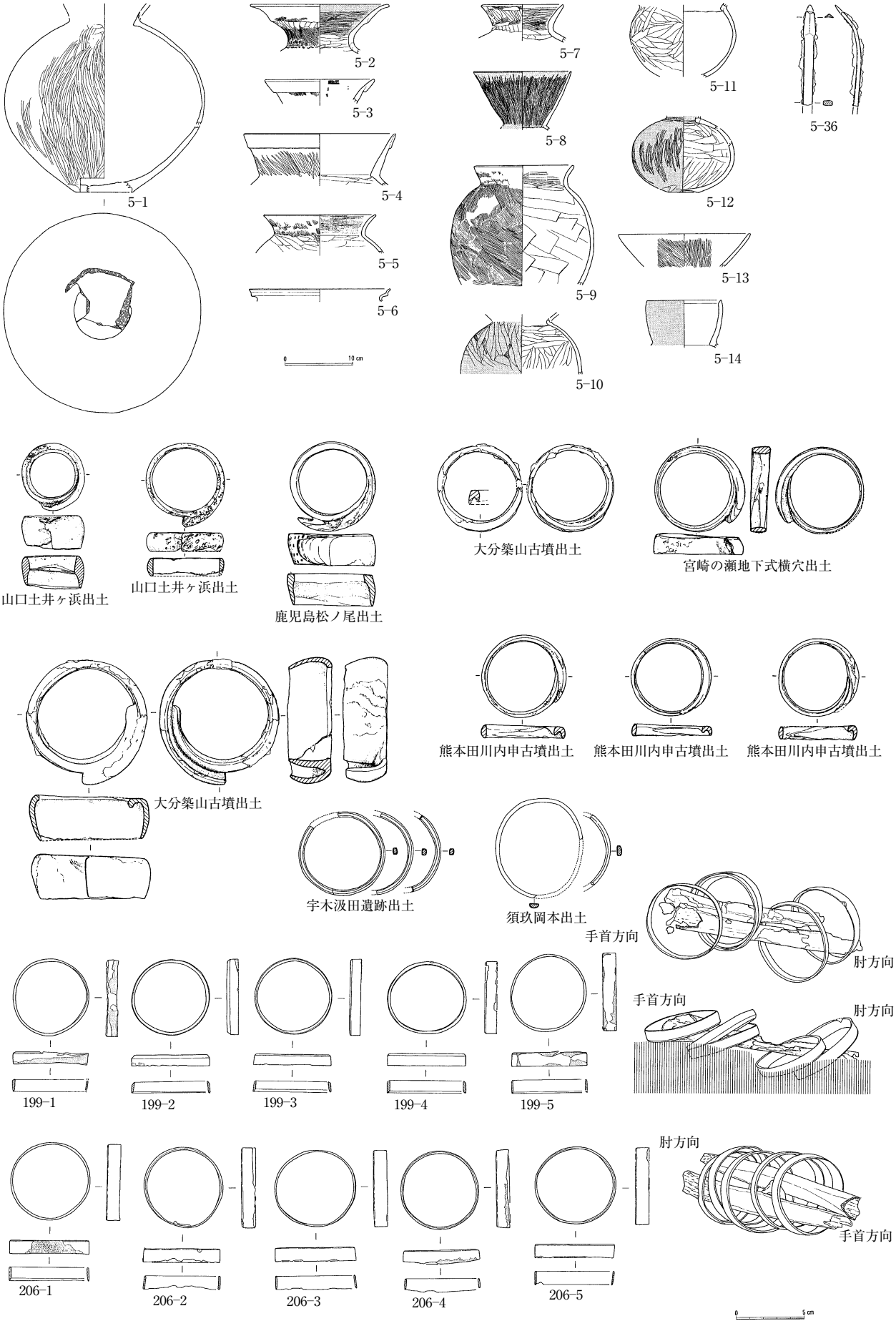
銅鏃類などから、前橋天神山古墳とほぼ同時期の被葬者の活動期間内に、中央の政治的威信財の配布を受ける形で獲得したものと捉えて大差はないであろう(註42)。ここで、森岡が指摘する布留式期に向けての小型仿製鏡の超小型化指向・退化・素文化・衰退の流れから見れば、新豊院山D−2号墳の小型素紋鏡は、鏡面の大きさや、まだ完全な素文に至らないなどの点から、辺田1号墳の小型素紋鏡に先行する可能性が高い(註43)。仮にそうであれば、辺田1号墳の被葬者の活動期は、新豊院山D−2号墳の活動期に若干後出するものと捉えられ、その間に、更なる超小型化指向・退化・素文化の変化が生じたものと想定することが可能である。もちろん辺田1号墳の小型素紋鏡も、中央の政治的威信財として入手したのではなく、被葬者独自の活動の中での入手であろう。一方、素環頭大刀は、何らかの形で中央からの政治的威信財として入手したものと想定される。つまりこのことは、中央の威信財としての舶載鏡も入手したかったのであるが、何らかの事情で入手することができず、代わりに素環頭大刀を入手したのであろう。したがって、前橋天神山古墳出土の素環頭大刀と類似した造りであることも納得できる。つまり、この頃の第1級の首長墓には舶載鏡・素環頭大刀・一文字鎬柳葉鉄鏃・一文字鎬柳葉銅鏃・十文字鎬柳葉銅鏃などの威信財が中央より配布され、それより政治的ランクの下がる首長墓では、威信財の何かが欠くようである。そう言った意味では、辺田1号墳では舶載鏡と鎬鏃を欠き、新豊院山D−2号墳では素環頭大刀を欠く。ただし、小型素紋鏡については新豊院山D−2号墳に後出する可能性があることや、前橋天神山に大型倭製鏡が含まれる段階、つまり、舶載鏡の入手が極めて困難な段階に辺田1号墳被葬者の活動期が存在していたものと考えたい。よって辺田Ⅰ号墳の築造時期は、4世紀第1四半期前半代、土器型式では布留1式併行期と捉えられ、廻間Ⅲ式2段階から3段階に対応するものと考えられる。

(8) 辺田古墳群の位置付け

辺田1号墳の底部穿孔壺が焼成前穿孔であるのに対し、辺田5号遺構（分布地図上の辺田3号墳）の底部穿孔壺は、在地系の焼成後底部穿孔壺である(註44)。また、この在地系焼成後底部穿孔壺は、西側に隣接する弥生墳丘墓の6号遺構ならびに更に隣接する85号方形周溝墓からも検出されており、その関連性が注目されるところでもある。当地の方形周溝墓は諏訪台古墳群・天神台遺跡でも認められるよう、群として連綿と連なっており、辺田古墳群に先行する方形周溝墓群の位置付けも注目されるところでもある。

今回の報告範囲の中での御林跡遺跡・辺田古墳群における、方形周溝墓群と弥生墳丘墓の連続性からみれば、その流れは、明らかに西から東へと移動しているようであり、その中で方形周溝墓は墳丘墓から古墳へと変化しているものと想定される。

ところで、辺田5号墳墳丘下には盛土によって封印された119号遺構が存在しており、その土器群の位置付けが辺田5号墳の下限を決定する。周知のとおり、同遺構からは肩部の横ハケを喪失するが、器形はまだ肩が張った長胴化しないタイプのS字甕が出土しており、C類からD類への移行期の段階に想定することが可能である。近年の研究成果から、C類からD類への移行については、駿河・甲斐・群馬地域などのS字甕では、肩部横ハケの喪失は伊勢湾地域に先行するようであり、必ずしも伊勢湾地域の動向とは一致しないようであるが、甲斐ではⅢ期を新古の2段階に分け、Ⅲ期新段階に肩部横ハケを喪失した体部球胴のC類に近いS字甕が位置付けられているようである(註45)。



第207図　辺田古墳群出土遺物・イモ貝貝輪・円環型銅釧・御林跡遺跡出土銅釧

また、群馬地域では同じくⅢ期からⅣ期にかけて肩部横ハケを喪失したＳ字甕が存在するようであり、これを廻間Ⅲ式併行と捉えている(註46)。田口の分類するＳ字甕に、御林跡遺跡119号遺構出土のＳ字甕を当てはめてみると、Ｓ字甕Ⅳａ類に相当し、北関東西部のⅢ期併行段階に位置付けることが可能である。また、田口は続くⅣ段階を含めて廻間Ⅲ式併行期として捉えており、そうすると田口のⅢ期は廻間Ⅲ式前半段階に相当するようである。ここは小林の言う甲斐Ⅲ期新段階も考慮したが、器形的には肩部に横ハケが残存する甲斐Ⅲ期古段階に近く、廻間Ⅲ式前半段階に対応するものと考え、布留０式後半から布留１式前半代併行期に御林跡遺跡119号遺構出土のＳ字甕を位置付けておきたい。

さて、布留０式後半から布留１式前半代併行期に御林跡遺跡119号遺構出土のＳ字甕を位置付けたことによって、辺田５号墳の下限が決定した。また、５号墳の墳丘にへばり付いて検出された神門３号墳の系譜に連なる二重口縁壺、鉢、あるいは周溝内から検出された大型の坩型土器などからも、下層の119号遺構とほぼ同時期の所産と判断される。したがって、辺田５号墳の構築もまた布留０式後半から布留１式前半代併行期に位置付けることが可能であろう。そうすると辺田１号墳に若干先行するか、あるいはほぼ同時期に存在した古墳ということになるが、一方では定型化された焼成前穿孔の底部穿孔壺を多量に保持するのに対し、辺田５号墳では神門３号墳の系譜に連なる二重口縁壺の破片を保持するものの、絶対量は少なく、かつ在地の焼成後底部穿孔壺を保有するなど、西側の弥生墳丘墓や方形周溝墓との関連性が強い。したがって、若干ではあるが辺田１号墳に先行して構築された墳墓として捉え、布留０式後半段階併行期に辺田５号墳を位置付けておきたい。

次に、辺田５号墳に先行する墳墓は、辺田３号遺構（辺田３号墳）である。墳丘・主体部を流出し、その内容は貧相であるが、遺物から見れば確実に辺田古墳群中での最古相の様相を呈している。また、土層断面によれば、西側周溝を辺田５号墳の東側周溝によって削平されて存在しており、遺物の新古関係を裏付けている。４号遺構は流出著しく遺物も貧相でよくわからないが、辺田２号墳よりは古そうである。また、辺田２墳は、前述してきた５基の古墳の中でも遺物が一番新しく、立地的にも一段奥まった所に位置している。

以上のことを纏めると、当遺跡における弥生墳墓の流れは西から東側へと移動し、辺田３号墳で古墳へと変化し、次いで５号墳・１号墳・４号墳・２号墳へと変遷していったものと考えられる。

２　帯状円環型銅釧について

⑴　御林跡遺跡出土の帯状円環型銅釧

御林跡遺跡からは、199号遺構と206号遺構の２基の方形周溝墓内部主体より、それぞれ５連の帯状円環型銅釧が、被葬者の右手尺骨と撓骨と共に腕に着装した状態で検出されている。１遺跡から、多連装の着装数着装腕とも同じ状況で検出されていることは、帯状円環型銅釧の着装を考える上で極めて重要なことである。199号遺構の帯状円環型銅釧の内短径は、若干の歪みがあるが5.4から5.2㎝、同じく206号遺構のものは5.6から5.4㎝を測り、歪みを補整すれば199号例は5.3㎝、206号例は5.5㎝程度の内径となり、206号遺構例の内径のほうがやや大きい。帯状円環型銅釧を着装した状態で検出された尺骨と撓骨が、それぞれ華奢なことから、松村氏の肉眼観察によって被葬者は両者ともおそらく女性であるものと推定された。また、帯状円環型銅釧以外の主体部共伴遺物には、199号遺構は１

点の管玉と14点のガラス小玉が、206号遺構は同じく１点の管玉と35点のガラス小玉と共に検出されており、ガラス小玉は206号遺構の方が多いが、管玉は199号遺構の方が大きいなど、副葬品から見ても両者の差異は顕著に存在していない。逆に、両者とも剣などの武器類を、副葬品として全く保持しないところに互いの共通点が認められる。

ところで、199号遺構と206号遺構の帯状円環型銅釧は、内径の大きさとその造りに若干の違いがあるが、着装に際しひとつの決まり事があったようである。199号遺構の帯状円環型銅釧は、外面の上端部と内面の下端部が全て面取りされたもので、１から５の順に隣接する内傾面と外傾面が嵌るように造られており、出土状態から、外面面取り部が全て肘方向、内面面取り部分が全て手首方向に開くように着装された状況で検出されている。一方206号遺構の帯状円環型銅釧は、手首方向から肘方向に１から５の順に着想されるが、内外面に顕著な面取りが認められず、一方の端部が楔形に磨耗した製品が主体を占める。この中で唯一１だけが、内面に弱い面取りをもつものであるが、内面の面取り面が手首方向に開くように、他は楔型に磨耗した面が全て肘方向を向くように着装されていた。つまり、御林跡遺跡出土の内面に面取りが存在する帯状円環型銅釧は、少なくとも手首に一番近い位置には内面の面取り部分が手首方向に開くように着装されているという共通性が認められる（註47）。このことは一体何を意味するものなのであろうか。

⑵　帯状円環型銅釧の系譜と形態

帯状円環型銅釧を含む銅釧に先行すると考えられる貝輪には、ベンケイ貝などの二枚貝系の貝輪や、ゴホウラ製の立岩型貝輪、イモ貝縦・横型貝輪などがあるが、その着装に際しては口径の広い方、つまり貝輪の裏側から表側に手首を通すとこが通例で、このことは、これまでに人骨が残存した多連装の貝輪着装例からも読み取ることができる。口径の広い貝輪の裏側から口径の狭い表側に手首を通す着装は、最も理にかなった着装法で、同種・同径の貝輪を多連装した場合に、前後の貝輪が嵌りあうように一致し、最もコンパクトに納まる着装で、必然的に貝輪表側が正面となる。ところが、御林跡遺跡199号遺構出土の帯状円環型銅釧は、同径・同種の銅釧を多連装した時に、前後の釧が嵌りあう最も納まりの良い着装のしかたなのではあるが、外面面取り部が全て肘方向、若干ではあるが内径の広い内面面取り部分が全て手首方向に開くように着装された状況で検出されており、これまでに検出されている貝輪着装例から見れば完全な逆着装となる。このことは、仮に端部外面と内面の面取りの原義が貝輪の系譜を引き継いでいるとしても、少なくとも被葬者は、この種の銅釧の原義が貝輪であろうとは理解して着装しておらず、単なる青銅の宝器・呪器として銅釧を身につけていた可能性があることを物語っている。したがって、ここで問題なのは、東日本に分布する帯状円環型銅釧の系譜が貝輪に連なるのか、それとも、貝輪以外にその系譜が求めるられるかどうかということであろう（註48）。

ここで、長野・群馬・山梨・静岡・神奈川・東京・埼玉・千葉などの東日本に分布する帯状円環型銅釧の形態について触れておきたい。この種の銅釧はかつて鍛造品とされていたが、完形品には継目が存在しないことや、表面に気泡、内面にバリが見えたりすることなどから、近年では鋳造品と捉えられている。径の大小や２次変形でやや楕円気味になった製品もあるが、概ね内径６㎝・幅２㎜・厚さ（高さ）１㎝以下の正円形が基本であり、特に断面形が極めて薄く扁平で、文字どおり帯状の長方

形を基底とするところに最大の特徴がある。これらの製品と同様に平面形を正円形とし、類似したもうひとつの形態のものには、北部九州や朝鮮半島、さらには楽浪地域の漢墓にまで類例が認められる楽浪系とされる円環型銅釧が存在する。これら製品の断面形態は、円形・楕円形・半球形・方形・長方形・菱形などを呈し、東日本の帯状円環型銅釧の断面形状と異なっていることから、別系の銅釧とされている（註49）。私見では、これらの断面形状を持つ銅釧全てが楽浪系銅釧の系譜に連なるものとは捉えておらず、少なくとも断面形状が長方形あるいは半球形を呈する製品の中には、イモ貝横切り型貝輪からの系譜に連なり、東日本の帯状円環型銅釧の祖形となった製品が存在するものと考えている。例えば、佐賀県唐津市宇木汲田遺跡112号甕棺墓出土の銅釧は、内径5.9cm・幅２㎜・厚さ（高さ）５㎜の断面形態長方形を呈し、東日本の帯状円環型銅釧に比べやや厚み（高さ）を欠くが、時期的にも弥生中期中葉から後半とされ、東日本の帯状円環型銅釧の祖形となる可能性を秘めている。また、福岡県春日市須玖岡本遺跡３号土壙墓出土の銅釧は、２次変形の可能性を含めて平面形が正円形ではなくやや楕円形を呈するものであるが、外側径で長径7,3cm短径6,3cm、断面形は内面垂直で外面半球形の蒲鉾形を呈し、幅３㎜・厚さ（高さ）７㎜を測る。ところで、この銅釧の断面形は特に注目して良い。なぜなら、この断面形に非常に近似する貝輪にイモ貝横切り型貝輪が存在しているからである。（図207）

⑶ 貝輪から銅釧へ

イモ貝横切り型貝輪は、内径正円形、基本的な断面形は内面垂直で外面半球形の蒲鉾形を呈する貝輪であり、弥生時代中期後半以降北部九州における南海産の貝を素材として盛行するゴホウラ・イモ貝縦型貝輪と共に比較的多く検出される貝輪で、その着装例からイモ貝縦型貝輪と共に女性特有の貝輪とされるものである（註50）。また、イモ貝横切り型貝輪は、九州地域では古墳時代にも認められるが（図207）、列島規模では古墳時代には石釧へと変化した貝輪と想定されており、ゴホウラの鍬型石・オオツタノハの車輪石と共に南海産の貝を素材とする貝輪は、古墳時代には石製の宝器へと変化していったものと考えられている。

ところで、素材を貝から銅へと変化させていった弥生中期頃には、道場山K48貝輪から写実的なイモ貝縦型貝輪忠実模倣の千々賀銅釧、中期末葉頃にはゴホウラの立岩型貝輪から茂手型有鉤銅釧への変遷が考えられているが、現在のところ有鉤銅釧には立岩型貝輪の忠実模倣品は存在していない。このことは、将来的には立岩型貝輪の忠実模倣品が検出される可能性は秘めているが、少なくとも茂手型有鉤銅釧の出現期には、腕輪の多量着装化現象の中で素材を貝から銅へと転化させ、長大な製作時間を有する貝輪から、製作時間の大幅な短縮かつ量産品としての抽象的な銅釧へと変化していったと捉えられる段階であり、結果として貝輪に求められていた宝器や呪物などの原義が、素材を変えた青銅器でも「可」とする弥生人の意識変化が、貝輪を銅釧に変化させていった原動力と考える。つまり、この時期は、細部の詳細さよりも絶対量を必要とした段階であり、また、写実的な貝輪から抽象的な銅釧へと変化する際には、原貝の枠を超えた理想とする腕輪の形や着装感も青銅の銅釧には求められ、多連装状態でもより着装しやすくなるよう工夫された結果と考える。そのために本来の貝輪の原義も多少は誇張され、有鉤銅釧の鉤状突起や円環型銅釧の完全な正円形は、原貝からは成し得ない弥生人の長年の夢がかなった産物であり、貝輪から銅釧への素材の変化に伴ってはじめて理想とする

形に出会えたものと想定される（註51）。したがって以後の銅釧繁栄の背景には、容易に理想とする形に製作できること。製作時間が大幅に短縮されること。インゴットさえ存在すれば、何時でも何処でも多量な製作が可能こと、などから、これまでの貝輪職人からそれらの要望を可能とする青銅器職人へと、生産発注の大幅な変化がこの時代に起きたことが想定される。つまり、男性の腕輪としての有鈎銅釧や、女性用の腕輪として考えられる須玖岡本系円環型銅釧は、あくまでも男性用のゴホウラの立岩型貝輪、あるいは女性用のイモ貝横型貝輪の原義を理解する弥生人が、この頃銅剣・銅鉾などの武器造りなどで既に台頭していた青銅器職人に、ゴホウラの立岩型貝輪の鈎状突起、イモ貝横型貝輪の正円形を強調して製作させた銅釧と想定することが可能であり、有鈎銅釧と共にイモ貝横切り型貝輪の正円形を求めた国産の円環型銅釧は、まず北部九州に成立したものと考えたい（註52）。

⑷ 帯状円環型銅釧の系譜

弥生時代中期後半に盛行したイモ貝横切り型貝輪が、円環型銅釧の祖形になったとする説は、木下も指摘するよう未だ定見を見ない。しかし、前述してきたように楽浪系とされる円環型銅釧の一部には、イモ貝横切り型貝輪の断面に近似する製品が存在すること、南海産貝輪の主要たるゴホウラ・オオツタノハ・イモ貝横型貝輪が、古墳時代には石製の宝器に変容すること、また、その前段階の弥生中期末頃には素材を貝から銅へと変容させたことを踏まえて、イモ貝横切り型貝輪の正円形を求めた銅釧は有鈎銅釧と共にまず北部九州に成立したものと捉えた。一方、楽浪系とされる円環型銅釧については、これまでの奄美・沖縄諸島からの北上ルートの他に、台湾や中国南岸の海岸地帯を含めた東シナ海を環状に巡る貝のルートを考えてみる必要性もあるのではなかろうか。たとえば中国南岸の海岸地帯やその対岸の台湾や沖縄方面からの別ルートにより入手した貝輪などが、それぞれのルート上で青銅器化し、それが楽浪地域から朝鮮半島を経て南下してきた可能性も想定されようが、現状ではこれ以上の深入りは避けたい。しかし、その断面形は一部を除けば断面形が正円形や菱形を呈し、いずれにせよ帯状円環型銅釧とはタイプの異なった銅釧である。ただし楽浪系円環型銅釧とされる全ての銅釧が国外の影響下に成立したとは考えておらず、先の須玖岡本例などは鋳型も検出されていることから、少なくとも日本独自の銅釧と捉えることができる。したがってまず北部九州の地で、断面が内面垂直で外面半球形の蒲鉾形銅釧が誕生していることは確実であり、ここでは須玖岡本例や断面長方形の宇木汲田例が東日本の帯状円環型銅釧の祖形となった可能性を指摘しておきたい（註53）。

⑸ 有鈎銅釧と帯状円環型銅釧

ここでこれまで述べてきたことを整理しておきたい。まず、北部九州の地域で男性用の有鈎銅釧と女性用の円環型銅釧が成立したことは、その鋳型の検出をみても明らかである。しかし、有鈎銅釧には北部九州に分布する鋳型をもって製造された製品が現在のところ検出されていないことや、これまでに検出された有鈎銅釧の形状がいずれも微妙に異なっており、各種青銅器が集中して検出されるそれぞれの地域に青銅器の需要と供給地帯が存在していたことはほぼ確実な状況となってきた（註54）。

ここで、東海・南関東に分布する他の青銅器を含めて考えてみたい。まず伊勢湾を中心とする地域に三遠式銅鐸・単孔・多孔鏃が集中して検出される傾向があり、次ぎに天竜川を越えた南関東を含む地域には帯状円環型銅釧・小銅環・有鈎銅釧が集中して検出される傾向がある。さらに両者を含む地

域には鋳型を含めて全国30余例しか検出されていない小銅鐸の約半数が検出されており、これらの地域での青銅器生産が確実になりつつある（註55）。また、これら地域に分布する有鈎銅釧と円環型銅釧の形状は、北部九州とは異なり有鈎銅釧でさえ環部の帯状化と鈎状突起が偏平化するという偏平指向の共通性を持ち、東日本独自の分布色を示している。これら貝輪系の銅釧が、東日本に限り偏平化する現象を、単に帯状環型銅釧の形態から、その系譜を縄文以来のベンケイ貝などの二枚貝からの派生と考えることにはいささか無理があるのではないだろうか（註56）。

静岡県小黒遺跡の有鈎銅釧は、双范鋳型で鋳造されたことを示す内面中央部に明瞭なバリを残しており、また釧の断面形状も須玖岡本例に近い。このことは須玖岡本型の銅釧と東日本に点在する有鈎銅釧が極めて近似した段階に東日本にもたらされた可能性が高いことを物語っている。東日本出土の有鈎銅釧の断面形状が押しなべて須玖岡本例に近く、鈎状突起も偏平化していることから、その生産地が西日本でなく、未だ鋳型の検出を見ないが、東日本出土の有鈎銅釧の形状が何れも異なっていることを考え合わせれば、出土地点の近くにその生産工房が存在した可能性が極めて高い。このことは、有鈎銅釧を出土した地域には、少なくとも青銅器の双范鋳型鋳造法が伝播した可能性が高いことを示すものであるが、東日本の帯状円環型銅釧には、未だ帯中央部に双范鋳型鋳造法によってできる貼り合わせ痕（バリ）を残す製品が１点も存在していない。

このことに注目した野澤は、東日本の帯状円環型銅釧は、双范鋳型鋳造法を知りながら真土型鋳造による組合せ型法などを採用した銅釧と捉えていることに注目したい（註57）。

ここで東日本の有鈎銅釧と帯状円環型銅釧の分布を見ると、太平洋沿岸地域では一致していることが分かる。これらのことから、東日本の帯状円環型銅釧の祖形は、有鈎銅釧と同時に男性用と女性用の腕輪としてセットで東日本に伝播した銅釧であり、双范鋳型鋳造法を知りながら真土型鋳造による組合せ型法などを採用することによって、帯中央にバリが存在しない東日本独自の帯状円環型銅釧が成立するものと捉えたい（註58）。

したがって、北部九州のイモ貝横切り型貝輪を原義とする双范鋳型鋳造法の須玖岡本鋳型などによる円環型銅釧を祖形として真土型鋳造を採用する際、さらに薄く扁平な帯状の長方形を求め、ここに東日本独自の帯状円環型銅釧が成立したものと考える。

さて、東日本の有鈎銅釧と帯状円環型銅釧について長々と論述してきた。東日本の有鈎銅釧と帯状円環型銅釧は、男女の腕輪としてセットでほとんど同時に東日本に伝播した銅釧と想定され、その系譜は南海産の貝輪に求めることができるものである。しかし、これらの銅釧が東日本で製作され盛行した段階は、貝輪系銅釧としての鈎状突起と正円形に固執はしているが、既に東日本独自の生産法で鋳造され、もはやその本来の姿が南海産のゴホウラとイモ貝に求めることが難しいほど変形しており、おそらく着装者自身もこの種の銅釧の原義が南海産の貝輪に求められるものとは理解して着装していないものと想定される。ただし有鈎銅釧の鈎状突起と帯状円環型銅釧の正円形には、この段階でも貝輪本来の呪物的な効果や宝器として珍重され、これを着装できる人物も限られていたことは出土例の少なさからも読み取ることができる。したがって、面取りを持ち、互いの釧が嵌り合う御林跡遺跡出土の帯状円環型銅釧は、生産段階では貝輪多連装の原義を意識して鋳造されている可能性があるのではあるが、少なくとも着装者は、この種の銅釧着装の原義が貝輪多連装からなるものとは理解して着装しておらず、単なる青銅の宝器・呪器として銅釧を身につけていた可能性が高いといえよう。

おわりに

最後に、御林跡遺跡・辺田古墳群の整理を振り返ってみると、本遺跡が当地の第１級の遺跡であったことを痛感する。しかし御林跡遺跡・辺田古墳群の整理はこれで終わったわけではない。隣接する御林跡遺跡本体は、当域最大級の密集度を誇る遺跡であり、出土遺物も第１級の集落跡と聞く。辺田古墳群・御林跡遺跡については、全体の整理を終えた段階でもう一度検討してみたい。

註１　田中新史「３　上総市原辺田１号墳の位置づけをめぐって」『土筆』第６号　土筆舎2002

既に本墳出土の底部穿孔壺および周溝出土高坏を中心とし、布留系Ｘ型器台および布留系高坏を含めた見解から、辺田１号墳の位置付けについて前橋天神山古墳とほぼ同時期の前期前半新段階（布留式古段階）併行、（３世紀後半）と位置付けており、筆者も布留式古段階併行という点では特に異論はない。しかし、辺田１号墳の年代を３世紀後半と決定することは保留しておきたい。

註２　大野　薫「古墳時代鉄製素環頭大刀の観察　―東京国立博物館所蔵資料をめぐって―」『研究調査報告』第１集（財）大阪府文化財調査研究センター1997

今尾文昭「素環頭鉄刀考」『橿原考古学研究所紀要　考古學論攷』第８冊　奈良県立橿原考古学研究所1982

今尾が素環頭と考えらていた会津大塚山古墳の大刀は、Ｘ線撮影の結果、三葉環頭大刀と判明した報に接したことを文末に付け加えられている。三葉環頭大刀も素環頭同様の歴史的背景のもと移入された文物として加えたとしても、関東以北の前期古墳出土環頭大刀は３例でしかない。

註３　松島栄治ほか『前橋天神山古墳図録』前橋市教育委員会1970

松島栄治「前橋天神山古墳」『群馬県史』資料編３　1986

松島栄治・加部二生「前橋天神山古墳出土の土器」『東日本における古墳出現過程の再検討』日本考古学協会1993

松島栄治「前橋天神山古墳」『群馬県遺跡大事典』上毛新聞社1999

尾崎喜左雄「後閑天神山古墳」『前橋市史』第１巻1971

梅澤重昭「前橋天神山古墳」『季刊考古学』第65号　雄山閣　1998

松本武彦「16　前期古墳副葬鏃群の成立過程と構成―雪野山古墳出土鉄・銅鏃の検討によせて―」『雪野山古墳の研究　考察編』雪野山古墳発掘調査団1996

岸本直文「雪野山古墳副葬鏡群の諸問題」『雪野山古墳の研究　考察編』雪野山古墳発掘調査団1996

梅澤は４世紀第３四半世紀、松島は４世紀中葉頃に前橋天神山の築造年代を求めているが、いずれも墳丘直下の浅間Ｃ軽石層の年代に左右されている。松本はＳ字状の外縁をもつ柳葉銅鏃の形態から前橋天神山例を引き出し、前期を４期に細分した場合、第２期から第３期前半にこれら古墳出土の銅鏃が位置付けられるとしている。

また、岸本は、初期の倭製鏡と認められる事例としてⅢ段階に前橋天神山古墳を、Ⅳ段階に雪野山古墳・桜井茶臼山古墳・加悦丸山古墳を、Ⅴ段階に東之宮古墳・小見塚古墳・松林山古墳などを列挙している。

註４　寺田良喜ほか『野毛大塚古墳』世田谷区教育委員会　野毛大塚古墳調査会1999

註５　菊地芳郎「４　前期古墳出土刀剣の系譜」『雪野山古墳の研究　考察編』雪野山古墳発掘調査団1996

菊地は、関把縁タイプを剣、身把縁タイプを槍と想定した上で、会津大塚山古墳および雪野山古墳おける両者の切先の位置から、頭上に向くものは全て身把縁タイプのものばかりであることから槍、頭上とは逆方向を向くものは全て関把縁タイプのものであったことから剣とし、構造上や切先の出土位置からも両者の区別が可能とする。また、前掲註１では田中も素環頭大刀１・大刀１・短剣１（頭上）・槍２（左１右１）・槍鉋１・小型素紋鏡１・管玉１と、これに追随した。切先の位置から槍と剣を区別することには賛同するが、辺田１号墳にこれを当てはめてみれば、頭上に切先を向けて検出されたものは関把縁タイプの短剣、頭上とは逆方向を向くものは身把

縁タイプの槍となり、それでは菊地の主張する切先の位置や用途によって棺内配置が決定する説とは一致しない。

なお、辺田１号墳主体部調査時に出土状況を実見した当センター大村によれば、調査者の米田いわく、年報で槍とされた被葬者頭上から出土したものには、調査時に柄と思われる長大な痕跡が残存していたという。したがって、出土状態を優先させ、大刀や素環頭大刀の切先と同じ方向を向きながら、重なった状態で出土したものを剣、正反する位置から出土したものを槍とした。

註６　大野　薫「古墳時代鉄製素環頭大刀の観察　―東京国立博物館所蔵資料をめぐって―」『研究調査報告』第１集（財）大阪府文化財調査研究センター1997

前橋天神山古墳については正式な報告書が刊行されていないため、以下同古墳出土の素環頭大刀寸法等については、上記文献による。なお、同時掲載された全長87.0㎝の備前花光寺山古墳出土素環頭大刀も、前橋天神山古墳や辺田１号墳と極めて類似するものである。

註７　菊地芳朗「４　前期古墳出土刀剣の系譜」『雪野山古墳の研究　考察編』雪野山古墳発掘調査団1996

註８　共同研究「日本出土鏡データ修正」２『国立歴史民俗博物館研究報告第56集』国立歴史民俗博物館1994

註９　岸本直文「雪野山古墳副葬鏡群の諸問題」『雪野山古墳の研究　考察編』雪野山古墳発掘調査団1996

福永伸哉「西日本からみた東海の前方後方墳」『前方後方墳を考える』第３回東海考古学フォーラム1995

前掲「日本出土鏡データ修正」２では直径４㎝の素紋鏡とされるが、新豊院山Ｄ－２号墳出土の素紋鏡とされるものは墓壙内の棺外出土品であり、広縁素文で内区に段を有するもので、辺田１号墳や茂原大日塚古墳出土の狭縁素文で段を持たないものとはタイプが異なるようである。ただし、ここで重要なのは、同古墳出土のもう一面の鏡が、前橋天神山古墳出土の三角縁四神四獣と同時期とされる吾作銘舶載三角縁四神四獣鏡であることや、十字鏑柳葉式銅鏃などの銅鏃類25本を検出し、鏡や銅鏃類を介して前橋天神山とほぼ同時期に鏡や銅鏃類を入手したと想定されるところにある。とすれば、素環頭大刀やタイプは異なるが素紋鏡を通じて、辺田１号墳の被葬者に若干先行して活動を行っていた被葬者の墳墓とみなすことができる。

註10　前掲「日本出土鏡データ修正」２を基に作成した一覧表の上での話で、実際の出土品については未確認である。

前期古墳出土の素紋鏡について、栃木県茂原大日塚古墳、静岡県新豊院山Ｄ－２号墳の実測図は確認できたが、福井県立洞２号墳は直径4.2㎝の素紋鏡とされるが確認したわけではない。

註11　高倉洋彰「弥生時代小型防製鏡について」『考古学雑誌58－３』1972

高倉洋彰「弥生時代小型防製鏡について（承前」『考古学雑誌70－３』1985

高橋　徹「国産青銅器―鏡」『弥生文化の研究』６　雄山閣　1986

森岡秀人「銅鏡」『季刊考古学』第27号　雄山閣　1900

註12　志村　哲ほか『堀ノ内遺跡群』藤岡市教育委員会1982

久保哲三編書『下野茂原古墳群』宇都宮市教育委員会1990

椎名　強「二重口縁壺からみた伊勢湾」『Ｓ字甕を考える』第７回東海考古学フォーラム2000

註13　田口一郎『元島名将軍塚古墳』高崎市教育委員会1981

利根川彰彦『調査研究報告』第６・７号　埼玉県立さきたま資料館1993・1994

比田井克仁「二重口縁壺の東国波及」『古代』第100号　早稲田大学考古学会1995

椎名　強「二重口縁壺からみた伊勢湾」『Ｓ字甕を考える』第７回東海考古学フォーラム2000

君嶋俊行「関東地方における壺型埴輪の成立過程―囲繞配列の受容と歴史的意義」『土曜考古』第26号　土曜考古学研究会2002

註14　寺沢　薫「大和における古式土師器の細別試案」『矢部遺跡』奈良県立橿原考古学研究所1986

蒲原宏行「北部九州出土の畿内系二重口縁壺―その編年と系譜をめぐって―」『古文化談叢』第20集刊行記念論集（中）九州古文化研究会1989

野々口陽子「いわゆる畿内系二重口縁壺の展開」『京都府埋蔵文化財論集』第３集（財）京都府埋蔵文化財研究センター1996

廣瀬　覚「茶臼山型二重口縁壺と前期古墳の朝顔形埴輪―頸部製作技法からみた系譜関係について―」『立命館大学考古学論集』Ⅱ　立命館大学考古学論集刊行会2001

註15　青木勘時「初期埴輪と土器―天理市東殿塚古墳の埴輪配列とその意義」『立命館大学考古学論集』Ⅱ　立命館大学考古学論集刊行会2001

註16　共伴土器から考えれば確実に布留式古段階例となる。この場合、比田井の言う畿内系二重口縁壺が伊勢において変容したと捉えるのではなく、無紋系の「伊勢型二重口縁壺」の祖系を河内・大和等の地に求めることも可能となる。田口の定義する元島名将軍塚出土タイプの二重口縁壺を「伊勢型二重口縁壺」とするならば、厳密には口縁部や胴部に加飾がほどこされた二重口縁壺に限定されるべきかもしれない。

註17　前掲註１で田中新史も指摘している。

註18　古屋紀之「墳墓における土器配置の系譜と意義」『駿台史學』第104号　駿台史学会1988

青山博樹「土器①東北南部」『前期古墳から中期古墳へ』第３回東北・関東前方後円墳研究会大会発表要旨資料　東北・関東前方後円墳研究会1998

上記古屋文献を参考に辺田１号墳の二重口縁壺の長径率や長胴率を求めると、長径率が0.49と0.60、長胴率が0.80と0.77になり二重口縁壺Ｂ型式の中では一致するものはなく、強いて言えば坂本山例に近い数値を示す。また、東殿塚古墳の二重口縁壺は公表された実測図から推定すると、長径率0.33、長胴率0.91程度となり、二重口縁壺Ａ型式では東川端１号に近似した数値となる。ただし、これをもって古屋の言うそれぞれの段階にそのまま編入すれば、たとえば東殿塚古墳で共伴した他の土器との平行関係に矛盾が生じ、外面調整の丁寧なナデ、外傾の強い頸部などの特徴を、古く見るのか新しく見るかの違いでも意見が分かれるだろう。また、青山文献を参考にすれば二重口縁壺等の底部穿孔壺は、器形のみから変遷を求めることは困難なことだという。事実、底部穿孔壺に関する前掲編年案での各氏の主張する編年案が完全に一致した文献は皆無であり、底部穿孔壺だけでの編年が、いかに困難な作業であるかを如実に物語っているものと言える。

註19　前掲註17で、古屋や青山は、それぞれ辺田１号墳（根田６号墳として取り上げている）について、古屋の３～５期、青山の様相Ⅱの中に位置付けており、概ね廻間Ⅲ式の中に納まる見解を明示している。

註20　柿沼修平『土宇』　日本考古学研究所1979

註21　天野　務ほか『公津原』Ⅱ（財）千葉県文化財センター1981

註22　稲葉理恵『寒沢遺跡・寒沢古墳群・愛宕古墳群・上用瀬遺跡』（財）君津郡市文化財センター1996

註23　野中　徹ほか『東条地区遺跡群発掘調査報告書』鴨川市教育委員会ほか2000

註24　矢戸三男ほか『阿玉台北遺跡』千葉県土地開発公社ほか1975

註25　小高春雄『滝ノ口向台遺跡・大作古墳群』（財）千葉県文化財センター1993

註26　糸川道行『北ノ作１・２号墳発掘調査報告書』千葉県教育委員会1993

註27　赤塚次郎「東海」『第44回埋蔵文化財研究集会　中期古墳の展開と変革』埋蔵文化財研究会　1998

この中で布留系Ｘ型器台は、松河戸Ⅰ式前半代まで、有段口縁鉢は廻間Ⅲ式４段階まで残存する器種としている。また、柳本の布留Ⅱａの標識資料とする上ノ井手SD-031は、廻間Ⅲ式４段階とし、松河戸Ⅰ式２段階は、柳本の布留Ⅱｂとする。松河戸Ⅰ式１段階に対応する布留式土器は、現在空白未決定の状態である。

註28　この椀型の坏部に「ハ」の字状に開脚する柱空脚形状の高坏は、長野や群馬などの東山道系の地域に散見し、同時期には、しばしば山陰系とされる底脚高坏と共伴するようである。辺田１号墳でも共伴しており、注目される。

註29　北島大輔「古墳出現期の広域編年―尾張低地部編年の提示、近畿・北陸地方との併行関係を中心に―」『Ｓ字甕を考える』第７回東海

考古学フォーラム　2000

久住猛雄「九州における前期古墳の成立」『日本考古学協会2002年度橿原大会研究発表資料集』日本考古学協会2002年度橿原大会実行委員会2002

北島は、平城宮下層 SD-6030下層の時期は布留１式でも最終末か、場合によっては布留２式の初頭との久住猛雄の見解を引用し、小若江北式とほぼ同時期としたが、久住は平城宮下層 SD-6030下層の主要を布留２式とする。

この他にも、布留２式期段階以降を大別して布留２式期を前半と後半に分けて考える説と、そうではない説が存在し、また、布留２式でも前半代とされる上ノ井手 SD-031を布留１式後半の範疇に引き上げる案や、布留１式とされる平城京朝集殿下層 SD-6030下層が布留２式に近いとする案などの問題がある

註30　表の作成に関しては、下記の文献を参考とした。

安達厚三・木下正史「飛鳥地域出土の古式土師器」『考古学雑誌』60-２号　日本考古学会　1974

石野博信・関川尚功『纒向』橿原考古学研究所　1986

河上邦彦「古墳の編年を総括する―大和―」『季刊考古学』第10号　雄山閣　1985

木下　亘・関川尚功・竹田政敬「奈良県」『第25回埋蔵文化財研究集会　古墳時代前半期の古墳出土土器の検討』埋蔵文化財研究会1989

柳本照男「出土遺物からみた大塚古墳の相対年代」『摂津豊中大塚古墳』豊中市教育委員会1987

「９　土師器・須恵器」『古墳時代の研究８　古墳Ⅱ　副葬品』雄山閣　1991

関川尚功「土器からよむ古墳社会―古墳時代の土器の編年―」『季刊考古学』第24号　雄山閣　1988

「奈良」『古墳時代の研究10　古墳Ⅰ　西日本』雄山閣　1991

米田敏幸「土師器の編年Ⅰ近畿」『古墳時代の研究６　土師器と須恵器』雄山閣　1991

大村　直「戸張一番割遺跡の甕形」『史館』第25号　史館同人　1994

「東国における古墳の出現」『展望　考古学』考古学研究会40周年記念論集1995

小沢　洋「上総における古墳中期土器編年と古墳集落の様相」『研究紀要Ⅷ』君津郡市文化財センター1998

「房総の古墳中期土器とその周辺」『東国土器研究第５号』東国土器研究会1999

赤塚次郎『廻間遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第10集　（財）愛知県埋蔵文化財センター1990

『松河戸遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第48集　（財）愛知県埋蔵文化財センター1994

「初期前方後円（方）墳出土の土器」『季刊考古学』第52号　雄山閣　1995

「東海系土器から見た東日本の古墳時代」『第40回埋蔵文化財研究集会　考古学と実年代』埋蔵文化財研究会　1996

「東海」『第44回埋蔵文化財研究集会　中期古墳の展開と変革』埋蔵文化財研究会1998

「東海・中部」『日本考古学協会2002年度橿原大会研究発表資料集』日本考古学協会2002年度橿原大会実行委員会2002

赤塚次郎・早野浩二「松河戸・宇田様式の再編」『研究紀要第２号』（財）愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター2001

坂野和信「東日本における古墳時代中期の土器(1)―土器の系譜と交流関係―」『東国土器研究』第５号　東国土器研究会1999

註31　西村　歩　「第６章　和泉北部の古式土師器と地域社会」『下田遺跡』（財）大阪府文化財センター1996

「古墳出現期における和泉地域の土器様相と集落の動向」『古墳出現期の土師器と実年代』（財）大阪府文化財センター2003

この中で下田Ⅲ式を提唱し、下田Ⅲ式を布留式前半古段階、平城宮朝集殿下層 SD-6030下層を布留式前半中段階、小若江北式を布留式前半新段階としている。たしかに、平城宮朝集殿下層 SD-6030下層と小若江北式は、近似しながらも別期であることが提示した実測図からも読み取れる。

註32　藤田憲司「TG232号窯灰下層出土の土師器」『陶邑・大庭寺遺跡Ⅳ』大阪府教育委員会1995

註33　青木勘時「初期埴輪と土器―天理市東殿塚古墳の埴輪配列とその意義」『立命館大学考古学論集』Ⅱ　立命館大学考古学論集刊行会2001

註34　前掲註29と同じ。

註35　木對和紀『市原市安須古墳群』（財）市原市文化財センター調査報告書　第50集（財）市原市文化財センター1993

ただし、この段階では大庭寺遺跡での最古須恵器窯の存在を把握しておらず、この段階における小型精製土器３種の崩壊傾向と土師器における整形・調整技法の粗雑化の傾向は、祭祀的要素が強いとされる古墳供献用の小型精製土器３種の土師器が、暫時的に須恵器に取って代わられた現象、換言すれば、この段階初めて量産体勢可能となった須恵器が、墳墓・集落に散見しはじめる一定期間の状況が土師器の様式に反映された現象期を TK-73段階としたが、土器様相が前期的なものから中期的なものへと変化し始める段階として、これを TG-232・231段階に改める。

註36　木對和紀「竪穴住居の耐久年数からみた房総における古墳時代須恵器の出現と終焉―椎津茶ノ木遺跡を中心とし―て」『市原市文化財センター研究紀要Ⅱ』（財）市原市文化財センター1993

この論考における TK-216段階以降の須恵器と土師器の変遷に関しては、現在でも変更しなければならない理由は見当たらない。しかし大庭寺における TG-232・231窯の発見により、ON-231などに先行する国産須恵器窯の存在が確実になったことから、TK-73段階以前の須恵器と土師器の併行関係に齟齬が生じていることを認める。また、山田道下層 SD-2750の段階は TG-232・231窯段階と併行かやや古い段階に想定されるため、この論考の TK-73段階以前の須恵器と土師器の併行関係を本文第２表に改める。

註37　前掲註31に同じ。下田Ⅲ式が確実に平城宮朝集殿下層 SD-6030下層に先行する土器群であり、最古の布留１式土器群であるならば、辺田１号墳墳頂部出土の有段口縁鉢を下田Ⅲ式併行とすることも可能かと想定される。

註38　田辺昭三『須恵器大成』角川書店1980

白石太一郎「８　年代決定論(2)―弥生時代以降の年代決定―」『岩波講座日本考古学１』岩波書店1985

寺沢　薫「畿内古式土師器の編年と二・三の問題」『矢部遺跡』奈良県文化財調査報告書第34集1986

木對和紀「竪穴住居の耐久年数からみた房総における古墳時代須恵器の出現と終焉―椎津茶ノ木遺跡を中心として―」『市原市文化財センター研究紀要Ⅱ（財）市原市文化財センター1993

稲荷山古墳の辛亥年銘鉄剣と５世紀末葉の須恵器型式を、TK-47型式と直接的に捉えるのか、間接的に MT-15型式と捉えるかのかといった問題が存在するが、どちらの説を採用しても、鉄剣の製作年は471年、西暦490～500年代に TK-47型式か MT-15型式のどちらかの須恵器が対応するだけで、副葬されるに至る期間はおよそ25年程度の一世代を当てていることに変わりない。

註39　福永伸哉「防製三角縁神獣鏡の編年と製作背景」『考古学研究』第41巻第１号　考古学研究会1994

「西日本からみた東海の前方後方墳」『前方後方墳を考える』第３回東海考古学フォーラム1995

註40　岸本直文「三角縁神獣鏡の編年と前期古墳の新古」『展望　考古学』考古学研究会40周年記念論集1995

「雪野山古墳副葬鏡群の諸問題」『雪野山古墳の研究　考察編』雪野山古墳発掘調査団1996

註41　福永伸哉「西日本からみた東海の前方後方墳」『前方後方墳を考える』第３回東海考古学フォーラム1995

岸本直文「雪野山古墳副葬鏡群の諸問題」『雪野山古墳の研究　考察編』雪野山古墳発掘調査団1996

両者の各段階に表示された舶載三角縁神獣鏡の各段階のズレには、例えば神奈川真土大塚山が岸本のⅣ期で福永のＢ期、京都椿井大塚山が岸本のⅣ期で福永のＣ期、兵庫権現山が岸本のⅣ期で福永のＢ期などがある。

ただし筆者は鏡についての専門知識を有していないので、これ以上の深入りはしない。

註42　川西宏幸「儀杖の矢鏃―古墳時代開始論として―」『考古学雑誌』第76巻　第２号日本考古學會1990

松本武彦「前期古墳副葬鏃の成立と展開」『考古学研究』第37巻第４号　考古学研究会1991

「16　前期古墳副葬鏃群の成立過程と構成―雪野山古墳出土鉄・銅鏃の検討によせて―」『雪野山古墳の研究　考察編』雪野山古墳発掘調査団1996

松本はＳ字状の外縁をもつ柳葉銅鏃の形態から前橋天神山例などを引き出し、前期を４期に細分した場合、第２期から第３期前半にこれら古墳出土の銅鏃が位置付けられるとしている。また川西は、儀杖用の矢鏃の生産・分与の創業を古墳時代開始の点鐘と見る。

註43　森岡秀人「銅鏡」『季刊考古学』第27号　雄山閣　1989

岩崎卓也「関東の前期古墳と副葬鏡」『翔古論聚　久保哲三先生追悼論文集』久保哲三先生追悼論文集刊行会1993

註44　米田耕之助「根田遺跡」『年報　昭和60年度』（財）市原市文化財センター1985

浅利幸一「根田（辺田・御林跡）遺跡」『年報　昭和63年度』（財）市原市文化財センター1988

市原市教育委員会『千葉県市原市埋蔵文化財分布地図―北部編―』1988

国分寺台土地区画整理事業の一貫として昭和59・60・63年度の３ヵ年にわたって辺田古墳群・御林跡遺跡は調査されている。この間遺跡名は、根田遺跡・御林跡遺跡、辺田古墳群・根田古墳群と錯綜を繰り返してきた。例えば、昭和60年度年報では辺田１号墳が根田６号墳として紹介されたことや、分布地図の刊行後で調査された段階では、新たな古墳が検出されるなどし、分布地図と古墳番号が一致しないなどの弊害が生じてきている。ここでは、分布地図との古墳番号の齟齬が生じているが、本報告書を基に１号遺構から５号遺構までの古墳を、便宜的にそのまま古墳に置き換え話を進めていきたい。

註45　小林健二「甲斐のＳ字甕を考える」『Ｓ字甕を考える　その成立と拡散　波及と定着　解体』第７回東海考古学フォーラム三重大会

原田　幹「Ｓ字甕の波及と定着をめぐる問題」『Ｓ字甕を考える　その成立と拡散　波及と定着　解体』第７回東海考古学フォーラム三重大会

田口一郎「北関東西部におけるＳ字口縁甕の波及と定着」『Ｓ字甕を考える　その成立と拡散　波及と定着　解体』第７回東海考古学フォーラム三重大会

渡井秀誉「東駿河のＳ字甕」『Ｓ字甕を考える　その成立と拡散　波及と定着　解体』第７回東海考古学フォーラム三重大会

小林はこの中で、甲斐のⅢ期新段階を東駿河の大槨Ⅳ式前半代、廻間Ⅲ式３段階、布留１式後半代と併行関係とする。また、渡井は纏向辻土坑４下層出土の大槨式の大型壺は大槨Ⅲ式段階の類例とする。

註46　田口一郎「北関東西部におけるＳ字口縁甕の波及と定着」『Ｓ字甕を考える　その成立と拡散　波及と定着　解体』第７回東海考古学フォーラム三重大会　2000

註47　銅釧の着装順は、199号遺構の銅釧は、保存処理時の工程記録写真より、205号遺構の銅釧は完成写真から判断した。遺存状況が不良な199−１は、少なくとも外面の上端部は面取りが施されている。

註48　小田富士夫「日本で生れた青銅器　銅釧」『古代史発掘５　大陸文化と青銅器』講談社1974

木下尚子「第４章　貝輪から銅釧へ」『南島文化の研究・貝の考古学』法政大学出版局1996

井上洋一「銅釧」『季刊考古学』第27号　雄山閣　1989

中村　勉「銅環と呼ばれる青銅器について」『貝塚』56　物質文化研究会2001

野澤誠一「銅釧・鉄釧からみた東日本の弥生社会」『長野県立歴史館研究紀要第八号』長野県立歴史館2002

池田　治「帯状円環型銅釧と地域色について」『かながわの考古学』財団法人かながわ考古学財団2003

帯状円環型銅釧の系譜をイモ貝横切型貝輪に求める説に、「国産のほとんどが、貝輪に祖形が求められることを考慮すれば、楽浪系とするよりもイモ貝を横切りにした円形貝輪に系譜を求める方がより妥当であろう。」とする小田説などがある。井上は、小田のイモ貝横切型貝輪を妥当な見解と表した上で、東日本に伝統的な二枚貝系の貝輪を地方独自の形に変化させた可能性も指摘している。木下は、イモ貝横切型貝輪と銅釧の関係については、現在積極的に論じるに足りる資料は得られていないとする。

註49　小田富士夫「弥生時代円環型銅釧考―日韓交渉資料の一研究―」『古文化談叢』第13集九州古文化研究会1984

註50　木下尚子「第２章　南海産貝輪の生成と展開」『南島文化の研究・貝の考古学』法政大学出版局1996

イモ貝横切り型貝輪は、その着装例からイモ貝縦型貝輪と共に女性特有の貝輪とされるもので、男性のゴホウラと対照的な存在である。

註51　有鈎銅釧の原貝であるゴホウラからは、有鈎銅釧そのものの形態や、直線的、あるいは腕曲的に伸びる鈎状突起の製作はほとんど不可能である。また円環型銅釧の原貝と考えられるイモ貝横型貝輪もまた殻口の外唇部や内部の螺旋構造から、完全なる正円形を造り出すことは極めて困難な貝である。

註52　既に指摘したとおり、須玖岡本例は、イモ貝横切り貝輪の断面形状に近似した銅釧であり、また鋳型も出土している。楽浪系とされる北部九州の円環型銅釧の一部には、須玖岡本例のように確実に国産品が存在する。

註53　小田富士夫「日本で生れた青銅器　銅釧」『古代史発掘５　大陸文化と青銅器』講談社1974

小田富士夫「弥生時代円環型銅釧考―日韓交渉資料の一研究―」『古文化談叢』第13集九州古文化研究会1984

北部九州の地域で男性用の有鈎銅釧と女性用の円環型銅釧が成立したことは、その鋳型の検出をみても明らかである。なお、須玖岡本例の断面が内面垂直で外面半球形の蒲鉾形銅釧に類似した断面形状の製品は、東日本では鉄釧にも類例が多く認められる。

註54　木下尚子「第４章　貝輪から銅釧へ」『南島文化の研究・貝の考古学』法政大学出版局1996

木下は、鈎概念を積極的に受容して有鈎銅釧を製作する３地域に、北部九州、近畿、東海・南関東を挙げている。

註55　吉田　広「朝日遺跡の青銅器生産―青銅器生産の東方展開に占める位置」『朝日遺跡Ⅳ―新資料館地点の調査―』愛知県埋蔵文化財センター2000

おそらく銅鐸の鋳型と小銅鐸の鋳造損じ品が検出され、小銅鐸の鋳造損じ品は千葉県草刈遺跡出土小銅鐸例に類似するという。

註56　中村　勉「銅環と呼ばれる青銅器について」『貝塚』56　物質文化研究会2001

佐藤典邦「弥生時代中期の貝輪」『新世紀の考古学―大塚初重先生喜寿記念論文集―』大塚初重先生喜寿記念論文集刊行会2003

近年、帯状円環型銅釧の系譜については、縄文以来の東日本に伝統的な二枚貝の系譜と考える論考が主力のようである。しかしベンケイ貝などの二枚貝類では、どんなに研磨してもその断面形が「ハ」の字状を呈するのに対し、帯状円環型銅釧には断面形状が「ハ」の字状を呈するものは１例も存在していない。また、帯状円環型銅釧の平面形は正円形であるのに対し二枚貝類の貝輪には正円形の製品を求めることが困難である。むしろ、帯状円環型銅釧の断面は、楔型や薄い蒲鉾状に研磨されるものが多く、このこともイモ貝横切り型貝輪との共通点として認めることができよう。ただし後述するよう、東日本の帯状円環型銅釧はイモ貝横切り型貝輪からの直接変化ではなく、北部九州で成立した須玖岡本形銅釧などの双范鋳型鋳造銅釧を祖形としながらも、あえて同じ方法を採用せず、真土型鋳造による組合せ型法を採用することによって、帯中央にバリが存在しない東日本独自の帯状円環型銅釧が成立したものと捉えたい。

註57　野澤誠一「銅釧・鉄釧からみた東日本の弥生社会」『長野県立歴史館研究紀要第八号』長野県立歴史館2002

野澤の紹介した帯状円環型銅釧の製作技法は、北部九州の鋳型などに認められる双范鋳型製作技法ではなく、真土型鋳造による組合せ型法である。これは帯状円環型銅釧の帯中央にバリが残った製品が存在しないことから、実験に際し採用された方法である。東日本の帯状円環型銅釧が、双范鋳型鋳造法を知りながら真土型鋳造によるはなし吹き・組合せ型・蝋型法を採用し、いずれの技法でも製作可能とする説は注目に値する。たしかに曲げ輪造りの帯状円環型銅釧では、双范鋳型鋳造法に固執する必要はないし、帯中央にバリが存在しない東日本独自の帯状円環型銅釧が真土型鋳造により成立するという画期的な論考である。

註58　吉田　広「朝日遺跡の青銅器生産―青銅器生産の東方展開に占める位置」『朝日遺跡Ⅳ―新資料館地点の調査―』愛知県埋蔵文化財センター2000

吉田も指摘するよう帯状円環型銅釧は、双范鋳型を必要としない開放性の単范鋳型であるが、その単范鋳型のルーツを双范から鋳型という単純な退化傾向で捉えてよいものかとしている。

付編１　辺田古墳群・御林跡遺跡出土の貝類遺体について

資料と分析の方法

辺田古墳群・御林跡遺跡では、合計４ヶ所から貝層が確認された。このうち１ヶ所は、竪穴住居跡（28号遺構）の床面直上に堆積していたもので、共伴遺物から弥生時代終末から古墳時代初頭の所産と考えられる。残る３ヶ所は、道路状遺構（226号遺構）から検出されたものである。帰属時期は不明であるが、１号遺構（辺田１号墳）周溝部分と一部重複し、硬化面は古墳周溝の埋没が進んだ段階に形成されていることから、比較的新しい時期のものと思われる。

採取された貝層（以下、「貝サンプル」と表記）の選別作業は、すでに発掘調査現場において行われていた。今回行った分類作業により検出された動物遺存体は大型貝類のみで、微小貝類や魚類骨・獣骨などの脊椎動物骨は認められなかった。これまで市内で調査・分析が行われた弥生時代後期の貝層からは、貝類以外の動物遺存体が出土する割合が低いという傾向があるが、辺田古墳群・御林跡遺跡から採取された貝サンプルの選別作業がどのような方法で行われたのか不明であるため、選別作業の過程で微小な動物遺存体資料が流失した可能性も否定できない。

出土貝類種の同定は、市原市文化財センター所蔵の現生貝類標本及び貝塚出土貝類標本との比較により行った。集計は、腹足類（巻貝）では軸部を完存するもの、二枚貝綱では殻頂部の残存するものを対象とした。二枚貝類は、左右殻の出土数量の多い方をもって出土個体数（最小個体数）とし、ハマグリ・アサリ・シオフキの３種については、左右殻の数量の多い方から完形資料を抽出し、１㎜目方眼紙上で殻高・殻長の計測を行った。ただし、計測データの図化は、資料数の多い種の殻高についてのみ行った。

同定結果と組成・殻高の特徴

腹足綱（巻貝）５種・二枚貝綱６種の計11種の貝類が同定された。ほぼ鹹水産の内湾棲息種によって構成されるが、岩礁棲息種のサザエと林内棲息種のヤマタニシも検出されている。同定された貝類のうち、ウミニナ属・ツメタガイ・マテガイ・ヤマタニシは28号遺構から、サザエ・サルボウガイ・オオノガイは226号遺構からのみ検出された。

28号遺構の貝層は、シオフキの割合が特に高く、全体の76パーセントを占め、これにアサリ・ハマグリを加えると全体の96パーセントに達する。計測はハマグリとシオフキの２種について行ったが、殻高の平均値は、それぞれ41.58㎜と40.08㎜、殻長の平均値は50.84㎜と47.35㎜で、比較的大型の個体が多く見られた。

図３は、これまでに市内で貝層の分析が行われた遺跡のうち、28号遺構の時期と前後する弥生時代

表１　貝類種名一覧

（腹足綱）
- イボキサゴ　*Umbonium*（*Suchium*）*moniliferum*
- サザエ　*Batillus cornutus*
- ウミニナ属　*Batillaria* spp.
- ツメタガイ　*Glossaulax didyma*
- ヤマタニシ　*Cyclophorus herklotsi*

（二枚貝綱）
- サルボウガイ　*Scapharca subcrenata*
- アサリ　*Ruditapes philippinarum*
- ハマグリ　*Meretrix lusoria*
- シオフキガイ　*Mactra quadrangularis*
- マテガイ　*Solen strictus*
- オオノガイ　*Mya arenaria oonogai*

後期から古墳時代中期のものについて、その貝類組成を示したものである。この図からは、弥生時代後期段階ではイボキサゴの採取が引き続き積極的に行われており、どの遺跡も比較的類似した組成を示しているが、弥生時代終末から古墳時代初頭以降になると、組成に変化が認められるようになる。この結果が貝類採取活動の時期的変遷を示すものかについては疑問もあるが、辺田古墳群・御林跡遺跡でイボキサゴの採取がほとんど行われていない点や、シオフキの割合が非常に高い点は、特定の貝種に対する嗜好性の表れを示している可能性が考えられる。また、今回はデータを取り上げていないが、椎津茶ノ木遺跡の古墳時代後期の貝層では、地点によって貝種組成にばらつきが認められることから、貝類採取時における種選択の多様化と捉えることができるのかもしれない。採取季節や採取場所、さらにそれぞれの遺跡の立地と遺跡を取り巻く自然環境の違いなどに応じて、さまざまな貝類採取のパターンが存在した可能性も考えられるだろう。

一方、226号遺構から検出された貝層は、各地点ともにアサリとシオフキの割合が高く、これに少量のハマグリとサルボウガイが混じる程度で、貝種は限定される。また、時期は不明であるものの、遺跡周辺では採取することのできないサザエが出土している。市内では、古墳時代中期の加茂遺跡Ｄ地点や古墳時代後期の椎津茶ノ木遺跡から、サザエの殻と蓋が一緒に検出され、古墳時代中期段階には、食用としてのサザエを入手する交易・流通ルートが成立していたことがわかる。加茂遺跡から出土したサザエは無刺タイプのもので、黒住耐二氏によって、東京湾（富津岬以南の岩礁域）において採取された可能性が指摘されているが、辺田古墳群・御林跡遺跡から検出されたサザエは有刺タイプのもので、より波浪のはげしい外海域から持ち込まれたことが考えられる。（鶴岡英一）

参考・引用文献

大村　直　1989「Ⅱ　遺構と遺物」『市原市大厩弁天台遺跡』（財）市原市文化財センター　12～17頁

大村　直　1991「Ⅲ　小田部向原遺跡」『市原市姉崎宮山遺跡・小田部向原遺跡・雲ノ境遺跡－不特定遺跡発掘調査報告⑵』（財）市原市文化財センター　93～94頁

忍澤成視　1997「菊間手永遺跡出土の動物遺存体」『平成８年度　市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会　12頁

忍澤成視　1999「貝層出土の動物遺存体」『祇園原貝塚（本文編２）』市原市教育委員会　638～675頁

忍澤成視　2002「住居内および土坑内出土の貝の概要」『坊作遺跡（第１分冊　本文編）』市原市教育委員会　185～214頁

金子浩昌　1989「東千草山遺跡の住居内貝層から検出された動物遺体」『千草山遺跡・東千草山遺跡』（財）市原市文化財センター　336～345頁

越川敏夫　1984「Ⅴ　貝の分析」『原遺跡』原遺跡調査会　91頁

小橋健司　2002「407号遺構検出貝類」『市原市加茂遺跡Ｄ地点』（財）市原市文化財センター　186～187頁

鶴岡英一　2002「自然遺物」『釜神遺跡』（財）市原市文化財センター　349～352頁

樋泉岳二　1992「椎津茶ノ木遺跡出土の動物遺体について」『市原市椎津茶ノ木遺跡』（財）市原市文化財センター　286～303頁

表２　貝類集計表

遺構№	サンプル№	遺構種別	時　期	海産貝類																		陸産貝類	備　考
				腹足綱				二枚貝綱														腹足綱	
				イボキサゴ	サザエ	ウミニナ属	ツメタガイ	サルボウガイ		アサリ		ハマグリ		シオフキガイ		マテガイ		オオノガイ		ヤマタニシ	
								L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R		
28号	59－0001	竪穴住居跡	弥生末～古墳初	8		2	3			21	18	65	73	359	278	6	8			1		
226号	C－1001	道路状遺構	不　明					1	4	25	22		2	2	4							
	C－1014				2			9	4	23	22	8	7	10	12							サザエ：有刺型
	C－1030			3						11	12	14	9	47	38			1				

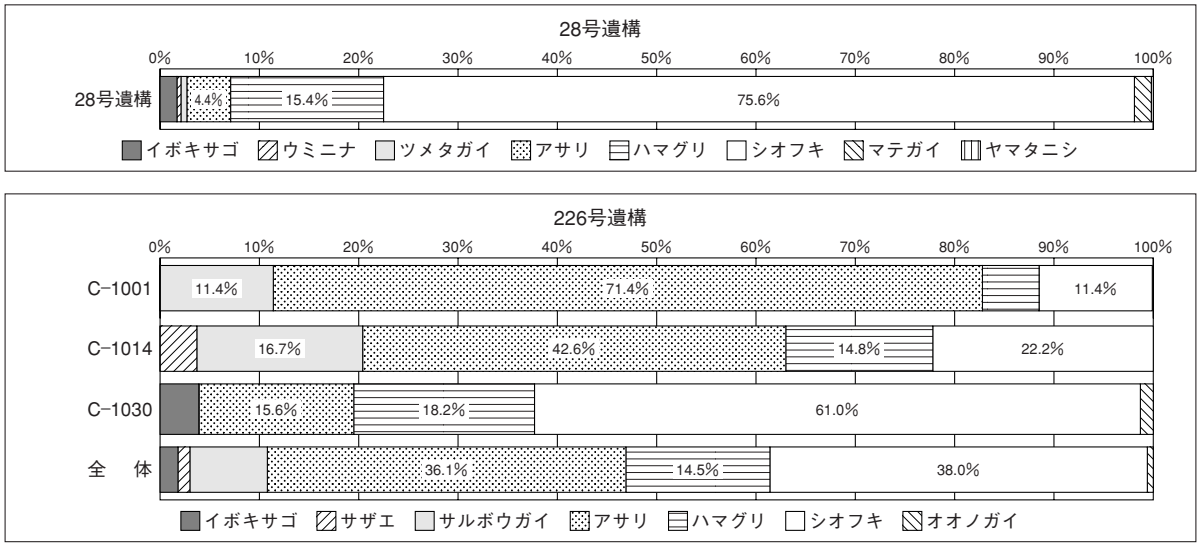


図１　遺構別出土貝類組成

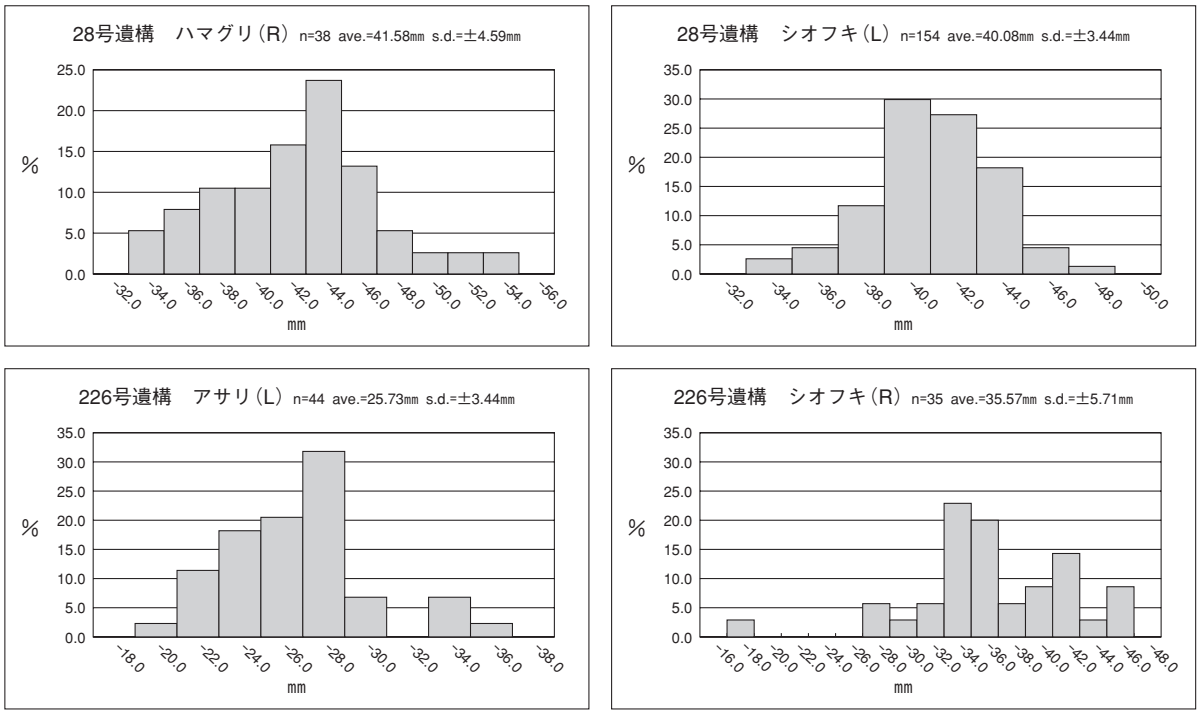


図２　遺構・貝種別殻高分布

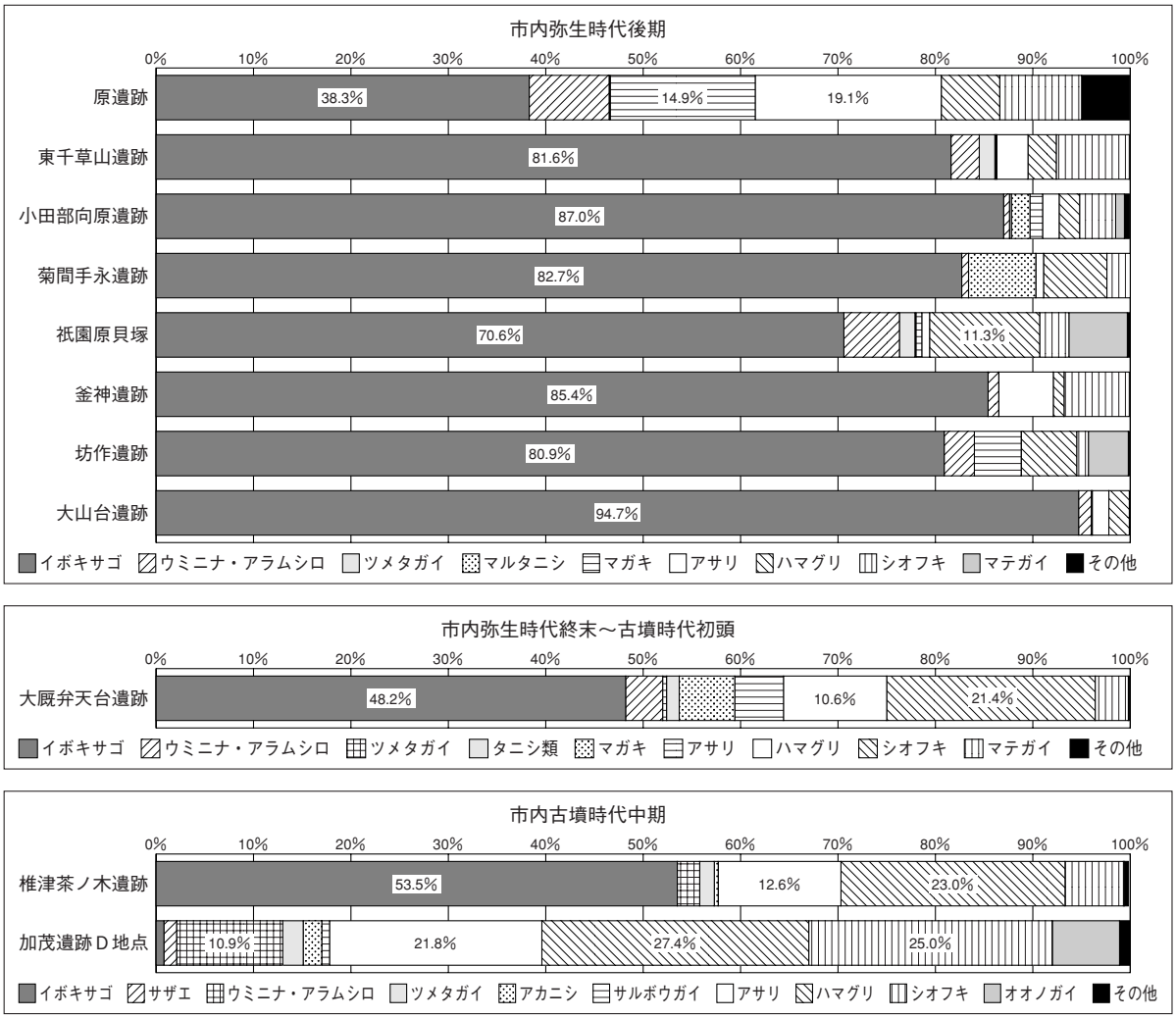
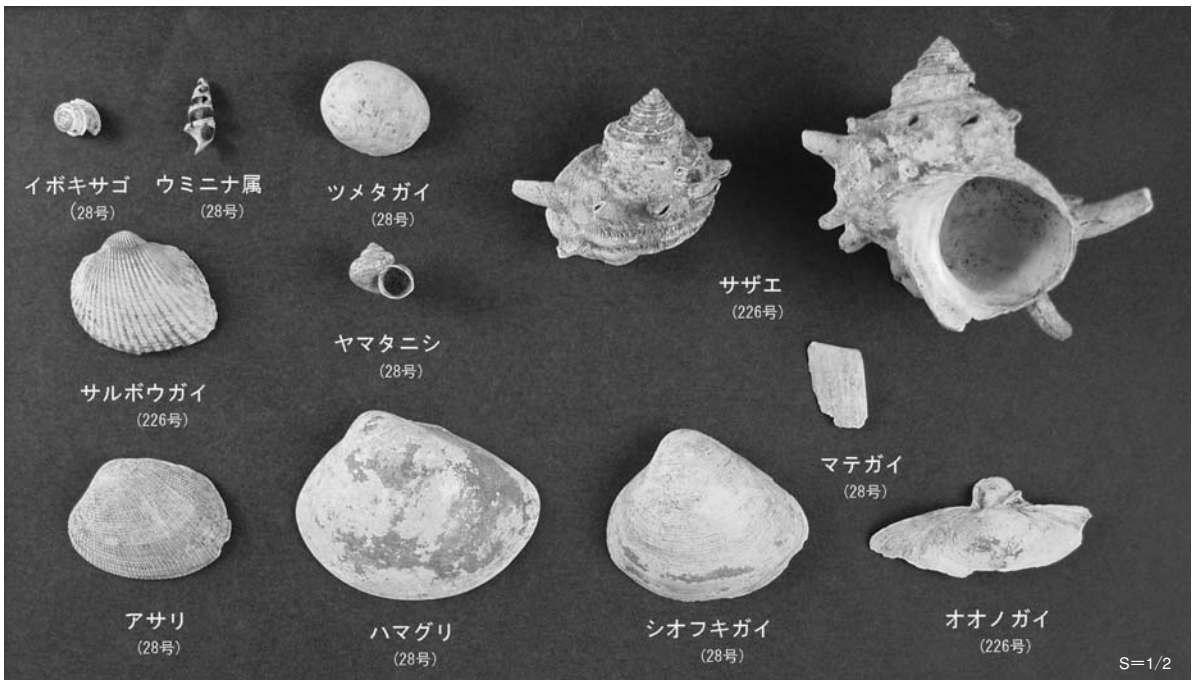

市内弥生時代後期
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
原遺跡
38.3%
14.9%
19.1%
東千草山遺跡
81.6%
小田部向原遺跡
87.0%
菊間手永遺跡
82.7%
祇園原貝塚
70.6%
11.3%
釜神遺跡
85.4%
坊作遺跡
80.9%
大山台遺跡
94.7%
イボキサゴ
ウミニナ・アラムシロ
ツメタガイ
マルタニシ
マガキ
アサリ
ハマグリ
シオフキ
マテガイ
その他
市内弥生時代終末～古墳時代初頭
大厩弁天台遺跡
48.2%
10.6%
21.4%
イボキサゴ
ウミニナ・アラムシロ
ツメタガイ
タニシ類
マガキ
アサリ
ハマグリ
シオフキ
マテガイ
その他
市内古墳時代中期
椎津茶ノ木遺跡
53.5%
12.6%
23.0%
加茂遺跡Ｄ地点
10.9%
21.8%
27.4%
25.0%
イボキサゴ
サザエ
ウミニナ・アラムシロ
ツメタガイ
アカニシ
サルボウガイ
アサリ
ハマグリ
シオフキ
オオノガイ
その他

図３　貝類組成の比較


イボキサゴ
(28号)
ウミニナ属
(28号)
ツメタガイ
(28号)
サザエ
(226号)
ヤマタニシ
(28号)
サルボウガイ
(226号)
マテガイ
(28号)
アサリ
(28号)
ハマグリ
(28号)
シオフキガイ
(28号)
オオノガイ
(226号)
S=1/2

付編２　縄文時代

⑴ 概要

今回の調査では、多量の縄文土器が出土しているが、大半が弥生時代以後の遺構の調査に由来するものである。縄文時代の遺構と判断されたのは13号土坑、48号土坑、93号土坑である。13号・48号土坑は早期後葉の土器が出土している。93号土坑は、出土遺物は流れ込みの疑いが強いが、形状から楕円型陥し穴であろう。他の時代の遺構に流れ込んだ遺物については、実測図・拓本を図に含め、土器の観察結果は「出土土器観察表」に記載した。ここでは概要について報告したい。

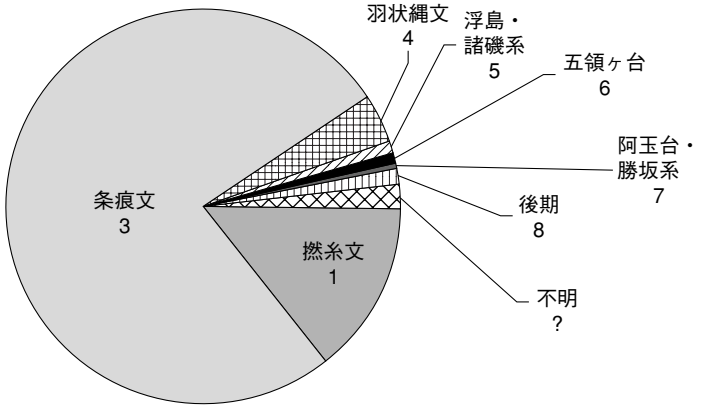
縄文土器の全体量は不明なので、掲載資料の点数から時期別の組成をみると、合計701点のうち、534点（76.2%）を早期後葉・条痕文系土器が占めている。次いで早期前葉・撚糸文系土器が99点（14.1%）とややまとまっており、他は少ない。今回の調査は広い台地の南側縁辺に限られるが、この付近に早期前葉と早期後葉に小規模な集落が形成された可能性が高い。後者の土器群は、炉穴群を伴うものであったと推定される。鵜ヶ島台式から早期末葉までの土器がみられる。

国分寺台遺跡群は、早期後葉の炉穴群を伴う集落が集中しているが、早期末葉土器群は知られていない。市内では草刈遺跡の資料が最近公表されている（『千原台ニュータウン８―市原市草刈遺跡（東部地区縄文時代）―』（財）千葉県文化財センター　2003）が、類例が少なく貴重な資料である。

⑵ 縄文土器の分類

第１群　早期前葉　撚糸文系土器

井草式から稲荷台式までを含む。縄文・撚糸文の原体は属性表に記載した。大半は１号墳の墳丘内や墳丘下の遺構内から出土したもので、K10区の遺構からもややまとまっている（第１図）。包含層を形成していたものといえる。



群	第１群	第２群	第３群	第４群	第５群	第６群	第７群	第８群	?	合計
分類	撚糸文	沈線文	条痕文	羽状縄文	浮島・諸磯系	五領ヶ台	阿玉台・勝坂系	後期	不明	
個数	99	1	534	28	7	6	3	9	14	701
割合	14.1%	0.1%	76.2%	4.0%	1.0%	0.9%	0.4%	1.3%	2.0%	100.0%

第１図　縄文土器組成

第２群　早期中葉　沈線文系土器

第31図239の１点のみである。

第３群　早期後葉　条痕文系土器

縄文土器の大半を占める本群については、次項で若干の説明を行う。鵜ヶ島台式後半から早期末葉の土器群である。

第４群　前期前～中葉　羽状縄文系土器

花積下層式土器と黒浜式土器がみられる。黒浜式が中心である。点数は少ないが、すべて１号墳の墳丘や墳丘下の遺構から出土したものである。

第５群　前期後葉　浮島・諸磯式系土器

１号墳墳丘下の189号、199号、204号遺構に流入していたものである。ほとんどは同一個体で、確認できるのは２個体に限られる。

第６群　中期初頭　五領ヶ台式土器

第７群　中期前葉　阿玉台・勝坂式系土器

第８群　後期の土器

⑶　第３群土器について

早期後葉の繊維土器、いわゆる条痕文系土器である。今回は個別の分類を行うことができず、概要を説明するにとどまった。主文様をもつものを新旧に分け、主文様をもたない素文系の土器を合わせて、３類に分けて、代表的な土器を示す。

１類　鵜ヶ島台式～茅山下層式

微隆帯、押引文、沈線文、凹線文、ヘラナデ文による区画文や意匠文をもつ土器である。区画文・意匠文内には、押引文、沈線文、刺突文、条痕文が充填されたものも多い。微隆帯（微隆起線）による区画をもつ古手の土器も存在するが、明確な区画や単位文を形成しない時期のものが多い。凹線文としたものは、幅広の工具や指頭で浅い沈線を引くものである。さらに浅く、ナデ調整と同様の技法で意匠文を描くものは、ヘラナデ文として区別した。この土器が比較的まとまっているのは、18・20～22・30・39号遺構流入資料と遺構外のＢ６区である。挿図では第62図、64～68図、73図、80・81図である。

２類　早期末葉土器群

隆帯、貝殻圧痕、絡状体圧痕等による文様をもつ土器である。第32図、第170図に良い資料がまとまっており、いずれも１号墳墳丘または墳丘下から出土したものである。口縁部上端に幅の狭い文様帯を形成するものが多く、隆帯による意匠をもつ土器のほか、折返し状口縁や肥厚する口縁に施文されるものもある。フネガイ科の貝殻腹縁圧痕（第32図244・248・254＝以上３点は同一個体、第170図44・46～49）、絡状体圧痕（第32図245、第95図−33）、刺突（第32図256）、押引文（第32図250）、沈線文（第91図58−５）、刻み隆帯（第96図−61−24）がみられる。第33図−１−274は、幅の狭い口縁部文様帯に撚糸文を羽状施文するものである。

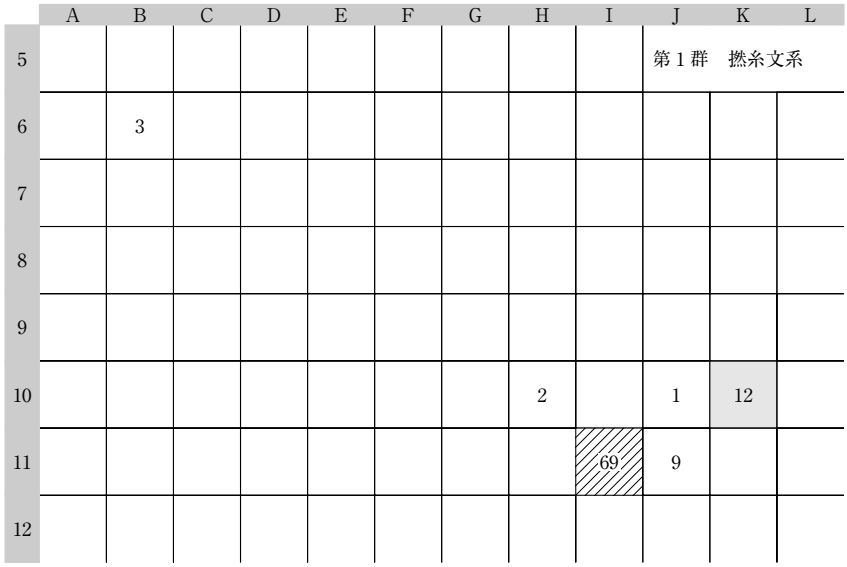
３類　素文系土器・素文部破片

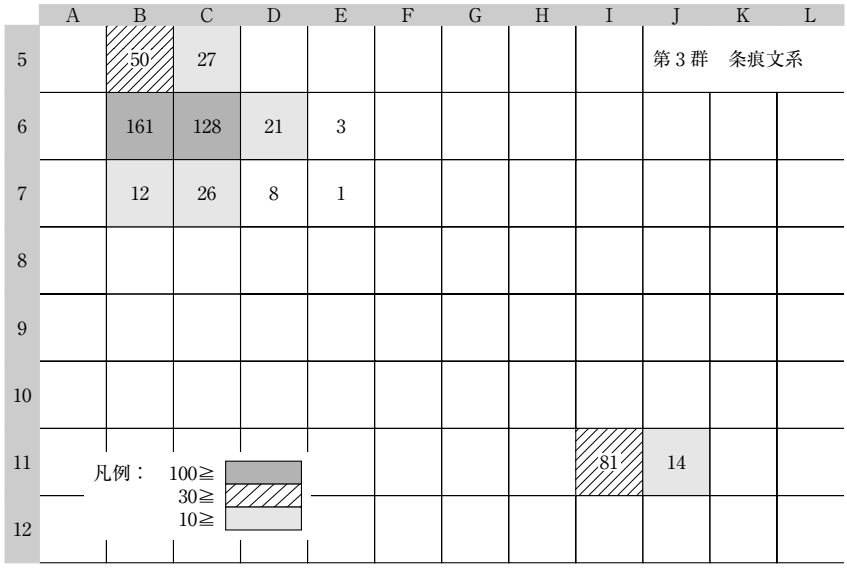
主文様をもたない資料をみると、内外面とも貝殻条痕がしっかりと残り、比較的胎土に繊維が目立

つ一群と、条痕がその後の調整で消される傾向が強く、繊維が目立たない一群が存在する。属性表において、調整は以下のように呼称した。条痕調整（フネガイ科の貝殻腹縁を使った調整痕跡）、擦痕調整（比較的粗い線状痕を伴う調整痕跡）、ナデ調整（顕著な線状痕等を残さない調整痕跡）。底部片は尖底が１点で、そのほかは全て平底であった。

⑷ 分布

第２図に第１群：撚糸文系土器と第３群：条痕文系土器の分布を示した。第１群土器は、１号墳の墳丘と墳丘下に集中が認められる。第３群はＢ６・Ｃ６区を中心とした場所に大きな集中があり、多量に出土している。この付近に集落が存在した可能性が高い。１号墳の墳丘・墳丘下にも集中箇所がある。今回の調査範囲は、養老川河口を望む台地の南側であるが、土器の集中箇所は、そのなかでも縁辺部にあたる。低地に面した台地の縁辺は、縄文早期の人々が好んで選地したようである。





第２図　縄文土器分布

辺田古墳群・御林跡遺跡出土土器観察表

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
1	22	9	14	土師器底部穿孔壺 頸部全欠他ほぼ完存	墳頂部 周溝内	22.1	9.4	(32.0)	10YR4/6赤色 10YR4/6赤～5YR6/6橙色	良好	微砂粒多	外　口唇部４連の棒状浮文六箇所。頸～胴部ハケ後ナデ。底部付近は指ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ。胴部ハケ調整。	胴部下段に輪積による段明瞭。
1	22	10	15	土師器底部穿孔壺 口縁1/4・底部1/2欠	墳頂部 周溝内	19.8	(8.2)	22.1	2.5YR3/6暗赤褐色 2.5YR3/6暗赤褐～7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口縁部横ナデ。頸部ナデ。肩～胴部ハケ後ナデ（強いハケ残る）。 内　口縁部ハケ後ナデ。	焼成前穿孔。底部穿孔径6.2cm。胴部最大径26.7cm。胴部内面は、細かいハケと粗いクシ状のハケを使い分け整形する。
1	22	11	40	土師器底部穿孔壺 口縁1/2・底部1/2	周溝内	(18.2)	6.2	(22.1)	10YR6/4赤～5YR3/6暗赤褐色 5YR4/6赤褐～黒色	良好	１㎜大の褐色粒含む	外　口唇部ナデ、頸部ハケ、胴部上位ナデ。 内　口唇部ナデ、頸部ハケ後ナデ。胴部下位ハケ調整。	内面の器面剥離激しい。
1	22	12	16	土師器底部穿孔壺 口縁一部欠	周溝内	18.5	8.0	25.1	2.5YR6/4赤褐色	良好	密	外　口唇部横ナデ。頸～胴部ハケ後ナデ。 内　口唇部ナデ。頸部ハケ後ナデ。胴部ハケ調整。	内面輪積痕明瞭。
1	22	13	39	土師器底部穿孔壺 口縁完存～胴部1/2弱	一括				10YR4/8赤色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口縁部横ナデ、頸部ハケ後ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ。頸部ハケ、胴部上位篦ナデ、下位ハケ調整。	外面赤彩。
1	22	14	17	土師器底部穿孔壺 胴部完存　口縁1/4欠	s59　周溝部	17.7	5.8	19.8	10R4/6赤色	良好	１㎜大の茶褐色粒多	外　口唇部ナデ。頸～胴部ハケ後ナデ。一部にハケ残る。 内　口～頸部ハケ後ナデ、胴部中位粗いハケ。	内面輪積は丁寧に磨消されている。胴部最大径19.8cm。
1	23	15	13	土師器底部穿孔壺 口縁の1/4底部の3/4欠	埋葬施設区画溝内	17.6	6.8	20.8	5YR5/6明赤褐色 2.5YR3/6暗赤褐色(赤彩部分)	良好	密	外　口縁部ナデ。胴部ハケ後ナデ。 内　口縁部ナデ。　頸部ハケ後ナデ。胴部中位篦ナデ～下位ハケ調整。	頸部～胴部外面器面磨耗。底部穿孔径3.7cm。 胴部最大径20.0cm。
1	23	16	148	土師器底部穿孔二重口縁壺 頸部～胴部1/2	埋葬施設区画溝内(底部)				5YR4/6赤褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　ハケ後ナデ。 内　ハケ後ナデ。	外面赤彩。底部穿孔径5.6cm。鈍重な土器。頸部は墳丘裾部より出土している。
1	23	17	26	土師器底部穿孔壺 口縁3/4・胴部1/2・底部1/3	周溝内	18.0	6.6	(12.0)	10R4/6赤色 2.5YR4/6赤褐色(胴部)	良好	１㎜大の小石若干含む	外　口縁部横ナデ。頸部以下ハケ後ナデ。一部篦ミガキ。 内　ハケ後ナデ、一部篦ミガキ。	内外面赤彩。他に接合に至らぬ同一個体21ケ100ｇあり。底部穿孔径5.2cm。
1	23	18	42	土師器底部穿孔壺 胴部1/2強欠	墳頂部	17.8	6.3	18.8	2.5YR4/3暗赤褐色	良好	１～２㎜大の小石含む	外　口縁部ナデ。頸～胴部ハケ後ナデ。底部付近はケズリに近いナデ。 内　口唇部ナデ、頸部ハケ後ナデ。胴部下位ハケ調整。	内外面赤彩。器厚があり、小型の割に質量がある。胴部輪積痕明瞭。
1	23	19	130	土師器底部穿孔二重口縁壺 1/2以上	s59　周溝部		6.0		10R4/8赤色 10YR7/6明黄褐～10R4/8赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後ナデ、底部篦ケズリ。 内　胴～底部ナデ後ハケ。	内外面赤彩。器厚が極めて薄い。おそらく二重口縁壺。底部穿孔径4.5cm、胴部最大径19.4cm。接合に至らない同一個体が多数存在。
1	23	20	149	土師器底部穿孔二重口縁壺 底部～胴部の1/2	墳頂部		(7.0)		5YR3/6暗赤褐色 5YR3/1黒褐色	良好	密	外　ハケ後ナデ。一部ハケ明瞭に残る。 内　ハケ後篦ナデ。輪積痕明瞭。	外面赤彩。重い土器。底部穿孔径5.4cm。胴部最大径20.0cm。
1	23	21	147	土師器底部穿孔壺 口縁及び底部全欠	一括				2.5YR4/8赤褐色 2.5YR4/6赤褐色	良好	４～５㎜大の小石含む	外　ハケ後篦ナデ。 内　頸部付近は指ナデ。胴部篦ナデ、輪積明瞭。	外面赤彩。器面の剥離やや激しい。胴部中位から急激に、底部へ移行するタイプで、胴部最大径18.4cm。
1	23	22	41	土師器底部穿孔壺 胴部1/3欠	一括	16.0	6.2	21.5	10YR4/8赤色 7.5Y3/2オリーブ黒色	良好	白色微砂粒多い	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後ナデ、底部付近は丁寧な篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、頸部ハケ調整。	内外面赤彩。胴部中位の器面剥離激しく、胴部の輪積痕明瞭。頸部は沈線による弱い段を有し、二重口縁的に仕上げる。
1	23	23	150	土師器底部穿孔二重口縁壺 口縁～頸部の一部と胴部1/3	周溝内	(17.0)	(6.4)	(21.0)	2.5YR5/6明赤褐色 10YR5/2灰黄褐色	良好	２㎜大の小石、微砂粒多	外　口縁～胴部上位ハケ後ナデ、中位ハケ、下位ケズリ後ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部輪積明瞭。下位一部ハケ。	頸部は突出し二重口縁状を呈する。二次加熱を受け赤彩がとぶ。器厚は極めて薄い。胴部最大径21.2cm。底部穿孔径5.0cm。
1	23	24	58	土師器底部穿孔二重口縁壺 全体2/3	埋葬施設区画溝内	19.9	6.1	22.5	10YR6/4赤～5YR6/6橙色	良好	茶褐色粒１㎜大含む	外　口縁横ナデ、頸部ハケ、胴部ハケ後ナデ。下位は雑な篦ナデ。 内　口縁ナデ。頸部～胴部ハケ。	内外面赤彩。胴部最大径20.4cm。胴部輪積明瞭。
1	23	25	38	土師器底部穿孔二重口縁壺 口縁の大半　胴部1/4欠	周溝内	(16.2)	6.4	21.6	2.5YR4/6赤褐色 5YR4/6赤褐色	良好	茶色微砂粒多	外　口縁部ナデ、他はハケ後入念なナデ。胴部下位はケズリ後ナデ。 内　胴部下位ハケ、他は器面剥離激しく不明。	内面赤彩。他に接合に至らぬ同一個体15ケ35ｇあり。底部穿孔径5.1cm。
1	23	26	145	土師器底部穿孔二重口縁壺 1/2以上	埋葬施設区画溝内	(15.2)	(6.0)	(15.0)	2.5YR3/6暗赤褐色	良好	暗赤褐色粒含む	外　胴部ハケ後ナデ。一部に輪積痕あり。 内　底部付近ハケ。	外面赤彩。底部穿孔径4.6cm。当古墳出土底部穿孔壺の中で最小。82に似ているが、お互いに胴部が1/2以上存在し接合に至らない。
1	24	27	159	土師器底部穿孔二重口縁壺 頸部～胴部1/4	周溝内				5YR5/6明赤褐色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　胴部粗いハケ 内　胴部ハケ後ナデ。	外面赤彩。内外面器面剥離激しい。他の底部穿孔壺と器型が異なり器厚は薄い。
1	24	28	155	土師器底部穿孔壺 口縁1/2強	s59　周溝部	17.4			2.5YR4/8赤褐色 5YR4/6赤褐(口縁)～10YR5/3(にぶい黄褐色(胴部)	良好	密	外　口縁部ナデ、頸部ハケ後ナデ、胴部ナデ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ、胴部ナデ。	二次加熱によって外面剥離赤彩とぶ。口縁内面赤彩。44とはよく似ているが、口縁がともに1/2以上あり接合に至らない。
1	24	29	35	土師器底部穿孔壺 口縁～胴部大半欠	周溝内	(16.7)			10YR4/6赤色	良好	密（精選されている）	外　口縁部ナデ、頸～胴部ハケ後ナデ。 内　口縁～頸部ナデ、胴部上位指ナデ後ハケ。	内外面赤彩。大型品（棒状浮文付タイプに、非常によく似ている）
1	24	30	32	土師器底部穿孔壺 口縁1/3	墳頂部	19.1			2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　口縁～頸部ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部ハケ。	内外面赤彩。頸部の２条の沈線間に突帯を持つ。
1	24	31	59	土師器底部穿孔壺 口縁5/6	墳頂部周溝内	17.8			5YR5/6明赤褐色	良好	茶褐色粒１㎜大含む	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	二次加熱を受け器面剥離しているが、部分的に赤彩が内外面とも残っている。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
1	24	32	63	土師器底部穿孔壺 口縁3/4以上	s59　周溝部	17.3			10R4/8赤色	良好	密 (茶褐色粒含む)	外　口縁～頸部ナデ。胴部ハケ後ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ。	内外面赤彩。
1	24	33	25	土師器底部穿孔二重口縁壺 口縁1/2強	周溝内	19.1			5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ。	内外面赤彩。
1	24	34	69	土師器底部穿孔壺 口縁一部～頸部1/2	墳丘裾部	(16.8)			2.5YR3/6暗赤褐色 2.5YR4/8赤褐色	良好	密	外　口縁部横ナデ、頸部ハケ後ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ。	内外面赤彩。内外面器面剥離激しい。
1	24	35	36	土師器底部穿孔二重口縁壺 頸部～口縁の3/4(ただし接合せず)	周溝内	(16.4)			2.5YR3/6暗赤褐色 2.5YR3/6暗赤褐～7.5YR6/4にぶい橙色	良好	1㎜大の小石含む	外　口唇部横ナデ、口縁～頸部ナデ後ミガキ。 内　口唇部ナデ、頸部指ナデ。	内外面赤彩。他に接合に至らない同一個体あり。
1	24	36	73	土師器底部穿孔壺 口縁1/8	一括	(16.8)			5YR4/8赤褐色 5YR4/8赤褐～5YR3/4暗赤褐色	良好	褐色粒含む	外　口唇部横ナデ　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	頸部径は21に似るが、質量・赤彩の色調がまるで異なる別個体。
1	24	37	78	土師器底部穿孔壺 口縁1/8	一括	(16.6)			2.5YR4/8赤褐色	良好	密	外　口唇部ハケ後ナデ。 内　口唇部ナデ、口縁部ハケ後ナデ。	内外面赤彩。
1	24	38	31	土師器底部穿孔壺 口縁1/3	一括	(17.4)			2.5YR4/8赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後ナデ。 内　口唇部ナデ。口縁部ハケ後ナデ。	内外面赤彩。
1	24	39	75	土師器底部穿孔壺 口縁1/8	一括	(17.0)			5YR4/4にぶい赤褐色 5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ。	内外面赤彩。器厚が厚く、質量重い。
1	24	40	79	土師器底部穿孔壺 口縁1/10	一括	(15.8)			5YR3/6暗赤褐色 5YR4/6赤褐色	不良	褐色粒含む	外　ナデ。 内　ナデ。	内外面赤彩。
1	24	41	33	土師器底部穿孔壺 口縁1/3	墳頂部	(17.1)			5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁～頸部ナデ。 内　口縁部ナデ。頸部ハケ後ナデ。	口縁部下端厚ぼったい感がする土器。
1	24	42	37	土師器底部穿孔壺 口縁1/4	一括	(17.9)			5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口唇部ナデ、口縁部ハケ後ナデ。	
1	24	43	30	土師器底部穿孔壺 口縁1/3	一括	(17.6)			5YR3/4暗赤褐色 5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、口縁部ハケ後ナデ。 内　口唇部ナデ、口縁部ハケ後ナデ。	内外面赤彩。
1	24	44	157	土師器底部穿孔壺 口縁1/2	周溝内	17.0			2.5YR4/8赤褐色 2.5YR5/8明赤褐色	良好	白色微砂粒多	外　ナデ後篦ミガキ。 内　ナデ後篦ミガキ。	内外面赤彩。28と似るが、口縁が1/2以上存在し接合に至らない。
1	24	45	81	土師器底部穿孔壺 口縁1/8	一括	(8.0)			10R3/6暗赤褐色 10R4/8赤色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	内外面赤彩。外面器面剥離激しく（7.5YR7/6橙色）の器面が露呈する。
1	24	46	160	土師器底部穿孔壺 口縁1/3	一括	(18.0)			2.5YR4/4にぶい赤褐色 2.5YR3/6暗赤褐色	良好	1㎜大の茶褐色粒多量に含む	外　口唇部横ナデ、口縁部ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ。	内外面赤彩。
1	24	47	34	土師器底部穿孔壺 口縁1/4	墳丘裾部	(15.8)			2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　口縁～頸部ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部ハケ後篦ナデ。	ハケ若干残る。
1	24	48	74	土師器底部穿孔壺 口縁1/8	一括	(17.8)			10R4/6赤色 5YR4/6赤褐色	良好	褐色粒1㎜大多量に含む	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ一部ハケ。	内外面赤彩。
1	24	49	84	土師器底部穿孔壺 口縁1/16	一括	(16.0)			2.5YR4/8赤色	良好	1㎜大の橙色粒含む	外　ナデ。 内　ナデ。	内外面赤彩。
1	24	50	77	土師器底部穿孔壺 口縁1/16	周溝内	(16.0)			10R4/6赤色	良好	褐色粒多量に含む	外　口唇部ナデ。 内　口唇部ナデ。	内外面赤彩。
1	24	51	87	土師器底部穿孔壺 口縁1/16	埋葬施設区画溝内	(21.4)			2.5YR4/6赤褐色 2.5YR4/8赤褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	内外面赤彩。口唇部下端、沈線状に造り出す。
1	24	52	76	土師器底部穿孔壺 口縁1/8	一括	(16.0)			5YR6/4赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ	内外面赤彩。
1	24	53	85	土師器底部穿孔壺 口縁1/16	一括	(17.6)			10R4/6赤色	良好	1㎜大の橙色暗赤褐色粒含む	外　ナデ。 内　ナデ。	内外面赤彩。
1	24	54	94	土師器底部穿孔壺 口縁1/16	一括				10R3/6暗赤褐色 10R3/4暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	内外面赤彩。内面器面剥離激しい。
1	25	55	126	土師器底部穿孔壺 頸部1/4	一括				10R4/6赤色	良好	1㎜大の暗褐色粒多く含む	外　頸部ハケ。 内　頸部ハケ。	内外面赤彩。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
1	25	56	128	土師器底部穿孔壺 頸部1/4	周溝内				10R3/6暗赤褐色 10R4/8赤～10YR5/6黄褐色	良好	密	外　頸部ハケ後ナデ（よくハケ残る）。 内　ハケ。	外面全面赤彩。内面赤彩。
1	25	57	133	土師器底部穿孔壺 頸部1/4	墳頂部				5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　頸部ナデ。 内　頸部ハケ後ナデ。	内外面赤彩。
1	25	58	124	土師器底部穿孔壺 頸部1/4	一括				7.5R4/4にぶい赤色 7.5R3/6赤色	良好	褐色粒多	外　頸部粗いハケ。 内　頸部ハケ後ナデ。	内外面赤彩。内面はハケが摩り消される。
1	25	59	125	土師器底部穿孔壺 頸部1/3	一括	(18.8)			2.5YR3/6暗赤褐色 10R4/6赤色	良好	密	外　頸部ナデ後ハケ。 内　頸部ハケ残る。	内面赤彩。器厚く質量がある。
1	25	60	123	土師器底部穿孔壺 頸部1/2弱	周溝内				10R4/6赤色	良好	1㎜大の明褐色粒含む	外　頸部ナデ。 内　頸部ナデ。	内外面赤彩。11の土器に似る。
1	25	61	136	土師器底部穿孔壺 頸部1/4	一括				10R4/8赤色 2.5Y/1黄灰色	良好	密	外　ハケ後ナデ。 内　ナデ。	外面赤彩。内面一部赤彩。
1	25	62	135	土師器底部穿孔壺 頸部1/4	一括				7.5R4/6赤色 7.5R4/8赤～10YR5/4にぶい黄褐色	良好	1㎜大の茶褐色粒含む	外　ハケ後ナデ。 内　指ナデ。	外面赤彩。内面一部赤彩。輪積明瞭。
1	25	63	132	土師器底部穿孔壺 頸部1/5	一括				5YR4/6赤褐色 5YR4/8赤褐色	良好	密	外　頸部ナデ。 内　頸部篦ミガキ後ナデ。	内外面赤彩。
1	25	64	122	土師器底部穿孔壺 頸部1/4	一括				10R4/6赤色 7.5R3/2暗赤褐色	良好	褐色粒多	外　頸部ハケ後篦ナデ。 内　頸部ハケ後雑な篦ミガキ。	内外面赤彩。
1	25	65	68	土師器底部穿孔二重口縁壺 口縁1/16	一括	(16.8)			5YR4/6赤褐色	良好	褐色微砂粒多	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	内外面赤彩。口径やや小ぶり。
1	25	66	72	土師器底部穿孔二重口縁壺 口縁の1/4	埋葬施設区画溝内	(23.0)			2.5YR3/6暗赤褐色 2.5YR3/6暗赤褐～2.5YR5/6明赤褐色	良好	2㎜大の石含む	外　口縁部ナデ。 内　口縁部横ナデ、頸部ハケ後篦ナデ、一部にハケ残る。	内外面赤彩。器厚に特徴がある。
1	25	67	66	土師器底部穿孔二重口縁壺 口縁1/6	周溝内	(18.4)			2.5YR3/6暗赤褐色 2.5YR4/8赤褐色	良好	茶褐色粒1㎜大含む	外　口縁部横ナデ。 内　口縁部ナデ、一部ミガキ。	内外面赤彩。
1	25	68	28	土師器底部穿孔二重口縁壺 口縁1/16	周溝内	(19.2)			10R4/8赤色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	内外面赤彩。
1	25	69	65	土師器底部穿孔二重口縁壺 口縁の1/3	埋葬施設区画溝内	(23.0)			2.5YR3/6暗赤褐色 2.5YR6/8赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口唇部ナデ、口縁部ハケ。	内外面赤彩。器厚の薄い壺。
1	25	70	62	土師器底部穿孔二重口縁壺 胴部全欠	墳頂部周溝内	17.5		(6.2)	10YR6/4赤～5YR5/6橙色	良好	茶褐色粒1㎜大含む	外　口縁部横ナデ。 内　口縁部ハケ後横ナデ。	内外面赤彩。
1	25	71	71	土師器底部穿孔壺 口縁1/8	一括	(18.6)			10R4/8赤色	良好	褐色粒多量に含む	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	内外面赤彩。器面剥離激しい。
1	25	72	64	土師器底部穿孔壺 口縁3/4(接合せず)	s59　周溝部	18.5			10R4/8赤色	良好	茶褐色粒含む	外　口縁部ナデ、頸部ハケ後ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ。	内外面みごとな赤彩。口唇部は摘み上げて仕上げる。
1	25	73	100	土師器底部穿孔二重口縁壺 口縁1/8	一括				5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	内外面赤彩。
1	25	74	99	土師器底部穿孔二重口縁壺 口縁1/16	s59　周溝部	(9.2)			10R4/6赤色 10R4/8赤色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	内外面赤彩。
1	25	75	98	土師器底部穿孔二重口縁壺 口縁1/16	一括	(22.6)			7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	大型品。二次加熱を受けている。
1	25	76	131	土師器底部穿孔壺 頸部1/4	一括				2.5YR4/8赤褐色 5YR4/8赤褐～7.5YR6/6橙色	良好	密	外　頸部ナデ。 内　頸部ナデ。	器厚の薄さから、二重口縁と推定する。
1	25	77	67	土師器底部穿孔壺 頸部1/8	周溝内	(19.0)			10R4/6赤色	良好	暗赤色粒多量に含む	外　口縁部ハケ後ナデ、頸部ナデ。 内　口縁～頸部ハケ後ナデ、一部にハケ残る。	内外面赤彩。内面器面剥離激しい。
1	25	78	82	土師器底部穿孔二重口縁壺 口縁1/16	一括				2.5YR4/6赤褐色 2.5YR4/8赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	内外面赤彩。
1	25	79	158	土師器底部穿孔壺 頸部1/4	周溝内				10R4/6赤色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　頸～胴部ハケ後ナデ。 内　胴部篦ナデ、輪積痕明瞭。	外面赤彩。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
1	25	80	156	土師器底部穿孔壺 胴部1/4	周溝内				2.5YR6/8明赤褐色 7.5Y5/1灰色	良好	微砂粒多	外　頸部ナデ、胴部ハケ後ナデ。 内　ナデ。	器厚極めて薄く外面のハケ目細かい。 28の土器に似るが、内面の色調が異なる。
1	26	81	167	土師器底部穿孔二重口縁壺 底部～胴部1/8	周溝内		(6.4)		7.5YR6/8橙色 7.5YR5/2灰褐色	良好	小石多	外　ハケ後ナデ。 内　ナデ胴部下位篦ミガキ状のナデ。	外面赤彩。二次加熱によって外面の赤彩がとぶ。 23と似るが、穿孔径が異なるため別個体。
1	26	82	146	土師器底部穿孔壺 底部3/4～胴部の一部	埋葬施設区画溝内		6.3		2.5YR4/8赤褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	赤褐色１㎜大粒含む	外　胴部ハケ後ナデ。下端ケズリ後ナデ。 内　胴部輪積明瞭。下端ハケ後篦ナデ、一部篦ミガキ。	外面赤彩。胴部最大径15.0cm。底部穿孔径4.8cm。 26と似ているが別個体。
1	26	83	60	土師器底部穿孔二重口縁壺 底部のみ完存	周溝内		8.1		2.5YR5/6明赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	茶褐色粒含む	外　底部篦ケズリに近い雑なナデ。 内　底部Ｂ種横ハケ状のハケ。	外面赤彩。底部穿孔径3.8cm。大型品と推定される。他に接合に至らぬ同一個体21ヶ644ｇあり。
1	26	84	104	土師器底部穿孔壺 底部1/5	S59　周溝部		(8.0)		7.5R4/6赤色 5YR6/8赤褐～2.5YR4/8赤褐色	良好	密	外　底部ケズリ後ナデ。 内　底部ハケ後篦ナデ、一部に輪積痕残る。	内外面赤彩。底部穿孔径（6.2cm）。
1	26	85	61	土師器底部穿孔壺 底部1/2	墳頂部				2.5YR4/4にぶい赤褐色 2.5YR4/3にぶい褐色	良好	密	外　底部ナデ。 内　底部ハケ後ナデ。	内面器面剥離激しい。底部穿孔径4.4cm。接合に至らない同一個体あり。
1	26	86	154	土師器底部穿孔壺 底部1/8	一括		(9.6)		5YR4/6赤褐色	良好	１㎜大の暗赤褐色粒含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	底部から大型壺と推定。底部穿孔径（6.4cm）。
1	26	87	103	土師器底部穿孔壺 底部1/2強	墳丘内	6.4			10R3/6暗赤褐色 5YR6/6橙色	良好	密	外　底部ハケ。 内　底部ハケ。	外面赤彩。底部穿孔径5.1cm。
1	26	88	153	土師器底部穿孔壺 底部1/8	一括		7.0		5YR3/4暗赤褐色	良好	微砂粒含む	外　ハケ後ナデ。 内　篦ナデ。	中型の壺。底部穿孔径5.4cm。
1	26	89	108	土師器底部穿孔壺 底部1/5	一括		(5.8)		5YR4/6赤褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　底部ハケ後ナデ。 内　ハケ後ナデ。	外面赤彩。底部としての面を殆ど持たない。底部穿孔径（5.6cm）。
1	26	90	111	土師器底部穿孔壺 底部1/4	S59　周溝部		(8.2)		5YR4/6赤褐色	良好	密	外　底部ケズリ後ナデ。 内　底部ハケ。	底部穿孔径（6.4cm）。
1	26	91	113	土師器底部穿孔壺 底部1/8	一括		(9.0)		5YR5/6明赤褐色 5YR4/8赤褐色	良好	密	外　底部ケズリ後ナデ。 内　底部ハケ。	大型品に属する。底部穿孔径（7.4cm）。
1	26	92	110	土師器底部穿孔二重口縁壺 底部1/8	一括		(6.2)		5YR4/6赤褐色 10YR4/6黄褐色	良好	密	外　底部ケズリ後ナデ。 内　底部ハケ。	外面赤彩。内面一部赤彩。おそらく二重口縁壺の底部。 底部穿孔径（4.7cm）。
1	26	93	114	土師器底部穿孔壺 底部1/6	一括		(6.4)		5YR3/6暗赤褐色 5YR4/6赤褐色	良好	密	外　ハケ後ナデ。 内　底部ハケ。	外面赤彩。底部穿孔径（5.4cm）。
1	26	94	115	土師器底部穿孔壺 底部1/6	墳頂部		(5.2)		5YR4/4にぶい赤褐色 7.5YR5/6明褐色	良好	明褐色微砂粒多い	外　底部ケズリ後ナデ。 内　底部ハケ後ナデ。	外面赤彩。底部穿孔径（4.2cm）。
1	26	95	120	土師器底部穿孔壺 底部1/8	一括		(5.8)		10R4/6赤色 10YR6/6明黄褐色	良好	密	外　底部ハケ後ケズリ。 内　底部ハケ。	内面器面剥離激しく、外面赤彩。底部の突出は後に粘土紐を貼り付けている。底部穿孔径4.2cm。
1	26	96	117	土師器底部穿孔二重口縁壺 底部1/5	一括		(6.8)		5YR4/6赤褐色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　底部ケズリ。 内　底部一部ハケ。	二重口縁壺の底部と推定。外面赤彩。底部穿孔径（5.4cm）。
1	26	97	168	土師器底部穿孔壺	周溝内				2.5YR4/8赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	茶褐色粒含む	外　ハケ。 内　Ｂ種横ハケ状のハケ調整。	外面赤彩。
1	26	98	172	土師器底部穿孔壺	周溝内				2.5YR4/8赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	茶褐色粒含む	外　ハケ後ナデ 内　Ｂ種横ハケ状のハケ調整。	外面赤彩。
1	26	99	185	土師器底部穿孔壺	一括				10R4/6赤色 2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ。	外面赤彩。
1	27	100	169	土師器底部穿孔壺	一括				10R3/6暗赤褐色 5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ハケ、輪積痕明瞭。	大型品。最大径25.4cmと推定。103と同一個体
1	27	101	176	土師器底部穿孔壺	一括				5YR4/4にぶい赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ。	外面赤彩。
1	27	102	192	土師器底部穿孔壺	一括				10R4/8赤色 2.5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　ハケ。 内　輪積明瞭。	外面赤彩。
1	27	103	186	土師器底部穿孔壺	一括				10R4/6赤色 2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ。	外面赤彩。100と同一個体。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
1	27	104	201	土師器底部穿孔壺	墳頂部				5YR4/4にぶい赤褐色 7.5YR4/6褐色	良好	密	外　ハケ。 内　B種横ハケ状のハケ調整。輪積明瞭。	外面赤彩。99と同一個体
1	27	105	174	土師器底部穿孔壺	一括				10R3/6暗赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ。	
1	27	106	197	土師器底部穿孔壺	一括				10R4/6赤色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　ハケ。 内　B種横ハケ状ハケ後ナデ。	外面赤彩。
1	27	107	189	土師器底部穿孔壺	周溝内				10R3/6暗赤色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ後指ナデ、輪積痕残る。	外面赤彩。
1	27	108	177	土師器底部穿孔壺	一括				5YR4/4にぶい赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ。	
1	27	109	184	土師器底部穿孔壺	一括				2.5YR3/6暗赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ。	外面赤彩。
1	27	110	171	土師器底部穿孔壺	一括				2.5YR4/8赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	茶褐色粒含む	外　ハケ後ナデ。 内　B種横ハケ状のハケ調整。	外面赤彩。84と同一個体。
1	27	111	182	土師器底部穿孔壺	一括				7.5YR5/6明褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ。	
1	27	112	193	土師器底部穿孔壺	一括				10R4/8赤色 2.5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　ハケ。 内　輪積。	外面赤彩。
1	27	113	187	土師器底部穿孔壺	一括				7.5YR4/6褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ、輪積痕残る。	外面ハケメ内に赤彩残る。
1	27	114	181	土師器底部穿孔壺	一括				5YR3/4暗赤褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ。	
1	27	115	175	土師器底部穿孔壺	一括				10R3/6暗赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　ハケ後ナデ。 内　ハケ。	
1	27	116	191	土師器底部穿孔壺	一括				10R4/8赤色 2.5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　ハケ。 内　粗いナデ。	外面赤彩。
1	27	117	180	土師器底部穿孔壺	一括				10R4/6赤色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ。	外面赤彩。
1	27	118	170	土師器底部穿孔壺	一括				2.5YR3/4暗赤褐色 5YR4/6赤褐～5YR2/2黒褐色	良好	密	外　ナデ。 内　粗いハケ状工具で接合痕を調整する。	外面赤彩。
1	27	119	190	土師器底部穿孔壺	一括				2.5YR4/6赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ。	外面赤彩。
1	27	120	194	土師器底部穿孔壺	一括				10R4/8赤色 2.5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　ハケ。 内　輪積。	外面赤彩。
1	27	121	199	土師器底部穿孔壺	周溝内				10R4/6赤色 10YR5/2灰黄褐色	良好	密	外　ハケ後ナデ。 内　ハケ後ナデ。	外面赤彩。
1	27	122	179	土師器底部穿孔壺	周溝内				5YR4/6赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ。	外面赤彩。
1	27	123	183	土師器底部穿孔壺	周溝内				2.5YR4/6赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ。	外面赤彩。
1	27	124	173	土師器底部穿孔壺	一括				2.5YR5/6明赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	茶褐色粒含む	外　ハケ。 内　B種横ハケ状のハケ調整。	外面赤彩。
1	27	125	178	土師器底部穿孔壺	一括				5YR3/6暗赤褐色 7.5YR4/6褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ。	
1	27	126	196	土師器底部穿孔壺	周溝内				5YR4/6赤褐色	良好	密	外　ハケ後ナデ。 内　ナデ。	
1	28	127	4	土師器甕　1/2弱	周溝内	(18.0)	(7.0)	25.3	7.5YR6/6橙～5YR1.7/1黒色 7.5YR6/6橙色	良好	微砂粒含む	外　口縁部ナデ、胴部ハケ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面胴部下端は器面剥離激しい。胴部最大径（26.5cm）。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
1	28	128	7	土師器甕　口縁1/3強	s59　周溝部	(24.3)			7.5YR2/2黒褐色 7.5YR3/4暗赤褐色	良好	密	外　口縁～頸部ハケ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ハケ。	
1	28	129	57	土師器甕　口縁一部 胴部1/2強	s59　周溝部	(16.2)			7.5YR4/6褐色	良好	密	外　頸部粗いハケ後ミガキもハケも残る。胴部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ？、頸部篦ナデ。	内面器面剥離激しく不明。
1	28	130	208	土師器甕　口縁1/2	墳丘内	(17.3)			5YR3/1黒褐～7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	1㎜大の小石をやや多く含む	外　口縁部ナデ、頸部ハケ。 内　口縁部ナデ、頸部ハケ。	
1	28	131	18	土師器壺　口縁3/4	s59　周溝部	17.2			5YR4/8赤褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁。刻み目。口縁部ハケ後篦ミガキ。 内　口縁部ハケ後篦ミガキ。	
1	28	132	56	土師器甕　胴部1/2	周溝内付近		7.0		7.5YR3/1黒褐(主体)～3/6明褐色	良好	密 (非常に精選されている)	外　肩部ハケ後篦ミガキ。底部から胴部中位篦ナデ。 内　胴部中位篦ナデ後全面篦ミガキ（光沢がでるほど丁寧)。	
1	28	133	217	弥生甕　胴部2/3以上 底部全欠	s59　周溝部				7.5YR3/4褐～7.5YR2/3極暗褐色 7.5YR4/4褐～7.5YR 暗褐色	良好	密	外　胴部ハケ後篦ナデ。 内　胴部篦ナデ。	
1	28	134	214	弥生甕 底部完存～胴部1/4強	s59　周溝部		7.7	10.6	10YR5/3にぶい黄褐色 10YR5/2灰黄褐色	やや不良	微砂粒多	外　篦ナデ後篦ミガキ。	外面胴部下位で強く屈曲する。内面器面剥離激しく不明。
1	28	135	51	土師器台付甕 脚部ほぼ完存	s59　周溝部				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　脚部篦ナデ、裾部篦ナデ。 内　脚部粗いハケ、底部ハケ。	脚部取り付け痕明瞭に残る。
1	28	136	55	土師器坩　口縁の1/2弱	周溝内	(9.6)			7.5YR3/3暗褐色	良好	密 (非常に精選されている)	外　口縁部篦ナデ後ミガキ。胴部縦方向のミガキ後暗文状のミガキが入る。 内　口縁～頸部ナデ後篦ナデ。	内面胴部以下剥離激しく不明。
1	28	137	10	土師器坩　底部全欠	埋葬施設区画溝内	9.5	(3.7 前後)	(20.7)	7.5YR7/6橙色	良好	密 (非常に精選されている)	外　非常に丁寧な篦ミガキ（光沢あり)。 内　丁寧な篦ミガキ。胴部篦ナデ後篦ミガキ。	胴部内面の篦ミガキにより底部穿孔の可能性がある。
1	28	138	9	土師器坩　底部全欠	埋葬施設区画溝内				2.5YR5/6明赤褐色	良好	2㎜大の暗赤褐色粒含む	外　口縁～頸部ハケ。胴部ハケ後ナデ。 内　口縁～頸部篦ナデ。	底部穿孔径2.9cm。
1	28	139	24	土師器坩　口縁胴部一部欠	s59　周溝部	7.7	3.6	13.3	7.5YR6/6橙色	良好	黒色砂粒含む	外　ハケ後篦ミガキ。底部篦ケズリ後ナデ、一部に篦ミガキ。 内　頸部粗いハケ後ナデ。胴部篦ナデ。	外面胴部は掻取り状の強いミガキ。底部の輪積痕よりややひしゃげる。頸部内面は輪積痕が明僚で、底部には粗いハケ調整が施される。
1	28	140	54	土師器坩 胴部1/3～口縁1/8	s59　周溝部	11.0			10R4/8赤色 10R4/8赤～10YR4/2灰黄褐色	良好	密 (非常に精選されている)	外　口唇部ナデ、他全面篦ミガキ。 内　口縁部ナデ～篦ミガキ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。輪積明瞭。
1	29	141	19	土師器高坏　口縁一部欠	s59　周溝部	18.0	9.6	11.4	2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部横ナデ。坏部篦ミガキ。脚部は篦ケズリ後篦ミガキ。 内　坏部ハケ後篦ミガキ。	内外面赤彩。脚部内面のみ無彩。 非常に丁寧な篦ミガキが施される。
1	29	142	22	土師器高坏　坏部4/5欠	s59　周溝部	(13.1)	7.1		5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　坏部ナデ後篦ミガキ。脚部ハケ後篦ミガキ。一部にハケ残る。 内　ナデ後篦ミガキ。脚部裾面取り。	内外面光沢あり。胴部最大径11.2cm。 器厚は極めて薄く、とても丁寧な造りの土器である。
1	29	143	21	土師器高坏　坏部2/3 脚部一部欠	s59　周溝部	(12.4)	6.4	10.1	5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　ハケ後篦ミガキ。 内　坏部ハケ後篦ミガキ。脚部裾は面取り。	最終調整は篦ミガキであるが、光沢をだすまでは至らない。
1	29	144	49	土師器高坏　坏部全欠 脚部2/3強	s59　周溝部		6.8		7.5YR4/6褐色	良好	密	外　脚部篦ナデ後篦ミガキ。 内　脚部篦ナデ。	内外面赤彩。
1	29	145	47	土師器高坏　坏部 脚裾部全欠	一括		(8.3)		10R3/6暗赤褐色	良好	密 (非常に精選されている)	外　脚部横方向の篦ナデ後縦方向の細かい篦ミガキ。 内　脚部不明おそらくナデ。	内外面赤彩。器面の光沢が失なわれた箇所は器面が荒れ、下位の横方向のナデが露程している。
1	29	146	20	土師器高坏　口縁1/3欠	s59　周溝部	13.2	6.9	7.0	5YR4/8赤褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　篦ケズリ後篦ミガキ。 内　縦方向の篦ミガキ。脚裾部は面取り。	
1	29	147	44	土師器高坏　脚部のみ	周溝内				7.5YR6/6橙色 7.5YR6/6橙～2.5YR4/6赤褐色	良	密		柱状高坏。内外面器面剥離激しく不明（おそらくは篦ミガキ）外面に赤彩痕跡あり。
1	29	148	48	土師器器台　脚裾部全欠	周溝内	8.2			5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、体部ハケ後篦ミガキ、一部篦ナデ。脚部篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
1	29	149	52	土師器	埋葬施設区画溝内	8.4			5YR4/6赤褐色	良好	微砂粒多	外　口唇部ナデ、体部篦ナデ。 内　口唇部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
1	29	150	11	土師器坏(鉢) 底部及び口縁の一部欠	埋葬施設区画溝内	16.6	4.9	5.5	10YR4/6赤色	良好	密	外　口唇部横ナデ、体部ナデ。 内　口唇部横ナデ、体部ナデ。	内外面赤彩。底部木葉痕あり。
1	29	151	12	土師器坏(鉢)　口縁1/3欠	埋葬施設区画溝内	14.4	6.4	5.5	10YR4/6赤色	良好	密	外　口縁部横ナデ。体部ハケ後篦ナデ（一部ハケ残る)。 内　口縁部丁寧なナデ。	底部木葉痕あり。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
1	29	152	23	土師器高坏　脚部1/2弱	一括				2.5YR4/8赤褐色 10YR6/6明黄褐色	良好	密 (小砂粒を若干含む)	外　脚部篦ミガキ。 内　脚部篦ナデ。	外面赤彩。脚の三方に穿孔。
1	29	153	46	土師器高坏　脚部の一部	s59　周溝部				5YR4/6赤褐色 5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　脚部篦ミガキ。 内　脚部篦ナデ。	
1	29	154	43	土師器器台　脚部の一部	周溝内				7.5YR6/6橙色 10YR3/4暗褐色	良好	密	外　脚部篦磨き。 内　脚部棒状工具による掻き取り。裾ナデ。	三方円形透かし孔。
1	29	155	50	土師器器台　脚部の一部	s59　周溝部				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　脚部篦ミガキ。 内　脚部篦ナデ。	
1	29	156	8	土師器坏(鉢)　底部全欠 全体の1/2	埋葬施設区画溝内	15.1			10YR4/6赤色	良好	密	外　口縁部横ナデ。体部丁寧なナデ。 内　口縁部横ナデ。体部丁寧なナデ。	全体的につくり丁寧。
1	29	157	213	土師器甕 底部～胴部1/2強	周溝内	4.6			7.5YR3/3暗褐色 7.5YR5/3にぶい褐色		密	外　胴～底部篦ケズリ。 内　胴部篦ナデ。	器厚が非常に薄い。
1	29	158	206	土師器坏 底部全欠～口縁1/3欠	周溝内	11.5		(5.5)	7.5YR4/4褐～7.5YR3/1黒褐色 7.5YR3/1黒褐色	やや不良	赤褐色粒　1㎜大の小石を含む	外　胴部雑な篦ケズリ。 内　胴部篦ナデ。	雑な造りの土器。
1	29	159	205	土師器 口縁の大半を欠	s59　周溝部	(12.0)	3.1	7.6	7.5YR3/3暗褐色	やや不良	茶褐色粒多量に含む	外　篦ケズリ。 内　器面剥離激しく不明。	接合に至らぬ同一個体多数あり。
1	29	160	220	弥生小型甕 口縁～胴部中位全欠	一括		4.8		7.5YR3/4褐色	良好	密	外　篦ナデ 内　篦ナデ	
1	29	161	221	弥生小型甕 口縁～胴部中位全欠	s59　周溝部		4.8		7.5YR4/4褐色 7.5YR4/3褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　雑な篦ナデ。	
1	29	162	207	土師器高坏　脚部のみ	一括				7.5YR5/4にぶい褐～7.5YR2/2黒褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　脚部篦ケズリ、裾部ナデ。 内　脚部内面篦ケズリ～カキトリぎみの篦ケズリ。裾部ナデ。	
1	29	163	203	土師器坏　口縁1/3欠	s59　周溝部	11.3		4.3	10YR2/2黒褐色 10YR3/2黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、坏部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ後ミガキ。	
1	29	164	211	須恵器坏蓋　全体1/8	s59　周溝部	10.4		3.8	5Y5/2灰オリーブ色	良好	密	外　ロクロ、天井部回転篦ケズリ。 内　ロクロ。	ロクロ水びき。
1	29	165	380	須恵器・長頸壺	s59　周溝部								遺物行方不明の為。
1	29	166	204	土師器高坏 脚部完存裾部2/3欠	周溝内		(10.6)		2.5YR4/6赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐～5Y3/1オリーブ黒色	良好	密	外　脚部篦ケズリ、裾部ナデ。 内　脚部篦ナデ。	外面赤彩。
1	29	167	209	須恵器坏　全体1/2強	周溝内	12.5	8.3	3.65	10Y5/1灰色	良好	密	外　ロクロ、底部回転糸切り後篦ケズリ。 内　ロクロ。	
1	29	168	212	近世陶器皿　1/2	一括	12.9	7.0	2.7	7.5Y6/1灰色 10Y5/2オリーブ灰色	良好	密	外　ロクロ、底部回転篦ケズリ後高台貼り付け。 内　ロクロ、灰釉。	瀬戸美濃系。内面に重ね焼き痕あり。
1	30	181	226	弥生甕 口縁～胴部の一部欠	周溝内	22.7	6.7	23.4	7.5YR3/1黒褐色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部指頭押捺状文～６段の輪積。胴部篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	口唇部波状文内に指文残る。
1	30	182	219	弥生鉢　口縁～底部1/4	一括	(23.0)	(9.0)	11.6	5YR3/6暗赤褐色 5YR3/6暗赤褐～5YR2/4極赤褐色		密	外　口縁部篦ミガキ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部篦ナデ後篦ミガキ、体部中位以下篦ナデ。	内外面赤彩、内面器面剥離激しい。 外面に製作者の左手親指爪圧痕あり。
1	30	183	222	弥生鉢　口縁1/4	一括	(26.4)			5YR5/6明赤褐色 5YR4/4にぶい赤褐色		密	外　口唇部に４条のＳ字状結節文。胴部に13条以上のＳ字状結節文を施す。 内　篦ミガキ、原体押捺文。	内面赤彩の痕跡あり。
1	30	184	216	弥生甕 底部一部欠～胴部下位1/3	s59　周溝部		12.0		7.5YR3/4褐色 10YR4/2灰黄褐色		密	外　胴部篦ナデ、底部篦ケズリ後篦ナデ。 内　胴部一部篦ナデ後篦ミガキ。	外面赤彩。
1	30	185	215	弥生甕　底部	s59　周溝部		6.6	9.5	10YR3/3暗褐色		橙色の微砂粒多(砂っぽい)	外　篦ナデ。 内　細かい篦ナデ。	
1	30	186	325	弥生甕　底部	墳丘下一括		8.0		5YR5/6明赤褐色 5YR5/8明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。	内面器面剥離激しい。 レベル的にはＦ区遺構外だが、墳丘下の可能性がある。
1	30	187	53	弥生鉢　口縁の1/4	周溝内	(24.0)			7.5YR6/6橙～7.5YR4/2灰褐色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部に細縄文を施す。体部篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
1	30	188	218	弥生鉢 口縁一部～底部1/2欠	一括	17.9	4.8	7.4	2.5YR3/6暗赤褐色 2.5YR4/8赤褐色		乳白色微砂粒多	外　口縁部２段の細縄文、沈線以下篦ナデ、一部篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
1	30	189	227	弥生鉢　ほぼ完形	周溝内	12.2	3.0	6.8	7.5YR4/6褐色		密	外　胴部篦ナデ、底部付近篦ケズリ。 内　ナデ。	底部突出。
1	30	190	224	弥生甕　底部完存	墳丘内		5.5		7.5YR5/6明褐色		橙色の微砂粒多量に含む	外　ハケ。 内　篦ナデ。	焼成後底部穿孔。穿孔径1.3～0.6cm。
1	30	191	223	弥生鉢　口縁部	周溝内				5YR5/6明赤褐色 2.5YR3/6暗赤褐色		密	外　口縁部Ｓ字状結節文による網目状文と原体押捺が施される。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
1	31	192	225	弥生底部穿孔甕　底部完存	周溝内		5.9		5YR5/6明赤褐色 7.5YR4/1褐灰色		密	外　ハケ後篦ナデ。 内　粗い篦ナデ。	焼成後底部穿孔。孔径1.4～0.6cm。
1	31	193	317	弥生甕　底部完存	墳丘下一括		5.0		7.5YR6/6橙色 7.5YR5/2灰褐色		(１㎜大) 乳白色粒多量に含む	外　篦ケズリ 内　粗い篦ナデ。	１号墳墳丘下Ｆ区（旧表土陥没面）出土土器。
1	31	194	314	弥生壺　底部完存	埋葬施設区画溝内		5.0		5YR3/6暗赤褐色 7.5YR6/6橙～7.5YR3/2黒褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。	内面器面剥離激しい。 １号墳墳丘下Ｆ区（旧表土陥没面）出土土器。
1	31	195	316	弥生壺　底部中央部欠	墳丘下一括		7.4		5YR4/6暗赤褐色 7.5YR3/3暗褐色	良好	１㎜大の褐色粒多量に含む	外　篦ナデ。	内面器面剥離激しい。 １号墳墳丘下Ｆ区（旧表土陥没面）出土土器。
1	31	196	313	弥生甕　底部完存	墳丘下 盛土開始面		6.6		5YR3/2暗赤褐色 7.5YR4/3褐色	良好	微砂粒多 (砂ぽい)	外　篦ナデ後粗い篦ミガキ状の篦ナデ。	外面赤彩。内面磨耗のため不明。 １号墳墳丘下Ｆ区（旧表土陥没面）出土土器。
1	31	197	315	弥生甕　底部完存	墳丘下 盛土開始面				7.5YR3/1黒褐～7.5YR5/4にぶい褐色　7.5YR5/4にぶい褐～5YR4/6赤褐色	良好	乳白色粒少量含む（密）	外　篦ナデ後一部篦ミガキ。	内面器面剥離激しい。 １号墳墳丘下Ｆ区（旧表土陥没面）出土土器。
1	31	198	241	縄文深鉢　口縁部	墳丘盛土内 一括				7.5YR4/6黄褐色	良好	密	外　口唇肥厚、口唇上 LR・外 LR・胴撚糸文、頸部無文。	01群
1	31	199	239	縄文深鉢　口縁部	墳丘盛土内 一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇屈曲。口唇上・胴 RL。	01群
1	31	200	249	縄文深鉢　口縁部	墳丘盛土内 一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口唇屈曲。口唇内・外・胴撚糸文 r。	01群
1	31	201	234	縄文深鉢　口縁部	墳丘盛土内 一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　撚糸文 r。	01群
1	31	202	236	縄文深鉢　口縁部	墳丘盛土内 一括				7.5YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇やや肥厚・無文、撚糸文 r。	01群
1	31	203	246	縄文深鉢　口縁部	墳丘盛土内 一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　撚糸文 r。	01群
1	31	204	237	縄文深鉢　口縁部	墳丘盛土内 一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇やや肥厚、胴 RL。	01群
1	31	205	245	縄文深鉢　口縁部	墳丘盛土内 一括				10YR5/2灰黄褐色	良好	密	外　撚糸文 l。	01群
1	31	206	235	縄文深鉢　口縁部	墳丘盛土内 一括				10YR5/2灰黄褐色	良好	密	外　口唇やや肥厚・面取り、胴 RL 粗。	01群
1	31	207	250	縄文深鉢　口縁部	墳丘盛土内 一括				5YR3/4暗赤褐色	良好	密	外　RL。	01群
1	31	208	243	縄文深鉢　口縁部	墳丘盛土内 一括				5YR3/4暗赤褐色	良好	密	外　RL。	01群
1	31	209	248	縄文深鉢　口縁部	墳丘盛土内 一括				10YR5/2灰黄褐色	良好	密	外　RL ヨコ。	01群
1	31	210	238	縄文深鉢　口縁部	墳丘盛土内 一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　撚糸文 r。	01群
1	31	211	240	縄文深鉢　口縁部	墳丘盛土内 一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　撚糸文 r。	01群

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
1	31	212	229	縄文深鉢　口縁部	墳丘盛土内一括				7.5YR5/4橙色	良好	密	外　撚糸文ｒ粗。	01群。216と同一？
1	31	213	232	縄文深鉢　口縁部	墳丘盛土内一括				10YR4/1褐灰色	良好	密	外　撚糸文ｒ、条の末端痕跡あり。	01群。214と接合
1	31	214	251	縄文深鉢　口縁部	墳丘盛土内一括				10YR4/1褐灰色	良好	密	外　上端原体圧痕、胴撚糸文。	01群。213と接合
1	31	215	228	縄文深鉢　口縁部	墳丘盛土内一括				7.5YR5/4橙色	良好	密	外　口唇やや屈曲、縄文、RL？。	01群
1	31	216	244	縄文深鉢　口縁部	墳丘盛土内一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　撚糸文ｒ。	01群。212と同一？
1	31	217	247	縄文深鉢　口縁部	墳丘盛土内一括				10YR5/2灰黄褐色	良好	密	外　撚糸文ｒ。	01群
1	31	218	242	縄文深鉢　口縁部	墳丘盛土内一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　RL。	01群。補修孔未貫通
1	31	219	231	縄文深鉢　口縁部	墳丘盛土内一括				7.5YR5/4橙色	良好	密	外　RL。	01群
1	31	220	255	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　RL。	01群
1	31	221	261	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内一括				5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　RL。	01群
1	31	222	230	縄文深鉢　口縁部	周溝内				7.5YR5/4橙色	良好	密	外　撚糸文ｒ。	01群
1	31	223	233	縄文深鉢　口縁部	墳丘盛土内一括				10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　縄文、原体？。	01群
1	31	224	268	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内一括				7.5YR5/2灰褐色	良好	密	外　RL。	01群
1	31	225	254	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内一括				5YR4/6赤褐色	良好	密	外　RL ヨコ。	01群
1	31	226	260	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　RL。	01群
1	31	227	259	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　RL。	01群
1	31	228	252	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　縄文、原体？	01群
1	31	229	253	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　縄文、原体？	01群
1	31	230	262	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　RL。	01群
1	31	231	264	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　撚糸文ｌ。	01群
1	31	232	266	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　撚糸文ｒ重畳施文。	01群
1	31	233	263	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内一括				7.5YR3/4暗褐色	良好	密	外　RL。	？群。時期不明、早期撚糸文系？
1	31	234	256	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　撚糸文ｒ。	？群。時期不明、早期撚糸文系？
1	31	235	265	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内一括				7.5YR3/4暗褐色	良好	密	外　撚糸文ｒ。	01群

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
1	31	236	257	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　撚糸文r。	01群
1	31	237	258	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　撚糸文r。	01群
1	31	238	267	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　撚糸文r。	01群
1	31	239	298	縄文深鉢　口縁部	墳丘盛土内一括				10YR4/2灰黄褐色	良好	1～2㎜大の小石多く含む	外　口縁部沈線帯文、刺突文。	02群
1	32	240	273	縄文深鉢　口縁部	墳丘盛土内一括				5YR4/6赤褐色	良好	繊維含む	外　隆帯。 内　擦痕。	03群
1	32	241	274	縄文深鉢　口縁部	墳丘盛土内一括				5YR4/6赤褐色	良好	繊維含む	外　隆帯上刺突。 内　ナデ。	03群
1	32	242	269	縄文深鉢　口縁部	周溝内				7.5YR3/4暗褐色	良好	繊維含む	外　口唇上・隆帯上刻み。 内　擦痕。	03群
1	32	243	280	縄文深鉢　口縁部	墳丘盛土内一括				5YR4/4にぶい赤褐色	良好	繊維含む	外　隆帯。 内　剥離。	03群
1	32	244	271	縄文深鉢　口縁部	墳丘盛土内一括				10YR5/6黄褐色	良好	繊維含む	外　貝殻腹縁圧痕文。 内　条痕。	03群。244・248・254同一か
1	32	245	272	縄文深鉢　口縁部	墳丘盛土内一括				7.5YR3/4暗褐色	良好	繊維含む　断面黒色	外　隆帯上原体圧痕、やや引く。 内　条痕。	03群
1	32	246	270	縄文深鉢　口縁部	墳丘盛土内一括				5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口唇・隆帯上原体圧痕、押引文。 内　ナデ。	03群。繊維なし
1	32	247	292	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
1	32	248	287	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内一括				10YR5/4にぶい褐色	良好	繊維含む	外　隆帯上貝殻腹縁圧痕。 内　擦痕。	03群。244・248・254同一か
1	32	249	283	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　微隆帯に絡状体圧痕。 内　擦痕。	03群
1	32	250	282	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内一括				10YR4/2灰黄褐色	良好	微砂粒多	外　微隆帯上押引文。 内　ナデ。	03群。繊維なし
1	32	251	279	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　隆帯、凹線、押引文、円形刺突。 内　条痕。	03群
1	32	252	275	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内一括				7.5YR6/4褐色	良好	繊維含む	外　隆帯、条痕。 内　ナデ。	03群。繊維少ない
1	32	253	281	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内一括				5YR4/4にぶい赤褐色	良好	繊維ほとんど含まない	外　微隆帯、粗いナデ。 内　条痕。	03群
1	32	254	276	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	繊維含む	外　微隆帯上貝殻腹縁圧痕。 内　条痕。	03群。244・248・254同一か
1	32	255	278	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内一括				7.5YR3/4暗褐色	良好	繊維含む	外　平行沈線区画、沈線充填。 内　ナデ。	03群
1	32	256	277	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内一括				7.5YR3/4暗褐色	良好	繊維含まない	外　隆帯上刺突。 内　条痕。	03群。繊維なし
1	32	257	291	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内一括				7.5YR4/3褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群。内面炭化物付着
1	32	258	289	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内一括				7.5YR4/3褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
1	32	259	290	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
1	32	260	293	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内 一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　ナデ。 内　ナデ。	03群
1	32	261	286	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内 一括				10YR5/4にぶい褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　ナデ。	03群
1	32	262	284	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内 一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　粗いナデ。 内　粗いナデ。	03群
1	32	263	295	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内 一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　ナデ or 擦痕。	03群
1	32	264	285	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内 一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　粗いナデ。 内　粗いナデ。	03群
1	32	265	294	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内 一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　ナデ？、剥離。 内　条痕。	03群
1	32	266	288	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内 一括				7.5YR4/3褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　擦痕。	03群
1	32	267	296	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内 一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　ハケメ状。 内　条痕。	03群
1	32	268	297	縄文深鉢　底部	墳丘盛土内 一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　入念ナデ。 底面　剥離後使用痕跡あり。	03群
1	32	269	318	縄文深鉢　底部完存	墳丘下 盛土開始面		7.0		2.5YR4/6赤褐色 5YR4/6赤褐色	良好	繊維含む	外　RL。底ナデ。平底。 内　劣化。	04群
1	33	270	321	縄文深鉢　口縁部	墳丘下 盛土開始面				5YR4/6赤褐色 5YR4/4にぶい赤褐色	良好	黒褐色繊維含む	外　RL、附加条 RL＋2L?	04群
1	33	271	299	縄文深鉢　口縁部	墳丘盛土内 一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	繊維含むまっ黒である	内　平行沈線意匠文、RL。	04群
1	33	272	307	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内 一括				7.5YR4/3褐色	良好	繊維含む	外　単節。	04群
1	33	273	304	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内 一括				7.5YR3/2黒褐色	良好	繊維含む	外　単節。	04群
1	33	274	319	縄文深鉢　口縁部	墳丘下 盛土開始面				7.5YR4/6褐色	良好	繊維多量に含む	外　口縁撚糸文羽状施文、下端微隆起区画、以下縄文。	03群
1	33	275	301	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内 一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　単節。	04群
1	33	276	305	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内 一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　単節。	04群
1	33	277	308	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内 一括				7.5YR3/4暗褐色 7.5YR3/2黒褐色	良好	繊維含む	外　単節。	04群
1	33	278	300	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内 一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　RL。	04群
1	33	279	322	縄文深鉢　胴部	墳丘下 盛土開始面				7.5YR4/3褐色	良好	黒褐色繊維含む	外　無節 L。	04群。図横転
1	33	280	320	縄文深鉢　胴部	墳丘下 盛土開始面				7.5YR4/6褐色	良好	黒褐色繊維含む	外　平行沈線鋸歯文、LR。	04群。280・282同一。図傾斜
1	33	281	323	縄文深鉢　胴部	墳丘下 盛土開始面				7.5YR4/6褐色	良好	黒褐色繊維含む	外　撚糸文。	04群
1	33	282	306	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内 一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　LR。	04群。280・282同一。図横転
1	33	283	303	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内 一括				5YR4/6赤褐色	良好	繊維を含まない	外　単節。	04群

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
1	33	284	302	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内 一括				7.5YR3/1黒褐色	良好	繊維含む	外　LR。	04群
1	33	285	309	縄文深鉢　口縁部	墳丘盛土内 一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　口唇肥厚、条線。	08群
1	33	286	311	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内 一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　沈線区画内斜格子状沈線。	08群
1	33	287	310	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内 一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　集合沈線。	08群
1	33	288	312	縄文深鉢　胴部	墳丘盛土内 一括				5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　集合沈線。	08群。288・289同一
1	33	289	324	縄文深鉢 口縁2/3～底部完存	墳丘下層遺構 確認面	21.8	4.8	35.0	7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口縁集合沈線、胴LR重畳施文。	08群。288・289同一。補修孔あり
2	41	1	19	土師器底部穿孔二重口縁壺 頸部1/2	盛土内一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　頸部ハケ後篦ミガキ。 内　頸部ハケ後篦ミガキ、肩部に断面三角形凸帯を持つ、胴部ハケ後ナデ。	内面器面剥離やや激しい。 特に赤彩を施した様な痕跡は認められない。
2	41	2	20	土師器壺 胴部中～下位1/2弱	盛土内一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　胴部篦ナデ後篦ミガキ。 内　胴部篦ナデ後篦ミガキ。	胴部最大径（30.4cm） あるいは、底部穿孔壺？接合に至らない同一個体多数あり。
2	41	3	18	土師器底部穿孔二重口縁壺 口縁5/6	盛土内一括	26.6			5YR5/6明赤褐色	良好	黒色微砂粒多	外　口縁部ハケ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ後細穴を刻み粘土紐貼り付けによって、有段を形成。	二次加熱を受け全体的に、器面が荒れている。
2	41	4	6	土師器甕 底部～胴部1/2強	盛土内一括		5.2		7.5YR3/1黒褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　胴部篦ナデ、一部篦ミガキ。 内　胴部篦ナデ、一部に輪積痕若干残る。	非常に薄い丁寧な造りの土器。
2	41	5	16	土師器甕　口縁1/4弱	盛土内一括	(14.8)			5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、ハケ後横ナデ一部にハケ残る。 内　ハケ後ナデ一部にハケ残る。	
2	41	6	3	土師器壺　胴部全欠	北側周溝 中央部底面 ＋11.2cm	16.6			10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁（左右不対象）口唇部ナデ、口縁部横ナデ、頸部篦ミガキ。 内　頸部ハケ後篦ミガキ。	口唇部面取り。
2	41	7	17	土師器壺　口縁1/3	盛土内一括	(18.5)			7.5YR4/4褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部下の一部と口縁部の一部のみにハケが残る。他ハケ後ナデ、頸部ハケ。内　ナデ後篦ナデ、頸部ハケ。	
2	41	8	22	土師器壺　口縁1/16	盛土内一括	(13.6)			10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、他ハケ。 内　ナデ。	
2	41	9	1	土師器坩 口唇2/3～頸部1/6 底部殆ど欠	北側周溝 中央部底面 ＋11.2cm	(9.6)	(2.8)	8.5	2.5YR4/8赤褐色	良好	密 (非常に精選)	外　口唇部ナデ、口縁部丁寧な篦ミガキ。 内　口縁部丁寧な篦ミガキ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。底部焼成後穿孔？ 器厚が薄く全体的に非常に丁寧に造られた土器。
2	41	10	2	土師器坩　口縁全欠 胴部完存	盛土内一括		(2.6)		2.5YR4/6赤褐色	良好	やや砂っぽい	外　頸部一部篦ミガキ、胴部篦ナデ一部篦ミガキ、底部一部篦ミガキ。 内　頸部指押さえ、胴部篦ナデ、胴部中位の輪積明瞭。	内外面赤彩。全体的に器厚が厚く質量も重い。篦ミガキが、器面の全域に及ばないやや雑な土器。焼成後底部穿孔。
2	41	11	059 -2	土師器坩　口縁全欠 頸部～底部3/4	東周構内一括		2.5		2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　頸部ハケ後篦ミガキ、胴部篦ナデ一部篦ミガキ。 内　頸部ハケ後篦ミガキ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
2	41	12	059 -3	土師器甕　口縁1/3	東周構内一括	(13.0)			10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ハケ。	口唇部面取り。内面器面剥離激しい所あり。
2	41	13	15	土師器高坏　脚部2/3	周溝内一括				7.5YR4/6褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　脚部篦ナデ、一部に刻み入る。 内　脚部細穴に粗いハケによる凹凸がある。	脚の三方に穿孔あり。
2	41	14	13	土師器器台　脚部1/3	周溝内一括				7.5YR6/6橙色	不良	砂っぽい		内外面器面剥離激しく調整不明。 脚の三方に穿孔あり。孔径1.2cm。
2	41	15	5	土師器甕　底部完存	北側周溝底面 ＋11cm		7.5		7.5YR4/4褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
2	41	16	14	土師器高坏　脚部	盛土内一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　脚部粗い篦ミガキ。 内　脚部カキトリに近いハケ。	脚の三方に穿孔あり。孔径1.0cm。
2	41	17	059 -1	土師器甕 胴部下端～底部完存	東側周溝南端 部底面		6.0		7.5YR3/1黒褐～7.5YR4/4褐色 7.5YR3/2黒褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	非常に薄く仕上げられた甕である。
2	41	18	32	土師器坏　底部完存	盛土内一括		5.6		5YR5/6明赤褐色	不良	砂っぽい	外　ロクロ、底部回転糸切りっぱなし。 内　ロクロ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
2	41	19	4	土師器壺(大型器) 底部完存	北側周溝 西側部底面		8.7		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　底部篦ナデ。	内面器面剥離激しく不明。底部木葉痕あり。
2	42	20	059 -7	土師器甕　口縁1/8	盛土内一括	(18.0)			10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後ナデ。 内　篦ナデ。	
2	42	21	35	土師器甕　口縁1/8	盛土内一括	(13.8)			7.5YR3/1黒褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ後篦ナデ。	
2	42	22	36	土師器甕　口縁1/5	盛土内一括	(18.4)			7.5YR4/4褐色 7.5YR3/1黒褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	
2	42	23	059 -8	土師器坏　口縁部	盛土内一括	(12.4)			10R4/6赤色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
2	42	24	34	土師器台付甕　頸部	盛土内一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　頸部ハケ後接合部指ナデ。 内　甕部篦ナデ、脚部ハケ。	
2	42	25	059 -6	土師器小型甕　底部完存	盛土内一括		4.0		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
2	42	26	12	弥生鉢 口縁1/3～底部完存	周溝内一括	(15.5)	5.3	9.7	10YR5/4にぶい黄褐色(無彩部分外面)2.5YR4/4にぶい赤褐色(赤彩部分内外面)	良好	褐色微砂粒多	外　口唇部細縄文、沈線上位に3段の羽状縄文を施す。他篦ミガキ、底部篦ケズリ。 内　ナデ、胴部篦ナデ後ミガキ。	内面器面剥離激しく不明。
2	42	27	27	須恵器長頸壺　口縁1/8	盛土内一括	(9.0)			5Y4/1灰色 10Y3/1オリーブ黒色	良好	密	外　ロクロ。 内　自然釉が掛かる。	
2	42	28	25	須恵器長頸壺　頸部一部欠	盛土内一括				7.5Y5/3灰オリーブ～7.5Y4/1灰色 7.5Y6/1灰色	良好	密	外　ロクロ。 内　自然釉が掛かる。	内面頸部肩端部～肩部にかけて接合痕あり。
2	42	29	28	須恵器横瓶　口縁1/4	盛土内一括	(10.0)			5Y6/1灰色 5Y6/2灰オリーブ色	良好	密	外　ロクロ。 内　口唇部自然釉が掛かる。	
2	42	30	24	須恵器長頸壺　頸部完存	盛土内一括				5Y1/6灰色	良好	密	外　頸部2条の沈線を施す。 内　ロクロ。	
2	42	31	26	須恵器長頸壺　底部完存	盛土内一括		9.2		10YR4/1褐灰～10YR5/3にぶい黄褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	1㎜大の砂粒若干含む	外　ロクロ。 内　ロクロ。	ロクロ回転逆時計回り。
2	42	43	SU -1	弥生甕　口縁部	墳丘下				10YR5/3にぶい黄褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文を施す。 内　篦ナデ。	
2	42	44	SU -3	弥生壺　頸部	墳丘下				7.5YR5/4にぶい褐色	不良	褐色粒多量に含む	外　頸部に羽状細縄文を施す。 内　篦ナデ。	
2	42	45	SU -2	弥生壺　胴部	墳丘下				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　頸部に2段以上の輪積痕。 内　篦ナデ。	
3	46	1	1	土師器甕　全体4/5	北側周溝内底面＋28cm	16.1	4.8	17.1	7.5YR3/2黒褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部丁寧な篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部丁寧な篦ナデ。	
3	46	2	2	土師器鉢　ほぼ完形	北側周溝内底面＋33cm	12.5	4.7	9.4	10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、口縁部ハケ後篦ナデ、胴部刻み状の圧痕を一部篦ナデでナデ消す。 内　口縁部ハケ後篦ナデ、他篦ナデ後篦ミガキ。	口唇部は直立して立ち上がり、器厚は非常に薄く造られている。 一方は周溝北側底面＋45.2cmと接合。
3	46	3	5	土師器坩　胴部1/3	周溝内一括	(11.5)			2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　口縁部から胴部非常に丁寧な篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	内面部分的に器面磨耗している。
3	46	4	4	弥生甕　底部完存	周溝内一括		6.4		7.5YR4/6褐色	良好	微砂粒多	外　底部篦ナデ。	内面器面剥離激しく不明。
3	46	5	6	手づくね　底部4/5	周溝内一括		3.2		7.5YR4/6褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　細かい篦ナデ。	
3	46	6	3	弥生～土師器高坏 口縁　裾全欠	北側周溝内底面＋38.7cm				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　脚部雑な篦ナデ。 内　坏部篦ナデ。	
4	46	1	1	土師器坩　口縁2/3欠	北側周溝内底面＋44.5cm	(8.7)	2.3	6.8	2.5Y4/6赤褐色(一部) 2.5Y4/6赤褐～10YR4/4褐色	良好	密	外　一部に篦ミガキの赤彩の痕跡がある。 内　口縁部ハケ後篦ナデ、胴部篦ナデ。	内面赤彩。外面器面剥離激しい。 胴部最大径8.8cm。底部を焼成後穿孔。
4	46	2	2	土師器高坏　脚部1/8	周溝内 覆土一括		(15.6)		10YR4/4褐色	良好	密	外　裾部篦ミガキ。 内　脚部ハケ後篦ナデ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
4	46	3	3	弥生ミニチュア壺 底部3/4	周溝内 覆土一括		4.0		10YR3/2黒褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　底部ハケ後篦ナデ一部ハケ残る。 内　底部粗い篦ナデ。	
4	46	4	4	土師器坩　底部1/2	周溝内 覆土一括		4.6		10YR5/3にぶい黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	不良	微砂粒多	内　篦ナデ。	外面器面磨耗激しい。
4	46	5	5	弥生壺　口縁部	周溝内 覆土一括				7.5YR4/6褐色 5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部羽状細縄文の下に原体押捺を施す。 内　篦ナデ。	内面赤彩。
4	46	6	6	弥生鉢　口縁部	周溝内 覆土一括				10YR6/4にぶい黄橙色 5YR3/6暗赤褐色	良好	砂っぽい	外　口縁部羽状細縄文の下に原体押捺を施す。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
4	46	7	7	弥生壺　口縁部	周溝内 覆土一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口唇部細縄文～羽状縄文を施す。 内　棒状浮文を施す。	内面赤彩痕跡あり。
4	46	8	8	弥生壺　胴部	周溝内 覆土一括				5YR4/4にぶい赤褐色	不良	乳白色微砂粒多	外　沈線区画とＳ字状結節文が施される。	外面赤彩。内面器面剥離激しい。
4	46	9	9	弥生甕　頸部	周溝内 覆土一括				5YR6/6橙色	良好	微砂粒多	外　頸部原体による圧痕。 内　篦ナデ。	
4	46	10	10	弥生壺　胴部	周溝内 覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　沈線の上に羽状縄文を施す。 内　篦ナデ。	
5	50	1	01 -13	土師器壺　口縁全欠　胴部1/4欠	北側周溝内底面＋57.4cm				10YR5/4にぶい黄褐～2.5YR3/6暗赤褐色 10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　胴部篦ナデ後篦ミガキ。	外面赤彩、内面器面剥離激しい。 底部焼成後穿孔？の可能性大。
5	50	2	AE -1	土師器　底部穿孔二重口縁壺　口縁2/3弱	墳丘密着	21.4			5YR5/4にぶい赤褐色 2.5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、他ハケ後ナデ一部篦ナデ後、頸部Ｓ字状結節文。 内　口縁部篦ミガキ、頸部篦ナデ。	外面赤彩。
5	50	3	SU4 -1	土師器壺　口縁1/8	墳丘下一括	(16.2)			10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、他ハケ後ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ。	旧表土。
5	50	4	AF -1	土師器壺　口縁1/2弱	墳丘下一括	(22.4)			5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、他ナデ、頸部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、頸部篦ナデ。	
5	50	5	01-5	土師器甕　口縁1/2強	北側周溝内一括	16.4			7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後横ナデ、頸部ハケ後篦ナデ一部ハケ残る。 内　口縁部ハケ、頸部篦ナデ。	非常に器厚が薄い土器である。口縁同一個体あり。
5	50	6	AE -3	土師器台付き甕　口縁1/16	盛土内一括	(21.0)			7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	非常に器厚が薄い土器である。整形の際の貼りカスが、貼り付いたまま焼成されている。
5	50	7	AF -2	土師器小型壺　口縁完存	墳丘下一括	12.3			10YR4/6にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ後篦ミガキ、頸部以下篦ナデ	
5	50	8	ES -8	土師器坩　口縁ほぼ完存	東側周溝内－92.3cm	14.5			2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ後篦ナデ、他篦ミガキ。 内　口縁部ナデ後篦ナデ、他篦ミガキ。	内外面赤彩。非常に丁寧に仕上げられた土器。
5	50	9	ES -1	土師器甕　底部全欠	西側周溝内底面＋68.9cm	15.0			10YR4/4褐色 10YR5/2灰黄褐色	良好	粗	外　口唇部面取り、口縁部ハケ後横ナデ、胴部ハケ、一部に篦ミガキ。 内　口縁部ハケ後横ナデ、胴部篦ナデ。	胎土は５YR4/4のにぶい赤褐色粒をまばらに含む
5	50	10	ES -6	土師器壺　頸部～胴部1/4	東側周構内一括				2.5YR4/6赤褐色 10YR2/1黒色	良好	密	外　胴部ハケ後篦ナデ。 内　胴部篦ナデ。	胴部最大径18.0cm。胴部の形状は、辺田１号墳出土25によく似る。 二重口縁壺の可能性がある。
5	50	11	01-4	土師器甕　口縁　底部全欠	北側周溝内底面＋70.1cm				10YR5/3にぶい黄褐色 7.5YR5/3にぶい褐色	良好	微砂粒多	外　胴部篦ナデ。 内　胴部ナデ。	内面器面剥離激しく不明。胴部最大径15.8cm。
5	50	12	WS -1	土師器坩　底部完存　口縁全欠	西側周溝内底面＋36.4cm		4.4		2.5YR4/6赤褐色 10YR4/6褐色	良好	密	外　胴部篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ	外面赤彩、器面やや磨耗激しい。
5	50	13	SU4 -4	土師器高坏　口縁1/8	墳丘下一括	(19.6)			10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　坏部篦ミガキ。 内　坏部篦ミガキ。	古墳前期前半。
5	50	14	01A -3	土師器坩　口縁1/2強	盛土表面	11.0			10YR6/4にぶい黄褐色 7.5YR7/4にぶい橙色	良好	密	内　篦ミガキ一部残る。	内外面器面剥離激しく調整不明。赤彩痕跡が残る。
5	51	15	AF -3	土師器高坏　脚部2/3	墳丘下一括				5YR4/4にぶい赤褐色 5YR3/1黒褐色(脚部内面)	良好	密	外　脚部篦ミガキ。 内　脚部ハケ後篦ナデ。	脚の六方に穿孔と推定。
5	51	16	SU4 -3	土師器高坏 坏部　脚部　裾部全欠	墳丘下一括				10YR6/4にぶい黄橙色(脚部内外面)10YR3/2黒褐色(坏部内面)	良好	密	外　脚部篦ミガキ 内　篦ナデ。	旧表土。坏部内面一部赤彩痕あり。脚の三方に穿孔。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm			(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
5	51	17	WS-2	土師器甕　底部完存	西側周溝内底面＋74.1cm		7.0		10YR3/1黒～10YR4/2灰黄褐色 10YR3/1黒～10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　底部ハケ後篦ナデ。 内　底部篦ナデ。	
5	51	18	WS-3	土師器甕　底部1/2	西側周溝内＋62.5cm		6.5		7.5YR4/4褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　底部ハケ後篦ナデ。 内　底部篦ナデ。	
5	51	19	SS-2	土師器坩　底部～頸部1/2	覆土一括		3.0		2.5YR4/4にぶい赤褐色 2.5YR4/4にぶい赤褐～10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　細かい篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
5	51	20	ES-5	須恵器甕　口縁1/8	東側周構内一括	10.3			7.5YR5/1灰色	良好	白色粒若干含む	外　断面三角形の鈍い凸帯を２条有し、上下に櫛描き波状文を施す。 内　頸部指による、圧痕が認められる。	KT-85小型Ｂ類の甕。Ⅰ型式Ⅰ段階K-73併行。
5	51	21	01-6	須恵器甕　口縁1/4	北側周溝内一括	(18.4)			7.5Y5/1灰色	良好	非常に精選されている	外　口唇部の端部は丸く、口縁部１条のにぶい凸帯の上下に櫛描き波状文を施す。 内　口唇部端部は丸く、ロクロ他ナデ。	KT-85小型Ｂ類よりは新しい。
5	51	22	01-7	土師器高坏　坏部1/2弱	東側周溝内一括	(14.2)			2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密		内外面器面磨耗激しく赤彩。
5	51	23	ES-7	土師器高坏　裾部全欠	東側周構内一括				2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　坏部細い篦状工具による篦ナデ、裾部ナデ。 内　坏部篦ナデ、脚部カキトリに近い篦ナデ。	坏部とは、ホゾによって接合する
5	51	24	WS-4	土師器高坏　脚部のみ	西側周溝内＋28cm				2.5YR3/6暗赤褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　脚部篦ナデ。 内　脚部篦ナデ。	
5	51	25	01-12	土師器高坏　坏部　裾全欠	北側周溝内底面＋79.8cm				2.5YR4/4にぶい黄褐色 2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　脚部篦ナデ。 内　脚部カキトリ後ナデ。	和泉式土器。
5	51	26	01-8	手づくね　ほぼ完形	北側周溝内一括	5.0	4.1	3.1	10YR4/6褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
5	51	27	01-9	手づくね　口縁2/3欠	北側周溝内一括	(4.5)	2.1	2.9	10YR4/4褐色	良好	密	外　指ナデ。 内　篦ナデ。	
5	51	28	ES-3	土師器坏　底部1/2	東側周構内一括	(13.0)	4.6	4.6	2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　胴部ナデ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。外面底部に十文字の線刻。
5	51	29	ES-2	土師器鉢　口縁1/3	東側周構内一括	(17.4)			2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ胴部丁寧な篦ナデ。 内　口縁部ナデ胴部篦ナデ後一部篦ミガキ。	接合に至らぬ同一個体多。
5	51	30	01-10	土師器坩　底部完存	北側周溝内底面＋88cm				10R4/6赤色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
5	51	31	SU4-2	弥生甕　底部完存	墳丘下一括		7.2		10YR5/4にぶい黄褐色 7.5YR4/5にぶい黄褐色	良好	乳白色粒多	外　底部篦ケズリ。 内　スス付着の為不明。	
5	51	32	ES-4	弥生高坏　口縁全欠 転用後の底部完存	覆土一括				5YR4/6赤褐色 10YR5/4にぶい黄褐～5YR4/6赤褐色	良好	微砂粒多 (砂っぽい)	外　器面磨耗激しく不明。部分的に赤彩残る。 内　篦ナデ後篦ミガキ、赤彩（篦ミガキの鈍目しか残らない）。	本来は、弥生高坏であるが脚を研磨し、二次転用して使用される。
5	51	33	AE-2	土師器甕？底部1/2	盛土内一括		4.8		2.5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密 (非常に精選)	外　底部篦ミガキ。 内　底部篦ミガキ。	内外面赤彩。
5	51	34	SU4-6	弥生鉢　口縁部	墳丘下一括				7.5YR4/3暗褐色 5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　口唇部細縄文の下に羽状縄文を施す。 内　篦ミガキ。	旧表土。内面赤彩。
5	51	35	SU4-5	弥生鉢　口縁部	墳丘下一括				5YR5/6明赤褐色	不良	砂っぽい	外　口唇部細縄文の下に羽状縄文を施す。 内　篦ナデ。	旧表土。
6	53	1	1	土師器甕　口縁1/4	覆土一括	(19.6)			10YR4/1褐灰色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後ナデ、頸部ハケ。 内　ナデ後篦ナデ。	
6	53	2	2	土師器坩　口縁2/3　欠	覆土一括	(11.8)	4.0	7.9	2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
6	53	3	5	弥生甕　底部1/4	覆土一括		(8.2)		10YR4/4褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
6	53	4	3	土師器甕　底部4/5	覆土一括		5.7		7.5YR3/4暗褐色 10YR3/1黒褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
6	53	5	4	土師器甕　底部完存	覆土一括		5.5		7.5YR4/4褐色 10YR4/6褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
6	53	6	7	手づくね　全体3/4	覆土一括	3.8	4.8	2.1	7.5YR4/4褐色	良好	密	外　指ナデ。 内　指ナデ。	
6	53	7	8	手づくね　口縁全欠	覆土一括		1.9		7.5YR4/4褐色	良好	密	外　指ナデ。 内　指ナデ。	
6	53	8	10	須恵器蓋　口縁1/16	覆土一括	(11.0)			2.5Y4/2暗灰黄色	良好	密	外　ロクロ。 内　ロクロ。	
6	53	9	6	土師器甕　口縁1/16	覆土一括	(18.0)			7.5YR4/4褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	外面口唇部つまみ上げる。
6	53	11	1	弥生壺　底部欠	盛土開始面より－28cm	14.3	(9.2)	28.1	10YR5/4にぶい黄褐色 5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸部ナデ後篦ミガキ、底部篦ケズリに近い篦ナデ。　内　口縁部ナデ、頸部ナデ後篦ミガキ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。	折り返し口縁　底部焼成後穿孔か？胴部最大径24.1cm意識的に底部を打ち欠く。
6	53	12	2	弥生甕　口縁～胴部1/3	盛土開始面より－32cm	(21.0)			5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　口唇部キザミ、口縁部ナデ、頸部ハケ後粗い篦ミガキ。他篦ナデ。 内　ナデ後篦ナデ。	一方は盛土開始面より－33cm。
6	53	13	4	土師器坏　口縁1/8	覆土一括	(13.0)			10YR4/4褐色 10YR3/2黒褐色	良好	密	外　ナデ後篦ケズリ。 内　ナデ。	鬼高
6	53	14	3	カワラケ　底部1/2	覆土一括		5.0		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ロクロ。 内　ロクロ。	外面底部回転糸切り。
7	55	1	1	土師器壺　胴部下半2/3	P２周辺床直＋３cm				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内面器面剥離箇所多。胴部最大径27.2cm。
7	55	2	5	土師器高坏　脚部1/3 裾部全欠	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	脚部の三方に穿孔。
7	55	3	3	土師器甕　底部3/4	覆土一括				2.5YR3/6暗赤褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ミガキ。	内面器面剥離激しい。外面は底部まで赤彩。
7	55	4	2	弥生甕　底部2/3	覆土一括		7.4		7.5YR4/4褐色 10YR4/4褐色	良好	密	外　篦ナデ後粗い篦ミガキ。 内　篦ナデ後粗い篦ミガキ。	
7	55	5	4	土師器甕　底部1/3	覆土一括		(5.0)		10YR4/4褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ミガキ。	
7	55	6	6	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR3/1黒褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　網目状細縄文が施される。 内　ナデ。	
7	55	7	8	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　沈線区画内刺突文。円形刺突。 内　条痕。	03群
7	55	8	23	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　隆帯区画、押引文２列。 内　ナデ。	03群
7	55	9	12	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
7	55	10	22	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/3褐色	良好	繊維含む	外　条痕文タテ施文、口唇刺突。 内　条痕。	03群
7	55	11	10	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　ヘラ？条痕。 内　ナデ。	03群。繊維少ない
7	55	12	9	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　ナデ、劣化。 内　ナデ、劣化。	03群
7	55	13	11	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　擦痕。 内　条痕。	03群
7	55	14	25	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　刺突。ハケメ状調整。 内　条痕。	03群
7	55	15	19	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　刻み隆帯、条痕。 内　条痕。	03群
7	55	16	17	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　隆帯。条痕。 内　条痕。	03群

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
7	55	17	16	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　隆帯。 内　条痕。	03群
7	55	18	14	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　半截竹管刺突。 内　条痕。	03群
7	55	19	20	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　沈線区画内刺突充填、円形刺突、非貝条痕。 内　ハケメ状。	03群
7	55	20	13	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
7	55	21	24	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕、非貝？。 内　擦痕。	03群
7	55	22	15	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
7	55	23	21	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
7	55	24	27	縄文深鉢　底部	覆土一括				5YR4/8赤褐色	良好	繊維含む	外　ナデ。 内　ナデ。	03群
7	55	25	28	縄文深鉢　底部1/4	覆土一括		(7.0)		7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
7	55	26	26	縄文深鉢　底部1/4	覆土一括		(6.9)		7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
7	55	27	7	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　沈線２条、LR。 内　ナデ。	？群。後期？図横転
8	56	1	6	須恵器平瓶	底面より ＋0.8cm								遺物不明の為観察出来ず。
8	56	2	5	須恵器小壺　口縁の一部欠	底面より ＋3.3cm	6.5		7.7	5Y5/2灰オリーブ色	良好	７㎜～２㎜大の小礫を含む	外　片部以下回転篦ケズリ。 内　ロクロ目が強い。	ロクロ回転逆時計回り。口縁～肩部に自然釉。
8	56	3	3	須恵器坏身　口縁一部欠	底面より ＋7.8cm	10.6		4.2	2.5Y6/2灰黄褐色	良好	精選されている	外　ロクロ。 内　ロクロ。	外面底部回転篦切り未調整。ロクロ回転逆時計回り。 （YK217新～TK46併行・茶の木10期）Ⅲ型式一段階後半。
8	56	4	4	須恵器小壺　完形	底面より ＋0.8cm	4.2		5.0	5Y6/2灰オリーブ色	良好	４㎜大の白色粒多（精選してない）	外　ロクロ後指ナデ、指文が明瞭に残る。 内　底部回転篦切り後擦痕状に見える雑なナデ（無調整に近い）	ロクロ回転逆時計回り。
8	56	5	1	土師器坏　完形	底面より ＋3.4cm	11.2 ～ 11.6		3.5	10YR4/2灰黄褐～10YR2/1黒色 10YR6/4にぶい黄橙～10YR2/2黒褐色	良好	密	外　ナデ後篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	黒色処理（漆仕上げ）。
8	56	6	2	土師器坏　ほぼ完形	底面より ＋3.6cm	9.9		4.4	10YR3/1黒褐～10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、篦ケズリ後ナデ後ミガキ。 内　篦ミガキ。	（TK46併行）
9	56	1	3	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　劣化。 内～口唇上　条痕。	03群
9	56	2	1	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/6褐色 7.5YR4/2灰褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
9	56	3	2	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色	良好	繊維含む	外　隆帯、条痕。 内　条痕。	03群
9	56	4	4	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	繊維含む	外　刻み隆帯、タテ平行沈線、条痕。 内　条痕。	03群
9	56	5	5	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　隆帯、条痕。 内　条痕。	03群
9	56	6	6	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
9	56	7	7	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/3褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
9	56	8	8	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR4/1褐灰色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　ナデ。	03群
10	56	1	1	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　口唇上刻み、条痕。 内　条痕。	03群
10	56	2	2	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR4/4褐色 10YR4/1褐灰色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
10	56	3	3	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
10	56	4	4	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 10YR3/1黒褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
11	56	1	3	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　ナデ。 内　劣化。	03群
11	56	2	2	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/4赤褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
11	56	3	4	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
11	56	4	5	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
11	56	5	1	弥生壺　底部	覆土一括		7.7		2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ミガキ。	
13	58	1	1	縄文深鉢　口縁～胴部2/3	覆土一括				10YR3/4暗褐色 10YR3/4黒褐色	良好	繊維含む	外　口唇上刻み。 内　条痕。	03群
13	58	2	2	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR2/2黒褐色	良好	繊維含む	外　口唇上刻み。 内　条痕。	03群。波頂部突起
13	58	3	3	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色	良好	繊維含む	外　円形刺突、条痕。 内　条痕。	03群
13	58	4	4	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR2/2黒褐色 7.5YR4/3褐色	良好	繊維含む	外　ヘラナデ。 内　ナデ。	03群
14	60	1	2	弥生鉢 口縁及び底部の一部欠	覆土一括	11.1	5.2	5.55	5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　ナデ後篦ナデ。 内　ナデ後篦ナデ。	
14	60	2	3	土師器鉢　口縁1/3	覆土一括	(13.4)			2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密		内外面赤彩。内外面器面磨耗激しく調整不明。
14	60	3	6	弥生壺　口縁1/4	覆土一括	(9.2)			7.5YR6/6橙色	不良	微砂粒多		内外面器面磨耗激しく調整不明。
14	60	4	4	土師器坩　全体の1/	覆土一括	(12.6)			10YR6/4にぶい黄橙色	良好	微砂粒多 (砂っぽい)		内外面器面磨耗激しく調整不明。
14	60	5	1	手づくね　口縁の一部欠	覆土一括	6.2	4.0	4.2	7.5YR5/6暗褐色	良好	密	外　指ナデ。 内　指ナデ。	
14	60	6	5	土師器甕　底部のみ	覆土一括		5.1		10YR3/4暗褐色	不良	微砂粒多		内外面器面磨耗激しく調整不明。二次加熱を受ける。
14	60	8	11	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				5YR3/4暗赤褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
14	60	9	23	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　ヘラナデ斜格子文、隆帯、口唇上刻み。 内　条痕。	03群
14	60	10	25	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				2.5Y6/3にぶい黄色	良好	繊維含む	外　貝殻腹縁圧痕、ナデ。 内　条痕→ナデ。	03群。指頭による器面凹み
14	60	11	16	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR6/6明黄褐色	良好	繊維含む	外　口唇上刻み、条痕。 内　条痕。	03群

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
14	60	12	19	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　押引文２条、条痕、口唇上ナデ。 内　条痕。	03群
14	60	13	26	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　口唇両端刻み。 内　条痕。	03群
14	60	14	22	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色 2.5Y4/1黄灰色	良好	繊維含む	外　口唇上刻み、条痕。 内　条痕。	03群
14	60	15	12	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　ナデ。 内　条痕。	03群
14	60	16	14	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　口唇上刻み。 内　条痕。	03群。波状口縁
14	60	17	21	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　擦痕、ナデ。 内　ナデ。	03群
14	60	18	17	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR6/6明黄褐色	良好	繊維含む	外　口唇上刻み、条痕。 内　条痕。	03群
14	60	19	18	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　隆帯、条痕→ナデ。 内　条痕。	03群
14	60	20	31	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　隆帯、条痕。 内　条痕。	03群
14	60	21	27	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
14	60	22	15	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
14	60	23	30	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR4/4褐色 7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
14	60	24	34	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
14	60	25	33	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群。繊維少ない
14	60	26	24	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 10YR3/1黒褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　擦痕。	03群
14	60	27	28	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 7.5YR4/1褐灰色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
14	60	28	35	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	繊維含む	外　粗いナデ。 内　擦痕。	03群
14	60	29	32	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　押引文、擦痕。 内　擦痕。	03群
14	60	30	29	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR3/6暗赤褐色 10YR6/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
14	60	31	10	弥生甕　口縁部	覆土一括				2.5Y3/2黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　ナデ。	
14	60	32	8	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR3/1黒褐色 2.5Y5/3黄褐色	良好	密	外　頸部に棒状工具による刻み目。 内　篦ナデ。	33と同一個体。
14	60	33	9	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR3/1黒褐色 2.5Y5/3黄褐色	良好	密	外　頸部に棒状工具による刻み目。 内　篦ナデ。	32と同一個体。
14	60	34	7	弥生壺　胴部	覆土一括				2.5YR3/6暗赤褐色 7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	外　細縄文下にＳ字状結節文を施す。胴部篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
15	61	1	1	弥生甕　底部1/3	覆土一括		(8.6)		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　ハケ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
15	61	2	2	弥生甕　全体1/8	覆土一括		(5.0)		10YR4/3にぶい黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
15	61	3	4	弥生鉢　口縁部	覆土一括				10YR2/1黒色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部に細縄文、篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
15	61	4	3	弥生鉢　口縁部	覆土一括				5YR4/6赤褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	微砂粒多	外　折り返し口縁、口縁部に原体による押捺文を施す。 内　篦ナデ。	
16	61	1	1	弥生壺　胴部全欠	東壁際床直上 ＋６cm	15.8			5YR4/6赤褐色	良好	精選	外　ハケ後篦ミガキ（篦ミガキ密） 内　ハケ後篦ミガキ（外面に比べハケ多い）	
16	61	2	2	弥生甕　底部3/4	東壁際床直 ＋２cm		10.0		7.5YR5/6にぶい褐色	良好	密	外　ハケ後篦ケズリ。 内　ナデ一部ハケ。	
16	61	3	3	弥生高坏　脚部1/6	覆土一括		(18.7)		7.5YR3/3暗褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	
17	61	1	13	土師器甕　全体1/8	覆土一括	(19.4)			10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ナデ後篦ミガキ。 内　ナデ後篦ナデ。	
17	61	2	10	土師器小型甕 口縁2/3　欠	覆土一括	(13.0)	5.2	10.2	10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　ナデ後篦ケズリ。 内　ナデ後篦ナデ。	
17	61	3	15	土師器小型甕　口縁1/8	覆土一括	(11.8)			10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　ナデ後篦ケズリ。 内　ナデ後篦ミガキ。	
17	61	4	11	土師器坏　全体1/3	覆土一括	(12.6)			7.5YR4/4褐色 5YR6/3暗赤褐色	良好	密	外　口唇部下２段の輪積痕、篦ナデ後篦ミガキ。意識的にカキトリ、仕上げ雑。 内　篦ミガキ。	内面赤彩、外面上雑な仕上がり。
17	61	5	12	土師器坏　口縁2/3　欠	Ｐ２周辺床直 －0.5cm	(13.6)		4.7	10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　ナデ、ハケ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	器厚があり重く鈍重な土器。
17	61	6	14	土師器高坏　坏部 脚部裾全欠	覆土一括				5YR4/6赤褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
17	61	8	2	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/3褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群。口縁突起部
17	61	9	8	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　口唇刻み、条痕。 内　条痕。	03群
17	61	10	4	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
17	61	11	5	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
17	61	12	3	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
17	61	13	1	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR3/4暗褐色	良好	繊維含む	外　擦痕。 内　擦痕。	03群
17	61	14	6	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　ナデ、円形竹管。 内　擦痕。	03群
17	61	15	7	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/1褐灰色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	繊維含む	外　凹線意匠文、刺突列。 内　ナデ。	03群
17	61	16	9	縄文深鉢　底部1/6	覆土一括		(3.0)		7.5YR4/6褐色 7.5YR4/2灰褐色	良好	繊維含む	外　条痕。平底。 内　ナデ。	03群。底面灰付着
18	61	1	3	土師器坏　全体1/2弱	覆土一括	(15.2)			2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
18	61	2	1	弥生鉢　全体1/3欠	覆土一括	8.8	4.3	4.1	7.5YR4/6褐色	良好	密	外　篦ミガキ、体部下端篦ナデ。 内　篦ミガキ。	
18	61	3	2	弥生甕　底部完存	覆土一括		6.1		7.5YR4/4褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
18	61	4	5	弥生甕　底部1/3強	覆土一括		(5.6)		7.5YR4/4褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　ナデ。	
18	61	5	4	弥生甕　全体1/4	覆土一括		(6.1)		10YR2/1黒褐色 10YR4/1褐灰色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
18	61	6	7	土師器台付甕　脚部1/3	覆土一括		(8.2)		10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ナデ。 内　篦ナデ。	
18	61	7	17	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　篦ナデ。	
18	61	8	19	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口唇部押捺波状文、櫛描き文。 内　篦ナデ。	
18	61	9	18	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　篦ナデ。	
18	61	10	11	弥生甕　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　頸部棒状工具によるキザミ。 内　篦ナデ。	
18	61	11	9	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR4/6褐色 7.5YR2/2黒褐色	良好	密	外　棒状工具による刻み目。 内　篦ナデ。	
18	61	12	15	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　櫛描き文。 内　篦ナデ。	
18	62	13	13	弥生甕　胴部	覆土一括				10YR3/4暗褐色	良好	密	外　櫛描き文。 内　篦ナデ。	
18	62	14	10	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR4/3褐色	良好	密	外　櫛描き文。 内　篦ナデ。	
18	62	15	12	弥生甕　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	
18	62	16	14	弥生壺　胴部	覆土一括				2.5YR3/2黒褐色	良好	密	外　沈線間に羽状縄文を施す。 内　篦ナデ。	
18	62	17	27	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR5/8明褐色	良好	繊維含む	外　ナデ。波状口縁。 内　条痕。	03群
18	62	18	26	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
18	62	19	25	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　ナデ。	03群
18	62	20	21	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR4/2灰黄褐色	良好	繊維含む	外　上端一部刻み、条痕・擦痕。 内　条痕。	03群
18	62	21	20	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　口唇棒状刻み、擦痕。口縁波状。 内　擦痕。	03群
18	62	22	22	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　隆帯、条痕。 内　条痕。	03群
18	62	23	31	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	繊維含む	外　隆帯上刺突、指頭押圧、条痕。 内　条痕→擦痕。	03群
18	62	24	24	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　隆帯、条痕。 内　条痕。	03群
18	62	25	23	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/2灰黄褐色	良好	繊維含む	外　押引文、擦痕。 内　劣化。	03群
18	62	26	35	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　ヘラナデ鋸歯文、屈曲部刻み、条痕→擦痕。 内　擦痕。	03群。図上下逆
18	62	27	37	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
18	62	28	36	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
18	62	29	32	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	繊維含む	外　連続刺突、条痕後ナデ？。 内　ナデ。	03群
18	62	30	34	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
18	62	31	30	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　押引文。 内　擦痕。	03群
18	62	32	33	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　押引文、沈線。 内　条痕。	03群。繊維なし
18	62	33	29	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
18	62	34	28	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群。繊維少ない
18	62	35	38	縄文深鉢　底部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　ナデ。尖底。 内　ナデ。	03群
18	62	36	40	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR3/4暗褐色 10YR3/3暗褐色	良好	繊維含む	外　無節Ｌ、口唇上もＬ。 内　無調整。	04群
18	62	37	41	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　LR。 内　ナデ。	04群
18	62	38	39	弥生甕　底部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 10YR3/2黒褐色	良好	密	外　底部木葉痕あり。 内　ナデ。	
19	62	1	1	弥生壺　口縁部完存	南西隅床直上 ＋3.9cm	12.3			10YR4/3にぶい黄褐～2.5YR3/6暗赤褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部細縄文～篦ナデ、頸部突帯に棒状工具による刻み目、胴部篦ミガキ。 内　篦ナデ。	２対１組の棒状浮文を５ヶ所に施す。
19	62	2	3	弥生壺　胴部	覆土一括				2.5YR3/4暗赤褐色 10YR4/1褐灰色	良好	密	外　２条の沈線間を篦ミガキ赤彩、下位に細縄文を施す。 内　篦ナデ。	
19	62	3	2	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	不良	褐色粒多	外　Ｓ字状結節文下に細縄文を施す。	内面器面剥離激しく不明。
19	62	4	4	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　縄文。 内　摩滅。	？群。時期不明、早期撚糸文系？
19	62	5	5	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　口唇浅い棒刻み。条痕。 内　条痕。	03群
19	62	6	6	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/2灰黄褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
19	62	7	8	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　擦痕。 内　擦痕。	03群
19	62	8	7	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR5/6明赤褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
19	62	9	9	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　単節、口唇上施文。	04群
20	64	1	1	弥生甕　胴部～口縁1/2弱	Ｐ４周辺床直 ＋2.7cm	25.0	9.0	(23.0)	10YR5/6黄褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。頸部原体押捺。頸部に輪積痕。胴部篦ナデ。 内　篦ナデ～篦ミガキ。	外面下端は器面剥離激しい。同一個体あり。
20	64	2	2	弥生鉢　口縁部	覆土一括	11.0			10YR6/6明黄褐色	良好	密	外　口唇部下に沈線状の凹帯、細縄文、羽状縄文と原体押捺文を施す。他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
20	64	3	3	土師器坩　胴部～底部3/4	覆土一括		3.7		10YR3/1黒褐色 10YR5/6黄褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後篦ナデ、胴部丁寧な篦ナデ。 内　篦ナデ。	非常に丁寧に作られた土器である。胴部最大径12.9cm。
20	64	4	8	弥生壺　口縁1/4	覆土一括	(11.8)			10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部羽状細縄文。篦ナデ後Ｓ字状結節文を施す。 内　ナデ後篦ミガキ、他篦ナデ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
20	64	5	6	土師器小甕　底部1/2	覆土一括		2.4		10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ミガキ後篦ナデ。	
20	64	6	4	弥生甕　底部1/2弱	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	微砂粒やや多	外　篦ナデ後篦ミガキ。	内面磨耗激しく不明。
20	64	7	7	弥生甕　底部1/4	覆土一括		5.8		10YR5/4にぶい黄褐色 7.5YR3/4にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
20	64	8	5	弥生甕　底部3/4	覆土一括		8.2		10YR5/6黄褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
20	64	9	10	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR4/1褐灰色	良好	褐色粒多含む	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　篦ナデ。	
20	64	10	9	弥生鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部に細縄文、よれた羽状細縄文後に原体による刺突文。 内　篦ナデ。	
20	64	11	11	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/6褐色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　羽状細縄文を施行後Ｓ字状結節文を施す。他篦ナデ。 内　篦ミガキ。	
20	64	12	13	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR3/6暗赤褐色 5YR3/2暗赤褐色	良好	密	外　平行沈線による山形文内に細縄文を施す。他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
20	64	13	12	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR5/6明赤褐色 10YR6/3にぶい黄橙色	良好	褐色粒多含む	外　Ｓ字状及びＺ字状結節文間に羽状縄文を施す。他胴部篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面一部赤彩残る。
20	64	14	14	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　RL。	01群
20	64	15	15	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/3褐色	良好	繊維含む	内外面ナデ→ランダムな工具痕＝意匠？。	03群
20	64	16	17	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	繊維含む	外　半截竹管平行弧状文、口唇刻み、条痕。 内　条痕。	03群
20	64	17	18	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　ナデ。	03群
20	64	18	16	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　ナデ。	03群
20	64	19	19	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　口唇刻み、ヘラ条痕。 内　ヘラ条痕。	03群
20	64	20	34	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　微隆帯区画内押引充填、刺突。 内　条痕、ナデ。	03群
20	65	21	25	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
20	65	22	29	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 10YR3/1黒褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
20	65	23	20	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　押引意匠文、擦痕。 内　条痕。	03群
20	65	24	32	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
20	65	25	27	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　擦痕。 内　擦痕。	03群
20	65	26	28	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　擦痕。 内　擦痕。	03群
20	65	27	26	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色 10YR4/1褐灰色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
20	65	28	30	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色 10YR4/1褐灰色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
20	65	29	36	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR4/2灰黄褐色 7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　微隆帯、条痕。 内　条痕。	03群
20	65	30	24	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　半裁竹管平行沈線文。 内　条痕。	03群
20	65	31	23	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR5/2灰褐色 10YR5/6黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
20	65	32	21	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　連続刺突区画 or 意匠文、隆帯上刻み、条痕。 内　条痕。	03群
20	65	33	31	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
20	65	34	33	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
20	65	35	35	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
20	65	36	22	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	繊維含む	外　幅広の押引意匠文、沈線？、擦痕。 内　条痕。	03群
20	65	37	40	縄文深鉢　底部1/16	覆土一括				10YR3/2黒褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　擦痕。平底。 内　擦痕。	03群
20	65	38	39	縄文深鉢　底部1/6	覆土一括		(7.3)		7.5YR4/4褐色 10YR4/1褐灰色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
20	65	39	37	縄文深鉢　底部1/3	覆土一括		(5.6)		10YR4/1褐灰色 7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群。外～底面灰付着
20	65	40	38	縄文深鉢　底部1/8	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　ナデ。 内　ナデ。	03群
21	66	1	2	土師器甕　口縁1/2	覆土一括	17.2			7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口縁部横ハケ、頸部以下単位の異なるハケ。 内　口唇部横ハケ、後篦ナデ。	古墳時代後期在地土器ではない。
21	66	2	3	弥生小型甕　口縁1/2弱	覆土一括	(13.8)			10YR3/4暗褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　ナデ後篦ナデ。 内　ナデ後篦ナデ。	
21	66	3	4	土師器坏　全体1/3	覆土一括	(14.6)			2.5YR3/6暗褐色	良好	密	外　ナデ後篦ケズリ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
21	66	4	5	土師器坏　全体1/8	覆土一括	(13.0)			10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ナデ後篦ケズリ。 内　ナデ後篦ナデ。	
21	66	5	6	土師器坩　口縁1/4	覆土一括	(9.0)			10YR3/1黒褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　ナデ。 内　篦ミガキ。	外面くびれ部分がかすかに残り、坩であることがわかる。
21	66	7	1	土師器台付き甕　脚部1/4	覆土一括		(11.4)		10YR4/2灰黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	奈良時代土器。
21	66	8	62	弥生甕　底部1/4	覆土一括		(7.0)		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
21	66	9	9	土師器甕　口縁部	覆土一括				10YR3/2黒褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。篦ナデ。 内　ナデ。	
21	66	10	17	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				5YR4/6赤褐色	良好	密	外　RL。	縄文、時期不明
21	66	11	13	弥生鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　羽状縄文内に３条のＳ字状結節文を施す。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
21	66	12	12	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　Ｓ字状結節文と羽状縄文を施す。	内面器面剥離激しい。
21	66	13	10	弥生甕　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　頸部５段以上の輪積。 内　篦ナデ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
21	66	14	11	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　篦ナデ。	
21	66	15	14	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。ナデ。 内　ナデ。	
21	66	16	8	土師器甕　口縁部	覆土一括				10YR2/3黒褐色 10YR4/6褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ナデ。	
21	66	17	15	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				5YR5/6暗赤褐色	良好	密	外　口唇上RL、口縁無文、胴RL。	01群
21	66	18	16	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇肥厚、RL。	01群
21	66	19	18	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　RL。	縄文、時期不明
21	66	20	19	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR4/4褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　ナデ。 内　条痕文、ナデ。	03群
21	66	21	20	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇刻み、ナデ。 内　ナデ。	03群
21	66	22	21	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　隆帯、沈線。 内　ナデ。	縄文、時期不明
21	66	23	32	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR3/4暗褐色	良好	繊維含む	外　押引意匠文、口唇刻み。 内　条痕。	03群
21	66	24	22	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維は殆ど認められない	外　刻み隆帯区画、ヘラナデ意匠文、擦痕。 内　擦痕。	03群
21	66	25	28	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　押引意匠文、口唇刻み。 内　条痕。	03群
21	66	26	25	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
21	66	27	29	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　押引文・半裁竹管内側。 内　条痕。	03群
21	66	28	24	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR3/4暗褐色	良好	繊維含む	外　擦痕。 内　ナデ。	03群
21	66	29	23	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色	良好	繊維含む	外　沈線鋸歯縄文、ナデ。 内　摩滅。	03群
21	66	30	26	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR4/6褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	繊維含む	外　半截竹管条痕。波状口縁波頂部。 内　ナデ。	03群
21	66	31	33	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR3/1黒褐色	良好	繊維含む	外　擦痕。 内　条痕。	03群
21	66	32	27	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐～10YR3/1黒褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
21	66	33	39	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
21	67	34	51	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　ナデ。	03群
21	67	35	54	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕→一部擦痕。	03群
21	67	36	59	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
21	67	37	49	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
21	67	38	44	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
21	67	39	42	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/2灰黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
21	67	40	48	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色 10YR3/5にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
21	67	41	47	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
21	67	42	38	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　押引意匠文。 内　条痕。	03群
21	67	43	43	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/2灰黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
21	67	44	45	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
21	67	45	31	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　連続刺突意匠文、ナデ。 内　条痕。	03群
21	67	46	57	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
21	67	47	55	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　擦痕。 内　擦痕。	03群
21	67	48	56	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR3/2黒褐色 10YR3/1黒褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
21	67	49	37	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/3褐色	良好	繊維含む	外　押引文・半裁竹管。 内　条痕。	03群
21	67	50	50	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/4にぶい赤褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
21	67	51	41	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　隆帯、擦痕。 内　擦痕。	03群
21	67	52	52	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
21	67	53	53	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
21	67	54	58	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	繊維含む	外　ナデ。 内　条痕。	03群
21	67	55	40	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 7.5YR4/2灰褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
21	67	56	46	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
21	67	57	30	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　沈線区画内押引文充填、ナデ。 内　ナデ。	03群
21	67	58	60	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	繊維含む	外　隆帯に沿う角押文・先端加工。	07群
21	67	59	36	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色 10YR4/1褐色	良好	繊維含む	外　粗いナデ。平底。 内　粗いナデ。	03群
21	67	60	35	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色 10YR6/2灰黄褐色	良好	繊維含む	外　粗いナデ。平底。 内　粗いナデ。	03群
21	67	61	34	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色	良好	繊維含む	外　粗いナデ。平底。 内　粗いナデ。	03群

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
22	68	1	9	土師器坏(？？) 口縁部1/4	覆土一括	(10.8)			7.5YR4/4褐色	良好	密	外　ナデ後篦ナデ。 内　ナデ後篦ナデ。	
22	68	2	28	縄文深鉢　底部1/6	覆土一括		(9.6)		7.5YR4/4褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　粗いナデ。 内　粗いナデ。	03群
22	68	3	2	弥生甕　底部2/1弱	覆土一括		(7.8)		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	微砂粒多	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
22	68	4	29	弥生甕　底部1/8	覆土一括		(5.6)		10YR4/2灰黄褐色 10YR3/4暗褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
22	68	5	4	弥生甕　底部2/1弱	覆土一括		(6.8)		7.5YR4/4褐色 7.5YR4/2灰褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
22	68	6	1	弥生甕　底部2/3	覆土一括		6.0		10YR3/2黒褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	微砂粒多	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
22	68	7	8	弥生鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色 5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部に羽状縄文と３条のＳ字状結節文、原体押捺を施す。 内　口唇部面取り、篦ミガキ。	内面赤彩。８と同一個体。
22	68	8	6	弥生鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色 5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部に羽状縄文と３条のＳ字状結節文、原体押捺を施す。 内　口唇部面取り、篦ミガキ。	内面赤彩。７と同一個体。
22	68	9	5	弥生壺　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ナデ、原体押捺文後篦ナデ。 内　篦ミガキ。	
22	68	10	7	弥生鉢　胴部	覆土一括				2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　斜行細縄文下の平行沈線内に、原体による連続刺突文を施す。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
22	68	11	14	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　押引文・多截竹管内側、口唇一部刻み。 内　条痕。	03群
22	68	12	19	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
22	68	13	26	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
22	68	14	27	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　口唇上刻み、擦痕。 内　擦痕。	03群
22	68	15	15	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR3/1黒褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　口唇上刻み、擦痕。 内　擦痕。	03群
22	68	16	16	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	繊維含む	外　押引文、口唇上刻み、条痕。 内　条痕。	03群
22	68	17	13	縄文深鉢　胴部	覆土一括				2.5Y4/2暗灰色 7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　押引意匠文、条痕。 内　条痕。	03群
22	68	18	12	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　押引意匠文、刻み隆帯、条痕。 内　条痕。	03群
22	68	19	11	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	繊維含む	外　沈線文、刺突文、隆帯。 内　条痕。	03群
22	68	20	10	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　刻み隆帯、押引鋸歯状文・格子文。 内　条痕。	03群
22	68	21	25	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
22	68	22	20	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
22	68	23	17	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
22	68	24	21	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 7.5YR4/3褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
22	68	25	18	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
22	68	26	23	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
22	68	27	22	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				5YR4/4暗赤褐色 5YR3/4暗赤褐色	良好	繊維含む	外　ナデ。 内　ナデ。	03群
22	68	28	24	縄文深鉢　底部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　ナデ。平底。 内　ナデ。	03群。底面灰付着
23	69	1	1	土師器高坏　脚部完存	覆土一括		11.6		10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ケズリ後篦ナデ、裾部ナデ。 内　篦ナデ。	弥生住居混入品。
23	69	2	2	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　棒状工具による連続刺突文を施す。 内　篦ナデ。	
23	69	3	3	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　S字状結節文の下に細縄文を施す。 内　篦ナデ。	
23	69	4	4	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/3褐色 5YR3/1黒褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
23	69	5	5	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　隆帯上刺突、口唇上刻み、擦痕。 内　条痕。	03群
24	69	1	2	弥生甕　口縁部	覆土一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　ナデ。	
24	69	2	1	弥生甕　胴部	覆土一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　頸部の最下段に、指頭押捺文を施す。 内　篦ナデ。	
24	69	3	4	弥生甕　胴部	覆土一括				5YR4/6明赤褐色	良好	密	内　頸部に3段以上の輪積痕を施す。 内　篦ナデ。	
24	69	4	3	弥生甕　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　頸部の最下段に、棒状工具による連続刺突文。 内　篦ナデ。	
24	69	5	5	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　隆帯区画内角押文。	07群。69図-27-26と同一か
27	69	1	14	弥生甕　底部1/5	覆土一括		(7.1)		10YR4/4褐色 10YR3/2黒褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ミガキ。	
27	69	2	15	弥生壺　底部1/4弱	覆土一括		(7.2)		2.5YR3/3暗赤褐色 2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
27	69	3	16	弥生甕　底部1/2弱	覆土一括		(7.7)		7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	内　篦ナデ。	外面器面磨耗激しく不明。
27	69	4	27	弥生壺　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色 2.5YR4/8赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁。口縁部羽状縄文と原体押捺、3連の棒状浮文を貼り付ける。 内　篦ナデ。	内面赤彩。
27	69	5	17	弥生深鉢　口縁部	覆土一括				10YR3/2黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　ナデ。	
27	69	6	19	弥生鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口唇部の細縄文下にS字状結節文を施す。 内　ナデ。	
27	69	7	20	弥生鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色 5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部細縄文下に刺突文を施す。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
27	69	8	25	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐～2.5YR4/4にぶい赤褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　細縄文下にS字状結節文、篦ミガキ。 内　ナデ。	外面赤彩。
27	69	9	22	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　S字状結節文を施す。 内　篦ナデ。	
27	69	10	21	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　S字状結節文を施す。 内　篦ナデ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
27	69	11	23	弥生深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/2灰褐色	良好	密	外　櫛描き羽状文を施す。 内　篦ナデ。	
27	69	12	18	土師器甕　口縁部	覆土一括				5YR4/1褐灰色 5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	
27	69	13	24	弥生甕　胴部	覆土一括				10YR4/2灰黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	
27	69	14	5	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　微隆帯区画上刺突、押引文充填、口唇上刻み。 内　ナデ。	03群
27	69	15	6	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　口唇上刻み、条痕。 内　条痕。	03群
27	69	16	10	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				5YR4/4にぶい赤褐色	良好	繊維含む	外　押引文。 内　ナデ。	03群
27	69	17	7	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
27	69	18	3	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　劣化。 内　条痕→ナデ。	03群
27	69	19	4	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　口唇刻み、擦痕。 内　条痕→ナデ。	03群
27	69	20	2	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口縁十文字突起、隆帯、ナデ。 内　ナデ。	03群。繊維なし
27	69	21	9	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR5/6赤褐色	良好	繊維含む	外　区画内条痕充填、刺突。 内　条痕。	03群
27	69	22	11	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色	良好	繊維含む	外　押引文、擦痕。 内　条痕。	03群
27	69	23	8	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　隆帯、擦痕。 内　擦痕。	03群
27	69	24	12	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
27	69	25	13	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　隆帯、条痕。 内　条痕。	03群
27	69	26	1	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　隆帯区画内角押文。	07群。69図-24-5と同一か
28	70	1	30	弥生甕　胴部1/6	覆土一括				7.5YR2/2黒褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ、一部ハケ残る。 内　篦ナデ。	五領甕。
28	70	2	46	土師器甕　ほぼ完形	炉周辺床直 ＋0.2cm	10.8	5.4	16.9	7.5YR8/8黄橙色	良好	1㎜大の黄橙色粒多く含む	外　粗いハケ後一部ナデ（胴部中位でハケが交差する） 内　頸部粗いハケ後ナデ、胴～底部篦ナデ後篦ミガキ。一部に篦ナデ残る。	口縁部直立する外来系土器（東海系）廻間Ⅰ式末～Ⅱ式過渡期の土器。
28	70	3	49	弥生椀 or 鉢 ほぼ完形･口縁1/4　欠	P3周辺床直 ＋0.9cm	10.4	3.9	7.1	7.5YR7/6橙色	良好	微砂粒多	外　横ナデ後篦ミガキ、一部にミガキの痕が残る。 内　横ナデ。	外面胴部下位～底部磨耗激しく調整不明。
28	70	4	48	土師器坩 ほぼ完形･口縁1/3欠	P3内部床直 ＋1.3cm	7.5	2.4	6.3	2.5YR4/8赤褐色	良好	密	外　ナデ後一部篦ミガキ、他篦ケズリ後篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面丁寧な篦ミガキ。
28	70	5	36	弥生甕　口縁1/8	覆土一括	(16.0)			10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	
28	70	6	34	土師器高坏　全体の1/4	覆土一括				10R4/6褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
28	70	7	47	土師器高坏　口縁1/2欠	P3周辺床直 上＋5.4cm	8.0	10.3	7.7	7.5YR8/8黄橙色	良好	1㎜大の黄橙色粒多く含む	外　口縁部横ナデ、坏部篦ナデ後一部ミガキ、脚部ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部横ナデ、坏部ナデ後一部ミガキ、脚部ナデ後ミガキ。	
28	70	8	25	弥生壺　底部完存	覆土一括		(4.0)		5YR4/6赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	かなり赤味がかるが赤彩ではない。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
28	70	9	27	土師器高坏　接合部完存	覆土一括				5YR4/6赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ（カキトリに近い）	内面剥離激しく不明。かなり赤味がかるが赤彩ではない。
28	70	10	29	弥生甕　全体の1/4弱	覆土一括		(10.5)		10YR5/4にぶい黄褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
28	70	11	37	土師器甕　底部1/12	覆土一括				5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　ナデ。	
28	70	12	33	弥生小型鉢　口縁部	覆土一括	11.2			10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ナデ、ハケ後ナデ。 内　ナデ後篦ナデ	
28	70	13	26	弥生甕　全体の1/4	覆土一括		(8.0)		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ、一部ハケ残る。 内　篦ナデ。	
28	70	14	35	土師器坏　全体の1/24	覆土一括	(12.0)			7.5YR4/4褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
28	70	15	28	弥生甕　全体の1/4	覆土一括		(7.0)		7.5YR4/4褐色 10YR4/1褐灰色	良好	密	外　篦ナデ。 内　ハケ、底部篦ナデ。	
28	70	16	31	弥生小型甕　口縁1/16弱	覆土一括	11.0			10YR4/3にぶい黄褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　ナデ、ハケ後ナデ。（残中の縦ハケ残る） 内　ナデ、篦ナデ。	25と同一個体。
28	70	17	40	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。棒状工具による刺突文、ナデを施す。 内　ナデ。	
28	70	18	42	弥生鉢 or 高坏　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口唇部に細縄文。他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
28	70	19	43	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　ナデ。	
28	70	20	38	弥生甕　口縁1/8弱	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口唇部交互押捺波状文。他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
28	70	21	45	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　ナデ。	
28	70	22	44	弥生鉢　胴部	覆土一括				7.5YR3/2黒褐色	良好	密	外　細縄文を施す。 内　篦ナデ。	
28	70	23	41	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　円形竹管による連続刺突文、他ナデ。 内　ナデ。	
28	70	24	39	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　沈線による文様帯を持つ。 内　沈線による文様帯を持つ。	
28	70	25	32	弥生小型甕　口縁1/16弱	覆土一括	11.0			10YR4/3にぶい黄褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　ナデ、ハケ後ナデ。（残中の縦ハケ残る） 内　ナデ、篦ナデ。	16と同一個体。
28	70	26	2	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	繊維含む	外　口唇上刻み、条痕。 内　条痕。	03群
28	70	27	6	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　口唇上刻み、条痕。 内　条痕。	03群
28	70	28	1	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　折り返し口縁、隆帯、ナデ。 内　ナデ。	03群
28	70	29	3	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　口唇上刻み、条痕。 内　条痕。	03群
28	70	30	8	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　幅広い肥厚口縁上刺突文、擦痕。 内　擦痕。	03群
28	70	31	7	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　沈線意匠文内押引文充填、ナデ。 内　擦痕。	03群
28	70	32	5	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　口唇斜め刻み、条痕。 内　条痕。	03群

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
28	70	33	23	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
28	71	34	4	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
28	71	35	11	縄文深鉢　胴部(口縁付近)	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　擦痕。 内　擦痕。	03群
28	71	36	9	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
28	71	37	13	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR4/2灰黄褐色 10YR5/3にぶい褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
28	71	38	17	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/8赤褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
28	71	39	14	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	繊維含む	外　沈線鋸歯文、摩滅。 内　摩滅。	03群
28	71	40	20	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR3/4暗褐色 10YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
28	71	41	19	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
28	71	42	15	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/8赤褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
28	71	43	12	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 10YR3/2黒褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
28	71	44	21	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/4にぶい赤褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
28	71	45	10	縄文深鉢　胴部(底部付近)	覆土一括				5YR5/6明赤褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
28	71	46	18	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR4/3にぶい褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
28	71	47	22	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR3/4褐色 7.5YR4/2灰褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
28	71	48	16	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/2灰黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
28	71	49	24	縄文深鉢　底部1/4	覆土一括		(7.6)		2.5YR3/4暗赤褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　ナデ。 内　ナデ。	03群
29	71	1	1	弥生壺　頸部のみ	P２周辺床直－0.5cm				5YR3/4暗赤褐色 10Y4/6赤色	不良	褐色粒多	外　口縁部篦ミガキ、頸部２連のＳ字状結節文と羽状縄文を施した後、円形浮文。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩、二次加熱を受けた為内面器面剥離激しい。焼成不良の為、触っただけでボロボロになる。
30	71	1	30	土師器高坏　坏部2/3	覆土一括	(12.6)			7.5YR4/6褐色	良好	密	外　口唇部ナデ他篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
30	71	2	5	土師器坩　口縁1/8	覆土一括	(11.0)			7.5YR4/6褐色	良好	密	外　篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
30	71	3	1	土師器坏　口縁1/8	覆土一括	(16.0)			10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　雑な篦ナデ後雑な篦ミガキ。 内　篦ミガキ（やや雑）	
30	71	4	6	土師器器台　脚部1/8	覆土一括		(13.4)		7.5YR3/4暗褐色 7.5YR4/2灰褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
30	71	5	3	土師器坩 底部1/2弱～胴部1/8	覆土一括		(3.2)		10YR2/3黒褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
30	71	6	31	弥生甕　底部完存	調査区北側床直＋0.7cm		7.6		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	微砂粒多	外　細かい篦ナデ。 内　篦ナデ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
30	71	7	2	弥生甕　底部1/4	覆土一括		(9.1)		10YR5/6黄褐色	不良	微砂粒多	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
30	71	8	4	弥生甕　底部1/2	覆土一括		7.0		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
30	73	10	11	弥生鉢　口縁部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色 5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　細縄文を施す。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
30	73	11	10	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　ナデ。	
30	73	12	9	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	微砂粒多	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　ナデ。	
30	73	13	7	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文他ナデを施す。 内　篦ミガキ。	
30	73	14	16	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。口縁上端ナデ。 内　条痕。	03群。図表面拓本横転
30	73	15	17	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR3/3暗褐色	良好	繊維含む	外　口縁条痕羽状施文、条痕。 内　条痕。	03群
30	73	16	14	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR3/4暗褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
30	73	17	12	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	繊維含む	外　凹線意匠文。 内　ナデ。	03群
30	73	18	15	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/3褐色	良好	繊維含む	外　ナデ。 内　条痕。	03群
30	73	19	23	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	繊維含む	外　摩滅。 内　摩滅。	03群
30	73	20	24	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　口縁上端沈線区画、刺突文。 内　ナデ？摩滅。	03群
30	73	21	13	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/3褐色	良好	繊維含む	外　ヘラナデ意匠文、口唇外側刻み、ナデ。 内　ナデ。	03群
30	73	22	25	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　沈線格子文、押引充填文、円形刺突、条痕。 内　条痕。	03群
30	73	23	20	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　擦痕。 内　ナデ。	03群
30	73	24	29	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　粗いナデ。	03群
30	73	25	27	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 7.5YR3/1黒褐色	良好	繊維含む	外　屈曲部刻み、押引文、条痕。 内　ナデ→条痕。	03群
30	73	26	21	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
30	73	27	19	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR3/3暗褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
30	73	28	26	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　２列押引文、条痕。 内　条痕。	03群
30	73	29	28	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　押引文。 内　ナデ。	03群
30	73	30	18	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
30	73	31	22	縄文深鉢　胴部	覆土一括				2.5YR4/6赤褐色 5YR2/1黒褐色	良好	繊維含む	外　ナデ。 内　ナデ。	03群

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
31	74	1	8	土師器広口壺　口縁全欠 胴部～底部5/6	北側焼土周辺 床上＋6.2cm		10.4		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後篦ミガキ（部分的にハケ残る）他篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	内面胴部器面剥離激しい。胴部最大径33.2cm。内面に５段以上の輪積痕残る。他方は北側焼土周辺床上＋5.2cmと＋1.3cmと接合。
31	74	2	7	土師器甕　ほぼ完形	北側焼土周辺 床上＋5.2cm	17.3	6.0	20.3	10YR4/4褐色	良好	密	外　口唇部面取り、口縁部ハケ後ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ、胴部篦ナデ。	器厚が薄く、造りもとても丁寧な土器。 一方は北側焼土周辺床上＋5.1cmと接合。
31	74	3	9	土師器甕　全体1/2 底部全欠	覆土一括	15.8			2.5YR2/1黒色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　ナデ後篦ナデ。 内　ナデ後篦ナデ。	接合に至らぬ同一個体多数。（23ヶ460ｇ）
31	74	4	10	土師器甕　口縁1/3	覆土一括	(17.8)			10YR3/2黒褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　ナデ後篦ナデ。 内　ハケ後ナデ、他篦ナデ。	五領ヶ台式土器。
31	74	5	1	土師器坩　全体3/4	P９周辺床直 －5.9cm	12.2	2.2	17.0	10R4/6赤色	良好	精選されている	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内表面一部磨耗。
31	74	6	2	弥生甕　底部1/4	覆土一括		(7.6)		7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
31	74	7	11	弥生甕　底部1/3	覆土一括		(7.0)		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
31	74	8	3	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ後櫛描き波状文を施す。 内　ハケ。	
31	74	9	4	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				5YR4/4にぶい赤褐色	良好	繊維含む	外　押引意匠文内押引文充填、口唇まばらに刻み。 内　ナデ。	03群
31	74	10	6	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
31	74	11	5	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR5/6明赤褐色 7.5YR3/2黒褐色	良好	繊維含む	外　隆帯、条痕。 内　条痕。	03群
32	75	1	1	土師器高坏　坏部完存	P16周辺床直 ＋0.6cm	19.1			5YR4/4にぶい赤褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、坏部篦ミガキ。 内　口唇部ナデ、坏部篦ミガキ。	弥生終末～古墳土器。脚部の四方に穿孔。
32	75	2	2	土師器高坏 口縁1/3～脚裾欠	覆土一括	12.0			5YR4/4にぶい赤褐色 10YR4/6赤褐色	良好	密	外　坏部篦ミガキ。 内　坏部篦ミガキ。	内外面赤彩。内外面器面剥離激しい。脚部の四方に穿孔。
32	75	3	15	土師器高坏　全体1/8	覆土一括	(15.6)			7.5YR6/6橙色	良好	密		内外面やや器面磨耗激しい。
32	75	4	3	土師器坩　口縁1/2弱	覆土一括	(10.2)			10R4/6赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
32	75	5	14	土師器甕　1/8	覆土一括	(16.6)			5YR4/6赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、他一部ハケ。 内　口縁部ナデ。	
32	75	6	10	土師器坩　底部1/4	覆土一括		(6.6)		7.5YR6/6橙色 2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面の一部に赤彩が残る。
32	75	7	11	土師器壺　底部5/6	覆土一括		7.6		10YR6/3にぶい黄橙色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
32	75	8	16	土師器甕　口縁1/8	覆土一括	(18.0)			7.5YR4/6褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	
32	75	9	4	土師器坩　口縁部全欠	覆土一括		5.0		5YR4/6赤褐色 10R4/8赤色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
32	75	10	8	弥生甕　底部1/2弱	覆土一括		(6.7)		2.5Y5/4黄褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	微砂粒多	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
32	75	11	9	弥生甕　底部完存	覆土一括		4.5		10YR4/3にぶい黄褐色 10YR3/2黒褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
32	75	12	5	土師器高坏　口縁 ・裾全欠	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　坏部篦ナデ。 内　脚部篦ナデ。	内外面器面剥離激しい。脚部の四方に穿孔。
32	75	13	7	土師器高坏　脚裾全欠	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　脚部篦ミガキ。 内　坏部篦ミガキ後篦ナデ。	脚部の三方に穿孔。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
32	75	14	6	弥生壺　口縁部	覆土一括	7.3			7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	外　口唇部細縄文。刻み目突帯と、原体押捺を持つ棒状浮文が付加。 内　ナデ。	
32	75	17	13	土師器甕　胴部	覆土一括				7.5YR4/6褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ。	
32	75	18	26	土師器甕　胴部	覆土一括				10YR3/1黒褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ。	
32	75	19	25	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR3/2黒褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。 内　ハケ。	
32	75	20	19	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR3/3暗褐色 7.5YR4/6褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。 内　篦ナデ。	
32	75	21	18	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR3/3暗褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。 内　篦ナデ。	
32	75	22	17	弥生甕　口縁部	覆土一括				5YR4/6赤褐色	やや不良	微砂粒多	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
32	75	23	24	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR6/3にぶい黄褐色	不良	微砂粒多	外　ナデ。 内　ナデ。	
32	75	24	23	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR4/3褐色	良好	微砂粒多	外　ナデ。 内　ナデ。	
32	75	25	22	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文を施し、一部ハケ。 内　ナデ。	
32	75	26	21	弥生壺　口縁部	覆土一括				5YR4/6赤褐色 2.5YR3/6暗赤褐色	良好	微砂粒多	外　沈線区画内に羽状文を施し、他篦ナデ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
32	75	27	20	弥生壺　口縁部	覆土一括				5YR4/6赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部細縄文、原体による押捺を施す。 内　口縁部篦ナデ。	内面赤彩。
32	75	28	27	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色 7.5YR4/2灰褐色	良好	密	外　沈線区画による山形文内に羽状縄文を施す。 内　ナデ。	外面赤彩。
32	76	29	36	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい橙色	良好	繊維含む	外　ナデ。 内　ナデ。	03群
32	76	30	28	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　微隆帯・沈線区画、結節沈線充填、刺突文、条痕、口唇外面刻み。 内　条痕。	03群
32	76	31	30	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　口唇刻み、条痕。 内　条痕。	03群
32	76	32	29	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/3褐色	良好	繊維含む	外　沈線区画内押引文充填、円形刺突、ナデ。 内　擦痕。	03群
32	76	33	37	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい橙色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
32	76	34	39	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい橙色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
32	76	35	32	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
32	76	36	33	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
32	76	37	38	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい橙色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
32	76	38	31	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
32	76	39	40	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい橙色	良好	繊維含む	外　羽状縄文、RL・LR。 内　条痕。	04群

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
33	77	1	15	土師器甕　胴部一部欠く	カマド右袖脇 床面27.0cm	14.0	7.0	19.6	10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　斜め方向の篦ケズリ。 内　ナデ後篦ナデ。	外面下から上方向への斜め篦ケズリの状況より、鬼高式古期の甕である。
33	77	2	32	土師器甕　口縁1/4	覆土一括	(18.2)			7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口唇部ややつまみ上がる。他ナデ。 内　ナデ。	
33	77	3	35	土師器甕　口縁1/8	覆土一括	(18.8)			5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	
33	77	4	34	土師器甕　口縁1/3	覆土一括	(18.0)			5YR4/4褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	
33	77	5	33	土師器甕　口縁1/2弱	覆土一括	(16.4)			5YR4/4褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	
33	77	6	28	土師器甕　口縁の一部欠	覆土一括	15.8			5YR6/6橙色	やや不良	密	外　ナデ後篦ケズリ。 内　ナデ後篦ナデ。	
33	77	7	18	土師器甕　底部1/2	P23周辺床直 －0.2cm		5.8		7.5YR3/4暗褐色 10YR3/1黒褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
33	77	8	41	弥生甕　低部1/4弱	覆土一括		(17.5)		2.5Y5/3黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
33	77	9	16	土師器甕 底部完存～胴部1/3強	覆土一括		7.0		7.5YR4/3褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
33	77	10	31	弥生壺　低部3/4	覆土一括		(7.4)		2.5YR3/6暗赤褐色 5YR4/6赤褐色	良好	微砂粒多	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩、器面剥離やや激しい。
33	77	11	17	土師器甕　底部完存	覆土一括		6.0		7.5YR5/6明褐色 7.5YR3/1黒褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
33	77	12	42	土師器甕 口縁･底部全欠･胴部4/5	覆土一括		(8.0)		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　指ナデ。 内　篦ナデ。	胴部最大径と輪積痕から、底部を復元すると全体的に、ゆがんだ器形となる。
33	77	13	36	土師器甕　口縁1/8	覆土一括	(12.0)			7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ハケ後ナデ。	
33	77	14	25	土師器高坏 口縁･脚部1/2欠	P23周辺床直 ＋1cm	13.6	11.1	9.4	2.5YR4/8赤褐色 2.5YR4/8赤 褐～10YR5/4にぶい黄褐色(脚部内面)	良好	密	外　口縁裾ナデ他篦ケズリ。 内　口縁裾ナデ他篦ナデ。	
33	77	15	30	土師器高坏　脚裾2/3欠	P23底面 ＋47cm	13.9	(9.8)	8.9	5YR5/4にぶい赤褐色 5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁～脚部ナデ、他篦ケズリ。 内　口唇部ナデ、他篦ナデ。	
33	77	16	22	土師器高坏　脚端部欠	P23底面 ＋41cm				10R4/8赤色	良好	密	外　篦ケズリ後ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
33	77	17	23	土師器坏　全体1/3	東壁際床直上 ＋4.4cm	(13.3)			10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　ナデ後篦ナデ。	内外面赤彩（ただし磨耗により、赤彩痕を残すのみ） 内外面器面磨耗やや激しい。
33	77	18	19	土師器高坏 口唇部3/4～脚部全欠	P22底面 ＋35cm	(12.5)			10R5/8赤色	良好	密	外　ナデ後篦ケズリ。 内　ナデ後篦ナデ。	内外面赤彩。
33	77	19	20	土師器坏　全体1/2強	P23周辺床直 ＋1cm	12.8		5.9	10R4/6赤色	良好	密	外　ナデ後篦ケズリ。 内　ナデ後篦ナデ。	内外面赤彩。
33	77	20	24	土師器高坏　脚部1/2	覆土一括		10.0		10R4/8赤色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ケズリ後ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
33	77	21	26	土師器坏　全体1/2強	覆土一括	(14.0)			10YR6/3にぶい黄橙色	良好	密		内外面赤彩痕跡あり、器面磨耗激しく不明。 同一個体多数あるが、磨耗激しく接合に至らない。
33	77	22	21	土師器高坏　脚部一部	P23底面 ＋57cm		10.1		10R4/8赤色	良好	密	外　篦ケズリ後ナデ。 内　篦ナデ後篦ナデ。	内外面赤彩。
33	77	23	27	土師器坏　口縁1/4	覆土一括	(13.3)			5YR5/4にぶい赤褐色	良好	密		内外面器面剥離激しい。
33	77	24	29	土師器坏(マリ) 全体1/4強	覆土一括	(12.6)			5YR4/6赤褐色	良好	密	外　ナデ後篦ケズリ。 内　ナデ後篦ナデ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
33	77	25	37	土師器坏　口縁1/6	覆土一括	(11.3)			7.5YR4/4褐色	良好	密	外　ナデ後篦ケズリ。 内　ナデ後篦ナデ。	内面うるし仕上げ（黒色処理）
33	77	26	38	手づくね　口縁2/3欠	覆土一括	(3.9)	1.6	2.9	7.5YR4/4褐色	良好	密	外　指ナデ。 内　指ナデ。	
33	77	27	40	弥生壺　口縁1/10	覆土一括	(18.1)			2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　口唇部に棒状工具による連続刺突文と細縄文を施し、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
33	78	32	2	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/3褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
33	78	33	4	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/3にぶい褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
33	78	34	1	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　細沈線区画、刺突充填、口唇刻み。 内　条痕。	03群
33	78	35	5	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/6黄褐色	良好	繊維質含む	全体摩滅、沈線？	03群
33	78	36	3	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
33	78	37	11	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色	良好	繊維含む	外　隆帯、条痕。 内　条痕。	03群
33	78	38	12	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/6赤褐色	良好	繊維含む	外　刻み隆帯、条痕。 内　条痕。	03群
33	78	39	9	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/6赤褐色	良好	繊維含む	外　貝殻腹縁圧痕文。 内　ナデ→半截竹管？ナデ同心円状。	03群
33	78	40	10	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR5/6明赤褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
33	78	41	13	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/6黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
33	78	42	6	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維質含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
33	78	43	8	縄文深鉢　底部	覆土一括				5YR4/6赤褐色	良好	繊維含む	外　条痕・ナデ。平底。 内　ナデ。	03群
33	78	44	14	縄文深鉢　底部	覆土一括				10YR3/3暗褐色	良好	繊維含む	外　条痕。平底。 内　条痕。	03群
33	78	45	7	縄文深鉢　底部	覆土一括		(10.0)		5YR4/6赤褐色	良好	繊維質含む	外　条痕。平底。 内　条痕。	03群
34	78	1	1	弥生鉢　胴部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　細縄文後にＳ字状結節文を施す。 内　篦ナデ。	
35	79	1	2	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、櫛描き波状文。 内　折り返し口縁。	
35	79	2	1	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR3/3暗褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	
35	79	3	3	弥生壺　頸部	覆土一括				2.5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　Ｓ字状結節文後篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
35	79	4	4	弥生甕　胴部	覆土一括				10YR3/3暗褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　ハケ後ナデ。	
35	79	5	5	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　口縁刺突文、条痕。 内　条痕。	03群
35	79	6	8	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/4にぶい赤褐色	良好	繊維含む	外　屈曲上刺突列、条痕。 内　条痕。	03群

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
35	79	7	7	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　押引文・多截竹管、剥離大、口唇上刻み、条痕。 内　擦痕。	03群
36	79	1	4	弥生甕　口縁1/2強欠	炉周辺床直 －1.8cm	23.0			7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、頸部に１段の輪積を残す。他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
36	79	2	2	弥生甕　底部全欠	炉周辺床直 －1.3cm	18.5			7.5YR7/6橙色	良好	微砂粒多少量含む	外　口唇部指頭押捺波状文。他ハケ後篦ナデ一部篦ミガキ。 内　とても丁寧な篦ミガキ。	頸部に輪積み痕を残す。
36	79	3	5	弥生甕 口縁の大半～胴部1/3欠	Ｐ１周辺床直	(14.1)	6.0	17.5	7.5YR4/4褐色 10YR3/2黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、胴部に棒状工具による刺突文を施す。他ナデ後篦ナデ 内　ナデ後篦ナデ。	
36	79	4	8	弥生広口壺　胴部1/2弱	西壁際床直 ＋3.3cm				7.5YR4/6褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ミガキ 内　篦ミガキ。	内面胴部中位器面磨耗激しい。胴部下端に段あり。
36	79	5	3	弥生甕　胴部中位以下全欠	炉内床直	18.8			7.5YR7/6橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。ハケ後篦ナデ。 内　口縁部篦ミガキ、頸部以下篦ナデ。	弥生末（庄内１併行）頸部輪積そのまま残す。 内面器面剥離箇所あり。
36	79	6	7	弥生甕　胴部1/2	Ｐ１周辺床直 ＋２cm				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ 内　篦ミガキ。	内面器面磨耗激しい。当初全面篦ミガキであるが、器面磨耗し下地の篦、篦ナデの方がよく残る。
36	79	7	1	弥生鉢 底部1/2弱～口縁1/2弱	炉周辺床直	(12.0)	6.4	4.1	7.5YR7/6橙～2.5YR3/6暗赤褐色 2.5YR3/6暗赤褐色	良好	白色微砂粒疎らに含む	外　口唇部横ナデ、胴部から底部篦ケズリ後篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。外面底部以外赤彩。
36	79	8	6	弥生鉢　ほぼ完存	西壁際床直 ＋２cm	18.8	9.0	11.0	2.5YR4/6　赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、他篦ナデ後粗い篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、他粗い篦ミガキ。（光沢なし）	器厚があり、質量もある。 底部平担ではないが、安定している。
36	79	9	9	弥生鉢　全体1/6	炉周辺床直	(11.4)	(7.6)	(10.0)	10YR4/3にぶい黄褐色	良好	微砂粒多	外　ナデ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	口唇部復元。他に接合に至らぬ同一個体多。
38	80	1	11	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　篦ナデ。	
38	80	2	10	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR6/6橙色	良好	繊維含む	外　RL。	03群
38	80	3	2	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　口唇刻み、条痕。 内　条痕。	03群
38	80	4	6	縄文土器　胴部	覆土一括				10YR4/2灰黄褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	03群
38	80	5	5	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色 10YR4/3にぶい褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　ナデ。	03群
38	80	6	3	縄文深鉢　胴部	覆土一括				2.5YR4/8赤褐色 10YR3/3暗褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
38	80	7	7	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
38	80	8	8	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 7.5YR5/6明褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
38	80	9	4	縄文土器　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　条痕→ナデ。 内　ナデ。	03群
38	80	10	1	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　ナデ。 内　ナデ。	03群
39	80	1	1	土師器甕　底部1/8	覆土一括		(9.3)		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
39	80	2	3	弥生甕　口縁部	覆土一括				2.5Y4/2暗灰黄色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文を施す。他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
39	80	3	2	弥生壺　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部に羽状縄文と原体押捺文を施す。 内　ナデ。	
39	80	4	6	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　S字状結節文と羽状縄文を施す。 内　篦ナデ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
39	80	5	7	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　頸部に円形竹管による連続刺突文を施す。 内　粗い篦ミガキ。	
39	80	8	28	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　微隆帯区画上刺突、刺突文充填、ナデ。 内　条痕。	03群
39	80	9	27	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　格子状沈線、円形刺突文。 内　条痕。	03群
39	80	10	25	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　擦痕。 内　擦痕。	03群
39	80	11	23	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色 10YR6/4にぶい赤褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
39	80	12	8	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　凹線区画文、弧状文、口唇上刻み、条痕。 内　条痕。	03群
39	80	13	9	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　口唇上刻み、条痕。 内　条痕。	03群
39	82	14	4	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　口唇上指頭押捺により波状、条痕。 内　条痕。	03群
39	82	15	20	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				5YR4/6赤褐色 5YR3/1黒褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
39	82	16	19	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色 7.5YR3/4暗褐色	良好	繊維含む	外　ヘラナデ鋸歯状文、指頭押圧、刻み隆帯、条痕。 内　条痕。	03群
39	82	17	10	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR4/6褐色	良好	繊維含む	外　沈線区画内押引文充填、円形刺突、ナデ。 内　ナデ。	03群
39	82	18	29	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
39	82	19	32	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
39	82	20	22	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　隆帯、擦痕。 内　擦痕。	03群
39	82	21	12	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
39	82	22	13	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　隆帯上刺突列、擦痕。 内　擦痕。	03群
39	82	23	16	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/6褐色 7.5YR4/1褐灰色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
39	82	24	15	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　押引文区画内押引文充填、刻み隆帯、ナデ。 内　ナデ。	03群
39	82	25	11	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
39	82	26	30	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色 5YR3/1黒褐色	良好	繊維含む	外　沈線文。	？群。時期不明、前期羽状縄文系？
39	82	27	21	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
39	82	28	24	縄文深鉢　底部1/6	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。平底。 内　条痕。	03群
39	82	29	14	縄文深鉢　底部1/6	覆土一括				7.5YR4/4褐色 7.5YR3/2黒褐色	良好	繊維含む	外　条痕。平底。 内　条痕。	03群
40	82	1	11	弥生甕　底部1/4	覆土一括		(7.2)		7.5YR3/2黒褐色 5YR4/3にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。	内面器面やや剥離激しく不明。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
40	82	2	13	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　ナデ、ハケ後ナデ。 内　横方向ハケ。	5と同一個体。
40	82	3	12	弥生壺　口縁部	覆土一括	(17.8)			5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、棒状工具による連続刺突文。 内　ナデ。	
40	82	4	17	土師器甕　胴部	覆土一括				2.5Y5/2暗灰黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	殆ど口縁付近。
40	82	5	14	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　ナデ、ハケ後ナデ。 内　横方向ハケ。	2と同一個体。
40	82	6	15	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　S字状結節文、篦ナデ。 内　篦ナデ。	
40	82	7	16	弥生甕　胴部	覆土一括				10YR3/1黒褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
40	82	8	10	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	繊維含む	外　ナデ。 内　擦痕。	03群
40	82	9	9	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	繊維含む	外　擦痕。 内　擦痕。	03群
40	82	10	8	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	繊維含む	外　ナデ。 内　ナデ。	03群
40	82	11	7	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
40	82	12	5	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
40	82	13	2	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR4/2灰黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
40	82	14	1	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR3/1黒褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
40	82	15	18	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色 7.5YR3/1黒褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
40	82	16	4	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　沈線文、刻み隆帯、条痕。 内　条痕。	03群
40	82	17	3	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色 10YR3/1黒褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
41	83	1	1	弥生壺　胴部上位1/3	南壁側床直＋3cm				5YR4/4にぶい赤褐～5YR2/2黒褐色 5YR3/2暗赤褐色	良好	密	外　ハケによる3条の横帯と、細縄文による施文。他横篦ミガキ。 内　篦ナデ。	器面は極めて薄い。胴部最大径（26.6cm）。
42	83	1	4	弥生小型壺　口縁部	覆土一括				5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　折返し口縁、横篦ミガキ。	遺構番号43-3と同一個体。
42	83	2	1	弥生高坏　脚接合部2/3	覆土一括				5YR4/4にぶい赤褐色 5YR3/6暗赤褐色	良好	乳白色粒多	外　篦ミガキの上下間に、カキトリに近い篦ナデ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
42	83	3	2	弥生甕　底部完存	覆土一括		3.8		7.5YR4/4褐色 7.5YR3/1黒褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
42	83	4	17	土師器　底部完存	覆土一括		4.1		7.5YR4/4褐色	良好	密	外　ロクロ、底部糸切り後篦ケズリ。 内　ロクロ。	
42	83	5	7	弥生甕　底部1/5	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
42	83	6	8	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部弱い指頭押捺波状文。 内　篦ナデ。	
42	83	7	12	弥生鉢　口縁部	覆土一括				5YR5/6明赤褐色 5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　羽状縄文。 内　口唇部細縄文、篦ミガキ。	内面赤彩。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
42	83	8	11	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR4/2褐灰色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　棒状工具による押捺波状文。 内　ナデ。	
42	83	9	10	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、原体による押捺。 内　ナデ。	
42	83	10	13	弥生壺　口縁部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄褐色 5YR3/6暗赤褐色	良好	微砂粒多	外　羽状縄文。 内　口唇部細縄文、篦ミガキ。	内面赤彩。
42	83	11	3	弥生鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色 5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部に羽状縄文とＳ字状結節文、下端に原体押捺文が施される。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
42	83	12	9	弥生鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色 5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部に羽状縄文と原体押捺文が施される。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
42	83	13	5	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　Ｓ字状結節文と篦ミガキ。 内　篦ナデ。	内面やや磨耗激しい。
42	83	14	6	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	微砂粒多	外　Ｓ字状結節文と細縄文。 内　篦ナデ。	
42	83	15	14	土師器甕　口縁部	覆土一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	
42	83	16	16	土師器甕　口縁部	覆土一括				7.5YR6/4にぶい褐色 7.5YR3/1黒褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	外面口唇部つまみ上る。
42	83	17	15	土師器甕　口縁部	覆土一括				7.5YR6/4にぶい褐色 7.5YR3/1黒褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	外面口唇部つまみ上る。
43	83	1	9	土師器甕　口縁1/16	覆土一括	(17.0)			7.5YR4/4褐色	良好	密	外　ナデ後篦ミガキ。 内　ナデ後篦ミガキ。	鬼高。
43	83	2	8	土師器甕　口縁1/16	覆土一括	(17.0)			10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	
43	83	3	6	弥生小型壺　口縁1/16	覆土一括	(12.2)			5YR4/4にぶい赤褐色 5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	遺構番号42-１と同一個体。
43	83	4	2	弥生甕　底部1/3	覆土一括		(9.4)		2.5Y5/3黄褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。	内面磨耗激しく不明。
43	83	5	3	土師器甕　底部1/4	覆土一括	(5.5)			7.5YR5/4にぶい褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　ハケ後ナデ。	
43	83	6	1	土師器坩　底部1/4	覆土一括		(3.6)		2.5YR6/3にぶい黄色 10YR4/6褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
43	83	7	7	土師器台付甕　脚部1/4	覆土一括		(9.4)		7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　ハケ後ナデ。 内　篦ナデ後ナデ。	平安時代の台付き甕である。
43	83	8	12	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR3/1黒褐色	良好	繊維含む	外　口唇上刻み。 内　条痕→上部ナデ。	03群
43	83	9	13	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/3褐色	良好	繊維含む	外　微隆起線文上に円形刺突文。 内　条痕。	03群
43	83	10	4	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR6/6橙色 5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　羽状縄文。 内　口唇部細縄文、篦ミガキ。	内面赤彩。
43	83	11	5	弥生鉢　口縁部	覆土一括				2.5YR6/4にぶい赤褐色 2.5YR6/3暗赤褐色	良好	密	外　口縁部下位にＳ字状結節文。 内　口唇部無文で面取り、篦ミガキ。	内面赤彩。
43	83	12	11	土師器坏　口縁部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ケズリ後ナデ。 内　篦ナデ後ミガキ。	鬼高。
43	83	13	10	土師器甕　口縁の一部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	内面口唇部つまみ上げ面取り。
43	83	14	14	須恵器坏	覆土一括				2.5Y6/2灰黄色	良好	密	外　ロクロ。 内　ロクロ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
44	85	1	13	土師器甕　ほぼ完存	南壁側床直 +8.5cm	19.6	6.1	27.7	7.5YR4/3褐色	良好	密	外　ナデ後篦ナデ。 内　ナデ後篦ナデ。	胴部の一部が存在せず接合に至らない。
44	85	2	11	土師器甕　口縁1/4	覆土一括	(16.8)			7.5YR4/4褐色	良好	密	外　横ナデ。 内　横ナデ。	
44	85	3	12	土師器壺　口縁1/4	焼土内床直上 +4.7cm	(11.6)			2.5YR4/6赤褐色 11～7.5YR4/6褐色	良好	密	外　ナデ、頸部ハケ後篦ナデ、他篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	
44	85	4	7	土師器甕　底部完存	南壁側床直 +8.2cm		6.9		5YR4/4にぶい赤褐色 5YR3/1黒褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	器厚が厚く、重量感があり重い。
44	85	5	5	土師器高坏　脚部全欠	P１周辺床直 −0.8cm	14.9			5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口唇部横ナデ後篦ケズリ。 内　ナデ後篦ナデ。	
44	85	6	10	土師器甕　底部2/3強	覆土一括		7.5		7.5YR4/3褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	底部安定感なし。
44	85	7	9	土師器坩　底部完存	覆土一括		2.9		5YR4/4赤褐色 7.5YR4/3褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
44	85	8	8	土師器甕　底部2/3	覆土一括				7.5YR4/3褐色 7.5YR3/1黒褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
44	85	9	6	土師器高坏　坏部 脚裾部全欠	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面器面剥離あり。
44	85	11	1	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　原体による圧痕。 内　折り返し口縁。	
44	85	12	3	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　２条の沈線の上位に、網目細縄文を施す。 内　篦ナデ。	
44	85	13	4	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　四本単位の波状文が２段以上、無文帯には赤彩が施される 内　ナデ。	
45	85	1	2	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/3褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
45	85	2	3	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/3褐色	良好	繊維含む	外　押引文区画内押引文充填、条痕。小波状口縁。 内　ナデ。	03群
45	85	3	6	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/4にぶい赤褐色	良好	繊維含む	外　押引文、ナデ。 内　ナデ。	03群
45	85	4	4	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
45	85	5	5	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/4にぶい赤褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
45	85	6	1	縄文深鉢　底部完存	覆土一括				10YR6/4黄褐色 10YR2/1黒色	良好	繊維含む	外　粗いナデ。平底。 内　粗いナデ。	03群
46	86	1	1	弥生敲甕 底部完存～胴部1/2強	炉内床上 +7.2cm	(16.7)	2.8	16.9	5YR4/4にぶい赤褐色 5YR3/2暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部タタキ後ハケ、底部篦ナデ。 内　全面的にハケ。	口縁部の大半を欠く。底部焼成後穿孔。
46	86	2	2	弥生高坏　坏部1/2欠	炉周辺床直 +0.3cm	11.8	11.2	10.5	5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　坏部篦ナデ後篦ミガキ、脚部篦ミガキ、裾部篦ナデ。 内　坏部篦ミガキ、脚部篦ナデ。	内外面赤彩。全体的に造り丁寧。脚部の三方に穿孔。
46	86	3	7	弥生甕　全体1/8	覆土一括		(8.5)		7.5YR4/4褐色 7.5YR3/2黒褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
46	86	4	8	弥生甕　底部1/8弱	覆土一括		(6.3)		5YR5/6明赤褐色 5YR3/1黒褐色	良好	密	外　ハケ後篦ミガキ。 内　ハケ後篦ミガキ。	内外面とも器面剥離激しい。
46	86	5	9	弥生甕　底部1/6	覆土一括		(6.8)		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
46	86	6	6	弥生甕　口縁部	覆土一括		(6.8)		10YR5/4にぶい黄褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
46	86	7	10	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR6/6橙色	やや不良	微砂粒多 (砂っぽい)	外　口縁部羽状縄文と原体押捺を施す。 内　ナデ。	
46	86	8	5	弥生鉢　口縁部	炉周辺床直 ＋0.3cm				7.5YR3/4暗褐色 2.5YR4/6褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	外面赤彩。
46	86	9	20	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR3/2黒褐色	良好	密	外　口縁部細縄文下位にＳ字状結節文を施す。 内　ナデ。	北関東系土器。
46	86	10	4	弥生壺　口縁部	炉内床上 ＋7.2cm				7.5YR4/4にぶい褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
46	86	11	11	弥生鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色 5YR4/6赤褐色	良好	密	外　原体押捺文を施す。 内　ナデ。	内外面赤彩。
46	86	12	16	弥生鉢　口縁部付近	覆土一括				5YR3/6暗赤褐色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部羽状縄文と原体押捺文を施す。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
46	86	13	14	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR3/6暗赤褐色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　羽状縄文とＳ字状結節文の３連を施す。他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
46	86	14	15	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR3/6暗赤褐色 2.5YR6/2灰黄褐色	良好	密	外　Ｓ字状結節文を施す。他篦ミガキ。 内　ナデ。	外面赤彩。
46	86	15	12	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　斜行細縄文を施す。 内　篦ナデ。	
46	86	16	13	弥生壺　胴部	覆土一括				5Y6/2灰オリーブ色 2.5YR5/8明赤褐色	良好	微砂粒多 (砂っぽい)	外　沈線区画の上位に斜行細縄文を施す。 内　篦ナデ。	
46	86	17	17	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい褐色 10YR5/3にぶい褐色	良好	密	外　６条単位の波状文により施文される。 内　篦ナデ。	
46	86	18	18	弥生甕　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	
46	86	19	19	弥生鉢　胴部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄橙色 5YR4/8暗赤褐色	良好	密	外　羽状縄文を施す。 内　篦ナデ	
48	86	1	8	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
48	86	2	1	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	繊維含む	外　刺突？。 内　粗いナデ。	03群
48	86	3	7	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　擦痕。 内　擦痕。	03群
48	86	4	5	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色	良好	繊維含む	外　ナデ。 内　ナデ。	03群
48	86	5	2	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/4にぶい赤褐色	良好	繊維含む	外　押引集合沈線、円形刺突。 内　条痕。	03群
48	86	6	11	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色	良好	繊維含む	外　擦痕。 内　擦痕。	03群
48	86	7	4	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR4/3にぶい褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
48	86	8	10	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
48	86	9	3	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色	良好	繊維含む	外　摩滅。 内　摩滅。	03群
48	86	10	6	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/4にぶい赤褐色 5YR3/2暗赤褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
49	87	1	15	弥生甕　口縁1/2 底部全欠	北壁際床直 －0.9cm	19.6			5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、口縁部ナデ後篦ナデ頸部多段の輪積痕を半ナデ磨り消す。 内　頸～胴部ナデ後篦ナデ、胴部下位篦ミガキ。	一方は北壁際床直－0.2cmと接合。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
49	87	2	10	弥生壺　胴部	P１周辺床直＋2.6cm				2.5Y3/6暗赤褐色(赤彩部分)	良好	密	外　篦ミガキ。	内面器面剥離激しく不明（篦ナデ？）胴部最大径（42.6cm）
49	87	3	3	弥生甕　胴部1/2弱	炉内床直＋1.1cm	(19.2)			7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口唇部と頸部下端に指頭押捺波状文。頸部～胴部篦ナデ後篦ミガキ。 内　ナデ後篦ミガキ。	
49	87	4	12	弥生甕　口縁1/3	東南隅床直＋3.0cm	(24.7)			10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部原体押捺、口縁部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部篦ナデ。	
49	87	5	1	弥生甕　底部全欠	炉内火床＋3.0cm	17.7			5YR3/4暗赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、頸部下端原体押捺文。頸部～胴部篦ナデ。 内　篦ナデ。	一方は東壁際床直＋2.5cmと接合。
49	87	6	16	弥生甕　口縁1/8	北壁際床直－0.4cm	(24.4)			5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、口縁部篦ナデ後篦ミガキ　頸部指頭押捺文。 内　篦ナデ。	内面器面剥離激しく不明。
49	87	7	14	弥生甕　頸部～胴部3/4	炉内火床＋１cm				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　頸部に１段の輪積を残す。胴部篦ナデ。 内　篦ナデ。	
49	87	8	13	弥生甕　底部完存	P１周辺床直＋2.5cm		8.2		10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	焼成後穿孔。孔径1.0～0.5cm。
49	87	9	11	弥生甕　底部完存	東南隅床直＋3.0cm		7.0		10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
49	87	10	4	弥生鉢　全体1/8	P１周辺床直＋1.6cm	(21.7)			10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部面取り他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
49	87	11	2	土師器坩　底部	西南隅床直－3.4cm		7.7		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　ハケ後篦ナデ。	一方は西南隅床直－1.8cmと接合。
49	87	12	6	弥生鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部羽状縄文と原体押捺。 内　篦ナデ。	
50	89	1	1	弥生鉢　全体2/3	覆土一括	20.7	8.0	10.2	2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	内外面赤彩。
50	89	2	2	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 7.5YR3/2黒褐色	良好	繊維含む	外　隆帯上刺突、条痕。 内　条痕。	03群
51	89	1	1	弥生鉢　完形	棺底＋54cm	17.9	6.6	10.9	10R4/6赤色	良好	密	外　口唇～口縁部細縄文と原体押捺、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。非常に丁寧に造られた土器。口縁部下に二孔の穿孔。
52	89	1	1	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文を施す。他ナデ。 内　ナデ。	
52	89	2	5	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR3/3暗褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
52	89	3	3	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR4/4褐色 10YR3/2黒褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
52	89	4	2	縄文深鉢　胴部	覆土一括				2.5YR4/6赤褐色 7.5YR3/4暗褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
52	89	5	4	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR6/6橙色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　ナデ。 内　条痕。	03群
53	89	1	1	土師器甕　ほぼ完形	炉周辺床上＋8.3cm	15.4	6.5	8.6	10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、他篦ナデ後篦ミガキ。	
53	89	2	12	土師器小型壺　全体1/8	覆土一括	(14.0)			10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　折り返し口縁。口唇部面取り他ナデ。 内　ナデ。	
53	89	3	11	土師器小型壺　全体1/8	覆土一括	(14.0)			5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁他ナデ。 内　ナデ。	
53	89	4	3	土師器壺　口縁部完存	炉内火床＋0.4cm	10.6			5YR4/8赤褐色	良好	密	外　粗い篦ミガキ。 内　篦ナデ後指ナデ。	
53	89	5	2	土師器鉢　ほぼ完形	炉周辺床上＋9.1cm	10.4	3.8	7.1	2.5YR4/6赤褐色 5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ他篦ナデ。 内　口縁部ナデ他ハケ後篦ナデ一部篦ミガキ。	外面赤彩。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
53	89	6	19	弥生高坏　底部1/6	覆土一括		(12.2)		2.5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　脚端部細縄文他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
53	89	7	9	土師器高坏　全体1/6	覆土一括	(13.6)			10R4/6赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。内外面器面磨耗激しく不明。
53	89	8	10	土師器高坏　全体1/8	覆土一括	(13.6)			10R4/3赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
53	89	9	8	土師器坩　口縁1/3	覆土一括	(8.2)			7.5YR4/6褐色	良好	密		内外面器面磨耗激しく不明。
53	89	10	6	土師器甕　底部1/4	覆土一括		(8.0)		7.5YR4/6褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
53	89	11	7	弥生甕　全体1/4弱	覆土一括		(7.4)		7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面器面磨耗激しく不明。
53	89	12	4	手づくね　全体1/3強	覆土一括	(4.5)	(5.4)	3.3	10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　指ナデ。	
53	89	13	5	手づくね　口縁全欠	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　指ナデ。 内　指ナデ。	
53	89	14	14	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR3/3暗褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　ナデ。	
53	89	15	15	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR3/2黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　ナデ。	
53	89	16	17	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　S字状結節文と細縄文を施す。	外面無文帯に赤彩。内面器面剥離激しく不明。17と同一個体。
53	89	17	16	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　S字状結節文と細縄文を施す。 内　篦ナデ。	外面無文帯に赤彩。16と同一個体。
53	89	18	18	弥生甕　胴部	覆土一括				10YR6/3にぶい黄橙色	良好	密	外　櫛描き波状文を施す。 内　篦ナデ。	
54	90	3	3	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				2.5YR4/2灰褐色 7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　擦痕。 内　擦痕。	03群
54	90	4	7	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 7.5YR3/2黒褐色	良好	繊維含む	外　沈線意匠文？、隆帯上刺突、器面劣化。 内　劣化。	03群
54	90	5	6	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR4/2灰褐色	良好	繊維含む	外　隆帯、ヘラナデ。 内　ヘラナデ。	03群
54	90	6	4	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR6/6橙色	良好	繊維含む	外　隆帯上指頭押圧。 内　条痕。	03群
54	90	7	5	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
55	90	1	1	土師器甕 口縁2/3・胴部の一部欠	北東隅床直 －0.8cm	(16.0)	5.2	18.7	5YR3/2暗赤褐～5YR3/1黒色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　頸部ナデ、胴部篦ナデ。	口唇部面取り。接合の際の歪みを大きく修正して実測。
55	90	2	3	土師器鉢　口縁の一部欠 (ほぼ完形)	東壁側床上 ＋8.8cm	21.6	7.0	10.1	2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	一方は遺構中央床直＋1.7cmと接合。
55	90	3	8	土師器鉢 底部1/2～口縁の極一部	覆土一括	(10.0)	3.0	7.1	2.5YR4/4にぶい赤褐色 2.5YR4/4にぶい赤褐～7.5YR4/6褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ、底部付近篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面赤彩。内面は胴部中位までの赤彩。器面が非常に薄い。
55	90	4	2	土師器坏　ほぼ完形	北壁側床直 ＋0.1cm	17.6	10.5	14.0	2.5YR3/6暗赤褐色 7.5YR4/4褐色(脚部内面)	良好	密	外　口唇部ハケ後ナデ、胴部ハケ後一部ナデ、脚部篦ナデ後ナデ。 内　口唇部・脚部ナデ、他篦ナデ。	内外面赤彩。脚部の四方に穿孔。
55	90	5	5	土師器器台 口縁・脚部の一部欠	北東隅床直 －0.8cm	7.8	9.6	7.3	2.5YR4/8赤褐色 7.5YR4/6明褐色(脚部内面)	良好	密	外　口唇部・脚部ナデ、他篦ナデ。 内　口唇部・脚部篦ナデ、脚部裾ナデ。	脚部の四方に穿孔。
55	90	6	6	土師器器台 口縁・脚部の一部欠	東壁側床直 －1.1cm	7.8	10.1	7.4	2.5YR4/6赤褐色 10YR5/4にぶい黄褐色(脚部内面)	良好	密	外　口唇部・脚部ナデ、他ハケ後篦ミガキに近い篦ナデ。 内　口唇部・脚部篦ナデ。	内外面赤彩。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
55	90	7	9	土師器器台 口縁・脚部の1/3欠	北東隅床直上 ＋6.1cm	8.1	10.3	7.6	10YR4/6赤色 10YR5/3にぶい黄褐色(脚部内面)	良好	密	外　口唇部・脚部裾ナデ、他篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　口唇部・脚部裾ナデ、他ハケ後ナデ後一部篦ミガキ。	内外面赤彩。一方は遺構中央床直＋1.8cmと接合。
55	90	8	4	土師器器台 口縁・脚部の一部欠	遺構中央床直 ＋1.8cm	7.8	10.6	7.2	2.5YR4/8赤褐色 7.5YR5/6明褐色(脚部内面)	良好	密	外　口唇部・脚部裾ナデ、他篦ナデ。 内　口縁部・脚部篦ナデ、脚裾部ナデ。	脚部の三方に穿孔。
55	90	9	7	土師器坩 底部完存～胴部1/2	覆土一括		5.8		2.5YR4/6赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。(やや雑) 内　篦ナデ。	外面赤彩。
55	90	10	10	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR3/2黒褐色 7.5YR4/6褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、後ハケ。 内　篦ナデ。	
55	90	11	11	弥生鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR6/6褐色	良好	密	外　原体による押捺文を施す。 内　篦ナデ。	
56	91	1	1	弥生広口壺or鉢　口縁部	覆土一括				2.5YR4/6赤褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	外面赤彩。
56	91	2	2	須恵器	覆土一括								遺物不明の為観察出来ず。
57	91	1	4	土師器鉢　口縁部	覆土一括	(12.6)			5YR4/6赤褐色	良好	密	外　ナデ後篦ナデ。 内　篦ナデ。(細片の為調整の単位不明)	内外面赤彩。
57	91	2	3	土師器高坏　坏部1/12	覆土一括	(11.0)			7.5YR6/6橙色 7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。(単位不明)	
57	91	3	2	土師器高坏　脚部	覆土一括				5YR4/6赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	柱実。
57	91	4	1	弥生甕　底部1/3	覆土一括		(5.4)		7.5YR5/4にぶい黄褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内面器面磨耗激しく不明。
57	91	5	7	須恵器	覆土一括								遺物不明の為観察出来ず。
57	91	6	6	須恵器	覆土一括								遺物不明の為観察出来ず。
58	91	1	3	弥生甕　口縁1/3～胴部2/3	焼土周辺床直 ＋1.4cm	13.2			5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
58	91	2	4	弥生甕　全体1/3	焼土周辺床直 上＋5.9cm	(19.6)			5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ後篦ナデ。 内　折り返し口縁、他篦ナデ。	
58	91	3	2	弥生甕　口縁3/4	焼土周辺床直 ＋3.3cm	25.8	6.6	28.7	10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ミガキ、他篦ナデ？(残り悪く不明)	
58	91	4	1	弥生壺 口唇部全欠(ほぼ完形)	南西隅床直 ＋3.2cm	(21.2)	7.2	(5.2)	10YR5/3にぶい黄褐～10YR3/1黒褐色 10YR3/1黒褐色	良好	密	外　口唇部２連の単節縄文、頸部篦ミガキ、胴部３連の単節縄文篦ナデ後篦ミガキ。 内　指ナデ。	
58	91	5	6	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　口唇上押引文、ヘラ条痕。 内　ヘラ条痕。	03群
58	91	6	5	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR4/6褐色	良好	繊維含む	外　押引文。 内　条痕。	03群
58	91	7	7	弥生壺　頸部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　頸部Ｓ字状結節文を施す。 内　篦ナデ。	
59	93	1	2	弥生壺　全体1/4	覆土一括	(15.4)			10YR6/4にぶい黄橙色 2.5YR3/6赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁。羽状縄文と原体押捺を施した後、２連の棒状浮文と円形浮文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩、器面剥離激しく不明。
59	93	2	1	弥生鉢　ほぼ完形	東壁際床直 ＋1.6cm	(17.0)	7.0	(6.8)	10R4/4赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、原体押捺と細縄文が施される。胴部篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩（外面口縁部は赤彩ではない）
59	93	3	4	土師器甕　口縁部1/16	覆土一括	(13.8)			7.5YR3/1黒褐色 7.5YR4/3褐色	良好	密	外　ハケ後ナデ。 内　ハケ後ナデ。	
59	93	4	7	弥生甕　底部1/6	覆土一括		(7.2)		7.5YR5/6明褐色	不良	微砂粒多		内外面器面磨耗激しく不明。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
59	93	5	6	弥生鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁。羽状縄文と原体押捺を施す。 内　篦ミガキ	
59	93	6	5	弥生鉢　口縁部	覆土一括				2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口縁部羽状縄文を施す。	内外面器面磨耗激しく不明。
59	93	7	3	弥生鉢　胴部	覆土一括				2.5YR5/6明赤褐色(赤彩部分) 2.5YR3/4暗赤褐色	良好	密	外　口縁部羽状縄文と原体押捺を施し、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
60	94	4	7	土師器甕　口縁1/3	カマド周辺床直＋3.1cm	(27.2)	6.8	27.8	5YR4/6赤褐色 7.5YR5/6明褐色	良好	8㎜大の小石含む	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ後雑な篦ミガキ。 内　口縁部ナデ後篦ナデ。	外面下の篦ケズリ痕がよく残っている。
60	94	5	11	土師器甕　ほぼ完存	カマド周辺床上＋8.9cm	12.8	5.5	20.2	5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　ナデ後篦ケズリ。 内　ナデ後篦ナデ。	
60	94	6	10	土師器甑 胴部の一部欠	P１底面＋7.7cm	18.6	6.1	18.1	10YR5/4にぶい黄褐色 10YR3/2灰黄褐色	良好	密	外　ナデ後篦ナデ。 内　ナデ後篦ナデ。	
60	94	7	8	土師器甕　口縁1/2欠	南壁側床直＋3.3cm	6.6	9.4	27.0	10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、篦ケズリ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面胴部下端は磨耗するが、全体的に造りの丁寧な土器である。
60	94	8	25	土師器甕　口縁1/8	覆土一括	(13.4)			7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、他篦ケズリ。 内　ナデ。	
60	94	9	23	弥生壺　底部1/3	遺構中央床上＋11cm		(8.8)		7.5YR5/4にぶい褐色	良好	微砂粒多	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
60	94	10	21	土師器甕　底部1/2	覆土一括		6.6		7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　篦ケズリ一部篦ナデ。 内　篦ナデ。	
60	94	11	24	土師器短頸壺　口縁1/6	カマド周辺床直上＋４cm	(15.2)			10YR6/4にぶい黄橙色	良好	褐色粒含む	外　口唇部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口唇部ナデ、胴部篦ナデ。	
60	94	12	9	土師器高坏　口縁の一部欠	カマド火床＋8.9cm	25.6	15.6	17.5	7.5YR6/6橙色 5YR3/6暗赤褐色(赤彩残存部)	良好	密	外　口唇部下に１条の沈線。他篦ケズリ後ナデ、脚部縦方向の篦ナデ、裾部横ナデ。 内　ナデ後雑な篦ナデ。	布留系大型高坏。内外面磨耗激しく調整不明。外面赤彩痕跡残る。一方はカマド周辺床直＋2.4cmと接合。
60	94	13	20	土師器高坏　坏部1/2弱	覆土一括	(14.8)			10R4/6赤色	良好	密	外　口唇部ナデ、坏部篦ケズリ。 内　口唇部ナデ、坏部篦ナデ。	内外面赤彩。
60	94	14	17	土師器高坏　脚部欠	カマド周辺床上＋37.2cm	13.7			10R4/8赤色	良好	密	外　口唇部ナデ、他篦ケズリ。 内　口唇部ナデ、他篦ナデ。	内外面赤彩。
60	94	15	12	土師器高坏 脚中位～裾部全欠	覆土一括	14.6			2.5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　口唇部直下に沈線をめぐらし、他篦ケズリ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
60	94	16	22	土師器鉢 口縁～胴部大半欠	覆土一括	(12.8)		7.1	2.5YR4/4にぶい赤褐色 2.5YR5/6明赤褐色	良好	1㎜大の小石多	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。	外面赤彩、内面器面剥離激しく不明。
60	94	17	16	土師器坏　ほぼ完形	カマド周辺床上＋6.7cm	13.9		5.6	10R4/8赤色	良好	密	外　口唇部ナデ後篦ケズリ。 内　ナデ、他篦ナデ後ナデ。	内外面赤彩。
60	94	18	15	土師器坏　ほぼ完形	遺構中央床上＋8.2cm	15.4		5.7	10R4/8赤色	良好	密	外　口唇部ナデ後篦ケズリ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
60	94	19	18	土師器坏　全体1/2強	カマド周辺床上＋９cm	14.1		5.3	10R4/8赤色	良好	密	外　口唇部ナデ、篦ケズリ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩、一方は遺構中央床直上＋6.7cmと接合。
60	94	20	19	土師器坏　口縁3/4欠	覆土一括	(14.6)		5.0	10R4/8赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、他篦ケズリ。 内　ナデ後篦ナデ。	内外面赤彩。
60	94	21	26	土師器高坏　口縁1/4弱	覆土一括	(13.0)			10R4/8赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
60	94	22	13	土師器坏　ほぼ完存	遺構中央床直上＋5.1cm	15.0		6.0	5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、他篦ケズリ。 内　口唇部ナデ、他篦ナデ。	内外面ともに赤彩は認められない。
60	94	23	14	土師器椀　全体1/3強	遺構中央床直上＋6.7cm	(14.6)		6.9	10R4/8赤色	良好	密	外　口唇部ナデ、他篦ケズリ。 内　口唇部ナデ、他粗い篦ミガキ。	内外面赤彩。
60	95	24	34	手づくね　口縁大半欠	北壁側床直上＋5.2cm	(9.0)	6.8	4.0	7.5YR4/6褐色	良好	密	外　指ナデ。 内　篦ナデ。	底部は長方形を呈する。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
60	95	25	33	手づくね　ほぼ完形	覆土一括	5.0	3.4	2.8	7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　指ナデ。 内　指ナデ。	
60	95	26	32	土師器高坏　裾部4/5欠	覆土一括		(9.4)		10R4/8赤色 10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ミガキ後篦、裾部ナデ。 内　篦ケズリ、裾部ナデ。	外面赤彩。
60	95	27	28	土師器高坏　脚部全欠	カマド周辺床上＋9cm		10.8		10R4/8赤色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　ナデ。 内　脚部篦ケズリ、裾部ナデ。	外面赤彩。
60	95	28	27	土師器高坏　脚部1/3	覆土一括		(8.8)		10R3/6暗赤褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	外面赤彩。
60	95	29	31	土師器高坏　裾部全欠	覆土一括				10R4/8赤色 5YR5/4にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ後ナデ。	
60	95	30	30	土師器高坏　裾部全欠	覆土一括				5YR5/4にぶい赤褐色 5YR5/3にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　脚部指によるカキトリ、裾部篦ナデ。	外面赤彩痕跡あり。
60	95	31	29	土師器高坏　脚部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　ナデ。	
60	95	32	4	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	繊維含む	外　ヘラ条痕。 内　ヘラ条痕。	03群
60	95	33	3	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　絡条体圧痕文・区画・意匠文。 内　ナデ。	03群。砂粒多
60	95	34	2	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
60	95	35	6	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	繊維含む	外　擦痕。 内　擦痕。	03群
60	95	36	5	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR6/6橙色	良好	繊維含む	外　沈線区画内押引文充填、円形刺突文、条痕。 内　条痕。	03群
60	95	37	1	縄文深鉢　底部1/3強	覆土一括		(6.0)		7.5YR6/6橙色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	繊維含む	外　粗いナデ。 内　粗いナデ。	03群
61	95	1	1	弥生甕　底部1/2～口縁1/8	P20底面＋23.5cm	(20.8)	8.0	36.1	10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	２と同一個体。
61	95	2	27	弥生甕　底部全欠	P20底面＋23.5cm	(30.0)			10YR5/3にぶい黄褐～10YR2/2黒褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文（爪が入る）篦ナデ。 内　篦ナデ。	内面やや磨耗激しい。１と同一個体。
61	95	3	2	弥生甕　口縁1/4	炉内火床	(27.6)			7.5YR4/6褐～7.5YR3/1黒褐色 7.5YR4/6褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、ハケ後櫛描き波状文を施す。 内　篦ナデ。	
61	95	4	3	弥生甕　口縁～胴部1/4	炉内火床	(27.2)			7.5YR4/6褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、ハケ後篦ナデ。 内　篦ミガキ。	内面胴部中位以下篦ナデ？（磨耗により不明）
61	96	5	5	弥生甕　胴部中央1/2	炉内火床				10YR4/2灰黄褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後粗い篦ナデ。 内　篦ナデ。	
61	96	6	4	弥生甕　胴部1/2	炉内火床				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　ハケ後櫛描き波状文を施す。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
61	96	7	14	弥生鉢　全体1/6	覆土一括	(20.4)			10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部に羽状縄文と原体押捺を施す。他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	光沢が出るほど、内外面はよく磨がれている。
61	96	8	7	弥生甕　底部3/4強	覆土一括		6.4		7.5YR4/4褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	底部木葉痕あり。
61	96	9	12	弥生甕　底部1/4	覆土一括		(9.2)		10YR4/3にぶい黄褐色	不良	微砂粒多	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
61	96	10	8	弥生甕　底部1/2強	覆土一括		5.8		10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
61	96	11	17	弥生小型壺 or 高坏 口縁1/3	覆土一括	(8.7)			10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、他篦ナデ。 内　ナデ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
61	96	12	10	弥生甕　全体1/3	覆土一括		(6.0)		7.5YR4/4褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
61	96	13	6	弥生高坏　脚部1/3	P20底面 ＋23.5cm		(9.4)		10YR5/4にぶい黄褐色 10YR5/2灰黄褐色	良好	密	外　篦ミガキ、脚裾折り返し。 内　篦ナデ。	外面に赤彩痕跡あり。
61	96	14	9	弥生甕　底部1/3	炉内火床		(8.0)		10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
61	96	15	13	弥生甕　底部1/2	覆土一括		5.6		10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
61	96	16	11	弥生甕　底部1/4	覆土一括		(7.6)		10YR4/3にぶい黄褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	微砂粒多	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内面やや磨耗している。
61	96	17	15	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR3/1黒褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他櫛描き文。 内　篦ナデ。	
61	96	18	16	弥生甕　口縁1/16	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部に指文残る、他ハケ後ナデ。	
61	96	19	18	弥生甕　胴部	覆土一括				10YR3/2黒褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　櫛描き波状文を施す。 内　篦ナデ。	
61	96	20	22	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR3/4暗褐色	良好	乳白色粒多	外　多段の輪積痕と原体押捺を施す。 内　篦ナデ。	
61	96	21	20	弥生壺　頸部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　細縄文とＳ字状結節文を施す。 内　篦ナデ	
61	96	22	19	弥生甕　胴部	覆土一括				10YR2/1黒褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　櫛描き波状文を施す。 内　篦ナデ。	
61	96	23	21	弥生鉢　胴部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　細縄文を施す。 内　篦ナデ。	
61	96	24	26	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR3/2黒褐色	良好	繊維含む	外　２本の波状刻み隆帯。 内　ナデ。	03群
61	96	25	23	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR3/4暗褐色	良好	繊維含む	外　押引区画文、口唇上刻み、条痕、ナデ。 内　条痕。	03群
61	96	26	25	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　羽状縄文・RL・LR。	03群
61	96	27	24	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	繊維含む	外　羽状縄文。 内　条痕。	04群
63	98	1	1	土師器底部穿孔二重 口縁壺口縁1/12	覆土一括	(15.6)			5YR4/6赤褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　ハケ後ナデ。	
63	98	2	2	土師器小型甕　口縁1/8	覆土一括	(10.6)			5YR4/6赤褐色	良好	密	外　ハケ後ナデ。 内　ハケ後ナデ。	
63	98	3	3	土師器高坏　坏部	覆土一括				2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
63	98	4	6	弥生壺　口縁部	覆土一括				5YR6/6橙色	良好	密	外　折り返し口縁、細縄文と原体押捺を施す。他篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面器面磨耗激しい。
63	98	5	7	弥生甕　口縁部	覆土一括				2.5Y3/2黒褐色	良好	密	外　口唇部原体押捺後ハケ。 内　粗い篦ナデ。	
63	98	6	9	弥生壺　胴部	覆土一括				2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　網目状文と沈線区画内に細縄文による山形文を施す。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
63	98	7	10	弥生壺　胴部	覆土一括				2.5YR4/6赤 褐～10YR4/2灰 炭褐色　7.5YR5/4にぶい褐～10YR4/2灰炭褐色	良好	微砂粒多	外　Ｓ字状結節文と細縄文を施し、後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
63	98	8	8	弥生甕　胴部	覆土一括				10YR5/2灰黄褐色	良好	密	外　ハケ後櫛描き波状文を施す。 内　ハケ後篦ナデ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
64	98	2	5	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、後櫛描き文を施す。 内　篦ナデ。	
64	98	3	3	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　羽状縄文を施す。 内　篦ナデ。	
64	98	4	4	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　羽状縄文を施す。 内　篦ナデ。	
65	98	1	1	土師器高坏　坏部1/4強	覆土一括	(17.8)			7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、坏部篦ミガキ後篦ナデ。 内　口唇部ナデ、坏部篦ミガキ。	
65	98	2	3	弥生鉢　胴部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　羽状縄文の下にＳ字状結節文を施す。 内　篦ナデ。	
65	98	3	2	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口唇部原体による押捺、後櫛描き文を施す。 内　篦ナデ。	
67	100	1	2	土師器甕　口縁1/12	覆土一括	(22.2)			5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	
67	100	2	1	土師器甕　底部1/8	覆土一括		(8.4)		7.5YR4/4褐色 7.5YR3/3暗褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
67	100	3	3	土師器高坏　脚部1/8	覆土一括		(11.9)		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	
68	100	1	5	土師器坏　口縁1/8	覆土一括	(12.2)			10YR3/1黒褐色	良好	密	外　ナデ後篦ケズリ。 内　ナデ。	内外面黒色処理。
68	100	2	1	土師器坏　口縁1/4	覆土一括	(14.0)		(3.5)	7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　ナデ後篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
68	100	3	4	土師器坏　口縁1/16	覆土一括	(14.0)			10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	
68	100	4	2	土師器坏　口縁1/8	覆土一括	(13.3)			10YR3/1黒褐色 7.5YR3/1黒褐色	良好	密	外　口唇部下に輪積痕、以下ナデ後篦ケズリ。 内　ナデ。	黒色処理。
69	100	1	1	土師器甕　口縁1/12	覆土一括	(19.0)			7.5YR4/6褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	外面口唇部つまみ上る。遺構に直接伴う。
69	100	2	3	弥生甕　底部1/6	覆土一括		(7.2)		10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ナデ。	内面器面磨耗激しく不明。
69	100	3	2	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
71	100	1	3	弥生鉢　口縁1/4	覆土一括	(12.6)			10YR6/4にぶい黄橙色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　口縁部細縄文と原体押捺、体部篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
71	100	2	1	手づくね台付甕 口縁の大半欠く	覆土一括	(2.3)	1.5	3.4	5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　指ナデ。(指紋残る) 内　指カキ取り。	
71	100	3	4	弥生鉢　口縁部	覆土一括				2.5YR4/4にぶい赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁部Ｓ字状結節文を施し、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
71	100	4	6	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　櫛描き状の平行沈線文を施す。 内　篦ナデ。	
71	100	5	5	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR3/2黒褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　櫛描き波状文を施す。 内　篦ナデ。	
72	102	1	1	土師器甕 胴部～底部1/3欠	中央東側床直 ＋2.5cm	13.6	7.6	29.7	2.5YR4/6赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁～頸部ナデ、胴部篦ケズリ。	内面器面剥離激しく不明。
72	102	2	2	土師器甕　口縁2/3欠	Ｐ２周辺床直 ＋3.5cm	(16.5)	5.8	24.2	5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　ナデ後篦ナデ。	
72	102	3	7	土師器甕　口縁1/3	Ｐ２周辺床直	(18.0)			7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸部篦ケズリ。 内　ナデ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
72	102	4	4	土師器坏　ほぼ完形	遺構中央床直 ＋3.4cm	15.7	4.8	5.7	10R4/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、他篦ケズリ。 内　篦ナデ。	底部は平底である。外面底部赤彩ではない。
72	102	5	9	土師器甑　口縁1/8	覆土一括	(16.2)			7.5YR6/6橙色 7.5YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　ナデ後粗い篦ナデ。	
72	102	6	5	土師器甕 口縁1/4～底部欠	南壁側床直上 ＋6.3cm	14.8			10YR3/2黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　篦ナデ。	内外面黒色処理。
72	102	7	3	土師器甕　口縁部完存	P９周辺床直 ＋1.5cm	17.6			7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR6/4にぶい橙色	良好	やや砂っぽい	外　口唇部面取り。 内　篦ナデ。	外面器面磨耗激しく不明。
72	102	8	6	土師器高坏　脚部1/2	覆土一括		9.8		2.5YR4/6赤褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　脚部篦ミガキ。 内　脚部篦ナデ。	外面赤彩。
72	102	9	11	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				5YR5/6明赤褐色	良好	繊維含む	外　口唇上刻み、条痕。 内　条痕。	03群
72	102	10	10	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色	良好	繊維含む	外　押引文。 内　条痕。	03群
72	102	11	12	縄文深鉢　底部	覆土一括				5YR4/6赤褐色	良好	繊維含む	外　条痕。平底。 内　条痕。	03群
74	103	1	1	弥生甕　底部2/3	覆土一括		6.8		10YR4/4褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　底部篦ナデ。 内　底部篦ナデ。	
74	103	2	2	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 5YR4/4にぶい赤褐色	良好	微砂粒多	外　口縁部に羽状縄文を施す。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
74	103	3	3	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部原体による押捺、櫛描き波状文を施す。 内　折り返し口縁。	
75	103	1	2	弥生甕　底部2/3	覆土一括		(5.0)		7.5YR5/4にぶい褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　底部篦ナデ。 内　底部篦ナデ。	
75	103	2	4	弥生甕　底部2/3	覆土一括		4.6		7.5YR6/6褐色	良好	１㎜大の砂粒多	外　底部篦ナデ。 内　底部篦ナデ。	
75	103	3	3	弥生甕　底部1/3	覆土一括		(7.6)		7.5YR5/4にぶい褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　底部篦ナデ。 内　底部篦ナデ。	
75	103	4	10	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	外　口唇部棒状工具による刺突文と、以下櫛描き波状文を施す。 内　折り返し口縁。	
75	103	5	9	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色	良好	微砂粒多	外　口唇部指頭押捺波状文を施す。 内　原体押捺を施す。	８と同一個体。
75	103	6	11	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR5/6褐色 5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部折り返し口縁、口唇部羽状細縄文を施す。 内　篦ミガキ。	
75	103	7	5	弥生壺　口縁部	覆土一括				10YR6/6明黄褐色 2.5YR3/6暗赤褐色	やや不良	１㎜大の褐色粒多	外　口唇部羽状縄文と原体押捺を施し、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
75	103	8	6	弥生甕　口縁部	覆土一括				5YR5/6明赤褐色	良好	微砂粒多	外　棒状工具による交互押捺を施す。 内　口唇部下に原体押捺文を施す。	５と同一個体。
75	103	9	7	弥生鉢　胴部	覆土一括				2.5YR4/6赤褐色 7.5YR4/3褐色	不良	微砂粒多	外　棒状工具による連続刺突文を施し、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
76	103	1	7	須恵器	覆土一括								遺物不明の為観察出来ず。
76	103	2	1	弥生鉢　口縁1/8	覆土一括	(14.0)			5YR5/6明赤褐色 5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部羽状縄文とＳ字状結節文を施し、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
76	103	3	2	弥生鉢　口縁部	覆土一括				5YR4/2にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部折り返し口縁、口縁部に細縄文と原体押捺を施し、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
76	103	4	6	土師器甕　胴部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色 10YR3/1黒褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
77	104	1	1	土師器坏　口縁1/8	覆土一括	(15.0)			7.5YR4/6赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	（鬼高）内外面赤彩。
77	104	2	4	弥生甕　底部1/4	覆土一括		(4.4)		7.5YR4/6褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ケズリ。	
77	104	3	2	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR3/1黒褐色 7.5YR4/6赤色	良好	密	外　口唇部細縄文、斜縄文を施す。 内　篦ナデ。	北関東系土器。
77	104	4	3	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、ハケ。 内　篦ナデ。	
79	106	1	1	土師器甕 全体5/6(胴部中位～頸部の一部欠)	覆土一括	15.1	5.7	16.5	10YR7/6明黄褐～10YR3/1黒褐色 10YR7/6明黄褐色	良好	2㎜大の橙色粒を多く含む	外　口縁部ナデ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
79	106	2	4	土師器甕 口縁2/3～底部全欠	覆土一括	12.0	(5.8)	15.1	7.5YR4/3褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、他ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ他篦ナデ。	器厚は極めて薄い。内面に輪積痕あり。
79	106	3	6	土師器小型甕 底部完存～口縁1/4	覆土一括	(12.3)	4.0	(10.4)	5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　頸部ハケ後ナデ、他篦ナデ。 内　ナデ後篦ナデ、輪積痕あり。	外面やや器面磨耗激しい。接合に至らぬ同一個体多9ヶ38ｇ。
79	106	4	2	土師器坩 胴部一部　口唇部の1/2欠	覆土一括	11.3	3.2	8.0	2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密 (精選されている)	外　ナデ後篦ミガキ。 内　ナデ後篦ミガキ。	器厚が極めて薄い土器。外面の一部及び内面の大半が剥離している。
79	106	5	5	土師器壺 底部完存～胴部下位1/2	覆土一括		9.3		10YR5/6黄褐色	良好	密	外　胴部篦ナデ後篦ミガキ、底部ハケ後篦ナデ。	内面器面剥離激しく不明。同一個体10ヶ190ｇ接合に至らない。
79	106	6	17	土師器高坏 脚裾1/4～接合部完存	覆土一括		(8.8)		10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　脚部篦ケズリ後一部指ナデ、裾部ナデ。 内　篦ナデ、裾部ナデ。	
79	106	7	3	土師器小型壺　ほぼ完形	覆土一括	7.4	4.3	10.1	7.5YR8/6浅黄橙色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	2㎜大の小石含む	外　口縁部指ナデ後篦ナデ、他篦ナデ後一部粗い篦ミガキ。 内　篦ナデ、頸部輪積痕残る。	頸部外面に粒付着のまま焼成されるなど、やや丁寧さに欠く。
79	106	8	8	土師器坏　口縁1/4	覆土一括	(12.8)		(4.85)	10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ナデ後篦ケズリ。 内　ナデ後雑な篦ミガキ。	器厚があり、あっぽったく質量のある土器。
79	106	9	9	土師器小型甕　口縁1/4	覆土一括	(9.0)			10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　ナデ後篦ケズリ。 内　ナデ後篦ナデ。	
79	106	10	16	須恵器坏蓋　1/16	覆土一括	(13.4)			2.5Y6/1黄灰色	良好	密	外　ロクロ回転ナデ。 内　ロクロ回転ナデ。	天井部は丸く納まると推定。天井部と口縁部を分ける稜は、断面三角形でシャープ。TK23～KM１併行？口縁部欠くが口径13.4cm前後と推定。
79	106	11	21	須恵器坏蓋　2/3強	覆土一括	13.2		3.7	7.5Y6/1灰色	良好	密 (やや白色粒多)	外　ロクロ、天井部回転篦ケズリ。 内　ロクロ。	ロクロ回転逆時計回転。TK209併行。
79	106	12	10	土師器坏　口縁1/8	覆土一括	(13.5)			7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　ナデ後篦ケズリ。 内　ナデ。	TK217新併行。
79	106	13	14	土師器坏　口縁1/16	覆土一括	(14.2)			5YR4/6赤褐色	良好	密	外　ナデ後篦ナデ。 内　ナデ。	TK10併行？
79	106	14	7	土師器坏　底部1/4	覆土一括	(13.1)		(3.3)	2.5Y4/2暗灰～10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ナデ後篦ミガキ、底部篦ケズリ。 内　篦ミガキ。	黒色処理　内外面（漆仕上げ？）　同一個体6ヶ32ｇ。
79	106	15	12	土師器坏　口縁1/8	覆土一括	(13.0)			7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR4/6褐色	良好	密	外　篦ケズリ後篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	TK217新併行。
79	106	16	13	土師器坏　口縁1/8	覆土一括	(13.8)			10YR5/3にぶい黄褐色 10YR3/1黒褐色(黒色処理)	良好	密	外　ナデ後篦ケズリ。 内　ナデ。	
79	106	17	11	土師器坏　口縁1/4弱	覆土一括	(11.4)			7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、他ナデ後篦ケズリ。 内　口唇部ナデ、他篦ナデ。	TK217新併行。
79	106	18	25	須恵器	覆土一括								遺物不明の為観察出来ず。
79	106	19	22	須恵器坏蓋　口縁1/3	覆土一括	21.0			7.5YR6/1灰色	良好	密	外　ロクロ水びき、天井部回転篦ケズリ。 内　ロクロ。	回転方向時計廻り。
79	106	20	18	弥生壺　底部完存	覆土一括		5.6		2.5YR4/8赤褐～7.5YR5/4にぶい黄褐色 10YR4/1褐灰～10YR3/1黒褐色	良好	褐色粒多	外　底部付近篦ケズリ後篦ミガキ。	外面赤彩。内面器面剥離激しく不明。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
79	106	21	23	弥生甕　底部1/4	覆土一括		(7.6)		5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。	内面器面磨耗により不明。
79	106	22	19	弥生甕　底部1/2	覆土一括		8.0		5YR4/6明赤褐色 7.5YR4/1褐灰色	良好	密	外　篦ナデ後やや雑な篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
79	106	23	24	弥生甕　底部1/4	覆土一括		(6.8)		7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
80	106	1	1	弥生広口壺　口縁1/3	覆土一括	(22.9)			7.5YR4/6褐～2.5YR4/8赤褐色 2.5YR4/8赤褐色	良好	密	外　口縁部細縄文と原体押捺、頸部羽状縄文とＳ字状結節文、胴部篦ミガキを施す。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。12と同一個体。
80	106	2	3	弥生甕　口縁1/4	覆土一括				7.5YR4/3褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　頸部に１段の輪積痕を残し、棒状工具による押捺を施す。他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
80	106	3	4	弥生甕　底部1/2	覆土一括		(6.0)		7.5YR4/2灰褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
80	106	4	5	弥生甕　底部1/2	覆土一括		5.2		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
80	106	5	7	弥生鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色 2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部羽状縄文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
80	106	6	13	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　ハケ後櫛描き波状。 内　ハケ。	
80	106	7	11	弥生甕　胴部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　頸部下端に棒状工具による刻み目を施す。 内　篦ナデ。	
80	106	8	16	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色	良好	密	外　細縄文を施す。 内　篦ナデ。	
80	106	9	17	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR4/2灰褐色 10YR4/6褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、後ハケ。 内　ハケ。	
80	107	10	15	弥生鉢　胴部	覆土一括				5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　口縁部細縄文と原体押捺、胴部篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
80	107	11	12	弥生甕　胴部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　頸部下端に棒状工具による刻み目を施す。 内　篦ナデ。	
80	107	12	2	弥生広口壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/6褐～2.5YR4/8赤褐色 2.5YR4/8赤褐色	良好	密	外　羽状縄文とＳ字状結節文を施し、以下篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。１と同一個体。
80	107	13	6	弥生甕　胴部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　胴部指頭押捺、後ナデと細縄文を施す。 内　篦ナデ。	
80	107	14	8	弥生広口壺　胴部	覆土一括				5YR4/6明赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ後粗い篦ミガキ、頸部に棒状工具による刻み目を施す。 内　篦ナデ後粗い篦ミガキ。	外面赤彩。15と同一個体。
80	107	15	14	弥生広口壺　胴部	覆土一括				5YR4/6明赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ後粗い篦ミガキ、頸部に棒状工具による刻み目を施す。 内　篦ナデ後粗い篦ミガキ。	外面赤彩。14と同一個体。
81	107	1	2	弥生壺　口縁1/4	覆土一括	(18.2)			10YR6/4にぶい黄橙～10R5/6赤色	良好	密	外　折り返し口縁、細縄文と原体押捺、後篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内面器面磨耗して赤彩の痕跡も確認できる。
81	107	2	21	弥生甕　底部1/4	覆土一括		(7.5)		10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　ハケ。	内面器面剥離激しく不明。
81	107	3	25	弥生甕　底部1/2弱	覆土一括		(7.0)		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	微砂粒多	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
81	107	4	22	弥生甕　底部1/4弱	覆土一括		(5.8)		10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
81	107	5	1	弥生壺　頸部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	微砂粒多	外　頸部に沈線による文様帯を施す。 内　篦ナデ。	
81	107	6	18	弥生壺　底部の中央部欠	覆土一括		8.0		7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
81	107	7	19	弥生甕　底部1/2	覆土一括		(6.2)		10YR3/2黒褐色 10YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内面器面剥離激しく不明。
81	107	8	20	弥生甕　底部1/3	覆土一括		(6.8)		10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。	内面器面磨耗激しく不明。
81	107	9	3	弥生鉢　口縁	覆土一括				10R4/4赤褐色	良好	密	外　口唇部細縄文～羽状縄文、沈線以下篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
81	107	10	7	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR4/6褐色 5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口唇部細縄文と原体押捺を施す。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
81	107	11	9	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR4/2灰褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文を施す。 内　篦ナデ。	
81	107	12	6	弥生甕　口縁部	覆土一括				5YR6/6橙色	良好	1㎜大の砂粒多	外　指頭押捺波状文、３段以上の輪積。 内　篦ナデ。	
81	107	13	8	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。	内外面器面磨耗激しく不明。
81	107	14	4	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　沈線区画の上部に羽状縄文を施す。 内　篦ナデ。	
81	107	15	15	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　平行沈線文間に羽状縄文を施す。	内面器面磨耗激しく不明。
81	107	16	14	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	微砂粒多	外　平行沈線文間に細縄文を施す。 内　篦ナデ。	
81	107	17	5	弥生広口壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　頸部沈線区画下位に羽状縄文と原体押捺を施す。 内　篦ナデ。	
81	107	18	16	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR4/3にぶい赤褐色	良好	密	外　S字状結節文の上位に細縄文、下位は平行沈線による山形文内に細縄文を施す。	内面器面磨耗激しく不明。19と同一個体。
81	107	19	17	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR4/3にぶい赤褐色	良好	密	外　S字状結節文の下位に平行沈線による山形文内に細縄文を施す。	内面器面磨耗激しく不明。18と同一個体。
81	107	20	11	弥生壺　胴部	覆土一括				2.5YR4/4にぶい赤褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　原体押捺と細縄文を施す。他ハケ。 内　ナデ。	外面赤彩。
81	107	21	10	弥生広口壺　胴部	覆土一括				5YR6/6橙色	良好	密	外　羽状縄文を施す。	内面器面磨耗激しく不明。
81	107	22	12	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　頸部に１段の輪積を残し、棒状工具による連続刺突文を施す。他篦ナデ。 内　ナデ。	
81	107	23	13	弥生甕　胴部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後櫛描き波状文を施す。 内　ハケ。	
81	107	24	23	土師器甕　胴部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　粗いハケ。 内　篦ナデ。	
82	109	1	17	土師器甕　ほぼ完存	カマド内 ＋3.6cm	16.8	5.1	24.9	7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、他ハケ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ～ハケ、胴部篦ナデ後ハケ、他細い篦による篦ナデ後ハケ。	かなり内面の造りにこだわっている。
82	109	2	10	土師器甕　口縁1/3	焼土内床直 ＋2.4cm	(19.4)			7.5YR3/2黒褐色 5YR4/4褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、以下篦ケズリ。 内　頸部ナデ、以下篦ナデ。	接合に至らぬ胴部同一個体４点449ｇ分と、併せて859ｇ分残存する。
82	109	3	15	土師器甕 口縁2/3胴部中位1/3欠	Ｐ５底面 ＋14.7cm	(20.6)			7.5YR4/6褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、後篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
82	109	4	12	土師器甕　口縁3/4	Ｐ５底面	16.2			7.5YR3/2黒褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　ナデ、後篦ケズリ。 内　ナデ、後篦ナデ。	
82	109	5	13	土師器甕　底部1/6	覆土一括		(5.2)		5YR3/6暗赤褐色	やや不良	1㎜大の褐色粒多	外　胴部篦ケズリ。 内　胴部篦ナデ後一部ハケ。	接合に至らぬ同一個体１点60ｇあり。内面器面剥離やや激しい。
82	109	7	4	土師器小型鉢　底部1/2	覆土一括		3.2		7.5YR4/4褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
82	109	8	14	土師器甕　底部完存	カマド周辺床 直上＋5.7cm		5.4		7.5YR5/4にぶい褐色	不良	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
82	110	9	3	土師器甕　口縁1/3強	覆土一括	(16.0)			10R4/8赤色	良好	密	外　頸部ナデ、胴部篦ナデ。 内　頸部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
82	110	10	11	土師器鉢　全体1/3強	P５底面 －1.0cm	(24.2)	(8.2)	8.8	10R3/4暗褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。接合に至らぬ同一個体１点60ｇあり。
82	110	11	5	土師器高坏　口縁部全欠	覆土一括		9.0		2.5YR5/6明赤褐色 10R4/8赤色(赤彩残在部分)	良好	密	外　坏部篦ケズリ。 内　坏部篦ナデ、脚部篦ケズリ。	内外面赤彩の痕跡が残る。内外面器面磨耗激しい。
82	110	12	18	土師器坏　口縁部	カマド内 ＋5.4cm	13.0		5.6	10R4/6赤色	良好	密	外　ナデ後篦ケズリ。 内　ナデ後篦ナデ。	内外面赤彩。
82	110	13	8	土師器坏　ほぼ完形	P４周辺床上 ＋25cm	14.2		5.4	7.5YR5/6明褐色 10R4/8赤色(赤彩残存部分)	良好	密	外　口縁部ナデ、口縁部下位に粘土紐巻上げ痕が明瞭に残る。 体部篦ケズリ。 内　篦ナデ。	内外面器面磨耗激しいが、赤彩の痕跡が残る。 内面単位は器面磨耗により不明。
82	110	14	9	土師器坏　口縁3/4欠	覆土一括	(14.2)		5.7	10R4/8赤色	良好	密	外　口唇部ナデ、坏部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、坏部篦ナデ	内外面赤彩。
82	110	15	6	土師器高坏　坏部完存 脚部全欠	焼土内床上 ＋9.0cm	14.4			2.5YR4/8赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、坏部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、坏部篦ナデ。	内外面赤彩。
82	110	16	7	土師器坏　口縁2/3欠	P２周辺床直 －9.8cm	(15.0)		5.3	10R4/8赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、坏部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、坏部篦ナデ。	内外面赤彩。
82	110	17	2	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR3/2黒褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　細縄文を施す。 内　篦ナデ。	18と同一個体。
82	110	18	1	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR3/2黒褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　細縄文を施す。 内　篦ナデ。	17と同一個体。
83	110	1	1	土師器甕 胴部～底部1/4弱	覆土一括		(7.2)		10YR3/2黒褐～10YR3/1黒褐色	良好	密	外　胴部篦ナデ後篦ミガキ。 内　底部篦ナデ。	非常に薄い造りの甕。
83	110	2	4	土師器坩　口縁1/2弱	覆土一括	(8.4)			7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、以下篦ナデ。	
83	110	3	5	土師器坩　口縁1/6	覆土一括	(12.4)			10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	非常に薄くてシャープな土器。
83	110	4	13	土師器　裾部1/8	覆土一括		(14.2)		10R4/6赤色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
83	110	5	2	土師器高坏 脚2/3強(端部欠)	覆土一括		(9.8)		5YR4/6赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　脚部篦ケズリ、裾ナデ。 内　裾部篦ケズリ。	外面赤彩。
83	110	6	3	弥生甕　底部1/4	覆土一括		(6.4)		7.5YR4/4褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
83	110	7	6	弥生甕　底部1/5	覆土一括		(4.8)		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　指ナデ。 内　ハケ後ナデ。	
83	110	8	8	弥生壺　口縁部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄橙色 7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部原体押捺を施す。	外面赤彩痕あり。内面器面剥離激しく不明。
83	110	9	7	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR3/2黒褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部棒状工具による押捺、胴部ハケ後櫛描き波状文を施す。 内　ハケ。	
83	110	10	9	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　沈線区画の上位に細縄文を施し、他篦ミガキ。 内　ナデ。	外面赤彩。
83	110	11	12	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　S字状結節文を施す。 内　篦ナデ。	
83	110	12	11	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色 5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　沈線区画による山形文内に細縄文を施し、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
83	110	13	10	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　細縄文と原体押捺を施す。 内　篦ナデ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
84	110	1	1	土師器坩　頸部全欠	P１周辺床直 －9.8cm		4.0		2.5YR3/6暗赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　胴部ハケ後篦ミガキ、底部付近篦ナデ。 内　胴部篦ナデ。	外面赤彩。
84	110	2	3	土師器高坏　口縁1/4	覆土一括	(15.8)			7.5YR4/4褐色	良好	密	外　坏部ハケ後篦ナデ後篦ミガキ。 内　坏部篦ナデ。	注記は1019だが、土師器の為1020－２とする。
84	110	3	6	土師器坩　口縁1/8	覆土一括	(10.4)			7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　ハケ後篦ミガキ。 内　ハケ後ナデ。	
84	110	4	5	土師器高坏　口縁1/12	覆土一括	(10.4)			5YR4/6赤褐色	良好	密	外　ハケ後篦ミガキ。 内　ナデ。	
84	110	5	4	土師器器台？脚部1/8弱	覆土一括	(11.8)			5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　脚部篦ミガキ。 内　ハケ後ナデ。	脚の三方に穿孔か？
84	110	6	2	土師器ミニチュア坩 口縁全欠	東南壁側床直 －7.4cm		3.8		2.5YR4/6赤褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　胴部篦ナデ。 内　指ナデ。	外面赤彩。内面輪積明瞭。
84	110	7	7	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　頸部に２本の沈線と細縄文を施す。 内　篦ナデ。	
85	112	1	3	土師器壺 口縁2/3～胴部中位1/3	覆土一括	15.5			7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　折り返し口縁、頸部篦ミガキ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部篦ミガキ、頸部接合部篦ナデ後ナデ。	
85	112	2	1	土師器広口壺　全体5/6	溝底より ＋7.5cm上	19.4	6.4	25.3	7.5YR6/6橙色	良好	橙色微砂粒若干含む	外　口縁部ナデ、頸部ハケ、他ハケ後丁寧な篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、他篦ナデ後篦ミガキ。	折り返しによる複合口縁。 頸部以下に輪積による１段と胴部下位に段を残す。
85	112	3	2	土師器坩　完形	溝底より ＋17.0cm上	9.6	4.3	15.3	2.5YR5/8明赤褐色 2.5YR4/6赤褐色	良好	１㎜大の褐色粒多量に含む。	外　横ナデ、一部ハケ後全面的に丁寧な篦ミガキ。 内　横ナデ、篦ナデ後粗い篦ミガキ。	外面光沢が表れる。
85	112	4	4	土師器鉢　口縁2/3	覆土一括	(15.0)	4.0	7.0	10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　胴部ハケ後篦ナデ後篦ミガキ。 内　口唇部ナデ、他篦ミガキ。	
85	112	5	5	土師器高坏？　脚部1/3	覆土一括		(13.5)		10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　ハケ後篦ナデ。	
85	112	6	6	土師器　脚部1/3	覆土一括		(8.2)		7.5YR4/4褐色	良好	密	外　脚部篦ミガキ後ナデ、底部の一部にハケ残る。 内　底部ハケ後篦ナデ。	
85	112	7	7	土師器　脚部1/4	覆土一括		(5.1)		7.5YR4/6褐色	良好	密	外　脚部篦ミガキ。 内　底部ナデ。	
85	112	8	8	土師器高坏 or 器台 脚部1/8	覆土一括		(8.1)		7.5YR4/6褐色	良好	密	外　ナデ。 内　篦ナデ。	小片の為調整不明。
85	112	9	12	土師器台付甕 脚部接合部のみ	覆土一括				7.5YR3/4暗褐色	良好	密	外　脚部篦ナデ。 内　脚部篦ナデ。	内面底部磨耗激しく不明。
85	112	10	13	土師器高坏　接合部1/2強	覆土一括				2.5YR4/6赤褐色	良好	密		内外面赤彩、調整不明。
85	112	11	11	土師器坩　底部完存	覆土一括		3.6		10YR4/2灰黄褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。	内面器面磨耗激しく不明。
85	112	12	10	土師器坩　底部完存	覆土一括		3.8		2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　二次加熱を受ける 内　二次加熱を受ける。	内外面赤彩（器面剥離が免れた箇所に赤彩が認められる）。 器面剥離激しく不明。
85	112	14	15	土師器敲甕　胴部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　タタキ。 内　ハケ。	
86	112	1	1	土師器高坏　口縁1/4	覆土一括	(13.2)			2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　ナデ後篦ミガキ。 内　ナデ後篦ミガキ。	内外面赤彩。
88	112	1	1	弥生甕　胴部	覆土一括				10YR3/3暗褐色 5YR4/8赤褐色	良好	密	外　細縄文を施す。 内　篦ナデ。	北関東系土器。
91	114	1	1･2	弥生壺　口縁1/4　底部3/4	覆土一括	15.6	(7.0)	(30.0)	7.5YR4/3褐色	良好	密	外　口縁部羽状縄文。肩部Ｓ字状結節文間に羽状縄文、他篦ナデ。 内　口縁～胴部篦ナデ。	内面底部付近は器面剥離激しい。壺胴部中位の大半を欠き、接合には至らないが、焼成胎土より同一個体と認められる。
91	114	2	4	弥生鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　口唇部細縄文。口縁部細縄文による網目状文と原体押捺を施す。 内　ナデ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
91	114	3	5	弥生甕　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　櫛描き波状文を施す。 内　ハケ。	
91	114	4	6	弥生～古墳甕　胴部	覆土一括				10YR3/4暗褐色 7.5YR4/6褐色	良好	密	外　粗いハケ。 内　ハケ。	
92	114	1	1	弥生壺　底部完存 全体1/3弱	覆土一括		7.6		5YR4/6赤褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　頸部下端の沈線区画に羽状縄文を施し、胴部下端は篦ナデ後篦ミガキ。 内　底部篦ナデ。	外面赤彩。内面器面剥離激しい。接合に至らない同一個体13ヶ330ｇ。
93	114	1	1	弥生小型壺　胴部	覆土一括				5YR3/6暗赤褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　平行沈線区画内に細縄文を施し、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
94	114	1	1	弥生鉢　口縁一部欠	Ｐ４周辺床直 ＋2.2cm	19.6	7.2	9.3	2.5YR4/6暗赤褐色	良好	微砂粒多	外　口唇～口縁部に羽状縄文、沈線以下は篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	一方はＰ４周辺床直＋0.2cmと接合。
94	114	2	4	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR6/6橙色 2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部細縄文と原体押捺を施す。 内　口唇部原体押捺、他篦ミガキ。	内面赤彩。外面頸部赤彩。一方はＰ２周辺床面＋40cmと接合。
94	114	3	5	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 2.5Y6/2黄褐色	良好	密	外　沈線区画と網目状文を施し、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
94	114	4	3	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色 10YR6/4にぶい黄褐色	良好	微砂粒多	外　沈線区画と羽状縄文を施し、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
94	114	5	2	弥生甕　胴部	覆土一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　頸部５段以上の輪積を施す。 内　ハケ。	
95	114	1	1	弥生甕 口唇部の大半と底部欠	96号壁際 ＋6.5cm	(25.6)			7.5YR4/6褐色	良好	密	外　口唇部棒状工具による押捺、頸部篦ナデ、胴部粗い篦ミガキ。 内　篦ナデ。	内外面やや磨耗している。
96	115	1	1	弥生甕　口縁底部全欠	炉内火床 ＋4.4cm				10YR6/4にぶい黄褐色	良好	微砂粒多	外　篦ナデ後頸部原体圧痕。	内面器面磨耗激しく不明。接合による歪みを、修正して実測。
96	115	2	4	弥生甕　底部1/4弱	覆土一括		(10.6)		5YR5/6暗赤褐色	良好	１㎜大小石多	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
96	115	3	5	弥生甕　底部1/6	覆土一括		(5.3)		7.5YR4/4褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
96	115	4	2	弥生小型甕　底部全欠	西壁側床直 ＋0.3cm	13.3			10YR3/3暗褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、胴部篦ナデ一部に輪積残る。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
96	115	5	3	手づくね　1/2	覆土一括	4.6	1.4	2.7	10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　指ナデ。 内　指ナデ。	
96	115	6	8	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　羽状縄文を施す。	内面器面磨耗激しく不明。
96	115	7	7	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　沈線区画の上位に羽状縄文を施す。	内面器面剥離激しく不明。
96	115	8	6	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　沈線区画の上位に羽状縄文を施す。	内面器面磨耗激しく不明。
96	115	9	9	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　櫛描き波状文を施す。	内面小片の為不明。
97	115	1	1	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR3/2黒褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文を施す。 内　篦ナデ。	弥生中期。
97	115	2	2	弥生鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁。 内　篦ナデ。	
97	115	3	3	弥生壺　頸部	覆土一括				10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　円形刺突文下位にＳ字状結節文、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	弥生中期。
98	115	1	7	須恵器蓋　1/2	覆土一括	9.1			5Y6/2灰オリーブ色 7.5Y6/1灰色	良好	密	外　ロクロ。 内　ロクロ。	外面回転篦ケズリ。回転方向は逆時計回転。 天井部には、おそらく摘み付き。
98	115	2	2	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口唇部棒状工具による押捺波状文。 内　ナデ	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
98	115	3	5	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部棒状工具による押捺波状文。 内　ナデ。	
98	115	4	4	弥生甕　胴部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　ハケ後櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	
98	115	5	1	弥生甕　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　頸部輪積。 内　篦ナデ。	
99	117	1	1	土師器坏　口縁1/8	覆土一括	(13.2)			2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　ナデ後篦ケズリ。 内　ナデ後篦ナデ。	内外面赤彩。
100	117	1	1	土師器甕　胴部1/3欠	北側周溝東寄り溝底＋3cm	11.3	6.6	12.1	10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
100	117	2	4	土師器坏　口縁1/3強	覆土一括	(12.4)			5YR4/3にぶい赤褐色 5YR5/6明褐色	良好	密	外　胴部篦ナデに近いケズリ。 内　篦ナデ。	内外面やや器面磨耗激しい。外面に赤彩の痕跡残る。
100	117	3	3	土師器坩　口縁1/4弱	覆土一括	(9.7)			2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	
100	117	4	2	土師器甕　底部完存	覆土一括		5.8		7.5YR4/4褐色 10YR3/3暗褐色	良好	微砂粒多	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
100	117	5	5	弥生甕　胴部	覆土一括				2.5Y3/2黒褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後櫛描き文。 内　篦ナデ。	
101	117	1	1	弥生壺　頸部1/2	西南隅床直－0.5cm				5YR4/6赤褐色	不良	微砂粒多	外　篦ミガキ、頸部の一部に細縄文が入る。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。外面磨耗により単位不明。非常にもろい土器。
102	117	1	1	弥生甕　口縁部	覆土一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、１段以上の輪積。 内　ナデ。	
102	117	2	2	弥生鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　羽状細縄文下位に１条の沈線。 内　篦ナデ。	
103	117	1	2	灰釉椀(蓋)	関室内底面＋4.5cm				7.5Y7/1白灰色 7.5Y6/2灰オリーブ色	良好	密	外　角高台（低）ケズリ後ナデ、下端にケズリをそのまま残す。(流しがけ) 内　三又トチンを残す。	
103	117	2	1	灰釉短頸壺	関室内底面密着＋１cm	11.9			7.5Y6/3オリーブ黄色(？) 7.5Y6/3オリーブ黄色(？)	良好	密	外　肩部下～底部回転篦ケズリ。高台 内　底部に自然釉。	7.5Y6/1灰色（？以外）肩部丸み、胴部上半ふくらむがやや長胴化。
104	119	1	12 AB	弥生広口壺 口縁～胴部1/3	覆土一括				7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	外　折り返し口縁、頸部沈線間に羽状縄文、以下ハケ後篦ナデ。	内面器面磨耗激しく不明。
104	119	2	13	弥生甕　口縁1/4～底部欠	Ｐ５周辺床直－0.9cm	21.2			7.5YR3/1黒褐色 7.5YR4/3褐色	良好	密	外　口唇部工具押捺波状文、以下篦ナデ。 内　篦ナデ。	頸部と胴部の境目に段を残す。接合に至らぬ同一個体32ヶ、440ｇ分あるが底部のみ存在しない。
104	119	3	4	弥生甕　口縁部1/8	覆土一括	(20.4)			7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、頸部篦ナデ後棒状工具による押捺文。 内　篦ナデ。	
104	119	4	14	弥生甕　頸部	Ｐ５周辺床直＋0.7cm				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　頸部６段以上の輪積、以下篦ナデ。 内　篦ナデ。	
104	119	5	7	弥生甕　底部完存	覆土一括		7.2		7.5YR5/6明褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
104	119	6	5	弥生甕　底部1/4弱	覆土一括		(8.0)		10YR4/2灰黄褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
104	119	7	6	弥生甕　底部1/2弱	覆土一括		(4.8)		10YR3/4暗褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　ナデ。	
104	119	8	8	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR4/3褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、折り返し口縁、他ナデ。 内　ナデ。	
104	119	9	9	弥生広口壺　口縁部	覆土一括				10YR6/3にぶい黄橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文、他棒状工具による刺突文を施す。 内　ナデ。	
104	119	10	3	弥生器台　口縁部1/6	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部沈線文、他篦ナデ。 内　指ナデ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
104	119	11	10	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　頸部羽状縄文を施す。 内　ナデ。	
104	119	12	11	弥生甕？　胴部	覆土一括				10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　ナデ。	
105	119	1	2	弥生甕　口縁1/12	覆土一括	(13.0)			7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口唇部ナデ。 内　口唇部ナデ。	
105	119	2	3	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 7.5YR2/2黒褐色	良好	繊維含む	外　擦痕。ゆがみ顕著。 内　擦痕。	03群。外面灰付着
105	119	3	4	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色	良好	密	外　沈線の上位にＳ字状結節文を施す。 内　ナデ。	
106	120	1	22	土師器甕 口縁～胴部1/3弱	P18周辺床直	(18.2)			10YR3/3暗褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
106	120	2	2	土師器甕　口縁1/4	カマド前床上＋9.9cm	(22.0)			2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　頸部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　頸部ナデ、胴部粗い篦ナデ。	外面は器面磨耗。
106	120	3	4	土師器甕　口縁1/2強	覆土一括	18.4			5YR4/6赤褐色 7.5YR4/6褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ後篦ナデ。	
106	120	4	5	土師器甕　口縁1/2弱	覆土一括	(16.8)			10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	
106	120	5	21	土師器甕　胴部一部欠	覆土一括	14.3	5.6	14.5	2.5YR4/6赤褐色 2.5YR4/6赤褐～7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　胴部篦ケズリ後一部篦ナデ。 内　口縁部ナデ。	内面器面剥離と磨耗が激しい。
106	120	6	10	土師器坏　口縁1/8	覆土一括	(15.0)			10R4/8赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、坏部篦ケズリ。 内　坏部ナデ。	内外面赤彩。
106	120	7	12	土師器坏　口縁1/16強	覆土一括	(14.0)			10R4/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	内外面赤彩。 体部と口縁部の境は沈線によって区画される
106	120	8	9	土師器坏　口縁1/12	覆土一括	(12.4)			2.5YR4/8赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、坏部篦ケズリ。 内　坏部ナデ。	内外面赤彩。
106	120	9	7	土師器坏　口唇部欠 口縁1/8	覆土一括	(13.2)			10R4/4赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	内外面赤彩。非常に丁寧に作られた模放坏。
106	120	10	6	土師器鉢　口縁1/5	覆土一括	(14.6)			5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面器面磨耗激しく、ケズリとナデの単位不明。
106	120	11	3	土師器高坏　坏部大半欠	覆土一括		9.8		5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　脚部篦ケズリ。 内　篦ナデ、脚裾篦ケズリ。	全体的に磨耗し赤彩がとぶ。
106	120	12	13	須恵器大甕	覆土一括				10YR4/2灰黄褐色 7.5Y5/1灰色	良好	極めて精選	外　平行蔵後ナデ消し。 内　同心円文を丁寧に磨り消す。	
106	120	13	14	須恵器大甕	覆土一括				7.5Y4/1灰色 7.5Y5/1灰色	良好	密 (極めて精選)	外　平行蔵。 内　同心円文を丁寧に半磨り消す。	断面灰褐色。
106	121	14	16	弥生鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色 5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部羽状縄文、折り返し口縁の端部に棒状工具による刺突文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩、器面やや磨耗。
106	121	15	15	弥生壺　口縁部	覆土一括				2.5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　口唇部羽状縄文と原体押捺、他篦ミガキ。 内　口唇部にＳ字状結節文、他篦ミガキ。	内外面赤彩。非常に丁寧に作られた模放坏。
106	121	16	17	弥生鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR3/4暗褐色	良好	微砂粒多	外　口唇部～口縁部細縄文　折り返し口縁の端部に原体押捺文。 内　ナデ。	外面口縁部下位に一孔の円孔を穿つ。
106	121	17	20	弥生鉢　胴部	覆土一括				7.5YR3/3暗褐色 5YR4/6赤褐色	良好	白色粒多	外　羽状縄文とＳ字状結節文。	内面器面剥離激しく不明。
106	121	18	19	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　沈線文下にＳ字状結節文を施す。 内　篦ナデ。	
106	121	19	18	弥生甕　胴部	覆土一括				10YR3/2黒褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
108	121	1	1	土師器甕　口縁1/6	覆土一括	(19.4)			10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後ナデ。 内　ハケ。	外面口唇部面取り。
108	121	2	3	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　ナデ？	
108	121	3	2	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR4/3褐色	良好	密	外　折り返し口縁、細縄文と原体押捺を施す。 内　粗い篦ミガキ。	内面赤彩。
108	121	4	4	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/6褐～2.5YR4/8赤褐色 7.5YR4/6褐色	良好	密	外　頸部Ｓ字状結節文。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
108	121	5	6	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　Ｓ字状結節文を施す。	内外面ともに磨耗激しく、径８㎜程の穿孔が認められる。
108	121	6	5	弥生壺　胴部	覆土一括				2.5Y5/3黄褐色	良好	密	外　羽状縄文を施す。	内面器面磨耗激しく不明。
108	121	7	8	土師器甕　胴部	覆土一括				10YR4/6褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	
109	121	1	2	弥生鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色	良好	明褐色微砂粒 砂っぽい	外　口唇部細縄文、口縁部原体による押捺と羽状縄文を施す。	内面器面剥離激しく不明。
109	121	2	1	弥生甕　底部完存	炉北側床直＋１cm		6.0		7.5YR3/4暗褐色	良好	ガラス質 微砂粒多		内外面磨耗激しい。
109	121	3	5	弥生鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	外　沈線区画の上位に細縄文、以下篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	外面赤彩。
109	121	4	4	弥生鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	乳白色粒多	外　羽状縄文を施す。 内　篦ミガキ。	
110	121	1	3	弥生鉢　口縁1/3	Ｐ２周辺床直＋1.4cm				5YR4/3にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部羽状縄文と原体押捺、体部篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	一方はＰ２周辺床直＋1.9cmと接合。
110	121	2	2	弥生壺　口縁1/4	Ｐ２周辺床直＋0.1cm	(19.8)			10YR6/6明黄褐～5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部羽状縄文と原体押捺。 内　円形刺突文、他篦ミガキ。	内面赤彩。外面頸部赤彩。一方はＰ２周辺床面＋40cmと接合。
110	121	3	1	弥生鉢　口縁部1/6	覆土一括	(18.6)			7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、口縁部細縄文と指頭押捺文。 内　折り返し口縁、粗い篦ナデ。	
110	121	4	9	土師器甕　底部1/3強	Ｐ２周辺床上＋40cm		(7.2)		10YR3/2黒褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
110	121	5	7	弥生～土師器甕　底部完存	Ｐ２周辺床直＋0.9cm		9.8		5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　粗い篦ミガキ。	
110	121	6	6	弥生甕　底部一部欠	Ｐ２周辺床直＋0.3cm		10.4		7.5YR4/4褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内面器面剥離激しく不明。
110	121	7	4	弥生甕　胴部1/2	覆土一括				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　篦ナデ後粗い篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
110	121	8	5	弥生甕　底部ほぼ完存	Ｐ２周辺床直上＋6.4cm		9.0		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
110	121	9	8	土師器甕　底部完存	Ｐ２周辺床上＋18.9cm		7.9		5YR3/6暗赤褐色 10YR6/4黄橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
110	123	10	13	弥生壺　口縁部	覆土一括				5YR4/2灰褐色 5YR3/4暗赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部下位に原体による押捺文、以下篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
110	123	11	11	弥生壺　口縁部	覆土一括				5YR4/6赤褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部下位に原体による押捺文。 内　ナデ。	内外面赤彩。
110	123	12	12	弥生壺　口縁部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄橙色 5YR4/6赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部下位に原体による押捺文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩、外面器面磨耗激しく。
110	123	13	15	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文、横位にＳ字状結節文を施す。 内　ナデ。	外面赤彩。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
110	123	14	16	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR3/6暗赤褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文、他篦ミガキ。 内　ナデ。	外面赤彩。
110	123	15	14	弥生鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 5YR4/6赤褐色	良好	密	外　羽状縄文下位にＳ字状結節文、口縁部と胴部の境目に原体による押捺文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
112	123	1	4	弥生鉢　口縁1/3～胴部1/2	P19内底面 ＋1.5cm	(11.4)			7.5YR4/6褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部細縄文、羽状縄文施文後焼成前穿孔、他篦ナデ。 内　篦ナデ一部輪積。	
112	123	2	2	手づくね　口縁1/4	覆土一括	(8.8)			5YR4/6赤褐色	良好	密	外　指ナデ。 内　ハケ後指ナデ。	
112	123	3	1	土師器高坏　坏部1/8	覆土一括	(10.0)			5YR3/3暗赤褐色 5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。外面器面磨耗激しい。
112	123	4	5	弥生壺？　底部	P19内底面 ＋1.5cm		6.8		7.5YR4/6褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。	内面器面剥離やや激しい。
114	123	1	2	弥生壺　口縁1/12	覆土一括	(22.4)			2.5YR3/6暗赤褐色(赤彩部分)	良好	密	外　口唇部下位に原体押捺、口縁部ナデ、頸部篦ミガキ。	内外面赤彩。内面器面剥離激しく不明。
114	123	2	4	土師器壺　口縁1/4弱	覆土一括	(13.6)			7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　折り返し口縁、ナデ後ハケ後篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	口唇部内面から折り返され段状を呈する。
114	123	3	5	土師器高坏　口縁1/8	P26内床上 ＋17cm	(22.0)			7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口唇部ナデ以下ハケ後篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	外面器面剥離激しい。
114	123	4	9	土師器高坏　稜部1/4弱 口縁1/12	P26内床上 ＋25.7cm	(18.5)			2.5YR4/8赤褐色 5YR4/6赤褐色	良好	密	内外面　器面磨耗激しく不明。	内外面赤彩。接合に至らぬ他の細片より外面は篦ミガキ、内面はハケ後篦ミガキであることが確認出来る。
114	123	5	7	土師器坩　口縁1/8	覆土一括	(9.6)			10R4/8赤色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
114	123	6	1	土師器坩　口縁3/4欠	P26内床上 ＋23.5cm	(11.0)	3.0	6.3	2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	器厚は非常に薄く内外面赤彩。内外面器面剥離激しい。
114	123	8	6	土師器坩　底部完存	北側周辺床直 －1.2cm		2.5		5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	外面器面やや磨耗し非常に薄い土器。
114	123	9	10	弥生甕　胴部1/5	覆土一括		(7.4)		7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密		内外面器面磨耗激しく不明。
114	123	10	8	土師器坩　底部1/3強	覆土一括		(5.0)		7.5YR4/6褐色	良好	密		内外面器面磨耗激しく不明。
115	124	2	4	土師器甕　胴部	覆土一括				10YR3/2黒褐色 5YR4/6赤褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ケズリ。	おそらく混入。
115	124	3	1	弥生鉢　口縁部	覆土一括				5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　ナデ後篦ミガキ。 内　折り返し口縁、篦ミガキ。	
115	124	4	6	弥生壺　口縁部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ。 内　ナデ。	
115	124	5	2	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　羽状縄文。 内　篦ナデ。	
115	124	6	3	弥生壺？　胴部	覆土一括				10YR4/4褐色 7.5YR4/4褐色	やや不良	微砂粒多	外　羽状縄文。	内面磨耗により不明。
115	124	7	5	土師器甕　胴部	覆土一括				10YR3/2黒褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	
115	124	8	7	土師器甕　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	
115	124	9	8	土師器甕　胴部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	
116	124	1	1	弥生壺　口縁1/4	覆土一括	(13.0)			7.5YR4/4褐色	良好	密	外　ナデ後ミガキ？ 内　ナデ？	内外面器面磨耗により詳細不明。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
116	124	2	2	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	微砂粒多	外　沈線の上位に羽状縄文を施す。 内　篦ナデ。	
116	124	3	3	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	微砂粒多	外　頸部２段以上の輪積。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
117	124	1	1	弥生甕　底部完存	覆土一括		6.5		7.5YR4/4褐色	良好	密	外　篦ナデ。	内面器面剥離激い。
118	124	1	1	弥生甕　底部～口縁1/4欠	南側隅床直 ＋2.2cm	21.0			7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、頸部６段の輪積を篦消し下段に原体押捺を施す。他胴部篦ナデ。 内　粗い篦ミガキ。	同一個体３ヶ160ｇ。
118	124	2	2	弥生甕　口縁1/3	Ｐ５周辺床直	(24.3)			7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口唇部棒状工具による押捺波状文を施し、以下篦ナデ。 内　篦ナデ。	他に接合に至らぬ口縁部1/4ある。
118	124	3	3	弥生甕　底部1/4	覆土一括		(5.8)		7.5YR4/6褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
118	124	4	5	弥生甕　口縁部	覆土一括				5YR4/6赤褐色	不良	微砂粒多	外　口唇部棒状工具による刻み、７段以上の輪積を残す。 内　篦ナデ。	
118	124	5	4	弥生甕　口縁部	覆土一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、頸部５段以上の輪積を残す。 内　篦ナデ。	
118	124	6	6	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　口唇部原体押捺以下篦ナデ。 内　篦ナデ。	
118	124	7	7	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色 7.5YR4/4褐色	良好	微砂粒多	外　沈線区画内に羽状縄文を施す。他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	外面赤彩。内面赤彩か？
118	124	8	9	弥生壺　胴部	覆土一括				10R4/6赤色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　沈線区画による山形文内に、細縄文と円形竹管による押捺文を施す。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
118	124	9	8	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　Ｓ字状結節文と羽状縄文を施す。 内　篦ナデ。	
119	126	1	1	土師器Ｓ字台付甕 全体3/4	北東隅床直 ＋1.2cm	17.4	9.9	28.3	2.5YR4/8赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、肩部ハケ。胴部中位以下二度以上のハケ。台部ハケ後ナデ。　内　口唇部凹面。頸部篦ナデ、肩部指ナデ。胴部ナデ、台部指ナデ、脚裾折り返し。	接合歪みが大きかったので、再接合を行い歪みを修正した後再実測を行った。したがって本図をもって正式とする。
119	126	2	21	土師器ミニチュア坩 全体1/2弱	北東隅床直 －3.9cm	(8.0)			10YR3/2黒褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	非常に薄い土器。接合に至らない同一個体含めて1/2弱１ヶ10ｇ。
119	126	3	20	土師器ミニチュア鉢 全体1/2弱	覆土一括	(5.4)	2.2	3.9	10YR3/1黒褐色	良好	密	外　ナデ後ハケ。 内　ナデ後一部篦ナデ　他指ナデ。	やや歪あり。
119	126	4	17	土師器器台　口縁1/4	覆土一括	(6.2)			10R4/6赤色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	
119	126	5	55	弥生甕　口縁1/4～底部1/8	北側中央床直 ＋0.3cm	(17.8)	(8.0)	(24.5)	7.5YR4/3褐色 7.5YR3/3暗褐色	良好	密	外　ナデ後ハケ、底部付近篦ナデ。 内　ハケ後ナデ。	同一個体182ヶ1480ｇ（ほぼ一個体分あるが接合出来ない）
119	126	6	18	土師器坩　胴部1/3弱	南側床上 ＋19.9cm				10R4/6赤色 10R4/6赤～7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩、内面頸部まで赤彩。胴部最大径（11.4cm）
119	126	7	3	土師器坩　ほぼ完形	北東隅床直 －3.9cm	11.8	3.1	17.5	10YR5/4にぶい黄褐～10YR2/2黒褐色	良好	密	外　口縁～胴部ハケ後篦ミガキ。 内　口縁部篦ミガキ、頸部ハケ残る。	
119	126	8	2	土師器甕　口縁1/2欠	北側隅床直 ＋１cm	14.2	4.7	15.5	2.5YR4/6赤褐色 2.5YR2/1赤褐色	良好	密	外　口縁～胴部ハケ後ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ、一部篦ミガキ。	外面口唇部面取り。非常に丁寧に仕上げている。再接合の結果口縁部が接合したので、再実測を行った。
119	126	9	6	土師器坩 口縁1/4～肩部1/3	西側床直				5YR4/6赤褐色 5YR4/6赤褐～5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口唇部横ナデ、頸部篦ミガキ一部ハケ残る。 内　口唇部横ナデ、頸部篦ミガキ。	内外面赤彩。非常に丁寧に作られた模放坏。
119	126	10	4	土師器鉢　ほぼ完形	北東隅床直 －1.4cm	9.9	3.1	8.3	7.5YR5/6明褐～7.5YR2/1黒色 7.5YR2/1黒色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ後篦ミガキ、底部篦ナデ。 内　口縁部篦ナデ以下一部弱い輪積残る。	
119	126	11	5	土師器鉢　ほぼ完形	北東隅床直	13.1	5.2	8.9	7.5YR4/6褐～10YR2/1黒褐色 10YR3/1黒褐～10YR3/2黒褐色	良好	密	外　口縁部篦ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ後ハケ、胴部篦ナデ。	口縁部の一部に赤色顔料が残る。赤彩？
119	126	12	16	土師器壺　口縁1/8	覆土一括	(20.0)			7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ後篦ミガキ。 内　ナデ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
119	126	13	22	弥生広口壺　口縁1/8	P５周辺床上 ＋16.3cm	(21.6)			5YR4/6赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文、頸部以下篦ナデ。 内　篦ナデ。	
119	126	14	23	弥生壺　口縁1/8	覆土一括	(18.0)			7.5YR5/6明褐色 2.5YR5/4にぶい赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文と原体押捺を施す、頸部粗い篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内面赤彩、器面磨耗激しい。
119	126	15	24	弥生甕　口縁1/8	覆土一括	(18.8)			7.5YR3/3暗褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文。 内　篦ナデ。	
119	126	16	11	土師器甕　底部1/4	覆土一括		(6.8)		7.5YR4/6褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
119	126	17	14	土師器甕　底部1/2弱	北側中央部 ＋15.4cm		(9.2)		10YR4/6褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
119	126	18	7	土師器甕　底部1/2	北東隅床直 ＋2.4cm		6.6		10YR3/3暗褐色	良好	密	外　篦ナデ後粗い篦ミガキ。 内　篦ナデ後粗い篦ミガキ。	
119	126	19	8	カワラケ　底部	覆土一括				5YR6/6橙色	良好	密	外　ロクロ後手もち篦ケズリ。 内　指頭横ナデ。	13C代　鎌倉系手づくねを意識した造りで篦ケズリである。底部糸切りっぱなし。
119	126	20	13	弥生甕　底部1/4弱	覆土一括		(8.8)		10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　粗い篦ミガキ。	
119	126	21	10	土師器甕　底部完存	覆土一括		8.0		7.5YR5/6明褐色 5YR6/6橙色	良好	密	外　粗い篦ミガキ。 内　篦ナデ後粗い篦ミガキ。	
119	126	22	9	土師器坏　底部	覆土一括				5YR4/6明赤褐色	良好	密		９C中葉。内外面器面磨耗激しく不明。ロクロ整形、底部回転篦切り。
119	127	23	30	土師器甕　口縁部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	
119	127	24	19	土師器甕　胴部	覆土一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ後指ナデ。	
119	127	25	28	弥生壺　口縁部	覆土一括				2.5YR4/8赤褐色	良好	密	外　口縁部に細縄文及び棒状工具による刻み目と２連の棒状浮文を施す。 内　口縁部に細縄文を施した後篦ナデ。	折り返し口縁、内外面赤彩。
119	127	26	35	弥生壺　口縁部	覆土一括				10YR5/8黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部に細縄文と原体押捺。 内　ナデ。	
119	127	27	25	弥生壺　口縁部	覆土一括				10YR4/6にぶい黄橙色 10YR3/6暗赤色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文と原体押捺を施す他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	外面赤彩の痕跡がある。
119	127	28	37	弥生鉢　口縁部	覆土一括				2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部羽状縄文とＳ字状結節文。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
119	127	29	29	弥生甕　口縁部	覆土一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、篦ナデ。 内　篦ナデ。	
119	127	30	26	弥生甕　口縁部	覆土一括				5YR5/6明赤褐色	良好	微砂粒多	外　口唇部指頭押捺波状文。	内面器面磨耗激しく不明。
119	127	31	27	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR5/2灰褐色 7.5YR6/4にぶい橙色	良好	砂粒多	外　口唇部指頭押捺波状文と多段の段を有する。 内　篦ナデ。	
119	127	32	34	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、篦ナデ。 内　ナデ。	
119	127	33	36	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　篦ナデ。	
119	127	34	31	弥生鉢　口縁部	覆土一括				10YR4/6褐色 2.5YR4/8赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部に細縄文と原体押捺、胴部に２連のＳ字状結節文を施す。 内　篦ナデ後粗い篦ミガキ。	内面赤彩。
119	127	35	38	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　頸部にＳ字状結節文と羽状縄文、以下篦ミガキ。 内　ハケ。	
119	127	36	40	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　頸部にＳ字状結節文と羽状縄文、以下篦ミガキ。 内　ハケ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm			(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
119	127	37	46	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR4/6にぶい黄褐～2.5YR4/4にぶい黄褐色	良好	密	外　S字状結節文と細縄文を施す。	外面赤彩。内面器面磨耗激しく不明。
119	127	38	41	弥生壺　胴部	覆土一括				2.5YR3/3暗赤褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　頸部S字状結節文、胴部篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面胴部赤彩
119	127	39	45	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　よれた羽状縄文。 内　篦ナデ。	
119	127	40	53	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR3/2黒褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線による山形文内に細縄文を施し、その中間にS字状結節文を施す。 内　篦ナデ。	42と同一個体。
119	127	41	42	弥生壺　胴部	覆土一括				10R2/4暗赤色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線による山形文に細縄文とS字状結節文、以下篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
119	127	42	54	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR3/2黒褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線による山形文内に細縄文を施し、その中間にS字状結節文を施す。 内　篦ナデ。	40と同一個体。
119	127	43	39	弥生壺　胴部	覆土一括				2.5YR3/6暗赤褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　頸部羽状縄文、胴部篦ミガキ。 内　頸部篦ミガキ、胴部篦ナデ。	外面赤彩、内面頸部赤彩。
119	127	44	33	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR3/2黒褐色 10YR4/4褐色	良好	密	外　頸部に原体押捺、篦ナデ。 内　篦ナデ。	46と同一個体。
119	127	45	43	弥生甕　胴部	覆土一括				10YR3/2黒褐色 10YR4/6褐色	良好	密	外　頸部指頭押捺、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
119	127	46	32	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR3/2黒褐色 10YR4/4褐色	良好	密	外　頸部に原体押捺、篦ナデ。 内　篦ナデ。	44と同一個体。
119	127	47	51	弥生壺　胴部	覆土一括				2.5YR3/4暗赤褐色 10YR4/1褐灰色	良好	密	外　沈線区画の上位に細縄文、下位に篦ミガキを施す。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
120	128	1	1	弥生壺　胴部	焼土周辺床上＋6cm	(16.8)	(6.2)	(36.0)～(36.2)	10YR6/4にぶい黄橙色 10YR5/2にぶい灰黄褐色	良好	密	外　ハケ後粗い篦ミガキ。頸部ハケ、原体押捺による疑縄文。 内　胴部中位器面剥離激しい、他篦ナデ後ハケ。	菊川式の影響を受ける。全体の2/3以上存在するが、接合しない。図面上で復元。二次加熱を受け、内面器面剥離激しい。
120	128	2	7	弥生壺　口縁1/3欠	覆土一括	21.6			7.5YR4/6褐色 2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　羽状縄文施文、頸部ハケ後篦ナデ。 内　口唇部細縄文、ハケ後篦ミガキ。	折り返し口縁。内面赤彩。3連の棒状浮文は5ヶ所。沈線区画の下位に羽状縄文施文後円形浮文を施す。
120	128	3	2	弥生台付鉢 脚端部のみ全欠	覆土一括	23.4	(9.2)	(21.4)	7.5YR4/6褐色 7.5YR4/3褐色	良好	密	外　口唇部ハケ。 内　ハケ後篦ナデ、脚部内部篦ナデ。	
120	128	4	3	弥生甕　ほぼ完形	南側中央床上＋13cm	22.2	7.2	24.1	10YR3/2黒褐～10YR5/4にぶい黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文　頸部9段の輪積をそのまま残す。胴部篦ナデ。 内　篦ナデ。	
120	128	5	4	弥生甕　全体2/3弱	覆土一括	(23.2)	7.2	20.7	5YR4/4褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、口縁～頸部8段の輪積、胴部篦ナデ。	内面器面剥離激しく不明。
120	128	6	11	弥生甕　口縁2/3	覆土一括	22.4			7.5YR4/4褐色 7.5YR3/1黒褐色	良好	密	外　口唇部棒状工具による押捺文、ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
120	129	7	14	弥生甕　全体1/2	覆土一括	20.2			5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	口縁部下位焼成後穿孔の一孔あり（孔径0.2cm）。接合に至らぬ同一個体62ヶ210ｇ。
120	129	8	5	弥生甕　口縁底部全欠	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　ハケ後一部篦ナデ。 内　ハケ。	胴部完存。
120	129	9	6	弥生甕　胴部1/2	覆土一括				5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　頸部3段以上の輪積、胴部ハケ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	接合に至らぬ同一個体14ヶ360ｇ。
120	129	10	8	弥生壺　底部完存	P1周辺床直上＋5.4cm		7.2		2.5YR4/3にぶい赤褐色 2.5YR6/8橙色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。	外面赤彩。内面器面剥離激しく不明。
120	129	11	10	弥生壺　胴部2/3	覆土一括		7.4		2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　頸部沈線区画の上位に細縄文、胴部沈線による山形文内に羽状縄文を施す。	内外面とも二次加熱による器面剥離が激しい。
120	129	12	16	弥生甕　底部完存	覆土一括		7.9		7.5YR4/4褐色 7.5YR3/1黒褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
120	129	13	9	弥生鉢　口縁1/2強欠	P4周辺床直－1.8cm	(16.9)	6.7	6.8	2.5YR4/6赤褐色 10YR3/3暗褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。	内面器面剥離激しく不明。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
120	129	14	13	手づくね　完形	覆土一括	6.0	3.5	5.1	10YR3/3暗褐色	良好	密	外　指ナデ。 内　指ナデ。	口唇部下位焼成後左右の２ヶ所に穿孔。
120	129	15	12	弥生甕　底部1/2弱	覆土一括		7.8		5YR4/6赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。	内面器面磨耗激しく不明。
121	130	1	1	土師器甕　口縁1/12	覆土一括	(19.8)			7.5YR3/1黒色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　ハケ後雑なナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	
121	130	2	5	弥生壺　口縁部	覆土一括	(16.0)			5YR4/6赤褐色 2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文、頸部羽状縄文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩、器面磨耗やや激しい。
121	130	3	10	弥生壺　頸部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　沈線区画の上位にＳ字状結節文を施す。 内　篦ミガキ。	
121	130	4	6	土師器甕　口縁部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁下位に、ハケ整形を施す。 内　ハケ。	
121	130	5	7	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　篦ナデ。	
121	130	6	9	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR3/3暗褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文。 内　篦ナデ。	
121	130	7	14	弥生壺　口縁部	覆土一括				10YR4/4褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　折り返し口縁下位に原体押捺を施す。	
121	130	8	8	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR3/3暗褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　篦ミガキ。	
121	130	9	13	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR4/4褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　１段の輪積跡を残す。 内　折り返し口縁、原体押捺を施す。	
121	130	10	11	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　沈線区画の上位に細縄文を施す。	内外面器面剥離激しい。
121	130	11	12	弥生甕　胴部	覆土一括				5YR4/4にぶい赤褐色 7.5YR4/6褐色	良好	密	外　頸部下段に原体押捺を施す。 内　篦ナデ。	
121	130	12	15	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　Ｓ字状結節文下位に細縄文を施す。 内　篦ナデ。	
121	130	13	16	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR4/6褐色	良好	密	外　口唇上原体圧痕、結節文、不明縄文。	06群
123	130	1	2	弥生甕　底部1/4弱	覆土一括		(5.2)		10YR5/6黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。	内面磨耗激しい。
123	130	2	1	弥生甕　底部1/3強	覆土一括		(6.0)		10YR6/6明黄褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	微砂粒多	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
123	130	3	4	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　沈線区画と細縄文を施す。 内　篦ナデ。	
127	132	1	17	土師器甕　口縁1/6	覆土一括	(17.0)			10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ他ハケ。 内　ハケ。	内外面とも器面剥離激しい。
127	132	2	16	土師器甕　口縁1/8	覆土一括	(14.2)			5YR4/6赤褐色	良好	密	外　ナデ後ハケ。 内　ハケ。	
127	132	3	14	土師器甕　口縁1/4弱	覆土一括	(16.5)			10YR3/2黒褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部面取り、他ハケ。 内　ハケ後篦ナデ。	
127	132	4	18	土師器甕　口縁1/12	覆土一括	(14.8)			10YR3/3暗褐色	良好	密	外　ハケ後ナデ。 内　ハケ後ナデ。	ハケ跡が明瞭に残る。
127	132	5	19	土師器坩　口縁1/8	覆土一括	(8.4)			10YR3/2黒褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ？ 内　篦ナデ？	両面とも器面やや磨耗している。口唇部はシヤープに造られる非常に薄い土器。
127	132	6	15	土師器甕　底部全欠 底部付近1/4	覆土一括		(5.5)		7.5YR4/3褐色 10YR3/1黒褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
127	132	7	2	弥生甕　底部1/3	覆土一括		(5.8)		7.5YR4/4褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
127	132	8	1	弥生甕　底部完存	P５周辺床上＋17.6cm		6.4		7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。	内面器面磨耗激しい。底部は円形の粘盤に輪積で仕上げる。
127	132	9	13	弥生壺　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色 5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　口唇部細縄文と原体押捺を施す。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
127	132	10	4	弥生壺　口縁部	覆土一括				5YR5/6明赤褐色 10R4/6赤色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文と指頭押捺文を施す。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
127	132	11	9	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色 2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　頸部外面に羽状縄文を施す。 内　上位に篦ミガキ。	内面器面磨耗、赤彩痕が残る。
127	132	12	3	弥生甕　胴部	覆土一括				10YR4/2灰黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　頸部に原体押捺。 内　篦ナデ。	
127	132	13	12	弥生鉢　胴部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色 2.5Y5/2暗灰黄色	良好	微砂粒多	外　沈線区画の上位に羽状縄文を施す。下位は篦ミガキ。	外面赤彩。内面器面磨耗激しい。
127	132	14	8	弥生壺　胴部	覆土一括				2.5YR3/4暗赤褐色 7.5YR3/2黒褐色	良好	微砂粒多	外　沈線による山形文内に細縄文を施す。他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。15と同一個体。
127	132	15	7	弥生壺　胴部	覆土一括				2.5YR3/4暗赤褐色 7.5YR3/2黒褐色	良好	微砂粒多	外　沈線による山形文内に細縄文を施す。他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。14と同一個体。
127	132	16	6	弥生壺　胴部	覆土一括				2.5YR3/6暗赤褐色 10YR3/4暗褐色	良好	微砂粒多	外　沈線区画の下位に細縄文を施す。他篦ミガキ。	外面赤彩。内外面とも器面磨耗と剥離が激しい。
127	132	17	5	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	やや不良	微砂粒多	外　沈線区画の上位に羽状縄文を施す。	内外面とも器面磨耗激しい。
128	132	1	1	弥生鉢　口縁1/8	覆土一括	(18.2)			5YR3/6暗赤褐色	良好	褐色粒多	外　口唇部細縄文、口縁部羽状縄文と原体押捺、沈線区画以下篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。内面器面剥離激しく不明。
128	132	2	13	弥生甕　底部1/3	覆土一括		(4.2)		10YR5/4にぶい黄褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密		外面器面磨耗激しく不明。内面器面剥離激しく不明。
128	132	3	3	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、頸部は３段以上の輪積。 内　篦ナデ。	
128	132	4	10	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR3/1黒褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部原体押捺を施す。 内　ハケ。	
128	132	5	5	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR4/2灰褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文と３段以上の輪積。 内　ハケ後ナデ。	
128	132	6	6	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　篦ミガキ。	
128	132	7	7	弥生壺　口縁部	覆土一括				5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
128	132	8	9	弥生鉢　口縁部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部羽状縄文とＳ字状結節文を施す。 内　ハケ後ナデ。	
128	132	9	15	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部原体押捺を施す。 内　ハケ。	
128	132	10	12	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部に羽状縄文を施文後、線刻十文字の円形浮文を施す。 内　篦ミガキ。	
128	132	11	8	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色 5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　口唇部細縄文と原体押捺を施す。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
128	132	12	17	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁部に羽状縄文と原体押捺を施す。 内　ナデ。	
128	134	13	2	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　頸部１段以上の輪積と部分的に指頭押捺を施す。他ハケ。 内　篦ナデ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
128	134	14	4	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　頸部1段以上の輪積他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
128	134	15	16	弥生甕　胴部	覆土一括				10YR2/1黒色 7.5YR4/6褐色	良好	密	外　頸部に原体押捺を施す。 内　粗い篦ミガキ。	
128	134	16	14	弥生鉢　胴部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色 2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部羽状縄文。 内　篦ミガキ。	外面器面剥離やや激しく、沈線以下赤彩痕跡あり。 内面赤彩。
128	134	17	11	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR4/6にぶい黄橙色 7.5YR5/6明褐色	不良	微砂粒多	外　羽状縄文を施す。	内面器面剥離激しく不明。
130	134	1	4	土師器甕　全体1/3欠	P6周辺床直 ＋0.7cm	17.4	5.3	20.5	5YR2/1黒褐色 5YR4/3にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、他ハケ後篦ナデ。 内　頸部ハケ後篦ナデ、他篦ナデ。中～下端ナデ。	
130	134	2	3	土師器甕　全体2/3	北西隅床上 ＋9.6cm	18.4	6.2	26.2	7.5YR3/1黒褐色 5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、他ハケ後篦ナデ、底部篦ケズリに近いナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ、他篦ナデ。	接合に至らない同一個体99ヶ（400ｇ）あるのでほぼ完形となる。
130	134	3	6	土師器底部穿孔二重口縁壺 口縁1/4弱	覆土一括	(22.8)			10YR6/4にぶい黄橙色 10YR6/4にぶい黄橙～10YR3/1黒褐色	良好	密	外　口縁部篦ミガキ。 内　やや磨耗しているが篦ミガキ。	
130	134	4	5	土師器器台　口縁1/3 底部全欠	西南隅床直上 ＋7.6cm	8.2			10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部ナデ、他篦ミガキ後ナデ、頸部篦ケズリ。 内　坏部篦ミガキ、他ハケ後篦ナデ。	脚部の三方に穿孔。
130	134	5	1	土師器結合器台　ほぼ完形	西壁際床直 ＋2.5cm	16.1	12.4	12.6	10R4/6赤色(赤彩部) 7.5YR5/4にぶい褐色(無彩部)	良好	密	外　口縁部ナデ、他篦ミガキ後ナデ。 内　坏部篦ミガキ、脚部ハケ後篦ナデ、裾部ハケ。	坏部の四方に三角形のスカシ窓、脚部中位は三方、下位は四方の円形穿孔。坏部と接合する脚上部のみ意識的に赤彩を施さない。
130	134	6	2	土師器坩　底部全欠	西南隅床直上 ＋5.6cm	12.0		(18.1)	2.5YR3/6暗赤褐色 .5YR3/6暗赤褐～10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、胴部篦ミガキ。 内　ナデ後篦ナデ、他篦ミガキ。	
131	135	1	4	弥生壺　胴部	炉内火床 ＋9.6cm				2.5YR4/6赤褐色	良好	微砂粒多	外　S字状結節文内に羽状縄文を施す。他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
131	135	2	3	弥生甕　底部1/3	覆土一括		(6.3)		7.5YR5/3にぶい褐色	やや不良	微砂粒多	外　粗い篦ミガキ。	外面器面磨耗激しく不明。内面器面剥離により不明。
131	135	3	2	弥生甕　底部1/3	覆土一括		(7.2)		10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　粗い篦ナデ。 内　篦ナデ。	
131	135	4	1	弥生甕　底部1/2	覆土一括		4.0		10YR5/4にぶい黄褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
131	135	5	9	弥生広口壺　口縁部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇～口縁部に細縄文が施される。 内　粗い篦ミガキ。	
131	135	6	13	弥生壺　口縁部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部に細縄文、口唇部下位に原体押捺が施される。	内面器面磨耗により不明。
131	135	7	7	弥生鉢　口縁部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部沈線区画まで羽状縄文が施される。	内面磨耗により不明。
131	135	8	8	弥生甕　胴部	覆土一括				5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　2段以上の輪積、胴部ハケ。 内　篦ナデ。	
131	135	9	5	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　頸部1段以上の輪積他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
131	135	10	1	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　頸部3段以上の輪積、最終段に原体押捺文を施す。 内　粗い篦ミガキ。	
131	135	11	15	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色 10YR5/2灰黄褐色	良好	密	外　横位の楕描き文とS字状結節文が施される。	外面施文部以外赤彩。内面器面磨耗により不明。
131	135	12	11	弥生壺　胴部	覆土一括				2.5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　沈線区画内羽状縄文、区画外篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
131	135	13	14	土師器甕　胴部	覆土一括				10YR4/4褐色	良好	密	外　ハケ後ナデ。 内　不明。	
131	135	14	6	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色 5YR6/6橙色	良好	密	外　沈線区画に細縄文と円形竹管文、区画外は篦ミガキを施こす。	外面赤彩。内面器面磨耗激しく不明。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
131	135	15	10	弥生壺　胴部	覆土一括				10R3/2暗赤褐色 2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　細縄文を２段に施した後篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
131	135	16	20	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　Ｓ字状結節文下に羽状縄文が施される。 内　篦ナデ。	
131	135	17	18	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　櫛描き文。 内　不明。	
131	135	18	16	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　沈線区画内に羽状縄文、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
131	135	19	12	弥生壺　胴部	覆土一括				2.5YR3/3暗赤褐色 5YR5/4にぶい赤褐色	良好	密	外　羽状縄文と篦ミガキ。	外面赤彩。内面器面磨耗により不明。
131	135	20	19	弥生壺？　胴部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　羽状縄文が施される。 内　篦ナデ。	
131	135	21	17	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR6/6橙色	良好	微砂粒多	外　沈線区画による山形文内に細縄文が施される。	内面器面磨耗により不明。
133	137	1	1	弥生甕　底部3/4	覆土一括		6.7		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
133	137	2	3	土師器甕　口縁部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　ハケ後ナデ。 内　ハケ後ナデ。	
133	137	3	5	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口唇部折り返し後刻み目他ナデ。 内　ナデ。	
133	137	4	2	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR3/6暗赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	やや砂っぽい	外　２条の平行沈線間に細縄文による山形文を施す。他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。５と同一個体。
133	137	5	6	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR3/6暗赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	やや砂っぽい	外　２条の平行沈線間に細縄文による山形文を施す。他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。４と同一個体。
133	137	6	4	弥生壺　頸部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色 5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　羽状細縄文を施す。 内　篦ミガキ。	
134	137	1	1	弥生甕　口縁・底部2/3欠	東側中央床直＋2.2cm	(20.7)	(6.8)	18.2	7.5YR3/2黒褐色 7.5YR4/3褐色	良好	微砂粒多	外　口唇部指頭押捺波状文、頸部ハケ後篦ナデ１段の段を残す 胴部篦ナデ。 内　篦ナデ。	内面器面磨耗激しく不明。
134	137	2	2	土師器器台 or 高坏 脚部1/6	覆土一括		(10.9)		10YR4/2灰黄褐色 10YR2/3黒褐色	良好	密	外　脚部篦ナデ。 内　底部篦ナデ。	
134	137	3	10	弥生鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　沈線区画の上位に細縄文を施す。 内　ナデ。	
134	137	4	4	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR3/2黒褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	微砂粒多	外　ナデ。 内　篦ナデ。	頸部に２段以上の輪積を残す。
137	137	1	5	土師器甕　口縁1/8	覆土一括	(16.0)			7.5YR4/4褐色	良好	微砂粒多	外　ハケ後横ナデ。 内　ハケ後横ナデ。	
137	137	2	2	土師器大坩 最大片口縁1/3	南壁際周溝底面＋13.6cm	(21.2)			10R4/6赤色	良好	密	外　ハケ後篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。内面器面剥離激しい。接合に至らぬが口縁部の3/4は残存している。同一個体24ヶ345ｇあり。
137	137	3	7	土師器高坏　口縁部	覆土一括	(17.8)			10R4/8赤色 10R5/6赤色	良好	密		内外面器面磨耗激しく不明、赤彩の痕跡が残る。
137	137	4	14	弥生甕　口縁1/8	炉火床より＋7.8cm	(15.0)			10YR3/2黒褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　斜位の細縄文。 内　口唇部細縄文、篦ミガキ。	北関東系の甕。
137	137	5	8	土師器坏　口縁1/3	覆土一括	(12.4)			10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	器厚が非常に薄い土器。
137	137	6	10	土師器甕　口縁1/4	覆土一括	(12.4)			10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ。	
137	137	7	3	土師器小型甕　口縁1/4	覆土一括	(11.6)			5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部以下篦ナデ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
137	137	8	11	土師器器台　口縁1/8	覆土一括	(9.8)			5YR6/4にぶい橙色	良好	密		内外面磨耗激しく不明、赤彩。
137	137	9	9	土師器高坏　全体1/4	覆土一括	(8.2)			10YR5/6黄褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、他ハケ。 内　篦ミガキ。	
137	137	10	1	土師器壺　口縁･底部全欠	南壁際周溝底面＋3.3cm				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ、胴部中位粗いハケ。	内面器面剥離激しく不明。胴部最大径21.2cm。 一方は炉東側床直－0.2cmと接合。
137	137	11	6	土師器坩　口縁1/3	覆土一括	(9.4)			7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ（一部ハケ残る） 内　ナデ後篦ナデ。	
137	137	12	12	土師器小型甕　全体1/2	覆土一括		(4.4)		7.5YR4/4褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	
137	137	13	26	土師器小型甕　底部完存	覆土一括		3.0		10YR4/4褐色	良好	密	外　篦ミガキ。	内面器面剥離激しく不明。
137	137	14	13	土師器坩　底部完存	炉東側床直		4.4		7.5YR4/3褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密		内外面磨耗激しく不明。
137	137	15	27	弥生甕　底部1/2弱	覆土一括		6.6		10YR3/3暗褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　ナデ。	底部木葉痕。
137	137	16	4	土師器高坏　底部1/4	覆土一括		(15.5)		5YR4/4にぶい赤褐色 7.5YR5/4にぶい橙色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　ハケ後篦ナデ。	
137	139	18	17	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、篦ナデ。 内　折り返し口縁、篦ミガキ。	
137	139	19	18	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、篦ナデ。 内　篦ナデ。	
137	139	20	20	弥生鉢　口縁部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄橙色 2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　口唇部羽状縄文を施す。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
137	139	21	15	弥生鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR6/6橙色 2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部の羽状縄文下位に原体押捺とＳ字状結節文を施す。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩　焼成前穿孔二孔。
137	139	22	19	弥生鉢　口縁部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄橙色 10R4/8赤色	良好	密	外　口唇部羽状縄文を施す。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
137	139	23	22	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　羽状縄文施文後沈線による山形文を施す。 内　ナデ。	
137	139	25	23	弥生壺　頸部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　沈線区画による山形文内に細縄文を施す。 内　ナデ。	
137	139	26	16	弥生壺　頸部	覆土一括				10YR4/2灰黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	不良	微砂粒多	外　頸部に沈線区画と羽状縄文を施す。	外面赤彩。内面器面磨耗により不明。
137	139	27	21	弥生壺　頸部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色 10YR3/3暗褐色	良好	密	外　頸部羽状縄文を施す。 内　篦ナデ。	
138	139	1	1	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
138	139	2	2	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
138	139	3	4	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　Ｓ字状結節文を施す。 内　ナデ。	
138	139	4	5	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　Ｓ字状結節文。	内面器面磨耗激しく不明。
138	139	5	7	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　沈線区画の上位に羽状縄文を施す。 内　篦ナデ。	
140	141	3	4	弥生甕　口縁部	覆土一括				5YR4/6赤褐色	良好	微砂粒多	外　指頭押捺波状文を施す。 内　篦ナデ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
143	144	1	1	弥生鉢　口縁部	覆土一括				2.5YR4/8赤褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、沈線区画の上位に羽状縄文。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
143	144	2	2	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR4/3褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　篦ナデ。	
145	144	1	1	弥生台付甕　脚台付完存	P８底面		6.3		7.5YR3/4暗褐色	不良	暗褐色微砂粒多	外　ハケ。 内　篦ナデ。	内外面器面剥離激しい。
145	144	2	2	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR3/1黒褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	
145	144	3	3	弥生甕　胴部	覆土一括				10YR3/2黒褐色 10YR4/4褐色	良好	密	外　原体による押捺文を施す。 内　ナデ。	
146	144	1	3	弥生甕　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色	良好	微砂粒多	外　４段以上の輪積痕。 内　篦ナデ。	
146	144	2	5	弥生鉢？　胴部	覆土一括				10YR4/2灰黄褐色 10YR5/2灰黄褐色	良好	密	外　沈線区画の上位に櫛描き波状文を施す。 内　ナデ。	
146	144	3	2	弥生壺　頸部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	微砂粒多	外　頸部に羽状縄文とＳ字状結節文を施す。他篦ミガキ。	外面赤彩。内面器面剥離激しく不明。
146	144	4	4	弥生甕　頸部	覆土一括				7.5YR4/2灰褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　頸部下端に円形竹管文を施す。 内　篦ナデ。	
147	144	1	1	弥生甕　胴部1/3	覆土一括		(7.0)		10YR3/2黒褐色 10YR4/4褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
147	144	2	2	弥生甕　胴部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
148	144	1	2	土師器坏　口縁部	覆土一括				7.5YR3/4暗褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	鬼高。内外面赤彩。
148	144	2	1	弥生鉢　口縁部	覆土一括				10YR4/1褐灰～10YR5/3にぶい黄褐色 10R3/6暗赤褐色	良好	密	外　沈線区画の上位に羽状縄文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
149	144	1	19	土師器甕 口縁～胴部1/3弱	覆土一括	(16.2)			5YR5/6明赤褐色 5YR2/2黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、他ハケ後篦ナデ（一次整形のハケは殆どナデで消されている） 内　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。	接合に至らない同一個体３ヶ220ｇあり。
149	144	2	18	土師器甕　口縁～胴部2/3	炉火床より＋36.3cm	19.4			7.5YR3/4暗褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
149	146	3	1	弥生壺　口縁1/8	覆土一括	(14.6)			2.5YR5/8明赤褐色	良好	密	外　脚裾部に細縄文と原体押捺を施す。	内面器面磨耗激しく不明。
149	146	4	21	弥生甕　底部1/3強	覆土一括		(7.8)		7.5YR4/4褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
149	146	5	20	土師器高坏　脚部1/2弱	覆土一括		(13.8)		5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　脚部ハケ後篦ミガキ。 内　篦ケズリ。	坏部との接合は細穴による。 脚部の三方に穿孔。
149	146	6	6	弥生壺　口縁部	焼土内床直－0.1cm				5YR5/6明赤褐色	不良	微砂粒多	外　折り返し口縁、口唇部細縄文。 内　ナデ。	触れるとボロボロに胎土がくずれる。
149	146	7	2	弥生壺　口縁部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色 2.5YR3/6暗赤褐色(赤彩部分)	良好	密	外　折り返し口縁。細縄文と原体押捺を施す。 内　篦ミガキ。	口縁部以下及び内面赤彩。
149	146	8	7	弥生甕　口縁部	覆土一括				5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　口唇部原体押捺を施す。 内　篦ナデ。	
149	146	9	3	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR3/3暗褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺、篦ナデ。 内　篦ナデ。	
149	146	10	4	弥生鉢　口縁部	覆土一括				5YR3/2暗赤褐色 5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　口縁部細縄文とＳ字状結節文を施す。他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
149	146	11	5	弥生鉢　口縁部	覆土一括				10YR3/2黒褐色 5YR3/4暗赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇～口縁部細縄文、Ｓ字状結節文と原体押捺を施す。 内　篦ミガキ	内面赤彩。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
149	146	12	9	弥生甕　胴部	P６床直 ＋1.6cm				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　竹管による円形連続刺突文。 内　篦ナデ。	頸部輪積痕あり。
149	146	13	8	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　頸部棒状工具による連続刺突、篦ナデ。 内　篦ナデ。	
149	146	14	13	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR4/4にぶい赤褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文を施し、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
149	146	15	15	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/6明褐色	良好	密	外　沈線区画の下位に羽状縄文を施す。 内　篦ナデ。	
149	146	16	12	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR4/4にぶい赤褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　沈線区画の上位に羽状縄文、下位に篦ミガキを施す。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
149	146	17	16	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR3/2暗赤褐色 5YR4/4暗赤褐色	良好	微砂粒多	外　細縄文、他篦ミガキ。	内器面剥離激しく不明。
149	146	18	17	弥生鉢　胴部	覆土一括				5YR3/4暗赤褐色	良好	密	外　沈線区画の上位に細縄文、他篦ミガキ。	内面器面剥離激しく不明。
149	146	19	10	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR4/2灰黄褐色	良好	微砂粒多	外　S字状結節文を施す。 内　篦ナデ。	
149	146	20	11	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　櫛描き沈線文	08群
149	146	21	14	弥生甕　胴部	覆土一括				10YR3/2黒褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　細縄文を施す。 内　篦ナデ。	北関東系の甕。
150	148	1	2	弥生壺　肩部の1/4欠	P４周辺床直 －2.0cm				7.5YR4/6褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　ハケ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	内面器面摩耗激しい。接合に至らぬ同一個体11ヶ170ｇあり。
150	148	2	1	弥生鉢　口縁1/4欠	P４周辺床直 －1.5cm	12.1	5.4	6.9	10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、口縁部細縄文、胴部篦ナデ後粗い篦ミガキ。 内　篦ナデ後粗い篦ミガキ	
150	148	3	3	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	蜜	外　口唇部棒状工具による押捺波状文。 内　ナデ。	
150	148	4	4	弥生甕　口縁部	覆土一括				5YR4/6明赤褐色	良好	微砂粒多	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　ナデ。	
150	148	5	5	弥生壺　胴部	覆土一括				2.5YR3/6暗赤褐色 10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線以下篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
151	148	1	1	弥生高坏　口縁1/8	覆土一括	(15.6)			10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部原体押捺、他ハケ後ナデ。 内　篦ナデ。	
152	148	1	5	弥生甕　口縁部	炉周辺床直 －0.6cm	(20.4)			10YR4/2灰黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、頸部２段以上の輪積。 内　篦ナデ。	接合に至らぬ同一個体30ヶ220ｇあり。
152	148	2	4	弥生甕　胴部	炉周辺床直				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　頸部３段以上の輪積、胴部篦ナデ。 内　篦ナデ。	一方は炉周辺床直－0.2cmと接合。接合に至らぬ同一個体13ヶ81ｇ。
152	148	3	3	弥生壺？　底部完存	西側隅床直		6.0		7.5YR4/4褐色	良好	密	外　粗い篦ミガキ。	外面器面剥離激しく不明．内面器面磨耗激しく不明。
152	148	4	1	弥生甕　底部ほぼ完存	炉周辺床直		5.8		10YR4/4褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
152	148	5	2	弥生甕　底部完存	西壁側床直 ＋2.5cm		5.9		10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　粗い篦ナデ。 内　指ナデ。	造りの雑な土器。
153	148	1	5	弥生甕　口縁1/6	炉周辺床上 ＋32.5cm	(18.0)			10YR3/3暗褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	褐色粒多	外　口縁部細縄文、頸部篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
153	148	2	4	弥生甕　口縁1/3	炉周辺床上 ＋39cm	(23.6)			10YR5/4にぶい黄褐色 7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、頸部７段の輪積を指で押える、胴部篦ナデ。 内　篦ナデ。	
153	148	3	1	弥生壺　口縁全欠	遺構中央床直 －0.7cm		(7.4)		2.5YR3/6暗赤褐色	良好	橙色粒目立つ	外　頸部羽状縄文後胴～胴部下端篦ミガキ後篦ナデ。	内面器面剥離激しく不明。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
153	148	4	3	弥生壺　頸部	炉火床より ＋４cm				5YR5/6明赤褐色 2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　頸部篦ミガキと羽状縄文が施される。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
153	148	5	2	弥生壺　底部完存	炉周辺床上 ＋29.2cm		5.8		10YR4/2灰黄褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
153	148	6	7	弥生甕　底部完存	遺構中央床上 ＋9.8cm		7.4		7.5YR6/4にぶい橙色 10YR4/2灰黄褐色	良好	黄褐色粒多		内外面器面剥離激い。
153	148	7	6	弥生壺？　底部完存	覆土一括		4.4		10YR3/2黒褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
153	148	8	8	土師器甕　底部4/5	炉周辺床上 ＋43.5cm		6.7		7.5YR4/4褐色 10YR3/2黒褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
153	148	9	10	弥生鉢　口縁部	覆土一括				2.5YR3/4暗赤褐色	良好	微砂粒多	外　口唇部細縄文を施した後Ｓ字状結節文。口唇部下位は原体押捺、胴部篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
153	148	10	9	弥生鉢　口縁部	覆土一括				2.5YR2/3極暗赤褐色	良好	微砂粒多	外　口唇部細縄文、口縁部羽状縄文。胴部篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
155	150	1	1	弥生壺 口縁1/8～頚部1/2強	覆土一括	(17.8)			7.5YR4/6褐色 5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部細縄文、頸部の平行沈線間に羽状縄文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩、内外面とも器面剥離激しい。
155	150	2	2	弥生甕　胴部1/2強	炉北側床直上 ＋3.7cm				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　頸部に１段の輪積痕と原体押捺を施す。 内　篦ナデ。	胴部最大径22.2cm。
155	150	3	5	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　ナデ後篦ミガキ。	
155	150	4	4	弥生壺　口縁部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色 5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口唇～口縁部に細縄文を施す。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
155	150	5	6	弥生広口壺　口縁部	覆土一括				10YR3/3暗褐色	良好	密	外　口唇部下位に原体による押捺を施す。 内　ナデ。	
155	150	6	3	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	微砂粒多	外　頸部３段以上の輪積痕。 内　篦ナデ。	
155	150	7	8	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR3/1黒褐色 10YR5/2灰黄褐色	良好	密	外　ハケ後櫛描き波状文。 内　篦ミガキ。	８と同一個体。
155	150	8	7	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR3/1黒褐色 10YR5/2灰黄褐色	良好	密	外　ハケ後櫛描き波状文。 内　篦ミガキ。	７と同一個体。
156	151	1	1	弥生壺？　底部完存	西壁周辺床上 ＋7.1cm		9.5		5YR3/6暗赤褐色	良好	微砂粒多	外　篦ミガキ、底部篦ナデ。	内面器面剥離激しく、赤彩の痕跡有り。
159	153	1	1	弥生甕　底部全欠	底面より ＋8.2cm	18.8			10YR3/2黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ後一部篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	
159	153	2	2	土師器高坏　脚部1/3	覆土一括				10YR4/4褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　ナデ。	
159	153	3	3	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　Ｓ字状結節文内に細縄文を施す。	内面器面剥離激しく不明。
160	153	1	5	須恵器蓋　口縁1/4弱	覆土一括	(12.0)			7.5Y6/1灰色	良好	密	外　ロクロ整形。口縁部下位に、弱い１条の沈線が入る。 内　口唇部下位に沈線による明瞭な段を有する。	TK217新併行。 （湖西産）方墳に伴なう遺物である。
160	153	2	1	土師器器台　口縁1/4	覆土一括	(7.0)			10R4/6赤色	良好	密	外　口縁部横ナデ、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。非常に丁寧に磨かれている。
161	153	1	1	土師器甕　底部1/12	覆土一括		(8.8)		10YR4/2灰黄褐色	良好	５㎜大の小石含む	外　篦ケズリ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
161	153	2	2	弥生甕　胴部	覆土一括				10YR3/2黒褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　頸部下端原体押捺。 内　篦ナデ。	
162	153	1	1	弥生壺　頸部1/3	覆土一括				5YR4/6赤褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	微砂粒多 (砂っぽい)	外　沈線間に羽状縄文を施す、他篦ミガキ。	内面磨耗激しく不明。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
162	153	2	5	弥生鉢　口縁1/8	覆土一括		(11.6)		10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
162	153	3	3	弥生甕　底部1/2強	遺構中央床直上＋4.0cm		7.2		10YR5/2灰黄褐色 10YR3/1黒褐色	良好	1㎜大の褐色粒多	外　ハケ後篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	
162	153	4	4	弥生甕　底部1/2弱	覆土一括		5.9		10YR4/2灰黄褐色	良	1㎜大の褐色粒多	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
162	153	5	2	弥生甕　底部1/2強	覆土一括		6.9		10YR5/3にぶい黄褐色 10YR2/2黒褐色	良好	微砂粒多 (砂っぽい)	外　篦ナデ。	内面器面磨耗激しく不明。
162	155	6	7	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。（爪が入る） 内　篦ナデ。	
162	155	7	8	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR3/2黒褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　篦ナデ。	
162	155	8	6	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色 5YR3/6暗赤褐色	良好	微砂粒多 1㎜大の褐色粒多	外　口唇部直下に原体による圧痕。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
162	155	9	9	弥生壺　口縁部	覆土一括				5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部ハケ目付篦による連続刺突文。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
162	155	10	13	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	褐色粒多	外　口縁部羽状縄文。 内　ハケ。	
162	155	11	26	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR4/6褐色 2.5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
162	155	12	10	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	1㎜大の黄褐色粒多量に含む	外　細網目状文を施した後、２条のＳ字状結節文が入り、他沈線以下篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
162	155	13	19	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　沈線より上位にＳ字状結節文を施す。 内　篦ナデ。	
162	155	14	16	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　細縄文下位に２連のＳ字状結節文を施す。 内　篦ナデ。	
162	155	15	17	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　細縄文他篦ミガキ。 内　ナデ。	
162	155	16	15	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色 5YR5/6明赤褐色	不良	橙色粒多	外　沈線間に羽状細縄文、他篦ミガキ。	内面器面剥離激しく不明、赤彩。
162	155	17	14	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄褐色 5YR4/6赤褐色	良好	密	外　羽状細縄文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
162	155	18	22	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線区画による山形文を施し、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
162	155	19	12	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色 2.5Y4/4オリーブ褐色	不良	1～2㎜大の黄褐色粒多	外　沈線下位に細縄文を施す。	内面器面剥離激しい。
162	155	20	21	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　細縄文による網目状文を施す。 内　篦ナデ。	
162	155	21	25	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	微砂粒多	外　原体による押捺文を施す。 内　篦ナデ。	
162	155	22	18	弥生甕　胴部	覆土一括				10YR3/2黒褐色 7.5YR4/6褐色	良好	密	外　原体による圧跡あり。 内　篦ナデ。	
162	155	23	27	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　ナデ。	
162	155	24	24	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　撚糸文r。口縁外反。	01群
162	155	25	11	土師器甕　胴部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
163	155	1	6	弥生壺　口縁1/4弱	底面より＋4.2cm	18.0		3.0	5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口唇部折り返し口縁、口唇部細縄文、原体による押捺文。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	内面赤彩、器面磨耗激しい。
163	155	2	7	弥生壺　口縁1/8	覆土一括	(19.2)			7.5YR6/6橙～5YR4/6赤褐色 5YR4/6赤褐色	良好	橙色粒多	外　折返し口縁部に狭い網目状細縄文と原体押捺を施す。他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
163	155	3	4	弥生甕　胴部1/4	底面より＋4.0cm				7.5YR3/2黒褐色 10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ミガキ。(光沢あり) 内　篦ミガキ。	胴部最大径19.4cm。
163	155	4	9	弥生壺　頸部のみ	覆土一括				5YR3/6暗赤褐色 5YR4/8赤褐～10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　頸部にＳ字状結節文と細縄文及び２連の円形浮文を施す。他篦ミガキ。 内　篦ミガキ後篦ナデ、円形浮文貼り付け箇所裏に指頭圧痕。	外面赤彩。30・31・33・34と同一個体
163	155	5	1	弥生甕　口縁3/4	覆土一括	23.6		6.4	10YR3/1黒褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、頸部下段に輪積痕。他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
163	155	6	3	弥生壺　底部1/2～胴部1/4	覆土一括		5.6		10YR3/2黒褐色 2.5Y3/2黒褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
163	155	7	15	弥生甕　口縁1/8	覆土一括	(20.8)			7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、頸部原体押捺、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
163	155	8	5	弥生鉢　底部全欠･口縁1/2	覆土一括				5YR5/6明赤褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	頸部に焼成後穿孔の二孔。
163	155	9	8	弥生壺　底部完存～1/2強	覆土一括		4.3		2.5YR3/6暗赤褐色 7.5YR3/1黒褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。底部木葉痕。
163	156	11	17	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、頸部原体押捺、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
163	156	12	21	弥生甕　口縁部	覆土一括				5YR5/6明赤褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文（爪が入る）口縁部直下１段の輪積、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
163	156	13	28	弥生甕　口縁部	覆土一括				5YR5/6明赤褐色 10YR5/2灰黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　ハケ。	
163	156	14	31	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　ハケ後ナデ。	
163	156	15	42	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口唇部に原体押捺。	内面赤彩、器面剥離激しく不明。
163	156	16	26	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部外～内面にかけて細縄文を施す。 内　口唇部一部に細縄文。	
163	156	17	36	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR6/6橙色	良好	乳白色粒多	外　折り返し口縁、口唇部に指頭押捺文と細縄文を施す。 内　篦ナデ。	
163	156	18	41	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　頸部に原体押捺を施す。 内　篦ナデ。	
163	156	19	20	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR5/6明赤褐色 10YR5/2灰黄褐色	良好	密	外　頸部原体押捺、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
163	156	20	19	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	頸部３段以上の輪積。
163	156	21	33	弥生甕　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　１段以上の輪積。 内　篦ナデ。	
163	156	22	18	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　頸部細縄文、他篦ナデ。 内　篦ミガキ。	内面篦ミガキ範囲赤彩の痕跡がある。
163	156	23	27	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　頸部細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩の痕跡がある。
163	156	24	29	弥生壺　胴部	覆土一括				2.5YR4/6赤褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	蜜	外　頸部沈線区画の上位に羽状縄文、下位は篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
163	156	25	39	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR3/6赤褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	乳白色粒多	外　沈線区画の上位に網目状細縄文を施す、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
163	156	26	24	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR3/6暗赤褐～10YR5/4にぶい黄褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　沈線区画の上位に羽状縄文と山形文が施される。他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
163	156	27	25	弥生壺？　胴部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　円形浮文２連の下位に細縄文を施す。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
163	156	28	14	弥生壺　胴部	覆土一括				10R4/6赤色 7.5YR6/6橙色	良好	乳白色粒多	外　沈線区画による山形文内に羽状縄文を施す。他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
163	156	29	16	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR3/6暗赤褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	乳白色粒多	外　沈線区画による山形文内に羽状縄文を施す。他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
163	156	30	11	弥生壺　頸部	覆土一括				5YR3/6暗赤褐色 5YR4/8赤褐～10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　頸部にＳ字状結節文と細縄文及び円形浮文を施す。他篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ、円形浮文貼り付け箇所に指頭圧痕。	外面赤彩。４と同一個体。
163	156	31	10	弥生壺　頸部	覆土一括				5YR3/6暗赤褐色 5YR4/8赤褐～10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　頸部にＳ字状結節文と細縄文及び円形浮文を施す。他篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ、円形浮文貼り付け箇所裏に指頭圧痕。	外面赤彩。４と同一個体。
163	156	32	35	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR3/4暗褐色	良好	密	外　櫛描き波状文を施す。 内　篦ミガキ。	
163	156	33	12	弥生壺　頸部	覆土一括				5YR3/6暗赤褐色 5YR4/8赤褐～10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　頸部にＳ字状結節文と細縄文を施す。他篦ミガキ。 内　篦ミガキ、他篦ナデ。	外面赤彩。４と同一個体。
163	156	34	13	弥生壺　頸部	覆土一括				5YR3/6暗赤褐色 5YR4/8赤褐～10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　頸部にＳ字状結節文と細縄文を施す。他篦ミガキ。 内　篦ミガキ、他篦ナデ。	外面赤彩。４と同一個体。
163	156	35	43	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　細縄文を施す。	内面器面剥離激しい。
163	156	36	37	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	
163	156	37	23	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	38と同一個体。
163	156	38	22	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	37と同一個体。
163	156	39	32	土師器甕　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	
165	157	1	6	弥生鉢　口縁1/8	炉北側床直＋0.8cm	21.0			7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、胴部沈線区画の上位に細縄文を施す。	内面器面磨耗激しく不明。口縁部に焼成後穿孔の一孔。
165	157	2	17	弥生壺　口縁1/2	覆土一括	16.2			10YR4/4褐色 5YR3/6暗赤褐色	良好	橙色粒多	外　７段のＳ字状結節文を施す。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
165	157	3	16	弥生壺　胴部1/3	覆土一括				5YR3/6暗赤褐色 10YR5/4にぶい黄褐	良好	橙色微砂粒多	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。胴部最大径（21.5cm）
165	157	4	1	弥生器台　脚部の大半欠く	覆土一括	2.6			7.5YR4/6褐色	良好	密	外　指ナデ。 内　カキ取り。	全体的に雑な造り。
165	157	5	4	弥生甕　底部1/4	覆土一括	(5.0)			2.5Y6/3にぶい黄褐色 2.5Y5/2暗灰黄褐色	良好	微砂粒多	内　篦ナデ。	外面器面磨耗激しく不明。
165	157	6	5	弥生甕　底部1/5	覆土一括		(5.0)		2.5Y4/2暗灰黄褐色 2.5Y3/1黒褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　ナデ。	
165	157	7	2	弥生甕　底部1/2強	北側隅床直上＋4.6cm		7.0		7.5YR4/4褐色 10YR3/4暗褐色	良好	密	外　篦ナデ。	内面器面剥離激しく不明。
165	157	8	3	弥生甕　底部のみ	覆土一括		5.4		10YR3/3暗褐色 10YR2/3黒褐色	良好	密	内　篦ナデ。	外面器面磨耗激しく不明。
165	157	9	8	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色	良好	微砂粒多	外　口唇部指頭押捺波状文、頸部は７段の輪積を施す。 内　口唇部下位に原体押捺、他篦ナデ。	15と同一個体。
165	157	10	11	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	微砂粒多	外　口唇部指頭押捺波状文、頸部１段以上の輪積を施す。 内　口唇部下位に原体押捺を施す。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
165	157	11	12	弥生壺　口縁部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄褐色 5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、細縄文による羽状縄文と原体押捺を施す。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
165	157	12	9	弥生壺　口縁部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄褐色 5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　口縁部細縄文。 内　折り返し口縁。	内面赤彩。
165	157	13	10	弥生鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐～5YR3/6暗赤褐色 5YR3/6暗赤褐色	良好	微砂粒多	外　沈線区画の上位に細縄文による羽状縄文、他篦ミガキ。	内面赤彩、器面剥離激しい。
165	157	14	13	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 7.5YR3/3暗褐色	良好	密	外　沈線区画の上位に細縄文を施す。 内　篦ナデ。	
165	157	15	7	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色	良好	微砂粒多	外　篦ナデ、頸部２段以上の輪積。 内　篦ナデ。	９と同一個体。
165	157	16	15	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　沈線区画の下位に羽状縄文を施す。	内外面とも器面磨耗激しい。
165	157	17	14	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR3/6暗赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　沈線区画による山形文内に細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
166	158	1	1	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　篦ナデ。	
166	158	2	5	弥生鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色	良好	褐色粒多	外　羽状縄文と原体押捺。	内面器面剥離激しく調整不明。
166	158	3	2	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/3褐色	良好	乳白色粒褐色粒多量に含む	外　沈線区画の上位に細縄文による羽状縄文を施す。	内面器面剥離激しく不明。
166	158	4	4	弥生壺　口縁部付近	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　羽状縄文の下位に棒状工具による連続刺突文を施す。 内　篦ナデ。	
166	158	5	3	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　細縄文を施す。 内　篦ナデ。	
168	158	1	1	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 7.5YR4/6褐色	良好	１㎜大橙色微砂粒多	外　沈線区画による山形文内に羽状縄文を施す。 内　篦ナデ。	外面無文帯は一部赤彩。
168	158	2	2	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR3/2黒褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　指頭押捺波状文を施す。 内　篦ナデ。	
168	158	3	4	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR3/4暗褐色 7.5YR4/6褐色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文を施す。 内　篦ナデ。	外面無文帯赤彩。
168	158	4	5	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	１㎜大橙色粒多	外　沈線区画内に細縄文を施す。 内　篦ナデ。	
168	158	5	3	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR3/1黒褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	
169	158	1	1	弥生甕 底部全欠･口縁大半欠	北壁際床上 ＋8.6cm	22.4			10YR6/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、頸部６段以上の輪積、他篦ナデ。 内　ナデ後篦ナデ。	
169	158	2	2	弥生甕　口縁1/2	炉内火床 ＋0.2cm	17.9			7.5YR4/4褐色	良好	褐色 微砂粒多	外　口唇部指頭押捺波状、頸部７段以上の輪積、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	内面を丁寧にナデ消す。
169	158	3	3	弥生壺　頸部1/2弱	遺構中央床直 ＋2.7cm				7.5YR5/4にぶい褐色 5YR3/6暗赤褐色	良好	乳白色粒若干含む	外　沈線区画の上位に３段の羽状縄文。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
169	158	4	4	弥生甕　底部1/2	遺構中央床直 ＋1.3cm		7.0		5YR4/1褐灰色 5YR4/6赤褐色	良好	微砂粒多 (砂っぽい)	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
169	158	5	7	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR6/6橙色 10R3/6暗赤色	良好	密	外　口縁部羽状細縄文と原体押捺を施す。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
169	158	6	6	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR6/6橙色 10R3/6暗赤色	良好	密	外　口縁部に細縄文と原体押捺を施す。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
169	158	7	5	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR4/3褐色 7.5YR4/6褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、頸部４段以上の輪積。 内　篦ナデ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
169	158	8	9	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR4/3褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、頸部４段以上の輪積をナデ消す。 内　篦ナデ。	
169	158	9	10	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、頸部４段以上の輪積、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
169	158	10	8	弥生甕　胴部	覆土一括				2.5Y6/3にぶい黄色	良好	密	外　棒状工具による連続刺突文を施す。 内　篦ナデ。	灰色味強く焼きあがる。
170	160	1	1	弥生高坏　坏部全欠	覆土一括				7.5YR3/4暗褐色	良好	密	外　篦ミガキ。接合部凸帯に刻み目を施す。 内　篦ナデ	内外面赤彩。
170	160	2	4	弥生鉢　口縁部	覆土一括				10YR4/4にぶい黄橙色 10R3/4暗赤色	良好	密	外　口唇～口縁部Ｓ字状結節文を施す。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
170	160	3	2	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色 7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　平行沈線の上下に細縄文を施す。他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
170	160	4	3	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR3/2暗赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	１㎜大褐色粒多く含む	外　羽状縄文を施す。 内　ハケ。	
170	160	5	5	弥生鉢　胴部	覆土一括				2.5YR3/6暗赤褐色 2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　沈線区画の上位に細縄文を施す。他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
170	160	6	6	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/2灰黄褐色	良好	密	外　撚糸文ｒ。口唇上も施文。	01群
172	160	1	2	弥生甕　全体の3/4以上	Ｐ１内埋没 －6.0cm	13.0	5.8	13.9	7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部横ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部横ナデ、胴部篦ナデ。	焼成前底部穿孔。底部穿孔径1.6cm。
172	160	2	5	土師器壺 胴部下端ほぼ完存	西壁側床上 ＋9.8cm				10YR4/2灰黄褐色 2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ、底部付近ハケ残る。 内　篦ナデ。	胴部最大径23.8cm。
172	160	3	6	土師器高坏 口縁・脚裾部5/6欠	Ｐ５周辺床直 ＋1.9cm	(12.7)	(8.0)	8.1	2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ後篦ミガキ、脚部篦ミガキ後ナデ。 内　口縁部篦ミガキ、脚部篦ナデ後ナデ。	内外面赤彩。
172	160	4	11	土師器甕　口縁1/4	覆土一括	(17.0)			7.5YR4/3褐色 5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ハケ後篦ミガキ。	外面口唇部面取り。
172	160	5	3	土師器甕 胴部下端～底部ほぼ完存	Ｐ３周辺床直 上＋4.8cm		7.8		10YR5/4にぶい黄褐色 5YR4/6赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	内面一部器面剥離激しい。
172	160	6	9	土師器高坏　口縁1/4弱	覆土一括	(12.7)			7.5YR4/6褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
172	160	7	1	弥生小型壺　完形	北西隅床直上 ＋4.5cm	7.9	5.0	10.9	5YR5/6明赤褐色 7.5YR6/6橙色	良好	精選されている	外　ナデ後篦ナデ。 内　ナデ後篦ナデ。	
172	160	8	4	土師器坩　底部全欠 口縁7/8欠・全体の4/5	南壁際床直上 ＋3.6cm				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	頸部と胴部の接合痕明瞭。
172	160	9	8	土師器高坏　口縁1/4	覆土一括	(14.6)			2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
172	160	10	7	土師器高坏　脚の一部欠	Ｐ５周辺床上 ＋10.3cm		9.5		10YR3/2黒褐色 10YR3/4暗褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
172	160	11	10	土師器高坏　脚部1/3	覆土一括		(16.3)		7.5YR4/6褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
174	161	1	40	土師器壺　口縁1/16	覆土一括	(18.6)			5YR3/6暗赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　ナデ。 内　篦ミガキ。	外面赤彩。
174	161	2	2	弥生鉢　全体の1/2強	Ｐ８周辺床直 上＋5.3cm	12.8	4.0	6.5	5YR4/3にぶい赤褐色 5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩（黒地の強い土器面に赤彩を施している）
174	161	3	7	弥生鉢　口縁部	覆土一括	(12.4)			7.5YR6/6橙色	良好	微砂粒多	外　篦ナデ。 内　口唇部直下に沈線状の凹帯、他篦ナデ。	外面口唇部面取り。
174	161	4	6	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR3/4暗赤褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	橙色粒多	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
174	161	5	3	弥生甕？　底部完存	P８周辺床直 ＋1.9cm		5.4	5.0	10YR5/3にぶい黄褐色 10YR4/6にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	底部が突出する。
174	161	6	1	弥生甕　底部完存	炉内火床 ＋14.1cm		5.8		5YR4/6赤褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ケズリ。 内　篦ナデ。	外面赤彩ではない。
174	161	7	4	弥生壺　底部	炉内火床より －3.1cm		6.6	7.7	5YR3/4暗赤褐色 5YR3/2暗赤褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。	内面剥離激しく不明。
174	161	8	5	弥生壺？　底部完存	覆土一括		5.0	2.8	5YR4/4にぶい赤褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
174	161	9	41	土師器坩　底部完存	覆土一括		2.8	2.0	7.5YR4/6褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
174	161	10	16	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR6/6橙色 2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、細縄文と原体押捺を施す。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。外面磨耗激しい。
174	161	11	17	弥生広口壺　口縁部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄橙色 5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口唇～口縁部に細縄文を施す。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。外面磨耗激しい。
174	161	12	9	弥生壺　口縁部	覆土一括				5YR3/6暗赤褐色	良好	乳白色粒多	外　口縁部に細縄文と原体押捺を施す。篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
174	161	13	13	弥生壺　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色 5YR3/4暗褐色	良好	乳白色粒多	外　口縁部に羽状縄文と原体押捺。刻み付き３連の棒状浮文を貼り付ける。 内　篦ミガキ	折り返し口縁。
174	161	14	8	弥生壺　口縁部	覆土一括				5YR3/4暗赤褐色	良好	乳白色 微砂粒多	外　口縁部に細縄文と原体押捺を施す。篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
174	161	15	12	弥生壺　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色 5YR3/4暗赤褐色	良好	乳白色 微砂粒多	外　口縁部に羽状縄文と原体押捺、赤彩の施された円形浮文を貼り付ける。 内　篦ミガキ	折り返し口縁。円形浮文内に５ヶ所の円形刺突文。内面赤彩。
174	161	16	18	弥生壺　口縁部	覆土一括				10YR4/4褐色	良好	密	外　口唇～口縁部に細縄文と棒状工具による刻み目を施す。	内面剥離激しく不明。
174	161	17	14	弥生鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色 5YR3/4暗赤褐色	良好	密	外　口縁部に羽状縄文と原体押捺を施す。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
174	161	18	15	弥生鉢　口縁部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇～口縁部に細縄文と棒状工具による刻み目を施す。 内　篦ナデ。	
174	161	19	10	弥生壺　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	乳白色粒多	外　S字状結節文を施す。 内　篦ミガキ。	
174	161	20	23	弥生壺　口縁部	覆土一括				10YR5/8黄褐色	良好	密	外　S字状結節文を施す。	内面器面の磨耗激しく不明。
174	161	21	11	弥生鉢　口縁部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	褐色粒含む	外　口唇～口縁部に細縄文と羽状縄文を施す。	内面赤彩、剥離激しく不明。
174	161	22	21	弥生壺　口縁部	覆土一括				5YR4/6赤褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部細縄文を施す。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
174	163	23	20	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐～5YR3/6暗赤褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　羽状縄文、沈線区画の上位に篦ミガキ。	外面赤彩。内面剥離激しく不明。
174	163	24	27	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR6/6橙色	良好	乳白色粒多	外　沈線区画の上位に羽状縄文を施す。	内面器面剥離激しい。
174	163	25	28	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR5/6暗赤褐色 10R4/6赤色	良好	密		内外面器面磨耗やや激しい。内面赤彩。
174	163	26	19	弥生鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色 5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　口縁部に細縄文と原体押捺を施す。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
174	163	27	29	弥生甕　胴部	覆土一括				10YR4/6褐色	良好	密	外　頸部原体押捺、他ナデ。 内　篦ミガキ。	
174	163	28	24	弥生鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　細縄文と棒状工具による連続刺突文を施す。 内　篦ナデ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
174	163	29	31	弥生甕　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　３条の沈線を施す。 内　篦ナデ。	
174	163	30	26	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	乳白色粒多	外　羽状縄文を施す。 内　篦ナデ。	
174	163	31	25	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	橙色粒含む	外　平行沈線間に羽状縄文を施す。他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩の痕跡あり。
174	163	32	30	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　沈線区画の上位に細縄文、他篦ミガキ。	内面器面磨耗激しい。
174	163	33	22	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　沈線区画の上位に細縄文を施す。	内面器面磨耗激しい。
174	163	34	38	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　RL。	01群
174	163	35	34	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　撚糸文r。	01群
174	163	36	33	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　撚糸文r。	01群
174	163	37	37	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　撚糸文r。	01群
174	163	38	35	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　撚糸文r。	01群
174	163	39	39	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　撚糸文r。	01群
174	163	40	32	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　RL。	01群
174	163	41	36	縄文深鉢　胴部	覆土一括				2.5Y5/2暗灰黄色	良好	密	外　RL。	01群
175	163	1	3	弥生甕　底部1/8	覆土一括		(7.4)		7.5YR4/6褐色 10YR4/1褐灰色	良好	密	外　篦ナデ。	内面器面磨耗激しい。
175	163	2	1	弥生鉢　口縁部	覆土一括				5YR3/4暗赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文、口縁部羽状縄文、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩の痕跡有り。
175	163	3	2	弥生壺　胴部	覆土一括				2.5YR3/4暗赤褐色 7.5YR5/4にぶい橙色	良好	乳白色粒含む	外　沈線区画の上位に細縄文を施す。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
178	163	1	1	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　RL。	01群
179	165	1	1	土師器甕　全体3/4	P２周辺床直＋1.5cm	19.9	8.8	26.5	7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、他篦ケズリ一部横ナデ残る。 内　胴部粗いハケ。	内面下端は磨耗激しい。接合に至らなぬ底部残存。
179	165	2	2	土師器甑 底部(端部)全欠	カマド周辺床直	21.4			7.5YR4/6褐色	良好	８㎜～３㎜大の小石を含む	外　口縁部ナデ、他篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、他ハケ後篦ナデ。	内面下端は器面剥離で調整不明。
179	165	3	3	土師器甕　ほぼ完存	カマド周辺床直＋2.0cm	20.5	7.6	27.3	7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口縁部ナデ　他篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、他篦ナデ。	茶ノ木９期？７Ｃ前半第２。
179	165	4	9	須恵器坏蓋1/4強	覆土一括	(10.2)		4.1	7.5Y6/1灰色	良好	密	外　ロクロ、天井部切り離し後ナデ。 内　ロクロ、塗りつぶし。	ロクロ回転方向逆時計廻り。
179	165	5	5	土師器坏　底部1部欠	焼土内床直	12.0		(5.0)	10YR3/2黒褐～7.5YR4/6褐色 10YR3/2黒褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　ナデ、他篦ミガキ。	内外面黒色処理。外面磨耗している。
179	165	6	10	土師器小型鉢　全体の1/4	覆土一括	(12.9)			10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　ナデ後篦ケズリ。 内　ナデ後篦ナデ。	
180	166	1	1	弥生壺　口縁～頸部1/2強	炉西側床直＋0.7cm	14.4			10YR5/4にぶい黄褐色 10R3/6暗赤色	良好	密	外　頸部沈線区画の上位に４段の羽状縄文、口唇部細縄文を施す。 内　ナデ、篦ミガキ後篦ナデ。	内面赤彩。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
180	166	2	14	土師器高坏　口縁部	覆土一括	(18.8)			10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、ハケ後篦ミガキ。 内　ハケ後篦ミガキ。	庄内併行期。
180	166	3	4	弥生甕　全体の1/2	覆土一括		7.0		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
180	166	4	2	弥生甕　底部完存	覆土一括		6.4		7.5YR3/3暗褐色 7.5YR3/1黒褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ミガキ。	
180	166	5	9	弥生甕　全体の1/2弱	覆土一括		(5.2)	1.6	7.5YR6/6橙色 10YR6/4にぶい黄褐色	良好	橙色粒多	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
180	166	6	8	弥生甕　全体の1/4	覆土一括		(5.8)		7.5YR6/6橙色 5YR4/4にぶい赤褐色	良好	褐色粒含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内面赤彩。
180	166	7	10	弥生甕　全体の1/4	覆土一括		(3.6)		7.5YR4/4褐色 10YR3/2黒褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　ナデ。	
180	166	8	5	弥生甕　全体の1/3	覆土一括		(5.8)		7.5YR6/6橙色 10YR6/6明橙色	良好	黄褐色粒多	外　篦ナデ。	内面器面剥離激しい。
180	166	9	3	弥生甕　底部完存	覆土一括		7.0		10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　ナデ。	
180	166	10	7	弥生甕　全体の1/4	覆土一括		(7.0)		7.5YR4/6褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
180	166	11	17	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR3/2黒褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。 内　篦ナデ。	
180	166	12	16	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR3/1黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、頸部４段以上の輪積。 内　ハケ後篦ナデ。	
180	166	13	19	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　ハケ。 内　折り返し口縁、他ハケ。	
180	166	14	18	弥生壺　口縁部	覆土一括				2.5YR3/6暗赤褐色 7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　折り返し口縁、羽状縄文と原体押捺を施した後、棒状浮文を貼り付ける。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
180	166	15	20	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、１段以上の輪積。 内　ナデ。	
180	166	16	28	弥生甕　口縁部	覆土一括				5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
180	166	17	26	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　折り返し口縁、羽状縄文と原体押捺を施す。	外面器面剥離激しい。内面器面磨耗激しい。
180	166	18	24	弥生壺　口縁部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、２段の細縄文を施す。	内面器面磨耗激しい。
180	166	19	23	弥生壺　口縁部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄橙色 2.5YR2/4極暗赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、細縄文と原体押捺を施す。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
180	166	20	30	弥生壺　口縁部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部に細縄文と原体押捺を施す。	内面器面磨耗で不明。
180	166	21	29	弥生小型壺　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR4/2灰褐色	良好	密	外　口縁部原体押捺を施す。 内　折り返し口縁。	
180	166	22	22	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　折り返し口縁、細縄文と原体押捺を施す。	内面器面磨耗激しい。
180	166	23	37	弥生壺　口縁部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄褐色 5YR3/4暗赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、細縄文と棒状工具による押捺文を施す。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
180	166	24	27	弥生鉢　口縁部	覆土一括				10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　口縁部に細縄文を施す。	内面器面磨耗激しい。
180	166	25	39	弥生鉢　口縁部	覆土一括				5YR4/6赤褐色	良好	密	外　羽状縄文を施す。	内面器面磨耗激しい。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
180	166	26	21	土師器甕　口縁部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ。	
180	166	27	32	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR4/3褐色	良好	密	外　櫛描き文を施す。	内面器面磨耗激しい。
180	166	28	35	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　羽状縄文を施す。	内面器面磨耗激しい。
180	166	29	34	弥生鉢　胴部	覆土一括				5YR3/6暗赤褐色 10YR5/2灰黄褐色	良好	密	外　沈線区画の上位に羽状縄文を施す、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
180	166	30	25	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線区画の下位に細縄文を施す。	内外面器面磨耗が激しい。（赤彩部分だけやや黒味がかる）
180	166	31	38	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　羽状縄文を施す。	内面不明。
180	166	32	36	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　羽状縄文を施し、他ハケ。 内　篦ナデ。	
180	166	33	33	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR3/6暗赤褐色 2.5Y6/3にぶい黄色	良好	密	外　平行沈線の下位に棒状工具による刺突文を施す。他篦ミガキ。	外面赤彩。内面器面磨耗激しい。
180	166	34	31	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　頸部原体押捺を施す。 内　篦ナデ。	
180	166	35	12	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				5YR4/4赤褐色	良好	密	外　RL。	01群
180	166	36	11	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR6/3にぶい黄褐色	良好	密	外　RL。	01群
180	166	37	15	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR3/3暗褐色	良好	密	外　太い区画沈線文、縄文あり。	縄文、時期不明
182	166	1	1	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR3/2黒褐色	良好	密	外　細縄文。 内　ナデ。	北関東系土器。
183	168	1	1	弥生壺　口縁1/3	覆土一括	(27.5)			5YR3/6暗赤褐色 10R3/6暗赤褐色	良好	褐色 微砂粒多	外　折り返し口縁、細縄文と２連の棒状浮文を施し、頸部篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
183	168	2	2	弥生甕　口縁1/4	覆土一括	(24.4)			10YR6/4にぶい黄橙色	良好	乳白色粒疎らに含む	外　頸部３段以上の輪積を残し後篦ナデ、一部輪積をナデ消す。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
183	168	3	4	弥生鉢　口縁1/4	覆土一括	(14.4)			10YR5/4にぶい黄褐～5YR3/6暗赤褐色 5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　口縁部細縄文と羽状縄文を施し、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	外面赤彩。
183	168	4	23	弥生甕　底部1/5弱～1/4	覆土一括		(5.8)		10YR2/3黒褐～10YR3/3暗赤褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
183	168	5	26	弥生甕　底部1/2強	覆土一括		(5.8)		10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
183	168	6	24	弥生甕 底部の一部欠くが1/2強	覆土一括		9.0		5YR3/6暗赤褐～5YR4/4にぶい赤褐色(赤彩部分) 7.5YR3/1黒褐～7.5YR4/4褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面の一部に赤彩。
183	168	7	25	弥生甕　底部2/3	覆土一括		6.5		7.5YR4/3褐色 7.5YR3/3暗褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	
183	168	8	13	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、６段以上の輪積を施す。 内　篦ナデ。	
183	168	9	9	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密		内外面器面磨耗激しい。内面に赤彩を施した痕跡がある。
183	168	10	7	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　ナデ。	
183	168	11	11	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR4/6褐色 2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部羽状縄文と原体押捺を施す。 内　篦ミガキ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
183	168	12	5	弥生鉢　口縁部	覆土一括				10YR3/3暗褐色 10YR3/3暗褐～10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部細縄文と羽状縄文を施す。 内　篦ミガキ。	
183	168	13	8	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　折り返し口縁、細縄文と指頭押捺を施す。	外面口縁部折り返し直下より赤彩を施した痕跡がある。 内面器面剥離激しく、口唇部より赤彩を施す。
183	168	14	14	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/6褐～5YR3/6暗赤褐色 7.5YR4/6褐色	良好	密	外　沈線区画の山形文内に細縄文による羽状縄文を施す。 内　篦ナデ。	外面沈線区画内の無文帯に赤彩が施される。15と同一個体。
183	168	15	15	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/6褐～5YR3/6暗赤褐色 7.5YR4/6褐色	良好	密	外　沈線区画の山形文内に細縄文による羽状縄文を施す。 内　篦ナデ。	外面沈線区画内の無文帯に赤彩が施される。14と同一個体。
183	168	16	10	弥生壺　頸部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　沈線区画の上位に羽状縄文を施す。他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	内面やや磨耗している。
183	168	17	22	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　沈線区画の上位に羽状縄文を施す。 内　篦ナデ。	
183	168	18	20	弥生鉢　胴部	覆土一括				5YR3/6暗赤褐色	良好	乳白色 微砂粒多	外　沈線区画の上位に細縄文を施す。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
183	168	19	12	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐（縄文部分）～2.5YR3/6暗赤褐色(赤彩部分) 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線区画の下位に羽状縄文を施す。 内　篦ナデ。	外面沈線以下赤彩。
183	168	20	16	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR3/6暗 赤 褐～10YR5/4にぶい黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線区画の下位に羽状縄文を施す。他ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩、内外面ともにやや磨耗している。
183	168	21	17	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐～5YR3/4暗赤褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　沈線区画の上位に羽状縄文を施す。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
183	168	22	19	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　羽状縄文を施す。 内　篦ナデ。	
183	168	23	18	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/3褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　沈線区画による山形文内に細縄文を施す。 内　篦ナデ。	
184	169	1	1	弥生壺　口縁部	覆土一括				2.5YR5/6明褐色 2.5YR4/6赤褐色	良好	褐色 微砂粒多	外　ナデ？ 内　ナデ後ミガキ？	内外面ともに器面の磨耗激しく詳細不明。磨耗少ない所は赤彩痕あり。
184	169	2	5	弥生鉢　口縁の1/4強	覆土一括	(15.6)			7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口縁部羽状細縄文、他篦ミガキ。 内　丁寧な篦ナデ。	
184	169	3	22	弥生甕　底部の1/3強	覆土一括		(6.9)		5YR4/6赤褐色 10YR3/1黒褐色	良好	密	外　篦ナデ。	内面器面剥離激しい。
184	169	4	24	弥生小型壺？　底部1/2弱	覆土一括		(3.0)		7.5YR5/6明褐色 7.5YR4/3褐色	良好	密		内外面磨耗激しく不明。
184	169	5	23	弥生壺　底部1/2弱	覆土一括		(4.8)		2.5YR3/6暗赤褐色	良好	褐色 微砂粒多	外　篦ナデ。	内外面赤彩、内面器面剥離激しい。
184	169	6	2	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR3/4暗褐色 10YR3/2黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、頸部５段の輪積を篦で、ナデ消した後原体押捺を施す。 内　篦ミガキ。	
184	169	7	7	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR3/1黒褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　篦ミガキ。	
184	169	8	16	弥生甕　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色	良好	密	外　頸部３段以上の輪積。 内　篦ミガキ。	20と同一個体。
184	169	9	3	弥生甕　口縁部	覆土一括				5YR3/6暗赤褐色 5YR4/6赤褐色	やや不良	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	全体的に造りが雑な土器。
184	169	10	8	弥生壺　口縁部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄褐色 7.5YR4/6赤色	良好	石英粒やや多く含む	外　折り返し口縁、口唇部棒状工具による円形刺突文。 内　原体押捺を施す。	内面赤彩。
184	169	11	11	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　折り返し口縁、細縄文と原体押捺を施す。 内　ナデ。	
184	169	12	12	弥生壺　口縁部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、細縄文を施す。	内面磨耗激しく不明。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
184	169	13	9	弥生壺　口縁部	覆土一括				10YR5/6黄褐色 5YR4/6暗赤褐色	良好	褐色粒多	内　口縁部原体押捺を施す。	外面磨耗激しく不明。
184	169	14	10	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　折り返し口縁、細縄文と原体押捺を施す。	内面磨耗激しく不明。
184	169	15	84	弥生広口壺　口縁部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁。	内面器面剥離激しい。
184	169	16	4	弥生鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線区画の上位に羽状縄文と細縄文を施し、他篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
184	169	17	13	弥生鉢　口縁部	覆土一括				10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　口唇部細縄文の下位に細縄文による網目状文を施す。	内面器面剥離激しい。
184	169	18	18	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR3/6暗褐色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　沈線区画の上位に細縄文による網目状文を施し、後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
184	169	19	19	弥生甕　胴部	覆土一括				5YR4/6暗赤褐色 5YR6/6橙色	良好	密	外　頸部６段以上の輪積。 内　篦ナデ？	内外面ともに器面剥離激しく調整不明。
184	169	20	14	弥生甕　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色	良好	密	外　頸部４段以上の輪積。 内　篦ミガキ。	８と同一個体。
184	169	21	20	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR5/6明赤褐色	良好	乳白色粒多	外　沈線区画の上位に羽状縄文を施す。 内　篦ナデ。	
184	169	22	21	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　沈線区画の下位に羽状縄文を施す。 内　篦ナデ。	
184	169	23	17	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR3/1黒褐色 7.5YR4/6褐色	良好	密	外　細縄文を施す。 内　篦ナデ。	北関東系土器。
184	169	24	15	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR3/1黒褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　原体押捺文。 内　原体押捺文。	
184	169	25	25	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇若干肥厚、口唇内 RL・外 RL、胴撚糸文 r。	01群
184	169	26	31	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				2.5Y4/1黄灰色	良好	密	外　口唇上 RL、胴 RL。	01群
184	169	27	28	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　撚糸文 r。	01群
184	169	28	27	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR6/6明黄褐色	良好	密	外　RL。	01群
184	169	29	29	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　RL。	01群
184	169	30	34	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　撚糸文 r。	01群
184	169	31	30	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　単節縄文。	01群
184	169	32	26	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				5YR4/4赤褐色	良好	密	外　RL。	01群
184	169	33	33	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　RL。	01群
184	169	34	32	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　撚糸文 l か、強く屈曲。	01群
184	169	35	35	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　RL。	01群
184	169	36	37	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/6黄褐色	良好	密	外　撚糸文 r。	01群

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
184	169	37	38	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　RL。	01群
184	169	38	40	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　撚糸文r。	01群
184	169	39	42	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　RL？	01群
184	169	40	43	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/6黄褐色	良好	密	外　単節縄文。	01群
184	169	41	41	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　RL。	01群
184	169	42	36	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　単節縄文？	01群
184	170	43	44	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR3/3暗褐色	良好	繊維含む	外　折り返し口縁、ナデ。 内　ナデ。	03群
184	170	44	45	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　隆帯上貝殻腹縁圧痕、擦痕。 内　ナデ。	03群。繊維少ない
184	170	45	47	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　口唇上浅い刻み、刻み隆帯、ナデ。 内　剥離。	03群。繊維少ない
184	170	46	46	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　隆帯上貝殻腹縁圧痕、ナデ。 内　ナデ。	03群。繊維少ない
184	170	47	74	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　隆帯上貝殻腹縁圧痕斜め施文、摩滅。 内　摩滅。	03群。繊維なし
184	170	48	51	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　隆帯上貝殻腹縁圧痕、ナデ。 内　ナデ。	03群。繊維少ない
184	170	49	50	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　隆帯上貝殻腹縁圧痕、ナデ。 内　ナデ。	03群。繊維少ない
184	170	50	75	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　隆帯意匠文上に押引文、摩滅。 内　摩滅。	03群。繊維なし
184	170	51	49	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR3/1黒褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
184	170	52	48	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　ナデ。 内　擦痕。	03群
184	170	53	53	縄文深鉢　胴部	東北壁側床上＋36.2cm				5YR4/4にぶい赤褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
184	170	54	52	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
184	170	55	65	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　ナデ。	03群
184	170	56	73	縄文深鉢　胴部	東北壁側床上＋36.2cm				5YR3/6暗赤褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　擦痕。	03群
184	170	57	72	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR3/6暗赤褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　擦痕。	03群
184	170	58	54	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/4にぶい赤褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　ナデ。	03群
184	170	59	59	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR3/6暗赤褐色	良好	繊維含む	外　ナデ。 内　擦痕。	03群
184	170	60	56	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR3/6暗赤褐色	良好	繊維含む	外　ナデ。 内　剥離。	03群

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
184	170	61	60	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR3/6暗赤褐色	良好	繊維含む	外　擦痕。 内　ナデ。	03群
184	170	62	69	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	繊維含む	外　ナデ。 内　ナデ。	03群
184	170	63	68	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　劣化。 内　条痕。	03群
184	170	64	57	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR3/2黒褐色	良好	繊維含む	外　ナデ。 内　劣化。	03群
184	170	65	58	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
184	170	66	64	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR3/6暗赤褐色	良好	繊維含む	外　擦痕。 内　擦痕。	03群
184	170	67	67	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR3/6暗赤褐色	良好	繊維含む	外　ナデ。 内　ヘラナデ。	03群
184	170	68	62	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　擦痕。 内　擦痕。	03群
184	170	69	61	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR3/3暗褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
184	170	70	71	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR3/2黒褐色	良好	繊維含む	隆帯に沿う押引文。	？群。繊維なし
184	170	71	63	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　隆帯上刺突。 内　剥離。	03群
184	170	72	70	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR3/2黒褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
184	170	73	55	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
184	171	74	76	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/3褐色	良好	繊維含む	外　RL。	03群
184	171	75	66	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	繊維含む	外　単節縄文。	03群
184	171	76	77	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　無節。	03群
184	171	77	80	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR3/2黒褐色	良好	白色微砂粒多	外　条線帯、沈線渦巻文、三叉文。	06群。五領ヶ台式。波状口縁・環状突起、砂粒多
184	171	78	79	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR4/2灰黄褐色	良好	密 繊維含まない	外　撚糸文r。	01群
184	171	79	78	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　RL。	04群
184	171	80	81	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	微砂粒やや多	外　刻み隆帯２条、無節Ｌ。	06群
184	171	81	82	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	白色微砂粒多	外　単沈線帯、結節回転文タテ施文。	06群。175図-189-60と接合
184	171	82	83	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　耳状小突起。	縄文、時期不明
185	171	1	1	弥生甕　口縁1/2弱	底より ＋87.8cm	(16.4)			7.5YR4/6褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部原体押捺を施した後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
185	171	2	2	弥生鉢　ほぼ完形	底より ＋88.3cm	10.9	4.6	4.2	5YR4/6赤褐色	良好	１㎜大の乳白色粒多	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
185	171	3	12	弥生鉢　胴部	覆土一括				7.5YR3/2黒褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	1㎜大の乳白色粒多	外　沈線区画の上位に細縄文による羽状縄文を施す。	無文帯に赤彩、内面器面磨耗激しい。４と同一個体。
185	171	4	13	弥生鉢　胴部	覆土一括				7.5YR3/2黒褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	1㎜大の乳白色粒多	外　細縄文による羽状縄文を施す。	３と同一個体。
185	171	5	6	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色	良	繊維含む	外　ナデ。 内　ナデ。	03群
185	171	6	4	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色	良	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
185	171	7	3	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良	繊維含む	外　ナデ。 内　ナデ。	03群
185	171	8	7	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色	良	繊維含む	外　ナデ。 内　ナデ。	03群
185	171	9	8	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR3/1黒褐色	良	繊維含む	外　ナデ。 内　ナデ。	03群
186	172	1	4	弥生甕 胴部下位～底部全欠	炉内－3.7cm	18.3			2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺文、頸部７段の輪積後２条のＳ字状結節文、胴部篦ナデ。 内　口唇部２条のＳ字状結節文、他丁寧な篦ナデ。	
186	172	2	6	弥生甕　胴部1/3	遺構中央床直＋2.0cm				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ミガキ。	
186	172	3	3	弥生壺　頸部1/2	炉内－2.4cm				5YR3/3暗赤褐色 5YR3/4暗赤褐色	良好	乳白色微砂粒多	外　篦ミガキ後11段以上のＳ字状結節文を施す。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
186	172	4	17	弥生甕　底部完存	覆土一括		5.4		10YR4/2灰黄褐色 10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
186	172	5	5	弥生甕　胴部1/2強	炉内－2.9cm				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ミガキ。	一方は遺構中央床直＋２cmと接合。
186	172	6	2	弥生鉢　口縁2/3	炉内 －0.4cm他	(13.8)	4.8	8.1	2.5YR3/4暗赤褐色 2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部下位に原体による円形押捺後底部篦ナデ、他篦ミガキ。 内　丁寧な篦ミガキ。	外面赤彩。外面底部付近のみ篦ナデ残る。
186	172	7	1	弥生高坏 口縁の一部～脚部全欠	南壁際床直	16.6			10R4/6赤～7.5YR6/6橙色 5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、沈線区画の上位に３段の羽状縄文を施し、他入念な篦ナデ。 内　光沢のある篦ミガキ。	外面赤彩。一方は南壁際床上＋29.3cmと接合。
186	172	8	9	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR3/2黒褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	黒褐色粒多量に含む	外　口縁部指頭押捺波状文。 内　棒状工具による刺突文。	
186	172	9	7	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR4/6褐色 2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　口縁部細縄文、原体押捺文を施す。 内　篦ミガキ。	内面に赤彩を施した痕跡がある。
186	172	10	8	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR4/6褐色 2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　羽状縄文を施す。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
186	172	11	10	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR3/1黒褐色	良好	密	外　細縄文。 内　細縄文。	
186	172	12	18	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR4/2灰褐色 7.5YR5/6明褐色	良好	1㎜大の茶色粒多量に含む	外　口縁部押捺波状文、原体不明。 内　篦ナデ。	
186	172	13	16	弥生高坏　胴部	覆土一括				10R3/6暗赤褐～5YR6/6橙色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　原体押捺文。	内面器面剥離激しい。外面無文帯に赤彩。
186	172	14	12	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR3/4暗赤褐色 7.5YR4/3褐色	良好	乳白色微砂粒多	外　沈線区画の上位に細縄文を施す。	外面赤彩。内面器面磨耗激しい。
186	172	15	13	弥生甕　胴部	覆土一括				10YR3/1黒褐色 10YR4/4褐色	良好	密	外　細縄文を施す。	内面器面磨耗激しい。
186	172	16	15	弥生壺　胴部	覆土一括				2.5YR4/8赤褐～7.5YR6/6橙色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　沈線区画による山形文を施す。	外面赤彩、内面器面磨耗激しい。
186	172	17	14	弥生鉢　胴部	覆土一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　羽状縄文を施す。	口縁部付近。内面器面磨耗激しい。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
186	172	18	11	弥生高坏　脚部	覆土一括				5YR4/6赤褐色 2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　板状工具による刻みを施す。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
187	173	1	2	弥生甕　ほぼ完形	北側溝底面 ＋10.6cm	26.4	7.5	27.0	7.5YR6/6橙～7.5YR3/1黒褐色 7.5YR6/6橙色	良好	微砂粒多量に含み砂っぽい	外　口唇部指頭押捺波状文、棒状工具による刻み目を施した後篦ナデ後篦ミガキ 内　篦ナデ。	内面器面剥離激しく不明。質量があり非常に重く、歪みもひどく自立できない土器である。
187	173	2	1	弥生壺 口縁全欠・頸部1/2欠・胴部1/2欠	北側溝底面 ＋７cm		6.0	(22.5)	2.5YR3/6暗赤褐色 5YR4/4にぶい赤褐色	不良	白色粒 砂粒多量に含む	外　頸部～胴部の沈線区画内に網目状細縄文を施し、他篦ミガキ。	外面赤彩、内面器面剥離激しい。
187	173	3	5	弥生甕　底部	覆土一括		(6.5)		10YR5/4にぶい黄褐色 10YR4/1褐灰	良	乳白色粒含む		内外面磨耗により不明。
187	173	4	4	弥生甕　底部	覆土一括		5.0		7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR5/3にぶい褐色	良	微砂粒含む		内外面磨耗により不明。
187	173	5	3	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色 10R4/4赤褐色	良好	密	外　頸部沈線区画の下位に細縄文を施す。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
188	173	1	1	弥生壺　全体2/3	床面＋25.8cm				5YR4/8赤褐色 7.5YR6/6橙色	良好	１㎜大の白色粒多量に含む	外　羽状縄文を施した後に篦ミガキ。	外面胴部赤彩。内面器面剥離激しく不明。
188	173	2	3	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR2/2黒褐色 7.5YR6/6橙色	良好	乳白色粒多量に含む	外　胴部原体圧痕による刻み目。 内　篦ナデ。	
189	174	22	1	弥生甕　口縁1/2	東側溝底 ＋７cm	24.0	7.6	27.2	7.5YR7/8黄橙色	良好	１㎜大の茶褐色粒多く含む	外　口唇部頸部押捺波状文、頸部～胴部篦ナデ、胴部下端は篦ミガキ。 内　口縁～胴部中位篦ナデ、底部篦ミガキ。	
189	174	23	20	弥生甕 口縁の一部及び底部全欠	P11内埋没	24.0			10YR3/4暗褐色 10YR6/4黄褐色	良好	白色微砂粒多	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ後粗い篦ミガキ。 内　篦ナデ一部ミガキ。	頸部８段の輪積の下位に明瞭な指頭痕を残す。
189	174	24	40	弥生甕　底部1/2	墓壙底面 ＋55.2cm		6.5		7.5YR4/4褐色	良好	微砂粒多	外　篦ミガキ。	内面器面剥離激しく不明。
189	174	25	39	弥生壺　底部1/8	覆土一括		(15.0)		5YR3/6暗赤褐色	良好	密		内外面磨耗激しく不明。
189	174	26	10	弥生壺　底部	覆土一括		(8.9)		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	褐色粒多		内外面磨耗激しく不明。
189	175	27	36	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR3/1黒褐色	良好	密	外　指頭押捺波状文。 内　篦ナデ。	
189	175	28	37	弥生広口壺　口縁部	覆土一括				7.5YR3/1黒褐色	良好	密	外　折り返し口縁。 内　篦ナデ。	
189	175	29	38	弥生壺　胴部	覆土一括				2.5YR3/6暗赤褐色	良好	１㎜大乳白色粒多く含む	外　沈線区画による山形文内に羽状細縄文を施し、他篦ミガキ。	内面器面剥離激しい。
189	175	30	21	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線区画に斜網縄文を施す。	内面器面剥離激しい。
189	175	31	22	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文を施す。	内面器面剥離激しい。
189	175	32	11	弥生鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色 5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　沈線区画の上位に細縄文を施す。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
189	175	33	9	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　櫛描き波状文を施す。 内　篦ナデ。	
189	175	34	12	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口唇屈曲。口唇内 LR・外 RL、胴撚糸文 r。	01群
189	175	35	2	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口唇屈曲。口唇内 LR・外 RL、胴撚糸文 r。	01群
189	175	36	26	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口唇肥厚。口唇内 LR・外 LR、口縁無文帯。	01群
189	175	37	5	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁屈曲肥厚、無文。	01群

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
189	175	38	3	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁屈曲肥厚、RL。	01群
189	175	39	27	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　口唇内外肥厚、刻み？、縄文？	縄文、時期不明
189	175	40	24	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　撚糸文r。	01群
189	175	41	23	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				5YR4/6赤褐色 7.5YR4/3褐色	良好	密	外　RL。	01群
189	175	42	25	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　摩滅。	01群
189	175	43	4	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　撚糸文r。	01群
189	175	44	6	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　RL。	01群
189	175	45	8	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 7.5YR2/2黒褐色	良好	繊維含む	外　条痕文。 内　条痕文。	03群
189	175	46	13	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　摩滅。	01群
189	175	47	14	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	5㎜大の小石を含む 繊維含まない	外　隆帯文上・口唇上条痕文施文、条痕。 内　条痕。	03群
189	175	48	32	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				5YR3/6明赤褐色 7.5YR4/2灰褐色	良好	繊維含む	外　口縁飛行隊に貝殻腹縁文、条痕。 内　条痕。	03群
189	175	49	15	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				5YR4/6赤褐色	良好	繊維含む	外　隆帯、全面摩滅。	03群
189	175	50	28	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　隆帯２条、ナデ。 内　ナデ。	03群
189	175	51	29	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　同原体の押引文・凹線文、口唇上刻み、ナデ。 内　条痕。	03群
189	175	52	31	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				5YR4/4にぶい赤褐色	良好	繊維含む	外　隆帯、隆帯上条痕？、ナデ。 内　条痕。	03群
189	175	53	30	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　隆帯、ナデ。 内　ナデ。	03群
189	175	54	7	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　隆帯、ナデ。 内　ナデ。	03群
189	175	55	17	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　ナデ。	03群
189	175	56	19	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色	良好	繊維含む	外　ナデ。 内　剥離。	03群
189	175	57	18	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色	良好	繊維含む	外　ナデ。 内　ナデ。	03群
189	175	58	16	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色	良好	繊維含む	外　ナデ。 内　劣化。	03群
189	175	59	33	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				5YR4/6赤褐色	良好	密	外　竹管文、貝殻腹縁文。	05群。175図-189-59、185図-35～37、186図-72・73、189図-5同一
189	175	60	35	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　刻み隆帯２条、無節Ｌ・結節回転文タテ。	06群。61と同一。171図-184-80と接合
189	175	61	34	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　刻み隆帯２条、無節Ｌ・結節回転文タテ。	06群。60、171図-184-80と同一

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
193	177	1	1	弥生広口壺　全体1/2強	P３周辺床上 ＋32.7cm	(19.0)	4.6	17.8	10YR5/4にぶい黄褐色	良好	明橙色微砂粒多く含む	外　棒状工具による押捺、他篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ミガキ後篦ナデ。	
193	177	2	3	弥生甕　口縁部	P１周辺床上 ＋16.6cm				10YR3/4暗褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、頸部４段の輪積後原体押捺。 内　ナデ後篦ミガキ。	
193	177	3	2	弥生甕　口縁1/3	P１内床直	(21.0)			7.5YR4/6褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　ナデ後篦ナデ。	
193	177	4	16	弥生甕　底部完存	P６内底部 ＋16.4cm		3.4		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ？ 内　篦ナデ？	
193	177	5	13	弥生甕　底部2/3	覆土一括		6.6		10YR3/1黒褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　細い篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
193	177	6	21	弥生甕　底部1/3	覆土一括		(6.6)		10YR4/2灰黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。	内面器面剥離激しい。
193	177	7	4	弥生甕　胴部	P３周辺床上 ＋19.3cm				10YR5/6黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　２段以上の輪積後篦ナデ。	
193	177	8	5	弥生壺　口縁1/4	東壁側床直 ＋2.3cm				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　折り返し口縁、細縄文と原体押捺文を施す。	外面器面磨耗激しく細縄文がよく残らない。内面器面剥離激しい。 一方は東壁側床直上＋６cmと接合。
193	177	9	15	弥生甕　底部1/3	P３周辺床上 ＋16.3cm		(6.4)		10YR5/4にぶい黄褐色 10YR2/3黒褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
193	177	10	11	弥生甕　底部4/5	覆土一括		7.3		10YR4/2灰黄褐色 7.5YR6/6橙色	良好	橙色微砂粒多含む	外　篦ナデ。 内　ナデ。	
193	177	11	9	弥生甕　底部1/4強	覆土一括		(5.8)		5YR4/6赤褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　ケズリに近い篦ナデ。 内　篦ナデ。	
193	177	12	7	弥生甕　底部4/5	東壁側床上 ＋7.6cm		9.6		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　ナデ。	
193	177	13	17	弥生甕　底部1/4弱	遺構中央床直 上＋6.3cm		(8.8)		10YR4/2灰黄褐色 10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
193	177	14	19	弥生甕　底部1/4	P３周辺床上 ＋16.9cm		(7.4)		5YR4/4にぶい赤褐色 10YR5/2灰黄褐色	良好	浅黄橙色粒多量に含む	外　篦ケズリ。	内面器面磨耗激しい。浅黄橙色（10YR8/4）
193	177	15	20	弥生甕　底部1/4	P３周辺床上 ＋31.1cm		(9.6)		5YR5/6明赤褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	浅黄橙色粒多量に含む	外　篦ケズリ。	内面器面剥離激しい。浅黄橙色（10YR5/4）
193	177	16	12	弥生甕　底部1/2	遺構中央部床 上＋8.4cm		7.2		10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密		内外面とも器面磨耗激しい。一方は遺構中央部床上＋8.7cmと接合。
193	177	17	18	弥生甕　底部1/5	P３周辺床上 ＋28.7cm		(2.4)		2.5YR4/6赤褐色 7.5YR3/3暗褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
193	177	18	8	弥生甕　底部完存	東壁側床上 ＋18.5cm		5.8		10YR4/3にぶい黄褐色 10YR3/2黒褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
193	177	19	14	弥生甕　底部1/3	遺構中央部床 上＋30.8cm		(5.6)		7.5YR4/4褐色 10YR3/2黒褐色	良好	密	外　ケズリに近い篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
193	177	20	10	弥生台付き甕　底部1/2	覆土一括		5.8		10YR4/4褐色 10YR3/3暗褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ状の篦ナデ。 内　篦ミガキ後篦ナデ。	
193	177	21	22	手づくね　ほぼ完形	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　指ナデ。 内　指ナデ。	
193	178	22	33	弥生甕　口縁部	東壁際床上 ＋14.4cm				10YR3/3暗褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、原体による連続刺突文を施す。 内　篦ナデ。	
193	178	23	29	弥生甕　口縁部	東壁際床上 ＋14.4cm				7.5YR3/1黒褐色 7.5YR4/3褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　篦ナデ。	
193	178	24	28	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR3/1黒褐色 7.5YR4/3褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、頸部に４段の輪積を施す。 内　篦ナデ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
193	178	25	26	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR5/8明褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、頸部に４段の輪積を施す。 内　篦ナデ。	
193	178	26	30	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	微砂粒多	外　折り返し口縁に細縄文施文後、棒状浮文を貼り付け、原体押捺が施される。	内外面磨耗激しい。内面赤彩痕跡あり。
193	178	27	27	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR5/2灰褐色 7.5YR4/3褐色	良好	密	外　折り返し口縁、細縄文と指頭押捺が施される。 内　篦ミガキ残る。	外面二次加熱を受け、器面剥離激しい。
193	178	28	31	弥生壺　口縁部	覆土一括				10YR5/2灰黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部に細縄文を施す。 内　篦ナデ。	
193	178	29	23	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR3/3暗褐色 7.5YRYR4/4褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　折り返し口縁。	30と同一個体。
193	178	30	24	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR3/3暗褐色 7.5YRYR4/4褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　折り返し口縁。	29と同一個体。
193	178	31	35	弥生壺　胴部	Ｐ５周辺床上＋31.2cm				10YR4/3にぶい黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ後、原体による連続刺突文を施す。。	内面器面剥離激しく不明。
193	178	32	34	弥生壺　胴部	Ｐ６周辺床上＋43.1cm				7.5YR4/6褐色～5YR3/6暗赤褐色	良好	褐色微砂粒多	外　２条の平行沈線の間に羽状縄文を施す。他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	外面無文帯赤彩、内面丁寧な造りである。
193	178	33	37	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/6褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　頸部の平行沈線間に羽状縄文が施される。 内　篦ナデ。	外面無文帯赤彩、器面磨耗やや激しい。 36と同一個体。
193	178	34	41	弥生壺　胴部	東壁際床上＋1.5cm				7.5YR5/6明褐色 5YR3/暗赤褐色	良好	密	外　羽状縄文を施す。	内面器面剥離やや激しい。
193	178	35	36	弥生甕　胴部	遺構中央床直上＋6.0cm				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　ハケ後原体による連続刺突文、他篦ナデ。 内　ハケ。	
193	178	36	39	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/6褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　頸部の平行沈線間に細縄文による羽状縄文が施される。 内　篦ナデ。	外面無文帯赤彩、器面磨耗やや激しい。 33と同一個体。
193	178	37	40	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/2灰褐～7.5YR3/4暗褐色 7.5YR4/2灰褐色	良好	１㎜大の乳白色粒多	外　沈線区画の上位に、原体の異なる二種の細縄文によって羽状縄文が施される。 内　篦ナデ。	外面無文帯赤彩。
193	178	38	42	弥生壺　頸部	Ｐ１周辺床上＋16.6cm				10YR2/2黒褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ、原体による連続刺突を施す。 内　篦ナデ。	
194	179	1	2	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR5/6明赤褐色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　単節縄文。	04群
194	179	2	1	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　単節縄文。	04群
195	179	1	3	弥生甕 胴部中位以下全欠	西側隅床直＋1.2cm	25.0			7.5YR3/1黒褐色 7.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他横ナデ後ハケ、胴部中位はハケ。 内　ナデ他ハケ後篦ミガキ一部ハケ残る。	外面口縁部ナデでハケを磨り消す。
195	179	2	2	弥生甕　口縁～胴部1/3	南東壁際床上＋27.2cm	(26.0)			5YR3/1黒褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	５㎜大の茶褐色粒含む	外　口唇部棒状工具による押捺他篦ナデ後不整方向のナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	一方は遺構中央部床上＋40.2cmと接合。
195	180	3	6	弥生甕　口縁1/4	焼土周辺床直上＋4.2cm	20.8		13.6	7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口唇部押捺波状文他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
195	180	4	7	弥生壺　口縁3/4以上	P25周辺床上＋39cm	(16.0)			5YR4/4にぶい赤褐色 5YR3/4暗赤褐色	良好	褐色粒多	外　斜行細縄文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。口唇部施文なし。
195	180	5	4	弥生小型鉢 口縁の一部欠（ほぼ完形）	P25周辺床上＋37.9cm	13.3	4.4	6.6	2.5YR6/4赤褐色 2.5YR2/4暗赤褐色	良好	密	外　口唇～口縁部細縄文、沈線以下篦ミガキ、底部篦ケズリ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。口縁部細縄文は、原体が解けＳ字状結節文状に沈線的となる。
195	180	6	1	弥生甕　口縁全欠 胴部中位～下位ほぼ完存	北西壁際床直＋0.1cm		5.8		10R5/6黄褐～10R2/3黒褐色 10R5/6黄褐色	良好	茶褐色粒含む	外　篦ミガキ後篦ケズリ。 内　篦ミガキ。	
195	180	7	19	弥生甕 底部完存～胴部1/4	北西壁際床直＋0.1cm		7.4		2.5YR5/6明赤褐色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	一方はＰ１周辺床直＋3.1cmと接合。
195	180	8	5	弥生壺　頸部3/4	覆土一括				5YR3/4明赤褐色	良好	暗褐色微砂粒多		内外面器面剥離激しく、赤彩。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
195	180	9	111	弥生甕　底部完存	Ｐ３周辺床上＋57.3cm		8.0		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。	内面器面剥離激しい。覆土上層。
195	180	10	16	弥生甕　底部1/2弱	Ｐ４周辺床直＋1.5cm		(7.3)		10YR5/3にぶい黄褐色 10YR6/3にぶい黄褐色	良好	密	外　細かい篦ナデ。	内面磨耗激しく不明。
195	180	11	20	弥生甕　底部完存	P24周辺床直		6.8		7.5YR4/1褐灰色	良好	密	外　篦ナデ。	内面器面剥離激しい。
195	180	12	12	弥生甕　底部完存	覆土一括		5.8		10YR4/3にぶい黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
195	180	13	22	弥生甕　底部	覆土一括		5.2		10YR5/1灰褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	乳白色粒多		内外面二次加熱を受けて器面磨耗剥離している。
195	180	14	13	弥生甕　底部1/3	覆土一括		(5.4)		7.5YR5/6にぶい褐色 7.5YR4/6褐色	良好	密	外　篦ナデ。	内面器面剥離激しい。
195	180	15	21	弥生甕　底部1/3	覆土一括		(5.6)		10YR4/2灰黄褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面器面剥離激しい。
195	180	16	29	弥生小型壺　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　ナデ後篦ナデ。 内　ナデ後篦ナデ。	
195	180	17	17	弥生甕　底部1/4	P24周辺床直		(5.2)		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。	内面器面剥離激しい。
195	180	18	14	弥生甕　底部1/2	覆土一括		5.5		7.5YR4/4褐色 7.5YR3/1黒褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
195	180	19	15	弥生壺　底部完存	覆土一括		4.6		5YR3/6明赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　篦ミガキ。	外面赤彩。内面器面剥離激しい。
195	180	20	18	弥生甕　底部1/3	覆土一括		(6.0)		7.5YR3/2黒褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
195	180	21	25	弥生壺　口縁部	覆土一括				5YR4/4にぶい赤褐色 5YR3/6暗赤褐色	良好	乳白色微砂粒多	外　口縁部に羽状縄文と原体押捺を施した後に、２連の円形刺突文を施した円形浮文が貼りつく。他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。（外面口縁部以外）
195	180	22	30	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色 2.5YR4/8赤褐色	良好	密	外　口唇部に細縄文と原体押捺を施し、直下に指頭押捺。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
195	180	23	27	弥生壺　口縁部	覆土一括				5YR3/6暗赤褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　細縄文他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	外面赤彩。
195	180	24	35	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/2灰褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線区画内沈線充填。	縄文、時期不明。
195	180	25	23	弥生壺　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、下位にハケ。 内　篦ナデ。	
195	180	26	32	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR2/2黒褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口唇部棒状工具による刻み他ハケ。 内　篦ナデ。	
195	180	27	33	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR3/1黒褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ状工具によるナデ。 内　原体による刺突文。	
195	180	28	8	弥生甕　口縁1/4	Ｐ１内床直＋3.1cm				10YR5/4にぶい黄褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、ハケ。 内　ハケ後ミガキ。	一方は焼土内床面＋4.2cmと接合。
195	180	29	10	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
195	180	30	9	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR3/2黒褐色 10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　４段以上の輪積をナデ消す。	
195	180	31	26	弥生鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、沈線上部に羽状縄文を施す。 内　篦ミガキ。	
195	181	32	110	弥生甕　胴部	南側隅床上＋30.0cm				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　原体による刺突文。 内　篦ナデ。	覆土上層。一方はＰ３周辺床上41.9cmと接合。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
195	181	33	11	弥生壺　胴部	P４周辺床直 ＋0.9cm				10YR5/2灰黄褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　５条のＳ字状結節文、他ハケ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	38と同一個体。
195	181	34	44	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR5/6明赤褐～5YR3/6暗赤褐色 5YR5/6明赤褐	良好	密	外　細縄文後篦ミガキ。	内面器面剥離激しい。焼成後穿孔。
195	181	35	59	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄褐～2.5YR3/6暗赤褐色 10YR6/4にぶい黄褐	良好	密	外　沈線文の上位に斜行縄文、下位に斜行沈線による網目状文を施す。 内　篦ナデ。	外面赤彩。沈線による山形文。
195	181	36	70	弥生壺　胴部	覆土一括				2.5YR2/3極暗赤褐色 7.5YR5/3にぶい褐色	良好	密	外　細縄文の上位に連続刺突文による山形文を施す。 内　篦ナデ。	外面山形文内の無文帯に赤彩。
195	181	37	67	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色 10YR5/2灰黄褐色	良好	密	外　Ｓ字状結節文の下位に細縄文を施す。	内面器面剥離激しい。40と同一個体。
195	181	38	11A	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/2灰黄褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　下位のＳ字状結節文は４条と判明。 内　篦ナデ。	33と同一個体。
195	181	39	37	弥生壺　胴部	南壁際床直				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	１～２㎜大の小石多量含む	外　Ｓ字状結節文を施し、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	一方は南壁際床直＋0.5cmと接合。
195	181	40	64	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色 10YR5/2灰黄褐色	良好	密	外　Ｓ字状結節文の下位に細縄文を施す。	内面器面剥離激しい位。37と同一個体。
195	181	41	66	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　２条のＳ字状結節文を施す。 内　篦ナデ。	
195	181	42	54	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　細縄文を施す。 内　篦ナデ。	
195	181	43	47	弥生壺　胴部	遺構中央床上 ＋16.2cm				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　３条のＳ字状結節文を施す。 内　篦ナデ。	
195	181	44	42	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　斜行細縄文。 内　篦ナデ。	内面やや器面剥離激しい。内面に小石の抜け穴あり。
195	181	45	41	弥生壺　胴部	覆土一括				2.5YR3/4暗赤褐色 10YR3/4暗褐色	良好	密	外　斜行細縄文の下位にＳ字状結節文を施す。	外面無文帯に赤彩。内面器面剥離激しい。
195	181	46	39	弥生壺　胴部	P24周辺床直				10YR4/3にぶい黄褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文が施される。	内面器面剥離激しい。
195	181	47	24	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　沈線内に細縄文。	外面器面剥離激しい。 内面器面磨耗激しい。
195	181	48	61	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 7.5YR4/3褐色	良好	密	外　沈線間に細縄文を施す。	内面ほとんど剥離している。
195	181	49	51	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　櫛描き波状文を施す。 内　ハケ後篦ミガキ。	
195	181	50	69	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR4/6にぶい黄褐色	良好	密	外　平行沈線の上位に棒状工具による刺突文を施す。 内　篦ナデ。	外面赤彩。51・52と同一個体。
195	181	51	38	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　平行沈線の下位に棒状工具による連続刺突文を施す。 内　篦ナデ。	外面無文帯に赤彩。50・52と同一個体。
195	181	52	72	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/6にぶい黄褐色	良好	密	外　平行沈線の下位に棒状工具による連続刺突文を施す。	内面器面磨耗激しい。50・51と同一個体。 連続刺突文以下赤彩（5YR4/6赤彩）
195	181	53	84	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/2灰黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　平行沈線の上位にハケを施す。 内　篦ナデ。	
195	181	54	43	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR4/4褐色	良好	密	外　２条１組の平行沈線間に羽状平行沈線文を施す。 内　篦ナデ。	縄文晩期～弥生中期。
195	181	55	52	弥生壺　胴部	P６周辺床直				10YR3/1黒褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　平行沈線間に斜行沈線を施す。 内　篦ナデ。	
195	181	56	85	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/2灰黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線を施す。 内　篦ナデ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
195	181	57	74	弥生壺　胴部	P６周辺床直				10YR5/6黄褐色	良好	密	外　平行沈線間に斜行沈線を施す。 内　篦ナデ。	
195	181	58	87	弥生壺　胴部	P６周辺床直				10YR5/2灰黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　平行沈線の上位にハケを施す。	内面器面剥離激しい。
195	181	59	48	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR4/4褐色	良好	密	外　平行沈線文を施す。 内　篦ナデ。	
195	181	60	63	弥生壺　胴部	P６周辺床直				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　斜行沈線を施す。 内　篦ナデ。	
195	181	61	75	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/6黄褐色	良好	密	外　平行沈線を施す。 内　篦ナデ。	
195	181	62	83	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/6黄褐色	良好	密	外　平行沈線を施す。 内　篦ナデ。	
195	181	63	86	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/2灰黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　平行沈線文を施す。 内　篦ナデ。	
195	181	64	55	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR4/2灰褐色 10YR6/4にぶい黄褐色	良好	１～２㎜大の小石多量含む	外　平行沈線上位に斜行沈線文を施す。 内　篦ナデ。	
195	181	65	49	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　平行沈線文を施す。 内　篦ナデ。	
195	181	66	53	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR4/2灰黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線文の上位にハケを施す。 内　篦ナデ。	
195	181	67	50	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/2灰黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　平行沈線文を施す。 内　篦ナデ。	
195	181	68	73	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR4/4褐色	良好	密	外　斜行沈線の下位に平行沈線を施す。 内　篦ナデ。	
195	181	69	71	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR4/6にぶい黄褐色	良好	密	外　斜行の平行沈線を施す。 内　篦ナデ。	
195	181	70	108	弥生壺　胴部	覆土一括				2.5Y5/2暗灰黄色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　平行沈線の上位にハケを施す。	内面器面剥離激しい。
196	182	1	4	弥生壺 底部1/2～胴部の一部	遺構中央床 ＋3.7cm		6.8		7.5YR4/6褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ、底部付近篦ナデ。 内　篦ナデ。	
196	182	2	5	弥生甕　底部2/3	覆土一括		5.7		7.5YR4/6褐色 10YR3/3暗赤褐色	良好	密	内　篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
196	182	3	1	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　篦ナデ。	
196	182	4	2	弥生壺　胴部	覆土一括				2.5YR4/8赤褐色 2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　斜縄文。	内面器面剥離激しい。
196	182	5	3	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色 10YR5/6黄褐色	良好	密	外　Ｓ字状結節文を施す。 内　篦ナデ。	
197	182	1	5	弥生甕 口縁完存・全体1/2弱	覆土一括	12.4			10YR4/4褐～7.5YR3/1黒褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	微砂粒多	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	覆土上層。
197	182	2	4	弥生鉢　ほぼ完形	覆土一括	15.1	6.0	6.3	2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　口縁部９条のＳ字状結節文、中位～下位篦ナデ。 内　篦ミガキ。	覆土上層。内外面赤彩。
197	182	3	1	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR2/1黒色 10YR3/2黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　篦ナデ。	外面面取り。
197	182	4	2	弥生鉢？　口縁部	覆土一括				7.5YR3/3暗褐色 2.5YR3/4暗赤褐色	良好	密	外　口縁部細縄文と原体による刺突文が施される。	内面赤彩、器面剥離激しい。
197	182	5	8	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/3褐色 7.5YR3/2黒褐色	良好	密	外　格子状沈線文。	08群

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
197	182	6	6	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　単節縄文、摩滅。	01群
197	182	7	7	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　単節縄文、摩滅。	01群
197	182	8	13	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　単節縄文、摩滅。	01群
197	182	9	11	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　撚糸文r。	01群
197	182	10	12	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　撚糸文r。	01群
197	182	11	14	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　単節縄文。	01群
197	182	12	10	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色 7.5YR3/4暗赤褐色	良好	繊維含む	外　ナデ。 内　ナデ。	03群
197	182	13	9	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR3/4暗赤褐色	良好	繊維含む	外　ナデ。 内　ナデ。	03群
197	182	14	17	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　縄文・原体不明。	04群
197	182	15	15	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　LR。	04群
197	182	16	16	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含まない	外　RL。	04群
199	185	21	61	弥生甕　底部1/4弱	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色 10YR4/1褐灰色	良好	密	外　篦ナデ、底部付近篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
199	185	22	60	弥生甕　底部ほぼ完存	覆土一括		5.5		7.5YR4/3褐色 10YR4/1褐灰色	良好	1㎜大乳白色粒多	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
199	185	23	62	弥生甕　底部1/8	覆土一括		(6.2)		10YR5/3にぶい黄褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密		内外面器面剥離激しい。
199	185	24	50	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5Y2/1黒色 7.5Y3/1オリーブ黒色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	
199	185	25	52	弥生鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR6/4にぶい橙色 10YR7/6明黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、羽状縄文を施す。	内面器面剥離激しい。
199	185	26	49	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR3/3暗褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部に細縄文と原体押捺を施す。 内　篦ナデ	
199	185	27	55	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR3/2黒褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部原体押捺による波状文を施す。 内　篦ナデ。	
199	185	28	53	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR2/1黒色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　篦ナデ。	
199	185	29	54	弥生鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR6/6橙色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部に細縄文を施す。 内　篦ナデ。	
199	185	30	56	弥生鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線区画の上位に細縄文を施す。 内　篦ナデ。	
199	185	31	59	弥生壺　胴部	覆土一括				10R4/6赤色 10YR5/8黄褐色	良好	密	外　S字状結節文と沈線区画による山形文を施す。 内　篦ナデ。	
199	185	32	58	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　沈線区画による山形文内にS字状結節文を施す。 内　篦ナデ。	
199	185	33	51	弥生鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/2灰黄褐色 7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口縁部に羽状縄文を施す。 内　篦ミガキ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
199	185	34	57	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR2/1黒色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　撚糸文r。	01群
199	185	35	64	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	8㎜大の小石含む	外　竹管文、貝殻腹縁文。	05群。175図-189-59、185図-35～37、186図-72・73、189図-5同一
199	185	36	63	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　竹管文、貝殻腹縁文。	05群。175図-189-59、185図-35～37、186図-72・73、189図-5同一
199	185	37	65	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　竹管文、貝殻腹縁文。	05群。175図-189-59、185図-35～37、186図-72・73、189図-5同一
199	185	38	66	弥生鉢　全体1/2	北側周溝底＋17.3cm				5YR5/6暗赤褐色	良好	密	外　沈線文と羽状縄文を施すが、器面磨耗し調整不明。 内　赤彩とナデ痕跡がわずかに残る。	一方は202号遺構の直下層と、北側周溝の溝底＋19.9cmと接合する。
199	185	39	20	弥生壺　胴部1/2	北側周溝底より＋25.4cm		(5.6)		5YR3/6暗赤褐色 5YR2/1黒褐～7.5YR6/4にぶい橙色	良好	乳白色微砂粒多量に含む	外　平行沈線間に網目状細縄文施文後篦ミガキ。	外面赤彩。内面磨耗激しく不明。
199	185	40	22	弥生甕　全体1/3強	覆土一括	(30.8)			7.5YR4/4褐色	やや不良	密	外　多段の段を篦ナデによって磨り消す。 内　篦ナデ。	
199	185	41	14	弥生高坏　接合部	覆土一括				7.5YR6/4にぶい褐色 7.5YR7/6橙色	良好	密		内外面磨耗激しく不明。
199	185	42	21	弥生高坏　接合部	北側周溝底より＋23.4cm				7.5YR6/6橙色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密		内外面磨耗激しく不明。
199	185	43	16	弥生甕　底部	覆土一括		7.0		10YR6/4にぶい黄橙色 10YR6/2灰黄橙色	良好	密		内面器面剥離激しい。
199	185	44	15	弥生甕　底部	覆土一括		6.5		10YR4/1褐灰色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密		内外面磨耗激しく不明。
199	185	45	12	弥生甕　底部	覆土一括		(5.5)		7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR7/6橙色	良好	密		内外面磨耗激しく不明。
199	185	46	13	弥生甕　底部	覆土一括		6.3		7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR7/6橙色	良好	密		内外面磨耗激しく不明。
199	185	47	11	弥生甕　底部	覆土一括		(6.0)		10YR5/2灰黄褐色 10YR7/3にぶい黄橙色	良好	密		内外面磨耗激しく不明。
199	186	48	41	弥生甕 頸部約1/2・口縁の一部	東側周溝底＋36.0cm				7.5YR3/1黒灰～7.5YR4/1褐灰色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　ナデ後篦ナデ。	内面器面剥離激しく、残部は光沢が表れるほどよく削られている。
199	186	49	35	弥生甕　底部1/4弱	覆土一括		(6.6)		5YR5/4にぶい赤褐色 5Y3/2オリーブ黒色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
199	186	50	40	弥生甕　底部	東側周溝底より＋53.4cm		(6.2)		7.5YR5/6明褐色 7.5YR7/6橙色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
199	186	51	34	弥生甕　底部1/4	覆土一括		(6.9)		7.5Y3/3暗オリーブ褐色 7.5Y3/2オリーブ黒色	良好	密	外　篦ナデ後篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
199	186	52	37	弥生甕　底部	覆土一括		(5.2)		10YR6/1褐灰色 10YR6/4明黄褐色	良好	(乳白色粒多)	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
199	186	53	36	弥生甕　底部	覆土一括		(7.2)		7.5YR6/6橙色 2.5YR6/1黄灰色	良好	密		内外面二次加熱を受けて器面剥離が激しく調整不明。
199	186	54	25	土師器坩　口縁部	覆土一括				5YR2/1黒褐色 7.5YR5/3にぶい褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
199	186	55	38	弥生　器種不明　底部完存	東側周溝底＋16.0cm		6.1		7.5YR4/6褐色 7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
199	186	56	33	弥生甕　底部1/4	覆土一括		(7.2)		10YR5/8黄褐色 10YR5/6にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
199	186	57	23	ミニチユア鉢　口縁部	覆土一括	3.2	2.0	2.2	7.5YR6/6橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
199	186	58	39	弥生甕　口縁部	東側周溝底 ＋36.0cm				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　篦ナデ。	
199	186	59	24	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR6/6橙色 10YR6/6明黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　篦ナデ。	
199	186	60	27	弥生甕　口縁部	覆土一括				5Y3/1オリーブ黒色 10Y5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
199	186	61	30	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄橙色 10YR5/8黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　篦ナデ。	
199	186	62	29	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR7/6橙色 10YR6/3にぶい黄橙色	良好	密	外　折り返し口縁。細縄文と原体押捺文を施す。	内面器面磨耗激しい。
199	186	63	28	弥生浅鉢　口縁部	覆土一括				10YR6/6明黄褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部細縄文を施す。 内　篦ミガキ。	内面赤彩（2.5YR4/6赤褐色）
199	186	64	26	弥生甕　胴部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄褐色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　ハケ後頸部下端に原体押捺文を施す。 内　篦ナデ。	
199	186	65	32	弥生鉢　胴部	覆土一括				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　沈線区画の上位に羽状縄文を施す。 内　篦ナデ。	
199	186	66	31	弥生甕　頸部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄橙色 10YR6/3にぶい黄橙色	良好	密	外　２段以上の輪積。	内面器面剥離激しい。
199	186	67	42	弥生鉢　口縁部	覆土一括				10R5/6赤色 7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇・口縁部に細縄文を施し、他篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	外面赤彩。 内面赤彩？
199	186	68	43	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR4/1褐灰色 10YR3/2黒褐色	良好	微砂粒含む	外　口唇部細縄文と原体押捺文を施す。	内面器面剥離激しい。
199	186	69	44	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR7/6橙色 7.5YR7/4にぶい橙色	良好	密	外　口唇部細縄文と原体押捺文を施す。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
199	186	70	46	弥生壺　胴部	覆土一括				10R3/6暗赤色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　沈線文区画の下位に刺突文と、篦ミガキを施す。	外面赤彩。内面器面磨耗激しい。
199	186	71	45	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR6/6橙色 7.5YR7/4にぶい橙色	良好	密	外　沈線文を施す。	内面器面磨耗激しい。
199	186	72	47	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　竹管文、貝殻腹縁文。	05群。175図-189-59、185図-35～37、186図-72・73、189図-5同一
199	186	73	48	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　竹管文、貝殻腹縁文。	05群。175図-189-59、185図-35～37、186図-72・73、189図-5同一
199	186	74	5	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR4/1褐灰色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、頸部４段の輪積を施す。 内　篦ナデ	
199	186	75	3	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR4/2灰黄褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　篦ナデ。	
199	186	76	1	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR6/6橙色 7.5YR7/6橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　篦ナデ。	
199	186	77	6	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR7/6橙色 7.5YR8/6浅黄橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部に細縄文と原体押捺文を施す。	内面器面磨耗激しい。
199	186	78	4	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部に細縄文と原体押捺文を施す。 内　篦ナデ。	
199	186	79	2	弥生鉢　口縁部	覆土一括				2.5YR4/4にぶい赤褐色 10YR6/4明黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部に細縄文を施す。	外面赤彩。内面器面剥離激しい。
199	186	80	8	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR6/6橙色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線区画による山形文内に細縄文を施し、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
199	186	81	7	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR6/6橙色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　頸部沈線区画の上位に細縄文を施す。	外面赤彩。内面器面磨耗激しい。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
199	186	82	18	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR7/6橙色 10YR7/4にぶい黄褐色	良好	密	外　平行沈線の下位に棒状工具による連続刺突文。	外面棒状押捺文以下赤彩。内面器面磨耗激しい。
199	186	83	17	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR6/6橙色 10YR7/4にぶい黄褐色	良好	密	外　平行沈線文を施す。 内　篦ナデ。	内面器面磨耗激しい。
199	186	84	19	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR6/6橙色 10YR7/4にぶい黄褐色	良好	密	外　平行沈線文を施す。	内面器面磨耗激しい。
199	186	85	10	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR7/4にぶい橙色 10YR6/3にぶい黄橙色	良好	密	外　細縄文を施す。 内　篦ナデ。	外面沈線以下赤彩。
199	186	86	9	弥生鉢　胴部	覆土一括				5YR6/8橙色 5YR6/6橙色	良好	密	外　沈線区画の上位に羽状縄文を施す。	内面器面磨耗激しい。
200	186	1	1	弥生甕　底部完存	覆土一括		6.7		10YR5/4にぶい黄褐色 10YR3/3暗褐色	良好	密	外　篦ナデ。	内面器面剥離激しく不明。
201	187	1	1	弥生甕　口縁～胴部1/3	炉周辺床上 ＋16.3cm	(22.0)			5YR5/6明赤褐色	良好	黒色微砂粒多量に含む	外　口唇部押捺波状文、輪積８段後篦ナデ。 内　輪積８段後篦ナデ。	同一個体にて復元。
201	187	2	29	弥生甕　口縁の1/4	炉東側床上 ＋23.6cm	(15.8)			10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密 (黒色微砂粒多)	外　口唇部指頭押捺波状文、ナデ？ 内　ナデ。	外面器面剥離激しい。
201	187	3	4	弥生壺　口縁部	西壁側床上 ＋7.1cm				7.5YR6/6橙色	良好	黒褐色砂粒多	外　折り返し口縁、口唇部原体押捺を施す。	内面二次加熱を受けて器面剥離している。
201	187	4	5	弥生甕　口縁部	炉周辺床上 ＋15.9cm				10YR3/1黒褐色 10YR4/4褐色	良好	密	外　折り返し口縁、篦ナデ。 内　篦ナデ。	
201	187	5	2	弥生壺　口縁部欠	覆土一括				5YR5/6明赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	乳白色微砂粒やや多く含む	外　細縄文による５段以上の羽状縄文を頸部に施す。 内　細かい篦ミガキ後、頸部中位までの赤彩。	内面おそらく篦ミガキであるが剥離激しく不明。赤彩は10R3/6暗赤色。
201	187	6	28	弥生高坏　口縁･脚部全欠	西壁側床上 ＋16.0cm				2.5YR4/8赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ後原体による刺突文。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
201	187	7	26	弥生甕　底部1/3	覆土一括		(5.9)		5YR3/3暗赤褐色 10YR5/4にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。	内面器面剥離激しく不明。
201	187	8	25	弥生壺　底部1/4	覆土一括		(6.6)		5YR3/6暗赤褐色 5YR3/1黒褐色	良好	密	外　丁寧な篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
201	187	9	24	弥生甕　底部の一部欠	覆土一括		6.7		10YR5/4にぶい黄褐色 10YR3/1黒褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
201	187	10	6	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR4/2灰黄褐色 10YR5/2褐灰色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、ハケ後櫛描き文を施す。 内　篦ナデ。	
201	187	11	8	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR2/1黒褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、篦ナデ。 内　篦ミガキ。	
201	187	12	11	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色 5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部下位に棒状工具による押捺文、篦ナデ。 内　篦ミガキ。	内面赤彩、器面剥離激しく不明。13と同一個体。
201	187	13	12	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR4/6明褐色	良好	密	外　口唇部に細縄文を施す。	内面器面剥離激しく不明。12と同一個体
201	187	14	7	弥生壺　胴部	覆土一括				2.5YR3/6暗赤褐色(赤彩部分)	不明 (二次加熱)	ボロボロ砂っぽい (二次加熱)		内外面赤彩（ミガキ後赤彩）内外面器面剥離激しい。
201	187	15	13	弥生壺　口縁部	覆土一括				5YR3/6暗赤褐色	良	密	外　口縁部に刺突文。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。外面剥離激しく不明。
201	187	16	10	弥生壺　口縁部	覆土一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密 (二次加熱)	外　口唇部指頭押捺波状文と細縄文を施す。 内　篦ミガキ。	部分的に2.5YR3/6暗赤褐色の赤彩が内外面に残る。
201	187	17	9	弥生壺　口縁部	覆土一括				10YR5/2灰黄褐色 (二次加熱による)	二次加熱により不明	密	外　口唇部細縄文、原体押捺文を施す。	内面器面剥離激しい。
201	187	18	16	弥生鉢　口縁部	覆土一括				5YR5/6明赤褐色 2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口縁部に細縄文を施す。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
201	187	19	15	弥生甕　胴部	覆土一括				5YR5/6暗赤褐色	良好	密	外　頸部に原体押捺文を施す。	内面器面磨耗激しい。二次加熱を受ける。
201	187	20	14	弥生甕　胴部	覆土一括				5YR5/6暗赤褐色	良好	密	外　頸部１段以上の輪積。	内面器面磨耗激しい。多段の段を有するものと考えられる(二次加熱)
201	187	21	19	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　沈線内を羽状縄文による山形文を施す。	内面器面剥離激しい。
201	187	22	23	弥生壺　胴部	覆土一括				5YR5/1褐灰色 7.5YR8/1灰白色	二次加熱により不明	乳白色粒多	外　１条の沈線の上下に細縄文を施す。	内面器面磨耗激しい。二次加熱によって褐灰色に変色する。赤彩痕跡あり。
201	187	23	27	弥生壺　胴部	覆土一括				10R4/8赤色 10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　１条の沈線の上下に細縄文を施す。	弥生中期。外面赤彩。内面器面磨耗激しい。
201	187	24	21	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR2/1黒色 10YR4/1褐灰色	良好	密	外　１条の沈線の上下に細縄文を施す。	加曾利Ｂ（粗精土器）
201	187	25	18	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　１条の沈線の上下に細縄文を施す。	弥生中期。内面器面剥離激しい。
201	187	26	22	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　１条の沈線の上下に細縄文を施す。	弥生中期（宮ノ台土器）
202	188	1	3	弥生甕　口縁1/4	覆土一括	23.5		9.3	5YR2/2黒褐色 7.5YR4/4褐色	良好	１㎜大の白～乳白色粒多	外　１条の沈線の上下に細縄文を施す。	
202	188	2	2	弥生甕　胴部2/3	焼土内床直＋0.2cm				5YR4/6赤褐色	良好	密	外　１条の沈線の上下に細縄文を施す。	内面胴部下段器面剥離激しい。胴部最大径26.2cm。 一方は焼土内床直＋2.3cmと接合。
202	188	3	1	弥生壺　口縁欠	焼土内床直－0.5cm		7.0		2.5YR3/6暗赤褐色 7.5YR3/4褐色	良好	密	外　１条の沈線の上下に細縄文を施す。	外面赤彩。胴部下端にススが付着している。内面二次加熱を受けて器面ボロボロに剥離している。一方は焼土内床直－1.3cmと接合。
202	188	4	6	弥生台付鉢or甕　脚部1/3	覆土一括		(8.1)		7.5YR4/4褐色	良好	密	外　１条の沈線の上下に細縄文を施す。	
202	188	5	5	弥生甕　底部完存	覆土一括				5YR3/6暗赤褐色 5YR3/2暗赤褐色	良好	密	外　１条の沈線の上下に細縄文を施す。	内面器面剥離激しい。
202	188	6	4	弥生深鉢　口縁部	覆土一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　１条の沈線の上下に細縄文を施す。	早期撚糸文系土器。
202	188	7	7	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR3/2黒褐色	良好	密	外　１条の沈線の上下に細縄文を施す。	
202	188	8	9	弥生鉢　口縁部	覆土一括				5YR4/6赤褐色 7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　１条の沈線の上下に細縄文を施す。	内面器面磨耗激しい。
202	188	9	8	弥生鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色 2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　１条の沈線の上下に細縄文を施す。	内面赤彩。
202	188	10	12	弥生壺　頸部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　１条の沈線の上下に細縄文を施す。	
202	188	11	10	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐～2.5YR3/6暗赤褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　１条の沈線の上下に細縄文を施す。	外面無文帯に赤彩。内面器面剥離激しい。
202	188	12	11	弥生鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　１条の沈線の上下に細縄文を施す。	
203	188	1	14	弥生甕　底部2/3	覆土一括		(4.0)		7.5YR3/2黒褐色	良好	密		内外面器面磨耗激しい。
203	188	2	12	弥生甕　底部1/4	覆土一括		(8.2)		7.5YR4/4褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
203	188	3	13	弥生甕　底部1/3	覆土一括		(5.0)		7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密		内外面器面磨耗激しい。
203	188	4	11	弥生甕　底部1/6	覆土一括		(6.0)		7.5YR3/1黒褐色 7.5YR4/3褐色	良好	密		内外面器面剥離激しい。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
203	188	5	3	弥生甕　口縁部	覆土一括				5YR3/2暗赤褐色 5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、２段の輪積後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
203	188	6	7	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR4/2灰褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、篦ナデ。 内　篦ナデ。	
203	188	7	5	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR2/1黒褐色 7.5YR3/3暗褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、篦ナデ。 内　篦ミガキ。	
203	188	8	6	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部弱い指頭押捺、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩痕あり。
203	188	9	1	弥生壺　口縁部	覆土一括				5YR3/4暗赤褐色 5YR5/6暗赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文、後棒状工具による連続刺突文を施す。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩、器面磨耗激しい。
203	188	10	2	弥生壺　口縁部	P20底面より＋2.3cm				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁。	内外面赤彩痕あり、器面磨耗激しい。
203	188	11	4	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR3/1黒褐色 7.5YR3/3暗褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
203	188	12	10	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐～5YR3/6暗赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　細縄文後格子状に沈線を施す。 内　篦ナデ。	外面無文帯に赤彩。
203	188	13	8	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR4/2灰褐色	良好	密	外　原体による刺突後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
203	188	14	9	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR3/1黒褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ後篦ミガキ。	
204	189	1	1	弥生甕 口縁～胴部中位3/4欠	P22底面床面より－25.0cm	(15.9)	7.2	19.5	7.5YR3/1黒褐色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部篦ナデ、胴部篦ナデ後粗い篦ミガキ。 内　横ナデ後篦ナデ。	分厚く鈍重な、とても重い土器。
204	189	2	2	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR4/1褐灰色 7.5YR5/2灰褐色	良好	密	外　口縁部棒状工具による押捺波状文。 内　ナデ。	
204	189	3	3	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR4/1褐灰色 7.5YR5/2灰褐色	良好	密	外　口縁部棒状工具による押捺波状文。 内　ナデ。	
204	189	4	4	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR4/2灰褐色 7.5YR5/4灰褐色	良好	密	外　口縁部棒状工具による押捺波状文。 内　篦ナデ。	
204	189	5	5	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色	良好	密	外　竹管文、貝殻腹縁文。	05群。175図-189-59、185図-35～37、186図-72・73、189図-５同一
205	189	1	10	土師器 底部穿孔二重口縁壺	覆土一括	19.0			5YR4/6赤褐色	良好	密	外　ナデ、他ハケ後ナデ。 内　ナデ。	内外面赤彩。
205	189	2	9	土師器 底部穿孔二重口縁壺	覆土一括	(20.0)			5YR4/4にぶい赤褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ミガキ。 内　一部ハケ。	外面赤彩。
205	189	3	7	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　羽状縄文を施す。 内　一部篦ミガキ残る。	内面赤彩、器面剥離激しい。
205	189	4	5	弥生壺　頸部1/3	覆土一括				7.5YR4/6褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　篦ミガキ後斜行細縄文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩、器面剥離激しく不明。
205	189	5	8	弥生甕　底部4/5	覆土一括		6.8		10YR5/4にぶい黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐～5YR3/6暗赤褐色	良好	乳白色粒多	外　篦ナデ後粗い篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	内面赤彩。
205	189	6	2	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR3/1黒褐色 7.5YR5/3にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　篦ナデ。	
205	189	7	1	弥生壺　口縁部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄褐色 7.5YR4/6褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、羽状縄文施文後２連の棒状浮文、原体押捺を施す。 内　篦ミガキ。	折り返し口縁。内面赤彩。
205	189	8	4	弥生鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　羽状縄文を施す。 内　ナデ。	
205	189	9	3	弥生鉢　胴部	P３周辺床直－0.4cm				10YR5/4にぶい黄褐色 7.5YR4/6褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、原体による刺突を施す。 内　篦ナデ。	内面器面剥離やや激しい。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
205	189	10	6	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　羽状縄文を施す。	内面赤彩を施した痕跡がある。内面器面磨耗、剥離激しい。
206	192	42	3	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　撚糸文。	01群
206	192	43	2	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　撚糸文。	01群
206	192	44	1	弥生鉢　胴部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色 10R3/6暗赤色	良好	密	外　原体による刺突文の下位に羽状縄文を施す。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
206	192	46	1	土師器高坏　坏上部1/4 脚部1/2	東側周溝底 ＋9.5cm	25.0		17.2	5YR4/6赤褐色	普通	2㎜大の小石多く含む	外　口縁部羽状縄文と連続刺突文。裾部細縄文。脚接合部は、突帯に連続刺突文。胴部篦ミガキ。 内　坏部篦ミガキ、脚部篦ナデ。	一方は東側周溝底＋12.5cmと＋23.5cmと接合。
208	193	1	1	弥生甕　口縁部	覆土一括	(24.2)			5YR6/8橙色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　沈線区画の上位に原体押捺圧痕の刻み目を施し、口縁～胴部にかけてＳ字状結節文をめぐらす。 内　篦ミガキ。	内面剥離が激しく赤彩が飛んでいる。
208	193	2	10	弥生甕　底部	覆土一括				7.5YR5/3にぶい褐色 7.5YR6/6橙色	良好	褐色粒多		内外面器面磨耗激しく不明。
208	193	3	9	弥生甕　底部	覆土一括				10R3/6暗赤色 7.5YR5/3にぶい褐色	良好	白色粒多		外面赤彩、器面磨耗激しい。内面器面剥離激しく不明。
208	193	4	8	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　沈線区画による山形文内に細縄文を羽状に施す。	内面器面剥離激しく不明。
208	193	5	6	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　細縄文を施す。 内　篦ナデ。	
208	193	6	2	弥生壺　頸部	覆土一括				7.5YR3/1黒褐色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　原体による刻み目を施し、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
208	193	7	7	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR4/1褐灰色 2.5YR3/4暗赤褐色	良好	密	外　頸部に原体押捺を施す。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
208	193	8	3	弥生甕　胴部	覆土一括				5YR5/6明赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　円形竹管を施す。 内　篦ナデ。	
208	193	9	4	弥生甕　胴部	覆土一括				5YR5/4にぶい赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　円形竹管を施す。 内　ナデ。	
208	193	10	5	弥生壺　頸部	覆土一括				2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　円形竹管を施す。 内　ナデ。	
209	193	1	4	弥生甕　底部1/8	覆土一括		(7.0)		10YR5/3にぶい黄褐色	やや不良	砂粒多		内外面器面剥離激しい。
209	193	2	2	弥生甕　底部1/4	覆土一括		(7.0)		10YR5/4にぶい黄褐色 10YR2/2黒褐色	良好	密	外　篦ナデ。	内面器面剥離激しく不明。
209	193	3	3	弥生甕　底部1/5	覆土一括		(6.8)		10YR5/4にぶい黄褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	極めて薄い土器。
209	193	4	1	弥生甕　底部完存	覆土一括		5.0		7.5YR6/6橙色 7.5YR4/1褐灰色	良好	密		内外面器面磨耗激しく不明。
210	193	1	1	弥生鉢　底部～口縁一部	Ｐ３・Ｐ４中間周辺床直 ＋3.7cm	(21.5)	(6.0)	10.8	2.5YR4/6赤褐色 2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、一部篦ミガキ後篦ナデ。 内　篦ミガキ。	内面赤彩残り、器面剥離激しい。
210	193	2	21	弥生甕　底部完存	覆土一括		5.0		7.5YR4/6褐色 7.5YR3/1黒褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
210	193	3	23	弥生甕　底部完存	覆土一括		5.0		7.5YR5/6明褐色 7.5YR5/6明褐～7.5YR3/1黒褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
210	193	4	20	弥生甕　底部のみ	Ｐ３・Ｐ４中間周辺床直上 ＋4.4cm		5.2		10YR4/3にぶい黄褐色 5YR4/6赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ミガキ。	内面器面剥離激しい。
210	193	5	22	弥生甕　底部完存	覆土一括		4.6		5YR4/4にぶい黄褐色 5YR4/8赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内面赤彩。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
210	193	6	3	土師器 底部穿孔二重口縁壺	覆土一括				7.5YR3/4暗褐色	良好	密	外　ナデ。	内面器面磨耗激しい。
210	193	7	6	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色 2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　口縁部細縄文による網目状文を施し、原体による押捺が加わる。 内　篦ナデ。	
210	193	8	12	弥生壺　口縁部	覆土一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口唇部から口縁部細縄文を施す。	内面器面磨耗激しい。
210	193	9	2	弥生鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口縁部細縄文を施す。	内面器面剥離激しい。
210	193	10	11	弥生鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　細縄文による羽状縄文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩
210	193	11	10	弥生甕　胴部	覆土一括				10YR3/2黒褐色 10YR4/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部棒状工具による刺突による波状文を施す。 内　篦ナデ。	
210	193	12	8	弥生壺　胴部	覆土一括				2.5YR4/6赤褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線区画による山形文内にＳ字状結節文を施す。	外面赤彩。内面器面剥離激しい。13と同一個体。
210	193	13	16	弥生壺　胴部	覆土一括				2.5YR4/6赤褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線区画による山形文内にＳ字状結節文を施す。 内　篦ナデ。	12と同一個体。
210	193	14	14	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　Ｓ字状結節文を施す。	内面器面磨耗激しい。
210	193	15	17	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	１㎜大の白色粒多	外　円形刺突文と輪積を施す。 内　篦ナデ。	
210	193	16	9	弥生鉢　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐～10YR5/3にぶい黄褐色 5YR4/6赤褐色	良好	密	外　沈線区画の上位に羽状縄文を施す。	内外面赤彩。内面器面剥離激しい。
210	193	17	18	弥生甕　胴部	覆土一括				2.5YR3/6暗赤褐色 7.5YR5/6明褐色	良好	１㎜大の褐色粒多	外　沈線区画の上位に細縄文による羽状縄文を施す。	外面赤彩。内面器面磨耗激しい。
211	195	1	11	土師器甕　口縁1/16	覆土一括	(11.4)			5YR4/6赤褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	口唇部つまみ上がる　８Ｃ末～９Ｃ前葉
211	195	2	10	土師器甕　口縁1/16	覆土一括	(10.1)			7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	８Ｃ後葉～９Ｃ前葉。外面口唇部面取り。
211	195	3	9	土師器甕　口縁部	覆土一括	16.8			7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　ナデ。	外面口唇部面取り。
211	195	4	17	弥生甕　胴部1/4弱	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	微砂粒多	外　篦ナデ後連続押捺文。 内　篦ナデ。	
211	195	5	1	弥生甕　底部の一部欠	覆土一括		9.2		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	微砂粒多	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
211	195	6	4	弥生甕　底部2/3	覆土一括		7.2		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　粗い篦ナデ。	
211	195	7	2	弥生甕　底部4/5	覆土一括		7.7		10YR3/1黒褐色 5YR4/6赤褐色	良好	微砂粒多	外　篦ケズリ。	内面器面剥離激しい。
211	195	8	3	弥生甕　底部完存	覆土一括		6.4		10YR5/4にぶい黄褐色 2.5Y5/3黄褐色	良好	２～３㎜大の小礫多	外　ハケ。 内　篦ハケ。	
211	195	9	7	土師器高坏　脚部2/3	覆土一括				5YR3/6暗赤褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　縦篦ミガキ後横ナデ。 内　篦状工具によるカキトリ。	外面赤彩　坏部内面無彩。
211	195	10	6	土師器高坏　脚部3/6	覆土一括				5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　坏部篦ミガキ、篦ナデ後ハケ。	内外面赤彩　５Ｃ前葉
211	195	11	8	土師器高坏　脚部のみ	覆土一括				5YR4/6赤褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密		外面赤彩。内外面器面剥離激しい。
211	195	12	5	土師器高坏　脚部2/1	覆土一括		(6.8)		5YR3/6暗赤褐色	良好	密	内　ナデ。	内外面赤彩。外面やや磨耗している。５Ｃ中葉。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
211	195	13	1	須恵器大甕　胴部	覆土一括				5Y6/1灰色	良好	非常に精選されている	外　タタキ。 内　半磨り消し。１型式第３段階併行？	
211	195	14	14	弥生鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部細縄文。	内外面器面磨耗激しい。
211	195	15	16	弥生鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR6/6橙色 5YR3/4暗赤褐色	良好	密	外　口唇部細縄文。口唇部下位に原体による連続刺突文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
211	195	16	13	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口唇部にＳ字状結節文、棒状浮文を貼り付ける。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
211	195	17	15	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR4/1褐灰色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
211	195	18	18	弥生甕　胴部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　原体による押捺文を施す。 内　篦ナデ。	
211	195	19	19	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　羽状縄文を施す。 内　篦ナデ。	
211	195	20	31	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	繊維含む	外　口唇上・口縁に刺突 or 押引文、条痕。波状口縁。 内　条痕。	03群
211	195	21	21	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				5YR4/8赤褐色	良好	繊維含む	外　隆帯、条痕。 内　条痕。	03群
211	195	22	20	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　口唇上刻み、条痕。波状口縁。 内　条痕。	03群
211	195	23	22	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　隆帯、条痕。 内　条痕。	03群
211	195	24	23	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 10YR3/2黒褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
211	195	25	26	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
211	195	26	30	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/4にぶい赤褐色 7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
211	195	27	24	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　ナデ。	03群
211	195	28	29	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
211	195	29	27	縄文深鉢　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
211	195	30	28	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕、ナデ。 内　条痕。	03群
211	195	31	25	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
212	196	1	4	弥生甕　底部1/4強	覆土一括		(7.1)		7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密		内外面器面剥離激しく不明。
212	196	2	3	弥生鉢　胴部	覆土一括				2.5YR2/4極暗褐色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　細縄文とＳ字状結節文を施し、他篦ミガキ。	外面赤彩。内面器面磨耗激しく不明。
212	196	3	2	縄文深鉢　底部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	繊維含む	外　擦痕、底部ナデ・工具？痕。尖底。 内　擦痕、ナデ。	03群。繊維少 or なし
212	196	4	1	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色 7.5YR2/3黒褐色	良好	繊維含む	外　垂下沈線、押引文、条痕。 内　条痕。	03群
213	196	1	3	土師器甕　口縁1/16	覆土一括	(15.8)			5YR4/6赤褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
213	196	2	2	土師器坏　口縁1/16	覆土一括	(12.8)			2.5YR4/8赤褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	内外面赤彩。
213	196	3	4	土師器坏　口縁1/12	覆土一括	(10.2)			10YR3/1黒褐色	良好	密	外　ナデ、他篦ケズリ？ 内　篦ミガキ。	
213	196	4	1	土師器高坏　脚裾部1/6	覆土一括		(10.4)		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　ナデ。	
213	196	5	6	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色 10YR3/3暗褐色	良好	繊維含む	外　ナデ、剥離。 内　擦痕。	03群
213	196	6	5	縄文深鉢　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	繊維含む	外　沈線？竹管条痕。 内　条痕。	03群
214	196	1	4	土師器高坏 口唇部全欠・坏部1/8	覆土一括	(22.2)			10R4/6赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。和泉式。
214	196	2	3	須恵器甕　口縁1/16	覆土一括	(22.8)			5Y5/1灰色	良好	密	外　ロクロ。 内　ロクロ。	ロクロ回転方向不明。千代丸・力丸26号横穴７～８Ｃ初期。
214	196	3	2	土師器甕　口縁1/16	覆土一括				10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	平安時代。
214	196	4	5	土師器台付甕	覆土一括				7.5YR4/6褐色 5YR4/6赤褐色	良好	密	外　篦ナデ後ハケ。 内　ハケ、他ハケ後篦ナデ。	
214	196	5	1	龍泉窯系青磁椀	覆土一括				10Y5/2オリーブ灰色	良好	密 灰白色 (5Y7/1)	内外面　釉は数層にわたり厚い。	１－５類13世紀。幅広の片切彫の蓮弁。
215	197	1	35	土師器甕　口縁1/12	覆土一括	(25.4)			10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部つまみ上り、他ナデ。 内　ナデ。	
215	197	2	9	土師器甕　口縁1/8	覆土一括	(15.6)			7.5YR4/4褐色	良好	密	外　ハケ後ナデ。 内　ハケ。	
215	197	3	2	土師器壺　口縁1/8	覆土一括	(14.8)			10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　折り返し口縁、他ハケ後雑なナデ。 内　ハケ。	
215	197	4	1	土師器壺　口縁1/8	覆土一括	(16.2)			10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、頸部ハケ後篦ミガキ。 内　ハケ後粗い篦ミガキ。	
215	197	5	3	土師器壺　口縁1/8	覆土一括	(12.4)			7.5YR4/6褐色	良好	密	外　折り返し口縁、頸部ハケ後ナデ。 内　篦後ナデ。	
215	197	6	4	土師器甕　口縁1/8	覆土一括	(10.4)			7.5YR4/6褐色	良好	密	外　折り返し口縁、頸部以下ハケ。 内　篦ナデ。	
215	197	7	6	弥生甕　底部完存	覆土一括		5.6		10YR6/4にぶい黄橙色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
215	197	8	5	土師器甕　底部ほぼ完存	覆土一括		6.4		7.5YR4/3褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	底部木葉痕あり。
215	197	9	10	弥生高坏　脚部1/6	覆土一括		(15.8)		2.5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　ナデ、脚端部～裾部羽状縄文を施す。 内　篦ナデ。	非常に丁寧な造りの土器。
215	197	10	7	土師器坩　口縁1/8	覆土一括	(10.8)			7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　ナデ。	
215	197	11	8	土師器壺　口縁部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　折り返し口縁、他ハケ。 内　ハケ。	
215	197	12	19	弥生壺　口縁部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文を施す。 内　篦ナデ。	
215	197	13	12	弥生広口壺　口縁部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部～折り返し口縁にかけて細縄文、頸部羽状縄文が施される。 内　篦ナデ。	
215	197	14	20	弥生鉢　口縁部	覆土一括				2.5Y3/2黒褐色 5YR4/6赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文、口縁～頸部羽状縄文を施す。	内面器面剥離激しく不明。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
215	197	15	23	弥生鉢　口縁部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部と胴部細縄文、口縁部原体押捺と細縄文を施す。 内　篦ナデ。	
215	197	16	26	弥生壷　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文、口縁部羽状縄文を施す。 内　篦ナデ。	
215	197	17	18	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR3/4暗褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、３段以上の輪積。 内　篦ナデ。	
215	197	18	22	弥生甕　口縁部	覆土一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、３段以上の輪積。 内　篦ナデ。	
215	197	19	21	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文　３段以上の輪積。 内　篦ナデ。	
215	197	20	17	弥生鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部羽状縄文を施す。 内　篦ミガキ。	内外面やや器面磨耗激しい。
215	197	21	16	弥生鉢　口縁部	覆土一括				5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部沈線区画の上位に羽状縄文を施す。 内　ハケ後ナデ。	
215	197	22	11	弥生鉢　口縁部	覆土一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部羽状縄文を施す。	内面器面磨耗激しく不明。
215	197	23	14	弥生鉢　口縁部	覆土一括				5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部羽状縄文を施す。 内　篦ナデ。	
215	197	24	25	弥生鉢　口縁部	覆土一括				10YR3/4暗褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部羽状縄文を施す。 内　篦ナデ。	
215	197	25	27	弥生鉢　口縁部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部羽状縄文を施す。 内　篦ナデ。	
215	197	26	15	弥生鉢　口縁部	覆土一括				5YR5/6明赤褐色	良好	蜜	外　羽状縄文を施す。	内外面器面磨耗激しく不明。
215	197	27	29	弥生鉢　胴部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線区画の上位に羽状縄文を施す。 内　篦ナデ。	
215	197	28	13	弥生壷　胴部	覆土一括				5YR4/6赤褐～10YR6/4にぶい黄橙色	良好	微砂粒多	外　沈線区画の上位に篦ミガキ、他羽状縄文を施す。 内　篦ナデ。	
215	197	29	28	弥生甕　胴部	覆土一括				10YR3/1黒褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　頸部細縄文を施す。 内　篦ナデ。	北関東系土器。
215	197	30	31	弥生壷　胴部	覆土一括				10YR4/1褐灰色 10YR6/3にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線区画内に網目文と細縄文を施す。 内　篦ナデ。	32と同一個体。
215	197	31	32	弥生壷　胴部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線区画内に波状文を施す。 内　篦ナデ。	
215	197	32	33	弥生壷　胴部	覆土一括				10YR4/1褐灰色 10YR6/3にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線区画内に網目文と細縄文を施す。 内　篦ナデ。	30と同一個体。
215	197	33	30	弥生壷　胴部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　S字状結節文間に沈線区画による、文様帯を有し細縄文を施す。	外面赤彩。内面器面剥離により不明。
222	198	1	1	土師器高坏　脚部1/3	覆土一括				10YR6/6明黄褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
223	198	1	1	須恵器甕　胴部	覆土一括				7.5Y4/1灰色	良好	密	外　ロクロ、櫛描き波状文（凸帯２ヶ所あり） 内　ロクロ。	
224	198	1	1	常滑6b式　口縁部	覆土一括	27.6			5Y7/1灰白色 5Y5/3灰オリーブ～7.5YR3/4暗褐色	良好	密	外　ナデ（指が入る） 内　ナデ。	
224	198	2	13	弥生壷　底部1/4弱	覆土一括		(8.6)		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
224	198	3	15	弥生甕　底部完存	覆土一括		4.0		10YR4/2灰褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
224	198	4	14	弥生甕　底部1/3	覆土一括		(5.6)		10YR5/4にぶい黄褐色 10YR5/2灰黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
224	198	5	3	弥生壺　口縁部	覆土一括				10YR6/4にぶい黄橙色 5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部細縄文と原体押捺を施す。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
224	198	6	2	弥生甕　口縁部	覆土一括				7.5YR4/6褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文を施す。 内　篦ナデ。	
224	198	7	6	弥生壺　胴部	覆土一括				10R3/2黒褐色	良好	密	外　口縁部細縄文と棒状浮文を施す。 内　篦ナデ。	
224	198	8	7	弥生壺　胴部	覆土一括				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　頸部に沈線文と羽状縄文を施す。	内面小片につき不明。
224	198	9	5	弥生壺　胴部	覆土一括				10R4/6赤色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	内　山形文内に細縄文、他篦ミガキ。	内面赤彩。外面器面磨耗により不明。
224	198	10	4	弥生壺　胴部	覆土一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　円形竹管による２連の連続刺突文を施す。 内　篦ナデ？	
226	198	1	1	縄文深鉢　口縁部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	微砂粒多	外　無文、一部縄目痕跡。	01群
226	198	2	2	縄文深鉢　胴部	覆土一括				10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　LR。	縄文、時期不明
B-6	199	1	1	土師器甕　口縁1/8	グリッド一括	(14.0)			2.5YR5/8赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部目の粗いハケ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	かなり赤味が強いが赤彩ではない。
C-6	199	2	3	弥生鉢 or 高坏　口縁1/8	グリッド一括	(16.0)			5YR4/6赤褐色 10YR3/2黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部細縄文、他沈線以下篦ミガキ。 内　胴部篦ミガキ。	
C-6	199	3	4	土師器 底部穿孔二重口縁壺 頸部1/4弱	グリッド一括				2.5YR4/6赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　頸部と胴部の接合部には突帯を有する。 内　篦ミガキ。	外面赤彩、器面剥離激しい。内面やや器面磨耗激しい。
C-6	199	4	2	土師器結合器台 口縁・脚・裾全欠・受部1/2～ 脚の一部	グリッド一括				7.5YR3/4暗褐色	良好	密	外　受部篦ナデ、脚部粗い篦ミガキ。 内　受部粗い篦ナデ、脚部粗い篦ナデ。	脚部の一方以上に有孔。
C-7	199	5	1	土師器高坏　口縁1/6	グリッド一括	(21.0)			2.5YR3/6暗赤褐色 2.5YR4/8赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。接合に至らぬ同一個体１ヶあり。
D-7	199	6	3	弥生甕　底部完存	グリッド一括		4.6		7.5YR4/6褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	
D-7	199	7	4	弥生甕　底部完存	グリッド一括		6.0		10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ。	内面器面磨耗により不明。
D-7	199	8	2	弥生甕　底部完存	グリッド一括		5.4		7.5YR4/6褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
I-8	199	9	2	弥生台付甕　脚部完存	グリッド一括		4.5		10YR3/3暗褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　指ナデ。	接合部。
I-8	199	10	1	弥生鉢　口縁1/3	グリッド一括	(16.4)			10YR6/4にぶい黄橙～2.5YR3/6暗赤褐色 2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部羽状縄文、他沈線以下篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
F-8	199	11	13	土師器坩　底部完存 口縁1/6	グリッド一括	(10.6)	2.4	6.5	10R4/6赤色	良好	密	外　胴部篦ミガキ。 内　胴部篦ミガキ。	復元実測。内外面赤彩。接合に至らぬ、同一個体10ヶ30ｇあり。
I-9	199	12	1	弥生高坏　坏部	グリッド一括				7.5YR6/6橙色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　坏部篦ナデ。 内　坏部篦ミガキ。赤彩の痕跡があるが磨耗が激しい。	接合部に棒状工具による連続刺突文によって得られた、刻み目付凸帯を巡らせる。全体的に磨耗が激しい。
K-10	199	13	1	土師器 底部穿孔二重口縁壺 口縁1/8	グリッド一括	(16.0)			10R4/6赤色	良好	密	外　口唇部下位に沈線が巡る。 内　ナデ。	グリッド一括であるが辺田１号墳から、落下したものと想定する。
B-5	199	14	1	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				5YR4/6赤褐色	良好	繊維含む	外　押引意匠文、口唇刻み、ナデ。 内　擦痕。	03群
B-5	199	15	6	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				5YR5/6明赤褐色	良好	繊維含む	外　押引・凹線意匠文、口唇・隆帯刻み、ナデ。 内　擦痕。	03群

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
B-5	199	16	9	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				5YR4/6赤褐色	良好	繊維含む	外　条痕。口縁歪む。 内　条痕。	03群
B-5	199	17	2	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				5YR4/6赤褐色	良好	繊維含む	外　ヘラナデ格子文、口唇両側刻み、条痕。 内　条痕。	04群
B-5	199	18	4	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				7.5YR4/6褐色	良好	繊維含む	外　円孔文、条痕。 内　粗いナデ。	03群
B-5	199	19	5	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				5YR4/6赤褐色	良好	繊維含む	外　ナデ。 内　ナデ。	03群
B-5	199	20	17	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				5YR4/6赤褐色 7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　結節沈線・２条一組。	04群
B-5	199	21	18	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
B-5	199	22	13	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕文と隆帯を持つ。 内　条痕。	03群
B-5	199	23	3	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				5YR4/6赤褐色	良好	繊維含む	外　条痕文後、２連の半裁竹管による連続刺突文。 内　条痕。	03群
B-5	199	24	14	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
B-5	199	25	10	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				5YR3/6暗赤褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	繊維含む	外　連続刺突、条痕。 内　擦痕。	03群
B-5	199	26	20	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　貝殻腹縁押圧文、条痕。 内　条痕。	03群
B-5	199	27	8	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　刻み隆帯、条痕。 内　条痕。	03群
B-5	199	28	11	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				5YR5/6明赤褐色	良好	繊維含む	外　押引意匠文、条痕。 内　条痕。	03群
B-5	199	29	15	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				5YR5/6明赤褐色	良好	繊維含む	外　ヘラナデ意匠文、刺突充填条痕。 内　条痕。	03群
B-5	200	30	16	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				5YR5/6明赤褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
B-5	200	31	19	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				10YR3/2黒褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	繊維含む	外　刺突文、擦痕。 内　条痕。	03群
B-5	200	32	12	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				5YR5/6明赤褐色	良好	繊維含む	外　摩滅。 内　摩滅。	03群
B-5	200	33	7	縄文深鉢　底部	グリッド一括				2.5YR4/6赤褐色 10YR6/6明黄褐色	良好	繊維含む	外　粗いナデ。平底。 内　粗いナデ。	03群。底面灰付着
B-6	200	34	23	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				5YR5/6明赤褐色	良好	繊維含む	外　RL 重畳施文。 内　ケズリ～ナデ。	縄文、時期不明
B-6	200	35	7	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				7.5YR3/4暗褐色	良好	繊維含む	外　口唇刻み、連続刺突文。 内　条痕。	03群
B-6	200	36	6	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　口唇刻み、条痕、摩滅。 内　条痕、摩滅。	03群
B-6	200	37	5	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				10YR6/3にぶい黄橙色 10YR4/1褐灰色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
B-6	200	38	4	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				7.5YR3/3暗褐色	良好	繊維含む	外　口唇刻み、条痕。 内　条痕。	03群
B-6	200	39	3	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕、ナデ。	03群

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
B-6	200	40	22	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				5YR4/6赤褐色	良好	繊維含む	外　口唇内外貝殻腹縁押圧文、ナデ。 内　ナデ。	03群
B-6	200	41	8	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				7.5YR4/3褐色	良好	繊維含む	外　竹管条痕・管内痕隆起。 内　条痕。	03群
B-6	200	42	12	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　押引文、刻み隆帯、ナデ。 内　上ナデ、下条痕。	03群
B-6	200	43	10	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	繊維含む	外　沈線格子文、刺突文、隆帯。 内　条痕。	03群
B-6	200	44	20	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				10YR4/3にぶい黄褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	繊維含む	外　肥厚部押引文、ナデ。 内　ナデ。	03群
B-6	200	45	13	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
B-6	200	46	11	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				5YR4/6赤褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕→ナデ。 内　条痕→ナデ。	03群
B-6	200	47	18	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				5YR4/6赤褐色 7.5YR5/3にぶい褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
B-6	200	48	16	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				5YR4/4にぶい赤褐色	良好	繊維含む	外　平行沈線、条痕。 内　条痕。	03群
B-6	200	49	17	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				5YR4/8赤褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
B-6	200	50	19	縄文深鉢　底部	グリッド一括				5YR5/6明赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	繊維含む	底　条痕。平底。 その他　摩滅。	03群
B-6	200	51	21	縄文深鉢　底部1/4	グリッド一括		(8.0)		5YR5/6明赤褐色 10YR6/4にぶい黄橙色	良好	繊維含む	外・底　条痕。平底。 内　ナデ。	03群
C-6	200	52	9	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				7.5YR3/4暗褐色	良好	繊維含む	外　ヘラナデ意匠文、口唇刻み。 内　条痕。	03群
C-6	200	53	13	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				7.5YR5/6明褐色	良好	繊維含む	外　口唇刻み・斜め、条痕。 内　条痕。	03群
C-6	200	54	10	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				5YR5/6明赤褐色	良好	繊維含む	外　ヘラナデ意匠文、口唇刻み、ナデ。 内　ナデ。	03群
C-6	200	55	25	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				10YR4/3にぶい黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　口唇刻み、条痕。 内　条痕。	03群。図の沈線状は繊維痕
C-6	200	56	34	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				7.5YR4/6褐色	良好	繊維含む	外　押引意匠文、口唇刻み。 内　条痕。	03群
C-6	200	57	14	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　口唇上押引文、円孔文、擦痕。 内　ナデ。	03群
C-6	201	58	26	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				7.5YR4/3褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
C-6	201	59	16	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				5YR4/6赤褐色	良好	繊維含む	外　口唇刻み、条痕。 内　条痕。	03群
C-6	201	60	12	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				7.5YR4/3褐色	良好	繊維含む	外　口唇刻み・波状、条痕。 内　条痕。	03群
C-6	201	61	36	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				5YR4/4にぶい赤褐色	良好	繊維含む	外　円形竹管、沈線、条痕。 内　条痕。	03群
C-6	201	62	37	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　沈線・ヘラナデ意匠文内押引文、円形竹管文、条痕。 内　条痕。	03群
C-6	201	63	33	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　押引文、口唇刻み、条痕。 内　条痕。	03群

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
C-6	201	64	19	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
C-6	201	65	7	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				2.5YR3/6暗赤褐色	良好	繊維含む	外　隆帯上条痕施文、ナデ。 内　条痕。	03群
C-6	201	66	20	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				10YR4/6にぶい黄橙色	良好	繊維含む	外　上部平坦な山形突起、条痕。 内　条痕。	03群
C-6	201	67	35	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				2.5YR4/8赤褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
C-6	201	68	15	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				7.5YR4/4褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
C-6	201	69	27	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				7.5YR5/4にぶい橙色	良好	繊維含む	外　条痕。全体摩滅。 内　条痕。	03群
C-6	201	70	17	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
C-6	201	71	18	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
C-6	201	72	11	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				10YR5/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
C-6	201	73	8	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				7.5YR5/6明褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
C-6	201	74	32	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
C-6	201	76	29	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
C-6	201	77	22	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　押引意匠文内押引文充填。 内　ナデ。	03群
C-6	201	78	38	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　沈線区画文、押引文充填、円形刺突。 内　条痕。	03群
C-6	201	75	28	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　微隆帯区画内沈線充填、円形刺突、ナデ。 内　条痕・ナデ。	03群
C-6	201	79	31	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　隆帯、条痕。 内　条痕。	03群
C-6	201	80	21	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　指頭凹線意匠文、隆帯上刺突、条痕。 内　条痕。	03群
C-6	201	81	30	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				5YR4/4にぶい赤褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
C-6	201	82	24	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
C-6	201	83	23	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
C-6	201	84	39	縄文深鉢　底部	グリッド一括				7.5YR4/6褐色	良好	繊維含む	外　条痕。	03群
C-6	202	85	6	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				7.5YR4/4褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
C-7	202	86	17	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　押引文、沈線・直上・鋸歯状。	03群。撚糸文末葉か？
C-7	202	87	16	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　凹線意匠文、刻み隆帯。 内　条痕。	03群。図横転

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	(外) 色調 (内) 色調	焼成	胎土	特徴	備考
C-7	202	88	14	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				10YR5/6褐色	良好	繊維含む	外　ナデ。 内　ナデ。	03群
C-7	202	89	5	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　沈線区画文内押引文充填。 内　条痕。	03群
C-7	202	90	6	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　刺突文、ナデ。剥離多。 内　ナデ。	03群
C-7	202	91	3	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　沈線区画文内押引文充填。 内　条痕。	03群
C-7	202	92	4	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
C-7	202	93	8	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				10YR3/4暗褐色	良好	繊維含む	外　ヘラナデ意匠文、隆帯上一部刻み、ナデ。 内　ナデ。	03群
C-7	202	94	11	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				7.5YR5/4にぶい褐色	良好	繊維含む	外　刺突文、擦痕。 内　擦痕。	03群
C-7	202	95	9	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				10YR3/3暗褐色 7.5YR4/6褐色	良好	繊維含む	外　条痕。 内　条痕。	03群
C-7	202	96	13	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				10YR5/6褐色	良好	繊維含む	外　隆帯、条痕。 内　条痕。	03群
C-7	202	97	12	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				7.5YR4/6褐色	良好	繊維含む	外　ナデ。 内　ナデ。	03群
C-7	202	98	15	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				7.5YR4/4褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　沈線、ナデ。 内　ナデ。	03群
C-7	202	99	7	縄文深鉢　底部1/5弱	グリッド一括		(7.0)		7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　ナデ。平底 内　ナデ	03群
C-7	202	100	10	縄文深鉢　底部1/3	グリッド一括		(4.6)		7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外　条痕。平底。 内　条痕。	03群
D-7	202	101	6	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				5YR4/6赤褐色	良好	繊維含む	外　口唇刻み、条痕。 内　条痕。	03群
D-7	202	102	5	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				10YR3/4暗褐色	良好	繊維含む	外　擦痕。 内　擦痕。	03群
E-8	202	103	1	弥生甕　胴部	グリッド一括				10YR3/2黒褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　不整方向の細縄文を施す。 内　篦ナデ。	北関東系弥生土器。
I-8	202	104	4	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				7.5YR4/6褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　沈線区画刺突・縄文 RL。	08群
I-8	202	105	3	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				7.5YR4/6褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　沈線区画刺突・縄文 RL。	08群
J-9	202	106	3	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				10YR3/2黒褐色 10YR3/3暗褐色	良好	密	外　口唇折り返し肥厚、口唇内 LR・外 r、胴 r。	01群
J-10	202	107	1	縄文深鉢　口縁部	グリッド一括				10YR4/2灰黄褐色	良好	白色粒目だつ	外　口唇折り返し肥厚、口唇上 LR・外 RL、胴 LR。	01群
J-10	202	108	2	縄文深鉢　胴部	グリッド一括				7.5YR5/6明褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	密	外　LR。	01群

辺田古墳群・御林跡遺跡出土石器等観察表

遺構番号	図番	番号	実測番号	種　別	出土位置	法　量　（推定）cm/g				備考
						長さ（径）	幅（孔）	厚さ（高さ）	重量	
1	21	2	382	管玉	第１主体部内	1.50	0.65	0.60	1.1	碧玉。孔幅４㎜～2.5㎜。
1	34	293	346	礫斧	墳丘盛土内一括	9.60	9.40	3.10	320.0	ホルンフェルス。
1	34	294	347	石核	S59周溝内一括	8.65	5.70	3.70	185.0	ホルンフェルス。旧石器。
1	34	295	370	UF	墳丘盛土内一括	5.90	2.80	1.30	18.5	珪質貢岩。微細な剥離のある剥片。
1	34	296	350	ナイフ形石器	墳丘盛土内一括	3.60	15.00	0.60	2.8	変質流紋岩。
1	34	297	348	石皿	墳丘盛土内一括	10.60	10.80	4.50	600.0	砂岩。
1	34	298	331	礫斧	墳丘盛土内一括	6.20	3.80	1.20	40.0	ホルンフェルス。
1	34	299	349	礫斧	S59周溝内一括	6.30	4.80	2.00	80.0	ホルンフェルス。
1	34	300	333	礫斧	墳丘下層遺構確認面	6.60	4.50	1.30	60.0	砂岩。
1	34	301	332	礫斧	墳丘盛土内一括	7.00	3.70	1.70	60.0	貢岩。
1	34	302	334	礫斧	墳丘盛土内一括	7.50	4.60	1.70	80.0	輝石安山岩。
1	34	303	340	磨石	墳丘下層遺構確認面	6.20	3.45	2.70	75.0	石英斑岩。焼けている。
1	34	304	343	磨石	墳丘盛土内一括	7.40	5.30	2.30	120.0	砂岩。
1	34	305	341	磨石	墳丘下層遺構確認面	6.85	2.90	2.45	70.0	輝石安山岩。
1	35	306	339	磨石	墳丘下層遺構確認面	10.10	5.30	3.45	260.0	石英斑岩。
1	35	307	338	磨石	墳丘下層遺構確認面	6.20	5.20	2.80	130.0	砂岩。
1	35	308	358	軽石	墳丘下盛土開始面	3.15	1.95	1.25	1.3	一方向に磨られる。
1	35	309	361	軽石	墳丘下盛土開始面	2.95	4.00	1.75	2.9	二面がよく磨られている。
1	35	310	351	軽石	墳丘下層遺構確認面	10.20	6.70	3.80	42.2	全面に察痕があり、よく使用されている。
1	35	311	356	軽石	墳丘下盛土開始面	6.50	5.50	6.20	37.6	図示した三面が非常によく磨られている。
1	35	312	357	軽石	墳丘下盛土開始面	5.30	3.40	3.30	15.5	二面が磨られる。
1	35	313	362	軽石	墳丘下盛土開始面	2.10	2.55	0.80	1.0	一面をよく磨る。
1	35	314	360	軽石	墳丘下盛土開始面	2.55	1.30	1.00	0.5	二面が磨られる。
1	35	315	355	軽石	墳丘盛土内一括	4.30	4.30	2.80	11.5	全面磨られる。
1	35	316	375	軽石	墳丘盛土内一括	3.10	2.85	2.00	6.0	
1	35	317	352	軽石	墳丘盛土内一括	8.50	4.70	3.25	20.5	四面に察痕があり、よく使用されている。

※ガラス玉の法量については左から径・孔・高さを表す。

遺構番号	図番	番号	実測番号	種　別	出土位置	法　量　（推定）cm/g				備考
						長さ（径）	幅（孔）	厚さ（高さ）	重量	
1	36	318	354	軽石	墳丘盛土内一括	5.60	4.15	3.30	12.0	全体的によく磨られているが、時に上面の一面は平担になるほどよく磨られている。
1	36	319	359	軽石	墳丘下盛土開始面	1.19	2.00	2.05	3.0	孔が貫通する。
1	36	320	353	軽石	墳丘下層遺構確認面	3.80	3.20	1.80	4.8	右面を磨き使用。
1	36	321	374	軽石	墳頂部一括	1.80	2.15	1.45	1.5	
1	36	322	372	軽石	墳丘盛土内一括	2.20	1.75	1.20	1.4	V字の切り込みが入る。
1	36	323	373	軽石	墳丘盛土内一括	2.10	2.50	1.30	2.6	V字の切り込みが入る。
1	36	324	371	軽石	墳丘盛土内一括	3.50	1.70	2.25	2.7	V字の切り込みが入る。
1	36	325	376	軽石	墳丘盛土内一括	2.70	2.50	1.75	3.6	二ヶ所がよく磨られている。
1	36	326	344	石皿	墳丘盛土内一括	5.40	4.85	4.75	130.0	礫岩。
1	36	327	342	磨製石斧	墳丘盛土内一括	9.10	3.40	2.40	100.0	凝灰岩。
1	36	328	335	磨製石斧	墳丘盛土内一括	3.80	2.10	1.30	20.0	ひん岩。
1	36	329	337	砥石	墳頂部一括	4.15	2.10	2.25	30.0	流紋岩。
1	36	330	330	砥石	S60調査一括	9.40	5.00	4.00	270.0	流紋岩。
1	36	331	336	砥石	墳丘盛土内一括	8.20	2.50	1.80	50.0	流紋岩。
2	42	35	SU3-1	石鏃	盛土内一括	1.60	1.70	0.40	2.0	
2	42	36	K1-11	石鏃	盛土内一括	2.35	1.95	0.50	1.8	チャート。
2	42	37	K1-33	石鏃	盛土内一括	2.10	1.60	0.40	1.2	菫青石ホルンフェルス。
2	42	42	SU1-5	軽石	盛土内一括	5.50	4.10	3.10	15.0	
3	46	8	9	石斧	周溝内一括	10.50	7.20	2.90	260.0	菫青石ホルンフェルス。
3	46	9	10	剥片	周溝内一括	6.00	4.15	1.80	50.0	ホルンフェルス。旧石器。
5	51	39	01-2	石皿	北側周溝内一括	10.55	8.60	3.95	440.0	多孔質安山岩。
5	51	40	SS-1	軽石	南側周溝内一括	25.80	4.20	4.00	25.3	
5	51	41	AE-4	磨製石斧	盛土内一括	3.30	2.60	0.70	15.0	変輝緑岩。
5	51	42	01A-1	磨石	盛土一括	(3.80)	5.00	1.10	40.0	砂岩。
5	52	43	01-1	敲石	北側周溝内一括	9.70	9.25	4.10	597.0	はんれい岩。
5	52	44	01A-2	敲石	盛土表面	10.30	5.50	3.60	300.0	砂岩。磨石。
5	52	45	SU4-8	敲石	墳丘下一括	10.70	9.45	5.25	750.0	砂岩。磨石。

※ガラス玉の法量については左から径・孔・高さを表す。

遺構番号	図番	番号	実測番号	種　別	出土位置	法　量　（推定）cm/g				備考
						長さ（径）	幅（孔）	厚さ（高さ）	重量	
20	65	41	41	打製石斧（分胴形）	覆土一括	7.80	5.50	1.60	90.0	チャート。
21	66	6	61	軽石	覆土一括	10.65	6.20	5.45	62.1	全体的に磨られている。
30	71	9	32	石槍未製品	覆土一括	9.90	3.60	2.10	80.0	流紋岩。旧石器。
32	75	15	35	砥石	覆土一括	6.50	2.30	6.05	125.1	砂岩。
32	75	16	34	軽石	炉内部床上＋6.5cm	10.45	7.90	9.50	183.4	
33	78	29	46	砥石	覆土一括	8.15	3.60	3.60	100.0	流紋岩。
33	78	30	44	軽石	覆土一括	7.60	9.50	8.15	58.9	よく磨られる。
33	78	31	45	軽石	覆土一括	5.50	2.15	3.95	5.8	
35	79	8	14	太形蛤刃石斧	南壁際床面	9.00	4.25	3.60	180.0	はんれい岩。
39	80	6	33	軽石	覆土一括	7.10	5.00	4.30	29.1	殆ど全面よく磨られている。
39	80	7	34	軽石	覆土一括	4.80	4.65	4.00	10.9	よく磨られている。
54	90	1	9	石皿	覆土一括	4.75	4.30	5.00	130.0	多孔質安山岩。大半を欠存。
54	90	2	8	敲石	覆土一括	7.30	5.70	4.50	280.0	砂岩。
60	93	2	36	石皿	覆土一括	6.00	6.20	7.20	240.0	輝石安山岩。
60	93	3	35	磨石	北西隅床上＋7.9cm	6.60	8.60	3.65	300.0	石英斑岩。
63	98	10	5	軽石	覆土一括	5.40	4.65	6.05	20.7	トーン範囲がよく磨られている。
68	100	5	6	有孔円盤	覆土一括	最長径 3.60	0.60	2.90	10.0	緑色片岩。カッ石製　孔１～1.5㎜の二孔。
72	102	12	8	砥石	覆土一括	5.20	4.80	1.90	75.0	砂岩。
80	107	16	18	軽石	覆土一括	7.05	7.05	4.20	25.9	
80	107	17	19	磨製石斧	P13周辺床直＋3.8cm	10.00	6.10	1.90	220.0	砂岩。
81	107	25	24	軽石	覆土一括	9.00	5.40	5.80	40.0	よく磨り込まれている。
82	110	19	21	石刃素材	覆土一括	3.95	4.10	1.25	25.0	黒曜石。スクレーパー気味に二次加工されている。
82	110	20	20	礫器（礫斧）	覆土一括	6.50	4.00	1.60	55.0	ホルンフェルス。
98	115	6	6	軽石	覆土一括	3.40	3.10	2.30	0.4	両端にＶ字の切り込みが入る。
105	119	4	1	有孔円盤	カマド内火床脇＋6.6cm	3.80	2.30	0.30	5.7	滑石。径１～２㎜の有孔。
114	123	11	11	磨石	覆土一括	9.60	6.90	4.20	390.0	石英斑岩。凹石。
119	127	48	48	砥石	間仕切り溝周辺床直＋0.8cm	5.80	2.80	1.60	40.0	流紋岩。四面よく磨られている。

※ガラス玉の法量については左から径・孔・高さを表す。

遺構番号	図番	番号	実測番号	種　別	出土位置	法　量　（推定）cm/g				備考
						長さ（径）	幅（孔）	厚さ（高さ）	重量	
119	127	49	47	磨石	覆土一括	7.60	3.50	2.00	75.0	凝灰質砂岩。
120	129	16	15	軽石	覆土一括	5.40	3.95	4.70	14.7	磨られている。
121	130	14	17	礫斧	覆土一括	4.75	3.75	0.995	15.0	ホルンフェルス。
121	130	15	4	スクレーパー	覆土一括	2.75	2.25	0.40	5.0	貢岩。
123	130	4	3	有孔円盤	覆土一括	3.30	2.60	1.60	10.0	凝灰岩。5YR5/6明赤褐色
128	134	18	19	軽石	覆土一括	4.60	3.25	2.50	12.4	よく磨られている。
131	135	22	21	軽石	覆土一括	3.05	1.80	1.50	2.6	
131	135	23	2	軽石	覆土一括	6.05	4.55	最大　2.50	20.0	３ヶ所に円形の凹、薄さ６～８㎜程度。
131	135	24	22	石鏃	覆土一括	(2.5)	1.90	0.50	1.4	ホルンフェルス。先端部欠存。
137	139	24	34	礫斧	覆土一括	12.50	6.10	2.90	320.0	凝灰質砂岩。
138	139	6	9	軽石	覆土一括	5.40	5.30	3.10	20.1	
149	146	22	23	敲石	覆土一括	9.70	7.50	2.50	540.0	石英斑岩。磨石としても使用されている。
149	146	23	22	石鏃	覆土一括	3.20	1.80	0.40	2.0	黒曜石。
155	150	9	9	石槍	覆土一括	8.70	3.60	1.10	35.0	ホルンフェルス。
163	156	40	45	石皿	覆土一括	9.00	7.70	5.00	240.0	流紋岩。
164	157	1	1	石皿	覆土一括	7.10	6.90	4.40	150.0	流紋岩。
169	158	11	11	石皿？ー磨石	覆土一括	4.20	3.15	2.15	30.0	流紋岩。２～３度磨られる。
172	161	14	14	石鏃　未成品？	覆土一括	2.80	1.70	0.90	3.8	流紋岩。先端部は薄く調整されているが、中央部は比較的厚く、剥離も細かくなってる事から未成品と考える。
184	171	83	86	軽石	覆土一括	6.20	2.70	2.50	17.9	
184	171	84	87	軽石	覆土一括	4.40	3.30	2.40	4.4	
184	171	85	91	軽石	覆土一括	3.65	2.60	2.50	8.0	
184	171	86	90	軽石	覆土一括	3.70	3.00	2.80	7.4	
184	171	87	88	軽石	覆土一括	4.30	3.20	2.10	6.0	
184	171	88	89	軽石	覆土一括	1.90	2.90	1.40	1.2	
184	171	89	85	石斧	炉周辺床上＋71.6cm	8.80	5.50	1.80	118.0	輝石安山岩。
185	172	10	14	ガラス玉	遺構中央部床上＋1.6cm	0.50	0.20	0.58	0.2480	濃紺色。
185	172	11	15	ガラス玉	遺構中央部床上＋1.7cm	0.50	0.17	0.50	0.1810	濃紺色。

※ガラス玉の法量については左から径・孔・高さを表す。

遺構番号	図番	番号	実測番号	種　別	出土位置	法　量　（推定）cm/g				備考
						長さ（径）	幅（孔）	厚さ（高さ）	重量	
185	172	12	16	ガラス玉	覆土一括	0.30	0.07	0.26	0.0339	コバルトブルー。
185	172	13	29	ガラス玉	覆土一括	0.30	0.10～0.13	0.17	0.0196	コバルトブルー。
185	172	14	33	ガラス玉	覆土一括	0.24	0.05～0.10	0.23	0.0285	暗いうぐいす色。
185	172	15	25	ガラス玉	覆土一括	0.42	0.15	0.45	0.1155	濃紺色。
185	172	16	24	ガラス玉	覆土一括	0.59	0.20～0.25	0.45	0.1873	濃紺色。
185	172	17	19	ガラス玉	覆土一括	0.34	0.13～0.20	0.33	0.0392	スカイブルー。
185	172	18	27	ガラス玉	覆土一括	0.44	0.15	0.20	0.0566	濃紺色。
185	172	19	22	ガラス玉	覆土一括	0.58	0.14～0.20	0.38	0.1555	コバルトブルー。
185	172	20	23	ガラス玉	覆土一括	0.49	0.09～0.15	0.30	0.1320	濃紺色。
185	172	21	21	ガラス玉	覆土一括	0.51	0.15	0.49	0.1706	やや淡うぐいす色。
185	172	22	26	ガラス玉	覆土一括	0.53	0.16～0.20	0.30	0.0897	濃紺色。
185	172	23	20	ガラス玉	覆土一括	0.40	0.15	0.29	0.0552	淡うぐいす色。
185	172	24	30	ガラス玉	覆土一括	0.32	0.10	0.20	0.0283	コバルトブルー。
185	172	25	31	ガラス玉	覆土一括	0.40	0.09～0.12	0.18	0.0368	コバルトブルー。
185	172	26	18	ガラス玉	覆土一括	0.33	0.09～0.15	0.20	0.0264	スカイブルー。
185	172	27	34	ガラス玉	覆土一括	0.30	0.08～0.10	0.27	0.0228	コバルトブルー。
185	172	28	28	ガラス玉	覆土一括	0.24	0.10	0.27	0.0251	コバルトブルー。
185	172	29	17	ガラス玉	覆土一括	0.30	0.08～0.10	0.29	0.0297	淡水色。
185	172	30	32	ガラス玉	覆土一括	0.31	0.06～0.10	0.30	0.0362	紺色。
185	172	31	35	ガラス玉	覆土一括	0.39	0.15～0.18	0.35	0.0372 (0.0589)	淡水色。
186	172	19	20	軽石	覆土一括	4.30	3.70	2.90	9.5	
186	172	20	19	軽石	覆土一括	5.60	3.20	2.70	5.2	
189	174	1	7	勾玉	墓壙底面＋1.7cm	2.10	0.84	0.70	2.2	滑石　孔径0.43cm～0.25cm。
189	174	2	25	ガラス玉	覆土一括	0.30	0.11	0.21	0.0260	スカイブルー。
189	174	3	26	ガラス玉	覆土一括	0.28	0.07	0.27	0.0295	スカイブルー。
189	174	4	27	ガラス玉	覆土一括	0.31	0.08	0.23	0.0347	スカイブルー。
189	174	5	15	ガラス玉	覆土一括	0.50	0.20	0.40	0.1084	濃紺色。

※ガラス玉の法量については左から径・孔・高さを表す。

遺構番号	図番	番号	実測番号	種　別	出土位置	法　量　（推定）cm/g				備考
						長さ（径）	幅（孔）	厚さ（高さ）	重量	
189	174	6	23	ガラス玉	覆土一括	0.34	0.10	(0.31)	0.0274	淡水色。
189	174	7	17	ガラス玉	覆土一括	0.35	0.10～0.14	0.23	0.0338	淡水色。
189	174	8	10	ガラス玉	覆土一括	0.32	0.10～0.12	0.18	0.0231	淡水色。
189	174	9	16	ガラス玉	覆土一括	0.43	0.18	0.28	0.0565	濃紺色。
189	174	10	19	ガラス玉	覆土一括	0.40	0.12	3.35	0.0829	紺色。
189	174	11	13	ガラス玉	覆土一括	0.50	0.10～0.15	0.26	0.0919	濃紺色。
189	174	12	20	ガラス玉	覆土一括	0.33	0.11	0.23	0.0363	淡水色。
189	174	13	11	ガラス玉	覆土一括	0.25	0.10	0.22	0.0214	淡水色。
189	174	14	22	ガラス玉	覆土一括	0.26	0.08	0.21	0.0181	スカイブルー。
189	174	15	24	ガラス玉	覆土一括	0.49	0.16	0.35	0.0791	濃紺色。
189	174	16	14	ガラス玉	覆土一括	0.58	0.11～0.25	0.45	0.1595	濃紺色。
189	174	17	9	ガラス玉	覆土一括	0.52	0.25	0.46	0.1486	濃紺色。
189	174	18	12	ガラス玉	覆土一括	0.50	0.20	0.36	0.1352	濃紺色。
189	174	19	8	ガラス玉	覆土一括	0.70	0.28～0.34	0.35	0.1357	濃紺色。
189	174	20	18	ガラス玉	覆土一括	0.36	0.12	0.29	0.0504	淡水色。
189	174	21	21	ガラス玉	覆土一括	0.27	0.07	0.22	0.0204	やや淡うぐいす色。
189	175	62	13	焼割磨石	覆土一括	7.00	8.30	4.30	350.0	砂岩。
189	175	63	6	軽石	覆土一括	2.30	1.55	2.10	1.7	V字の切り込みが入る。粘土1㎜以上。
193	178	41	47	軽石	覆土一括	2.10	2.20	2.00	2.3	
193	178	42	48	磨石	覆土一括	5.75	5.40	3.30	140.0	石英斑岩。二次加熱を受け表面が焼けている。
193	178	43	45	敲石	覆土一括	5.15	6.00	4.05	180.0	菫青石ホルンフェルス。
193	178	44	49	磨石	覆土一括	6.00	3.90	1.40	39.2	砂岩。
193	179	45	46	石皿	P1周辺床直上 ＋4.9cm	5.90	6.95	4.40	80.0	流紋岩。
193	179	46	50	石鏃	覆土一括	1.70	1.80	0.50	1.1	チャート。
193	179	47	44	敲石	覆土一括	9.50	3.80	2.70	160.0	安山岩。
197	182	17	19	敲石（たたき台）	覆土一括	8.50	6.90	3.80	370.0	砂岩。凹石。
199	185	6	34	管玉	木棺内	0.93	0.20～0.28	1.33	1.9	碧玉。10Y3/2オリーブ黒色

※ガラス玉の法量については左から径・孔・高さを表す。

遺構番号	図番	番号	実測番号	種　別	出土位置	法　量　（推定）cm/g				備考
						長さ（径）	幅（孔）	厚さ（高さ）	重量	
199	185	7	32	ガラス玉	木棺内	0.27	0.08～0.10	0.30	0.0250	スカイブルー。
199	185	8	33	ガラス玉	木棺内	0.35	0.14～0.18	0.26	0.0226	うぐいす色。
199	185	9	35	ガラス玉	木棺内	0.31	0.12～0.10	0.19	0.0216	スカイブルー。
199	185	10	36	ガラス玉	木棺内	0.30	0.12～0.10	0.22	0.0212	スカイブルー。
199	185	11	37	ガラス玉	木棺内	0.32	0.06～0.11	0.28	0.0348	淡水色。
199	185	12	38	ガラス玉	木棺内	0.28	0.10～0.09	0.27	0.0267	淡うぐいす色。
199	185	13	39	ガラス玉	木棺内	0.29	0.10	0.29	0.0291	淡水色。
199	185	14	40	ガラス玉	木棺内	0.30	0.05～0.10	0.21	0.0205	淡うぐいす色。
199	185	15	41	ガラス玉	木棺内	0.39	0.12	0.25	0.0454	淡水色。
199	185	16	42	ガラス玉	木棺内	0.33	0.10～0.12	0.17	0.0239	淡水色。
199	185	17	45	ガラス玉	覆土一括	0.28	0.10	0.21	0.0220	淡水色。
199	185	18	44	ガラス玉	覆土一括	0.29	0.12～0.15	0.21	0.0199	淡水色。
199	185	19	46	ガラス玉	覆土一括	0.31	0.12	0.20	0.0221	淡水色。
199	185	20	43	ガラス玉	覆土一括	0.36	0.10	0.25	0.0215	スカイブルー。
201	187	27	30	石剣	覆土一括	6.50	3.20	1.70	40.0	安山岩。
202	188	13	14	磨石	覆土一括	8.70	5.70	3.50	260.0	石英斑岩。一部に弱い打痕がある。二次加熱を受ける。
202	188	14	13	磨石	覆土一括	8.20	3.50	3.40	110.0	玄武岩質輝石安山岩。
204	189	6	6	軽石	覆土一括	4.45	5.80	2.90	9.7	
205	189	11	11	打斧	覆土一括	7.50	5.45	1.15	50.0	ホルンフェルス。
205	190	12	12	軽石	P１周辺床直＋３cm	8.00	5.90	3.15	31.4	直径１cm大の凹箇所９ヶ所あり。表裏に線刻状の沈線がある。
205	190	13	14	礫斧	覆土一括	8.00	4.40	1.20	80.0	玄武岩。
206	192	6	11	ガラス玉	木棺内	0.32	0.10	0.27	0.0329	うぐいす色。
206	192	7	12	ガラス玉	木棺内	0.28	0.10	0.23	0.0170	淡水色。
206	192	8	13	ガラス玉	木棺内	0.42	0.15	0.26	0.0468	淡うぐいす色。
206	192	9	14	ガラス玉	木棺内	0.29	0.10	0.19	0.0163	スカイブルー。
206	192	10	15	ガラス玉	木棺内	0.31	0.10	0.20	0.0233	淡水色。
206	192	11	16	ガラス玉	木棺内	0.38	0.12～0.14	0.28	0.0504	濃紺色。

※ガラス玉の法量については左から径・孔・高さを表す。

遺構番号	図番	番号	実測番号	種　別	出土位置	法　量　（推定）cm／g				備考
						長さ（径）	幅（孔）	厚さ（高さ）	重量	
206	192	12	17	ガラス玉	木棺内	0.28	0.10	0.20	0.0196	スカイブルー。
206	192	13	18	ガラス玉	木棺内	0.29	0.08～0.12	0.16	0.0148	水色。
206	192	14	19	管玉	木棺内	0.27	0.09～0.12	0.73	0.0697	10Y４／２オリーブ灰色。
206	192	15	20	ガラス玉	木棺内	0.38	0.05～0.11	0.30	0.0513	淡うぐいす色。
206	192	16	21	ガラス玉	木棺内	0.43	0.13	0.34	0.0649	淡うぐいす色。
206	192	17	22	ガラス玉	木棺内	0.39	0.12	0.27	0.0470	淡うぐいす色。
206	192	18	23	ガラス玉	木棺内	0.43	0.13	0.25	0.0576	淡うぐいす色。
206	192	19	24	ガラス玉	木棺内	0.29	0.8～0.10	0.23	0.0234	スカイブルー。
206	192	20	25	ガラス玉	木棺内	0.36	0.10	0.36	0.0579	濃水色。
206	192	21	26	ガラス玉	木棺内	0.40	0.10	0.29	0.0475	濃水色。
206	192	22	27	ガラス玉	木棺内	0.26	0.10	0.20	0.0113	淡うぐいす色。
206	192	23	28	ガラス玉	木棺内	0.35	0.10	0.25	0.0438	10GY 暗緑灰色（暗うぐいす色）
206	192	24	29	ガラス玉	木棺内	0.35	0.10	0.20	0.0273	濃紺。
206	192	25	30	ガラス玉	木棺内	0.44	0.15～0.10	0.21	0.0490	淡うぐいす色。
206	192	26	31	ガラス玉	木棺内	0.31	0.08～0.14	0.14	0.0152	うぐいす色に近いコバルトブルー。
206	192	27	32	ガラス玉	覆土一括	0.44	0.10～0.12	0.29	0.0658	淡うぐいす色。
206	192	28	33	ガラス玉	覆土一括	0.26	0.06	0.16	0.0127	淡水色。
206	192	29	34	ガラス玉	覆土一括	0.30	0.05～0.09	0.22	0.0214	スカイブルー。
206	192	30	35	ガラス玉	覆土一括	0.35	0.11	0.16	0.0169	淡水色　正面の位置を変更する。
206	192	31	36	ガラス玉	覆土一括	0.28	0.10	0.25	0.0261	青色。
206	192	32	37	ガラス玉	覆土一括	0.30	0.08～0.12	0.26	0.0271	淡水色。
206	192	33	38	ガラス玉	覆土一括	0.40	0.10～0.14	0.27	0.0428	やや暗いうぐいす色。
206	192	34	39	ガラス玉	覆土一括	0.41	0.10～0.12	0.21	0.0399	淡うぐいす色。
206	192	35	40	ガラス玉	覆土一括	0.38	0.10	0.25	0.0546	淡うぐいす色。
206	192	36	41	ガラス玉	覆土一括	0.41	0.15～0.12	0.28	0.0546	濃紺。
206	192	37	42	ガラス玉	覆土一括	0.38	0.11	0.25	0.0553	濃紺色。
206	192	38	43	ガラス玉	覆土一括	0.28	0.10	0.16	0.0135	スカイブルー。

※ガラス玉の法量については左から径・孔・高さを表す。

遺構番号	図番	番号	実測番号	種　別	出土位置	法　量　（推定）cm/g				備考
						長さ（径）	幅（孔）	厚さ（高さ）	重量	
206	192	39	44	ガラス玉	覆土一括	0.29	0.11	0.20	0.0212	スカイブルー。
206	192	40	45	ガラス玉	覆土一括	0.33	0.07	0.33	0.0425	スカイブルー。
206	192	41	46	ガラス玉	覆土一括	0.38	0.11	0.24	0.0463	淡うぐいす色。
206	192	45	4	軽石	覆土一括	径　1.70	孔　0.20	厚み 0.90	1.1	孔径２㎜の貫通孔がある。
211	195	32	12	軽石	覆土一括	4.65	2.85	2.45	5.1	
211	195	33	32	石剣	覆土一括	13.40	3.85	2.25	150.0	ホルンフェルス。
215	197	34	34	石皿	覆土一括	5.40	5.00	3.10	80.0	流紋岩。
B-6	203	109	HB-24	砥石	グリッド一括	6.75	3.25	2.75	60.0	ひん岩。
B-6	203	110	HB-25	礫斧	グリッド一括	7.65	4.70	1.75	90.0	ホルンフェルス。三方向を使用している。
B-6	203	111	HB-26	砥石	グリッド一括	9.65	3.25	2.25	95.0	流紋岩。
C-6	203	112	HC-1	砥石トーン	グリッド一括	6.20	4.10	3.10	65.0	流紋岩。五面が使用されている。
C-6	203	113	HC-40	ナイフ形石器	グリッド一括	5.30	2.30	0.80	5.7	チャート。旧石器。
C-7	203	114	GC-20	UF	グリッド一括	6.30	3.60	1.00	27.0	チャート。微細な剥離のある剥片。旧石器。
C-7	203	115	GC-19	UF	グリッド一括	3.80	3.10	1.20	13.0	チャート。微細な剥離のある剥片。旧石器。
C-7	203	116	GC-21	石鏃	グリッド一括	2.90	1.60	0.80	2.9	黒色緻密質安山岩。
C-7	204	117	GC-18	板碑	グリッド一括	37.00	21.30	最大3.20	3800.0	緑色片岩。彫刻　連弁文が刻まれている。
D-7	204	118	GD-7	石皿（転用凹石）	グリッド一括	10.60	9.00	4.40	595.0	輝石安山岩。
D-7	204	119	GD-1	石鏃	グリッド一括	3.80	(2.00)	0.50	1.5	チャート。
F-8	204	120	B3-12	石核	グリッド一括	4.30	3.50	1.50	24.9	ホルンフェルス。ロームがこびり付く。
J-9	204	121	EJ-2	磨製石斧	グリッド一括	6.20	3.55	2.20	80.0	菫青石ホルンフェルス。
J-9	204	122	EJ-1	磨石	グリッド一括	8.50	4.70	1.90	120.0	石英斑岩。打痕がなく、磨り専門に使用される。
J-10	204	123	DJ-3	礫器（礫斧）	グリッド一括	5.80	3.60	1.20	30.0	砂岩。
一括	204	124	GW-1	敲石	グリッド一括	8.30	3.00	2.10	100.0	砂岩。

※ガラス玉の法量については左から径・孔・高さを表す。

辺田古墳群・御林跡遺跡出土金属器等観察表

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量 cm/g 長さ（径）	最大幅	最大厚	重量	備考
1	21	1	381	小型素文鏡	棺底中央部	全幅2.85　A径（左右）2.65 B径（上下）2.85	鈕孔幅1.1	鈕高さ0.45	4.6	素縁返り１㎜強。鏡面は錆が生じていない範囲は、よく光沢が残ってしっかりしている。縦長の鈕座に径１㎜程の孔が貫通する。
1	21	3	383	素環頭大刀 完形	棺底中央部 右側	全長83.4・刃長64.3 茎長20.0（環頭部含）	刃幅3.3	茎幅1.5	479.5	環頭部幅4.5cm・高さ6.3cm　無関。
1	21	4	384	大刀完形	棺底中央部 左側	全長63.3以上・刃長56.6 茎長6.7以上	刃部幅2.6茎幅2.2～1.4	刃部0.55茎部0.4～0.5	379.1 （６も含む）	平棟平造り。片関。目釘穴２ケ所以上径２㎜～３㎜が貫通する。
1	21	5	385	槍	棺底中央部 右側	全長22.4・刃部19.0・茎長3.4	刃幅2.55茎幅1.2	茎部0.4	54.7	目釘穴不明。木柄の内側に紐を巻いた可能性がある。
1	21	6	386	鉄剣　完形	棺底中央部 左側	全長36.8・刃長29.1・茎長7.7	刃部2.6	茎幅1.5	（４に含む）	鏑造り。両関。目釘穴１ケ所径２㎜が貫通する。
1	21	7	387	鉇	棺底中央部 左側	全長17.4・刃部2.5・茎長14.9	刃部1.25茎幅1.1	茎部0.5	15.7	
1	21	8	388	鉄剣　完形	棺底中央部 右側	全長29.9・刃長25.4・茎長4.5	刃部3.2	茎幅1.6	129.5	鏑造り。両関。目釘穴１ケ所径2.5㎜が貫通する。
1	29	169	377	長頸鏃	墳丘内一括	残長5.0	頸部0.8茎部0.4	頸部0.6茎部0.3	8.1	鏃身部不明。台関。頸部及び茎部断面方形。
1	30	170	378	鉄製品	墳丘内一括	残長7.0以上	2.5	0.2	16.8	用途不明。中央やや右よりに、幅３㎜の円孔を穿つが、対になる位置に孔は左右しない。
1	30	171	379	金製品	墳丘内一括	残長6.0	3.3	0.2	22.8	用途不明。すべて面が生きている。
2	42	38	10	青銅製キセル	盛土内一括	径1.4		1.0	3.1	中央に５㎜の孔をもつ。
3	46	10	8	銅釧片 or 小銅環	周溝内一括		0.9	0.15	0.3	
5	51	36	AE-5	鉇	盛土内一括	全長6.90以上・刃部1.90 頸部5.0	刃部0.9頸部0.7	刃部0.25頸部0.36	7.3	鏑及び刃部と茎の境界は、不明瞭。茎？の内弯する形状は、使用時の形状を示すものではないとみられる。後の変形か？
60	93	1	37	三角型長頸鏃	覆土一括	全長15.0・刃部2.40・頸部10.25 茎部2.35	刃部1.6頸部0.7茎部0.5	刃部0.3頸部0.4茎部0.35	15.3	A型式第Ⅳ形式第２型式Ⅸ期。刃部片丸造り。頸部・茎部断面長方形。頸部関部台形関。
69	100	4	4	長三角型長頸鏃	覆土一括	全長14.7・刃部3.70・頸部8.30 茎部2.70	刃部1.1頸部0.6茎部0.6	刃部0.2頸部0.35茎部0.2	14.0	B型式第Ⅳ形式第３型式１類（両丸造り）Ｘ期。刃部両丸造り。頸部断面長方形・茎部長方形。鏃身関部角関・頸部関部棘関。
69	100	5	7-5	鉄鏃（茎部）	覆土一括	茎部残長2.9以上	茎部0.55	茎部0.30	2.9	
69	100	6	7-6	鉄鏃（茎部）	覆土一括	茎部残長3.4以上	茎部0.48	茎部0.40	4.1	
69	100	7	6-1	鉄鏃　鏃身・茎部欠損	覆土一括	頸部残長5.25以上	頸部0.45	頸部0.28	37.6 （７の合計重量）	錆により数個体が付着している。Ｘ線撮影の結果をみても詳細は不明瞭である。肉眼観察では計８本の個体が確認出来るが、依存部は鏃身と頸部の一部であるとみられる。
69	100	7	6-2	鉄鏃　鏃身・茎部欠損	覆土一括	頸部残長1.7以上	頸部0.48	頸部0.35	〃	
69	100	7	6-3	鉄鏃　刃部・頸部残存	覆土一括	鏃身部1.5・頸部51.7以上	頸部0.47	頸部0.37	〃	片刃鏃。
69	100	7	6-4	鉄鏃　鏃身・茎部欠損	覆土一括	頸部残長6.4以上	頸部0.46	頸部0.36	〃	
69	100	7	6-5	鉄鏃　鏃身・茎部欠損	覆土一括	頸部残長4.5以上	頸部0.49	頸部0.38	〃	
69	100	7	6-6	鉄鏃　鏃身・茎部欠損	覆土一括	頸部残長4.07以上	頸部0.46	頸部0.37	〃	
69	100	7	6-7	鉄鏃　鏃身・茎部欠損	覆土一括	頸部残長6.0以上	頸部0.52	頸部0.38	〃	
69	100	7	6-8	鉄鏃　刃部・頸部残存	覆土一括	鏃身部2.0以上・頸部3.3以上	刃部0.49	刃部0.34	〃	片刃鏃。
69	100	8	7-1	長頸鏃頸部	覆土一括	残長24.8	刃部0.80頸部0.42	刃部0.22頸部0.31	15.4 （８の合計重量）	先端を欠損している。

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量 cm/g				備考
						長さ（径）	最大幅	最大厚	重量	
69	100	8	7-2	鉄鏃 刃部・頸部残存	覆土一括	頸部残長4.65以上	頸部0.48	頸部0.30	〃	刃部～頸部の一部。
69	100	8	7-3	鉄鏃 鏃身・茎部欠損	覆土一括	頸部残長2.71以上	頸部0.4	頸部0.33	〃	頸部？
69	100	8	7-4	鉄鏃 鏃身・茎部欠損	覆土一括	頸部残長5.50以上	頸部0.44	頸部0.36	〃	頸部。
69	100	9	9	鉄鏃 鏃身部欠損	覆土一括	残長10.5以上・頸部4.4・茎部6.1	頸部0.43関幅0.6	頸部0.37	9.5	関部の形状は錆で不明瞭だが、棘関と考えるには、幅が狭いように思われる。
69	100	10	4	鉄鏃	覆土一括	残長4.30以上・頸部0.70以上 茎部3.60	頸部0.51茎部0.7	頸部0.41	3.9	頸部関部棘関？
69	100	11	10	鉄鏃	覆土一括	茎部残長3.8以上	関幅0.79茎部0.75		3.9	茎部の一部のみの遺存。木質遺存。 9 と接合するか不確定。
69	100	12	5	鉄鏃（茎部）	覆土一括	残長3.70以上	茎部0.4	茎部0.4	2.1	茎部樹皮・木質遺存。 7 と接合する。
69	100	13	8	釘？	覆土一括	残長7.1以上	0.5～最大1.04	0.41	7.4	木質遺存部分の形状は不明。釘としたが遺存する木質の木目方向が気になる。
115	124	1	9	元豊通宝（篆）	覆土一括	直径2.6cm・孔径0.7cm			1.4	材質銅。北宋1078年以降。
137	139	28	32	青銅製キセル	覆土一括	長さ6.2	幅1.1～0.35	厚さ0.1	4.8	
157	151	1	1	方形鉄板	覆土一括	残存長3.10	2.6	2.2	9.1	用途不明。コーナーの一角が0.9cm程鉄状に突出する。
163	155	10	46	帯状円環型銅釧 片 1/12	覆土一括	外径（6.15） 内径（5.75）	0.95	0.15強	1.1	
187	173	6	4	帯状円環型銅釧 片	東側溝底面＋23.3cm	外径（6.2） 内径（5.8）	1.15	0.2	2.0	
196	182	6	6	小銅環	覆土一括	外径1.4 内径1.15	最大幅0.2	最大高0.8	0.7	青銅製指輪
199	184	1	31-E	帯状円環型銅釧 1/2残	木棺内	A径（左右）外5.6 内5.2 B径（上下）外5.7 内5.3	0.9	0.1～0.2	5.8	大きく７分割を復元。下端の1/2はほぼ全欠（復元）内面不明 外面面取り。A～A'断面部分のみ両端部残存。
199	184	2	30-D	帯状円環型銅釧 ほぼ完形	木棺内	A径（左右）外5.8 内5.4 B径（上下）外5.6 内5.3	0.8～0.9	0.2	9.3	鋳造品。継ぎ目、切れ目なし。全体の1/6程の下端の1/2弱を復元。
199	184	3	29-C	帯状円環型銅釧 ほぼ完形	木棺内	A径（左右）外5.7 内5.4 B径（上下）外5.6 内5.3	0.8	0.15強	8.8	鋳造品。継ぎ目、切れ目なし。内外面に面をもつ。
199	184	4	28-B	帯状円環型銅釧 ほぼ完形	木棺内	A径（左右）外5.9 内5.45 B径（上下）外5.35 内5.0	0.9	0.2	9.5	鋳造品。内外面に面をもつ。
199	184	5	27-A	帯状円環型銅釧 2/3残	木棺内	A径（左右）外5.6 内5.35 B径（上下）外5.7 内5.35	幅1.0	厚さ0.1～0.15	9.7	大きく３分割を接合。復元箇所1/5程。内面に面取り、外面も面取り痕あり。
206	191	1	8B-3	帯状円環型銅釧 ほぼ完形	木棺内	A径（左右）外6.0 内5.8 B径（上下）外5.8 内5.45	1.0～0.9	0.1～0.15	5.8	
206	191	2	10B-5	帯状円環型銅釧	木棺内	A径（左右）外5.9 内6.0 B径（上下）外5.4 内5.6	1.0		9.4	接地面の磨耗激しい。
206	191	3	7B-2	帯状円環型銅釧	木棺内	A径（左右）外6.0 内5.6 B径（上下）外5.8 内5.2	1.0		9.6	
206	191	4	6B-1	帯状円環型銅釧	木棺内	A径（左右）外5.8 B径（上下）内5.4	1.0		10.2	
206	191	5	9B-4	帯状円環型銅釧	木棺内	A径（左右）外5.9 内5.8 B径（上下）外5.6 内5.4	1.0～0.9	0.1	9.4	接地面の磨耗特に激しい。
B-6	204	125	27	寛永通宝(古銭)	グリッド一括	直径2.4cm・孔径0.6cm			4.1	
I-8	204	126	5	文久通宝(古銭)	グリッド一括	直径2.6cm・孔径0.7cm			2.9	

辺田古墳群・御林跡遺跡出土土製品観察表

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm/g 径	孔	高さ	重量	(外) 色調 (内) 色調	胎土	焼成	特徴	備考
1	30	172	364	土製円盤	墳丘盛土内一括	7.3	1.0	1.3	85.0	7.5YR4/6褐色	密	良好	外　篦ナデ。	よく篦ナデされており、一部に光沢をはなす。
1	30	173	363	土玉完形	墳丘盛土内一括	3.0	0.65	3.0	30.0	10YR5/6黄褐色	密	良好		
1	30	174	368	土玉完形	墳丘下層遺構確認面				90.0	5YR4/3にぶい赤褐色	密	良好		
1	30	175	367	土玉1/4欠	墳丘盛土内一括				36.0	10YR4/6褐色	密	良好		
1	30	176	369	土玉1/4欠	墳丘盛土内一括				42.0	7.5YR6//6橙色	密	良好		
1	30	177	365	管状土錘	墳丘盛土内一括	3.4	1.6～0.7	4.1	28.0	2.5YR5/8明赤褐色	密	やや不良（粉っぽい）		
1	30	178	345	土玉	墳丘下層遺構確認面	2.5	0.5～0.7	3.6	10.0	5YR2/1黒色	密	良好		
1	30	179	366	埴輪	墳丘盛土内一括				31.0	5YR5/6明褐色	密	良好	外　ハケ。内　タケ貼り付け。	タガの幅1.3cm　高さ0.5cm
1	30	180	326	支脚 1/3欠	S59周構内一括	8.9		11.2	335	7.5YR4/4褐色	微砂粒多	良好	外　指ナデ。内　指ナデ。	上部欠存するが、エボシ形を呈するものと推定される。
1	33	290	328	平瓦	墳丘盛土内一括			1.9	105.0	7.5YR5/4にぶい褐色	密	良好		酸化炎焼成
1	33	291	327	平瓦	墳丘盛土内一括			2.05	58.0	7.5YR4/6褐色	密	良好		酸化炎焼成
1	33	292	329	平瓦	墳丘盛土内一括			1.7	60.0	5Y6/2灰オリーブ色	密	良好		環元炎焼成
2	42	32	8	土玉完形	周溝内一括	3.7	1.2～0.6	3.4	45.0	10YR5/4にぶい黄褐色	密	良好		
2	42	33	7	土玉完形	盛土内一括	3.0	1.3～0.5	2.8	25.0	10YR5/4にぶい黄褐色	密	良好		
2	42	34	9	土玉1/2欠	盛土内一括	3.0		3.2	20.0	10YR5/4にぶい黄褐色	密	良好		
2	42	39	29	平瓦	盛土内一括			300.0	300.0	10YR4/1褐灰色	密	良好	凹面布目。凸面縄目タタキ。	右側面残。
2	42	40	30	平瓦	盛土内一括			90.0	90.0	2.5Y6/3にぶい黄褐色	密	良好	凹面布目。凸面太目の縄目文タタキ。	
2	42	41	31	平瓦	盛土内一括			100.0	100.0	10YR6/2灰黄褐色	密	良好	玉縁部残長。筒部。	
3	46	7	7	支脚	北側周溝内底面＋19cm	10.5			545.0	7.5YR6/4にぶい橙色	密	良好	外　指ナデ。	先端部欠。
4	46	11	H4-30	管状土錘	南側周溝内底面＋15.2cm	3.7	1.4～1.0	5.2	70.0	10YR5/4にぶい黄褐色	2.5Y5/2暗灰黄色	良好		
5	51	37	AF-4	管状土錘	西側墳丘下内底面＋59.4cm	3.9	1.0～0.7	3.0	40.0	10YR4/2灰黄褐色	密	良好		
5	51	38	WS-5	土玉	西側周構内底面－59.4cm	4.4	0.7～0.8	3.7	60.0	10YR6/3にぶい黄橙色	密	良好		
6	53	10	9	平瓦	覆土一括				120.0	2.5Y5/2暗灰黄色	密	良好	凹面布目。	右側面残。
14	60	7	36	支脚	覆土一括	残存長 8.3	最大幅 5.95	厚さ 5.9	220.0	10YR5/2灰黄褐色		不良	手づくね。	
17	61	7	17	支脚底部欠	P２周辺床直上＋3.8cm	残存長 (7.4)	最大幅 6.35	厚さ 5.45	117.5	7.5YR4/4褐色	密	良好	手づくね。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm/g 径	孔	高さ	重量	(外) 色調 (内) 色調	胎土	焼成	特徴	備考
27	69	27	26	平瓦	覆土一括				170.0	5Y5/1灰色	密	良好	凹面布目。凸面縄目タタキ。	側面、端面不明。
33	78	28	43	支脚	カマド内＋５cm	残存長 15.7	最大幅 11.8	厚さ 11.25	1370.0	10YR4/4褐色	密	やや良好	指ナデ。	
44	85	10	15	支脚 脚部1/2弱	焼土周辺床面 ＋3.2cm	残存長 13.0	最大幅 8	厚さ 13	285.0	10YR3/1黒褐色 10YR5/2にぶい黄褐色	砂っぽい	不良	手づくね。	
63	98	9	4	平瓦	覆土一括	5.9	5.6	2.3	70.0	2.5YR 灰黄色	密	良好	凹面布目。	
64	98		1	管状土錘	覆土一括	2.4	0.6	3.5	25.0	7.5YR4/4褐色	密	良好		
76	103	5	5	支脚	覆土一括	残存長 6.95	最大幅 5.2	厚さ 4.75	150.0	7.5YR5/3にぶい褐色	密	不良	手づくね。	
82	109	6	16	支脚	カマド内	8.3～5.4		17.0	1132.0	7.5YR5/4にぶい褐色	密	良好	篦ケズリ。	丁寧に造られている。同一個体20g。
82	110	21	19	土玉 1/2欠	覆土一括	3.0	0.6～0.7	3.4	30.0	5YR4/6赤褐色	密	良好		
85	112	13	14	管状土錘	覆土一括	3.5	1.4～ 1.15	5.4	70.0	10YR6/4にぶい黄橙色	密	良好	一部欠。	
137	139	17	31	土玉 1/2以下	覆土一括	(3.4)	0.7～0.5	3.2	20.0	10YR4/2灰黄褐色	密	良好	手づくね。	
140	140	1	2	下総型埴輪 右肩部	南端底面 ＋19.5cm			残存長 9.3	210.0	2.5YR4/6赤褐色	密	良好	外　ハケ後指ナデ。内　指ナデ。	雲母の入らないタイプ。TK43～209併行。城山１号墳併行期。
140	141	2	1	下総型埴輪	南端底面 ＋31.6cm	残存幅 13.9	眼孔 1.6～1.3	顔面長 10.4	370.0	2.5YR4/6赤褐色	非常に赤褐色味が強く、キメも細かい	良好	帽子をかぶる男子像、粘土貼り付けによる、鼻、まゆ、帽子を表している。	美豆良は、ホゾによって取り付けられた TK43～209併行。
160	153	3	4	円筒植輪片基 底部1/20	覆土一括				23.6	5YR5/6明赤褐色	密	良好	外　縦ハケ。	
160	153	4	3	平瓦	覆土一括				130.4	5YR5/6明赤褐色	密	良好	凹面布目。	側板痕残る。
170	160	7	7	平瓦	覆土一括				60.0	5Y6/1灰色	密	良好	凹面布目。	
172	161	12	12	土玉完形	北壁際床直 ＋0.7cm	3.6	0.7～0.6	3.6	45.4	10YR5/6黄褐色	密	良好		
172	161	13	13	土玉 1/2欠	覆土一括	4.0	0.7～0.9	4.1	30.4	10YR3/3黒褐色	密	良好		
175	163	4	4	平瓦	覆土一括				190.0	10YR5/2灰黄褐色	微砂粒多	良好	凹面布目。凸面縄目タタキ。	面不明。
179	165	7	7	支脚	カマド周辺床直上＋4.5cm	14.95	6.2	最大 4.6	329.0	7.5YR4/4褐色	密	不良	外　指ナデ。	一方はカマド周辺床直＋３cmと接合。
179	165	8	6	支脚	カマド周辺床上 ＋22.5cm	13.05	6.3	最大 6.15	390.0	7.5YR4/4褐色	密	不良	外　指ナデ。	
179	165	9	8	支脚	カマド周辺床直上＋4.5cm	(16.55)	最大 8.4	最大 8.3	490.0	7.5YR4/4褐色	密	不良	外　指ナデ。	
193	178	39	51	土製円盤1/3	覆土一括	4.0		1.4	8.4	10YR3/2黒褐色	褐色粒多量に含む (砂っぽい)	良好		２㎜の二孔を施す。
193	178	40	52	土製円盤1/4	覆土一括	(3.7)		1.3	6.8	10YR3/2黒褐色	褐色微砂粒多量に含む (砂っぽい)	良		
223	198	2	2	平瓦	覆土一括	長さ 9.8	幅 6.9	厚さ 2.5	200.0	10YR3/4暗褐色	密	良好	布目瓦。	
223	198	3	3	平瓦	覆土一括	9.7	7.5	2.4	178.0	10YR5/4にぶい黄褐色	密	良好	布目瓦。	
224	198	11	12	平瓦	覆土一括	7.6	5.3	1.9	90.0	7.5YR5/4にぶい褐色	密	良好	凹面布目瓦。凹面縄文瓦。	

遺構番号	図番	番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm/g				(外) 色調 (内) 色調	胎土	焼成	特徴	備考
						径	孔	高さ	重量					
224	198	12	11	平瓦	覆土一括	6.2	3.4	1.8	49.0	2.5Y5/2暗灰黄色	密	良好	凹面布目瓦。	
224	198	13	10	平瓦	覆土一括	6.9	6.5	2.0	120.0	7.5YR3/1黒褐色	密	良好	凹面布目瓦。	布のとじ合わせ目が残る。
224	198	14	9	平瓦	覆土一括	7.3	6.7	2.2	115.0	5Y5/1灰色	密	良好	凹面布目瓦。凸面縄文。	

辺田１号墳調査前（南西より）

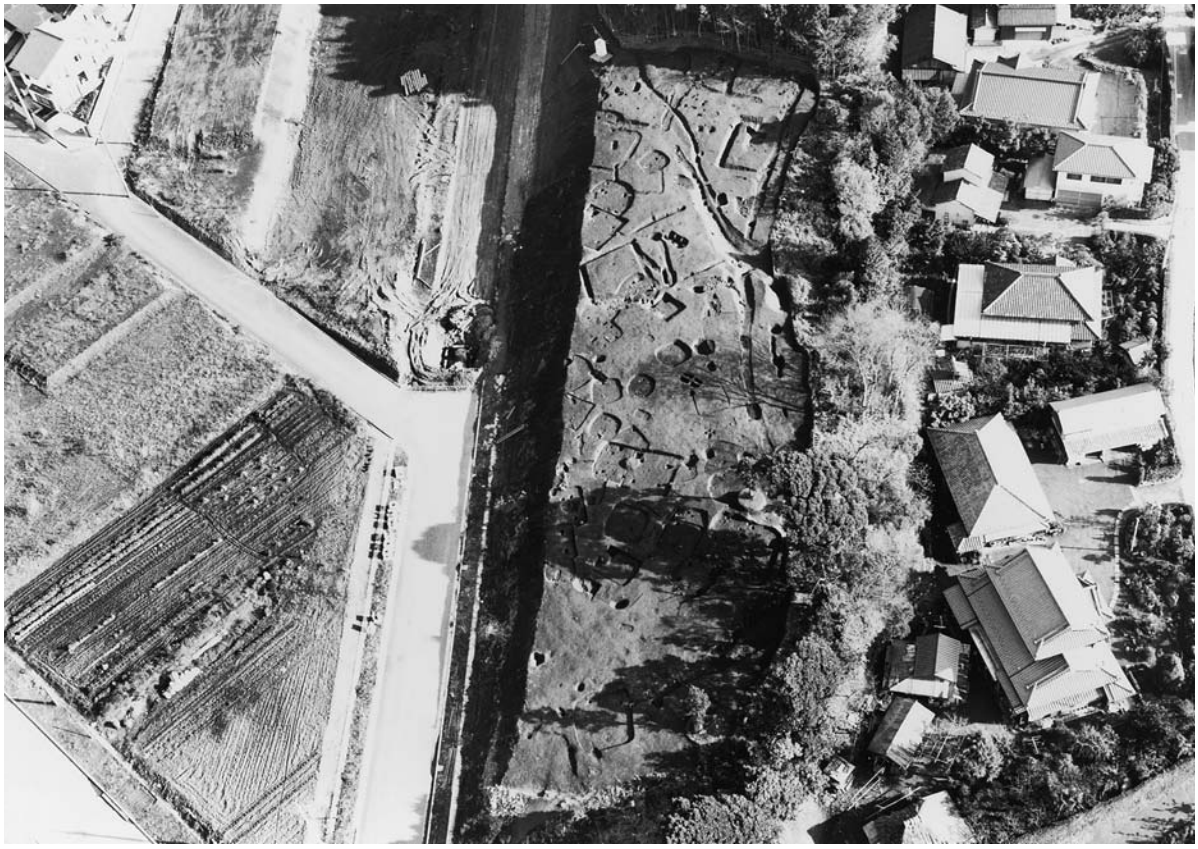
御林跡遺跡調査前（左手のマウンドは６号遺構）

図版2

S59年度御林跡遺跡全景（北より。調査地点はS59年度調査範囲。中央はS63年度、左手はS60年度調査。）

S59年度御林跡遺跡東側全景（左手が辺田１号墳周溝）

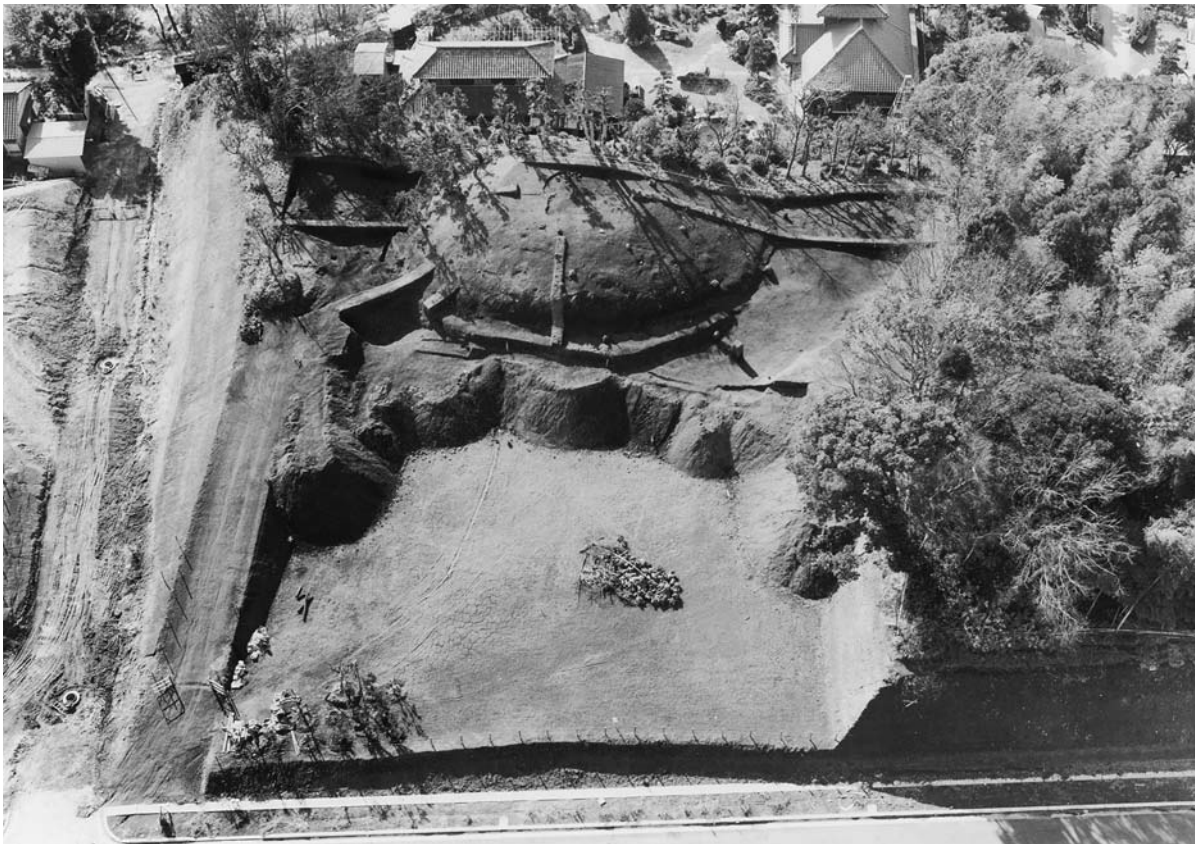
S59年度御林跡遺跡西側全景（北より）



S59年度御林跡遺跡西側全景（西より）

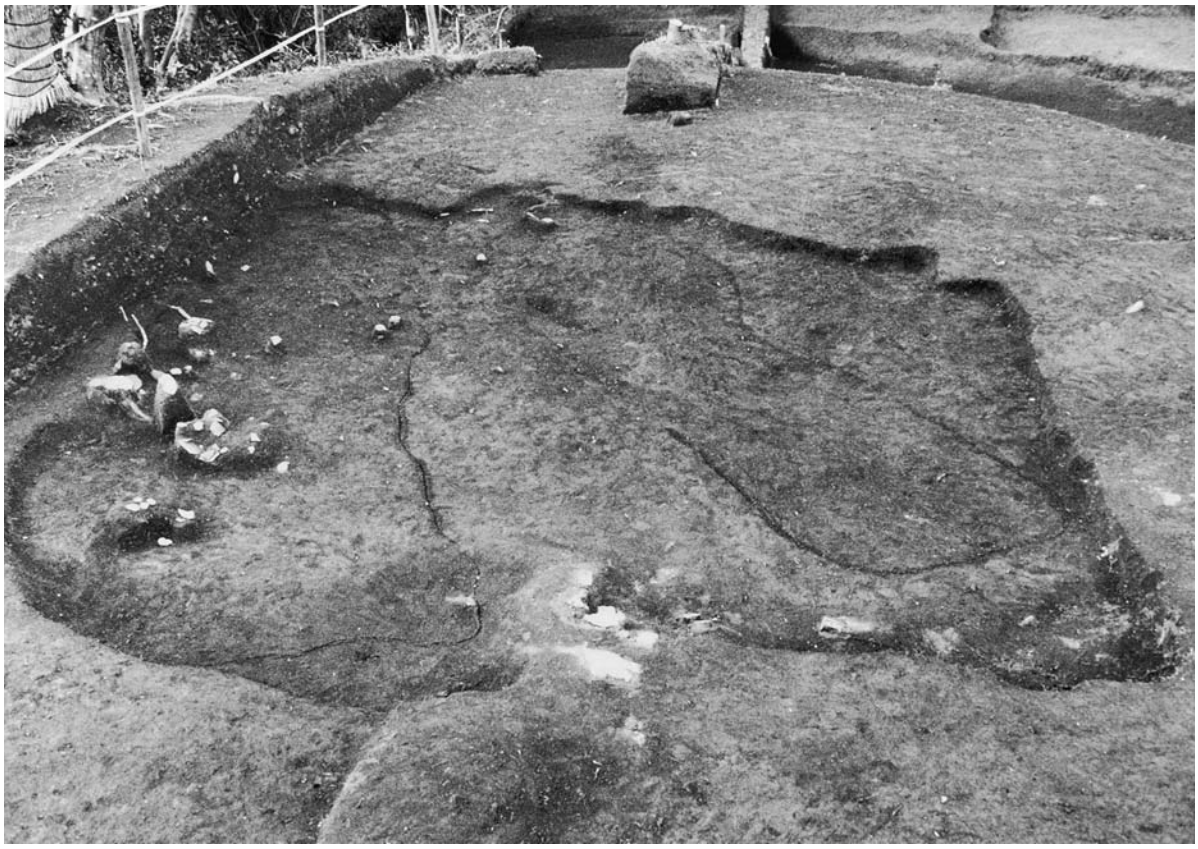
図版4

S60年度辺田１号墳調査前（S59年度調査範囲は既に削平）



辺田１号墳全景（北より）

辺田１号墳全景（東より）



辺田１号墳主体部検出状況

図版6

S59年度辺田１号墳北側周溝（東より）

S59年度辺田１号墳北側周溝（西より）

S59年度辺田１号墳出土底部穿孔壺

辺田１号墳西側周溝内遺物出土状況（北より）

辺田１号墳西側周溝内遺物出土状況（東より）

辺田１号墳東側周溝底部穿孔壺９出土状況（S60年度） 1

辺田１号墳東側周溝底部穿孔壺９出土状況（S60年度） 2

辺田１号墳東側周溝底部穿孔壺９出土状況（S60年度） 3

辺田１号墳墳頂部底部穿孔二重口縁壺24出土状況１

辺田１号墳墳頂部底部穿孔二重口縁壺24出土状況２

辺田１号墳墳頂部底部穿孔二重口縁壺24出土状況３

辺田１号墳墳頂部底部穿孔壺右18、左30出土状況

辺田１号墳墳頂部底部穿孔壺18出土状況１

辺田１号墳墳頂部底部穿孔壺18出土状況２

辺田１号墳墳頂部底部穿孔壺18出土状況３

辺田１号墳墳頂部底部穿孔二重口縁壺66出土状況１

図版8

辺田１号墳墳頂部底部穿孔二重口縁壺66出土状況２

墳頂部調査状況１（東より）第１主体部はほぼ完掘

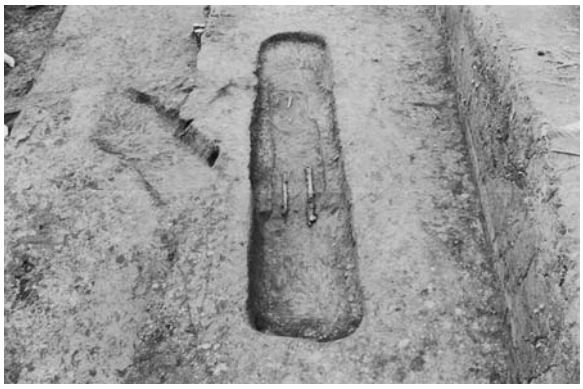
墳頂部調査状況２（北より）

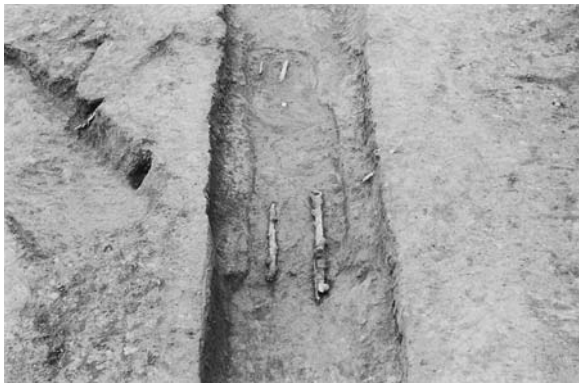
第２主体部を囲む溝断面１　手前は第１主体部

第２主体部を囲む溝断面２

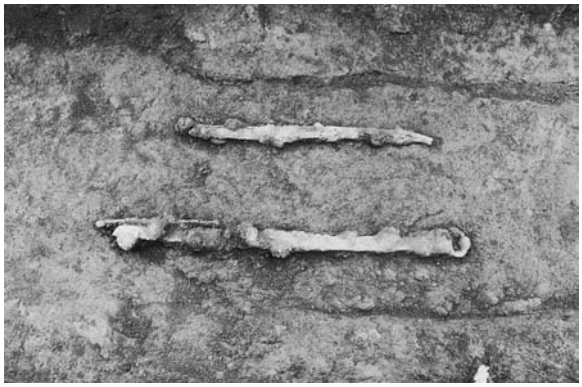
第２主体部検出状況（東より）

第２主体部遺物出土状況（東より）


第２主体部遺物出土状況（西より）右手が素環頭大刀


第 2 主体部遺物出土状況 1

第 2 主体部遺物出土状況 2

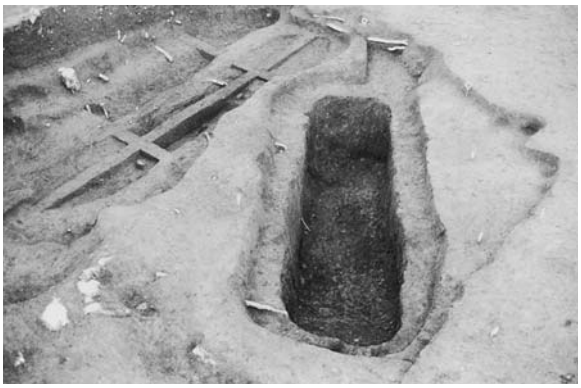

大刀・素環頭大刀出土状況 3

鏡・槍・鉇出土状況 4

鏡・槍・鉇出土状況 5

管玉出土状況 6

第 1 主体部土層断面


第 1 主体部完掘状況

図版10

辺田 1 号墳東側周溝

辺田 1 号墳西側周溝

辺田 1 号墳東側周溝内硬化面（226号遺構）検出状況

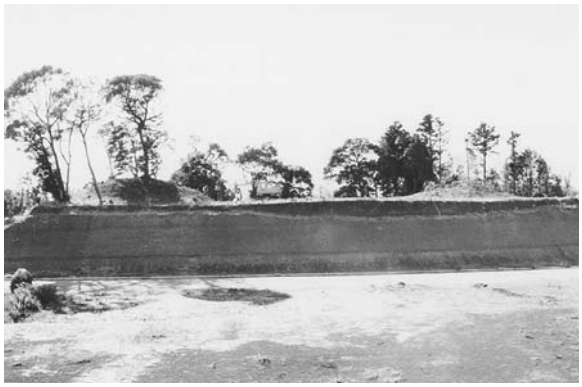
辺田 1 号墳東側周溝内硬化面検出状況（北より）

辺田 1 号墳西側周溝土層断面

辺田 1 号墳南北土層断面

辺田 1 号墳東西土層断面 1

辺田 1 号墳東西土層断面 2



S63年度調査地点　右が辺田2号墳、左が5号墳

S63年度調査辺田２号墳調査前

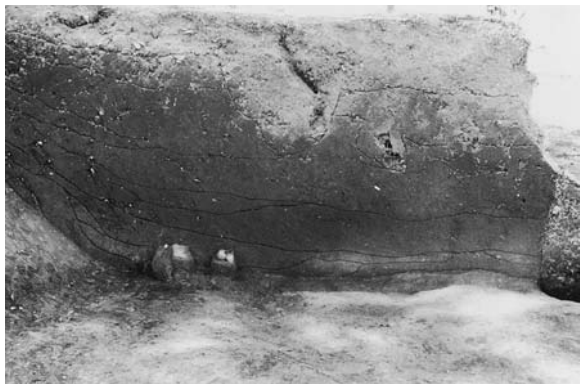
辺田2号墳西側より

S59年度調査辺田２号墳東側周溝

辺田２号墳東側周溝遺物出土状況

S59年度辺田２号墳東側周溝完掘状況

S63年度調査辺田２号墳北側周溝



辺田２号墳北側周溝断面

図版12

辺田 2 号墳遺物出土状況 1

辺田 2 号墳遺物出土状況 2

辺田 2 号墳遺物出土状況 3

辺田 2 号墳と周辺遺構

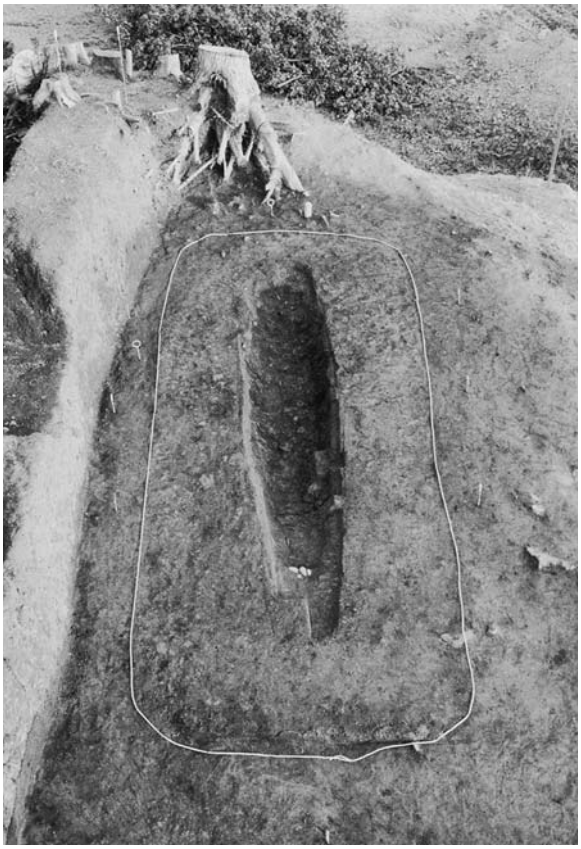
辺田 2 号墳土層断面 1

辺田 2 号墳土層断面 2

辺田 2 号墳土層断面 3

辺田 2 号墳土層断面 4

辺田２号墳主体部検出状況



辺田２号墳主体部完堀状況

３号遺構完掘状況

３号遺構周辺の調査風景

３号遺構北側周溝遺物出土状況１

３号遺構北側周溝遺物出土状況２

図版14

4 号遺構完掘状況（東より）

4 号遺構完掘状況（西より）

辺田 5 号墳調査前（北より）

辺田 5 号墳調査前（東より）

辺田 5 号墳調査状況 1

辺田 5 号墳調査状況 2

辺田 5 号墳西側周溝土層断面

辺田 5 号墳東側周溝土層断面

辺田５号墳南側周溝部土層断面

辺田５号墳南北土層断面（西より）

辺田５号墳西側土層断面（南より）

辺田５号墳東側土層断面（南より）

６号遺構調査前

図版16

6 号遺構土層断面と遺物出土状況

7 号遺構土層断面

7 号遺構完掘状況

8 号遺構遺物出土状況 1

8 号遺構遺物出土状況 2

遺構群 1 （左のカマドは17号・右のカマドは14号遺構）

14号遺構土層断面（北より）

14号遺構カマド検出状況

15号遺構（手前）16号遺構（右側）

16号遺構遺物出土状況

図版18

17号遺構土層断面

17号遺構全景

17号遺構遺物出土状況

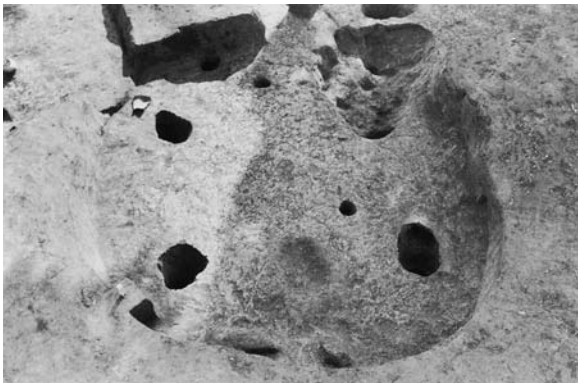
17号遺構カマド検出状況

遺構群２（18号遺構周辺）

18号遺構土層断面（南より）

18号遺構完掘状況

20号遺構土層断面（南より）



20号遺構完掘状況

遺構群３（22号遺構周辺）

図版20

21号遺構土層断面（南より）

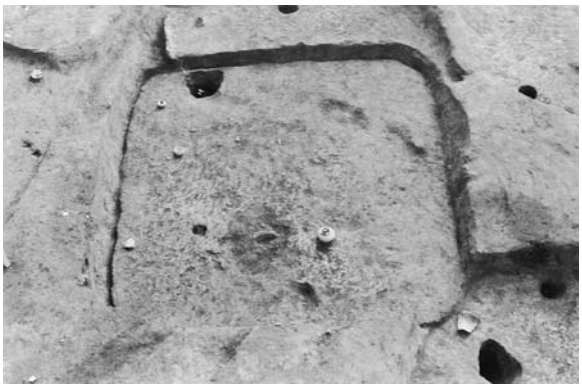
21・22号遺構完掘状況

27号遺構土層断面（東より）

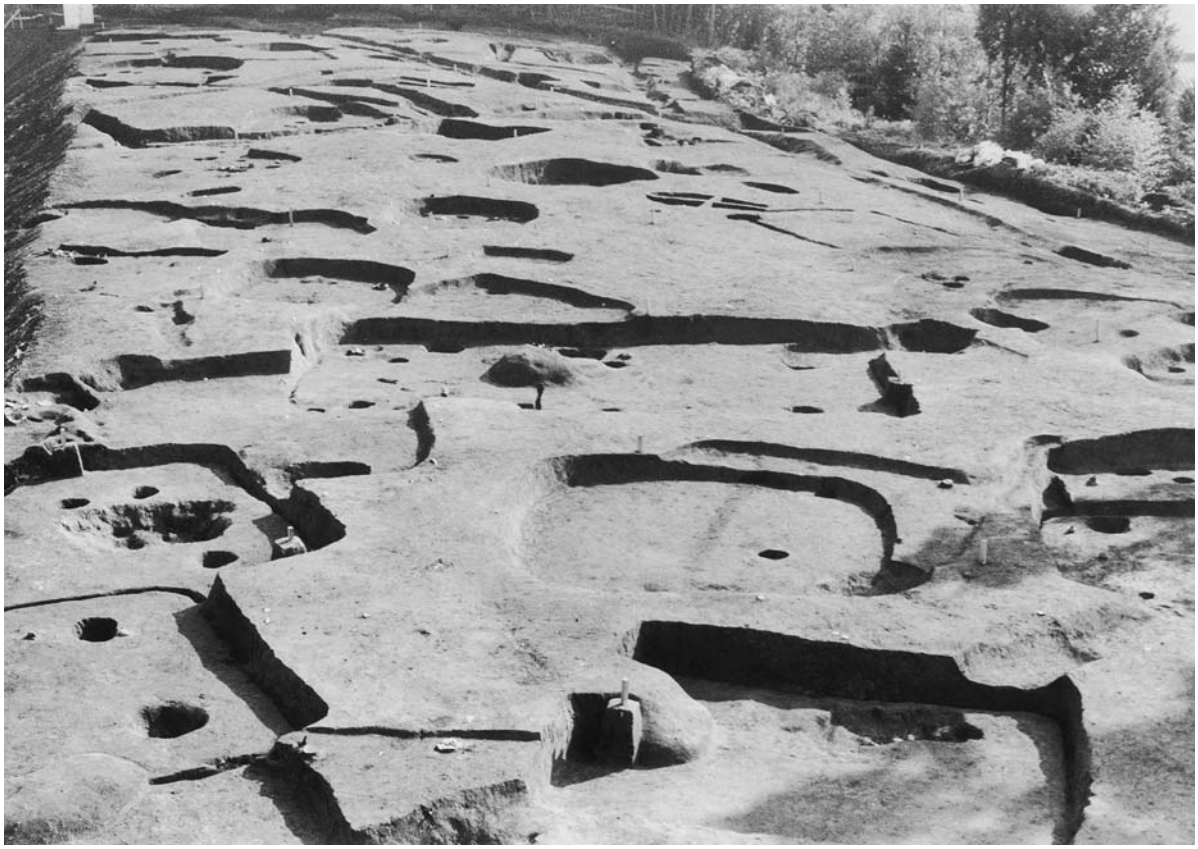
28号遺構土層断面（東より）

28号遺構遺物出土状況 1

28号遺構遺物出土状況 2


28号遺構完掘状況

28・29号遺構全景



遺構群 4 （31号遺構周辺）

31号遺構周辺

31号遺構遺物出土状況

31号遺構土層断面（東より）

32号遺構土層断面（東より）

図版22

遺構群５（33号遺構周辺　カマドが33号遺構）

32・33号遺構全景（左が33号遺構）

32号遺構炉

32号遺構遺物出土状況

32・33号遺構南北土層断面

33号遺構遺物出土状況

33号遺構カマド検出状況

34号遺構全景

35号遺構完掘状況

36号遺構土層断面

36号遺構完掘状況

36号遺構全景（南より）

36号遺構遺物出土状況 1

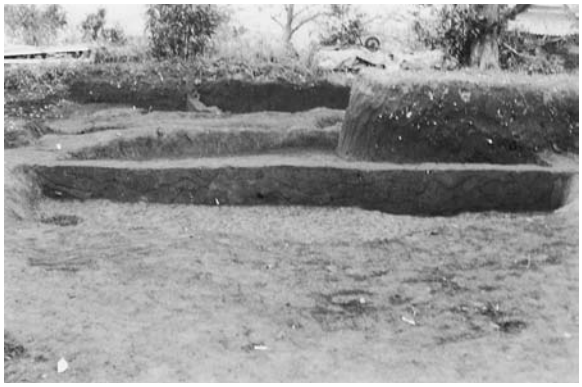
図版24

36号遺構遺物出土状況 2

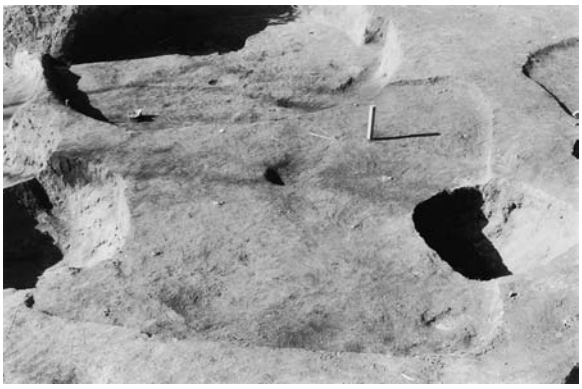
37号遺構完掘状況

39号遺構周辺遺構

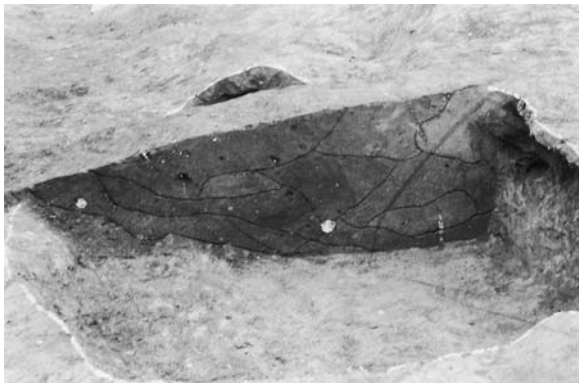
39・40号遺構全景


39号遺構土層断面（東より）

39号遺構全景


40号遺構全景

41号遺構全景


42号遺構土層断面（東より）

42号遺構全景

44号遺構全景

44号遺構遺物出土状況

44号遺構カマド検出状況

45号遺構全景

46号遺構全景

47号遺構土層断面（北より）

図版26

49号遺構周辺遺構群

49号遺構土層断面（南より）

49号遺構全景

49号遺構遺物出土状況 1

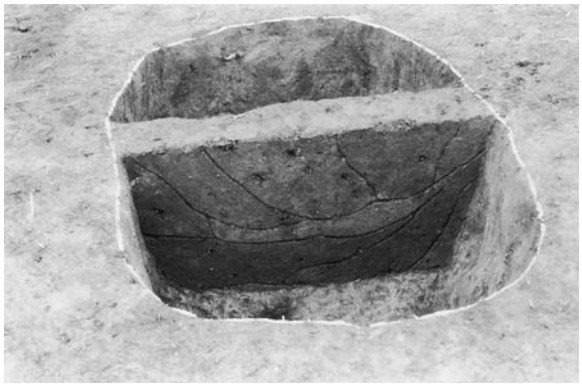
49号遺構遺物出土状況 2

51号遺構遺物出土状況

51号遺構土層断面（西より）

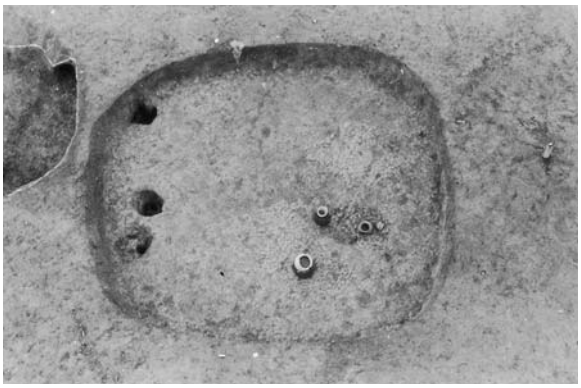
51号遺構完掘状況 1

51号遺構完掘状況 2


52号遺構土層断面（西より）

52号遺構完掘状況

53号遺構土層断面（南より）

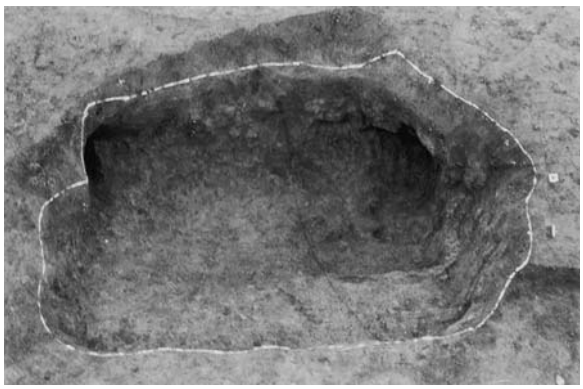

53号遺構全景

図版28

53号遺構遺物出土状況

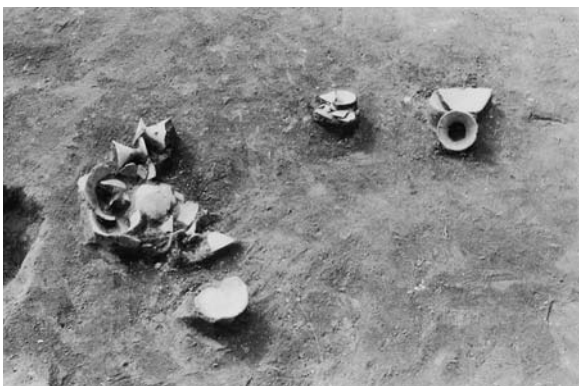
53号遺構完掘状況

54号遺構土層断面（南より）


54号遺構完掘状況

55号遺構遺物出土状況 1

55号遺構遺物出土状況 2


55号遺構遺物出土状況 3

56号遺構土層断面（東より）

56号遺構完掘状況

57号遺構土層断面（東より）

57号遺構完掘状況

58号遺構全景

58号遺構遺物出土状況 1

58号遺構遺物出土状況 2

59・63・64号遺構土層断面（南より）

60号遺構土層断面（南より）

図版30

60号遺構遺物出土状況 1

60号遺構遺物出土状況 2

60号遺構遺物出土状況 3

60号遺構遺物出土状況 4

60号遺構遺物出土状況 5

60号遺構カマド検出状況

62号遺構土層断面（南より）

62号遺構完掘状況

63号遺構東周溝土層断面（南より）

63号遺構西周溝・64号溝土層断面（南より）

63号遺構南周溝・64号溝土層断面（東より）

63号遺構北周溝土層断面（東より）

63号遺構周辺遺構群

図版32

65号遺構周辺遺構群

64号遺構（溝）

64号遺構土層断面（南側溝）

65号遺構東側周溝土層断面

65号遺構西側周溝土層断面

65号遺構主体部検出状況

65号遺構主体部完掘状況

66号遺構土層断面

67号遺構土層断面（南より）

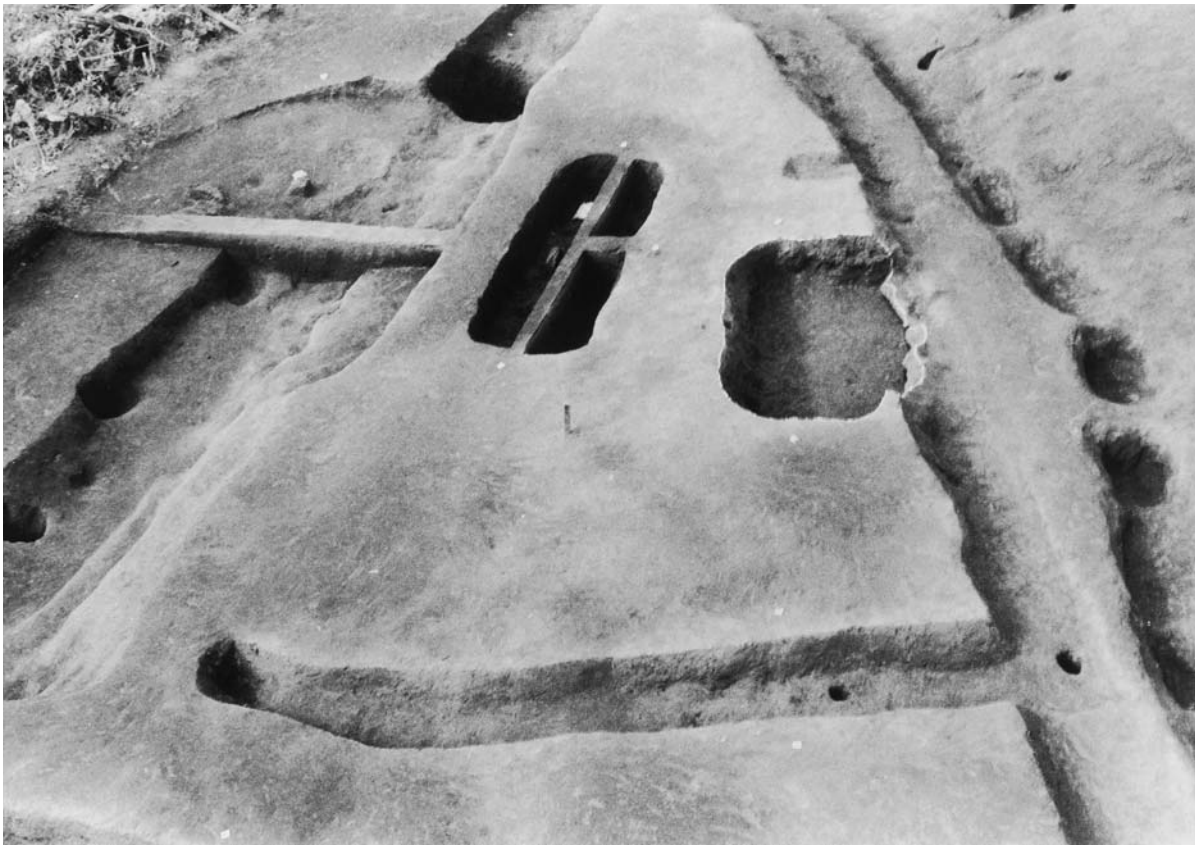
68号遺構土層断面（南より）

67・68号遺構完掘状況

69号遺構土層断面（南より）

69号遺構完掘状況

図版34



67・68・69号遺構周辺

71号遺構土層断面（東より）

72号遺構全景（南西より）

72号遺構カマド完掘状況

73号遺構全景

73号遺構（手前）土層断面

74号遺構全景

74号遺構東側周溝土層断面（南より）

74号遺構北側周溝土層断面（東より）

75号遺構土層断面（東より）

74・75号遺構全景（中央が74号遺構）

75号遺構全景

76号遺構東側周溝土層断面（南より）

図版36

76号遺構西側周溝土層断面（南より）

76号遺構南側周溝土層断面（東より）

76号遺構主体部土層断面

76号遺構主体部完掘状況

77号遺構土層断面（西より）

77号遺構完掘状況

78号遺構全景

79号遺構全景

79号遺構北側周溝土層断面（東より）

79号遺構西側周溝土層断面（南より）

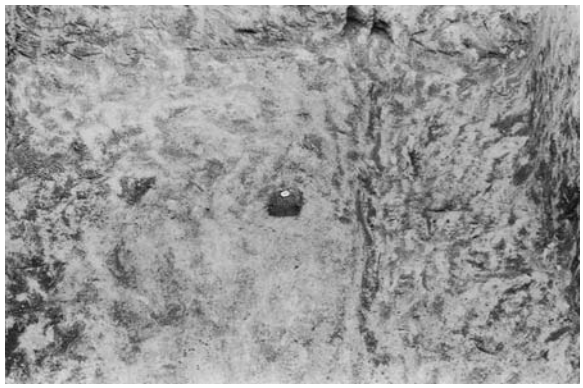
79号遺構東側周溝土層断面（南より）

79号遺構遺物出土状況 1

79号遺構遺物出土状況 2

79号遺構遺物出土状況 3

79号遺構主体部土層断面（北より）

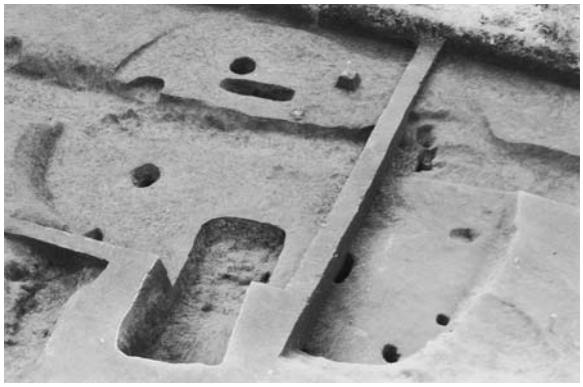

79号遺構主体部耳環出土状況

図版38

79号遺構主体部完掘状況（北より）

79号遺構主体部完掘状況（西より）

80号・211号遺構土層断面（西より）


80号遺構調査状況

81号遺構全景

81号遺構検出遺物（85号遺構に伴う）

82号遺構全景

82号遺構カマド検出状況

82号遺構遺物出土状況 1

82号遺構遺物出土状況 2

83号遺構周辺遺構群

83号遺構全景

85号遺構遺物出土状況 1

85号遺構遺物出土状況 2

85号遺構西側周溝土層断面

85号遺構西側周溝

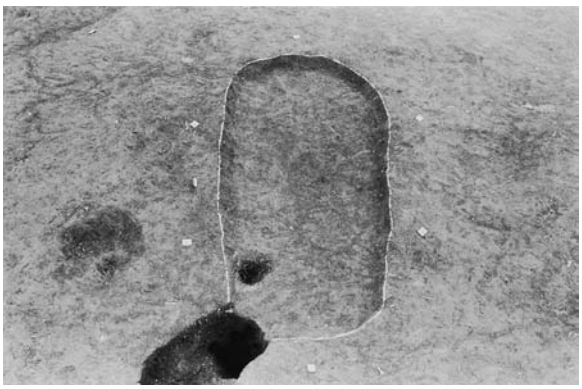
図版40

86号遺構土層断面（南より）

86号遺構全景

87号・215号遺構土層断面（東より）

88号遺構土層断面（東より）


88号遺構完掘状況

91号遺構全景

93号遺構土層断面（南より）

93号遺構完掘状況

94号遺構土層断面（東より）

94号遺構全景

96号遺構土層断面（西より）

96号遺構全景

96号遺構周辺遺構群

図版42

100号遺構北側周溝土層断面（西より）

100号遺構遺物出土状況

100号遺構西側周溝土層断面（南より）

100号遺構全景

102・103号遺構全景

103号遺構遺物出土状況 1

103号遺構遺物出土状況 2

103号遺構遺物出土状況 3

105・106号遺構周辺

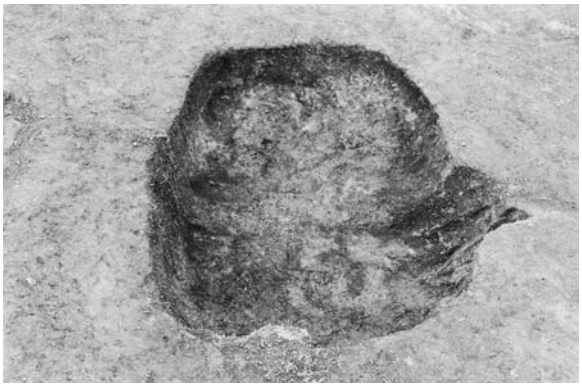
105号遺構カマド検出状況

106号遺構カマド検出状況

109号遺構全景

110号遺構全景

図版44


111号遺構完掘状況

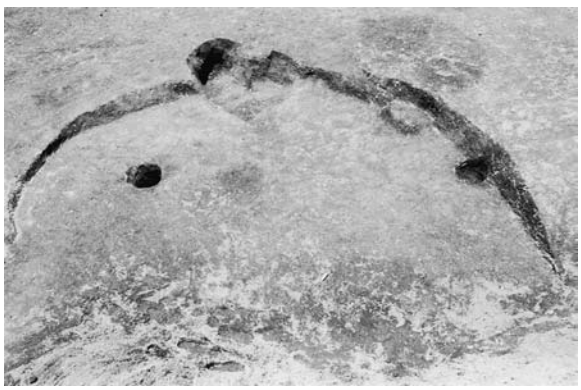
114号遺構作業風景

114号遺構全景

115号遺構全景

116号遺構全景

117号遺構全景


118号遺構全景

119号遺構焼土炭化物検出状況

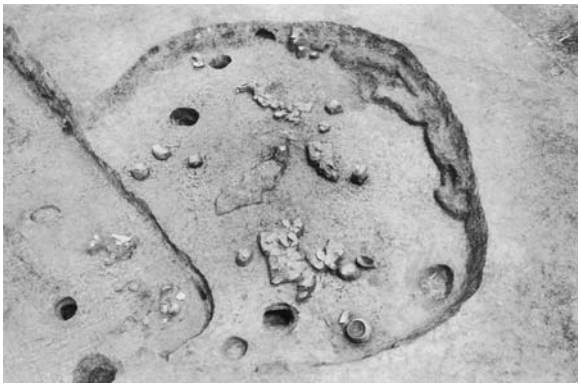
119号遺構遺物出土状況 1

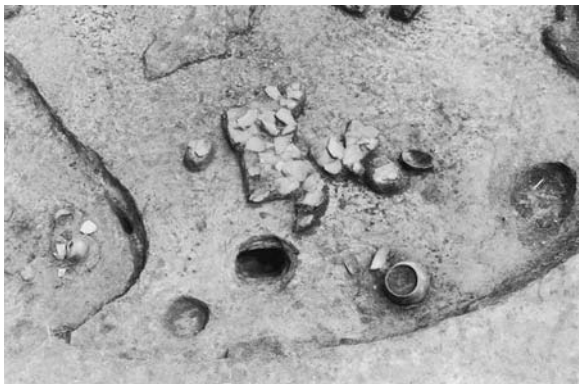
119号遺構遺物出土状況 2

119号遺構遺物出土状況 3

119号遺構遺物出土状況 4

119号遺構全景


120号遺構全景


120号遺構遺物出土状況

122号遺構土層断面（東より）

図版46

123号遺構土層断面（西より）

123号遺構全景

125・126号遺構周辺

127号遺構全景

130・131号遺構作業風景

130号遺構遺物出土状況 1

130号遺構遺物出土状況 2

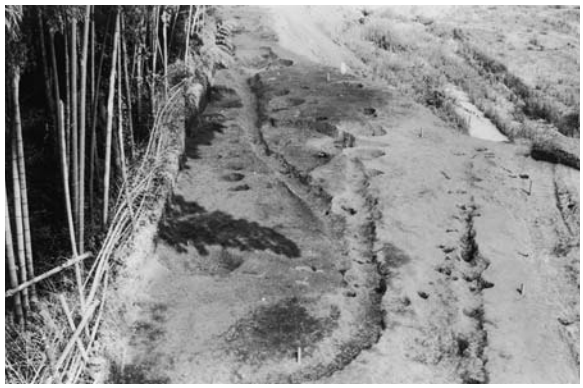
130号遺構遺物出土状況 3

130号遺構全景

132号遺構土層断面（南より）

132号遺構完掘状況

133号遺構全景


136号遺構周辺

図版48

137号遺構全景

138号遺構全景

139号遺構全景

140号遺構全景

140号遺構遺物出土状況

141号遺構土層断面（東より）

146号遺構土層断面（西より）

149号遺構土層断面（東より）

149号遺構全景

150号遺構全景

150号遺構遺物出土状況

151号遺構土層断面（東より）

152号遺構遺物出土状況

153号遺構土層断面（南より）

153号遺構遺物出土状況

155号遺構全景

図版50

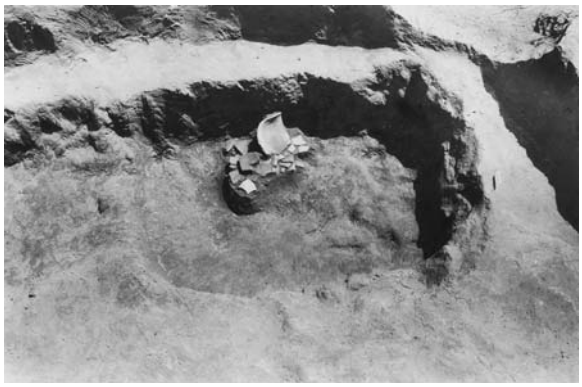
156号遺構周辺遺構群

159号遺構遺物出土状況

162号遺構周辺遺構群

162・163号遺構土層断面（南より）

162・163号遺構全景


163号遺構遺物出土状況

164号遺構土層断面（西より）

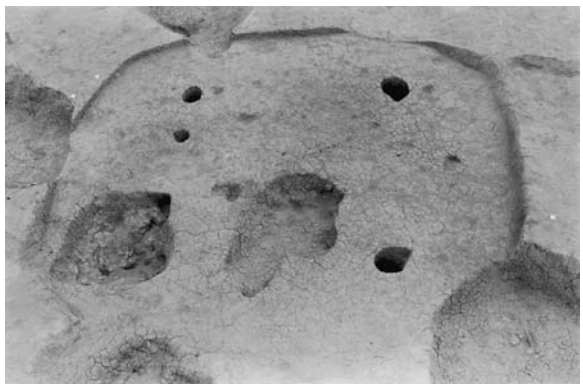
164号遺構完掘状況

165号遺構全景

167号遺構土層断面（南より）

167号遺構完掘状況

168号遺構全景（東より）

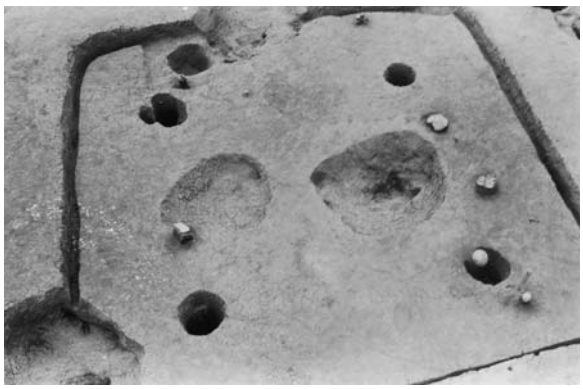

168号遺構全景（南より）

図版52

169号遺構遺物出土状況

170号遺構全景（東より）

172号遺構全景（北より）


172号遺構遺物出土状況

173号遺構土層断面（東より）

173号遺構完掘状況

174号遺構土層断面１（南より）

174号遺構土層断面２（南より）

174号遺構土層断面３（南より）

174号遺構炭化物検出状況

174号遺構遺物出土状況

179号遺構全景

179号遺構カマド検出状況

180号遺構土層断面（西より）

180号遺構調査状況

180号遺構遺物出土状況

図版54

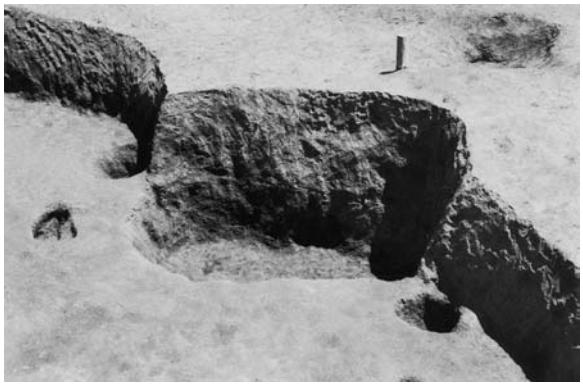
181号遺構全景

182号遺構全景（西より）

182号遺構全景（北より）

185号遺構遺物出土状況

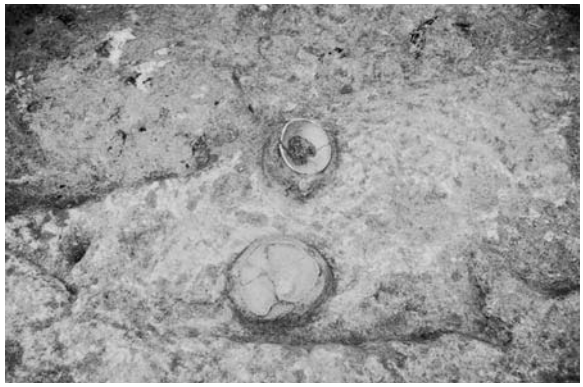
185号遺構全景（西より）


185号遺構全景（南より）

186号遺構土層断面（北西より）

186号遺構土層断面（北東より）

186号遺構遺物出土状況 1


186号遺構遺物出土状況 2

188号遺構完掘状況

184・186・188号遺構完掘状況（北西より）

184・186・188号遺構周辺 1 （南東より）

184・186・188号遺構周辺 2 （西より）

184・186・188号遺構周辺 3 （東より）

184・186・188号遺構周辺 4 （北より）

図版56

187号遺構東側周溝銅釧片検出状況

187号遺構東側周溝完掘状況

187号遺構北側周溝遺物出土状況 1

187号遺構北側周溝遺物出土状況 2

189号遺構検出状況

189号遺構南側周溝遺物出土状況

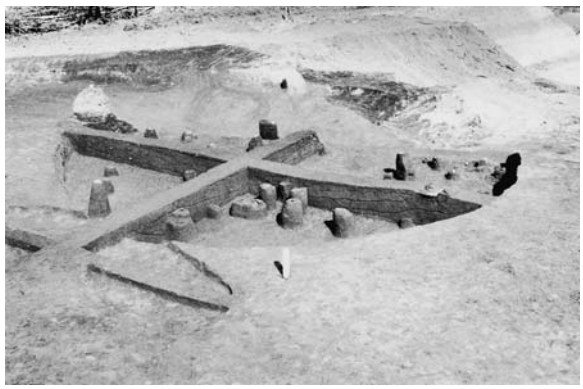
189号遺構東側周溝遺物出土状況

189号遺構主体部土層断面

189号遺構主体部完掘状況

189号遺構全景

192号遺構全景


193号遺構遺物出土状況 1

193号遺構遺物出土状況 2

193号遺構完掘状況

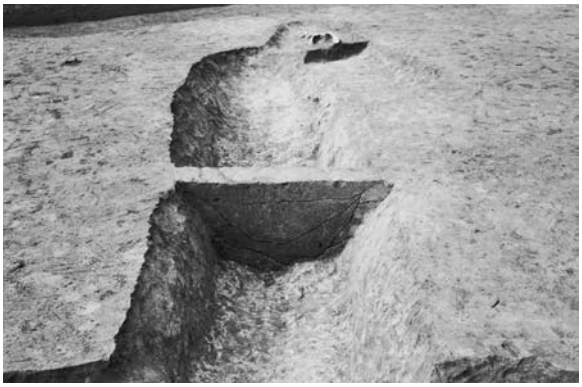
193号遺構炉検出状況

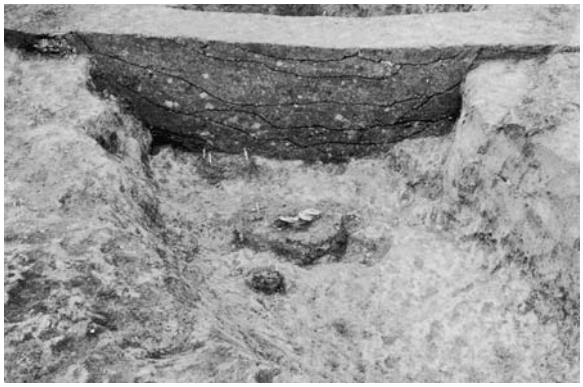
194号遺構全景

図版58

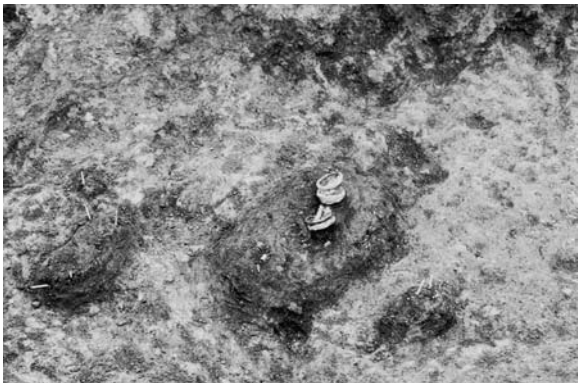
195号遺構土層断面

199号遺構東側周溝検出状況


199号遺構西側周溝土層断面（北より）


199号遺構主体部遺物出土状況 1

199号遺構主体部遺物出土状況 2 （北より）


199号遺構主体部遺物出土状況 3

199号遺構主体部遺物出土状況 4

199号遺構主体部完掘状況

199・201号遺構周辺遺構群

205・206号遺構周辺遺構群

図版60

205・206号遺構完掘状況

206号遺構主体部検出状況（西より）

206号遺構主体部遺物出土状況 1

206号遺構主体部遺物出土状況 2

206号遺構主体部遺物出土状況 3

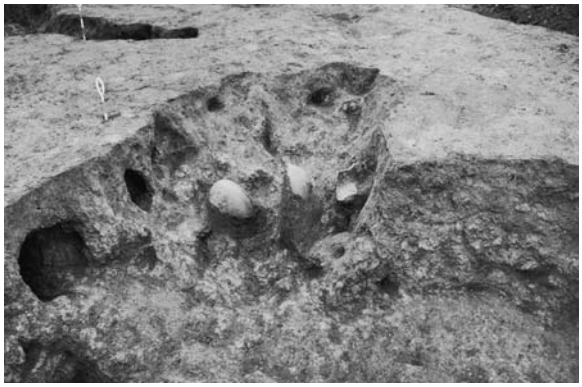
206号遺構主体部遺物出土状況 4

206号遺構主体部木棺痕

206号遺構主体部完掘状況

206・207号遺構土層断面（南より）

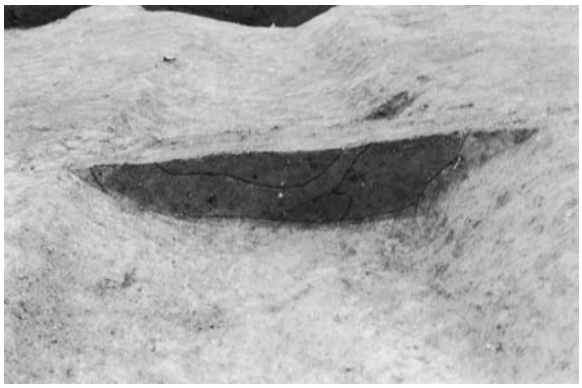
206号遺構遺物出土状況 1


206号遺構遺物出土状況 2

206・207号遺構完掘状況

209号遺構完掘状況

211号遺構土層断面（S59年度調査区東側　西より）


211号遺構土層断面（S59年度調査区西側　東より）

212号遺構土層断面（南より）

図版62

214・215号遺構全景

214・215号遺構全景（西より）

214・215号遺構土層断面（西より）

調査区中央217号遺構周辺 1

調査区東側217号遺構周辺 2

調査区東側217号遺構周辺 3

226号遺構土層断面（北より）

辺田 1 号墳断面と調査補助員（盛土の高さがわかる）

1–9

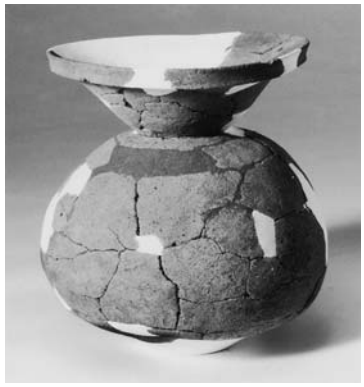
1–10

1–11

1–12

1–13

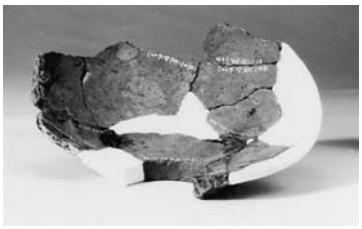
1–14


1–15

1–17

1–18

1–19


1–19裏

1–20

1–20裏

図版64

1–21

1–21裏

1–22

1–23

1–24

1–25

1–27

1–29裏

1–30

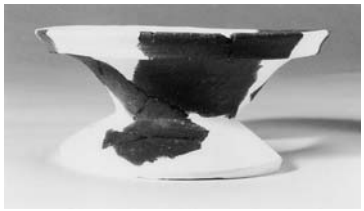
1–31

1–33表

1–26

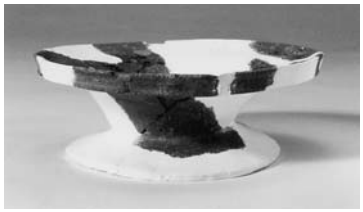
1–28

1–29表


1–32

1–33裏

1–34


1–35

1–38

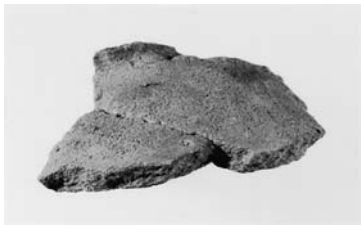
1–41

1–42

1–44

1–46

1–47


1–55

1–56

1–57

1–58

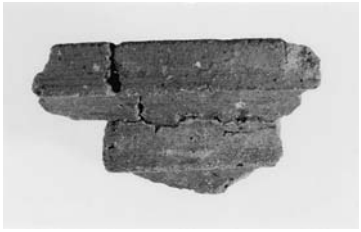
1–59

1–61

1–62

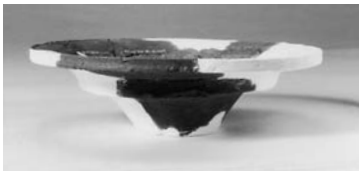
1–64

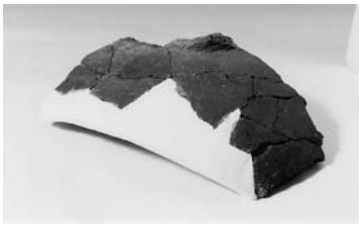
1–66


1–68

1–69

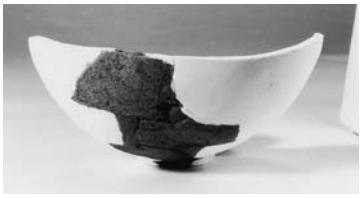
1–70


1–72


1–79

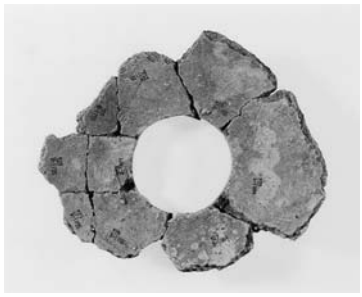
図版66

1–80


1–81

1–82

1–83


1–83内面

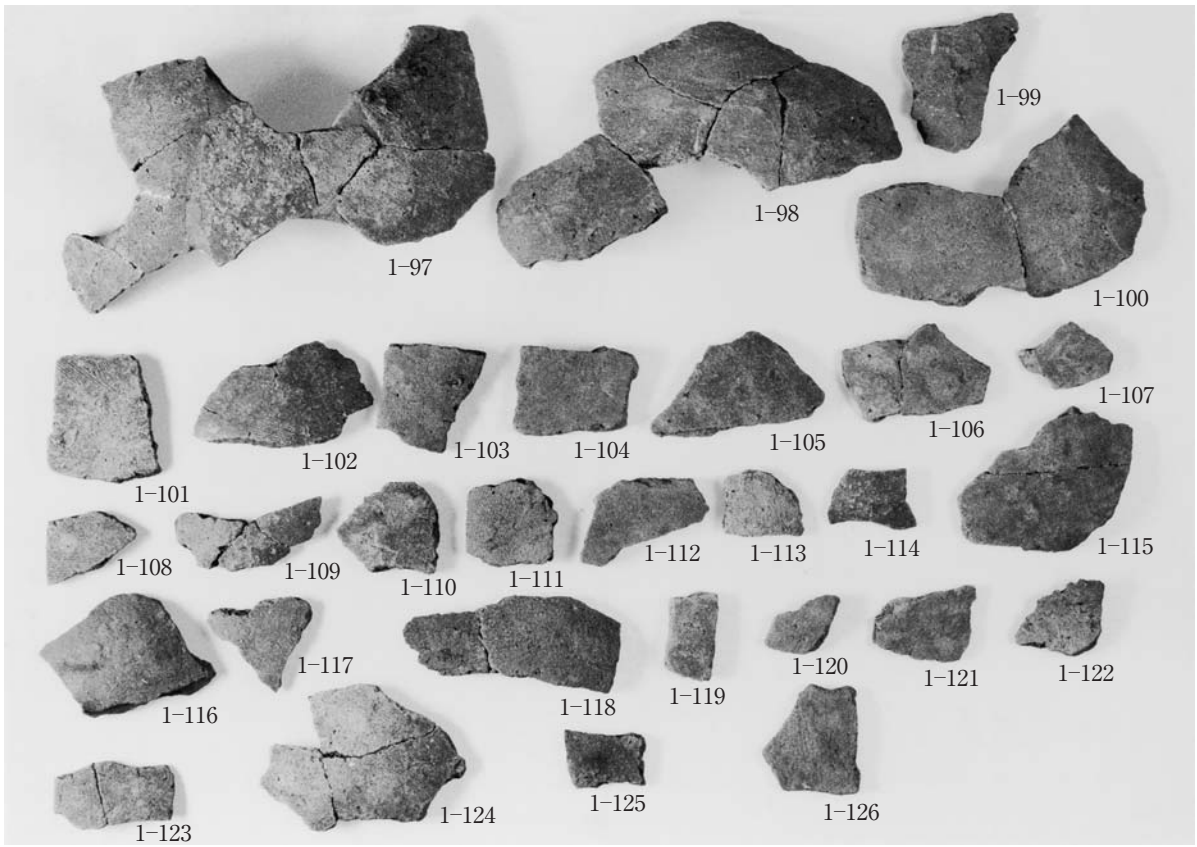
1–86

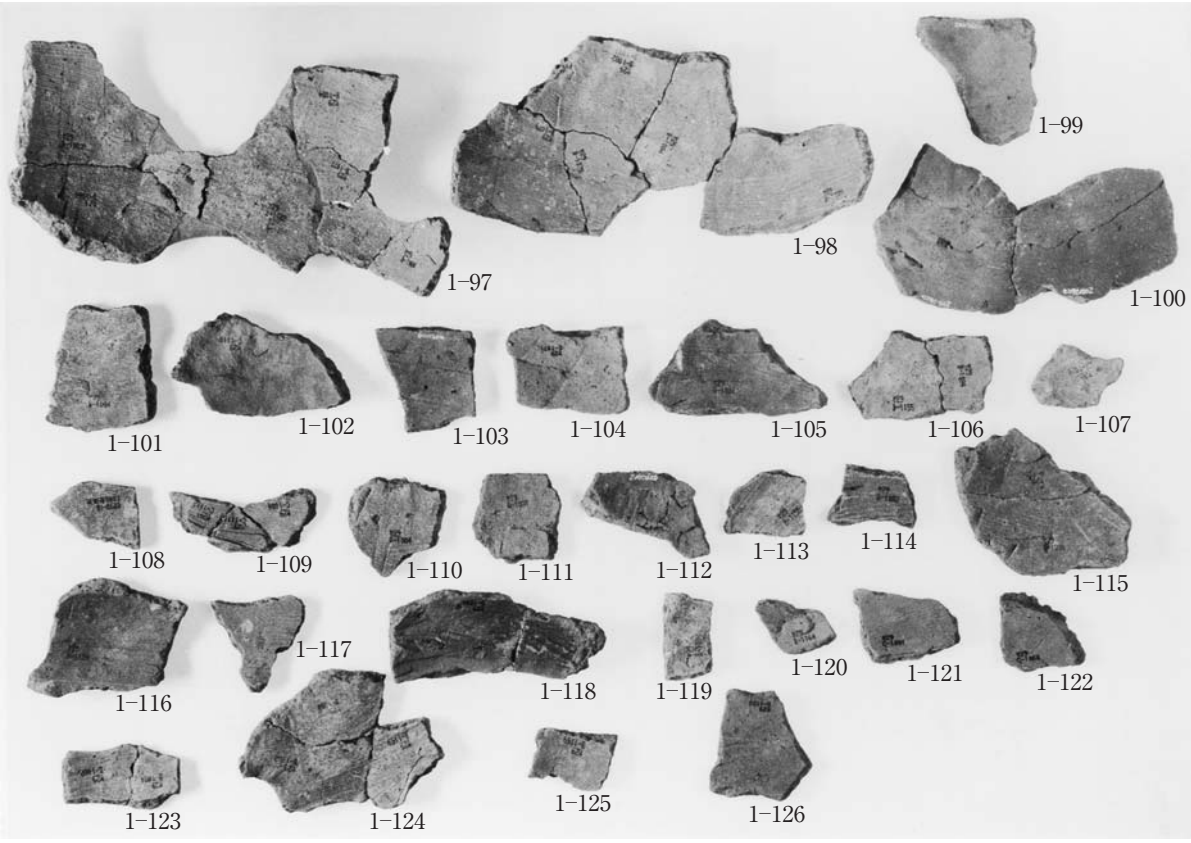
1–85

1–87

1–87裏

1–88

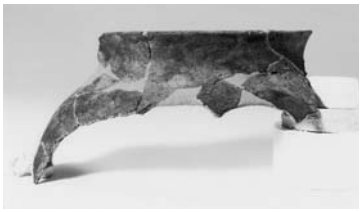



1–97
1–98
1–99
1–100
1–101
1–102
1–103
1–104
1–105
1–106
1–107
1–108
1–109
1–110
1–111
1–112
1–113
1–114
1–115
1–116
1–117
1–118
1–119
1–120
1–121
1–122
1–123
1–124
1–125
1–126

1–97
1–98

図版68

1–127


1–128

1–129

1–130

1–131

1–132

1–133

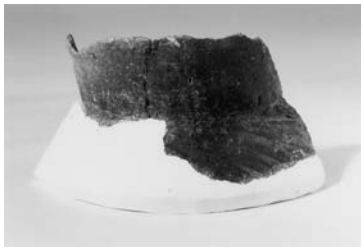
1–135

1–137

1–139

1–141

1–134


1–136

1–138

1–140

1–142

1–143

1–144

1–145

1–146

1–148

1–149

1–150

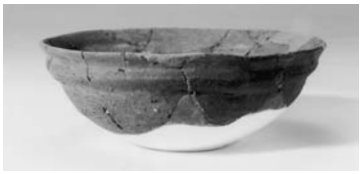
1–151

1–152

1–153

1–154

1–155


1–156

1–157

1–158

1–159

1–160

図版70

1–161

1–163

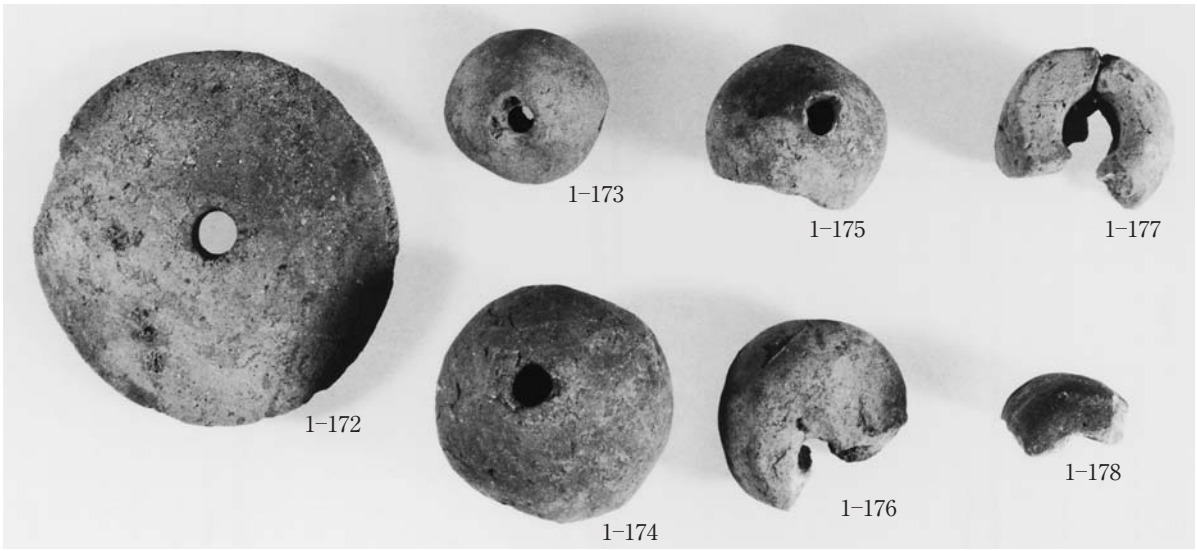
1–166

1–162

1–164

1–167

1–168



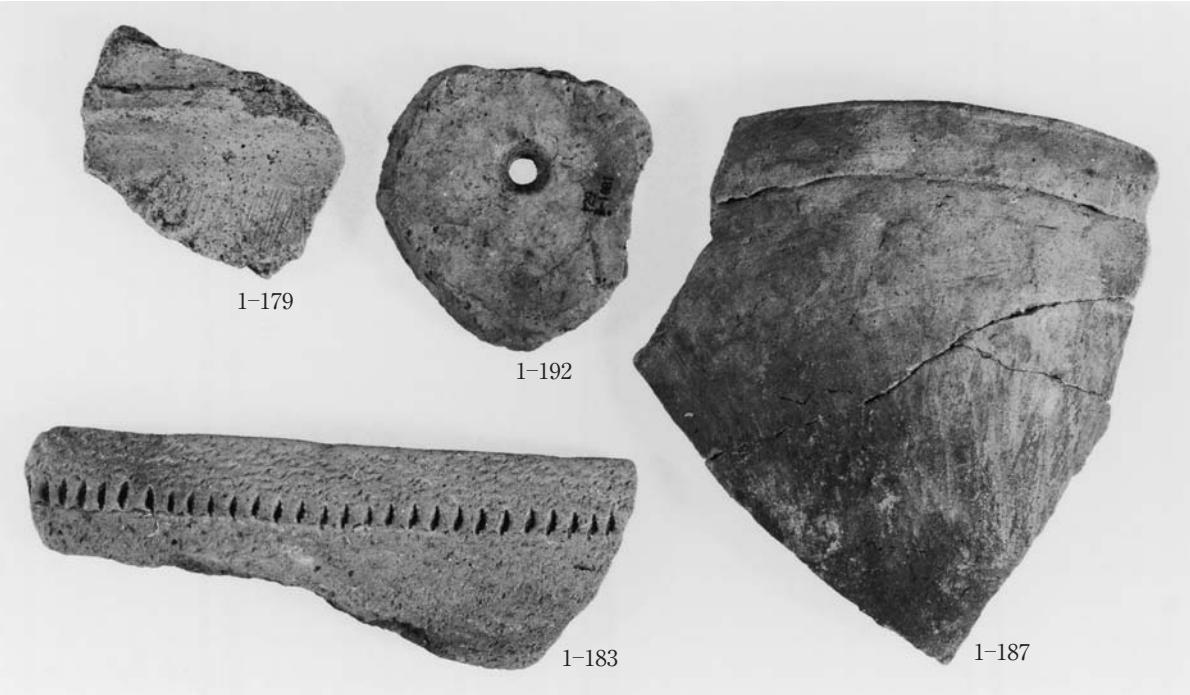
1–181

1–182

1–185

1–184

1–188



1–189

1–190

1–269

1–191

1–196

1–289

1–194

1–195

1–197

図版72

2–1

2–2

2–3

2–4

2–6

2–7

2–9

2–9底部

2–10

2–10底部

2–11

2–12

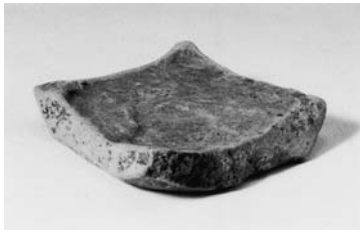
2–13

2–14

2–15

2–16

2–17


2–18

2–18底部

2–19

2–19底部

2–24

2–25

2–26

2–28

2–30

2–31

3–1

3–2

3–3

3–4

3–5

3–6

図版74

3–7

4–1

4–1底部

5–1

5–2

5–4

5–5

5–7

5–8

5–9

5–10

5–11

5–12

5–14

5–15

5–16

5–17

5–18

5–19

5–20

5–21

5–22

5–23

5–24

5–25

5–26

5–27

5–28

5–29

5–30

5–31

5–32

5–33

6–1

6–2

図版76

6–3

6–4

6–5

6–6

7–1

7–2

7–3

6–7

6–11

7–4

7–5

8–2

8–3

6–14

6–11底部

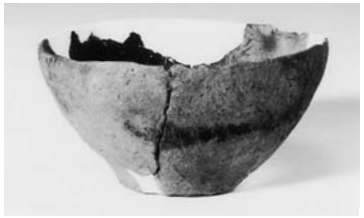
8–4

8–5

8–6

11–5

13–1


14–1

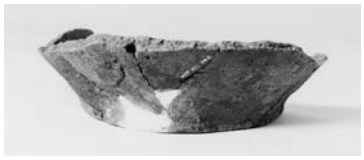
14–2

14–5

14–7

15–1

16–1


16–2

16–3

17–2

17–4

17–5

17–6

17–7

18–1

18–2

18–3

18–4

19–1

図版78

20–1

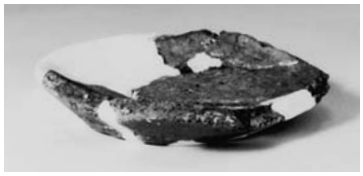
20–1底部

20–2

20–3

20–5

20–6


20–8

20–39

21–1

21–2

21–7

21–61

22–1

22–3

22–6

23–1

28–2

28–3

28–4

28–7

28–8

28–9

29–1

30–1

30–8

31–1

31–2

31–3

31–4

31–5

32–1

32–2

32–4

32–7

図版80

32–9

32–10

32–12

32–13

33–1

33–4

33–6

33–7

33–9

33–10

33–11

33–12

33–14

33–15

33–16

33–18

33–19

33–20

33–22

33–24

33–28

36–1

36–2

36–3

36–4

36–5

36–6

36–7

36–8

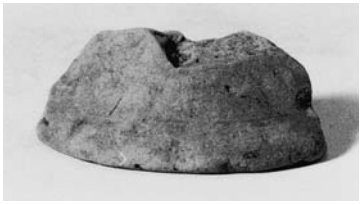
36–9

40–1

41–1

図版82

42–3


43–7

44–1

44–1底部

44–3

44–4

44–5

44–9

46–1

46–1内面

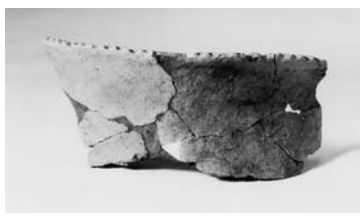
46–2

44–10

45–6

49–1

49–3


49–4

49–5

49–7

49–8

49–9

49–11

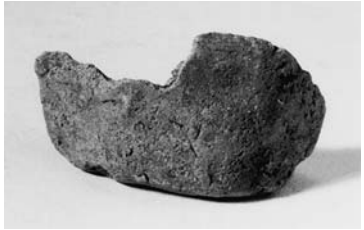
50–1

51–1

53–1

53–4

53–5


53–12

55–1

55–2

55–3

55–4

55–5

図版84

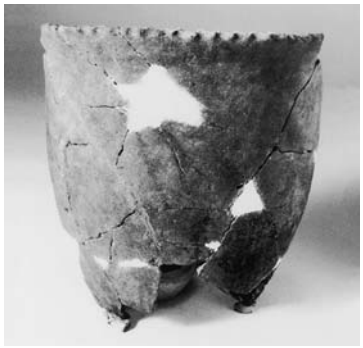
55–6

55–7

55–8

55–9

57–4



58–1

58–2

58–3

58–4

59–2

60–4

60–5

60–6

60–7

60–12

60–13

60–14

60–15

60–16

60–17

60–18

60–19

60–20

60–22

60–24

60–25

60–26

60–27

60–29

60–30

60–31

図版86

61–1

61–2

61–13

65–1

69–2

71–2

72–1

72–2

72–4

72–6

72–7

72–8

76–5

79–1

79–2

79–4

79–5

79–6

79–7

79–8

79–11

79–19

81–5

81–7

82–1

82–2

82–3

82–4

82–5

図版88

82–6

82–10

82–11

82–12

82–13

82–14

82–15

82–16

83–1

83–2

83–5

84–1

84–6

85–1

85–2

85–3

85–4

85–5

85–6

85–7

91–1

91–1底部

92–1

94–1

95–1

96–1

96–2

96–5

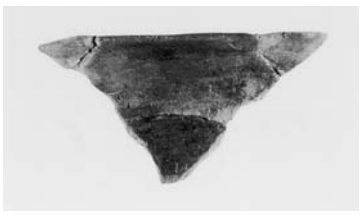
98–1

100–1

101–1

104–1

104–2


106–1

図版90

106–2

106–3

106–5

106–11

109–2

110–1

110–2

110–5

110–6

112–1

112–4

114–4

114–6

114–7

114–8

118–1

118–2

119–1

119–3

119–6

119–7

119–8

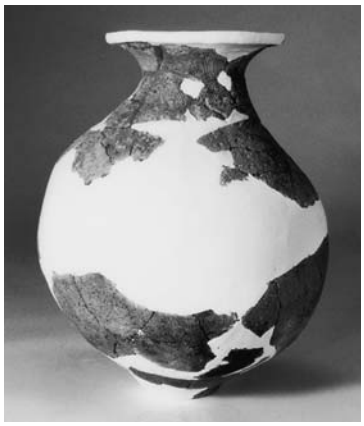
119–9

119–10

119–11

119–18

119–19


120–1

120–2

120–3

120–4

120–5

120–6

120–7

図版92

120–8

120–9

120–10

120–11

120–12

120–13

120–14

121–2

130–1

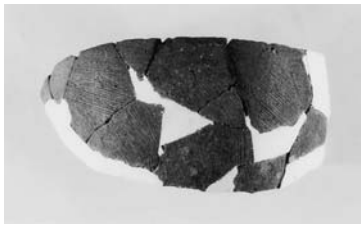
130–2

130–4

130–5

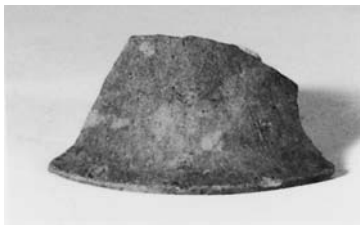
130–6

134–1


137–2

137–7

137–10


137–16

145–1

149–1

149–2

140–2

140–1

149–4

149–5

150–1

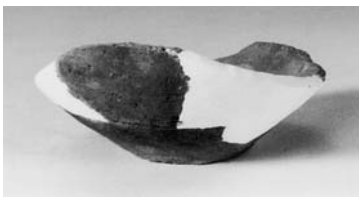
150–2

152–2

152–3

153–2

153–3


153–5

153–7

図版94

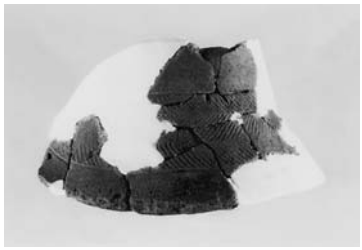
155–1

155–2

156–1

159–1

160–1


162–1

163–3

163–5

163–6

163–7

163–8

163–9

165–2

165–4

169–1

169–2

169–3

169–4

172–1

172–2

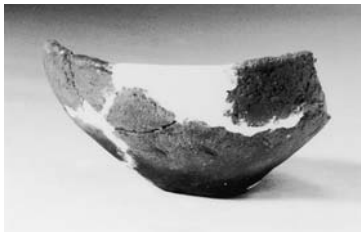
172–3

172–5

172–7

172–8

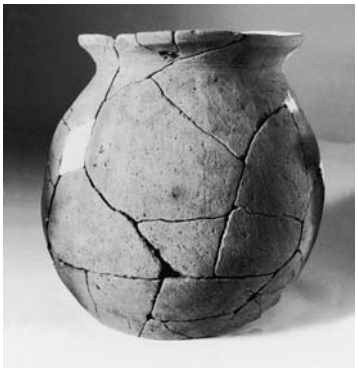
172–10


174–2

174–5

174–6

174–8


179–1

179–2

図版96

179–3

179–4

179–5

179–7

179–8

179–9

180–1

183–1

183–2

184–1

185–1

185–2

186–1

186–2

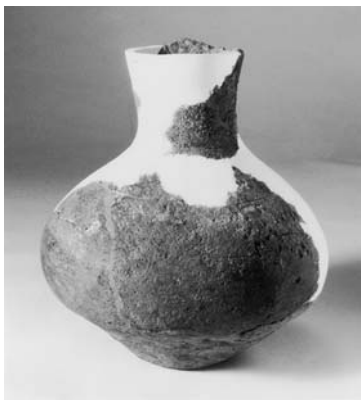
186–3

186–5

186–6

186–7

187–1


187–2

188–1

189–22

189–23

193–1

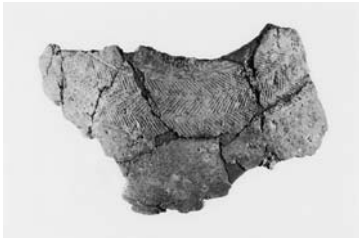
193–3

193–20

193–21

図版98

193–22


193–32

195–1

195–2

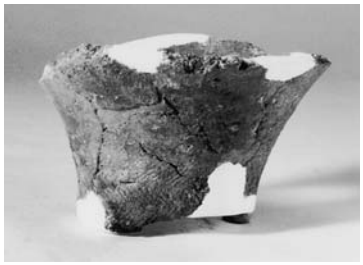
195–3

195–4

195–5

195–6

195–7


195–8

195–11

195–39

196–1

197–1

197–2

199–38

199–39

199–40

199–48

199–55

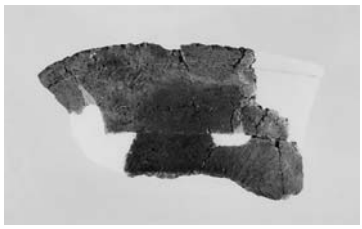
199–57

201–1

201–3

201–5

201–6


202–1

202–2

202–3

204–1

206–46

210–1

211–9

図版100

211–10

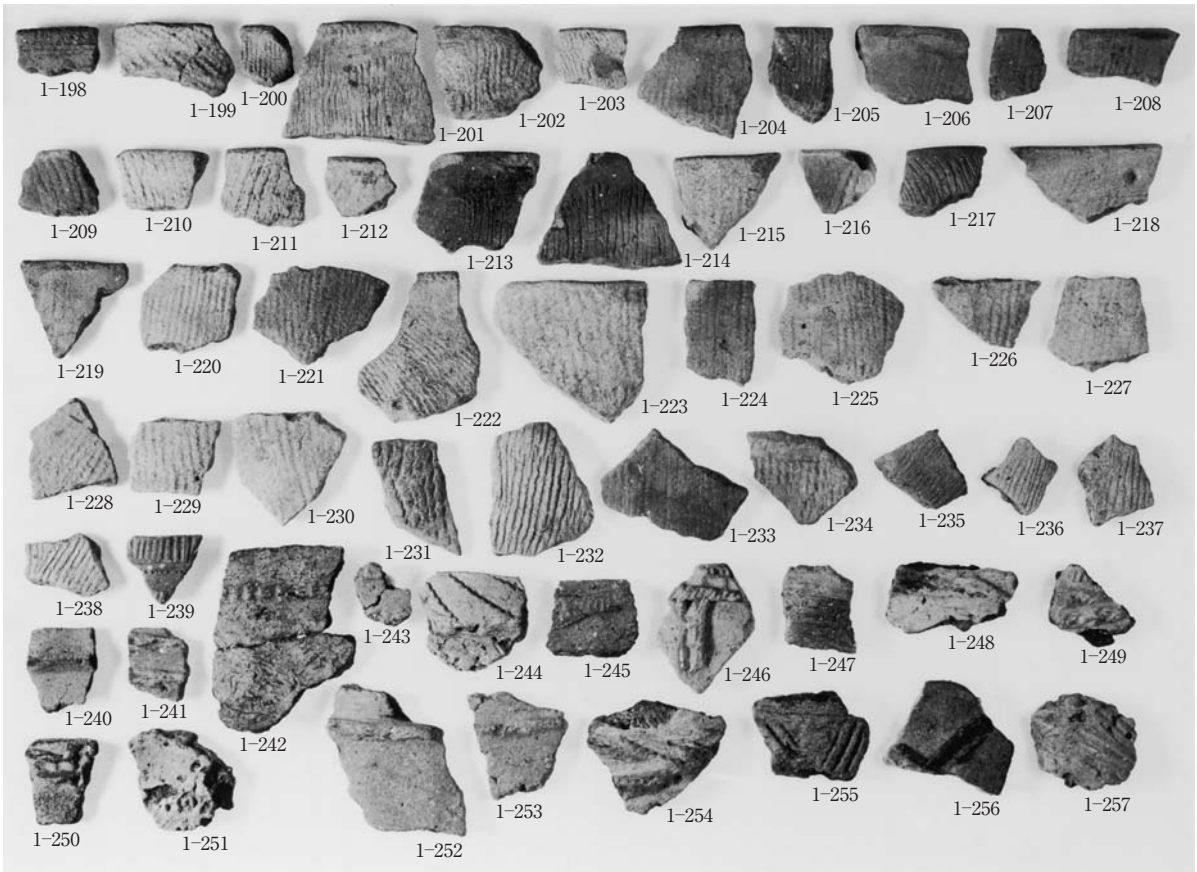
211–12

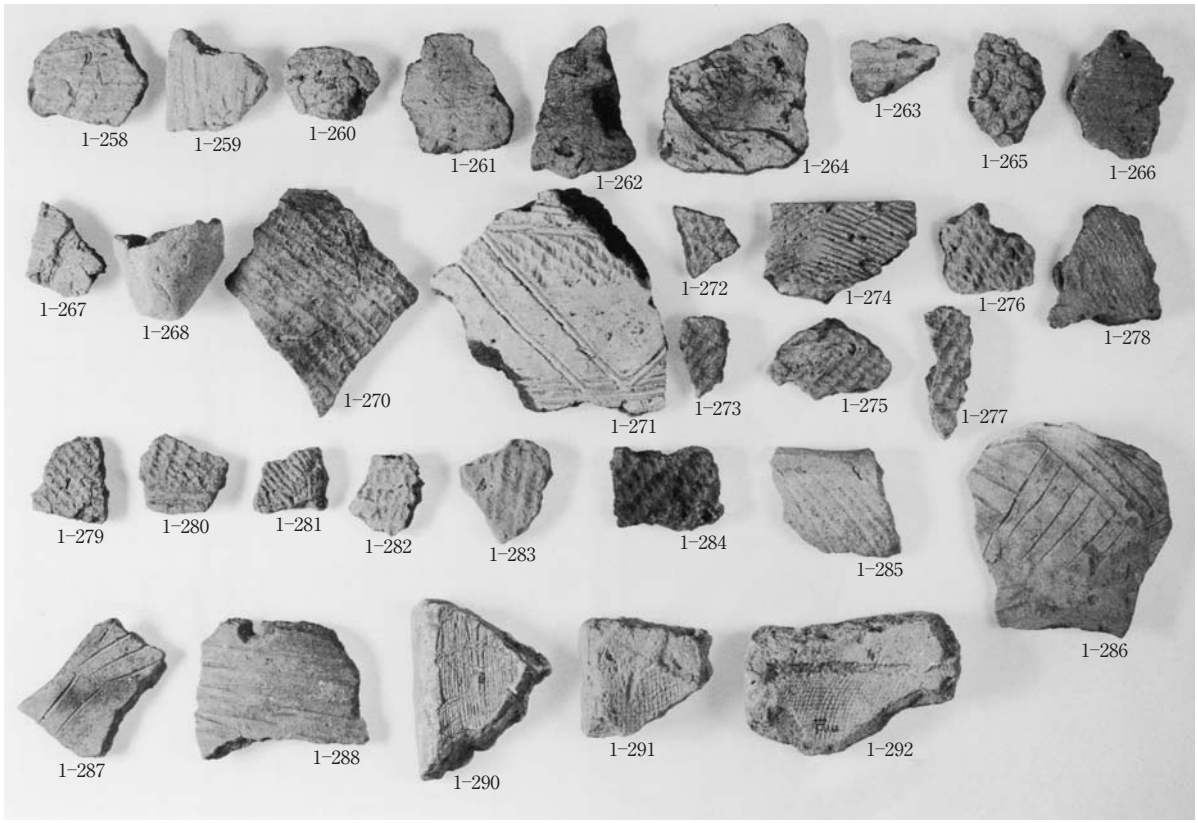
211–11

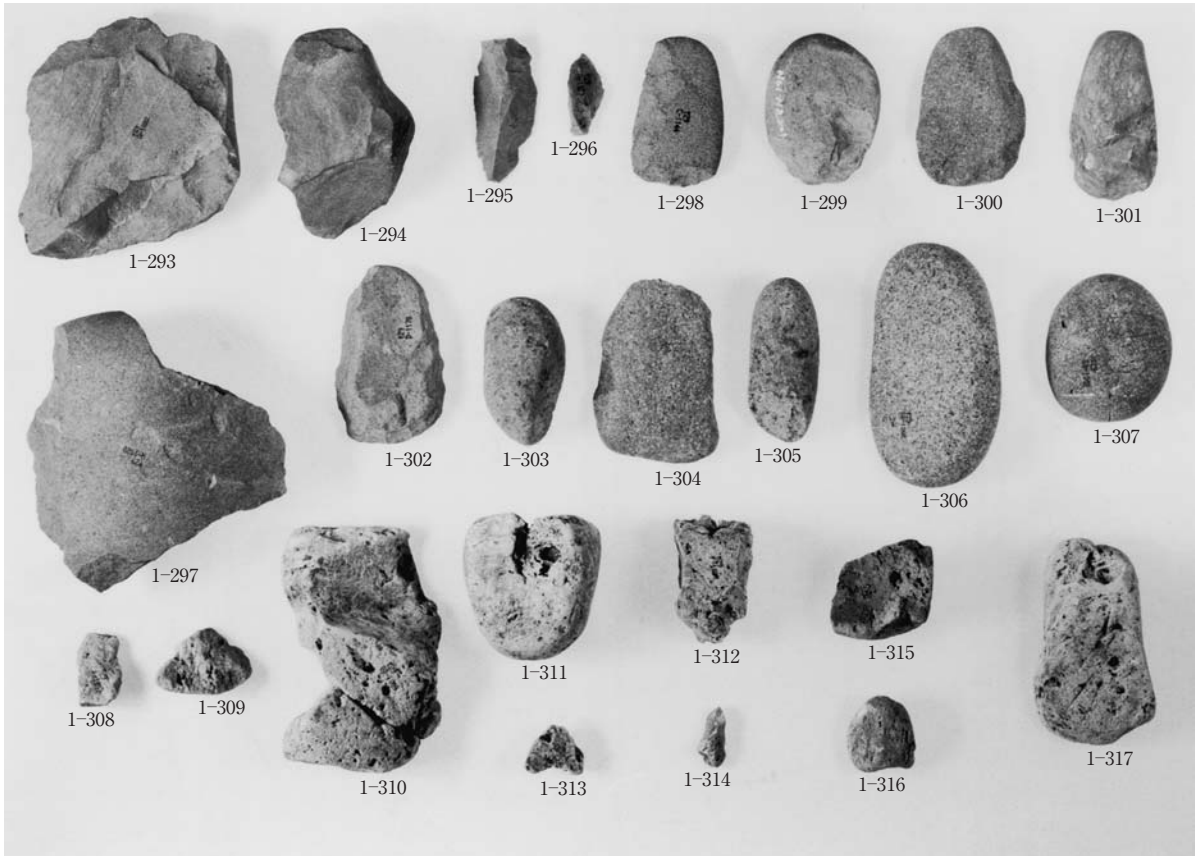
グリット4(C–6)

グリット11(F–8)

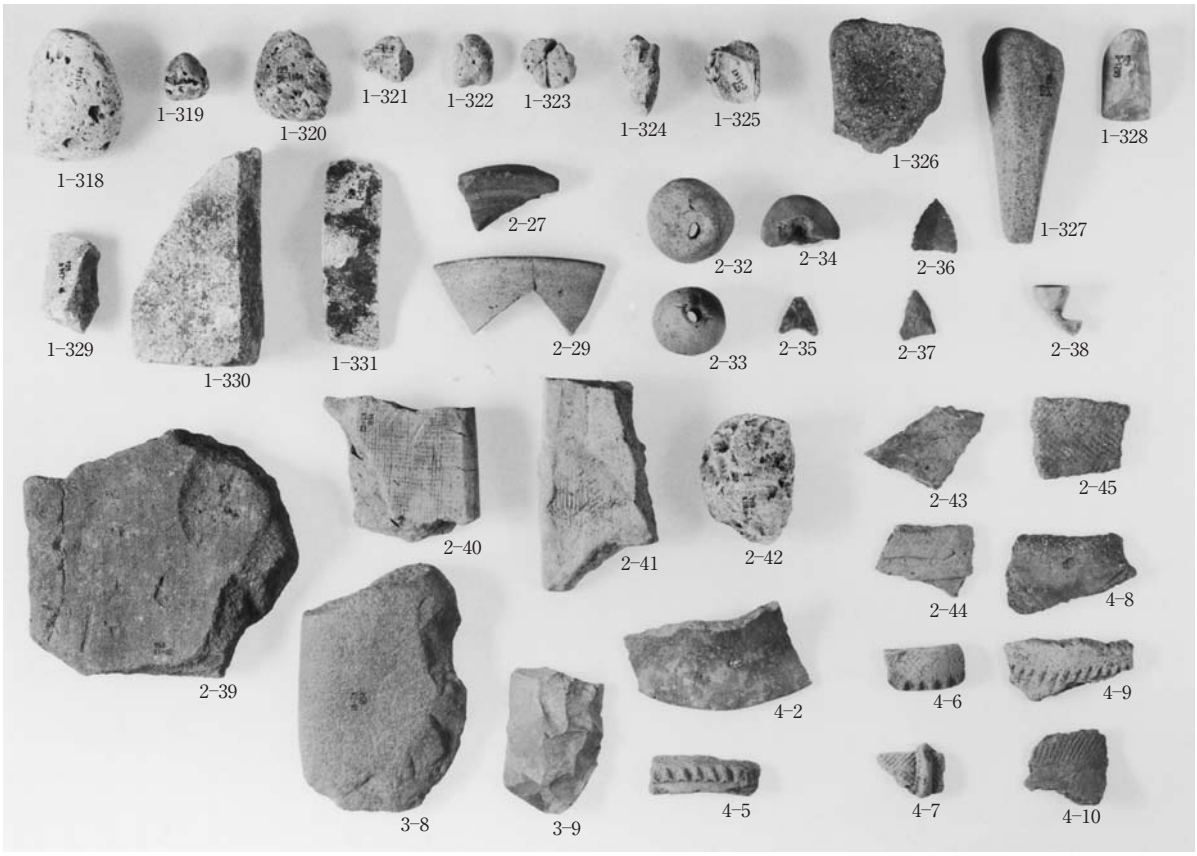
グリット12(I–9)

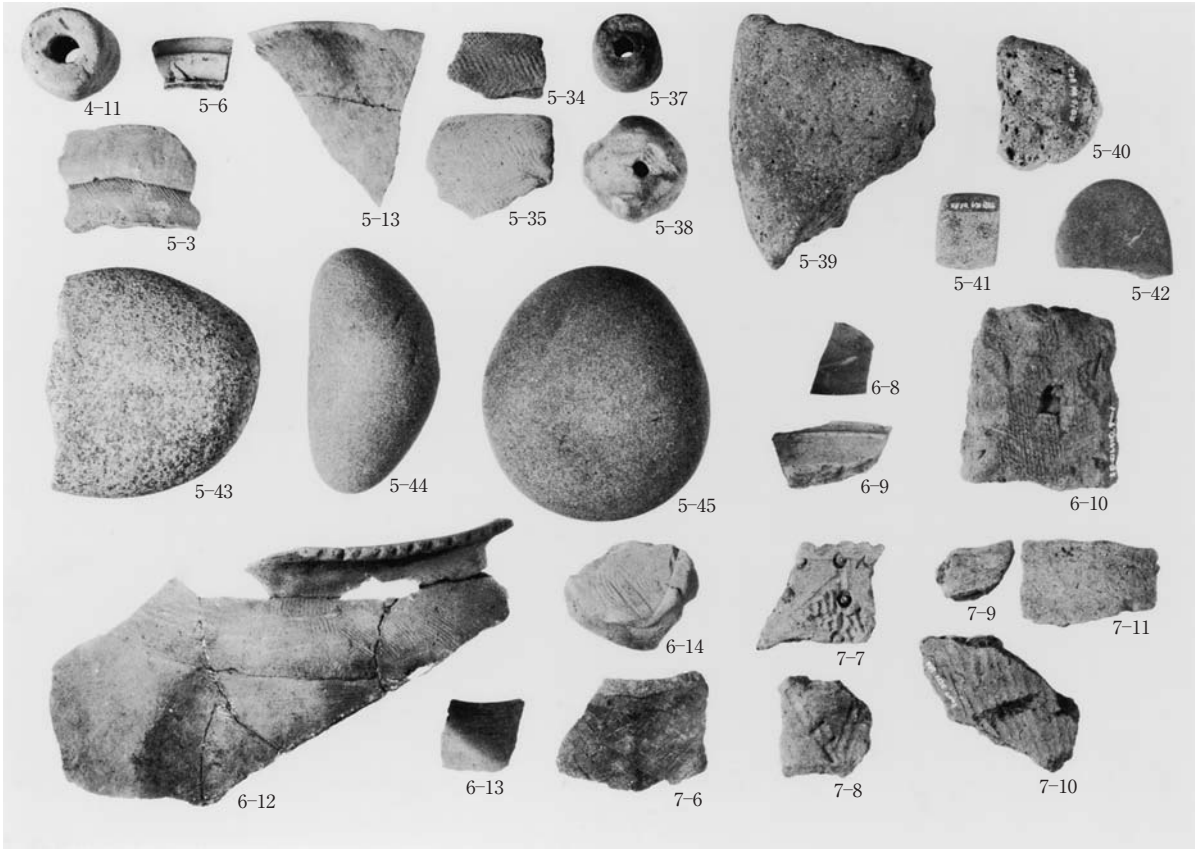



1–258
1–259
1–260
1–261
1–262
1–263
1–264
1–265
1–266
1–267
1–268
1–270
1–271
1–272
1–273
1–274
1–275
1–276
1–277
1–278
1–279
1–280
1–281
1–282
1–283
1–284
1–285
1–286
1–287
1–288
1–290
1–291
1–292

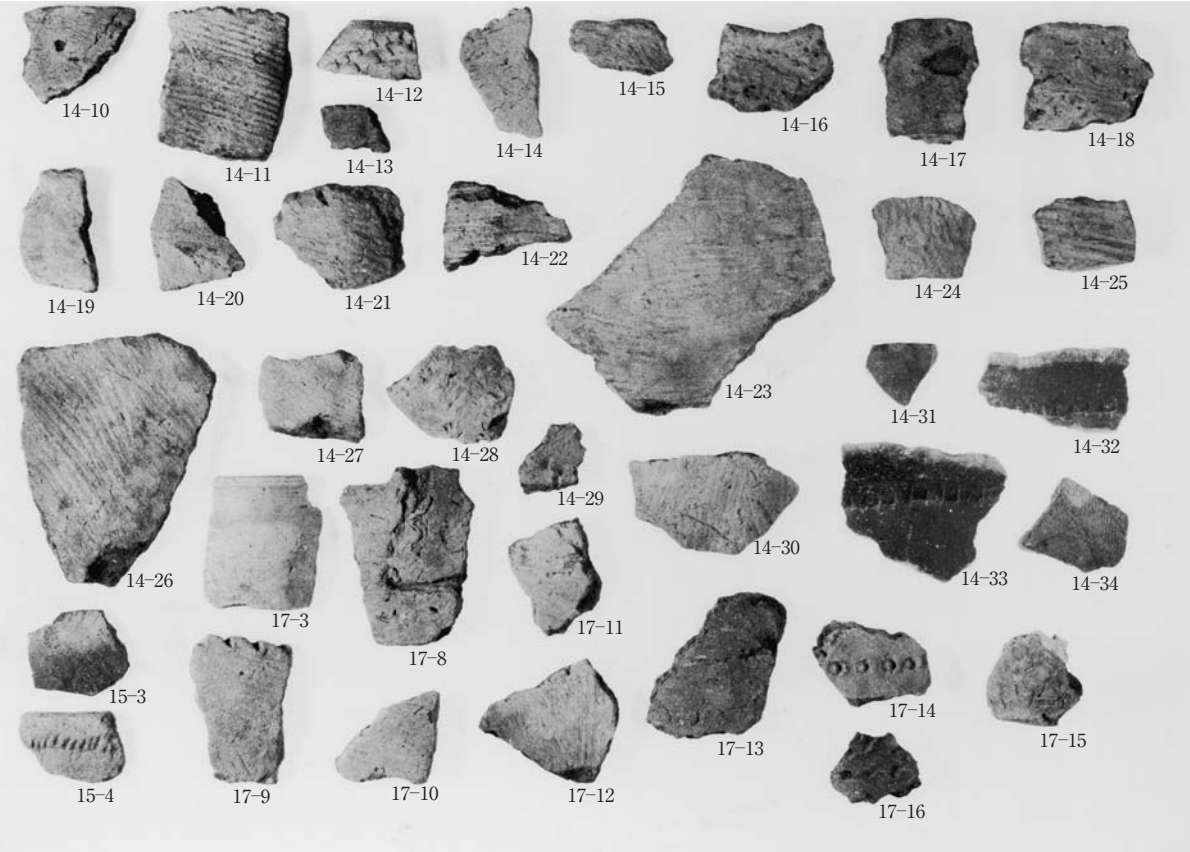

1–293
1–294
1–295
1–296
1–298
1–299
1–300
1–301
1–297
1–302
1–303
1–304
1–305
1–306
1–307
1–308
1–309
1–310
1–311
1–312
1–313
1–314
1–315
1–316
1–317

図版102

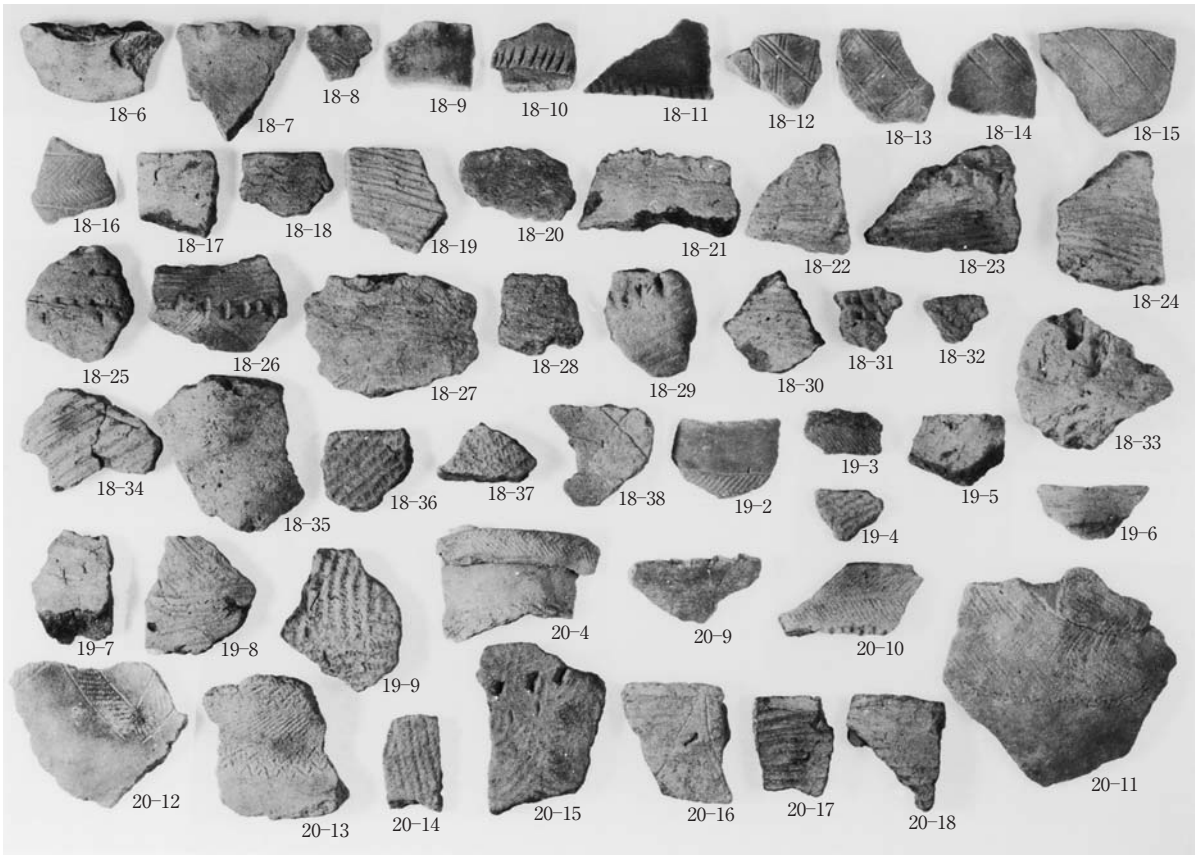

1–318
1–319
1–320
1–321
1–322
1–323
1–324
1–325
1–326
1–327
1–328
1–329
1–330
1–331
2–27
2–29
2–32
2–33
2–34
2–35
2–36
2–37
2–38
2–39
2–40
2–41
2–42
2–43
2–44
2–45
3–8
3–9
4–2
4–5
4–6
4–7
4–8
4–9
4–10

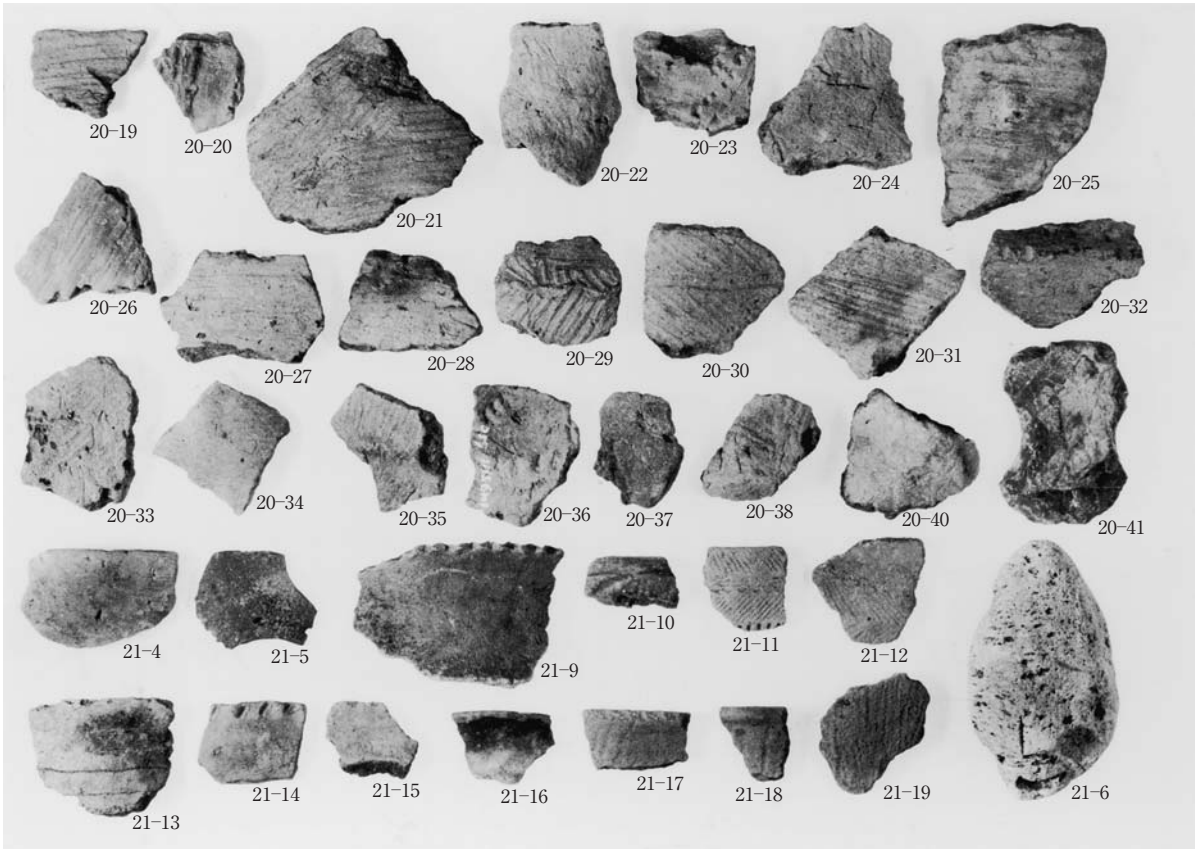

4–11
5–6
5–3
5–13
5–34
5–35
5–37
5–38
5–39
5–40
5–41
5–42
5–43
5–44
5–45
6–8
6–9
6–10
6–12
6–13
6–14
7–6
7–7
7–8
7–9
7–10
7–11

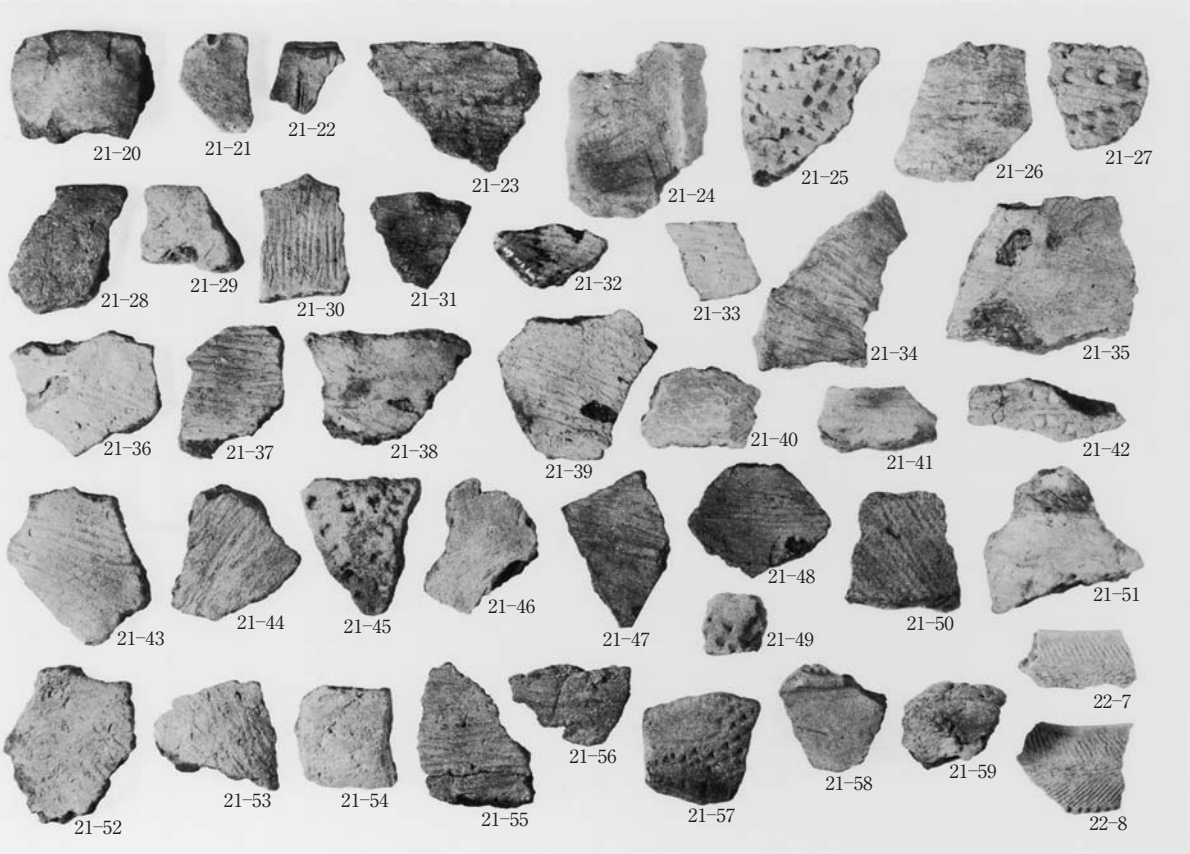
7–12
7–13
7–14
7–15
7–16
7–17
7–18
7–19
7–20
7–21
7–22
7–23
7–24
7–25
7–26
7–27
9–1
9–2
9–3
9–4
9–5
9–6
9–7
9–8
10–1
10–2
10–3
10–4
11–1
11–2
11–3
11–4
13–2
13–3
13–4
14–3
14–4
14–8
14–9

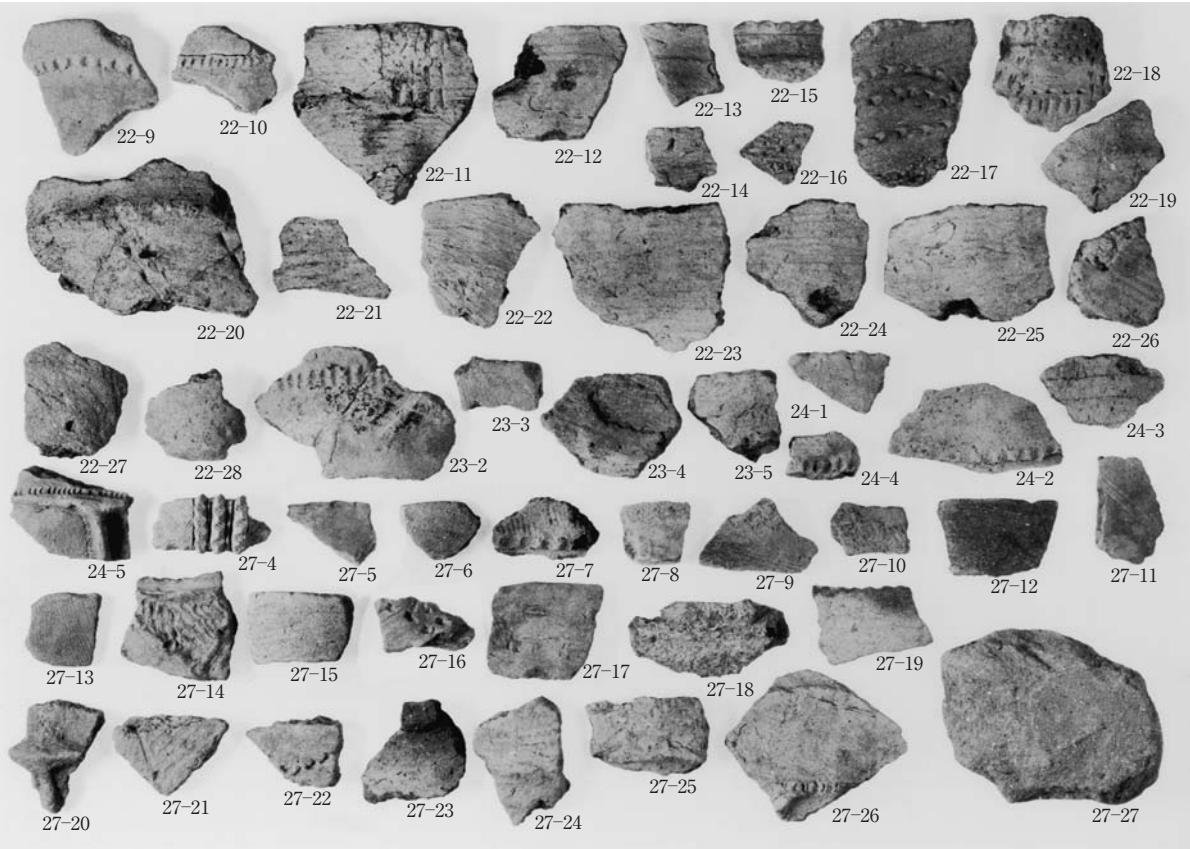

14–10
14–11
14–12
14–13
14–14
14–15
14–16
14–17
14–18
14–19
14–20
14–21
14–22
14–23
14–24
14–25
14–26
14–27
14–28
14–29
14–30
14–31
14–32
14–33
14–34
15–3
15–4
17–3
17–8
17–9
17–10
17–11
17–12
17–13
17–14
17–15
17–16

図版104

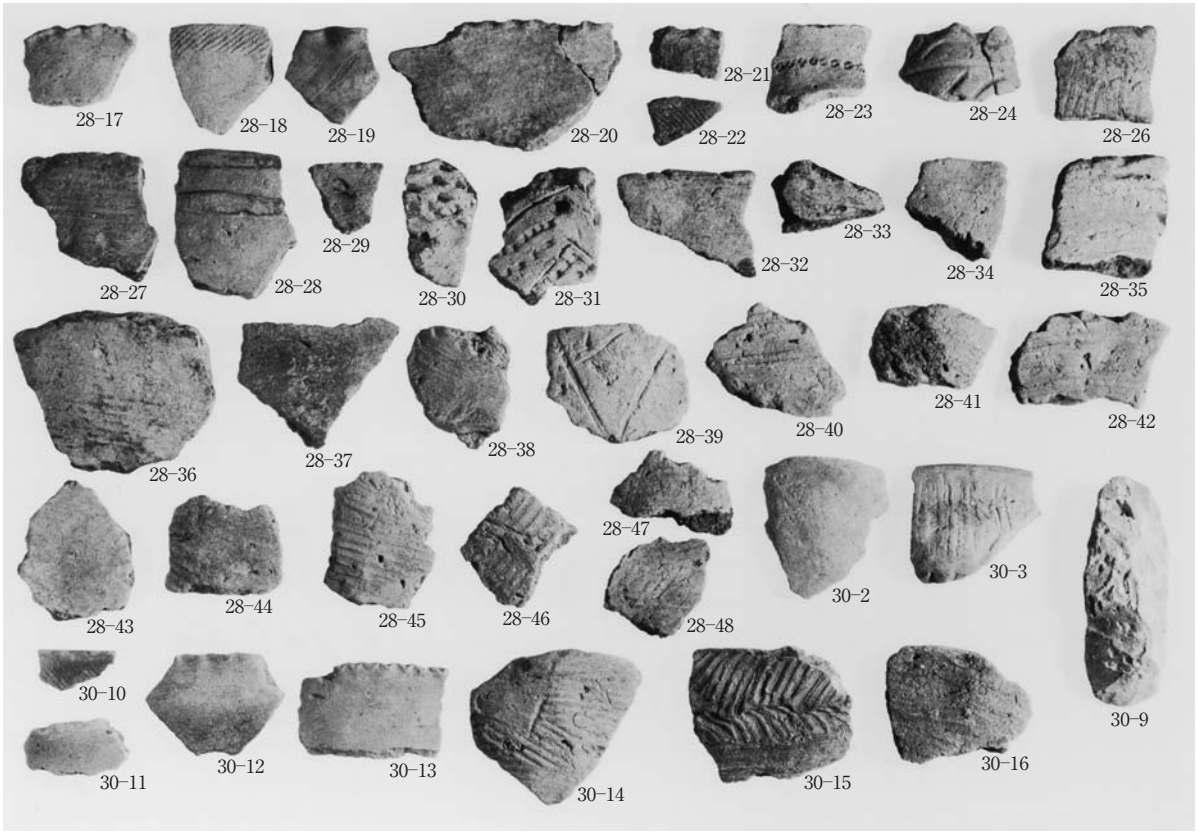

18–6
18–7
18–8
18–9
18–10
18–11
18–12
18–13
18–14
18–15
18–16
18–17
18–18
18–19
18–20
18–21
18–22
18–23
18–24
18–25
18–26
18–27
18–28
18–29
18–30
18–31
18–32
18–33
18–34
18–35
18–36
18–37
18–38
19–2
19–3
19–4
19–5
19–6
19–7
19–8
19–9
20–4
20–9
20–10
20–11
20–12
20–13
20–14
20–15
20–16
20–17
20–18

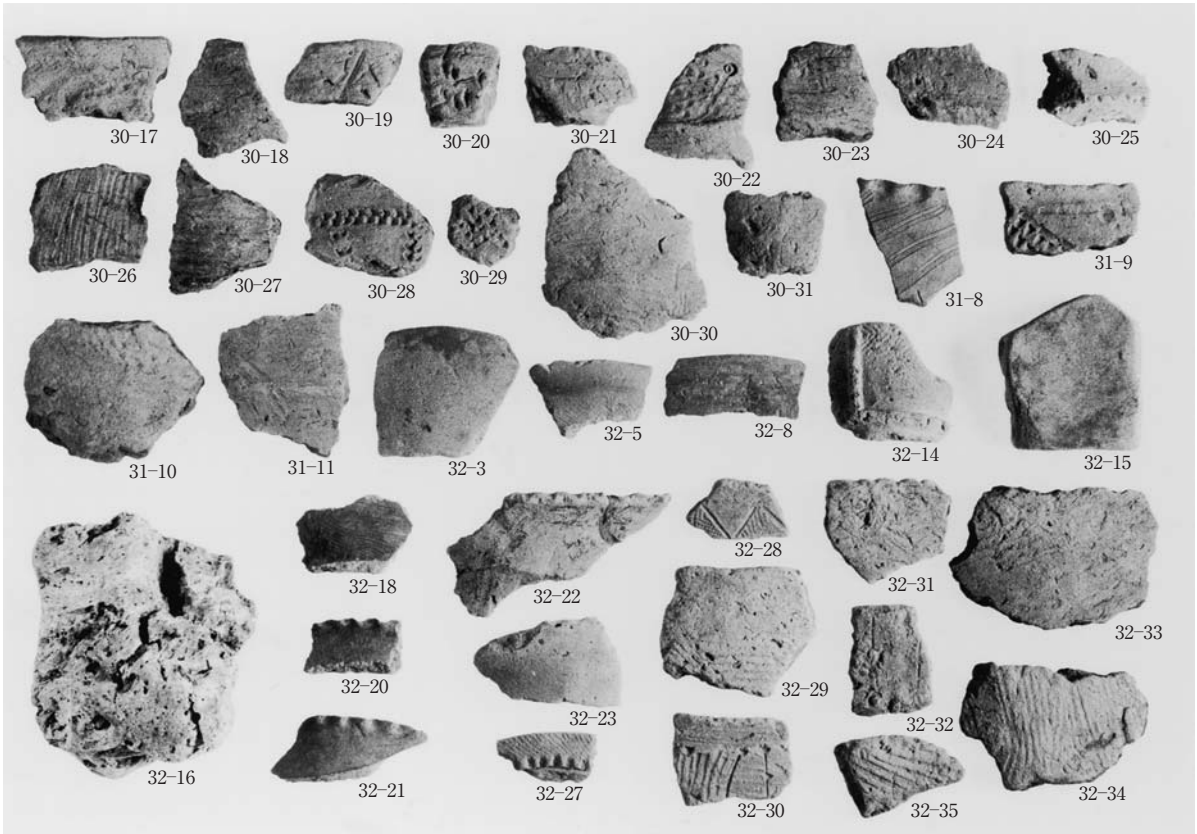

20–19
20–20
20–21
20–22
20–23
20–24
20–25
20–26
20–27
20–28
20–29
20–30
20–31
20–32
20–33
20–34
20–35
20–36
20–37
20–38
20–40
20–41
21–4
21–5
21–9
21–10
21–11
21–12
21–13
21–14
21–15
21–16
21–17
21–18
21–19
21–6

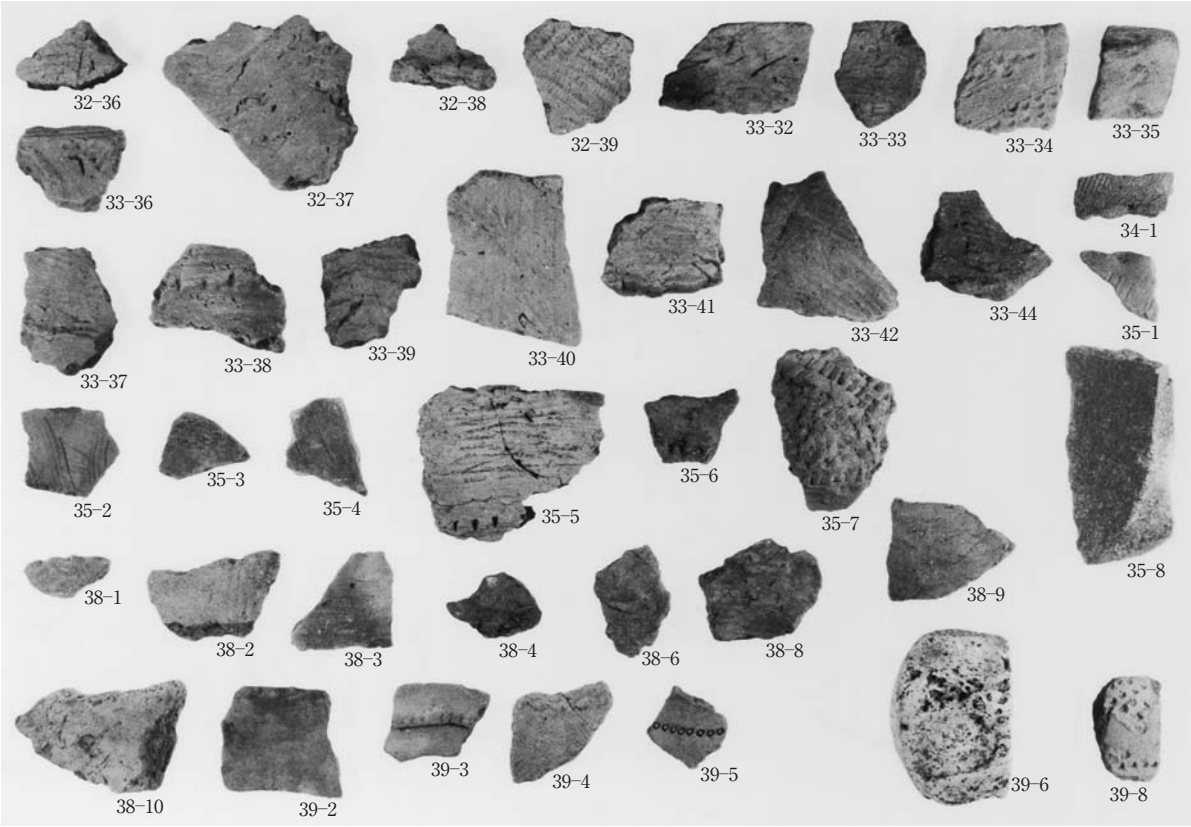

21–20
21–21
21–22
21–23
21–24
21–25
21–26
21–27
21–28
21–29
21–30
21–31
21–32
21–33
21–34
21–35
21–36
21–37
21–38
21–39
21–40
21–41
21–42
21–43
21–44
21–45
21–46
21–47
21–48
21–49
21–50
21–51
21–52
21–53
21–54
21–55
21–56
21–57
21–58
21–59
22–7
22–8

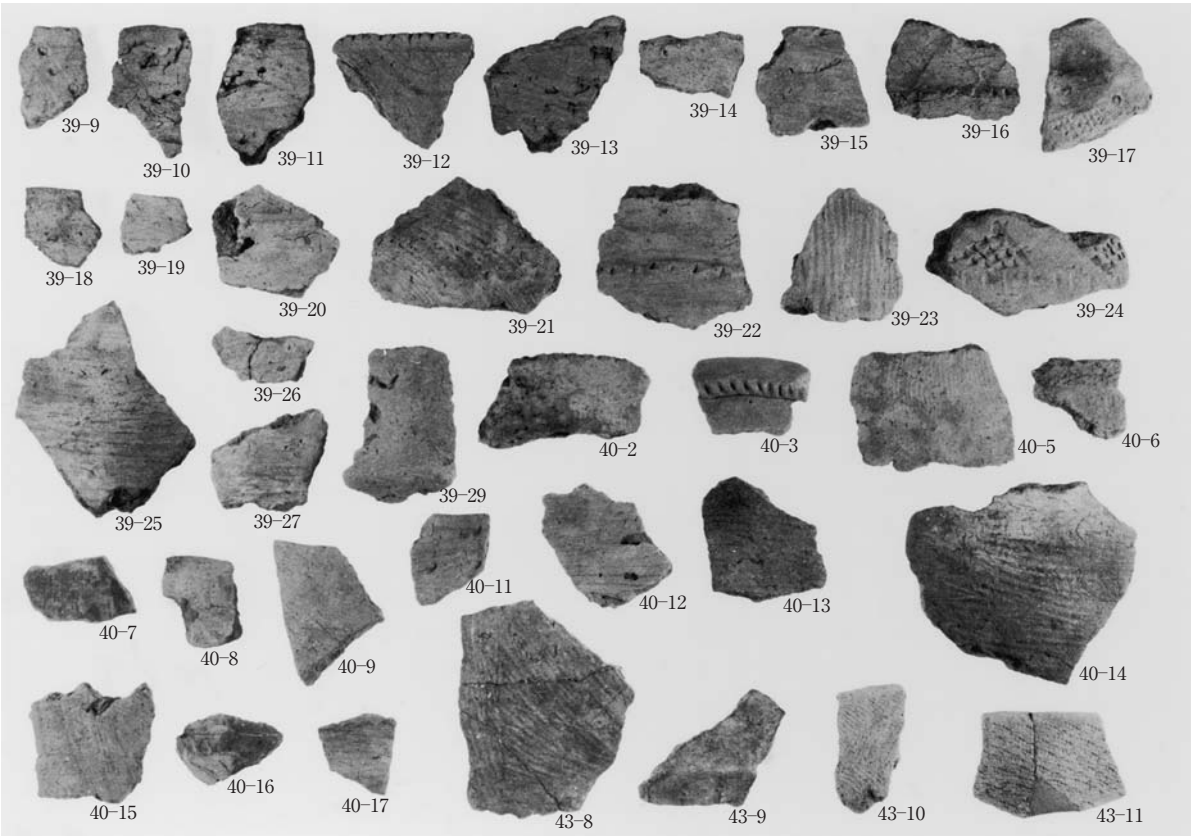

22–9
22–10
22–11
22–12
22–13
22–15
22–18
22–14
22–16
22–17
22–19
22–20
22–21
22–22
22–23
22–24
22–25
22–26
22–27
22–28
23–2
23–3
23–4
23–5
24–1
24–2
24–3
24–4
24–5
27–4
27–5
27–6
27–7
27–8
27–9
27–10
27–11
27–12
27–13
27–14
27–15
27–16
27–17
27–18
27–19
27–20
27–21
27–22
27–23
27–24
27–25
27–26
27–27

図版106

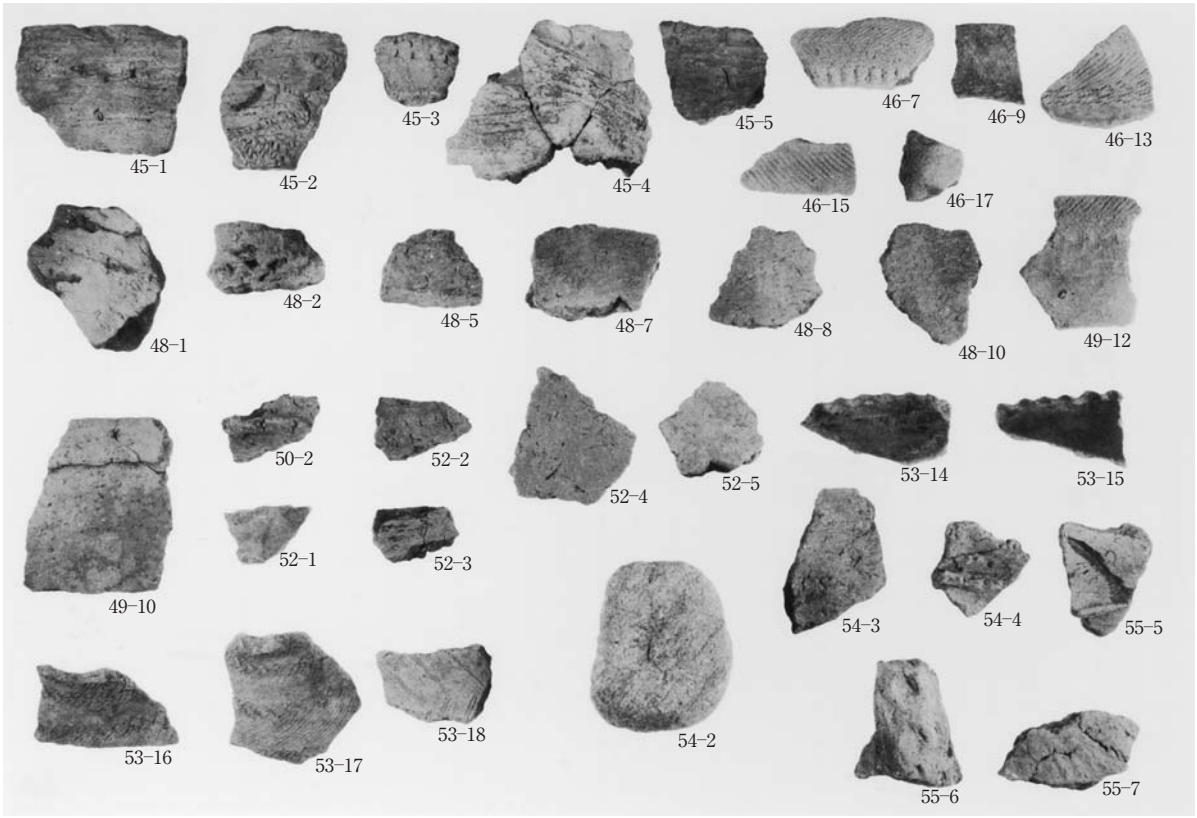

28–17
28–18
28–19
28–20
28–21
28–22
28–23
28–24
28–26
28–27
28–28
28–29
28–30
28–31
28–32
28–33
28–34
28–35
28–36
28–37
28–38
28–39
28–40
28–41
28–42
28–43
28–44
28–45
28–46
28–47
28–48
30–2
30–3
30–9
30–10
30–11
30–12
30–13
30–14
30–15
30–16

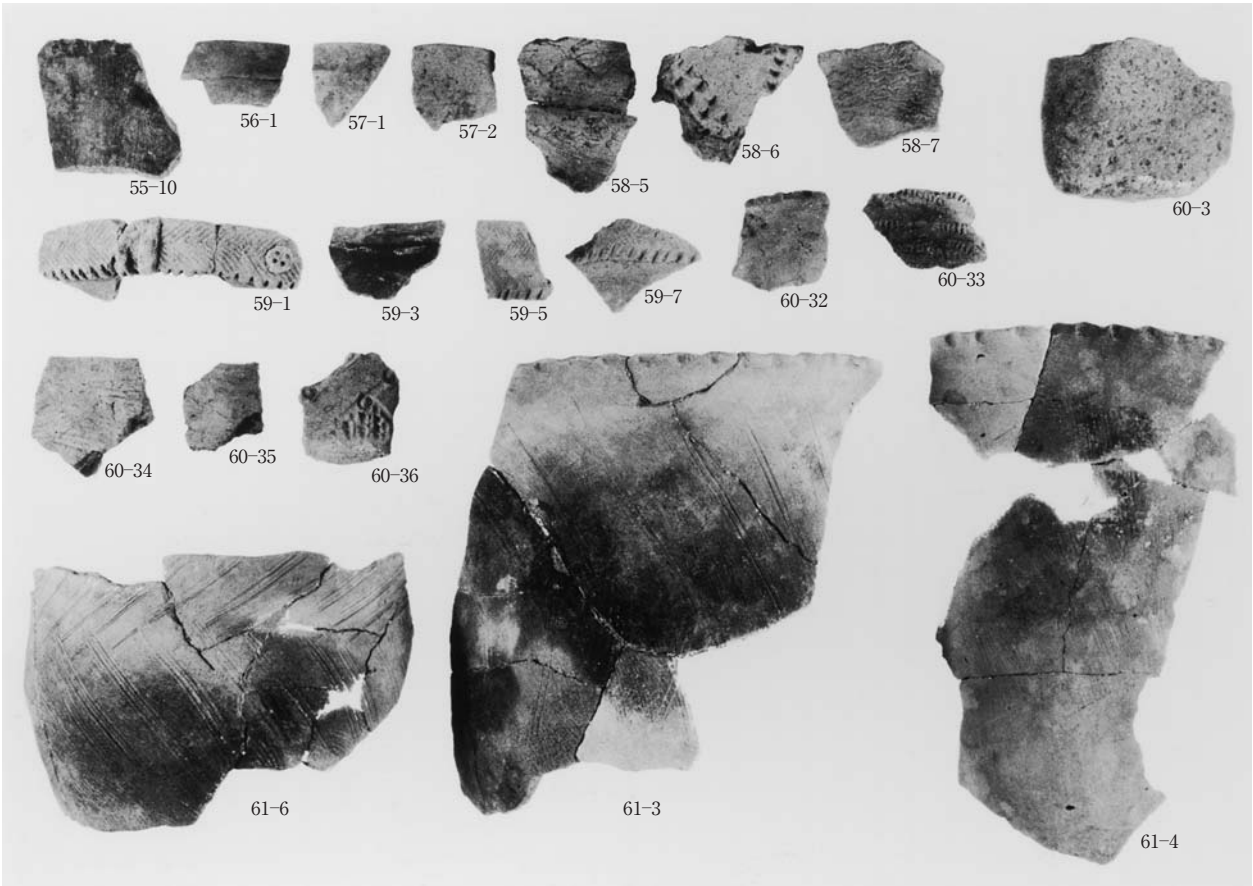

30–17
30–18
30–19
30–20
30–21
30–22
30–23
30–24
30–25
30–26
30–27
30–28
30–29
30–30
30–31
31–8
31–9
31–10
31–11
32–3
32–5
32–8
32–14
32–15
32–16
32–18
32–20
32–21
32–22
32–23
32–27
32–28
32–29
32–30
32–31
32–32
32–33
32–34
32–35

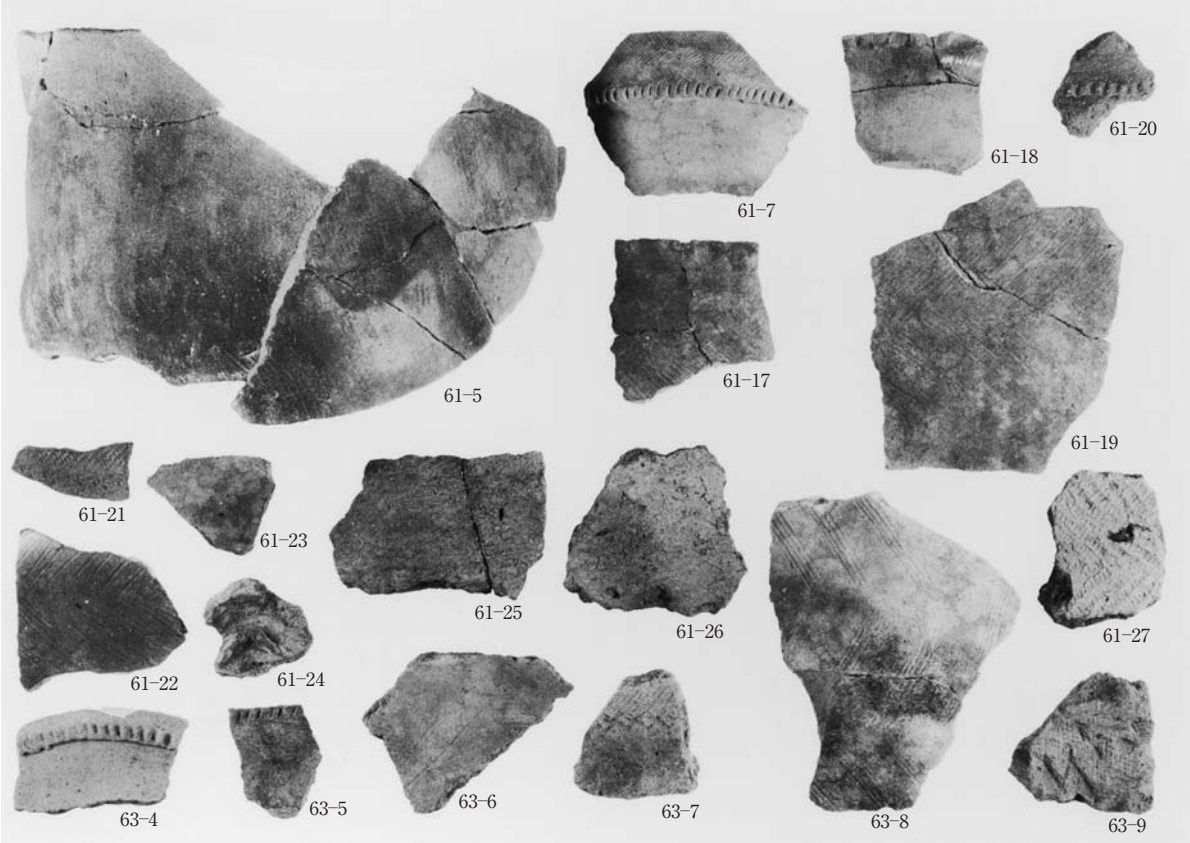

32–36
32–37
32–38
32–39
33–32
33–33
33–34
33–35
33–36
34–1
33–41
33–42
33–44
35–1
33–37
33–38
33–39
33–40
35–2
35–3
35–4
35–5
35–6
35–7
35–8
38–1
38–2
38–3
38–4
38–6
38–8
38–9
38–10
39–2
39–3
39–4
39–5
39–6
39–8

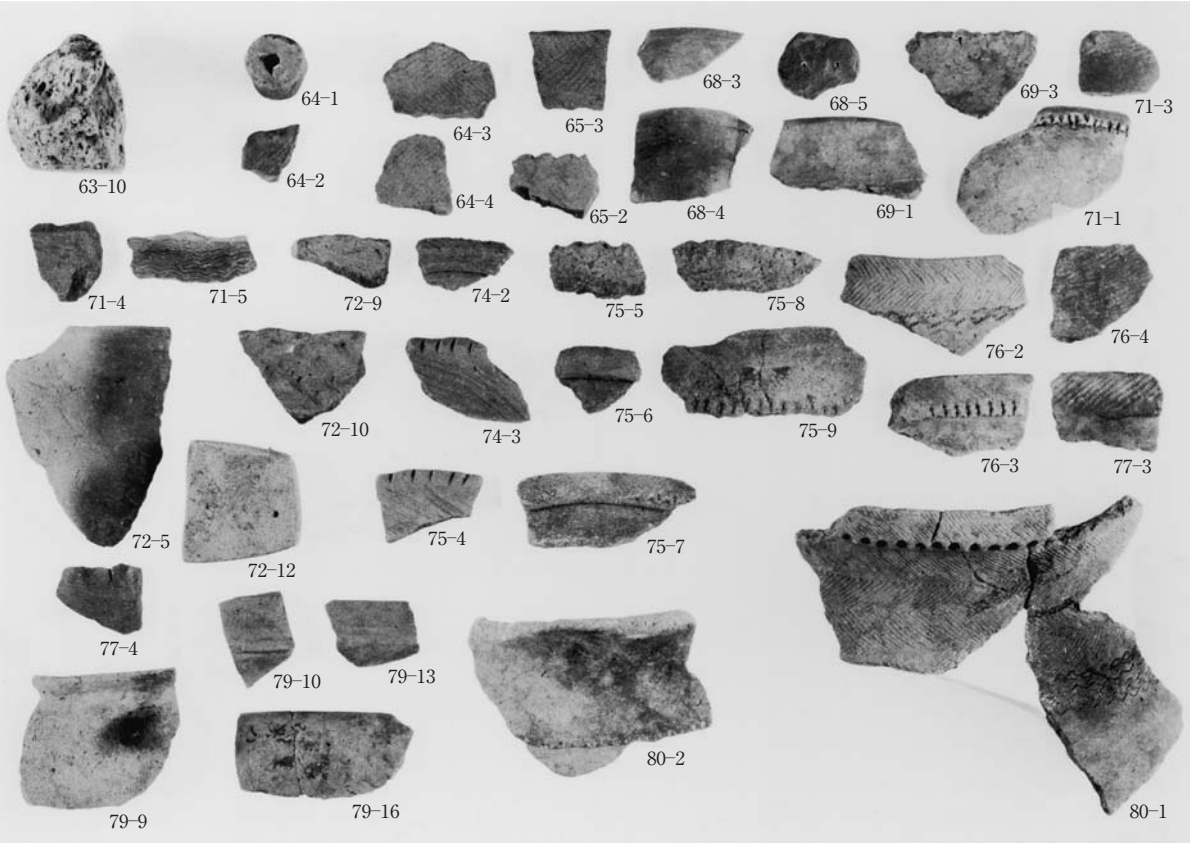

39–9
39–10
39–11
39–12
39–13
39–14
39–15
39–16
39–17
39–18
39–19
39–20
39–21
39–22
39–23
39–24
39–25
39–26
39–27
39–29
40–2
40–3
40–5
40–6
40–7
40–8
40–9
40–11
40–12
40–13
40–14
40–15
40–16
40–17
43–8
43–9
43–10
43–11

図版108

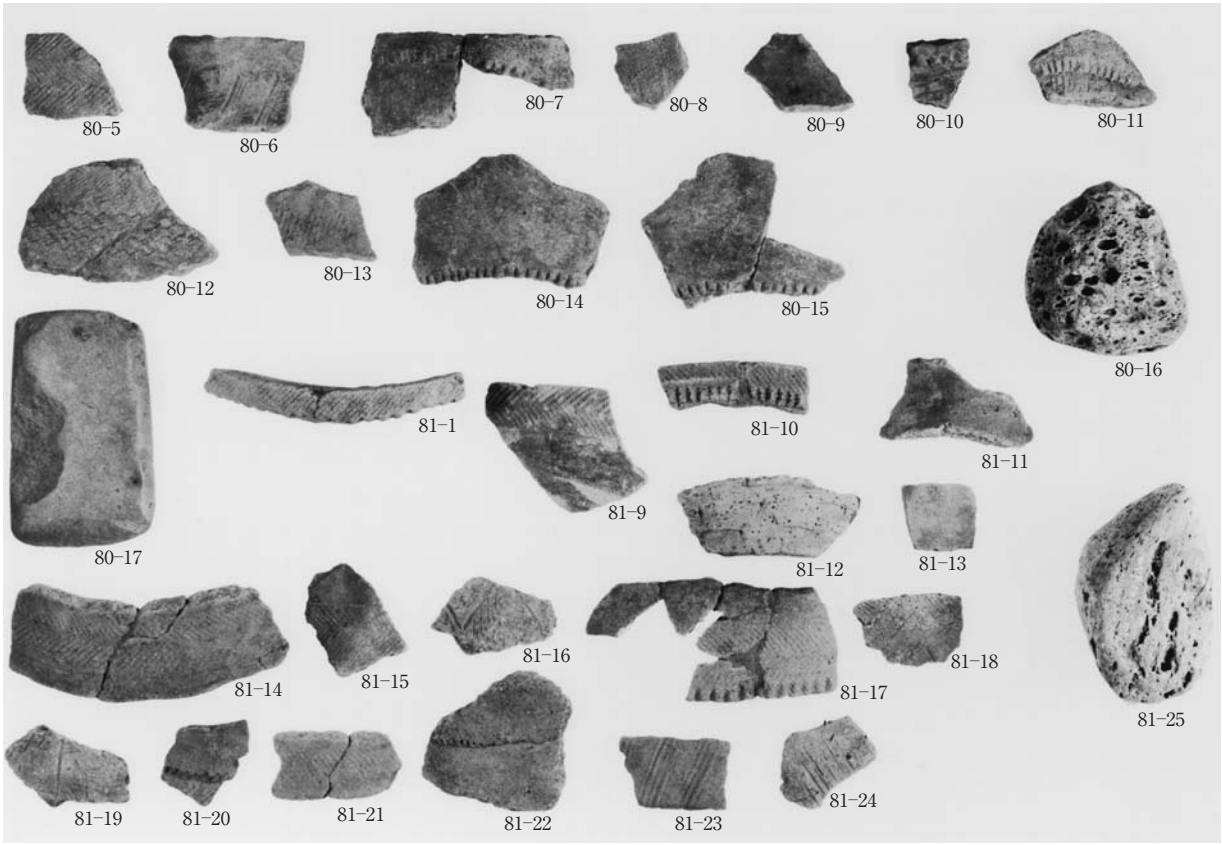

45–1
45–2
45–3
45–4
45–5
46–7
46–9
46–13
46–15
46–17
48–1
48–2
48–5
48–7
48–8
48–10
49–12
49–10
50–2
52–2
52–4
52–5
53–14
53–15
52–1
52–3
54–3
54–4
55–5
53–16
53–17
53–18
54–2
55–6
55–7

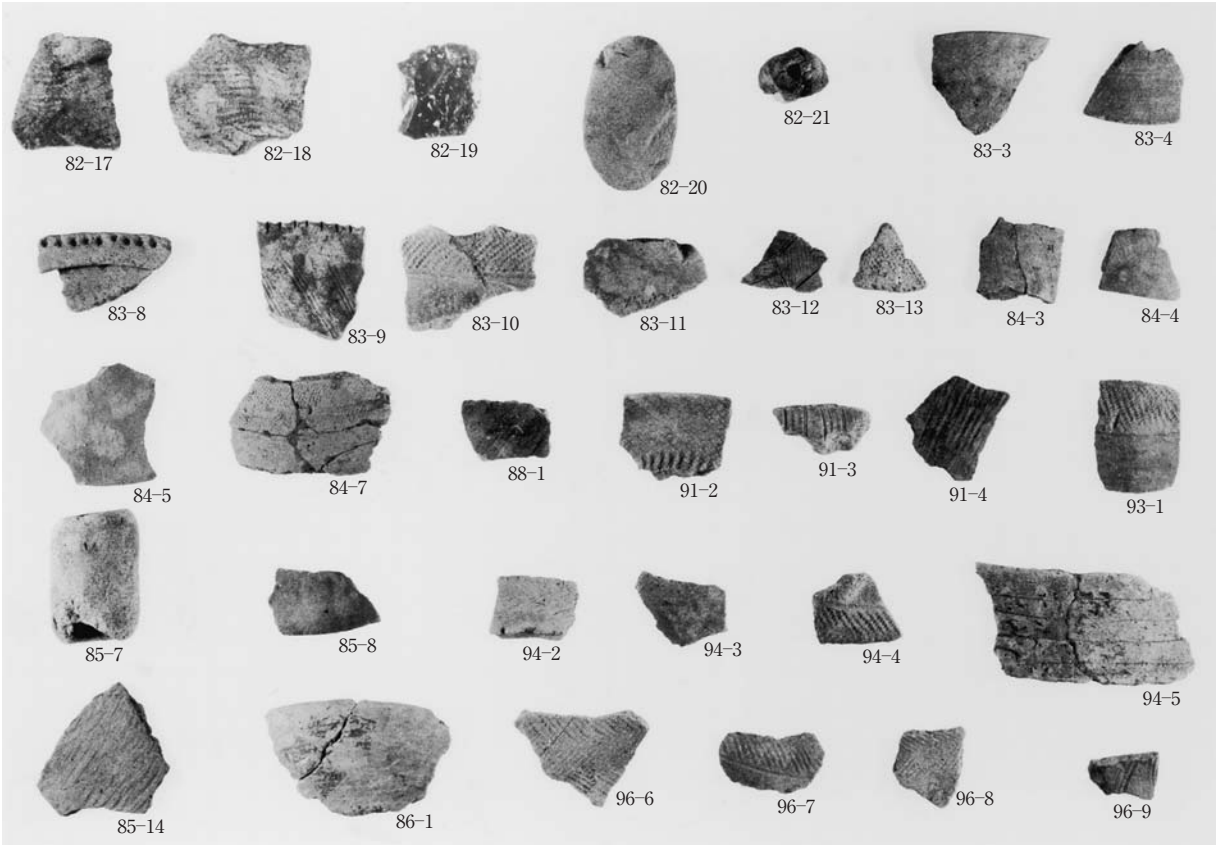

55–10
56–1
57–1
57–2
58–5
58–6
58–7
60–3
59–1
59–3
59–5
59–7
60–32
60–33
60–34
60–35
60–36
61–6
61–3
61–4

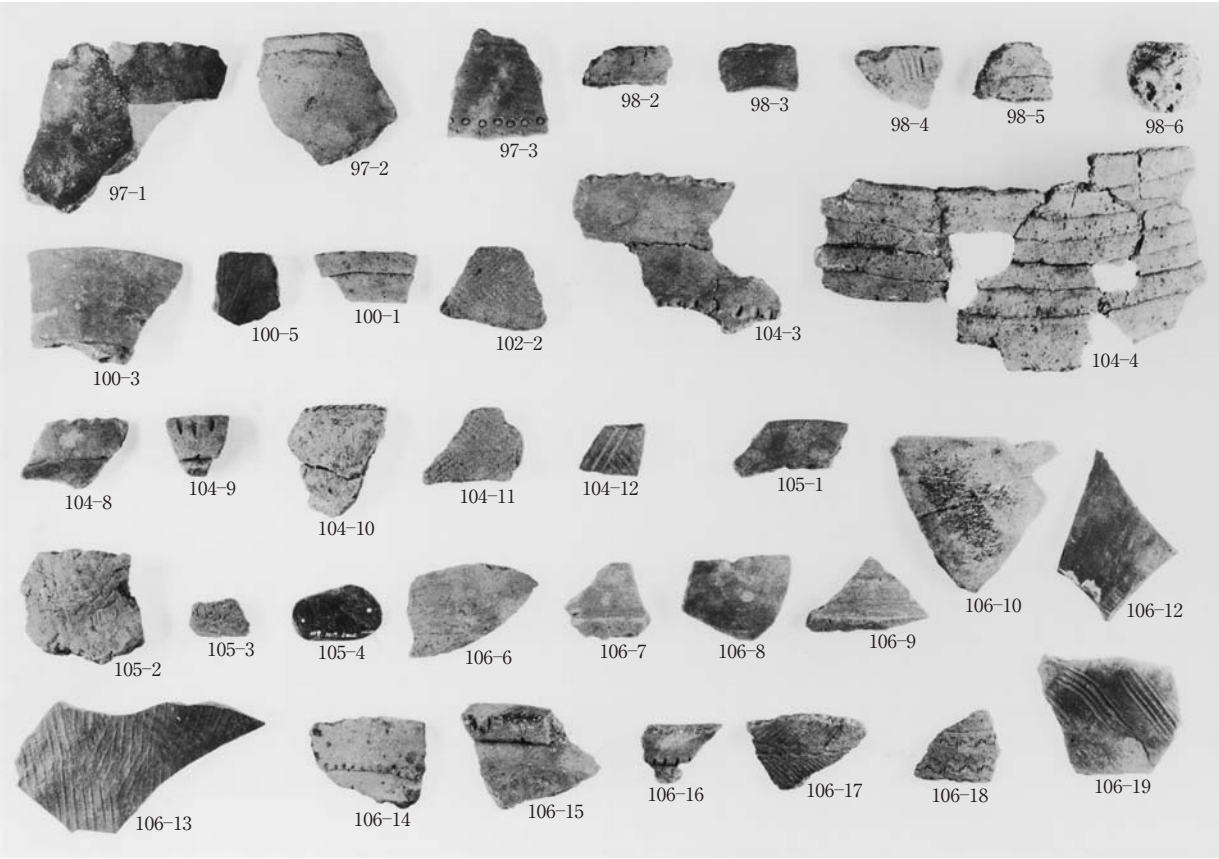

61–5
61–7
61–17
61–18
61–20
61–19
61–21
61–23
61–25
61–26
61–22
61–24
61–27
63–4
63–5
63–6
63–7
63–8
63–9

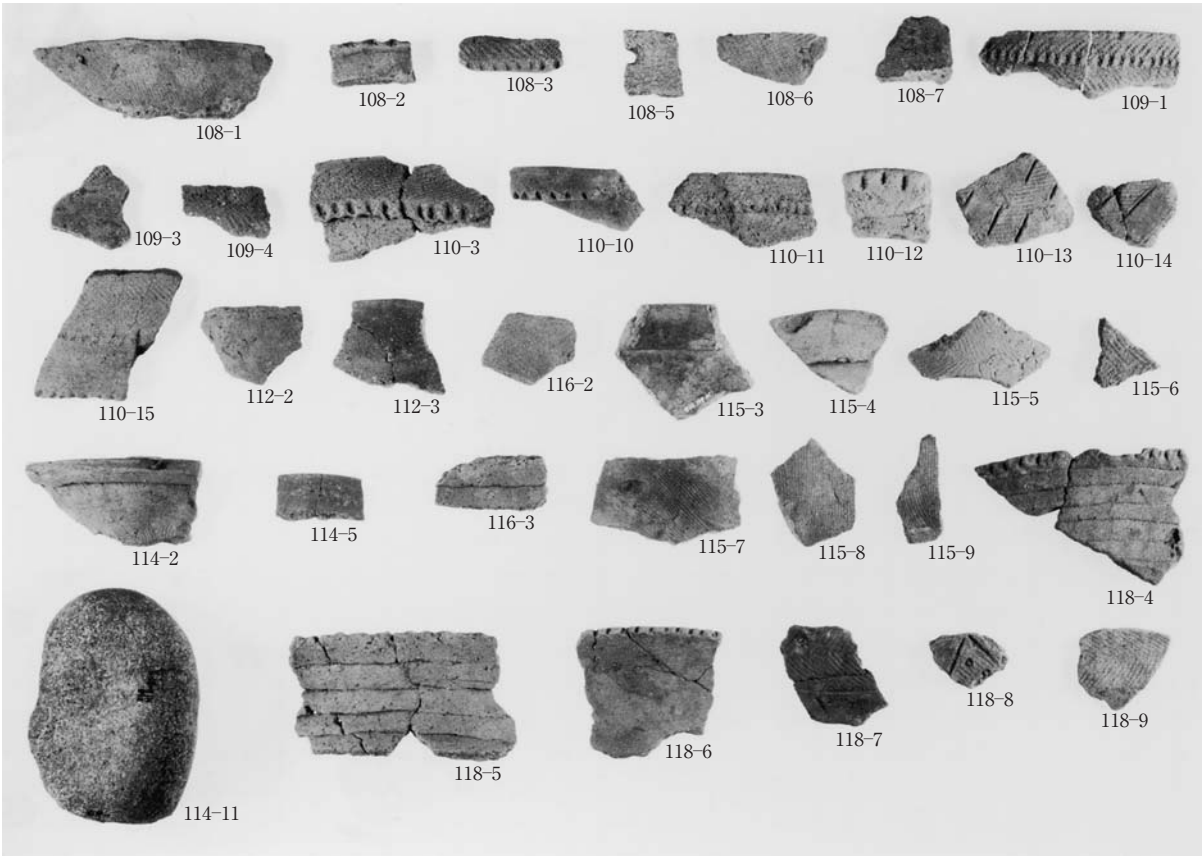

63–10
64–1
64–2
64–3
64–4
65–3
65–2
68–3
68–4
68–5
69–1
69–3
71–3
71–1
71–4
71–5
72–9
74–2
75–5
75–8
76–2
76–4
72–10
74–3
75–6
75–9
76–3
77–3
72–5
72–12
75–4
75–7
77–4
79–10
79–13
79–9
79–16
80–2
80–1

図版110

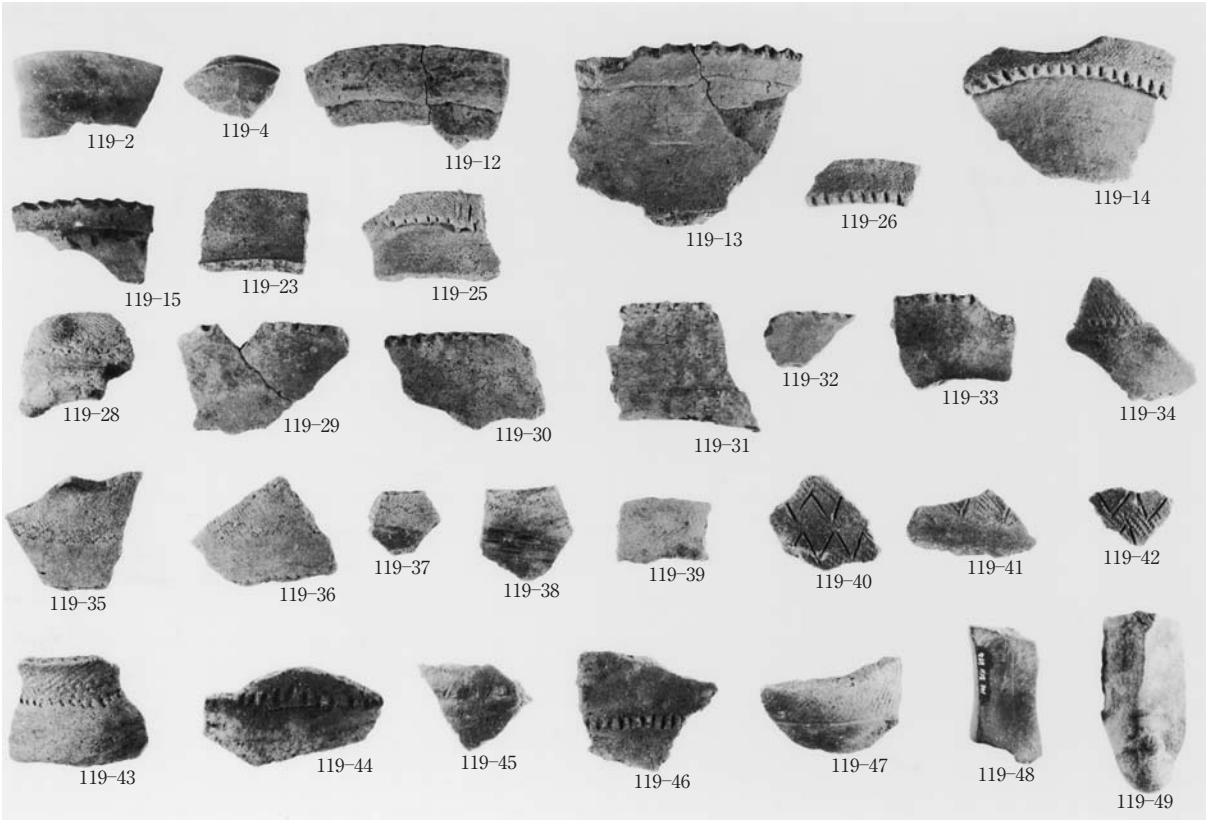

80–5
80–6
80–7
80–8
80–9
80–10
80–11
80–12
80–13
80–14
80–15
80–16
80–17
81–1
81–9
81–10
81–11
81–12
81–13
81–14
81–15
81–16
81–17
81–18
81–25
81–19
81–20
81–21
81–22
81–23
81–24

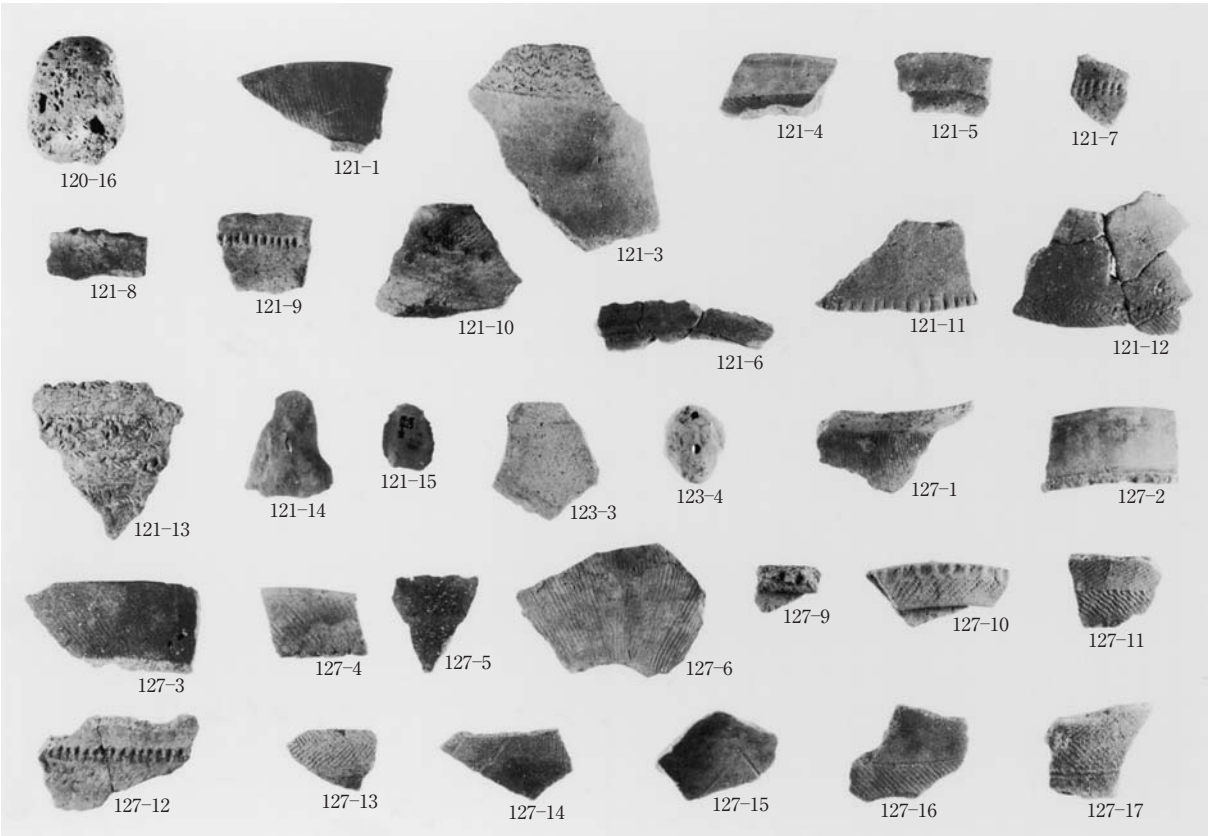

82–17
82–18
82–19
82–20
82–21
83–3
83–4
83–8
83–9
83–10
83–11
83–12
83–13
84–3
84–4
84–5
84–7
88–1
91–2
91–3
91–4
93–1
85–7
85–8
94–2
94–3
94–4
94–5
85–14
86–1
96–6
96–7
96–8
96–9

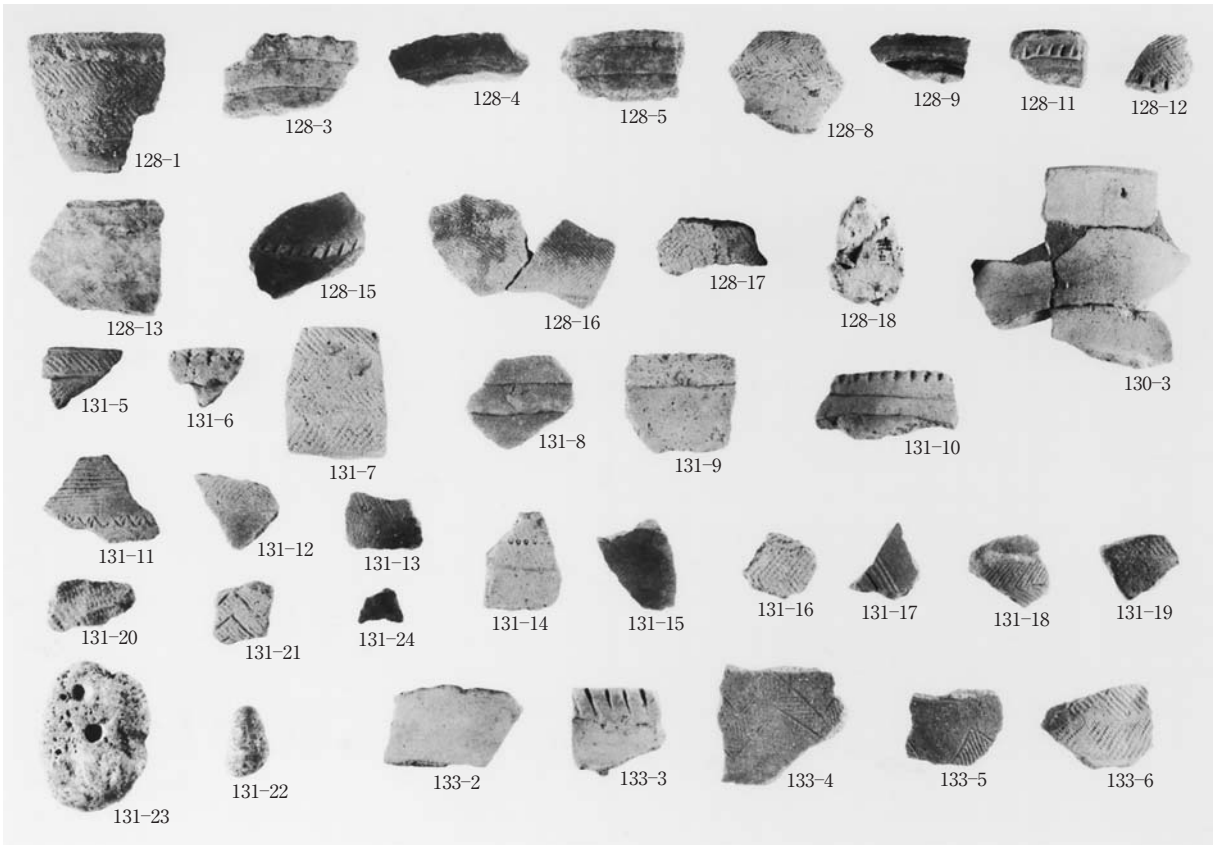

97-1
97-2
97-3
98-2
98-3
98-4
98-5
98-6
100-3
100-5
100-1
102-2
104-3
104-4
104-8
104-9
104-10
104-11
104-12
105-1
106-10
106-12
105-2
105-3
105-4
106-6
106-7
106-8
106-9
106-13
106-14
106-15
106-16
106-17
106-18
106-19

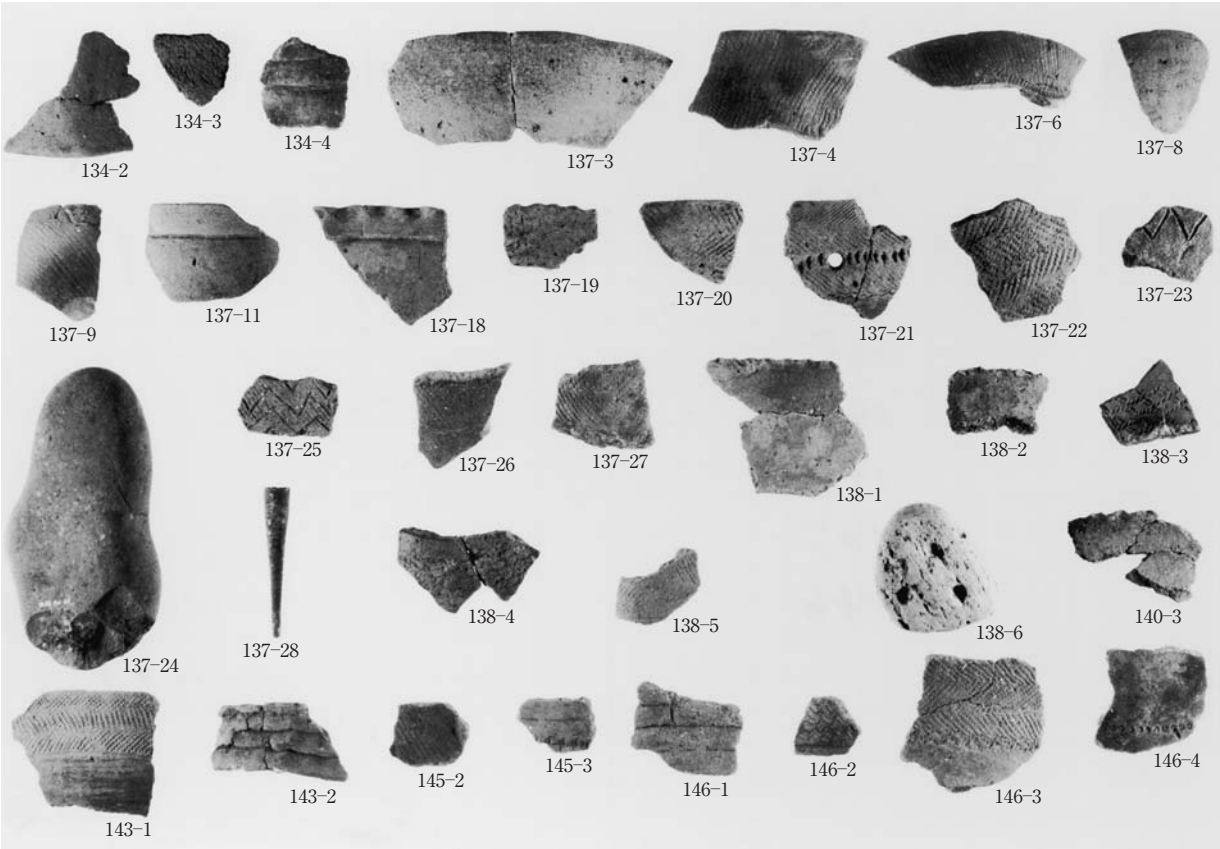

108-1
108-2
108-3
108-5
108-6
108-7
109-1
109-3
109-4
110-3
110-10
110-11
110-12
110-13
110-14
110-15
112-2
112-3
116-2
115-3
115-4
115-5
115-6
114-2
114-5
116-3
115-7
115-8
115-9
118-4
114-11
118-5
118-6
118-7
118-8
118-9

図版112

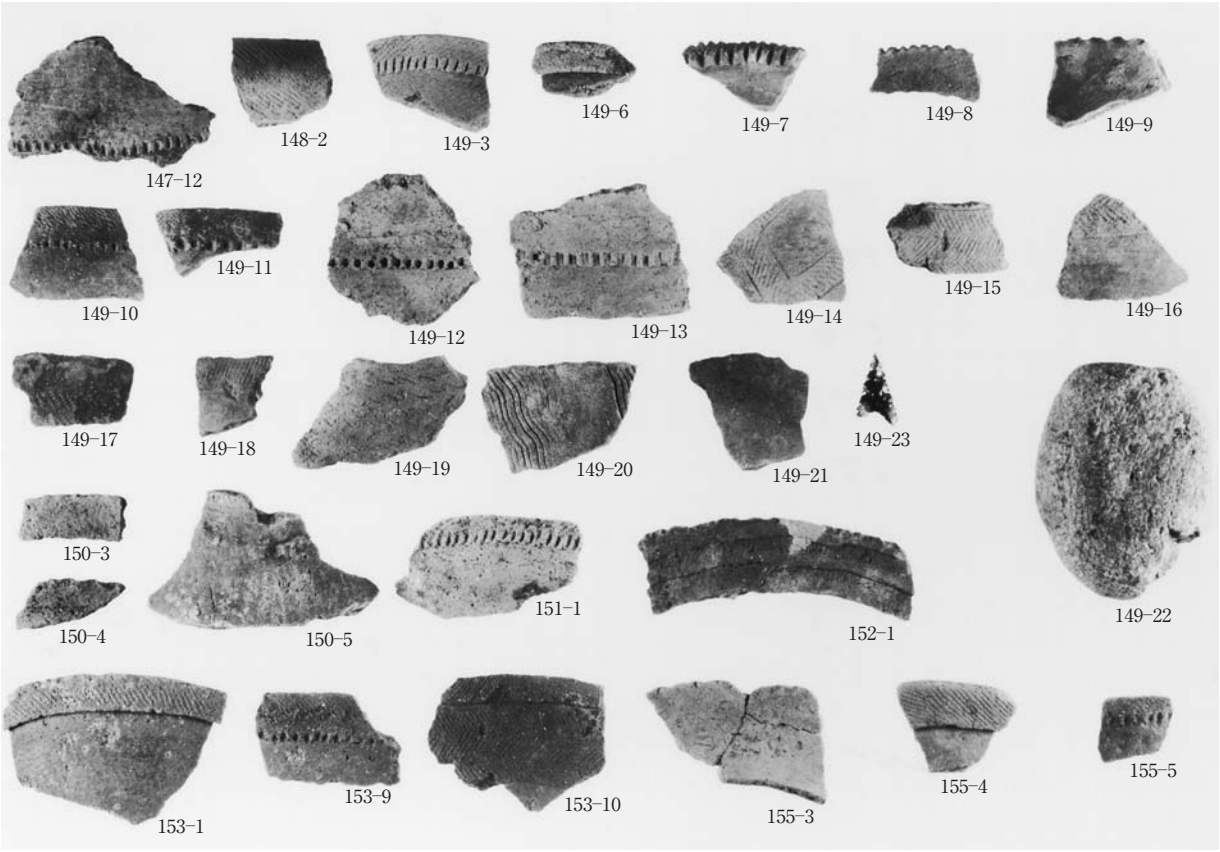

119–2
119–4
119–12
119–13
119–26
119–14
119–15
119–23
119–25
119–28
119–29
119–30
119–31
119–32
119–33
119–34
119–35
119–36
119–37
119–38
119–39
119–40
119–41
119–42
119–43
119–44
119–45
119–46
119–47
119–48
119–49

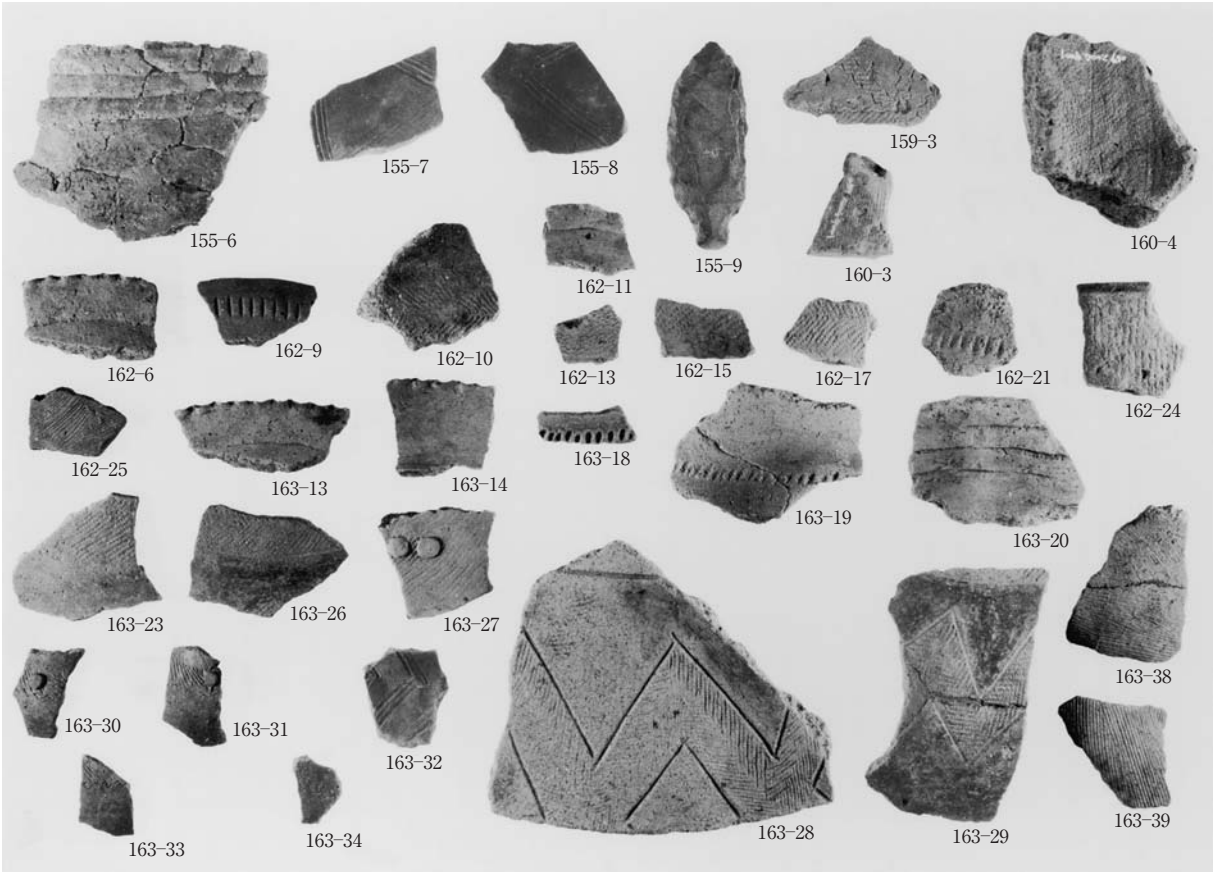

120–16
121–1
121–3
121–4
121–5
121–7
121–8
121–9
121–10
121–6
121–11
121–12
121–13
121–14
121–15
123–3
123–4
127–1
127–2
127–3
127–4
127–5
127–6
127–9
127–10
127–11
127–12
127–13
127–14
127–15
127–16
127–17

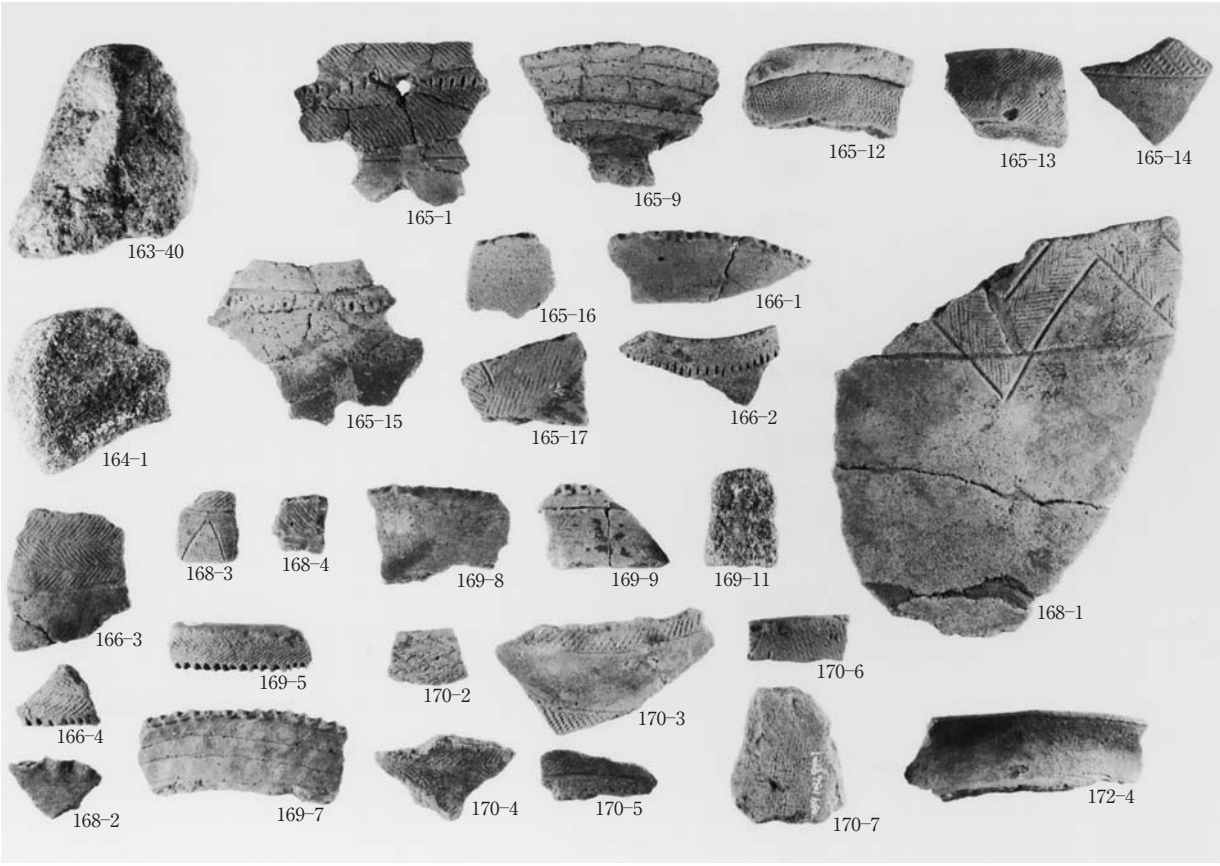

128-1
128-3
128-4
128-5
128-8
128-9
128-11
128-12
128-13
128-15
128-16
128-17
128-18
130-3
131-5
131-6
131-7
131-8
131-9
131-10
131-11
131-12
131-13
131-14
131-15
131-16
131-17
131-18
131-19
131-20
131-21
131-24
131-22
131-23
133-2
133-3
133-4
133-5
133-6

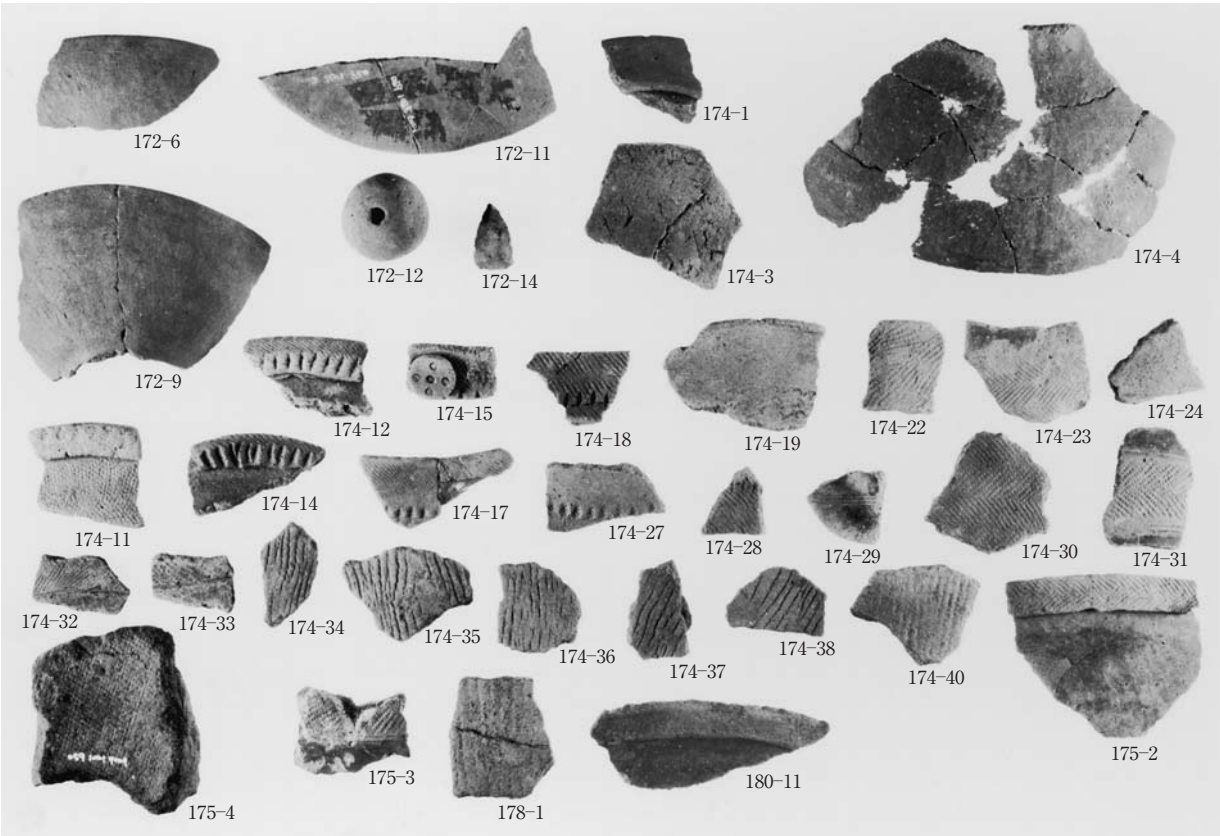

134-2
134-3
134-4
137-3
137-4
137-6
137-8
137-9
137-11
137-18
137-19
137-20
137-21
137-22
137-23
137-24
137-25
137-26
137-27
138-1
138-2
138-3
137-28
138-4
138-5
138-6
140-3
143-1
143-2
145-2
145-3
146-1
146-2
146-3
146-4

図版114

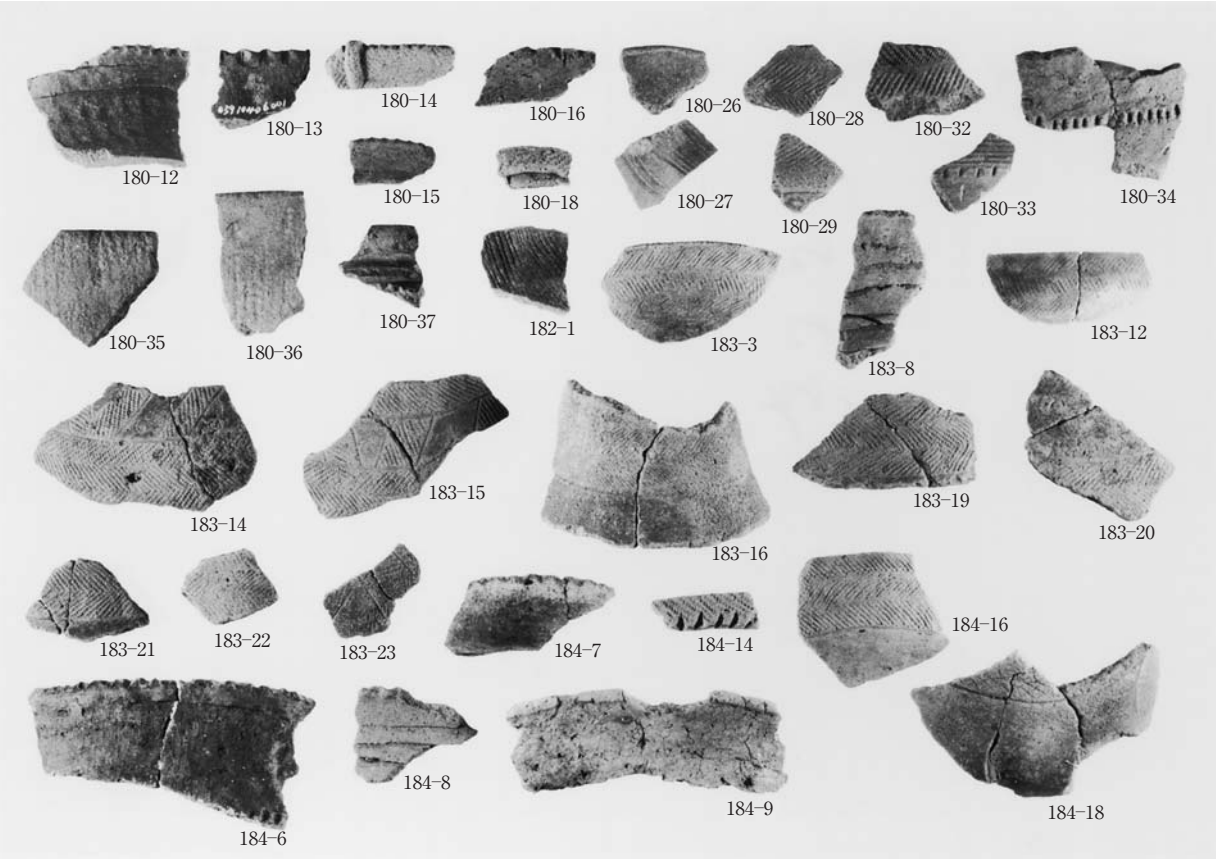

147–12
148–2
149–3
149–6
149–7
149–8
149–9
149–10
149–11
149–12
149–13
149–14
149–15
149–16
149–17
149–18
149–19
149–20
149–21
149–23
149–22
150–3
150–4
150–5
151–1
152–1
153–1
153–9
153–10
155–3
155–4
155–5

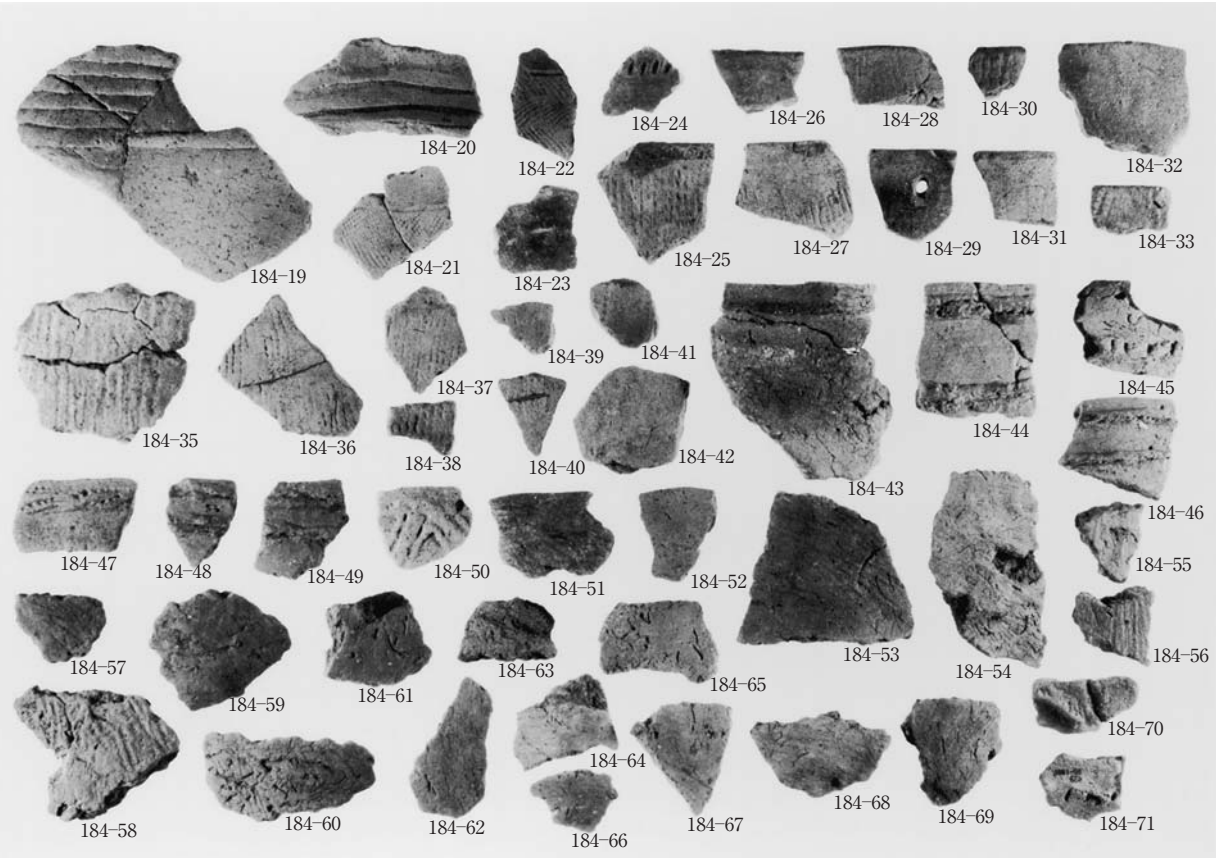

155–6
155–7
155–8
155–9
159–3
160–3
160–4
162–6
162–9
162–10
162–11
162–13
162–15
162–17
162–21
162–24
162–25
163–13
163–14
163–18
163–19
163–20
163–23
163–26
163–27
163–28
163–29
163–30
163–31
163–32
163–33
163–34
163–38
163–39

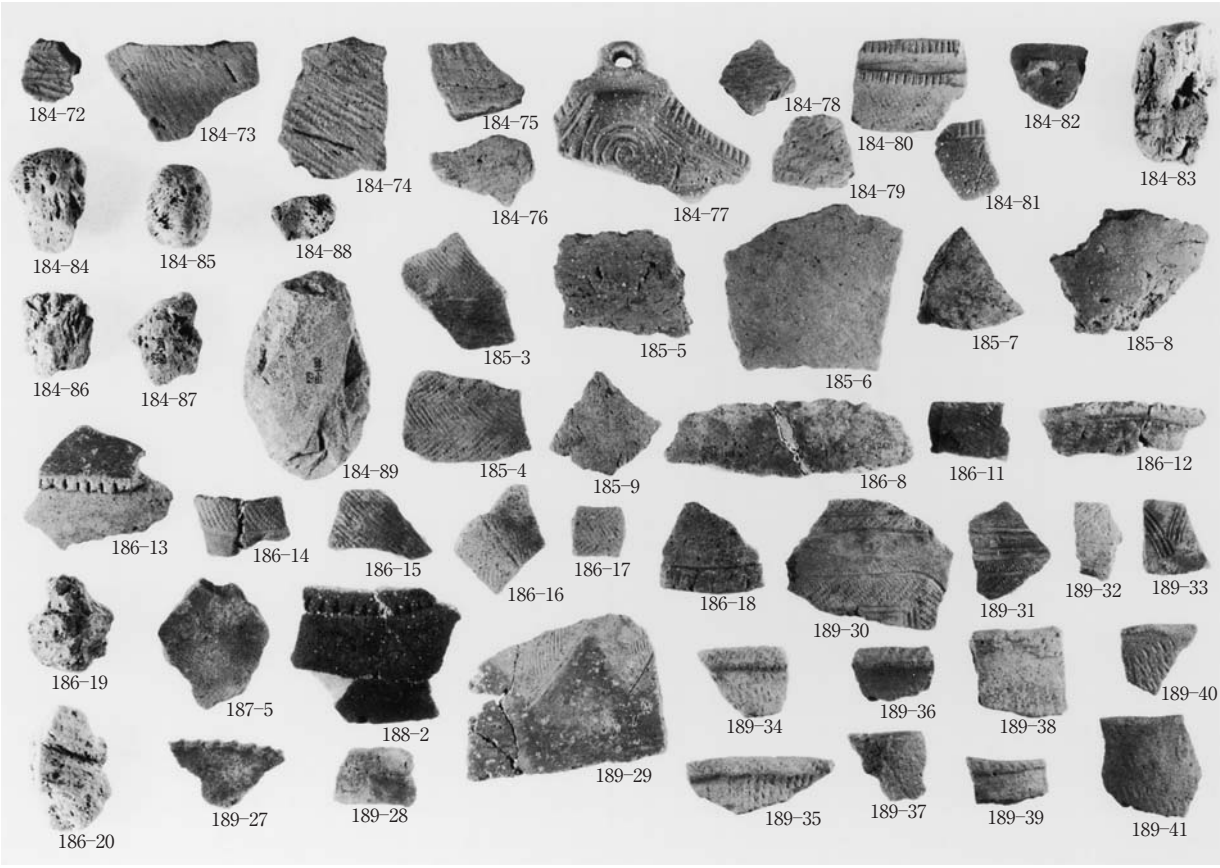

163–40
165–1
165–9
165–12
165–13
165–14
165–16
166–1
165–15
165–17
166–2
164–1
168–1
168–3
168–4
169–8
169–9
169–11
166–3
169–5
170–2
170–3
170–6
166–4
169–7
170–4
170–5
170–7
172–4
168–2

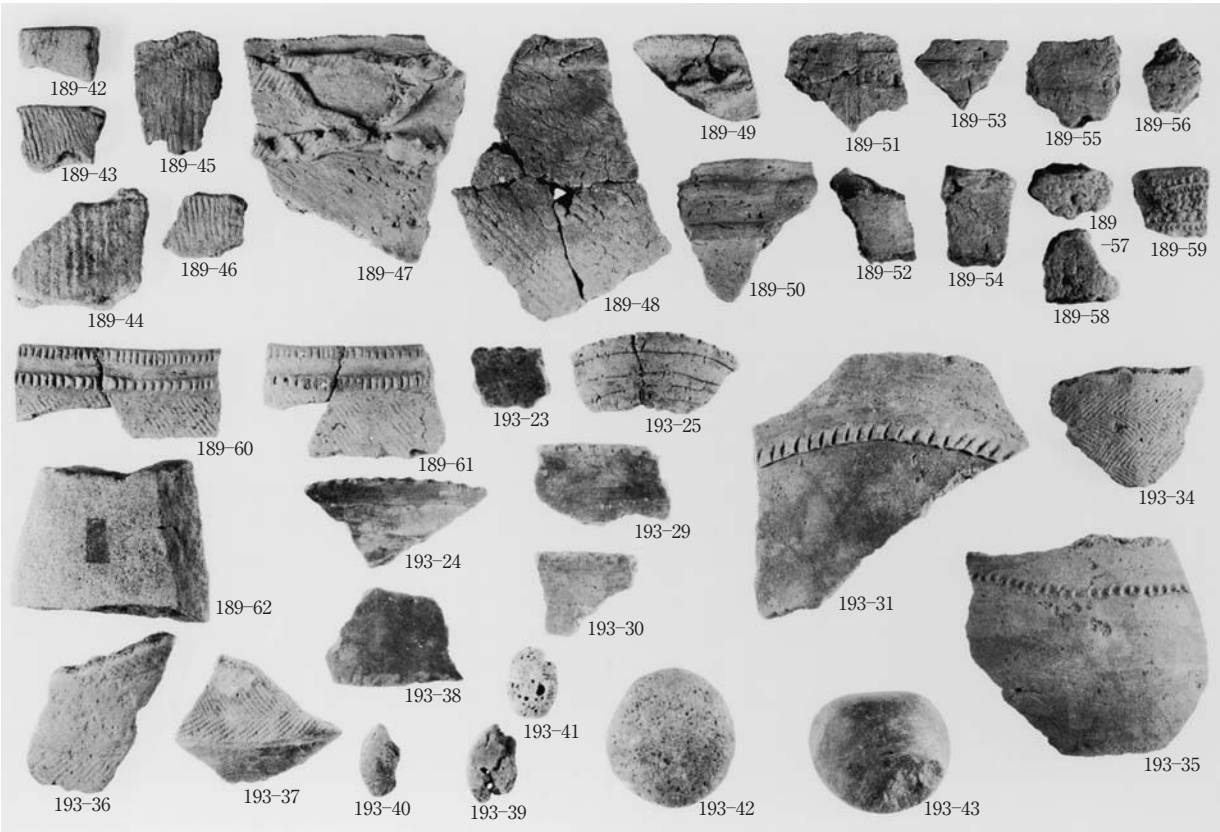

172–6
172–11
174–1
174–4
172–12
172–14
174–3
172–9
174–12
174–15
174–18
174–19
174–22
174–23
174–24
174–11
174–14
174–17
174–27
174–28
174–29
174–30
174–31
174–32
174–33
174–34
174–35
174–36
174–37
174–38
174–40
175–2
175–3
180–11
175–4
178–1

図版116

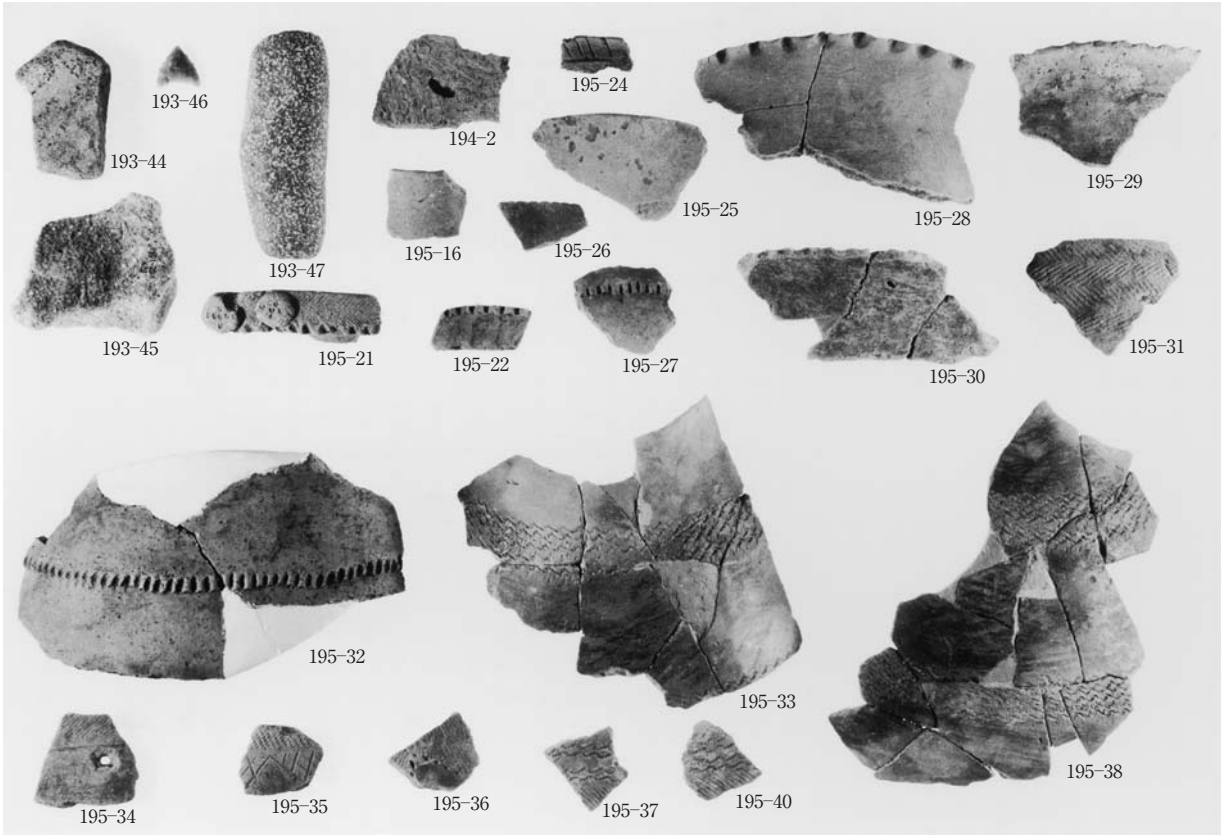

180-12
180-13
180-14
180-16
180-26
180-28
180-32
180-34
180-15
180-18
180-27
180-29
180-33
180-35
180-36
180-37
182-1
183-3
183-8
183-12
183-14
183-15
183-16
183-19
183-20
183-21
183-22
183-23
184-7
184-14
184-16
184-6
184-8
184-9
184-18

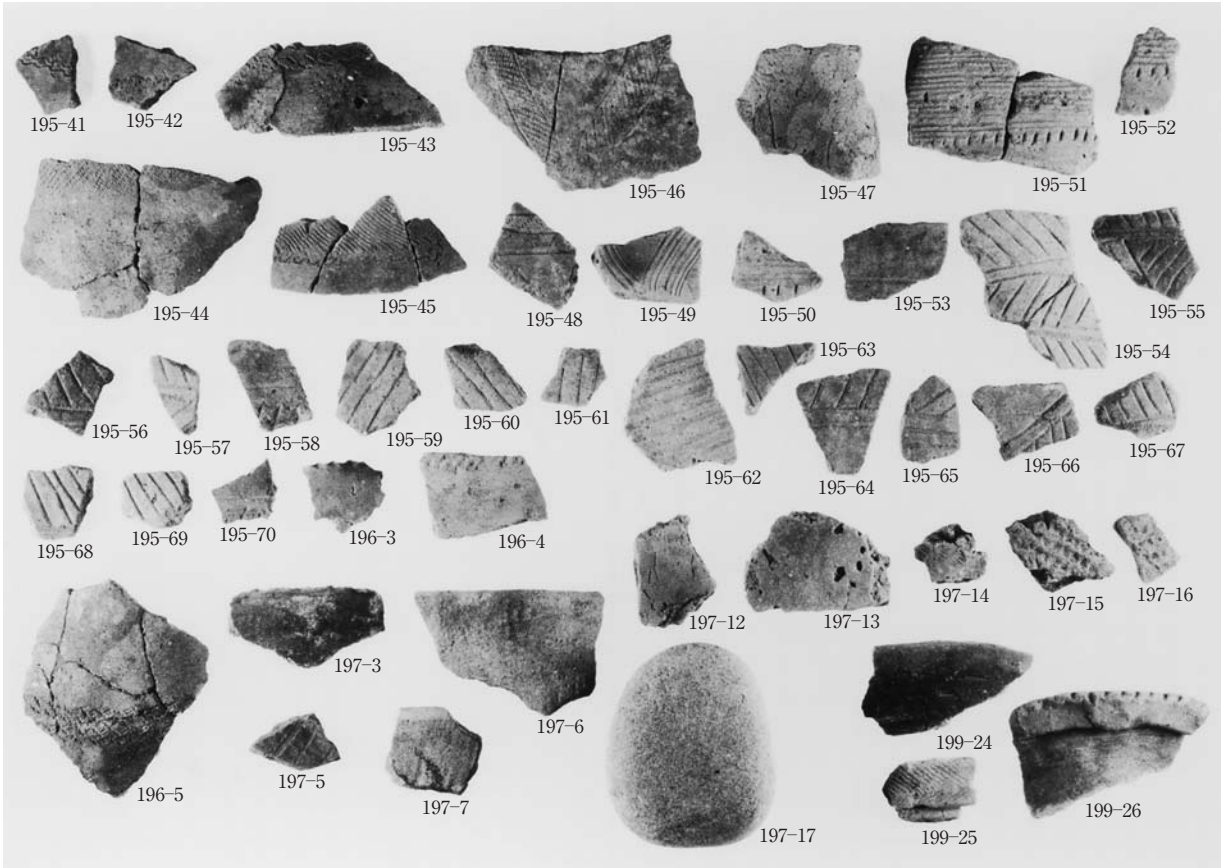

184-19
184-20
184-21
184-22
184-23
184-24
184-25
184-26
184-27
184-28
184-29
184-30
184-31
184-32
184-33
184-35
184-36
184-37
184-38
184-39
184-40
184-41
184-42
184-43
184-44
184-45
184-46
184-47
184-48
184-49
184-50
184-51
184-52
184-53
184-54
184-55
184-56
184-57
184-58
184-59
184-60
184-61
184-62
184-63
184-64
184-65
184-66
184-67
184-68
184-69
184-70
184-71

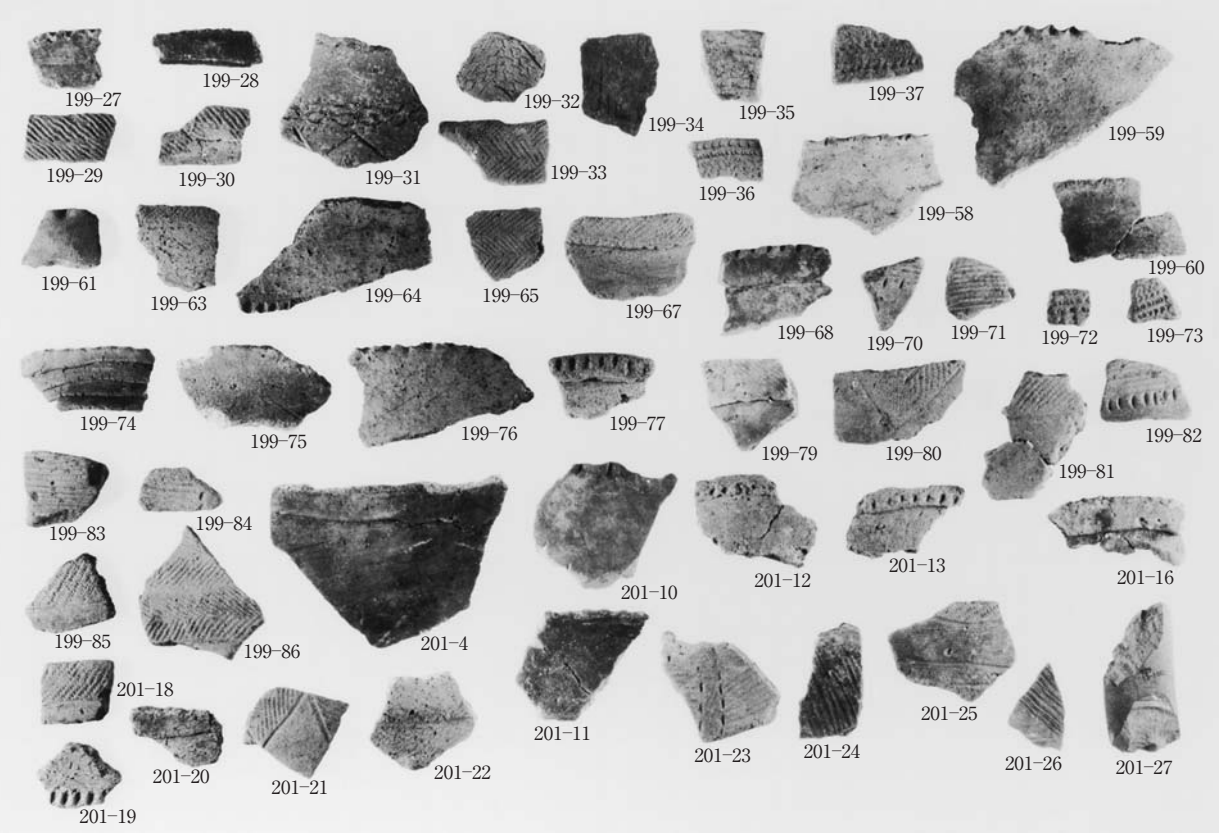

184-72
184-73
184-74
184-75
184-76
184-77
184-78
184-79
184-80
184-81
184-82
184-83
184-84
184-85
184-88
184-86
184-87
184-89
185-3
185-5
185-6
185-7
185-8
185-4
185-9
186-8
186-11
186-12
186-13
186-14
186-15
186-16
186-17
186-18
189-30
189-31
189-32
189-33
186-19
187-5
188-2
189-29
189-34
189-36
189-38
189-40
186-20
189-27
189-28
189-35
189-37
189-39
189-41

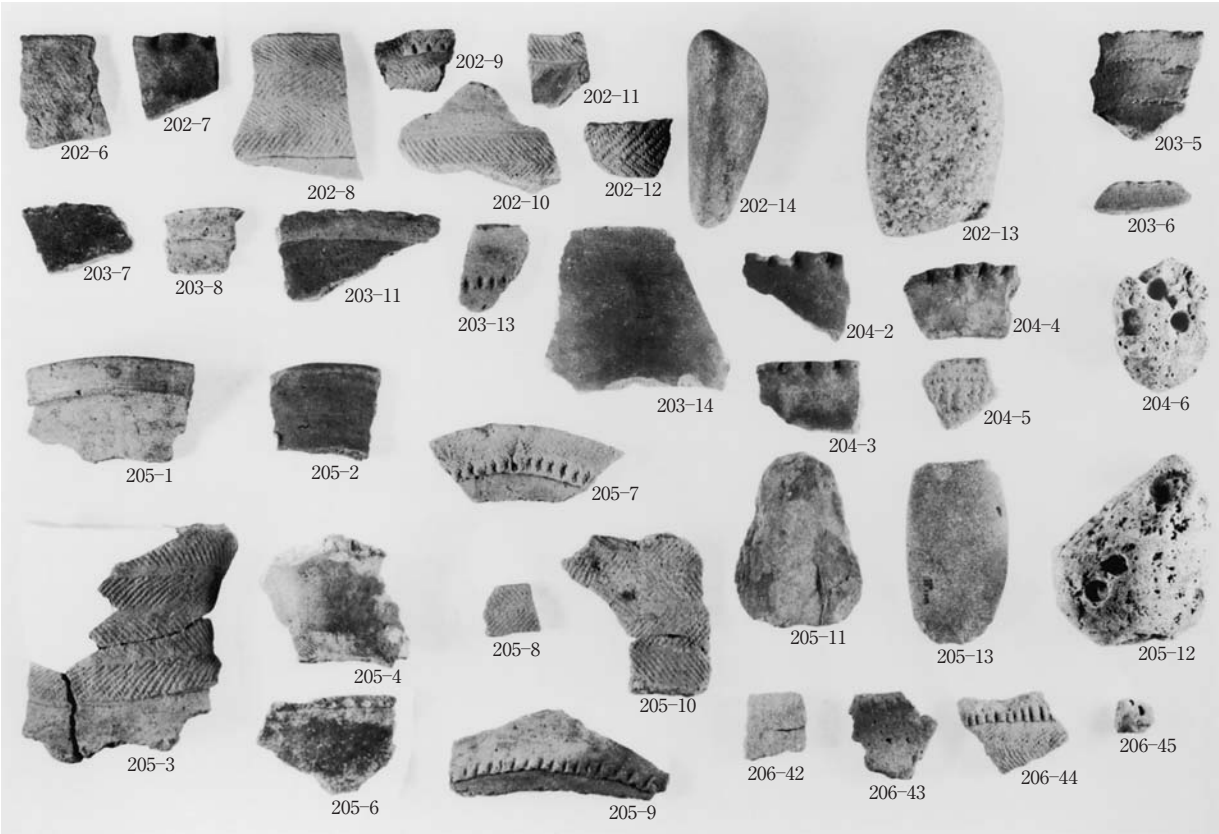

189-42
189-43
189-45
189-44
189-46
189-47
189-48
189-49
189-50
189-51
189-52
189-53
189-54
189-55
189-56
189-57
189-58
189-59
189-60
189-61
193-23
193-25
193-24
193-29
193-30
193-31
193-34
189-62
193-38
193-41
193-35
193-36
193-37
193-40
193-39
193-42
193-43

図版118

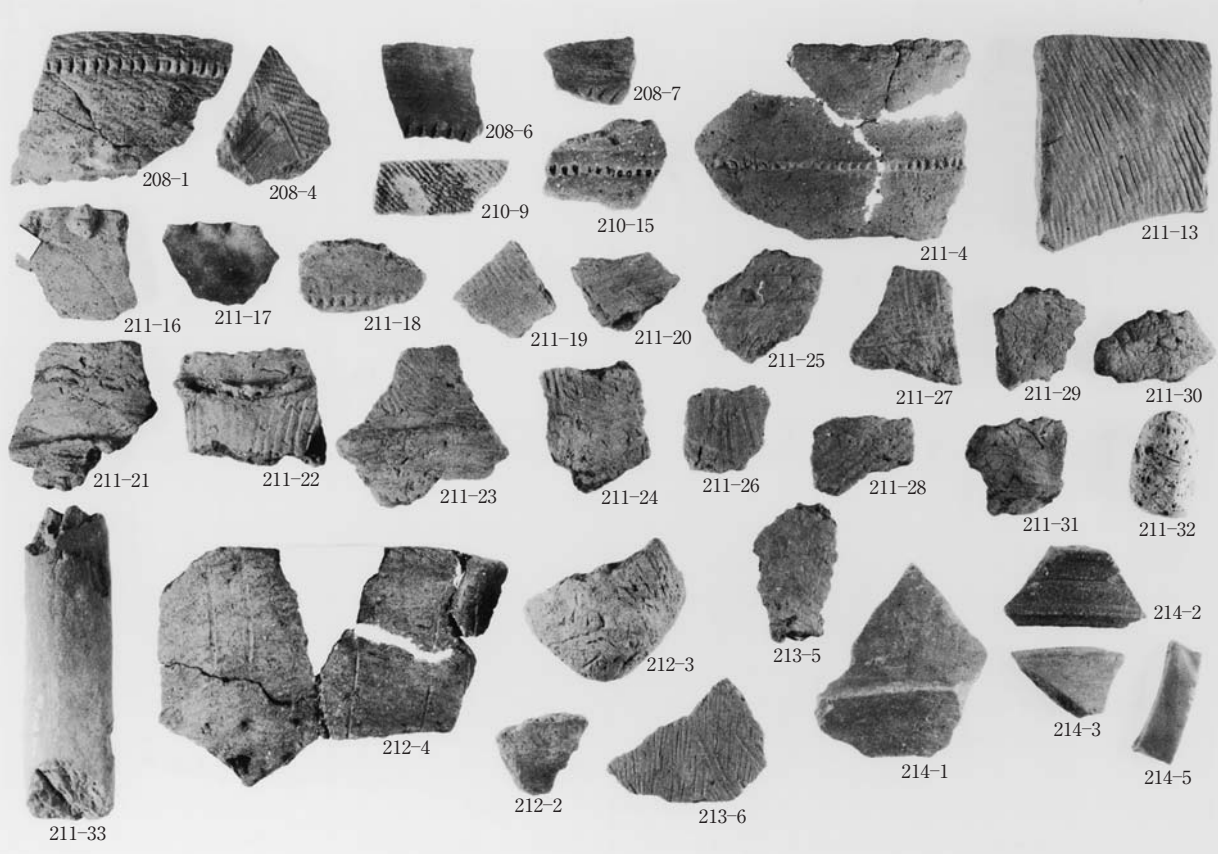

193-44
193-46
193-47
194-2
195-24
195-25
195-28
195-29
193-45
195-16
195-26
195-21
195-22
195-27
195-30
195-31
195-32
195-33
195-38
195-34
195-35
195-36
195-37
195-40

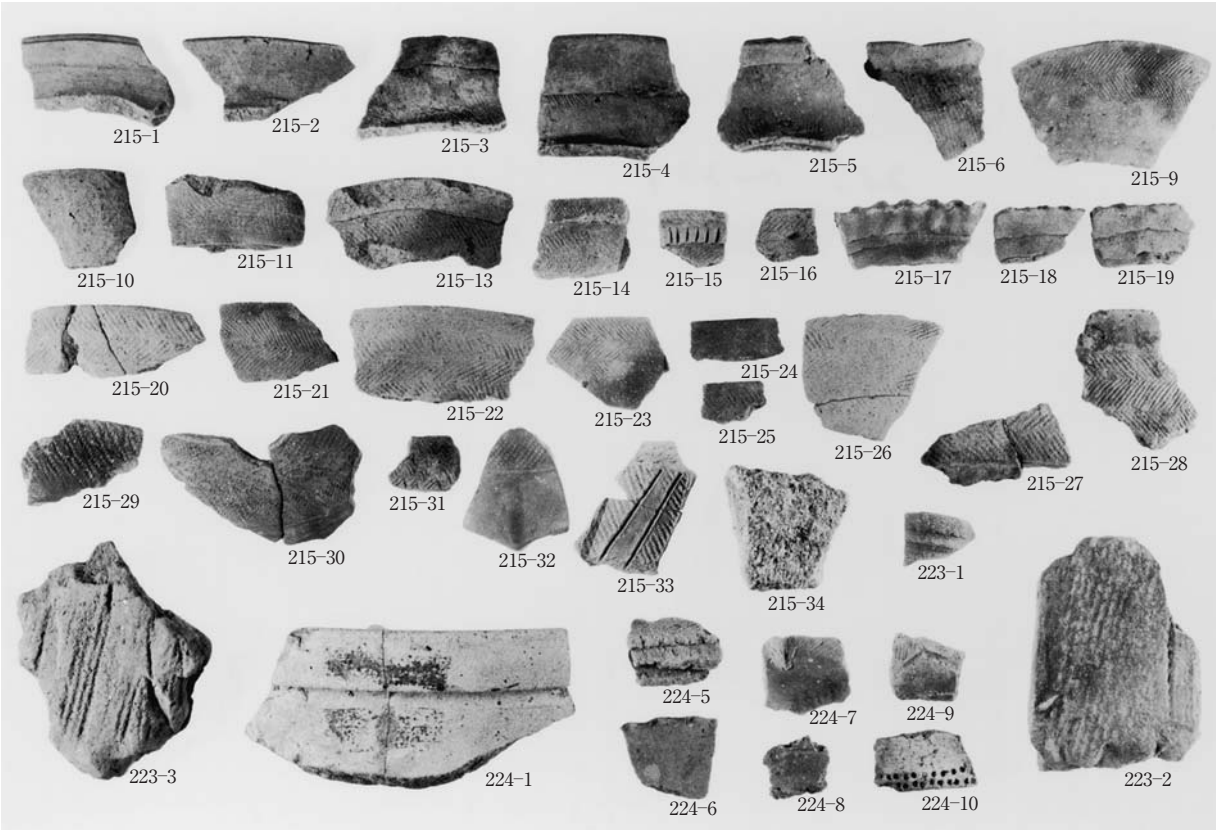

195-41
195-42
195-43
195-46
195-47
195-51
195-52
195-44
195-45
195-48
195-49
195-50
195-53
195-55
195-54
195-63
195-56
195-57
195-58
195-59
195-60
195-61
195-62
195-64
195-65
195-66
195-67
195-68
195-69
195-70
196-3
196-4
197-12
197-13
197-14
197-15
197-16
197-3
197-6
199-24
196-5
197-5
197-7
197-17
199-25
199-26

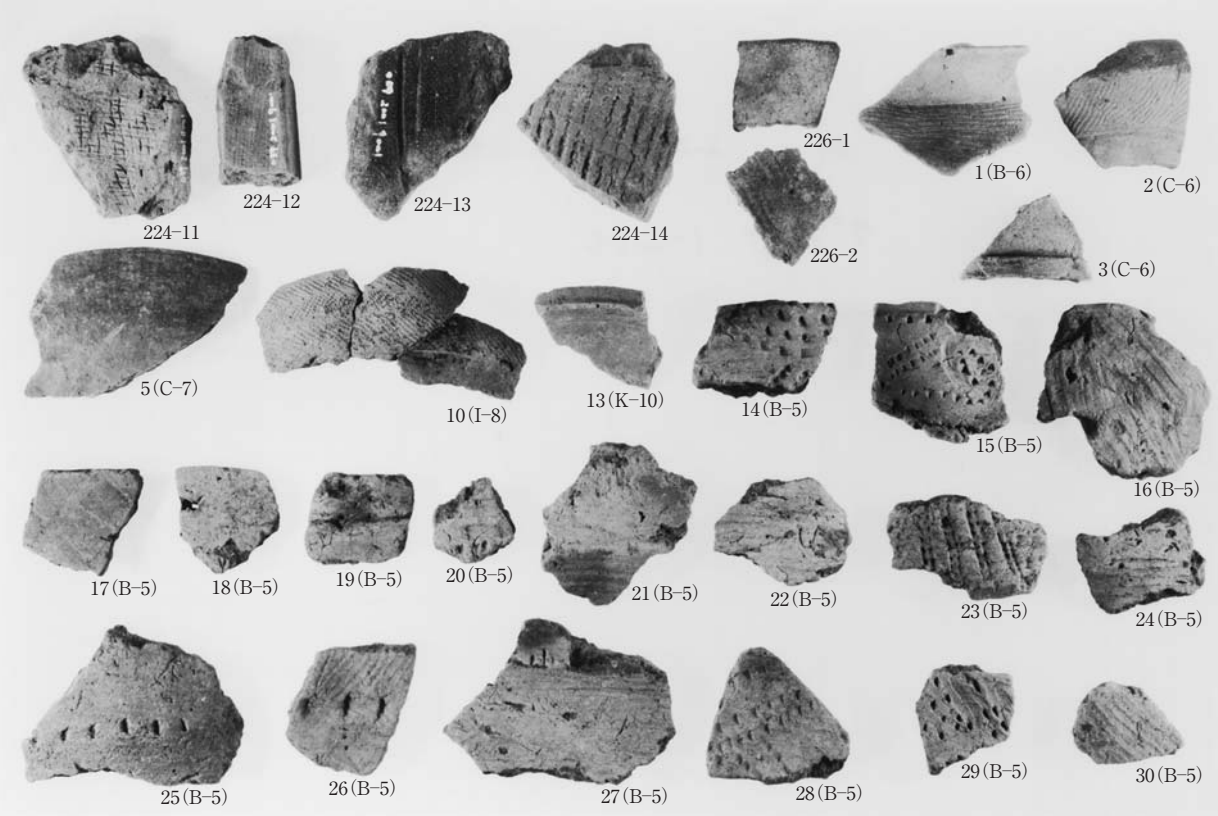

199-27
199-28
199-32
199-34
199-35
199-37
199-59
199-29
199-30
199-31
199-33
199-36
199-58
199-60
199-61
199-63
199-64
199-65
199-67
199-68
199-70
199-71
199-72
199-73
199-74
199-75
199-76
199-77
199-79
199-80
199-81
199-82
199-83
199-84
201-10
201-12
201-13
201-16
199-85
199-86
201-4
201-18
201-11
201-23
201-24
201-25
201-26
201-27
201-20
201-21
201-22
201-19

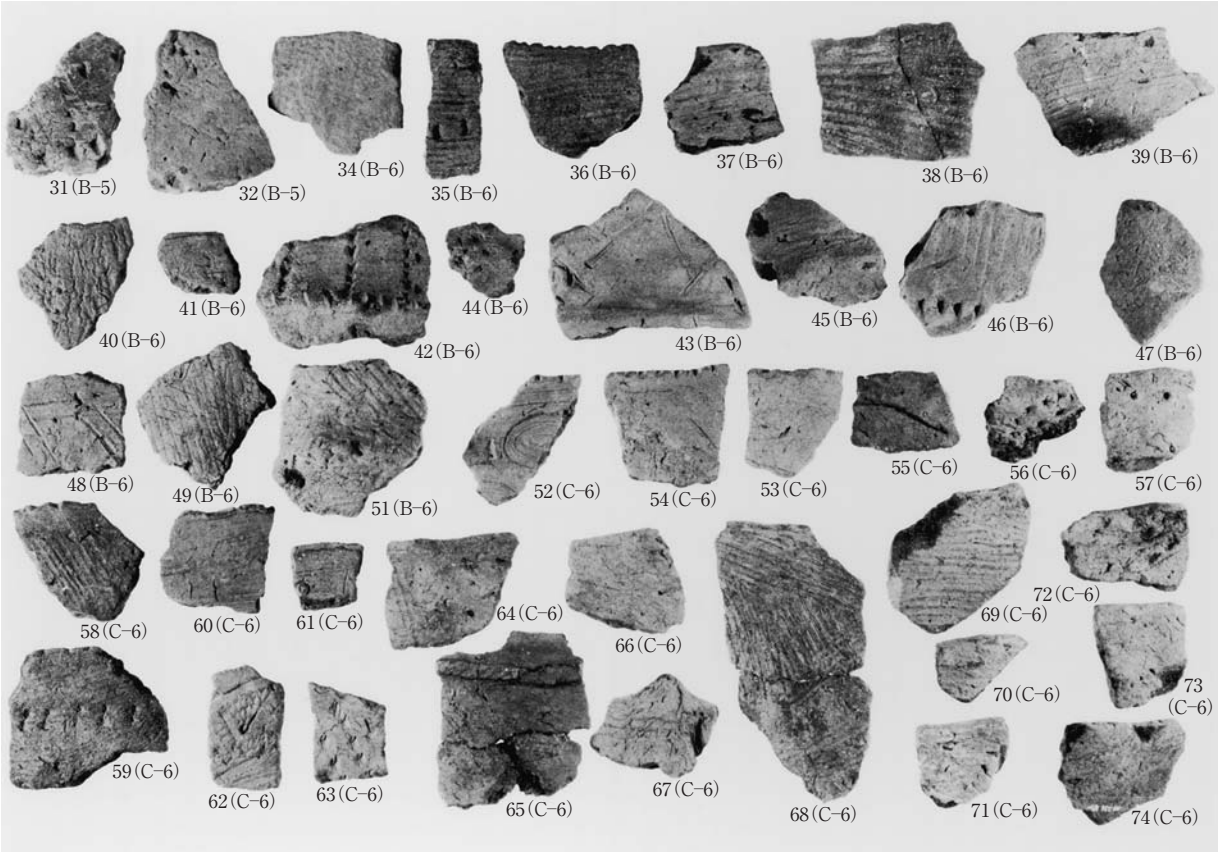

202-6
202-7
202-8
202-9
202-10
202-11
202-12
202-14
202-13
203-5
203-6
203-7
203-8
203-11
203-13
203-14
204-2
204-4
204-6
204-3
204-5
205-1
205-2
205-7
205-11
205-13
205-12
205-3
205-4
205-8
205-10
205-6
205-9
206-42
206-43
206-44
206-45

図版120

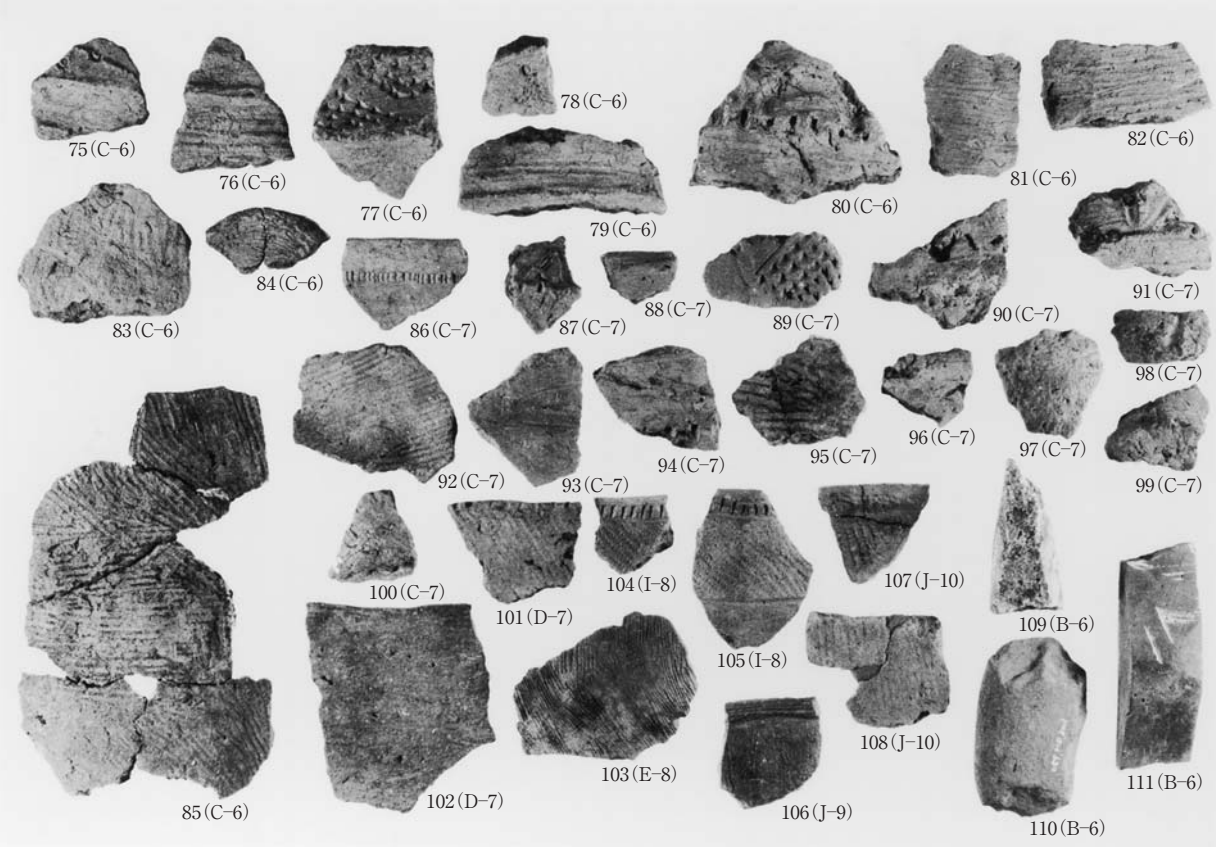

208–1
208–4
208–6
208–7
210–9
210–15
211–4
211–13
211–16
211–17
211–18
211–19
211–20
211–25
211–27
211–29
211–30
211–21
211–22
211–23
211–24
211–26
211–28
211–31
211–32
211–33
212–4
212–3
213–5
214–2
214–1
214–3
214–5
212–2
213–6

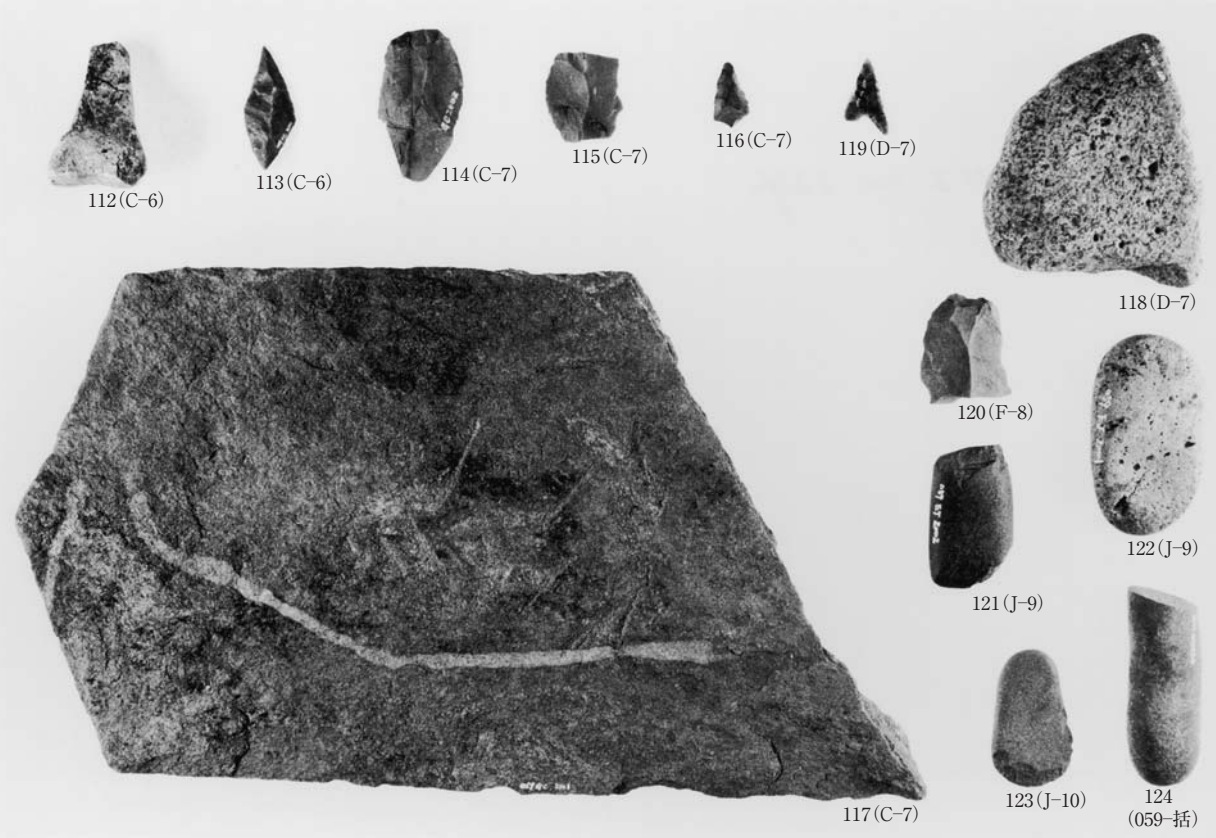

215–1
215–2
215–3
215–4
215–5
215–6
215–9
215–10
215–11
215–13
215–14
215–15
215–16
215–17
215–18
215–19
215–20
215–21
215–22
215–23
215–24
215–25
215–26
215–27
215–28
215–29
215–30
215–31
215–32
215–33
215–34
223–1
223–3
224–1
224–5
224–7
224–9
223–2
224–6
224–8
224–10


224-11
224-12
224-13
224-14
226-1
226-2
1(B-6)
2(C-6)
3(C-6)
5(C-7)
10(I-8)
13(K-10)
14(B-5)
15(B-5)
16(B-5)
17(B-5)
18(B-5)
19(B-5)
20(B-5)
21(B-5)
22(B-5)
23(B-5)
24(B-5)
25(B-5)
26(B-5)
27(B-5)
28(B-5)
29(B-5)
30(B-5)


31(B-5)
32(B-5)
34(B-6)
35(B-6)
36(B-6)
37(B-6)
38(B-6)
39(B-6)
40(B-6)
41(B-6)
42(B-6)
44(B-6)
43(B-6)
45(B-6)
46(B-6)
47(B-6)
48(B-6)
49(B-6)
51(B-6)
52(C-6)
54(C-6)
53(C-6)
55(C-6)
56(C-6)
57(C-6)
58(C-6)
60(C-6)
61(C-6)
64(C-6)
66(C-6)
69(C-6)
72(C-6)
70(C-6)
73
(C-6)
59(C-6)
62(C-6)
63(C-6)
65(C-6)
67(C-6)
68(C-6)
71(C-6)
74(C-6)

図版122


75(C-6)
76(C-6)
77(C-6)
78(C-6)
79(C-6)
80(C-6)
81(C-6)
82(C-6)
83(C-6)
84(C-6)
86(C-7)
87(C-7)
88(C-7)
89(C-7)
90(C-7)
91(C-7)
92(C-7)
93(C-7)
94(C-7)
95(C-7)
96(C-7)
97(C-7)
98(C-7)
99(C-7)
85(C-6)
100(C-7)
101(D-7)
102(D-7)
103(E-8)
104(I-8)
105(I-8)
106(J-9)
107(J-10)
108(J-10)
109(B-6)
110(B-6)
111(B-6)


112(C-6)
113(C-6)
114(C-7)
115(C-7)
116(C-7)
119(D-7)
118(D-7)
120(F-8)
122(J-9)
121(J-9)
117(C-7)
123(J-10)
124
(059-括)

報 告 書 抄 録

ふ り が な	いちはらしへたこふんぐん・おはやしあといせき
書 名	市原市辺田古墳群・御林跡遺跡
副 書 名	
巻 次	
シ リ ー ズ 名	市原市国分寺台遺跡調査報告書
シ リ ー ズ 番 号	Ⅻ
編 著 者 名	木對和紀
編 集 機 関	財団法人市原市文化財センター
所 在 地	〒290－0011　千葉県市原市能満1489番地　TEL0436（41）9000
発 行 年 月 日	2004年３月22日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
辺田古墳群 御林跡遺跡 （へたこふんぐん おはやしあといせき）	千葉県市原市根田一丁目 （ちばけんいちはらしねだいっちょうめ）	12219	059 セ―29 セ―68	35° 29′ 52″	140° 6′ 38″	19840401 ～ 19880331	9,400㎡	土地区画整理

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
辺田古墳群 御林跡遺跡	墳墓 集落	縄文時代 弥生時代 古墳時代 奈良･平安時代 中世 時期不詳	土坑 7基 竪穴住居跡 101軒 方形周溝墓 10基 墳丘墓 1基 土壙墓 4基 木棺墓 3基 土坑 3基 古墳 11基 竪穴住居跡 21軒 土壙墓 9基 木棺墓 1基 火葬墓 1基 溝 2条 竪穴住居跡 7軒 土壙墓 1基 土坑 16基 溝 25条 炭窯 1基	縄文土器（早期～前期） 弥生土器（中期～後期） 土師器・須恵器（古墳～奈良・平安時代） 灰釉陶器・中世陶磁器 石器（縄文・弥生） 石製品（紡錘車・砥石・滑石製模造品など） 土製品（土製支脚・管状土錘・土玉など） 鉄製品（素環頭大刀・大刀・剣・槍・鏃など） 青銅器（銅釧・鏡）	辺田１号墳の埋葬施設より小型素紋鏡・素環頭大刀・大刀・剣・槍・鉇を出土。墳頂部埋葬施設区画溝内より、焼成前穿孔の底部穿孔二重口縁壺群を検出した。また下層の方形周溝墓２基の埋葬施設より、それぞれ５連の帯状円環型銅釧合わせて10点が人骨を伴って出土した。

財団法人　市原市文化財センター調査報告書　第89集
上総国分寺台遺跡調査報告書Ⅻ
市 原 市 辺 田 古 墳 群・御 林 跡 遺 跡

平成16年３月22日　印刷
平成16年３月22日　発行

編　集　　財団法人　市原市文化財センター
発　行　　市原市教育委員会
〒290－8501　市原市国分寺台中央１－１－１
TEL：0436－22－1111
http：//www.ichihara-chb.ed.jp/board/

印　刷　　凸版印刷株式会社